

聖書と人間

Biblical Anthropology

歴史・文化事象との関連のうちに多様な視座から聖書を知り、考える。

土居 由美 (DOI YUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FA001
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

聖書に関する基本的知識を身につけると共に聖書の読み方・捉え方について吟味する。また、聖書と歴史及び社会的・文化的諸事象との関連を学ぶ。これらを通して、自身が生きる上での様々な事柄や課題を考える時、聖書を手掛かりとすることも出来るようになることを目指す。

Acquire basic knowledge of the Bible and examine how to read and interpret the Bible. Also, learn about the relationships between the Bible and history and social and cultural events. Through this learning, students will aim to learn how to use the Bible as a clue when considering various things and problems in their own lives.

授業の内容 / Course Contents

聖書の基本構成と成立史概要、聖書への多角的アプローチの仕方を知りながら、選択した幾つかのテキストを読む。その際、記述された諸思想とそれらの意味について考察を深める他、聖書が特定の宗教を超えて様々な文化事象に影響を及ぼしてきたという視座を養うことを大切にする。授業では適宜視聴覚教材を補助的に用いる。

Students will read a few selected texts while knowing the basic composition of the Bible and its history, and how

to approach the Bible from multiple perspectives. At that time, it is important that students cultivate the view that the Bible has influenced various cultural events beyond a particular religion, as well as deepening the discussion of the various ideas it describes and their meanings. Audiovisual course materials will be used in classes as appropriate.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（世界宗教とキリスト教・聖書という書物について）
- 2回：聖書成立史・解釈略史・写本の伝搬と翻訳・構成・読み方について
- 3回：聖書本文の読解と考察①
（基本的人間観・世界観・死生観・神観「創世記」1-3章を中心として）
- 4回：聖書本文の読解と考察②
（基本的人間観・世界観・死生観・神観「創世記」4-5章を中心として）
- 5回：聖書の読解と考察③
（基本的人間観・世界観・死生観・神観「創世記」6-11章を中心として）
- 6回：聖書の読解と考察④
（人間の性質について「出エジプト記」～「申命記」前編）
- 7回：聖書テキストの読解と考察⑤
（人間の生き方について「出エジプト記」～「申命記」中編）
- 8回：聖書テキストの読解と考察⑥
（律法について「出エジプト記」～「申命記」後編）
- 9回：聖書テキストの読解と考察⑦
（旧約聖書から新約聖書へ「マルコ福音書」から）
- 10回：聖書テキストの読解と考察⑧
（比較しながら読む「福音書」マタイとルカのエピソードを通して、考える）
- 11回：聖書テキストの読解と考察⑨
（比較しながら読む「福音書」四つの福音書のエピソードを通して、考える）
- 12回：聖書テキストの読解と考察⑩
（「ヨハネ福音書」「ヨハネの手紙」「パウロの書簡」から考える人と人とのあり方）
- 13回：聖書テキストの読解と考察⑪
（法と愛の相克・聖書とさまざまな文化事象の関わりを考える）
- 14回：総括（人々が聖書をどのように読んできたのかという問題及び私達各々が聖書をどのような視点から捉え接してゆくのかという問題について）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

〔予習〕 次回の講義で取り上げるテーマ・聖書の箇所について、前もって確認し、また出来る範囲で下調べをして講義に臨んで下さい。

〔復習〕 各講義で取り上げたテーマ・聖書の箇所について講義毎に自ら再考してください。期末レポート試験

では、講義内容から各自任意にテーマを設定してレポート作成をすることとなりますので、期末レポート試験のテーマとして何を選択するかという観点も含めて、毎回の再考を重ねていくことを推奨します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパーへのコメント等授業への参加度:30%

聖書に対して多様な視点から関心を抱いて接する心構えを大切にしてください。毎回のリアクションペーパーは、講義日4日後 23:59 までに Canvas LSM から提出して下さい。

テキスト / Textbooks

講義資料の紙媒体に拠る配布は行わず、毎講義日に Canvas LSM を通じて配布することを基本とします。各自参照できるようにして、講義に出席して下さい。

参考文献 / Readings

講義内で適宜紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

講義毎に、配布資料に基づく予復習をしてください。

講義資料を手掛かりとしつつ、各自が自発的に考える姿勢が求められます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義毎に Canvas LSM を通して配布する講義資料を、各自参照するために PC が必要です。

但し、配布資料を紙媒体にプリントして持参する場合は、必ずしも教室に PC を持参する必要はありません。

その他 / Others

講義に関わる諸連絡がある場合は、講義中及び Canvas LSM を通じて行いますので、各自これらを確認して講義に参加して下さい。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

聖書考古学

Biblical Archaeology

「考古学」は「聖書」をどう説明できるのか ～聖書時代の背景を探る～

宮崎 修二 (MIYAZAKI SHUJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA002
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「聖書」という宗教文書の理解に考古学はどのような役割を果たすのか。考古学調査に対して、聖書信仰はどのような影響を与えてきたのか。両者の関係の歴史を辿りながら、聖書研究、考古学研究、西アジア古代史研究の将来を展望する。

What role does archeology play in understanding of the Bible as a religious document? What has the Biblical faith made influence to archaeological research? Tracing the history of Biblical archaeology, we will look forward to the future of the studies and researches of Bible, archaeology, and ancient western Asian history.

授業の内容 / Course Contents

講義形式で、聖書思想、イスラエル史研究、考古学調査の関係をそれぞれの立場から多角的に検討していく。それぞれの分野についての入門的な知識にも触れていく。

We will examine the relationship between Bible thought, Israeli history research, and archaeological research from various points of view. We will also deepen our knowledge about each field.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、「聖書考古学」とはなにか
- 2回：聖書における歴史と考古学（1）「聖書」という書物について
- 3回：聖書における歴史と考古学（2）歴史的・地理的概観
- 4回：ノアの洪水と聖書考古学の可能性 ～ノア方舟は丸かった？～
- 5回：古代イスラエル史 概略
- 6回：ユダヤ教の歴史と考古学
- 7回：聖書考古学の歴史（1）前史と黎明期
- 8回：聖書考古学の歴史（2）方法論の進展、考古学的思考の変遷とイスラエルの考古学
- 9回：イスラエルの起源から見る聖書と考古学（1）時代像
- 10回：イスラエルの起源から見る聖書と考古学（2）聖書解釈と考古学
- 11回：聖書時代の文化的考察の諸相：アブラハムは実在したのか？
- 12回：古代イスラエル宗教と考古学 「聖書の神」の起源、「ヤハウエと彼のアシェラ」、聖所と祭具
- 13回：古代史の中の「聖書」の地：地中海世界の中のイスラエル
- 14回：古代史の中の「聖書」の地：「海の民」と「1200年問題」

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

「テキスト」に指定した書籍のうち、少なくとも長谷川『聖書考古学』を学期中に各自通読すること。学期中にも随時、読むべき文献が指定される。聖書を全く読んだことのない人は、黒田裕『今さら聞けないキリスト教 聖書・聖書朗読・説教編』の前半を読んでおくことをお勧めする。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 中間課題:30%

テキスト / Textbooks

長谷川修一 『聖書考古学』 中央公論新社 2013 9784121022059 ○

黒田裕 『今さら聞けないキリスト教 聖書・聖書朗読・説教編』 教文館 2018 9784764299795 ○

月本昭男 『目で見える聖書の時代』 日本基督教団出版局 1994 9784818401938 ○

長谷川修一 『遺跡が語る聖書の世界』 新教出版社 2021 -

参考文献 / Readings

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

イスラームの世界

World of Islam

イスラームの基礎知識とムスリム社会

小野 仁美 (ONO HITOMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA004

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、世界に広がるイスラーム教徒が共有するイスラームの基本的な価値観をまず学ぶ。その上で、ムスリム社会が歴史を通じて継承する諸文化や、現代における諸問題を理解することを目指す。

The course aims to learn the fundamental Islamic values shared by Muslims around the world. It also seeks to understand the cultures that Muslim societies have inherited throughout history and the issues they face today.

授業の内容 / Course Contents

今日の世界において、イスラームについての知識習得と理解は必須の事項である。本授業では、イスラームの基礎知識を解説しつつ、イスラーム教徒の社会生活のあり方を、さまざまな角度から学ぶ。パワーポイントを使用した講義形式で、映像資料も適宜活用する。授業の順序や内容は、進捗状況に応じて変更の可能性がある。

In today's world, acquiring knowledge and understanding of Islam is essential. In this course, while explaining the basic knowledge of Islam, students will learn about the social life of Muslims from various angles. The lecture uses PowerPoint presentations, and video materials will be used as appropriate. The order and content of the

class may change depending on the student's progress.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イスラーム世界の歴史
- 2 回：ハラール・ビジネスと日本
- 3 回：イスラームともてなしの文化
- 4 回：イスラームと美術
- 5 回：イスラームと建築
- 6 回：イスラームと音楽
- 7 回：聖典クルアーンと預言者ムハンマドの伝承
- 8 回：イスラームの儀礼行為
- 9 回：シーア派とスンナ派
- 10 回：ユダヤ教、キリスト教、イスラーム
- 11 回：パレスチナ問題とイスラームの世界
- 12 回：アラブの春とイスラーム主義
- 13 回：映像で学ぶイスラームの世界
- 14 回：今学期のまとめと復習

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、授業で紹介する参考文献を読むこと。

復習としては、もう一度参考文献を読み、理解を深めること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% コメントシート:40% 授業参加態度:10%

テキスト / Textbooks

テキストはとくに指定しない。毎回、レジュメおよび資料を配布する。

参考文献 / Readings

大川玲子 『クルアーン：神の言葉を誰が聞くのか』 慶應義塾大学出版会 2018 9784766425550

その他の参考文献は、各回の授業時に紹介する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

「宗教」とは何か

What is religion?

近代再考のために

江川 純一 (EGAWA JUNICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA005
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「宗教」という語の多角的な検討や系譜学的な考察により、「宗教」という概念=用語に敏感になることを目指す。

We will aim to be sensitive to the word "religion" through a multi-dimensional examination of the concept and term of "religion", and genealogical consideration.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、個別の宗教についての解説ではなく、「宗教」概念についての考察である。具体的には、19世紀後半以降の宗教研究の流れを紹介しながら、「信じる」でも「遠ざける」でもなく、「《宗教》について知る」という立場について考察したい。

This class is not a commentary on individual religions, but a reflection on the concept and the term of "religion". Specifically, introducing the flow of religious studies since the late 19th century, we would like to consider the position of "knowing about religion," rather than "believing" or "moving away from" it.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに： 宗教学の言説空間。日本語の「宗教」について
 2回：「宗教」概念をめぐる諸問題（1）： ビリーフとプラクティス
 3回：「宗教」概念をめぐる諸問題（2）： 「民俗宗教」について
 4回：「宗教」はどのように研究されてきたか（1）： 宗教起源論その1
 5回：「宗教」はどのように研究されてきたか（2）： 宗教起源論その2
 6回：「宗教」はどのように研究されてきたか（3）： 神観念について
 7回：近現代イタリアにおける「宗教」（1）
 8回：近現代イタリアにおける「宗教」（2） / レヴィ=ストロースによる問題提起
 9回：マギア（呪術、魔術、魔法）論（1） 古代・中世
 10回：マギア（呪術、魔術、魔法）論（2） 近現代
 11回：贈与論
 12回：神話をいかに解釈するか（1） 19世紀の神話学
 13回：神話をいかに解釈するか（2） 20世紀の神話学
 14回：儀礼とは何か

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ブックリストの本を一冊でも多く読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 中間レポート:30%

テキスト / Textbooks

毎回レジュメを配布する。

参考文献 / Readings

講義のなかで指示する。

その他 / Others

教員作成の文献リスト <https://ameblo.jp/pettazzoniano/entry-12476646103.html>

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

現代社会と人間

Contemporary Society and Humanity

教育問題の社会学—いじめ問題とメディア報道

越川 葉子 (KOSHIKAWA YOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA006
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

いじめ問題を中心に、子どもの問題に対して誰かを非難することで問題解決を図ろうとすることの危うさを認識し、子どもの問題をめぐる支配的な言説とは異なる現実の諸相がありうることを理解できるようになる。

There are two aims of this lecture for students. One is that students will be able to recognize the dangers that they try to solve social problems of concerning to children's behavior by blaming someone else, for example, teachers and parents. Another is that students will be able to understand that there can be various aspects of reality that differ from the dominant discourse on children's behavior.

授業の内容 / Course Contents

私たちは、社会問題化した出来事を媒介に、現代の子どもの姿を悲嘆したり、学校教育のあり方を非難したりする。しかし、こうした理解のあり方は、子どもや学校教育の複雑な現実をかえって見えなくさせているのではないだろうか。授業の前半では、この疑問を出発点に、ある出来事のメディア報道や様々な立場の当事者の経験を参照し、現実の多層性に接近する。授業の後半は、子どもに関わる問題とは、子ども以外の周囲の大人が「問題」と捉えていくことで作られていくという原理的な課題に視点を広げていく。

The media often make Children's problems, such as juvenile delinquency and bullying problem, social problems. We then pay attention to these social problems and through them we tend to blame the responsibility of the school why the social problem was happened. However, doesn't this way of understanding blind us to the various aspects of reality that we are able to select when we try to understand children and school education?

At first, we will start to discuss this question. Then, we will approach the point that there are various aspects of understanding a reality while we refer to the claim-making activities through the media and the experiences of people who involves in them. At last, we will spread our perspective into the fundamental issue that adult make Children's problems. Because it is not easy for children to explain themselves to others and most of adult believe that they need to decide the best way for children.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：授業の受け方・進め方について
- 2 回：いじめ問題への視角：「事実」とは何か
- 3 回：メディア報道による「事実」の構成①：新聞報道
- 4 回：メディア報道による「事実」の構成②：テレビ報道
- 5 回：メディア報道による「事実」の構成③：マスメディアにおける「社会問題化」の方法
- 6 回：「事実」認定の方法と論理：調査報告書と判決文を読む
- 7 回：中間のまとめと補論
- 8 回：当事者経験への接近①：遺族の経験
- 9 回：当事者経験への接近②：加害者の経験
- 10 回：当事者経験への接近③：担任・生徒の語り
- 11 回：囚われからの解放①：未完のいじめ自殺
- 12 回：囚われからの解放②：いじめ防止対策推進法下の学校
- 13 回：囚われからの解放③：「いじめ問題」の解決とは
- 14 回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

・3回目以降の講義については、当該授業の回で扱う文献の内容を読んだ上で、その内容に関するコメントを事前に Canvas LMS から記入・提出します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 課題及びリアクション・ペーパーの提出:40%

テキスト / Textbooks

北澤毅・間山広朗 『囚われのいじめ問題』 岩波書店 2021 4000614886 ○

特になし

参考文献 / Readings

参考文献は授業の中で必要に応じて、適宜紹介する。

その他/ Others

毎回リアクション・ペーパーにて受講生の意見を集約する。

パワーポイント等を使用した講義形式で、新聞記事など公にアクセス可能な資料を適宜活用する。

授業時には、学習支援ツールを用いて、リアルタイムで学生に意見表明を求めることもある。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

論理的思考法

How to Think Logically

論理学入門

津留 竜馬 (TSURU RYOUUMA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA008

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、現代の論理学についての基本的な理解を得ることである。

The goal of this course is for students to gain a basic understanding of modern logic.

授業の内容 / Course Contents

授業では論理学の基本事項を学んでいきます。理解を深めるため、例題を説明したあとで練習問題を解いてもらいます。成績は授業時間内に行う小テストによって評価します。

In our class, we will learn the basics of logic. You need to solve exercises. Grades are evaluated according to quizzes given during class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：命題論理の論理式

2 回：かっこの省略

3 回：論理式の真偽(1)

4 回：論理式の真偽(2)

- 5回：論理法則と同値変形
 6回：文の内部構造
 7回：量子化と議論領域
 8回：述語論理の論理式
 9回：否定と量化
 10回：複合式の量化
 11回：様々な文の記号化
 12回：原子式の真偽
 13回：量化式の真偽
 14回：複雑な式の真偽

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に解いた練習問題を解きなおして、復習をしておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 小テストを3回行う。：100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 戸次大介 『数理論理学』 東京大学出版会 2012 9784130629157
 鹿島亮 『数理論理学』 朝倉書店 2009 9784254117653
 林晋 『数理論理学』 コロナ社 1989 9784339025361
 福山克 『数理論理学』 培風館 1980 456300426
 松本和夫 『数理論理学』 共立出版 2001 9784320016828
 田中一之 『数学基礎論講義』 日本評論社 1997 9784535782419
 新井敏康 『数学基礎論』 岩波書店 2011 9784000055369

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

教育と人間

Education and Humanity

「ヒト」を「てつがく」する：哲学の人間学入門

佐古 仁志 (SAKO SATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA009
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義の目的は、教育や哲学にかんする用語を覚えることではなく、自ら考え、意見を述べる力を養うこと、すなわち「てつがく」することにある。具体的には、①たんに「知識」を覚えるのではなく、そのような「知識」を疑う力を養い、他の人々に問題を提起することを通じて、「知識」を身につける。②「人間」というあたりまえの対象について基礎から考え直すことで、教育において大事な要素である自分で物事を考え、それをほかの人々に伝えることの大切さや困難さを実感する。

The purpose of this course is not for students to memorize terms related to education and philosophy, but for them to cultivate the ability to think and express their own opinions, that is, to "philosophize". Specifically, students will 1) Acquire knowledge not only by remembering "knowledge" but by developing the ability to question such "knowledge" and to raise issues to other people. 2) By rethinking the basic subject of "humans" from the basics, students will realize the importance and difficulty of thinking about something yourself and communicating it to other people, which is an important element in education.

授業の内容 / Course Contents

教育とは知識の一方的な伝達ではない。教育の場面では、教える側も教えることを通じていろいろなことを学ぶのであり、教えるものと教えられるものの間には循環的な関係が成り立っている。本講義では、そのような循環的な仕方での教育を身につけるために、「哲学的人間学」という方法を学び、「人間」というテーマを通じて実践する。

「人間」について考える時、多くの場合、言葉や社会の形成などの点で、ほかの「生き物」とは決定的に違うということが前提にされている。他方で、科学に従うならば、進化論的な意味での「ヒト」はほかの生き物たちと連続しているはずである。そこで本講義では、文系・理系という垣根を越えて、「ヒト」を「てつがく」することで、知らず知らずに前提してしまっていることを明らかにし、あらためて「人間」について考え直す。ここでは、ほかの「生き物」との違いだけでなく、「ロボット」のようなものとの違いについて考えることも重要となる。

授業の冒頭では、前回の授業のリアクションペーパーからよせられた問題を取りあげる。また、授業では専門的な内容や用語について簡単な説明を行なった上で、テキストに付属している問題を中心に参加者で議論を行なう。

Education is not a unilateral transfer of knowledge. In the educational setting, the teacher learns various things through teaching, and a cyclical relationship is established between the teacher and those who are taught. In this lecture, in order for students to acquire education in such a cyclical way, they will learn the method of "philosophical anthropology" and practice it through the theme of "humans."

When thinking about "humans," it is often assumed that they are decisively different from other "living creatures" in terms of language and social formation. On the other hand, according to science, "humans" in the evolutionary sense should be continuous with other living things. So, in this lecture, we will clarify what we have assumed without knowing by "philosophizing" about "humans" beyond the boundaries of humanities and science, and rethink "humans" again. It is important to think about the differences between "humans" and things like "robots" as well as the differences between "humans" and other "living things."

At the beginning of each class, we will take up the issues identified from the previous class' reaction papers. In addition, after giving a brief explanation of the specialized content and terms in the class, students will discuss focused on the problems attached to the textbook.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業の概要と導入
- 2 回：人間学について
- 3 回：人間学の基盤と方法
- 4 回：人間観とミニマム人間学
- 5 回：まとめ1
- 6 回：人格について
- 7 回：子供と大人について
- 8 回：性について
- 9 回：まとめ2
- 10 回：人生について
- 11 回：死について
- 12 回：まとめ3
- 13 回：全体のまとめおよびフリーディスカッション
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

テキスト (菅野盾樹『人間学とは何か』産業図書) の該当箇所を予習し、付属している問題のどれかについて自分の意見を述べるようにしておくこと、あるいは関連する話題について問題を提起できるようにしておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 出席+リアクションペーパーの内容:40%

原則として4回以上の欠席は単位修得を認めない。

テキスト / Textbooks

菅野盾樹 『人間学とは何か』 産業図書 1999 9784782802076 ○

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

地域研究への扉

Door to Area Studies

フィールドワークと地域の理解

森 雅文 (MORI MASAFUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA011
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

フィールドワークに基づいた地域の文化・歴史の研究で求められる現在の知の方法、問題意識、基本の態度などを学習する。対象を既存の学知に収める手法ではなく、変化する対象との関係に向き合いながら理解の妥当性を問い続ける姿勢の獲得を目指す。

Students will learn the current knowledge methods, problem consciousness, and basic stance required in fieldwork-based area studies. The aim is to acquire an attitude of continually questioning the validity of understanding while confronting the changing relationship with the subject, rather than a method that subsumes the subject within existing academic knowledge.

授業の内容 / Course Contents

地域とは一枚岩の何かではなく、つねにさまざまな主体がせめぎ合う。越境や混濁が顕在化する一方で、その本質を期待する営為も顕著である。現代のフィールドワークでは、その多声性や過程性に向き合い、理解の基盤も含めて妥当性を吟味し、対象に向き合い続けることが求められている。

授業では、地域の文化・歴史をめぐる（陥りがちな）理解・説明を、アカデミズムによる対象規定や自文化

の偏見への問いかけを含めながら捉え直し、変容を続ける存在との交流に生じる「フィールドの知」のあり方を考える。事例では、奄美・沖縄と台湾を舞台として、親族・シャーマニズム・先住民・歴史理解などの文化事象を注目する。

A region is not a monolithic entity, but a constant struggle between various actors. While cross-boundaries and intermixing are becoming more apparent, there is also a marked tendency to engage in activities that anticipate the essence of the region. In fieldwork, we must confront the polyphonic and processual nature of the subject, examine its validity, including the foundations of our understanding, and continue to confront the subject.

We will rethink the (often fallible) understandings and explanations of local culture and history, including questioning the object prescriptions of academia and the prejudices of one's own culture, and consider the "knowledge in the field" that arises in exchange with the ever-changing existence. The case studies will focus on the Ryukyu Islands and Taiwan, focusing on cultural events such as kinship, shamanism, indigenous peoples, and historical understanding.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：講義のねらい
- 2回：地域の多声に向き合う：フィールドワークの現在
- 3回：伝統の描写に触れる：沖縄の親族文化の特徴化から
- 4回：伝統を過程と捉える：墓と祖先の歴史潮流
- 5回：過程の状況を見渡す：家と家族のアクチュアリティ
- 6回：異界の認識に触れる：南島シャーマニズムのフィールド
- 7回：理解の基盤を揺らす：文化の翻訳と脱構築
- 8回：多自然の可能を臨む：脱ヒューマニズムの人文学
- 9回：領域の現実に触れる：台湾アイデンティティのフィールド
- 10回：時代の理解を超える：先住民の現代と多文化主義
- 11回：対象と我々を省みる：歴史理解のコロニアリズム
- 12回：存在の現在に向き合う：フィールドの知とポジショナリティ
- 13回：インターロード：地域研究と未来学
- 14回：まとめ：質疑と応答

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

「学び」は他人が課す作業ではないので、講義内容の理解のために、自らの不足を補うことを自覚して復習してください。そこで生じた新たな疑問や関心についての研鑽があれば、それは発展的な学習になります。質問がある時は遠慮なくどうぞ。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での課題・小レポート (3回) :50% 授業時の質疑応答 (コメントペーパーを含む) や自学に基づく発展的学習の成果があれば、その内容を吟味して加算する。:10% 最終テスト割合 :40%

テキスト/ Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

授業時のプリント資料で紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業連絡には、大学が提供する授業支援システムと授業連絡用ホームページ (開講後に開設) を利用する。

その他/ Others

シラバス閲覧時、一部のブラウザ上では、入力 of 文字列と異なる言葉が表示されることがあるようです。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

多文化の世界

World of the Multiple Cultures

グローバル社会から読み解く多文化空間

大塚 直樹 (OTSUKA NAOKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FA012
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

- 現代社会における多文化的状況を理解する。
 - 事例を通して個別社会の文化的な特殊性・共通性を習得する。
- Understand multicultural situations in modern society.
 - Learn the cultural peculiarities and commonality of individual societies through examples.

授業の内容 / Course Contents

講義では、まずグローバル化した現代社会における多文化的状況を、空間的パースペクティブからとらえる。次に、世界各地の事例を通じて多文化社会の現状を把握し、それぞれの相違点や共通点を理解する。その際に、現代社会の特徴的現象の一つである観光をキーワードにする。具体的には、台湾、日本（ニッポン）、フランス、グアム、タイなどの国・地域を中心に講義をおこなう。

In the lecture, we will first take a multicultural situation in the globalized society from a spatial perspective. Next, we will grasp the current situation of multicultural society through examples from all over the world and understand the differences and similarities between each. At that time, the keyword will be sightseeing, which is

one of the characteristic phenomena of modern society. Specifically, the lectures will mainly focus on countries and regions such as Taiwan, Japan (Nippon), France, Guam, and Thailand.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：現代社会の空間的パースペクティブ
- 3回：ニッポン：異文化としての戦後社会 (1)
- 4回：ニッポン：異文化としての戦後社会 (2)
- 5回：ニッポン：異文化としての戦後社会 (3)
- 6回：台湾：植民地支配と哈日族 (1)
- 7回：台湾：植民地支配と哈日族 (2)
- 8回：フランス：パリ子午線とメディア (1)
- 9回：フランス：パリ子午線とメディア (2)
- 10回：グアム：消えゆく歴史 (1)
- 11回：グアム：消えゆく歴史 (2)
- 12回：タイ：つくられる楽園 (1)
- 13回：タイ：つくられる楽園 (2)
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義で取り上げる予定の国・地域に関する基礎的知識を事前に学んでおくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

取り上げる国・地域については一部変更の可能性はある。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

文化を生きる

Introduction to Anthropology

多文化共生社会に生きる、一方で人類の普遍性とは？

宮下 克也 (MIYASHITA KATSUYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FA013
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、グローバル化が進む 21 世紀社会のなかで、他者と共生していくために必要な下記の視点を身につけることを目標とする。

1. 自文化中心主義的態度の見直しの視点
2. すべての文化には独自の意味体系があることを認めた上で、異文化を理解しようとする文化相対主義的視点
3. 文化相対主義を踏まえた上で、自分たちの伝統的な文化（身体化された知識や伝統的な技術を含む）を尊重する視点

In this course, the aim is for students to acquire the following perspectives necessary to coexist with others in 21st century society where globalization is advancing.

1. Revised perspective of the own-culture-centered attitude
2. A cultural relativistic perspective that seeks to understand different cultures, recognizing that every culture has its own semantic system
3. A perspective that respects one's own traditional culture (including embodied knowledge and traditional

techniques) based on cultural relativism

授業の内容 / Course Contents

私たちは、自分の育った社会の文化的価値観を自然と身につけ、それを通して異文化を捉えてしまう。本講義では、こうした人間に潜む自文化中心的思考を自覚することから始まり、文化の多様性を見出し、そして最終的に自文化において「常識＝当たり前」とされていることを相対化し再検討することを目指す。グローバリゼーションが進行し「異文化理解」の必要性が唱えられている現代社会だからこそ、「異文化を知り、自文化を相対化する」学問である文化人類学をぜひ学んで欲しい。

We naturally acquire the cultural values of the society we have grown up with and grasp different cultures through it. In this lecture, we will aim to start from becoming aware of such own-culture-centered thinking hidden in people, look at diverse cultures, and finally make relative and re-evaluate the fact that "common sense = normal behavior" in our own culture. In modern society where globalization is advancing and the need for "understanding different cultures" has been advocated, we would like students to learn cultural anthropology, which is the study of "knowing different cultures and making one's own culture relative."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：概説：講義全体のねらいと流れの概説
- 2 回：文化と文化相対主義：文化人類学の諸学説と基本理念を学ぶ。
- 3 回：共同性と逸脱：同じ文化の属する者たちのコミュニケーションと異文化コミュニケーションの違いを「お笑い／コント」から考える。
- 4 回：身体に刻まれる文化（暗黙知）：文化の中で身につけた言語化し得ない身体に刻まれた知識について考える。ダンス、職人社会の知識伝承。
- 5 回：家族・親族：世界の多様な家族形態を見聞した上で、現代日本の「家族」を再考する。
- 6 回：ジェンダー：「僕たち／私たち」は生まれながらにして「男／女」であるのか？それとも徐々に「男／女」になるのだろうか？
- 7 回：通過儀礼：人の一生において「子供」と「大人」の境界はどこなのか？大学生は「子供」なのか、それとも「大人」なのか？通過儀礼論を通して考える。
- 8 回：ケガレの構造：秩序・境界・認識をキーワードにして、差別や排除を考察する。
- 9 回：互酬性：贈る／もらう行為の意味は？贈与交換から人間関係や社会の仕組みを考える。
- 10 回：宗教と文化の混淆：人間生活と宗教との関係を考える。また、複数の宗教が混ざり合う事例を通して、ハイブリッドな文化を考える。
- 11 回：人類学の応用①：人類学の理論を通して現象を解釈してみる
- 12 回：異民族の共存：多様なエスニック・グループが存在する社会を事例に多文化共生を考える。
- 13 回：人類学の応用②：観光人類学、建築人類学、景観人類学などを通して「伝統」文化と現代の関係を考える。
- 14 回：文化の多様性と普遍性：まとめにかえて。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

シラバスをしっかりと読み、世界史と世界地理の高校レベルの基本事項を確認しておくこと。なお、詳細な予習事項は講義の際に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

出席率三分の二以下の者は一切評価しない。また、30分以上の遅刻者は入室禁止。講義形式の授業ではあるが、能動的態度で講義に臨んでもらうために、指名して意見を言ってもらうこともあるのでご了解いただきたい。

テキスト / Textbooks

教科書は用いず、レジュメを配布する。

参考文献 / Readings

綾部恒雄・桑山敬己編 『よくわかる文化人類学』 ミネルヴァ書房 2010 9784623056965

参考文献は毎回の講義時に紹介する。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

人権思想の根源

Root of Human Rights

じぶんごととして、ジェンダー・セクシュアリティ平等の視点から〈教育〉と〈社会〉の「あたりまえ」を問
いなおそう

堀川 修平 (HORIKAWA SHUHEI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA014
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に
基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、人権について、とりわけ「性と人権」についての基本的な知識を身につけてもらうことを前提
として、皆さんが自分自身を縛るジェンダー・セクシュアリティ問題に気づき、課題意識をもって現代社会の
諸問題に向き合えるようになることを目標とします。

In this class, the aim is that students become aware of gender and sexuality issues that bind us all on the premise
of acquiring basic knowledge about human rights, especially "gender and human rights," and face issues in
contemporary society with problem-awareness.

授業の内容 / Course Contents

皆さんは、性に関わる「差別」など自分には関係のないもので、差別やジェンダー・セクシュアリティについ
て考える必要などないと考えていないでしょうか？現代社会におけるジェンダー・セクシュアリティ問題は
「不可視化」されている点にあり、これまで経験してきたであろう学校教育、社会教育、家庭教育などのさま
ざまな〈教育〉の場や日常生活のなかに存在しているのです。そして、それらの問題を「学び」ながら私たち

は育ってきています。この授業では、自分自身を縛るジェンダー・セクシュアリティ問題にまず気づき、その上で課題意識をもって〈社会〉の諸問題に向き合えるようになることを目標とします。

Do you think that you have nothing to do with gender, such as "discrimination," and you don't need to think about discrimination or gender and sexuality? Gender and sexuality issues in modern society are at the point of being "invisible," and exist in various "educational" places such as school education, social education, and family education, etc. that we have all experienced so far and in daily life. And we grow up while "learning" those problems. In this class, the aim is that students first become aware of gender and sexuality issues that bind us, and then face issues in "society" with problem-awareness.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：性教育とはなんだろう？（1）私たちは「性教育」を学んできたのか？
- 3回：性教育とはなんだろう？（2）「包括的性教育」と「純潔教育」の違いとは？
- 4回：グループディスカッション（1）どのような「性教育」を受けてきたのか？
- 5回：ジェンダーの視点・性の多様性の視点（1）機会の平等・結果の平等とジェンダー
- 6回：ジェンダーの視点・性の多様性の視点（2）「性の多様性」=LGBT??
- 7回：グループディスカッション（2）重なる属性・重なる差別
- 8回：噂とジェンダー・セクシュアリティ～「デマ」に抗する知識を身につけよう
- 9回：「特権」と「社会的マイノリティ」～「性的少数者」は適切な表現なのか？
- 10回：ジェンダーバッシング・包括的性教育バッシングの歴史に学ぶ（1）「バッシング」とは何か？
- 11回：ジェンダーバッシング・包括的性教育バッシングの歴史に学ぶ（2）バッシングを煽動するのは誰か？
- 12回：ジェンダーバッシング・包括的性教育バッシングの歴史に学ぶ（3）バッシングに抵抗するための知識を身につけよう
- 13回：グループディスカッション（3）わたしたちが、今、始められることとは？
- 14回：まとめ：「涓滴岩を穿つ」ために

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講にあたって準備は必要ありません。ただし、授業中に提示する学習課題および授業内容について、ノートづくりが必要です。また、授業で配布するレジュメや資料は「膨大」になりますので、各自ファイリングをするようにしましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業毎に書いてもらうコメントや感想内容：60% 最終レポート割合：40%

最終レポートに関しては、これまでの年度では、書籍の精読レポートや授業内容にかかわる学習イベントへの参加レポートなど（5000字程度）を課してまいりました。本年度に関しては、受講者の学習ニーズ、学習深度などを加味して、授業中終盤で提示する予定です。

テキスト / Textbooks

堀川修平 『気付く 立ちあがる 育てる—日本の性教育史におけるクィアペダゴジー』 エイデル研究所
2022 4871686809 ○

堀川修平 『「日本に性教育はなかった」と言う前に』 柏書房 2023 4760155295 -
テキストの入手方法ならびに、授業における利用方法に関しては、初回オリエンテーションでご説明しますのでそれを待って購入に移ってください。また、このテキストのほかに、授業内で適宜資料を配布しますので、紛失しないように気をつけましょう。

参考文献 / Readings

- ベル・フックス 『フェミニズムはみんなのもの』 新水社 2003
高橋哲哉 『犠牲のシステム 福島・沖縄』 集英社 2012
伊田広行 『デートDV・ストーカー対策のネクストステージ：被害者支援／加害者対応のコツとポイント』
解放出版社 2015
好井裕明 『差別原論——〈わたし〉のなかの権力とつきあう』 平凡社 2007
パウロ・フレイレ 『被抑圧者の教育学—新訳』 亜紀書房 2011
渡辺大輔 『性の多様性ってなんだろう？(中学生の質問箱)』 平凡社 2018
その他、学習の手助けになる文献などは各授業で推薦いたします。

その他/ Others

この授業では「ジェンダー・セクシュアリティ平等の視点」を"社会におけるすべての人の〈性〉に関する抑圧の解放を目指すために、性の多様性を認め、性の差別や偏見から自由になること"と定義して、現代社会における「差別」問題について考えていきます。また、社会にすでに存在している差別に関する内容として、「暴力」や「生と死」に関わる内容を取り扱うことも前提としています。

その際、皆さんに「じぶんごと」としてこれらの問題を捉えてもらいたいと思います。ですので、「自説のみにこだわり、周りの人たちと対話するつもりのない方」

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

手話と人権を考える

Sign languages and human rights

ろう者学・手話学入門

佐伯 敦也 (SAIKI ATSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA015

授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）

授業形態（補足事項）【オンデマンド講義 配信スケジュール】

第1回 9月24日

第2回 10月1日

第3回 10月8日

第4回 10月15日

第5回 10月22日

第6回 10月29日

第7回 11月12日

第8回 11月19日

第9回 11月26日

第10回 12月3日

第11回 12月10日

第12回 12月17日

第13回 1月14日

第14回 1月21日

校地： 他

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ろう者、手話について知り、経験することを通して、共生社会を考えるための新たな視点を獲得する。

Through learning and experiencing deaf people and sign language, students will acquire new perspectives for thinking about symbiotic society.

授業の内容 / Course Contents

ろう者を言語・文化的少数者として、手話を自然言語として捉え、その仕組み、構造を具体的にみていく。またろう者・手話と社会の関わりについて、教育、法、人権などの側面から扱う。

We will consider deaf people as language and cultural minorities, sign language as natural language, and look at the mechanisms and structures specifically. We also deal with the relationships between deaf people, sign language and society from the aspects of education, law, and human rights, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション：ろう者とはどのような人々なのか、手話とはどのような言語なのかについて概観する。

2回：手話の成立：手話はいつごろ、どのようにして成立したのか海外の例も参考にしつつ学ぶ。

3回：言語の普遍性と手話：手話言語と音声言語の共通点、相違点について学ぶ。

4回：手話の文法1：手話とはどのような言語なのか、手話を構成する部位について学ぶ。

5回：手話の文法2：手話の文法にはどのような特徴があるのかを学ぶ。

6回：ろう文化：デフウェイ、ろう文化とよばれる事象について学ぶ。

7回：ろうコミュニティ：ろう者および関連する人々のネットワークについて学ぶ。

8回：ろう者の芸術：いわゆるデフアートについてその成立過程、取組みの内容、日本とアメリカの違いについて学ぶ。

9回：ろう者のエンターテインメント：ろう者によるエンターテインメントやパフォーマンスの実践に触れる。

10回：ろう者の歴史：ろう者と彼らを取り巻く社会の変容について学ぶ。

11回：ろう教育：ろう児に対する教育について学ぶ。

12回：法と人権：ろう者、手話に関わる法体制のあり方、人権について学ぶ。

13回：言語的少数者：音声言語の言語的マイノリティとろう者の共通する特徴、相違点について学ぶ。

14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

小テスト、レポート、最終テストを課す。レポートは授業の予習を兼ねる内容もある。テキストの指定はないが、参考文献で授業の内容を復習しつつ、深化することができる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト:30% レポート:40% 最終テスト割合 :30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

現代思想編集部 『ろう文化』 青土社 2000 479175803

パッデン、ハンフリーズ 『新版「ろう文化」案内』 明石書店 2016 9784750343365

木村晴美 『日本手話とろう文化』 生活書院 2007 4903690075

岡典栄、赤堀仁美 『日本手話のしくみ』 大修館書店 2011 4469222151

米川明彦 『手話ということば』 PHP 研究所 2002 4569619657

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

点字から考える人権

Braille as a Gateway to Human Rights

言語と人権

立花 明彦 (TACHIBANA AKEHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA016
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

点字を新たな「自分の文字」として習得するとともに、それを使用している人々（特に重度の視覚障害者）の生活実感を身近なものにする。

Students will learn braille as new "characters of mine" and become familiar with the lives of people who use them (especially people with severe visual impairment).

授業の内容 / Course Contents

点字は、人類共有の文字である。決して視覚障害者だけが「文字の代わりに」使用する記号ではない。しかし、残念なことに、これは現在一般的な共通認識となっているとは言えない。この事実が、今日点字の主たる使用者である視覚障害者が置かれている人権をめぐる状況を如実に物語っている。この授業では、点字を新たな「自分の文字」として習得するとともに、文字と人権、そして更に広く「人権とは何か」について深く考えたい。

Braille is a set of characters shared by all humans. It is not a set of symbols used only by visually impaired people "in place of letters." However, unfortunately, this cannot be said to be the common understanding at

present. This fact clearly illustrates the situation surrounding human rights where the blind are the main users of Braille today. In this class, we want students to learn Braille as new "characters of mine" and think deeply about characters and human rights, and more broadly about the question "What are human rights?"

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：イントロダクションー視覚障害者の位置づけと調査に見る実態
- 3回：点字小史ー文字としての市民権の広がり
- 4回：点字の成り立ちⅠーブライユの7行表と日本語点字（清音）
- 5回：点字の成り立ちⅡー日本語点字（濁音・半濁音・拗音）
- 6回：講義と実践1. 日本語点字の仮名遣い／視覚障害者と読書
- 7回：講義と実践2. 数字／人権保障と文字情報保障
- 8回：講義と実践3. 日本語における数字の書き表し方／家庭にある点字
- 9回：講義と実践4. アルファベット／町の中の点字あれこれ
- 10回：講義と実践5. 分かち書きⅠ／デザインとしての点字
- 11回：講義と実践6. 分かち書きⅡ／点字以外の触覚情報
- 12回：講義と実践7. 点字名刺の作成等／IT時代の視覚障害者
- 13回：国連の「障害者の権利条約」および我が国の障害者基本法と障害者観の変遷
- 14回：まとめー視覚等障害者の生きづらさについてー人権とは何か？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への積極的参加度:30% テスト:40% 課題の達成度:30%

なお、単位修得のためには75%以上（3/4以上）の出席と最終授業時に行われるテストを受けることを必要とする。

テキスト / Textbooks

日本点字図書館 『点訳のしおり』 社会福祉法人 日本点字図書館 2019年 ○

立花明彦 『何かお手伝いしましょうか』 産学社 2014年 4782533462 ○

受講者は上記テキストの他に、日本点字図書館販売のN632点字器（1,150円）と点字用紙を購入すること。新座キャンパス1号館1階MARUZENブックセンターでは「点字セット」として販売している。

参考文献 / Readings

授業内で紹介する。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

ヨーロッパの文化とことば

Culture and Language in Europe

ラテン語を通じてヨーロッパの文化を見る

芝元 航平 (SHIBAMOTO KOHEI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA018
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ラテン語とヨーロッパ文化についての理解を深めるとともに、言語という観点から文化を考える視点を獲得する。

Students will gain a deeper understanding of Latin and European culture and gain perspectives on thinking about culture in terms of language.

授業の内容 / Course Contents

ラテン語は古代ローマ人の言語であり、現在ではラテン語を母語とする人はいませんが、ラテン語は東アジアにおける古典中国語（漢文）と同様に、現在に至るまでヨーロッパの文化・教養の源泉であり続けています。本講義では、主にこのようなラテン語とのかかわりを通じて、ヨーロッパの歴史、思想、宗教、社会等について考察していきます。その際には、われわれがヨーロッパ固有の文化だと思っているものには、ヨーロッパ以外の文化圏の文化や言語に由来するものも多いということや、日本やアジアの人々がどのような言葉でヨーロッパの文化を受容したのかといった文化交流的な視点を重視したいと思います。なお、ラテン語の知識は前提としません。

Latin is the ancient language of the Romans, and although there are no native speakers of Latin at present, Latin continues to exist as a source of European culture and cultivation to the present, similar to classical Chinese language (Kanbun) in East Asia. Through the Latin language, we will examine European history, ideas, religion, and society, etc. In doing so, we would like to emphasize the cultural exchange perspective whereby many of the things that we think are unique to Europe originate from cultures and languages outside Europe. Note that knowledge of Latin is not assumed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：ラテン語の言語学的な位置づけ
- 3回：ラテン語のしくみ
- 4回：英語とラテン語
- 5回：前回の続き
- 6回：古代ローマ史とラテン語 (1)：共和政ローマ
- 7回：前回の続き
- 8回：古代ローマ史とラテン語 (2)：帝政ローマ
- 9回：ヨーロッパの哲学とラテン語 (1)：古代・中世哲学
- 10回：ヨーロッパの哲学とラテン語 (2)：デカルトとカントの哲学
- 11回：ヨーロッパの宗教とラテン語 (1)：古代ローマ人の宗教
- 12回：ヨーロッパの宗教とラテン語 (2)：キリスト教
- 13回：ヨーロッパの社会と言語：特に EU について
- 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業のノート、配布資料、参考書等に目を通して授業の予習・復習を行い、ラテン語とヨーロッパ文化との関わりを考察し、疑問点について自ら調べたり質問したりするとともに、日本語や英語や第二外国語として履修している言語など普段目にする言語についてもその語源や文化との関わりに関心を持つ。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業毎のリアクションペーパー:60% 最終テスト割合 :40%

各回の授業の進度・順序は変更の可能性があります (時間的にすべてのテーマを取り扱えない可能性があります)。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 小林標 『ラテン語の世界——ローマが残した無限の遺産』 中央公論新社 2006 9784121018335
 寺澤盾 『英語の歴史——過去から未来への物語』 中央公論新社 2008 9784121019714
 本村凌二 『はじめて読む人のローマ史 1200年』 祥伝社 2014 9784396113667

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

ロシア・東欧の文化とことば

Culture and Language in Russia & Eastern Europe

アメリカ・日本・ロシアの映画における原子力の表象

久野 康彦 (KYUNO YASUHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA020

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

アメリカと日本とロシアの原子力（核爆弾と原子力発電所）を描いた映画を鑑賞し、それぞれの国の社会的・歴史的・文化的特徴について自分の頭で考え自覚的になることを目指す。

The aim is for students to think for themselves about the social, historical and cultural differences between U.S.A, Japan and Russia by watching various movies about atomic bombs and nuclear power plants.

授業の内容 / Course Contents

アメリカ、日本、ロシア（ソ連）で製作されたドキュメンタリーや映画を約 13 本鑑賞し（一部のみの鑑賞も含む）、それぞれの特徴を考察する。

We will watch about 13 films produced in U.S.A, Japan and Russia and examine each feature.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：初回ガイダンス、および『NHK スペシャル 映像の世紀 第8集 恐怖の中の平和』（1995、日本）よ

- り「アメリカとソ連の核開発」鑑賞
- 2回：映画『アトミック・カフェ』（1982、アメリカ）鑑賞
- 3回：映画『博士の異常な愛情』（1964、アメリカ）鑑賞
- 4回：[講義] アメリカ映画と核爆弾
- 5回：映画『ゴジラ』（1954、日本）鑑賞
- 6回：映画『夢』（1990、日本）より「赤富士」「鬼哭」鑑賞、『KGB シークレット・ファイルズ』（2004、ロシア）より「恐怖の核実験～世界終焉への予行演習～」、他鑑賞
- 7回：[講義] 日本映画と核爆弾・原子力発電所
- 8回：映画『一年の九日』（1961、ソ連）鑑賞
- 9回：映画『草原の実験』（2014、ロシア）鑑賞
- 10回：映画『被ばくの森から ～チェルノブイリの生態系～』（2010、フランス）鑑賞
- 11回：映画『カーリーナの林檎 チェルノブイリの森』（2011、日本）鑑賞
- 12回：映画『カーリーナの林檎 チェルノブイリの森』鑑賞〔続き〕、映画『ストーカー』（1979、ソ連）鑑賞
- 13回：映画『ストーカー』鑑賞〔続き〕
- 14回：[講義] ソ連・ロシア映画と核爆弾・原子力発電所

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で1本映画を見終えたら、原則として映画の感想を記した小レポートを作成し、次回授業時まで提出。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 複数回の小レポート提出:50%

小レポートの告知・提出は Canvas LMS 上で行う。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

参考文献は、授業時に適宜指示する。

その他 / Others

毎回出席はとらないが、授業で上映された映画を見ていることを前提に講義を行い、レポート試験を行うため、授業の出席は重要である点には注意。就活で不定期にしか出席できない者は、その点考慮の上受講すること。授業に欠席し見逃した映画については、DVD 購入・レンタル等の手段を使って鑑賞しておくのが望ましい。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

アフリカの文化とことば

Culture and Language in Africa

地理学・人類学から見る現代アフリカ社会

宮内 洋平 (MIYAUCHI YOHEI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA022
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項） オンデマンド 火曜日配信
校地： 他
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本から距離的には遠いアフリカですが、アフリカの抱える問題は、同時代に生きる私たち自身の問題でもあります。本授業は現代アフリカ社会を人類学と地理学の視点を中心に多角的に考察し、アフリカ理解を深めることを目標とします。アフリカの文化を学ぶことを通して、現代社会が直面する諸問題を第三者に説明できるようになることが期待されます。

Although Africa is far away from Japan in terms of distance, the problems that Africa faces are also our own problems living in the same era. The purpose of this class is to deepen understanding of Africa by examining contemporary African societies from the perspectives of cultural anthropology and geography. It is expected that by learning about African culture, students will be able to explain to others the problems facing our society today.

授業の内容 / Course Contents

グローバル資本主義の席卷、開発、紛争、気候変動、食糧難や感染症といったさまざまな苦難にさらされながらも、アフリカ社会が育んできた独自の文化と社会的紐帯によって乗り越えようとしている姿を、観光、先住民、自然保護、感染症、教育、アフリカ文学、在来農業、牧畜文化、都市、携帯電話、SNS といった具体的な

トピックから紹介します。

African societies try to overcome various hardships such as global capitalism, development, conflict, climate change, food shortages, and infectious diseases through the unique culture and social bonds that they have nurtured. This class will cover tourism, indigenous peoples, conservation, infectious diseases, education, African literature, indigenous agriculture, pastoral culture, cities, cell phones, and social networking.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション： アフラシアの時代
- 2 回：先住民と観光
- 3 回：自然保護と地域住民
- 4 回：感染症とアフリカ
- 5 回：教育と学び
- 6 回：アフリカのポピュラーアート
- 7 回：在来農業
- 8 回：土地収奪と牧畜民
- 9 回：資源と紛争
- 10 回：難民と受け入れ社会
- 11 回：廃棄物のゆくえ
- 12 回：都市化とスラム化
- 13 回：携帯電話によるコミュニケーション革命
- 14 回：SNS と政治

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

不明な用語は事典や基本文献で調べる。指示された資料を各自で読むこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト (5%×10 回) :50% 授業への参加度 (質問・コメントなど) :10%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。Web 上の論文を使用する。

参考文献 / Readings

- 松田素二 『アフリカを学ぶひとのために』 世界思想社 2023 4790717828
 松村圭一郎・中川理・石井美保 『文化人類学の思考法』 世界思想社 2019 9784790717331
 遠藤貢・阪本拓人 『ようこそアフリカ世界へ』 昭和堂 2022 9784812221280
 島田周平・上田元 『世界地誌シリーズ8 アフリカ』 朝倉書店 2017 9784254169287

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

オンデマンド授業を受講できる機器

その他/ Others

全講義オンデマンド形式で実施します。Canvas LMS および Google Classroom を使用します。毎週火曜日に課題文献、講義動画、関連動画リンクを配信しますので、各自で受講し翌週の月曜日までに小テストを提出していただきます。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

イタリアの文化とことば

Culture and Language in Italy

キーワードでみるイタリア美術

山本 樹 (YAMAMOTO ITSUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FA023
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

- イタリアの文化に親しみ、理解するうえで重要なキーワードを身につける。
- イタリアの美術についての知識を深める。

This course aims to acquire Italian terms/expressions that are important to familiarize and understand Italian culture, especially art. Students will deepen their knowledge of Italian art.

授業の内容 / Course Contents

イタリア語を習ったことのある人は少ないかも知れませんが、料理や映画、音楽や自動車など、実は多くの人が日常の中で知らないうちにイタリアゆかりの文化に触れているはずです。とりわけ美術は最も古く重要なイタリア文化の一つであり、近世にはルネサンスという世界的な文化運動のもと、イタリア美術が最盛期を迎えます。この授業では各回ごとにイタリア語のキーワードを設定し、それに関連する作品を見ていながら、イタリア美術の豊かな諸相に対する理解を深めます。

Although there are few opportunities to learn the Italian language in Japan, the culture of Italian origin can be found in our daily lives, such as cuisine, cinema, music, cars, etc. Art, in particular, is one of the oldest and most

important Italian cultures, and it reached its peak in the early modern period under the Renaissance, a worldwide cultural movement.

In this course, each lesson will focus on a keyword in Italian. Students will deepen their understanding of various aspects of Italian art by looking at works related to the keywords.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：イタリア美術の歴史
- 2 回：Roma（ローマ）：イタリア文明の源流
- 3 回：Chiesa cattolica（キエーザ・カッターリカ）：ローマ・カトリックと美術
- 4 回：Rinascimento（リナシメント）：ルネサンス美術の黎明とジョット
- 5 回：I Medici（イ・メーディチ）：フィレンツェとメディチ家
- 6 回：Accademia/Bottega（アッカデーミア／ボッテガ）：アカデミーと工房
- 7 回：Maniera（マニエーラ）：「マニエーラ」とマニエリスム
- 8 回：Natura（ナトゥーラ）：美術における自然主義の系譜
- 9 回：Paragone（パラゴーネ）：諸芸術比較論
- 10 回：Disegno / Colore（ディセーニョ／コロレ）：素描と色彩
- 11 回：Amore（アモーレ）：描かれた愛
- 12 回：Piazza（ピアッツァ）：イタリアの公共空間と美術
- 13 回：Italia（イターリア）：グランド・ツアー、外から見たイタリア
- 14 回：授業の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習のあり方：授業の前に Canvas LMS に掲示されるパワーポイントに目を通しておくこと。

復習のあり方：授業中に紹介されたトピックについて図書館で関連文献を当たり、ネットで検索してみるなど、各自で学びを深めてください（30分～1時間）。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎授業でのリアクションペーパーの提出およびその精度：60% 最終テスト割合：40%

リアクションペーパーは出席確認を兼ねているため、遅れて提出された場合は「遅刻」とします。また4回以上欠席した場合は成績評価の対象としないので注意してください。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- ゲーテ 『イタリア紀行』（上下巻） 岩波文庫 2007年[改版] 4003240596
- 高階秀爾（監修） 『カラー版 西洋美術史』 美術出版社 2002年 4568400643
- 井上ひさし 『ボローニャ紀行』 文春文庫 2010年 4167111284
- 和田忠彦（編） 『イタリア文化 55のキーワード』 ミネルヴァ書房 2015年 9784623072682

藤内哲也（編） 『はじめて学ぶイタリアの歴史と文化』 ミネルヴァ書房 2016年 4623072673

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

ごく簡単なイタリア語の文法事項について触れることもありますが、適宜講師が補いますので、初学者の参加も歓迎します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

美術作品をじっくり見ってもらうため、タブレットやPCの利用を推奨します。

その他/ Others

- ・連絡事項はCanvas LMSを通じて伝達する予定です。確認を怠らないようにしてください。
- ・美術作品の権利保護の観点から、授業で配布した資料の無断転載、無断使用は固く禁じます。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

ドイツ語圏の文化

Culture in the German-speaking sphere

都市、宗教、童話、メディアをとおしてみるドイツ語圏の文化

飯田 道子 (IIDA MICHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA024

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

近代から 20 世紀までのドイツ語圏の文化を、都市、宗教、童話、メディアなど多角的な観点から検証する。

We will examine the unique culture of the German-speaking world from the multiple perspectives of cities, religion, and media, from 16th century to the 20th century..

授業の内容 / Course Contents

ヨーロッパの中心に位置し、ヨーロッパ経済をリードする国・ドイツが現在の形になるまでには、長い時代と様々な歴史的イベントを経験してきました。ハプスブルク帝国の中心として栄華を誇ったオーストリアやプラハも、現在まで独自の文化を形成しています。講義では、それぞれに異なる表情を持つドイツ語圏の国々の文化を、都市、宗教、文学作品や映像など、様々な観点から検証していきます。取り上げる文献についてのディスカッションも適宜取り入れていきたいと思っております。

Germany, located in the center of Europe, has gone through a long history and various historical events before becoming its present form as the leading country in the European economy. On the other hand, Austria and Prague, which were the proud centers of the Hapsburg Empire, have also formed their own cultures. The course

will examine the culture and history of German-speaking countries, each with a different face, from the themes of cities, religion, war, and media.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション ドイツとは
- 2回：宗教： 神というメディア
- 3回：宗教改革とメディア
- 4回：都市というメディア～郵便制度の誕生と都市
- 5回：手紙というメディア～書簡小説としての『若きウェルテルの悩み』
- 6回：おとぎ話というメディア ～グリム童話をよみとく
- 7回：グリム童話と現代
- 8回：グリム童話と現代
- 9回：お城というメディア
- 10回：都市ベルリン ～鷗外の『舞姫』にみる伯林
- 11回：都市プラハ ～カフカの『変身』にみるプラハ
- 12回：新しいメディアとしての映画の誕生
- 13回：第一次大戦と映画
- 14回：まとめとふりかえり

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内にとりあげた文献は読んでおくことが望ましい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 各回のリアクションペーパー及び授業に取り組む姿勢:40%

各回に提出してもらうリアクションペーパーを、授業の理解度、参加度の判断基準とします。

テキスト / Textbooks

レジュメを canvas に掲載しますので、各自プリントアウトして授業に参加してください。

参考文献 / Readings

授業内に適宜指示します。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

フランス語圏の文化

Culture in the French-speaking sphere

フランス的観光文化資源とは何か

羽生 敦子 (HANYU ATSUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FA025
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

フランスは観光大国です。コロナのパンデミック後の 2022 年の統計においても観光客数においては相変わらず世界一を誇る。また、フランス人と言えば「バカンス」をイメージする人も多いだろう。本講座では、フランスのツーリズムからフランス文化を考える。また「フランス文化」がフランス語圏にどのように反映されているのかを考察する。

France is a major tourism country. It remains the world number one in terms of the number of tourists in the statistics for 2022 after the Corona pandemic. Many people may also associate the French with 'vacations'. This course considers French culture from the perspective of French tourism. It will also examine how 'French culture' is reflected in the French-speaking world.

授業の内容 / Course Contents

Francophonie と francophonie の定義について理解する。

まずは、フランス人とバカンスについて歴史の変遷と現状について考察する。つぎに、フランスの重要な観光資源であるパリ、アーバンツーリズムの視点で学ぶ。海浜リゾートについては、その形成過程について歴史的

変遷だけではなく文学作品等を用いて紐解いていく。フランス語圏としては主にカナダ・ケベック州を事例に「フランスらしさ」と観光について考察する。授業計画の順番が異なることもあります。

Understand the definitions of Francophonie and francophonie.

First, the historical evolution and current status of the French and their vacations will be discussed. Next, Paris, an important tourism resource in France, will be studied from the perspective of urban tourism. As for seaside resorts, the process of their formation will be unravelled not only through historical transition, but also by using literary works. As for French-speaking countries, we will examine 'Frenchness' and tourism, mainly using Quebec, Canada, as a case study. The order of the lesson plans may be changed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：フランス語圏とは
- 2 回：フランス人とバカンス
- 3 回：パリ・アーバンツーリズム：19 世のパリ大改造から
- 4 回：パリ・アーバンツーリズム
- 5 回：水辺のリゾート(1)海浜リゾートの歴史
- 6 回：水辺のリゾート(2)温泉リゾートの歴史
- 7 回：宗教ツーリズム：ルルド
- 8 回：フランス：移民文化(1)
- 9 回：フランス：移民文化(2)
- 10 回：北米のフランコフォニー (1) ケベック：モントリオール
- 11 回：北米のフランコフォニー (2)ケベック：ケベック・シティ
- 12 回：ヨーロッパのフランコフォニー
- 13 回：アジアのフランコフォニー
- 14 回：授業内テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に次回の授業の参考文献を提示します。それらの文献に目を通すこと。

授業後は、パワーポイントを canvas に掲載します。再度、内容を確認すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 複数回のリアクションペーパー:60% 最終テスト割合 :40%

テキスト / Textbooks

授業に参照すべきテキストを紹介する。

参考文献 / Readings

アラン・コルバン著、渡辺響子訳 『レジャーの誕生』 藤原書店 2000

- アラン・コルバン著、福井和美訳 『水辺の誕生：海と人間の系譜学』 藤原書店 1992
- 小畑靖和ら 『ケベック州を知るための54章』 明石書店 2009
- 梅本洋一ら 『パリ・フランスを知るための44章』 明石書店 2012
- 清岡智比古 『エキゾチックパリ案内』 平凡社新書 2012
- 山田登代子 『リゾート世紀末』 筑摩書房 1998
- 鹿島茂 『デパートの誕生(講談社学術文庫版)』 講談社 2023

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

語学的能力(知識)は問いません。フランスとその文化に対し興味を持つこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、タブレット、スマートフォンなどの機器

その他/ Others

シラバスの内容が変わる回もあります。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

スペイン語圏の文化

Culture in the Spanish-speaking sphere

スペイン・ラテンアメリカ美術史

豊田 唯 (TOYODA YUI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA026

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

スペイン・ラテンアメリカ美術史の流れのおおまかな把握

To acquire a perspective on the history of Spain and Latin American art

授業の内容 / Course Contents

スペイン・ラテンアメリカ美術の代表的な作家と作品について講義します。

Lectures on representative artists and art works of Spain and Latin America

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

2 回：西洋絵画の見方——レオナルド・ダ・ヴィンチの「自然の美」

3 回：西洋絵画の見方——ミケランジェロとラファエロの「観念の美」

4 回：エル・グレコ《無原罪のお宿り》——美の暴走

5 回：ベラスケス《無原罪のお宿り》——「盛らない」自撮りはバロックか

6 回：ムリーリョ《小鳥のいる聖家族》——カトリックの美術観

- 7回：バルデス・レアル《束の間の命》——死は愛を伝える
 8回：ラテンアメリカ美術——バロックの極限
 9回：まとめ
 10回：ゴヤ《1808年5月3日》——未来が通る
 11回：ダリ《記憶の固執》——美術とは何か
 12回：ラテンアメリカ美術——メキシコ壁画運動
 13回：スペインの古代・中世美術とラテンアメリカの古代美術
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：事前配布資料に目を通してきてください

復習：テキストの関連箇所を読み、授業内容を補完してください

そのほか：さまざまな美術館や博物館に出かけ、西洋美術に限らずに実際の作品を観てみてください

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

大高保二郎（監） 『スペイン美術史入門——積層する美と歴史の物語』 NHK 出版 2018 4140912510
 ○

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

1. いわゆる「アート」に興味・関心のある方の受講を前提としています（予備知識は求めません）
2. 一般的によく知られているイタリア・ルネサンスの三巨匠から話を起こし、そこからスペイン・ラテンアメリカ美術を通史的にたどっていきます（地理・世界史の知識も一般常識レベルで構いません）
3. スペイン美術を中心に講義し、適宜、同時代のラテンアメリカ美術にも言及します

その他 / Others

受講者の興味・関心に応じて授業計画は多少変更されえます。リアクションペーパーの提出を歓迎します（自発性を保つため、あえて成績評価の対象には組みこみません）。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

中国語圏の文化

Culture in the Chinese-speaking sphere

近現代上海の都市文化史

森平 崇文 (MORIDAIRA TAKAFUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA027

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

租界のあった時代の上海を政治史、経済史、文化史、交流史などの視点から多面的に理解することを通じ、中国の 20 世紀史と都市研究の意義について理解を深める。

By understanding Shanghai at the time of the concession from the perspective of political history, economic history, cultural history, communication history and other perspectives, we can deepen our understanding of the significance of China's 20th century history and urban research.

授業の内容 / Course Contents

租界のあった時代の上海は、中国一の国際都市、商業都市、文化都市であった。講義では上海の近代都市としての魅力を、繁華街だけでなく、路地裏や工場地帯、郊外の住宅街や文教施設、上海における東西交流、日本における上海表象などミクロな視点と、北京など他の中国の都市との比較などマクロな視点からそれぞれ紹介する。

Shanghai in the concession era is China's first international city, commercial city and cultural city. In the lecture, the charm of Shanghai as a modern city is introduced not only from the main streets, but also from the micro-

views such as the alleys and factory areas, the residential streets and cultural and educational facilities in the suburbs, the east-west exchanges in Shanghai, the image of Shanghai in Japan, and from the macro-view such as the comparison with other Chinese cities such as Beijing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス、上海と日本、「魔都」上海
- 2 回：上海概観：徐光啓から毛沢東まで
- 3 回：上海の東南西北：租界と華界
- 4 回：上海を造った人々：職業とインフラを中心に
- 5 回：上海における日中文化交流：岸田吟香、内山完造
- 6 回：虹口：上海の日本人街
- 7 回：日本人の上海表象：大正、昭和前期を中心に
- 8 回：移民から見た上海：広東人、寧波人、蘇北人
- 9 回：アジールとしての上海：ロシア人、ユダヤ人、共産党員
- 10 回：商業都市としての上海：南京路を中心に
- 11 回：文化都市としての上海：映画産業を中心に
- 12 回：戦時下の上海
- 13 回：租界の消滅と計画経済下の上海
- 14 回：「魔都」の復活：21 世紀以降の上海と都市イメージ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各回の事前、事後学習として、テキストの関連箇所を読み、WEB で情報を入手するなどして積極的に理解を深めてもらいたい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内での複数回の課題の提出:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

陳祖恩 『上海 記憶の散歩』 勁草書房 2023 9784326200634 ○

参考文献 / Readings

木之内誠 『上海歴史ガイドマップ 増補改訂版』 大修館書店 2011 9784469232660

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

ポイントとなるキーワードや資料には中国語が使用されるが、中国語の既習を前提としない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

課題及び最終レポートは CanvasLMS から提出

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

朝鮮語圏の文化

Culture in the Korean-speaking sphere

古代～十九世紀後半までの朝鮮史

呉 吉煥 (OH KILHWAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA028

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

朝鮮前近代史についての基礎的な知識を習得しつつ、朝鮮語圏における文化の形成と展開過程を考察し、朝鮮語圏の世界に対する理解の深化と具体的なイメージを作るための土台を提供することを目標とする。

This course aims to provide a foundation for deepening understanding of the Korean-speaking world and creating a concrete image, while acquiring basic knowledge about the pre-modern history of Korea and considering the process of culture formation in the Korean-speaking world.

授業の内容 / Course Contents

講義では、古代から十九世紀後半までの朝鮮半島の歴史について、政治・文化史を中心に概観する。また日本列島や中国大陸など東アジア諸地域との文化交流についても紹介する。

The course gives an overview of the history of the Korean peninsula from ancient times to the end of the 19th century, focusing on political and cultural history. Also, we will introduce the history of cultural exchange with East Asian regions such as the Japanese archipelago and the Chinese continent.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（講義のあらすじ、参考文献の紹介、朝鮮前近代史の時期区分など）
- 2回：古代国家出現以前の朝鮮半島
- 3回：古代国家の成立と発展
- 4回：古代三国（高句麗・百済・新羅）の文化
- 5回：統一新羅と渤海
- 6回：高麗の建国と展開
- 7回：高麗前期の社会と文化
- 8回：高麗後期の社会と文化
- 9回：朝鮮王朝の建国と両班支配体制の確立
- 10回：朝鮮王朝前期の社会と文化
- 11回：日本・清の侵入と支配体制の再編
- 12回：朝鮮王朝の文化交流
- 13回：朝鮮王朝後期の社会と文化
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、朝鮮半島の前近代について概説した朝鮮史の文献（参考文献など参照）を読んでおくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎授業時のリアクションペーパーの内容:40% 授業内レポート:20% 最終テスト割合:40%

テキスト / Textbooks

テキストは特に指定しない。毎回の授業時にプリントと資料を配布する。

参考文献 / Readings

- 武田幸男・宮嶋博史・馬淵貞利 『朝鮮』 朝日出版社 1993 4022584963
 朝鮮史研究会編 『朝鮮の歴史 新版』 三省堂 1995 4385354693
 武田幸男編 『朝鮮史』 山川出版社 2000 4634413205
 梶村秀樹 『朝鮮史－その発展』 明石書店 2007 9784750325750
 田中俊明編 『朝鮮の歴史－先史から現代』 昭和堂 2008 9784812208144
 池明観 『新版韓国文化史』 明石書店 2011 9784750333380

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

教育学への扉

Door to Education

ポップカルチャーの教育思想

渡辺 哲男 (WATANABE TETSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA029
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 「ポップカルチャー」を通して現代社会を論じることの意義を理解する。
 - 教育をめぐる多様な思想を「ポップカルチャー」で語るようになる。
 - 「ポップカルチャー」とは何かを論じられるようになる。
- (1)Students understand the significance of discussing modern society through "pop culture."
(2)Students will be able to discuss diverse ideas surrounding education in "pop culture."
(3)Students will be able to discuss what "pop culture" is.

授業の内容 / Course Contents

「ポップカルチャー」に含まれる多様な作品とそれらを受容する私たちの感性は複雑に交差し、時代や社会のあり方を象徴的に浮かび上がらせることがある。本授業では、さまざまな「推し」をもち、あるいは同人誌を制作する研究者（アカデミック・ファン）が、「ポップカルチャー」を通して浮かび上がってくる現代社会のありようや人間観を明らかにしたテキストを読み解く。そして、その読解を踏まえて、学生が実際に「ポップカルチャー」を通して教育や社会の諸問題を発表する機会を設ける。

The diverse works contained in "pop culture" and our sensibilities in embracing them are intricately intersected. And those intersections can symbolically highlight the way times and societies are. In this class, researchers (academic fans) with a variety of "guesses" or who produce doujinshi (coterie magazines) will read texts that reveal the state of modern society and the view of people that emerges through "pop culture." Then, based on that reading, students have the opportunity to actually present educational and social issues through "pop culture."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：授業の進行についての説明、発表会のグループ分け（初回欠席者は2回目以降振り分ける）
- 2回：『すずめの戸締まり』の重要登場人物が「立教大学教育学科」に在籍しているのはなぜか？
- 3回：『君の名は。』、『すずめの戸締まり』、『シン・ゴジラ』と東日本大震災：「警告の教育学」
- 4回：『君の名は。』において、三葉が父親をどのように説得したのか？
- 5回：エヴァンゲリオン新劇場版の「特撮」テイスト：現実と虚構のあわい
- 6回：『シン・仮面ライダー』とドキュメンタリー映画、そして学校教育
- 7回：私が見ている世界を変える？：少年の日のLEDの思い出
- 8回：ポップカルチャー・パフォーマンス発表会（1）テキスト序章
- 9回：ポップカルチャー・パフォーマンス発表会（2）テキスト第1章
- 10回：ポップカルチャー・パフォーマンス発表会（3）テキスト第2章
- 11回：ポップカルチャー・パフォーマンス発表会（4）テキスト第3章
- 12回：ポップカルチャー・パフォーマンス発表会（5）テキスト第4章
- 13回：ポップカルチャー・パフォーマンス発表会（6）テキスト第5章
- 14回：ポップカルチャー・パフォーマンス発表会（7）テキスト第6章、授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・次回扱う内容が書かれている教科書当該章を事前に読んでおくように求めることがある。
- ・授業後半では、テキストの内容に書かれた内容をもとにして、学生をグループ分けしてパフォーマンス発表を行ってもらおう。ただし、学生の意見を聴取して、テキストから離れた内容を発表してもらっても差し支えないこととする。授業時間外の準備が必要になるので、了解の上受講されたい。
- ・発表会については、履修者数が想定以上になった場合、形式を変更する可能性がある。初回の履修者数をみて判断したい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%
 平常点割合 :40% パフォーマンス発表会の準備と運営:40%

テキスト / Textbooks

渡辺哲男編 『ポップカルチャーの教育思想：アカデミック・ファンが読み解く現代社会』 晃洋書房 2023
 97847711037236 ○

参考文献 / Readings

渡辺哲男ほか編 『言葉とアートをつなぐ教育思想』 晃洋書房 2019 9784771031623

田島悠来編 『アイドル・スタディーズ：研究のための視点、問い、方法』 明石書店 2022
9784750353234

岡部大介 『ファンカルチャーのデザイン：彼女らはいかに学び、創り、「推す」のか』 共立出版 2021
9784320094680

その他の参考文献は授業中に適宜提示する。

その他/ Others

授業担当者は教育学の専門ですが、映画、とりわけドキュメンタリーや演劇の好きな方には楽しい授業となる
と思います。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

立教ゼミナール発展編 1

Seminars for Senior Students of Rikkyo University 1

学びを通じた地域創生の超学際的アプローチ

～ひとづくり×地域づくり×自分＝素敵な未来～

辻 英之 (TSUJI HIDEYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA071

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP3140

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

地域社会の「学び」と「経営」を多面的に考察し、その核となるものを丁寧に抽出することを通して、「ひとづくり」と「地域づくり」が相乗的に質を深めていく論拠を探る。

Students will consider "learning" and "management" in local communities from multiple perspectives, and explore the rationale in which "people development" and "community development" deepen the quality synergistically, through careful extraction of the core concepts.

授業の内容 / Course Contents

近年、急速な人口減少が迫る中、観光開発・企業誘致などの従来型の地域づくりではなく、教育・福祉を軸とした地域づくりが進められ、その成果が報告されている。本講義では、実践家を中心とする多彩なゲスト講師から最先端の実践とその考察を講じていただく。

また、科目担当者が 30 年の実践から導き出されたアクティブラーニング型の授業運営スタイル：ダイアログ（対話）を活用した学び合いを駆使することにより、ゼミ形式における学びを深める。

なお、科目担当者は、国道も信号もコンビニもない長野県泰阜村（やすおかむら）において地域創生に顕著な成果を上げている NPO の代表理事である。

In recent years, with rapid population decline approaching, community development centering on education and welfare has been promoted rather than traditional community development such as tourism development and attracting businesses, and the results of this approach have been reported. In this course, students will learn the most advanced practice and its consideration from a variety of guest instructors who are mainly practitioners. In addition, the course lecturer will deepen learning in a seminar format by making full use of study that utilizes an active learning type class style: dialog, derived from 30 years of practice.

In addition, the course lecturer is a representative director of an NPO that has achieved remarkable results in community creation in Yasuoka-mura, Nagano Prefecture, which has neither national roads nor traffic lights nor a convenience store.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：学び方の導入
- 3 回：ダイアログの準備ワーク 1
- 4 回：安心安全の農的ライフサイクル（ゲスト：福島県の農的 NPO）
- 5 回：離島の地域づくり×フリースクール（ゲスト：島おこし実践者）
- 6 回：過疎地域のローカルベンチャー（ゲスト：ローカルベンチャー代表者）
- 7 回：本質的な学校づくりへの挑戦（ゲスト：自治体首長）
- 8 回：中間まとめ
- 9 回：お米からプラスチック？（ゲスト：被災地のベンチャー企業）
- 10 回：空き家活用と人材育成（ゲスト：まちづくり NPO 事務局長）
- 11 回：世界自然遺産とサステイナブルツーリズム（ゲスト：沖縄やんばる NPO）
- 12 回：学びのシェア
- 13 回：全体ダイアログワーク
- 14 回：総括とまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習等の指示は、必要に応じて授業内あるいは CanvasLMS 上で行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回の授業後に提出するコメントペーパー:40% プレゼンなど授業内の成果物:30%

最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

ダイアログ主体の授業を貫くルールは、「参画」と「自己決定」。自分で考えて、自分で動いて参加すればするほど、楽しくなり、学びが大きくなる授業。持ってくるものは「やる気」。

その他/ Others

科目担当者は泰阜村で実際に活動する上記 NPO の代表理事である。毎週毎週、信州の山村から片道 5 時間 (!) かけて大学に通う。ゲストは現段階の予定なので、開講してから変更の可能性がある。

ダイアログ主体の授業を貫くルールは、「参画」と「自己決定」。自分で考えて、自分で動いて参加すればするほど、楽しくなり、学びが大きくなる授業。持ってくるものは「やる気」。

担当者所属 NPO の URL <http://www.greenwood.or.jp>

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

哲学対話 in RIKKYO

Philosophical Dialogue in RIKKYO

渡名喜 庸哲／堀越 耀介／鈴木 信一／小林 雅博／丸山 諒士 (TONAKI YOTETSU/ HORIKOSHI YOSUKE/ SUZUKI SHINICHI/ KOBAYASHI MASAHIRO/ MARUYAMA RYOJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA081
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2110
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業は、「正しいとはどういうことか」「自由とは何か」「なぜ人を殺してはいけないか」といった身近かつ「哲学的」な問題について、履修者がグループになって相互に自分自身の考えを述べ「対話」をすることで、実践的に「哲学する」仕方を身につけることを目指します。そのため、講義のように、哲学者たちの名前や概念を紹介したりすることはしません。また、哲学の知識も必要ありません。

具体的には、この授業の目標は以下の三つです。

- ① 哲学的なテーマについて、自分自身の経験に基づいて考え、他人を意識して話ができるようになる。
- ②

The aim of this course is to give students not the knowledge of philosopher's concepts but the opportunity to present their opinion seriously and in public, in order to understand practically how to "philosophize" through some questions such as "what is right?", "what is freedom?", "why is it prohibited to kill?" etc..

The concrete objectives of this course are as follows:

- (1) Students will become able to think about philosophical themes based on their own experiences and to explain

their opinion to others.

(2) Students will become able to listen to others opinion.

(3) Students will become able to exchange constructive opinions with others who have different opinions.

"Constructive" means that the student and their partners can both develop the opinions and have new ideas each other.

授業の内容 / Course Contents

この授業には毎回3名の教員が参加しますが、その役割は知識の伝授ではありません。導入的な説明のあとは、グループ・ディスカッションのファシリテータに徹します。

毎回、参加者には少人数のグループになってもらい、その都度のテーマについて議論をしてもらいます。この対話が授業の主たる内容です。授業の終わりに振り返りを行います。

この授業での哲学対話では、以下のルールを定めます。

①何を言ってもよい。他人の意見はそのまま聴く。

②他人を攻撃したり、他人の意見を否定したり、揶揄してはならない。

③学年や学科の違いを超え、出席者はすべて対等の立場で語る。

以上です。このルールに従う限りで、自由に発言できます。

各回のテーマは、以下のように、学生生活の身近にある問題を取りあげます。

Three teachers will be present each time. Their role is not to give knowledge about philosophical concepts but just to facilitate the dialog of students. The whole class will be divided into some small groups and the students exchange and develop their opinion with the partners. This is the main content of this course.

We will set some rules for this philosophical dialog.

(1) You can say anything. Just listen to the opinions of others.

(2) Do not attack others, deny their opinions, or make fun of them.

(3) Regardless of the differences of their personal attributes, all participants speak on equal footing.

Themes will be taken from topics close to student life, that can be deepened philosophically.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション・趣旨説明

2回：大学で学んでどういうこと？

3回：幸せってどういうこと？

4回：正しいってどういうこと？

5回：死ぬってどういうこと？

6回：自由とは何だろう？

7回：芸術とは何だろう？

8回：言葉とは何だろう？

9回：差別とは何だろう？

10回：信頼とは何だろう？

11回：私とは何だろう？

12回：働くとは何だろう？

13回：なぜ人を殺してはいけないのか？

14回：対話とは何だろう？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、あらかじめ指定されているテーマに沿って、自分の意見をまとめて発表できるように考えてきてください。毎回終了時にリアクションペーパーにその日の振り返りを書いて提出してもらいます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度:30% 毎回の振り返りの内容:30% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

使用しません。必要に応じてプリントを配布することがあります。

参考文献 / Readings

河野哲也 他 『0からはじめる哲学対話』 ひつじ書房 2020 4823410327
 納富信留 『対話の技法』 笠間書院 2020 4305709325
 梶谷真司 『考えるとはどういうことか』 幻冬舎新書 2018 4344985141
 マシュー・リップマン 『探求の共同体』 玉川大学出版部 2014 4472404885
 永井均 他 『子供のための哲学対話』 講談社文庫 2009 4062764482
 永井玲衣 『水中の哲学者たち』 晶文社 2021 9784794972743
 その他授業でも適宜紹介します。

その他 / Others

- ・哲学についての前提知識は問いません。上にあるようなテーマについて「対話」をしてみたいという方ならどなたでも履修可能です。
- ・「知識はそんなにないけど、哲学的と言われるテーマについて、真剣に対話してみたい」という方を歓迎します。
- ・ただし、「楽な全カリ」ではありません。授業では、毎回グループで対話を行いますので、積極的な参加が求められます。適当な動機で参加すると、グループでの対話が成立しなくなるのでご注意ください。そのため、私語、理由のない遅刻・早退はもちろん、授業中のスマホや内職なども基本的に認められま

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

睡眠文化論

Sleep and Culture

舩谷 鋭 (MASUTANI SATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA082
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2110
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： ミックス型授業実施科目（詳細は下記「その他」欄参照）

授業の目標 / Course Objectives

人間の基本的活動である睡眠を、自然科学の視点からだけでなく、文化の視点から考えることを目的とする。
This course aims to address the basic human function of sleep from the viewpoints of natural sciences and culture.

授業の内容 / Course Contents

睡眠は、これまで人間の基本的な欲求に基づく行動であるとされ、もっぱら自然科学の領域において研究が行われてきた。しかし近年の研究では、これまで考えられてきた以上に睡眠には文化的要因が重要であることが指摘され始めている。この授業では、文学、文化人類学や社会学、比較文明論など様々な視点から、睡眠を文化的側面から考えることを目的とする。睡眠のしくみの基礎的な理解から始まり、睡眠の歴史的・地理的変異、現代の睡眠環境、寝具のこだわり、夢の民族誌、文学に見る眠りなどのテーマを扱う予定である。

Although sleep has been considered a biological function, and research has been conducted exclusively in the field of natural sciences, studies have begun pointing out that cultural factors are more vital for sleep than previously thought. This course aims to think about sleep from a cultural perspective including literature, anthropology, sociology, and comparative civilization theory viewpoints. Beginning with a basic understanding of

the mechanics of sleep, we will deal with themes such as historical and geographical variations in sleep, modern sleep environments, bedding preferences, dream ethnography, and sleep in literature.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：睡眠のしくみ 1
- 2 回：睡眠のしくみ 2
- 3 回：日本人と睡眠
- 4 回：寝不足時の認知機能
- 5 回：避難所環境と睡眠
- 6 回：快適睡眠のための寝具
- 7 回：日本の枕の変遷と枕の文化誌
- 8 回：夢の認知心理学
- 9 回：極北での眠り
- 10 回：チンパンジーの眠り
- 11 回：夢の民族誌
- 12 回：睡眠科学最前線
- 13 回：日本の寝室の歴史
- 14 回：日本文学における夢の表象

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業支援システムなどで示される各回キーワードを参考に教科書などで予習し、ゲスト講義、教員コメントを聞いた後の講義中の質問を高く評価する。授業後はゲストへの応答としてのリアペを授業支援システム掲示板へ、原則として1週間以内に投稿する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 複数回のリアクションペーパー:30%

テキスト/ Textbooks

高田公理ほか編 『睡眠文化を学ぶ人のために』 世界思想社 2008 479071330 ○

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

大教室やオンラインからのミックス参加であっても、積極的に質問や議論に加わろうとする、主体的な学びの姿勢を持てる

その他/ Others

本科目は対面 (全回対面) とオンライン (全回オンライン) を同時開講するミックス型授業として実施します。

対面・オンラインどちらの形態で受講するかについては、予め履修登録時点で選択のうえ、その希望に応じた科目コードで履修登録してください。一度選択した授業形態以外での参加は認められません。

本科目はオンラインで受講する科目ですので、対面で参加した場合は、欠席とみなされます。対面での履修を希望する場合はFA183を参照のこと。

なお、授業内で授業方法に関する調査等へ協力をお願いすることがあります。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

聖書と人間

Biblical Anthropology

創世記の物語から学ぶ人間像・人間観

長谷川 修一 (HASEGAWA SHUICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA101
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

聖書が描く人間像・人間観について、創世記に収められた様々な物語の批判的読解を通して学ぶ。

Through critical reading different stories students learn images of and views on human described in the Bible.

授業の内容 / Course Contents

創世記に収められた様々な物語を、近年の研究成果などを参考にしながら批判的に読み、聖書が提示する人間像・人間観について、履修者間で討議し考察する。

Students critically read different stories from the Book of Genesis in the Hebrew Bible in light of recent research achievements and discuss and consider through discussion among them images of and views on human that the Hebrew Bible presents.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション・聖書とは何か
- 2 回：人間の創造（創世記 1 章）
- 3 回：男と女（創世記 2 章）

- 4回：罪（創世記3章）
 5回：追放（創世記3章）
 6回：兄弟殺し（創世記4章）
 7回：傲慢（創世記11章）
 8回：しぶとさ（創世記18章）
 9回：同性愛（創世記19章）
 10回：近親相姦（創世記19章）
 11回：嘘（創世記20章）
 12回：献身（創世記22章）
 13回：イスラエル（創世記32章）
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回、次回の授業で使う文献を指示するので前もって読んでおくこと。授業の内容を踏まえた中間・最終レポートを提出すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクションペーパー:20% 中間レポート (Midterm Report):40% 最終レポート割合：40%

中間・最終レポートのどちらかまたは両方が提出されない場合は履修放棄とみなし、単位を取得できない。
 特段の事情がなく5回以上（5回を含む）欠席した場合は履修放棄とみなし、単位を取得できない。

テキスト / Textbooks

聖書が読める環境を整備すること（言語・訳・媒体は問わない）。

参考文献 / Readings

その他授業時に指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

毎授業時、授業中に複数の履修者間で討議し、その内容をグループとして口頭で発表してもらう。そのため、見知らぬ人とも討議でき、大教室で発言する能力が求められる。

その他 / Others

授業の内容は予定であり、履修者との討議の進展などによって進み方は柔軟に調整する。

正当な理由なく大幅な遅刻をした場合、リアクションペーパーの提出を認めない。

なお、遅刻・欠席の連絡はその理由と共に極力、授業開始前に Canvas LMS を用いてすること。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

聖書と人間

Biblical Anthropology

聖書の思想

吉田 忍 (YOSHIDA SHINOBU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA102
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 聖書を理解するうえで重要な用語や概念が何を指示し何を意味しているか、そしてそれらがどのような時代背景のもとで成立したのかを理解する。
 - 聖書に現れる重要人物の行いや思想について学ぶ。
 - 聖書が単一の思想によってではなく、様々な、時には相反しているとも思われる複数の思想によって成立していることを学ぶ。
- Understand what the terms and concepts that are important in understanding the Bible indicate and what they mean, and under what historical context they were established.
 - Learn about the actions and ideas of the important people that appear in the Bible.
 - Learn that the Bible is not formed by a single idea, but by several ideas that may be different and sometimes contradictory.

授業の内容 / Course Contents

聖書内容を理解するために必要となる用語あるいは概念をいくつか取り上げ、具体的な箇所に当たりつつ、そ

これらの意味及び意義について学ぶ。必要に応じて聖書諸文書が執筆された、あるいは聖書に現れる各人物が活躍した時代や社会状況について説明する。

Take up some of the terms or concepts needed to understand the Bible's content and learn about their meaning and significance while looking at specific sections. As necessary, explain the eras and social situations in which biblical documents were written, or in which each person appearing in the Bible was active.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：聖書の構成
- 3回：神、世界、人間
- 4回：契約、アブラハム、モーセ
- 5回：罪、イスラエル人、異邦人
- 6回：王国、預言者
- 7回：神殿、祭司、祭り
- 8回：知恵、黙示
- 9回：終末、死者の復活、裁き
- 10回：メシア／キリスト、十字架、復活
- 11回：史的イエス
- 12回：教会
- 13回：使徒パウロ
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で配布されるレジュメを整理し、要点を明らかとする。また、授業で取り上げられた聖書箇所を読み、その文脈を理解する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 毎授業時のリアクションペーパーの内容:40%

テキスト / Textbooks

フランススコ会聖書研究所 『聖書-原文校訂による口語訳』 サンパウロ 2013 9784805648315 ○
教科書は、第1回授業後に購入して下さい。

参考文献 / Readings

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

聖書と人間

Biblical Anthropology

歴史と物語

(History and Story)

飯郷 友康 (IIGO TOMOYASU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA103

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

世界には多様な価値観が存在する。それらのうちには、私の価値観と一致するものもあれば、一致しないものもある。まずは、その事実を認めること。そして、たまたま私の価値観と一致しない考えにも必ずや一定の理はある。

ある現象ないし言説について、さまざまな解釈が成立し得る状況を理解し得るようになること。

そのためには、現象の解説者ないし発言者の前提する基礎知識を（ある程度まで）共有すること。

他者の見解について、その正否を問う前に、まず根拠を確認したうえで、私自身の見解を反省すること。

以上、対話の基本姿勢を学ぶこと

There are diverse values in the world. Some of these values match with my values, others do not. First of all, we must acknowledge this fact. And there's always a certain reason for values that happen to be inconsistent with my values.

To be able to understand situations where various interpretations can be made for a certain phenomenon or

statement.

To that end, share (to a certain extent) the basic knowledge that the commentator or speaker assumes about the phenomenon.

Before asking whether another person's opinion is right or wrong, we must first review the reasons and reflect on our own opinion.

This concludes learning the basic stance of dialog.

In short, the goal is to understand others.

授業の内容 / Course Contents

聖書の有名な説話を、読む。いざ読むと、いろいろ不可解な点に突き当たる。その不可解は、はたして我々の知識不足による（ので、知識を増やせば解消する）ものだろうか。それとも、原作自体が当初から難解なものとしてある（ので、知識を増やしても、不可解は解消しないどころか、むしろ知識量に比例して増殖する）のか。さまざまな説話を手がかりに考えてみたい。

We will read the famous narrative of the Holy Scriptures. When you read it, you will discover a variety of mysterious points. Is that mystery due to our lack of knowledge? (such that it disappears as we increase our knowledge) Or is the original text itself difficult from the beginning? (meaning that increasing our knowledge does not eliminate the mystery but rather causes it to increase in proportion to our level of knowledge) We would like students to think about various narratives as a clue.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：「文集と生物」？ 「文集的生物学」？

(What is "Scriptures and Living Things," or "Scriptural Biology"?)

2 回：特殊と一般

(Special and General)

3 回：文学と理学？

(How to define "Science"?)

4 回：公理と証明

(Lemmata)

5 回：基礎と応用

(Foundation and Applications)

6 回：形式と内容

(Forms and Contents)

7 回：作者と作品

(Operator[s] and Opera)

8 回：原文と解釈

(Text[s] and Translations)

9 回：言語と世界

(Language[s] and World[s])

10 回：時間と空間

(Universe: Time and Space)

11 回：聖なるもの

(What is the Opposite of the "Holy"?)

12 回：旧約と新約

(Covenant or Testament: New and Old)

13 回：律法と福音

(Law and Gospel[s])

14 回：予言者と預言者

(Prophets)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

以下、必読。(Required reading:)

https://researchmap.jp/igo-tomoyasu/published_papers/32318918

<https://researchmap.jp/igo-tomoyasu/misc/32323290>

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学期中の提出物（予習課題、コメントペーパーなど）:100%

毎度、リアクションペーパーの提出を求める。感想・批判・質問・意見を、遠慮なく記入すること。

テキスト / Textbooks

著者なし	『文語訳 旧約聖書 I 律法』	岩波書店	2015	○
著者なし	『文語訳 旧約聖書 II 歴史』	岩波書店	2015	○
著者なし	『文語訳 旧約聖書 III 諸書』	岩波書店	2015	○
著者なし	『文語訳 旧約聖書 IV 預言』	岩波書店	2015	○
著者なし	『文語訳 新約聖書 詩篇付』	岩波書店	2014	○

以下、参照。(Cf. below:)

<https://researchmap.jp/igo-tomoyasu/misc/32321789>

参考文献 / Readings

応相談。

(Contact me, in my lectures.)

その他 / Others

以下、参照。(Cf. below:)

<https://researchmap.jp/igo-tomoyasu>

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

聖書考古学

Biblical Archaeology

「考古学」は「聖書」をどう説明できるのか ～聖書時代の背景を探る～

宮崎 修二 (MIYAZAKI SHUJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA104
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「聖書」という宗教文書の理解に考古学はどのような役割を果たすのか。考古学調査に対して、聖書信仰はどのような影響を与えてきたのか。両者の関係の歴史を辿りながら、聖書研究、考古学研究、西アジア古代史研究の将来を展望する。

What role does archeology play in understanding of the Bible as a religious document? What has the Biblical faith made influence to archaeological research? Tracing the history of Biblical archaeology, we will look forward to the future of the studies and researches of Bible, archaeology, and ancient western Asian history.

授業の内容 / Course Contents

講義形式で、聖書思想、イスラエル史研究、考古学調査の関係をそれぞれの立場から多角的に検討していく。それぞれの分野についての入門的な知識にも触れていく。

We will examine the relationship between Bible thought, Israeli history research, and archaeological research from various points of view. We will also deepen our knowledge about each field.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、「聖書考古学」とはなにか
- 2回：聖書における歴史と考古学（1）「聖書」という書物について
- 3回：聖書における歴史と考古学（2）歴史的・地理的概観
- 4回：ノアの洪水と聖書考古学の可能性 ～ノア方舟は丸かった？～
- 5回：古代イスラエル史 概略
- 6回：ユダヤ教の歴史と考古学
- 7回：聖書考古学の歴史（1）前史と黎明期
- 8回：聖書考古学の歴史（2）方法論の進展、考古学的思考の変遷とイスラエルの考古学
- 9回：イスラエルの起源から見る聖書と考古学（1）時代像
- 10回：イスラエルの起源から見る聖書と考古学（2）聖書解釈と考古学
- 11回：聖書時代の文化的考察の諸相：アブラハムは実在したのか？
- 12回：古代イスラエル宗教と考古学：「聖書の神」の起源、「ヤハウエと彼のアシェラ」、聖所と祭具
- 13回：古代史の中の「聖書」の地：地中海世界の中のイスラエル
- 14回：古代史の中の「聖書」の地：「海の民」と「1200年問題」

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	校内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

「テキスト」に指定した書籍のうち、少なくとも長谷川『聖書考古学』を学期中に各自通読すること。学期中にも随時、読むべき文献が指定される。聖書を全く読んだことのない人は、黒田裕『今さら聞けないキリスト教 聖書・聖書朗読・説教編』の前半を読んでおくことをお勧めする。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 中間課題:30%

テキスト / Textbooks

長谷川修一 『聖書考古学』 中央公論新社 2013 9784121022059 ○

黒田裕 『今さら聞けないキリスト教 聖書・聖書朗読・説教編』 教文館 2018 9784764299795 ○

月本昭男 『目で見える聖書の時代』 日本基督教団出版局 1994 9784818401938 ○

参考文献 / Readings

長谷川修一 『遺跡が語る聖書の世界』 新教出版社 2021

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

ジェンダーとキリスト教

Gender and Christianity

ジェンダーからみた「キリスト教・宗教」論再考

古澤 有峰 (FURUSAWA YUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA105
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ジェンダーの視点からキリスト教と宗教を捉えなおす。

The purpose of this course is to revisit Christianity and religion from the perspective of gender.

授業の内容 / Course Contents

理論と実際の両方を検証する事を通じて、ジェンダーとキリスト教をめぐる問題や課題について学習・理解を深める。

By reviewing the theory and practice, study and deepen the understanding of issues related to gender and Christianity.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入：ジェンダーの視点からキリスト教と宗教を捉えなおす
- 2 回：ジェンダーの視点からキリスト教における「聖書」「神」を再考する
- 3 回：ジェンダーとキリスト教からみた性的マイノリティ（1）
- 4 回：ジェンダーとキリスト教からみた性的マイノリティ（2）

- 5回：ジェンダーとキリスト教からみた性的マイノリティ（3）
 6回：ジェンダーとキリスト教からみた生命倫理（1）
 7回：ジェンダーとキリスト教からみた生命倫理（2）
 8回：ジェンダーとキリスト教からみた生命倫理（3）
 9回：ジェンダーとキリスト教からみたスピリチュアルケア（1）
 10回：ジェンダーとキリスト教からみたスピリチュアルケア（2）
 11回：ジェンダーとキリスト教からみたスピリチュアルケア（3）
 12回：ジェンダーとキリスト教からみたスピリチュアルケア（4）
 13回：ジェンダーとキリスト教からみたスピリチュアルケア（5）（1～3：医療・看護・社会福祉・心理学
 関連 4、5：音楽・アート関連）
 14回：まとめ・授業総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 初回レポート:28% 中間レポート:33% 最終レポート割合 :39%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

必要に応じて提示する。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

イスラームの世界

World of Islam

哲学・神秘主義・原理主義

青木 健 (AOKI TAKESHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA106

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

イスラーム思想を東方キリスト教・ゾロアスター教など、西アジアの諸思想との比較の中で理解する。

Students will understand Islamic thought in comparison with West Asian ideas such as Eastern Christianity and Zoroastrianism.

授業の内容 / Course Contents

イスラームの形成と発展に至る歴史的展開を重視する。古代末期に東方キリスト教・ゾロアスター教の文化圏でイスラームが成立する過程から始まり、ヘレニズムの影響下に哲学・科学を受容して独特のイスラーム文明を発展させるまでを追う。

We will place emphasis on the historical development leading to the formation and development of Islam. We will begin with the process of Islam being established in the cultural sphere of Eastern Christianity and Zoroastrianism in the late ancient period, and follow up to the development of a unique Islamic civilization by accepting philosophy and science under the influence of Hellenism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：古代末期の西アジア①～東方キリスト教とビザンティン帝国～
- 2回：古代末期の西アジア②～ゾロアスター教とペルシア帝国～
- 3回：古代末期の西アジア③～偶像崇拜とアラビア砂漠～
- 4回：預言者ムハンマドとイスラームの勃興
- 5回：イスラームの大征服活動
- 6回：ヘレニズムの吸収とイスラーム哲学・科学の成立
- 7回：イスラームの社会秩序～イスラーム法学～
- 8回：イスラームの内省～イスラーム神学とイスラーム神秘主義～
- 9回：イブン・アラビーの出現と存在一性論
- 10回：神秘主義的イスラームの時代
- 11回：インド・イスラームの特徴
- 12回：サラフィー主義とイスラーム復興運動
- 13回：ワッハーブ派とバアス党
- 14回：イスラーム原理主義へ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席と毎回の課題:40%

2/3 以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

青木健 『新ゾロアスター教史』 刀水書房 2019 4887084501

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

「宗教」とは何か

What is religion?

近代再考のために

江川 純一 (EGAWA JUNICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FA107
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

「宗教」という語の多角的な検討や系譜学的な考察により、「宗教」という概念=用語に敏感になることを目指す。

We will aim to be sensitive to the word "religion" through a multi-dimensional examination of the concept and term of "religion", and genealogical consideration.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、個別の宗教についての解説ではなく、「宗教」概念についての考察である。具体的には、19世紀後半以降の宗教研究の流れを紹介しながら、「信じる」でも「遠ざける」でもなく、「《宗教》について知る」という立場について考察したい。

This class is not a commentary on individual religions, but a reflection on the concept and the term of "religion". Specifically, introducing the flow of religious studies since the late 19th century, we would like to consider the position of "knowing about religion," rather than "believing" or "moving away from" it.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに： 宗教学の言説空間。日本語の「宗教」について
 2回：「宗教」概念をめぐる諸問題（1）： ビリーフとプラクティス
 3回：「宗教」概念をめぐる諸問題（2）： 「民俗宗教」について
 4回：「宗教」はどのように研究されてきたか（1）： 宗教起源論その1
 5回：「宗教」はどのように研究されてきたか（2）： 宗教起源論その2
 6回：「宗教」はどのように研究されてきたか（3）： 神観念について
 7回：近現代イタリアにおける「宗教」（1）
 8回：近現代イタリアにおける「宗教」（2） / レヴィ=ストロースによる問題提起
 9回：マギア（呪術、魔術、魔法）論（1） 古代・中世
 10回：マギア（呪術、魔術、魔法）論（2） 近現代
 11回：神話をいかに解釈するか（1） 19世紀の神話学
 12回：神話をいかに解釈するか（2） 20世紀の神話学
 13回：儀礼とは何か
 14回：贈与論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ブックリストの本を一冊でも多く読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 中間レポート:30%

テキスト / Textbooks

毎回レジュメを配布する。

参考文献 / Readings

講義のなかで指示する。

その他 / Others

教員作成の文献リスト <https://ameblo.jp/pettazzoniano/entry-12476646103.html>

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

現代社会と人間

Contemporary Society and Humanity

死者・神・仏と現代人の生

碧海 寿広 (OHMI TOSHIHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA108
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「宗教」という観点から、現代日本人の生き方、価値観、美意識、信念や理想のあり様について深く理解できるようにする。

From the perspective of "religion," we aim to understand the way of life, values, aesthetics, beliefs and ideals of Japanese people today.

授業の内容 / Course Contents

現代日本人の生き方にとって死者や神仏といった宗教的な存在がいかなる役割を果たしているのか、終活ブームや水子供養の背景、結婚式や天皇制の変遷、世界的な人気が高まる禅（ZEN）から瞑想（マインドフルネス）まで、注目すべき多様な事例や社会問題を挙げながら考察する。

We consider what kind of role religious things such as the dead, gods and buddhas play in the way of life of modern Japanese people, citing various examples worthy of attention.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクションー現代人と宗教ー

- 2回：死者①—葬式から考える—
 3回：死者②—終活ブームとは何か—
 4回：死者③—水子供養の倫理—
 5回：死者④—スピリチュアリズムの展開—
 6回：神①—結婚式から考える—
 7回：神②—キリスト教と日本人—
 8回：神③—神道とは何か—
 9回：神④—天皇制の近現代—
 10回：仏①—仏像から考える—
 11回：仏②—禅と日本文化—
 12回：仏③—道徳と宗教—
 13回：仏④—瞑想とマインドフルネス—
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

特になし。普段から現代人と宗教の関係について、本やインターネット (ただし宗教に関するネット情報は誤ったものが特に多いので注意が必要) を通し知識や情報を積極的に得るよう心がけること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題提出:100%

毎回課題の提出を求める。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

岩田文昭・碧海寿広 『知っておきたい日本の宗教』 ミネルヴァ書房 2020 9784623090006

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

現代社会と人間

Contemporary Society and Humanity

エピソードから考える臨床現象学

大塚 類 (OTSUKA RUI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA109

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）【授業計画】一部の授業は以下の理由からオンデマンド配信とする。

- ・履修の検討に用いることができるように（第1回）
- ・センシティブな内容を含むため、受講生のタイミングで視聴ができるように（第7回、第9回、第12回）
- ・哲学の概念が語られるため、受講者が復習に利用できるように（第4回、第5回）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

①臨床現象学の概略について学ぶ

②実際のエピソードに定位しながら現代社会の在りようについて学ぶ

③実際のエピソードに定位しながら現代社会を生きる子ども・若者の状況について学ぶ

④当事者意識をもって現代社会と人間について考え表現できるようになる

(1) Learn about the outline of phenomenology in practice.

(2) Learn about the state of contemporary society by locating it in actual episodes.

(3) Learn about the situation of children and young people living in contemporary society by locating themselves in actual episodes.

(4) To be able to think about and express contemporary society and human beings with a sense of

ownership(TOJISHIA).

授業の内容 / Course Contents

フィールドワークやインタビューによって収集してきた実際のエピソードや語りについて、哲学の一種である現象学の知見に基づき考察するのが臨床現象学です。

本授業では、現代社会を生きる人間をめぐるさまざまなエピソード（児童虐待、発達障害、児童養護施設で暮らす子どもとケアワーカー、原爆の被爆者など）を紹介し、臨床現象学的な考察についてみなさんにお話をします。その多くは「生きづらさ」に関連するものになります。

本授業では、グループワーク（履修人数によります）や、毎授業後のリアクションペーパーの提出を課します。授業の目標④にあるように、単に授業を聴講するだけでなく、みなさん一人ひとりに当事者意識をもって考え、疑問を持ち、表現してほしいからです。

Phenomenology in practice is a study of actual episodes and narratives collected through fieldwork and interviews, based on the findings of phenomenology, a type of philosophy.

In this class, the lecturer will introduce various episodes concerning people living in contemporary society (child abuse, developmental disabilities, children and carers living in children's homes, atomic bomb survivors, etc.) and discuss clinical phenomenological considerations with you. Many of these will be related to 'living difficulties'.

This class will require group work (depending on the number of students enrolled) and the submission of a reaction paper after each class. The reason for this is that, as stated in the objective (4) of the class, the lecturer wants each and every one of you to think, question and express yourself with a sense of ownership of the issues involved, rather than simply listening to the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

2回：身近な多様性について考える

偏愛マップ（課題・グループワーク）

3回：小学校の子どもたち①現実のできごとの複雑さ

4回：小学校の子どもたち②場面緘黙・不登校

5回：小学校の子どもたち③学校不応答

6回：子どもが変わるために必要なこと：居場所事業の聴き取りから（グループワーク）

7回：被爆体験の継承

8回：虐待母の語り

9回：児童虐待と学校

10回：児童養護施設の子どもとモノ（グループワーク）

11回：ケアリーバーの語り

12回：児童養護施設のケアワーカー：ケアリーバーの自死をめぐる

13回：やさしさとは何か？：『違国日記』と『ぬいぐるみとしゃべる人はやさしい』から考える（グループワーク）

14回：授業全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で配布した資料に基づく復習

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:40% 授業参加度:40% 最終レポート割合 :20%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

遠藤野ゆり・大塚類 『さらにあたりまえを疑え！：臨床教育学 2』 新曜社 2020 9784788516656

山名淳編 『記憶と想起の教育学』 勁草書房 2022 9784326251674

村上靖彦編 『すき間の子ども、すき間の支援：一人ひとりの「語り」と経験の可視化』 明石書店 2021
9784750352510

大塚類 『施設で暮らす子どもたちの成長』 東京大学出版会 2009 9784130562164

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

具体的なエピソードについて当事者意識をもって考えて表現する力

グループワークを含め授業に積極的に参加する力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC やタブレットを持参しても良い

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

哲学への扉

Door to Philosophy

「人間」とは誰か。「人間」は何を「知る」ことができるのか。

縣 由衣子 (AGATA YUIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA110
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ・哲学で論じられてきた「人間」をめぐる諸概念について理解が深められるようになる。
- ・理解した概念や議論を踏まえて、自分が常識として持っている「人間」のイメージが何に起因しているかを分析し、そのイメージを批判的に捉えなおし、問いが立てられるようになる。
- ・「知る」ことについて多角的に考え、そこに働いているバイアスについて考えてみるができるようになる。

The course will provide an opportunity for students to deepen their understanding of the various concepts of "human" as discussed in philosophy.

The course will also provide students with an opportunity to analyse the image of the "human" that they have as common sense, and to critically rethink that image and ask questions based on their understanding of the concepts and arguments.

The students will be able to think about their "knowledge" from multiple perspectives and consider the biases at work in this process.

授業の内容 / Course Contents

「人間」概念は今様々な学術の分野で大きく揺れ動きつつあります。それに伴って、この「人間」が世界を「知ろう」とする、その営みも大きく変わろうとしています。この授業では、「人間」と「知る」をテーマとして取り上げ、現在論じられている議論を参照しつつ、これまでの哲学史をにおける議論を敷衍しながら、「人間」が「知る」ことをめぐる議論がどのように行われてきたのかをさまざまな論点から学びます。

授業の形式は講義形態ですが、毎回簡単なグループディスカッションを行い、哲学史における議論を自分のみの身の回りのことと関連づけて考える練習をします。また、授業後にはリアクションペーパーを通じて、疑問点や講義内容を通じて考えたこと、批判などを挙げてもらいます。

The concept of "human" is currently undergoing a major shake-up in various academic fields. In line with this, the way in which "human" attempts to "know" the world is also undergoing major changes. In this class, we will take up the theme of "human" and "knowledge", and learn how the debate over "human"'s "knowledge" has been conducted from various points of view, referring to the debates currently being discussed and expanding on the debates in the history of philosophy up to the present.

The class format is lecture-style, but each class will be followed by a brief group discussion to practise thinking about the debates in the history of philosophy in relation to one's own immediate surroundings. After class, students are asked to raise any questions, thoughts or criticisms they have about the content of the lectures in a reaction paper.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション／今問われている「人間」について・私たちは何を知ることができるのか①
- 2 回：今問われている「人間」について・私たちは何を知ることができるのか②
- 3 回：ギリシャ哲学において「人間」が「知る」こと①
- 4 回：ギリシャ哲学において「人間」が「知る」こと②
- 5 回：中世において「人間」が「知る」こと
- 6 回：近代において「人間」が「知る」こと①
- 7 回：近代において「人間」が「知る」こと②
- 8 回：近代において「人間」が「知る」こと③
- 9 回：近代において「人間」が「知る」こと④
- 10 回：現代における「人間」が「知る」こと①ネットワークとヴァーチャル
- 11 回：現代における「人間」が「知る」こと②ロボットとサイボーグ
- 12 回：現代における「人間」が「知る」こと③ポストヒューマン時代の身体
- 13 回：現代における「人間」が「知る」こと④ エコロジーと哲学
- 14 回：講義のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義で取り上げる内容については入門的な書籍の参考文献リストを案内しますので、授業前、授業後に読むと理解が深まります。

また、毎回次回授業の内容の予告および、ディスカッションテーマを提示しますので、自分なりの意見、観点を整理してくることをお勧めします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッションへの参加度:20% 授業参加態度:20% リアクションペーパーの内容:20% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

哲学に初めて触れる学生を対象としているので、予備知識がなくても履修可能です。ただし、最終的にレポートを書くにあたり、授業中に講義で聞いた内容の理解のみでは不十分であり、補足的な書籍や論文を読み、自発的に考える必要があります。「自発的に考えること」については、授業中のディスカッションがその予備訓練となります。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業前、授業後に配布資料があることがあるので、PDF や docx 形式のデータを開くことのできるソフトウェアを持っている必要があります。

その他 / Others

素早く正解を出すことよりも、じっくりといろんな視点から考えることが好きなひと、自分の考えていることについて他の人と話してみることが好きなひとに向いている授業です。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

哲学への扉

Door to Philosophy

世界の複雑さを受け止めながら明晰に考える

槇野 沙央理 (MAKINO SAORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA111
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

このコースの目的は、哲学の現代的な問題、とくに悪い言葉、差別、注意を要する会話に関連して——例えば学生の授業参加、レポート作成、また教員や友人との会話において——発生する可能性のある問題について、学生の理解を深めることです。このコースの目的はまた、正義論、ケアの倫理、分析フェミニズム、ウィトゲンシュタイン哲学の中で、分析哲学的・倫理的アプローチを発展させ、高度な研究を行う可能性を学生に提供することです。

コース終了後、学生は以下のことができるようになることが期待されます。

- 応用哲学における現代的な

The course objective is to enhance the student's understanding of contemporary issues in philosophy, especially those that may arise in relation to bad language, discrimination and sensitive conversation, for example during the student's participation in classes, writing academic essays, and communication with friends and teachers. The course objective is also to provide the students with extended possibilities to develop an analytic-philosophical and ethical approach to advanced work within theories of justice, ethics of care, analytic feminism and

Wittgenstein's philosophy.

After a completed course, the student is expected to be able to:

- explain contemporary issues and theories in applied philosophy
- identify situations of structural injustice to discuss theories of justice, ethics of care, and analytic feminism
- analyze the basic conception of Wittgenstein's philosophy

授業の内容 / Course Contents

このコースでは、ものごとの「もっともらしさ」「自明性」を根源的に考える批判的思考力を身につけるため、実生活における経験から哲学的問いを立て、解答を形成することを試みます。「言葉」をめぐる「他者」との軋轢や、「制度」の中で抑圧される「個人」といったアクチュアリティのある問題設定からスタートし、ウィトゲンシュタインの哲学から問題の汲み取り方を学ぶことで、社会においてもっともらしいと考えられている知識のありようを分析する手法を身につけていきましょう。

具体的には、以下のような哲学の中心的テーマ、現代理論、現代的課題を取り上げます。

- 言語の哲学
- 悪い言葉の哲学
- 差別の哲学
- 会話の哲学
- 日常言語の哲学
- P・グライスの哲学
- 政治哲学
- 正義の理論
- J・ロールズの哲学
- ケアの倫理
- 分析フェミニズム

また、ウィトゲンシュタイン哲学の中心的なトピックとして、以下のものを取り上げます。

- 『論理哲学論考』(=前期ウィトゲンシュタイン)における「無意味 sinnlos」と「ナンセンス Unsinn, unsinnig」
- 『哲学探究』(=後期ウィトゲンシュタイン)における「アウグスティヌスの像」

This course attempts to formulate philosophical questions from real-life experiences and provide answers in order to develop critical thinking skills that fundamentally consider the “plausibility” and “self-evidentness” of things. Starting with issues of reality, such as conflicts with others over language and the individual oppressed by systems and institutions, we will learn how to take issues from Wittgenstein's philosophy, and acquire methods for analysing the state of knowledge that is considered plausible in society.

The course contains the following central themes, modern theories and contemporary issues of philosophy:

- Philosophy of language
- Philosophy of bad language
- Philosophy of discrimination
- Philosophy of conversation
- Ordinary language philosophy
- P. Grice's philosophy
- Political philosophy
- Western theories of justice

- J. Rawls's philosophy
- Ethics of care
- Analytic feminism

The course also contains the following central topics in Wittgenstein's philosophy:

- The conception of “no sense, lacking sense, without sense” and “nonsense” in Tractatus Logico-Philosophicus (=The early Wittgenstein)
- “The Augustinian picture” in Philosophical Investigations (= The later Wittgenstein)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション：応用哲学から古典へ

授業の構成について、ディスカッション I・II・III の区分に応じて説明します。また、授業内のルールや、安心して議論ができる「セーフター・スペース」についても案内を行います。

予習：知っている・聞いたことがある哲学者の名前や、気になる哲学的トピックをメモしておきましょう。

復習：シラバスの中から気になるトピックを見つけ、授業内で案内されたデータベースや Web サイトで、用語や参考文献を検索してみましょう。

2 回：アクチュアルな問い①：悪い言葉の哲学

ある言葉が「悪い」と言われるとき、そもそもどのようにして「言葉」が悪さをなすことができるのか、言葉を使って人が悪いことをすることができるのかについて考えます。

予習：身近な悪口の例を挙げてみましょう。(自身の経験を無理に思い起こす必要はありません。また、授業内では、フラッシュバックを引き起こしそうな生々しい例は極力避け、もしそのような例を使う必要がある場合は、先に注意喚起を行います。)

復習：予習で考えてきた身近な悪口の例を、「害悪説」「悪意説」「ランクづけ説」のい

3 回：アクチュアルな問い②：差別の哲学

ある人が特定の属性(人種・ジェンダー・性的指向・障害の有無・宗教・年齢)によって他の人と異なる対応を受けるとき、それが単なる「区別」ではなく「差別」と呼ばれるのはどのような理由からなのかについて考えます。また、差別の「悪さ」についても、四つの説から検討します。

予習：身近な差別の例を挙げてみましょう。(自身の経験を無理に思い起こす必要はありません。また、授業内では、アウティングが生じないよう配慮し、フラッシュバックを引き起こしそうな生々しい例は極力避け、もしそのような例

4 回：アクチュアルな問い③：会話の哲学

言葉を使って人とやりとりするとき、そこで私たちは人と何を一緒に行おうとするのか(し損ねるのか)、あるいは、人に対して何を行わせようとするのかを考えます。

予習：会話がうまくいったり、うまくいかなかったりした例を挙げてみましょう。また、伝わってほしいことが伝わらなかったり、伝わってほしくないことが伝わってしまった例も考えてみましょう。

復習：予習で考えてきた例が、発言を通じて話し手と聞き手の間で約束事を構築していく「コミュニケーション」であるのか、発言を通じて話し手

5 回：ディスカッション I：他者を尊重することはなぜ難しいのか

発表希望者(3名まで)を募り、発表者と他の受講者との間でディスカッションを行います。

他者との関わりのなかで生じてくる「悪さ」について、「悪い言葉の哲学」「差別の哲学」「会話の哲学」の三つの観点から皆で議論します。とくに、「他者を尊重することはなぜ難しいのか」という問いを立て、この問いにどのような仕方でも答えることができそうかを話し合います。

予習：第2回から第4回までの授業内容を復習し、ディスカッションに備えましょう。

復習：ディスカッション

6回：良い生を考える①：正義の哲学

どのような社会が、公平で良い社会であると言えるかについて、ロールズの『正義論』から学びます。特に、ロールズ正義の二原理（平等な基本的諸自由をめぐる「第一原理」や、格差原理と公正な機会均等の原理をめぐる「第二原理」）と、正義の二原理の導出方法（原初状態における「無知のヴェール」）について考えます。

予習：個人の努力ではどうにもならないと思われる身近な例を考えましょう。

復習：予習で考えてきた例を使って、「良い」社会ではどのように、個人の努力ではどうにもならないと思われること

7回：良い生を考える②：ケアの倫理

これまで社会の中で強い発言権を持ってきた主体がどのような条件を備えていると前提されてきたのか、発言権を持たないとされがちだった人たちがどのような存在であるのかについて、「脆弱性」や「依存」といったキーワードを使って考えます。

予習：「社会の一員」ということであなたが思い浮かべるのはどんな主体か、考えてみましょう。

復習：第6回の授業内容を踏まえ、正義の哲学において前提とされる「主体」と、ケアの倫理において考えられる「個人」との違いについて考えてみましょう。

8回：良い生を考える③：分析フェミニズム

「女性」をはじめとするマイノリティの権利を擁護する営みであるフェミニズムが、何らかの弱い属性を被る人の立場を向上させるため、個々の生を抑圧するさまざまな機構（社会的構築物）のありようを暴露する活動でもあることを考えます。特に、フェミニズムに対する「分析哲学」からのアプローチを取り上げます。

予習：個人の生が規格化を被る（既存のあり方に合わせるよう強制ないし矯正が生じる）場面について、考えてみましょう。

復習：予習で考えてきた例について、「分析哲学的アプローチ」を使って

9回：ディスカッションⅡ：自分らしく生きるとは何とどのように戦うことなのか

発表希望者（3名まで）を募り、発表者と他の受講者との間でディスカッションを行います。

集団内での慣習・制度において生きる個人が被る不利益について、「正義の哲学」「ケアの倫理」「分析フェミニズム」の三つの観点から皆で議論します。とくに、「自分らしく生きるとは何とどのように戦うことなのか」という問いを立て、この問いにどのような仕方で答えることができそうかを話し合ひましょう。

予習：第6回から第8回までの授業内容を復習し、ディスカッション

10回：古典にふれる①：ウィトゲンシュタインという哲学者

19-20世紀を代表する哲学者で、オーストリア・ウィーン出身のL. ウィトゲンシュタイン（1889-1951）について、その生涯を学びます。

予習：「ウィトゲンシュタイン」という人について、データベース等で調べてみましょう。

復習：ウィトゲンシュタインがどのような哲学者か、生い立ち、他の哲学者との影響関係、思想、遺稿について得た情報から考察しましょう。

11回：古典にふれる②：『論理哲学論考』——前期ウィトゲンシュタインを知ろう

難解かつミステリアスなことで知られるウィトゲンシュタインの著作『論理哲学論考』のエッセンスに触れま

予習：『論理哲学論考』（またはその入門書）を図書館で見てください。

復習：『論理哲学論考』における、「無意味」と「ナンセンス」との違いについて考えてみましょう。

12回：古典にふれる③：『哲学探究』——後期ウィトゲンシュタインを知ろう

一度は哲学（界）から離れたウィトゲンシュタインが再び哲学を開始し、ウィーン学団や、ケンブリッジの同僚・学生とのやりとりの中から生み出した新しい作品『哲学探究』の導入箇所を読みます。

予習：『哲学探究』（またはその入門書）を図書館で見てください。

復習：『哲学探究』における「アウグスティヌス言語像」を分析していきましょう。

13回：ディスカッションⅢ：私たちが何かの意味を問う際に必要としていること

発表希望者（3名まで）を募り、発表者と他の受講者との間でディスカッションを行います。

言葉の意味および、言葉の意味を問題にするときに取る手法・前提・道具立てについて考え、私たちが何かを語る時に問題になること（あるいは、問題にせずに済ませてきたこと）は何であるかを議論しましょう。（題材は、ウィトゲンシュタイン以外でも構いません。）

予習：第10回から第12回までの授業内容を復習し、ディスカッションに備えましょう。

復習：ディスカッショ

14回：まとめ

これまでの授業を振り返り、三つの問い「他者を尊重することはなぜ難しいのか」「自分らしく生きるとは何とどのように戦うことなのか」「私たちが何かの意味を問う際に必要としていること」を参考に、それぞれが問いを立てます。

予習：ディスカッションⅠからⅢの復習を行いましょ。

復習：自身の問いに適した参考文献を選び、その文献を読みながら気になる点についてノート等へ書き出し、問いと解答を与えるプロセスを自分で形成していきましょう。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業計画を参照のこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小レポート:30% コメントシート:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

指定なし。適宜、スライドを配布します。

参考文献 / Readings

和泉悠 『悪い言語哲学入門』 筑摩書房 2022 4480074554

池田喬、堀田義太郎 『差別の哲学入門』 アルパカ 2021 4910024026

三木那由他 『会話を哲学する：コミュニケーションとマニピュレーション』 光文社 2022 4334046223

齋藤純一・田中将一 『ジョン・ロールズ』 中央公論新社 2021 4121026748

キャロル・ギリガン 『もうひとつの声で——心理学の理論とケアの倫理』 風行社 2022 4938662388

木下頌子、渡辺一暁、飯塚理恵、小草泰編訳 『分析フェミニズム基本論文集』 慶應義塾大学出版会 2022 4766428552

レイ・モンク 『ウィトゲンシュタイン〈1〉—天才の責務』 みすず書房 1994 9784622031857

ルートウィヒ・ウィトゲンシュタイン (2003) 『論理哲学論考』、野矢茂樹訳、岩波書店。4003368916
—— (2020) 『哲学探究』、鬼界彰夫訳、講談社。4062199440

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業中の携帯電話の使用は禁止しますので、その他の端末（PC やタブレットなど）を持参してください。

その他/ Others

・このコースでは積極的な学習姿勢を求めます。楽に単位を取りたい方にはおすすりできません。私語、理由のない遅刻・早退、授業中のスマートフォン操作や内職などは基本的に認められませんのでご注意ください。悪質な態度があった場合は、退出を命じることがあります。

・教員は、授業内でのアウティングおよびミスジェンダリング予防に努めます。また、学生にも同様の努力を要請します。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

論理的思考法

How to Think Logically

論理学入門

津留 竜馬 (TSURU RYOUUMA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA112

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、現代の論理学についての基本的な理解を得ることである。

The goal of this course is for students to gain a basic understanding of modern logic.

授業の内容 / Course Contents

授業では論理学の基本事項を学んでいきます。理解を深めるため、例題を説明したあとで練習問題を解いてもらいます。成績は授業中に行う小テストによって評価します。

In our class, we will learn the basics of logic. You need to solve exercises. Grades are evaluated according to quizzes given during class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：命題論理の論理式

2 回：かっこの省略

3 回：論理式の真偽(1)

4 回：論理式の真偽(2)

- 5回：論理法則と同値変形
 6回：文の内部構造
 7回：量子化と議論領域
 8回：述語論理の論理式
 9回：否定と量化
 10回：複合式の量化
 11回：様々な文の記号化
 12回：原子式の真偽
 13回：量化式の真偽
 14回：複雑な式の真偽

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に解いた練習問題を解きなおして、復習をしておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 小テストを3回行う：100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 戸次大介 『数理論理学』 東京大学出版会 2012 9784130629157
 鹿島亮 『数理論理学』 朝倉書店 2009 9784254117653
 林晋 『数理論理学』 コロナ社 1989 9784339025361
 福山克 『数理論理学』 培風館 1980 456300426
 松本和夫 『数理論理学』 共立出版 2001 9784320016828
 田中一之 『数学基礎論講義』 日本評論社 1997 9784535782419
 新井敏康 『数学基礎論』 岩波書店 2011 9784000055369

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

教育と人間

Education and Humanity

哲学的人間観・社会観と教育論

西山 晃生 (NISHIYAMA TERUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA113
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

哲学を中心としたさまざまな文献を読み解き、人間や社会をめぐるものの見方と教育に関する思想との結びつきを理解する。

Read and interpret a variety of mainly philosophical texts to understand the connection between the perspectives on human beings and society and the ideas of education.

授業の内容 / Course Contents

教育は、人間が自己を形成するための助けとなるものであると考えられています。しかし、この場合「自己」とはどのようなものでしょうか。社会に貢献する人材かもしれませんし、自律的な判断と行動の主体かもしれません。答えは背景にある考え方によって変わってきそうです。したがって、教育の目的と効果・結果について議論するためには、社会と人間に関する確固とした視点が必要になります。本講義では、古代から近現代までの（主に西洋哲学の）文献を扱い、その人間観と社会観を読み解き、教育との結びつきを検討します。主に扱われる話題は「幸福」「意志の弱さ」「自由」「自律」です。「幸福とは何か」「私たちはなぜしてはいけないと分かっていることをしてしまうのか」「社会の中で暮らしながら自由でいるためにはどうすればいいのか」「自

律とはどのような意味か」といった問題について、文献をヒントにしながらかえてみたいと思います。

Education is considered to be something that helps people form their own self. But what is "self" in this case? It may be a human resource who contributes to society, or it may be the subject of autonomous judgment and action. The answer is likely to change depending on the underlying ideas. Therefore, in order to discuss the purpose, effects, and results of education, we need a solid perspective about society and people. In this course, we will look at literature from ancient times to modern times (mainly in Western philosophy), read and interpret its views of people and society, and examine the link with education. The main topics covered are happiness, weakness of will, freedom, and autonomy. Using literature as a guide, we would like to consider questions such as "What is happiness?", "Why do we do things we know we should not do?", "How can we be free while living in society?," "What does autonomy mean?"

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：古代ギリシア社会と「徳」について
- 2 回：生き方としての哲学—ソフィストとソクラテス
- 3 回：統治のありかたと教育—プラトンのイデア論と政治
- 4 回：よい生き方の追求—アリストテレスの倫理学
- 5 回：徳を身につけること—アリストテレスの政治学と教育論
- 6 回：近代を形成するもの—「啓蒙」について
- 7 回：「自然状態」と人間の本性—ルソーの人間論
- 8 回：不平等の起源—ルソーの社会論①
- 9 回：社会契約と一般意志—ルソーの社会論②
- 10 回：人間の発達段階と社会生活—ルソーの教育論
- 11 回：嫌々ながら義務に従うこと—カントの道徳哲学①
- 12 回：人格を尊重すること—カントの道徳哲学②
- 13 回：自分で立てた規則に従うこと—カントの教育論
- 14 回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各講は一回で完結しないことが多く、前の回の内容をふまえて進めることになります。授業前にプリントやノートに眼を通し、大まかな内容を把握してから受講してください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

テキストは使用しません（プリントを配布します）。

参考文献 / Readings

プラトン 『国家』（上・下） 岩波文庫 1979 40033601764003360184

アリストテレス 『ニコマコス倫理学』（上・下） 光文社古典新訳文庫 2015

97843347532219784334753245

ルソー 『人間不平等起源論』 講談社学術文庫 2016 9784062923675

ルソー 『エミール』（上・中・下） 岩波文庫 1962-4 400336221740033622254003362233

カント 『道徳形而上学の基礎づけ』 人文書院 2022 9784409031186

他の参考文献（上に挙げた文献の原典や別の翻訳を含む）は講義中に指示します。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

歴史への扉

Door to History

東西ユーラシア交流の歴史をフィールドワークする

四日市 康博 (YOKKAICHI YASUHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA114

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

歴史学、特にユーラシア交流史のフィールドワークに関する様々な情報を通じて歴史学に関心を持ち、歴史学の研究手法を理解できること。

なお、本講義はフィールドワークの方法論自体を詳説するものではなく、歴史学の楽しさを認識してもらうことを主眼とします。フィールドワークの方法論を本格的に勉強したい人は別途、専門の講義を受講してください。

The aim is to develop an interest in history, particularly through various information on fieldwork in Eurasian history, and to understand the methods of historiography.

授業の内容 / Course Contents

担当教員がイラン、アラブ諸国、中央アジア、東南アジア、ヨーロッパ、中国、モンゴルでおこなったフィールドワークの調査手法と関連する諸情報を提示し、関連する諸問題に関する講義をおこないます。

The lecturers present the research methods and related information from fieldwork conducted in Iran, Arab countries, Central Asia, South-East Asia, Europe, China and Mongolia, and give lectures on related issues.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導論：東西交流史研究とフィールドワーク
 イラン1：港市とキャラバンルートを巡る
- 2回：イラン2：龍と鳳凰を探して
- 3回：カザフスタン、ウズベキスタン：モンゴル襲来と国際貿易の道
- 4回：サウジアラビア、オマーン：港市と国際商業ルートを巡る
- 5回：イスラエル、パレスティナ：宗教の交差点・モンゴル襲来の足跡を辿る
- 6回：タイ1：港市と国際貿易ルートを調査する
- 7回：タイ2・ヴェトナム：狛犬（石獅子）の伝播を辿る
 ミャンマー：モンゴル襲来と海上貿易
- 8回：インドネシア、マレーシア、シンガポール：港市国家と海上貿易
- 9回：イタリア1：鳥獣紋・龍鳳紋を求めて
- 10回：イタリア2：狛犬・石獅子を求めて
- 11回：クロアチア、スロヴェニア、モンテネグロ：港市・海上貿易の道を巡る
 イギリス：港市・信仰・漁業
- 12回：中国：中国王朝と遊牧民・海域世界
- 13回：日本1：ユーラシアから見た弁才天と宇賀神
- 14回：日本2：海を渡った菓子 お菓子のフィールドワーク
 附論：ユーラシアから見たチキンライスとピラフ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り上げる地域に関して各自の関心に応じて調べてみてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席およびリアクションペーパー：40% 授業参加（質疑応答も含む）：20% 最終レポート割合：40% 最

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項**

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

歴史への扉

Door to History

中・近世ヨーロッパ都市の社会と文化

井上 周平 (INOUE SHUHEI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA115
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地： 他
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

時代と地域という二重の意味で異文化である中・近世ヨーロッパの社会・生活文化の理解を通して、歴史や文化をその文脈のなかに位置づけて把握する態度を身につける。また、歴史に関する知見が、どのようなアプローチや史資料に基づいて得られたものなのかを考えられるようにする。

Through an understanding of the society and life culture of Medieval and Early Modern Europe, which are different in the dual senses of era and region, students will gain a stance to position and grasp history and culture in its context. In addition, students will become able to think about upon what kinds of approaches and historical sources they have obtained their knowledge about the past.

授業の内容 / Course Contents

中世から近世にかけてのヨーロッパの都市社会を取り上げ、さまざまな角度から捉えることで歴史的側面から社会・文化の多様性を学ぶとともに、歴史研究のさまざまなアプローチの可能性についても考えていく。

Taking urban societies in Europe from the Middle Ages to Early Modern times as examples from various angles, we will study the diversity of societies and cultures from the historical perspective, and also consider the

possibilities of various approaches to historical research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（4月10日）
- 2回：都市へのアプローチ（4月17日）
- 3回：中世都市の成立（4月24日）
- 4回：中世都市の社会構造と同職組合（5月8日）
- 5回：市民の日常と家（5月15日）
- 6回：黒死病と危機の時代（5月22日）
- 7回：都市の衛生環境（5月29日）
- 8回：都市と大学、中世の医学（6月5日）
- 9回：医療家たち：理髪師と瀉血（6月12日）
- 10回：入浴文化と公衆浴場（6月19日）
- 11回：社会の周縁：「レプラ」（6月26日）
- 12回：社会の周縁：死刑執行人（7月3日）
- 13回：社会の周縁：助産婦と「魔女」（7月10日）
- 14回：まとめ（7月17日）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

世界史とヨーロッパの地理の概要については、あらかじめ確認しておくことを勧めたい。また、講義内で参考文献を示した場合は、適宜閲読して欲しい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回の課題:70% 期末レポート:30%

課題の提出が開講回数の2/3に達していなければ期末レポートは受け付けない。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

河原温 『中世ヨーロッパの都市世界』 山川出版社 1996 9784634342309

河原温 『都市の創造力（ヨーロッパの中世2）』 岩波書店 2009 9784000263245

その他 / Others

- ・学修のリズムを保つために、オンデマンドの配信後一定期間の内に課題を提出することが求められる。
- ・授業スケジュールは変更される可能性もある。諸々の変更点については CanvasLMS を通じて指示する。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

歴史への扉

Door to History

ジェンダーから見た日本近現代史

小野沢 あかね (ONOZAWA AKANE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA116
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本近現代史を女性史やジェンダーの視点から考察し、現代社会についての多面的な理解を深める。
Examine modern Japanese history from the perspective of women's history and gender, and deepen your multifaceted understanding of modern society.

授業の内容 / Course Contents

今日私たちが生きている社会では、男／女の区分にとらわれない、その人らしい多様な生き方を求める営みが発展しつつある。しかし、一昔前の社会では、人びとは好むと好まざるとにかかわらず、男／女のどちらかに区分され、どちらに区分されるかによって、生き方を大きく方向づけられ、制限されてきた。しかも男と女の間には明確な上下関係が存在しており、それは、家族や職場や学校、ひいては国家のあり方と深く関わっていたために、その区分を打ち破ることはとても困難だった。

本講義では、歴史上の人びとは男／女の区分によってどのように生き方を方向づけられ、制限されてきたのか、自分が女／男に区分されていることをどう認識してきたのか、その時代の「女らしさ」「男らしさ」を打ち破って自分らしく生きるためにどのような運動を展開してきたのか等について、日本の近現代史にそくして講

義する。

In the society we live in today, there is a growing trend towards people seeking diverse lifestyles that are unique to each person, without being bound by the distinctions of men and women. However, in society not so long ago, whether people liked it or not, people were categorized as male or female, and their way of life was largely determined and restricted depending on which category they were categorized into. Moreover, there was a clear hierarchical relationship between men and women, and this was deeply connected to the state of the family, workplace, school, and even the nation, so it was extremely difficult to break through this division.

In this lecture, we will discuss how people throughout history have been directed and restricted in their lives by the classification of men and women, and how they have recognized that they have been divided into women and men. Lectures will be given based on Japan's modern history about what kind of movements have been developed in order to break away from "femininity" and "masculinity" and live as oneself.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：近代国家とジェンダー:良妻賢母主義とつくられる男性性
- 3回：近代の様々な家族における女／男
- 4回：戦時体制・戦後改革とジェンダー
- 5回：高度経済成長とジェンダー①：性別役割分担家族の形成
- 6回：高度経済成長とジェンダー②：労働とジェンダー
- 7回：ウーマン・リブ：「女らしさ」を批判する①
- 8回：ウーマン・リブ：「女らしさ」を批判する②
- 9回：「企業社会」の性別役割分担への批判①
- 10回：「企業社会」の性別役割分担への批判②
- 11回：「男らしさ」批判①
- 12回：「男らしさ」批判②
- 13回：「男らしさ」批判③
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の中で紹介する参考文献のうち、自分が興味を持ったものを積極的に読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 鹿野政直 『現代日本女性史：フェミニズムを軸として』 有斐閣 2004 4641076804
 鹿野政直 『祖母・母・娘の時代』 岩波書店 1985 4005000967

藤原千紗・山田和代編 『労働再審3 女性と労働』 大月書店 2011 9784272301836

熊沢誠 『女性労働と企業社会』 岩波書店 2000 4004306949

天野正子ほか編 『新編日本のフェミニズム12 男性学』 岩波書店 2009 9784000281478

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

歴史への扉

Door to History

戦後日本社会の諸相/Aspects of postwar Japanese society

中村 陵 (NAKAMURA RYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA117
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

戦後の日本社会の実態を把握することで、今日の日本社会における多様な出来事の歴史的起源、およびその変容過程を理解するのみならず、現在の日本社会における諸問題について歴史的視点からの分析ができるようになる。

By grasping the actual situation of postwar Japanese society, you will not only understand the historical origins and transformation process of various events in Japanese society, but also analyze various problems in Japanese society from a historical perspective.

授業の内容 / Course Contents

戦後の日本社会は敗戦の復興から高度経済成長、バブル経済、そして平成不況と、目まぐるしい速度で変化し、現在も変化の只中にある。その過程でいつしか人々の記憶から忘却され、現代ではその痕跡すら残されていない出来事も多いのではないだろうか。本講義では戦争孤児や集団就職、昭和レトロブームなどの戦後日本社会で現れた諸現象の実態を、近年の研究成果に即して概説してゆく。

Postwar Japanese society has changed at a dizzying pace, from the recovery of the defeat to the high economic

growth, the bubble economy, and the Heisei depression, and it is still in the midst of change. In the process, it may be forgotten from people's memories, and there are many events that do not even leave a trace of it now. In this lecture, it will outline various matters that occurred in postwar Japanese society in line with recent research results, such as war orphans, mass employment, retro-trendiness of the Showa period, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：前提としての「近代」
(Orientation: 'Modernity' as a premise of postwar Japan)
- 2 回：終戦直後の社会①：闇市の出現と盛衰
(Society immediately after WWII vol.1: The black market, its appearance and vicissitude)
- 3 回：終戦直後の社会②：戦争孤児の出現
(Society immediately after WWII vol.2: Appearance of war-damaged orphans)
- 4 回：終戦直後の社会③：戦争孤児の諸相
(Society immediately after WWII vol.3: Aspects of war-damaged orphans)
- 5 回：高度経済成長期の社会①：集団就職の軌跡
(Society in high economic growth vol.1: Footprints of mass employment)
- 6 回：高度経済成長期の社会②：同郷者集団の結成
(Society in high economic growth vol.2: Formation of hometown group)
- 7 回：「在日」朝鮮人社会の変遷①：在日本朝鮮人連盟と朝鮮戦争
(Transition in society of 'Korean residents in Japan' vol.1: Federation of Korean residents in Japan and Korean War)
- 8 回：「在日」朝鮮人社会の変遷②：北朝鮮帰国事業と「在日」二世
(Transition in society of 'Korean residents in Japan' vol.2: Repatriation Program of DPRK and 2nd generation of Korean residents in Japan)
- 9 回：自民党の変容①：自民党結党から日本型多元主義政党へ
(Transformation of LDP vol.1: From the formation of LDP to pluralism party for Japanese-style)
- 10 回：自民党の変容②：リベラル派の隆盛から右傾化へ
(Transformation of LDP vol.2: From the rise of liberal wing to emphasis of right wing)
- 11 回：貧困の諸相①：敗戦期・復興期の貧困
(Aspects of poverty in postwar Japan vol.1: Poverty in the defeat and reconstruction period)
- 12 回：貧困の諸相②：高度経済成長期以降の貧困
(Aspects of poverty in postwar Japan vol.2: Poverty after high economic growth)
- 13 回：「昭和ノスタルジー」の諸相①：1970、1980 年代の昭和レトロブーム
(Aspects of 'Showa Nostalgia' vol.1: Retro-trendiness of the Showa period in '70s and '80s)
- 14 回：「昭和ノスタルジー」の諸相②：1990、2000 年代の「昭和ノスタルジー」ブーム
(Aspects of 'Showa Nostalgia' vol.2: Retro-trendiness of 'Showa Nostalgia' in '90s and 2000s)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワーポイント等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 1) 配布資料は Canvas LMS に投稿するので、授業当日までにダウンロードまたはプリントアウトして授業に臨むこと。
- 2) 授業内容の整理・把握にあたっては授業アーカイブを活用すること。
- 3) 新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネットなど、各種メディアで取り上げられるニュースに関心を持ってあたること。
- 4) 理解度を深めるため、毎授業で紹介する参考文献を読むことが望ましい。

1) Handouts will be posted in Canvas LMS. You will download or print

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 小レポート 2回(Short report in twice):50%

2/3 以上の出席をしていない場合（5 回以上欠席）、単位修得不可。

(If you don't attend more than two-third in the lecture (absence over 5 times), you'll not be able to earn the credit.)

テキスト / Textbooks

テキストは使用せず、Canvas LMS に配布資料を投稿する。

(In this lecture, it will use handouts posted in Canvas LMS instead of textbooks.)

参考文献 / Readings

参考文献は毎授業で適宜紹介する。

(References will be introduced as appropriate in every class.)

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

1) 中学・高校で学習する日本の戦後史の基本的な流れや知識を必要とする。2) 日本史に関連する講義を受講したことがない場合は日本近現代史に関する概説書（高校教科書・参考書など）にあらかじめ目を通しておくこと。

1) This lecture requires basic overview and knowledge of Japanese postwar history learned in junior high and high school.

2) If you have never taken a le

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

zoom アプリを用いたオンライン授業のため、初回授業までに zoom アプリを各種デバイスにインストールしておくこと。

(For online classes using the zoom app, you should install it on your devices before #1 of the class.)

その他 / Others

1) 配布資料、出欠席確認、zoom の ID・PW などは初回授業までに Canvas LMS に通知する。

2) 進捗状況によっては授業内容を変更する場合がある。

1) Information about handouts, attendance and ID/PW for zoom will be sent in Canvas LMS up to #1 of the class.

2) Class contents may change depending on the progress.

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

歴史への扉

Door to History

天皇制の現在・過去・未来

富永 望 (TOMINAGA NOZOMU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA118
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本の天皇制は独特であるとともに他国の王室と共通する面もある。その特異性と共通性に着目しながら、皇室の歴史を学んだうえで現在の象徴天皇制の実相を理解し、今後の天皇制の在り方について自分の考えを持つようになってもらいたい。

The Japanese emperor system is unique and has some aspects in common with the royal families of other countries. While paying attention to its uniqueness and commonality, studying its history, I would like students to understand the reality of the current symbolic emperor system and to develop their own ideas about how the emperor system should be in the future.

授業の内容 / Course Contents

天皇制について通史的に概観しながら、各時代における変容を理解する。その上で、現在の象徴天皇制がどのようにして成立したのかを認識し、各自の皇室論を作り上げる。

Understand the transformation in each era while overviewing the emperor system from a historical perspective. Moreover, students will recognize how the current symbolic emperor system was established and create their own

theories about the imperial family.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：皇室の日常：普段は何をしているの？—公務と行事
- 2回：古代の天皇1：神話から歴史へ—最初の天皇は誰か
- 3回：古代の天皇2：専制君主の時代—大王から天皇へ
- 4回：中世の天皇1：院政の時代—武士の登場
- 5回：中世の天皇2：院政の時代—武家政治と皇室
- 6回：近世の天皇：徳川の平和—権威のみの存在だったのか
- 7回：近現代の天皇1：明治天皇—近代化の先頭に立つ
- 8回：近現代の天皇2：明治天皇—立憲君主の役割
- 9回：近現代の天皇3：大正天皇—天皇とデモクラシー
- 10回：近現代の天皇4：戦前の昭和天皇—統帥権の暴走
- 11回：近現代の天皇5：戦中の昭和天皇—白馬にまたがった大元帥
- 12回：近現代の天皇6：戦後の昭和天皇—人間天皇への転身
- 13回：近現代の天皇7：平成の皇室—大衆天皇制のゆくえ
- 14回：これからの天皇制—我々は皇室に何を求めるか

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

下記参考文献をはじめとして、天皇制に関する概説書を読んでおくことが望ましい。また、皇室を題材にしたテレビのドキュメンタリー番組や皇室に関する新聞・テレビの報道についてもアンテナを張っておくことを期待する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への参加度:30%

毎回出席をとるので学生証を携帯すること。「学生証を忘れました」「学生証をなくしました」という弁明は認めない。授業への参加度の指標として CanvasLMS のディスカッションを活用する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 笠原英彦 『歴代天皇総覧 皇位はどう継承されたか 増補版』 中公新書 2021 9784121916174
 河西秀哉 『戦後史のなかの象徴天皇制』 吉田書店 2013 9784905497165
 大津透他 『天皇の歴史』全10巻 講談社学術文庫 2017～2018
 君塚直隆 『立憲君主制の現在 日本人は「象徴天皇」を維持できるか』 新潮選書 2018 9784106038235

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本史の基本的知識は持っていてほしい。なるべく最新の研究を紹介するつもりなので、高校の日本史の授業内容を理解していることが前提となる。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

地域研究への扉

Door to Area Studies

地域研究におけるフィールドワーク

山下 亜紀郎 (YAMASHITA AKIO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA119
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

地域研究にとって必須ともいえる現地調査（フィールドワーク）における、さまざまな調査法やそれらによって得られる成果について、地理学的な調査・研究に関する具体的な事例を通して学ぶ。

This course expects students to learn about various survey methods and the outcomes from them in fieldwork, which is essential for area studies, through specific research examples on geographical study.

授業の内容 / Course Contents

ブラジルにおける地域研究の事例について講義する。

日本と韓国における水環境問題に関する研究事例について講義する。

The contents of this course is research examples on regional geography in Brazil and water environmental issues in Japan and South Korea.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業内容についてのイントロダクション，講師の研究紹介

- 2回：ブラジル地域研究事例1：パンタナール湿原の自然環境と農業
 3回：ブラジル地域研究事例2：パンタナール湿原の観光開発と環境問題
 4回：ブラジル地域研究事例3：ノルデステの伝統的牧畜
 5回：ブラジル地域研究事例4：ノルデステの灌漑果樹農業
 6回：ブラジル地域研究事例5：ノルデステの日系社会
 7回：ブラジル地域研究事例6：アマゾンの日系農場の生業・生活
 8回：水環境問題の諸相，
 水環境問題研究事例1：豪雨による土砂災害のリスクと防災
 9回：水環境問題研究事例2：諏訪湖の環境変化と観光地としての変容
 10回：水環境問題研究事例3：東京の都市用水利用の歴史の変遷と現状
 11回：水環境問題研究事例4：金沢の都市内用水路と都市住民の生活との関わり
 12回：水環境問題研究事例5：都市の水辺景観の評価（金沢の用水路とソウルの清溪川）
 13回：水環境問題研究事例6：韓国公州市済民川の景観形成と地域活性化
 14回：地理学・地域研究におけるフィールドワークの方法論と成果（まとめ）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で紹介する参考文献の精読

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回授業終了時の小課題：60% 最終レポート割合：40% 最終テスト割合：0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 丸山浩明 『パンタナール』 海青社 2011 9784860992767
 斎藤 功ほか 『ノルデステ』 大明堂 1999 4470490318
 丸山浩明 『砂漠化と貧困の人間性』 古今書院 2000 4772240187
 山下亜紀郎 『水環境問題の地域的諸相』 古今書院 2015 9784772281157
 その他、授業内で紹介する。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

地域研究への扉

Door to Area Studies

地域の変容について学ぶ。 / Study of the transformation in various cities.

中台 由佳里 (NAKADAI YUKARI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA120
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） ゲストスピーカー登壇のため、オンラインで1回実施する（第10回の授業）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

地域を多角的な視点から読み解き、記述する方法を学ぶ。資料の選択、文献の探し方などを学び、総合してまとめる力を養う。

Students will study the method of understanding and describing about the regions with various angles. Students will find out their data and documents, then reach to integrate them.

授業の内容 / Course Contents

地域研究のための基礎的なアプローチの仕方、テーマ設定、データの収集方法などを学ぶ。地域研究のテーマに基づき、グループ内で分担して口頭発表を行う。今年度は、構成要素や時系列によってグループが設定される。テーマに沿って各自の分担部分を資料、文献などに基づきレポートにまとめる。

Students will find out the fundamental way to approach, to set up their theme and to collect data for regional studies. The group are set up by ingredients and timelines. Students will make their presentation and make up their reports as their assigned part in their theme to use data and documents.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス/ 地域を学ぶことの意義を考える。
- 2回：地域研究の方法－アプローチの仕方1
- 3回：地域研究の方法－アプローチの仕方2
- 4回：「地域研究の方法」事例紹介1
- 5回：「地域研究の方法」事例紹介2
- 6回：地域研究の実践1
- 7回：地域研究の実践2
- 8回：地域研究の実践3
- 9回：地域研究の実践4
- 10回：外部講師による講義
- 11回：地域研究の実践5
- 12回：地域研究の実践6
- 13回：「地域を活かす」方法を探る 1
- 14回：「地域を活かす」方法を探る 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・テーマに基づき口頭発表の準備を行う。
- ・質問とコメントから追加調査を行い担当範囲に修正を加える必要がある。
- ・奥多摩にて炭焼き体験実習 (5月25日) を行う。希望者のみ参加、参加人数の上限あり。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 口頭発表:40% 出席兼リアクションペーパー:30% 口頭発表のまとめレポート:30%

- ・発表者へのコメントは次回の講義時に、担当者にフィードバックを行う。
- ・リアクションペーパーへのフィードバックは、次回以降の授業内に講評を行う。

テキスト / Textbooks

資料を配布する。テキスト等は使用しない。

参考文献 / Readings

- 宮内 泰介、上田 昌文 『実践自分で調べる技術』 岩波書店 2020 9784004318538
- 梶田 真他編 『地域調査ことはじめ』 ナカニシヤ出版 2007 9784779501326
- 松本 康編 『都市社会学・入門 改訂版』 有斐閣アルマ 2022 9784641222076
- 葉袋 奈美子他 『生活の視点でとく都市計画 第2版』 彰国社 2023 9784395321995
- 岡本 耕平監修 『論文から学ぶ地域調査』 ナカニシヤ出版 2022 9784779516207

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- ・資料配布や課題提出のため「Canvas LMS」を使用する。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

多文化の世界

World of the Multiple Cultures

東南アジアの社会と教育

中田 有紀 (NAKATA YUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA122

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

東南アジアの国々は、多様な文化・文明の影響を受けながら、国家を形成してきたことをふまえ、個々の国における教育の営みの役割や課題を考察することを目的とする。

For Southeast Asian countries, we will aim to consider the role and issues of education in each country, taking into consideration the formation of the state under the influence of diverse cultures and civilizations.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、東南アジアの国々が、多様な文化や文明の影響を受けながら、国家を形成してきた経緯を学ぶとともに、教育の役割や課題を考えていく。

とくに、大国であるインドネシアの事例を主として取り上げ、どのように国内外の文化や文明の影響を受けながら、国家を形成し、国民の教育を行ってきたのか、他国との比較を通して考える。

In this course, students will learn the background to how Southeast Asian nations were formed under the influence of diverse cultures and civilizations and consider the role and issues of education.

In particular, we will focus on the case of Indonesia, which is a large country, and consider how it formed as a

nation and how it has educated its people while being influenced by domestic and foreign cultures and civilizations through comparison with other countries.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入：東南アジアを理解するために
- 2 回：近代以前の東南アジア 1
- 3 回：近代以前の東南アジア 2
- 4 回：東南アジアの植民地化 1
- 5 回：東南アジアの植民地化 2
- 6 回：植民地時代の教育 1
- 7 回：植民地時代の教育 2
- 8 回：国民国家の形成と言語
- 9 回：国民国家の形成と宗教
- 10 回：国民国家の形成と教育
- 11 回：東南アジアのイスラーム
- 12 回：東南アジアのイスラーム教育 1
- 13 回：東南アジアのイスラーム教育 2
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・東南アジア地域についての基本事項は事前に学んでおくこと。
- ・授業時に紹介する参考文献をよく読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

久志本裕子、野中葉 『東南アジアのイスラームを知るための 64 章』 明石書店 2023 9784750355245

増原綾子他 『はじめての東南アジア政治』 有斐閣 2018 9784641150584

その他の参考文献は、授業時に紹介する予定。

その他 / Others

- ・講義内容や授業計画の順番は、最近の動向や研究成果などをふまえて変更されることがある。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

多文化の世界

World of the Multiple Cultures

東京を考える

貞包 英之 (SADAKANE HIDEYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA123

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ・東京の歴史について知ることができる。
- ・東京の現在について知ることができる。
- ・東京に展開されている多様な文化について知ることができる。

Learn about the history of Tokyo.

Learn about Tokyo today.

To be able to learn about the various cultures that have developed in Tokyo.

授業の内容 / Course Contents

東京はいかなる街としてつくられているのか。その歴史と現在について、渋谷や池袋、原宿や大久保、秋葉原といったさまざまな街、盛り場に展開される文化を焦点に置き、社会的に考えることを目指す。主題となるのは、1970,80年代以降、東京という街ではいかなる夢が見られ、しかし押しつぶされてきたかである。

What kind of city is Tokyo? This course aims to think sociologically about the history and present of Tokyo, focusing on the culture that has developed in the various districts and entertainment areas of Shibuya, Ikebukuro,

Harajuku, Okubo, Akihabara, and so on. The theme of the class will be what kind of dreams have been seen and shattered in the city of Tokyo since the 1970s and 1980s.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：東京はいかなる街か？その拘束条件から考える。
- 2 回：東京を作り出す：佃島・豊洲（1）
- 3 回：東京を作り出す：佃島・豊洲（2）
- 4 回：東京にかけられた夢：原宿・渋谷（1）
- 5 回：東京にかけられた夢：原宿・渋谷（2）
- 6 回：東京にかけられた夢：原宿・渋谷（3）
- 7 回：サブカルチャーへの分解：秋葉原・池袋・新大久保・下北沢（1）
- 8 回：サブカルチャーへの分解：秋葉原・池袋・新大久保・下北沢（2）
- 9 回：サブカルチャーへの分解：秋葉原・池袋・新大久保・下北沢（3）
- 10 回：東京の周縁（1）
- 11 回：東京の周縁（2）
- 12 回：東京における異文化（1）
- 13 回：東京における異文化（2）
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定された参考文献を読む

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:60% 授業時テスト:40% 最終レポート割合 :0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

ヴァルター・ベンヤミン 『パサーージュ論』 岩波書店

貞包英之 『地方都市を考える』 花伝社 2015

他は各回指示。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

文化を生きる

Introduction to Anthropology

ニーチェ哲学とギリシア精神

青木 純一 (AOKI JUNICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA126
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

19 世紀の哲学者であるニーチェが、古代ギリシア文化をいかに受容・解釈し、さらにその解釈がニーチェ自身の哲学にどのような影響を与えたかを解説していく。この解説を通じて、異文化を学ぶということの意味を追求する。

We will decipher how Nietzsche, the 19th-century philosopher, accepted and interpreted ancient Greek culture, and how this interpretation influenced Nietzsche's own philosophy. We will pursue the meaning of learning different cultures through this act of deciphering.

授業の内容 / Course Contents

授業ではまず、ニーチェのギリシア精神の受容と解釈を『悲劇の誕生』を中心に解説する。その際に、「ディオニュソス的なもの」という概念の把握を主眼とする。次に、ニーチェの中心思想である永遠回帰について、その内容を主に『ツァラトゥストラ』を通じて解説していく。最後に、「ディオニュソス的なもの」という概念に由来する「強さのペシミズム」とニーチェにおける「ニヒリズム」の意味の連関を、『道徳の系譜学』第三論文の解説を通じて明らかにし、初期ニーチェが把握したギリシア精神の解釈が、後期のニーチェ哲学に影響を与

えた様相を分析する。

In the classes, first of all, we will decipher Nietzsche's acceptance and interpretation of the Greek spirit, focusing on "The Birth of Tragedy". At that time, we will focus on grasping the concept of "the Dionysian". Next, we will decipher the contents of Nietzsche's core idea, eternal return, mainly through "Zarathustra". Finally, we will clarify the relationship between "Pessimism of Strength", derived from the concept of "the Dionysian" and the meaning of Nietzsche's "Nihilism" through deciphering the third treatise in "On the Genealogy of Morality", and analyze the way in which Nietzsche's early interpretation of the Greek spirit influenced his later philosophy.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：「ディオニュソス的なもの」と「アポロ的なもの」 講義
- 3回：「ディオニュソス的なもの」と「アポロ的なもの」の相互関係 講義
- 4回：抒情詩と音楽 講義
- 5回：ギリシア悲劇作家アイスキュロス、ソフォクレスに対するニーチェの評価 講義
- 6回：エウリピデスとソクラテス 講義
- 7回：永遠回帰のインスピレーションと『悦ばしき知識』における永遠回帰思想の最初の伝達 講義
- 8回：『ツァラトゥストラ』第二部「ある予言者」における永遠回帰思想の伝達 講義
- 9回：『ツァラトゥストラ』第二部「救済」における永遠回帰思想の伝達 講義
- 10回：『ツァラトゥストラ』第三部「幻影と謎」における永遠回帰思想の伝達 講義
- 11回：『ツァラトゥストラ』第三部「回癒しつつある者」における永遠回帰思想の伝達 講義
- 12回：『道徳の系譜学』第三論文の解説1—『道徳の系譜学』の狙いについて 講義
- 13回：『道徳の系譜学』第三論文の解説2—禁欲主義的理想について 講義
- 14回：『道徳の系譜学』第三論文の解説3—ヨーロッパのニヒリズムについて 講義

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『悲劇の誕生』『ツァラトゥストラ』『道徳の系譜学』を読んでいくので、適時予習と復習をしておくこと。毎週授業資料のスライドを用意する。また随時プリントを配布する。授業後にダウンロードし、読んでおくこと。また、講義の期間中にアイスキュロス、ソフォクレス、エウリピデスの作品のうち、少なくとも1冊を読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への参加度：30% 中間レポート：30% 最終レポート割合：40%

授業内に行う中間レポートでは、参考文献に挙げる古代ギリシア悲劇の四つの作品の内の少なくとも一つを論じること。

テキスト / Textbooks

ニーチェ 『悲劇の誕生』 岩波文庫 1966年 4003363914 ○

ニーチェ 『ツァラトゥストラ』 中央公論新社 2018年 4122065933 ○

『悲劇の誕生』はできれば岩波文庫のものを入手して欲しい。『ツァラトゥストラ』はどの翻訳でもよいが、授業では中央公論社の文庫を用いる。『道德の系譜学』は無理して購入する必要はない。授業では主にちくま学芸文庫のものを使う（参考文献を参照）。

参考文献 / Readings

ニーチェ 『ニーチェ全集<11>善悪の彼岸 道德の系譜』 ちくま学芸文庫 1993年 4480080813

アイスキュロス 『縛られたプロメーテウス』 岩波文庫 1974年 4003210433

ソポクレス 『オイディプス王』 岩波文庫 1967年 4003210522

ソポクレス 『コロノスのオイディプス』 岩波文庫 1973年 4003210530

エウリーピデース 『バッカイーバッコスに憑かれた女たち』 岩波文庫 2013年 4003210638

ギリシア悲劇に関しては、『悲劇の誕生』に関連するものを挙げた。この中の少なくとも1篇を読んで、中間レポートを書いてもらう。

その他 / Others

Power Point を使用した講義形式で、映像資料や現物資料なども適宜活用する。

資料の配布、課題の提出などに「Canvas LMS」を使用する。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

文化を生きる

Introduction to Anthropology

多文化共生社会に生きる、一方で人類の普遍性とは？

宮下 克也 (MIYASHITA KATSUYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FA127
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面式
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、グローバル化が進む 21 世紀社会のなかで、他者と共生していくために必要な下記の視点を身につけることを目標とする。

1. 自文化中心主義的態度の見直しの視点
2. すべての文化には独自の意味体系があることを認めた上で、異文化を理解しようとする文化相対主義的視点
3. 文化相対主義を踏まえた上で、自分たちの伝統的な文化（身体化された知識や伝統的な技術を含む）を尊重する視点

In this course, the aim is for students to acquire the following perspectives necessary to coexist with others in 21st century society where globalization is advancing.

1. Revised perspective of the own-culture-centered attitude
2. A cultural relativistic perspective that seeks to understand different cultures, recognizing that every culture has its own semantic system

3. A perspective that respects one's own traditional culture (including embodied knowledge and traditional techniques) based on cultural relativism

授業の内容 / Course Contents

私たちは、自分の育った社会の文化的価値観を自然と身につけ、それを通して異文化を捉えてしまう。本講義では、こうした人間に潜む自文化中心的思考を自覚することから始まり、文化の多様性を見出し、そして最終的に自文化において「常識＝当たり前」とされていることを相対化し再検討することを目指す。グローバル化が進行し「異文化理解」の必要性が唱えられている現代社会だからこそ、「異文化を知り、自文化を相対化する」学問である文化人類学をぜひ学んで欲しい。

We naturally acquire the cultural values of the society we have grown up with and grasp different cultures through it. In this lecture, we will aim to start from becoming aware of such own-culture-centered thinking hidden in people, look at diverse cultures, and finally make relative and re-evaluate the fact that "common sense = normal behavior" in our own culture. In modern society where globalization is advancing and the need for "understanding different cultures" has been advocated, we would like students to learn cultural anthropology, which is the study of "knowing different cultures and making one's own culture relative."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：概説：講義全体のねらいと流れの概説
- 2 回：文化と文化相対主義：文化人類学の諸学説と基本理念を学ぶ。
- 3 回：共同性と逸脱：同じ文化の属する者たちのコミュニケーションと異文化コミュニケーションの違いを「お笑い／コント」から考える。
- 4 回：身体に刻まれる文化（暗黙知）：文化の中で身につけた言語化し得ない身体に刻まれた知識について考える。ダンス、職人社会の知識伝承。
- 5 回：家族・親族：世界の多様な家族形態を見聞した上で、現代日本の「家族」を再考する。
- 6 回：ジェンダー：「僕たち／私たち」は生まれながらにして「男／女」であるのか？それとも徐々に「男／女」になるのだろうか？
- 7 回：通過儀礼：人の一生において「子供」と「大人」の境界はどこなのか？大学生は「子供」なのか、それとも「大人」なのか？通過儀礼論を通して考える。
- 8 回：ケガレの構造：秩序・境界・認識をキーワードにして、差別や排除を考察する。
- 9 回：互酬性：贈る／もらう行為の意味は？贈与交換から人間関係や社会の仕組みを考える。
- 10 回：宗教と文化の混淆：人間生活と宗教との関係を考える。また、複数の宗教が混ざり合う事例を通して、ハイブリッドな文化を考える。
- 11 回：人類学の応用①：人類学の理論を通して現象を解釈してみる
- 12 回：異民族の共存：多様なエスニック・グループが存在する社会を事例に多文化共生を考える。
- 13 回：人類学の応用②：観光人類学、建築人類学、景観人類学などを通して「伝統」文化と現代の関係を考える。
- 14 回：文化の多様性と普遍性：まとめにかえて。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

シラバスをしっかりと読み、世界史と世界地理の高校レベルの基本事項を確認しておくこと。なお、詳細な予習事項は講義の際に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

出席率三分の二以下の者は一切評価しない。また、30分以上の遅刻者は入室禁止。講義形式の授業ではあるが、能動的態度で講義に臨んでもらうために、指名して意見を言ってもらえることもあるのでご了解いただきたい。

テキスト / Textbooks

教科書は用いず、レジュメを配布する。

参考文献 / Readings

綾部恒雄・桑山敬己編 『よくわかる文化人類学』 ミネルヴァ書房 2010 9784623056965

参考文献は毎回の講義時に紹介する。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

人権思想の根源

Root of Human Rights

人権をめぐる諸問題ー身体から政治までー

嶽本 新奈 (TAKEMOTO NIINA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FA128
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

人権思想についての歴史と知識を学び、現代社会における多様な不平等と差別の諸問題について自ら考える力を養う。

Students will learn the history and knowledge of human rights thought and develop the ability to think about the problems of diverse inequality and discrimination in modern society.

授業の内容 / Course Contents

「人権」は普遍的な概念とされるが、主に白人男性たちによって創案された成立当初は「女性の人権」が除外されていたことはとても有名な話である。本講義では、まず「人権」の歴史的経緯を把握したうえで、現代社会における具体的な諸問題を取り上げ、各問題と人権思想がどのように交差し、人権思想がいかなる展開をしてきたかを概観する。また本講義を通して、日常生活では見えにくい（とされる）社会的不平等や差別の問題について鋭敏な感覚と想像力を培う。

Although "human rights" is considered to be a universal concept, it is very famous that "human rights of women" were excluded at the beginning of the process, which was mainly invented by white men. In this course, after first

grasping the historical background of "human rights," we will take up specific problems in modern society, and give an overview of how each problem intersects with human rights and how human rights thought has developed. Through this course, students will develop a keen sense and imagination about the issues of social inequality and discrimination that are (said to be) difficult to see in everyday life.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：人権概念の歴史
- 2回：人権と女性の権利の展開（1）
- 3回：人権と女性の権利の展開（2）
- 4回：リプロダクティブ・ヘルス/ライツと自己決定権（1）
- 5回：リプロダクティブ・ヘルス/ライツと自己決定権（2）
- 6回：しょうがいと人権（1）
- 7回：しょうがいと人権（2）
- 8回：社会的マイノリティと人権（1）セクシュアル・「マイノリティ」について
- 9回：社会的マイノリティと人権（2）エスニック・「マイノリティ」について
- 10回：労働と人権（1）
- 11回：労働と人権（2）
- 12回：グローバリゼーションと人権（1）
- 13回：グローバリゼーションと人権（2）
- 14回：人権思想の可能性

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて授業時に準備学習について提示する。毎回、リアクションペーパーの提出を課す。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎授業時のリアクションペーパー:40% 第1回ミニレポート:30% 第2回ミニレポート:30%

締切を過ぎてのリアクションペーパーの提出は受け付けない。事情がある場合は担当教員に必ず連絡をすること。

テキスト / Textbooks

授業時にプリントを配布する。また、適宜、参考文献や時事的記事を紹介する。

参考文献 / Readings

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

人権思想の根源

Root of Human Rights

じぶんごととして、ジェンダー・セクシュアリティ平等の視点から〈教育〉と〈社会〉の「あたりまえ」を問
いなおそう

堀川 修平 (HORIKAWA SHUHEI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA129
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に
基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、人権について、とりわけ「性と人権」についての基本的な知識を身につけてもらうことを前提
として、皆さんが自分自身を縛るジェンダー・セクシュアリティ問題に気づき、課題意識をもって現代社会の
諸問題に向き合えるようになることを目標とします。

In this class, the aim is that students become aware of gender and sexuality issues that bind us all on the premise
of acquiring basic knowledge about human rights, especially "gender and human rights," and face issues in
contemporary society with problem-awareness.

授業の内容 / Course Contents

皆さんは、性に関わる「差別」など自分には関係のないもので、差別やジェンダー・セクシュアリティについ
て考える必要などないと考えていないでしょうか？現代社会におけるジェンダー・セクシュアリティ問題は
「不可視化」されている点にあり、これまで経験してきたであろう学校教育、社会教育、家庭教育などのさま
ざまな〈教育〉の場や日常生活のなかに存在しているのです。そして、それらの問題を「学び」ながら私たち

は育ってきています。この授業では、自分自身を縛るジェンダー・セクシュアリティ問題にまず気づき、その上で課題意識をもって〈社会〉の諸問題に向き合えるようになることを目標とします。

Do you think that you have nothing to do with gender, such as "discrimination," and you don't need to think about discrimination or gender and sexuality? Gender and sexuality issues in modern society are at the point of being "invisible," and exist in various "educational" places such as school education, social education, and family education, etc. that we have all experienced so far and in daily life. And we grow up while "learning" those problems. In this class, the aim is that students first become aware of gender and sexuality issues that bind us, and then face issues in "society" with problem-awareness.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：性教育とはなんだろう？（1）私たちは「性教育」を学んできたのか？
- 3回：性教育とはなんだろう？（2）「包括的性教育」と「純潔教育」の違いとは？
- 4回：グループディスカッション（1）どのような「性教育」を受けてきたのか？
- 5回：ジェンダーの視点・性の多様性の視点（1）機会の平等・結果の平等とジェンダー
- 6回：ジェンダーの視点・性の多様性の視点（2）「性の多様性」=LGBT??
- 7回：グループディスカッション（2）重なる属性・重なる差別
- 8回：噂とジェンダー・セクシュアリティ～「デマ」に抗する知識を身につけよう
- 9回：「特権」と「社会的マイノリティ」～「性的少数者」は適切な表現なのか？
- 10回：ジェンダーバッシング・包括的性教育バッシングの歴史に学ぶ（1）「バッシング」とは何か？
- 11回：ジェンダーバッシング・包括的性教育バッシングの歴史に学ぶ（2）バッシングを煽動するのは誰か？
- 12回：ジェンダーバッシング・包括的性教育バッシングの歴史に学ぶ（3）バッシングに抵抗するための知識を身につけよう
- 13回：グループディスカッション（3）わたしたちが、今、始められることとは？
- 14回：まとめ：「涓滴岩を穿つ」ために

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講にあたって準備は必要ありません。ただし、授業中に提示する学習課題および授業内容について、ノートづくりが必要です。また、授業で配布するレジュメや資料は「膨大」になりますので、各自ファイリングをするようにしましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業毎に書いてもらうコメントや感想内容：60% 最終レポート割合：40%

最終レポートに関しては、これまでの年度では、書籍の精読レポートや授業内容にかかわる学習イベントへの参加レポートなど（5000字程度）を課してまいりました。本年度に関しては、受講者の学習ニーズ、学習深度などを加味して、授業中終盤で提示する予定です。

テキスト / Textbooks

堀川修平 『気付く 立ちあがる 育てる—日本の性教育史におけるクィアペダゴジー』 エイデル研究所
2022 4871686809 ○

堀川修平 『「日本に性教育はなかった」と言う前に』 柏書房 2023 4760155295 -
テキストの入手方法ならびに、授業における利用方法に関しては、初回オリエンテーションでご説明しますのでそれを待って購入に移ってください。また、このテキストのほかに、授業内で適宜資料を配布しますので、紛失しないように気をつけましょう。

参考文献 / Readings

ベル・フックス 『フェミニズムはみんなのもの』 新水社 2003
高橋哲哉 『犠牲のシステム 福島・沖縄』 集英社 2012
伊田広行 『デートDV・ストーカー対策のネクストステージ：被害者支援／加害者対応のコツとポイント』
解放出版社 2015
好井裕明 『差別原論——〈わたし〉のなかの権力とつきあう』 平凡社 2007
パウロ・フレイレ 『被抑圧者の教育学—新訳』 亜紀書房 2011
渡辺大輔 『性の多様性ってなんだろう？(中学生の質問箱)』 平凡社 2018
その他、学習の手助けになる文献などは各授業で推薦いたします。

その他/ Others

この授業では「ジェンダー・セクシュアリティ平等の視点」を"社会におけるすべての人の〈性〉に関する抑圧の解放を目指すために、性の多様性を認め、性の差別や偏見から自由になること"と定義して、現代社会における「差別」問題について考えていきます。また、社会にすでに存在している差別に関する内容として、「暴力」や「生と死」に関わる内容を取り扱うことも前提としています。

その際、皆さんに「じぶんごと」としてこれらの問題を捉えてもらいたいと思います。ですので、「自説のみにこだわり、周りの人たちと対話するつもりのない方」

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

手話と人権を考える

Sign languages and human rights

ろう者学・手話学入門

佐伯 敦也 (SAIKI ATSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA130

授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）

授業形態（補足事項）【オンデマンド講義 配信スケジュール】

第1回 4月16日

第2回 4月23日

第3回 4月30日

第4回 5月7日

第5回 5月14日

第6回 5月21日

第7回 5月28日

第8回 6月4日

第9回 6月11日

第10回 6月18日

第11回 6月25日

第12回 7月2日

第13回 7月9日

第14回 7月16日

校地： 他

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ろう者、手話について知り、経験することを通して、共生社会を考えるための新たな視点を獲得する。

Through learning and experiencing deaf people and sign language, students will acquire new perspectives for thinking about symbiotic society.

授業の内容 / Course Contents

ろう者を言語・文化的少数者として、手話を自然言語として捉え、その仕組み、構造を具体的にみていく。またろう者・手話と社会の関わりについて、教育、法、人権などの側面から扱う。

We will consider deaf people as language and cultural minorities, sign language as natural language, and look at the mechanisms and structures specifically. We also deal with the relationships between deaf people, sign language and society from the aspects of education, law, and human rights, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション：ろう者とはどのような人々なのか、手話とはどのような言語なのかについて概観する。

2回：手話の成立：手話はいつごろ、どのようにして成立したのか海外の例も参考にしつつ学ぶ。

3回：言語の普遍性と手話：手話言語と音声言語の共通点、相違点について学ぶ。

4回：手話の文法1：手話とはどのような言語なのか、手話を構成する部位について学ぶ。

5回：手話の文法2：手話の文法にはどのような特徴があるのかを学ぶ。

6回：ろう文化：デフウェイ、ろう文化とよばれる事象について学ぶ。

7回：ろうコミュニティ：ろう者および関連する人々のネットワークについて学ぶ。

8回：ろう者の芸術：いわゆるデフアートについてその成立過程、取組みの内容、日本とアメリカの違いについて学ぶ。

9回：ろう者のエンターテインメント：ろう者によるエンターテインメントやパフォーマンスの実践に触れる。

10回：ろう者の歴史：ろう者と彼らを取り巻く社会の変容について学ぶ。

11回：ろう教育：ろう児に対する教育について学ぶ。

12回：法と人権：ろう者、手話に関わる法体制のあり方、人権について学ぶ。

13回：言語的少数者：音声言語の言語的マイノリティとろう者の共通する特徴、相違点について学ぶ。

14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

小テスト、レポート、最終テストを課す。レポートは授業の予習を兼ねる内容もある。テキストの指定はないが、参考文献で授業の内容を復習しつつ、深化することができる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト:30% レポート:40% 最終テスト割合 :30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

現代思想編集部 『ろう文化』 青土社 2000 479175803

パッデン、ハンフリーズ 『新版「ろう文化」案内』 明石書店 2016 9784750343365

木村晴美 『日本手話とろう文化』 生活書院 2007 4903690075

岡典栄、赤堀仁美 『日本手話のしくみ』 大修館書店 2011 4469222151

米川明彦 『手話ということば』 PHP 研究所 2002 4569619657

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

点字から考える人権

Braille as a Gateway to Human Rights

言語と人権

立花 明彦 (TACHIBANA AKEHIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FA131
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

点字を新たな「自分の文字」として習得するとともに、それを使用している人々（特に重度の視覚障害者）の生活実感を身近なものにする。

Students will learn braille as new "characters of mine" and become familiar with the lives of people who use them (especially people with severe visual impairment).

授業の内容 / Course Contents

点字は、人類共有の文字である。決して視覚障害者だけが「文字の代わりに」使用する記号ではない。しかし、残念なことに、これは現在一般的な共通認識となっているとは言えない。この事実が、今日点字の主たる使用者である視覚障害者が置かれている人権をめぐる状況を如実に物語っている。この授業では、点字を新たな「自分の文字」として習得するとともに、文字と人権、そして更に広く「人権とは何か」について深く考えたい。

Braille is a set of characters shared by all humans. It is not a set of symbols used only by visually impaired people "in place of letters." However, unfortunately, this cannot be said to be the common understanding at

present. This fact clearly illustrates the situation surrounding human rights where the blind are the main users of Braille today. In this class, we want students to learn Braille as new "characters of mine" and think deeply about characters and human rights, and more broadly about the question "What are human rights?"

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：イントロダクションー視覚障害者の位置づけと調査に見る実態
- 3回：点字小史ー文字としての市民権の広がり
- 4回：点字の成り立ちⅠーブライユの7行表と日本語点字（清音）
- 5回：点字の成り立ちⅡー日本語点字（濁音・半濁音・拗音）
- 6回：講義と実践1. 日本語点字の仮名遣い／視覚障害者と読書
- 7回：講義と実践2. 数字／人権保障と文字情報保障
- 8回：講義と実践3. 日本語における数字・英字・数詞の書き表し方／家庭にある点字
- 9回：講義と実践4. アルファベット／町の中の点字あれこれ
- 10回：講義と実践5. 分かち書きⅠ／デザインとしての点字
- 11回：講義と実践6. 分かち書きⅡ／点字以外の触覚情報
- 12回：講義と実践7. 点字名刺の作成等／IT時代の視覚障害者
- 13回：国連の「障害者の権利条約」および我が国の障害者基本法と障害者観の変遷
- 14回：まとめー視覚等障害者の生きづらさについてー人権とは何か？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への積極的参加度:30% テスト:40% 課題の達成度:30%

なお、単位修得のためには75%以上（3/4以上）の出席と最終授業時に行われるテストを受けることを必要とする。

テキスト / Textbooks

日本点字図書館 『点訳のしおり』 社会福祉法人 日本点字図書館 2019年 ○

立花明彦 『何かお手伝いしましょうか』 産学社 2014年 4782533462 ○

受講者は上記テキストの他に、日本点字図書館販売のN632点字器（1,150円）と点字用紙を購入すること。教科書販売会場では「点字セット」として販売している。

参考文献 / Readings

授業内で紹介する。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

アジアの文化とことば

Culture and Language in Asia

フィリピンの社会と言語

市川 誠 (ICHIKAWA MAKOTO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FA132
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

フィリピンの言語や文化の諸側面を学ぶことを通じてアジアへの理解を深める。

Students will enhance their comprehension through the study of diverse facets of the Philippine language and culture.

授業の内容 / Course Contents

フィリピンの言語状況やさまざまな文化のあり方には、かつての植民地支配下でのキリスト教布教や学校教育普及から、最近の移民や海外出稼ぎまで、幅広い出来事が関係している。これらを取り上げることでフィリピン社会の固有性と普遍性を考察する。また出稼ぎの結果でもある日本国内のフィリピン人コミュニティについても取り上げる。

Various facets of Philippine culture and language have been shaped by spectrum of factors spanning from Christianization and the establishment of public education during historical colonization to contemporary phenomena like emigration and overseas labor. By delving into these themes, students will appreciate the unique characteristics and shared traits within Philippine society. Additionally, the lectures will discuss the Filipino

community in Japan, stemming from Filipino emigration.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：宗教をめぐって(1)
- 3 回：宗教をめぐって(2)
- 4 回：宗教をめぐって(3)
- 5 回：教育をめぐって(1)
- 6 回：教育をめぐって(2)
- 7 回：教育をめぐって(3)
- 8 回：移民・出稼ぎをめぐって(1)
- 9 回：移民・出稼ぎをめぐって(2)
- 10 回：移民・出稼ぎをめぐって(3)
- 11 回：日本のなかのコミュニティ(1)
- 12 回：日本のなかのコミュニティ(3)
- 13 回：日本のなかのコミュニティ(3)
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜、事前に教材を Canvas LMS で配付する予定。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

講義内容や計画の順番は最近の動向や研究成果などをふまえ必要に応じ変更されることがある。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

ヨーロッパの文化とことば

Culture and Language in Europe

「ことば」をめぐるヨーロッパ思想の諸相

若松 功一郎 (WAKAMATSU KOICHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA133
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 「ことば」という一見単純な概念が、思想・宗教・芸術など、様々な文化を生み出していることを理解する。
- ヨーロッパ文化の基底にあるものとして「ことば」を捉え直してみる。
- To understand that the seemingly simple concept of "words" gives rise to various cultures such as philosophy, religion, and art.
- To reconsidering "words" as the basis of European culture.

授業の内容 / Course Contents

「ことば」とはなんですか？現代の私たちは例えば、コミュニケーションの手段として、あるいは自己を表現する手段として言語を捉えています。しかしヨーロッパの思想において、「ことば」は伝統的に、単なる意思疎通や思考の道具以上の深い役割を与えられてきました。本講義では、思想・宗教・文学といった多様なテクストを通じて、ヨーロッパ文化に現れた「ことば」が持つ多様な意義に触れていきます。初期キリスト教における「ことば」観を出発点として、中世ドイツ語で語られた神秘主義、近代のロマン主義や観念論、現代哲学に至るまで、ヨーロッパ精神史を貫いて流れる「ことば」をめぐる思索を一緒に紐解いてみましょう。

What are "words"? For example, today we see language as a means of communication and self-expression. However, in European thought, "word" has traditionally been given a deeper role as a tool for communication and thinking. This lecture will deal with the diverse nature of "word" that appeared in European cultural history through various texts such as thought, religion, and literature. Let's learn about European ways of thinking about "word", such as early Christian spirituality, medieval German mysticism, modern romanticism and idealism, and Heidegger's philosophy.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入：はじめに「ことば」があったーヨーロッパの文化と「ことば」
- 2回：古代キリスト教における「ことば」①：イデア (idea) としてのロゴス (logos)
- 3回：古代キリスト教における「ことば」②：神の子としてのロゴス (logos)
- 4回：古代キリスト教における「ことば」③：ロゴス (logos) をつうじた救済
- 5回：中世キリスト教における「ことば」①：古代ドイツ語から中世ドイツ語へ
- 6回：中世キリスト教における「ことば」②：マイスター・エックハルトの説教
- 7回：中世キリスト教における「ことば」③：魂の内における御言葉の誕生
- 8回：初期近代キリスト教における「ことば」：ヤーコプ・ベームと「原言語」
- 9回：ノヴァーリスが夢見た「ことば」：目覚めるために夜へ
- 10回：シュリングにおける「ことば」：沈黙する哲学
- 11回：ホルヘ・ルイス・ボルヘスの「ことば」：宇宙の最小構成単位としての文字
- 12回：ハイデガーにおける「ことば」：存在を開示する言語
- 13回：トラークルの詩作における「ことば」：詩は死をどう扱うか
- 14回：まとめ：「ことば」が文化を生み出す

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

前週に配布する資料をもとに、文献等を用いて下調べを行なってください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :58%

平常点割合 :42% 各回提出のリアクションペーパー (3点満点×14回) :42%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

思想・宗教・芸術等、ヨーロッパ文化への興味があれば、特別な能力は必要ありません。

その他 / Others

『聖書』(新共同訳)を読み、キリスト教の世界観に親しんでおくとよいでしょう。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

ラテンアメリカの文化とことば

Culture and Language in Latin America

グローバル化時代の人種と民族を考える

金澤 直也 (KANAZAWA NAOYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA134

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ラテンアメリカの人種差別の歴史をつうじて、日本の人種差別を考える。

Thinking about racism in Japan through the history of racism in Latin America.

授業の内容 / Course Contents

最初に、ラテンアメリカの人種差別の歴史を学んだあと、日本にあてはめて講義します。

毎回、出欠を兼ねて授業についてコメントを提出してもらいます。

次の授業で、前回の授業の復習のためにコメントを紹介します。

授業の最後に、印象に残った受講者のコメントについてコメントを書いて提出してもらい、次の授業で紹介します。このようにして、学生同士の意見交換をおこない、議論を発展させていきます。

First, after learning about the history of racism in Latin America, we will apply it to Japan in the lectures.

You need to present a comment paper in every lecture. I show your comment papers in next class for a revision of the previous lesson and for a discussion between the students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：なぜラテンアメリカの人種や民族なのか？－人種と民族の基礎知識
- 2回：アメリカとラテンアメリカの人種のちがい－一滴血統主義と混血思想
- 3回：混血の功罪1－混血すれば人種差別はなくなるか？
- 4回：混血の功罪2－「白い黒人」は黒人か？
- 5回：何が差別か？1－階級の問題か人種の問題か？
- 6回：何が差別か？2－差別かユーモアか？
- 7回：何が差別か？3－不満か格差か？
- 8回：黒人運動1－奴隷にならなかった黒人「逃亡奴隷」（植民地時代）
- 9回：黒人運動2－黒人からアフリカ系子孫へ（現代）
- 10回：黒人運動3－国際機関のやくわり
- 11回：日本の人種1－戦前、日本人は混血だった
- 12回：日本の人種2－戦後、混血から単一民族へ
- 13回：日本の人種差別1－アイヌは先住民か？
- 14回：日本の人種差別2－沖縄基地問題は人種差別か？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

レポート作成の準備も兼ねて、講義で紹介する参考文献を自発的に読み、常に予習・復習にはげんでください。とくに、授業の冒頭で説明するほかの受講者のコメントを読んで、自分の考えを相対化していきましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%
 平常点割合 :30% 出席兼コメントペーパーの内容:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

フランク・タネンバウム 『アメリカ圏の黒人奴隷－比較文化史的試み』 彩流社 1980
 エドワード・E・テルズ 『ブラジルの人種的不平等－多人種国家における偏見と差別の構造』 明石書店
 2011 9784750333410
 川島浩平、竹沢泰子編 『人種神話を解体する3－「血」の政治学を越えて』 東京大学出版会 2016
 9784130541435

その他 / Others

映像資料

- 第1回ユネスコ世界無形文化遺産「流転の民を支えたリズム－カリブ・ガリフナ文化」（2003年／日本）
- 第2回「ハーフ」（2013年／日本）
- 第3－5回「ジンガ」（2005年／ブラジル）
- 第6回「世界の小さな国－南北アメリカ」（2007年／日本）
- 第7－10回「Bus 174」（2002年／ブラジル）

第11回－14回「汚れた心」（2011年／ブラジル）

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

中東の文化とことば

Culture and Language in the Middle East

アラビア語から見る社会

小野 仁美 (ONO HITOMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA136

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- アラビア語の社会的機能と歴史的役割について基本的な知識を身につける。
- アラビア語を通じて中東の諸文化を学ぶことの重要性と面白さを知る。

The course aims to acquire a basic knowledge of the Arabic language's social functions and historical role. It also seeks to understand the importance and fascination of learning about Middle Eastern cultures through Arabic.

授業の内容 / Course Contents

アラビア語は、中東の国々で使用される諸言語のなかで主要なものの一つである。また、世界に広がるイスラーム教にとって最も重要な言語である。そこでこの講義では、アラビア語およびイスラーム教に関わる諸文化を通じて、中東社会の歴史と現在を学ぶ。アラビア語の初歩的な知識（文字や単語）も併せて紹介する。映像資料や音声資料も適宜活用する。

Arabic is one of the major languages used in the countries of the Middle East. It is also the most essential language in Islamic cultures, which have spread worldwide. In this course, students will learn about the history and present state of Middle Eastern societies through the Arabic language and various cultures related to Islam. It

also provides elementary knowledge of the Arabic language (letters and words). Video and audio materials will be accordingly used.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：中東のさまざまな言語
- 2回：アッバース朝におけるイスラーム文化の発展
- 3回：アラブの天文学：アストロラーベ
- 4回：イスラーム教とアラビア語（1）：聖典クルアーン
- 5回：イスラーム教とアラビア語（2）：預言者ムハンマドの伝承
- 6回：アラビア書道の世界
- 7回：アラビア文字を書いてみよう
- 8回：アラブの音楽：ウードの魅力
- 9回：アラブの古い街並み（チュニスの旧市街）
- 10回：映像で学ぶアラビア語の世界（1）
- 11回：アラブ人の名前の由来
- 12回：アラビア語とジェンダー（1）：イスラーム法学
- 13回：アラビア語とジェンダー（2）：クルアーンの再解釈
- 14回：映像で学ぶアラビア語の世界（2）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、配布資料や参考文献を読んでもらう。

復習としては、参考文献を再度読み、理解を深めてほしい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% コメントシート:40% 授業参加態度:10%

テキスト / Textbooks

テキストはとくに指定しない。毎回、レジュメおよび資料を配布する。

参考文献 / Readings

松本弘 『現代アラブを知るための56章』 明石書店 2013 9784750338446

アルモーメン・アブドラー 『読める書けるアラビア文字練習プリント』 小学館 2006 4098376520

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

イタリアの文化とことば

Culture and Language in Italy

ルネサンス文化を学ぶ

深田 麻里亜 (FUKADA MARIA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA138
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

14～16 世紀に著されたイタリア文芸作品の単語やフレーズを手がかりに、イタリア語、ルネサンス文化に関する知識を深める。また、過去の文章に着想を得て制作された美術作品の代表作をとりあげ、ことばとイメージの関係について考察する。

We will use the words and phrases of Italian literary works written in the 14th and 16th centuries as clues to deepen students' knowledge of Italian Renaissance culture. In addition, we will take representative art works inspired by past texts and consider the relationships between words and images.

授業の内容 / Course Contents

講義の前半では、イタリアの歴史の概要を確認しつつ、14～16 世紀のイタリア語の文章（テキスト）を取り上げる。文法や単語の意味を確認した上で、歴史的・文化的背景を学び、内容および時代精神について理解を深める。講義の後半では、ことばと視覚芸術が結びついた例として、古代のテキストを参照に制作されたルネサンス時代の美術作品をとりあげる。

In the first half of the course, we will take up Italian texts from the 14th to 16th centuries, confirming the outline

of Italian history. After confirming the grammar and the meaning of the words, students will learn the historical and cultural background and deepen their understanding of the content and the spirit of the period. In the second half of the course, as an example of the combination of language and visual art, we will take up a work of Renaissance era art created with reference to ancient texts.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：イタリア半島の歴史と文化（1）
- 3回：イタリア半島の歴史と文化（2）
- 4回：イタリア半島の歴史と文化（3）
- 5回：ダンテ（1）
- 6回：ダンテ（2）
- 7回：ボッカッチョ
- 8回：アルベルティ
- 9回：ヴァザーリ
- 10回：美術とテキスト（1）
- 11回：美術とテキスト（2）
- 12回：美術とテキスト（3）
- 13回：美術とテキスト（4）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関連資料を Canvas LMS に適宜アップロードするので、予習・復習の際に確認すること。
 西欧の歴史や文化について、参考文献等を参照に基礎的な事柄を学習しておくことが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 毎授業時のリアクションペーパーの提出およびその精度:50%

2/3以上の出席をしていない場合、成績評価対象外となる。遅刻は3回で欠席1回に換算する。

テキスト / Textbooks

関連テキストは配布資料に掲載する。

参考文献 / Readings

- 藤内哲也 編著 『はじめて学ぶイタリアの歴史と文化』 ミネルヴァ書房 2016 9784623072675
 池上俊一 監修 『原典イタリア・ルネサンス芸術論』 名古屋大学出版会 2021 9784815810269
 ボッカッチョ 『デカメロン』、平川祐弘訳 河出書房新社 2012 9784309206042
 ダンテ 『神曲 地獄篇』、原基晶訳 講談社学術文庫 2014 9784062922425
 ヴァザーリ 『美術家列伝』、森田義之ほか監修、全6巻 中央公論美術出版 2014-2022 9784805516010
 和田忠彦 編 『イタリア文化 55のキーワード』 ミネルヴァ書房 2015 9784623072682

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

イタリア語の知識の有無は問わない。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

ドイツ語圏の文化

Culture in the German-speaking sphere

歴史とともに、ドイツ語圏を歩く

梅田 紅子 (UMEDA BENIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA139
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ドイツと日本はどこが違うのか、現代のドイツが形づくられた理由は何なのか、ドイツ語圏の文化とその歴史的背景を学び、ドイツ文化に関する基礎的な知識の習得と多角的な理解を目指す。

We will take up the culture and its historical background of the German-speaking area and aim for the students to acquire basic knowledge and understanding of the culture of the region from multiple perspectives.

授業の内容 / Course Contents

ドイツ語圏の都市にかかわる特徴的な文化と生活をテーマとし、歴史的・精神的背景に照らしてその特質を分析する。また、記憶の文化におけるドイツと日本の違いを、具体的な事例を参考にしながら検証し、ドイツ的な物の見方とそれが近隣諸国との関係に与えている影響を考察する。

Our theme will be characteristic cultural events and lives related to multiple cities in German-speaking countries, and we will analyze and discuss the characteristics in the light of historical and mental history backgrounds. We will also view the differences between Germany and Japan in terms of memory culture and their impact on relations with neighboring countries.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション ドイツ語圏の町、人々
- 2回：ドイツの食べ物 ビールとパン
- 3回：動物 犬とドイツ人
- 4回：ドイツ語圏の音楽
- 5回：カフェ・キャバレー文化
- 6回：メルヘン・グリム童話・絵本
- 7回：ドイツの憲法・教育
- 8回：過去の克服 いろいろな記念碑
- 9回：徴兵制の変遷 兵役拒否とキリスト教
- 10回：ドイツ人と環境保護
- 11回：移民政策と文化の多様化
- 12回：ドイツの祭り クリスマスとカーニバル
- 13回：ドイツ人の働き方・休暇
- 14回：総まとめ 自国の文化とドイツ文化の相違点

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

テキストで該当する章をあらかじめ読み、テーマに関する基礎的な知識を持つておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度と複数回の提出物:65% 最終レポート割合 :35%

テキスト / Textbooks

新野守広・飯田道子・梅田紅子編著 『知ってほしい国 ドイツ』 高文研 2017 9784874986332 ○

参考文献 / Readings

熊谷徹 『ドイツは過去とどう向き合ってきたか』 高文研 2007 9784874983782

その他 / Others

ドイツ語に関する知識の有無は成績評価に無関係である。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

フランス語圏の文化

Culture in the French-speaking sphere

古典主義時代を中心に大革命までのフランス文化の諸相に幅広く触れる

大磯 仁志 (OOISO HITOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA140

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

フランス文化の諸相を、それぞれの時代思潮や社会背景をふまえて検討・分析しながら理解し、いわゆるフランスらしさと同時にまたその多様性を考察する。

We will understand the various aspects of French culture while examining and analyzing it based on each period's ideas and social background, and consider the country's so-called "France's uniqueness" as well as its diversity.

授業の内容 / Course Contents

文化を人間のあらゆる知の実践ととらえ、文芸や造形芸術「作品」だけではなく、宗教や政治まで幅広く考察の対象とします。配布する資料プリントのほかにもさまざまな画像・映像資料を利用しながら、「理性」「自然」をキー・ワードとして、大革命にいたるまでのフランス文化の変遷に多角的に迫っていきます。

この講義をとおして、我々の生活している日本という環境、あるいは諸君が慣れ親しんでいるであろうアメリカ文化とは異なる、フランスのもっている独自の文化や社会の形の意義を考える機会ができることを希望します。

We will regard culture as the practice of all human knowledge, and cover not only literary arts and "artworks," but also religion and politics in a wide range of subjects. Using various image and video materials as well as distributed print-outs, with "reason" and "nature" as the keywords, we will follow the transition of French culture up to the Revolution from diverse perspectives.

Through this course, we hope that students will have the opportunity to think about the significance of France's unique culture and social form, which is different from the environment of Japan where we live, or the American culture students must be familiar with.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：風土から見るフランス
- 2 回：キリスト教と基層文化
- 3 回：キリスト教の伸展
- 4 回：異教・異端・魔女狩り
- 5 回：宗教戦争とブルボン朝の成立
- 6 回：王権神授
- 7 回：宮廷と儀礼
- 8 回：ルネサンスの精神
- 9 回：整形庭園の美学
- 10 回：バロックと古典主義
- 11 回：啓蒙の精神
- 12 回：崇高の美学
- 13 回：革命の予兆
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業向けに配布される資料には、事前に目を通すこと。

資料には入手しやすい文庫本や新書を中心に該当テーマの文献を複数冊あげるのので、興味関心に応じて参考にしてください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎授業で提出を課すリアクションペーパー:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

大磯仁志 『倫理・哲学の特別講義』 学習研究社 2009 13 9784053029966

その他 / Others

リアクションペーパーの提出は Canvas LMS を利用します (締め切りは授業の翌日)。

フィードバックとして、個々人へあるいは次回の授業冒頭で、こちらからコメントをします。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

スペイン語圏の文化

Culture in the Spanish-speaking sphere

スペイン・ラテンアメリカ美術史

豊田 唯 (TOYODA YUI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA141

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

スペイン・ラテンアメリカ美術史の流れのおおまかな把握

To acquire a perspective on the history of Spain and Latin American art

授業の内容 / Course Contents

スペイン・ラテンアメリカ美術の代表的な作家と作品について講義します。

Lectures on representative artists and art works of Spain and Latin America

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

2 回：西洋絵画の見方——レオナルド・ダ・ヴィンチの「自然の美」

3 回：西洋絵画の見方——ミケランジェロとラファエロの「観念の美」

4 回：エル・グレコ《無原罪のお宿り》——美の暴走

5 回：ベラスケス《無原罪のお宿り》——「盛らない」自撮りはバロックか

6 回：ムリーリョ《小鳥のいる聖家族》——カトリックの美術観

- 7回：バルデス・レアル《束の間の命》——死は愛を伝える
 8回：ラテンアメリカ美術——バロックの極限
 9回：まとめ
 10回：ゴヤ《1808年5月3日》——未来が通る
 11回：ダリ《記憶の固執》——美術とは何か
 12回：ラテンアメリカ美術——メキシコ壁画運動
 13回：スペインの古代・中世美術とラテンアメリカの古代美術
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 予習：事前配布資料に目を通してきてください
 復習：テキストの関連箇所を読み、授業内容を補完してください
 そのほか：さまざまな美術館や博物館に出かけ、西洋美術に限らずに実際の作品を観てみてください

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :100%
 平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

大高保二郎（監） 『スペイン美術史入門——積層する美と歴史の物語』 NHK 出版 2018 4140912510
 ○

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

1. いわゆる「アート」に興味・関心のある方の受講を前提としています（予備知識は求めません）
2. 一般的によく知られているイタリア・ルネサンスの三巨匠から話を起こし、そこからスペイン・ラテンアメリカ美術を通史的にたどっていきます（地理・世界史の知識も一般常識レベルで構いません）
3. スペイン美術を中心に講義し、適宜、同時代のラテンアメリカ美術にも言及します

その他 / Others

受講者の興味・関心に応じて授業計画は多少変更されえます。リアクションペーパーの提出を歓迎します（自発性を保つため、あえて成績評価の対象には組みこみません）。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び
 2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び
 全学共通カリキュラム／主題別 A

中国語圏の文化

Culture in the Chinese-speaking sphere

近現代上海の都市文化史

森平 崇文 (MORIDAIRA TAKAFUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA142

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

租界のあった時代の上海を政治史、経済史、文化史、交流史などの視点から多面的に理解することを通じ、中国の 20 世紀史と都市研究の意義について理解を深める。

By understanding Shanghai at the time of the concession from the perspective of political history, economic history, cultural history, communication history and other perspectives, we can deepen our understanding of the significance of China's 20th century history and urban research.

授業の内容 / Course Contents

租界のあった時代の上海は、中国一の国際都市、商業都市、文化都市であった。講義では上海の近代都市としての魅力を、繁華街だけでなく、路地裏や工場地帯、郊外の住宅街や文教施設、上海における東西交流、日本における上海表象などミクロな視点と、北京など他の中国の都市との比較などマクロな視点からそれぞれ紹介する。

Shanghai in the concession era is China's first international city, commercial city and cultural city. In the lecture, the charm of Shanghai as a modern city is introduced not only from the main streets, but also from the micro-

views such as the alleys and factory areas, the residential streets and cultural and educational facilities in the suburbs, the east-west exchanges in Shanghai, the image of Shanghai in Japan, and from the macro-view such as the comparison with other Chinese cities such as Beijing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス、上海と日本、「魔都」上海
- 2 回：上海概観：徐光啓から毛沢東まで
- 3 回：上海の東南西北：租界と華界
- 4 回：上海を造った人々：職業とインフラを中心に
- 5 回：上海における日中文化交流：岸田吟香、内山完造
- 6 回：虹口：上海の日本人街
- 7 回：日本人の上海表象：大正、昭和前期を中心に
- 8 回：移民から見た上海：広東人、寧波人、蘇北人
- 9 回：アジールとしての上海：ロシア人、ユダヤ人、共産党員
- 10 回：商業都市としての上海：南京路を中心に
- 11 回：文化都市としての上海：映画産業を中心に
- 12 回：戦時下の上海
- 13 回：租界の消滅と計画経済下の上海
- 14 回：「魔都」の復活：21 世紀以降の上海と都市イメージ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各回の事前、事後学習として、テキストの関連箇所を読み、WEB で情報を入手するなどして積極的に理解を深めてもらいたい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内での複数回の課題の提出:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

陳祖恩 『上海 記憶の散歩』 勁草書房 2023 9784326200634 ○

参考文献 / Readings

木之内誠 『上海歴史ガイドマップ 増補改訂版』 大修館書店 2011 9784469232660

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

ポイントとなるキーワードや資料には中国語が使用されるが、中国語の既習を前提としない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

課題及び最終レポートは CanvasLMS から提出

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

朝鮮語圏の文化

Culture in the Korean-speaking sphere

映画を通じて知る朝鮮半島の文化

石坂 浩一 (ISHIZAKA KOICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FA143
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（すべて）
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

映画を通じて韓国の歴史、文化について、広く親しむことを目標とする。日本でしばしばみられる誤解や偏見に陥らないよう、先行研究に基づきつつ、認識の幅を広げていく。現代韓国の映画を教材とすることで、文化とそれにつながる産業的課題についても考察するとともに、日本との比較を意識して韓国文化の個性を理解できるようにしたい。

The goal is to become familiar with Korean history and culture through movies. In order to avoid falling into the misunderstandings and prejudices that are often seen in Japan, we will broaden our understanding while building on previous research. By using contemporary Korean films as teaching materials, we hope to help students consider culture and the industrial issues connected to it, while also being able to understand the uniqueness of Korean culture by making comparisons with Japan.

授業の内容 / Course Contents

韓国映画を素材として、韓国文化をさまざまな視点から紹介する。歴史劇から現代的なラブストーリーまで、広く取り上げてみたい。また、どのような作品に関心が集まり、日本とどのような差があるかも意識して考察

したい。授業ごとに数編の作品を部分的に紹介していく。ただし、短編映画については全体を視聴し、ミニレポートの素材とする。

Using Korean movies as material, we will introduce Korean culture from various perspectives. I would like to cover a wide range of topics, from historical dramas to modern love stories. I would also like to consider what kind of works attract interest and what differences there are between Japan and Japan. Several works will be partially introduced in each class. However, short films will be viewed in their entirety and used as material for a mini report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：韓国映画 何がヒットしているか／歴代のヒット作品とその傾向／近年のヒット作とその傾向
- 2回：韓国映画 現代史と社会に関わる作品／民主化と映画／大作志向の作品作り
- 3回：冷戦克服をめざす韓国映画 検閲の時代の韓国映画／反共映画からの転換点としての〈シュリ〉／〈宝くじの不時着〉に見る変化と南北関係
- 4回：歴史映画から読み取れること 節目ごとに映画化された作品／歴史研究により深まる朝鮮王朝の諸相／近代史の作品／現代社会を移す歴史劇
- 5回：韓国映画を支える独立映画 独立映画とは何か／独立映画の始まりと弾圧／国際的に知られる韓国の独立映画／短編映画を見る①
- 6回：マンガ・アニメーションとウェブトゥーン 韓国マンガ産業の流れ／ウェブトゥーンの始まり／映画・ドラマの原作としてのウェブトゥーン／短編映画を見る②
- 7回：韓国ラブストーリーの変遷 韓国映画第一次全盛期のメロドラマ／韓国映画の衰退／日本映画の影響／21世紀におけるラブストーリーの再生／多様な作品
- 8回：韓国映画とジェンダー
- 9回：韓国映画のグローバル展開と国際性 日韓映画の関心・協力のなかった時代／日韓W杯共催と日韓協力の活発化／中国における韓国文化への関心喚起／合作・リメイクの模索／米国での韓国映画人の活躍
- 10回：韓国首都圏とジェントリフィケーション 貧しい人びとの集住したソウル中心街／1970年代とカンナムの開発／アパートの建て替えと再開発
- 11回：解放後の韓国映画と表現の自由の制約 映画界における分断と才能の離散／家父長的家族映画の人気／映画統制政策とテレビ受像機の広がり／韓国映画の停滞期
- 12回：民主化の進展と韓国映画の第2の高揚 1970年代民主化運動の始まり／光州闘争／1990年代の韓国社会の変化と生活水準の向上／韓国映画の再起
- 13回：韓国映画の未来ーコロナ禍と映画／配信ドラマ台頭の意味するもの／それでも映画は生き残るか
- 14回：まとめ 朝鮮半島についてより広く知っていくために

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献に指定した『現代韓国を知るための61章【第3版】』は授業で扱う内容に合わせて読んでおくことが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内に指示した提出物:40%

テキスト / Textbooks

授業時にプリントを配布する。

参考文献 / Readings

石坂浩一・福島みのり編 『現代韓国を知るための61章』 明石書店 2024 9784750340821

趙景達 『植民地朝鮮と日本』 岩波書店 2013 9784004314639

趙景達 『近代朝鮮と日本』 岩波書店 2012

鄭琮樺 『韓国映画100年史』 明石書店 2017

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

朝鮮語を学んだ経験があることが望ましい。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

教育学への扉

Door to Education

平和教育の歴史と実践

小園 崇明 (KOZONO TAKAAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA144
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

第二次世界大戦後の平和教育を参照しながら、世界の平和学の理論や日本の社会科教育の歴史、現代の社会科教育の実践について学ぶ。これらを通して教育学に関する基礎知識や理論、課題についてを身につける。また、現代社会の諸問題に対して教育学の観点から理解・検討するための方法や視点を身につける。

While referring to peace education after World War II, students will learn about the theory of peace studies around the world, the history of social studies education in Japan, and the practice of modern social studies education. Through these activities, students acquire basic knowledge, theories, and issues related to pedagogy. In addition, students will acquire methods and perspectives for understanding and considering various issues in modern society from an pedagogical perspective.

授業の内容 / Course Contents

講義を通して第二次世界大戦の歴史やそこからはじまった戦後の平和教育について、世界の平和学の理論や日本の学校教育、博物館教育の現場の実践から学んでもらう。また、校外学習として実際に平和博物館の見学をし、それをふまえて学生が考えた平和教育を発表してもらおう。

Through lectures, students will learn about the history of World War II and the postwar peace education that began from it, from world peace studies theories and on-site practices in Japanese school education and museum education. In addition, students will actually tour the Peace Museum as an off-campus study and have students present their ideas for peace education based on that experience.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：平和教育の歴史の概要
- 2 回：教育とは何か
- 3 回：大正時代の聴覚障害者教育の歴史
- 4 回：第二次世界大戦
- 5 回：戦争体験の継承
- 6 回：平和学と日本の社会科教育
- 7 回：戦後の平和教育の課題と実践
- 8 回：現在の平和教育の実践
- 9 回：博物館の平和教育
- 10 回：博物館見学
- 11 回：平和教育の発表（1）
- 12 回：平和教育の発表（2）
- 13 回：平和教育の発表（3）
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：事前に配布した資料を読んでおくこと。また、それに関連する事柄についてインターネットや書籍等から調べ、自分なりの意見をもって講義に臨むこと。

復習：授業中に配布した資料やレジュメをよく読みながら、事前に考えていた自分の意見を発展させること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内の課題（小レポート及び発表）:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

小藺 崇明・渡辺 哲郎・和田 悠 子どもとつくる平和の教室 はるか書房 2019 9784434256325

その他の参考文献は授業中に適宜提示する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

子どもの権利から考える国際協力

Understanding International Development through Children's Rights

子どもの権利から考える国際協力/～SDGsを起点として～/Understanding International Development through Children's Rights/～Starting from SDGs～

川口 真実/福原 真澄 (KAWAGUCHI MAMI/ FUKUHARA MASUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA145
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2103
使用言語： その他
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この講義では、持続可能な開発目標（SDGs）について、子どもの権利に基づく活動事例を通して考えます。講義を通し、各目標および目標同士の関係性への理解を深め、国内外の課題解決に必要な多角的な視野を得ることを目指します。

This course aims at providing students with the following.

- Opportunity to examine Sustainable Development Goals (SDGs) through case studies of projects based on the children's rights
- Critical understanding of SDGs and the relationship among each goal
- Multilateral perspective to address global issues

授業の内容 / Course Contents

この講義では、国際 NGO セーブ・ザ・チルドレンの現場で活動する職員やその協力団体の職員をゲストスピーカーとし、さまざまな国際課題への視座を養います。授業では、グループワークやディスカッションを行う

ため、参加者の積極的な参加が求められます。

This course provides students with many aspects of global issues by inviting staff members of Save the Children and partner organizations as guest speakers. Students are expected to actively participate in group work and discussion during the classes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション：

授業の目的と進め方（福原、川口）

2回：SDGs（持続可能な開発目標）の概要とユースが果たす役割：

SDGs4（質の高い教育をみんなに）の課題解決に向けた取り組みを事例に（川口、福原）

3回：SDGs4（質の高い教育をみんなに）

紛争の影響を受ける地域への教育支援とは（福原、川口）

4回：SDGsと人権、子どもの権利

子どもの権利の概要とアドボカシーの意義（川口、福原）

5回：SDGs1（貧困をなくそう）

国内での子どもの貧困問題解決に向けた取り組み（セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン国内事業担当）

6回：SDGs2（飢餓をゼロに）

SDGs3（すべての人に健康と福祉を）

SDGs5（ジェンダー平等を実現しよう）

子どもの保健・栄養課題の解決に向けた支援活動について（セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン海外事業担当）

7回：グループワーク：これまでの振り返りと議論（福原、川口）

8回：SDGs11（住み続けられるまちづくりを）

国内での子どもの防災に関連する取り組み（セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン国内事業担当）

9回：SDGs13（気候変動に具体的な対策を）

グローバルな課題とそれらに対する日本国内の取り組み（セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンアドボカシー担当）

10回：SDGs16（平和と公正をすべての人に）

紛争や暴力から子どもたちを保護する海外支援について（セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン海外事業担当）

11回：SDGs17（パートナーシップで目標を達成しよう）

SDGsを達成するための企業・政府機関との連携（セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン法人連携担当）

12回：グループワーク：

これまでの講義を受けた考えたこと、取り組みたいと考えること（福原、川口）

13回：グループ発表：

各チームからの発表（福原、川口）

14回：総括：

各チームの発表に対する総括やコメント（福原、川口）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

グループ発表に向け、グループごとにディスカッションや資料の準備をすることが求められます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー（各授業後に実施）:20% ショートペーパー①:15% ショートペーパー②:15% 授業への積極的な参加:20% グループ発表:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

SDGsの基礎的な内容に関するサイト（UN）

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

こどものケンリ ウェブサイト（SCJ）

<https://www.savechildren.or.jp/oyakonamikata/kodomo-no-kenri/learning-kit/>

その他、各回と関連する参考文献は、授業のなかで紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

授業中に共有される投影資料や参考資料には英語の資料も含まれるため、一定程度の英語能力が必要です。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布、授業中の課題の提出などに「Canvas LMS」を使用するので、授業にパソコンやタブレットを持参してください。

その他 / Others

セーブ・ザ・チルドレン ウェブサイト

<https://www.savechildren.or.jp/>

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

現代社会における言葉の持つ意味

The role of words in contemporary society

人間だけに言葉はなぜ生まれたのか？言葉を軸にして原子釈迦仏教・脳科学・高度情報化社会の話へと星が星座になるように1つにつながっていく。

古舘 伊知郎 (FURUTACHI ICHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA150
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

まず自分の常識や既成概念というものを疑ってみる。この現象世界を疑ってみる。世界を認識する脳の働きを疑ってみる。我々の生存本能と欲望を原子釈迦仏教世界を通して疑ってみる。これからのデータ至上主義社会を疑ってみる。全ては言葉で。

First, we try to examine what we call “common sense” and “stereotypes”, the world we live, and our brain activity that recognizes the world. Through the lens of the primitive Buddhism of Buddha, we try to see our survival instinct and desire as they are. We try to explore a different perspective toward what we call “data supremacism society”, all in words.

授業の内容 / Course Contents

- ・言葉の始まり
- ・人間の言葉はどこから来たか？
- ・言葉のすたれ方（言葉も死ぬ＝死語）

- ・原始釈迦仏教とは？（どうして言葉を入り口にすると釈迦の覚りにつながるのか？）
- ・現代脳科学と原子釈迦仏教はすでに合流している
- ・資本主義宗教を信じる現代人が強化すべきこと
- ・「自分の推し」と宗教心の根っこは同じ
- ・AIに自分を盗みとられないために釈迦哲学から学ぶべきこと…etc

※シラバスと実際の授業は異なる場合があります。（日々の報道内容の影響を受けます）

- ・ The beginning of words
- ・ Where do words come from? What is the origin of human languages?
- ・ The way words go out of style (“死語”, obsolete words)
- ・ What is the primitive Buddhism of Buddha?
(Why do words lead to awakening of the Buddha?)
- ・ Contemporary brain science and the primitive Buddhism of Buddha have already joined together.
- ・ What we “modern people” living with the religion of capitalism has to focus on.
- ・ The similarities between the concept of “推し” (a star that you are actively supporting) and religious spirit.
- ・ What we should learn from philosophy of the Buddha in danger of being taken over by AI…etc.

※There are cases when the content of the class could be different from the syllabus depending on the daily news.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：言葉はいつ生まれた？何で人間は高度な言葉を編んだのか？
- 2回：言葉の効能と限界。なぜ言葉は誤解の元になるのか？
- 3回：喋り言葉のコミュニケーションの本質と日本人の喋り言葉の持つ気持ち良さの源流。
- 4回：言葉の劣化（政治家の言葉は民間に伝播する）
- 5回：言葉は本当は実在しない。虚構である。その意味で貨幣、国家、会社などと同じである。
人間は虚構（物語）を生きる、生き物である。
- 6回：それを2500年前に言葉を用いて解いたのが釈迦。
- 7回：原始釈迦仏教は日本には一切入ってきていない事実。
まず、釈迦が覚ったこの世界の真理とは何か？（学生が聴いたら「えっ、何それ！」と感じるはず）
- 8回：仏教と脳科学は融合する。「2500年の時間を超えて」
(意識と無意識を我々は誤解して生きている)
- 9回：釈迦の説いた真理は人の苦しみを解放する。
- 10回：地球温暖化を取材して感じたこと。
(スイスロヌ氷河が溶けるのも我々の脳と言葉の仕業だったのを知ってましたか?)
- 11回：SDGsの限界。環境破壊の根本には我々の欲の深さがある。そこで釈迦仏教のアンゲルがこれからは必要。
- 12回：AIは我々の脳の外部化。AIと人間のすみ分けをはっきりする必要性について。
- 13回：データが神様となった時代。人間にとってDNA、言葉に続く第3の情報革命がビッグデータ至上主義の到来。
- 14回：喜びと困難さが待ち受けている学生へー本当のチルアウトとは？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : ○ スライド (パワポ等) の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 : ○

個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定	:			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、授業内容をまとめ、気になった問題やわからなかった言葉等を調べて、翌週の授業に臨んでください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

授業への参加度も成績評価に影響いたします。

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項**

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

立教ゼミナール 1

Seminars for Students of Rikkyo University 1

笑いと感情の人類学・フォークロア

橋本 栄莉 (HASHIMOTO ERI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA171
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2140
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目的は、笑いと感情をテーマとし、これらの人間の情動がどのように文化的・歴史的に構築されてきたのかを探求し、具体的な事例とともに議論することである。本授業では、特に文化人類学やフォークロアにおける笑いや感情に関する文献と映像資料を手掛かりとしながら議論を進める。

The purpose of this class is to explore the theme of laughter and emotion and how these human emotions have been culturally and historically constructed, and to discuss them with specific case studies. The discussion in this class will be guided by the literature and visual materials on laughter and emotion, especially in cultural anthropology and folklore.

授業の内容 / Course Contents

本授業の前半では、指定のテキストに対して担当者の学生がレジメを作成・発表し、その後全員で議論を行う。後半では、個人またはグループで笑いや感情と関わる特定のテーマのもとに研究発表を行う。

In the first half of this class, the student in charge will prepare and present a resume in response to a designated text, followed by a discussion among all students. In the second half of the class, students will individually or in

groups present their research on a specific topic related to laughter and emotion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション、発表担当者決め
- 2回：テキスト輪読と議論（1）
- 3回：テキスト輪読と議論（2）
- 4回：テキスト輪読と議論（3）
- 5回：テキスト輪読と議論（4）
- 6回：映像鑑賞と議論（1）
- 7回：映像鑑賞と議論（2）
- 8回：学生による研究発表（1）
- 9回：学生による研究発表（2）
- 10回：学生による研究発表（3）
- 11回：学生による研究発表（4）
- 12回：学生による研究発表（5）
- 13回：学生による研究発表（6）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

（授業前半）レジュメ担当者は発表資料を用意する必要があります。担当者以外にも、授業日までに指定のテキストを読んで議論できる準備をしておきます。

（授業後半）発表日までに個人またはグループで研究発表を行う準備をします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表準備・発表内容:50% 議論への貢献度:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

畑中章宏 『感情の民俗学 泣くことと笑うことの正体を求めて』 イースト・プレス 2023

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

・本授業は文化人類学・フォークロア初学者を対象にしていますので基礎的な部分から説明しますが、必要に応じて自主学習を行ってもらいます。

・受講生は必ずしも「お笑い」に詳しくある必要はありません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

・研究発表のために必要な PC をはじめとするデバイス

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

立教ゼミナール 1

Seminars for Students of Rikkyo University 1

アメリカ文学の名作短編小説を読む

古井 義昭 (FURUI YOSHIAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA172
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2140
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

アメリカ文学の精読を通じ、インプット（英文読解能力）とアウトプット（読んで考えたことを文章で表現する力）、二つの能力の向上を目指す。

This course aims to improve students' English input (reading comprehension) and output (writing ability) through intensive reading of American literature.

授業の内容 / Course Contents

アメリカ文学の名作短編を原語でじっくりと味読する。短いものに関しては1作品につき1週間、長いものに関しては1作品に2、3週間かけて読んでいく。原語で読む授業であるから、丹念に辞書を引いて読む作業は欠かせない。

本演習で取り上げる作品はどれも「名作」の地位を不動にしているものばかりであるが、そもそも何が短編小説を「名作」たらしめるのだろうか？ 普遍的な名作など、存在しうるのだろうか？ 過去の先人が「名作」という評価をくださったからといって、我々はその評価を額面通りに受け取っていいのだろうか。このような一連の問いを念頭に、本演習では小説を味読するだけでなく、受講生各自の価値観における「名作」の条

件を言語化することも目指す。

本演習を受講するにあたって、アメリカやアメリカ文学に関する事前の知識は必要ない。辞書を引きながら英語で小説を読むという手間を惜しまない学生に受講を勧める。週に10ページほどのペースで短編を読み進めていく。

なお、以下の授業計画に記された作品はあくまで予定であり、受講生の興味関心、授業の進捗によって変更がありえることをお断りしておく。

We will read carefully the best short stories of American literature. Each short story will be read for one week, and each longer story will be read for two or three weeks. Since we will be reading in English, it will be essential to carefully consult a dictionary as you read each text.

The works we will be discussing in this class are all "masterpieces," but what is it that makes a short story a "masterpiece" in the first place? Is there such a thing as a universal masterpiece? Just because our predecessors in the past have given short stories the status of "masterpieces," can we accept their evaluation at face value? With these questions in mind, this seminar aims not only to read stories, but also to verbalize the conditions of a "masterpiece" according to each student's own sense of values.

No prior knowledge of American literature is necessary to take this class. Students who are willing to go through the trouble of reading short stories in English are encouraged to take this class. Students will read short stories at a rate of about 10 pages per week.

Please note that the works listed below are tentative and may change depending on the interests of the students and the progress of the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Edgar Allan Poe, "The Black Cat"
- 3回：Herman Melville, "Bartleby" (1)
- 4回：Herman Melville, "Bartleby" (2)
- 5回：Herman Melville, "Bartleby" (3)
- 6回：Edith Wharton, "Roman Fever"
- 7回：Jack London, "To Build a Fire"
- 8回：F. Scott Fitzgerald, "Babylon Revisited" (1)
- 9回：F. Scott Fitzgerald, "Babylon Revisited" (2)
- 10回：Flannery O'Connor, "A Good Man Is Hard To Find"
- 11回：Tim O'Brien, "On the Rainy River"
- 12回：Raymond Carver, "Cathedral"
- 13回：レポート作成講座
- 14回：学期まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

*学生主体のディスカッションが授業の中心となるので、毎回の授業準備を怠らないこと。積極的に発言する姿勢が求められる。

*英語のテキストを読むので、辞書を丹念に引きながら原文テキストを読むなど、英語の学習に対して忍耐強く、積極的な姿勢が求められる。

*毎週 500 字程度のレスポンスペーパーの提出を義務付ける。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎週のレスポンス・ペーパー:30% 発表、ディスカッションへの貢献度:30%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

すべてプリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業内で適宜指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

個人発表・毎週のレスポンスペーパー執筆など、個人の主体性を重視する。クラス全体のディスカッションを行うが、ベースとなるのは受講生個々人が何を考えているかになるので、一人でじっくりものを考えたい学生に向いている授業となる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

電子辞書を除く電子機器の使用を控えること（PC、タブレット、スマートフォンなど）。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

立教ゼミナール 1

Seminars for Students of Rikkyo University 1

西洋中世装飾写本への招待

加藤 磨珠枝 (KATO MASUE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA173
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2140
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

立教大学は、聖書と英語を学ぶための私塾を前身とするキリスト教主義学校（ミッション・スクール）である。その建学の精神をより深く理解するため、この授業では、西洋中世キリスト教世界でつくられた聖書を中心に、当時の写本美術の魅力についてともに考える。さらに授業で得た学問的興味を、自発的に深化させる技術、研究態度を身につける。

Rikkyo University is a Christian school (mission school) whose predecessor was a private school for the study of the Bible and English. In order to gain a deeper understanding of the founding spirit of the school, this class will focus on the Bible as it was created in the Western medieval Christian world, and together we will consider the fascination of manuscript art of the time. Furthermore, students will acquire the skills and research attitude to spontaneously deepen their academic interests acquired in class.

授業の内容 / Course Contents

授業では、数回ごとに一つの写本に注目し、その来歴、芸術表現について解説を行い、文字、文様、挿絵の3つの要素が聖書の物語をどのように輝かせ、人々の理解を促したのかを当時の社会背景も含めて学ぶ。また、

本学図書館所蔵の中世写本ファクシミリを実際に鑑賞する機会を設けて、モノとしての写本理解を深める。こうした授業前半の経験を生かして、授業後半では各自担当の写本を選び、それぞれ研究発表・討論を行い、知識と自発的な研究姿勢の深化をはかる。とりあげる写本については一部変更の可能性もある。

The class will focus on a single manuscript every few sessions, explaining its history and artistic expression, and studying how the three elements of text, design and illustration brightened the biblical story and promoted people's understanding of it, including the social background of the time. Students will also have the opportunity to view facsimiles of medieval manuscripts in the university library to deepen their understanding of manuscripts as objects. In the second half of the course, each student will select a manuscript of his or her own choice, and deepen his or her knowledge by presenting and discussing their own research. The manuscripts to be discussed are subject to change.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：西洋世界における書物の歴史（巻物から冊子本へ）
- 2 回：『ウィーン創世記』講義
- 3 回：『ウィーン創世記』ファクシミリ鑑賞・討論
- 4 回：『聖アウグスティヌスの福音書』講義
- 5 回：『聖アウグスティヌスの福音書』ファクシミリ鑑賞・討論
- 6 回：『ケルズの書』講義
- 7 回：『ケルズの書』ファクシミリ鑑賞・討論
- 8 回：『ベアトゥス黙示録注解書』講義
- 9 回：『ベアトゥス黙示録注解書』ファクシミリ鑑賞・討論
- 10 回：研究発表1
- 11 回：研究発表2
- 12 回：研究発表3
- 13 回：研究発表4
- 14 回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:		学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:			:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

西洋中世の写本について基礎知識を得るために、下記に挙げた参考文献をできるだけ多く読んでおくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究発表:40% 授業への参加・貢献度:30% 最終レポート割合 : :30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

クリストファー・デ・ハーメル 『世界で最も美しい12の写本』 青土社 2018年 9784791770922

クリストファー・ド・ハメル 『聖書の歴史図鑑』 東洋書林 2004年 4887216386

クラウディア・ブリンカー・フォン・デア・ハイデ 『写本の文化誌:ヨーロッパ中世の文学とメディア』 白水

社 2017年 9784560095591

クリストファー・デ・ハメル 『中世の写本ができるまで』 白水社 2021 9784560098455

ベルンハルト・ビショップ 『西洋写本学』 岩波書店 2015 4000610651

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

西洋中世写本に対する関心

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

コンピューター、パワーポイント

その他/ Others

授業内の活動また進め方については担当者の指示に従うこと。

授業ではディスカッションを行うことがあるので積極的に参加できることが必要。

授業の内容は受講者の状況などによって変更される場合がある。

課題の提出に際しては Master of Writing を参照のこと。

ITを使用するが、使用法が分からない場合やトラブルは各自の責任でメディアセンターに確認すること。

当然のことであるがコピー（授業ノートを含む）や剽窃には厳しく対応する。

■アカデミック・スキルズ「剽窃について」赤江 雄一（慶應義塾大学文学部） h

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

立教ゼミナール発展編 1

Seminars for Senior Students of Rikkyo University 1

囲碁で養う考える力

兆 乾 (CHO CHEN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA174

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP3140

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本の伝統文化として伝承されてきた囲碁の世界や歴史を学ぶと共に、対局を通して総合的な能力や創造性を養う。

Students will learn about the world and history of Go, which has been handed down as a traditional Japanese culture, and cultivate comprehensive abilities and creativity through the game.

授業の内容 / Course Contents

6 路盤、9 路盤では囲碁のルールを学ぶ。

19 路盤では模範碁を繰り返し並べながら技術を修得する。

また、囲碁の歴史や、世界的に広まり国際化している囲碁やその魅力について学ぶ。

Students will learn the rules of Go by 6x6 and 9x9 boards.

Students will learn the techniques by studying the model positions repeatedly on a 19x19 board.

Also, students will learn about the history of Go, the global and internationalized Go, and its attractiveness.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（授業進行の説明、囲碁の世界の紹介）
 ルールの解説①（6路盤）
- 2回：ルールの解説②と対局（6路盤）
- 3回：ルールの復習及び初歩技術①（9路盤模範碁の解説）
 9路盤対局
- 4回：ルールの復習及び初歩技術②（9路盤模範碁の解説）
 9路盤対局
- 5回：実践対局、又は
 9路盤指導対局
- 6回：囲碁の歴史
 9路盤対局
- 7回：模範碁の解説と対局①（19路盤での終局の判断と整地の仕方）
- 8回：模範碁の解説と対局②（19路盤模範碁の解説と実践対局）
 囲碁の歴史
- 9回：模範碁の解説と対局③（19路盤模範碁の解説と実践対局）
- 10回：9子局の解説・連碁（対局）
- 11回：模範碁の解説と対局④（19路盤模範碁の解説と実践対局）
- 12回：テスト
 実践対局
- 13回：模範碁の解説と対局⑤（19路盤模範碁の解説と実践対局）
- 14回：イベント対局、又は実践対局
 講義のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前にテキスト『東大教養囲碁講座』の該当項目を読んでおくこと。
 その他授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業態度および毎授業時のコメントペーパーの内容:70% テスト:30%

テキスト / Textbooks

石倉昇 梅沢由香里 黒瀧正憲 兵頭俊夫 『東大教養囲碁講座』 光文社 2007 9784334034108 -

参考文献 / Readings

『実践囲碁総合演習』

その他 / Others

基本的には講義形式で打ち方の解説をした後、受講生同士対局を行う予定である。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

睡眠文化論

Sleep and Culture

舩谷 鋭／鍛治 恵 (MASUTANI SATOSHI/ KAJI MEGUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FA183
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	ミックス型授業実施科目（詳細は下記「その他」欄参照）

授業の目標 / Course Objectives

人間の基本的活動である睡眠を、自然科学の視点からだけでなく、文化の視点から考えることを目的とする。This course aims to address the basic human function of sleep from the viewpoints of natural sciences and culture.

授業の内容 / Course Contents

睡眠は、これまで人間の基本的な欲求に基づく行動であるとされ、もっぱら自然科学の領域において研究が行われてきた。しかし近年の研究では、これまで考えられてきた以上に睡眠には文化的要因が重要であることが指摘され始めている。この授業では、文学、文化人類学や社会学、比較文明論など様々な視点から、睡眠を文化的側面から考えることを目的とする。睡眠のしくみの基礎的な理解から始まり、睡眠の歴史的・地理的変異、現代の睡眠環境、寝具のこだわり、夢の民族誌、文学に見る眠りなどのテーマを扱う予定である。

Although sleep has been considered a biological function, and research has been conducted exclusively in the field of natural sciences, studies have begun pointing out that cultural factors are more vital for sleep than previously thought. This course aims to think about sleep from a cultural perspective including literature, anthropology, sociology, and comparative civilization theory viewpoints. Beginning with a basic understanding of

the mechanics of sleep, we will deal with themes such as historical and geographical variations in sleep, modern sleep environments, bedding preferences, dream ethnography, and sleep in literature.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：睡眠のしくみ 1
- 2 回：睡眠のしくみ 2
- 3 回：日本人と睡眠
- 4 回：寝不足時の認知機能
- 5 回：避難所環境と睡眠
- 6 回：快適睡眠のための寝具
- 7 回：日本の枕の変遷と枕の文化誌
- 8 回：夢の認知心理学
- 9 回：極北での眠り
- 10 回：チンパンジーの眠り
- 11 回：夢の民族誌
- 12 回：睡眠科学最前線
- 13 回：日本の寝室の歴史
- 14 回：日本文学における夢の表象

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業支援システムなどで示される各回キーワードを参考に教科書などで予習し、ゲスト講義、教員コメントを聞いた後の講義中の質問を高く評価する。授業後はゲストへの応答としてのリアペを授業支援システム掲示板へ、原則として1週間以内に投稿する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 複数回のリアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

高田公理ほか編 『睡眠文化を学ぶ人のために』 世界思想社 2008 479071330 ○

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

大教室やオンラインからのミックス参加であっても、積極的に質問や議論に加わろうとする、主体的な学びの姿勢を持てる

その他 / Others

本科目は対面 (全回対面) とオンライン (全回オンライン) を同時開講するミックス型授業として実施します。

対面・オンラインどちらの形態で受講するかについては、予め履修登録時点で選択のうえ、その希望に応じた科目コードで履修登録してください。一度選択した授業形態以外での参加は認められません。

本科目は対面で受講する科目ですので、オンラインで参加した場合は、欠席とみなされます。オンラインでの履修を希望する場合はFA082を参照のこと。

なお、授業内で授業方法に関する調査等へ協力をお願いすることがあります。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

ボランティア論

Volunteer Studies

～転換期を迎えた社会で求められること～

結城 俊哉 (YUKI TOSHIYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA185
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2110
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

漠然としたボランティアのイメージを、いくつかの事例を通じて、具体的なイメージとして理解できるようにします。またボランティアを考えることを通して、自分と社会の接点を意識できるようにし、社会問題を自分の頭で考えられるようになり、実際の行動へとつなげられるようにします。そして、ボランティア経験を自分の言葉で発信し、自分のキャリア形成を考えることができますようにします。

This course will make students understand the vague image of a volunteer as a specific image through several examples. Also, by thinking about volunteering, students will become aware of the points of contact between themselves and society, and will become able to think about social problems with their own mind and connect this to actual actions. Then, students will express volunteer experiences in their own words and become able to think about their career development.

授業の内容 / Course Contents

2020 年から世界を新型コロナ感染症問題によりコミュニティにおける対人関係の変化が余儀なくされている。今回、コロナ禍の中で多くの市民が「共に生きることができる社会」を目指す新しい価値や活動が求められて

います。授業では、ボランティア活動について、ボランティアを提供する側だけでなく、サポートを受ける側の気持ちも汲み取りながら、日常的な活動だけでなく、災害や海外での支援、企業の社会貢献活動等の様々な切り口から、現場で活躍されている方々のメッセージも交えて多面的に検討し、社会に潜む諸問題に対して自分自身の視点から能動的にとらえられる学生へと成長できるようにします。

Since 2020, the issue of new coronavirus infections(COVID-19) has forced changes in interpersonal relationships in the community. This time, new values and activities are required to aim for a "society where many citizens can live together" in the Corona disaster. Students will consider volunteering from various aspects, including messages from people active in the field, from various viewpoints such as disasters, overseas support, and social contribution activities of companies as well as daily activities, not only from the party providing the volunteers but also the feelings of those receiving support, and will develop the ability to actively capture social issues from their own perspectives.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：ボランティアの歴史と諸概念
- 3 回：ボランティアを取り巻く社会
- 4 回：立教大生が取り組んでいるボランティア活動～ボランティア活動の紹介～
- 5 回：地域と社会が連動した取り組み
- 6 回：一步踏み出す。世界、広がる－「気持ちの良い人間関係」をもたらすワークキャンプの視点
- 7 回：災害ボランティアとして～今、私たちにできることは？～
- 8 回：地域における学習支援ボランティアの取り組み
- 9 回：ボランティア体験を「言葉」にする方法と意義
- 10 回：障害者当事者として地域支援の発想と社会を変える力
- 11 回：企業が取り組む社会貢献活動－NPO と企業の連携
- 12 回：立教大学在学中に取り組んだボランティアとその後のキャリア
- 13 回：コミュニティで支援するボラティアに求められること
＝精神障害当事者支援の現場から考える＝
- 14 回：ソーシャルデザイン～アイデアが世界を変える～（授業のまとめと振り返り）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本授業は、多くの様々な立場のゲスト講師で構成される授業である。したがって予習として履修者は、授業前にゲスト講師の活動等をインターネット等で調べ、講師への質問内容などを準備しておくことが望ましい。各授業ごとにゲスト講師の授業内容や感想を文書にしてまとめておくこと。リアクションペーパーの提出が求められる。尚、ゲスト講師の都合により担当される順番が前後に移動することがある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席及び毎時間のリアクションペーパー:20% 中間レポート:20%

レポートは中間と期末の2回です。また授業の最後に毎回リアクションペーパーを提出していただきます。

テキスト/ Textbooks

特に使用しないが、授業時に必要に応じて適宜紹介する。

参考文献 / Readings

結城俊哉 『共に生きるための障害者福祉学入門』 大月書店 2018 9784272412396

結城俊哉 『ケアのフォークロア：対人援助の基本原則と展開方法を考える』 高菅出版 2019
9784901793629

尚、講義の中でゲスト講師からも適宜紹介されることがある。

その他/ Others

立教大学ボランティアセンターHP： <http://www.rikkyo.ac.jp/support/volunteer/>

ボランティア活動に興味・関心のある方で、ボランティアを何かやってみたいという方は是非、積極的に受講してください。

日本財団学生ボランティアセンターHP: <https://www.volacen.jp/>

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

哲学対話 i n R I K K Y O

Philosophical Dialogue in RIKKYO

渡名喜 庸哲／齋藤 元紀／丸山 諒士／小林 雅博／鈴木 信一／堀越 耀介 (TONAKI YOTETSU/
SAITO MOTOKI/ MARUYAMA RYOJI/ KOBAYASHI MASAHIRO/ SUZUKI SHINICHI/ HORIKOSHI
YOSUKE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA187
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2110
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に
基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業は、「正しいとはどういうことか」「自由とは何か」「なぜ人を殺してはいけないか」といった身近かつ「哲学的」な問題について、履修者がグループになって相互に自分自身の考えを述べ「対話」をすることで、実践的に「哲学する」仕方を身につけることを目指します。そのため、講義のように、哲学者たちの名前や概念を紹介したりすることはしません。また、哲学の知識も必要ありません。

具体的には、この授業の目標は以下の三つです。

- ① 哲学的なテーマについて、自分自身の経験に基づいて考え、他人を意識して話ができるようになる。
- ②

The aim of this course is to give students not the knowledge of philosopher's concepts but the opportunity to present their opinion seriously and in public, in order to understand practically how to "philosophize" through some questions such as "what is right?", "what is freedom?", "why is it prohibited to kill?" etc..

The concrete objectives of this course are as follows:

(1) Students will become able to think about philosophical themes based on their own experiences and to explain their opinion to others.

(2) Students will become able to listen to others opinion.

(3) Students will become able to exchange constructive opinions with others who have different opinions.

"Constructive" means that the student and their partners can both develop the opinions and have new ideas each other.

授業の内容 / Course Contents

この授業には毎回3名の教員が参加しますが、その役割は知識の伝授ではありません。導入的な説明のあとは、グループ・ディスカッションのファシリテータに徹します。

毎回、参加者には少人数のグループになってもらい、その都度のテーマについて議論をしてもらいます。この対話が授業の主たる内容です。授業の終わりに振り返りを行います。

この授業での哲学対話では、以下のルールを定めます。

- ①何を言ってもよい。他人の意見はそのまま聴く。
- ②他人を攻撃したり、他人の意見を否定したり、揶揄してはならない。
- ③学年や学科の違いを超え、出席者はすべて対等の立場で語る。

以上です。このルールに従う限りで、自由に発言できます。

各回のテーマは、以下のように、学生生活の身近にある問題を取りあげます。

Three teachers will be present each time. Their role is not to give knowledge about philosophical concepts but just to facilitate the dialog of students. The whole class will be divided into some small groups and the students exchange and develop their opinion with the partners. This is the main content of this course.

We will set some rules for this philosophical dialog.

- (1) You can say anything. Just listen to the opinions of others.
- (2) Do not attack others, deny their opinions, or make fun of them.
- (3) Regardless of the differences of their personal attributes, all participants speak on equal footing.

Themes will be taken from topics close to student life, that can be deepened philosophically.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション・趣旨説明
- 2回：大学で学んでどういうこと？
- 3回：幸せってどういうこと？
- 4回：正しいってどういうこと？
- 5回：死ぬってどういうこと？
- 6回：自由とは何だろう？
- 7回：芸術とは何だろう？
- 8回：言葉とは何だろう？
- 9回：差別とは何だろう？
- 10回：信頼とは何だろう？
- 11回：私とは何だろう？
- 12回：働くとは何だろう？
- 13回：なぜ人を殺してはいけないのか？
- 14回：対話とは何だろう？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、あらかじめ指定されているテーマに沿って、自分の意見をまとめて発表できるように考えてきてください。毎回終了時にリアクションペーパーにその日の振り返りを書いて提出してもらいます。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:30% 毎回の振り返りの内容:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

使用しません。必要に応じてプリントを配布することがあります。

参考文献 / Readings

河野哲也 他 『0からはじめる哲学対話』 ひつじ書房 2020 4823410327

納富信留 『対話の技法』 笠間書院 2020 4305709325

梶谷真司 『考えるとはどういうことか』 幻冬舎新書 2018 4344985141

マシュー・リップマン 『探求の共同体』 玉川大学出版部 2014 4472404885

永井均 他 『子供のための哲学対話』 講談社文庫 2009 4062764482

永井玲衣 『水中の哲学者たち』 晶文社 2021 9784794972743

その他授業でも適宜紹介します。

その他 / Others

・哲学についての前提知識は問いません。上にあるようなテーマについて「対話」をしてみたいという方ならどなたでも履修可能です。

・「知識はそんなにないけど、哲学的と言われるテーマについて、真剣に対話してみたい」という方を歓迎します。

・ただし、「楽な全カリ」ではありません。授業では、毎回グループで対話を行いますので、積極的な参加が求められます。適当な動機で参加すると、グループでの対話が成立しなくなるのでご注意ください。そのため、私語、理由のない遅刻・早退はもちろん、授業中のスマホや内職なども基本的に認められま

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

ジェンダー・宗教・社会

Gender, Religion and Society

ゾンターク, M/工藤 万里江/丹羽 宣子 (SONNTAG MIRA/ KUDO MARIE/ NIWA NOBUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA191
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2110
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この科目では、立教大学のルーツを考慮して、現代におけるジェンダー、宗教と社会の相互作用を批判的に見つめる。

This lecture reconsiders the roots of Rikkyo University through a critical inquiry into the interaction of religion, society and gender in the contemporary period.

授業の内容 / Course Contents

日本では自身を「無宗教」と考える人が増えているが、宗教が社会から消えたわけではない。「宗教」と認知されていないものの、宗教性を帯びた場所で行われる「慣習」もあれば、宗教を背景に形成され、世俗社会によって継承された価値観もある。しかし「無宗教」を自認することは、「宗教家・信徒」に対する姿勢を規定し、自分の中に、そして世俗社会に潜在的に残っている宗教性を認識する妨げとなっている。こうした隠れた宗教性に気づき、それが社会と個人のジェンダー理解に与える影響について考えることが本講義の目的である。そのために、ジェンダーを専門とする宗教学者や社会学者はゲストスピーカーとして招き、宗教内の役割分担、儀礼の力学、LGBTの人々による批判、改宗によるアイデンティティ転換などといった研究課題について発題してもらい、討議をする。また、女性聖職者との対話を通して、彼女たちが「保守的」とされる宗教組織に留

まる理由やそれを変革する方法、そして一般社会に対する彼女たちの批判がどのようなものかを知り、ジェンダーと社会をめぐる課題への知識を深めることができるだろう。

More and more Japanese consider themselves non-religious, but this does not mean that religion has disappeared from society. “Customs” not considered “religious” in themselves, but conducted at religious sites persist, and values that were formed under the influence of religions are passed on by today’s secular society. On the other hand, the self-image of being non-religious determines peoples’ attitude towards “religionists/believers” and inhibits the recognition of latent religiosity in themselves as well as in society. This class seeks to raise awareness for this kind of hidden religiosity and considers its impact on individual and collective notions of gender. For this purpose, scholars of religion and sociology who specialize in gender studies will be invited as guest speaker to elaborate on and discuss research topics such as the distribution of gender roles in religious groups, the dynamics of ritual, criticism against religions from the side of LGBT people, and identity transformation through religion. Furthermore, through dialogue with women who work as religious specialists we will inquire into why they chose to stay in religious organizations labelled as “conservative”, how they intend to change them and what they feel critical about in contemporary society. Students will thus enrich their knowledge about problems pertaining to religion and society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：導入：ジェンダー・宗教・社会の多様な相互作用
- 3回：ゲストスピーカー①
- 4回：ゲストスピーカー①
- 5回：課題に基づくグループワーク、討議結果の発表
- 6回：ゲストスピーカー②
- 7回：ゲストスピーカー②
- 8回：課題に基づくグループワーク、討議結果の発表
- 9回：ゲストスピーカー③
- 10回：ゲストスピーカー③
- 11回：課題に基づくグループワーク、討議結果の発表
- 12回：ゲストスピーカー④
- 13回：ゲストスピーカー④
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習、復習、課題と発表の準備。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業に関する活動（予習復習そのほか課題の提出と内容の精度を含む）:70%

最終レポート割合：:30%

借り物の知識ではなく自分でどこまで徹底的に学び考えたかが重要であり、そのために、自らの考えを言葉によって示し、発表、対話、討議をつうじて深めることが求められる。いずれも授業担当者の指示をふまえて積極的に行うことが求められるので、受講希望者は留意すること。なお授業マナーについて注意された受講者は授業に関する活動を0点とする。課題やそのほかの指示が e-mail、Canvas LMS などでも指示されるが、それを必ず確認すること。確認しないことによる不利益は受講者の責任となる。

テキスト / Textbooks

指定しない。

参考文献 / Readings

授業内に提示する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

多言語・多文化理解を促す日本語

Understanding Japanese for better multicultural and multilingual communication

三浦 愛香／高嶋 幸太／町 沙恵子／牛山 さおり／坂本 真一 (MIURA AIKA/ TAKASHIMA KOTA/
MACHI SAEKO/ USHIYAMA SAORI/ SAKAMOTO SHINICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA193

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、母語である日本語を見つめ直し、学習言語である外国語を相対的に捉えていくことの重要性を体験することで、日本語における円滑なコミュニケーションを実現する知見を得るだけでなく、多言語・多文化間におけるコミュニケーションの理解を深めることを目標とする。

This course offers students opportunities to explore the Japanese language and communication, comparing them with other foreign languages from various perspectives. The objective is to cultivate students' communication skills in their mother tongue, Japanese, and enhance their understanding of multilingual and multicultural communication.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、外国語教育専門（日本語教育、英語教育、ドイツ語教育など）の日本人教員が複数担当するコラボレーション科目である。授業では、外国語にて円滑なコミュニケーションを実現することを念頭に置き、日本語がどのようなコミュニケーションスタイルを持ち、その背景にどのような思考や文化があるのかを扱う。日本語のコミュニケーションスタイルを中心として、他言語にも触れながら、言語形式や談話構造の特徴などを

学ぶ。各言語を特徴づける背景の文化や思考についても捉え、さらに、履修者自身が、言語データの分析や観察、グループによる議論や発表を行うことで、多言語・多文化間におけるコミュニケーションの理解を実践的に深めていく。

毎回の授業では、グループ討論が実施され、積極的に参加することが求められる。また、ミニ・プロジェクトやグループプロジェクトでは、自らが率先して言語分析に携わり、発表し、履修者と意見交換する機会を持つ。よって、受け身的な履修ではなく主体的に授業に参加することが必須となる。

This course is collaboratively taught by Japanese scholars specializing in foreign language teaching such as Japanese, English, and German. We focus on how Japanese culture and thought affect the way Japanese speakers communicate, exploring language forms, discourse structures, and more, comparing these with other languages. Students enhance their cross-cultural communication skills by analyzing language data and presenting their findings in groups and classes.

In every class, group discussions are held and active participation is expected. In mini-projects and group projects, students will have the opportunity to actively participate in conducting various linguistic analyses, present their work and exchange opinions with other students. Therefore, students are required to participate in the classes proactively rather than passively.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

担当者：三浦、高嶋、町、牛山

2回：日本語コミュニケーションをつかさどる思考や発想（日英）

担当者：三浦、高嶋

3回：日本語の文法と対人関係（日英）

担当者：三浦、高嶋

4回：日本語の非言語・言語コミュニケーション（日英）

担当者：三浦、高嶋

5回：日本語の思考表現（日英韓）

担当者：三浦、高嶋

6回：ミニ・プロジェクト1（日英）

担当者：三浦、高嶋

7回：談話分析入門（日英）

担当者：三浦、町

8回：談話分析実践（日英）

担当者：三浦、町

9回：談話分析実践（日英）およびミニ・プロジェクト2（日英）

担当者：三浦、町

10回：ドイツ語の文法と英語・日本語との比較（日独英）

担当者：三浦、牛山

11回：ドイツ語でのコミュニケーションスタイル（日独英）

担当者：三浦、牛山、坂本

12回：ミニ・プロジェクト3（日独）および本授業の総まとめ

担当者：三浦、牛山

13 回：グループ・プロジェクトの発表、意見交換

担当者：三浦、高嶋、町、坂本

14 回：グループ・プロジェクトの発表、意見交換

担当者：三浦、高嶋、町、坂本

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示された参考文献や資料の予習や復習、ミニ・プロジェクト1～3とグループ・プロジェクトの準備

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の授業の参加および貢献とリフレクションペーパーの提出:40% ミニ・プロジェクト3回分:30% グループ・プロジェクト1回分:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

参考文献に関しては、授業内で指示を出す

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

毎回の授業では、グループ討論が実施され、積極的に参加することが求められる。また、ミニ・プロジェクトやグループプロジェクトでは、自らが率先して言語分析に携わり、発表し、履修者と意見交換する機会を持つ。よって、受け身的な履修ではなく主体的に授業に参加することが必須となる。

日本語母語話者ではない場合は、日本語で授業を問題なく受けることができ、日本語でのプレゼンテーションやディスカッションができる高い日本語能力があること。ただし、英語が苦手であったり、英語以外のドイツ語などの外国語の学習経験がなくても受講は可

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

課題提出等に PC が必要。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

多文化共生社会と日本

Multiculturalism in Society and Japan

—やさしい日本語でともに学び、ともに生きる—

池田 伸子 (IKEDA NOBUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA301
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： CMP2140
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本国内の日本語母語話者（言語的マジョリティ）、日本国内で生活する日本語上級者（生活に不自由を感じていない者）として、日本における多文化共生の在り方や国内の大学の役割について批判的に語ることができるとともに、多文化共生社会とはどのような社会かをやさしい日本語で説明することができる。授業を通して、やさしい日本語の運用能力を高め、具体的で基本的なやさしい日本語表現のみならず抽象的な事柄もやさしい日本語で伝えることができる。

As a native Japanese speaker in Japan (linguistic majority) and an advanced Japanese speaker living in Japan (one who does not feel inconvenienced in life), be able to critically discuss the state of multicultural conviviality in Japan and the role of universities in Japan, and explain in simple Japanese what kind of society a multiculturally convivial society is. Explain in simple Japanese what kind of society a multiculturally convivial society is. Through the class, the students will be able to improve their ability to use easy Japanese and communicate not only concrete and basic expressions in easy Japanese, but also abstract matters in easy Japanese.

授業の内容 / Course Contents

日本国内の日本語母語話者（言語的マジョリティ）、日本国内で生活する日本語上級者（生活に不自由を感じていない者）として、日本における多文化共生の在り方や国内の大学の役割について批判的に語ることもできるとともに、多文化共生社会とはどのような社会かをやさしい日本語で説明することができる。また、日本が目指している多文化共生の形や実現のための方法をヨーロッパやアメリカ、アジアの国々と比較し、それぞれの特徴を知ることによって、日本に暮らす多様な人々が真の意味で共生していくことを可能にするためには、日本に暮らす言語的マジョリティがどのような態度を持ち、どのように行動していくべきか、やさしい日本語で表現することができる。そして、そのような日本の多文化共生社会の実現のために、日本の大学は何をすべきかについて考え、やさしい日本語で提案することができる。また、授業を通して、やさしい日本語の運用能力を高め、具体的で基本的なやさしい日本語表現のみならず抽象的な事柄もやさしい日本語で伝えることができる。

As a native Japanese speaker in Japan (linguistic majority) and an advanced Japanese speaker living in Japan (one who does not feel inconvenienced in life), be able to critically discuss the state of multicultural conviviality in Japan and the role of universities in Japan, and explain in simple Japanese what kind of society a multiculturally convivial society is. Explain in simple Japanese what kind of society a multiculturally convivial society is. In addition, by comparing the form of multicultural conviviality that Japan is aiming for and the methods used to achieve it with those of Europe, the United States, and Asia, and by understanding the characteristics of each, the student will be able to explain what attitudes and behaviors the linguistic majority in Japan must have in order to enable the diverse people living in Japan to live together in a true sense. In this way, we will be able to express in easy Japanese what attitudes and actions should be taken by the linguistic majority in Japan in order to enable the diverse people living in Japan to truly coexist. They will also be able to think about what Japanese universities should do to realize such a multiculturally convivial society in Japan and make proposals in easy Japanese. In addition, through the class, students will be able to improve their ability to use easy Japanese and communicate in easy Japanese not only concrete and basic easy Japanese expressions but also abstract matters.

授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：多文化共生とは何か（1）、やさしい日本語（1）
- 3 回：多文化共生とは何か（2）、やさしい日本語（2）
- 4 回：様々な地域の多文化共生の形（1）、やさしい日本語（3）
- 5 回：様々な地域の多文化共生の形（2）、やさしい日本語（4）
- 6 回：様々な地域の多文化共生の形（3）、やさしい日本語（5）
- 7 回：グループワーク（1）
- 8 回：グループワーク（2）
- 9 回：グループワーク（3）
- 10 回：グループワーク（4）
- 11 回：中間発表（1）
- 12 回：中間発表（2）
- 13 回：中間発表フィードバック・振り返り
- 14 回：日本の多文化共生の形（1）
- 15 回：日本の多文化共生の形（2）
- 16 回：日本の多文化共生の形（3）
- 17 回：大学とは何か

- 18回：大学の役割と日本（1）
 19回：大学の役割と日本（2）
 20回：グループワーク（1）
 21回：グループワーク（2）
 22回：グループワーク（3）
 23回：グループワーク（4）
 24回：最終発表（1）、（レポート提出日）
 25回：最終発表（2）
 26回：最終発表（3）
 27回：レポートフィードバック・振り返り（1）
 28回：レポートフィードバック・振り返り（2）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業で準備学習等について指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（討論、質疑応答、リアクションペーパーなど）：50% 報告およびレポートなどの提出物、各種テスト：50%

テキスト / Textbooks

授業で適宜紹介する。

参考文献 / Readings

授業で適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

他者と協働して1つのワークに積極的に取り組もうとする姿勢。

その他 / Others

①全学共通科目（NEXUS プログラム学生向け学びの精神）「多文化共生社会と大学—やさしい日本語でともに学び、ともに生きる—」と一体的に授業運営を行う。

②スケジュールや内容は調整する場合がある。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

仏教の世界

World of Buddhism

仏教の世界観を学ぶ/グローバル化時代だからこそ学びたい

安原 眞琴 (YASUHARA MAKOTO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA401
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「日本人は無宗教」とよく言われるが、それに対してきちんと答えられるようになる。
It is often said that "Japanese people are non-religious," but students will become able to respond to this statement in detail.

授業の内容 / Course Contents

グローバル時代のいま、何かと注目され始めている仏教。たとえば、海外でも「禅」に人気があったり、日本の若者には「パワースポット」のプチブームが起こったりしています。実はとっても身近な存在なのですが、私たちは気付いていないのです。そんな仏教を、根本的な考え方から宗派まで、多角的に分かりやすく学習します。

Buddhism is beginning to attract attention in the global era. For example, "Zen" is becoming popular overseas, and young people in Japan are crazy about "power spots." Actually, Buddhism is very close to us, but we are not aware of it. Students will study Buddhism in an easy-to-understand manner from the fundamental concepts to the sects.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：日本人は無宗教なのか。
- 2回：仏教は宗教なのか。
- 3回：聞いたことがあるぞ。地獄と天国。
- 4回：絵解きで仏教早わかり。ビデオ鑑賞。
- 5回：絵解きの復習と解説。
- 6回：身近な仏教に気付こう。
- 7回：最も身近な仏。お釈迦さま。
- 8回：聞いたことがあるぞ。北枕。ビデオ鑑賞。
- 9回：いろいろな仏。仏像もいろいろ。
- 10回：仏教の宇宙観。地球外生命体？
- 11回：仏教の宇宙観。宇宙物理学と仏教？
- 12回：仏教伝来。
- 13回：宗派の登場。
- 14回：雨ニモ負ケズ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 事前学習：毎回配布プリントについて事前に調査してくる。
- 事後学習：毎回リアクションペーパーで一次的な復習をする。
- 宿題：課題レポートの作成時に参考文献を読んで理解を深める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート:20% リアクションペーパー:40% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

白川成昭・宮次男 『地獄』 風濤社 1980 13 9784892190957

適宜指示する

その他 / Others

<http://www.makotooffice.net>

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

日本の宗教

Japanese Religions

物語と人物から見る日本の宗教

出口 久徳 (DEGUCHI HISANORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA402
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本の宗教において、近代以前の人物の物語・伝記類・著作を取り上げることを通じて、日本の宗教について考える。

Students will think about Japanese Religions by considering stories, biographies, and writings of prominent people before modern times.

授業の内容 / Course Contents

日本の宗教における著名な人物の物語・伝記等を取り上げる。『今昔物語集』などの説話集、伝記、絵巻などのテキストを読むことを通じて、日本の宗教のあり方を考える。

Students will consider stories and biographies, etc. of prominent people in Japanese Religions. Students will think about the ideal form of religion in Japan by reading texts such as "The Tale of Konjaku," biographies, and picture scrolls, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス 物語と人物から見る日本の宗教

- 2回：聖徳太子①
 3回：聖徳太子②
 4回：役行者・行基
 5回：鑑真
 6回：空海①
 7回：空海②、『今昔物語集』仏教説話に見る人物①
 8回：『今昔物語集』の仏教説話に見る人物②
 9回：源信（『往生要集』）
 10回：地獄と極楽の物語
 11回：法然
 12回：一遍
 13回：ハビアン（天草版『平家物語』）（『妙貞問答』）
 14回：まとめ 改めて日本の宗教を考える

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『今昔物語集』等を読んでおく。美術館・博物館などに足を運ぶ。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 中間レポート:10% 出席兼コメントペーパーの内容:30%

特になし。

テキスト / Textbooks

プリントを使用する。

参考文献 / Readings

授業の中で随時紹介する。

その他 / Others

特になし。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

日本文化と精神性

Japanese Culture and its Spirit

修養・教養・自己啓発と近現代日本

大澤 絢子 (OSAWA AYAKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FA403
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

「自己とは何か」、「いかに生きるべきか」といった問いは、時代や地域、性別を問わず、人間の持つ根源的課題と言えるでしょう。日本において、そのような問いは主として、宗教や哲学のほか、道徳や学問、文学などを通して追究されてきました。

本講義では、近現代日本の精神形成に関する主たる事象を学び、日本社会に生きる人々の多様な価値観を理解する力を身につけることを目指して、以下の4点を到達目標としています。

- ①明治以降の日本社会における人々の「自己」形成に関して基本的な知識を習得する。
- ②異文化圏の人に日本文化と精

"What is myself?" and questions like "How should I live?" can be considered fundamental challenges inherent to human existence, transcending time, region, and gender. In Japan, such inquiries have been explored through religion, philosophy, ethics, academic pursuits, and literature.

In this lecture, we focus on the significant social events related to the formation of the Japanese mentality in the modern and contemporary periods. We aim to develop the ability to comprehend the diverse values of individuals

living in Japanese society.

The following four points serve as our goals for achievement:

- ①Acquire fundamental knowledge about the self-cultivation of individuals in Japanese society since the Meiji era.
- ②Develop the ability to explain key points about Japanese culture and spirituality to individuals from different cultural backgrounds.
- ③Cultivate an interest in events related to "self-improvement" and become capable of expressing one's own thoughts on the matter.

授業の内容 / Course Contents

本講義は、近現代日本社会の精神史として、近代以前の思想や文化も参照しつつ、明治以降の日本社会において自己とはどのように考えられ、その向上が目指されてきたのかについて考察します。

個人と社会、他者との関わり方を、文学・宗教・哲学・教育学・経営学・社会史・ジェンダー史などの多様な領域での議論を手がかりにして読み解くことで、多様な要素が「組み合わさりながら」積み重ねられてきた日本の文化と精神性の実態や変化について考え、多様なものの見方を身につけます。

This lecture focuses on the formation of mentality in contemporary Japanese society.

While referencing pre-modern thoughts and culture also, we will examine how the concept of "self" has been considered and the pursuit of its "improvement" in Japanese society since the Meiji-period.

We will analyze the ways individuals relate to society and others, drawing on discussions from diverse fields such as literature, religion, philosophy, education, business, social history, and gender history. By delving into these various realms, we aim to understand the accumulation and evolution of Japan's culture and spirit, recognizing the diverse perspectives that have contributed to its development and transformation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクションー日本文化と精神性
- 2 回：明治日本と西洋
- 3 回：修養とは何か
- 4 回：伝記の力
- 5 回：「成功」と明治日本
- 6 回：ポジティブ・シンキングとは何か
- 7 回：偉人・英雄を目指して
- 8 回：人格主義と修養・教養
- 9 回：会社と倫理・道徳
- 10 回：自己啓発を考える
- 11 回：ジェンダーと精神性①
- 12 回：ジェンダーと精神性②
- 13 回：現代社会と「自己」
- 14 回：講義のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

特になし。

・毎回の講義終了時に次回講義のキーワードを提示するので、わからない用語や時代背景、自身の関心のある話題に関して情報収集をしておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題提出（リアクションペーパー）:100%

- ・毎回課題としてリアクションペーパーの提出を求めます（テーマは各回提示します）。
- ・4回以上課題の提出がない場合は、評価の対象としません。
- ・評価方法や注意事項については授業中にも説明しますので、よく確認してください。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

筒井清忠 『日本型「教養」の運命 歴史社会学的考察』 岩波現代文庫 2009 9784006002312

大澤絢子 『「修養」の日本近代 自分磨きの150年をたどる』 NHK出版 2022 9784140912744

- ・スライドやレジュメを用いながら授業を進めます。
- ・毎回の授業内で関連書や動画などを紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

受講にあたり、近代史や日本思想に関する専門的知識の有無は問いません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特に指定しない。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Japanese Ethnology

Japanese Ethnology

Introduction to Japanese ethnology and ethnography from their origins to present day

マンジャン (MANGIN ALEXANDRE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA404
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2131
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講座の目的は、古今東西の偉大な作家の研究を通して、日本をテーマとする日本民族学者、外国をテーマとする日本民族学者・民俗学者、日本をテーマとする外国民族学者を問わず、日本民族学の基礎を学ぶことである。その過程で、適切な学術用語も学ぶ。日本の概念、学問の歴史、方法論も紹介する。

日本民族学・民俗学・人類学を本格的に学びたい方、あるいは知識を深めたい方を対象としています。

（注意点：これは英語での会話授業ではない）

The aim of this course is to provide students the basics of Japanese ethnology through the study of great authors from the past and today, whether they are Japanese ethnologists working on Japanese themes, Japanese ethnologists working on foreign themes or foreign ethnologists working on Japanese themes. The appropriate academic vocabulary will be taught in the process. Japanese concepts, the history of the discipline, and its methodology will be introduced.

This course is aimed at those who want to discover on serious bases - or upgrade their knowledge of - Japanese ethnology, ethnography, and anthropology.

(Nota bene: This is not an English conversation class).

授業の内容 / Course Contents

このコースは英語のクラスではありません。日本語、フランス語、英語で書かれた文献を参照しながら、英語で教える日本民族学のコースです。講義は教授が英語で行う。

おもしろい習慣や人物を紹介し、学問的フレームと核となる知識を提供する。

毎回の授業では、1人または数人の著者を（ほとんどの場合、年代順に）作品とともに紹介し、それぞれの文脈に並列させる。

This course is not an English class: it is a Japanese ethnology course taught in English, with reference to documents written in Japanese, French, and English. Lectures will be conducted in English by the professor. It will introduce funny customs and interesting people, and provide an academic frame and the core knowledge on the matter.

Each class, one or several authors will be introduced (most of the time in chronological order), along with their works and put in parallel in their respective context.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction to this course: terminology, content, and organization. Ethnology, ethnography, anthropology, sociology, folklore, etc.; The influence of foreign ethnology on Japanese authors: Marcel Mauss and Fernand Braudel
- 2回：The precursors: Noda Senkôin 野田泉光院, Furukawa Koshôken 古川古松軒, MATSUURA Takeshirô 松浦武四郎 and the description of Hokkaido's Ainu society
- 3回：Japanese ethnology by foreigners (1): the first authors: Valignano, Luis Frois (1), Japanese ethnology by foreigners (2): Isabella Bird and the «unbeaten tracks» of Japan
- 4回：YANAGITA Kunio, founder of the minzokugaku 民俗学 : life and general concepts: the Japanese
- 5回：SHIBUSAWA Keizô 澁澤敬三 and the Achikku myûzeamu アチックミュージアム
- 6回：MINAKATA Kumagusu 南方熊楠: English essays and Japanese masterpieces
- 7回：ORIKUCHI Shinobu 折口信夫: between literature and anthropology
- 8回：MIYAMOTO Tsuneichi 宮本常一, the walking author (1): life and formation; early works
- 9回：MIYAMOTO Tsuneichi 宮本常一, the walking author (2): main themes: family, techniques, flux, transmission, education, History...
- 10回：Japanese ethnology by foreigners: André Leroy Gourhan, Claude Lévy-Strauss, modern authors: Boyé Lafayette de Mente, YI Oryöng 李 御寧, Anne Bouchy and the "École française"
- 11回：Japanese ethnographers working overseas
- 12回：Japanese esthetics: YANAGI Muneyoshi 柳宗悦 (craftmanship and beauty); KITAÔJI Rosanjin 北大路魯山人 (cuisine and beauty)
- 13回：Introduction to several modern Japanese authors (1): FUKUTA Ajio 福田アジオ, Miyamoto Kesao 宮本袈裟雄, Sano Kenji 佐野賢治 etc.; Introduction to several modern Japanese authors (2): KAWADA Junzô 川田順三 and anthropological triangulation (三角測量); KOJIMA Takao 小島孝夫; SHIMAM
- 14回：Conclusion of this course: present and perspectives of Japanese ethnology.
- 最終テスト / Final test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : ○ スライド (パワポ等) の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 : ○

個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Every week, students will have to read their notes again and the articles provided in the previous class.

Depending on the number of students, some homework might be asked.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 参加, および宿題 (Assiduity, and homework(s)) :60% 最終テスト割合 :40%

「最終テスト」は、学期末に対面（筆記）により実施します。

The "final test" is administered in person at the end of each semester in the classroom.

授業態度は評価の一部となります（授業中の私語・睡眠・スマホの使用は、マイナス評価となります）。

Classroom attitude will be part of the evaluation (private conversation, sleeping, and us

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

Handouts will be distributed.

参考文献 / Readings

Robertson, Jennifer (dir.) A Companion to the Anthropology of Japan Wiley-Blackwell 2008/3/3
0631229558

福田アジオ&他 『図説 日本民俗学』 吉川弘文館 2009/10/1 4642080279

Miyamoto Tsuneichi The Forgotten Japanese: Encounters with Rural Life and Folklore (English Edition)
Stone Bridge Press 2010/10/1 1933330805

Morse, Ronald A. YANAGITA KUNIO AND THE FOLKLORE MOVEMENT: The Search for Japan's
National Character and Distinctiveness Routledge 2016/9/26

Mangin, Alexandre Articles sur le Japon: 日本文化断想 (French edition) Tarare Anthropos 2017/4/24

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

—皆に前で質問に答えられ、黙らずに自分の意見を言えること。

—（必ずしも完璧ではないが）いい英語のレベル（リーディング、ライティング、聴解、口頭表現）。

—Being able to answer questions in public and give one's opinion without remaining silent.

—Good (but not necessarily perfect) level of English (reading, writing, listening and s

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ペン、ノート、配布された資料（プリント）。必要に応じて、本や発表資料。

Pens, notebook, handouts. If necessary, documents for one's presentation and book(s).

その他 / Others

—The teachers's site: <https://iatj.wordpress.com/>

—The Folklore Society of Japan: https://www.fsnet.jp/en/index_e.html

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する

- ・履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

日本の宗教

Japanese Religions

宗教思想と文化

(Religious Thought and Culture)

ムスリン, I (MUSULIN ILJA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA502
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 講義/Lecture
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本コースでは、宗教を中心に日本の思想史を学ぶとともに、多種多様な宗教信仰と実践が日本文化の形成過程や歴史的変貌において果たした役割を考えていく。

日本の諸宗教に関する基礎知識を取得し、宗教関連の諸問題を様々な視点から考える態度・能力を身に付けることが本コースの到達目標である。

In this course, by studying the history of Japanese religious thought, we examine the role that various religious beliefs and practices played in the formation of Japanese culture. The main goal of this course is acquiring basic knowledge of Japanese religions, but we also attempt to develop the custom and ability to think about social and cultural issues from different viewpoints, which is very important for critical thinking and nurturing an atmosphere of understanding and respect for different worldviews and value systems.

授業の内容 / Course Contents

本コースでは、宗教信仰と思想を中心に、日本における諸宗教（神道、仏教、道教、儒教など）について学ん

でいく。

In this course we will primarily focus on the beliefs and religious thought in traditional religions in Japan such as Shinto, Buddhism, Taoism, or Confucianism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：第1回 コース紹介。有史以前の日本列島における宗教。

Course introduction. Religion in prehistoric Japan.

2回：第2回 神道（一）

Shinto (I)

3回：第3回 神道（二）

Shinto (II)

4回：第4回 神道（三）

Shinto (III)

5回：第5回 日本の仏教（一）

Japanese Buddhism (I)

6回：第6回 日本の仏教（二）

Japanese Buddhism (II)

7回：第7回 日本の仏教（三）

Japanese Buddhism (III)

8回：第9回 レポート試験に関する指導

Guidelines for writing the term-end paper.

9回：第8回 道教と日本の文化（一）

Taoism and Japanese culture. I

10回：第10回 道教と日本の文化（二）

Taoism and Japanese culture II

11回：第11回 日本における儒教思想（一）

Confucian thought in Japan (I)

12回：第12回 日本における儒教思想（二）

Confucian thought in Japan (II)

13回：第13回 日本におけるキリスト教

Christianity in Japan

14回：第14回 現代日本人の宗教性

The religiosity of the contemporary Japanese

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本コースの履修者は、期末レポートの執筆のため、日本の宗教を題材とした書籍を一冊読まなければならない（具体的なテーマは自由）。

Students taking this class will be required to read one book on Japanese religions of their own choosing, for the purpose of writing the term-end paper.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% 授業への取り組み:20%

Term-end paper 80%, Classroom attitude 20%

テキスト / Textbooks

授業毎にプリントを配る。

Handouts will be distributed in each lesson.

参考文献 / Readings

授業毎に指示する。

Relevant reading material will be introduced in each lesson.

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

日本文化と精神性

Japanese Culture and its Spirit

日本近現代思想史

牧野 静 (MAKINO SHIZUKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA503

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この科目は、日本の近代の歴史を多角的にとらえつつ、日本の文化や精神性について、知見を深めることを目標とします。

The goal of this course is to deepen knowledge of Japanese culture and spirituality while taking a multifaceted view of Japan's modern history.

授業の内容 / Course Contents

最初に、そもそも日本とは何かについて考えます。その際、アイヌや琉球民族にも言及しつつ、近代的な国家の成立についても扱っていきます。次に、日本における国語の成立史を扱います。宗教と文化では、妖怪の出現に注目し、ジェンダーやナショナリズムの観点から分析します。文学と思想の観点からは、宮沢賢治や三島由紀夫など、日本の近代における主要な作家を扱います。特に文学作品にあらわれる栄養観、ジェンダー観、輪廻転生観など、当時の価値観に注目します。

First, we will consider what Japan is in the first place. In doing so, we will deal with the formation of a modern nation, while also referring to the Ainu and Ryukyu peoples. Next, we will deal with the history of the formation

of the national language in Japan. In religion and culture, we will focus on the emergence of yokai and analyze them from the perspective of gender and nationalism. In terms of literature and thought, we will focus on the major writers of modern Japan, such as Miyazawa Kenji and Mishima Yukio. Particular attention will be paid to the values of the time, such as the view of nutrition, gender, and reincarnation, which appear in their literary works.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：初回説明
- 2 回：日本とは何か 1
- 3 回：日本とは何か 2
- 4 回：日本とはなにか 3
- 5 回：国語とはなにか 1
- 6 回：国語とはなにか 2
- 7 回：国語とはなにか 3
- 8 回：宗教と文化 1
- 9 回：宗教と文化 2
- 10 回：宗教と文化 3
- 11 回：文学と思想 1
- 12 回：文学と思想 2
- 13 回：文学と思想 3
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

普段から日本文化にまつわる言説と、その妥当性に注意を払うことがのぞましい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :90%

平常点割合 :10% リアクションペーパー:10%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

牧野静 『宮沢賢治の仏教思想：信仰・理想・家族』 法蔵館 2023 9784831855817

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

興味のあることがらについて普段から考える力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

リアクションペーパーの提出を CampusLMS 上で求めるため、インターネットに接続できるスマートフォン、タブレット、ノートパソコンなど

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

日本文化と精神性

Japanese Culture and its Spirit

近代日本における宗教と青年

深田 愛乃 (FUKADA AINO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FA504
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

宗教を含む日本文化に根ざした人間形成の多様なあり方について考察し、現代日本の人間形成観を捉え直す視点を得ることを目指します。

Examining the diverse aspects of character formation rooted in Japanese culture, including religion, the goal is to gain a perspective that reconsiders commonly held views on character formation in contemporary Japan.

授業の内容 / Course Contents

近代日本を生きた多くの青年たちは、雑誌・新聞メディアや講話会などを通して、キリスト教や仏教をはじめとした宗教ないしは宗教的なものを追い求めていました。本講義では、知識人青年層を惹きつけた複数の宗教者の人間理解を探り、それが青年たちの人間形成（自己形成）にどのような影響を与えたのかについて検討します。講義の後半部では、一般的には文学者として知られる宮沢賢治の仏教者と教育者としての側面に光をあて、彼の仏教信仰を背景とした人間形成観を考察します。

Many young adults in modern Japan sought out religions or religious things such as Christianity and Buddhism through magazines, newspapers, lectures, and other mediums. In this lecture, we will explore the human

understanding of various religious figures who attracted the intellectual youth, examining how their perspectives influenced the character formation (self-formation) of these young individuals. In the latter part of the lecture, we will specifically focus on Kenji Miyazawa, commonly known as a literary figure, who was a Buddhist and an educator of peasants and analyze his theory of character formation rooted in his Buddhist beliefs.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：「煩悶青年」と宗教の諸相
- 3回：親鸞（1）－哲学と信仰のあいだ
- 4回：親鸞（2）－東京本郷の学生たち
- 5回：親鸞（3）－「日本精神」と教育
- 6回：日蓮－憧れとしての日蓮像
- 7回：キリスト教－「無教会主義」
- 8回：オカルティズム－心霊研究と青年教師
- 9回：宮沢賢治（1）－農学校教師の実践
- 10回：宮沢賢治（2）－東北農村の真宗
- 11回：宮沢賢治（3）－親鸞思想への反応
- 12回：宮沢賢治（4）－日蓮主義との関わり
- 13回：宮沢賢治（5）－仏教的生命観に基づく人間形成観
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途提示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回のリアクションペーパー:100%

毎回課題としてリアクションペーパーの提出を求めます。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

大谷栄一・吉永進一・近藤俊太郎編 『増補改訂 近代仏教スタディーズ－仏教からみたもうひとつの近代』
法蔵館 2023 9784831855800

島藺進・末木文美士・大谷栄一・西村明編 『近代日本宗教史 第三巻 教養と生命－大正期』 春秋社 2020
9784393299630

その他、適宜授業中に提示します。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Japanese Ethnology

Japanese Ethnology

Interpretation of Culture at the Edge

前高西 一馬 (MAETAKENISHI KAZUMA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FA505
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2131
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

The aim of this lecture, which is basically directed at Japanese undergraduates, is to learn English communication skills as well as the essence of critical thinking about culture through expressions, customs, and socio-historical contexts behind them both in Japan and in the English speaking world.

授業の内容 / Course Contents

The anthropological approach to the study of culture and English communication. Colloquial practices and Case studies from a variety of ethnographic materials (e.g. articles, journals, talk shows, and greetings) are used in exploring the universality of cultural expressions and social customs both in Japan and in other societies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：What is Ethnography?
- 3 回：What is “Other” Culture?
- 4 回：Who is “Minority”?

- 5 回：Reading Ethnographies 1
 6 回：Reading Ethnographies 2
 7 回：Reading Ethnographies 3
 8 回：Theory and Practice of Ethnography
 9 回：Guest Talk
 10 回：Examining Modern Ethnographies 1
 11 回：Examining Modern Ethnographies 2
 12 回：Examining Modern Ethnographies 3
 13 回：What is “Culture”?
 14 回：Who are “Japanese”?

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to have read all assigned readings before class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクション・ペーパー（複数回）：100%

テキスト / Textbooks

None

参考文献 / Readings

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

World History

World History

セイヤーズ (SAYERS BRIAN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA506
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 4
科目ナンバリング： CMP2131
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

As the world becomes an increasingly globalized place, the study of history is more relevant than ever to understand the forces that have shaped our society. The aim of this course is to provide students with the opportunity to analyze and discuss some of the major global changes that have taken place from the fourteenth to the nineteenth century. This course will develop students' critical thinking skills as well as their ability to engage in meaningful discussions about historical events.

授業の内容 / Course Contents

This course will provide an outline of the major political, social, cultural and economic changes that have occurred globally from the fourteenth to the nineteenth century. Special emphasis will be placed on the impact of the actions of western powers in a global context. It will adopt a thematic and a broadly chronological approach and include the analysis of both primary (textual and visual) and secondary sources. Course themes will include the Renaissance, the Enlightenment, Revolutionary Transformations and the New Language of Freedom, Imperialism and the Origins of Anticolonial Nationalism. Students are required to complete assigned readings and prepare answers to discussion questions in note form before coming to class. They will also write one essay

of 1,500 words.

授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：Lecture: The Catholic Church, State Building, and Economic Recovery after the Black Death
 2 回：Lecture: The Renaissance
 3 回：Seminar: Interpreting Visual Evidence: Marking Boundaries, Inspiring Loyalty
 4 回：Lecture: European Exploration and Expansion
 5 回：Lecture: The Reformation
 6 回：Seminar: Current Trends in World History: Corn and the Rise of Slave-Supplying Kingdoms in West Africa
 7 回：Seminar: Interpreting Visual Evidence seminar: Conflict and Consent
 8 回：Seminar: Global Themes and Sources: Cultural Contexts in the Age of Exploration
 9 回：Lecture: Exchanges and Expansions in North America
 10 回：Lecture: The Slave Trade and Africa
 11 回：Seminar: Current Trends in World History: Stimulants, Sociability, and Coffeehouses
 12 回：Seminar: Interpreting Visual Evidence: A World of Goods
 13 回：Seminar: Global Themes and Sources: Comparing Perceptions on Slavery in the Atlantic World
 14 回：Lecture: The Enlightenment in Europe
 15 回：Lecture: Consequences of the Enlightenment
 16 回：Seminar: Current Trends in World History: The Political Uses of Space
 17 回：Seminar: Interpreting Visual Evidence: Envisioning the World
 18 回：Seminar: Global Themes and Sources: Comparing Changes to Global Commerce and Society
 19 回：Lecture: Revolutionary Transformations and the New Language of Freedom
 20 回：Lecture: The Industrial Revolution
 21 回：Seminar: Current Trends in World History: Two Case Studies in Political Change and Environmental Degradation
 22 回：Seminar: Interpreting Visual Evidence: Framing the Subject
 23 回：Seminar: Global Themes and Sources: Revolution for Whom?
 24 回：Lecture: Alternative Visions of the Nineteenth Century
 25 回：Lecture: Insurgencies against Colonizing and Centralizing States
 26 回：Seminar: Current Trends in World History: Islam: An Enduring Alternative in Algeria
 27 回：Seminar: Interpreting Visual Evidence: The Gender of Nations
 28 回：Seminar: Global Themes and Sources: Comparing Alternatives to Nineteenth-Century Capitalism

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to complete the assigned readings and write answers to discussion questions in note form before class.

Please note that the course schedule provided in this syllabus is a general guide for students and that some changes may be made i

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation in class discussions:30% Completion of homework:30% Essay:40%

テキスト / Textbooks

Students are not required to purchase the course textbook which will be available on reserve in Rikkyo University library. All reading materials will be posted on Canvas LMS before class.

参考文献 / Readings

Jeremy Adelman, Elizabeth Pollard, Robert Tignor Worlds Together, Worlds Apart: A History of the World from the Beginnings of Humankind to the Present Sixth Edition W. W. Norton & Company 2021
9780393532074

Students will receive information about essential reading for this course at the first session.

その他 / Others

Classes will be held in both lecture and seminar style.

注意事項

- ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム 所属学生/特別外国人学生が履修
- ・この授業は、英語圏での大学の授業を想定し、全て英語で行う
- ・以下の英語力を有していることが履修の目安になる

英検準1級, IELTS 5.5, TOEFL®iBT 72, TOEIC®L&R 785

- ・週2回開講
- ・2016年度以降入学者：多彩な学び
- ・2015年度以前入学者：主題別A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別A

Religions in Asia

Religions in Asia

Historical and Cultural Developments from India to Japan

伊藤 真 (ITO MAKOTO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA507
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2131
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

アジアの諸宗教の歴史的、文化的、教理的な諸側面について、主として南アジア・東アジアを中心に探究する。受講生は、インド、中国、朝鮮半島、日本の多様な宗教的な教えや文化などについて基礎的な知識を得ることができる。さらに、授業で扱う諸宗教に関する基礎的な用語を学ぶことで、諸宗教に関連する話題について英語で話し、議論する基礎的な知識を身につけることができる。本講座では、受講生がみずからの文化的背景とは異なる地域・文化で発展した宗教に関し、みずから考え、発表やグループワークなどを通じて深める機会も得ることが

This course explores the historical, cultural, and theoretical aspects of religions in Asia, with a focus on South and East Asia. Students will be able to gain basic knowledge and perspectives on the diverse religious ideas and cultural phenomena of religions in India, China, Korea, and Japan. They will also be able to acquire basic knowledge on basic terms related to the religions discussed in the course and will be able to discuss topics on those religions in English. This course will also give students opportunities to forge and present their own views on religions that developed among cultures different from their own.

授業の内容 / Course Contents

主としてインド、東アジアの多様な宗教現象に着目し、ヒンドゥー教、仏教、儒教、道教、神道などが、歴史的・文化的に各地域でそれぞれどのように発展したかを探究する。中でも特に、インド以東のアジア諸国の社会や文化に幅広い影響を及ぼした仏教を詳しく見ることになる。

毎回の授業は主に講義形式となるが、適宜グループワークによる議論も行う。

各授業で学生は当該回のテーマについて、積極的に関心を持ち、質問や、グループワークにおける議論などをしてほしい。

Focussing on religions in India and East Asia (China, Korea, Japan), this course will explore the historical and cultural developments of religions in each region. Various aspects of religions such as Hinduism, Confucianism, Daoism, Buddhism, and Shintoism will be explored. Among these, Buddhism will be a major focus of attention as a religion that has had wide-ranging impacts on societies and cultures in regions east of India throughout history. Each session will mainly consist of lecture given by the lecturer, plus group discussions in some sessions. During each session, students are expected to actively participate by asking questions, and expressing and exchanging views and ideas on the topics being explored in group discussions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction 1: What is Religion?
- 2 回：Introduction 2: Various Definitions of Religion
- 3 回：Religions in India 1: Outline of Hinduism
- 4 回：Religions in India 2: Core Ideas and Practice in Hinduism
- 5 回：Religions in India 3: Birth of Buddhism - Buddha, the Rebel Saint
- 6 回：Religions in India 4: Basic Tenets of Buddhism
- 7 回：Religions in India 5: Development of Buddhism in India - Interactions with other traditions
- 8 回：Religions in China 1: Basic Tenets of Confucianism
- 9 回：Religions in China 2: Basic Tenets of Daoism
- 10 回：Religions in China 3: Transmission of Buddhism to China - interactions with established traditions
- 11 回：Religions in China 4: Development of Buddhism in China and Impacts on Korea and Japan
- 12 回：Religions in Japan 1: Religions in Ancient Japan - Buddhism and Shinto 1
- 13 回：Religions in Japan 2: Conflict, Fusion, and Separation - Buddhism and Shinto 2
- 14 回：Conclusion: Modern Perspectives on Religions in Asia

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be given reading assignments (mainly sections in the textbook, with some additional material to be provided in class) in preparation for and in review of designated sessions.

After each session, students are expected to reflect on the topics

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Report 40% x 1:40% Report (Comment Papers) 10% x 2:20%
割合 :40%

Minimum attendance of 9 sessions is required for evaluation.

テキスト/ Textbooks

Huston Smith The World's Religions HarperOne 2009 9780061660184 ○

参考文献 / Readings

Damien Keown Buddhism: A Very Short Introduction (new edition) Oxford University Press 2013
9780199663835

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

*Japanese language skills are not required for this course.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

*Announcements and assignments will be provided on the Canvas LMS course page.

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

World History

World History

セイヤーズ (SAYERS BRIAN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA508
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： CMP2131
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

As the world becomes an increasingly globalized place, the study of history is more relevant than ever to understand the forces that have shaped our society. The aim of this course is to provide students with the opportunity to analyze and discuss some of the major global changes that have taken place from the nineteenth century to the present time. This course will develop students' critical thinking skills as well as their ability to engage in meaningful discussions about historical events.

授業の内容 / Course Contents

This course will provide an outline of the major political, social, cultural, and economic changes that have occurred globally from the nineteenth century to the present time. Special emphasis will be placed on the impact of the actions of western powers in a global context. It will adopt a thematic and a broadly chronological approach and include the analysis of both primary (textual and visual) and secondary sources. Course themes will include Imperialism and the Origins of Anticolonial Nationalism, Cultural Modernism, Decolonization and Globalization. Students are required to complete assigned readings and prepare answers to discussion questions in note form before coming to class. They will also write one essay of 1,500 words.

授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：Lecture: Consolidating Nations and Constructing Empires
- 2回：Lecture: Imperialism and the Origins of Anticolonial Nationalism
- 3回：Seminar: Current Trends in World History: Africa's Newest Hunters and Gatherers: Greed, Environmental Degradation, and Resistance
- 4回：Seminar: Interpreting Visual Evidence: Occidentalism: Representing Western Influence
- 5回：Seminar: Global Themes and Sources: Contextualizing the Scramble for Empire
- 6回：Lecture: Discontent with Imperialism
- 7回：Lecture: Cultural Modernism
- 8回：Seminar: Global Themes and Sources: Global Feminisms
- 9回：Seminar: Current Trends in World History: Adapting to the Environment: Russian Peasants Take on the Steppe
- 10回：Seminar: Interpreting Visual Evidence: Global Modernism
- 11回：Lecture: The Quest for the Modern
- 12回：Lecture: Mass Society: Culture, Production, and Consumption
- 13回：Seminar: Global Themes and Sources: Comparing and Contextualizing Totalitarianism
- 14回：Seminar: Current Trends in World History: Population Movements: Filling Up the Empty Spaces and Spreading Capitalism
- 15回：Seminar: Interpreting Visual Evidence: Men, Machines, and Mass Production
- 16回：Lecture: Decolonization
- 17回：Lecture: Three Worlds
- 18回：Seminar: Current Trends in World History: Soviet Ecocide
- 19回：Seminar: Interpreting Visual Evidence: War and Propaganda
- 20回：Seminar: Global Themes and Sources: Comparing Independence and Nation Building
- 21回：Lecture: Removing Obstacles to Globalization
- 22回：Lecture: Characteristics of the New Global Order
- 23回：Seminar: Current Trends in World History: Urbanization as a Global Phenomenon: Transforming Bombay into Mumbai
- 24回：Seminar: Global Themes and Sources: Comparing the Power of Grassroots Democracies
- 25回：Seminar: Interpreting Visual Evidence: Chimerica
- 26回：Lecture: Global Challenges
- 27回：Lecture: Economic Globalization and Political Effects
- 28回：Seminar: Current Trends in World History: Global Capitalism and the Great Contraction of 2008; Has Homo sapiens Entered a New Epoch - the Anthropocene?

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to complete the assigned readings and write answers to discussion questions in note form before class.

Also, students are expected to review comments on their works from the instructor.

Please note that the course schedule provided i

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation in class discussions:30% Completion of homework:30% Essay:40%

テキスト / Textbooks

Students are not required to purchase the course textbook which will be available on reserve in Rikkyo University library. All reading materials will be posted on Canvas LMS before class.

参考文献 / Readings

Jeremy Adelman, Elizabeth Pollard, Robert Tignor Worlds Together, Worlds Apart: A History of the World from the Beginnings of Humankind to the Present Sixth Edition W. W. Norton & Company 2021
9780393532074

Students will receive information about essential reading for this course at the first session.

その他 / Others

Classes will be held in both lecture and seminar style.

注意事項

- ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム 所属学生/特別外国人学生が履修
- ・この授業は、英語圏での大学の授業を想定し、全て英語で行う
- ・以下の英語力を有していることが履修の目安になる

英検準1級, IELTS 5.5, TOEFL®iBT 72, TOEIC®L&R 785

- ・週2回開講
- ・2016年度以降入学者：多彩な学び
- ・2015年度以前入学者：主題別A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別A

Peace and Human Rights 1

Peace and Human Rights 1

Understanding the concept of positive and negative peace

上野 育子 (UENO IKUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA509
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期 1
単位： 1
科目ナンバリング： CMP2131
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義は、平和の基本概念である「positive peace」と「negative peace」、子どもの権利やマイノリティなどの人権について深く学ぶことを目的とする。関連資料から得られるさまざまな情報・考え方・意見をもとに、クリティカル・シンキング（批判的思考）によって様々な事実を比較・分析する。

This course is designed for students to learn the basic concepts of positive and negative peace and human rights such as children's rights and minorities in depth. Students are expected to obtain information, ideas and opinions from the related sources and compare and analyze the various facts with the way of critical thinking.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションにおいて、学生は他のクラスメイトと協調的にグループワークを行う。各テーマの学習を終えた後、学生は個人的な最終プロジェクトとして、様々な問題群から一つのテーマを選定し、該当するテーマに関するリサーチを行い、その成果を発表することが求められる。

Students are required to show cooperative teamwork in presentation and discussion. After each content introduction, students are expected to propose positive and constructive solutions to the diverse problems as the

final project.

授業計画(授業計画数：7) / Course Schedule

- 1 回：Introduction to the course
 2 回：Topic 1: Positive and Negative Peace
 3 回：Topic 2: Various types of war
 TED Watch video：『Child Soldier』
 4 回：1st project (Poster presentation)
 5 回：Topic 3: Human Rights
 TED Watch video：『Modern Slavery』
 6 回：2nd project (Individual presentation)
 7 回：Wrap-up & Final Quiz

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to do assignments such as pre-reading or writing a summary about the related contents..
 Pre-listening is also included as an assignment in order to fully understand the contents in the class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Assignments:20% Group Work:20% 1st project:20% 2nd project:20% 最終レポート割合：20%

テキスト / Textbooks

There is no textbook required for this class.

All class materials will be provided by the teacher when necessary.

参考文献 / Readings

All class materials will be provided by the teacher when necessary.

その他 / Others

Students need to attend 80% or more of the classes taught to earn a passing grade. Teachers will communicate with students and request assignment submissions through the Canvas Learning Management System (LMS). Students should ensure they regularly check

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Peace and Human Rights 2

Peace and Human Rights 2

Understanding the concepts of positive and negative peace

上野 育子 (UENO IKUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA510
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期 2
単位： 1
科目ナンバリング： CMP2131
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義は平和と人権の概念についてさらに深く学ぶことを目的としているが、とくに人権問題について焦点をあてる。受講生は、関連する情報源から情報や考えを入手し、批判的思考によって様々な人権問題を比較・分析することが期待される。

This course is designed for students to learn MORE about the concepts of positive and negative peace and human rights in depth. Students are expected to obtain information, ideas and opinions from the related sources and compare and analyze the various human rights issues with the way of critical thinking.

授業の内容 / Course Contents

プレゼンテーションやディスカッションにおいて、学生は他のクラスメイトと協調的にグループワークを行う。各テーマの学習を終えた後、学生は個人的な最終プロジェクトとして、様々な人権問題から一つのテーマを選定し、該当するテーマに関するリサーチを行い、自分の意見を含めた発表を行うことが求められる。

Students are required to show cooperative teamwork in presentation and discussion. After each content introduction, students are expected to propose their own suggestions to the diverse human rights problems as the

final project.

授業計画(授業計画数：7) / Course Schedule

- 1 回：Introduction to the course
 2 回：Topic 1: General knowledge about Positive and Negative Peace
 3 回：Topic 2: Lecture & Video: Focus on the children's rights: World & Domestic issues
 4 回：1st group project (Poster presentation)
 5 回：Topic 3: Lecture & Video: Focus on the minority's rights TED Watch video：『Can stereotypes ever be good?』
 6 回：Topic 4: Human Rights
 TED Watch video：『What if a single human right could change the world?』
 7 回：2nd project (Individual presentation)
 PowerPoint presentation style
 Wrap-up & Final quiz

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to do their assignments such as pre-reading or writing a summary about the related contents.. Pre-listening is also included as an assignment in order to fully understand the contents in the class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Assignments:20% Group work:20% 1st project:20% 2nd project:20% 最終レポート割合 :20%

テキスト/ Textbooks

There is no textbook required for this class.

All class materials will be provided by the teacher when necessary.

参考文献 / Readings

All class materials will be provided by the teacher when necessary.

その他/ Others

Students need to attend 80% or more of the classes taught to earn a passing grade. Teachers will communicate with students and request assignment submissions through the Canvas Learning Management System (LMS). Students should ensure they regularly check

注意事項

- ・ F 科目中級 (外国語による総合系科目)
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び

・2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

International Humanities 1

International Humanities 1

Refining the Perception of Japan through a Western Lens

デ ソウザ (DE SOUSA LUCIO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FA511
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2131
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

Throughout the course, students will develop the capacity to grasp the construction of Japan from an external perspective, fostering a nuanced understanding of the country's dynamics, influences, and global interactions.

授業の内容 / Course Contents

This course is structured into three distinct parts. The initial section focuses on the earliest European encounters with Japan, as documented in books, maps, and artistic representations. The second segment explores the earliest visual depictions of Japan originating from the American continent. Finally, the third part delves into an analysis of the Japanese Diaspora within the Habsburg Empire, specifically in Macau, India, the Philippines, Europe, and the Spanish Americas. This section aims to illustrate the genuinely "global" nature of this trade and the impact of Japanese presence in these regions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Introduction to Early European-Japanese Relations

2 回：Exploration of European Accounts in Books Part 1

- 3 回：Exploration of European Accounts in Books Part 2
 4 回：Mapping Japan in Early European Perspectives Part 1
 5 回：Mapping Japan in Early European Perspectives Part 2
 6 回：Artistic Representations of Japan in the Early Encounters
 7 回：Evolution of Visual Narratives
 8 回：Introduction to Japanese Diaspora Studies
 9 回：Macau and Goa: A Hub for Japanese Presence
 10 回：Europe and the Cultural Impact of Japanese Diaspora
 11 回：Spanish Americas and the Cultural Impact of Japanese Diaspora
 12 回：Case Studies from Japan: Japanese Diaspora
 13 回：Case Studies from Japan: Chinese Diaspora
 14 回：Case Studies from Japan: Korean Diaspora

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ*等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

A recommended reading list will be provided for each class, and all students are expected to complete the assigned readings.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Participation:20% Assignments:40% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

International Humanities 2

International Humanities 2

欧米思想入門：古今神学・哲学的発展 / An Introduction to Western Intellectual History: theology and philosophy from antiquity to today

プラント, T. (PLANT THOMAS)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA512

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2131

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

By the end of this course, students will be able to chart the historic genealogies of contemporary philosophical, theological, political and ethical ideologies of Western (broadly European) origin by reference to key texts of the tradition.

授業の内容 / Course Contents

The course comprises an historical overview of major paradigm shifts in Western thought from roughly 500BC to the present. Beginning with Greek thought and Jewish and Christian Scripture, we will progress through the paradigm shifts from realism, then via nominalism, voluntarism, empiricism and individualism to relativism, noting the historical and political events which precipitated each shift and the ongoing implications for intellectual movements today.

The course will be taught by mixed-media lectures, including video content, each ending with a guided group plenary to aid retention and to promote sharing of ideas. Evaluation will comprise (1) a mid-term report on 1st

millennium thought, (2) an end of term report on 2nd millennium thought, and (3) lecture attendance.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Course overview: 2500 years of “Western” thought
- 2 回： Realism: Plato
- 3 回： Causality and the senses: Aristotle
- 4 回： The Bible 1: Ancient Jewish and Christian thought in philosophical context
- 5 回： The Bible 2: Ancient Jewish and Christian thought in philosophical context
- 6 回： Christian Platonism: Augustine
- 7 回： Thomas Aquinas and the Aristotelian turn
- 8 回： The Late Franciscans and the nominalist turn
- 9 回： The Reformation 1: Luther and Calvin
- 10 回： The Reformation 2: Radical, English, Catholic
- 11 回： The Enlightenment: Kant, Rousseau and the shift from person to individual
- 12 回： Brunner vs Barth: 20th century Neo-orthodoxy as a response to liberalism
- 13 回： Liberty or Liberation? Capitalism, Marxism and modern liberation movements
- 14 回： Concluding discussion: intellectual genealogy of contemporary intellectual trends

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Normative pre-lecture reading for each class will be provided in electronic format. Lists of additional follow-up reading will also be offered. Students should be prepared to schedule a minimum of one day per week for reading for this course, in addition

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Class attendance:30% 最終レポート割合：40%最終テスト割合：30%

Report word limits: Mid-term report maximum 1,500 words; final report maximum 2,000 words.

テキスト / Textbooks

N/A: all essential readings will be provided online.

参考文献 / Readings

- Kraut, Richard How to Read Plato London: Granta 2009 9781847080325
- Augustine; Chadwick, Henry Confessions Oxford: Oxford University Press 2008 9780199537822
- Boethius; Walsh, P.G. The Consolation of Philosophy Oxford: Oxford University Press 1999 0192838830
- Benedict XVI Great Christian Thinkers London: SPCK 2011 9780281064748
- Garfield, Edelglass The Oxford Companion to Philosophy Oxford: Oxford University Press 2005 0199264791
- MacIntyre, Alasdair After Virtue Notre Dame: University of Notre Dame Press 1984 0268006113
- Taylor, Charles A Secular Age Cambridge, Mass.: Belknap Press of Harvard University Press 2007

9780674026766

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

High command of spoken and written English for academic purposes.

その他/ Others

The class will be conducted by lecture and group reading, including audio-visual elements. Plenary sessions at the end of each class will reinforce learning and address deficits of understanding through group work with other students. Information about ha

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Introduction to Gender Studies

Introduction to Gender Studies

Feminist, Multicultural, and Intersectional Perspectives

アオキ, Q. (AOKI QUENBY HOFFMAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FA513

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2131

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Students will be able to: Listen to lectures and discuss gender issues in a multicultural context.

Read and think critically about authentic texts related to gender issues.

Write short essays and reaction papers about class topics.

Conduct a mini-lesson/ interactive prestation on a topic related to class content.

授業の内容 / Course Contents

This course focuses on gender from a multicultural perspective, and explores gender's intersection with other identities such as race, social class, and sexual orientation. Topics include but are not limited to the following: How is the concept of gender different in different cultures? How does gender affect a person's daily life and basic human rights?

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introductions, ice-breakers. What is gender and what role does it play in daily life?

Three main principles of the course: multiculturalism, feminism, and intersectionality

- 2回：Gender and personality: nature vs. nurture
 3回：Gender roles and culture , social status and power
 4回：Gender and the family. Reproductive rights
 5回：Gendered and gender-neutral language
 6回：Gender, sexual orientation, and identity, LGBTQIA+ issues
 7回：Gender and education
 8回：Gender and the workplace
 9回：Gender, politics, and government
 10回：Gender and economic development
 11回：Gender and globalization
 12回：Gender, environmental issues, and the climate crisis
 13回：Gender, activism and social change
 14回：Final presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Regular readings, review of class content,

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation:30% Written Assignments:30% Quizzes:10% Final Presentation:30%

テキスト / Textbooks

No textbook will be used in this class. Handouts and relevant materials will be posted online, and students will be expected to download before class Printing out will generally be optional.

参考文献 / Readings

No textbook will be used in this class. Handouts and relevant materials will be posted online, and students will be expected to download before class Printing out will generally be optional.

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

多文化社会と異文化コミュニケーション

Intercultural Communication in a Multicultural Society

ドイツ語圏の文化と社会 / Culture and society of the German-speaking countries

三ッ石 祐子 (MITSUISHI YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FA521
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2132
使用言語： その他
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

In diesem Kurs werden aktuelle gesellschaftliche und kulturelle Themen in Deutschland und Europa behandelt. Dabei werden Probleme der globalisierten und multikulturellen Gesellschaft aufgegriffen. Ziel ist die Vertiefung des Verständnisses für die Rolle d

This course covers contemporary social and cultural issues in Germany and Europe, addressing the challenges of a globalized and multicultural society. The aim is to enhance students' understanding of the role of intercultural communication in society.

授業の内容 / Course Contents

Auf der Grundlage von kurzen Videos der „Deutschen Welle“ werden relevante Themen im Zusammenhang mit der Interkulturalität und der multikulturellen Gesellschaft diskutiert. Um sich die wichtigsten Begriffe zu den Themen und die Argumentationslogik anzueignen, wird das Videomaterial im Detail besprochen. In der Mitte und am Ende des Semesters halten die KursteilnehmerInnen Referate zu einem der im Unterricht behandelten Themen.

Using short videos from Deutsche Welle, relevant issues related to interculturalism and multicultural society are discussed. The video material is analyzed in detail to introduce students to the key terms related to the topics and the logic of argumentation. In the middle and at the end of the semester, students give presentations on one of the topics discussed in class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Süße Schokolade – bitterer Nachgeschmack
- 2 回： Erfolgreich – auch mit Migrationeshintergrund?
- 3 回： Mellila: Tödliche Gewalt gegen Geflüchtete
- 4 回： Neue Chancen für Geduldete
- 5 回： Ein Dirndl aus zwei Kulturen
- 6 回： Wien: Kuchen essen wie bei Oma
- 7 回： Präsentation
- 8 回： Bürokratische Hürden bei der Energiewende (+ Ladestationen der Zukunft)
- 9 回： Charles III. – ein König, den nicht alle wollen
- 10 回： Mit dem E-Anhänger nachhaltig unterwegs
- 11 回： Dem Hass trotzen: queere menschen in der Werbung
- 12 回： Inklusion am Arbeitsplatz
- 13 回： Kochen für den Frieden
- 14 回： Präsentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

授業時間内に行うプレゼンテーションの準備の他に、授業時間外の課題としてドイツ語のレポートを 2 本書いてもらいます。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席・教室での発言・ディスカッション・課題への取り組みなど:50 % プレゼンテーション:25% レポート:25%

テキスト / Textbooks

プリントを配布する。

参考文献 / Readings

必要に応じて紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

ドイツ語技能検定試験 2 級、ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) が定める B1/B2 レベルのドイツ語能力を有していることを前提に授業を実施する。

その他 / Others

授業は、参加者の積極的な参加、議論を中心に行う。映像資料を使用する。

提出物などのフィードバックは適宜、授業内で全体と、必要に応じて各自に向けて行う。

「授業計画」の内容や進度は履修状況や、参加者の希望などにより変更する可能性もある。

履修を考えている、あるいはこの授業に興味のある方は、必ず初回の授業に出席してください。

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業はドイツ語で実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

入門・経済教室

Introduction to Economics

市場の役割と限界を理解し、経済の諸問題を読み解く。

石井 優子 (ISHII YUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB001

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

市場という概念を通して、経済学および経済の基本的な考え方を理解する。

Students will understand the basics of economics and the economy using the concept of markets.

授業の内容 / Course Contents

経済学の基礎的概念である市場の役割と限界を中心に、経済学および経済の基本的な考え方について講義を行う。さらに、その「市場の役割と限界」という視点から、現実には生じている経済の諸課題として「所得分配と貧困」に関連するテーマについて考察し、学生の理解を深めたい。

Lectures will be given on the basic concepts of economics and the economy, focusing on the roles and limitations of the market, which is the basic concept of economics. Furthermore, I would like to examine the topics of "income distribution and poverty" as real economic problems from the viewpoint of "the roles and limitations of the market" to deepen students' understanding.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

- 2回：市場の役割①
 3回：市場の役割②
 4回：市場の限界と政府の役割①
 5回：市場の限界と政府の役割②
 6回：市場経済と経済学の歴史①
 7回：市場経済と経済学の歴史②
 8回：市場と所得分配①：効率性と公平性
 9回：市場と所得分配②：日本の格差の現状と課題 1
 10回：市場と所得分配③：日本の格差の現状と課題 2
 11回：市場と所得分配③：日本の格差の現状と課題 3
 12回：市場と所得分配④：グローバルな格差の現状と課題 1
 13回：市場と所得分配⑤：グローバルな格差の現状と課題 2
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 小テスト・リアクションペーパーなど:20%

テキスト / Textbooks

毎回配布する資料に沿って講義を進める。

参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

景気・格差問題と統計情報

Business Indices, Disparities and Statistics

経済統計入門 1

小野原 彩香 (ONOHARA AYAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB002

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）第2回、第3回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回は、オンラインで実施する。

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

「景気」や「格差」といった言葉は日常でも多く用いられ、社会問題として注目されることが多い。しかしながら「景気」や「格差」が示す内容は多岐にわたり、実態としてこれらをとらえるのは容易ではない。また、あらゆる情報が電子的に蓄積可能となり、その蓄積量は加速度的に増加していることから、データによる社会の把握により複雑な課題が生じている。本講義では、統計情報を利用してこれらの問題についての理解を深め、社会が抱える問題を論じるための視点を得ることを目的とする。

Words such as "the economy" and "disparity" are often used in daily life and are often noted as social problems.

However, the details of "the economy" and "disparity" are diverse, and it is not easy to grasp them as reality. In addition, various information can be stored electronically, and its amount is increasing at an accelerating rate.

This situation has led to complex issues regarding the understanding of society through data. The aim of this course is to use statistical information to gain a better understanding of these issues and to gain a perspective for discussing the issues facing society.

授業の内容 / Course Contents

統計情報を利用して現代社会の現状を理解する方法を学ぶ。授業は講義と演習・議論を組み合わせて行う。毎回のテーマについて、得られた統計を読み解き、その特徴や課題を共有するスキルを養う。

We will see and think about the current issue on contemporary Japan using official statistics. The classes consist of lecture, exercises, and discussion. For each theme, we will interpret the statistics and develop skills to share their respective features and issues.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

2回：統計法（動画）

3回：公的統計の仕組み（動画）

4回：指数計算（動画）

5回：データへのアクセス演習

政府統計へのアクセスと WebGIS を用いた位置情報のあるデータの取り扱い、時系列データの取り扱い（折れ線グラフ）。

6回：人口統計（動画）

7回：人口統計演習

人口統計データを高齢化率、従属人口指数、女性の出生数など観点から分析することで少子化を考える（折れ線グラフ、積み上げ棒グラフ）。

8回：労働統計（動画）

9回：労働統計演習

完全失業率・無業率・求人データを分析し、労働統計から日本の労働問題について考える（任意のグラフ、地図、集計表の作成）。

10回：賃金統計（動画）

11回：賃金統計演習

賃金統計へのアクセスを行い、集団間での賃金格差についてヒストグラムと統計指標を作成することで読み解く。

12回：消費統計（動画）

13回：消費統計演習

家計統計から近年の消費行動をとらえる。ローレンツ曲線とジニ係数を実際に作成する。

14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

オンデマンドの動画講義と教室でのコンピュータ演習を合わせた授業スタイルをとる。

講義パートは配信動画による。該当週のうちに確認する。

解説動画を見て基礎事項をおさえたうえで翌週の演習に臨むこと

演習では、Google colaboratory と Excel を使用する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 複数回の授業課題:80% 複数回の授業期間内レポート:20%

テキスト / Textbooks

必要な資料は配布する。

参考文献 / Readings

梅田雅信・宇都宮浄人 『経済統計の活用と論点』 東洋経済新聞社 2009（第3版） 9784492470817

松井博 『公的統計の体系と見方』 日本評論社 2008 9784535554726

立教大学社会情報教育研究センター 『日本の公的統計・統計調査』 三恵社 2019 9784866931258

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

PC等IT機器の操作に苦手意識がないこと。苦手意識があったとしても、改善しようとする意思があること。

平均、最大値、最小値など基本的な統計概念については、特に解説しない。

その他 / Others

- ・ e-stat「政府統計の総合窓口」の情報を利用する。
- ・ 参考文献『日本の公的統計・統計調査』については、立教大学の学生にはCSI事務室にて、無料で配布している（参考URL：<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/toukei/SitePages/measure.aspx>）。
- ・ 本授業は、「対面（一部オンライン）」である。対面7回。オンライン（動画）7回。
- ・ 第5, 7, 9, 11, 13回は演習回のため、教室で行う。
- ・ 第1回目と第14回目も教室。それ以外は動画で自習を行

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別A

法と社会

Law and Society

比較法とグローバリゼーション

貝瀬 幸雄 (KAISE YUKIO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB003

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 法学部所属学生随意科目（卒業要件単位に含むことはできない）

授業の目標 / Course Objectives

法学の学習に必要な外国法についての基礎知識を修得するために、比較法の方法、比較法の隣接諸分野、法族論、法とグローバリゼーションなどのテーマを学習する。特にグローバリゼーションが比較法に及ぼす影響に注目する。不十分ではあるが、法学入門としての役割も果たしたい。

In order to acquire fundamental knowledge concerning foreign law which is required for the study of law in general. Students in this course will study the methods of comparative law, areas adjacent to comparative law, the doctrine of legal families, law and globalization, and other topics.

授業の内容 / Course Contents

担当者が執筆したテキストブックを用い、その内容について詳しく講述する。比較法の基礎理論すなわち比較法原論が講義の中心となる。講義の後半は、比較法学各論として、アメリカ比較法学を代表するマティアス・ライマンの比較法史研究とイタリアの優れた比較法学者ジュゼッペ・モナテリの比較法方法論を取り上げる。

This course will use the textbook written by myself. The lectures will focus on the basic theories of comparative law. As the second part of this lecture, I will analyze the study of comparative legal history by Prof. Mathias

Reimann and the method of comparative law by Prof. Giuseppe Monateri.

]

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：比較法学の意義
- 2回：比較法と隣接諸分野（1）
- 3回：比較法と隣接諸分野（2）
- 4回：比較法の方法（1）
- 5回：比較法の方法（2）
- 6回：法族論（1）
- 7回：法族論（2）
- 8回：法族論（3）
- 9回：グローバル比較法学（1）
- 10回：グローバル比較法学（2）
- 11回：歴史法学派とコモン・ロー（1）
- 12回：歴史法学派とコモン・ロー（2）
- 13回：歴史法学派とコモン・ロー（3）
- 14回：結論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

まずはテキストを読んできていただきたい。復習は丹念に行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

貝瀬幸雄 『比較法学入門』 日本評論社 2019 ○

参考文献 / Readings

貝瀬幸雄 『現代アメリカ比較法学の行方』 日本評論社 2022

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

政治と社会

Politics and Society

映像作品で考える政治学：若者たちの反乱とその挫折、そして新しい社会運動へ

笠井 昭文 (KASAI AKIFUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB004
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	法学部所属学生随意科目（卒業要件単位に含むことはできない）

授業の目標 / Course Objectives

1. 政治学が扱ってきたテーマや政治思想を紹介しながら、この講義では、1960年代末に発生した若者の反乱とその挫折をデモクラシーの政治原理から分析すると共に、その反省に基づく新しい社会運動の取り組みについて紹介していきたいと思います。2. 小レポートの作成と学生同士の相互評価を通じて、学生にとって必要となる基礎的な文章能力の向上を図ります。3. 以上の目標を通じて、現代社会の諸問題について自ら考え、自分の言葉で表現しようとする人間を育てたいと思います。

1) While introducing the themes and political ideas that political science has dealt with, this lecture will analyze the youth revolt that occurred at the end of the 1960s and its setbacks from the political principle of democracy, and will also propose new social movement initiatives based on this reflection. I would like to introduce about. 2) Through writing reports and mutual evaluations between students, this course aims to strengthen the basic writing skills that are a necessity of every student. 3) Through the objectives described above, I would like to train people who can think on their own about various problems in modern society and who try to express their ideas in their own words.

授業の内容 / Course Contents

この講義は、政治を扱った映画を見る講義ではありません。また「楽単」と呼ばれるような講義でもありません。政治学の主要テーマや基本概念を理解するための補助線として映画を利用しつつ、現代社会が抱える様々な問題について考えていくタイプの講義です。

講義は、1960年代末に発生した若者たちの反乱、すなわち大学闘争やカウンター・カルチャー等の異議申し立て運動を紹介するところから始まります。その上で、それらの試みを、現代文明に対する反システム運動として整理してみたいと思います。ですが、若者たちの異議申し立ては、彼らの非日常性ゆえに、その多くが失敗しました。その失敗の原因を、デモクラシーの政治原理と照らし合わせながら分析してみたいと思います。しかし、若者たちの反乱が失敗したからと言って、彼らの問いかけ自体が無意味であったというわけではありません。彼らが問いかけた現代社会の様々な問題は、依然として残り続けています。そのため、社会に出て、それぞれの生活を抱えるようになった若者たちは、今度は自らの日常を問い直し、自らの日常の中から新しい日常を生み出していくという方向へと運動スタイルを変化させていきました。そして、このような取り組みの中から、1980年代、反戦平和、反核・反原発、環境問題、フェミニズム、食の安全といったテーマに取り組む様々な新しい社会運動が誕生してきます。そして、これらの取り組みは、21世紀の今日、平和構築・人道援助、気候変動、ジェンダー、差別、貧困、地域再生といった問題に取り組む運動の中に受け継がれているように思います。

このように、若者の反乱から始まった新しい社会運動の歴史を、政治理論による分析を交えながら紹介していくことが、この講義のねらいです。また、自分で考え、それを文章として書くことが求められる「出力」重視の講義です。得られる単位は2単位だけなので、単位取得効率の点から言えば、はなはだ「コスパ/タイプ」の悪い講義ですが、自らの考えを深め、それを他者に向けて表現していくことに習熟したい人には、良い機会になると思います。

This course is not a lecture to watch movies dealing with politics. Also, it is not a course where you can easily take credits. Rather, this is a type of lecture that uses movies as an auxiliary line to understand the main themes and basic concepts of political science, and by doing so, considers various problems in modern society.

The lecture begins with an introduction to the youth rebellions that occurred at the end of the 1960s, such as university struggles and counterculture movements. Based on that, I would like to organize these attempts as an anti-system movement against modern civilization. However, many of the young people's protests failed due to their unusual nature. I would like to analyze the causes of this failure in light of the political principles of democracy. However, the youth's rebellion failed does not mean that the questions they asked were meaningless. The various problems they asked in modern society still persist. Therefore, young people who have entered society and have their own lives are now reconsidering their daily lives and changing their movement styles in the direction of creating a new daily life from within their own daily lives. From these efforts, various new social movements were born in the 1980s that tackled themes such as anti-war, anti-nuclear/anti-nuclear power, environmental issues, feminism, and food safety. Today, in the 21st century, these efforts have been inherited in movements that address issues such as peacebuilding, humanitarian aid, climate change, gender, discrimination, poverty, and regional revitalization.

The aim of this lecture is to introduce the history of new social movements that began with young people's revolts, along with analysis based on political theory. And this course emphasizes "output" that requires you to think and write for yourself. Since only two credits will be received, in terms of the efficiency of acquiring credits, this course has poor "cost performance or time performance". But I think this course will be a good opportunity for those who want to deepen their own thoughts and value expressing them to others.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：二つの自由、二つの政治原理 宮崎吾朗監督『コクリコ坂から』
- 2回：バリケードの中の青春 S・ハグマン監督『いちご白書』
- 3回：カウンター・カルチュアの挑戦 M・フォアマン監督『ヘアー』
- 4回：反システム運動としての新しい社会運動
- 5回：僕たちの失敗 森田童子作詞・作曲『球根栽培の唄』
- 6回：私たちが自由になれる共同体 宮崎駿監督『もののけ姫』
- 7回：デモクラシーの政治原理 宮崎駿監督『もののけ姫』
- 8回：暴走するデモクラシー 宮崎駿監督『もののけ姫』
- 9回：自然と多様な人々との共生を目指して 宮崎駿監督『もののけ姫』
- 10回：デモで会いましょう ドキュメント『ワールド・ピース・ナウ』
- 11回：日常を問い直すウーマン・リブ 栗原奈名子監督『ルッキング・フォー・フミコ』
- 12回：日常をスローに変えていく 宮崎駿監督『千と千尋の神隠し』
- 13回：気候変動を前にして脱成長コミュニティは可能か 宮崎駿監督『千と千尋の神隠し』
- 14回：犠牲を伴う社会の仕組みを変えていきたい 是枝裕和監督『大丈夫であるように』

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

この講義では、学生が書いた小レポートを学生同士で批評し合う課題が複数回設定されています。まず、履修者は、講義レジュメの中で提示されたテーマで、小レポートを4回執筆しなければなりません。提出した小レポートは履修者全員に公開されますので、他人が読むことを前提にした文章を書く必要があります。次に、他の履修者のレポートを5~10枚ほど読んだ上で、レポート評価シートを2枚作成する課題も3回行います。作成したレポート評価シートはレポート執筆者の手に渡りますので、レポート内容を踏まえた、誠実なコメントを書かねばなりません。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義で提示するテーマで小レポートを執筆、4回提出:70% 他の学生のレポートを読んだ上でレポート評価シートを作成、2枚×3回提出:30%

小レポート4回、レポート評価シート2枚×3回、すべての課題が提出されない限り、成績評価の対象とはなりません。

テキスト/Textbooks

毎回、講義内容を概略したレジュメを配布します。

参考文献 / Readings

配布するレジュメや講義の中で随時紹介します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

課題提出は、すべて立教大学の授業支援システム Canvas LMS を介して行います。ですので、課題作成や提出を行うために、インターネットに接続できるPCは必須です。

その他/ Others

映像作品を用いますが、聴覚障害・視覚障害等の障害を抱える学生の受講にも対応します。15年ぶりに行う講義テーマですので、授業内容や使用する映像作品は、授業の進行や学生の反応を見ながら組み替えていくことになります。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

グローバル社会における法と政治

Law and Politics in Global Society

家族・労働・健康 ～自由の視点から考える～

宮澤 弘 (MIYAZAWA HIROSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB005
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代の社会が抱えている複雑だがしばしばよく目にする問題に対して、法的、倫理的、哲学的な視点から整理して理解することを目指します。また、それらの問題は直接間接に海外の動向から様々な影響を受けている点にも注目してもらうことを意図しています。

We will aim to organize and understand the complex but frequent problems that modern society has from legal, ethical, and philosophical points of view. In addition, we intend to point out that these issues are directly and indirectly influenced in various ways by overseas trends.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、海外の動向に大きな影響を受けている、これまで国内の問題としては積極的に取り組まれてこなかったいくつかの問題を取り上げます。そこでは法的な視点から捉えなおして論点の整理を試みます。また、法的視点にかぎらずに倫理的視点、もしくは哲学的視点を含む一般的な視点に立つこと、そしてそこから物事を分解・整理して自己の考え方に照らし合わせて批評する、ということについても簡単に説明し、自分の頭で物事をとらえる練習を試みます。取り上げるのは、代理出産(生殖医療)、外国人労働者(移民問題)、そし

て現在問題となっている感染症対策に関する問題(公衆衛生倫理)です。これらについて「個人の自由」および「他者との公正な関係」という切り口から分析と検討を進めていきます。また、テーマと関連するビデオ視聴も行う予定です。

In this course, we will take up a number of issues that are heavily influenced by overseas trends and that have not been actively addressed as domestic issues. We will try to reorganize these issues from a legal perspective. Also, we will explain briefly about looking from a general perspective, including ethical or philosophical perspectives regardless of the legal point of view, and from there disassembling and organizing the issues and critiquing them against our own way of thinking. Students will try to practice thinking about things with their own mind. We will cover surrogate births (reproductive medicine), foreign workers (immigrants), and currently in question, infectious disease control issues (public health ethics). We will proceed with analysis and examination from the perspectives of "individual freedom" and "fair relationships with others." We will also watch videos related to the themes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：はじめに（授業テーマの説明、成績評価の方法、参考文献の紹介など）
- 2 回：視点について1（物事を解釈すること；演習）
- 3 回：視点について2（物事を整理分解して理解し評価する；演習）
- 4 回：視点について3（ビデオ視聴後に批評レポートを作成）
- 5 回：子の福祉と夫婦の選択1（ある裁判事例）
- 6 回：子の福祉と夫婦の選択2（法律上の諸問題）
- 7 回：子の福祉と夫婦の選択3（生命倫理における議論1）
- 8 回：子の福祉と夫婦の選択4（生命倫理における議論2）
- 9 回：子の福祉と夫婦の選択5（代理母ビジネスの闇；ビデオ視聴）
- 10 回：外国人労働者と受け入れる社会との関係1（新たな政策の意味を考える）
- 11 回：外国人労働者と受け入れる社会との関係2（移民の政治哲学）
- 12 回：公衆衛生と個人の自由1（国境を超える感染症との闘い・公衆衛生とは何か）
- 13 回：公衆衛生と個人の自由2（新型インフルエンザをめぐる対策）
- 14 回：公衆衛生と個人の自由3（新興感染症とこれからの社会について考える）　まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に配布した資料は必ず読んでくること。その他の指示は必要に応じて授業時に適宜行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% コメントペーパー:20%

テキスト / Textbooks

テキストは指定しない。毎回のレジュメに加え必要な資料を適宜配布する。

参考文献 / Readings

- 赤林朗、児玉聡編 『入門・医療倫理 III 公衆衛生倫理』 勁草書房 2015
- 小林亜津子 『生殖医療はヒトを幸せにするのか』 光文社 2014
- ジョセフ・カレンズ 『不法移民はいつ<不法>でなくなるのか』 白水社 2017
- 宇佐美誠編著 『グローバルな正義』 勁草書房 2014
- 周産期医学編集委員会編 「周産期医学第 51 巻第 12 号 ワクチンの進歩と重要性」 東京医学社 2021
- 山内一也 『ウィルスの意味論』 みすず書房 2018
- 小田中直樹 『感染症はぼくらの社会をいかに変えてきたのか』 日経 BP 2020
- その他は初回授業時および授業期間中に適宜紹介する。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

現代のビジネスを学ぶ

Fundamentals of Contemporary Business

現代企業の経営戦略と組織運営を学ぶ

羽田 明浩 (HANEDA AKIHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB006
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

本講義は以下の取得を目的とする

- ①経営戦略理論と経営組織論の基礎的理論の理解
- ②事例を通じた経営分析手法の理解

The main aim of the course is for students to acquire the following:

- 1) Understand the basic theories of management strategy and management organization
- 2) Understand management analysis methods through case studies

授業の内容 / Course Contents

「現代のビジネスを学ぶ」うえで必要な経営学の基礎的な理論を解説したうえで、日本企業の実例を通して受講者の理解を深める講義を行う。

担当教員は、本学経営学科卒業の後、メガバンク勤務があり、組織運営の事例では本学と他大学の比較や金融業界を採り上げる予定である。

After explaining the basic theories of business administration necessary for "learning modern business," lectures

will be given to deepen students' understanding through examples of Japanese companies.

The faculty member in charge is from our university (Department of Business, from the athletic association volleyball club), and has experience working at a megabank. In the organizational management case studies, we plan to compare our university with other universities and the financial industry.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション 本講義を学ぶ意義
- 2回：企業の分類 法律面と経済面からの分類
- 3回：コーポレートガバナンスについて
- 4回：経営戦略論 (1) 全社戦略と事業ドメイン
- 5回：経営戦略論 (2) 多角化戦略とポートフォリオマネジメント
- 6回：経営戦略論 (3) 競争戦略論 ポジショニングと資源ベース
- 7回：経営戦略論 (4) 協調戦略とダイナミックケイパビリティ
- 8回：経営組織論 (1) 組織の定義
- 9回：経営組織論 (2) 組織デザイン
- 10回：経営組織論 (3) 組織のライフサイクル
- 11回：マーケティング論 (1) 基本理論と概念変遷
- 12回：マーケティング論 (2) セグメンテーション他
- 13回：ゲストスピーカーによる講義
- 14回：経営分析論 定性分析と定量分析

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

時事問題に関心を持ってください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

羽田明浩 『ナースのためのヘルスケアMBA』 創成社 2017 97847944249763034

羽田明浩 『医療経営戦略論』 創成社 2021 97847944259353034

亀川雅人 (監修) 『ストーリーのない経営学の教科書』 文真堂 2022 9784830951695

羽田明浩 『ヘルスケア経営組織論』 文真堂 2022 9784830951992

その他 / Others

本科目は、担当教員の実務経験及び、実務に携わるゲスト・スピーカーの招聘講義を活かした授業である。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

企業と社会

Business and Society

企業と市場

藤波 美帆 (FUJINAMI MIHO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB007
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

生物と同じように、企業も自社を取り巻く経営環境にうまく適応していかなければ、存続することはできません。本講義では、企業を取り巻く経営環境と企業への適応について学習します。なお、この科目は「多彩な学び2の社会への視点」という科目群の一つです。

Like living organisms, companies cannot survive unless they are well adapted to the business environment in which they operate. In this course, students will learn about the business environment surrounding companies and the actions required to adapt to this environment.

授業の内容 / Course Contents

企業は、ヒト、モノ、カネという経営資源を活用してビジネスを行っています。この経営資源を調達する場所が労働市場、原材料市場、金融市場です。

本講義では、企業を取り巻く経営環境としてこの3つの市場と企業行動の関係に焦点を当て、企業の事例も取り入れながら、市場と企業の仕組みについて、理論と実際の両面から学習します。

Companies conduct business by utilizing management resources such as people, goods and money. These

management resources are procured from the labor market, the raw material market, and the financial market. In this course, we will focus on the relationships between these three markets and corporate behavior as the business environment surrounding companies, and proceed with learning while incorporating corporate case studies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクションー企業と市場の関係を知るー
- 2回：労働市場（1）日本の労働市場の概況
- 3回：資本市場（1）日本の市場
- 4回：資本市場（2）世界の市場
- 5回：産業と企業
- 6回：会社と会社の統治（1）株式会社の仕組み
- 7回：会社と会社の統治（2）会社のマネジメント
- 8回：イノベーションの種類と生成
- 9回：製品開発プロセス
- 10回：ビジョンと経営戦略
- 11回：組織構造
- 12回：企業会計（1）管理会計と企業会計
- 13回：企業会計（2）企業会計の基本
- 14回：企業会計（3）企業会計の応用

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

経済や経営に関する事柄を扱うため、毎回の講義で扱ったテーマ・事柄を中心に、日々の企業活動に関するニュースを新聞などで確認し、予習・復習に活用すること（毎日30分～1時間程度）。

また、初回講義時に指示する動画や参考文献などの情報を参考に、実際の企業活動について、講義内容に関連する情報を事前・事後に閲覧し、講義内容をあてはめて理解を深めること（主に復習目的として、講義中に指示する）。

そのほか、各テーマごとの授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて授業時やCanvasLMS上で別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :65%

平常点割合 :35% 課題レポート:25% 講義中のグループワーク:10%

テキスト / Textbooks

指定テキストなし。

参考文献 / Readings

榊原 清則 経営学入門 [上] 第2版 日本経済新聞出版 2013 9784532112820

國貞克則 『【増補改訂】財務3表一理解法』(朝日新書) 朝日新聞出版 2016 4022736844

ロジャー・ローウェンスタイン 『ビジネスは人なり 投資は価値なりーウォーレン・バフェット』 総合法令出版 1998 4893465902

山本紳也 『外国人と働いて結果を出す人の条件』 幻冬舎メディアコンサルティング 2017 9784344913868

平井 一夫 『ソニー再生 変革を成し遂げた「異端のリーダーシップ」』 日本経済新聞出版 2021 4532324122

ハーバード・ビジネス・レビュー編集部 『ハーバード・ビジネス・レビュー CEO 論文ベスト 12 経営者の教科書』 ダイヤモンド社 2020 4478107475

高橋伸夫 『コア・テキスト 経営学キーワード』 新世社 2021 9784883843299

その他の参考文献は講義内に適宜紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

筆記用具（講義内容をメモしたり、グループワークで使用します）

その他/ Others

授業は板書とパワーポイントを用いた講義形式を基本とします。原則として講義資料の配布は行いません。理解促進および実社会に必要なスキルを獲得していただくため、各自で必要に応じてノート等を用意してください。

理解を深めるために、適宜グループワーク（ディスカッションなど）や、質問を行う予定です。自分で考え、それを積極的にアウトプット（発言等）していただくことを期待します。

課題等に対するフィードバックは、原則、翌授業開始時に行います。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

現代社会と環境

Contemporary Society and Environment

環境問題の深層から社会のあり方を問い直す

穴見 慎一 (ANAMI SHINICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB008
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

環境破壊が、実は自然環境だけではなく、人間自身とその文化・社会にまでおよぶものであるという「環境問題の構造的な連関」を理解する。また、その中で「現代社会の問題の本質」を見極め、「環境とは何か」「人間とは何か」を問い直しつつ、日本社会のあるべき姿を考える。

Students will understand the "structural relationships of environmental problems," by which environmental destruction actually extends not only to the natural environment but to humans themselves and their cultures and societies. In addition, we will identify "the essence of the problems of modern society" within this, reconsider the questions "What is the environment?" and "What is a human being?" and think about the ideal form of Japanese society.

授業の内容 / Course Contents

環境破壊における過去の教訓に学び、「足尾銅山鉱毒事件」、「水俣病事件」、そして「フクシマ」を貫く現代社会の問題の本質に迫る。特に、「3.11」から5年を待たずして原発が再稼働された今日、「現代社会と環境」の視点から「フクシマ」の意味を明らかにすることを試みる。また、「真の文明とは何か」を多面的に問う作業を

通じて、問題の解決に向け、農業という人間の営みのもつ可能性へと議論を接続する仕方で、今後の日本社会の展望を探りたい。

Students will learn from the lessons of past environmental destruction, and approach the essence of the problems of modern society that run through the "Ashio copper mine poisoning incident," the "Minamata tragedy," and "Fukushima." In particular, now that nuclear power plants have been restarted in less than five years from "3.11," we will try to clarify the meaning of "Fukushima" from the viewpoint of "modern society and the environment." In addition, through the work of questioning "What is a true civilization?" from multiple perspectives, in order to solve the problem, I would like to connect the discussion to the possibility of the human activity of agriculture, and explore the future prospects of Japanese society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：水俣病事件に学ぶ
- 3回：人間にとって「責任」とは何か
- 4回：キャピタリスト・デモクラシー（資本主義的民主主義）の源流を辿る
- 5回：人間にとって「自由」とは何か
- 6回：中間まとめ
- 7回：「所有」という神話
- 8回：「自己責任」論
- 9回：環境破壊の深層
- 10回：東日本大震災を考える
- 11回：「フクシマ」を受けとめる(前編)
- 12回：「フクシマ」を受けとめる(後編)
- 13回：原発問題の深層に迫る
- 14回：人新世に「〈農〉的社会」の可能性を問う

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

基本的なことは初回のガイダンスで指示する。また、必要に応じ、他の回でも適宜指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%
 平常点割合 :40% 小レポート:20% リアクションペーパー:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 尾関周二・亀山純生・武田一博・穴見慎一編著 『〈農〉と共生の思想—〈農〉の復権の哲学的探求』 農林統計出版 2011 9784897322292
- 尾関周二・武田一博編 『環境哲学のラディカリズム—3.11をうけとめ脱近代へ向けて』 学文社 2012 9784762023200

上柿崇英・尾関周二編 『環境哲学と人間学の架橋—現代社会における人間の解明』 世織書房 2015
9784902163780

澤 佳成 『人間学・環境学からの解剖—人間はひとりで生きてゆけるのか』 粹出版社 2010
9784872622324

各回の講義における参考文献はその都度提示する。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

情報と倫理

Information Ethics

ネット時代のソーシャル・リテラシー

白澤 洋一 (SHIRASAWA YOICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB009
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

モバイル機器の普及や人工知能（AI）の普及などにより、大きく変わるデジタル社会において、知っておくべき知識やルールやモラル、情報発信において留意すべきことを理解・考察し、実践できるスキルを身に付けることを目指す。

Students will understand and consider the knowledge, rules, morals, and information transmission that they should be aware of in the digital society that is greatly changing due to the spread of mobile devices and artificial intelligence (AI), etc., aiming to acquire practical skills.

授業の内容 / Course Contents

日々、生まれ、変化するサービスやビジネス、人工知能（AI）など最新技術を利用した新たなビジネスや働き方が、私たちの生活や社会をどのように変えていくのか。基本的に知っておくべき知識を整理し、情報倫理に関わる、時事的な話題について解説する。オンラインのコラボレーションツールの利用などを通して、自分なりの考えを整理し、アウトプットするとともに、多様な考えを知り、思考を深める。

How will new businesses and ways of working that use the latest technologies such as services, businesses, and

artificial intelligence (AI) that are appearing and changing every day change our lives and society?

We will organize the basic knowledge that students should know and comment on current topics related to information ethics. Students will organize and output their own ideas through exercises. Students will learn various ideas and deepen their thinking through the use of online collaboration tools.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：情報倫理とは
- 2 回：情報通信社会とインターネット、進化と変遷
- 3 回：ネット・コミュニケーションの特徴と留意点
- 4 回：メディアの変遷と情報活用
- 5 回：情報技術とセキュリティ
- 6 回：インターネットと犯罪
- 7 回：個人情報とプライバシー
- 8 回：ビッグデータ活用と人工知能 (A I)
- 9 回：知的所有権とコンテンツ
- 10 回：企業と情報倫理
- 11 回：科学技術と倫理
- 12 回：デジタルデバイド
- 13 回：人間中心 (利用者中心) のデザイン
- 14 回：情報通信社会とリテラシー・総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS に事前に登録される講義資料に目を通し、テキストの該当ページを読んでおくこと。

より深い内容については、授業で説明した事項や行った演習に関連する情報を探し、理解を深めること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 講義で指示する課題を指示する方法で作成し提出:30%

テキスト / Textbooks

高橋慈子ほか 『【改訂3版】情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー』 技術評論社 2023
9784297134150 ○

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

オンライン授業のため、授業参加用のオンライン会議サービス (Zoom 等) に接続できる機器 (PC 等) が必要となる。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

メディアと人間

Media and Human

メディアと社会：コミュニケーションの観点から学ぶ

是永 論 (KORENAGA RON)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB010
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この講義では、コミュニケーションを中心的な視点に置きながら、メディアと社会の関係を捉え直すことを通じて、社会学の考え方について学ぶ。

In this course, by re-examining the relationship between media and society, students will learn about various ways of thinking encountered in sociology. We will be placing particular focus on communication.

授業の内容 / Course Contents

今から一世紀にさかのぼる間に、私たちの社会生活は、多様なメディアとの関係において展開してきた。近年のインターネットの普及などによりさらに新たな状況の展開を迎える中で、この講義では、メディアと社会の関係を、コミュニケーションの観点により基礎からとらえ直すことを目的とする。そのことは、社会学を通して社会の将来を見通す手がかりともなるだろう。

Over the course of the past century, our social lives have progressed under the auspices of various forms of media. In recent years, the massive diffusion of the internet has provoked a major upheaval. This course hence aims to thoroughly re-examine the relationship between media and society from the viewpoint of communication.

Students will learn how to use sociology in order to predict the future of society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：コミュニケーションとは何か
- 2回：ことばとコミュニケーション
- 3回：談話・文章を理解するメカニズム
- 4回：文章と文字のコミュニケーション
- 5回：映像のコミュニケーション
- 6回：自己とコミュニケーション
- 7回：親密性とコミュニケーション
- 8回：うわさ
- 9回：説得
- 10回：メディアの影響力
- 11回：世論と多数派形成
- 12回：情報社会とコミュニケーション・ネットワーク
- 13回：スポーツ文化とコミュニケーション
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

資料の配布および課題の提出は原則としてすべてオンラインで行い、紙媒体は使用しない。資料はできるだけ事前にダウンロードして目を通しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内課題:30% 中間課題:10%

筆記試験では持ち込んだ文献を使用して解答を作成する。授業内課題の評価については、授業時間を基準として提出された時間を評価上の参考にする。授業で紹介した解答には成績に加点する。

テキスト / Textbooks

辻大介ほか 『コミュニケーション論をつかむ』 有斐閣 2014 4641177201 ○

文献を持ち込んで試験の解答をする場合、電子書籍版は使用できないので注意すること。

参考文献 / Readings

授業時に資料の文献リストを通じて紹介する。授業で示した文献は試験の解答に使用することもできるので、どれか一部でよいので興味のあるものを学期内に読んでおくこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料配布と課題提出をオンラインで行うため、授業に PC またはタブレットを持参すること。

その他 / Others

口頭での応答のほか、提出課題のコメントなどについても、実名によるコミュニケーションを重視したい。教員が社会学部で担当する他の科目内容と一部が重複することがあるので、社会学部の学生はその前提で履修

すること。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

文化と社会

Culture and Society

日本社会史

李 英美 (RI YONGMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB011
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本社会の多文化化についての歴史と現状を、外国人受け入れ制度、文化、社会的背景をふまえて総合的に理解し、それらを用いて現代日本社会における「多文化共生」の論点について自分なりの視点を持ち、考察できるようになること。

Through classes, students will gain a comprehensive understanding of the history and current state of multiculturalization of Japanese society, taking into account the foreign acceptance system, culture, and social background. Students will also be able to have their own point of view and think about the issue of "multicultural coexistence" in modern Japanese society.

授業の内容 / Course Contents

現代社会は、ヒト、モノ、カネ、情報が国境をこえて移動し、私たちの日常生活に深く関係し合っている。昨今、外国人受入れをめぐるも、さまざまな議論が展開されている。だが一方で、「外国人」が置かれている社会、文化、生活状況について日常的に理解を深め、議論する機会は少ない。本授業では、日本の「多文化共生」という考え方について、近現代の日本の政策や行政の展開を踏まえながら学び、日本の多文化的状況につ

いて理解を深める。その際に、これまでの戦争や国際情勢の変動が、人びとの生活にいかなる変容を迫ったのかを、さまざまな人の移動の現象(引揚者、移民、難民、外国人などのキーワード)を軸に学ぶ。

In modern society, people, goods, money, and information move across borders and are deeply intertwined with our daily lives. In this class, you will learn about Japan's concept of "multicultural coexistence," based on the development of modern Japanese policies and administration. Then, we will observe the multicultural situation in Japan. The keywords for this class are the phenomena of human movement: repatriates, immigrants, refugees, and foreigners.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス／日本は「非移民国家」なのか？

：「日本人」て誰を指す？ その定義について考える。

2回：旅券制度（パスポート）のはじまりー戦争と国家間の人口管理

：戦争との関わりで、パスポートの歴史や国籍、国家のあり方について考える。

3回：「移民送り出し国」としての日本の歴史

：日本人が「移民」だった歴史、背景について学ぶ。

4回：アジア諸国の植民地化と移動管理

：「国籍」と「戸籍」の違いはなにか。日本の植民地時代の移動・移民の歴史を考える。

5回：「引揚者」て誰のこと？ー戦争の終わりと帰還の歴史

：第二次世界大戦後の、人びとの帰還について、引揚げ、送還、残留などの移動現象から学ぶ。

6回：移動の記憶ー国籍とアイデンティティ

：戦争や植民地支配に伴う移動が、その後の人びとの生活にどのような影響を及ぼしたのか学ぶ。

7回：日本の出入国管理・移民法制の成立と転換ー「1952年体制」と「1990年代体制」

：日本の外国人受け入れをめぐる政策議論の変遷を学ぶ。

8回：中間のまとめとディスカッションー「日本人」と「外国人」の境界とは？歴史的背景から考える。

9回：日本で働く外国人ー外国人研修・技能実習制度のはじまり

：外国人労働者の受け入れ政策の歴史を学ぶ。

10回：日本の難民・移民・外国人の収容問題

：日本で起きている非正規滞在者の処遇問題、難民認定と入国者収容所の歴史と現状について学ぶ。

11回：自治体の「多文化共生」政策ー国語教育と日本語教育のはざま

：「外国につながる子どもたち」「生活者としての外国人」に対する日本語教育について、公教育のあり方について考える。

12回：移民と移民受け入れ社会の関係ー「移民」のイメージ

：外国人の増加＝治安の悪化？について考える。

13回：災害と外国人/移民差別

：外国人たちの震災体験について学ぶ。

14回：外国人と市民権

：生活者としての権利を求める運動、「市民」の範囲、「自助・共助・公助」の議論について考える。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前配布資料や参考資料がある場合には事前に目を通して、疑問点などについてメモをとること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:20% 授業内に指示した提出物:20%

2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可とする。

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

永吉希久子 『移民と日本社会—データで読み解く実態と将来像』 中公新書 2020

田中宏 『在日外国人（第三版）』 岩波新書 2013

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

いのちの尊厳と福祉を考える

The dignity of life and Welfare

人が抱える困難を理解し、支援を考える。

長倉 真寿美 (NAGAKURA MASUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB013

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

人が生きていく上で抱える様々な困難を理解し、それを解決するためにはどのような支援が必要かを学び、考えることができるようになる。

To be able to understand the various difficulties that people face in their lives, and to learn and think about what kind of support is needed to solve them.

授業の内容 / Course Contents

要介護、疾病、自殺、孤独・孤立、貧困等の生活上の課題の実態について理解し、支援の内容について学ぶとともに、どのような支援をすべきかを検討する。

To understand the reality of life issues such as those requiring nursing care, illness, suicide, loneliness/isolation, poverty, etc., and to learn what kind of support is needed and what kind of support should be provided.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：要介護者と家族への支援

2 回：認知症患者と家族への支援

- 3回：がん患者と家族への支援
 4回：ALS患者と家族への支援
 5回：終末期ケアと支援
 6回：終活のすすめ
 7回：障害者とその家族への支援
 8回：アルコール中毒者への支援
 9回：自殺防止策
 10回：独居—どこでどう暮らすか—
 11回：孤立・孤独防止策
 12回：貧困者への支援
 13回：ホームレス支援
 14回：被災者支援

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に適宜指示をする。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー:20%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。授業資料は Canvas LMS のホームにアップする。

参考文献 / Readings

- 岡壇 『生き心地の良い町』 講談社 2013 9784062179973
 NHK スペシャル取材班 『人生の終い方』 講談社 2017 9784062206143
 上野千鶴子 『おひとりさまの老後』 文春文庫 2011 9784167801625
 佐藤幹夫 『ルポ高齢者ケア』 ちくま書房 2014 9784480067777
 町田康 『しらふで生きる』 幻冬舎 2019 9784344035324

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

広く人間、社会、社会問題に関心があること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

コミュニティをデザインする

Design for the community

暮らしとコミュニティの多面性を読み解く

鈴木 将平 (SUZUKI SHOHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB014

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ①身近な出来事やトピックから、地域社会が抱える課題や現状を捉えるための観点を身につけること
 - ②地域社会の課題や現状をさまざまな観点から説明するための社会学的な知識を身につけること
 - ③地域社会の課題や現状の背景にある社会的な現象に対する想像力・洞察力を身につけること
- ①To acquire perspectives to understand issues and current situations of local communities from familiar events and topics
 - ②To acquire sociological knowledge to explain issues and current conditions of local communities from various perspectives
 - ③To acquire imagination and insight into the social phenomena behind the issues and current conditions of local communities

授業の内容 / Course Contents

- ①「コロナ」(covid-19) をめぐって制作された映像作品を取り上げ、日々の生活の営みやそこでの人と人との関係性（暮らしとコミュニティ）という観点から分析します。

②社会学の基本的な考え方を参照ながら、「暮らしとコミュニティ」がどのように成り立っているかを映像作品から多面的に考察します。

③「暮らしとコミュニティ」を取り巻く社会的な状況や構造について、関連する新聞記事等を紹介します。

① We will take up video works produced around "Corona" (covid-19) and analyze them from the perspective of daily life and the relationships between people there (Livelihood and Community).

② While referring to the basic ideas of sociology, we will examine how "Livelihood and Community" are formed from a multifaceted perspective through video works.

③ Introduce related newspaper articles and other information on the social conditions and structures surrounding "Livelihood and Community".

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業概要、成績評価方法説明
- 2回：社会学の考え方① 意味と構造
- 3回：社会学の考え方② 期待される役割
- 4回：「コロナ」と地域社会① 感染症と身体
- 5回：「コロナ」と地域社会② 運送・移動
- 6回：「コロナ」と地域社会③ スティグマ
- 7回：「コロナ」と地域社会④ 学校と子ども
- 8回：「コロナ」と地域社会⑤ 家族
- 9回：「コロナ」と地域社会⑥ 死と死別
- 10回：「コロナ」と地域社会⑦ ジェンダー
- 11回：「コロナ」と地域社会⑧ 労働と感情
- 12回：「コロナ」と地域社会⑨ パーソナリティ
- 13回：「コロナ」と地域社会⑩ 映像資料の総括
- 14回：まとめとフィードバック

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日ごろから、ニュースや新聞記事、身の回りの出来事、感じたり考えたことについてメモを残しておくこと。中間レポートの課題となります。

講義で取り上げた内容以外にも、興味をもった事柄について、自身で参考文献などを収集し、考えを深めること。最終レポートの課題となります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度（リアクションペーパー）:30% 中間レポート:30% 最終レポート:40%

① 3分の2以上出席していない場合は単位修得不可とします。

② リアクションペーパーは採点し、コメントをつけて返却します。すぐれた内容については、匿名化した上

で全体に紹介することがあります。

テキスト / Textbooks

テキストは用いず配布資料を使用する。

参考文献 / Readings

長谷川 公一他編 『社会学 新版』 有斐閣 2019 4641053898

ジグムント・バウマン&ティム・メイ 『社会学の考え方〔第2版〕』 筑摩書房 2016 4641174814

友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編 『社会学の力〔改訂版〕——最重要概念・命題集』 有斐閣 2023
4641174814

友枝敏雄他編 『社会学のエッセンス——世の中のしくみを見ぬく〔新半補訂版〕』 有斐閣 2018
4641220980

野村一夫 『社会学感覚【増補版】』 →ウェブ上で閲覧可 文化書房博文社 1998 4830108223

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

観光学への誘い

Introduction to Tourism Studies

観光現象および観光学の総合的理解

李 崗 (LI GANG)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB015
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日常生活にある観光現象を理解するための基本的手立てを身につけ、現代社会を批判的に捉える。

Students will comprehensively understand the tourism phenomena from various perspectives, and critically think about modern society.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、観光という多層的な社会現象について考える際の基礎的な視座を学ぶ。観光の歴史、観光と文化、観光と宗教、観光とメディアなど、観光関連問題について国内外の事例を交えながら紹介し、観光学という学際的な学問領域を概観する。

In this course, students will learn basic perspectives when thinking about the multi-layered social phenomena of tourism. We will introduce tourism-related issues such as the history of tourism, tourism and environment, tourism and media, etc. By analyzing examples from Japan and foreign countries, we will introduce the main ideas of tourism study.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：観光と観光学とは
- 2回：観光の世界史①：古代ローマから近世イギリスまで
- 3回：観光の世界史②：近代観光の誕生と発展
- 4回：観光の日本史①：旅好きの日本人
- 5回：観光の日本史②：開発の波
- 6回：「新しい観光」の系譜
- 7回：観光まちづくり（映像視聴1）
- 8回：観光とメディア：「南国」の誕生
- 9回：バックパッカーの旅ー「地上の楽園」を求めて（映像視聴2）
- 10回：ディスカッション1：「楽園」が崩壊したあと
- 11回：宗教巡礼からスピリチュアリティ追求へ
- 12回：観光と文化（映像視聴3）
- 13回：ディスカッション2：観光の限界と可能性
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・授業で紹介した諸視点を用いて、身の回りに生じている観光現象について意識的に考える。
- ・できる限り観光現場へ出掛けて、自分の身体で観光を体験する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 出席状況・授業への取り組み:20% 授業内の課題:30%

テキスト / Textbooks

授業内容に合わせて、随時資料を配布する。

参考文献 / Readings

John Urry (原著), Jonas Larsen (原著), 加太 宏邦 (翻訳) 『観光のまなざし』 法政大学出版局 2014 458801014

前田勇 『新現代観光総論-第2版』 学文社 2018 4762027863

山下晋司 『観光学キーワード』 有斐閣 2011 4641058911

授業内で関連書籍や論文などを紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特にないが、英語資料の配布と外国語映像（日本語字幕付き）の視聴はある。また、担当者による講義が中心であるが、履修者が議論に参加するように促したい。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

大学と現代社会

University and Modern Society

グローバル社会における大学教育の意義

岩田 陽子 (IWATA YOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB018
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ・グローバル社会で生き抜くために必要な心構えとスキルについて理解する。
- ・大学生活における学びとキャリアの関係について理解する。
- ・グローバル社会における大学教育の意義について理解する。

To understand the attitudes and skills necessary to survive in a global society.

To understand the relationship between university study and career.

To understand the significance of university education in a global society.

授業の内容 / Course Contents

グローバル社会では、より多様で複雑な判断が常に求められる。

本授業では、そうしたグローバル社会で生き抜くうえで必要な「学ぶ力」「考える力」「信頼関係を構築する力」について理解を深める。さらに、そうした力を大学教育においてどのように培っていくかについても考えていく。

In a global society, more diverse and complex decisions are always required.

In this class, students will deepen their understanding of the "ability to learn," "ability to think," and "ability to build trusting relationships" necessary to survive in such a global society. We will also consider how to cultivate these skills in university education.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：グローバル社会の進展と大学教育
- 2回：グローバル社会で生き抜くために必要な心構えとスキル
- 3回：「学ぶ力」①
- 4回：「学ぶ力」②
- 5回：「考える力」①
- 6回：「考える力」②
- 7回：「信頼関係を構築する力」①
- 8回：「信頼関係を構築する力」②
- 9回：大学生活とキャリア①
- 10回：大学生活とキャリア②
- 11回：グローバル社会における大学教育①
- 12回：グローバル社会における大学教育②
- 13回：グローバル社会における大学教育③
- 14回：最終まとめとレポート

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、授業時に指示を出す

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 複数回の授業内課題および発表:60%

最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

適宜、配付する

参考文献 / Readings

適宜、紹介する

その他 / Others

※本授業は対面で実施しますが、課題や資料の提示、質問の受付等は、LMS（学習管理システム）を使う予定です。

※本授業では、ディスカッションやプレゼンテーション等の機会が多くあります。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

パレスチナ問題の歴史と現在

Palestine Issues Past and Present

世界の矛盾はこの地に集約される

金子 由佳 (KANEKO YUKA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB019
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

パレスチナ問題の現状を理解すること。そこから、国際政治のあり方や、平和について再考すること。

Students will gain an understanding of the ongoing Israeli-Palestinian conflict, providing them with insights into a crucial aspect of international politics and its implications for world peace.

授業の内容 / Course Contents

世界で最も解決するのが難しい紛争の一つと言われる、「パレスチナ-イスラエル問題」。2023 年には、ガザへの大規模空爆が起り、数万人もの無辜の市民が殺され、190 万人もの人々が非難を余儀なくされています。しかし、こうした大規模空爆は、2023 年に始まったわけではありません。75 年もの間、パレスチナ人は土地を奪われ、占領されてきました。しかし何故問題が解決されないのでしょうか？

歴史的背景を紐解きながら、戦争について、宗教について、平和や正義について、国際政治について、多角的に考える機会を作りたいと思います。

講師は 2012 年 8 月～2017 年 2 月までパレスチナ自治区で国際協力 NGO 職員として活動していました。東エルサレムに住みながら、ガザ地区と西岸地区で子どものための保健事業を実施。また現在は、他の国際

NGO でガザの人道支援事業などを担当しており、ガザにはこれまでに 100 回程訪れています。パレスチナ問題を知りたい方、平和、正義、宗教、政治、国際協力等に興味のある方、是非受講してみてください。

The Israeli-Palestinian conflict is often regarded as one of the most challenging issues to resolve globally. In 2023, tens of thousands of innocent civilians, with half of them being children, fell victim to Israeli bombardment in Gaza, resulting in the displacement of 1.9 million people. It's crucial to note that these large-scale airstrikes did not emerge suddenly in 2023.

Over the past 75 years, Palestinians have grappled with dispossession and occupation, prompting a fundamental question: Why has the problem persisted without resolution?

The lecturer aims to provide students with an opportunity to explore war, religion, justice, peace, and international politics from multiple perspectives, unraveling the intricate historical backgrounds that have shaped this enduring conflict.

She served as a staff member for an international cooperation NGO in the Palestinian territories from August 2012 to February 2017. During this time, she implemented health projects for children in Gaza and the West Bank while residing in East Jerusalem. Currently, she is dedicated to humanitarian projects in Gaza as a member of another international NGO. With more than 100 visits to Gaza, her firsthand experience offers valuable insights. If you are interested in an unbiased perspective on the Israeli-Palestinian conflict, or topics related to peace, justice, religion, politics, and international cooperation, we invite you to take this course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：パレスチナ問題概要と授業の進め方
- 2 回：ガザ包囲網－前半（ゲッター化したガザからの叫び）
- 3 回：ガザ包囲網－後半（テロについて考える）
- 4 回：分断されるパレスチナ（西岸地区・ガザ・東エルサレム）
- 5 回：何故国連はパレスチナ問題を解決できないのか？
- 6 回：イスラエルロビー/クリスチャンシオニストの視点からみる聖地パレスチナ
- 7 回：ユダヤ人離散の歴史と反ユダヤ主義、シオニズム
- 8 回：イスラエルの建国とパレスチナのナクバ
- 9 回：4 回の中東戦争とレバノン戦争から現在の中東情勢を考える
- 10 回：平和の象徴？オスロ合意を検証する
- 11 回：パレスチナ難民の帰還権 レバノンの事例から
- 12 回：パレスチナ経済と国際援助：援助は占領を固定化するのか？
- 13 回：生きるとは抵抗すること・パレスチナの人々の暮らし
- 14 回：ふりかえりとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自主学習は必須ではありませんが、予習・復習は理解の促進に役立ちます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業への取り組み（コメントペーパーと出席態度 25%ずつ）:50%

テキスト/Textbooks

白杵 陽 『世界史の中のパレスチナ問題』 講談社現代新書 2013 9784062881890 ○

白杵 陽 / 鈴木 啓之（共著） 『パレスチナを知るための60章』 明石書店 2016 9784750343327 -

参考文献 / Readings

高橋 宗瑠 『パレスチナ人は苦しみ続ける なぜ国連は解決できないのか』 現代人文社 2015
9784877985974

イラン・パペ 『パレスチナの民族浄化: イスラエル建国の暴力』 法政大学出版局 2017 9784588603501

立山 良司 『ユダヤとアメリカ 揺れ動くイスラエルロビー』 中公新書 2016 9784121023810

清田 明宏 『天井のない監獄 ガザの声を聴け!』 集英社新書 2019 9784087210767

英語： OCHA <https://www.ochaopt.org/>、UNRWA <https://www.unrwa.org/>

授業中動画や関連の映画を沢山お見せします。また時事ネタも扱います。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Critical thinking、探求心、想像力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし（授業で使うパワーポイントは定期的に PDF にしてメール配布します）

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

ドイツ語圏の社会

Society in the German-speaking sphere

メディアを軸に 20 世紀ドイツを考える

飯田 道子 (IIDA MICHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB020

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

20 世紀ドイツの重要な出来事をメディアを軸として多角的に検証する

While examining the important affairs in 20th century in Germany focusing on media, we will approach the roots of the various problems that lead to the present.

授業の内容 / Course Contents

20 世紀のドイツは激動の時代だった。2 度にわたる戦争、ナチ時代、ホロコースト、戦後の東西分断時代とドイツ再統一。20 世紀は映像の時代であり、これらすべての出来事は映像に記録されている。また、メディア政策はナチ時代のどいつにとって重要な戦略であった。授業では、映像資料等を多用して、理解の手助けとしながら、20 世紀ドイツの重要な出来事を検証する。

The 20th century was a turbulent period for both Germany and Europe.

Two Wars, the Nazi era, the Holocaust, the division and reunification of East and West Germany-all these events were documented on film. The 20th century was the century of visual media.

In the class, we will extensively use audiovisual materials to aid understanding.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション ドイツとは
- 2回：ドイツ革命と戦争の終わり
- 3回：ヴァイマル時代のドイツ
- 4回：ヴァイマル時代のドイツ
- 5回：ナチスの政権掌握
- 6回：ナチ時代のドイツ社会
- 7回：宣伝大臣ゲッベルスのメディア政策
- 8回：宣伝大臣ゲッベルスのメディア政策
- 9回：第二次大戦とメディア
- 10回：第二次大戦とメディア
- 11回：戦後のドイツ
- 12回：ベルリンの壁をめぐる
- 13回：再統一後のドイツ
- 14回：まとめとふりかえり

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業でとりあげた映像資料などはできるかぎり視聴してください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 出席および授業に取り組む姿勢:40%

テキスト / Textbooks

レジュメを canvas に掲載しますので、各自プリントアウトして授業に参加してください。

参考文献 / Readings

授業内に適宜指示します

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

フランス語圏の社会

Society in the French-speaking sphere

フランス社会と、様々な背景

大坪 裕幸 (OTSUBO HIROYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB021
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

一般的イメージにおさまらない現代フランス社会の多様性を理解する。それによって、受講生がより深くフランス社会について学んでいくための基礎をつくる。

Students will understand the diversity of contemporary French society, a truth that contradicts the general image of the country. This will form the basis of a more in-depth study of French society.

授業の内容 / Course Contents

現代フランスの社会は、多様な人びとのあいだの複雑な関係から成り立っている。ブルジョワジーや農民といった社会階級の違いだけではない。フランス植民地主義の歴史に深い関連をもつ移民や難民や海外領土住民の存在は、フランス社会のあり方にさらに大きな複雑さをもたらしている。この授業では、このような多様性を理解するために、映像資料を用いつつ、それぞれの人びとの生について解説を行う。さらに、多様な背景を持つ人びとがお互いにどのような社会関係を構築しようとしているかを考察する。これらを通して、重層的なフランス社会像を描き出す。

Contemporary French society consists of complex relationships among diverse people. It's not just the difference

between social classes, like bourgeoisie and farmers. The presence of immigrants, refugees, and foreign territorial people who are closely linked to the history of French colonialism brings even greater complexity to French society. In this course, for students to understand such diversity, we will explain the lives of different people while using video materials. In addition, we will consider what kind of social relationships people with diverse backgrounds are trying to establish with each other. Through this study, we will develop a multilayered image of French society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：フランスの若者たち ～学校教育、スポーツ etc.～
- 3回：若者たちが生きる社会（1） ～メディア、モード、映画 etc.～
- 4回：若者たちが生きる社会（2） ～ジェンダー、家族、少年犯罪 etc.～
- 5回：カルチャー・サブカルチャーと文化政策
- 6回：フランス革命から 第一次世界大戦まで
- 7回：第二次世界大戦とその後 ～対独協力、人民戦線 etc.～
- 8回：1968年革命と若者たち ～フランスと日本の学生運動の末路～
- 9回：ブルジョワジーと民衆の現在 ～「新富裕層」登場の後～
- 10回：植民地主義とその後の現状 ～ポスト・コロニアリズムとフランス～
- 11回：移民たちと難民たちのフランス ～ストライキとデモ行進～
- 12回：現代思想とフランス社会（1） ～精神分析とフランス社会～
- 13回：現代思想とフランス社会（2）～ドゥルーズ＝ガタリ、フーコーetc.～
- 14回：補足とまとめ ～地域的多様性 etc.～

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に提示する文献を読み、自分自身で理解を深めることが望ましい。授業時間外の学習に関する詳細は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:30% リアクションペーパー:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

授業時に必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

その他 / Others

授業開始時に、前回のリアクションペーパーに対するフィードバックを行う。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

スペイン語圏の社会

Society in the Spanish-speaking sphere

スペイン近現代史概論

加藤 伸吾 (KATO SHINGO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB022

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

スペイン近現代史の主要な出来事（政治・社会・経済）について、概略的知識を得る。スペインのみならず、日本などの現代における出来事（政治・社会・経済）についての批判的な見方を身につけることにもつながるだろう。

This course aims to introduce you to some of the important events in the modern and contemporary history of Spanish politics, society and economy. It is intended to contribute you to develop a critical viewpoint on Spanish cases, as well as Japanese ones and of other countries.

授業の内容 / Course Contents

スペイン近現代の政治・社会・経済の歴史上、主要な出来事を時系列に沿って概略を論ずる。その際、最新の学術的成果が反映される。

This course aims to introduce you to some of the important events in the modern and contemporary history of Spanish politics, society and economy, in temporal sequence. Some of the most recent academic works of the area will be included.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：授業運営に関する説明
 2 回：近代以前のスペイン史
 3 回：19 世紀：自由主義体制の確立と変容
 4 回：19-20 世紀：王政復古体制
 5 回：20 世紀：1 回目の軍事独裁体制（プリモ・デ・リベラ独裁）
 6 回：20 世紀：第 2 共和制
 7 回：20 世紀：スペイン内戦
 8 回：20 世紀：フランコ独裁（1）
 9 回：20 世紀：フランコ独裁（2）
 10 回：20 世紀：スペイン民主化（1）
 11 回：20 世紀：スペイン民主化（2）
 12 回：20 世紀：民主化後の諸政権（1）
 13 回：20 世紀：民主化後の諸政権（2）
 14 回：21 世紀：民主化後の諸政権（3）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

特に復習が重要。その際、質問を歓迎します：参考文献を読んだ上で授業で聞いた内容と異なると思われた論点がある／担当教員の説明で納得がいかない、など

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 毎回のリアクションペーパー:50%

リアクションペーパーは原則的に毎回課されます。

テキスト / Textbooks

八嶋由香利編 『スペイン 危機の二〇世紀』 慶應義塾大学出版会 2023 9784766429145 -

1. の特に加藤が執筆を担当した 2 章と 6 章は、授業の流れの予復習に役立つものと思われる。

参考文献 / Readings

立石博高・内村俊太編 『スペインの歴史を知るための 50 章』 明石書店 2016 9784750344157

永田智成・久木正雄 『一冊でわかるスペイン史』 河出書房新社 2021 9784309811086

立石博高編 『スペイン・ポルトガル史 下』 山川出版社 2022 9784634423954

Pamela Beth Radcliff Modern Spain: 1808 to the Present Wiley-Blackwell 2017 9781405186803

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

高校世界史の基礎知識程度があった方がわかりやすいが、受講に際して必須とはしない。とはいえ、世界史の知識については授業時間内ではフォローが難しいので、受講者各位の自習が求められる。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

中国語圏の社会

Society in the Chinese-speaking sphere

台湾の社会と政治、安全保障

門間 理良 (MOMMA RIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB023

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

東アジアに存在する諸問題に関する理解を深め、受講者が授業で得られた知見を利用して、台湾・中国・日本の政治、軍事、安全保障、日中米台関係の分析を的確に行うことができるような基礎を形成することを到達目標としている。

Upon completion of the course, students will have a basic ability to analyze the issues of politics, military and security in Taiwan, China and Japan, and Japan-China-US-Taiwan relations by utilizing their improved knowledge of a variety of issues in East Asia gained from the course.

授業の内容 / Course Contents

東アジアにおいて政治・経済・安全保障の面で大きな力を有する台湾・中国・日本を取り巻く諸問題を取り上げて解説し、討論を行う。台湾関連の論述に時間を割いた内容となっており、通常の「中国論」とは異なるアプローチをとる。時間配分は、①前回のコメントペーパーの紹介と質問への回答 10 分、②当日の主題解説 50 分、③討論 30 分、④コメントペーパーの記述 10 分、を目安とする。

This course provides detailed lectures on the issues of Taiwan, China and Japan that poses strong power in

politics, economy and security in East Asia. The course is designed to spend more time on Taiwan-related issues and take a several types of activities, including discussion, case study and role-playing, to understand the issues from various aspects. Each class includes: 1) Reaction and questions from previous class (10 mins), 2) Lecture (50 mins), 3) Activity (30 mins), and 4) Writing reaction paper (10 mins).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：台湾とはなにか

台湾が置かれた国際的立場、気候風土、言語、宗教などを概観する。

2回：台湾と日本【1】

日本の植民統治時代(1895-1945)から、現代の日台関係を3回に分けて論じる。

3回：台湾と日本【2】

第2回講義からの継続

4回：台湾と日本【3】

第3回講義からの継続

5回：現代の台湾政治【1】

李登輝時代(1988-2000年)、陳水扁時代(2000-2008年)の台湾政治と安全保障を論じる。

6回：現代の台湾政治【2】

馬英九時代(2008-2016年)の台湾政治と安全保障を論じる。

7回：現代の台湾政治【3】

第1期蔡英文政権(2016-2020)の台湾政治と安全保障を論じる。

8回：現代の台湾政治【4】

第2期蔡英文政権(2020-2024)の台湾政治と安全保障を論じる。

9回：台湾の新政権の誕生

2024年5月20日に発足する台湾の新政権について論じる。

10回：米中台関係

中台関係史を概観するとともに、現代の米中台関係を論じる。

11回：台湾の軍事【1】

台湾の軍事戦略と国軍の体制を論じる。

12回：台湾の軍事【2】

「台湾有事は日本有事」なのか？台湾海峡危機をどのように捉えるべきかを論じる。

13回：香港問題

「一国二制度」が崩壊し始めた香港情勢について論じる。

14回：まとめ

日本・台湾・中国・米国を中心とするアジア国際関係の将来を展望する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義の理解のために講義の中で下記以外の参考文献も紹介するが、それらを積極的に読破することを希望す

る。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパーの内容:30% 授業への積極的参加姿勢と発言内容:70%

出席回数が10回未満の受講者は成績評価の対象としない（担当者が認める特別の事情がある場合は除く）。

テキスト / Textbooks

門間理良 『緊迫化する台湾海峡情勢 台湾の動向 2019～2021』 東信堂 2023 9784798918570 ○

参考文献 / Readings

家永真幸 『台湾のアイデンティティ 「中国」との相克の戦後史』 文藝春秋社 2023 9784166614349

森本敏/小原凡司 『台湾有事のシナリオ 日本の安全保障を検証する』 ミネルヴァ書房 2022

9784623093052

若林正文 『台湾の政治 中華民国台湾化の戦後史』 増補新装版 東京大学出版会 2021 9784130301800

川島真/清水麗他 『日台関係史 1945-2020 増補版』 東京大学出版会 2020 9784130322300

安田淳/門間理良 『台湾をめぐる安全保障』 慶應義塾大学出版会 2016 9784766423167

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

朝鮮語圏の社会

Society in the Korean-speaking sphere

日韓をめぐる言語と思想の体系的視座から

崔 先鎬 (CHOI SEONHO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB024

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では東北アジアにおける近代的時代性の抱える諸問題の学問的克服を目標とし、近代以降扱われてきた様々な理論と思想史体系について、とくに日本と韓国を視野に真剣に考えていきます。

This course on modern history in Japanese and Korean politics, society, and culture will increase interest about significant relationships in Japan's and Korea's modern ages, emphasizing social science systems with the modern history between these two countries.

授業の内容 / Course Contents

総合的学問として、全ての学問の大きな柱を形成する社会科学分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後各自の専門分野に東北アジア、とくに「日韓」という視座を応用・実践していただければ幸いです。

In this course, students will study the history of Japan and Korea in light of social sciences. Furthermore, on the basis of the historical environments in these two countries, our study will extend to the histories and social sciences of Northeast Asia.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：東北アジアと日韓を論じる視座について
- 2 回：韓国語文化圏の本質的側面について
- 3 回：韓半島と東北アジア文化との間の連鎖と交錯について
- 4 回：近代主義とオリエンタリズムの背景について
- 5 回：日韓の近代期に於ける興亜論・脱亜論について
- 6 回：合理性と共同の関係性の普遍化の概念をめぐる諸論議について
- 7 回：日韓をめぐる公共圏の概念をめぐる諸問題について
- 8 回：公的論議における顕在化・潜在化について
- 9 回：Public Sphere の概観について
- 10 回：Public Sphere の構成要素について
- 11 回：近代批判の視座と Public Sphere の可能性について
- 12 回：伝統性の継承と普遍性の克服をめぐる問題について
- 13 回：日韓に於ける市民公共圏構築の要素について
- 14 回：総括関連用語およびその実例の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

教科書内に登場した様々な用語を丁寧に読むこと。

講義内容は講義時間中にパワーポイントで紹介して行くので集中してノートを取ること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間テスト:35% 最終レポート割合 :30%最終テスト割合 :35%

テキスト/ Textbooks

長田彰文 『世界史の中の近代日韓関係』 慶應義塾大学出版会 2020年 9784766420586 ○

参考文献 / Readings

日韓共通歴史教材制作チーム 編 『学び、つながる日本と韓国の近現代史』 明石書店 2013年
9784750337944

中野勝郎・杉田敦・崔先鎬 他 『境界線の法と政治』 法政大学出版局 2012年 9784588630347

中野勝郎・崔先鎬 他 『境界線の法と政治』 法政大学出版局 2016年 9784588630408

その他/ Others

授業中に電子機器の使用や写真撮影等は絶対に行わないようお願いいたします。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項(検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

異文化コミュニケーションを考える A

Exploring Intercultural Communication A

異文化コミュニケーション

灘光 洋子 (NADAMITSU YOKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB027
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

異文化コミュニケーション論の主要な概念や理論を学び、それらを用いて社会問題や日常生活における様々な異文化コミュニケーションの在り方を分析できるようになる。

To learn key concepts and theories of intercultural communication and apply them to analyze social issues and various intercultural communication phenomena in everyday life.

授業の内容 / Course Contents

異文化コミュニケーション論における概念、モデル、理論を用いて、異なる関係性や文化的背景にある人々のインターアクションを言語・非言語の視点から分析的に読み解くことで、日常的に見られるコミュニケーション行為や社会問題について批判的に考察していく。

Students will deepen their understandings of verbal and non-verbal interactions between/among people in different relationships and cultural backgrounds, using concepts, models, and theories of intercultural communication, so that they will be able to critically examine commonly observed communication practices and social issues.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：異文化コミュニケーションを学ぶ意義
- 2 回：異文化コミュニケーション研究について
- 3 回：コミュニケーションについて
- 4 回：文化について
- 5 回：言語コミュニケーション (1)
- 6 回：言語コミュニケーション (2)
- 7 回：言語コミュニケーション (3)
- 8 回：非言語コミュニケーション (1)
- 9 回：非言語コミュニケーション (2)
- 10 回：非言語コミュニケーション (3)
- 11 回：ステレオタイプ・偏見・差別
- 12 回：異文化適応
- 13 回：日常生活に見られる異文化コミュニケーション
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー・出席・授業への貢献度など:40%

単位取得には75%以上の出席が必要。

テキスト/ Textbooks

随時、関連文献を Canvas に掲載する。

参考文献 / Readings

池田理知子 『よくわかる異文化コミュニケーション』 ミネルヴァ書房

八島智子・久保田真弓 『異文化コミュニケーション論』 松柏社

その他/ Others

授業内容のテーマや順番は進捗状況に応じて変更する可能性がある。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

異文化コミュニケーションを考える B

Exploring Intercultural Communication B

日本のイスラームを事例にして異文化コミュニケーションを考える

小村 明子 (KOMURA AKIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB028

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） Zoom を使用します。

発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

主にグローバル研究の視点から、異なる文化・社会・宗教・言語・立場を偏見なく理解するためのコミュニケーションのあり方とは何か、またその意義について考える。多くの日本人にとって異文化であるイスラームを例に取り上げて異文化コミュニケーションについて考える。

本講義における最終目標は、異文化コミュニケーションのあり方と意義について学生自身が自主的に考えていくことを目指す。

Mainly from the perspective of global studies, students will learn what is the nature and significance of communication to understand without apprehension different cultures, societies, religions, languages, and positions. Students will also learn intercultural cultural communication. The lecturer will take up Islam in Japan, which is a different culture for many Japanese, as an example.

The ultimate goal of this course is to encourage students to think independently about the nature and significance of intercultural communication.

授業の内容 / Course Contents

主に、日本のイスラームを具体例として取り上げる。

日本人がイスラームをどのように知り、理解し、そして受容していくのかその過程を見ること、また日本のイスラームに関する現状や課題を知ることによって、異文化コミュニケーションのあり方と意義について考える。

また、授業のまとめとなる最終レポートでは、イスラームに限らず学生自身が興味のある文化・社会・宗教・言語などについてテーマを設定して、異文化コミュニケーションについて考える。

なお、本講義の最初の授業回では、文化交流の実践としてスロバキアの学生との文化紹介と異文化とは何かについて相互に意見交換する。実際に体験することによって、異文化コミュニケーションのあり方や意義について学生自ら考える機会を持つことになる。

The lecturer will focus mainly on Islam in Japan as a specific example.

By observing the process of how Japanese people have known, understood, and accepted Islam, and by learning about the current situation and issues related to Islam in Japan, students will learn the nature and significance of intercultural communication.

In the final report, students will learn intercultural communication by taking up their own themes in culture, society, religion, language, and other topics, not limited to Islam.

In the first and second class session of this course, students will introduce their culture to Slovak students and exchange opinions about what different cultures are as a practical example of cultural exchange. By actually experiencing it, students will have an opportunity to think about the nature and significance of intercultural communication by themselves.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション／スロバキアの大学生・大学院生との文化交流

(日本語で行います)

なぜ日本に興味を持ったのか、などスロバキアの学生と質問や意見の交換をします。海外に住む人たちにとって日本社会・日本文化とは何かを考えます。

→声が出せるようにしてください。

2回：スロバキアの大学生・大学院生との文化交流

(日本語で行います)

現在の日本人、日本社会や文化について紹介します。その後にスロバキアとの違いについて質問や意見交換を行います。

→声が出せるようにしてください。

3回：文化の違いを乗り越えるための理論の紹介1

文化相対主義について説明します。この授業回では文化を比較するとはどういうことなのか、異文化コミュニケーションに必要な理論は何であるのかについて考えたいと思います。

4回：文化の違いを乗り越えるための理論の紹介2

主に社会学で用いられるアイデンティティ理論を紹介します。また、アイデンティティとは何かについて考えます。

5回：日本におけるイスラームの歴史

日本におけるイスラームの歴史を学ぶことによって、日本人がいかにイスラームを知り理解していったのかについて考えます。

6回：イスラーム霊園開設の歴史

日本初のイスラーム霊園の開設史について学びます。この歴史を知ることで、異文化コミュニケーションの方法や意義について考えたいと思います。

7回：日本で「ムスリムである」ということ

日本には外国籍のムスリムを中心に日本人改宗者も存在します。日本でムスリムであるということはどういうことなのか、ムスリムとしてのアイデンティティそして日本人としてのアイデンティティについて考えます。なお、この授業回では、教育現場におけるイスラーム理解（教育現場におけるムスリムの子どもたち）についても触れます。

8回：「ムスリム・チャプレン」とは何か

ゲスト・スピーカーによる授業回です。

生きとし生けるもの全てにおいて死は免れません。その死の恐怖を乗り越えるため、あるいは身内の死をどのように受け入れて乗り越えるのかは、どの宗教文化においても必須の課題です。この授業回では、ムスリム・チャプレンとはどのような存在なのか、またその意義について学びます。

授業の中で質問も受け付けます。→声が出せるようにしてください。

9回：「日本的イスラーム」の試み

イスラームはその教義に厳格な宗教です。時代や地域をこえてもその教義は変化しません。ですが、過去の日本において日本社会に見合うようにイスラームを改変する動きがありました。その動向を紹介し、イスラームと日本の社会・文化について考えたいと思います。

10回：日本における食の多様性の現状について（総論）

訪日外国人観光客数が増加するにつれて、日本各地の観光地では食の多様性に対応する動きが出ています。この授業回では、日本のハラール・ビジネスのみならず、ユダヤ人のコーシャ食やヴィーガン食についても説明をします。

将来、観光業界に就職したい学生、商社などに就職して海外との貿易に携わりたい学生にはぜひ受講していただきたい内容です。

11回：日本のハラール認証の現状

ハラール認証に従事する当事者によるゲスト・スピーカーによる授業回です。授業の中で質問も受け付けます。

→声が出せるようにしてください。

12回：海外における日本のアニメの受容（1）：総論

海外では「日本文化といえばアニメ」というほど、日本のアニメがブームとなっています。日本のアニメをきっかけとして、日本語学習やアニメ以外の伝統的な日本文化に興味を持つ若者も増えています。この授業回では、いったん日本のイスラームを離れて、海外における日本のアニメの受容について話をしていきます。また、日本のアニメの中に見られる神道や日本仏教などの宗教事象や日本人の宗教観（輪廻転生など）についても説明します。

13回：海外における日本のアニメの受容（2）：イスラーム諸国における受容について

この授業回では、イスラーム諸国における日本のアニメの受容について話をします。また、過去におきた日本のアニメにおけるイスラーム的な事象の使用に関する問題についても紹介して、日本人の宗教観とイスラーム的な考えについて比較してみたいと思います。

14回：総論および最終レポート提出日

これまでの授業のまとめをします。

また、この日に最終レポートを提出していただきます。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ゲストスピーカーの授業回では質問をするために前週で予習課題を出します。それ以外の授業回でも、動画の視聴など予習を出す可能性があります。また、日本社会や日本文化について、文献購読や動画などを視聴して積極的に自主学習をしてほしいと思います。

また、各授業回で授業テーマについてのリアクションペーパーを提出していただきます。これは復習にもつながります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度（質問や発言など）：30% 毎授業ごとに出すリアクションペーパー：20%
予習課題などの自主学習：10% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

テキストはありませんが、参考資料など、必要に応じて配布・指示します。

参考文献 / Readings

小村明子 『日本とイスラームが会うとき：その歴史と可能性』 現代書館 2015 9784768457573

小村明子 『日本のイスラーム：歴史・宗教・文化を読み解く』 朝日新聞出版 2019 9784022630919

担当講師のホームページ（下記 URL）では、日本人のイスラーム理解や日本のハラール・ビジネスなど日本のイスラームに関する論文が掲載されていますので、必要であれば講読してください。

小村明子ホームページ：

<https://komuraakiko.wixsite.com/salam/research>

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

本講義では、日本社会にとって異文化であるイスラームを具体例として取り上げますが、イスラーム以外の異文化についても、自ら積極的に考えて探求しようという姿勢を求めます。また比較のために、日本社会や日本文化について自主的に学ぶ姿勢も求めます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ゲストスピーカーの授業回では質問時間を設けます。また、ディスカッションのために声を出すことが求められる授業回があります。マイクなど声が出せるようにしておいてください。

その他 / Others

科目担当講師ホームページ：

<https://komuraakiko.wixsite.com/salam/>

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

異文化コミュニケーションを考えるC

Exploring Intercultural Communication C

衣食住で知る西洋文化・風俗の理解と翻訳の意義

河合 恵美 (KAWAI EMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB029
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

西洋の文化・風俗を衣食住（ファッション、宝飾、テーブルウェア、建築、家具）を通して学び、その翻訳の意義について研究する

Students will learn the history of the Occidental Culture through customs as foods, fashions and living (architecture & furniture) and study the significance of their translations.

授業の内容 / Course Contents

中世から現代までの西洋における生活文化・風俗を衣食住の観点よりそれぞれ歴史的に俯瞰し、衣（ファッション、宝飾品）、食（テーブルウェア、道具）、住（建築・家具・室内装飾）の知識を得るとともに、専門用語の翻訳の意義について考察する。授業においてフランス語、イタリア語、英語などヨーロッパ言語を必要に応じて挙げるが、履修にあたってこれらの外国語が既習である必要はない。

The course provides a historical overview of European lifestyle and customs from the Middle Ages to the present day from the perspective of food, fashion and living, and provides knowledge of clothing (fashion and jewellery), food (tableware and utensils) and housing (architecture, furniture and interior decoration), as well as considering

the significance of translating technical terms. In the course, European languages such as French, Italian and English will be mentioned as necessary, but it is not essential to have studied these languages before taking the course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション 「西洋」の概念
- 2 回：食文化の歴史1
- 3 回：食文化の歴史2
- 4 回：食文化の歴史3
- 5 回：ファッションの歴史1
- 6 回：ファッションの歴史2
- 7 回：宝飾品（ジュエリー）の歴史
- 8 回：建築と室内装飾の歴史
- 9 回：家具の歴史1
- 10 回：家具の歴史2
- 11 回：19 世紀における万博
- 12 回：アール・ヌーヴォーの世界
- 13 回：アール・デコの世界
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で言及された著作について調べ、可能なかぎり閲覧する。

授業時に使用するスライド資料については、授業後に「Canvas LMS」にて閲覧可能とするので、復習に利用すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席を含む授業参加度および 複数回のリアクションペーパー:60% 課題レポート:40%

※出席が 10 回に満たない場合は、成績評価の対象外とする。

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

- 遠藤 雅司 『食で読むヨーロッパ史 2500 年』 山川出版社 2021 9784634151918
 岡部 昌幸 『アール・ヌーヴォーの美術（改訂版）』 東京美術 2011 9784808709211
 山口 遼 『ヨーロッパの宝飾芸術』 東京美術 2005 4808707829
 深井 晃子 『世界服飾史（増補新装 カラー版）』 美術出版社 2010 9784568400779
 イネス・ウージェル 『美しいフランステーブルウェアの教科書』 パイ インターナショナル 2018
 9784756251299

ジュディス・ミラー 『西洋骨董鑑定の教科書』 パイ インターナショナル 2018 9784756250353

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

基本的な西洋史（高校の世界史レベル）に加え、西洋美術史の入門知識があると、本授業が理解しやすい。外国語の種類は問わないが、日本語以外の外国語および翻訳・通訳に興味があること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

スライド資料や参考文献の閲覧、授業中の課題の提出などに「Canvas LMS」を使用するので、授業に PC を持参すること。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

経験から学ぶ、世界とつながる

Learning from the Past to Understand the World Today

広島・長崎・福島からみる世界

世界におけるヒロシマ・ナガサキ・フクシマ

畠山 澄子 (HATAKEYAMA SUMIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB030

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

核をひとつの事例とし、特定のテーマについて、複数の国や地域の経験を結びながら社会や世界の構造の問題として理解できる力をはぐくむことを目指します。その過程で、①資料や情報を批判的に分析する力、②自分の意見をまとめ、伝える力、③異なる意見を理解したり、その背景にある境遇や環境を想像したりする力、④様々な視点をもとにビジョンを描く力を鍛えます。

Using nuclear issues, the course aims to develop in students an ability to explore a global issue through local and humanitarian lenses. Students taking this course will be looking at realities of local communities affected by nuclear issues and pay attention to the power structure that shapes these issues. In the process, students will develop (1) the ability to critically analyse materials and information, (2) the ability to formulate and communicate their own opinions, (3) the ability to understand different opinions, and (4) imagine a future vision that takes into account a wide range of perspectives.

授業の内容 / Course Contents

核の歴史について、特に被害者の視点や声に着目しながらグローバルな観点から学びます。広島・長崎への原爆投下を出発点に、世界中で行われた核実験に目を向け、またウラン採掘や各種核施設で繰り返されてきた核被害を取り上げます。この過程で、「安全保障」「植民地主義」「フェミニズム」「資本主義」などについても議論を深めていきます。

この授業では、講義、ディスカッション、ロールプレイ、グループワークなどを組み合わせながら、大きく3つの「問い」を考えていきます。

- ①広島・長崎を伝えるとはどういうことか
- ②“核の時代”の被害者は“被爆者”だけか
- ③社会は変えていけるのか

授業の各回の具体的な内容は、履修者の興味関心やスキルに応じて決めていきますが、基本的な史実をおさえる講義の他に、以下のような演習を予定しています。

- 核被害当事者の証言を聞く
- 各種ロールプレイ（例：原爆ドームの保存をめぐる関係者会合、原発誘致に関する住民会議）
- 国内外の戦争や核に関する博物館の展示内容の調査
- 核を題材とした映画や文学作品、芸術作品の鑑賞およびレビュー
- 市民団体によるキャンペーンやアクションを調べる
- 新聞への投書を行う

授業全体を通して、読む・書く・考える・意見を述べる機会を多く設けます。

In this course, you will learn about nuclear history from a global perspective, paying particular attention to the perspectives and voices of the victims. The atomic bombings of Hiroshima and Nagasaki are the starting point, but the course will cover a wide range of topics, including nuclear tests carried out around the world and the repeated nuclear damage caused through uranium mining and various nuclear facilities. In the process, we will also discuss key concepts like 'security', 'colonialism', 'feminism' and 'capitalism'.

In this class, three main questions will be considered through a combination of lectures, discussions, role-plays and group work.

- (1) What does it mean to tell the story of Hiroshima and Nagasaki?
- (2) Are "the hibakusha" the only victims of the "nuclear age"?
- (3) Can we change the society?

The specific content of each lesson will be determined according to the interests and skills of the students, but in addition to lectures on basic historical facts, students will engage in a wide range of interactive activities.

Throughout the course, students will have many opportunities to read, write, think and express their opinions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：はじめに

初回の授業では、今後の授業の進め方や流れを確認します。授業の前に必ずシラバスに目を通し、概要や到達目標、授業計画を確認してください。シラバスにもある通り、この演習では、読んだり書いたりするほか、考えたり意見を述べる機会を多く設けます。初回の授業では、そのような環境をつくりやすくするために、早速学生同士で様々な意見交換を行います。

2回：広島・長崎で何が起きたのか

広島・長崎で1945年8月に何が起きたのかを様々な資料を用いて考えます。事前に読んだ被爆者の体験をもとに意見交換する時間を設けるほか、丸木美術館の原爆の図を「バーチャル鑑賞」するワークショップを行い

ます（予定）。原爆投下についての基本的な事実関係もおさらいします。

3回：広島・長崎の何をなぜ伝えるのか

広島・長崎の原爆の経験が語り継がれていく中で、世界から共感されうるヒロシマ・ナガサキとは何か、世界に向けて広島・長崎が発信すべきメッセージは何かという問いと市民は長く向き合ってきました。予習用の資料をもとにそれらの問いへの考えを深めていきます。授業では、原爆ドーム保存検討会のシミュレーションワークショップを行う予定です。

4回：科学や医療は被爆者を救うのか

1946年にアメリカが広島に設置した原爆傷害調査委員会（ABCC）（現・放射能影響研究所）の話、また「原爆症訴訟」や「黒い雨訴訟」の事例を紹介しながら、「広島・長崎」を考えるにあたって、科学や医療の役割をどう捉えるべきかを考えます。そうすることで、科学や医療と社会の関係についても考察します。

5回：核拡散（を支える論理と価値観）

広島・長崎への原爆投下以降の核の時代を考えます。1945年以降、各国はどのようにどの程度核軍備を拡張してきたのか、その裏にある代理戦争や核実験の事実関係を確認しながら、「核抑止論」について議論を深めていきます。授業の後半では今後の5回の授業で取り組む「“核の時代”の被害者は“被爆者”だけか」という問いとグループワークについての説明と準備を行います。

6回：課題①振り返り

課題①について、じっくりと振り返る時間を設けます。自己評価・振り返りをしたあとに、ピアレビューを行います。他の人はどのような問題意識で取り組んだのか、他の人はどのような文献を参照したのかを話し合うことで、今後のワークや課題の糧とします。後半は課題②に向けたグループワークの時間とします。

7回：第五福竜丸の被ばくから考える核被害

1954年3月にビキニ環礁で被ばくした第五福竜丸を事例に、核被害について具体的に考えます。授業の後半はグループワークのための時間とします。

8回：原子力の「平和利用」

核兵器と同時に世界各国で推進された原子力発電、すなわち原子力の「平和利用」。これを後押ししたのはどのような社会的、政治的流れだったのでしょうか。原子力、核、平和、といった言葉の持つ意味を考えていきます。授業の後半はグループワークのための時間とします。

9回：課題②グループ発表（1）

履修人数に応じて発表の時間や方法を定める予定です。

10回：課題②グループ発表（2）

履修人数に応じて発表の時間や方法を定める予定です。

11回：変化の兆しとしての核兵器禁止条約

核兵器禁止条約をひとつの例に、核兵器をめぐる国際情勢が、市民運動や国際法的なアプローチを通してどのように変わってきたかを学びます。また、課題③に向けて「社会を変える」ということについても考え始めます。

12回：福島は今

2011年3月の福島第一原発での事故について、とくに被害を受けた人たちの声を出発点に考えます。後半はアクションプランについて他の人と話しあう時間も設けます。

13回：選挙で何が変えられる？

選挙という切り口から核問題を考えます。各政党の議員になりきって、核兵器の問題と原発の問題を議論するロールプレイを予定しています。

14回：核の時代を振り返る

授業を振り返り、まとめます。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

ディスカッションやグループワークのために 30 分～最大 2 時間程度の予習や復習を求めています。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と各回の授業のおわりに時間を設けて取り組む「振り返りシート」の提出:20% グループワークやディスカッションへの貢献度:20% 課題①:エッセイ:20% 課題②:グループワークと個人レポート:20% 課題③:アクションプラン&成果物:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

対話を学ぶ

Dialogue Studies

問題解決のツールとして

中沢 聖史 (NAKAZAWA SATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB031
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本科目は立教サービスラーニング(RSL)科目群のひとつとして開講する。サービスラーニングによる学びが大切とする要素に「対話」がある。それは、自己との対話（省察）、現場の人々との対話など、サービスラーニングの基本動作ともいえる重要なキーワードである。

本講義では平和構築をテーマとして、「対話が大切である」という前提を多角的に考察し、なぜ平和構築において対話というツールが重視されるのかを理解する。

"Dialogue" is one of the elements that service learning emphasizes. It is a key factor that can be regarded as the basic action of service learning, such as inner dialogue(reflection) and dialogue with people in conflict.

With the theme of peacebuilding, this course will examine the premise that "dialogue is important" from multiple perspectives and understand why the tool of dialogue is emphasized in peacebuilding.

授業の内容 / Course Contents

近年、様々な分野で導入が進んでいる生成型 AI の課題や、自動翻訳機能などを題材に、人間の対話がどのような本質や可能性を持っているかを再発見する。その上で、紛争予防・紛争解決などのスケールで、対話が果た

してきた役割を振り返り、平和構築のツールとしての対話の可能性を学ぶ。授業の終盤では、地域社会や日本国内に目を向け、良質な対話を妨げる要因を理解するとともに、それらを乗り越えて対話を実践できる市民になるための視座を養う。

Using the challenges of generative AI, which has been increasingly introduced in various fields in recent years, and automatic translation functions as subjects, students will rediscover the nature and potential of human dialogue. The class will review the role that dialogue has played on scales such as conflict prevention and conflict resolution, and learn about the potential of dialogue as a tool for peacebuilding. Through the course, students will look at local communities and within Japan to understand the factors that hinder mutual understanding, and to develop a perspective that will enable us to overcome these factors and become citizens who can practice quality dialogue.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：平和構築における対話の役割
- 3 回：人間より「優れた」対話ができる AI の精度
- 4 回：AI に紛争のトラウマを癒せるか
- 5 回：人間に必要な対話とはなにか
- 6 回：紛争後の平和構築：暴力の火種を残さないために
- 7 回：戦争と歴史認識：当事者性を共有する対話とは
- 8 回：対話と分断①：プロパガンダとポピュリズム
- 9 回：対話と分断②：SNS とフィルターバブル
- 10 回：対話と分断③：祭事・習俗が果たしてきた役割
- 11 回：身近な“Conflict”から対話の役割を考える
- 12 回：地方都市の挑戦：対話がつくる将来のまち
- 13 回：民主主義のツールとしての対話とは
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、履修登録完了後に「Canvas LMS」上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業のリアクションペーパー:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

立教ゼミナール2

Seminars for Students of Rikkyo University 2

日本の社会保障制度の課題を考える

畠中 亨 (HATANAKA TOHRU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB071
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2240
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

公的年金や健康保険など日本の社会保障制度は財政問題、格差問題、費用負担の問題など様々な課題にさらされています。社会保障制度の仕組みをしっかりと学んだうえで、その問題点をどのように解決していくべきかを考えていきます。

Japanese social security system, including public pensions and health insurance, is beset with various problems such as financial problems, inequality, and cost burdens. After learning about the structure of the social security system, we will consider how to solve these problems.

授業の内容 / Course Contents

日本の社会保障制度のうち、公的年金、健康保険、介護保険、雇用保険、労災保険、生活保護、生活困窮者自立支援制度、障害者総合支援法、障害者雇用促進法、子ども・子育て支援新制度の中から受講生がそれぞれテーマを選び、研究発表と討論を重ねながら制度の課題克服に向けた展望を探求します。

Students will select a theme from among Japan's social security systems: public pension, health insurance, long-term care insurance, unemployment insurance, workers' accident compensation insurance, public assistance, the

Self-Support System for the Needy, the Comprehensive Support for Persons with Disabilities Act, the Law for Employment Promotion of Persons with Disabilities, and the new childcare support system, and explore prospects for overcoming system challenges through repeated research presentations and discussions.

Translated with DeepL.com (free version)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：日本の社会保障の仕組み
- 2 回：社会保障制度分析の視点（1）
格差・貧困と社会保障
- 3 回：社会保障制度分析の視点（2）
少子高齢化と社会保障
- 4 回：社会保障制度分析の視点（3）
社会保障の財政問題
- 5 回：社会保障の現状分析（1）
- 6 回：社会保障の現状分析（2）
- 7 回：社会保障の現状分析（3）
- 8 回：社会保障改革の動向分析（1）
- 9 回：社会保障改革の動向分析（2）
- 10 回：社会保障改革の動向分析（3）
- 11 回：社会保障の課題克服の検討（1）
- 12 回：社会保障の課題克服の検討（2）
- 13 回：社会保障の課題克服の検討（3）
- 14 回：これからの社会保障について総合的討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自身が選んだテーマについて文献学習をし、プレゼンテーションの作成を進める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% プレゼンテーション:60% 議論への参加状況:40%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。授業時に資料を配布する。

参考文献 / Readings

山田篤裕, 駒村康平, 四方理人, 田中聡一郎, 丸山桂 『最低生活保障の実証分析 -- 生活保護制度の課題と将来構想』 有斐閣 2018 9784641174375

芝田英昭, 鶴田禎人, 村田隆史編 『新版 基礎から学ぶ社会保障』 自治体研究社 2019 9784880376912

酒井正 『日本のセーフティネット格差』 慶応義塾大学出版会 2020 9784766426496

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

プレゼンテーション作成のため PC を使用する。

授業支援システムは CanvasLMS を使用する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

立教ゼミナール 2

Seminars for Students of Rikkyo University 2

東南アジアで学ぶ文化人類学

久保 忠行 (KUBO TADAYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB072
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2240
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業の到達目標は、次のとおりである。

- 1) 文化人類学の視点から身の回りの事柄を捉えられるようになること。
- 2) 東南アジアへの理解をとおして、「日本」を相対化できること。

In this course, students will be able to:

- 1) understand the issues around them from the perspective of cultural anthropology.
- 2) relativize "Japan" through an understanding of Southeast Asia.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、テキストの購読とディスカッションをもとに東南アジア地域を事例に文化人類学の考え方と理論を学ぶ。あるいは、文化人類学の視点をとおして東南アジア地域について学ぶこともできる。この授業は反転授業の形式をとり、受講者は各章末の課題に事前回答し授業に臨む。受講者数にもよるが、3~5 グループ程度に分かれて回答について意見交換をおこない対象への理解を深める。

In this class, students will learn about the concepts and theories of cultural anthropology through case studies of

the Southeast Asian region through text readings and discussions. Students can also learn about the Southeast Asian region through the perspective of cultural anthropology. Students will be divided into about three to five groups to exchange opinions on their answers and develop their understanding of the topics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：文献講読とディスカッション
- 3回：文献講読とディスカッション
- 4回：文献講読とディスカッション
- 5回：文献講読とディスカッション
- 6回：文献講読とディスカッション
- 7回：文献講読とディスカッション
- 8回：文献講読とディスカッション
- 9回：文献講読とディスカッション
- 10回：文献講読とディスカッション
- 11回：文献講読とディスカッション
- 12回：文献講読とディスカッション
- 13回：文献講読とディスカッション
- 14回：まとめと展望

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	○ ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

受講者は指定された文献を熟読し、各章の問いに回答しておくこと。
 報告者 (グループ) は、担当章のまとめとともに論点をレジюмеにまとめておくこと。どのような質問が出て
 も対応できるように準備しておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容:35% 議論への参加:35% 事前学習と振り返り:30%

特に以下の点を評価する。報告：分かりやすいレジюмеと聴衆に伝わる報告。議論への参加：記述内容や報告
 者が立てた論点への批判的・建設的な検討。事前学習：文献内容の的確な理解と不明な箇所の下調べ。

テキスト / Textbooks

箕曲在弘ほか (編) 『東南アジアで学ぶ文化人類学』 昭和堂 2024 9784812223062 ○

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・適切な文章で、論理的な説明ができること。
- ・他者の意見を正確に理解できること。
- ・自身の意見を論拠をもとに明確に提示できること。
- ・グループワークをとおして建設的に議論に参加できること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

グループで意見を集約し、レジユメを作成する必要がある。そのため、Google ドキュメントなどで共同編集できるように準備しておくこと。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

立教ゼミナール発展編 2

Seminars for Senior Students of Rikkyo University 2

エコロジー経済学から構想するウェルビーイング

佐藤 太 (SATO FUTOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB073
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP3240
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

受講生は、エコロジー経済学、持続可能性、およびウェルビーイング（身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念）について理解を深めると同時に、実践家との対話をとおして持続可能なウェルビーイングを社会に実装するための考え方やスキルを身に付けます。また、批判的考察と学際的なディスカッションの方法に親しみます。

Students will deepen understanding of ecological economics, sustainability, and wellbeing (a concept that implies good states in physical, emotional, and social aspects of a person and society). They will learn frameworks and acquire skills, through conversations with practitioners, to materialize sustainable wellbeing in society. They will also familiarize themselves with critical thinking and interdisciplinary discussions.

授業の内容 / Course Contents

エコロジー経済学、持続可能性、ウェルビーイングという学問や概念の基礎を振り返るとともに、ディスカッションをとおして理解を深めます。同時に、ゲスト・スピーカーとの対話をとおして、持続可能なウェルビーイングを作り出す実例や可能性、課題を学びます。受講生はグループに分かれて話し合いをし、このコースで

の学びを広める方法や、身近な適用例を考えてコースの終盤で発表します。また各受講生は、与えられたテーマについてコース中に1回発表します。

The course will review basics of ecological economics, sustainability, and wellbeing. It will help students deepen understanding of these studies and concepts through discussions. It will examine, through conversations with the guest speakers, practical examples, possibilities, and challenges in materializing sustainable wellbeing in society. The students will form groups and work for projects such as to disseminate the learnings from the course or to apply them in daily life, and present the results at the end of the course. Each student will make one presentation during the course of a summary of assigned theme.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：コースの概要と進め方、ディスカッションへのウォームアップ
- 2回：批判的考察、抽象と捨象、学際的研究、発表の練習
- 3回：エコロジー経済学の視点：SDGsと持続可能性
- 4回：ウェルビーイングと持続可能性
- 5回：エコロジー経済学の視点：経済学と物理学・生物学の出会い
- 6回：実例から学ぶ：農的暮らしとコミュニティ（ゲスト）
- 7回：コモンズと社会的連帯経済
- 8回：実例から学ぶ：コモンズと仕事づくり（ゲスト）
- 9回：実例から学ぶ：社会的連帯経済（ゲスト）
- 10回：農的暮らしを応用する
- 11回：地域に循環、つながり、仕事をつくる
- 12回：持続可能なウェルビーイングのための指標
- 13回：プロジェクト発表
- 14回：まとめとレポート

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前学習、復習、課題については、授業内でお伝えします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度:20% リアクションペーパー:20% 資料まとめ発表:20% グループプロジェクト:20% 最終レポート:20%

テキスト / Textbooks

指定テキストはありません。各授業または事前に資料を配布します。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

本コースの受講には、2023年春学期新座キャンパスで開講された「持続可能な福祉コミュニティ」を受講していることが望ましい。立教ゼミナール発展編は、3年4年次生を主な対象としてますが、上記コースを受講済

みであれば2年生の履修も歓迎します。同コース未受講の場合には、別途配布する資料をお読みいただきます。

その他/ Others

ゲストの都合などにより、授業スケジュールの順番や内容が変更になる場合があります。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

持続可能性の理論と実践

Sustainability Theory and Practice

エコロジー、エコノミー、生命倫理、地域の視点から学ぶ

空閑 厚樹／佐藤 太 (KUGA ATSUKI/ SATO FUTOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB090
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2210
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

受講生は、批判的考察の方法を学び、持続可能性の概念を再確認します。また、持続可能性の課題を日常の暮らしの中から、具体的に解決していくための考え方や実践の例を学びます。これらを習得しつつ、自分の考えを分かりやすく人に伝える方法や、グループの意見のまとめ方をディスカッション体験を通して身に付けます。

Students will learn how to critically examine issues and they will review the concept of sustainability. They will also learn theories and practices on how to solve sustainability issues with daily activities. They will acquire, through discussion sessions, skills to clearly communicate their thoughts to others, as well as ways to synthesize opinions.

授業の内容 / Course Contents

エコロジー経済学と生命倫理学を参考に持続可能性概念を再確認し、それを基にエネルギー、気候変動、人口減少下の持続可能性という現代社会の抱える問題点を批判的に考察します。その後、地域から持続可能性を実現していくための考え方と実践例を学びます。実践例としては、農的暮らしや社会的連帯経済、エネルギーの

自給、ケアの自給、地域で職を作るなどを取り上げる予定です。

The course will review the concept of sustainability through the viewpoints of ecological economics and bioethics. It will then critically discuss contemporary issues of energy, climate change, and sustainability with declining population. It will examine practical examples of building sustainability in local level. The examples will include lifestyle based on agricultural activities, social and solidarity economy, self-provisioning energy, self-provisioning care, and creating jobs in local communities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入①：コースの背景、概要、および批判的考察について（空閑・佐藤）
- 2 回：エコロジー経済学と持続可能性（佐藤）
- 3 回：生命倫理学と持続可能性（空閑）
- 4 回：現状の批判的考察①：エネルギーと気候変動（佐藤）
- 5 回：現状の批判的考察②：コミュニケーションのあり方を考える（空閑）
- 6 回：対応策の枠組み検討①：「善さ」を支えるもの（空閑）
- 7 回：対応策の枠組み検討②：技術的な解決策と社会制度・ライフスタイルからの解決策（空閑・佐藤）
- 8 回：対応策の枠組み検討③：コモンズと社会的連帯経済（佐藤）
- 9 回：具体的事例検討①：農的暮らしと食の地域自給（ゲスト）
- 10 回：具体的事例検討②：エネルギーの地域自給（ゲスト）
- 11 回：具体的事例検討③：社会的連帯経済（ゲスト）
- 12 回：具体的事例検討④：ケアの地域自給（ゲスト）
- 13 回：具体的事例検討⑤：地域で仕事を作る（ゲスト）
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前学習、復習、課題については、授業内でお伝えします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクションペーパー：40% 最終レポート：40% 授業への貢献度：20%

テキスト / Textbooks

佐藤、川上、空閑 『さようなら、オメラス —「持続可能な世界」を自分たちでたぐりよせるために— (仮)』 まつやま書房 2024

参考文献 / Readings

授業時に紹介します。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業であ

る。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

入門・経済教室

Introduction to Economics

市場の役割と限界を理解し、経済の諸問題を読み解く。

石井 優子 (ISHII YUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB102

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

市場という概念を通して、経済学および経済の基本的な考え方を理解する。

Students will understand the basics of economics and the economy using the concept of markets.

授業の内容 / Course Contents

経済学の基礎的概念である市場の役割と限界を中心に、経済学および経済の基本的な考え方について講義を行う。さらに、その「市場の役割と限界」という視点から、現実には生じている経済の諸課題として「所得分配と貧困」に関連するテーマについて考察し、学生の理解を深めたい。

Lectures will be given on the basic concepts of economics and the economy, focusing on the roles and limitations of the market, which is the basic concept of economics. Furthermore, I would like to examine the topics of "income distribution and poverty" as real economic problems from the viewpoint of "the roles and limitations of the market" to deepen students' understanding.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

- 2回：市場の役割①
 3回：市場の役割②
 4回：市場の限界と政府の役割①
 5回：市場の限界と政府の役割②
 6回：市場経済と経済学の歴史①
 7回：市場経済と経済学の歴史②
 8回：市場と所得分配①：効率性と公平性
 9回：市場と所得分配②：日本の格差の現状と課題 1
 10回：市場と所得分配③：日本の格差の現状と課題 2
 11回：市場と所得分配③：日本の格差の現状と課題 3
 12回：市場と所得分配④：グローバルな格差の現状と課題 1
 13回：市場と所得分配⑤：グローバルな格差の現状と課題 2
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 小テスト・リアクションペーパーなど:20%

テキスト / Textbooks

毎回配布する資料に沿って講義を進める。

参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

入門・経済教室

Introduction to Economics

経済学的思考を学ぶ

池田 毅 (IKEDA TAKESHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB103
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面（全回対面）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「経済学的思考」の基本を学び、最低限の経済学的知識を身に付ける。経済学が重視する「市場」の働きを正確に理解し、その働きがうまくいかない、いわゆる「市場の失敗」についても学ぶ。

The objectives of this course are to learn the basics of "economic thinking" and to acquire a minimum level of economic knowledge. Students will learn exactly how the "market" works, which is the focus of economics, and learn about so-called "market failures" in which the market does not work well.

授業の内容 / Course Contents

身近な経済問題への応用例を交えながら「経済学的思考」の基本について解説する。また、経済学が重視する「市場」の働きについて、それがどのような意味で望ましさを有しているのか解説する。加えて、そうした「市場」の働きがうまくいかない状況（いわゆる「市場の失敗」）としてどのような状況があるのか、またそれをどのように解決すべきなのか、についても解説する。

The basics of "economic thinking" will be explained with application examples to familiar economic problems. Students will learn the function of the "market," which economics emphasizes, and in what sense it is desirable.

In addition, students will learn what kinds of situations exist in which the functioning of such "markets" does not work well (so-called "market failures") and how they should be resolved.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：経済学とは何か：ミクロ経済学とマクロ経済学
- 2 回：ミクロ経済学の基本：価格はどう決まるのか
- 3 回：ミクロ経済学の基本：消費者行動
- 4 回：ミクロ経済学の基本：企業行動
- 5 回：市場の機能と価格メカニズム
- 6 回：所得分配の決まり方
- 7 回：独占と規制
- 8 回：寡占市場
- 9 回：外部性と市場の失敗
- 10 回：不完全情報の世界
- 11 回：マクロ経済学の基本：マクロ経済活動の捉え方
- 12 回：GDP はどう決まるのか
- 13 回：マクロ経済の主体：家計部門と企業部門
- 14 回：マクロ経済の主体：政府部門と中央銀行の役割

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：基本的にテキスト（教科書）に沿って授業を進めていくので、事前に読んでおおよその内容をつかんでおくこと。

復習：授業後に使用したスライド等の資料を LMS にアップするので、学んだ内容の定着に努めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内のリアクション課題:20%

テキスト / Textbooks

井堀利宏 『大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる』（文庫版） 角川文庫 2018 9784046040572

○

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内のリアクション課題は LMS を通じて出題の予定なので、LMS にアクセスできる情報機器（PC やスマートフォン等）の持参が望ましい。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

入門・経済教室

Introduction to Economics

資本主義の「終焉」について考える

佐々木 隆治 (SASAKI RYUJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB104

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

資本主義経済とその諸問題についてマルクス経済学の観点から学ぶ。

Students will learn the capitalist economy and its various problems from the perspective of Marxian economics.

授業の内容 / Course Contents

経済格差の拡大や貧困の増大、労働問題の深刻化、環境破壊の進行、金融化による経済の不安定化など、現在の資本主義経済は様々な問題を抱えています。また、先進国における経済の「長期停滞」が続くなか、社会主義や共産主義の新たな可能性について語る研究者も増えてきています。本講義では、現代の資本主義経済が抱える諸問題を、社会経済学の古典的名著であるカール・マルクス『資本論』の観点から検討し、ポスト資本主義の可能性について考えてみたいと思います。

The current capitalist economy faces a variety of problems, including widening economic disparities, increasing poverty, worsening labor problems, progressive environmental destruction, and economic instability due to financialization. In addition, as the "long-term stagnation" of economies in developed countries continues, an increasing number of researchers are talking about the new possibilities of socialism and communism. This

lecture will examine the various problems facing the modern capitalist economy from the perspective of Karl Marx's "Capital," a classic work in political economy and consider the possibilities of post-capitalism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：『資本論』の世界①商品と貨幣
- 3回：『資本論』の世界②資本
- 4回：『資本論』の世界③資本蓄積
- 5回：『資本論』の世界④資本主義の始まりと終わり
- 6回：資本主義の歴史を概観する
- 7回：資本主義と労働問題
- 8回：資本主義と環境問題
- 9回：高度成長から長期停滞へ
- 10回：資本主義とオートメーション
- 11回：レント資本主義
- 12回：20世紀型「社会主義」はなぜ失敗したか
- 13回：21世紀型コミュニズムの可能性
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義において指示するテキストの箇所を予め読んでおくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー:20%

テキスト / Textbooks

佐々木隆治 『カール・マルクス』 筑摩書房 2016 ○

アーロン・ベナナフ 『オートメーションと労働の未来』 堀之内出版 2022 ○

参考文献 / Readings

佐々木隆治 『世界の思想シリーズ マルクス 資本論第3巻』 角川選書 2024

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

統計情報で社会・経済を診断する

Statistical Analysis of Society and Economy

データサイエンス入門

小野原 彩香 (ONOHARA AYAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB105
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回は、オンラインで実施する。
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、社会や経済に関する調査や指標を読み解けるようになるための基礎知識として、様々な機関が公表している統計データの種類や現状を紹介する。また、それらを活用して、社会的・経済を診断するという目的に沿って、様々なデータ解析の方法を概観する。さらに、既存のデータだけでなく、SNS やメディア記事など1次情報の収集、加工の方法に触れ、データの作成方法についても理解し、演習を通して実践する。また、企業等が開催するデータ分析コンペティションへの理解を深め、現代社会においていかに実践の場で各種のデータ分析スキルが求

This lecture will introduce the types and current status of statistical data published by various organizations as a basic knowledge to be able to read and interpret surveys and indicators related to society and the economy. It will also give an overview of various methods of data analysis with the aim of utilizing them to diagnose social and economic conditions. In addition, students will be exposed to methods of collecting and processing primary information such as SNS and media articles as well as existing data, understand how to create data, and practice through exercises. The course also aim to deepen the understanding of data analysis competitions held by

companies, etc., and to realize how various data analysis skills are required in practice in modern society.

授業の内容 / Course Contents

授業では社会、経済統計を分析するために必要なグラフの読み方や作成方法、単純集計、度数分布、代表値などの基本的な統計量の算出方法、データの読み取り方を学習する。その後、応用的な時系列データの取り扱いやトレンドのあるデータ、各種の経済指標の算出方法と解釈の仕方を学習する。後半回では、応用的なデータ分析の方法（GIS、テキストマイニング、データ分析コンペティション）を紹介し、実際に簡単な分析についての演習を行う。

本講義では実践的なデータ分析のスキルを養うため、1回の講義の後、1回の演習を行う。

In the class, students will learn how to read and create graphs necessary for analyzing social and economic statistics, how to calculate basic statistics such as simple totals, frequency distributions, and representative values, and how to read data. Students will then learn how to handle applied time-series data, data with trends, and how to calculate and interpret various economic indicators. In the latter half of the course, applied data analysis methods (GIS, text mining, and data analysis competitions) will be introduced, and students will actually perform exercises on simple analyses.

In order to develop practical data analysis skills, this course will consist of one lecture followed by one exercise.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（受講上の注意、社会・経済統計の概念）
- 2回：社会・経済統計へのアクセス（e-stat, RESAS, V-RESAS を実例として挙げながら、統計の起源、我が国における統計の政策と現状、データの質、2次データの収集と注意点について学習する）
- 3回：基本統計量に関する演習（e-stat, RESAS, V-RESAS を使用し、度数分布、ヒストグラム、箱ひげ図、代表値、分散、散布図、相関、ローレンツ曲線、ジニ係数の算出方法と算出した統計量の読み取り方を学習する。）
- 4回：時系列データ（時間経過に従って変化するようなデータの取り扱いについて学習する。時系列データのグラフの読み取り方、及び作成時の注意点、季節調整、移動平均について算出方法と解釈の仕方を習得する。）
- 5回：時系列データに関する演習（e-stat, RESAS, V-RESAS を使用し、季節調整、移動平均について算出方法と解釈の仕方を確認する。）
- 6回：様々な経済指標（e-stat, RESAS, V-RESAS を実例として使用しながら、構成比、変化率、寄与度、名目値、実質値について算出方法と解釈の仕方を習得する。）
- 7回：経済指標に関する演習（e-stat, RESAS, V-RESAS を使用し、構成比、変化率、寄与度、名目値、実質値について算出方法と解釈の仕方を確認する。）
- 8回：地理情報を持つ統計情報から社会・経済を診断する（位置情報を持つデータを取り扱う際に必要になってくる地理情報システムやよく使われる webGIS やデスクトップ GIS の紹介。実例を用いながら、座標系、投影法について体系的に学習する）
- 9回：GIS に関する演習（地理院地図、RESAS, V-RESAS を使用し、コロプレスマップ、ヒートマップなどを作成する。）
- 10回：文章から社会・経済を診断する（テキストマイニングの方法について学習する。各種形態素解析器の紹介、Zipf の法則、タイプ、トークン比、TF-IDF など基礎知識の習得を目指す。）
- 11回：テキストマイニングに関する演習（1次情報の取得の方法と注意点、加工の仕方について学習する。形態素解析を行なったテキストについてクロス集計、統計的検定を行う。）
- 12回：総合的な分析（社会で開催されている様々なデータ分析コンペティションについて概観する、各コンペティションの規模、種類、対象について整理する。）

13 回：総合的な分析に関する実習（現在、世界最大規模のデータ分析コンペティションである kaggle を実際に使用しつつ、実社会におけるデータ分析の必要性や範囲、様々な手法が実用されていることを実感する。）

14 回：まとめ（最終テスト）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・レジュメや関連資料を再読し、不明な点がないか確認すること。
- ・指標や図表の作成手順を理解し、自分で再現できるか確認する。
- ・統計を通じて社会を観察し、自らの考えや論点を明確にし、それを学術的な文章として簡潔にまとめる。
- ・講義 1 回あたりにかかる準備及び課題にかかる時間は各回合計 240 分以上を想定。
- ・各演習回で使用するデータやソフトウェアについて予め調べ、自分の PC にインストールできるものは各自でインストールし、動作確認すること。講義内では動作確認が済んでいることを前提に、課題やディスカッションを進める

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業課題(6回×10%, 記述課題含む):60% 最終テスト割合 :40%

テキスト / Textbooks

適宜、資料を配布する。

参考文献 / Readings

立教大学社会情報教育研究センター 『日本の公的統計・統計調査』 三恵社 2019 9784866931258

その他、講義に必要と考えられる文献を各自調べておくこと。

・参考文献『日本の公的統計・統計調査』については、立教大学の学生には CSI 事務室にて、無料で配布している（参考 URL：<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/toukei/SitePages/measure.aspx>）。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

基本的な統計知識（平均、分散、標準偏差、度数分布表、ヒストグラム、散布図、相関など）があることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC を使って演習を行う。

その他 / Others

- ・ e-stat「政府統計の総合窓口」、RESAS「地域経済分析システム」、V-RESAS の情報を利用する。
- ・ 国土地理院 地理院地図（GIS Maps）を利用する。
- ・ kaggle(<https://www.kaggle.com/>)を利用する。予めアカウントを作成のこと。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

景気・格差問題と統計情報

Business Indices, Disparities and Statistics

経済統計入門 1

小野原 彩香 (ONOHARA AYAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB106

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）第2回、第3回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回は、オンラインで実施する。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

「景気」や「格差」といった言葉は日常でも多く用いられ、社会問題として注目されることが多い。しかしながら「景気」や「格差」が示す内容は多岐にわたり、実態としてこれらをとらえるのは容易ではない。また、あらゆる情報が電子的に蓄積可能となり、その蓄積量は加速度的に増加している事から、データによる社会の把握により複雑な課題が生じている。本講義では、統計情報を利用してこれらの問題についての理解を深め、社会が抱える問題を論じるための視点を得ることを目的とする。

Words such as "the economy" and "disparity" are often used in daily life and are often noted as social problems.

However, the details of "the economy" and "disparity" are diverse, and it is not easy to grasp them as reality. In addition, various information can be stored electronically, and its amount is increasing at an accelerating rate.

This situation has led to complex issues regarding the understanding of society through data. The aim of this course is to use statistical information to gain a better understanding of these issues and to gain a perspective for discussing the issues facing society.

授業の内容 / Course Contents

統計情報を利用して現代社会の現状を理解する方法を学ぶ。授業は講義と演習・議論を組み合わせて行う。毎回のテーマについて、得られた統計を読み解き、その特徴や課題を共有するスキルを養う。

We will see and think about the current issue on contemporary Japan using official statistics. The classes consist of lecture, exercises, and discussion. For each theme, we will interpret the statistics and develop skills to share their respective features and issues.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

2回：統計法（動画）

3回：公的統計の仕組み（動画）

4回：指数計算（動画）

5回：データへのアクセス演習

政府統計へのアクセスと WebGIS を用いた位置情報のあるデータの取り扱い、時系列データの取り扱い（折れ線グラフ）。

6回：人口統計（動画）

7回：人口統計演習

人口統計データを高齢化率、従属人口指数、女性の出生数など観点から分析することで少子化を考える（折れ線グラフ、積み上げ棒グラフ）。

8回：労働統計（動画）

9回：労働統計演習

完全失業率・無業率・求人データを分析し、労働統計から日本の労働問題について考える（任意のグラフ、地図、集計表の作成）。

10回：賃金統計（動画）

11回：賃金統計演習

賃金統計へのアクセスを行い、集団間での賃金格差についてヒストグラムと統計指標を作成することで読み解く。

12回：消費統計（動画）

13回：消費統計演習

家計統計から近年の消費行動をとらえる。ローレンツ曲線とジニ係数を実際に作成する。

14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

オンデマンドの動画講義と教室でのコンピュータ演習を合わせた授業スタイルをとる。

講義パートは配信動画による。該当週のうちに確認する。

解説動画を見て基礎事項をおさえたうえで翌週の演習に臨むこと。

演習では、Google colaboratory と Excel を使用する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 複数回の授業課題:80% 複数回の授業期間内レポート:20%

テキスト / Textbooks

必要な資料は配布する。

参考文献 / Readings

梅田雅信・宇都宮浄人 『経済統計の活用と論点』 東洋経済新聞社 2009（第3版） 9784492470817

松井博 『公的統計の体系と見方』 日本評論社 2008 9784535554726

立教大学社会情報教育研究センター 『日本の公的統計・統計調査』 三恵社 2019 9784866931258

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

PC等IT機器の操作に苦手意識がないこと。苦手意識があったとしても、改善しようとする意思があること。

平均、最大値、最小値など基本的な統計概念については、特に解説しない。

その他 / Others

- ・ e-stat「政府統計の総合窓口」の情報を利用する。
- ・ 参考文献『日本の公的統計・統計調査』については、立教大学の学生にはCSI事務室にて、無料で配布している（参考URL：<https://spirit.rikkyo.ac.jp/csi/toukei/SitePages/measure.aspx>）。
- ・ 本授業は、「対面（一部オンライン）」である。対面7回。オンライン（動画）7回。
- ・ 第5, 7, 9, 11, 13回は演習回のため、教室で行う。
- ・ 第1回目と第14回目も教室。それ以外は動画で自習を行

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別A

法と社会

Law and Society

比較法とグローバリゼーション

貝瀬 幸雄 (KAISE YUKIO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB108
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 法学部所属学生随意科目（卒業要件単位に含むことはできない）

授業の目標 / Course Objectives

法学の学習に必要な外国法についての基礎知識を修得するために、比較法の方法、比較法の隣接諸分野、法族論、法とグローバリゼーションなどのテーマを学習する。特にグローバリゼーションが比較法に及ぼす影響に注目する。不十分ではあるが、法学入門としての役割も果たしたい。

In order to acquire fundamental knowledge concerning foreign law which is required for the study of law in general. Students in this course will study the methods of comparative law, areas adjacent to comparative law, the doctrine of legal families, law and globalization, and other topics.

授業の内容 / Course Contents

担当者が執筆したテキストブックを用い、その内容について詳しく講述する。比較法の基礎理論すなわち比較法原論が講義の中心となる。講義の後半は、比較法各論として、アメリカ比較法学を代表するマティアス・ライマンの比較法史研究とともにイタリアの代表的比較法学者であるジュゼッペ・モナテリの比較法方法論を取り上げる。

This course will use the textbook written by myself. The lectures will focus on the basic theories of comparative

law. As the second part of this lecture, I will analyze the study of comparative legal history by Prof. Mathias Reimann and the comparative law method by Prof. Giuseppe Monateri.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：比較法学の意義
- 2回：比較法と隣接諸分野（1）
- 3回：比較法と隣接諸分野（2）
- 4回：比較法の方法（1）
- 5回：比較法の方法（2）
- 6回：法族論（1）
- 7回：法族論（2）
- 8回：法族論（3）
- 9回：グローバル比較法学（1）
- 10回：グローバル比較法学（2）
- 11回：歴史法学派とコモン・ロー（1）
- 12回：歴史法学派とコモン・ロー（2）
- 13回：歴史法学派とコモン・ロー（3）
- 14回：結論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

まずはテキストを読んできていただきたい。復習は丹念に行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

貝瀬幸雄 『比較法学入門』 日本評論社 2019 ○

参考文献 / Readings

貝瀬幸雄 『現代アメリカ比較法学の行方』 日本評論社 2022

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

法と社会

Law and Society

日本法の形成と特徴、および社会の中での機能

佐伯 昌彦 (SAEKI MASAHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB109
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 法学部所属学生随意科目（卒業要件単位に含むことはできない）

授業の目標 / Course Objectives

日本の法や司法制度の成り立ちや現状について、基本的な知識を獲得する。また、そのような法が社会のなかでどのような機能を果たしているかについて考察する視点の獲得を目指す。

This course aims to acquire a basic knowledge of the origins and current status of Japanese law and the judicial system. In addition, it aims at acquiring a viewpoint to consider how such laws function in society.

授業の内容 / Course Contents

日本の法や司法制度の成り立ちや現状、およびそれらの社会の中での機能に関して、基本的な知識を教授する。

This course will provide students with a basic knowledge of the origins and current status of Japanese law and the judicial system, and their function in society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：日本の法制度の沿革（1）

- 3回：日本の法制度の沿革（2）
 4回：日本の法制度の沿革（3）
 5回：司法制度（1）
 6回：司法制度（2）
 7回：司法制度（3）
 8回：司法制度（4）
 9回：民事司法制度（1）
 10回：民事司法制度（2）
 11回：民事司法制度（3）
 12回：刑事司法制度（1）
 13回：刑事司法制度（2）
 14回：刑事司法制度（3）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義を通してトピックと関連する基本的な文献を紹介する。関心のある内容について、それらの文献を参考にしながら学習を進めることを推奨する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

講義の中で、特定のトピックと関連の深い基本的な文献を適宜紹介していく。

参考文献 / Readings

村山眞維・濱野亮 『法社会学[第3版]』 有斐閣 2019 9784641221246

川嶋四郎・松宮孝明編 『レクチャー日本の司法』 法律文化社 2014 9784589035592

木佐茂男ほか 『テキストブック現代司法[第6版]』 日本評論社 2015 9784535519879

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

政治と社会

Politics and Society

日本の政府、議会、政党、官僚組織、利益集団、市民の政治意識について学ぶ

(Introduction to the study of the Japanese government system, parliament, political parties, bureaucracy, interest groups and public opinions)

松田 宏一郎 (MATSUDA KOICHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB111
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	法学部所属学生随意科目（卒業要件単位に含むことはできない）

授業の目標 / Course Objectives

政策決定の仕組み、政党政治、選挙、官僚機構、政治と経済との関係、市民の政治意識などを検討し、現代日本の政治を理解する上で重要な論点について学ぶ。

This course aims to study issues important for understanding contemporary Japanese politics by examining policy-making mechanisms, party politics, elections, bureaucracy, the relationship between politics and the economy, and citizens' political awareness.

授業の内容 / Course Contents

現代日本の内閣・国会・官僚制・利益集団・市民活動の政治的役割について基本的な知識を確認し、その上で権力の正当性、民主主義の有効性について討論をする。他国との比較も視野に入れる。学生には課題文献のリーディングと授業内での討論への積極的参加を求める。

The course will review basic knowledge of the political roles of the cabinet, parliament, bureaucracy, interest

groups, and citizens' political movements in contemporary Japan and then discuss the legitimacy of power and the effectiveness of democracy. Comparisons with other countries will also be considered. Students will be asked to read assigned literature and actively participate in class discussions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：本講義の目的と概要
- 2 回：日本の政治に関する既存の代表的な研究と展望
- 3 回：政策決定と実行（1）
- 4 回：政策決定と実行（2）
- 5 回：国会と政党（1）
- 6 回：国会と政党（2）
- 7 回：国会と政党（3）
- 8 回：選挙と利益集団（1）
- 9 回：選挙と利益集団（2）
- 10 回：日本の官僚制（1）
- 11 回：日本の官僚制（2）
- 12 回：市民による政治（1）
- 13 回：市民による政治（2）
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習として授業内で指示される参考文献を読むこと。授業中に討論への積極的参加を求める。問題意識をはっきりさせるために、毎回、コメントシートを授業前に準備しておくこと。コメントシートの書き方・提出方法は授業中に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%
 平常点割合 :30% 中間レポート:30%

テキスト / Textbooks

犬塚・河野・森川 『政治学入門』 有斐閣 2023 9784641151086 -

テキストに加えて、授業中に資料を配付する。テキストは学期の早いうちに眼を通しておくとう望ましい。

参考文献 / Readings

教科書のほかに、トピックに応じた参考文献を読んでもらうことを課題として学生に求める。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

グローバル社会における法と政治

Law and Politics in Global Society

グローバル化で変わる世界・日本の政治をどうとらえるか

小川 有美 (OGAWA ARIYOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB112
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

グローバル社会の市民として、グローバル化がもたらす政治や社会の変化について皮相的でない判断力をもつことが必要である。そのために本授業では、政治学の最新の基本的文献の解説を通し、デモクラシー、官僚制、ジェンダー、ポピュリズム、福祉国家、新興国の台頭など多面的な問題について深い理解と分析力を養うことを目標とする。

As citizens of a globalized society, it is crucial to have more than superficial judgments about the political and social changes brought about by globalization. To this end, this course aims to develop an in-depth understanding and analytical skills on different issues such as democracy, bureaucracy, gender, populism, the welfare state and the rise of emerging countries through explanations of the latest core literature in political science.

授業の内容 / Course Contents

グローバル化がいわれてすでに 30 年以上が経ち、その間に経済・金融の一体化と世界金融危機、アメリカ・西欧中心の秩序と反動、多文化共生とテロリズム、地球温暖化と感染症など、「新しい現象」が世界と日本を揺る

がしている。しかし政治は一夜にして変わるわけではない。政治は変化を迫られつつ、デモクラシーや平和、環境、平等などを守り改善するために適応できるのだろうか。本講義は各自が幅広く変化する政治の構造を知り熟考できるよう、最新の信頼できる政治学の基本的文献をテーマ毎に選んで解説する。

Since globalization went in full swing, many new phenomena, such as economic and financial integration and the global financial crisis, the US and Western-centric order and reactions against it, the multiculturalism and terrorism, global warming and pandemics, have shaken the world as well as Japan. The question is: can politics adapt to changes and protect and improve democracy, peace, environment and equality? This lecture will explain the latest reliable core political science literature for each topic, so that each student can learn about a wide range of changing political structures and consider them deeply.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：グローバル化が変える政治
- 2 回：変わるデモクラシー
- 3 回：変わる官僚制
- 4 回：変わる代表制と政党
- 5 回：変わるジェンダー政治
- 6 回：ポピュリズムのグローバル化
- 7 回：変わる福祉国家
- 8 回：変わる国際政治
- 9 回：変わる国際人権
- 10 回：変わる先進国の政治
- 11 回：変わる新興国の政治
- 12 回：人の移動のグローバル化
- 13 回：環境危機・感染症のグローバル化
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献に挙げた図書を全て購入することは求めないが、新書を中心に手に取りやすいものを厳選しているので、興味のあるものを見つけて最低 1 冊でも読み通してほしい。あわせて新聞 (紙版、オンライン版を問わない) の国際・政治記事に常に目を通すことが望ましい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

宇野重規 『「私」時代のデモクラシー』 岩波書店 2010 9784004312406

野口雅弘 『官僚制批判の論理と心理—デモクラシーの友と敵』 中央公論新社 2011 9784121021281

中北浩爾 『現代日本の政党デモクラシー』 岩波書店 2012 9784004313984
三浦まり 『さらば、男性政治』 岩波書店 2023 9784004319559
水島治郎 『ポピュリズムとは何か－民主主義の敵か、改革の希望か』 岩波書店 2016 9784121024107
田中拓道 『リベラルとは何か－17世紀の自由主義から現代日本まで』 中央公論新社 2020
9784121026217
多湖淳 『戦争とは何か－国際政治学の挑戦』 中央公論新社 2020 9784121025746

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

レジュメ，資料，参考文献の増補等は「Canvas LMS」で配布するので印刷するかタブレット等で授業中参照できるようにすること。履修登録確定前は以下の「Google ドライブ」で配布する。

https://drive.google.com/drive/folders/18n-y_WgpWTCyJgH0cJJx0qBNbrN4rZZ0?usp=sharing

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

グローバル社会における法と政治

Law and Politics in Global Society

グローバルな問題を、法哲学から考える

米村 幸太郎 (YONEMURA KOTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB113

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

法哲学の初歩的な議論を学びながら、貧困や移民などのグローバルな問題について考えることを目標とします。

This course aims to learn the basic theories in Philosophy of Law, and apply them to global problems such as immigration.

授業の内容 / Course Contents

法哲学とは、法の根底にある価値や法の概念それ自体について哲学的な検討を行う学問の領域です。この授業では、特に正義論と呼ばれる領域について学びます。わたしたちは通常、法というのは正義の実現を目指すものなのだと思定しています。現実にはしばしばそれに失敗しているとしても、です。ですが、そもそも正義とはなんなのでしょう？法哲学者はこの面白いけれど捉えどころのない疑問について、長年に渡って議論してきました。結果、彼らは正義についてのたくさんの理論的立場を生み出しました。この講義ではそのいくつか（たとえば功利主義、リベラリズム、リバタリアニズム等々）を学習します。同時に、そうした理論が移民やグローバルな貧困などの問題にどのような答えをだすかを考えます。哲学に関する知識は特別必要ありません

ので安心してください。

Philosophy of Law is an academic discipline which philosophically examines the underlying values of law and the concept of law itself. The primary scope of this course is an area called "Theory of Justice", in particular. We ordinary assume that law aims to achieve justice, though actual laws often fail to do that. However, what is justice in the first place? Legal philosophers have been arguing about this intriguing but elusive question for years. As a result, they propose lots of theories of justice. I want you to learn some of them, such as utilitarianism, liberalism, libertarianism and so on. Moreover, I try to apply them to some social issues, such as immigration, global poverty and so on. Though you might think that you need a special knowledge of philosophy, there are no particular prerequisites for this course. Feel safe!

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：グローバル化と国境を超えた問題群 1
- 2回：イントロダクション：グローバル化と国境を超えた問題群 2
- 3回：世界の貧困を減らすのは、先進国の義務か？1
- 4回：世界の貧困を減らすのは、先進国の義務か？2
- 5回：世界の貧困を減らすのは、先進国の義務か？3
- 6回：移民を受け入れるのは、先進国の義務か？1
- 7回：移民を受け入れるのは、先進国の義務か？2
- 8回：移民を受け入れるのは、先進国の義務か？3
- 9回：どの国も民主主義であるべきなのか？1
- 10回：どの国も民主主義であるべきなのか？2
- 11回：どの国も民主主義であるべきなのか？3
- 12回：気候変動対策のコストは、先進国が払うべきか？1
- 13回：気候変動対策のコストは、先進国が払うべきか？2
- 14回：気候変動対策のコストは、先進国が払うべきか？3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

特段の予習は必要ないが、毎回の内容は復習することが望ましい。詳細は初回のイントロダクションで説明します。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

現代のビジネスを学ぶ

Fundamentals of Contemporary Business

マーケティング戦略の基本を学ぶ

井上 一郎 (INOUE ICHIROU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB115
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

マーケティングの基本について理解し、市場における製品の中で、なぜ売れている製品もあればそうでない製品もあるのかについて批判的に考察できるための基礎力を身に付け、人に説明できるようになることを目標とする。

This course aims to understand marketing fundamentals, acquire the essential ability to consider critically why some products sell well and some do not, and explain these concepts to others.

授業の内容 / Course Contents

社会環境の変化、消費者の多様化を背景に、マーケティングは、一般企業はもちろん、自治体や学校さらには社会貢献活動を行う非営利団体などにおいても、その重要性は高まっています。

本講義においては、マーケティング要素の個別戦略を理解し、学生自身が、マーケティング視点で考察できるようになることを目指します。

具体的には、マーケティングを構成する製品戦略、ブランド戦略、価格戦略、流通戦略、プロモーション戦略について学びます。

Against a backdrop of changing social conditions and diversifying consumers, the importance of marketing is rising in for profit companies as well as non-profit sectors like governments, schools, and organizations involved in social contribution activities.

The goal of this course is to understand individual strategies of marketing elements, and to be able to consider matters from a marketing point of view. In particular, students study product, brand, pricing, distribution, and promotion strategies comprising marketing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入：マーケティングとは何か
- 2 回：マーケティングのコンセプトと構成要素（4P、7P）
- 3 回：マーケティングの定義と拡張①定義の変遷
- 4 回：マーケティングの定義と拡張②ソーシャルマーケティング
- 5 回：企業の存在意義とブランディング
- 6 回：企業事例研究 1：自動車会社のマーケティング
- 7 回：企業事例研究 2：自動車会社のマーケティングコミュニケーション
- 8 回：企業事例研究 3：ラグジュアリーブランドのマーケティングとコミュニケーション
- 9 回：製品戦略：物財とサービス財
- 10 回：価格戦略：価格の意義
- 11 回：流通戦略：流通の役割と種類
- 12 回：コミュニケーション戦略の役割と種類：PR、広告
- 13 回：コミュニケーションの役割と種類：プロモーション
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：各回のテーマに合わせて、日常生活において様々な製品について、その機能、価格の適正さ、流通、販売方法、そして広告などのプロモーションについてマーケティング視点で建設的に且つ批判的に観察する。

復習：各回アップするテキストをもとに復習する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー、授業内発言ポイント:40%

テキスト / Textbooks

教員が pdf でアップする

参考文献 / Readings

恩藏直人 『マーケティング第2版』 日本経済新聞出版社 2019 9784532114046

石崎徹編著井上一郎ほか 『わかりやすいマーケティングコミュニケーション第3版』 八千代出版 2024
9784842917382

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

企業と社会

Business and Society

企業の存在意義と社会における役割を考える

倉持 一 (KURAMOCHI HAJIME)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB117
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

企業は営利追求のために人為的に設立された組織である。企業は、この生来的な性質の下、日々、競争優位の獲得と効率性の向上などに努め、自身の持続可能性（サステナビリティ）を高めるべく、様々な営利活動を行っている、今日、我々が享受している豊かで便利な社会は、この企業の営利活動の成果の一つである。しかし一方で、企業活動の一部が、大気や水質の汚染、二酸化炭素排出量の増大、人権やジェンダーの問題、貧富の格差の増大などといった様々な課題を社会に生じさせたことも事実である。こうしたいわゆる「企業・社会間関係」に対する注目が

Students are aiming at understanding various topics and theories related to business and business management, Social Responsibility, and eventually able to analyze actual business cases with analytical frameworks students learn in the class.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、「企業と社会」に関し、①企業の原則と存在意義、②CSRの登場と発展、批判、③CSRの最新動向と今後の企業経営の課題、の3つのテーマを中心に扱う。それにより、企業と社会の関係の歴史的变化、

議論の状況、そして現代の企業社会間関係の有り様を学び、最終的には、自分の考えをまとめる。

We human being are facing serious problems such as environmental degradation, poverty and various forms of inequalities. To address those problems, we need more and more resources, and those resources are mainly created by business. Therefore, there is growing expectation for businesses to play more important roles to solve social problems.

Business can create resource when it is able to meet a need at profit, so it is very important for us to understand how business operates. In this course, we learn various topics related to corporate management so that we can better understand companies and their expected role in society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション（本授業の進め方解説、導入議論など）

産業革命と企業中心思想の形成

2 回：ステークホルダー論と善き企業市民

経営理念と企業の社会性

3 回：株主主義経営の特徴と問題点

4 回：フリードマン CSR 消極（限定）説の検討

5 回：CSR 概念の拡張と新たな議論の登場

6 回：コーポレートガバナンス（企業統治）

7 回：企業と従業員との関係を学ぶ

8 回：企業と消費者との関係を学ぶ

9 回：企業と NPO・NGO との関係を学ぶ

10 回：企業と障害者（ソーシャルインクルージョン）との関係を学ぶ

11 回：戦略的な障害者雇用を学ぶ

12 回：戦略的 CSR 論の登場と企業活動の変化

13 回：CSV（共通価値の創造）の登場

14 回：企業・社会間関係のあり方の検討と授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

【時間外学習】

前回の授業で学んだ用語（概念）・理論・ケースを記したノートを再度読んでくる。毎回の授業の冒頭で行う「振り返り」の部分を事前に把握することが可能となり、理解促進に繋がります。

【事後学修・2.5 時間】各授業の最後に指示したテーマ（課題）に合わせ、授業で学んだことや新たに知ったこと、頭に浮かんだ疑問などをノートに反映させる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

必要に応じて、授業内で指示する。

参考文献 / Readings

佐々木利廣・大室悦賀 『入門 企業と社会』 中央経済社 2015 450216111

谷本寛治 『企業と社会—サステナビリティ時代の経営学』 中央経済社 2020 4502331015

倉持一 『中国の CSR(企業の社会的責任)の課題と可能性』 丸善プラネット 2016 4863453175

その他/ Others

条件が整った場合には、企業の CSR 担当者をゲストスピーカーとして招聘する計画があります。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

企業と社会

Business and Society

企業の経営戦略と組織運営を学ぶ

羽田 明浩 (HANEDA AKIHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB118
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

経営戦略と経営組織の基本的理論の理解

事例を通じた経営分析の理解

The main aim of the course is for students to acquire the following:

- 1) Understand the basic theories of management strategy and management organization
- 2) Understand management analysis methods through case studies

授業の内容 / Course Contents

本講義は、経営戦略論、組織理論、マーケティング論等の基礎的理論を解説したうえで、日本企業の実例を通して受講者の理解を深める講義を行う。

担当教員は本学経営学科卒業の後、メガバンク勤務経営がある。講義における事例研究では本学と他大学の比較を採り上げる予定である。

After explaining the basic theories of business administration necessary for "companies and society," lectures will be given to deepen students' understanding through examples of Japanese companies.

The faculty member in charge is from our university (Department of Business) , and has experience working at a megabank. In the organizational management case studies, we plan to compare our university with other universities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション 本講義を学ぶ意義
- 2 回：企業についての復習（公民教科書の確認）
- 3 回：企業のコーポレートガバナンスと日本型企业システム
- 4 回：経営戦略論（1）本学のミッションと他大学の比較 企業のミッション比較
- 5 回：経営戦略論（2）企業のドメイン（事業領域）
- 6 回：経営戦略論（3）企業の多角化
- 7 回：競争戦略論（1）ポジショニングアプローチ
- 8 回：競争戦略論（2）資源ベースアプローチ
- 9 回：マーケティング論（1）マーケティングの定義
- 10 回：マーケティング論（2）ターゲティング他
- 11 回：経営組織論（1）組織の定義
- 12 回：経営組織論（2）組織デザイン
- 13 回：企業の事例研究 企業の IR 資料確認
- 14 回：ゲストスピーカーによる講義

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

経済ニュースに関心を持ってください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 羽田明浩 『ナースのためのヘルスケアMBA』 創成社 2017 97847944249763034
 羽田明浩 『医療経営戦略論』 創成社 2021 97847944259353034
 亀川雅人（監修） 『ストーリーのない経営学の教科書』 文眞堂 2022 9784830951695
 羽田明浩 『ヘルスケア経営組織論』 文眞堂 2022 9784830951992

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

現代社会と環境

Contemporary Society and Environment

環境問題の深層から社会のあり方を問い直す

穴見 慎一 (ANAMI SHINICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB119
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

環境破壊が、実は自然環境だけではなく、人間自身とその文化・社会にまでおよぶものであるという「環境問題の構造的な連関」を理解する。また、その中で「現代社会の問題の本質」を見極め、「環境とは何か」「人間とは何か」を問い直しつつ、日本社会のあるべき姿を考える。

Students will understand the "structural relationships of environmental problems," by which environmental destruction actually extends not only to the natural environment but to humans themselves and their cultures and societies. In addition, we will identify "the essence of the problems of modern society" within this, reconsider the questions "What is the environment?" and "What is a human being?" and think about the ideal form of Japanese society.

授業の内容 / Course Contents

環境破壊における過去の教訓に学び、「足尾銅山鉱毒事件」、「水俣病事件」、そして「フクシマ」を貫く現代社会の問題の本質に迫る。特に、「3.11」から5年を待たずして原発が再稼働された今日、「現代社会と環境」の視点から「フクシマ」の意味を明らかにすることを試みる。また、「真の文明とは何か」を多面的に問う作業を

通じて、問題の解決に向け、農業という人間の営みのもつ可能性へと議論を接続する仕方で、今後の日本社会の展望を探りたい。

Students will learn from the lessons of past environmental destruction, and approach the essence of the problems of modern society that run through the "Ashio copper mine poisoning incident," the "Minamata tragedy," and "Fukushima." In particular, now that nuclear power plants have been restarted in less than five years from "3.11," we will try to clarify the meaning of "Fukushima" from the viewpoint of "modern society and the environment." In addition, through the work of questioning "What is a true civilization?" from multiple perspectives, in order to solve the problem, I would like to connect the discussion to the possibility of the human activity of agriculture, and explore the future prospects of Japanese society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：水俣病事件に学ぶ
- 3回：人間にとって「責任」とは何か
- 4回：キャピタリスト・デモクラシー（資本主義的民主主義）の源流を辿る
- 5回：人間にとって「自由」とは何か
- 6回：中間まとめ
- 7回：「所有」という神話
- 8回：「自己責任」論
- 9回：環境破壊の深層
- 10回：東日本大震災を考える
- 11回：「フクシマ」を受けとめる(前編)
- 12回：「フクシマ」を受けとめる(後編)
- 13回：原発問題の深層に迫る
- 14回：人新世に「〈農〉的社会」の可能性を問う

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

基本的なことは初回のガイダンスで指示する。また、必要に応じ、他の回でも適宜指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%
 平常点割合 :40% 小レポート:20% リアクションペーパー:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 尾関周二・亀山純生・武田一博・穴見慎一編著 『〈農〉と共生の思想—〈農〉の復権の哲学的探求』 農林統計出版 2011 9784897322292
- 尾関周二・武田一博編 『環境哲学のラディカリズム—3.11をうけとめ脱近代へ向けて』 学文社 2012 9784762023200

上柿崇英・尾関周二編 『環境哲学と人間学の架橋—現代社会における人間の解明』 世織書房 2015
9784902163780

澤 佳成 『人間学・環境学からの解剖—人間はひとりで生きてゆけるのか』 粹出版社 2010
9784872622324

各回の講義における参考文献はその都度提示する。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

情報と倫理

Information Ethics

ネット時代のソーシャル・リテラシー

白澤 洋一 (SHIRASAWA YOICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB120
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

モバイル機器の普及や人工知能（AI）の普及などにより、大きく変わるデジタル社会において、知っておくべき知識やルールやモラル、情報発信において留意すべきことを理解・考察し、実践できるスキルを身に付けることを目指す。

Students will understand and consider the knowledge, rules, morals, and information transmission that they should be aware of in the digital society that is greatly changing due to the spread of mobile devices and artificial intelligence (AI), etc., aiming to acquire practical skills.

授業の内容 / Course Contents

日々、生まれ、変化するサービスやビジネス、人工知能（AI）など最新技術を利用した新たなビジネスや働き方が、私たちの生活や社会をどのように変えていくのか。基本的に知っておくべき知識を整理し、情報倫理に関わる、時事的な話題について解説する。議論やオンラインのコラボレーションツールの利用などを通して、自分なりの考えを整理し、アウトプットするとともに、多様な考えを知り、思考を深める。

How will new businesses and ways of working that use the latest technologies such as services, businesses, and

artificial intelligence (AI) that are appearing and changing every day change our lives and society?

We will organize the basic knowledge that students should know and comment on current topics related to information ethics. Students will organize and output their own ideas through exercises. Students will learn various ideas and deepen their thinking through discussions and the use of online collaboration tools.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：情報倫理とは
- 2 回：情報通信社会とインターネット、進化と変遷
- 3 回：ネット・コミュニケーションの特徴と留意点
- 4 回：メディアの変遷と情報活用
- 5 回：情報技術とセキュリティ
- 6 回：インターネットと犯罪
- 7 回：個人情報とプライバシー
- 8 回：ビッグデータ活用と人工知能 (A I)
- 9 回：知的所有権とコンテンツ
- 10 回：企業と情報倫理
- 11 回：科学技術と倫理
- 12 回：デジタルデバイス
- 13 回：人間中心（利用者中心）のデザイン
- 14 回：情報通信社会とリテラシー・総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS に事前に登録される講義資料に目を通し、テキストの該当ページを読んでおくこと。

より深い内容については、授業で説明した事項や行った演習に関連する情報を探し、理解を深めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 講義で指示する課題をリアクションペーパー等で作成し提出:30%

テキスト / Textbooks

高橋慈子ほか 『【改訂3版】情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー』 技術評論社 2023
9784297134150 ○

参考文献 / Readings

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

現代社会の解読

Understanding Contemporary Society

「ひきこもり」の社会学

石川 良子 (ISHIKAWA RYOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB123
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「ひきこもり」について考えることを通して、自分自身の人生・生き方および社会のあり方を振り返ることが本講義の目的です。

The purpose of this course is to reexamine about your own life and society through thinking about "Hikikomori".

授業の内容 / Course Contents

ライフストーリー・インタビューに基づいて、「ひきこもり」とは当事者にとってどのような経験なのか理解するためのいくつかの視点を提示します。生きることをめぐる葛藤が「ひきこもり」の本質であることを理解するとともに、自分自身の人生・生き方に関連づけて考えることが重要です。

This course offer some viewpoints for understanding of experiences of social withdrawn people (Hikikomori), based on life story interviews. It is especially important to understand that the heart of Hikikomori is suffering of living, and to look upon them as being related to your own life.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：社会問題としての「ひきこもり」の歴史
- 3回：「ひきこもり」の定義の批判的検討
- 4回：「ひきこもり」の当事者とは誰か
- 5回：「ひきこもり」を捉える視点：自己防衛戦略
- 6回：「ひきこもり」を捉える視点：自己物語の破綻と再構築
- 7回：当事者に聴く①
- 8回：「ひきこもり」を捉える視点：「動けなさ」の経験①
- 9回：「ひきこもり」を捉える視点：「動けなさ」の経験②
- 10回：「ひきこもり」を捉える視点：「語れなさ」の経験①
- 11回：「ひきこもり」を捉える視点：「語れなさ」の経験②
- 12回：当事者に聴く②
- 13回：最終レポートの作成
- 14回：最終レポートのフィードバック（グループディスカッション）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストをもとにグループディスカッションを行う予定です。あらかじめ目を通しておいてください。そのほかは授業中に適宜指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクションペーパー（複数回）：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

石川良子 『「ひきこもり」から考える』 ちくま新書 2021 4480074384 ○

参考文献 / Readings

石川良子 『ひきこもりの〈ゴール〉』 青弓社 2007 4787232762

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・授業計画は履修者の関心などに応じて変更することがあります。
- ・第7・12回はゲストスピーカーを予定していますが、先方の都合で変更になることがあります。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

コミュニティをデザインする

Design for the community

ノーマライゼーション論の視点からコミュニティを考える

結城 俊哉 (YUKI TOSHIYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB126

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この科目は、誰もが暮らしやすいコミュニティのデザイン方法を考える力を身につけることを目標とする。具体的には、コミュニティ問題を考える方法論として「ノーマライゼーション論」の視点と優生思想と障害者の自立生活運動についての理解を手がかりとして進める。

The goal of this course is to acquire the ability to think about ways to design communities that are comfortable for everyone to live in. Specifically, students will deepen their understanding of the perspective of "normalization theory," eugenic thought, and the independent living movement for people with disabilities as a methodology for thinking about community issues.

授業の内容 / Course Contents

この授業は、「共生社会」を実現するコミュニティとは何かについて問題についての検討から始める。次に「ノーマライゼーション理念」の発展の歴史について解説する。さらに、この授業でノーマライゼーション理念の体系化について述べる。同時に、コミュニティ・ケアの実践と施設ケアとの間に生じるコンフリクト問題についてどのような問題解決のアプローチができるのか検討する。最後に、コミュニティにおける優生思想による

排除と差別の問題とインクルーシブ社会実現の原動力となってきた障害当事者運動について講義する。

This class begins with an examination of the question of what constitutes a community that realizes an

“inclusive society.” Next, I will explain the history of the development of the “normalization philosophy.”

Furthermore, this class will discuss the systematization of the normalization philosophy. At the same time, we will consider what approaches can be taken to resolve conflicts that arise between community care practices and institutional care. Finally, the lecture will discuss the issues of exclusion and discrimination caused by eugenic ideology in the community, and the movement for people with disabilities that has been the driving force for realizing an inclusive society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：授業の方針の説明
- 2 回：共生するコミュニティの探求（1）
- 3 回：共生するコミュニティの探求（2）
- 4 回：「ノーマライゼーション理念」の誕生をめぐって
- 5 回：ノーマライゼーション理念の父：バンク＝ミケルセンの生涯から考える
- 6 回：ノーマライゼーション理念の体系化をめぐって（1）
- 7 回：ノーマライゼーション理念の体系化をめぐって（2）
- 8 回：ノーマライゼーション論の体系化をめぐって（3）
- 9 回：ノーマライゼーション理念と優生思想問題：旧優生保護法を考える
- 10 回：ノーマライゼーション理念の具現化への方法としてのアプローチ
- 11 回：ノーマライゼーション理念の実現と障害者の自立生活運動の軌跡（1）
- 12 回：ノーマライゼーション理念の実現と障害者の自立生活運動の軌跡（2）
- 13 回：ノーマライゼーション論におけるコミュニティ・ケアと施設ケアの問題
- 14 回：総括：ノーマル（当たり前）の生活を実現する方法とは何か。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 中間課題レポート:20% 出席及び授業参加度:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

この授業は、PowerPoint を使用する講義です。（適宜、視聴覚教材も活用します）尚、授業の学生用配布レジュメは CanvasLMS から授業前に教材提示を行いますので受講者は前日には確認すること。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

コミュニティをデザインする

Design for the community

福祉国家論と現代社会

林 昌子 (HAYASHI MASAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB127

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

福祉国家論を中心に、現代社会における様々な問題に理解を深めることを目指す。広い視野からこれらの課題を検討することで、それぞれの問題について自己の力で考察するスキルを磨くことが期待される。同時に、養った考えを効果的に他者に伝えることができるようになる。

Understand problems in contemporary society from the viewpoint of the welfare state studies. By examining various issues, such as social security, poverty, work and labour, raising children, education, ageing society, international conflicts, migrants and refugees, from a broad perspective, let your potential abilities flourish by thinking about these issues on your own. Share your thoughts with others and then communicate your ideas to others.

授業の内容 / Course Contents

「福祉国家とは何か」への理解が、自分や自分を取りまく人々、そしてコミュニティにとってどのように関わるのかを、おもに福祉国家の歴史的観点から検討する。まずは現代社会が抱える諸問題を知ることから出発する。少人数によるディスカッションを行い、それをクラス全体での議論に発展させる。その議論を受けて、自

らがどのようにそれらの社会問題に向き合うのかを考察する。

This course explores the relevance of the welfare state to our daily lives, communities, and surroundings, with a primary focus on its historical perspective. The initial phase involves gaining insights into the challenges confronting contemporary society. Students will engage in small-group discussions, which will be expanded to whole-class discussions. Subsequently, students will reflect on their approaches to addressing these social problems.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業の進め方、「福祉」「国家」「コミュニティ」
- 2 回：福祉国家と社会保障
- 3 回：コミュニティの問題 1：貧困
- 4 回：コミュニティの問題 2：労働
- 5 回：コミュニティの問題 3：子育てと政治
- 6 回：コミュニティの問題 4：教育と若者の自立
- 7 回：コミュニティの問題 5：高齢社会
- 8 回：世界に目を向ける：難民、移民、紛争
- 9 回：福祉国家以前の福祉社会
- 10 回：福祉国家とキリスト教
- 11 回：イギリスの福祉国家
- 12 回：アメリカの福祉国家
- 13 回：ヨーロッパ・その他の福祉国家
- 14 回：「ニーズ」を知る

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 中間レポート (Mid-term Report):30% 授業への参加度：リアクションペーパーを含む (Active participation in class):20%

授業計画および内容は、授業の進捗により変更されることがある。

テキスト / Textbooks

坏洋一、金子充、室田信一 『問いからはじめる社会福祉学』 有斐閣 2016 -

適宜資料を配布する

参考文献 / Readings

坏洋一 『福祉国家』 法律文化社 2012 4589034743

平岡公一、杉野昭博、所道彦、鎮目真人 『社会福祉学』 有斐閣 2011 4641053766

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

観光学への誘い

Introduction to Tourism Studies

観光学に関する総合的な理解

五艘 みどり (GOSO MIDORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB128

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光学の基礎知識を身につけ、多様な視点から観光現象を総合的に把握する。

The goal of this course is to acquire basic knowledge of tourism and to understand tourism phenomena from various perspectives.

授業の内容 / Course Contents

観光学の総合的な理解に向けて、観光を歴史、文化、政策、産業、人々の行動といった多様な側面からの視座を学ぶ。

Lectures will be held on various aspects such as tourism history, culture, policy, industry, and tourist's behavior in order to gain a comprehensive understanding of tourism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：観光学の概要

2 回：世界の観光史①

3 回：世界の観光史②

- 4回：日本の観光史①
 5回：日本の観光史②
 6回：サステイナブル・ツーリズム（持続可能な観光）
 7回：観光と文化
 8回：ミニテスト
 9回：観光政策
 10回：観光市場
 11回：観光とまちづくり
 12回：観光産業
 13回：観光行動とIT
 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

国内外の新聞やニュースを毎日確認し、そこで見られる観光現象はどのような観光学の知識から説明できるのかを考え、人に説明できるように訓練すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ミニテスト:40% 出席および授業参加の積極性:20% 最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

前田 勇（著，編集）『新現代観光総論』-第3版 単行本（ソフトカバー）- 学文社 2019 9784762029172

その他 / Others

<https://researchmap.jp/read0144212>

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

シティズンシップを考える

Exploring Global Citizenship in Rikkyo Service Learning

シティズンシップをめぐる具体的な課題を通して、社会参加の方法を考える

堀本 麻由子 (HORIMOTO MAYUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB131
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面（全回対面）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代社会においては、価値の多元性と称されるように、思想信条、宗教、人種、民族、文化、性別、国籍等の異なる様々な人々が暮らしています。本授業では、そうした人々が、民主政治の担い手である市民として、意見の相違を乗り越え、相互の人権を尊重しあえる社会を形成していくにはどうすればよいのかについて共に考え、学びたいと思います。

In current society, we live in an age of value pluralism, where people of different ideologies, beliefs, religions, races, ethnicities, cultures, genders, nationalities, among others, all live together. In this class, participants will explore how to create a society in which people can overcome differences of opinion and respect each other's human rights as citizens and leaders of a democratic society.

授業の内容 / Course Contents

前半は、シティズンシップという概念と社会参加の意味を学び、後半では、現代社会における様々なシティズンシップをめぐる諸問題を手がかりとして、グループワーク等を行い、問題の解決法を考えます。グループワークにおいては、市民として、異なる意見を尊重しつつ、身近な生活のなかの諸問題を解決するための効果的

な議論と参加の方法を身に付けます。

The class will be divided into two parts: the first half will focus on the concept of citizenship and the meaning of social participation, while the second half will focus on various citizenship-related issues in contemporary society throughout group work. Each group will be conducted to find solutions to an issue. In the group work, participants will learn how to discuss and participate actively in solving problems in their daily lives, while respecting different opinions as citizens.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：初回授業（シラバスの説明、授業の進め方、評価方法、本授業の学び方等）
- 2 回：シティズンシップについて考える①（市民とは何か、公共とは何か）
- 3 回：シティズンシップについて考える②（現代的課題における市民参加の必要性）
- 4 回：シティズンシップについて考える③（私たちの生活と現代的課題のかかわり）
- 5 回：ゲストスピーカーによる話をもとに社会参加をイメージする
- 6 回：参加を具体化するためのグループ演習①
- 7 回：参加を具体化するためのグループ演習②
- 8 回：ゲストスピーカーによる話をもとにグループ演習のテーマを再考する
- 9 回：参加を具体化するためのグループ演習③
- 10 回：参加を具体化するためのグループ演習④：他のグループとの意見交換
- 11 回：参加を具体化するためのグループ演習⑤
- 12 回：高校生との交流授業①
- 13 回：高校生との交流授業②
- 14 回：まとめ（グループ演習の振り返り—問題解決への一步を踏み出すために—）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて映像やゲストスピーカーによる講義の機会も設けます。またテーマに関連したグループでの話し合いの場を設け、受講生同士がコミュニケーションをとることで学びを深める参加型学習を取り入れます。グループごとに学外での活動課題を出す場合もあります。連携している高校との調整によって、シラバス内容に変更もあり得ます。講義や議論で得た知識をできるだけ自分自身の経験にひきつけ、意味づける学習を大切にしているため、授業終了時のコメントシート（質問事項を含む）等を配布し、次回授業時に教員よりコメントします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :45%

平常点割合 :55% 出席および授業に取り組む姿勢:25% グループ活動と発表内容:30%

3分の2以上の出席をしていない場合は、単位修得不可とします。

テキスト / Textbooks

必要に応じて、資料、プリント等を配布します。

参考文献 / Readings

逸見敏郎・原田晃樹・藤枝聡編著/ 立教大学R S Lセンター編集 『リベラルアーツとしてのサービスラーニング—シティズンシップを耕す教育—』 北樹出版 2017 9784779305306
ハリー・C・ボイト著/堀本麻由子・平木隆之・古田雄一・藤枝聡監訳 『民主主義を創り出す—パブリック・アチーブメントの教育』 東海大学出版部 2020 9784486021827

その他/ Others

グループ演習／活動が多い授業になります。学期を通して、グループ演習への積極的な参加を求めますので、履修にあたっては初回授業に必ず出席し、授業内容を確認してください。

※この科目は立教サービスラーニング（RSL）科目群のひとつです。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

大学と現代社会

University and Modern Society

大学の機能と学生生活の過去・現在・未来

谷村 英洋 (TANIMURA HIDEHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB133
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

個々の学生が大学観を広げ、それをもとに自分自身の学生生活について省察することを目的とします。到達目標は次の通りです。

- ①大学教育が置かれた過去および現在の状況を理解し、それに対する意見を述べることができる。
- ②大学教育と自身のこれまでの関わり方およびこれからの関わり方について、考えを述べることができる。

The aim of the course is for each student to broaden their view of universities and reflect on their own student life.

The objectives are as follows:

- 1) Students will understand the past and current situation of university education and become able to express opinions on the topic.
- 2) Students will become able to express their thoughts about how they have related to university education in the past and how they will relate to it in the future.

授業の内容 / Course Contents

教育機能と学生生活を中心に、大学の歴史と現状、およびそれらの背後にある／あった社会の状況について学習します。またその過程で、履修者が自身の学生生活について省察する機会を適宜設けます。

授業の方法については次の通りです。

- ①授業は講義、映像資料の視聴、グループワーク、ディスカッション等によって構成します。
- ②授業参加者の対話（ともに話し、聴き、読み、書く）を重視します。
- ③履修者数を考慮の上、グループ発表の機会を設けます。

Students will learn about the history and current situation of universities, and the social situation behind them, focusing on educational functions and student life. In the process, students will have an opportunity to reflect on their own campus life as appropriate.

The method of the course will be as follows:

- 1) Classes will be composed of lectures, video viewing, group work, and discussions, etc.
- 2) We will emphasize dialog among class participants (talking, listening, reading, and writing).
- 3) We will consider the number of students, and if possible, create opportunities for group presentations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

小講義：大学と学生生活の誕生

—大学はどこでどのように誕生したのか

2 回：近代大学の起こりと日本への伝播

—日本の大学はどのように始まったか

3 回：現代の学生にとっての大学生活

—自分たちの学生生活をリフレクションする

4 回：大学教育・学生生活のレリバンス

—大学を出ること／大学で学ぶことの意義とは

5 回：グループ発表課題の説明とグループワーク

6 回：大学の教育・学習の動向 (1)学習理論の観点から

—現在の大学教育が目指す学習のありようとは

7 回：大学の教育・学習の動向 (2)メディア・情報技術の観点から

—メディア・情報技術は大学教育をどのように変えつつあるか

8 回：大学教育における深さと広さ

—大学で深さと広さの両立が目指されるのはなぜか

9 回：大学教育費とその負担

—大学教育費をもっと社会が負担することはできるか

10 回：大学と研究

—大学における知識生産をめぐるどのような問題が生じているか

11 回：大学のガバナンス

—大学は誰が、どのように動かしているのか

12 回：学生発表

13 回：学生発表

14 回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

リーディングアサインメント、小レポート課題、グループ発表準備等に取り組む。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 各回の授業内課題（グループ発表含む）:50%

グループ発表について：グループでリサーチクエスチョンを設定し発表とディスカッションを企画・実践する。履修者数が少なければ個人発表とし、多ければ代替課題を検討する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

チャールズ・ホーマー・ハスキンス 『大学の起源』 八坂書房 2009 9784896949476

吉見俊哉 『大学とは何か』 岩波書店 2011 9784004313182

寺崎昌男 『日本近代大学史』 東京大学出版会 2020 9784130513494

潮木守一 『キャンパスの生態誌—大学とは何だろう』 中央公論社 1986 9784121008220

古川安 『科学の社会史—ルネサンスから 20 世紀まで』 筑摩書房 2018 9784480098832

矢野眞和・濱中淳子・小川和孝 『教育劣位社会—教育費をめぐる世論の社会学』 岩波書店 2016
9784000611695

上山隆大ほか 『シリーズ大学 3 大学とコスト—誰がどう支えるのか』 岩波書店 2013 9784000286138

佐藤靖 『科学技術の現代史—システム、リスク、イノベーション』 中央公論新社、2019、9784121025470

※その他の文献は授業中に紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

些細なことでも、現在学んでいる大学という場に関心や問題意識がある方、またこのシラバスを読んで少しでも興味がわいてきた方であれば是非履修して下さい。ディスカッション、グループワークを適宜はさみますので、人の意見を聞くこと、自分の意見を伝えること、それらのやりとりの中で考えを深めていくこと、そういうことが好きな人、取り組みたい人に向いていると思います。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

グループ発表の準備では PC があるとよいですが毎回必携というわけではありません。

その他 / Others

通常の講義の合間にも、適宜グループディスカッションを行います。

グループ発表は、担当教員が編成したグループに分かれて進めてもらいます。一人ひとりの積極的・協力的な参加を期待します。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

世界の中のロシア

Russia in the World

近現代ロシアを知る

河本 和子 (KAWAMOTO KAZUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB134
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ロシアの政治、経済、社会、外交・安全保障政策に関する基本的な知識を習得し、それを使えるようになる。
On successful completion of this class, students will be able to demonstrate basic knowledge and understanding of the politics, economy, society, and foreign and security policy of Russia.

授業の内容 / Course Contents

本授業において、ロシアに関する知見を幅広く紹介する。まずソ連時代を簡単に概観し、次いでソ連解体後のロシアについて、政治体制、経済の転換とその帰結、ネイション形成とナショナリズム、ジェンダー秩序、人口動態、外交・安全保障政策という重要な論点に分けて論じる。

This course provides a broad introduction to Russian studies. We begin with a brief overview of the Soviet era. Then we explore key issues in post-Soviet Russia, such as its political system, economic transformations and consequences, nation-building and nationalism, gender order, demographic trends, and foreign and security policy.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：ロシアとはどこからどこまでか
- 2 回：ソ連時代の政治と社会
- 3 回：ソ連の解体と政治体制の転換
- 4 回：執政：大統領とその補佐機関
- 5 回：議会、政党、選挙制度
- 6 回：市場経済化とその評価
- 7 回：経済と権力：腐敗と汚職
- 8 回：ネーション形成とナショナリズム
- 9 回：ジェンダーと人口問題
- 10 回：ロシアと欧米
- 11 回：ロシアと東アジア
- 12 回：ロシアと旧ソ連諸国
- 13 回：ロシアによるウクライナ侵攻
- 14 回：確認とまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

紹介する文献を授業前あるいは授業後に読むこと。授業後にノートを見直して復習しておくこと。また、日常的にロシア・旧ソ連諸国を取り扱う新聞記事等を読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー（関心に応じて5回）:30%

テキスト / Textbooks

授業のレジュメ・資料は事前にアップロードする。

参考文献 / Readings

栗生沢猛夫 『図説 ロシアの歴史 増補新装版』 河出書房新社 2014 9784309762241

横手慎二 『ロシアの政治と外交』 放送大学教育振興会 2015 9784595315589

油本真理・溝口修平編 現代ロシア政治 法律文化社 2023 9784589042798

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

ドイツ語圏の社会

Society in the German-speaking sphere

20 世紀ドイツにおける 11 月 9 日 20th century Germany, focusing on the date November the 9th.

飯田 道子 (IIDA MICHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB135

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

第一次大戦からヴァイマル時代、ナチ時代、第二次大戦、東西ドイツ分裂、ドイツ再統一、という 20 世紀ドイツの大きな出来事を映像資料を多用しながら検証、理解していく

Examining important affairs in 20th century in Germany from various perspectives, with a focus on media.

授業の内容 / Course Contents

20 世紀のドイツにおける 11 月 9 日は特別な日付である。この日に、4 度の歴史を動かす出来事があった。2 度にわたる戦争、ナチ時代、ホロコースト、戦後の東西分断時代とドイツ再統一という、激動の 20 世紀のドイツの変遷を、11 月 9 日を軸として検証していく。

授業では映像資料等を多用して、理解の手助けとしていく。

The 20th century was a turbulent period for both Germany and Europe. And in Germany several important affairs happend on the same date, November the 9th. We will examine German history and its current problems, focusing on the date 11.9.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：1918年11月9日(1)
 第一次世界大戦の終わり
 メディア戦争としての第一次世界大戦
 3回：1918年11月9日(2)
 ヴァイマル時代の社会
 4回：1923年11月9日
 ミュンヘン一揆とナチの台頭
 5回：世界恐慌とナチスの政権掌握
 6回：ナチスのメディア戦略
 7回：ナチ時代のドイツの社会
 8回：1938年11月9日(1)
 水晶の夜事件とユダヤ人迫害
 9回：1938年11月9日(2)
 第二次大戦とホロコーストの始動
 10回：ホロコーストの本格化
 11回：ホロコーストの帰結と終戦後のドイツ
 12回：1989年11月9日(1)
 ベルリンの壁建設と崩壊
 13回：1989年11月9日(2)
 ドイツ再統一とその後
 14回：再統一後のドイツ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内に紹介された映像資料を視聴しておくこと

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業への参加と理解度:40%

テキスト / Textbooks

レジュメを canvas に掲載しますので、各自プリントアウトして授業に参加してください。

参考文献 / Readings

授業時に適宜指示します。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

フランス語圏の社会

Society in the French-speaking sphere

大革命以降のフランス社会の諸相に触れる

大磯 仁志 (OOISO HITOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB136

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

フランス社会の諸相を、それぞれの時代思潮や文化的実践をふまえて検討・分析しながら理解し、いわゆるフランスらしさと同時にまたその多様性を考察する。

We will understand the various aspects of French society by examining and analyzing each period based on thinking and cultural practice, and will consider so-called Frenchness as well as its diversity.

授業の内容 / Course Contents

絶対王政を否定した大革命により共和国となったフランスは、民主主義の祖国ともいわれます。この講義ではそのようなフランスの近代市民社会のあり方を、さまざまな側面から、ときには歴史をたどりながら考察します。配布のプリントのほかにもさまざまな画像・映像資料を利用しつつ、大革命以降のフランス社会の変遷に多角的に迫っていきます。

この講義をとおして、我々の生活している日本という環境、あるいは諸君が慣れ親しんでいるであろうアメリカ社会とは異なる、フランスのもっている独自の文化や社会の形の意義を考える機会となることを希望します。

We will examine the ideal form of modern French civil society that is said to be the homeland of democracy following the French Revolution while tracing its history. Using various image and video materials as well as distributed print-outs, we will follow the transition of French society after the French Revolution from multiple perspectives.

Through this course, we hope that students will have the opportunity to think about the significance of France's unique culture and social form, which is different from the environment of Japan where we live, or the American society that you will be familiar with.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：旧体制
- 2 回：フランス革命：政教分離と中央集権化
- 3 回：革命の波及とナポレオン
- 4 回：流動化する社会とロマン主義
- 5 回：二月革命と第二帝政
- 6 回：ジャーナリズムの発達
- 7 回：交通とテクノロジー
- 8 回：万国博覧会と消費社会
- 9 回：ベル・エポック
- 10 回：第一次世界大戦とアヴァンギャルド
- 11 回：レジスタンスの神話
- 12 回：植民地の独立
- 13 回：移民と郊外
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業向けに配布される資料には、事前に目を通すこと。

資料には入手しやすい文庫本や新書を中心に該当テーマの文献を複数冊あげるのので、興味関心に応じて参考にしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎授業で提出を課すリアクションペーパー:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

リアクションペーパーの提出は Canvas LMS を利用します（締め切りは授業の翌日）。

フィードバックとして、個々人へあるいは次回の授業冒頭で、こちらからコメントをします。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

スペイン語圏の社会

Society in the Spanish-speaking sphere

求心力と遠心力の狭間で

飯島 みどり (IIJIMA MIDORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB137

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

スペイン語圏の実相を求心力／遠心力の両方向から観察し、日本において誤解されがちなこの社会への認識を鍛える。

Students will observe the realities of the Spanish-speaking world from both centripetal and centrifugal forces, then train their perception of this society that is often misunderstood in Japan.

授業の内容 / Course Contents

近年「カタロニア独立」が話題となったように、スペイン語圏にはこれをまとめる求心力と独立などの形をとって噴出する遠心力とが働く。過去の例を通し、ふたつの力の狭間にある社会の特色を見出す。

As "Catalonian independence" has become a talking point recently, in the Spanish-speaking world, there are centripetal force that works to integrate their members into a certain entity as well as centrifugal force that erupts in forms such as independence. Through historic examples, we will find the characteristics of the society between these two forces.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：世界史上における「スペイン語」の位置づけ
- 2回：求心力—言語
- 3回：求心力—宗教
- 4回：求心力—時空間認識
- 5回：求心力—地域統合
- 6回：遠心力—言語
- 7回：遠心力—宗教
- 8回：遠心力—時空間認識
- 9回：遠心力—地域偏差
- 10回：独立への道 その一
- 11回：独立への道 その二
- 12回：二百年目の収支バランス その一
- 13回：二百年目の収支バランス その二
- 14回：「グローバルサウス」の起源

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

地図帳（グーグル地図ではない）を普段から眺めておく。首都圏で開催されるスペイン語圏関連の催しを学期中適宜紹介するので利用すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :81%

平常点割合 :19% 各回授業の理解度:19%

テキスト / Textbooks

必要な資料は適宜配布する。

参考文献 / Readings

帝国書院編集部編 『新詳高等地図』 帝国書院 2000年代のもの

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

集中力

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし（授業中は原則として電子機器の使用を認めない）

その他 / Others

世界の動きについて普段から各自 The Guardian, New York Times など で情勢把握しておく。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

中国語圏の社会

Society in the Chinese-speaking sphere

台湾の社会と政治、安全保障

門間 理良 (MOMMA RIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB138

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

東アジアに存在する諸問題に関する理解を深め、受講者が授業で得られた知見を利用して、台湾・中国・日本の政治、軍事、安全保障、日中米台関係の分析を的確に行うことができるような基礎を形成することを到達目標としている。

Upon completion of the course, students will have a basic ability to analyze the issues of politics, military and security in Taiwan, China and Japan, and Japan-China-US-Taiwan relations by utilizing their improved knowledge of a variety of issues in East Asia gained from the course.

授業の内容 / Course Contents

東アジアにおいて政治・経済・安全保障の面で大きな力を有する台湾・中国・日本を取り巻く諸問題を取り上げて解説し、討論を行う。台湾関連の論述に時間を割いた内容となっており、通常の「中国論」とは異なるアプローチをとる。時間配分は①前回のコメントペーパーの紹介と質問への回答 10 分、②当日の主題解説 50 分、③討論 30 分、④コメントペーパーの記述 10 分、を目安とする。

This course provides detailed lectures on the issues of Taiwan, China and Japan that poses strong power in

politics, economy and security in East Asia. The course is designed to spend more time on Taiwan-related issues and take a several types of activities, including discussion, case study and role-playing, to understand the issues from various aspects. Each class includes: 1) Reaction and questions from previous class (10 mins), 2) Lecture (50 mins), 3) Activity (30 mins), and 4) Writing reaction paper (10 mins).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：台湾とはなにか

台湾が置かれた国際的立場、気候風土、言語、宗教などを概観する。

2 回：台湾と日本【1】

日本の植民統治時代（1895-1945）から、現代の日台関係を3回に分けて論じる。

3 回：台湾と日本【2】

第2回講義からの継続

4 回：台湾と日本【3】

第3回講義からの継続

5 回：現代の台湾政治【1】

李登輝時代（1988-2000年）、陳水扁時代（2000-2008年）の台湾政治と安全保障を論じる。

6 回：現代の台湾政治【2】

馬英九時代（2008-2016年）の台湾政治と安全保障を論じる。

7 回：現代の台湾政治【3】

第1期蔡英文政権（2016-2020）の台湾政治と安全保障を論じる。

8 回：現代の台湾政治【4】

第2期蔡英文政権（2020-2024）の台湾政治と安全保障を論じる。

9 回：台湾の新政権の誕生

2024年5月20日に発足する台湾の新政権について論じる。

10 回：米中台関係

中台関係史を概観するとともに、現代の米中日台関係を論じる。

11 回：台湾の軍事【1】

台湾の軍事戦略と国軍の体制を論じる。

12 回：台湾の軍事【2】

「台湾有事は日本有事」なのか？ 台湾海峡危機をどのように捉えるべきかを論じる。

13 回：香港問題

「一国二制度」が崩壊し始めた香港情勢について論じる。

14 回：まとめ

日本・台湾・中国・米国を中心とするアジア国際関係の将来を展望する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義の理解のために講義の中で下記以外の参考文献も紹介するが、それらを積極的に読破することを希望す

る。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパーの内容:30% 授業への積極的参加姿勢と発言内容:70%

出席回数が10回未満の受講者は成績評価の対象としない（担当者が認める特別の事情がある場合は除く）。

テキスト / Textbooks

門間理良 『緊迫化する台湾海峡情勢 台湾の動向二 2019～2021』 東信堂 2023 9784798918570 ○

参考文献 / Readings

家永真幸 『台湾のアイデンティティ 「中国」との相克の戦後史』 文藝春秋社 2023 9784166614349

森本敏/小原凡司 『台湾有事のシナリオ 日本の安全保障を検証する』 ミネルヴァ書房 2022

9784623093052

若林正文 『台湾の政治 中華民国台湾化の戦後史』 増補新装版 東京大学出版会 2021 9784130301800

川島真/清水麗他 『日台関係史 1945-2020 増補版』 東京大学出版会 2020 9784130322300

安田淳/門間理良 『台湾をめぐる安全保障』 慶應義塾大学出版会 2016 9784766423167

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

朝鮮語圏の社会

Society in the Korean-speaking sphere

南北朝鮮の政治・社会についての基礎知識

石坂 浩一 (ISHIZAKA KOICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB139
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面(すべて)
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

朝鮮半島に関して日本では、事実と異なる情報、俗説、根拠のない偏見が多く流布されている。この授業ではこれまでの歴史学、政治学、社会学などの研究成果に基づき、大学での学びにふさわしい基礎的な知識や情報を知ることがめざす。またそうした基礎研究へのアクセスの方法を学んでいく。

In Japan, there is a lot of untrue information, myths, and groundless prejudices being spread about the Korean Peninsula. This class aims to provide students with basic knowledge and information appropriate for university study, based on past research results in history, politics, sociology, etc. Students will also learn how to access such basic research.

授業の内容 / Course Contents

朝鮮半島と日本との関わりは歴史的に深いものがある。本授業は南北朝鮮の社会や政治について学ぶものであるが、それが日本とどのような関わりがあるかも含めて学んでいく。また、そうした関わりによって日本での朝鮮半島に対する認識が形成されている点についても考察する。

The relationship between the Korean Peninsula and Japan is deep historically. In this class, we will learn about

the society and politics of North and South Korea, but we will also learn about how this relates to Japan. We will also consider how Japan's perception of the Korean Peninsula is shaped by such relationships.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：朝鮮半島と基地国家としての日本ー前近代の朝鮮／朝鮮にとっての近代／冷戦期の東北アジアの枠組
- 2 回：朝鮮半島の南北分断と韓国民主化の意味ー朝鮮戦争と分断体制の形成／反共体制の役割／韓国における政党政治／民主化運動の意義
- 3 回：韓国政治史の争点ーキム・デジュン政権の役割／ノ・ムヒョン政権の役割／韓国内の自由と人権／政党と政治ビジョン
- 4 回：韓国の社会格差ー植民地時代の影響／朝鮮戦争と生活再建／労働運動と所得増大／解消されない格差
- 5 回：韓国環境問題の現状と対応ー温山病／原子力発電／4大江事業／加湿器殺菌剤被害
- 6 回：韓国における移住者ー移住労働者と雇用許可制／結婚移住者／北朝鮮離脱者／外国籍者の選挙権
- 7 回：韓国社会と女性たちの異議申し立てー政権によって再生産された「儒教倫理」／民主化運動から女性運動へ／ジェンダー的多様性への模索
- 8 回：朝鮮民主主義人民共和国の政治体制ー社会主義体制としての北朝鮮／独自の社会主義としての北朝鮮／唯一思想体系の意味
- 9 回：朝鮮民主主義人民共和国の政治の変遷ー1990年代核危機と米朝交渉の開始／南北首脳会談の成果とその後の推移／日朝首脳会談とピョンヤン宣言／キム・ジョンウン政権と国際関係
- 10 回：朝鮮民主主義人民共和国の社会と文化ー現代的都市ピョンヤン／市民生活～日朝交流に関わるゲストスピーカーを予定している
- 11 回：南北関係の展開と課題ー南北関係の方向性についての考え方～平和定着・和解・統一／南北首脳会談／金剛山観光／開城工業団地／開城観光／停戦協定から平和協定への道
- 12 回：日韓関係と東北アジアー日韓会談／日韓条約と関連協定／日韓共同宣言／戦後補償と現状
- 13 回：在日コリアンと日本の排外主義ー在日朝鮮人の形成／外国人とされた朝鮮半島出身者／日本社会を多様にしてきた在日コリアン／ヘイトスピーチにどのように対応すべきか
- 14 回：まとめー韓国社会の課題／朝鮮民主主義人民共和国のこれから／日朝国交正常化と日韓関係の課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の進行と並行してテキストの『現代韓国を知るための61章【第3版】』を読んでおくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内に指示した提出物:40%

テキスト / Textbooks

石坂浩一・福島みのり編著 『現代韓国を知るための61章【第3版】』 明石書店 2024 ○

参考文献 / Readings

石坂浩一編 『北朝鮮を知るための55章【第2版】』 明石書店 2019

南基正 『基地国家の誕生』 東京堂出版 2023

朴一編 『在日コリアン辞典』 明石書店 2010

趙景達 『近代朝鮮と日本』 岩波書店 2012

趙景達 『植民地朝鮮と日本』 岩波書店 2013

月刊誌『世界』各号に掲載される「ドキュメント南北朝鮮」は直近の状況を知るのに役立つので活用してほしい。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

朝鮮語を学んだ経験があることが望ましい。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

社会調査入門

Introduction to the social survey

調査設計と実施の方法

池田 岳大 (IKEDA TAKEHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB140
授業形態：	オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）	
校地：	他
学期：	春学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	社会学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を理解し、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基本的な事項について概説する。

Students will understand the basic issues about the meaning and types of social surveys, and we will provide an outline of the basic issues concerning the process from collection of materials and data to analysis.

授業の内容 / Course Contents

社会調査の目的や方法論について概説しつつ、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法などの類型についても整理し、社会調査史や調査の種類と事例あわせて調査倫理について学ぶ。調査票調査やフィールドワークなど、データの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項についても概説する。

While providing a summary of the purpose and methodology of social surveys, we will organize the types of quantitative and qualitative surveys, statistical surveys, and case study methods, and students learn about survey ethics together with the history of social survey and types and examples of surveys. We will also outline the basic issues of processes from data collection to analysis such as questionnaire surveys and fieldwork.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：社会調査の目的
- 2 回：社会調査の諸方法
- 3 回：社会調査の歴史 欧米
- 4 回：社会調査の歴史 日本
- 5 回：標本抽出の方法
- 6 回：量的調査の種類と方法
- 7 回：質問紙調査の調査プロセス（1）
- 8 回：質問紙調査の調査プロセス（2）
- 9 回：質問紙調査の調査プロセス（3）
- 10 回：質的調査の概要と種類
- 11 回：自由面接法の種類と方法
- 12 回：自由面接法の調査プロセス（1）
- 13 回：自由面接法の調査プロセス（2）
- 14 回：観察法・ドキュメント分析の調査プロセス

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :55%

平常点割合 :45% コース教材内の練習問題:15% 課題提出:30%

テキスト / Textbooks

オンラインで提示する内容がテキストに相当する。

参考文献 / Readings

コース教材内で適宜指定する場合がある。

その他 / Others

履修許可者は、4月10日（水）～4月30日（火）までに Canvas LMS にログインして具体的な授業の受講方法について必ずその内容を確認すること。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

社会調査の技法

Social Survey Methodology

調査設計と実施の方法

渡辺 健太郎 (WATANABE KENTARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB141
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 社会学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

社会調査の技術的な側面に注目し、調査の企画・設計からデータの収集と整理に関する具体的な方法について解説する。社会調査、特にアンケート調査を企画・実施し、対象の問題の概要を明らかにするスキルの習得を目指す。

Focusing on the technical aspects of social surveys, we will explain the specific methods for collecting and organizing data from the planning and design of the survey. The aim is that students will acquire the skills to plan and conduct social surveys, especially questionnaire surveys, and the skills to clarify the outline of the relevant issues.

授業の内容 / Course Contents

10 回分を量的調査、5 回分を質的調査法のデータ収集法にあてる。量的調査に関しては、調査の企画・設計から、標本抽出や調査票の作成、実査の方法、データ作成や分析の考え方などを扱う。質的調査に関しては、調査の企画から、フィールドノートの作成など収集データの整理の技法までを扱う。

Ten classes will be used for quantitative surveys and five classes for qualitative survey data collection. Regarding

quantitative surveys, we will deal with the planning and design of surveys, sampling and creation of questionnaires, survey methods, and concepts of data creation and analysis. For qualitative surveys, we will deal with planning of surveys and techniques for organizing collected data such as creation of field notes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：調査の企画と設計
- 2 回：標本調査の理論と実際
- 3 回：標本抽出の実際
- 4 回：無作為標本の特徴
- 5 回：調査票の作り方
- 6 回：質問文の作り方
- 7 回：選択肢の作り方
- 8 回：調査の実施
- 9 回：調査データセットの作成
- 10 回：調査データの集計、分析と結果のまとめ方
- 11 回：インタビュー調査の技法 (1)
- 12 回：インタビュー調査の技法 (2)
- 13 回：フィールドワークの技法
- 14 回：質的調査の論文のまとめ方

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :55%

平常点割合 :45% コース教材内の練習問題:15% 課題提出:30%

テキスト / Textbooks

オンラインで提示する内容がテキストに相当する。

参考文献 / Readings

コース教材内で適宜指定する場合がある。

その他 / Others

履修許可者は、9月20日～9月30日までに Canvas LMS にログインして具体的な授業の受講方法について必ずその内容を確認すること。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

データ分析入門

Introduction to the Statistics: Descriptive Statistics

データ分析の基本的な考え方について学ぶ

渡辺 健太郎 (WATANABE KENTARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB142
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目： ○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

社会調査のデータを分析する基本的な考え方やその記述的な手法について主に解説する。

The course will focus primarily on the basic concepts of analyzing social survey data and its descriptive methods.

授業の内容 / Course Contents

度数分布表、比率の計算、クロス集計、クラメールの V、代表値、分散と標準偏差など変数の分布の特徴を表す方法や指標、共分散と相関係数など変数間の関係の強さを表す指標を学び、因果関係と相関関係の違いなど、データの解釈に至る方法について理解する。また、官庁統計など個票データ以外の統計的資料や時系列データなども扱いながら、データの社会科学的な含意をも理解できることをねらう。

Students will learn methods and indices that express characteristics of the distribution of variables such as frequency distribution tables, calculation of proportions, cross tabulation, Cramer's V, representative value, variance and standard deviation, and indices that express the strength of relationships among variables such as covariance and correlation coefficient, and understand how to reach interpretation of data such as the difference between causal relationship and correlation relationship. The course also aims to help students understand the

social scientific implications of the data, while also dealing with statistical data other than individual data, such as government statistics, and time series data.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：統計の役割と身近な統計
- 2 回：データを記述する (1)
- 3 回：データを記述する (2)
- 4 回：データを記述する (3)
- 5 回：データを記述する (4)
- 6 回：データを記述する (5)
- 7 回：データを記述する (6)
- 8 回：2 つの変数の関連を見る (1)
- 9 回：2 つの変数の関連を見る (2)
- 10 回：2 つの変数の関連を見る (3)
- 11 回：2 つの変数の関連を見る (4)
- 12 回：回帰分析の基礎
- 13 回：時系列データの処理
- 14 回：調査報告書や論文の書き方、読み方

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コース教材内の練習問題:15% 課題 (課題 (1) と課題 (2) の計 2 回) :30% 特別課題 (特別課題 A と特別課題 B の計 2 回) :55%

テキスト / Textbooks

オンラインで提示する内容がテキストに相当する。

参考文献 / Readings

コース教材内で適宜指定する場合がある。

その他 / Others

履修許可者は、授業 1 週目には Canvas LMS にログインして具体的な授業の受講方法について必ずその内容を確認すること。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

データの科学

Introduction to the Statistics:Statistics Inferences

社会を読み解く方法を学ぶ

渡辺 健太郎 (WATANABE KENTARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB143
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

社会について考え、課題を解決する道具として社会調査データ分析を位置づけ、データを用いて推論や仮説を検証するための手法を体得する。

Students will think about society, position social survey data analysis as a tool to solve problems, and learn methods for using data to test inferences and hypotheses.

授業の内容 / Course Contents

統計的データの集計・分析に必要な、基礎的な統計知識について学ぶ。記述統計学と推測統計学のうち、主に推測統計学に重点を置いたカリキュラムを展開する。確率論に基づいた推測統計学の基本的な考え方を身につけ、平均値や中央値、最頻値や分散、標準偏差といった基本統計量、共分散や相関係数といった変数間の関連性の強さを表す指標、クロス表の関連指標と独立性についてのカイ二乗検定、単回帰分析、偏相関係数と交絡変数の統制、重回帰分析などについて学ぶ。また、t検定や分散分析といった検定論についても学習する。統計学の応用的な内容を学習し、1変量、2変量を扱った分析手法から、多変量解析の入り口となる3変数を扱った分析手法についても一部学習する。

Students will learn about the basic statistical knowledge needed for statistical data aggregation and analysis. From among descriptive statistics and inference statistics, the curriculum will be developed with an emphasis on inference statistics. Students will acquire the basic idea of inference statistics based on probability theory, and will learn basic statistics such as mean value, median, mode, variance, and standard deviation; indices that indicate the strength of the relationship between variables such as covariance and correlation coefficient; chi-square tests for cross-table related indices and independence; single regression analysis; control of partial correlation coefficients and confounding variables; and multiple regression analysis. In addition, students will learn about test theory such as t-test and analysis of variance. Students will learn the applied contents of statistics, and learn topics from analysis methods for dealing with univariates and bivariate to some analysis methods for dealing with three variables that are the entry point to multivariate analysis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：記述統計学と推測統計学
- 2 回：標本抽出 (1)
- 3 回：確率の基礎と確率分布
- 4 回：標本抽出 (2)
- 5 回：推定
- 6 回：推定：平均の推定
- 7 回：推定：比率の推定
- 8 回：統計的検定の基礎論理 (1)
- 9 回：母平均の差の検定、t 検定
- 10 回：分散分析
- 11 回：カイ二乗検定
- 12 回：三重クロス表の分析
- 13 回：相関と回帰
- 14 回：因果への挑戦

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コース教材内の練習問題:15% 課題(課題(1)と課題(2)の計2回):30% 特別課題(特別課題Aと特別課題Bの計2回):55%

テキスト / Textbooks

オンラインで提示する内容がテキストに相当する。

参考文献 / Readings

コース教材内で適宜指定する場合がある。

その他/ Others

履修許可者は、授業 1 週目には Canvas LMS にログインして、内容を確認すること。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

多変量解析入門

Introduction to Multivariate Analysis

多変量解析入門

小野原 彩香 (ONOHARA AYAKA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB144
授業形態：	オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）	配信開始日は秋学期授業初日を予定している。
校地：	他
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

データに潜む重要な情報を明らかにする方法として多変量解析を位置づけ、基本的な考え方、代表的な手法、および社会における活用法を理解する。

We will understand the basic ideas, representative methods, and usage methods in society.

授業の内容 / Course Contents

多変量解析の基本的な考え方と代表的な手法を習得する。特に、(1)予測・要因探求のための手法および(2)複雑な情報をまとめ分類するための手法について解説を行う。さらに、統計解析言語 R を用いた分析演習を通じて、これらの手法の活用事例や役割を理解する。

We will learn the basic concepts and representative methods of multivariate analysis. In particular, we will describe (1) methods for prediction and factor search, and (2) methods for organizing and classifying complex information. Furthermore, through analysis exercises using the statistical analysis language R, students will understand the usage cases and roles of these methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：多変量解析とは何か？
- 2 回：記述統計学と推測統計学の復習
- 3 回：相関係数と偏相関係数
- 4 回：重回帰分析(1)：単回帰分析から重回帰分析へ
- 5 回：重回帰分析(2)：重回帰分析の考え方
- 6 回：重回帰分析(3)：ダミー変数と回帰分析の注意点
- 7 回：二項ロジスティック回帰分析
- 8 回：二元配置分散分析
- 9 回：三重クロス集計表の分析
- 10 回：因子分析(1)：因子分析の考え方
- 11 回：因子分析(2)：因子の回転と利用上の注意
- 12 回：主成分分析
- 13 回：クラスター分析
- 14 回：構造方程式モデリング

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

資料や関連書籍を読み、不明な点がないか確認すること。学習した統計量の計算手順を復習し、その性質についての理解を定着させること。動画の内容は『多変量解析』という広大な海へのほんの入り口であり、説明しきれていない豊かな統計理論や応用例が存在する。動画で満足することなく、内容に関して疑問や論点を自分なりに整理していくことが、理解を深めることにつながる。

学習時間は1回の授業あたり、動画視聴を含めて240分程度が目安である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内課題（レポートを含む。25%×4回）:100%

テキスト / Textbooks

オンラインで提示する内容がテキストに相当する。

参考文献 / Readings

山田剛史, 杉澤武俊, 村井潤一郎 『Rによるやさしい統計学』 オーム社 2008

村井潤一郎 『初めてのR——ごく初歩の操作から統計解析の導入まで』 北大路書房 2015

中村永友 『Rで学ぶデータサイエンス2 多次元データ解析法』 共立出版 2010

Fox, John, and Sanford Weisberg An R Companion to Applied Regression SAGE 2011 (2nd ed.)

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

他の科目として開講されている統計学入門や統計的検定、統計的推定を含む講義をすでに履修していることが望ましい。本科目は、それらの科目を基礎知識としてすでに習得していることを前提とした内容である。

各種の解析を行う課題を出すため、PC操作に苦手意識がないことが望ましい。苦手意識があっても、前向きに取り組む意思が必要とされる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

統計解析ソフト R を用いる。

その他/ Others

本科目は社会調査協会の定める社会調査士指定項目 E 科目「多変量解析の方法に関する科目」に該当する。その性質上、同 C 科目 D 科目の内容である基礎統計学の知識を前提とする。知識の習得が不安なものは、各自復習をしておくこと。

履修者は、あらかじめ Canvas LMS にログインして具体的な授業の受講方法について必ずその内容を確認すること。

授業内容に関して質問がある場合は、学期中 2 回行われるスクーリングを利用されたい。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Introduction to Statistics 1

Introduction to Statistics 1

Descriptive Statistics

山口 和範／ドイ, ジミー (YAMAGUCHI KAZUNORI/ DOI JIMMY)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB146

授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）

授業形態（補足事項）

校地： 他

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2231

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This class is an introductory course that assumes no prior knowledge of statistics. Basic statistical concepts and methods are presented in a manner that emphasizes understanding the principles of data collection and analysis rather than theory. Much of the course will be devoted to discussions of how statistics is commonly used in the real world. The primary goal of the course is to help students understand how the process of problem solving using data, collecting data relevant to that problem, analyzing data, and interpreting data can help them find answers to real problems from their world.

授業の内容 / Course Contents

The following contents will be studied; frequency table, making statistical graphs, basic statistics as mean and variance, correlation and causation, analysis of variance and so on.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Role of statistics

2 回： Data collection and Variables

- 3 回：Frequency table and histogram
 4 回：Statistical Graphs
 5 回：Distributions
 6 回：Mean, mode and median
 7 回：Variance
 8 回：Comparison of distributions
 9 回：Relationship between two variables
 10 回：Cross tables
 11 回：Association between categorical variables
 12 回：Correlation and scatter plot
 13 回：Regression analysis
 14 回：Confounding

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Assignments will be provided at each class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quiz(10%×7):70% Report:30%

テキスト / Textbooks

None

参考文献 / Readings

その他 / Others

This class is e-learning course on the Canvas LMS.

注意事項

- ・ F 科目中級 (外国語による総合系科目)
- ・ TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

Introduction to Statistics 2

Introduction to Statistics 2

Statistical Inference

山口 和範／ドイ, ジミー (YAMAGUCHI KAZUNORI/ DOI JIMMY)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB147

授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）

授業形態（補足事項）

校地： 他

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2231

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This class is an introductory course that assumes no prior knowledge of statistics. Basic statistical concepts and methods are presented in a manner that emphasizes understanding the principles of data collection and analysis rather than theory. Much of the course will be devoted to discussions of how statistics is commonly used in the real world. The primary goal of the course is to help students understand how the process of problem solving using data, collecting data relevant to that problem, analyzing data, and interpreting data can help them find answers to real problems from their world.

授業の内容 / Course Contents

The following contents will be studied; Basics of statistical inference, population and sample, estimation, statistical test and so on.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Role of Statistics

2 回： Random Sample and Sampling Error

- 3 回：Probability and Distributions
 4 回：Sampling distribution and the Central limit Theorem
 5 回：Statistical Estimation 1: Introduction
 6 回：Statistical Estimation 2 ; Estimation of means
 7 回：Statistical Estimation 3 ; Estimation of proportions
 8 回：Hypothesis Test 1 : Introduction
 9 回：Hypothesis Test 2 : Hypothesis and two types of errors
 10 回：Hypothesis Test 3 : Difference of means
 11 回：Analysis of Variance
 12 回：Chi-squared Test
 13 回：Analysis of Multiway Table
 14 回：Correlation and Regression

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Assignments will be provided at each class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% QUIZ 70% (10%×7 回) :70% Final Report:30%

テキスト / Textbooks

None

参考文献 / Readings

その他 / Others

This class is e-learning course on the Canvas LMS.

注意事項

- ・ F 科目中級 (外国語による総合系科目)
- ・ TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

Introduction to the social survey

Introduction to the social survey

Survey design and implementation methods

池田 岳大 (IKEDA TAKEHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB148
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

Students will understand the basic issues about the meaning and types of social surveys, and we will provide an outline of the basic issues concerning the process from collection of data and analysis.

授業の内容 / Course Contents

While providing a summary of the purpose and methodology of social surveys, we will organize the types of quantitative and qualitative surveys, statistical surveys, and case study methods, and students learn about survey ethics together with the history of social surveys and types and examples of surveys. We will also outline the basic issues of processes from data collection to analysis such as questionnaire surveys and fieldwork.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introduction
- 2 回： Summary of methods and applications of social surveys
- 3 回： History of social survey (1)
- 4 回： History of social survey (1) :Japan

- 5 回：Methods of sampling
 6 回：Quantitative surveys
 7 回：Questionnaire design (1)
 8 回：Questionnaire design (2)
 9 回：Questionnaire design (3)
 10 回：Qualitative surveys
 11 回：Non-directive interview (1)
 12 回：Non-directive interview (2)
 13 回：Non-directive interview (2)
 14 回：Other methods of Qualitative surveys

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Study outside class time will be instructed separately as necessary.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :55%

平常点割合 :45% Practice questions for course materials:15% Submission of assignments:30%

テキスト / Textbooks

The material presented in the online class is the textbook.

参考文献 / Readings

Readings may be provided in the course materials.

その他 / Others

Students who have been approved for the course should log in to Canvas LMS between April 10 and April 30 to check the details of how to take the class.

注意事項

- ・ F 科目中級 (外国語による総合系科目)
- ・ TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

Introduction to Multivariate Analysis

Introduction to Multivariate Analysis

多変量解析入門

小野原 彩香 (ONOHARA AYAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB149
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

データに潜む重要な情報を明らかにする方法として多変量解析を位置づけ、基本的な考え方、代表的な手法、および社会における活用法を理解する。

We will learn the basic ideas, representative methods, and usage methods in society.

授業の内容 / Course Contents

多変量解析の基本的な考え方と代表的な手法を習得する。特に、(1)予測・要因探求のための手法および(2)複雑な情報をまとめ分類するための手法について解説を行う。さらに、統計解析言語 R を用いた分析演習を通じて、これらの手法の活用事例や役割を理解する。

We will learn the basic concepts and representative methods of multivariate analysis. In particular, we will describe (1) methods for prediction and factor search, and (2) methods for organizing and classifying complex information. Furthermore, through analysis exercises using the statistical analysis language R, students will understand the usage cases and roles of these methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：What is multivariate analysis?
 2 回：Review of descriptive statistics and inferential statistics
 3 回：Correlation coefficient and partial correlation coefficient
 4 回：Multiple regression analysis (1): From simple regression analysis to multiple regression analysis
 5 回：Multiple regression analysis (2): Concept of multiple regression analysis
 6 回：Multiple regression analysis (3): Dummy variables and cautions for regression analysis
 7 回：Binomial logistic regression analysis
 8 回：Two-way analysis of variance
 9 回：Analysis of the triple cross tabulation table
 10 回：Factor analysis (1): Concept of factor analysis
 11 回：Factor Analysis (2): Factor Rotation and Cautions on Use
 12 回：Principal component analysis
 13 回：Cluster analysis
 14 回：Structural equation modeling

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワーポイント等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Please read the materials and related books and check for any unclear points. Please review the procedures for calculating the statistics you have learned, and solidify your understanding of their properties. The contents of the video are just an introduction.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 4 homeworks ×25%:100%

テキスト / Textbooks

The content presented online corresponds to the text

参考文献 / Readings

- 山田剛史, 杉澤武俊, 村井潤一郎 『R によるやさしい統計学』 オーム社 2008
 村井潤一郎 『初めての R—ごく初歩の操作から統計解析の導入まで』 北大路書房 2015
 中村永友 『R で学ぶデータサイエンス 2 多次元データ解析法』 共立出版 2010
 Fox, John, and Sanford Weisberg An R Companion to Applied Regression SAGE 2011 (2nd ed.)

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

It is desirable that students have already taken lectures on introductory statistics, statistical testing, and statistical estimation offered as other subjects. This course is based on the assumption that students have already acquired a foundation in the

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Use the statistical analysis software R.

その他 / Others

This course corresponds to subject E, "Methods of Multivariate Analysis," which is designated as a subject for social researchers by the Japan Association for Social Research. Due to the nature of this subject, knowledge of basic statistics, which is the

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

国際情勢を読み解く

International Situation:from a historical point of view

世界を客観的に把握するために

池上 彰 (IKEGAMI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB150

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日々飛び込んでくる国際ニュースを冷静に理解し、自分なりの視点を持てる力を育む。

To develop the ability to calmly understand the international news that pops up every day and to have one's own point of view.

授業の内容 / Course Contents

中東での戦闘激化、ロシアによるウクライナ侵攻の継続、アメリカ国内の分断、北朝鮮の核開発、欧州の混乱化など、世界は激動している。その現状を、歴史にさかのぼることで解きほぐす。積極的な質問を歓迎する。

The world is in turmoil, with intensified fighting in the Middle East, Russia's continued invasion of Ukraine, divisions within the United States, North Korea's nuclear development, and turmoil in Europe. The current situation will be unraveled by going back to history. We welcome your active questions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イスラエルによるガザ攻撃の背景には何があるのか。中東問題の歴史から分析する。

2 回：ロシアはなぜウクライナを侵攻したのか。東西冷戦とその終結以降の歴史から分析する。

- 3回：東西冷戦と核開発競争
- 4回：ベトナム戦争とカンボジア内戦
- 5回：アフガニスタンで何が起きていたのか
- 6回：湾岸戦争からイラク戦争そしてIS(イスラム国)の誕生
- 7回：宗教が世界を動かす
- 8回：トランプ再登板はあるのか
- 9回：アメリカという不思議の国
- 10回：中国が隠す自国の歴史
- 11回：異形の国家・北朝鮮
- 12回：韓国はどんな国か
- 13回：エネルギーが世界を動かす
- 14回：EUの理想と現実

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容を事前に予測し、高校時代の世界史の教科書の復習を推奨する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。授業の復習に役立つ書籍は、その都度指示する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

旺盛な好奇心と過去に高校で学習した知識を活用する意欲を持つこと。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

異文化コミュニケーションを考えるA

Exploring Intercultural Communication A

社会的行為としての記憶と異文化コミュニケーション

河合 優子 (KAWAI YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB153
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

社会的行為としての記憶とは何かを理解し、異文化コミュニケーションの課題との関連性を捉える力をつける
Students will understand memory as a social act and its connections with critical issues in intercultural communication.

授業の内容 / Course Contents

記憶を個人的行為ではなく社会的行為としてとらえた研究は、特に1980年代後半から1990年代に入って活発化した。日本でも社会的記憶に関する研究は2000年代以降、歴史学、社会学、地域研究、メディア研究など多様な学問分野で学際的に研究が行われている。歴史やアイデンティティとも密接に関わる社会的行為としての記憶は、ナショナリズムや人種主義など異文化コミュニケーションの課題を考える際にも重要な概念である。この授業ではまず文化とコミュニケーション、そして異文化コミュニケーションの課題について概観し、社会的行為としての記憶、想起と忘却の関係について理解した後、社会的行為としての記憶がナラティブ、アイデンティティ、メディア、歴史にどのようにかかわっているのかについて考えていく。そしてグループ発表を通して、日本の大衆文化における日本のアジア植民地支配の文化的記憶について考えを深めていく。

Studies on memory as a social act started to increase especially from the late 1980s into the 1990s. In Japan, research on social memory has been conducted since the 2000s across various academic fields, including history, sociology, area studies, and media studies. Memory as a social act, closely related to history and identity, is an important concept for scrutinizing critical issues in intercultural communication, such as nationalism and racism. This course will first provide an overview of culture, communication, and critical issues in intercultural communication. After understanding memory as a social act, we will explore the relationship between remembering and forgetting and how memory as a social act is interconnected with narrative, identity, media, and history. Through group presentations, students in this course will investigate the cultural memory of Japan's colonial rule over Asian countries in Japanese popular culture.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入
- 2 回：記憶、文化、コミュニケーション
- 3 回：異文化コミュニケーションの諸課題
- 4 回：個人的記憶と社会的記憶
- 5 回：想起と忘却
- 6 回：記憶とナラティブ
- 7 回：記憶とアイデンティティ
- 8 回：記憶とメディア（1）
- 9 回：記憶とメディア（2）
- 10 回：記憶と歴史（1）
- 11 回：記憶と歴史（1）
- 12 回：グループ発表（1）
- 13 回：グループ発表（2）
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

課題文献が指定されている回にはそれを読んで授業に参加すること。グループ発表の準備に積極的に取り組むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席・授業参加貢献度（授業内課題含）：40% グループ発表：20% 最終レポート：40%
単位修得には75%以上の出席が必要。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

アライダ・アスマン 『想起の文化－忘却から対話へ』 岩波書店 2019

アストリッド・エアル 『集合的記憶と想起文化－メモリースタディーズ入門』 水声社 2022

その他/ Others

リアクションペーパーは次回授業開始時にフィードバックする。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

異文化コミュニケーションを考える B

Exploring Intercultural Communication B

フィールドワークと開発教育

高橋 みのり (TAKAHASHI MINORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB154

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ・フィールドワークの方法論と開発教育の理念を理解し、実践につなげることを目標とする。
 - ・国内外の社会課題について、当事者意識を持ち、問題の背景を分析できるようになる。
 - ・フィールドワークの手法を通じて、自分と異なる価値観や生活圏の人々から学ぶ姿勢を身につける。
 - ・フィールドワークの方法論を学び、実習や卒業論文にも応用可能な技法を習得する。
- To understand methodology of fieldwork and the significance of development education, and to put to practice what you have learnt.
- To analyze the background of the social issues in domestic and overseas.
- To cultivate a learning attitude from people who have various values and lifestyles through fieldwork.
- To apply what you have learnt to other practical field work and graduation thesis.

授業の内容 / Course Contents

異文化理解を深めるため、フィールドワークの手法やフィールドワークで得られた知見を実践につなげる方法を学ぶとともに、参加型学習を積極的にとりいれて発展してきた開発教育におけるフィールドワークの理

念・歴史を学ぶ。開発教育とは、いわゆる発展途上国における開発を巡る問題をその歴史的背景とともに理解し、自分たちが暮らす社会との関係性のあり方を考え、持続可能な社会づくりに参加することを目的とした教育である。本科目で扱う事例は途上国でのフィールドワークが中心となるため、一般的に途上国が抱える開発課題の基礎的な内容や用語についても解説を加える。

本講義では、国内外で厳しい環境に暮らす人びとに寄り添い、対話し、課題解決を模索する、「現場を自らの足で歩いて考える」ための手法としてフィールドワークを位置づける。現場で何が起きているのかを的確に把握し、現場に適した解決策を提案するためにも、フィールドワークの経験が不可欠である。フィールドワークの意義と手法を多面的に学んだのちに、複数の事例を用いて受講生同士のグループワークを実施する。模擬的にフィールドワークを体験することで、フィールドワークへの関心を深め、実践的なトレーニングの場とする。

In this course, to deepen cross-cultural understanding, you will learn how to utilize methodologies and knowledges of fieldwork in an actual practice and understand the significance and the history of fieldwork on development education. Aiming to create a sustainable society as a member of community, you will learn the issues facing developing countries with historical background and will consider the relationship with our own society. It also includes introduction of fundamental and technical terms regarding social issues in developing countries.

You will learn fieldwork as “an experience on your own feet in your field”, in this class. To explore solutions to the issues, we put ourselves in the shoes of others who live in severe environments domestically and overseas. To understand what is happening the field and to propose appropriate solutions, actual field experience is essential. In order to achieve these goals, we will have group discussions and group works, so that students themselves will be able to deepen understanding in fieldwork.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：フィールドワークとはなにかー開発教育におけるフィールドワークの歴史と現在
- 2 回：フィールドワークの手法①：インタビュー方法、フィールドノートの書き方
- 3 回：フィールドワークの手法②：質問紙調査、参与観察
- 4 回：フィールドワークと安全管理
- 5 回：フィールドワークとジェンダー
- 6 回：事例から考える①：モンゴル環境研修
- 7 回：事例から考える②：国内の事例（子ども食堂、フードパントリー）
- 8 回：グループワーク（ロジック・ツリー：現場の「課題」とはなにか）
- 9 回：国際協力実践におけるフィールドワークの位置づけ
- 10 回：事例から考える③： Bangladesh のストリートチルドレン
- 11 回：事例から考える④： Bangladesh の家事使用人
- 12 回：グループワーク（当事者意識とフィールドワーク：事例③をもとにしたロールプレイング）
- 13 回：グループワーク（異文化コミュニケーションとフィールドワーク：事例④をもとにしたロールプレイング）
- 14 回：最終報告、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・授業内で指示した文献や資料を事前に読んでおくこと
- ・身近なフィールドに出て、授業で学んだ内容を応用し、調査を行うこと

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:30% 講義への参加度合い:30% 中間・最終レポート:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

- 佐藤郁哉 『フィールドワークの技法―問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社 2002 9784788507883
井上真 『躍動するフィールドワーク―研究と実践をつなぐ』 世界思想社 2006 9784790712053
田中治彦 『国際協力と開発教育―「援助」の近未来を探る』 明石書店 2008 9784750328119

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布、授業中の課題の提出などに「Canvas LMS」を使用するので、授業に PC を持参すること。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

異文化コミュニケーションを考えるC

Exploring Intercultural Communication C

The Role of Intercultural Understanding in Translation and Interpreting

金 知賢 (KIM JIHYEON)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB155

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2231

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course aims to explore common issues and challenges in intercultural communication with case studies and to discuss possible approaches and strategies for translation and interpreting. Another objective of this course is to recognize pragmatic and cultural sensitivities as integral components of intercultural communication by exploring differences in culture and language practices.

授業の内容 / Course Contents

This course introduces key theoretical concepts of intercultural communication. Drawing on real-life examples in various settings, successful or unsuccessful intercultural interactions through translation and interpreting will be explored. During each class, students will be required to conduct individual research and give presentations on their findings, along with actively participating in class discussions. Each presentation will be followed by feedback from the instructor and fellow classmates.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction and course overview

- 2回：Key concepts in intercultural communication
 3回：Overview of case study presentation
 4回：Case Study Presentation and Discussion #1
 5回：Case Study Presentation and Discussion #2
 6回：Case Study Presentation and Discussion #3
 7回：Case Study Presentation and Discussion #4
 8回：Case Study Presentation and Discussion #5
 9回：Case Study Presentation and Discussion #6
 10回：Case Study Presentation and Discussion #7
 11回：Case Study Presentation and Discussion #8
 12回：Case Study Presentation and Discussion #9
 13回：Case Study Presentation and Discussion #10
 14回：Summary／Concluding Remarks

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be given materials to read or watch before class. Additionally, students are required to submit a reaction paper at the end of each class, reflecting on what they have learned.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Class Participation:30% Individual Presentations:40% Final Report:30%

Attendance and class participation are critical components of this course. Even if circumstances require your absence, you will still be required to attend at least 2/3rds of the classes. If you do not attend this number of classes, you will receive a fail

テキスト / Textbooks

To be determined

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

To successfully complete this course, students are expected to have an advanced level of proficiency both in Japanese and English.

その他 / Others

*The syllabus is subject to change. Changes, if any, will be announced during classes.

**Some of these classes may be conducted online.

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修

- ・この授業は英語で実施する
- ・履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

立教ゼミナール2

Seminars for Students of Rikkyo University 2

圧倒的な他者に出会う

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB170
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2240
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

奥野克巳『ありがとうもごめんなさいもいらない森の民と暮らして人類学者が考えたこと』を読むことをつうじて、東南アジアの狩猟民の世界と現代日本を往き来しながら、文化人類学とその手法であるフィールドワークに関する理解を深め、人間って何だろうというテーマを探っていく。

Reading the book, Katsumi Okuno's 'What an Anthropologist Think after Living with the People of the Forest who don't need Thank You or Sorry', the students will deepen their understanding of cultural anthropology and its method of fieldwork and explore the theme of what it means to be human, while moving back and forth between the world of the Southeast Asian hunter-gatherers and present-day Japan.

授業の内容 / Course Contents

以下のようなトピックを順に取り上げて検討していく。

- ・長期滞在する文化人類学のフィールドワークで何が分かるのか？
- ・ボルネオ島の狩猟民プナンとはどういう人たちなのか？
- ・「ありがとう」や「ごめんなさい」がないとはどういうことか？

- ・死者の名を呼んではいけないというタブーはなぜあるのか?
- ・プナンは子育てを共同体のみなでするとはどういうことか?
- ・なぜプナンはトリにサルの名前を付けるのだろうか?

The following topics will be discussed in turn.

- *What can we learn from long-term fieldwork in cultural anthropology?
- *What are the Penan hunters of Borneo like?
- *What does it mean not to have 'thank you' or 'I'm sorry'?
- *Why is there a taboo against calling the dead by their names?
- *What does it mean that the Penan raise their children together in the community?

Why do Penan give monkey name to birds?

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：はじめに、1. 生きるために食べる
- 3回：2. 朝の尻祭り
- 4回：3. 反省しないで生きる
- 5回：4. 熱帯の贈与論、5. 森のロレックス
- 6回：6. ふたつの勃起考、7. 慾を捨てよと、プナンは言った
- 7回：8. 死者を悼むいくつかのやり方
- 8回：9. 子育てはみなで、10. 学校に行かない子どもたち
- 9回：11. ないことの火急なる不穩
- 10回：12. アナキズム以前のアナキズム
- 11回：13. 倫理以前、最古の明敏
- 12回：14. アホ犬の末裔、ペットの野望
- 13回：15. 走りまわるヤマアラシ、人間どもの現実
- 14回：16. リーフモンキー鳥と、リーフモンキーと、人間と、おわりに

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定	:		:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

奥野克巳 『ありがとうもごめんなさいもいらない森の民と暮らして人類学者が考えたこと』 新潮社 2023
9784101045719 ○

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

立教ゼミナール 2

Seminars for Students of Rikkyo University 2

商人・企業家と経済発展の歴史

菊池 雄太 (KIKUCHI YUTA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB171
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2240
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

歴史的な考察・分析ができるようになる。経済発展に商人・企業家が果たす役割を理解できるようになる。
Learn the methods of historical analysis and consideration. Understand the role of merchants/entrepreneurs for the economic development.

授業の内容 / Course Contents

社会・経済は、どのようにして発展するのでしょうか。この授業では、そのことを歴史的に考察・分析します。とくに注目するのは、商人・企業家が果たした役割です。商人・企業家は、人びとが求めるモノを調達し、商業で世界各地を結びつけ、また、さまざまな部門でイノベーションを引き起こします。参加者の皆さんは、ペアまたはグループをつかって、調査対象を決め、文献や資料・史料を調査し、集め分析し、報告を行い、議論をし、最終レポートを完成させます。*前半の授業回では担当教員から出した課題への取り組みが中心になります。担当教員が専門とする地域はヨーロッパですが、日本、その他アジア、アメリカなどの商人・企業家を調査対象にしても構いません。

How society and economy develop? In this seminar, we consider and analyze this subject from the historical approaches. A special focus is put on the role of merchants/entrepreneurs. They procure products people demand, connect and integrate all parts of the world, create innovation in various economic sectors.

Participants will build pairs or groups, set the object of research, collect and analyze the relevant literature, materials and sources, present their research, discuss each other, and write the final report.

The main research field of the instructor is Europe, but students can choose their target merchants/entrepreneurs not only from Europe, but also from Japan, other Asian countries, America, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：・イントロダクションと自己紹介
・ペアまたはグループの形成
- 2 回：・文献の調査方法について
・ペア/グループによる調査
- 3 回：・歴史的な考察と分析について
・ペア/グループによる考察と分析
- 4 回：・中世商人/企業家の果たした役割について
・ペア/グループによる考察と報告
- 5 回：・近世商人/企業家の果たした役割について
・ペア/グループによる考察と報告
- 6 回：・近代商人/企業家の果たした役割について
・ペア/グループによる考察と報告
- 7 回：・現代の企業・企業家の果たす役割について
・ペア/グループによる考察と報告
- 8 回：・ペア/グループ研究
- 9 回：・ペア/グループ研究
- 10 回：・ペア/グループ研究
- 11 回：・ペア/グループ研究
- 12 回：・ペア/グループ報告と議論
- 13 回：・ペア/グループ報告と議論
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ほぼ毎回、こちらから事前調査課題を出します。与えられた課題に取り組み、それに基づいた演習を行います。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題への取り組み:30% 授業内での発言・積極的取り組み:30% 研究報告:20% 最終

レポート:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本語が母国語でない場合は、大学授業レベルの日本語能力が求められます。それ以外には特別な能力（歴史的な予備知識など）は求められません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC（調査・報告のために毎回必須）

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

立教ゼミナール 2

Seminars for Students of Rikkyo University 2

ネット情報と「陰謀論」の今日

井川 充雄 (IKAWA MITSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB172
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2240
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

このゼミナールでは、国際的な情報に関する 2 冊の本を講読し、履修者同士の議論により、理解を深める。これにより、専門的な本を読む、発表を行う、討論を行う、といった学問の基本的な方法を習得することを目標とする。

In this seminar, students will read two books on international information and deepen their understanding through discussions among students. The goal is for students to learn basic academic methods such as reading specialized books, giving presentations, and holding discussions.

授業の内容 / Course Contents

インターネットや SNS の急速な発展により、今日では、誰もがさまざまな情報にアクセスできるようになったとともに、自らの意見や思想をたやすく公表できるようになった。しかし、ネット上には、誤った情報や、意図的に真実をゆがめたフェイクニュースも多数存在し、またそうした情報に感化され「陰謀論」に取り込まれてしまう人も少なくない。このゼミナールでは、このテーマに関する 2 冊の本を講読する。これにより、今後のメディアや情報のあり方、接し方について議論を通して理解を深める。

Thanks to the rapid development of the Internet and SNS, everyone today has access to a wide variety of information and can easily express their opinions and ideas. However, there is a lot of false information and fake news that intentionally distorts the truth on the internet, and many people are influenced by such information and are drawn into "Conspiracy Theories". In this seminar, we will read two books on this topic. Through this, we will deepen our understanding through discussion about the future of media and information, and how we should interact with it.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：『国際メディア情報戦』(1)
- 3回：『国際メディア情報戦』(2)
- 4回：『国際メディア情報戦』(3)
- 5回：『国際メディア情報戦』(4)
- 6回：『国際メディア情報戦』(5)
- 7回：『国際メディア情報戦』(6)
- 8回：『陰謀論』(1)
- 9回：『陰謀論』(2)
- 10回：『陰謀論』(3)
- 11回：『陰謀論』(4)
- 12回：『陰謀論』(5)
- 13回：『陰謀論』(6)
- 14回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：		
上記いずれも用いない予定	：							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

履修者は、指定したテキストはもちろん、授業時間外に関連する文献を読むことによって、より多角的に理解を深めることが必要である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内発表:30% 授業内での議論への参加・貢献度:40% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

高木徹 『国際メディア情報戦』 講談社 2014 9784062882477 ○

秦正樹 『陰謀論 民主主義を揺るがすメカニズム』 中央公論新社 2022 9784121027221 ○

参考文献 / Readings

参考文献については、授業内で説明する。

その他 / Others

本授業は少人数の演習形式である。狭義の専門にとらわれず、しっかりと文献を読み、それを発表したり、討論する能力を養おうとするものである。したがって、授業内での発表や討論に際して、積極的に発言することが期待される。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

立教ゼミナール2

Seminars for Students of Rikkyo University 2

台湾から日本の政治・外交を考える

倉田 徹 (KURATA TORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB173

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2240

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

台湾戦後史について正しく理解すること、そして、その知見を踏まえて、日本の政治・外交のあるべき姿について受講者が考えること。

To gain a correct understanding of Taiwan's post-war history, and for participants to consider what Japanese politics and diplomacy should look like in light of this knowledge.

授業の内容 / Course Contents

近年日本では、台湾の活力ある民主主義に注目が集まっています。同時に、強国化する中国の台湾に対する圧力が、日本の外交・安全保障に与える影響も懸念されています。また、多くの日本人が、台湾を「親日国」として認識しています。しかしながら、台湾が 1980 年代まで厳しい独裁体制の下に置かれていたことや、日本との間に複雑な歴史問題を抱えていることについて十分な理解のない言論も、日本国内では散見されます。

この授業では、指定されたテキストの各章についてテキスト報告担当者がその内容を要約し、解説します。また、研究報告担当者がテキストの主題に関わる研究報告を行い、これらを踏まえて相互に議論を交わします。

In recent years, Taiwan's vibrant democracy has attracted much attention in Japan. At the same time, there is

concern about the impact of China's increasing pressure on Taiwan, which is becoming a stronger power, on Japan's foreign policy and security. Many Japanese also recognise Taiwan as a 'pro-Japanese' country. However, there are also some discourses in Japan that do not fully understand that Taiwan was under a strict dictatorship until the 1980s and that it has a complex historical problem with Japan.

In this class, assigned text-reporter summarises and explains the contents of each chapter of the designated text. In addition, the student in charge of the research report will present a report on the subject matter of the text, which will be discussed with each other based on these reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・報告担当者の決定
- 2回：テキスト講読と研究発表①
- 3回：テキスト講読と研究発表②
- 4回：テキスト講読と研究発表③
- 5回：テキスト講読と研究発表④
- 6回：テキスト講読と研究発表⑤
- 7回：テキスト講読と研究発表⑥
- 8回：テキスト講読と研究発表⑦
- 9回：テキスト講読と研究発表⑧
- 10回：テキスト講読と研究発表⑨
- 11回：テキスト講読と研究発表⑩
- 12回：テキスト講読と研究発表⑪
- 13回：テキスト講読と研究発表⑫
- 14回：テキスト講読と研究発表⑬

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

台湾と日本の政治・外交・安全保障に関する新聞等の報道を常にチェックしておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み:30% 発表:30% コメンテーター:20% 議論への参加度:20%

テキスト / Textbooks

家永真幸 台湾のアイデンティティ 文春新書 2023 9784166614349 ○

参考文献 / Readings

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

立教ゼミナール2

Seminars for Students of Rikkyo University 2

金融経済および財務諸表に関する基礎知識

千野 厚 (CHINO ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB174

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2240

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

金融経済の初学者が金融論、より具体的には金融資産、金融取引や金融市場に関する基礎的な知識を習得することを目標とします。また、学生による文献の輪読・プレゼンテーションを通じて、企業の財務諸表の初歩的な意味を理解できるような知識の習得も目指します。

Students will learn fundamentals of financial economics, such as various kinds of financial assets, primary benefits for consumers/investors from trading those assets, and financial markets where those assets are traded. Students will also learn basics of financial statement analysis through making a group presentation on an assigned topic of a textbook in every class.

授業の内容 / Course Contents

担当教員が中心となって基礎的な金融論の各トピックを授業内で紹介していく予定です。また、毎回ゼミ生グループによる財務諸表分析の文献輪読・プレゼンテーション、および課題を与えることを通じて、学習内容の理解を深めていきます。

The instructor will give a brief overview of a topic in every class, then discuss the topic with students, and

occasionally give an assignment for which students should work and complete in a group. Students are also expected to make a group presentation for an assigned topic in a textbook on financial statement analysis in every class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：貨幣と決済の仕組み(1)および財務諸表分析の基礎(1)
- 3回：貨幣と決済の仕組み(2)および財務諸表分析の基礎(2)
- 4回：銀行による貨幣の供給(1)および財務諸表分析の基礎(3)
- 5回：銀行による貨幣の供給(2)および財務諸表分析の基礎(4)
- 6回：直接金融の仕組み(1)および財務諸表分析の基礎(5)
- 7回：直接金融の仕組み(2)および財務諸表分析の基礎(6)
- 8回：間接金融の仕組み(1)および財務諸表分析の基礎(7)
- 9回：間接金融の仕組み(2)および財務諸表分析の基礎(8)
- 10回：リスクと金融制度(1)および財務諸表分析の基礎(9)
- 11回：リスクと金融制度(2)および財務諸表分析の基礎(10)
- 12回：現在価値・将来価値および財務諸表分析の基礎(11)
- 13回：金融資産価格の決まり方および財務諸表分析の基礎(12)
- 14回：学習内容の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

全ての学生が事前に指示される内容の予習・復習、およびプレゼンテーション・課題の準備をしていくことが必要になります。また、ゼミ内での積極的な質問や発言を高く評価します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内で提示する課題(複数回):40% プレゼンテーション(複数回):40% 出席を基礎としたゼミへの参加度:20%

テキスト / Textbooks

グロービス、溝口 聖規 『[ポケット MBA] 財務諸表分析 ゼロからわかる読み方・活かし方』 PHP 研究所 2018 9784569837499 -

参考文献 / Readings

晝間文彦 『金融論 第4版』 新世社 2018 9784883842759

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

立教ゼミナール発展編 2

Seminars for Senior Students of Rikkyo University 2

異世代間対話—現代文明生活の諸問題—

佐々木 一也 (SASAKI KAZUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB176
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 立教セカンドステージ大学受講生と共同で行う討論形式の授業。
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP3240
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

世代を超えた共通理解を持つ。異世代の考え方を理解し尊重できるようになる。現代文明生活の経験が多様であることを知る。現代文明生活が生み出す困難を解決するヒントを得る。これから社会に出る若い学生が社会の実相を知ることができる。シニア受講生にとって若者の考えに触れることによってセカンドステージの人生をより有意義に過ごす手がかりが得られる。なお、この科目は就職活動や卒業を控えた3年、4年生の参加が望ましい。

The participants of this course will be able to have some common sense among the diverse generations. They can understand and respect ideas of the different generations. They come to understand the variety of experiences in the life in the contemporary civilization. They will find some keys to resolve the difficult problems of the civilization. The young students can see the various aspects of the real social life before graduation. The seniors can understand the ideas of the young students and get some keys to spend the second stage life more meaningfully.

授業の内容 / Course Contents

本授業の履修者は全学部の学生とシニア世代の立教セカンドステージ大学受講生である。履修者は数名のグループに分かれ、その中には必ずシニア受講生がいる。毎回ウォーミングアップのアイスブレイクの後、所定のテーマに沿って意見交換を行う。意見交換には基本ルールがある。1. 誰もが他者を傷つけない限り自由に何でも話せること。2. 所属学部年齢の違いにかかわらず全員が平等であること。3. 他者の発言を否定する意見を言わない。むしろ、質問して意見を引き出してあげる。自分と違う意見を受け止め引き受ける姿勢を持つこと。以上である。ルールに基づく意見交換を進めることによって、世代の違いを理解し、互いの世代の利害を理解し、尊重することができるようになる。その結果、世代の切れ目のない、誰もが幸せだと思える文明生活を築くための手がかりを得たい。予定しているテーマは以下の通り。「学校での学びの効用」「陰りある現代文明への姿勢」「今就職するとはどういうことか」「恋愛の意味」「お金を稼ぐ苦労」「これからの結婚生活の光と影」「現代生活に必要な教養」「これからの家族像」「長生きする効用」「永続する友人関係とは」「文明生活での更なる幸福」「今の文明を生きる意味」など。なお、本科目は対話授業なので対面で行うが、状況によって対面実施が困難になった場合には、ミックスでなく完全オンラインで行う。

This course has as participants young students and seniors of the social life. All of them will be divided into several small groups each of which have seniors. After a warming up session they begin discussion which has the following three essential rules. 1.All members of the discussion group can talk completely freely about whatever they want to, except to hurt the feeling of the others. 2.All are entirely equal despite of the different position and attribute. 3.All must not be negative to what the others say., but should be positive and ask questions to bring further opinion out. That is all. The discussions of this course will give the members the the appropriate knowledge on the different generations. And they will also give keys and hints to establish a future society in which all generations will be happy together. The discussion themes are the following: learning in the school, getting a job, loving, earning the money, marriage, culture, family, long life, friend, happiness, and meaning of life in the contemporary civilization.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第1回 入門。趣旨説明。全回のテーマ選択・決定。対話の練習。
- 2回：第2回 対話(1)
- 3回：第3回 対話(2)
- 4回：第4回 対話(3)
- 5回：第5回 対話(4)
- 6回：第6回 対話(5)
- 7回：第7回 対話(6)
- 8回：第8回 対話(7)
- 9回：第9回 対話(8)
- 10回：第10回 対話(9)
- 11回：第11回 対話(10)
- 12回：第12回 対話(11)
- 13回：第13回 対話(12)
- 14回：第14回 まとめと振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : ○ スライド (パワポ等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :

個人発表 : グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○
 実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
 上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、グループ内で全員が5分間プレゼンテーションを行うので、事前に予定テーマに沿って話す内容を考えてメモしてくる。授業終了後には、その日の自分の発言を必ず記録し、印象に残った他のメンバーの意見も記録すること。記録は12回分をファイルして、最終日第14回でのまとめのミニレポートに反映させること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ :100%

平常点割合 :100% 授業参加姿勢:40% リアクションペーパー:30% 最終レポート割合 :30% 最終テスト割合 :0%

対話グループでの司会者役、記録役(グループ意見報告役)などを積極的に担うことを期待します。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

梶谷真司 『考えるとはどういうことか』 幻冬舎新書 2018

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自分の意見を積極的に話せると同時に、他人の意見に耳を傾け、共感する力。わかりにくい他人の意見であっても忍耐強く寄り添う力。年配のセカンドステージ大学受講生とコミュニケーションを積極的に取ろうとする姿勢が持てること。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

立教ゼミナール発展編 2

Seminars for Senior Students of Rikkyo University 2

グローバル都市空間における多文化化の現実と課題

金 允恩 (KIM TAE EUN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB177

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP3240

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

世界の主なメトロポリタン都市空間における多文化化の現状や関連政策などについて学び、グローバル比較の視点から考える。多文化主義及び多文化共生に関する文献などの講読や報告・討議を通じて、社会学的想像力や批判的分析力を身につける。

Students will learn about the actual multiculturalization conditions in the major metropolitan cities and related policies. They will be encouraged to think from the perspective of global comparison. Students will acquire sociological thinking and critical analysis skills through reading, reporting, and discussing multiculturalism and multicultural realities in different societies.

授業の内容 / Course Contents

グローバル都市空間の現実に照準を定め、多文化化の現状や課題について比較を試みる。近年における多文化主義に関する理論的・政治的・実践的議論を踏まえながら、北米、豪州などのメトロポリタン都市空間における多文化化の歴史と現状、多文化共生とかわる政策や実践事例を紹介する。そして、視野を東アジア地域に移し、日本と韓国での現状を検討し、北米・豪州における現状との比較考察を試みる。さらに、「新型コロナバ

ンデミック」の影響が、世界の多文化・メトロポリタン都市においてどのように異なっていたかについても、現地のメディア報道などで調べる。

Focusing on the reality of global urban spaces, we will compare multiculturalization's current state and future. We will examine the history and present state of Western societies' multiculturalization in North America and Australia. We will also investigate policies and practical examples related to multicultural co-living based on theoretical, political, and practical discussions on multiculturalism in recent years. We will then shift our perspective to the East Asia region and examine Japan and Korea's current situation while comparing it with North America and Australia's conditions. We will also investigate how the damage and impact of the COVID-19 pandemic differed in the world's multicultural and metropolitan cities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：グローバリゼーションや多文化主義とかかわる主要概念
- 3回：グローバリゼーションや多文化主義とかかわる主要論争
- 4回：アメリカの事例1：多文化化の歴史と現状
- 5回：アメリカの事例2：都市空間における現状と課題
- 6回：カナダの事例1：多文化化の歴史と現状
- 7回：カナダの事例2：都市空間における現状と課題
- 8回：オーストラリアの事例：多文化化の歴史と現状、課題
- 9回：新型コロナパンデミックと人種・エスニシティ
- 10回：韓国の事例1：多文化化の歴史と現状
- 11回：韓国の事例2：都市空間における現状と課題
- 12回：日本の多文化化と共生問題を考える1
- 13回：日本の多文化化と共生問題を考える2
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に講読文献を読み、授業で取り上げたい論点を考えておくこと。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コメントペーパーや討議を含む授業への参加度:30% 授業内報告:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト/Textbooks

- 宮島喬 『多文化であることとは：新しい市民社会の条件』 岩波書店 2014 4000291211 -
 アンドレア・センブリーニ 『多文化主義とは何か』 白水社 2003 9784560058619 -
 関根政美 『多文化主義社会の到来』 朝日新聞社 2000 9784022597502 -
 宮島喬・石原進他 『開かれた移民社会へ』 藤原書店 2019 4865782214 -

初回の授業にて文献リストを提示する。

参考文献 / Readings

鈴木江理子 『アンダーコロナの移民たち：日本社会の脆弱性があらわれた場所』 明石書店 2021
4750352152

東自由里・進藤修一 『移民都市の苦悩と挑戦：ニューヨークとフランクフルト』 晃洋書房 2015
9784771102623

Montserrat Guibernau and John Rex The Ethnicity Reader: Nationalism, Multiculturalism and Migration
Cambridge : Polity 2010 9780745647029

加藤普章 『カナダの多文化主義と移民統合』 東京大学出版会 2018 4130301640

関根政美ほか 『オーストラリアの多文化社会論：移民・難民・先住民族との共生をめざして』 法律文化社
2020 4589040530

その都度、紹介する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

立教ゼミナール発展編 2

Seminars for Senior Students of Rikkyo University 2

戦争の記憶と歴史教科書：マレーシアの事例

(War Memory and History Textbooks: The Case of Malaysia)

松岡 昌和 (MATSUOKA MASAKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB178

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP3240

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ・多様な立場からの歴史の語りの分析のあり方を学ぶ
- ・歴史の語りの複数性を理解する
- ・日本と東南アジアの関わりについて主体的に学んでいくことで、一国中心の歴史認識を相対化し、国際関係や異文化コミュニケーションのあり方を考える契機とする
- ・国際関係や異文化コミュニケーションの最前線にいる研究者や実務家との議論を通じて、二国間関係の多様な側面を知る

To learn how to analyse historical narratives from diverse perspectives

To understand the plurality of historical narratives

To relativise their own country-centred understanding of history and to consider the nature of international relations and intercultural communication by learning about the relationship between Japan and Southeast Asia

To learn about the various aspects of bilateral relations through discussions with researchers and practitioners of

international relations and intercultural communication

授業の内容 / Course Contents

本科目では、マレーシアで使用されている歴史教科書（マレー語版、華語＝中国語版）の日本語訳を教材とし、第二次世界大戦期における日本占領についての記述や戦後マレーシアの歴史の中で日本占領がどのように記憶されていたかについて検討していくことを主たる活動とする。その際に、①マレーシアの多民族性が歴史の記述にどのように影響しているか、②戦後マレーシアの日本との関係と歴史記述との間にどのような関連性が見られるか、③これらの教科書がマレーシアにおける戦争の記憶にどのような影響を与えているかについて重点的に議論を行う。そのうえで、今後さらに関係の深まる東南アジア地域との関わりの可能性について考えていく。数回にわたり、マレーシアの大学で教鞭をとる日本人研究者、日本の大学で教鞭をとるマレーシア人研究者、日本・マレーシアの経済協力の現場で働く実務家をゲストに迎え、ともに議論を行っていく。

The main activity of this course is to read Japanese translations of history textbooks used in Malaysia (Malay and Mandarin versions) to examine the descriptions of the Japanese occupation during the Second World War period and how the Japanese occupation was remembered in the history of post-war Malaysia. In doing so, we discuss (i) how the multi-ethnicity of Malaysia affects the writing of history, (ii) what links can be seen between Malaysia's post-war relationship with Japan and the historiography, and (iii) how these textbooks affect the memory of the war in Malaysia. We will then consider the possibilities for further relations with the Southeast Asian region, which is likely to become even more closely related in the future. In several sessions, we will invite Japanese researchers teaching at universities in Malaysia, Malaysian researchers teaching at a Japanese university, and practitioners working in the field of Japan-Malaysia economic cooperation as guest lecturers to discuss the issues together.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、イントロダクション
- 2回：マレー半島における日本占領について（ゲスト参加予定）
- 3回：教科書の分析1（マレー語教科書）
- 4回：教科書の分析2（マレー語教科書）
- 5回：教科書の分析3（マレー語教科書）
- 6回：教科書の分析4（華語教科書）
- 7回：教科書の分析5（華語教科書）
- 8回：教科書の分析6（華語教科書）（ゲスト参加予定）
- 9回：教科書の分析7（シンガポールの教科書）
- 10回：マレーシアにおける戦争の記憶（ゲスト参加予定）
- 11回：戦時期における日本・東南アジア文化交流とその記憶（ゲスト参加予定）
- 12回：マレーシアにおける日本への関心（ゲスト参加予定）
- 13回：日本・マレーシア文化交流の現在（ゲスト参加予定）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：		学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：			：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

歴史教科書を資料として読んでいくので、事前に全員が指定した部分を読み、論点を整理しておくことが求められる。なお、マレー語と華語（標準中国語）のテキストについては日本語訳を使用する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業でのプレゼンテーション:30% 議論への参加:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

使用する資料は授業時に配布する。

参考文献 / Readings

鳥居高編著 『マレーシアを知るための58章』 明石書店 2023 9784750356396

後藤乾一 『日本の南進と大東亜共栄圏』 めこん 2022 9784839603298

高嶋伸欣・鈴木晶・関口竜一 『増補改訂版 マレーシア（旅行ガイドにないアジアを歩く）』 梨の木舎 2018 9784816618017

その他参考文献は授業時に紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

外国の教科書を扱うが、高等学校基礎レベルの英語をのぞき、特別な外国語の知識は求めない。また、授業の進行もすべて日本語で行う。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

海外との中継には教室備え付けのPCを用いるので、特に個人の機器を教室に持ち込む必要はない。ただし、授業外での課題遂行にあたって、オンラインでの調べ物や他のメンバーとのやり取りの上で、日常的にPCを使用していることが望ましい。

その他 / Others

ゲストの都合により、授業計画が前後することがある。

(The schedule is subject to change depending on the guest lecturers' availability.)

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

R S Lゼミナール

Seminar for Senior Students of Rikkyo Service Learning

平和教育-理論と実践-

中沢 聖史 (NAKAZAWA SATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB179
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP3240
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

平和教育とは、基本的人権や正義、紛争予防といった要素に加え、人間ひとりひとりの Inner Peace (=内なる平和) や、地球環境との調和と共生など多角的に平和について理解を深めるアプローチである。この授業では、平和教育の基礎を学ぶとともに、過去の戦争や内戦の事例から、平和教育の役割や可能性について理解を深める。国家間の武力紛争から、地域社会や職場などで起きる衝突まで、様々な規模の“conflict”を平和教育の視点で見つめ、学生ひとりひとりが日常生活において平和の担い手として何ができるかを積極的に考え、

Peace education aims to deepen understanding of peace, including not only basic human rights, justice, and conflict prevention, but also inner peace for each individual, and harmony and coexistence with the global environment. In this course, students will learn the basic theory of Peace Education and deepen their understanding of the role and potential of Peace Education through the cases of past wars. Through the lens of Peace Education, the course will look at conflicts of various scales, from armed conflicts between nations to conflicts that occur in local communities and workplaces. Through this course, students will be able to actively think about what they can practice as peacemakers in their daily lives.

授業の内容 / Course Contents

授業の前半は世界各国の武力紛争に焦点を当て、平和教育がどのようなアプローチで紛争予防・紛争解決をめざしているのかについて考察を深める。後半はマイノリティや社会的弱者の人権に目を向け、平和で公正な社会の実現を阻んできた差別などの社会的要因を掘り下げ、身近に潜む構造的暴力と、その解消方法を探る。

The first half of the course will focus on armed conflicts around the world and deepen the discussion of how Peace Education approaches conflict prevention and resolution. The second half will focus on the human rights of minorities and socially vulnerable groups. By looking into social factors such as discrimination that have prevented the realization of peaceful societies and explore the structural violence around us, students discuss how to eliminate those negative factors and achieve justice in our society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：平和教育とは何か
- 3 回：紛争予防と紛争解決
- 4 回：プロパガンダ ～人を殺すラジオ～ (ルワンダ)
- 5 回：児童兵 ～殺人犯の社会復帰～ (シエラレオネ)
- 6 回：歴史認識の行方 ～加害者・被害者のいま～ (フィリピン)
- 7 回：平和構築と人道支援 (ウクライナ)
- 8 回：世界人権宣言とは
- 9 回：軍隊を持たない国の国防 (コスタリカ)
- 10 回：土地は誰のものか ～植民地支配の前と後～ (ニュージーランド)
- 11 回：先進国の「男女平等」(日本)
- 12 回：移民・難民問題と多文化共生 (イギリス)
- 13 回：平和教育の課題と可能性
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、履修登録完了後に「Canvas LMS」上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% グループプレゼンテーション:40% 毎授業時におこなうディスカッションへの参加度:30% 最終レポート:30%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

※この科目は立教サービスラーニング (RSL) 科目群のひとつである。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

立教ゼミナール発展編 2

Seminars for Senior Students of Rikkyo University 2

リスクマネジメントの令和時代的意義を探る ～多彩な現場の最前線から、君たちが生きぬくためのスキルを学べ～

辻 英之 (TSUJI HIDEYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB180
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP3240
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日常のリスクを多面的に考察し、リスクをコントロールしつつ、豊かな人生を送るための教養と技能、そしてどのような状況にあっても生き抜くスキルを獲得することを目的とする。

The purpose is to acquire the knowledge and skills to live a fulfilling life while considering everyday risks from a multifaceted perspective, and to acquire the skills to survive in any situation.

授業の内容 / Course Contents

大学において、様々な危機管理を扱う分野や、金融に特化したリスク（保険）等を扱う分野の専門的講義はあると思われるが、誰でもが実際に遭遇する可能性が高い日常的なリスクを扱う学際的なリスクマネジメントの講義は少ない。本講義では、リスクの予防や対処の論理を教育資源ととらえ、リスクマネジメントを多角的な視座でとらえ直すことをおこなう。

また、科目担当者が 30 年の実践から導き出されたアクティブラーニング型の授業運営スタイル：ダイアログ

(対話)を活用した学び合いを駆使することにより、ゼミ形式における学びを深める。

なお、科目担当者は救命法国際トレーナーでもあり、緊急事態の対応や予防安全の観点から専門的知見も提示する。

At university, there may be specialized lectures in various fields dealing with crisis management and fields dealing with financial risks (insurance), etc., but there is a high possibility that anyone will actually encounter everyday There are few interdisciplinary risk management lectures dealing with risk. In this lecture, the logic of risk prevention and countermeasures will be treated as an educational resource, and risk management will be reconsidered from multiple perspectives.

In addition, the lecturer deepens learning in a seminar format by making full use of the active learning type class management style derived from 30 years of practice: mutual learning using dialogue.

In addition, the instructor of the course is also an international lifesaving trainer, and will present specialized knowledge from the perspective of emergency response and preventive safety.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：学び方の導入
- 3回：リスクの一丁目一番地
- 4回：待ったなし！ 救急の現場から（ゲスト：救命法国際トレーナー）
- 5回：こどもの人権が危ない！（ゲスト：児童養護施設スタッフ）
- 6回：犯罪心理と矯正教育（ゲスト：少年院法務教官）
- 7回：中間まとめ
- 8回：ファクトチェックとメディアリテラシー（ゲスト：新聞記者）
- 9回：放射能汚染の真実とは！？（ゲスト：福島県の避難地区長）
- 10回：マイクロプラスチックと環境リスク（ゲスト：離島の環境活動家）
- 11回：これでいいのか日本の民主主義？（ゲスト：政治家あるいは弁護士）
- 12回：学びのシェア
- 13回：全体ダイアログプレゼン
- 14回：総括まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習等の指示は、必要に応じて授業内あるいはCanvasLMSで行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回の授業後に提出するリアクションペーパーの内容:40% プレゼンなど授業内の成果物:30% 最終レポート:30%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業時に紹介する

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

ダイアログ主体の授業を貫くルールは、「参画」と「自己決定」。自分で考えて、自分で動いて参加すればするほど、楽しくなり、学びが大きくなる授業。持ってくるものは「やる気」。

担当者所属 NPO の URL <http://www.greenwood.or.jp>

その他/ Others

科目担当者は泰阜村で実際に活動する上記 NPO の代表理事である。毎週毎週、信州の山村から片道 5 時間（！）かけて大学に通う。

ゲストは現段階の予定なので、開講してから変更の可能性あり。

担当者所属 NPO の URL <http://www.greenwood.or.jp>

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

立教ゼミナール発展編 2

Seminars for Senior Students of Rikkyo University 2

企業経営から地域経営へ

池尾 健 (IKEO KEN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB181
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面授業（ゲストスピーカーはオンライン登壇）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP3240
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義ではゲストスピーカーによる講義とディスカッション、②①のトピックをもとにしたグループワーク、を1セットとして進めていきます。

中心となる講義テーマは「企業経営から地域経営へ」。

ゲストスピーカーは個別事業を営むという「点の取り組み」から、

その事業が位置する、もしくはその事業を展開する地域における「面の取り組み」について視点を広げ、地域「社会」・地域「経済」を担われています。

このことを「地域経営」と定義して、彼女 / 彼らと、学び合い、教え合い、

共に「地域の将来」を思考するとともに、自らの考

This lecture will consist of (1) a lecture and discussion by the guest speaker and (2) group work based on the topic in (1).

The central theme of the lecture is "From Business Management to Regional Management.

The guest speaker will be from the "point approach" of running an individual business,

The guest speakers are responsible for local "society" and local "economy" by expanding their perspectives from the "point approach" of running individual businesses to the "aspect approach" of the region in which the business is located or in which the business is developing.

We define this as "regional management," and we learn and teach each other,

We aim to deepen our own thinking as well as to think about the "future of the region" together with her/them.

Through these seminar activities, we hope to produce human resources who will play a leading role in the future of Japan, and in particular, the region,

We hope that the seminar will help us to enhance our presence as an institution that produces human resources for the future of Japan, and in particular, for the region.

授業の内容 / Course Contents

実際に地域社会・地域経済を担う「地域経営者」の方々から、

- ・ 製造業、小売流通業、IT 業などにおける経営フレームワークやトレンド
- ・ それらを地域経済に適用する場合にどのような取り組みが可能か
- ・ 数多くのケーススタディ 等を学びます。

これらの学びを習熟した上で、ほかの産業にそれらを持ち寄り取り込んでいく思考と、

ゲストスピーカーたる地域経営者や異なる専門領域を持つ教員によって提示されるインプットを踏まえ、

「異分野の組み合わせによる知見」とそれらを意図的に組み合わせる「編集能力」を習得していきます。

本科目は、将来、地域にかかわり挑戦をしようとしている学生に向けて開講されます。

そのため、受講生は「地域」に関連するトピックを主としたグループワーク、ディスカッションに積極的に参加するなど、十分なアカデミックスキルと主体的姿勢を求めます。

また、有志となりますが「企業経営から地域経営へ」具体的な取り組みを行う経営者、事業者との協働プロジェクトをインターンシップ、

もしくはフィールドワークを含めたスタディツアーなどを通じて実現していく予定です（夏季休暇期間中など）。

From "local managers" who are actually responsible for the local community and local economy,

Management frameworks and trends in the manufacturing, retail distribution, and IT industries

What kind of approaches are possible when applying them to the local economy?

What can be done to apply these frameworks to the local economy, and numerous case studies.

After learning these lessons, we will bring them to other industries and incorporate them into our own thinking,

Based on the input provided by guest speakers such as regional managers and faculty members with different areas of expertise,

The students will acquire "knowledge through the combination of different fields" and "editing skills" to intentionally combine them.

This course is designed for students who intend to take on challenges related to the local community in the future.

Therefore, students are expected to have sufficient academic skills and a proactive attitude to actively participate in group work and discussions mainly on topics related to the "region."

In addition, although it will be on a voluntary basis, internships will be offered for collaborative projects with business owners and operators who are making concrete efforts to "shift from corporate management to regional management",

We are also planning to realize this through internships or study tours including fieldwork (during the summer vacation period, etc.).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスとイントロダクション
- 2回：ゲストスピーカーによる講義（登壇者未定）
- 3回：次回に向けたディスカッション
- 4回：ゲストスピーカーによる講義（登壇者未定）
- 5回：次回に向けたディスカッション
- 6回：ゲストスピーカーによる講義（登壇者未定）
- 7回：次回に向けたディスカッション
- 8回：ゲストスピーカーによる講義（登壇者未定）
- 9回：次回に向けたディスカッション
- 10回：ゲストスピーカーによる講義（登壇者未定）
- 11回：次回に向けたディスカッション
- 12回：ゲストスピーカーによる講義（登壇者未定）
- 13回：次回に向けたディスカッション
- 14回：ゲストスピーカーによる講義（登壇者未定）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示します

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席及び授業毎のリアクションシート：60% 授業内課題（グループワークにおける発言・質問も含む）：10% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

講義内容に応じて、下記のような地域経営もしくは企業経営の実務家をゲストスピーカーとしてお呼びします。

ゲストスピーカー（予定）：実業における実績からそのノウハウを「地域経営に転用した経営者」とその実例紹介

- ・青山 敦士（島根県隠岐郡：株式会社海土）：隠岐四島にて「環境」「教育」「環境」を組み合わせた取り組み
- ・立花 千月香（福岡県柳川市：柳川藩主立花邸 御花）：18代続く歴史的資源を核とする取り組み
- ・細羽 雅之（愛媛県松野町：水際のロッジ）：四万十川の源流にある国定公園の中から起こす起業育成の取り組み

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

立教卒業生の「社長の履歴書」

From Rikkyo to CEO : The Histories of Alumni Leaders

菊池 航／井田 純一郎 (KIKUCHI WATARU/ IDA JUNICHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB185
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2210
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

立教大学の教育課程の編成方針に掲げる「専門性に立つ教養人」になるため、立教大学卒業生の社長のキャリアを学びます。

立教大学卒業生の社長のキャリアを学ぶことで、自らのキャリア形成について考え、大学での学びや過ごし方を主体的に考えることを目標とします。

Students will learn about the careers of Rikkyo University alumni presidents in order to become "liberal arts people who stand for expertise," as stated in Rikkyo University's curricular organization policy.

Through listening to the career of the president of Rikkyo University alumnus, each student will have the opportunity to think specifically about their own career development and re-acknowledge the way that they learn and spend time at university.

授業の内容 / Course Contents

現役の社長として、現在、会社経営のかじ取りをしている立教大学卒業の社長をお招きする。大学時代をどう過ごしたか、起業した経緯や会社経営の難しさ、どのような人材がこれからの社会には必要か、大学時代に何をどのように学ぶべきか、などの様々な論点について、立教大学の先輩として後輩の学生たちに率直な考えを

伝えてもらう。学生と社長との討論や意見交換を積極的に行えるよう、インタラクティブな形式で授業を進める。受講生それぞれがキャリアやリーダーシップなどを考える講義である。

As an active president, we will invite the president of Rikkyo University alumnus, who is currently involved in company management to speak about various issues such as how he spent his university days, how he started his company, the difficulties of company management, what kind of human resources are needed for the future society, and how should students learn during their college years, and to communicate his frank ideas to students as a senior at Rikkyo University. In addition, rather than one-sided lectures, we will develop the classes in an interactive format so that students can actively discuss and exchange ideas with the president.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：登壇される社長の紹介，立教生のキャリア
 2回：社長の履歴書 1 井田純一郎（サンヨー食品株式会社・代表取締役社長）
 3回：社長の履歴書 2 中島 宏（GO株式会社・代表取締役社長）
 4回：社長の履歴書 3 佐藤光紀（株式会社セプテーニ・ホールディングス・代表取締役）
 5回：社長の履歴書 4 高橋百合子（E.OCT株式会社・代表取締役）
 6回：社長の履歴書 5 調整中
 7回：社長の履歴書 6 パネル・ディスカッション（1）
 8回：社長の履歴書 7 石渡美奈（ホッピービバレッジ株式会社・代表取締役社長）
 9回：社長の履歴書 8 横山直人（株式会社フライウィール・代表取締役 CEO）
 10回：社長の履歴書 9 小坂文乃（株式会社日比谷松本楼・代表取締役社長）
 11回：社長の履歴書 10 宮地勘司（株式会社教育と探求社・代表取締役社長）
 12回：社長の履歴書 11 菅原勇一郎（株式会社玉子屋・代表取締役社長）
 13回：社長の履歴書 12 パネル・ディスカッション（2）
 14回：総括：立教卒業生から何を学び、これからどう生きるか？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義に登壇される先生方は、様々なメディアに登場されています。適宜、様々なメディアの記事を紹介しますので、事前に記事を読んできてください。

そのほか、授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 毎回のリアクションペーパー:30% ディスカッションへの参加:10%

テキスト / Textbooks

毎回、パワーポイントに基づいた講義が行われます。

参考文献 / Readings

和田成史・井田純一郎・加藤雄一ら 『成長と革新の企業経営：社長が語る学生へのメッセージ』 日本経営史研究所 2004 4931192114

そのほか、各回の講義で提示します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

キャリア関連科目をあわせて履修することが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

スライドの配布、成績評価に関する「毎回のリアクションペーパー」の提出は、Canvas LMS を通じて行ないます

その他/ Others

【授業形態】

授業の前半は、パワーポイントを使用した講義形式です。適宜、映像資料も活用します。

授業の後半は、学生への質問を起点として、インタラクティブな講義を行ないます。積極的な受講が期待されます。

【授業計画】

登壇する社長および登壇順は、都合により変更されることがあります。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

グローバルシティ・ソウルを読み解く

Seoul Studies: Exploring the Global City

黄 盛彬／阪堂 博之／金 兌恩 (HWANG SEONGBIN/ HANDO HIROYUKI/ KIM TAE EUN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB186
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2210
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

グローバル都市としてのソウルへの知的な探求を目的とする。ソウルについての情報提供とともに、それをもとにいかにかその社会や文化を研究していけばいいのかについて、歴史的背景、社会学的、文化・メディア学的な知見と視座を身につける。

This course aims to explore Seoul intellectually as a global city. This course will provide historical background, sociological and cultural/media studies knowledge, and perspectives on the research of the society and cultures of Seoul.

授業の内容 / Course Contents

グローバル都市としてのソウルにおける諸現象を観察するために、様々な場所を訪れながら、その背景を解説する。ソウルにおける社会・文化的な諸現象を、どのような枠組みで分析しうるのかという理論枠組みを提示する。各回の講義では、ソウルのある場所を訪れて、そこでの顕著な現象を取り上げ、研究・分析のアプローチを紹介していく。ソウル広場・光化門広場、ソウル駅、北村、鐘路、新村、弘大、明洞、仁寺洞、恵化洞、東大門、梨泰院、大林洞、ソレマウル、汝矣島、上岩洞デジタルメディアシティ、聖水洞、江南といった観光スポットとしても馴染みのある場所を訪れ、政治、世論、階層、伝統、ポピュラーカルチャー、ジェントリフィケーション、外国

人労働者・移民，多文化化，社会的排除，貧困・格差，ジェンダー，文化資本などの社会学的テーマを多く取り上げる。

This course explores the background and current situation to observe Seoul's phenomena as a global city while visiting various places in Seoul. We will present theoretical frameworks to analyze social and cultural phenomena in Seoul. We will see a specific place in Seoul, take up the remarkable phenomena there, and introduce our research and analysis approach in each class. We will take up familiar places as tourist spots such as Seoul Square and Gwanghwamun Square, Seoul station, Bukchon, Jongno, Sinchon, Hongdae, Myeong-dong, Insadong, Itaewon, Dongdaemun, Yeouido, Daerim-dong, Kangnam and some other places and introduce sociological themes such as political culture and nationalism, tradition, popular culture, gentrification, foreign workers/immigrants, multiculturalization, social exclusion, poverty/disparity, gender, and cultural capital.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：ソウル・スタディーズへの招待
- 2回：新村（シンチョン）と弘大（ホンデ）：ジェントリフィケーションと都市再生、さまざまなフェスティバル（祝祭）とバスキング（路上ライブ）
- 3回：ソウル広場と光化門広場：「ナショナル」を考える
- 4回：青瓦台と汝矣島：二つの政治空間、そこから見えてくるもの
- 5回：ソウル駅：鉄道の中心と文化遺産、その過去・現在・未来
- 6回：仁寺洞（インサドン）と北村（プクチョン）：伝統の街の再生と創生
- 7回：龍山、東部二村洞：特殊な異邦人の空間
- 8回：多文化都市としてのソウルへの招待、中国朝鮮族の街で多文化化とアイデンティティを考える
- 9回：ソレマウル：ソウルのフレンチ村を歩く
- 10回：恵化洞のフィリピンマーケット
- 11回：東大門、昌信洞、光熙洞：その他の外国人の街
- 12回：梨泰院（イテウォン）におけるダイバーシティ：ドラマ『梨泰院クラス』を手掛かりとして
- 13回：江南（ガンナム）で Gangnam Style を考える
- 14回：グローバルシティとしてのソウルの行方

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の参考文献を事前に読んでおくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 複数回の授業内でのレポート:50% 出席などの授業参加度:10% 最終レポート割合:40%

テキスト / Textbooks

初回の授業時にシラバス詳細版を配布する。

参考文献 / Readings

- Saskia Sassen 『グローバル・シティーニューヨーク・ロンドン・東京から世界を読む』 筑摩書房 2008
448086718
- 吉村剛史 『ソウル 25 区=東京 23 区』 合同会社パブリブ 2021 9784908468476
- 四方田 犬彦 『ソウルの風景—記憶と変貌』 岩波書店 2001 400430749
- 川村 湊 『ソウル都市物語—歴史・文学・風景』 平凡社 2000 4582850391
- 大瀬留美子 『ソウルおとなの社会見学』 亜紀書房 2022 9784750517629
- Todd A. Henry Assimilating Seoul: Japanese Rule and the Politics of Public Space in Colonial Korea, 1910-1945 Univ of California Pr 2016 0520293150
- 韓洪九 『韓国スタディーツアー・ガイド』 彩流社 2020 9784779126963

各回の授業で、その都度案内する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

Knowledge, Design, and Innovation

Knowledge, Design, and Innovation

西原 文乃/レヘトネン (NISHIHARA AYANO/ LEHTONEN MIIKKA J.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB187
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面（in-person）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2211
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本コースを修了した場合の学習成果には、以下の能力が含まれる：

- 組織の知識創造理論とデザイン思考の基礎を理解する。
2つの理論を理解し、それぞれの共通点と特徴を説明できる。
- 組織的知識創造理論とデザイン思考を実際のプロジェクトに適用し、イノベーションを促進する。
現実の課題に取り組む際の学際的アプローチの重要性を理解する。
重要な社会問題や環境問題に取り組む提案書を作成する

Learning outcomes for this course, upon successful completion, include the ability to:

- Understand the fundamentals of organizational knowledge creation theory and design thinking
Understand the two theories and explain what they have in common and what makes each unique
- Apply organizational knowledge creation theory and design thinking in a real-life project to facilitate innovation
Appreciate the significance of interdisciplinary approaches in addressing real-world challenges
Develop a proposal addressing critical social and environmental issues

授業の内容 / Course Contents

知識、デザイン、イノベーション」では、複雑な課題に取り組む最前線に立つことができる。組織の知識創造理論やデザイン思考を掘り下げ、実際のプロジェクトに応用する。この旅では、革新的な問題解決スキルを身につけるだけでなく、人間や地球を中心としたソリューションの創造についての理解を深める。また、学際的なアプローチが求められる世界において、これらのイノベーションがどのように「よい人生」のコンセプトと交差し、個人的・職業的成長を促すかを共同で探求する。このコースは、日進月歩の世界における変革の担い手になるための道しるべとなる。

In "Knowledge, Design, and Innovation", you'll be at the forefront of tackling complex challenges. You'll delve into organizational knowledge creation theory and design thinking, applying these in a real-life project. This journey will not only equip you with innovative problem-solving skills but also deepen your understanding of creating human- and planet-centric solutions. Collaboratively, we'll explore how these innovations intersect with the concept of a "good life," encouraging personal and professional growth in a world that demands multidisciplinary approaches. This course is your pathway to becoming an agent of change in an ever-evolving landscape.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introduction to the course and practicalities, ice-breaking activities
- 2 回： Organizational Knowledge Creation 1: Knowledge and SECI
- 3 回： Organizational Knowledge Creation 2: "Ba" and Ecosystem
- 4 回： Organizational Knowledge Creation 3: Scrum and Wise Leadership
- 5 回： Organizational Knowledge Creation 4: review and possible applications
- 6 回： Game design: what makes games engaging?
- 7 回： Introduction to identifying problems and challenges
- 8 回： Empathize: Understanding the Player
- 9 回： Ideate: Generating Creative Ideas
- 10 回： Prototype: Building Your Game
- 11 回： Test: Playtesting and Iteration
- 12 回： Prototype: Building Your Game
- 13 回： Finalize the game
- 14 回： Final presentations and reflections

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Study required outside of class: For each session, you are expected to engage with the assigned readings or Nordic Rebels episodes, as this will enhance our in-class discussions and your overall understanding.

Additionally, the final team assignment will

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active class participation:15% Peer Evaluation:10% Individual Learning Diary:25%
Final Presentation:10% 最終レポート割合 :40%

Missing more than four sessions will regrettably result in receiving a "D" grade. This policy underscores the value of active participation and engagement in every class to ensure a comprehensive understanding and successful completion of the course.

テキスト/ Textbooks

Nonaka Ikujiro & Takeuchi Hirotaka The Wise Leader Oxford University Press 2019 0190497009 -

Additional readings will be provided by the instructors during the first session of the course.

Nordic Rebels (www.nordicrebels.com) videos and podcasts will also be utilized.

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Able to actively engage in and enjoy group work and class discussions.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Notebook PC or Tablet PC

注意事項

- ・ F 科目 (外国語による総合系科目)
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 2016 年度以降 1 年次入学者対象科目
- ・ 多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

ファミリービジネスの可能性

Multidimensional Studies of Family Business

有馬 賢治／尾崎 俊哉／西原 文乃／東條 吉純 (ARIMA KENJI/ OZAKI TOSHIYA/ NISHIHARA AYANO/ TOJO YOSHIKUNI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB190
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2210
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ①ファミリービジネスとは何か、どのような法律や規範のなかで存在するか、わが国の経済活動のなかで、どのような役割を担っているか、通常の上場企業とは、何がどう違うか、を理解する。
- ②ファミリービジネスの強み・弱みや、社会的な意義を考える。
- ③ファミリービジネスの直面する課題を知り、その解決方法について考察する。
- ④企業の形態の多様性や、それらと経営戦略や組織のあり方との関係、企業と法や社会との関係、などについて理解と関心を深める。
- ⑤どのような企業で自分はより活躍できるか、を含め、自分のキャリアについて考えて

1. We examine the following questions: What is family business? What kinds of laws and social norms are necessary for successful family business? What are the similarities to and differences from regular listed companies?

2. By developing an understanding of family business, we analyze the roles family business plays in Japanese society and economy and examine its socio-economic relevance and importance for Japan.

3. We identify issues and challenges that family business face, and explore solutions to cope with them.
4. We examine the variety of firm ownership and its relationship with corporate strategies and organizational structures. We also analyze the relationship between laws, social norms, and ownership structures of firms.
5. We explore the question of whether family business may help serve our career aspirations.

授業の内容 / Course Contents

創業家一族などが株式の半数以上を保有し、実質的に経営する企業をファミリービジネスと呼ぶ。同族企業と呼ぶこともある。トヨタやサントリーのようなグローバル企業から、地方の中小零細企業に至るまで、日本の企業の約9割はファミリービジネスとされる。サントリーを含めた多くの同族企業は、株式を上場せず、一族で保有することで、経営権を保持している。他方で、ユニクロやトヨタのように株式を上場していても、創業家が引き続き経営権を保持している企業もある。海外にも米ウォルマートや独フォルクスワーゲンなどが知られる。創業理念や伝統を守った長期的な経営を行い、優れた業績をあげる企業が少なくない一方、所有と経営の分離が難しく、ガバナンスが不透明で、親族の対立などに経営が巻き込まれることもある。経営者が絶対的な力を持つため、ブラック企業が多いという声もある。どのような法律の下で存在しているのか。通常の上場企業と比べて、どのような点が優れ、どのような点が問題か。より持続的な経営を行うためには何が必要か。社会とどう向き合うべきか。理論とケースを踏まえ、学際的に考察する。

A company in which the founding family owns more than half of the shares and effectively controls the company is called a family business. Approximately 90% of Japanese companies are considered to be family businesses. They range from such multinational companies as Toyota and Suntory to local small and medium-sized companies. Many family-owned companies, including Suntory, are private companies that do not list their shares on the stock market. There are companies such as Uniqlo and Toyota whose founding families continue to control the companies even though their shares are listed on the stock market. The family business is not unique to Japan as Walmart in the US and Volkswagen in Germany are also known to be family businesses. Many family businesses perform well by upholding their founding principles and traditions and managing their firms from a long-term perspective. However, some family businesses are criticized for not separating ownership and management and poor corporate governance. Other family businesses are plagued by nepotism and conflicting interests among family members. Is it more difficult to manage family businesses than listed companies? What kind of laws and social norms are necessary to efficiently manage them? What are their advantages and disadvantages compared to listed companies? We invite guest speakers who are involved in these topics and employ an interdisciplinary approach to explore and analyze them.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

授業の目的や進め方、学び方について確認する。担当教員を紹介する。

2回：ファミリービジネスとは何か？

講義

3回：ゲストスピーカー

4回：ファミリービジネスとは何か？

グループディスカッション～ゲストスピーカーからの問題提起を、講義を踏まえて議論し、自分たちの考えをまとめてみる

5回：ファミリービジネスは知識の創造や継承がしやすいのか？

講義

6回：ゲストスピーカー

7回：ファミリービジネスは知識の創造や継承がしやすいのか？

グループディスカッション～ゲストスピーカーからの問題提起を、講義を踏まえて議論し、自分たちの考えをまとめてみる

8回：ファミリービジネスの経営のポイント

講義

9回：ゲストスピーカー

10回：ファミリービジネスの経営のポイント

グループディスカッション～ゲストスピーカーからの問題提起を、講義を踏まえて議論し、自分たちの考えをまとめてみる

11回：ファミリービジネスは、新しい資本主義の担い手となりえるか？

講義

12回：ゲストスピーカー

13回：ファミリービジネスは、新しい資本主義の担い手となりえるか？

グループディスカッション～ゲストスピーカーからの問題提起を、講義を踏まえて議論し、自分たちの考えをまとめてみる

14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に指定テキストを読んで受講することが望ましい

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% クラス参加：20% グループ発表：15% x 4回：60% 期末レポート：20%:20%

テキスト / Textbooks

浅羽茂、山野井順一 『ファミリー企業の戦略原理 継続と革新の連鎖』 日本経済新聞出版 2022 ○
 クレイグ、ジャスティン・B&ケン・ムーア 『ビジネススクールで教えているファミリービジネス経営論』
 プレジデント社 2019 ○

参考文献 / Readings

適宜授業内で紹介する

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

世界を動かす変革のチカラ

The Power to Change the World

和田 悠／平野 泉／高木 恒一 (WADA YU/ HIRANO IZUMI/ TAKAGI KOICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB191
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2210
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

市民の多様な活動が人と時間を繋いで、社会を変えた実績を学ぶとともに受講生が「市民」として社会を変える主体であることを理解すること。

The purpose of this class is to learn about the achievements of citizens in changing society through their various activities. It also aims to help students understand that they, as "citizens," are the agents of social change.

授業の内容 / Course Contents

今日の社会では、政府や企業から相対的に自立した「市民」の活動がグローバルからローカルにいたるまで多種多様な領域で活動実績を積み重ね、社会を確実に変化させてきた。本授業では社会を動かす主体としての市民のあり方を市民活動家や自治体議員の取り組みを紹介しつつ検討していくとともに、こうした市民活動の記録を収集・保存・公開・分析する取り組みについても検討する。このために、多様な現場で活動を展開している市民またはこうした活動に造詣の深い研究者をゲストスピーカーとしてお招きして、多様な市民活動の可能性を検討していくこととしたい。

履修に際しては、以下の点に注意すること。

1)本授業では戦後の多様な社会問題や市民活動を取り上げる。受講生が日本史・世界史の現代史や公民の基礎

的知識（高校教科書水準）を持っていることに加えて、今日的な問題について新聞等の報道に高い関心を持ち情報収集していることを前提とする。

2) ロールプレイ、ワークショップ、資料読み合わせなどの多彩な手法の参加型授業を展開する予定である。また、ゲストスピーカー等への質問の時間も確保する。受講生には授業に積極的に参加することを求める。

Citizens, who are relatively independent from the government and corporations, have been accumulating activities and have been steadily changing society. In light of this situation, this class will examine the nature of citizens as agents of social change by introducing the efforts of researchers, citizen activists and local authority representatives involved in a variety of fields, and will also examine efforts to accumulate records of such citizen activities.

For this purpose, we will invite as guest speakers citizens and local authority representatives who are active in various fields or researchers who have deep knowledge of such activities to examine the possibilities of various citizen activities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション この授業で大切にしたいこと
- 2 回：日々の雑感や政治・社会へのもやもやを表現しよう！
- 3 回：韓国社会運動に学ぼう (1)
まちづくりや社会的企業に携わる日韓市民の橋渡しをしてきた経験から
- 4 回：韓国社会運動に学ぼう (2)
まちづくりや社会的企業に携わる日韓市民の橋渡しをしてきた経験から
- 5 回：政治家として社会を変える (1)
日本留学後、韓国に戻り政治家を目指している立場から
- 6 回：女性の政治参加を考える (1)
女性新聞記者の視点から
- 7 回：女性の政治参加を考える (2)
女性新聞記者の視点から
- 8 回：政治家として社会を変える (2)
NPO 活動×自治体議員の取り組みから
- 9 回：労働組合運動で社会を変える (1)
オルガナイザーの経験から
- 10 回：労働組合運動で社会を変える (2)
オルガナイザーの経験から
- 11 回：映像で社会を変える (1)
ドキュメンタリー作家の経験から
- 12 回：映像で社会を変える (2)
ドキュメンタリー作家の経験から
- 13 回：政治家として社会を変える (3)
教育研究者×自治体議員の取り組みから
- 14 回：総括 この授業で学び得たものは何か

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : ○ スライド (パワポ等) の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 : ○

個人発表 :○ グループ発表 :○ ディスカッション・ディベート :○
実技・実習・実験 :○ 学内の教室外施設の利用 :○ 校外実習・フィールドワーク :○
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本授業ではグローバル・ローカルな多彩な社会問題を取り扱う。この内容を理解するためには現代史および現代の経済・政治・社会問題に関する基礎的知識が必要となる。各自必要に応じてしっかりと学ぶこと。また授業時に紹介する文献や情報に積極的に取り組むことが必須である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業への参加度:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

この授業では講師（教員・ゲストスピーカー）と受講生の相互交流することを重視する。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

大衆演劇の世界

World of Popular Theatre

細井 尚子／中野 正昭／毛利 真人／後藤 隆基／輪島 裕介／齋藤 雅文／山崎 朋／濱口 久仁子
(HOSOI NAOKO/ NAKANO MASA AKI/ MORI MASATO/ GOTO RYUKI/ WAJIMA YUSUKE/ SAITO
MASAFUMI/ YAMAZAKI TOMO/ HAMAGUCHI KUNIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB194
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2210
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は土曜日 3 限～5 限で開講される科目となるため、その時限に他の科目を履修しないよう注意すること。

授業の目標 / Course Objectives

東アジアの大衆的な芸態（演劇・演芸・ショー・芸能など）を取り上げ、娯楽市場をサンプルに、「近代化」と「グローバル化」の相違について考え、理解する。

This course will focus on the popular arts of East Asia (theater, performing arts, shows, music, etc.). In this course we will take the entertainment market as an example to help students think about and understand the difference between "modernization" and "globalization".

授業の内容 / Course Contents

日本の近代化は、その手本である「西洋」に向かうという方向性をもつために、目標との距離によって評価されずに影を薄め、忘れられていったものも多い。しかしグローバル化の影響が浸透するに従い、こうした忘れられたものが復活する現象がみられるようになった。人々の日常生活の中にあった「行楽」としての大衆娯楽・大衆演劇もその内に含まれる。人々の身近な娯楽であり、消耗品でもある大衆的な芸態を通じて、近世文

化と近代文化、近代化とグローバル化、各々の属性と相違について考える。

As modernization of Japan tends to imitate "The West", thus many things of Modernization in Japan are unrecognized, ignored or even forgotten due to the great distance between modernization of Japan and its target. However, as the influence of globalization have become stronger, these forgotten things are returning. These things include popular entertainment and popular theater which are called "recreation" in daily life. Popular types of performance are an entertainment, as well as a consumer products in life of ordinary people during early modern and modern times. In this course we will think about differences between early modern culture and modern culture, and differences between modernization and globalization through popular art forms.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：9月28日①喜劇・軽演劇・音楽劇——歴史と背景

細井尚子＋中野正昭＋毛利真人

2回：9月28日②喜劇・軽演劇・音楽劇を読み解く

細井尚子＋中野正昭＋毛利真人

3回：9月28日③喜劇・軽演劇・音楽劇の世界＋講師トーク・セッション、質疑応答

細井尚子＋中野正昭＋毛利真人

4回：10月12日①新演劇・新派：明治生まれの新興演劇

細井尚子＋後藤隆基＋齋藤雅文（劇団新派文芸部、劇作家・演出家）

5回：10月12日②新派の展開：多彩なる大正ロマンと昭和モダン

細井尚子＋後藤隆基＋齋藤雅文（劇団新派文芸部、劇作家・演出家）

6回：10月12日③新派の現在地：戦後から現代への水脈＋講師トーク・セッション、質疑応答

細井尚子＋後藤隆基＋齋藤雅文（劇団新派文芸部、劇作家・演出家）

7回：10月19日①大衆音楽史からみた大衆演劇

細井尚子＋輪島裕介＋山崎朋

8回：10月19日②「舞踊ショー」という発明

細井尚子＋輪島裕介＋山崎朋

9回：10月19日③大衆演劇とファンダム＋講師トーク・セッション、質疑応答

細井尚子＋輪島裕介＋山崎朋

10回：12月7日①女性による芸能——古代から近現代の系譜

細井尚子＋濱口久仁子

11回：12月7日②松竹歌劇と宝塚歌劇 東西歌劇の特性と差異

細井尚子＋濱口久仁子＋春日宏美（女優、元松竹歌劇団トップスター）

12回：12月7日③東アジアの少女歌劇系芸態＋講師トーク・セッション、質疑応答

細井尚子＋濱口久仁子＋春日宏美（女優、元松竹歌劇団トップスター）

13回：1月18日①「演劇」としての大衆演劇：歴史・特色・魅力

細井尚子＋お萩（大衆演劇ライター、脚本家）＋下野歩

14回：1月18日②「演劇」としての大衆演劇：創作の現場から

細井尚子＋お萩（大衆演劇ライター、脚本家）＋下野歩

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回教室で、適宜課題等指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:10% リアクションペーパー@15%×4回:60% 最終回教場レポート:30%

出席コマ数が10コマ以上ない場合、成績評価を出す対象としない。

テキスト / Textbooks

適宜教室で資料を配布。

参考文献 / Readings

必要に応じ、教場で示す。

その他 / Others

- ・本講座は1回3コマ集中（最終回1月18日のみ2コマ）で行う。
- ・1回欠席すると、週1回授業の場合の3回欠席に相当するので気を付けること。
- ・最終回は総括の後、課題を提示、教場でレポートを作成する。必ず出席すること。
- ・池袋キャンパス MB01 教室で開講。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

SDGs × AI × 経済 × 法

SDGsxAIEconomyxLaw

河村 賢治／阿部 治 (KAWAMURA KENJI/ ABE OSAMU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB195
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2210
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

国連が定めた持続可能な開発目標である SDGs（Sustainable Development Goals）について、①ファクトを踏まえて現状を理解し、②ゴールを達成するためにどのような取り組みがなされているのかを学び、③自分に何ができるのかを考え、行動する力を育むことを授業の目標とします。

The goal of this class are, relating to the Sustainable Development Goals set by the United Nations, (1) to understand the current situation based on facts, (2) to learn what kind of efforts are being made to achieve the goals, and (3) to think about what you can do and develop the ability to act.

授業の内容 / Course Contents

本授業のテーマに関し、それぞれの分野で活躍されている方をゲストスピーカーとしてお招きし、最先端の話をしていただきます。SDGs に関心がある学生はもちろんのこと、SDGs と技術・経済社会・法制度などとの関係を学問横断的に学びたい学生や、実務での取り組みを知りたい学生、将来の進路選択の参考にしたい学生などにとって、有意義な内容となるように授業を構成しています。

なお、本授業は、SDGs 推進の人づくりとして知られている ESD（持続可能な開発のための教育）の第一人者である阿部治先生のサポートを受けています。

Regarding the theme of this class, we will invite people who are active in each field as guest speakers to talk about the latest topics.

This class is designed to be meaningful to the following students: (1) Students who are interested in SDGs, (2) Students who want to learn the relationship between SDGs and technology, economic society, legal system, etc. across academic fields, (3) Students who want to know practical efforts, and (4) Students who want to make use of it in their future career choices.

This class is supported by Professor Osamu Abe, a leading expert in ESD (Education for Sustainable Development), which is known as human resource development for promoting SDGs.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：4/11 授業概要、SDGs 概論

本科目の責任者である河村、および、持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development) の第一人者である阿部治様

2回：4/18 ソーシャルデザインの視点を持ち、教育のあり方を考えよう

ゲストスピーカー：SDGs for School などコミュニケーションを通じて環境や社会について考え、行動するきっかけづくりを行っている上田壮一様 (一般社団法人 Think the Earth 理事)、および、生徒が主体的に学びを進める教育のデザイナーとして活躍されている山藤旅聞様 (新渡戸文化中学・高等学校副校長。本学卒業生)

3回：4/25 立教大学および立教生の取り組みを知ろう

ゲストスピーカー：持続可能な社会づくりに関する取り組みを行っている、本学の担当者および立教生 (2023年度本講義受講生等を含む) による活動の紹介

4回：5/9 世界をファクトで理解しよう

ゲストスピーカー：『データでわかる 2030年地球のすがた』(2020年)、『超入門カーボンニュートラル』(2021年)、『ネイチャー資本主義』(2022年)などの著者である夫馬賢治様 (株式会社ニューラル CEO)、および、同社でチーフコンサルタント兼事業開発室長として活躍されている菊池尚人様 (株式会社ニューラルチーフコンサルタント兼事業開発室長。本学卒業生)

5回：5/16 日本を代表する経済団体の取り組みを知り、日本経済が目指すべき方向性について考えよう

ゲストスピーカー：革新的な技術を最大限に活用することで経済発展と社会的課題の解決を両立させるコンセプト「Society 5.0 for SDGs」を推進している、日本経済団体連合会の小川尚子様 (日本経済団体連合会産業技術本部副本部長)

6回：5/23 AIの基本を学び、ELSIについて考える力を養おう

本学大学院人工知能科学研究科 (AI研究科) において医療データなどの深層学習を用いた応用研究を行なっている瀧雅人様

7回：5/30 気象データを利用した課題解決の取り組みを学ぼう

ゲストスピーカー：気象データを利用して安全・安心・快適な社会づくりに取り組んでいる日本気象協会の古賀江美子様 (日本気象協会 社会・防災事業部 気象デジタルサービス課)

8回：6/6 グローカルの観点から環境・人権問題を考えよう

ゲストスピーカー：気候変動や生物多様性などの環境課題について日本の環境政策を担っている環境省の方、および、紛争と難民・貧困などの人権課題について特に子どもの権利の観点から活動を行っているセーブ・ザ・チルドレンの方

9回：6/13 インベストメントチェーンの観点から環境・人権問題を考えよう

ゲストスピーカー：日本におけるサステナブル投資を長年にわたり牽引されている後藤敏彦様 (日本サステナブル投資フォーラム最高顧問)、および、資産運用業界の自主規制機関として投資者保護と投資運用業等の健全

な発展に取り組んでいる日本投資顧問業協会の徳田展子様（日本投資顧問業協会調査役 ESG 室長）

10 回：6/20 人権・D&I・ジェンダーに関する企業の取り組みや法制度について理解を深めよう

ゲストスピーカー：本学出身の弁護士として企業法務の第一線で活躍されている菅原清暁様（松田綜合法律事務所パートナー弁護士。本学卒業生）

11 回：6/27 サントリーが水源林保全活動をしている理由と活動内容を知ろう

ゲストスピーカー：サントリーにおける天然水の森事業を発案・推進している、サントリーホールディングス株式会社の山田健様（同社サステナビリティ推進部チーフスペシャリスト）

12 回：7/4 豊島区が消滅可能性都市から SDGs 未来都市になった経緯と取り組みを知り、自分に何ができるか考えよう

ゲストスピーカー：本学池袋キャンパスがある豊島区において、様々な関係者と連携しながら SDGs の活動を推進しておられる豊島区役所の方（豊島区 SDGs 未来都市推進課）

13 回：7/11 日本の防波堤・対馬が抱える課題と地域づくりの取り組みを知り、自分に何ができるか考えよう

ゲストスピーカー：対馬で海洋プラスチックごみを始めとする様々な課題に向き合い SDGs の活動を推進しておられる対馬市役所の前田剛様（対馬市しまづくり推進部 SDGs 推進課副参事兼係長。本学卒業生）、および、立教生。

14 回：7/18 本授業の受講生による取り組みを知り、自分らしい一歩を踏み出そう

本授業の受講生数名による発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

成績評価の対象となる授業毎のリアクションペーパーには、授業の感想だけでなく、基礎知識を問う問題や宿題などが含まれることもあります。授業終了間際数分間で書くような量・質のものではありませんので、授業時間外での学習時間が相応に必要になります。

また、受講生の皆さんは、各回のテーマに関連する情報を新聞等で収集しておき、ゲストスピーカーの先生方の話をより深く理解できるよう努めてください。先生方から予習・復習の指示がある場合には、各回の資料に掲載されますので、それに従ってください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業毎のリアクションペーパー:70% 授業時の発言等:30%

成績評価の対象となる授業毎のリアクションペーパーには、授業の感想だけでなく、基礎知識を問う問題や宿題などが含まれることもあります。授業終了間際数分間で書くような量・質のものではありませんので、授業時間外での学習時間が相応に必要になります。リアクションペーパーの内容を成績評価の対象としますので、リアクションペーパーを提出していれば単位が自動的にもらえるというわけではないことに注意してください。

テキスト / Textbooks

特に指定しません。

参考文献 / Readings

必要に応じ、ゲストスピーカーの先生方から紹介していただきます。

その他/ Others

成績評価の対象となる授業毎のリアクションペーパーには、授業の感想だけでなく、基礎知識を問う問題や宿題などが含まれることもあります。授業終了間際数分間で書くような量・質のものではありませんので、授業時間外での学習時間が相応に必要なになります。

リアクションペーパーの内容を成績評価の対象としますので、リアクションペーパーを提出していれば単位が自動的にもらえるというわけではないことに注意してください。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

SDGs と現代社会の課題とその関わり方入門

Introduction to the challenges of modern society and how we engage it

中沢 聖史 (NAKAZAWA SATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB197
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

SDGs が示す地球規模課題について学ぶとともに、それらの課題の解決をめざす企業や NGO の取り組みについて理解を深める。ゲストスピーカーが紹介する活動や実践例をもとに、社会課題を自分ごととして捉え、持続可能な社会づくりに参画するための知識、スキル、マインドセットを習得する。

Students will learn about the global challenges indicated by the SDGs and deepen understanding of the efforts of corporations and NGOs to solve these issues. Based on the activities and practices introduced by guest speakers, students acquire the knowledge, skills, and mindset to view social issues as their own and participate in the creation of a sustainable society.

授業の内容 / Course Contents

地球規模課題の解決のためのアクションに取り組む企業、NGO/NPO、地方自治体からゲストスピーカーが登場し、最前線の活動を紹介します。各回の授業では、気候変動、紛争、搾取などの理由により脆弱な立場に置かれる人々の状況と、私たちの暮らしがどのようにつながっているかを理解する。また、ゲストスピーカーが投げかける問いや提案から、SDGs を多角的に考察し、SDGs が掲げる「誰一人取り残さない社会」の実現に向け、ひとりひとりが取り組めるアクションを探る。

Guest speakers from corporations, NGO/NPOs, and local governments working on actions to solve global issues will introduce activities on the front lines. In each session, students will understand how our lives are connected to the situations of people who are vulnerable due to climate change, conflict, exploitation, and other reasons. In addition, through the discussions and suggestions posed by the guest speakers, the class will examine the SDGs from various perspectives and explore actions that each of us can take to realize a society where "no one is left behind" as stated in the SDGs.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：授業のねらいと目的
- 2 回：私たちの暮らしと SDGs とのつながり
- 3 回：日本の移民・難民政策と多文化共生
- 4 回：児童労働と世界の不公正の現状
- 5 回：日本の社会制度から考えるマイノリティへのまなざし
- 6 回：ジェンダー平等への道のりと働き方・暮らし方改革
- 7 回：SDGs の前と後① 企業の変化
- 8 回：SDGs の前と後② 各国のコミットメント
- 9 回：テクノロジーで切り拓く教育へのアクセス
- 10 回：レジリエントなまちづくり
- 11 回：気候変動と人権
- 12 回：地方創生と SDGs
- 13 回：SDGs を「自分ごと」にするためには
- 14 回：総括 授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

SDGs と現代社会の課題の実際や取り組み方について考える力を身に付けられるよう、各回の内容に則した簡単なレポート（リアクションペーパー）に取り組む。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 各回のリアクションペーパーまたは小課題:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

立教ゼミナール発展編 2

Seminars for Senior Students of Rikkyo University 2

生命科学の発展と生命倫理

土屋 裕子 (TSUCHIYA YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB372
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP3240
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、生命倫理という答えのない問いについて、専門を異にする学生同士で議論することにより、自分の価値観や既存の倫理観を再考することを目指します。そして、社会には様々な価値観・倫理感が存在し、自分にとっての常識が誰かにとっての非常識であることを学ぶことにより、いかなる問題についても多角的な視点から考察し、多様な価値観を踏まえた意見を構築する能力を養うことを目標とします。

In this class, we aim to reconsider our own values and existing ethical views by discussing the unanswerable question of bioethics among students with different specialties. The class also aims to cultivate the ability to consider any issue from multiple perspectives and to construct opinions based on diverse values by learning that various values and ethical senses exist in society, and that what is common sense to you may be not common sense to someone else

授業の内容 / Course Contents

この授業では、日々進歩する医療・科学技術に関する最先端のテーマを取り扱います。たとえば、遺伝子診断技術や生殖補助技術といった新たな科学技術が生み出した倫理的問題、臓器移植や延命治療といった医療技術

の進歩が生み出した倫理的問題、新型コロナウイルス感染症が浮き彫りにした医療資源の配分の問題、さらに近年注目されている AI 技術の医療・福祉分野における利活用の問題等、今まさに社会的関心を集めているテーマを取り上げます。各参加者がこれまで培った知識と専門性を持ち寄り、科学技術の進歩がもたらす光と影を多角的な視点から考察し、人間と技術が今後どのように共存・協働していくべきかを参加者全員で議論します。講義内容に応じてゲストスピーカーを招聘することも予定しています。

This course deals with cutting-edge topics related to medical and scientific technologies that are advancing every day. For example, ethical issues arising from new scientific technologies such as genetic diagnosis and assisted reproduction, ethical issues arising from advances in medical technologies such as organ transplantation and life-support treatment, the allocation of medical resources as highlighted by COVID-19, and the utilization of AI technology in the medical and welfare fields, which has been the focus of much attention in recent years. Each participant will bring his or her knowledge and expertise to the session, and all participants will discuss how humans and technology should coexist and cooperate with each other in the future, examining from various perspectives the light and dark sides of technological progress. Guest speakers will be invited according to the content of the lectures.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：限られた医療資源の配分問題：あなたなら誰を助ける？
- 3 回：自己決定権：私の命は私が決める？
- 4 回：小児医療・新生児医療：自己決定できない人の命は誰が決める？
- 5 回：デザイナーベビー：生まれる命を操作していいの？
- 6 回：出生前診断：生まれる命を選んでいいの？
- 7 回：人工妊娠中絶：胎児ってどんな存在？
- 8 回：生殖補助医療①：技術は命の誕生にどこまで介入していいの？
- 9 回：生殖補助医療②：親子って何だろう？
- 10 回：脳死・臓器移植：脳死って人の死？
- 11 回：生体間移植・臓器売買：臓器の売買はいけないこと？
- 12 回：終末期医療：自分で死に方を決められる？
- 13 回：高齢者支援技術：介護はロボットにお任せ？
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

日々進歩する科学技術について扱うため、日頃から新聞やニュース等で関連する情報を収集しておいてください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度 (発言・コメントペーパー等) :70%

最終レポート割

合：:30%

なお、正当な理由なく欠席回数が3回を超えた場合は単位を認めません。

テキスト/ Textbooks

テキスト・参考文献は指定しませんが、必要に応じて関連資料や新聞記事の配布、視聴覚教材などを使用します

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

この授業では生命倫理の予備知識は必要としません。しかし、正解のない問題について根気強く考える忍耐力と探求心は必要となります。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

立教ゼミナール発展編 2

Seminars for Senior Students of Rikkyo University 2

現代社会を生きる

倉品 武文 (KURASHINA TAKEFUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB373
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP3240
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義の目的は、世界や社会の課題を一緒に考えることである。諸課題に関して主体的に考察、提言することができるようになるための手がかりを得ることが到達目標である。現役記者による取材経験をもとにしたテーマ別の講義を受講し、日本経済新聞などの記事を教材にしながら視野を広げていく。受講生には文章を書いたり、話をしたりする体験を通じて、伝える力を身につけてほしい。

The purpose of this lecture is to think about global and social issues together. The goal of the course is to provide students with clues that will enable them to independently consider, and make proposals regarding various issues. Students will broaden their perspectives using articles from the Nihon Keizai Shimbun as teaching materials through lectures on different themes based on the reporting experience of working journalists. We hope that students will acquire the ability to communicate through the experience of writing and speaking.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、受講生は講義テーマについて深掘りし、自ら判断し、評価できる力を身につける。就職後も役立つ記事の読み方、情報収集のコツを身につける。毎回、講師による解説だけでなく、受講生が世界や日本の社

会の課題について考えたこと、関心を持ったことなども適宜、発言してもらおう。

In this lecture, students will learn to delve deeply into lectures of interest to themes, and to develop critical thinking skills and judgment. Students will learn how to read articles and how to gather information that will be useful even after they find employment. Rather than lecturer commentary alone, students are to express their ideas and opinions about issues relating to the world and the Japanese society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：【ガイダンス】

講義①

授業の狙いや進め方などについて解説する。

講義②

日本経済新聞などを教材に世界や日本の話題を解説する。

受講生は本講義を受講した理由を短く書いて、授業開始時に教室で提出する。授業参加への問題意識を整理する。

2回：【時代を読む視点】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

基本的な新聞記事の読み方、情報の集め方を解説する。

受講生は関心のある世界や日本のトピックを選び、その理由などを短く文章に書いて、授業開始時に教室で提出する。

3回：【デジタル時代の情報収集術】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

ゲスト・スピーカーが日経電子版の機能や活用方法を解説する。

受講生はネットを利用する際、情報収集する際に感じている疑問や心掛けていることを短く文章にして、授業開始時に教室で提出する。

4回：【言葉を伝える】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

参考図書を1冊紹介し、題材の見つけ方、表現の工夫など編集者の視点を解説する。受講生には読書を通じてメッセージを読み取るきっかけにしてほしい。

5回：【私と大学】(前半)

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

受講生全員が第1回課題レポートを提出する。執筆テーマは別途、説明する。原稿用紙を配布する。(800文字程度)。受講生が執筆したレポートをもとに授業をする。

6回：【私と大学】(後半)

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

受講生が執筆し、提出する第1回課題レポートをもとに授業をする。

7回：【授業第1回～第6回を振り返る】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

受講生は本講義を受講して考えたことや疑問に思ったことを短く文章に書いて、授業開始時に教室で提出する。受講生から寄せられた意見や質問をもとにアドバイスする。

8回：【世界の今を知る】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

ゲスト・スピーカーがニュースのキーワードを解説する。

受講生は関心のある世界や日本のニュースについて疑問や意見を短く文章に書いて、授業開始時に教室で提出する。

9回：【豊かさとは何か】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

ゲスト・スピーカーが豊かさについて問題提起する解説をする。

受講生は「豊かさ」について感じる疑問や意見を短く文章に書いて、授業開始時に教室で提出する。

10回：【人生とお金】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

ゲスト・スピーカーが長い人生に必要なお金との付き合い方を解説する。

受講生は「お金」について関心のあること、疑問や意見を短く文章に書いて、授業開始時に教室で提出する。

11回：【会社って何だろう】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

ゲスト・スピーカーが会社が果たす役割について解説する。

受講生は「働く」ということについて関心のあること、疑問や意見を短く文章に書いて、授業開始時に教室で提出する。

12回：【多様性社会を生きる】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

ゲスト・スピーカーが会社での多様性のある組織づくりの取り組みを解説する。

受講生は「多様性ある社会」について考えたこと、意見や疑問などを短く文章に書いて、授業開始時に教室で

提出する。

13回：【読書に親しむ】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

受講生には、本講義の第1回で参考図書を配布する。受講期間中に読んで、感想や意見、疑問などを短く書いて、第13回の授業開始時に教室で提出する。受講生自身の思い出の1冊があれば書き添えてほしい。

14回：【まとめ】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

受講生から授業期間に寄せられた意見や質問をもとにアドバイスする。

受講生全員が第2回課題レポートを提出する。執筆テーマは別途、説明する。(1200字程度)。原稿用紙は配布する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

【予習課題】（1時間）

次回の授業テーマに関連した課題を出します。自らの意見や考えを短く書いて、授業で提出してください（200～400文字）。関心のある新聞やインターネットのニュースについて、その背景や関連情報などについても可能な限り下調べをする。

【復習課題】（1時間）

講義テーマについて関心を持った記事や資料を読み、さらに理解を深める。ニュースに親しみ、世界や日本の社会の課題について考える習慣をつける。気づいたこと、疑問に思ったことは授業の中で尋ねるようにしてほしい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業テーマへの意見:30% 第1回課題レポート:30% 第2回課題レポート:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

伝える力を身につけたいという受講生の意欲を大事にしたいと思います。授業を通じて、短い文章を書く力、短く話す力をつける練習をします。事前に書いた文章を読みながらでも構わないのでチャレンジしてください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業では文章を提出したり、情報を集めたりします。自宅で構わないのでパソコンなどの電子機器があり、インターネットを利用できる環境があるとよいでしょう。

その他/ Others

本講義の担当者（倉品）は日本経済新聞社編集委員および立教大学兼任講師を務めている。社会に出る日を想定しながら、知識を覚えることよりも、一緒に考える時間を大事にしたいと思います。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

立教ゼミナール発展編 2

Seminars for Senior Students of Rikkyo University 2

ジェンダーと国境を越えた移動

大野 聖良 (ONO SERA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB374
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP3240
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は以下 3 点である。

- (1) ジェンダーとフェミニズムに関する基礎知識を身に着ける。
- (2) 国境を越えた移動とジェンダーに関わる多様な事象と問題について説明できるようになる。
- (3) ジェンダー化された移住労働と自らの生活との関連性、他者理解への試み

Through this course, students are expected to

- (1) Acquire basic knowledge of gender and feminism
- (2) Be able to explain various events and issues related to transnational migration and gender
- (3) Deepen their understanding of others by considering the relevance of gendered migrant labor to their own lives

授業の内容 / Course Contents

「ジェンダーと国境を越えた移動」は、社会学や開発学など各専門分野が取り組んできた超学際的テーマである。アジアでは 1980 年代から女性の単身での国境を越えた移動が顕著になり、「移住労働の女性化」が進ん

だ。移民送り出し国のひとつであるフィリピンでは、国策としての海外就労は1970年代の湾岸諸国の男性労働を皮切りに始まったが、1980年代には東アジア諸国のサービス経済化と経済成長が顕著になり、香港・シンガポールの家事労働者や日本のエンターテイナーなど女性の移住労働が増えた。「移住労働の女性化」が拡大するにつれ、人身取引の被害や渡航先での虐待などの深刻な人権侵害が明らかになっていった。国内では移住女性の定着につれ次世代を取り巻く諸問題も現出してきた。これらを受け、国際機関や国家、民間支援団体など様々な水準で対策が試みられてきた。本ゼミでは、このような移住労働の女性化の経緯と、関連する事象を捉えるためのジェンダー研究やフェミニスト分析の重要な枠組み・議論を取り上げた上で、国際移住労働の具体的な事例と課題—たとえばエンターテイナー、家事労働者、介護労働、国際結婚、人身売買、性労働、リプロダクティブ・ヘルス&ライツなどに焦点を当てる。授業内では、労働や家族、再生産、インターセクショナル리티などフェミニズム、ジェンダー研究の基礎的知識、送り出し国におけるジェンダー分業や移民の創出の構造、移住労働により生じたジェンダー規範や社会の変化、日本をはじめとする受入国が移動女性労働を需要するようになった背景や当事者の状況と脆弱性、支援活動などについての文献講読を行なう。また、ゲストスピーカーによる講義や映像資料を用いることで、履修者によりリアリティのある身近な問題としてジェンダーと移住労働に関わる問題を考えてもらう。

"Gender and Transnational Migration" is a transdisciplinary theme that has been addressed by various disciplines, including sociology and development studies. In Asia, the "feminization of migrant labor" has become more pronounced since the 1980s, with single women moving across borders. In the Philippines, one of the migrant-sending countries, overseas work as a national policy began with male labor in the Gulf countries in the 1970s, but in the 1980s, the shift to service economies and economic growth in East Asian countries became prominent, and female migrant labor, including domestic workers in Hong Kong and Singapore and entertainers in Japan. The "feminization of migrant labor" has been expanding. As the "feminization of migrant labor" expanded, serious human rights abuses became apparent, including trafficking in persons and abuse in the destination countries. In Japan, as migrant women have become established in the country, various problems surrounding the next generation have emerged. In response to these issues, various measures have been attempted at various levels, including international organizations, national governments, and private support groups. In this seminar, we will discuss the history of feminization of migrant labor and important frameworks and debates of gender studies and feminist analysis to capture related events, and then discuss specific cases and issues of international migrant labor, such as entertainers, domestic workers, care work, international marriage, trafficking in persons, sex work, and re-trafficking, human trafficking, sex work, reproductive health and rights, etc. will be focused on. Within the class, we will discuss basic knowledge of feminism and gender studies, including labor, family, reproduction, and intersectionality; structures of gender division of labor and creation of migrants in sending countries; gender norms and social changes caused by migrant labor; the demand for migrant women's labor in Japan and other host countries. The course will include literature reading on the background of the demand for migrant women's labor in Japan and other host countries, the situation and vulnerabilities of the people involved, and support activities. In addition, lectures by guest speakers and video materials will be used to make students think about issues related to gender and migrant labor in a more realistic and familiar way.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：「国際移動とジェンダー」関連文献の講読とディスカッション（1）
ジェンダーとは何かについて基本概念を確認する。
- 3回：「国際移動とジェンダー」関連文献の講読とディスカッション（2）

「国際移住労働の女性化」など基本的概念を確認し、ジェンダー視点にもとづく移住労働研究について概観する。

4回：「国際移動とジェンダー」関連文献の講読とディスカッション（3）

移住女性による家事労働に関する研究を概観し、論点を確認する。

5回：映像視聴とディスカッション

前回に関する映像資料を視聴し、グループディスカッションを行う。

6回：東南アジア諸国における女性の移住労働の現状（1）

ゲストスピーカーを招聘し（予定）、東南アジア諸国の具体的な事例を学び、ディスカッションを行う。

7回：東南アジア諸国における女性の移住労働の現状（2）

ゲストスピーカーを招聘し（予定）、東南アジア諸国の具体的な事例を学び、ディスカッションを行う。

8回：日本における「国際移住労働の女性化」に関する文献講読とディスカッション（1）

日本において「国際移住労働の女性化」に関する議論を把握し、ディスカッションを通じて論点を整理する。

9回：映像資料とディスカッション

前回の授業に関する映像資料を視聴し、ディスカッションを行う。

10回：日本における「国際移住労働の女性化」に関する文献講読とディスカッション（2）

人身取引問題を中心に国際移住労働における人権問題について考える。

11回：映像視聴とディスカッション

前回の講義内容に関する映像資料を視聴し、ディスカッションを行う。

12回：日本における女性による「出稼ぎ」労働の歴史

ゲストスピーカーを招聘し（予定）、明治・大正期の日本女性たちによる「出稼ぎ」労働の歴史を学び、現代との繋がりについて考える。

13回：「国際移住労働の女性化」の帰結

日本における「国際移住労働の女性化」のひとつの帰結として、子どもの問題（ジャパニーズ・フィリピン・チルドレン）について取り上げる。

14回：まとめ

本ゼミの講義内容全体の振り返りを行う。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・事前に配布されたものについては、授業までに読んでおく。
- ・学んだ内容を定着させるために、授業中に配布・紹介した資料や参考文献、動画を確認し、学んだ内容を復習してほしい。
- ・新聞や書籍、TV番組などで授業内容に関連した事例や情報を集め、現代社会で起きている課題と授業内容をリンクさせながら、自分の考えを簡単な文章でまとめておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表・報告:30% ディスカッションへの貢献度:30%
合 :40%

最終レポート割

テキスト/ Textbooks

参考文献 / Readings

その他/ Others

- (1) ゲストスピーカーの都合や授業の進捗上等によって、授業スケジュールを変更する場合がある。
- (2) 人によっては不快に感じる映像資料を用いることがある。その点を了承したうえで授業にのぞんでほしい。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

世界経済と日本

The World Economy and Japan

ラテンアメリカ・カリブ海地域を通して見る世界と私たち

所 康弘 (TOKORO YASUHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB401
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、ラテンアメリカ・カリブ海世界の視座から見える世界経済の歴史や現状ならびに課題を学び、その仕組みを理解することが目標である。なお、この授業は経済や国際関係の初学者を対象としている。

This course aims to help students understand the current state and issues of the world economy from the perspective of Latin America and the Caribbean and to understand its mechanism. This course is for beginners in economics and international relations.

授業の内容 / Course Contents

世界でもっともコントラスト（光と影、明暗の差異）の強烈な大陸、それがラテンアメリカ・カリブ海地域である。だが、地理的に遠いこともあり、この地域の歴史・社会・経済について、日本人が知る機会はおおくない。この授業では、この地域がいかに世界経済や私たちと密接にかかわっているかを理解するため、資料や動画を活用し、解説をおこなう。それにより「周辺」から見えてくる世界経済の姿や課題を考察する。

In this course, students will learn the basic knowledge necessary to understand the world economy, including the

markets, societies, cultures and lifestyles of Latin America and the Caribbean. This will help us to understand how this region is closely related to the world economy and Japan. We will also examine the problems of the world economy as seen from the "periphery" of the world.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：国を知る (地域と世界との関わり)
- 2 回：国を知る (各国の特徴)
- 3 回：地域の歴史 (「失われた文明」の視聴と解説① 収奪の起源)
- 4 回：地域の歴史 (「失われた文明」の視聴と解説② 人種の起源)
- 5 回：市場の歴史 (奴隷貿易の展開)
- 6 回：市場の歴史 (奴隷制と砂糖プランテーション)
- 7 回：市場の歴史 (奴隷制と近代資本主義)
- 8 回：貧困とラテンアメリカ (コーヒー産業)
- 9 回：貧困とラテンアメリカ (資源産業)
- 10 回：アメリカ合衆国との関係 (米国・メキシコの国境をめぐって)
- 11 回：アメリカ合衆国との関係 (麻薬戦争と移民)
- 12 回：アメリカ合衆国との関係 (ピクサー映画「リメンバー・ミー」から考えるローカルとグローバルの関係)
- 13 回：アメリカ合衆国との関係 (経済面から見るラティーノの人々)
- 14 回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

教科書はレポート試験の課題用として使用する。7月初旬頃までに各自、読んでおくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内レポート (授業毎のリアクションペーパー提出) :40%

レポート試験に使用する課題本は教科書として指定しておく。

また、授業内レポート (授業毎のリアクションペーパー) は大学指定の用紙 (両面) を使用する。用紙の表面はすべて回答で埋めること。

テキスト / Textbooks

ブレンダ・E・スティーヴンソン 『奴隷制の歴史』 筑摩書房 2023 ○

毎授業で使用する資料はPPTをアップロードする。教科書はレポート試験の課題本として使用する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

この地域は大航海時代や奴隷貿易といった歴史的な要因により、白人・アフリカ系・アジア系・先住民系の多様な文化が複雑に混ざりあった社会経済を形成している。そのため履修にあたっては、歴史や異文化理解への興味・関心があることが求められる。

その他/ Others

この地域の独特なあり様を視覚的にイメージできるように映画の一部や映像資料を積極的に活用する。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

日本国憲法

Japanese Constitutional Law

近代立憲主義と憲法

大石 和彦 (OOISHI KAZUHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB402
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 法学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

日本国憲法およびその背景にある近代立憲主義という考え方につき理解する。

To understand the normative meaning of the provisions of the Constitution of Japan and the foundation of modern constitutionalism on which the Constitution was established.

授業の内容 / Course Contents

日本国憲法につき、その歴史的背景、起草者意図、判例等を参照したり、諸外国との比較にも目配りしつつ、概論的講義を行う。

In this course, students will learn about the Constitution of Japan while referring to their historical background, intentions of the drafters, judicial precedents, and other materials as well as comparisons with foreign countries.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：憲法とは何か？ 4月15日（同日17時までに授業録画アップ予定。以下同じ。）
- 2 回：近代立憲主義と日本国憲法 4月22日
- 3 回：基本的人権 1 4月29日

- 4回：基本的人権 2 5月6日
 5回：国会1：議員 5月13日
 6回：国会2：二院制 5月20日
 7回：国会3：国会の権限 5月27日
 8回：国会4：国会の活動法 6月3日
 9回：まとめと補遺 6月10日
 10回：内閣1：内閣の構成 6月17日
 11回：内閣2：内閣の権能 6月24日
 12回：平和主義 7月1日
 13回：裁判所と司法権 7月8日
 14回：まとめと補遺 7月15日

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

憲法は、それぞれの国の基本ソフトであるから、その国の社会に生起する出来事それ自体が最重要の考察対象となる。したがって、本科目で勉強したことと関連付けながら新聞記事やニュースを見たり、授業と並行して関連文献を読んだりすると、学習効果が一層高まるであろう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業録画内の随所で課される小テスト:20%

小テストが行われる授業回および回数は事前開示しないため、授業録画全体を見るまでわからない。

テキスト / Textbooks

初宿正典・他 編著 『目で見える憲法【第6版】』 有斐閣 2024 9784641228658 ○

参考文献 / Readings

渋谷秀樹・赤坂正浩 『憲法1人権（第8版）』（有斐閣アルマ） 有斐閣 2022 9784641221871

渋谷秀樹・赤坂正浩 『憲法2統治（第8版）』（有斐閣アルマ） 有斐閣 2022 9784641221888

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

日本国憲法

Japanese Constitutional Law

近代立憲主義と憲法

大石 和彦 (OOISHI KAZUHIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB403
授業形態：	オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）	
校地：	他
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	法学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

日本国憲法およびその背景にある近代立憲主義という考え方につき理解する。

To understand the normative meaning of the provisions of the Constitution of Japan and the foundation of modern constitutionalism on which the Constitution was established.

授業の内容 / Course Contents

日本国憲法につき、その歴史的背景、起草者意図、判例等を参照したり、諸外国との比較にも目配りしつつ、概論的講義を行う。

In this course, students will learn about the Constitution of Japan while referring to their historical background, intentions of the drafters, judicial precedents, and other materials as well as comparisons with foreign countries.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：憲法とは何か？ 9月23日（同日17時までに授業録画アップ予定。以下同じ。）
- 2 回：近代立憲主義と日本国憲法 9月30日
- 3 回：基本的人権1 10月7日

- 4回：基本的人権 2 10月14日
 5回：国会1：議員 10月21日
 6回：国会2：二院制 10月28日
 7回：国会3：国会の権限 11月11日
 8回：国会4：国会の活動法 11月18日
 9回：まとめと補遺 11月25日
 10回：内閣1：内閣の構成 12月2日
 11回：内閣2：内閣の権能 12月9日
 12回：平和主義 12月16日
 13回：裁判所と司法権 12月23日
 14回：まとめと補遺 1月13日

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

憲法は、それぞれの国の基本ソフトであるから、その国の社会に生起する出来事それ自体が最重要の考察対象となる。したがって、本科目で勉強したことと関連付けながら新聞記事やニュースを見たり、授業と並行して関連文献を読んだりすると、学習効果が一層高まるであろう。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業録画内の随所で課される小テスト:20%

小テストが行われる授業回および回数は事前開示しないため、授業録画全体を見るまでわからない。

テキスト / Textbooks

初宿正典・他 編著 『目で見える憲法【第6版】』 有斐閣 2024 9784641228658 ○

参考文献 / Readings

渋谷秀樹・赤坂正浩 『憲法1人権 (第8版)』 (有斐閣アルマ) 有斐閣 2022 9784641221871

渋谷秀樹・赤坂正浩 『憲法2統治 (第8版)』 (有斐閣アルマ) 有斐閣 2022 9784641221888

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

近代日本社会と人権

Modern Japanese society and human rights

近代日本における差別問題と人権一部落問題を軸に

黒川 みどり (KUROKAWA MIDORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB404
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

部落問題を中心に据えながら近現代の歴史を振り返ることにより普遍的人権意識を身につける一助とし、人権問題についての理解を深める。

By looking back on the history of minorities in modern Japan while focusing on the Buraku problem, we will help students to acquire a "sensitivity toward others" and deepen their understanding of human rights issues.

授業の内容 / Course Contents

最も理解しにくいであろう部落差別問題を軸にしながら、明治維新から現代までの近現代社会の差別問題のありようを問う。部落問題を身近なものとして理解するために、ドキュメンタリーや文学作品の映画なども取り入れて解説する。可能な限り、ゲストスピーカーを招いて議論する場も設けたい。

We will provide lectures on the history of Okinawa, gender, leprosy, etc. in modern society from the Meiji Restoration to the present, focusing on the problem of Buraku discrimination that will be most difficult to understand, and questioning the state of modern society in Japan.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス 部落問題とは何か
- 2回：賤民身分の廃止／「開化」と「旧習」のはざま
- 3回：つくられる「異種」というまなざし
- 4回：映画「破戒」を観る（監督：市川崑）
- 5回：部落問題の発見—部落改善政策の開始／浸透する人種主義
- 6回：帝国のなかの部落問題—「融和」の浮上／米騒動と部落問題
- 7回：解放か融和か—全国水平社の結成
- 8回：「国民一体」と人種主義の相克—戦時下の部落問題
- 9回：部落解放運動の再出発と高度経済成長下の広がる格差
- 10回：ドキュメンタリー映画「人間みな兄弟」（監督：亀井文夫、1960年）を観る
- 11回：同対審答申—「国の責務」の承認
- 12回：狭山事件をめぐって
- 13回：「市民社会」への包摂から“いま、へ
- 14回：まとめ—「人権」のなかの部落問題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの該当範囲を読み、予習・復習をしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内で求める数回のリアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

黒川みどり 『増補近代部落史—明治から現代まで—』 平凡社ライブラリー 2023 9784582769388 ○

参考文献 / Readings

黒川みどり 『描かれた被差別部落』 岩波書店 2011 9784006004309

黒川みどり 『創られた「人種」—人種主義と部落差別』 有志舎 2016 9784908672019

寺木伸明・黒川みどり 『入門被差別部落の歴史』 解放出版社 2016 9784759240634

黒川みどり 『被差別部落認識の歴史』 岩波現代文庫 2021 9784006004309

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

日本の「多文化」政策を問い直す

Reconsidering Japan's 'Multicultural' Policy

自国中心主義を超えた多様な視点から

小林 真生 (KOBAYASHI MASAO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB405
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

この科目は、立教大学平和・コミュニティ研究機構の提供科目のひとつである。日本の多文化政策の実情について、「移民社会」「日本社会」「地方自治体」「日本政府」それぞれの視点から捉える能力を身に付けることを目標とする。

This course is one of the subjects offered by the Rikkyo Institute for Peace and Community Studies. The purpose of this course is to acquire the ability to capture the reality of Japan's multi-cultural policies from the perspectives of the immigrant society, Japanese society, municipal government, and Japanese government.

授業の内容 / Course Contents

21 世紀に入って以降、注目され続けている多文化社会が形成されるまでの経緯を「歴史」「それぞれのエスニックグループ」「日本社会の認識」といった側面から捉え直した上で、政策上の変遷と課題を解説する。

We will recapture the history of the creation of a multi-cultural society, which has been the center of focus since the beginning of the 21st century, from the aspects of history, individual ethnic groups, and recognition by the Japanese society. We will also cover the history and issues concerning the multi-cultural policies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：日本が移民社会となっている実例を紹介しつつ、この授業の意義や目的を解説する。
- 2回：歴史：近代以降の日本がどのように海外からヒトや文化を反発と共に受け入れてきたのかを解説する。
- 3回：多文化事例①：在日コリアン・ニューカマー韓国人の来日の経緯と実情について解説する。
- 4回：多文化事例②：日系ブラジル人の来日の経緯と実情について解説する。
- 5回：多文化事例③：フィリピン人の来日の経緯と実情について解説する。
- 6回：多文化事例④：中国人の来日の経緯と実情について解説する。
- 7回：多文化事例⑤：東南アジアや南アジアの人々の来日に至る経緯と実情について解説する。
- 8回：多文化事例⑥：中東やアフリカの人々の来日に至る経緯と実情について解説する。
- 9回：技能実習制度：10万人規模で日本で暮らしながら「顔が見えない」技能実習制度の実情と政策課題について解説する。
- 10回：対外国人意識：日本社会の外国人に対する意識の底流に何があるのかを解説し、その上で議論を通じた理解を深める。
- 11回：ヘイトスピーチ：東アジアの人々に対する嫌悪を露わにする一部の行動や、海外の事例などを解説し、その上で議論を通じた理解を深める。
- 12回：多文化政策①：地方自治体の多文化政策への取り組みについて解説する。
- 13回：多文化政策②：日本政府が全国一律で行う多文化政策への取り組み、及び課題について解説する。
- 14回：まとめ：本年度において注目された事例を紹介・解説し、その上で議論を通じた理解を深める。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 小テスト:40%

小テストとは毎授業時に求めるリアクションペーパーを指す。

テキスト / Textbooks

駒井洋監修・小林真生編集 『変容する移民コミュニティ—時間・空間・階層』 明石書店 2020
9784750350325 ○

参考文献 / Readings

移民政策学会設立10周年記念論集刊行委員会編 『移民政策のフロンティア—日本の歩みと課題を問い直す』
明石書店 2018 9784750346526

その他 / Others**【授業形態】**

- ・ PowerPoint を使用した講義形式で、映像資料なども適宜活用する。
- ・ 授業では学生への質問も活発に行うので、積極的な受講態度を期待する。

【フィードバック】

・小テストの内容および重要と思われる質問については、次回授業開始時にフィードバックを行う。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Japanese Society1

Japanese Society1

Introduction to Japanese society: modernity, tradition, and ideologies in the development of Japanese society.

レイゼル, M. (REISEL MARY)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB407
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

The course provides an introduction to Japanese society and its evolution from ancient times to the contemporary age. The lessons focus on the development of socio-political values, the meaning of cultural practices, and the place of tradition in different historical periods. Throughout the course, students will follow the spread of dominant social and political ideologies, major economic shifts, and the construction of national identity. Special emphasis will be put on the modern age and the recent decades.

授業の内容 / Course Contents

The course centers on the development of Japanese society as seen through the lens of cultural production, socio-political ideologies that shaped society, and major economic trends. It will cover practices, beliefs, and habits through examples taken from everyday life, such as the history of manga, the influence of ancient myths, religions, the impact of Buddhism, public and private identities, and political trends since WWII to our contemporary age. Students will gain deep understanding of core values that unite and shape Japanese society, such as harmony, collectivism, honne-tatema, uchi-soto, and the ganbaru spirit.

The course is multi-disciplinary and will provide theories from different fields of study and various styles of analysis and interpretations. Students are expected to develop and present their own opinions and original ideas during the lessons.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: culture, society, and key values in Japanese life.
- 2 回：From Himiko to Chôjû-giga: Mythology, gods, and drawings as political ideologies (I)
- 3 回：From Heian to Edo period: the development of cultural production, religions, and social stratification (II)
- 4 回：The impact of culture on politics, economy, and gender roles: from the geisha to Hello Kitty.
- 5 回：Class workshop: students' individual research and choices.
- 6 回：Murakami Takashi, Otaku, and underground art as tools of criticism and social change.
- 7 回：The place of the "ie" and the family along history.
- 8 回：Key values in Japanese economy: harmony, atmosphere, and the Confucian work system.
- 9 回：Modernity in political and economic systems before and after WWII.
- 10 回：The Bubble Age: when home turned to work and work was home.
- 11 回：Machines, technology and Shinto values: a history of tea service and robot pets.
- 12 回：The "new Japanese": single life, pets, individuality, and future Japan.
- 13 回：Japanese society in the age of globalization: is Japan opening up to the world?
- 14 回：Summary, paper themes, and closing notes.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Information about class preparation and reading material will be provided through the university online system, Canvas.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Attendance and weekly assignments:40% midterm research:30% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

The required academic reading assignments will be posted online on the university website, Canvas, at the beginning of the course.

参考文献 / Readings

Recommended texts:

Strinati, D., An Introduction to Theories of Popular Culture (Routledge, 2004.)

(Available in Japanese translation)

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修

- ・この授業は英語で実施する
- ・履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Tokyo Studies

Tokyo Studies

The Right to the City in 21st Century Tokyo

宮内 洋平 (MIYAUCHI YOHEI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB408
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This class will examine how Tokyo in the 21st century has been transformed by large-scale development and the loss of local and urban culture based on neighborhood and streets. Students are expected to critically analyze the current situation in Tokyo and develop it to create a new image of Tokyo.

授業の内容 / Course Contents

This course consists of reading, researching, writing and presenting papers by students as well as lectures by a lecturer. The lecturer will introduce a variety of literature on Tokyo, including history, geography, society, culture, architecture, and urban planning. Each session, students are required to read the readings, prepare a summary of the readings, and give a presentation. Students will also create a booklet titled "Tokyo Keywords" based on their own research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Introduction: Large-scale development and the neighborhood

2 回：Overview of Tokyo's urbanism

- 3回：The planning of Takamasa Yoshizuka
 4回：Inventing neighborhood in Tokyo: Tokyo vernacular
 5回：Black market and their legacy
 6回：Revitalizing the community
 7回：Initiatives in Yanesen
 8回：Yokocho alleyways, Undertrack infills and Ankyo streets
 9回：Emergent Urbanism
 10回：Students presentations
 11回：Student presentations
 12回：Student presentations
 13回：Creating a booklet
 14回：Creating a booklet

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to prepare for each presentation and product outside of class time.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Class activities including a short presentation each time:70% A final product:30%

テキスト / Textbooks

Materials will be distributed by the lecturer.

参考文献 / Readings

- Mohsen Mostafave Sharing Tokyo: Artifice and the social world Actar 2023 1638400601
 Jorge Almazan+Studiolab Emergent Tokyo: Designing the Spontaneous City Oro Editions 2022
 1951541324
 Jordan Sand Tokyo Vernacular: Common Spaces, Local Histories, Found Objects University of California
 Press 2013 0520280377
 Roman Adrian Cybriwsky Roppongi Crossing: The Demise of a Tokyo Night Club District and the Reshaping
 of a Global City University of Georgia Press 2011
 Matjaz Ursic and Heide Imai Creativity in Tokyo: Revitalizing a mature city Palgrave Macmillan 2021
 9811566895

More readings will be announced by the lecturer.

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する

- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Japanese Society and Culture2

Japanese Society and Culture2

Okinawan diaspora

グシケン, G. (GUSHIKEN GABRIELA T.)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB411
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2231
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	○
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

This course aims to present an overview of Okinawan transnational immigration and explore the social and cultural interactions yielded within this process. Through the course, students are expected to:

1. Engage in discussions about the Okinawan diaspora.
2. Exercise their ability to express ideas clearly in English.
3. Develop critical thinking, English reading comprehension, and research and presenting skills.

授業の内容 / Course Contents

Every class of this course brings a different topic regarding the history of the Okinawan diaspora, their cultural manifestations, and connection points between the diaspora and Okinawa. Finally, this course will also discuss the position of Okinawa in Japanese society and its complex relationship with ethnicity and national identity. The classes consist of oral presentations and group discussions.

Equipped with the knowledge gained from the class presentations and reference material, you are expected to participate in discussions around the theme of each class. The classes are designed to instigate your analytical

ability in observing issues of the Okinawan diaspora and to connect them with a general landscape of social studies, such as immigration, national identity, ethnicity, and transnationalism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Orientation: syllabus overview and introductions
- 2 回：Okinawan historical context (Ryukyu kingdom, Japanese annexation, American occupation, return to Japan, Pre-War and post-War immigration)
- 3 回：Okinawan diaspora: US and Latin America
- 4 回：Okinawan diaspora: Occupied territories, mainland Japan and "return" migration
- 5 回：Okinawa Prefecture Associations and other transnational networks
- 6 回：Cultural practices in diaspora: festivals, music, dance and drums
- 7 回：Cultural practices in diaspora: moai/tanomoshi and Ryukyuan languages
- 8 回：Cultural practices in diaspora: hajichi
- 9 回：Ancestors' worship and activism for indigenous self identification
- 10 回：Community and identity building through self-published magazines: shimanchu nu kwii
- 11 回：Okinawan transnational identity
- 12 回：Student presentations I
- 13 回：Student presentations II
- 14 回：Final comments

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Reference material for each presentation will be provided in advance. The students should be prepared for the discussions following the weekly reading material. The students are asked to submit reaction papers about every class. Students should also condu

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Final presentation:35% Reaction papers:35% Attendance and participation:30%

最終レポート割合 :0%最終テスト割合 :0%

テキスト / Textbooks

Nakasone, Ronald Y. (ed.) Okinawan Diaspora University of Hawaii Press 2002 0824825306 -

参考文献 / Readings

Additional readings will be introduced in class and made available online.

注意事項

- ・ F 科目中級 (外国語による総合系科目)
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい

- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

日本国憲法

Japanese Constitutional Law

近代立憲主義と憲法

大石 和彦 (OOISHI KAZUHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB442
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 法学部所属学生随意科目（卒業要件単位に含むことはできない）

授業の目標 / Course Objectives

日本国憲法およびその背景にある近代立憲主義という考え方につき理解する。

To understand the normative meaning of the provisions of the Constitution of Japan and the foundation of modern constitutionalism on which the Constitution was established.

授業の内容 / Course Contents

日本国憲法につき、その歴史的背景、起草者意図、判例等を参照したり、諸外国との比較にも目配りしつつ、概論的講義を行う。

In this course, students will learn about the Constitution of Japan while referring to their historical background, intentions of the drafters, judicial precedents, and other materials as well as comparisons with foreign countries.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：憲法とは何か？ 4月15日（同日17時までに授業録画アップ予定。以下同じ。）
- 2 回：近代立憲主義と日本国憲法 4月22日
- 3 回：基本的人権 1 4月29日

- 4回：基本的人権 2 5月6日
 5回：国会1：議員 5月13日
 6回：国会2：二院制 5月20日
 7回：国会3：国会の権限 5月27日
 8回：国会4：国会の活動法 6月3日
 9回：まとめと補遺 6月10日
 10回：内閣1：内閣の構成 6月17日
 11回：内閣2：内閣の権能 6月24日
 12回：平和主義 7月1日
 13回：裁判所と司法権 7月8日
 14回：まとめと補遺 7月15日

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

憲法は、それぞれの国の基本ソフトであるから、その国の社会に生起する出来事それ自体が最重要の考察対象となる。したがって、本科目で勉強したことと関連付けながら新聞記事やニュースを見たり、授業と並行して関連文献を読んだりすると、学習効果が一層高まるであろう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業録画内の随所で課される小テスト:20%

小テストが行われる授業回および回数は事前開示しないため、授業録画全体を見るまでわからない。

テキスト / Textbooks

初宿正典・他 編著 『目で見える憲法【第6版】』 有斐閣 2024 9784641228658 ○

参考文献 / Readings

渋谷秀樹・赤坂正浩 『憲法1人権（第8版）』（有斐閣アルマ） 有斐閣 2022 9784641221871

渋谷秀樹・赤坂正浩 『憲法2統治（第8版）』（有斐閣アルマ） 有斐閣 2022 9784641221888

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 A

日本国憲法

Japanese Constitutional Law

近代立憲主義と憲法

大石 和彦 (OOISHI KAZUHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB443
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 法学部所属学生随意科目（卒業要件単位に含むことはできない）

授業の目標 / Course Objectives

日本国憲法およびその背景にある近代立憲主義という考え方につき理解する。

To understand the normative meaning of the provisions of the Constitution of Japan and the foundation of modern constitutionalism on which the Constitution was established.

授業の内容 / Course Contents

日本国憲法につき、その歴史的背景、起草者意図、判例等を参照したり、諸外国との比較にも目配りしつつ、概論的講義を行う。

In this course, students will learn about the Constitution of Japan while referring to their historical background, intentions of the drafters, judicial precedents, and other materials as well as comparisons with foreign countries.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：憲法とは何か？ 9月23日（同日17時までに授業録画アップ予定。以下同じ。）
- 2 回：近代立憲主義と日本国憲法 9月30日
- 3 回：基本的人権1 10月7日

- 4回：基本的人権 2 10月14日
 5回：国会1：議員 10月21日
 6回：国会2：二院制 10月28日
 7回：国会3：国会の権限 11月11日
 8回：国会4：国会の活動法 11月18日
 9回：まとめと補遺 11月25日
 10回：内閣1：内閣の構成 12月2日
 11回：内閣2：内閣の権能 12月9日
 12回：平和主義 12月16日
 13回：裁判所と司法権 12月23日
 14回：まとめと補遺 1月13日

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

憲法は、それぞれの国の基本ソフトであるから、その国の社会に生起する出来事それ自体が最重要の考察対象となる。したがって、本科目で勉強したことと関連付けながら新聞記事やニュースを見たり、授業と並行して関連文献を読んだりすると、学習効果が一層高まるであろう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業録画内の随所で課される小テスト:20%

小テストが行われる授業回および回数は事前開示しないため、授業録画全体を見るまでわからない。

テキスト / Textbooks

初宿正典・他 編著 『目で見える憲法【第6版】』 有斐閣 2024 9784641228658 ○

参考文献 / Readings

渋谷秀樹・赤坂正浩 『憲法1人権（第8版）』（有斐閣アルマ） 有斐閣 2022 9784641221871

渋谷秀樹・赤坂正浩 『憲法2統治（第8版）』（有斐閣アルマ） 有斐閣 2022 9784641221888

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 A

世界経済と日本

The World Economy and Japan

映画で学ぶ世界経済論

田村 考司 (TAMURA KOJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB501

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

大きく変わりつつある世界経済の仕組みとダイナミズムを学び、グローバルな経済センスと思考を育む。経済の知識がない初心者の受講が前提である。

Students will learn about the mechanisms and dynamism of the world economy that is changing dramatically, and develop a global economic sense and thinking. It will be assumed that the students are beginners with no knowledge of the economy.

授業の内容 / Course Contents

グローバリゼーションの進展により、日本経済の動き、ひいては私たちの生活が、目には見えにくい世界経済の動きといかに密接につながっているのか理解するために、幾つかの映画を取り上げて、世界経済論の基礎的な知識と考え方について講義する。

In order to understand how closely the movement of the Japanese economy, and hence our lives, is connected with the movement of the invisible world economy as globalization progresses, we will take up some movies and provide lectures on the basic knowledge and ideas of world economics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス～今、世界経済で何が起きているのか
 2回：「おいしいコーヒーの真実」(マーク・フランシス、2006年)の紹介と鑑賞
 3回：「おいしいコーヒーの真実」を通じて、国際貿易について学ぶ(1)映画の補足解説(自由貿易とフェアトレード)
 4回：「おいしいコーヒーの真実」を通じて、国際貿易について学ぶ(2)国際貿易体制の基礎知識
 5回：「おいしいコーヒーの真実」を通じて、国際貿易について学ぶ(2)国際貿易体制の基礎知識(続き)
 6回：「おいしいコーヒーの真実」を通じて、国際貿易について学ぶ(3)平等・互恵・公正な貿易を求めて
 7回：「ザ・トゥルー・コスト」(アンドリュー・モーガン、2015年)の紹介と鑑賞
 8回：「ザ・トゥルー・コスト」を通じて、多国籍企業について学ぶ(1)映画の補足解説(グローバル・サプライチェーンの形成)
 9回：「ザ・トゥルー・コスト」を通じて、多国籍企業について学ぶ(2)多国籍企業の基礎知識
 10回：「ザ・トゥルー・コスト」を通じて、多国籍企業について学ぶ(2)多国籍企業の基礎知識(続き)
 11回：「ザ・トゥルー・コスト」を通じて、多国籍企業について学ぶ(3)多国籍企業の社会的責任と国際規制
 12回：「ダーウィンの悪夢」(フーベルト・ザウパー、2004年)の紹介と鑑賞
 13回：「ダーウィンの悪夢」を通じて、経済のグローバル化について学ぶ～世界経済の新自由主義的再編
 14回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内レポート(1回目):25% 授業内レポート(2回目):25%

テキスト/Textbooks

資料を配布する。テキストは使用しない。

参考文献 / Readings

開講時に指示する。

その他/Others

オンライン授業に関する案内は Canvas LMS に掲載するため、授業前に必ず確認すること。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項(検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

世界経済と日本

The World Economy and Japan

映画で学ぶ世界経済論

田村 考司 (TAMURA KOJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB502

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

大きく変わりつつある世界経済の仕組みとダイナミズムを学び、グローバルな経済センスと思考を育む。経済の知識がない初心者の受講が前提である。

Students will learn about the mechanisms and dynamism of the world economy that is changing dramatically, and develop a global economic sense and thinking. It will be assumed that the students are beginners with no knowledge of the economy.

授業の内容 / Course Contents

グローバリゼーションの進展により、日本経済の動き、ひいては私たちの生活が、目には見えにくい世界経済の動きといかに密接につながっているのか理解するために、幾つかの映画を取り上げて、世界経済論の基礎的な知識と考え方について講義する。

In order to understand how closely the movement of the Japanese economy, and hence our lives, is connected with the movement of the invisible world economy as globalization progresses, we will take up some movies and provide lectures on the basic knowledge and ideas of world economics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス～今、世界経済で何が起きているのか
 2 回：「おいしいコーヒーの真実」(マーク・フランシス、2006 年) の紹介と鑑賞
 3 回：「おいしいコーヒーの真実」を通じて、国際貿易について学ぶ (1) 映画の補足解説 (自由貿易とフェアトレード)
 4 回：「おいしいコーヒーの真実」を通じて、国際貿易について学ぶ (2) 国際貿易体制の基礎知識
 5 回：「おいしいコーヒーの真実」を通じて、国際貿易について学ぶ (2) 国際貿易体制の基礎知識 (続き)
 6 回：「おいしいコーヒーの真実」を通じて、国際貿易について学ぶ (3) 平等・互恵・公正な貿易を求めて
 7 回：「ザ・トゥルー・コスト」(アンドリュー・モーガン、2015 年) の紹介と鑑賞
 8 回：「ザ・トゥルー・コスト」を通じて、多国籍企業について学ぶ (1) 映画の補足解説 (グローバル・サプライチェーンの形成)
 9 回：「ザ・トゥルー・コスト」を通じて、多国籍企業について学ぶ (2) 多国籍企業の基礎知識
 10 回：「ザ・トゥルー・コスト」を通じて、多国籍企業について学ぶ (2) 多国籍企業の基礎知識 (続き)
 11 回：「ザ・トゥルー・コスト」を通じて、多国籍企業について学ぶ (3) 多国籍企業の社会的責任と国際規制
 12 回：「ダーウィンの悪夢」(フーベルト・ザウパー、2004 年) の紹介と鑑賞
 13 回：「ダーウィンの悪夢」を通じて、経済のグローバル化について学ぶ～世界経済の新自由主義的再編
 14 回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内レポート (1 回目) :25% 授業内レポート (2 回目) :25%

テキスト / Textbooks

資料を配布する。テキストは使用しない。

参考文献 / Readings

開講時に指示する。

その他 / Others

オンライン授業に関する案内は Canvas LMS に掲載するため、授業前に必ず確認すること。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

世界経済と日本

The World Economy and Japan

ラテンアメリカ・カリブ海地域を通して見る世界と私たち

所 康弘 (TOKORO YASUHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB503

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2200

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、ラテンアメリカ・カリブ海世界の視座から見える世界経済の歴史や現状ならびに課題を学び、その仕組みを理解することが目標である。なお、この授業は経済や国際関係の初学者を対象としている。

This course aims to help students understand the current state and issues of the world economy from the perspective of Latin America and the Caribbean and to understand its mechanism. This course is for beginners in economics and international relations.

授業の内容 / Course Contents

世界でもっともコントラスト（光と影、明暗の差異）の強烈な大陸、それがラテンアメリカ・カリブ海地域である。だが、地理的に遠いこともあり、この地域の歴史・社会・経済について、日本人が知る機会はおおくない。この授業では、この地域がいかに世界経済や私たちと密接にかかわっているかを理解するため、資料や動画を活用し、解説をおこなう。それにより「周辺」から見えてくる世界経済の姿や課題を考察する。

In this course, students will learn the basic knowledge necessary to understand the world economy, including the

markets, societies, cultures and lifestyles of Latin America and the Caribbean. This will help us to understand how this region is closely related to the world economy and Japan. We will also examine the problems of the world economy as seen from the "periphery" of the world.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：国を知る (地域と世界との関わり)
- 2回：国を知る (各国の特徴)
- 3回：地域の歴史 (「失われた文明」の視聴と解説① 収奪の起源)
- 4回：地域の歴史 (「失われた文明」の視聴と解説② 人種の起源)
- 5回：市場の歴史 (奴隷貿易の展開)
- 6回：市場の歴史 (奴隷制と砂糖プランテーション)
- 7回：市場の歴史 (奴隷制と近代資本主義)
- 8回：貧困とラテンアメリカ (コーヒー産業)
- 9回：貧困とラテンアメリカ (資源産業)
- 10回：アメリカ合衆国との関係 (米国・メキシコの国境をめぐって)
- 11回：アメリカ合衆国との関係 (麻薬戦争と移民)
- 12回：アメリカ合衆国との関係 (ピクサー映画「リメンバー・ミー」から考えるローカルとグローバルの関係)
- 13回：アメリカ合衆国との関係 (経済面から見るラティーノの人々)
- 14回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

教科書はレポート試験の課題用として使用する。7月初旬頃までに各自、読んでおくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内レポート (授業毎のリアクションペーパー提出) :40%

レポート試験に使用する課題本は教科書として指定しておく。

テキスト / Textbooks

ブレンダ・E・スティーヴンソン 『奴隷制の歴史』 筑摩書房 2023 ○

毎授業で使用する資料はPPTをアップロードする。教科書はレポート試験の課題本として使用する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

この地域は大航海時代や奴隷貿易といった歴史的な要因により、白人・アフリカ系・アジア系・先住民系の多様な文化が複雑に混ざりあった社会経済を形成している。そのため履修にあたっては、歴史や異文化理解への興味・関心があることが求められる。

その他 / Others

この地域の独特なあり様を視覚的にイメージできるように映画の一部や映像資料を積極的に活用する。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

日本国憲法

Japanese Constitutional Law

日本国憲法の現代的解釈

玉蟲 由樹 (TAMAMUSHI YUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB504
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 法学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。日本国憲法は制定以来、一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目しながら現在の日本国憲法の姿を示し、日本国憲法に関する基本的な知識の修得を目指します。

The Constitution of Japan is the supreme law of Japan, which sets forth the governing organization, the governing actions, and the guarantee of rights of the nation. Although the Constitution of Japan has never been revised since its enactment, its portrait has been dynamically changing through constitutional interpretation. In this course, we will reveal the current portrait of the Constitution of Japan, focusing on these changes, and aim to acquire basic knowledge of the Constitution of Japan.

授業の内容 / Course Contents

日本国憲法成立の歴史、国家の統治機構の法的構造、基本的人権保障のあり方などを、現在の状況とも照らし合わせながら、具体的な文脈の中で論じていきます。第1回から第5回で憲法総論を取扱い、第6回以降で憲

法各論を取り扱う予定です。

We will discuss the history of the establishment of the Constitution of Japan, the legal structure of the national governing system, and the guarantee of fundamental human rights in a concrete context in light of the current situation. The first five sessions will be spent on the general theory of the Constitution, and the sixth and subsequent sessions will focus on each theory of the Constitution.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション～憲法とは何か～
- 2 回：日本国憲法制定史
- 3 回：憲法の構造原理 (1) 国民主権原理
- 4 回：憲法の構造原理 (2) 基本的人権の保障
- 5 回：憲法の構造原理 (3) 平和主義原理
- 6 回：統治機構各論 (1) 国会・内閣・裁判所
- 7 回：統治機構各論 (2) 違憲審査制
- 8 回：統治機構各論 (3) 地方自治
- 9 回：基本的人権各論 (1) 自由と平等～包括的人権～
- 10 回：基本的人権各論 (2) 精神活動の自由
- 11 回：基本的人権各論 (3) 経済活動の自由
- 12 回：基本的人権各論 (4) 身体的自由
- 13 回：基本的人権各論 (5) 政治参加の権利
- 14 回：基本的人権各論 (6) 社会権

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に告知する教科書の該当頁を読んでおくこと。

講義後に教科書の内容と講義内容とを突き合わせたノートを作成すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

武居一正（編） 『基礎からわかる憲法（第3版）』 嵯峨野書院 2020 9784782306024 ○

参考文献 / Readings

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

日本国憲法

Japanese Constitutional Law

民主主義・平和主義・基本的人権について学ぶ

砂押 以久子 (SUNAOSHI IKUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB505
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	法学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

法を学ぶということは、単に法技術を習得することではなく、法を解釈することを通して客観的・論理的に思考する能力を養うことである。本講義においては、われわれの周りに起こる出来事を取り上げ、憲法がいかに身近であることを知覚し、さまざまな社会問題を人権保障の観点から考察していきたいと考える。

Learning law is not just about learning law skills, but developing the ability to think objectively and logically through interpreting law. In this course, we would like to take the events that occur around us, recognize that the constitution is very close to us, and consider various social issues from the viewpoint of ensuring human rights.

授業の内容 / Course Contents

動画教材を利用しながらオンライン形式で授業を行う。近代憲法から日本国憲法の制定、象徴天皇制、平和主義について学んだあと、基本的人権に関する問題について、身近な事例を通じて講義する。具体的内容は、「授業計画」に示す。なお、基本的人権に関する個別テーマについては、できるだけタイムリーな問題を取り上げ、掘り下げて検討を行いたいと考えるので、授業計画にあげた内容とは異なる場合があること、授業の進路状況によってはテーマが多少前後すること、時間の都合でテーマが限られることのあることをあらかじめ了

承いいただきたい。

Classes will take the form of lectures and audiovisual materials will be used as appropriate. After learning about topics from the modern constitution to the establish of the Japanese Constitutional Law, we will provide lectures on pacifism and basic human rights, etc. using familiar examples. The specific contents are shown in the "Course Plan." In addition, regarding individual themes related to basic human rights, we would like to take up topical issues as much as possible, and examine them in detail, so please be aware in advance that the contents may differ from the course plan; that depending on the progress of the classes the themes may vary slightly; and that the themes may be limited due to time constraints.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：憲法の概要
- 2 回：近代憲法の成立
- 3 回：大日本帝国憲法
- 4 回：日本国憲法制定
- 5 回：日本国憲法の特徴
- 6 回：象徴天皇制
- 7 回：平和主義（1）
- 8 回：平和主義（2）
- 9 回：平和主義（3）
- 10 回：基本的人権、表現の自由・知る権利
- 11 回：法の下での平等（1）
- 12 回：法の下での平等（2）
- 13 回：刑事手続き
- 14 回：自己決定権

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

わが国における人権問題、防衛、皇室の在り方などについて、メディア・書物等を通して常に関心を持つようにしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業時間中に時間を制限したうえで授業内テストを3回実施 100%:100%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

最初の授業で紹介する。

その他 / Others

オンライン授業に関する案内は Canvas LMS に掲載するため、授業前に必ず確認すること。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目
多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

日本国憲法

Japanese Constitutional Law

民主主義・平和主義・基本的人権について学ぶ

砂押 以久子 (SUNAOSHI IKUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB506
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	法学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

法を学ぶということは、単に法技術を習得することではなく、法を解釈することを通して客観的・論理的に思考する能力を養うことである。本講義においては、われわれの周りに起こる出来事を取り上げ、憲法がいかに身近であることを知覚し、さまざまな社会問題を人権保障の観点から考察していきたいと考える。

Learning law is not just about learning law skills, but developing the ability to think objectively and logically through interpreting law. In this course, we would like to take the events that occur around us, recognize that the constitution is very close to us, and consider various social issues from the viewpoint of ensuring human rights.

授業の内容 / Course Contents

動画教材を利用しながらオンライン形式で授業を行う。近代憲法から日本国憲法の制定、象徴天皇制、平和主義について学んだあと、基本的人権に関する問題について、身近な事例を通じて講義する。具体的内容は、「授業計画」に示す。なお、基本的人権に関する個別テーマについては、できるだけタイムリーな問題を取り上げ、掘り下げて検討を行いたいと考えるので、授業計画にあげた内容とは異なる場合があること、授業の進路状況によってはテーマが多少前後すること、時間の都合でテーマが限られることのあることをあらかじめ了

承いいただきたい。

Classes will take the form of lectures and audiovisual materials will be used as appropriate. After learning about topics from the modern constitution to the establish of the Japanese Constitutional Law, we will provide lectures on pacifism and basic human rights, etc. using familiar examples. The specific contents are shown in the "Course Plan." In addition, regarding individual themes related to basic human rights, we would like to take up topical issues as much as possible, and examine them in detail, so please be aware in advance that the contents may differ from the course plan; that depending on the progress of the classes the themes may vary slightly; and that the themes may be limited due to time constraints.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：憲法の概要
- 2 回：近代憲法の成立
- 3 回：大日本帝国憲法
- 4 回：日本国憲法制定
- 5 回：日本国憲法の特徴
- 6 回：象徴天皇制
- 7 回：平和主義（1）
- 8 回：平和主義（2）
- 9 回：平和主義（3）
- 10 回：基本的人権、表現の自由・知る権利
- 11 回：法の下での平等（1）
- 12 回：法の下での平等（2）
- 13 回：刑事手続き
- 14 回：自己決定権

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

わが国における人権問題、防衛、皇室の在り方などについて、メディア・書物等を通して常に関心を持つようにしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業時間中に時間を制限したうえで授業内テストを3回実施 100%:100%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

最初の授業で紹介する。

その他 / Others

オンライン授業に関する案内は Canvas LMS に掲載するため、授業前に必ず確認すること。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目
多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

日本国憲法

Japanese Constitutional Law

民主主義・平和主義・基本的人権について学ぶ

砂押 以久子 (SUNAOSHI IKUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB507
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	法学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

法を学ぶということは、単に法技術を習得することではなく、法を解釈することを通して客観的・論理的に思考する能力を養うことである。本講義においては、われわれの周りに起こる出来事を取り上げ、憲法がいかに身近であることを知覚し、さまざまな社会問題を人権保障の観点から考察していきたいと考える。

Learning law is not just about learning law skills, but developing the ability to think objectively and logically through interpreting law. In this course, we would like to take the events that occur around us, recognize that the constitution is very close to us, and consider various social issues from the viewpoint of ensuring human rights.

授業の内容 / Course Contents

動画教材を利用しながらオンライン形式で授業を行う。近代憲法から日本国憲法の制定、象徴天皇制、平和主義について学んだあと、基本的人権に関する問題について、身近な事例を通じて講義する。具体的内容は、「授業計画」に示す。なお、基本的人権に関する個別テーマについては、できるだけタイムリーな問題を取り上げ、掘り下げて検討を行いたいと考えるので、授業計画にあげた内容とは異なる場合があること、授業の進路状況によってはテーマが多少前後すること、時間の都合でテーマが限られることのあることをあらかじめ了

承いいただきたい。

Classes will take the form of lectures and audiovisual materials will be used as appropriate. After learning about topics from the modern constitution to the establish of the Japanese Constitutional Law, we will provide lectures on pacifism and basic human rights, etc. using familiar examples. The specific contents are shown in the "Course Plan." In addition, regarding individual themes related to basic human rights, we would like to take up topical issues as much as possible, and examine them in detail, so please be aware in advance that the contents may differ from the course plan; that depending on the progress of the classes the themes may vary slightly; and that the themes may be limited due to time constraints.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：憲法の概要
- 2 回：近代憲法の成立
- 3 回：大日本帝国憲法
- 4 回：日本国憲法制定
- 5 回：日本国憲法の特徴
- 6 回：象徴天皇制
- 7 回：平和主義（1）
- 8 回：平和主義（2）
- 9 回：平和主義（3）
- 10 回：基本的人権、表現の自由・知る権利
- 11 回：法の下の平等（1）
- 12 回：法の下の平等（2）
- 13 回：刑事手続き
- 14 回：自己決定権

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

わが国における人権問題、防衛、皇室の在り方などについて、メディア・書物等を通して常に興味を持つようにしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業時間中に時間を制限したうえで授業内テストを3回実施 100%:100%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

最初の授業で紹介する。

その他 / Others

オンライン授業に関する案内は Canvas LMS に掲載するため、授業前に必ず確認すること。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目
多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

近代日本社会と人権

Modern Japanese society and human rights

近代日本における差別問題と人権一部落問題を軸に

黒川 みどり (KUROKAWA MIDORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB508
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

部落問題を中心に据えながら近現代の歴史を振り返ることにより普遍的人権意識を身につける一助とし、人権問題についての理解を深める。

By looking back on the history of minorities in modern Japan while focusing on the Buraku problem, we will help students to acquire a "sensitivity toward others" and deepen their understanding of human rights issues.

授業の内容 / Course Contents

最も理解しにくいであろう部落差別問題を軸にしながら、明治維新から現代までの近現代社会の差別問題のありようを問う。部落問題を身近なものとして理解するために、ドキュメンタリーや文学作品の映画なども取り入れて解説する。可能な限り、ゲストスピーカーを招いて議論する場も設けたい。

We will provide lectures on the history of Okinawa, gender, leprosy, etc. in modern society from the Meiji Restoration to the present, focusing on the problem of Buraku discrimination that will be most difficult to understand, and questioning the state of modern society in Japan.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス 部落問題とは何か
- 2回：賤民身分の廃止／「開化」と「旧習」のはざま
- 3回：つくられる「異種」というまなざし
- 4回：映画「破戒」を観る（監督：市川崑）
- 5回：部落問題の発見—部落改善政策の開始／浸透する人種主義
- 6回：帝国のなかの部落問題—「融和」の浮上／米騒動と部落問題
- 7回：解放か融和か—全国水平社の結成
- 8回：「国民一体」と人種主義の相克—戦時下の部落問題
- 9回：部落解放運動の再出発と高度経済成長下の広がる格差
- 10回：ドキュメンタリー映画「人間みな兄弟」（監督：亀井文夫、1960年）を観る
- 11回：同対審答申—「国の責務」の承認
- 12回：狭山事件をめぐって
- 13回：「市民社会」への包摂から“いま、へ
- 14回：まとめ—「人権」のなかの部落問題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの該当範囲を読み、予習・復習をしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内で求める数回のリアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

黒川みどり 『増補近代部落史—明治から現代まで—』 平凡社ライブラリー 2023 9784582769388 ○

参考文献 / Readings

黒川みどり 『描かれた被差別部落』 岩波書店 2011 9784006004309

黒川みどり 『創られた「人種」—人種主義と部落差別』 有志舎 2016 9784908672019

寺木伸明・黒川みどり 『入門被差別部落の歴史』 解放出版社 2016 9784759240634

黒川みどり 『被差別部落認識の歴史』 岩波現代文庫 2021 9784006004309

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

近代日本社会と人権

Modern Japanese society and human rights

日本外交と人権

猿田 佐世 (SARUTA SAYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB509
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2200
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本外交の中で生じてきた人権問題や、日本外交が解決しようとしてきた人権問題など、「外交」が実際に生活する人々の「人権」にどのように関係してきたのかを学び、社会の一員として自分自身が各問題にいかに関わっていけるのか考える。

Students will learn about how "diplomacy" actually relates to the "human rights" of people living their daily lives, such as human rights issues that have arisen in Japanese diplomacy, and human rights issues that Japanese diplomacy has been trying to solve and will think about how they can be involved in each issue as members of society.

授業の内容 / Course Contents

日本外交のために生じてきた人権問題、あるいは、日本外交が解決をしようとしてきた人権問題などを広く概観する。各問題やそれぞれの当事者の状況・立場を理解した上で、なぜその問題が生じたか、これまでに各国政府や国際機関、市民社会等が解決のためにどのような努力を払ってきたのか、今後どのような解決方法がとられうるのか等について検討する。

The course will provide a broad overview of human rights issues that have arisen in Japanese diplomacy and human rights issues that Japanese diplomacy has been trying to solve. After understanding the issues and the situation and position of each party, we will examine why did the issues arise; what efforts have been made by governments, international organizations, and civil society, etc. to date; and what kind of solutions can be considered in the future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：日本外交と人権 総論
- 2 回：沖縄（1）：歴史・基地の現状
- 3 回：沖縄（2）：地位協定
- 4 回：日韓関係（1）
- 5 回：日韓関係（2）・日中関係（1）
- 6 回：日中関係（2）
- 7 回：在日外国人
- 8 回：難民
- 9 回：開発援助
- 10 回：国際人権システム（1） ・男女平等問題を題材に
- 11 回：国際人権システム（2）
- 12 回：マルチトラック外交（NGO・民間外交）
- 13 回：マルチトラック外交（NGO・民間外交）
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。
- ・現在起きている出来事に注目しながら毎回の授業を進める。授業内で指定するものも含め、授業に関連する新聞記事などを読む習慣をつけて欲しい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%
 平常点割合 :40% リアクションペーパーの提出:30% 講義への積極性:10%

テキスト / Textbooks

猿田佐世 『新しい日米外交を切り拓く』 集英社 2016 4420310766 ○

参考文献 / Readings

島袋純 ,阿部浩己 『沖縄が問う日本の安全保障』 岩波書店 2015 9784000287548
 芹田健太郎ほか 『ブリッジブック国際人権法』（第2版） 信山社 2017 4797223588
 太田啓子 『これからの男の子たちへ』 大月書店 2020 4272350471

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

社会における各人権問題について、自分はなぜそれが問題だと思うのか、なぜその問題が生じているのか、ど

うすれば解決できるのか、解決のために自分には何ができるか、を考えて授業に臨んでもらいたい。そうすることで、これからの生涯役に立つ「考える習慣」がこの半期で身につけられるかもしれない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし

その他/ Others

●新外交イニシアティブ（ND）という団体の代表をしています。

<https://www.nd-initiative.org/>

●自己紹介はこちら

[https://www.nd-initiative.org/wordpress/wp-](https://www.nd-initiative.org/wordpress/wp-content/uploads/2023/06/6fd69909890daeff2d90d67cf8e7388e.pdf)

[content/uploads/2023/06/6fd69909890daeff2d90d67cf8e7388e.pdf](https://www.nd-initiative.org/wordpress/wp-content/uploads/2023/06/6fd69909890daeff2d90d67cf8e7388e.pdf)

<https://www.nd-initiative.org/wordpress/wp-content/uploads/2023/06/1570483dea>

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

日本の「多文化」政策を問い直す

Reconsidering Japan's 'Multicultural' Policy

自国中心主義を超えた多様な視点から

小林 真生 (KOBAYASHI MASAO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB510
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2200
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

この科目は、立教大学平和・コミュニティ研究機構の提供科目のひとつである。日本の多文化政策の実情について、「移民社会」「日本社会」「地方自治体」「日本政府」それぞれの視点から捉える能力を身に付けることを目標とする。

This course is one of the subjects offered by the Rikkyo Institute for Peace and Community Studies. The purpose of this course is to acquire the ability to capture the reality of Japan's multi-cultural policies from the perspectives of the immigrant society, Japanese society, municipal government, and Japanese government.

授業の内容 / Course Contents

21 世紀に入って以降、注目され続けている多文化社会が形成されるまでの経緯を「歴史」「それぞれのエスニックグループ」「日本社会の認識」といった側面から捉え直した上で、政策上の変遷と課題を解説する。

We will recapture the history of the creation of a multi-cultural society, which has been the center of focus since the beginning of the 21st century, from the aspects of history, individual ethnic groups, and recognition by the Japanese society. We will also cover the history and issues concerning the multi-cultural policies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：日本が移民社会となっている実例を紹介しつつ、この授業の意義や目的を解説する。
- 2回：歴史：近代以降の日本がどのように海外からヒトや文化を反発と共に受け入れてきたのかを解説する。
- 3回：多文化事例①：在日コリアン・ニューカマー韓国人の来日の経緯と実情について解説する。
- 4回：多文化事例②：日系ブラジル人の来日の経緯と実情について解説する。
- 5回：多文化事例③：フィリピン人の来日の経緯と実情について解説する。
- 6回：多文化事例④：中国人の来日の経緯と実情について解説する。
- 7回：多文化事例⑤：東南アジアや南アジアの人々の来日に至る経緯と実情について解説する。
- 8回：多文化事例⑥：中東やアフリカの人々の来日に至る経緯と実情について解説する。
- 9回：技能実習制度：10万人規模で日本で暮らしながら「顔が見えない」技能実習制度の実情と政策課題について解説する。
- 10回：対外国人意識：日本社会の外国人に対する意識の底流に何があるのかを解説し、その上で議論を通じた理解を深める。
- 11回：ヘイトスピーチ：東アジアの人々に対する嫌悪を露わにする一部の行動や、海外の事例などを解説し、その上で議論を通じた理解を深める。
- 12回：多文化政策①：地方自治体の多文化政策への取り組みについて解説する。
- 13回：多文化政策②：日本政府が全国一律で行う多文化政策への取り組み、及び課題について解説する。
- 14回：まとめ：本年度において注目された事例を紹介・解説し、その上で議論を通じた理解を深める。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 小テスト:40%

小テストとは毎授業時に求めるリアクションペーパーを指す。

テキスト / Textbooks

駒井洋監修・小林真生編集 『変容する移民コミュニティ—時間・空間・階層』 明石書店 2020
9784750350325 ○

参考文献 / Readings

移民政策学会設立10周年記念論集刊行委員会編 『移民政策のフロンティア—日本の歩みと課題を問い直す』
明石書店 2018 9784750346526

その他 / Others**【授業形態】**

- ・ PowerPoint を使用した講義形式で、映像資料なども適宜活用する。
- ・ 授業では学生への質問も活発に行うので、積極的な受講態度を期待する。

【フィードバック】

・小テストの内容および重要と思われる質問については、次回授業開始時にフィードバックを行う。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Modern Japanese History 1

Modern Japanese History 1

Introduction to Gender History in Modern Japan

青木 敦子 (AOKI ATSUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB511
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

On completion of this course, students should be able to: a) identify key issues, questions and debates concerning history of women and gender relations in modern Japan; b) explain the causes, contexts, and consequences of political, economic, social inequality between the genders; c) discuss the conditions under which women's empowerment was/is possible; and d) demonstrate the role of the state and individuals in shaping gender relations and in defining citizenship in modern Japan.

授業の内容 / Course Contents

Modern Japanese History 1 provides a broad introduction to gender history in modern Japan. The emphasis in the course is developing a general understanding of gender relations in shaping modern Japanese society generally, and women's experiences in particular. Students will read recent English-language works by historians, anthropologists, and political scientists about the transformations of gender roles and the experiences of diverse groups of women in modern Japanese history.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Course introduction; General overview of gender history in modern Japan
 2 回：Nation-building and gender
 3 回：New ideas and social movements in the early 20th century
 4 回：Interwar years
 5 回：The Asia Pacific War
 6 回：Postwar changes and continuities
 7 回：Postwar housewife activism
 8 回：Japan's second-wave feminism
 9 回：The Equal Employment Opportunity Act and beyond
 10 回：Gender in neoliberal Japan
 11 回：#MeToo and LGBTQ+ activism in contemporary Japan
 12 回：Global comparison
 13 回：Student presentations
 14 回：Conclusion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to prepare for each session by completing assigned readings and to review each class session.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:20% Reading notes:40% Final presentation:40%

Students are expected to attend every class. Students need to attend 80% or more of the classes taught to earn a passing grade.

テキスト / Textbooks

Andrea Germer, Vera Mackie and Ulrike Wöhr, eds Gender, Nation and State in Modern Japan Routledge 2014 9780415381383 -

Vera Mackie Feminism in Modern Japan: Citizenship, Embodiment and Sexuality Cambridge University Press 2003 9780521527194 -

Sabine Frühstück Gender and Sexuality in Modern Japan Cambridge University Press 2022 9781108430722 -

参考文献 / Readings

A list of references will be provided on the first day of class

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Bring your own device (laptop or tablet) to class.

注意事項

- ・ F 科目上級 (外国語による総合系科目)

- ・他に特別外国人学生が履修
- ・この授業は英語で実施する
- ・履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Modern Japanese History 2

Modern Japanese History 2

Japan and Humanitarianism in Transnational Historical Context

鈴木 路子 (SUZUKI MICHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB512
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course provides the overview of the transnational histories of modern and contemporary Japan in East Asia within both local and global contexts, alongside humanitarianism. It covers topics in Japanese history from the late Tokugawa period to the present day. With reference to modern Japanese history, it first explores the economic, cultural, and political interactions between East Asia and the West in the framework of Japan as an axis, and examines Japan's modernisation and its impact on the reactions of East Asia to imperialism. Interactions with and movements in Japan accelerated the so-called 'globalisation' in East Asia, thereby altering the trajectory of the modern world, alongside a range of modern crises.

Regarding post-1945 Japan, this course provides an introduction to both the classic and recent historiography on contemporary Japan, and explores the post-industrial society of Japan as a case study of a country facing one of the most advanced problems in the contemporary world. It is crafted into an exploration of what sustainable society is, by focusing on international security, ageing society, energy policy, disaster preparedness, the crisis of capitalism, SNS, gender, and digital technology. Focusing on humanitarian crises in Japan brought about by

modernisation and wars and post-industrial Japan may allow students to understand the pros and cons of modernity – its progress and retreat within the context of global history. Therefore, it teaches the development of Japan and Asia-Pacific as a symbol of modernity and contemporary phenomena.

授業の内容 / Course Contents

Our work begins with close reading of the assigned texts as well as a textbook. Lectures are designed to supplement the required reading; seminars will allow you to clarify questions raised in class, discuss assigned reading, and prepare for essays. Each class is designed to introduce you to the intellectual tools necessary for historical inquiry, and in seminars, you are expected to participate in small-group discussions structured to provoke your questions about that class's reading assignment. While learning the facts of Japanese and East Asian history, you will be required to engage in critical reading of secondary sources to develop your analytical writing skills, and to learn about the use of electronic and print-based research tools. Class presentations and coursework essays provide an opportunity to synthesize material in preparation for the reports, which may draw on any and all required reading, class lectures, and seminar discussions. Ultimately, the aim of this course is to develop your interests in the history of Japan and East Asia and to make sure that you are knowing how to fulfil your potential. Training critical readers of texts will be one of the most important purposes of this course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introductions
- 2 回： Meiji Restoration
- 3 回： Women in Modern Japan
- 4 回： Industrialisation
- 5 回： Interwar Japan
- 6 回： Japanese Imperialism and Colonialism
- 7 回： Total War and Co-Prosperity
- 8 回： Nuclear Bombings in Hiroshima and Nagasaki
- 9 回： The Allied Occupation
- 10 回： The Postwar Recovery
- 11 回： The Cold War International Relations
- 12 回： Economic Miracle and Post-industrial Japan
- 13 回： Presentations and Discussions
- 14 回： Presentations and Discussions

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

1. Introductions

In this lecture, we will introduce the back history of Japan and East Asia from antiquity to the late medieval era, and discuss the modernity.

Suggested reading:

Gordon, Andrew. A Modern History of Japan: From Tokugawa Times to the Present

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Essay:40% Presentation:40% Discussion:20%

Overall 100% (Elements: Essay 40%、Presentation 40%、Discussion 20%)

Essays must be based at least TWO of the 'suggested readings' listed in the syllabus above. Except where otherwise noted all online readings are available in electronic journals accessible

テキスト / Textbooks

Gordon, Andrew A Modern History of Japan: From Tokugawa Times to the Present Oxford University Press 2019 ○

Suzuki, Michiko Humanitarian Internationalism Under Empire: The Global Evolution of the Japanese Red Cross Movement, 1877-1945 Columbia University Press 2024 ○

MIT Visualizing Cultures: <https://visualizingcultures.mit.edu/home/index.html>

参考文献 / Readings

Jansen, Marius B. The Making of Modern Japan Belknap Press 2002

Abel, Jessamyn R. The International Minimum: Creativity and Contradiction in Japan's Global Engagement, 1933-1964 University of Hawai'i Press 2015

Suzuki, Michiko. "The Japanese Red Cross Society's Emergency Responses in Hiroshima and Nagasaki, 1945." Social Science Japan Journal, Vol. 24, No. 2 (2021): 347-367. OP: <https://doi.org/10.1093/ssjj/jyab026>.

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

You are expected to attend all lectures and seminars for the course. You should notify your lecturer or the Faculty Office in advance if you are unable to attend seminars for good reason. All absences are noted on your records.

その他 / Others

<https://researchmap.jp/20030707?lang=en>

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Japanese Politics and Economy 1

Japanese Politics and Economy 1

Work and Lifecourse in Contemporary Japan

楠本 和佳子 (KUSUMOTO WAKAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB513
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） Lecture, Discussion, Fieldwork
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、文献やフィールド調査を通して、日本社会で働くとはどういうことなのかを探求します。現代の日本であまり目にするものがない、あるいは主流の言説では見過ごされがちな様々なキャリアの軌跡を調査し、日本社会に存在する多様性と、日本（そして世界）で起きている最新の変化についても考察します。

This course explores Japanese working life through literature and fieldwork. By investigating various career trajectories in today's Japan that are not as visible or are often overlooked in the mainstream discourse, we try to understand the diversity that exists in Japanese society as well as the most recent changes that are taking place in Japan (and in the world).

授業の内容 / Course Contents

この授業では、現代の日本社会で働き、生きていくとはどういうことなのかを、紋切り型のステレオタイプにとらわれることなく考察します。

「仕事」を通して、人は日々の暮らしを生き抜くだけでなく、自己の存在価値やアイデンティティを確立しようとしています。この授業では、「仕事」という場で、ひとりの人間がどのように外の世界と折衝活動を行うの

か、その政治性と経済性を検証します。

授業では、まず文献を通して以下のことを考えます：(1) 人間の生活における仕事の意義と重要性；(2) 日本における仕事の民族誌的な記述。これにより「働くこと」の機能を理解するとともに、学生はインタビュー調査の対象者2名を探し始めます。

学期中に2回実施する「働く人へのインタビュー調査」は、ひとりで行うか、他の学生（履修者の多くが国際学生）とペア、あるいはチームを作って行うかを選ぶことができます。

学生は、文献調査、そしてインタビューを通して、現代日本の文化的・社会的・歴史的コンテキストにおける仕事についての「個人の語り」を分析していきます。研究結果は最終レポートとしてまとめ、授業内で発表します。

In this course, we try to capture -- by going beyond clichés and stereotypes -- what it is like to work and live in contemporary Japanese society.

Through work, a person tries not only to survive everyday life but also to establish his/her self-worth and a sense of identity. We will examine the politics and economy of an individual's life as s/he negotiates with the external world in the arena called 'work.'

We will first read texts that help us understand: (1) the significance of work in human lives; (2) ethnographic accounts of the working life in Japan. As we grasp the functions of 'work,' students will start looking for two individuals to interview.

For these interviews, students can either work alone or be paired up with other student(s); Necessary arrangements will be made according to the different levels of their language and cultural expertise.

Students are to analyze these individuals' narratives about work in the current socio-cultural and historical contexts of Japan. The results of their research will be shared in class as well as written up as a final report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction to the Course
- 2回：‘Work’ as an Arena where Various Forces Meet (and Clash)
- 3回：How Do We Understand ‘Work’ in the Japanese Context?
- 4回：What Is Qualitative Research?
- 5回：Getting Ready for the First Interview
- 6回：Fieldwork (Interview #1)
- 7回：Report of Your Interview #1
- 8回：Designing and Planning Your 2nd Interview
- 9回：Fieldwork (Interview #2)
- 10回：How to Analyze, Interpret and Utilize Your Interview Data, Part I
- 11回：How to Analyze, Interpret and Utilize Your Interview Data, Part II
- 12回：Presentations
- 13回：Presentations
- 14回：Presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :○
 上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

As stated in the Course Contents & Schedule, students are required to do two interviews outside the classroom. Details of the procedures will be explained in class.

Reading and writing assignments for each week will be stated in syllabus as well as annou

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Final Presentation:10% Class Participation (including the performance during the in-class exercises):25% Fieldwork Projects (two interviews & write-ups):30% 最終レポート割合 :35%

Attendance is mandatory. If you miss more than 1/3 of the course, you will automatically receive a D by the university rule.

テキスト / Textbooks

Various book chapters and articles will be provided via CANVAS.

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

College level reading and writing skills, regular participation, and effective communication skills in English are essential. Also, willingness to interact with people in class and outside the classroom is necessary to complete the assignments for the cou

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Japanese Politics and Economy 2

Japanese Politics and Economy 2

Japanese politics and economy: networks, gender, and social stratification in Japanese economic and political systems.

レイゼル, M. (REISEL MARY)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB514
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

The course follows the formation and development of socio-political institutions, economic systems, and business networks in Japan. Special emphasis is given to the unique roles assigned to gender and social class within each political and economic system, and to the distinct values they represent in different periods of time. The course covers key changes in important historical ages, from the first female empresses and goddesses, that had a major symbolic role in Shinto tradition, through the rise of the shogunate, the military system, the formation of modern Japan, the economic and cultural prosperity of Edo period, and the fast-changing gender roles, work styles, and family structure with the rise of virtual networks and alternative lifestyles.

授業の内容 / Course Contents

Japanese society evolved in an island that was closed to outside influence over a long period of history. As a result, it developed unique styles of networks and defined roles for different segments of the population. These are reflected well in the structure of society and the responsibilities that each social group and gender was - and

still is - expected to perform, whether in the family unit, in the military system, or in the organization of the modern nation and the workplace. The course follows the development of political and economic institutions starting with the ancient empress system, with an emphasis on key ideologies of Confucianism, Shinto, and Buddhism that form the fundamental values of social and political ethics up to the contemporary time. The lessons provide a historical background of the evolution of institutions and ideas, but will focus on the construction of the modern nation from Meiji period, post-WWII age, and the fast changes taking place in the modern age.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introduction: ideologies and values in Japanese society.
- 2 回： Myths, customs, and female rulers: gender and empresses in ancient Japan.
- 3 回： Politics, religion, and social classes from Nara to Heian: Shinto, Buddhism and Confucianism.
- 4 回： Courtship, power, and politics in the Heian court, and the formation of key values.
- 5 回： Social stratification, marriage, and military structure in medieval Japan.
- 6 回： Merchants, geisha, and samurai in a changing world: politics, gender, and economic power in Edo period.
- 7 回： Mōga girls and mōbo boys: the value of youth in the state formation of Meiji.
- 8 回： Democracy, gender, and liberalism: the happy 1920s and age of Taisho.
- 9 回： WWII: soldiers, comfort women, and the reconstruction of national identity.
- 10 回： The bubble age: gender and family as national products of globalizing Japan.
- 11 回： Politics, confusion, and changes: "the lost decade" of the 90s.
- 12 回： Gender work: soft masculinity, "girl power", and innovation in the new economy.
- 13 回： Future perspectives: economic systems, startups, and new values in the virtual business.
- 14 回： Summary and final papers

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

The required readings will be posted online on the website of the course. Students are expected to read the texts, prepare the assignments, and come ready for class discussions.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Assignments and class participation:40% Midterm paper:30% 最終レポート
割合 : :30%

テキスト / Textbooks

All the required texts will be posted during the course on the Canvas LMS page in addition to recommended readings.

参考文献 / Readings

注意事項

- ・ F 科目上級 (外国語による総合系科目)

- ・他に特別外国人学生が履修
- ・この授業は英語で実施する
- ・履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Japanese Relations in Asia 1

Japanese Relations in Asia 1

Transnational East Asia

パーク, C. (PARK CHRIS HYUNKYU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB515
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

The main questions that will be asked and addressed including:

What and why does the history of East Asia matter where capitalism has reached into all corners of the world and the term 'globalization' has become a cliché?

What are the major transformation

授業の内容 / Course Contents

This course employs two perspectives to understand the histories of modern Japan in the context of East Asia and globalization from the early 20th century to the present. It examines how modern boundaries, identities, and cultures shaped in a rapidly emerging modern world order. The course also looks at how individuals respond to and are shaped by the variety of modernity(ies).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction to the course & orientation

2 回： Rise of world capitalism and decline of Asian hegemony

- 3回：Modernity: Space, time, and identities
 4回：Rapid Modernization: Space, time, and nationalism
 5回：Reinventing boundaries, nation, and geography
 6回：Race, ethnicity, and migration: Migration and colonial development in Manchuria
 7回：Hikiagesha and War Orphans: Women, returnees, and gender stigmatization in Postwar Japan
 8回：Politics of Memory
 9回：Video Day/ Guest Speaker
 10回：Reconstructing Japan in Asia: Democratization, decolonization and demilitarization
 11回：Miracle? Or shadows of the state-led capitalism? Growthism and environment
 12回：Power and Protest: Anpo and the 1960s
 13回：Group Presentation (TBA)
 14回：Conclusion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

This course highly encourages students to engage in discussion and debate, and the capacity to interpret historical theories and case studies in local and global context. Students are expected to study at least three hours per week for each class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation:20% Homework Assignments:20% Group Presentation:20% 最
 終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Andrew Gordon A Modern history of Japan from Tokugawa Times to the Present Oxford UP 2014 -
 Eiji Oguma A Genealogy of 'Japanese' Self-images Trans Pacific Press 2002 -

参考文献 / Readings

Andrew Gordon A Modern history of Japan from Tokugawa Times to the Present Oxford UP 2014
 Further readings and materials will be distributed in each class.

その他 / Others

Please contact the instructor via email if students have any questions.

5561655@rikkyo.ac.jp

注意事項

- ・ F 科目上級 (外国語による総合系科目)
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び

・2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Japanese Relations in Asia 2

Japanese Relations in Asia 2

Memories of WWII in Japan and Asia

青木 敦子 (AOKI ATSUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB516
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

On completion of this course, students should be able to: (a) identify and explain key issues, questions and debates concerning postwar Japanese attitudes toward and discourse on the meaning of the Asia Pacific War; (b) demonstrate the agency of individuals, social groups, society, and the state in shaping various representations of the Asia Pacific War in postwar Japan; and (c) understand the origins of tensions between Japan and its Asian neighbors regarding war memory.

授業の内容 / Course Contents

Since the mid-1990s we have witnessed a massive production and reproduction of memories of World War II on a global scale. This course focuses specifically on Japan's war fought in the Asia and Pacific theaters and interrogates processes of memory making and remaking in postwar Japan and Asia. Students will read recent English-language academic papers and commentaries to deepen their knowledge and understanding on this subject.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction; War as cultural trauma
- 2 回：War memories in Japan (1): Individual, family, and collective memories
- 3 回：War memories in Japan (2): Popular culture and public memory
- 4 回：War memories in Japan (3): Teaching the Asia-Pacific War in Japan
- 5 回：War memories in Japan (4): War memory activism in Japan
- 6 回：Film viewing
- 7 回：Global memory activism and trends
- 8 回：War memories in Asia (1): South Korea and Japan's colonial responsibility
- 9 回：War memories in Asia (2): Taiwan and Japan's colonial responsibility
- 10 回：War memories in Asia (3): China
- 11 回：War memories in Asia (4): Maritime Southeast Asia
- 12 回：War memories in Asia (5): Mainland Southeast Asia
- 13 回：Student presentations
- 14 回：Conclusion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to prepare for each session by making notes on the assigned reading(s) of the week for submission, and to be sure to review the class content after each session.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:20% Reading notes:40% Final presentation:40%

Students are expected to attend every class. Students need to attend 80% or more of the classes taught to earn a passing grade.

テキスト / Textbooks

Akiko Hashimoto The Long Defeat: Cultural Trauma, Memory, and Identity in Japan Oxford University Press 2015 9780190239169 -

Mikyong Kim, ed. Routledge Handbook of Memory and Reconciliation in East Asia Routledge 2018 9781138311534 -

参考文献 / Readings

A list of references will be provided on the first day of class.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Bring your own device (laptop or tablet) to class.

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する

- ・履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Japanese Society1

Japanese Society1

Building peace - civil society activism in Japan

川崎 哲 (KAWASAKI AKIRA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB517
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

第二次大戦後の日本は「平和国家」を自任してきた。その真正さについて政府の取り組みには疑問が投げかけられる一方、市民社会の幅広い活動が国内、国際双方で平和を求めて行われていることは確かだ。この授業では、日本における平和活動の背景および取り組みを学び、その政治的、社会的、国際的文脈を議論する。
The post-WW2 Japan has claimed to be a peace nation. While questions can be raised for discrepancies in the government, a wide range of civil society activities do exist in working to build peace both domestically and internationally. During this course, the students will learn the background and ongoing efforts of peace activism in Japan as well as their political, social and international contexts.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、日本において平和問題として論じられている話題、たとえば広島・長崎、沖縄、福島、近隣アジア諸国との関係、また国内の社会・経済問題を取り扱う。担当教員は、非政府組織（NGO）で平和・軍縮問題にかかわっている自身の経験をもとに授業を進め、数名のゲストスピーカーも招聘して、NGO 活動のケース・スタディを行う。受講生は、授業におけるディスカッションに積極的に参加し、次回に向けて割り当てら

れる宿題に取り組むことが求められる。以下の授業計画の順序や細部は一部変更になる可能性がある。

The course deals with a number of topics in which peace is debated in Japan, such as Hiroshima, Nagasaki, Okinawa, Fukushima and the relationship with Asian neighbors as well as domestic social and economic issues. The instructor will share his own experiences as a non-governmental peace and nuclear disarmament practitioner. Also a few guest speakers, mostly from NGOs, will be invited for case studies. In each session, a presentation will be followed by discussion. The students will be required to actively participate in the discussion and prepare for the next sessions with assignments. The course schedule indicated below can be slightly reshuffled.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Hiroshima and Nagasaki - the devastation, suffering and memory
- 3 回：Movement for nuclear disarmament
- 4 回：Addressing the past - Japan's history recognition over WW2
- 5 回：Okinawa and the US bases in Japan
- 6 回：Fukushima - the nuclear disaster, recovery and energy shift
- 7 回：Japan's Peace Constitution
- 8 回：Japan-US military alliance - past, present and future
- 9 回：Is an East Asia peace community possible?
- 10 回：Gender (in)equality in Japan
- 11 回：Human security challenges in Japan, including the issue of minority rights
- 12 回：Case study: NGOs in Japan 1
- 13 回：Case study: NGOs in Japan 2
- 14 回：Summary

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Information about preparation and reading material will be provided at class and through online systems. Students may be required to research some cases of relevant activities in Japan.

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and participation in discussion:70% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Sumiko Hatakeyama and Akira Kawasaki Navigating Disarmament Education: The Peace Boat Model United Nations 2020 9789210052795

The above publication is available at: <https://www.un.org/disarmament/civil-society-and-disarmament-2020/>
Additional reading assignments would be introduced at classes or be posted online.

その他/ Others

The instructor has long worked as a non-governmental peace and nuclear disarmament practitioner at Japanese NGO Peace Boat and the 2017 Nobel Peace Prize-winning International Campaign to Abolish Nuclear Weapons (ICAN). The works and related resources can

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Japanese Society2

Japanese Society2

Critical Issues and Debates in Contemporary Japan

楠本 和佳子 (KUSUMOTO WAKAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB518
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） Lecture, Discussion, Fieldwork
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この講義は、現代日本社会において議論されるクリティカルな問題を、学生たちが社会文化的・歴史的な文脈の中で理解できるようになることを目指す。また、日常的な体験や観察を、アカデミックなディスカッションや研究プロジェクトの材料として活用する方法も学ぶ。

The aim of this course is to help students understand critical issues of Japanese society in socio-cultural and historical contexts. Students will also learn to use their everyday experience and observation as materials for academic discussion and their final research project.

授業の内容 / Course Contents

戦後 70 年を迎えた 2015 年の夏、多くの市民から反対の声があがる中、日本の国会で安保関連法案が通過した。そして翌年の 5 月、1945 年 8 月以来初めての現職アメリカ大統領としてバラク・オバマが広島を訪問。多くの日本人の目に、この訪問は歴史的な出来事として映り、その過程は最初から最後まで NHK で全国に生中継されたのである。

まもなく戦後 80 年を迎える日本だが、文化、社会、政治のさまざまな側面で、いまだに「戦後」という概念を

生き続けているとも言えよう。こうした状況はこれから変わるのか、また変わるとしたらどのように変わるのだろうか。

この講義では、仕事、家族、ジェンダー、教育など、現代社会を分析する上で重要なトピックを取り上げ、それらが戦後日本の文脈でどのように論じられてきたかを考察する。さらに、憲法9条や安保関連法案、3.11とその影響、皇室、沖縄、原子力、移民、そしてCOVID-19など、近年話題になった日本特有のトピックについても考える。

上記のトピックについての世論は二極化しているため、まず問題の本質を理解するためのテキストを読み、次に学術的・一般的な言説（国内外を問わず）において、それらがどのように描かれ、分析されているかを議論する。

また、学生は日本に関連する研究テーマをひとつ選び、 Semester・プロジェクトとして調査するが、その過程で小さなフィールドワークを行う必要がある。（詳細は授業で説明）

学生は、1学期を通して積極的な“探求者”であることが期待される。そのためにも出会った人々と交流し、時事ニュースを追いかけて、興味を持ったトピックを追求すること。Semester・プロジェクトには教室の内外で得たデータを取り入れ、授業内で発表する他、期末レポートとして提出する。

In the summer of 2015, which marked the 70th anniversary of the end of WWII, security-related bills were passed in the Japanese Diet amid huge protests -- a significant departure from Japan's pacifist posture in the postwar era. In May of the following year, Barack Obama landed in Hiroshima, becoming the first incumbent U.S. President to visit the city since August 1945. A historic event in the eyes of many Japanese, the entire process of Obama's visit was broadcast live, nationwide, on NHK.

Even after almost eight decades, Japan has been living the 'postwar' period, which characterized various aspects of its culture, society and politics. Is it going to change from this point on and, if so, how?

Taking up the topics such as work, family, gender, and education that are important in analyzing any modern society, we will pay special attention to the way they are argued in the context of postwar Japan. Furthermore, we will consider locally specific topics that are hotly debated in recent years: e.g., Article 9 and security-related bills, the 3-11 incident and its repercussions, Imperial Household, Okinawa, nuclear energy, new immigrants and, of course, COVID-19.

Since public opinions on these matters are deeply polarized, we will first read the texts that help us understand the nature of the issues, then move on to discuss the way they are portrayed/analyzed in the academic and popular discourses (both local and international).

Students are expected to complete a semester project on a Japan-related topic of their choice, which must include ethnographic data obtained through fieldwork.

In order to complement our work in the classroom, students must remain active researchers, interacting with people they encounter, following the current news, and exploring the topics in which they become interested. Their semester project should incorporate all the work they have done in- and outside of the classroom. The result will be presented in class and submitted as a final research paper.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Introduction to the Course

2回：War & Pacifism

3回：Nuclear Power

4回：Okinawa

5回：Imperial Family

- 6回：Getting Old in Japan
 7回：Work and Employment (& Midterm Report of Your Project)
 8回：Making Alternative Life Choices
 9回：Marriage, Family & Gender Issues
 10回：Newcomers & New Immigration Laws
 11回：Presentations
 12回：Presentations
 13回：Presentations
 14回：Presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

As stated in the "Course Contents," students are required to do a small-scale fieldwork for their semester project. Details of the procedures will be explained in class. Reading and writing assignments for each week will be indicated in syllabus as well as

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Class Participation:25% Homework and Assignments:30% Project Presentation:10%
 最終レポート割合：35%

Attendance is mandatory. If you miss more than 1/3 of the course, you will automatically receive a D by the university rule.

テキスト / Textbooks

Various book chapters and articles will be provided via CANVAS. Various videos and film clips will be shown in class when appropriate.

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

College level reading and writing skills, regular participation, and effective communication skills in English are essential. Also, willingness to interact with people in class and outside the classroom is necessary to complete the assignments for the course.

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Tokyo Studies

Tokyo Studies

History and culture of Japan

大関 直人 (OZEKI NAOTO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB519
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to provide students with opportunities to gain a basic understanding of Japanese history and culture. The goal can be summarized as follows:

1. To learn the history of Japan
2. To learn the characteristics of Japanese history and Culture

授業の内容 / Course Contents

This course is a general introduction to students who are interested in the studies of Japanese history, culture from Edo to Tokyo.

This course will consist of lectures, and city walking tours (five times). Students will also give group or individual presentations during the semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Edo and the Suburbs of Edo (farming area and reclaimed land)
- 3 回：Field Studies 1 Walking Tour in the historical part of Tokyo <museums, shrines, and temples>

- 4回：Review of a walking tour
 5回：Field Studies 2 Walking Tour in the historical part of Tokyo <museums, shrines, and temples>
 6回：Review of a walking tour
 7回：Field Studies 3 Walking Tour in the historical part of Tokyo <museums, shrines, and temples>
 8回：Review of a walking tour
 9回：Field Studies 4 Walking Tour in the historical part of Tokyo <museums, shrines, and temples>
 10回：Review of a walking tour
 11回：Field Studies 5 Walking Tour in the historical part of Tokyo <museums, shrines, and temples>
 12回：Review of a walking tour
 13回：Japanese arts <visiting lecturer>
 14回：Japanese music <visiting lecturer>

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

This course has no prerequisites. Students are expected to read books about Japanese history and culture.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:50% Presentations:10% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Specified in the lecture if any.

参考文献 / Readings

References will be given in class if any.

その他 / Others

- ・ The admission fee for the three museums and Japanese garden is ¥ 750 <the combo tickets>
- ・ The walking tours will be local gatherings and local dissolution. The class is going to be finished within the allotted time (including time to return to the univers

注意事項

- ・ F 科目上級 (外国語による総合系科目)
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

Political Sociology

Political Sociology

Politics, Gender, and Media

イ, ミンジュ (LEE MINJOO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB520

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 4

科目ナンバリング： CMP2231

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This introductory course aims to familiarize students with basic concepts and theoretical approaches in political sociology and to enable them to develop the ability to critically evaluate political issues and events in our daily lives through the lens of political sociology.

授業の内容 / Course Contents

The focus of the course will be threefold. First, we explore basic concepts and theories of political sociology. Second, we develop gender/feminist perspective as a critical lens to investigate current socio-political changes in our daily lives. Third, we examine how politics and media mutually influence each other. By the end of the course, students are expected to comprehend how traditional relationships among nation-states, society and citizens are maintained/enhanced, reorganized, or dismantled by gender/feminist politics, as well as the practices developed through/on various types of media.

授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：Introduction

- 2回：What is Political Sociology?
 3回：Major Theoretical Frameworks 1
 4回：Major Theoretical Frameworks 2
 5回：Capitalism and Modern State Formation 1
 6回：Capitalism and Modern State Formation 2
 7回：Nation and Nationalism 1
 8回：Nation and Nationalism 2
 9回：Political Authority 1
 10回：Political Authority 2
 11回：Globalization and Citizenship 1
 12回：Globalization and Citizenship 2
 13回：Gender and Feminisms 1
 14回：Gender and Feminisms 2
 15回：Gender and Political Representation 1
 16回：Gender and Political Representation 2
 17回：Gendered Division of Labor and Social Reproduction 1
 18回：Gendered Division of Labor and Social Reproduction 2
 19回：News and Journalism 1
 20回：News and Journalism 2
 21回：Political Advertising and Media 1
 22回：Political Advertising and Media 2
 23回：Politics and Social Media 1
 24回：Politics and Social Media 2
 25回：Preparatory Session for a Final Project
 26回：Preparatory Session for a Final Project
 27回：Student Presentations
 28回：Student Presentations & Wrap-Up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read the assigned readings every week before each class and/or watch relevant multimedia material.

Students are required to review their work after receiving feedback from the instructor.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active Participation:30% Assignments:35% 最終レポート割合 :35%

テキスト / Textbooks

None

参考文献 / Readings

Weekly readings and/or audio-visual materials will be assigned by the instructor in the class.

その他/ Others

The schedule and syllabus are subjected to change.

注意事項

- ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム 所属学生/特別外国人学生が履修
- ・この授業は、英語圏での大学の授業を想定し、全て英語で行う
- ・以下の英語力を有していることが履修の目安になる

英検準 1 級, IELTS 5.5, TOEFL®iBT 72, TOEIC®L&R 785

- ・週 2 回開講
- ・2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Economic Thought

Economic Thought

Introduction to Economics

ゴルシコフ (GORSHKOV VICTOR)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB521
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

Through class discussions students are expected to have a deeper understanding on basic economic concepts of both micro- and macroeconomics and be able to explain and analyze the news related to economic issues. Overall, students should be able to understand the world using “the economic way of thinking” and be familiar with current issues in the world economy.

授業の内容 / Course Contents

This course highlights the importance of economics as a social science and summarizes the evolution of economic science by introducing different economic theories. Students will learn basic economic concepts of contemporary microeconomics (scarcity, choice, opportunity costs, demand, supply, market, equilibrium, competition, public goods, government intervention) and macroeconomics (macroeconomic objectives, fiscal and monetary policy, economic development). The course will also provide an overview of basic economic theories applied in economic analysis.

This is a reading and discussion-based course. Each class students are required do preliminary reading and

prepare short presentations on topics related to the class contents. Class discussions will be followed up by short lectures by the instructor.

授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

1 回：Introduction to the course. Economics as a social science. Why do we need to learn economics?

Class discussion (textbook 1 pp. 1-6).

2 回：Understanding modern economics. Basic concepts of economics: trade-offs, incentives, exchange, information, distribution.

Class discussion (textbook 1 pp. 15-22).

3 回：Understanding the importance of economic history.

Class discussion (textbook 1 pp. 23-34).

4 回：Evolution of the world economy (1). The historical development of capitalism.

Class discussion (textbook 1 pp. 37-59).

5 回：Evolution of the world economy (2). Classifications of countries in the contemporary world economy.

Class discussion (textbook 1 pp. 59-78).

6 回：Understanding different economic theories (1).

Class discussion (textbook 1 pp. 80-92).

7 回：Understanding different economic theories (2).

Class discussion (textbook 1 pp. 92-99).

8 回：Understanding different economic theories (3).

Class discussion (textbook 1 pp. 100-108).

9 回：Understanding different economic theories (4).

Class discussion (textbook 1 pp. 108-122).

10 回：Understanding basic economic actors in an economy.

Class discussion (textbook 1 pp. 123-144).

11 回：How do we measure an economy of a country? The system of national accounts.

Class discussion (textbook 1 pp. 151-172).

12 回：Understanding the difference between economic growth and economic development.

Class discussion (textbook 1 pp. 173-199).

13 回：Understanding the role of finance in an economy.

Class discussion (textbook 1 pp. 201-226).

14 回：Understanding the global financial crisis of 2008-2009 (documentary video).

15 回：Understanding the problem of poverty and inequality in economics.

Class discussion (textbook 1 pp. 227-247).

16 回：Understanding the basic of labour economics.

Class discussion (textbook 1 pp. 249-270).

17 回：Understanding the role of the government in economics.

Class discussion (textbook 1 pp. 271-291).

18 回：State capitalism and its development. Extractive and inclusive institutions.

19 回：Understanding the basic concepts of international economics.

Class discussion (textbook 1 pp. 293-334).

20 回：International trade and balance of payments.

- 21 回：International trade game.
 22 回：Foreign direct investment and multinational corporations.
 23 回：Current trends in the world economy (1): globalisation and regionalisation
 24 回：Current Trends in the world economy (2): digital economy.
 25 回：Current Trends in the world economy (3): sustainable development and green economy.
 26 回：Student final group presentations - 1.
 27 回：Student final group presentations - 2.
 28 回：Course wrap-up.
 Course review quiz.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read and summarize class materials and do preliminary research prior to each class session.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Class discussions and reflection papers:25% Individual assignments:25% Final group presentations:25% Final quiz:25%

テキスト / Textbooks

Ha-Joon Chang Economics. The User's Guide Bloomsbury Pub Plc USA 2015 9781620408148 ○

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

While there are no formal pre-requisites for taking this course, it is highly recommended that students make it a habit to follow the news related to economics and business. General academic skills (analytical thinking, critical reading and writing) and a

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students are required to bring their PC to each class session.

注意事項

- ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム 所属学生/特別外国人学生が履修
- ・この授業は、英語圏での大学の授業を想定し、全て英語で行う
- ・以下の英語力を有していることが履修の目安になる

英検準 1 級, IELTS 5.5, TOEFL®iBT 72, TOEIC®L&R 785

- ・2 時限連続開講
- ・2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

University in Modern Society

University in Modern Society

Food Culture: Writing as Method and Memory

マーケス, L. (MARQUEZ LOREN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB522
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春期間外
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： Class Schedule: 8/1-2, 5-6 Period 2-4, 8/7 Period 2-3 Room : 4403

授業の目標 / Course Objectives

To learn the canons of rhetoric: invention, arrangement, memory, style, delivery

To apply rhetoric to writing and presentations.

To write an essay (5-6 pages) about a food memory or food cultural memory with outside sources

To deliver a 10 minute presentation including the use of a visual about it.

To reflect on the process of writing and revision of the essay

To participate in peer editing and peer workshopping

授業の内容 / Course Contents

Through a series of discussion of readings, documentaries, lectures, and writing workshops this course will focus on rhetoric centered around food, particularly the place food occupies in our memories and identities. Through writing, readings, documentaries, and food experiences, students will explore how food connects them to the land, culture, homes, and shapes identities. Students will write effectively about a food memory or experience using the techniques of narration, description, reflection, and source integration, as well as learn, use, and

implement the canons of rhetoric: invention, arrangement, memory, style, and delivery. Students will present their food memoir in an audio/visual presentation for their classroom peers and articulate the meaning of their food memoir and its connection to their voices and identities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Introduction: Food Culture and Writing as Method and Memory

-Introduction to Syllabus, Readings, and Writings

-What is Memoir? What is a Food Memoir?

-Overview (pre reading exercise) “Food is Good” Anthony Bourdain (food memory)

-Anthony Bourdain - Cook's

2 回：How to read a food memoir for invention and memory:

-Readings/overview of Bourdain, Das

-Lecture :Rhetoric and the Canons Overview/Lecture

-Quiz on Rhetorical Canons

3 回：Assignment Preparation and Expectations for Reading and Writing

-Assigned Reading for next class: M.F.K. Fisher- “The Gastronomical Me” and Bauer, "What Was Served"

-How to Write a Reading Response/Review Reading Response Assignment

-Return to prompt from

4 回：Invention and Food for Thought

-Reading and Discussion of Bauer, “What Was Served”

-Comparing: Bauer, Fisher, Bourdain, Das (Discussion of the narrative (story) and the food (description))
(partner work)

-Class Presentations Comparison and Contrast between

5 回：Invention and Committing to an Essay Topic

--Story/Narrative and brainstorming, professor-guided workshop

--In Class Writing of narrative, dialogue, reflection, perspective, metaphor

--In Class writing in the styles of Das, Bourdain, Fisher, Bauer

6 回：Integrating Invention Techniques

-Using the five approaches outlined, as well as the stylistic selections from the readings, begin a working draft of your food memory. 1-2 pages will be due at the start of the next class.

7 回：Arrangement and Organization of your Memory/Experience

Overview of Food Writing for Style and Organization

--Read:“Food Adjectives”: How to describe food like a food writer

--Read: David Sedaris “Tasteless”

--Read Roger Ebert, “Nil by Mouth”

-Describe an

8 回：Audience and Peer Review/ Integrating Research, Outside Sources

--Share your revised draft of your Food Memoir Essay in your peer review group

--Readers will read and critique: the narrative, the structure, and food writing techniques

--Readers will write

9 回：Organizational Approaches for Writing and Audience: Style: Style, Voice in reading and writing

--Lecture: Food and Memory

- Watch: "Milkbar" Christina Tocci from Netflix's Chef's Table (excerpts)
- Lecture: Writing Narrative and Reflection
- Reviewing Dra
- 10 回 : How to Read and Integrate Feedback/Preparing Presentation
- Read over Professor's comments to your writing
- Use the comments to improve draft
- How to Translate Text to Audio Visual Presentation
- Selecting Content for Presentation
- 11 回 : Preparing Final Essay for Style and Grammar/ Preparing Final Presentation
- Lecture: Style as canon, Style as Rhetorical Choice
- Integrating Style into Essay Drafts
- Outline and audio/visual clips written/selected for presentation/approved by Professor
- 12 回 : Presentations/Written Reflections on Presentations
- Each student will give a presentation
- Each student will be assigned to critique one of their classmate's presentations for required criteria
- 13 回 : Presentations/Written Reflections on Presentations
- Each student will give a presentation
- Each student will be assigned to critique one of their classmate's presentations for required criteria
- 14 回 : Final Essay Due/Last peer and professor Review
- Students will participate in one last peer review
- Students will make final changes to their essays
- Students will have final reflection on the course/their writing and what they have learned about writin

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be required to read and write assignments outside of class, as well as access Canvas to post their updated drafts, collaborate, and to make any changes. The amount each day will vary depending on how the student is pacing themselves, but on

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分: 2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quiz on Rhetorical Canons/Description, Narrative, Reflection:10% Reading Response 1:5% Reading Response 2 Invention/short writng:5% Invention and Argument Draft for Professor:20% Peer Review:10% Presentation:15% 最終レポート割合 : :10%最終テスト割合 : :25%

テキスト / Textbooks

NONE

参考文献 / Readings

Professor will supply all the readings either as hard copies or url/pdf format

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PCs/laptops, canvas access

注意事項

- ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム 所属学生/特別外国人学生が履修
- ・この授業は、英語圏での大学の授業を想定し、全て英語で行う
- ・以下の英語力を有していることが履修の目安になる

英検準1級, IELTS 5.5, TOEFL®iBT 72, TOEIC®L&R 785

- ・ Class Schedule:
- ・ 2016 年度以降 1 年次入学者対象科目
- ・ 多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

Career and University Education in the Global World

Career and University Education in the Global World

Designing Plans after Graduation

アブダーリ (ABU-DARI MAZEN M. M.)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB523
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春期間外
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2231
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	Class Schedule: 8/26～29 Period 2-4, 8/30 Period 2-3 Room：A202

授業の目標 / Course Objectives

グローバルな環境が変わってきている中、学生が将来の選択肢・仕事について真剣に考えるのはごく自然なことです。Career and University Education in the Global World 科目のターゲットは、卒業して学士号を得る学生の将来にグローバルに与えられている選択肢について一緒に考えることです。卒業後直ぐに企業に務めるか、公務員になるか、もう少し勉強して（修士課程進学など）それから仕事を探すか。これらは一般的な選択肢です。そのような様々な選択肢の詳細について一緒に考えます。

This course aims at introducing the paths and options available for the student after gaining the bachelor's degree in the contemporary globalizing environment. Since the students choose either to find a job or to continue their graduate education, this course gives some more details to assist the students by paving the way for them to follow that path of their choice.

授業の内容 / Course Contents

This course includes discussions, guest speakers, study tours, and presentations, that are expected to provide the students with the information they need so that they can make a smooth transition between their current

university education and their future path of either work or continue seeking higher education.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Company/Public Office Job Path Introduction
- 3 回：Continuing Graduate Education Path Introduction
- 4 回：Guest Speaker (Example: A Japanese Ministry): About choosing the public officer path
- 5 回：Rikkyo Library Presentation
- 6 回：Guest Speaker (University professor): Talking about choosing the academic path
- 7 回：About MBA studies
- 8 回：Guest Speaker: Company Side (learning on how companies choose their employees)
- 9 回：Guest Speaker: Recruiter Firm (learning on how to find a company/public office job)
- 10 回：Guest Speaker: Consultant Lecture on Study in the UK (to learn how to continue higher education path)
- 11 回：Guest Speaker: Consultant Lecture on Study in the USA (to learn how to continue higher education path)
- 12 回：Guest Speaker: Consultant Lecture on Study in the USA (to learn how to continue higher education path)
- 13 回：Final Project: Present your plan designed for your future path (1st group of students)
- 14 回：Final Project: Present your plan designed for your future path (2nd group of students)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Instructions to be given during the class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class Participation:30% Assignments:30% Final Project:40%

Attendance is very important.

テキスト / Textbooks

Instructions to be given during the class. Students should note that they have to prepare for the train fees for commuting inside Tokyo for the study tour in case needed.

参考文献 / Readings

その他 / Others

Due to guest speakers' convenience, some change in the day of their lecture may happen. Update will be given on day one.

注意事項

- ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム 所属学生/特別外国人学生が履修
- ・この授業は、英語圏での大学の授業を想定し、全て英語で行う
- ・以下の英語力を有していることが履修の目安になる

英検準1級, IELTS 5.5, TOEFL®iBT 72, TOEIC®L&R 785

- ・ Class Schedule:

- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Humans and Other Animals

Humans and Other Animals

social and personal issues related to non-human animals

加藤 恵理 (KATO ERI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB524

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） The class sessions to be conducted on-demand are as follows

*on-demand class sessions will require students to get together outside the classroom and work with other students.

October 10

November 21

December 19

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2231

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This class focuses on the social issues of the relationship between humans and other animals. While we adore some animals as pets, we also eat and wear some animals without feeling any contradiction. Students are expected to think and discuss these issues and develop their own thoughts. Also, the class encourages students to think of specific actions they can take to deal with these issues. By the end of the course, students should be able to summarize their thoughts on various animal-related social problems.

授業の内容 / Course Contents

Every day we are deeply involved with animals in various ways. Animals can be pets, popular food sources, or

used in medical experiments. As our lives are deeply intertwined with non-human animals, thinking about animals is linked to thinking about the world today and ourselves. The class will cover topics such as zoos, pets, livestock animals, and traditional food culture.

Students will be required to give three group presentations during the semester (the number of presentations may change depending on the number of students enrolled).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: Why focus on animals?
Zoos and the Politics of Exhibitions A
- 2 回：Zoos and the Politics of Exhibitions B
- 3 回：Group research on zoos in Japan
<On-demand session>
- 4 回：Prepare for group presentation on zoos in Japan
- 5 回：Group presentation on zoos
- 6 回：Pedigree Dogs and Eugenics A
- 7 回：Pedigree Dogs and Eugenics B
- 8 回：Group research on pets in Japan
<On-demand session>
- 9 回：Prepare for group presentation on pets in Japan
- 10 回：Group presentation on pets in Japan
- 11 回：Livestock animals and Animal Welfare
- 12 回：Group research on Animal Welfare
<On-demand session>
- 13 回：Prepare for group presentation on Animal Welfare
- 14 回：Group presentation on Animal Welfare

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

As noted above, students will be required to give three group presentations during the semester. Students are expected to meet and work with group members outside of class to prepare for the presentations. That may include field trips to zoos, pet stores,

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 1st presentation:20% 2nd presentation:30% 3rd presentation:30% participation/contribution:20%

テキスト / Textbooks

During the course, students might be instructed to watch some documentaries or movies on their own. In this case, students may need to rent or purchase them online. The cost is expected to be between 100 yen and 1,000

yen.

参考文献 / Readings

Jonathan Safran Foer Eating Animals Little, Brown and Company 2009 0316069906

Fred Pearce The New Wild Beacon Press 2016 0807039551

Donna J. Haraway When Species Meet (Posthumanities) University Of Minnesota Press 2007
0816650454

Melanie Joy Why We Love Dogs, Eat Pigs, and Wear Cows: An Introduction to Carnism Conari Pr 2009
1573244619

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Food Cultures and the Acceptance of Japanese Food in the World

Food Cultures and the Acceptance of Japanese Food in the World

Critical thinking of food cultures

今井 祥子 (IMAI SHOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB525
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

人間の生活の中で最も身近な事象の一つである「食」を通して考えることで、世界の様々な食文化を理解し、批判的な視点から分析することができるようになる。また、他者へのまなざしを通じて、自分自身の文化的価値観や食文化についても理解を深めることができる。

Thinking through food that can be one of the most mundane aspects of humans' life, students will be able to understand various food cultures in the world and to analyze them from critical points of view. By doing so, students should also be able to deepen their understanding of their own cultural values and food culture.

授業の内容 / Course Contents

世界の様々な食文化を探究し、日本食がどのように伝わり、受け入れられてきたかを考える。アメリカ、ヨーロッパ、アジアの事例を取り上げ、それぞれの地域の食文化を学び、またそれらの地域で日本食がどのように受容されてきたかを分析する。そして、将来的にそれぞれのマーケットで日本食をどのように紹介していくかについても検討する。

Students will explore various culinary cultures in the World and think about how Japanese food has been

introduced to and accepted in different places. Looking at some cases in the Americas, Europe and Asia as examples, we will be learning their local food cultures first then analyzing and evaluating how Japanese food has been introduced to each place. Then we will be designing how to present Japanese food to their markets in the future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction to this course
- 2 回：What is food studies? 1: why study food?
- 3 回：What is food studies? 2: food and identity
- 4 回：Food culture in the United States 1: Thanksgiving dinner
- 5 回：Food culture in the United States 2: standardized food and fast food industry, film viewing "Food Inc."
- 6 回：The acceptance of Japanese food in the US: the case of Nobu
- 7 回：Food culture in the UK: history with food
- 8 回：The popular Japanese restaurants in the UK: the case of WAGAMAMA
- 9 回：Japanese cooks in Italy: "transabroad globalization"
- 10 回：Food and authenticity: a fieldwork or film viewing
- 11 回：Food culture in Malaysia: A case of neglected culinary globalization
- 12 回：Students presentation 1
- 13 回：Students presentation 2
- 14 回：Evaluation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	○
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Information will be announced by instructor in the first class. Students are required to read a lot of excerpts from books and articles.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Final group presentation:30% Final essay:30% Participation and contribution to class:30% Writing assignments on Canvas:10%

Attendance and contribution to every class is very important for this course.

テキスト / Textbooks

Texts will be distributed by instructor or available on Canvas LMS.

参考文献 / Readings

Warren Belasco Food: The Key Concepts Berg 2008

Andrew F. Smith, ed. The Oxford Companion to American Food and Drink Oxford UP 2007

James Farrer The Globalization of Asian Cuisines Palgrave 2015

Donna A. Gabaccia We Are What We Eat: Ethnic Food and the Making of Americans Harvard UP 1998

Information will be announced by instructor in the first class.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Ability to communicate actively and collaboratively with both Japanese and international students.

Ability to express and share their own experiences and ideas gained from studying the material in this class in English.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

We will be using the Canvas LMS system as our class website. Reading and writing assignments will be uploaded to Canvas so students will need to be able to use that system comfortably and check updates regularly.

その他/ Others

Even if you are not a good English speaker, if you are interested in food issues, please consider taking this course.

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Political Sociology

Political Sociology

Thinking about a world of conflicts

メレ, X. (MELLETT XAVIER)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB527

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 4

科目ナンバリング： CMP2231

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course is an introduction to global political sociology which aims at creating the conditions for students to feel at ease with the complexity of international political issues. To do so, it will be based on four objectives:

- 1) acquiring the basic knowledge in political sociology (theories, concepts, and authors), so as to be capable of understanding and analysing evolving situations, from a political science perspective;
- 2) being confronted to the diversity of international events, from both synchronic (geographical) and diachronic (historical) perspectives, so as to acquire global competence and comparative analytical skills;
- 3) acquiring or improving academic skills and critical thinking, beyond the field of politics;
- 4) practicing English through collective and issue-centred discussion. It will be assumed that the classroom is a safe space where everybody can share his/her opinion freely on the debated topics.

授業の内容 / Course Contents

This course is organised so that in-class time and assignments are strongly focusing on case-studies and activities. Lecture content will consist of written documents (pdf files) uploaded on Canvas for every content-related

session. Those documents will introduce students to some of the major theories on each topic.

Activities such as readings (for text commentaries), oral presentations, and collective discussions, will tend however to focus on case-studies, either on contemporary Japan, or aiming for a “travel” in other countries or other eras.

授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：Political sociology
- 2 回：Preparatory session I - making a schedule
- 3 回：Methods and advice
- 4 回：Power and politics
- 5 回：State
- 6 回：Political regimes
- 7 回：Democracy
- 8 回：Political competition
- 9 回：Political marketing
- 10 回：Political ideologies
- 11 回：Nation and nationalism
- 12 回：Populism
- 13 回：Feminism
- 14 回：Preparatory session II - selecting test sessions
- 15 回：Religion
- 16 回：Mass media
- 17 回：Public sphere
- 18 回：Political behaviour
- 19 回：Collective action
- 20 回：Policy making
- 21 回：Political economy
- 22 回：International relations
- 23 回：War
- 24 回：Organised crime
- 25 回：Global issues
- 26 回：Preparatory session III - before the final test
- 27 回：Final test
- 28 回：Conclusion - grades and feedback

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be required to read the texts available as pdf files for each session: academic articles and summary

documents, and to prepare for their personal assignments, selected during class time.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Oral presentation(s):30% Text commentary:10% In-class participation:30%

最終テスト割合 :30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

- ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム 所属学生/特別外国人学生が履修
- ・この授業は、英語圏での大学の授業を想定し、全て英語で行う
- ・以下の英語力を有していることが履修の目安になる

英検準 1 級, IELTS 5.5, TOEFL®iBT 72, TOEIC®L&R 785

- ・週 2 回開講
- ・2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Business Communication

Business Communication

Japan Business Communication and the Environment

ドノヴァン, H (DONOVAN,HERBERT A.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB529
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

To develop English language communicative ability for the study and practice of international business. Case study method and research skills will be emphasized.

授業の内容 / Course Contents

Students will study, discuss, and work together toward a final presentation on a business environment topic of their choosing. Research and project course will take examples from the history and development of Japan's business response to human-caused environmental change.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Class introduction
- 2 回：Fundamentals of climate change and sustainability
- 3 回：History of Japan's environmental problem
- 4 回：Japan's business response to environmental change
- 5 回：Case Study: Toyota and Honda

- 6回：Research fundamentals
- 7回：Business and academic communication
- 8回：Case study: Japan Biochar association
- 9回：Case study: Japan's carbon fiber industry
- 10回：Rhetoric and persuasive speech
- 11回：Fundamentals of written communication
- 12回：Editing academic writing
- 13回：Final project presentations
- 14回：Summary and review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Readings will be assigned. Library and online research will be conducted. Group project may be done with classmates outside of class in preparation for the final project.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% In-Class participation, quizzes, assignments.:30%

最終レポート割合 :40%

最終テスト割合 :30%

テキスト / Textbooks

No Textbook

参考文献 / Readings

Article readings will be assigned by the teacher and provided as photocopies or online links.

注意事項

- ・ F 科目上級 (外国語による総合系科目)
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

Introduction to Tourism Studies

Introduction to Tourism Studies

Introduction to Tourism Studies

ラナシンハ (RANASINGHE NIRMALA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB530
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course aims to provide students a basic understanding of tourism mainly focusing on the concept of sustainable tourism and responsible travel practices.

授業の内容 / Course Contents

The first half of the course (class 2~8) discusses the basic concepts of tourism and the development of tourism industry analyzing statistics from various sources. The second half of the course (class 9~14) argues the impacts of tourism and the concept of sustainable tourism using case studies (mainly from Sri Lanka and Japan) and group discussions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Definitions of terms of Tourism
- 3 回：The Structure of the Tourism Industry
- 4 回：Understanding International Tourism Market (using statistics)

- 5 回：International Tourism & the COVID 19 Pandemic (A case study・Sri Lanka)
 6 回：Understanding International Tourism in Japan ① (using statistics)
 7 回：Understanding International Tourism in Japan ② (using statistics)
 8 回：Understanding Domestic Tourism in Japan (A case study・Guest speech)
 9 回：Tourism Impacts・Economic (Class 9~11: case studies mainly from Sri Lanka)
 10 回：Tourism Impacts・Socio-cultural
 11 回：Tourism Impacts・Environmental
 12 回：Sustainable Tourism ① (The concept and practices)
 13 回：Sustainable Tourism ② (Tourism & SDGs, Post-COVID tourism・Guest speech)
 14 回：Sustainable Tourism ③ (Responsible travel practices & Discussion) & Review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to prepare for tasks such as quiz, group discussions and presentations.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Tasks (reaction paper etc.):40% Active participation (group discussion etc.):20%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

No text is required for this course. Newspapers, magazine articles, academic journal articles, and English database will be introduced during the course.

参考文献 / Readings

Reading materials will be introduced during the course.

その他 / Others

UNWTO: <http://www2.unwto.org>

観光庁 HP: <http://www.mlit.go.jp/kankocho/en/index.html>

JTB 総合研究所: <http://www.tourism.jp/en/>

JNTO: <http://www.jnto.go.jp/eng/>

The Japan Times: <http://www.japantimes.co.jp/life/travel/>

Online Database of University library

注意事項

- ・ F 科目中級 (外国語による総合系科目)
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Introduction to Tourism Studies

Introduction to Tourism Studies

Development and Impact of Tourism

ハサン, E. (HASAN EID-UL)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB531
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

The course aims to provide students with a basic understanding of tourism, paying special attention to the development and socio-cultural, economic and environmental impacts of tourism.

At the end of the course, students will develop a basic understanding of tourism, and will also be able to analyze contemporary tourist phenomena and relate them academically to their personal touristic experiences.

授業の内容 / Course Contents

The course will consist of four parts: a first part (week 1 to 3) setting the context of the course by exploring the basic concepts of tourism studies; a second part (week 4 & 5) mapping the historical background of modern tourism; a third part (week 7 to 10) examining the impacts of tourism; and a final part (week 11 to 13) focusing on the challenges and future development of tourism.

This will be a student-centered, interactive course with in-class discussions and groupwork. The course is designed to give students the opportunities to share their personal experiences and views with the class. Students will be encouraged to relate the course contents to the experience of their own society/community through

discussions and assignments.

Audio-visual materials and Internet resources will be used to enrich the learning experience.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：【Part 1: Setting the Context】

① Orientation: Nature and scope of the course; understanding the significance and complexity of tourism.

2回：② Basic Concepts of Tourism: Exploring basic concepts related to tourism studies including tourism resources.

3回：③ Touristic Behavior: Exploring the tourists while understanding their motivations, as well as their decision-making and behaviors.

4回：【Part 2: History of Tourism】

① Understanding the historical development of tourism in the global context.

5回：② Understanding the historical development of tourism in Japan.

6回：In-class mid-term test

7回：【Part 3: Tourism Impacts】

① Understanding the economic impacts of tourism.

8回：② Examining the social impacts of tourism.

9回：③ Examining the cultural impacts of tourism.

10回：④ Analyzing the environmental impacts of tourism, including the sustainability concept.

11回：【Part 4: Challenges and New Directions in Tourism Studies】

① Sustainable Development Goals (SDGs) and Tourism.

12回：② Inclusive Tourism (social disadvantaged groups such as the LGBTs and tourism).

13回：③ Future Developments in Tourism (considering different scenarios how tourism may develop and impact in the future, including the Space Tourism).

14回：In-class term-end test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to actively participate in-class discussions and groupwork, and to submit assignments/homework on time. Students will also be expected to come to the class fully prepared with reading notes and questions for in-class discussions and

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Active Participation in Class, Group Discussions, Reaction Papers and Homework:30%

In-Class Mid-Term Test 【open book; except all electronic devices】:30% In-Class Term-End Test 【open book; except all electronic devices】:40%

テキスト / Textbooks

There is no required textbook for this course.

参考文献 / Readings

Suggestions for further reading can be provided in class or through individual consultation.

その他 / Others

※ Pronouns: The instructor uses he/him/his pronouns.

※ The contents of this syllabus are subject to change depending on the number and students' understanding.

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Learning and Teaching Today 1

Learning and Teaching Today 1

Learning and Teaching Today 1

モック, J. (MOK JEFFREY)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB532

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 1

単位： 1

科目ナンバリング： CMP2231

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Students will be able to discuss how students learn today: the current teaching and learning methodologies, theories, and practice in the digital age.

授業の内容 / Course Contents

What is teaching? What is learning? Bloom's Taxonomy Constructive alignment Active learning
Feedback

授業計画(授業計画数：7) / Course Schedule

1 回： What is teaching?

2 回： What is learning?

3 回： Bloom's Taxonomy

4 回： Constructive alignment

5 回： Active learning

6 回： Feedback

7回：Final Presentation or Essay

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Completing weekly readings

Preparing for group/individual presentations or research paper

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Team Quizzes:30% Individual Quizzes:30% Final Essay/Presentation:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項**

- ・ F 科目中級 (外国語による総合系科目)
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

Learning and Teaching Today 2

Learning and Teaching Today 2

Learning and Teaching Today 2

モック, J. (MOK JEFFREY)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB533

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期 2

単位： 1

科目ナンバリング： CMP2231

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Students will be able to discuss how people learn today; the current teaching and learning methodologies, theories, and practice in the digital age. This course is a continuation of Learning and Teaching Today 1 course.

授業の内容 / Course Contents

Activity based learning

Inquiry based learning

Problem based learning

Social and Networked learning

Dialogic facilitation

授業計画(授業計画数：7) / Course Schedule

1 回： Introduction: class and course expectations

2 回： Activity based learning

3 回： Inquiry based learning

- 4回：Problem based learning
 5回：Social and Networked learning
 6回：Dialogic facilitation
 7回：Final Evaluation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:		
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:							

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Completing weekly readings

Preparing for group/individual presentations or research paper

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:30% Quizzes:30% Final Essay/Presentation:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

- ・ F 科目中級 (外国語による総合系科目)
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

Global and Japanese Political Economy 1

Global and Japanese Political Economy 1

The Comparative Political Economy of Critical Minerals and Decarbonization

デウィット, A (DEWIT ANDREW)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB534

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） Online schedule TBA

発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2231

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

To compare Japan and other industrialized countries' policies concerning copper, lithium, rare earths and other critical minerals. The course will outline critical minerals' role in clean energy and decarbonization, and study the limits of ongoing policy measures.

授業の内容 / Course Contents

This course compares Japan and other industrialized countries' policies concerning copper, lithium, rare earths and other critical minerals. These minerals are essential to clean energy and decarbonization, in addition to myriad other high-technology applications in aerospace, health care, national defence. The current and likely future demand for many of these materials exceeds supply capacities, necessitating costly and difficult countermeasures.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Defining political economy, industrial policy, decarbonization, and critical minerals

- 2回：Examining critical minerals and 14 countries' critical mineral lists
 3回：Critical minerals in renewable energy, nuclear power, electric vehicles, smart cities, and other high-technology areas.
 4回：The mining and refining challenges: policy, capital, people, ESGs, and time
 5回：Copper: the essential enabler of electrification
 6回：Lithium: the big question in batteries
 7回：Rare earths: not rare, but plenty dirty
 8回：Japan's policies for critical minerals: can we mine the sea-bed?
 9回：America's policies for critical minerals: abundant resources but also ample opposition
 10回：Canada's policies for critical minerals: plenty of resources, but costly to develop
 11回：Collaboration via Earth MRI, Minerals Security Partnership, QUAD and other initiatives
 12回：How about recycling? Stock versus flow
 13回：Knowledge gaps in a critical area of political economy
 14回：Summary of where we are and where we appear to be going

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Brief readings will be assigned, and are mandatory

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quizzes:40% Participation:20% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

Vaclav Smil Grand Transitions How the Modern World Was Made Oxford University Press 2021
 9780190060664 -

Mark Mills Mines, Minerals, and "Green" Energy: A Reality Check Manhattan Institute 2020 -

Vaclav Smil How the World Really Works Viking 2022 9780593297063 -

参考文献 / Readings

The National Bureau of Asian Research Critical Minerals: Global Supply Chains and Indo-Pacific Geopolitics

The National Bureau of Asian Research 2022

Vaclav Smil Decarbonization is our costliest challenge IEEE Spectrum 2022

OECD Security of Supply for Critical Raw Materials Vulnerabilities and Areas for G7 Coordination OECD
 2022

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

High-level English skills plus an interest in materials and global political economy

その他 / Others

Critical Minerals Policy Tracker – Data Tools - IEA: <https://www.iea.org/data-and-statistics/data-tools/critical-minerals-policy-tracker>

Transition Minerals Tracker, Business & Human Rights Resource Centre: <https://www.business-humanrights.org/en/from-us/>

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Global and Japanese Political Economy 2

Global and Japanese Political Economy 2

Japan's political and economic challenges and opportunities in a rapidly changing world

へベカー D. (HEBECKER DIRK)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB535

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） This class will be conducted face-to-face for all 14 sessions.

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2231

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

The course aims at introducing Japan's political and economic challenges and opportunities in a rapidly changing world, Japan's position on the world stage, its power mechanisms, policy choices and institutions. In interactive ways, students will learn to apply political economy and international relations concepts to analyze and understand the relevance of global issues for Japan and put Japan's domestic and foreign policy strategies in a global perspective.

授業の内容 / Course Contents

Japan's strategies for global, regional and domestic issues. After introductions, global issues such as climate change, peace/security, poverty, migration/displacement, global health etc. will be introduced, focusing on their significance for Japan and the region (Asia-Pacific). Case studies will look at how Japan is contributing to international and regional efforts to tackle global issues while furthering its own political and economic agendas.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction – Japan and the global political economy; definitions (including major global issues); scope;

methodology; interaction with students - hear from the students on their particular interests in this course in order to tailor it to their learning

2回：Student Engagement – This session aims at understanding the interface between the students’ broader interest of studies and the potential of the course. Each student will present their specific interest and develop their learning objective for the course.

3回：Japan’s position in the global political economy – This session will examine how Japan is linked to global issues defined in session 1; each student (or small groups) will contribute to this sessions with a focus on his/her (or their) specific interest as

4回：Global political economy – the bigger picture: definitions, mechanisms and institutions (G7, G20, WEF, UN, WB/IMF, other international and regional alliances etc.)

5回：Japan’s strategies – how is Japan positioning itself in today’s global world order; what strategies (such as “Free and Open Indo-Pacific”) and institutions/mechanisms (FTA, EPA, JETRO, Keidanren, MoFA, JICA, SDF Support to International Peacekeeping, Toky

6回：Global Issues and Japan - case study 1 – climate change, energy security, biodiversity, disaster risk reduction (students who chose their research topic under this heading will come prepared to give a 5-8 minute presentation)

7回：Global Issues and Japan – case study 2 – poverty and development; human rights and human security (students who chose their research topic under this heading will come prepared to give a 5-8 minute presentation)

8回：Global Issues and Japan – case study 3 – global migration (students who chose their research topic under this heading will come prepared to give a 5-8 minute presentation)

9回：Global Issues and Japan – case study 4 – peace and security including maritime security (students who chose their research topic under this heading will come prepared to give a 5-8 minute presentation)

10回：Global Issues and Japan – case study 5 – global health (students who chose their research topic under this heading will come prepared to give a 5-8 minute presentation)

11回：Global Issues and Japan – case study 6 – cybersecurity/cyberterrorism (other optional topics: corruption/governance; outer space; gender equality/diversity and inclusion/ageing societies or other topics as suggested by the students); students who chose th

12回：Global Issues and Japan – case study 7 – open/free session (for students’ topics not covered under session 6-11)

13回：Mapping – interactive session on mapping Japan’s global position, international interests, strategies and footprint of engagement (mix of presentation and discussions); introduction of the pick-a-product exercise

14回：“What else?” – Final wrap-up of issues, identification of learning gaps, evaluation of learning objectives

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

The students will do reading/research on their selected topic (case study) and the course topics and prepare

short notes/papers and presentations. This will be further explained in the first two sessions of the course. Some readings will be given to the s

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Short paper 1 (reasons for selection of specific research topic and research approach):10%
Presentation in class (case study on selected topic):30% Participation in the class (presence and active engagement during the sessions; reaction notes after sessions; reflections on reading materials):30% Final essay/paper on the selected case study topic:30%

テキスト / Textbooks

Baylis, Smith and Owens The Globalization of World Politics – An Introduction to International Relations
Oxford University Press 2020 9780198825548 ○

Snarr and Snarr Introducing Global Issues Boulder 2021 9781626379671 ○

As there is a wealth of adequate literature at introductory and advanced levels, students are encouraged to choose their own main/auxiliary readings, including in their native language. The above two are the lecturer's suggestions.

参考文献 / Readings

Christopher S. Browning International Security Oxford University Press 2013 9780199668533

Ian Goldin Development Oxford University Press 2018 9780198736257

Philip N. Jefferson Poverty Oxford University Press 2018 9780198716471

Mark Maslin Climate Change Oxford University Press 2021 9780198867869

Andrew Clapham Human Rights Oxford University Press 2015 9780198706168

Khalid Koser International Migration Oxford University Press 2016 9780198753773

Gil Loescher Refugees Oxford University Press 2021 9780198811787

Figueres/Rivett-Carnac: The Future We Choose, Manilla Press, 2021, 978-1-786-580-37-5

Internet resources:

https://www.mofa.go.jp/policy/page25e_000278.html Free and Open Indo-Pacific Strategy

<https://www.mofa.go.jp/policy/index.html> Japan's Foreign Poli

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

This course is conducted in English and requires a good command of English in listening, reading/understanding and speaking/communicating as well as writing. Active participation is critical to achieve learning objectives and acquire new knowledge and ski

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題 A

Knowledge and Society 1

Knowledge and Society 1

Knowledge & Society I

三島 雅一 (MISHIMA MASAKAZU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB536
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地： 池袋
学期： 春学期 1
単位： 1
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

Students explore how “knowledge” is created, disseminated, and replicated in society for the following objectives:

- To gain a deeper insight into what constitutes knowledge,
- To learn how it impacts our perspectives, beliefs, and values, and
- To understand the limitations of knowledge making processes

授業の内容 / Course Contents

In this project-based course, students will learn about one epistemological orientation (i.e., positivism) and conduct a hands-on quantitative study (i.e., survey research). To experience knowledge making processes and understand its limitations, students will study basic principles of survey research, choose a research topic, initiate a survey, collect and analyze data, and present results.

授業計画(授業計画数：7) / Course Schedule

1 回： Course Introduction

What is Positivism?

- 2 回：What is Survey Research?
 3 回：Data Collection
 4 回：Data Analysis
 5 回：Research Results & Limitations
 6 回：What is Research Presentation?
 7 回：Final Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Various assignments leading to the completion of the project.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Class Participation and Attendance:30% Weekly Assignments:50% Final Presentation:20%

テキスト / Textbooks

All class reading materials will be provided by the instructor.

参考文献 / Readings

その他 / Others

We will use Canvas LMS for communication, assignment submission, and material distribution.

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Knowledge and Society 2

Knowledge and Society 2

Knowledge & Society II

三島 雅一 (MISHIMA MASAKAZU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB537
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地： 池袋
学期： 春学期 2
単位： 1
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

Students explore how “knowledge” is created, disseminated, and replicated in society for the following objectives:

- To gain a deeper insight into what constitutes knowledge,
- To learn how it impacts our perspectives, beliefs, and values, and
- To understand the limitations of knowledge making processes

授業の内容 / Course Contents

In this project-based course, students will learn about one epistemological orientation (i.e., interpretivism) and conduct a hands-on qualitative study (i.e., interview research). To experience knowledge making processes and understand its limitations, students will study basic principles of interview research, choose a research topic, conduct an interview, analyze data, and present results.

授業計画(授業計画数：7) / Course Schedule

1 回： Course Introduction

What is Interpretivism?

- 2回：What is Interview Research?
 3回：Data Collection
 4回：Data Analysis
 5回：Research Results
 6回：What are Research limitations?
 7回：Final Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Various assignments leading to the completion of the project.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Class Participation and Attendance:30% Weekly Assignments:50% Final Presentation:20%

テキスト / Textbooks

No textbook is required in this class.

参考文献 / Readings

All class reading materials will be provided by the instructor.

その他 / Others

We will use Canvas LMS for communication, assignment submission, and material distribution.

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Introduction to Sociology

Introduction to Sociology

Introduction to Sociology

岡田 トリシャ (OKADA TRICIA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB538

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2231

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Students will learn sociological theories and perspectives to help them know how to ask and answer sociological questions about social issues. They will familiarize themselves with sociological topics in culture, social interaction, gender and sexuality, race and ethnicity. They will develop critical thinking skills as they create and write their research topics, give presentations, and provide and receive feedback.

授業の内容 / Course Contents

The course is student-centered through active learning. The students are requested to actively participate by reading the assigned texts, watching videos, engaging in discussions, collaborating with their classmates, giving presentations using PowerPoint slides or videos, writing reports, and receiving and giving feedback.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Orientation, introduction to the course, and explanation of the requirements

What is Sociology? Why Study Sociology?

- 2回：The Sociological Imagination and the Founders of Sociology
 3回：Origins of Sociological Theories and Perspectives
 4回：Contemporary Sociological Theories and Perspectives
 5回：The Scientific Method and the Research Process
 6回：Presentation of sociological studies and their significance and relevance to modern society
 7回：Mid-term test
 8回：Culture and Society
 9回：Socialization
 10回：Social Interaction in Everyday Life
 11回：Gender and Sexuality
 12回：Race and Ethnicity
 13回：Presentations of research proposals and submission of final reports
 14回：Overall course review, evaluation, reflection

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Homework will be announced after each class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentations (individual and group):30% Participation:30% Mid-term test:15%

最終テスト割合 :25%

テキスト / Textbooks

Nijole V. Benokraitis Introduction to Sociology Cengage Learning; 4th edition January 1, 2016

9781337405218 -

Supplementary materials will be provided in class.

参考文献 / Readings

Supplementary materials will be provided in class.

その他 / Others

Class announcements, schedules, and homework will be posted on Canvas. Students should check Canvas LMS regularly.

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Japanese Society and Culture1

Japanese Society and Culture1

Transnational and Transcultural Japan

モライス, L. (MORAIS LILIANA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB539
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2231
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

1. Question essentialist understandings of Japan from a cross-border social sciences perspective.
2. Examine the transnational and transcultural trajectories of Japanese culture.
3. Develop critical thinking and academic English reading skills and engage in cross-cultural debates and collaboration.
4. Undertake undergraduate-level research, give an oral presentation, and write a research report.

授業の内容 / Course Contents

This course explores the transcultural and transnational elements of Japan from a cross-border social sciences perspective. By looking at diverse images and experiences of Japan within and beyond the geographical boundaries of the nation, we will historicize and deconstruct the myth of Japan as a homogenous and monocultural society. Some of the issues we will explore include: the processes of making and imagining the modern nation, the global diffusion of Japanese culture, migration, mobility, and identity.

Taught in English, the course is designed to help students develop critical thinking, reading, discussion, and

research skills. Each class will focus on a topic, exposing students to a range of sociological themes and concepts and their applications in the study of Japan. Students will take part in a cross-cultural exploration of ideas and works by Japanese and non-Japanese scholars through in-class lectures, group discussions, homework readings, and other activities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Syllabus Overview and Introductions
- 2 回： Images of Japan and Orientalism
- 3 回： Making the Nation: Westernization, internal colonization, and the search for Japaneseness
- 4 回： Defining Japan: Cultural Nationalism and Theories of Japanese Uniqueness (Nihonjinron)
- 5 回： Multiethnic and Multicultural Japan: Japanese Others
- 6 回： Multiethnic and Multicultural Japan: Others in Japan
- 7 回： Transnational Japan: the Japanese abroad
- 8 回： To be or not to be Japanese
- 9 回： Transcultural Japan: Beyond Japanese Culture and Japaneseness
- 10 回： Student presentations I
- 11 回： Student presentations II
- 12 回： Student presentations III
- 13 回： Student presentations IV
- 14 回： Wrap-up and submission of final report

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to actively prepare for and engage in class discussions and activities by completing weekly homework assignments and revising slides after each class. Students will do group oral presentations and, at the end of the course, write an

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Final presentation:20% Homework and in-class assignments (keywords definitions, quizzes, etc.):35% Attendance and Participation:10% 最終レポート割合：35%

Students who miss more than 1/4 of the classes will not be graded.

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

WILLIS, David Blake; MURPHY-SHIGEMATSU, Stephen (ed.) Transcultural Japan: At the borderlands of race, gender, and identity Routledge 2008

BEFU, Harumi Hegemony of Homogeneity: An Anthropological Analysis of Nihonjinron Trans Pacific Press 2001

LIE, John Multiethnic Japan Harvard University Press 2004

SURAK, Kristin Making Tea, Making Japan: Cultural Nationalism in Practice Stanford University Press
2012

DE CARVALHO, Daniela Migrants and Identity in Japan and Brazil: the Nikkeijin Routledge 2003

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

The Dignity of Life and Welfare

The Dignity of Life and Welfare

Human Rights and the SDGs

ペイドン, S. (PAYDON STEVEN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB540
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

学生は、国際レベルでの政策がどのようにして地域レベルの結果に影響を与えるかを理解する力を養います。また、人権、SDGs、および社会福祉に関連する情報を英語で研究し、レポートを作成・発表するための学術的なスキルを発展させます。

Students will develop their understanding of how policy made at a global level trickles down to influence outcomes at a local level. Students will also develop their academic skills in conducting research, writing a report, and presenting information in relation to human rights, the SDGs, and social welfare in English.

授業の内容 / Course Contents

このコースは、人権の基盤である国際連合の人権宣言を学ぶことから始まります。その後、持続可能な開発目標（SDGs）を紹介し、これらの目標が人権宣言にある理念を達成するためにどのように機能するかを調査します。最後に、学生は特定の国に焦点を当て、2030年までにその国がSDGsの目標を達成するための進捗状況を説明するレポートを作成し、クラスに研究結果をプレゼンテーションします。

This course begins by looking at the foundation of human rights: the United Nations Universal Declaration of

Human Rights. It then introduces the Sustainable Development Goals (SDG) and looks at how these goals aim to achieve the ideals embodied in the Universal Declaration of Human Rights. Students will then focus in on a particular SDG goal and write a report explaining the policy, aims and effectiveness of that goal in reaching the 2030 aims. Finally, students will present their findings to the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Course Introduction

*Introduce course content and expectations.

*Introduce the United Nations and the Universal Declaration of Human Rights.

2 回： The Sustainable Development Goals

*Introduce the SDGs.

*Write a summary paragraph that explains the concept of the SDGs.

3 回： Focus Countries

*Students choose focus countries.

*Write a paragraph that introduces focus country.

4 回： Report: Outlines

*Introduce the report outline

*Study SDGs Ranking concept, Strengths & Weaknesses of focus countries.

5 回： Report: Writing

*Conclusions and reference lists

*Finish 1st Drafts

6 回： Report: Peer Review

*Peer review of report 1st draft

*Submit 2nd drafts for teacher review

7 回： Introduction to Pecha Kucha

*Introduce the Pecha Kucha presentation format

*Prepare Pecha Kucha organizers.

8 回： Presentations: Visual Design

*The elements of good visual design

*Choosing and citing effective visuals

9 回： Report: Feedback

*Presentation practice

*Teacher returns report 1st drafts with feedback

*Update reports

10 回： Presentations: Delivery

*Voice inflection and fluency

*Presentation peer review

11 回： Presentations: Full-dress Rehearsal

*Full presentation practice and teacher review

12 回： Presentations I

* Students deliver their presentations

13 回： Presentations II

* Students deliver their presentations

14 回：Wrap-up

*Submit report final drafts

*Make sure everything is finished.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Parts of the report and the presentation will be required to be developed as homework.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentation:30% Attendance, punctuality, and participation:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students will need to bring a computer to class.

注意事項

- ・ F 科目中級 (外国語による総合系科目)
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

Introduction to International Cooperation

Introduction to International Cooperation

Japan's International Cooperation - Strategies, Value Concepts, Policies, Institutions and Practice

へベカー D. (HEBECKER DIRK)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB542
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） Only face-to-face (14 classes)
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course aims at introducing students to the theory and practice of international cooperation as well as Japan's international cooperation based on its position on the world stage as a political and economic leader. In interactive ways, students will learn the most important principles of international cooperation and key value concepts guiding international cooperation such as human rights, human security, gender equality and respect for diversity, sustainability etc.). They will also acquaint themselves with the main strategic frameworks, international and regional institutions and international cooperation practice to address and solve global issues such as peace and security, climate change, environmental protection, human rights, migration/forced displacement, humanitarian crises, poverty eradication and sustainable development. Another important objective of the course is to enhance the students' critical thinking and analytical skills as well as presentation and communication skills.

授業の内容 / Course Contents

This course will introduce Japan's international cooperation strategies, policy frameworks and essential

institutions. After looking at theories of cooperation and international relations, we will study Japan's goals and values guiding international cooperation such as human rights and human security, gender equality, mutual benefit for development and prosperity in line with Japan's "Free and Open Indo-Pacific" international cooperation doctrine. The course will also examine how well Japan is positioned in the world and in Asia to contribute meaningfully to international cooperation in relation to solving global issues. We will examine in detail cooperation efforts on peace and security, poverty/development, human rights, gender equality and diversity, global health, migration/forced displacement/humanitarian crises, climate change, environmental protection, cybersecurity/AI etc. and look at global and regional cooperation frameworks (bilateral, trilateral, multilateral) and organizations. Through examples incl. the students' own selected case studies on international cooperation, we will also review the factors responsible for efficiency, success and failure of international cooperation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Part 1: Introduction to the course - scope; methodology; students' own work on the course. In this part, we will also hear from all students on their particular background/academic interest in this course in order to tailor it to their learning goals and

2回：Student engagement – This session aims at understanding the interface between the students' broader interest of studies and the potential of the course. Each student will present their specific interest and develop their learning objective for the course.

3回：Global issues require international cooperation – major international cooperation frameworks, mechanisms and institutions (G7, G20, WEF, UN, WB/IMF, other international and regional alliances etc.) dealing with global issues. This session will also look a

4回：Japan in 2024 – Japan's domestic, regional and international standing. Global issues most relevant to Japan. Particular challenges and opportunities for Japan. - In preparation for sessions 6-12, each student (or small groups depending on the size of the

5回：Japan's strategies and value concepts for international cooperation. We will look at Japan's "Free and Open Indo-Pacific" strategy, the concept of "human security" and learn about Japan's main institutions/mechanisms for international cooperation such as

6回：Japan's International Cooperation – case study 1 – climate change, climate financing, environmental protection, renewable energies (optional disaster risk reduction and resilience)

The lecturer's introduction of the topic (30-40 minute presentation) will

7回：Japan's International Cooperation – case study 2 – poverty and development through a human rights based approach and human security

The lecturer's introduction of the topic (30-45 minute presentation) will be followed by student presentations.

8回：Japan's International Cooperation – case study 3 – global migration and refugees

The lecturer's introduction of the topic (30-40 minute presentation) will be followed by student presentations.

9回：Japan's International Cooperation – case study 4 – peace and security, conflict resolution

The lecturer's introduction of the topic (30-40 minute presentation) will be followed by student presentations.

10回：Japan's International Cooperation – case study 5 – global health

The lecturer's introduction of the topic (30-40 minute presentation) will be followed by student presentations.

11回：Japan's International Cooperation – case study 6 – reserve session for pending topics or other optional topics such as cybersecurity/cyberterrorism, corruption/governance, outer space, gender

equality/diversity/inclusion or other relevant topics proposed

12 回：Efficiency of Japan's International Cooperation – major challenges such as cultural and historical sensitivities, financing/funding, aid efficiency, transparency, corruption/integrity

13 回：Mapping – interactive session on mapping Japan's global position, international interests, strategies and footprint of international cooperation engagement (mix of presentation and discussions)

14 回："What else?" – Final wrap-up of issues, identification of learning gaps, evaluation of learning objectives, guidance on the writing of the final research paper

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Based on the lecture segments in class and with guidance from the lecturer, the students will be required to do their own reading and research on topics they select in the beginning of the course for their case studies as well as the general introductory

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Participation in the class (presence; active engagement during the sessions; short reflections on sessions/reading materials):30% Short paper 1 (reasons for selection of specific research topic and intended research approach):10% Presentation in class (individual or small group presentation on selected research topic):30% Final paper 2 (research topic/case study on selected topic):30% :0% :0% 最終レポート割合：:0%最終テスト割合：:0%

テキスト / Textbooks

Baylis, Smith and Owens The Globalization of World Politics – An Introduction to International Relations Oxford University Press 2020 9780198825548 ○

Snarr and Snarr Introducing Global Issues Boulder 2021 9781626379671 ○

I. William Zartman (Editor), Saadia Touval (Editor) International Cooperation: The Extents and Limits of Multilateralism Cambridge University Press 2010 9780521138659 ○

Patrick Develtere, Huib Huyse, Jan Van Ongevalle International Development Cooperation Today Cornell University Press 2021 9789462702615 ○

Jianzhi Zhao International Development Cooperation World Scientific 2023 9789811258879 ○

As there is a wealth of adequate literature at introductory and advanced levels, students are encouraged to choose their own main/auxiliary readings, including in their native language. The above four are the lecturer's suggestions.

Session-specific readi

参考文献 / Readings

Christopher S. Browning International Security Oxford University Press 2013 9780199668533

Ian Goldin Development Oxford University Press 2018 9780198736257

Philip N. Jefferson Poverty Oxford University Press 2018 9780198716471

Mark Maslin Climate Change Oxford University Press 2021 9780198867869

Andrew Clapham Human Rights Oxford University Press 2015 9780198706168

Khalid Koser International Migration Oxford University Press 2016 9780198753773

Gil Loescher Refugees Oxford University Press 2021 9780198811787

Most relevant to the course contents is “A Profile of Japan’s International Cooperation”, a compilation of short articles by Hitotsubashi University’s JICA-Development Studies Program (School of International and Public Policy) published in December 2018.

その他/ Others

This course is conducted in English and requires a good command of English in listening, reading/understanding and speaking/communicating as well as writing. Active participation is critical to achieve learning objectives and active acquisition of new kno

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Selected Topics in Intercultural Communication A

Selected Topics in Intercultural Communication A

Understanding Gender Differences Through Achievement Motivation Theory

マーティン, R (MARTIN, RON R.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB543

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） Face-to-face

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2231

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Students will understand and be able to explain gender differences in academic study and career choices.

Students will be able to describe the influence that socializer input and feedback has on children during their development process. Students will be able to connect student beliefs with potential future choices. Students will be able to analyze research papers to understand the use of the Expectancy Value Theory in the investigation of gender differences.

授業の内容 / Course Contents

This course will focus on understanding gender differences through studies on achievement motivation theory. The course will cover the history of achievement motivation and underscore how the perceptions of socializers and children combine to establish gender differences, which then influence education and career choices.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction to the course

2 回： The existence of gender differences

- 3回：Origins of gender differences
 4回：An introduction to child development
 5回：The influence of teachers on students
 6回：Teacher feedback
 7回：Introduction to the Expectancy Value Theory
 8回：Expectancy Value Theory: Competency beliefs
 9回：Expectancy Value Theory: Value beliefs
 10回：Academic study review (1)
 11回：Academic study review (2)
 12回：Academic study review (3)
 13回：Academic study review (4)
 14回：Presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

None.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance/Participation:25% Reading outlines and homework:25% Reflection papers:25% Report and presentation:25%

テキスト / Textbooks

None.

参考文献 / Readings

Readings will be provided by the instructor via Canvas.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

It would be helpful to have a device in class (e.g., a tablet or laptop) to view materials distributed via Canvas.

注意事項

- ・ F 科目上級 (外国語による総合系科目)
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

Selected Topics in Intercultural Communication A

Selected Topics in Intercultural Communication A

Social Justice and Civic Engagement

伊藤 萌紅 (ITO H MEGU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB544

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2231

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- Students will learn to identify and explain how definitions and practices of “social justice” are constructed, maintained, and challenged through the intersections of culture and communication.
- Students will develop the ability to synthesize and to apply critical theories by analyzing the relationship between communication and civic engagement in a variety of situational contexts.
- Students will implement critical thinking and writing skills by producing a series of critical reflections regarding communication practices observed within social justice issues.
- Students will participate in collaborative learning and demonstrate their knowledge of course concepts by leading one another in meaningful class discussion.
- Students will design and present their own arguments, empowering them to advocate for social issues they care about.

授業の内容 / Course Contents

This course is designed to reveal the intricate relationship between social justice, communication, and persuasive

advocacy within an increasingly global and digital world. We will apply critical communication theories to gain a better understanding of how diverse cultures, languages, and positionalities construct difference in ways that reinforce (or resist) power. With an orientation toward social justice, we will engage in projects that collaboratively recover hidden figures from the margins of history and employ principles of design thinking to better serve our communities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introductions to the Course
- 2 回： Definitions of the “Public Good”
- 3 回： Orientations to Social Justice
- 4 回： The Public Sphere and Counterpublics
- 5 回： Case Study: Embodying Counterpublic Agents
- 6 回： Project Preparation: Designing Counterpublic Messages
- 7 回： Project Presentation
- 8 回： The Intersections of Communication and Design Thinking
- 9 回： Empathy, Storytelling, and Narratives
- 10 回： Observations and Field Work
- 11 回： Interviews and Mapping a Community Persona
- 12 回： Brainstorm and Workshop a “Solution”
- 13 回： Project Presentation
- 14 回： Conclusions to the Course

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

The instructor will communicate specific assignment guidelines every class period. However, students can generally expect to spend approximately 100-120 minutes studying outside of class per week (the number will vary for each student).

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and in-class participation:30% Quizzes:20% Project Presentations:30%
Final Report:20%

Students should attend 80% or more of the classes taught to earn a passing grade.

テキスト / Textbooks

Readings will be distributed by the instructor.

参考文献 / Readings

K.M. Carragee Communication Activism Research for Social Justice: Engaged Research, Collective Action, and Political Change Routledge 2023 9780367759582

J. Gripsrud, H. Moe, A. Molander, and G. Murdock The Idea of the Public Sphere Rowman & Littlefield

2010 9780739141977

T. Brown Change by Design: How Design Thinking Transforms Organizations and Inspires Innovation
Harper Business 2009 9780061766084

L. Blankenship Changing the Subject: A Theory of Rhetorical Empathy Utah State University Press 2019
1607329093

K. Sorrells Intercultural Communication Globalization and Social Justice Sage 2020 9781506362861

The course will draw from, but will not be limited to, these readings.

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Selected Topics in Intercultural Communication B

Selected Topics in Intercultural Communication B

Narratives of Difference in Speculative Films

青木 敦子 (AOKI ATSUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB545
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2231
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

On completion of this course, the students will be able to: (a) have a grasp of the key themes and motifs in the speculative film genre and (b) think critically about characters, plots, and settings of speculative fiction films.

授業の内容 / Course Contents

In this course we will on speculative science fiction films and examine how the convergence of ideas about culture and society, different worlds and worldviews, morality, technology, and environment is explored in such films. We will interrogate what these imaginings tell us about anxieties over and/or desire for diversity, globalization, and our overall future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Theme 1: Othering
- 3 回：Group presentations and class discussion on theme 1
- 4 回：Theme 2: First contact

- 5 回：Group presentations and class discussion on theme 2
 6 回：Theme 3: Futurisms
 7 回：Group presentations and class discussion on theme 3
 8 回：Theme 4: Cyberworlds
 9 回：Group presentations and class discussion on theme 4
 10 回：Theme 5: Dystopian, apocalyptic, post-apocalyptic worlds
 11 回：Group presentations and class discussion on theme 5
 12 回：New trends of speculative fiction films
 13 回：Student presentations
 14 回：Conclusion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to prepare for each session by completing assigned readings and watching required films and to review each class session.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Class participation:20% Group presentations:50% Final individual presentation:30%

Students are expected to attend every class. Students need to attend 80% or more of the classes taught to earn a passing grade.

テキスト / Textbooks

A list of readings will be provided on the first day of class.

参考文献 / Readings

A list of references will be provided on the first day of class.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Bring your own device (laptop or tablet) to class.

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Selected Topics in Intercultural Communication B

Selected Topics in Intercultural Communication B

Japanese and Korean Cinema

イ, ヒャンジン (LEE HYANGJIN)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB546
授業形態：	対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項）	オンラインで4回実施する：第2回目、第6回目、第11回目、第12回目の授業
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2231
使用言語：	英語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、日本と韓国映画の美学と社会批評、そして両地域映画産業の相互作用と関係を異文化コミュニケーションの観点から考察する。主な映画理論と歴史的解釈に基づき、トランスナショナルな日韓映画研究を通じて学生の異文化感受性と共感を高めることを目指す。

This seminar course will explore aesthetics and social criticism of Japanese and Korean cinema, and interaction and relation between them from a perspective of intercultural communication. Informed by major film theories and historical readings, it aims to promote the intercultural sensitivity and sympathy of students through the study of transnational status of Korean and Japanese cinema.

授業の内容 / Course Contents

授業では、日本と韓国の代表的な監督の主要作品を選定し、特有のフィルム・スタイルや主なテーマ、社会的メッセージ性を議論する。地域とグローバルな文脈で行われる作品分析とディスカッションを通じて、2つの社会内で、そして2つの社会間の性別、階級、人種、民族間の不平等を表現する大衆文化/芸術様式である映画に対する私たちの理解を深める。

Each week, we will discuss the unique film styles, thematic concerns, and social commentary of leading Japanese and Korean directors. Class discussions will deepen understanding of film as a popular art form that expresses inequalities between gender, class, race, and ethnicity within and between two societies in local and global contexts.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: Course Guidance
- 2 回：100 years of Japanese Cinema (Oshima Nagisa, 1995)
- 3 回：Rashomon (Kurosawa Akira, 1950)
- 4 回：The South Korean Film Renaissance: Aimless Bullet (Yu Hyun-mok, 1960)
- 5 回：Black Rain (Imamura Shohei, 1989)
- 6 回：Declaration of Idiot (Lee Jang-ho, 1983)
- 7 回：Swallowtail Butterfly (Iwai Shunji, 1996)
- 8 回：In the Mood for Korean Cinema (Kim Hansang, 2022)
- 9 回：Oldboy (Park Chan-wook, 2003)
- 10 回：Kaze Tachinu/The Wind Rises (Miyazaki Hayao, 2014)
- 11 回：Yanagawa (Zhang Lü, 2021)
- 12 回：Guest Speaker: Plan 75 (Chie Hayakawa, 2022)
- 13 回：Guest Speaker: House of Hummingbird (Kim Bora, 2018)
- 14 回：Paper Sharing

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：		
上記いずれも用いない予定	：							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to submit short reviews of weekly readings and films in class and to actively participate in class

discussions. (4-5 hours per week).

Assignment: To be announced in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および議論への積極的な参加 / Class Assignment and Participation: 30% プレゼンテーションと課題 / Presentation and Assigned Papers: 30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

イ・ヒャンジン 『コリアン・シネマ：北朝鮮・韓国・トランスナショナル』 みすず書房 2018
9784622086642

Sangjoon Lee Rediscovering Korean Cinema University of Michigan Press 2019 9780472054299

Hideaki Fujiki and Alastair Phillips The Japanese Cinema Book British Film Institute 2020

9781844576784

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

日本国憲法

Japanese Constitutional Law

日本国憲法の現代的解釈

玉蟲 由樹 (TAMAMUSHI YUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB554
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 法学部所属学生随意科目（卒業要件単位に含むことはできない）

授業の目標 / Course Objectives

憲法は、国家の統治組織・統治作用や権利保障のあり方を定めた日本の最高法規です。日本国憲法は制定以来、一度も改正されていないものの、その姿は「憲法解釈」を通じてダイナミックに変化しています。この講義では、そうした変化に着目しながら現在の日本国憲法の姿を示し、日本国憲法に関する基本的な知識の修得を目指します。

The Constitution of Japan is the supreme law of Japan, which sets forth the governing organization, the governing actions, and the guarantee of rights of the nation. Although the Constitution of Japan has never been revised since its enactment, its portrait has been dynamically changing through constitutional interpretation. In this course, we will reveal the current portrait of the Constitution of Japan, focusing on these changes, and aim to acquire basic knowledge of the Constitution of Japan.

授業の内容 / Course Contents

日本国憲法成立の歴史、国家の統治機構の法的構造、基本的人権保障のあり方などを、現在の状況とも照らし合わせながら、具体的な文脈の中で論じていきます。第1回から第5回で憲法総論を取扱い、第6回以降で憲

法各論を取り扱う予定です。

We will discuss the history of the establishment of the Constitution of Japan, the legal structure of the national governing system, and the guarantee of fundamental human rights in a concrete context in light of the current situation. The first five sessions will be spent on the general theory of the Constitution, and the sixth and subsequent sessions will focus on each theory of the Constitution.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション～憲法とは何か～
- 2 回：日本国憲法制定史
- 3 回：憲法の構造原理 (1) 国民主権原理
- 4 回：憲法の構造原理 (2) 基本的人権の保障
- 5 回：憲法の構造原理 (3) 平和主義原理
- 6 回：統治機構各論 (1) 国会・内閣・裁判所
- 7 回：統治機構各論 (2) 違憲審査制
- 8 回：統治機構各論 (3) 地方自治
- 9 回：基本的人権各論 (1) 自由と平等～包括的人権～
- 10 回：基本的人権各論 (2) 精神活動の自由
- 11 回：基本的人権各論 (3) 経済活動の自由
- 12 回：基本的人権各論 (4) 身体的自由
- 13 回：基本的人権各論 (5) 政治参加の権利
- 14 回：基本的人権各論 (6) 社会権

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に告知する教科書の該当頁を読んでおくこと。

講義後に教科書の内容と講義内容とを突き合わせたノートを作成すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

武居一正（編） 『基礎からわかる憲法（第3版）』 嵯峨野書院 2020 9784782306024 ○

参考文献 / Readings

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 A

日本国憲法

Japanese Constitutional Law

民主主義・平和主義・基本的人権について学ぶ

砂押 以久子 (SUNAOSHI IKUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB555
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	-----
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	法学部所属学生随意科目（卒業要件単位に含むことはできない）

授業の目標 / Course Objectives

法を学ぶということは、単に法技術を習得することではなく、法を解釈することを通して客観的・論理的に思考する能力を養うことである。本講義においては、われわれの周りに起こる出来事を取り上げ、憲法がいかに身近であることを知覚し、さまざまな社会問題を人権保障の観点から考察していきたいと考える。

Learning law is not just about learning law skills, but developing the ability to think objectively and logically through interpreting law. In this course, we would like to take the events that occur around us, recognize that the constitution is very close to us, and consider various social issues from the viewpoint of ensuring human rights.

授業の内容 / Course Contents

動画教材を利用しながらオンライン形式で授業を行う。近代憲法から日本国憲法の制定、象徴天皇制、平和主義について学んだあと、基本的人権に関する問題について、身近な事例を通じて講義する。具体的内容は、「授業計画」に示す。なお、基本的人権に関する個別テーマについては、できるだけタイムリーな問題を取り上げ、掘り下げて検討を行いたいと考えるので、授業計画にあげた内容とは異なる場合があること、授業の進路状況によってはテーマが多少前後すること、時間の都合でテーマが限られることのあることをあらかじめ了

承いいただきたい。

Classes will take the form of lectures and audiovisual materials will be used as appropriate. After learning about topics from the modern constitution to the establish of the Japanese Constitutional Law, we will provide lectures on pacifism and basic human rights, etc. using familiar examples. The specific contents are shown in the "Course Plan." In addition, regarding individual themes related to basic human rights, we would like to take up topical issues as much as possible, and examine them in detail, so please be aware in advance that the contents may differ from the course plan; that depending on the progress of the classes the themes may vary slightly; and that the themes may be limited due to time constraints.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：憲法の概要
- 2 回：近代憲法の成立
- 3 回：大日本帝国憲法
- 4 回：日本国憲法制定
- 5 回：日本国憲法の特徴
- 6 回：象徴天皇制
- 7 回：平和主義（1）
- 8 回：平和主義（2）
- 9 回：平和主義（3）
- 10 回：基本的人権、表現の自由・知る権利
- 11 回：法の下の平等（1）
- 12 回：法の下の平等（2）
- 13 回：刑事手続き
- 14 回：自己決定権

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

わが国における人権問題、防衛、皇室の在り方などについて、メディア・書物等を通して常に関心を持つようにしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業時間中に時間を制限したうえで授業内テストを3回実施 100%:100%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

最初の授業で紹介する。

その他 / Others

オンライン授業に関する案内は Canvas LMS に掲載するため、授業前に必ず確認すること。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 A

日本国憲法

Japanese Constitutional Law

民主主義・平和主義・基本的人権について学ぶ

砂押 以久子 (SUNAOSHI IKUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB556
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 法学部所属学生随意科目（卒業要件単位に含むことはできない）

授業の目標 / Course Objectives

法を学ぶということは、単に法技術を習得することではなく、法を解釈することを通して客観的・論理的に思考する能力を養うことである。本講義においては、われわれの周りに起こる出来事を取り上げ、憲法がいかに身近であることを知覚し、さまざまな社会問題を人権保障の観点から考察していきたいと考える。

Learning law is not just about learning law skills, but developing the ability to think objectively and logically through interpreting law. In this course, we would like to take the events that occur around us, recognize that the constitution is very close to us, and consider various social issues from the viewpoint of ensuring human rights.

授業の内容 / Course Contents

動画教材を利用しながらオンライン形式で授業を行う。近代憲法から日本国憲法の制定、象徴天皇制、平和主義について学んだあと、基本的人権に関する問題について、身近な事例を通じて講義する。具体的内容は、「授業計画」に示す。なお、基本的人権に関する個別テーマについては、できるだけタイムリーな問題を取り上げ、掘り下げて検討を行いたいと考えるので、授業計画にあげた内容とは異なる場合があること、授業の進路状況によってはテーマが多少前後すること、時間の都合でテーマが限られることのあることをあらかじめ了

承いいただきたい。

Classes will take the form of lectures and audiovisual materials will be used as appropriate. After learning about topics from the modern constitution to the establish of the Japanese Constitutional Law, we will provide lectures on pacifism and basic human rights, etc. using familiar examples. The specific contents are shown in the "Course Plan." In addition, regarding individual themes related to basic human rights, we would like to take up topical issues as much as possible, and examine them in detail, so please be aware in advance that the contents may differ from the course plan; that depending on the progress of the classes the themes may vary slightly; and that the themes may be limited due to time constraints.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：憲法の概要
- 2 回：近代憲法の成立
- 3 回：大日本帝国憲法
- 4 回：日本国憲法制定
- 5 回：日本国憲法の特徴
- 6 回：象徴天皇制
- 7 回：平和主義（1）
- 8 回：平和主義（2）
- 9 回：平和主義（3）
- 10 回：基本的人権、表現の自由・知る権利
- 11 回：法の下での平等（1）
- 12 回：法の下での平等（2）
- 13 回：刑事手続き
- 14 回：自己決定権

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

わが国における人権問題、防衛、皇室の在り方などについて、メディア・書物等を通して常に関心を持つようにしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業時間中に時間を制限したうえで授業内テストを3回実施 100%:100%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

最初の授業で紹介する。

その他 / Others

オンライン授業に関する案内は Canvas LMS に掲載するため、授業前に必ず確認すること。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 A

日本国憲法

Japanese Constitutional Law

民主主義・平和主義・基本的人権について学ぶ

砂押 以久子 (SUNAOSHI IKUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB557
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 法学部所属学生随意科目（卒業要件単位に含むことはできない）

授業の目標 / Course Objectives

法を学ぶということは、単に法技術を習得することではなく、法を解釈することを通して客観的・論理的に思考する能力を養うことである。本講義においては、われわれの周りに起こる出来事を取り上げ、憲法がいかに身近であることを知覚し、さまざまな社会問題を人権保障の観点から考察していきたいと考える。

Learning law is not just about learning law skills, but developing the ability to think objectively and logically through interpreting law. In this course, we would like to take the events that occur around us, recognize that the constitution is very close to us, and consider various social issues from the viewpoint of ensuring human rights.

授業の内容 / Course Contents

動画教材を利用しながらオンライン形式で授業を行う。近代憲法から日本国憲法の制定、象徴天皇制、平和主義について学んだあと、基本的人権に関する問題について、身近な事例を通じて講義する。具体的内容は、「授業計画」に示す。なお、基本的人権に関する個別テーマについては、できるだけタイムリーな問題を取り上げ、掘り下げて検討を行いたいと考えるので、授業計画にあげた内容とは異なる場合があること、授業の進路状況によってはテーマが多少前後すること、時間の都合でテーマが限られることのあることをあらかじめ了

承いいただきたい。

Classes will take the form of lectures and audiovisual materials will be used as appropriate. After learning about topics from the modern constitution to the establish of the Japanese Constitutional Law, we will provide lectures on pacifism and basic human rights, etc. using familiar examples. The specific contents are shown in the "Course Plan." In addition, regarding individual themes related to basic human rights, we would like to take up topical issues as much as possible, and examine them in detail, so please be aware in advance that the contents may differ from the course plan; that depending on the progress of the classes the themes may vary slightly; and that the themes may be limited due to time constraints.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：憲法の概要
- 2 回：近代憲法の成立
- 3 回：大日本帝国憲法
- 4 回：日本国憲法制定
- 5 回：日本国憲法の特徴
- 6 回：象徴天皇制
- 7 回：平和主義（1）
- 8 回：平和主義（2）
- 9 回：平和主義（3）
- 10 回：基本的人権、表現の自由・知る権利
- 11 回：法の下での平等（1）
- 12 回：法の下での平等（2）
- 13 回：刑事手続き
- 14 回：自己決定権

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

わが国における人権問題、防衛、皇室の在り方などについて、メディア・書物等を通して常に関心を持つようにしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業時間中に時間を制限したうえで授業内テストを3回実施 100%:100%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

最初の授業で紹介する。

その他 / Others

オンライン授業に関する案内は Canvas LMS に掲載するため、授業前に必ず確認すること。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 A

スポーツとメディア

Sport and Media

スポーツ報道の歴史から将来像を展望する

瀧口 隆司 (TAKIGUCHI TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB601

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本におけるスポーツ報道の歴史を学び、新しい時代のメディアがどうあるべきかを考察する。

The aim of this course is to learn the history of sports coverage in Japan and to consider what the media should be in a new era.

授業の内容 / Course Contents

スポーツ記者を長く務めてきた毎日新聞論説委員が、スポーツとメディアの関係や報道の役割について、自らの経験も踏まえて講義する。インターネットによる SNS の発展でメディアが変革期を迎える中、スポーツジャーナリズムの将来も展望していく。

The lecturer of this course is the Mainichi Shimbun editorial writer, who has been a sports reporter for a long time. He will give a lecture on the role of the press and the relationship between sports and the media, based on his own experience. As the media enters a period of change due to the development of social networking service (SNS) via the Internet, we will also look into the future of sports journalism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：はじめに・スポーツ報道の現在地
- 2 回：黎明期のスポーツジャーナリズム
- 3 回：テレビの登場と娯楽化への道
- 4 回：雑誌 Number の創刊とスポーツ記者の変容
- 5 回：スポーツ記者に求められる資質
- 6 回：スポーツメディアの矛盾と葛藤
- 7 回：国家主義・商業主義とスポーツイベント
- 8 回：世界のスポーツを変えたテレビマネー
- 9 回：SNS で発信するアスリートたち
- 10 回：ロボット化するスポーツ記者の仕事
- 11 回：地方メディアの可能性
- 12 回：スポーツそのものがメディア
- 13 回：情報爆発時代に求められるもの
- 14 回：まとめ・スポーツ報道はなぜ必要か

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

スポーツ報道に関心を持ち、新聞、テレビ、インターネットでのニュース、評論、解説を読む習慣をつける。さらに興味の幅を広げ、関連する本や雑誌にも幅広く目を通してほしい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業への取り組み:25% リアクションペーパー:25%

テキスト / Textbooks

資料を適宜配布する。

参考文献 / Readings

滝口隆司 『情報爆発時代のスポーツメディア－報道の歴史から解く未来像－』 創文企画 2018
9784864131131

滝口隆司 『スポーツ報道論 新聞記者が問うメディアの視点』 創文企画 2008 9784921164645

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 A

スポーツとメディア

Sport and Media

スポーツ報道の歴史から将来像を展望する

瀧口 隆司 (TAKIGUCHI TAKASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB701
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本におけるスポーツ報道の歴史を学び、新しい時代のメディアがどうあるべきかを考察する。

The aim of this course is to learn the history of sports coverage in Japan and to consider what the media should be in a new era.

授業の内容 / Course Contents

スポーツ記者を長く務めてきた毎日新聞論説委員が、スポーツとメディアの関係や報道の役割について、自らの経験も踏まえて講義する。インターネットによる SNS の発展でメディアが変革期を迎える中、スポーツジャーナリズムの将来も展望していく。

The lecturer of this course is the Mainichi Shimbun editorial writer, who has been a sports reporter for a long time. He will give a lecture on the role of the press and the relationship between sports and the media, based on his own experience. As the media enters a period of change due to the development of social networking service (SNS) via the Internet, we will also look into the future of sports journalism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに・スポーツ報道の現在地
- 2回：黎明期のスポーツジャーナリズム
- 3回：テレビの登場と娯楽化への道
- 4回：雑誌 Number の創刊とスポーツ記者の変容
- 5回：スポーツ記者に求められる資質
- 6回：スポーツメディアの矛盾と葛藤
- 7回：国家主義・商業主義とスポーツイベント
- 8回：世界のスポーツを変えたテレビマネー
- 9回：SNS で発信するアスリートたち
- 10回：ロボット化するスポーツ記者の仕事
- 11回：地方メディアの可能性
- 12回：スポーツそのものがメディア
- 13回：情報爆発時代に求められるもの
- 14回：まとめ・スポーツ報道はなぜ必要か

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

スポーツ報道に関心を持ち、新聞、テレビ、インターネットでのニュース、評論、解説を読む習慣をつける。さらに興味の幅を広げ、関連する本や雑誌にも幅広く目を通してほしい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業への取り組み:25% リアクションペーパー:25%

テキスト / Textbooks

資料を適宜配布する。

参考文献 / Readings

滝口隆司 『情報爆発時代のスポーツメディア－報道の歴史から解く未来像－』 創文企画 2018
9784864131131

滝口隆司 『スポーツ報道論 新聞記者が問うメディアの視点』 創文企画 2008 9784921164645

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 A

社会調査入門

Introduction to the social survey

調査設計と実施の方法

池田 岳大 (IKEDA TAKEHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FB990
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2220
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： ・大学院所属学生対象科目
・学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を理解し、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基本的な事項について概説する。

Students will understand the basic issues about the meaning and types of social surveys, and we will provide an outline of the basic issues concerning the process from collection of materials and data to analysis.

授業の内容 / Course Contents

社会調査の目的や方法論について概説しつつ、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法などの類型についても整理し、社会調査史や調査の種類と事例あわせて調査倫理について学ぶ。調査票調査やフィールドワークなど、データの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項についても概説する。

While providing a summary of the purpose and methodology of social surveys, we will organize the types of quantitative and qualitative surveys, statistical surveys, and case study methods, and students learn about survey ethics together with the history of social survey and types and examples of surveys. We will also outline the basic

issues of processes from data collection to analysis such as questionnaire surveys and fieldwork.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：社会調査の目的
- 2 回：社会調査の諸方法
- 3 回：社会調査の歴史 欧米
- 4 回：社会調査の歴史 日本
- 5 回：標本抽出の方法
- 6 回：量的調査の種類と方法
- 7 回：質問紙調査の調査プロセス（1）
- 8 回：質問紙調査の調査プロセス（2）
- 9 回：質問紙調査の調査プロセス（3）
- 10 回：質的調査の概要と種類
- 11 回：自由面接法の種類と方法
- 12 回：自由面接法の調査プロセス（1）
- 13 回：自由面接法の調査プロセス（2）
- 14 回：観察法・ドキュメント分析の調査プロセス

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :55%

平常点割合 :45% コース教材内の練習問題:15% 課題提出:30%

テキスト / Textbooks

オンラインで提示する内容がテキストに相当する。

参考文献 / Readings

コース教材内で適宜指定する場合がある。

その他 / Others

履修許可者は、4月10日（水）～4月30日（火）までに Canvas LMS にログインして具体的な授業の受講方法について必ずその内容を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

- ・大学院所属学生対象科目 / ・学部所属学生履修不可 /

社会調査の技法

Social Survey Methodology

調査設計と実施の方法

渡辺 健太郎 (WATANABE KENTARO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB991
授業形態：	オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）	
校地：	他
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2220
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・大学院所属学生対象科目 ・学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

社会調査の技術的な側面に注目し、調査の企画・設計からデータの収集と整理に関する具体的な方法について解説する。社会調査、特にアンケート調査を企画・実施し、対象の問題の概要を明らかにするスキルの習得を目指す。

Focusing on the technical aspects of social surveys, we will explain the specific methods for collecting and organizing data from the planning and design of the survey. The aim is that students will acquire the skills to plan and conduct social surveys, especially questionnaire surveys, and the skills to clarify the outline of the relevant issues.

授業の内容 / Course Contents

10 回分を量的調査、5 回分を質的調査法のデータ収集法にあてる。量的調査に関しては、調査の企画・設計から、標本抽出や調査票の作成、実査の方法、データ作成や分析の考え方などを扱う。質的調査に関しては、調査の企画から、フィールドノートの作成など収集データの整理の技法までを扱う。

Ten classes will be used for quantitative surveys and five classes for qualitative survey data collection. Regarding quantitative surveys, we will deal with the planning and design of surveys, sampling and creation of questionnaires, survey methods, and concepts of data creation and analysis. For qualitative surveys, we will deal with planning of surveys and techniques for organizing collected data such as creation of field notes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：調査の企画と設計
- 2 回：標本調査の理論と実際
- 3 回：標本抽出の実際
- 4 回：無作為標本の特徴
- 5 回：調査票の作り方
- 6 回：質問文の作り方
- 7 回：選択肢の作り方
- 8 回：調査の実施
- 9 回：調査データセットの作成
- 10 回：調査データの集計、分析と結果のまとめ方
- 11 回：インタビュー調査の技法 (1)
- 12 回：インタビュー調査の技法 (2)
- 13 回：フィールドワークの技法
- 14 回：質的調査の論文のまとめ方

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :55%

平常点割合 :45% コース教材内の練習問題:15% 課題提出:30%

テキスト / Textbooks

オンラインで提示する内容がテキストに相当する。

参考文献 / Readings

コース教材内で適宜指定する場合がある。

その他 / Others

履修許可者は、9月20日～9月30日までに Canvas LMS にログインして具体的な授業の受講方法について必ずその内容を確認すること。

注意事項 (検索結果画面)

- ・大学院所属学生対象科目 / 学部所属学生履修不可 /

データ分析入門

Introduction to the Statistics: Descriptive Statistics

データ分析の基本的な考え方について学ぶ

渡辺 健太郎 (WATANABE KENTARO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB992
授業形態：	オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）	
校地：	他
学期：	春学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2220
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・大学院所属学生対象科目 ・学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

社会調査のデータを分析する基本的な考え方やその記述的な手法について主に解説する。

The course will focus primarily on the basic concepts of analyzing social survey data and its descriptive methods.

授業の内容 / Course Contents

度数分布表、比率の計算、クロス集計、クラメールの V、代表値、分散と標準偏差など変数の分布の特徴を表す方法や指標、共分散と相関係数など変数間の関係の強さを表す指標を学び、因果関係と相関関係の違いなど、データの解釈に至る方法について理解する。また、官庁統計など個票データ以外の統計的資料や時系列データなども扱いながら、データの社会科学的な含意をも理解できることをねらう。

Students will learn methods and indices that express characteristics of the distribution of variables such as frequency distribution tables, calculation of proportions, cross tabulation, Cramer's V, representative value, variance and standard deviation, and indices that express the strength of relationships among variables such as covariance and correlation coefficient, and understand how to reach interpretation of data such as the difference

between causal relationship and correlation relationship. The course also aims to help students understand the social scientific implications of the data, while also dealing with statistical data other than individual data, such as government statistics, and time series data.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：統計の役割と身近な統計
- 2 回：データを記述する (1)
- 3 回：データを記述する (2)
- 4 回：データを記述する (3)
- 5 回：データを記述する (4)
- 6 回：データを記述する (5)
- 7 回：データを記述する (6)
- 8 回：2つの変数の関連を見る (1)
- 9 回：2つの変数の関連を見る (2)
- 10 回：2つの変数の関連を見る (3)
- 11 回：2つの変数の関連を見る (4)
- 12 回：回帰分析の基礎
- 13 回：時系列データの処理
- 14 回：調査報告書や論文の書き方、読み方

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コース教材内の練習問題:15% 課題 (課題 (1) と課題 (2) の計 2 回) :30% 特別課題 (特別課題 A と特別課題 B の計 2 回) :55%

テキスト / Textbooks

オンラインで提示する内容がテキストに相当する。

参考文献 / Readings

コース教材内で適宜指定する場合がある。

その他 / Others

履修許可者は、授業 1 週目には Canvas LMS にログインして具体的な授業の受講方法について必ずその内容を確認すること。

注意事項 (検索結果画面)

- ・ 大学院所属学生対象科目 / 学部所属学生履修不可 /

データの科学

Introduction to the Statistics:Statistics Inferences

社会を読み解く方法を学ぶ

渡辺 健太郎 (WATANABE KENTARO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB993
授業形態：	オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）	
校地：	他
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2220
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・大学院所属学生対象科目 ・学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

社会について考え、課題を解決する道具として社会調査データ分析を位置づけ、データを用いて推論や仮説を検証するための手法を体得する。

Students will think about society, position social survey data analysis as a tool to solve problems, and learn methods for using data to test inferences and hypotheses.

授業の内容 / Course Contents

統計的データの集計・分析に必要な、基礎的な統計知識について学ぶ。記述統計学と推測統計学のうち、主に推測統計学に重点を置いたカリキュラムを展開する。確率論に基づいた推測統計学の基本的な考え方を身につけ、平均値や中央値、最頻値や分散、標準偏差といった基本統計量、共分散や相関係数といった変数間の関連性の強さを表す指標、クロス表の関連指標と独立性についてのカイ二乗検定、単回帰分析、偏相関係数と交絡変数の統制、重回帰分析などについて学ぶ。また、t検定や分散分析といった検定論についても学習する。統計学の応用的な内容を学習し、1変量、2変量を扱った分析手法から、多変量解析の入り口となる3変数を扱った

分析手法についても一部学習する。

Students will learn about the basic statistical knowledge needed for statistical data aggregation and analysis. From among descriptive statistics and inference statistics, the curriculum will be developed with an emphasis on inference statistics. Students will acquire the basic idea of inference statistics based on probability theory, and will learn basic statistics such as mean value, median, mode, variance, and standard deviation; indices that indicate the strength of the relationship between variables such as covariance and correlation coefficient; chi-square tests for cross-table related indices and independence; single regression analysis; control of partial correlation coefficients and confounding variables; and multiple regression analysis. In addition, students will learn about test theory such as t-test and analysis of variance. Students will learn the applied contents of statistics, and learn topics from analysis methods for dealing with univariates and bivariate to some analysis methods for dealing with three variables that are the entry point to multivariate analysis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：記述統計学と推測統計学
- 2 回：標本抽出 (1)
- 3 回：確率の基礎と確率分布
- 4 回：標本抽出 (2)
- 5 回：推定
- 6 回：推定：平均の推定
- 7 回：推定：比率の推定
- 8 回：統計的検定の基礎論理 (1)
- 9 回：母平均の差の検定、t 検定
- 10 回：分散分析
- 11 回：カイ二乗検定
- 12 回：三重クロス表の分析
- 13 回：相関と回帰
- 14 回：因果への挑戦

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コース教材内の練習問題:15% 課題(課題(1)と課題(2)の計 2 回) :30% 特別課題 (特別課題 A と特別課題 B の計 2 回) :55%

テキスト / Textbooks

オンラインで提示する内容がテキストに相当する。

参考文献 / Readings

コース教材内で適宜指定する場合がある。

その他/ Others

履修許可者は、授業 1 週目には Canvas LMS にログインして、内容を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

- ・大学院所属学生対象科目/・学部所属学生履修不可 /

多変量解析入門

Introduction to Multivariate Analysis

多変量解析入門

小野原 彩香 (ONOHARA AYAKA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB994
授業形態：	オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）	配信開始日は秋学期授業初日を予定している。
校地：	他
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2220
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・大学院所属学生対象科目 ・学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

データに潜む重要な情報を明らかにする方法として多変量解析を位置づけ、基本的な考え方、代表的な手法、および社会における活用法を理解する。

We will understand the basic ideas, representative methods, and usage methods in society.

授業の内容 / Course Contents

多変量解析の基本的な考え方と代表的な手法を習得する。特に、(1)予測・要因探求のための手法および(2)複雑な情報をまとめ分類するための手法について解説を行う。さらに、統計解析言語 R を用いた分析演習を通じて、これらの手法の活用事例や役割を理解する。

We will learn the basic concepts and representative methods of multivariate analysis. In particular, we will describe (1) methods for prediction and factor search, and (2) methods for organizing and classifying complex information. Furthermore, through analysis exercises using the statistical analysis language R, students will understand the usage cases and roles of these methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：多変量解析とは何か？
- 2 回：記述統計学と推測統計学の復習
- 3 回：相関係数と偏相関係数
- 4 回：重回帰分析(1)：単回帰分析から重回帰分析へ
- 5 回：重回帰分析(2)：重回帰分析の考え方
- 6 回：重回帰分析(3)：ダミー変数と回帰分析の注意点
- 7 回：二項ロジスティック回帰分析
- 8 回：二元配置分散分析
- 9 回：三重クロス集計表の分析
- 10 回：因子分析(1)：因子分析の考え方
- 11 回：因子分析(2)：因子の回転と利用上の注意
- 12 回：主成分分析
- 13 回：クラスター分析
- 14 回：構造方程式モデリング

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

資料や関連書籍を読み、不明な点がないか確認すること。学習した統計量の計算手順を復習し、その性質についての理解を定着させること。動画の内容は『多変量解析』という広大な海へのほんの入り口であり、説明しきれていない豊かな統計理論や応用例が存在する。動画で満足することなく、内容に関して疑問や論点を自分なりに整理していくことが、理解を深めることにつながる。

学習時間は1回の授業あたり、動画視聴を含めて240分程度が目安である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内課題（レポートを含む。25%×4回）:100%

テキスト / Textbooks

オンラインで提示する内容がテキストに相当する。

参考文献 / Readings

- 山田剛史, 杉澤武俊, 村井潤一郎 『Rによるやさしい統計学』 オーム社 2008
 村井潤一郎 『初めてのR——ごく初歩の操作から統計解析の導入まで』 北大路書房 2015
 中村永友 『Rで学ぶデータサイエンス2 多次元データ解析法』 共立出版 2010
 Fox, John, and Sanford Weisberg An R Companion to Applied Regression SAGE 2011 (2nd ed.)

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

他の科目として開講されている統計学入門や統計的検定、統計的推定を含む講義をすでに履修していることが望ましい。本科目は、それらの科目を基礎知識としてすでに習得していることを前提とした内容である。

各種の解析を行う課題を出すため、PC操作に苦手意識がないことが望ましい。苦手意識があっても、前向きに

取り組む意思が必要とされる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

統計解析ソフト R を用いる。

その他/ Others

本科目は社会調査協会の定める社会調査士指定項目 E 科目「多変量解析の方法に関する科目」に該当する。その性質上、同 C 科目 D 科目の内容である基礎統計学の知識を前提とする。知識の習得が不安なものは、各自復習をしておくこと。

履修者は、あらかじめ Canvas LMS にログインして具体的な授業の受講方法について必ずその内容を確認すること。

授業内容に関して質問がある場合は、学期中 2 回行われるスクーリングを利用されたい。

注意事項（検索結果画面）

・大学院所属学生対象科目 / ・学部所属学生履修不可 /

Introduction to Statistics 1

Introduction to Statistics 1

Descriptive Statistics

山口 和範／ドイ, ジミー (YAMAGUCHI KAZUNORI/ DOI JIMMY)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB996

授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）

授業形態（補足事項）

校地： 他

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2221

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： ・大学院所属学生対象科目

・学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

This class is an introductory course that assumes no prior knowledge of statistics. Basic statistical concepts and methods are presented in a manner that emphasizes understanding the principles of data collection and analysis rather than theory. Much of the course will be devoted to discussions of how statistics is commonly used in the real world. The primary goal of the course is to help students understand how the process of problem solving using data, collecting data relevant to that problem, analyzing data, and interpreting data can help them find answers to real problems from their world.

授業の内容 / Course Contents

The following contents will be studied; frequency table, making statistical graphs, basic statistics as mean and variance, correlation and causation, analysis of variance and so on.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Role of statistics

- 2回：Data collection and Variables
 3回：Frequency table and histogram
 4回：Statistical Graphs
 5回：Distributions
 6回：Mean, mode and median
 7回：Variance
 8回：Comparison of distributions
 9回：Relationship between two variables
 10回：Cross tables
 11回：Association between categorical variables
 12回：Correlation and scatter plot
 13回：Regression analysis
 14回：Confounding

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Assignments will be provided at each class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quiz(10%×7):70% Report:30%

テキスト / Textbooks

None

参考文献 / Readings

その他 / Others

This class is e-learning course on the Canvas LMS.

注意事項

- ・ F 科目中級 (外国語による総合系科目)
- ・ TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する

注意事項 (検索結果画面)

- ・ 大学院所属学生対象科目 / ・ 学部所属学生履修不可 /

Introduction to Statistics 2

Introduction to Statistics 2

Statistical Inference

山口 和範／ドイ, ジミー (YAMAGUCHI KAZUNORI/ DOI JIMMY)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FB997

授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）

授業形態（補足事項）

校地： 他

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2221

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： ・大学院所属学生対象科目

・学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

This class is an introductory course that assumes no prior knowledge of statistics. Basic statistical concepts and methods are presented in a manner that emphasizes understanding the principles of data collection and analysis rather than theory. Much of the course will be devoted to discussions of how statistics is commonly used in the real world. The primary goal of the course is to help students understand how the process of problem solving using data, collecting data relevant to that problem, analyzing data, and interpreting data can help them find answers to real problems from their world.

授業の内容 / Course Contents

The following contents will be studied; Basics of statistical inference, population and sample, estimation, statistical test and so on.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Role of Statistics

- 2回：Random Sample and Sampling Error
 3回：Probability and Distributions
 4回：Sampling distribution and the Central limit Theorem
 5回：Statistical Estimation 1: Introduction
 6回：Statistical Estimation 2 ; Estimation of means
 7回：Statistical Estimation 3 ; Estimation of proportions
 8回：Hypothesis Test 1 : Introduction
 9回：Hypothesis Test 2 : Hypothesis and two types of errors
 10回：Hypothesis Test 3 : Difference of means
 11回：Analysis of Variance
 12回：Chi-squared Test
 13回：Analysis of Multiway Table
 14回：Correlation and Regression

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Assignments will be provided at each class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% QUIZ 70% (10%×7回) :70% Final Report:30%

テキスト / Textbooks

None

参考文献 / Readings

その他 / Others

This class is e-learning course on the Canvas LMS.

注意事項

- ・ F 科目中級 (外国語による総合系科目)
- ・ TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する

注意事項 (検索結果画面)

- ・ 大学院所属学生対象科目 / ・ 学部所属学生履修不可 /

Introduction to the social survey

Introduction to the social survey

Survey design and implementation methods

池田 岳大 (IKEDA TAKEHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB998
授業形態：	オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）	
校地：	他
学期：	春学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2231
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・大学院所属学生対象科目 ・学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

Students will understand the basic issues about the meaning and types of social surveys, and we will provide an outline of the basic issues concerning the process from collection of data and analysis.

授業の内容 / Course Contents

While providing a summary of the purpose and methodology of social surveys, we will organize the types of quantitative and qualitative surveys, statistical surveys, and case study methods, and students learn about survey ethics together with the history of social surveys and types and examples of surveys. We will also outline the basic issues of processes from data collection to analysis such as questionnaire surveys and fieldwork.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：Summary of methods and applications of social surveys
- 3 回：History of social survey (1)

- 4回：History of social survey (1) :Japan
 5回：Methods of sampling
 6回：Quantitative surveys
 7回：Questionnaire design (1)
 8回：Questionnaire design (2)
 9回：Questionnaire design (3)
 10回：Qualitative surveys
 11回：Non-directive interview (1)
 12回：Non-directive interview (2)
 13回：Non-directive interview (2)
 14回：Other methods of Qualitative surveys

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Study outside class time will be instructed separately as necessary.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :55%

平常点割合 :45% Practice questions for course materials:15% Submission of assignments:30%

テキスト / Textbooks

The material presented in the online class is the textbook.

参考文献 / Readings

Readings may be provided in the course materials.

その他 / Others

Students who have been approved for the course should log in to Canvas LMS between April 10 and April 30 to check the details of how to take the class.

注意事項

- ・ F 科目中級 (外国語による総合系科目)
- ・ TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する

注意事項 (検索結果画面)

- ・ 大学院所属学生対象科目 / ・ 学部所属学生履修不可 /

Introduction to Multivariate Analysis

Introduction to Multivariate Analysis

多変量解析入門

小野原 彩香 (ONOHARA AYAKA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FB999
授業形態：	オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）	
校地：	他
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2231
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・大学院所属学生対象科目 ・学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

データに潜む重要な情報を明らかにする方法として多変量解析を位置づけ、基本的な考え方、代表的な手法、および社会における活用法を理解する。

We will learn the basic ideas, representative methods, and usage methods in society.

授業の内容 / Course Contents

多変量解析の基本的な考え方と代表的な手法を習得する。特に、(1)予測・要因探求のための手法および(2)複雑な情報をまとめ分類するための手法について解説を行う。さらに、統計解析言語 R を用いた分析演習を通じて、これらの手法の活用事例や役割を理解する。

We will learn the basic concepts and representative methods of multivariate analysis. In particular, we will describe (1) methods for prediction and factor search, and (2) methods for organizing and classifying complex information. Furthermore, through analysis exercises using the statistical analysis language R, students will understand the usage cases and roles of these methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：What is multivariate analysis?
 2 回：Review of descriptive statistics and inferential statistics
 3 回：Correlation coefficient and partial correlation coefficient
 4 回：Multiple regression analysis (1): From simple regression analysis to multiple regression analysis
 5 回：Multiple regression analysis (2): Concept of multiple regression analysis
 6 回：Multiple regression analysis (3): Dummy variables and cautions for regression analysis
 7 回：Binomial logistic regression analysis
 8 回：Two-way analysis of variance
 9 回：Analysis of the triple cross tabulation table
 10 回：Factor analysis (1): Concept of factor analysis
 11 回：Factor Analysis (2): Factor Rotation and Cautions on Use
 12 回：Principal component analysis
 13 回：Cluster analysis
 14 回：Structural equation modeling

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Please read the materials and related books and check for any unclear points. Please review the procedures for calculating the statistics you have learned, and solidify your understanding of their properties. The contents of the video are just an introduc

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 4 homeworks ×25%:100%

テキスト / Textbooks

The content presented online corresponds to the text

参考文献 / Readings

- 山田剛史, 杉澤武俊, 村井潤一郎 『Rによるやさしい統計学』 オーム社 2008
 村井潤一郎 『初めてのR——ごく初歩の操作から統計解析の導入まで』 北大路書房 2015
 中村永友 『Rで学ぶデータサイエンス2 多次元データ解析法』 共立出版 2010
 Fox, John, and Sanford Weisberg An R Companion to Applied Regression SAGE 2011 (2nd ed.)

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

It is desirable that students have already taken lectures on introductory statistics, statistical testing, and statistical estimation offered as other subjects. This course is based on the assumption that students have already acquired a foundation in the

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Use the statistical analysis software R.

その他/ Others

This course corresponds to subject E, "Methods of Multivariate Analysis," which is designated as a subject for social researchers by the Japan Association for Social Research. Due to the nature of this subject, knowledge of basic statistics, which is the

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する

注意事項（検索結果画面）

- ・ 大学院所属学生対象科目 / ・ 学部所属学生履修不可 /

文学への扉

Door to Literature

アメリカの短篇小説・詩を読む

関根 全宏 (SEKINE MASAHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC001
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

文学作品を読むことで、言語感覚・洞察力・想像力を養い、文学作品に対する造詣を深める。
アメリカ文学の代表的な作家・作品の特徴を理解し、文化的・社会的・歴史的背景をふまえて自分の言葉で説明することができる。

Students will develop a sense of language, insight, and imagination through reading literary works, and deepen their knowledge of literary works.

Students will be able to understand the characteristics of representative authors and works of American literature and explain them in their own words in light of their cultural, social, and historical backgrounds.

授業の内容 / Course Contents

毎回一つの短篇小説ないしは詩を数篇とりあげ、アメリカの代表的な作家・作品の特徴について講義します。関連する映像資料も使用します。作者略歴や時代背景、作品に関する問いを含めた講義をもとに、受講者は作品を読んだ感想や問いに対する意見・考察等の小レポートを毎回提出してもらいます。内容確認のための小テストも行います。様々な視点から作品を読んでいき、学期末には一番興味をもった作品について短評を書いて

もらう予定です。

This course will focus on one short story or several poems in each class, and will lecture on the characteristics of each author and work. Relevant video materials will also be used. After a lecture on biography of the author and historic background for each work, the students will present issues concerning the works to gain understanding from diverse perspectives. A reaction paper (small report) is to be submitted at each class, and quizzes are also given to check students' comprehension of the lectures. A small review is to be written on the most interesting work at the end of the semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（アメリカ文学概説）
- 2回：エドガー・アラン・ポー（1809-49）
「アナベル・リー」（詩）他
- 3回：ハーマン・メルヴィル（1819-91）
「バートルビー」（短篇）
- 4回：ウォルト・ホイットマン（1819-92）
「おお船長！わが船長！」（詩）他
- 5回：エミリー・ディキンソン（1830-86）
「小鳥が道をやってきた」（詩）他
- 6回：ロバート・フロスト（1874-1963）
「雪の夜、森のそばに足を止めて」（詩）他
- 7回：ウォレス・ステイブンス（1879-1955）
「アイスクリームの皇帝」（詩）
- 8回：ウィリアム・カーロス・ウィリアムズ（1883-1963）
「寡婦の春の嘆き」（詩）他
- 9回：ウィリアム・フォークナー（1897-1962）
「あの夕陽」（短篇）
- 10回：アーネスト・ヘミングウェイ（1899-1961）
「何かの終わり」（短篇）
- 11回：マーク・ストランド（1934-2014）
「私の人生」（詩）他
- 12回：リチャード・ブローティガン（1935-84）
「グレイハウンド・バスの悲劇」（短篇）
- 13回：レイモンド・カーヴァー（1938-88）
「シェフの家」（短篇）
- 14回：授業総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回で扱う作品を事前に読み、気になった一節や問題提起したい箇所、自分の解釈を持参する。事前に提示された Discussion Question について考えてくる。

授業後には各作家・作品の特徴や解釈等を自分の言葉で説明できるようにまとめておく。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度:20% リアクションペーパー:30% 小テスト（10%×2回）:20% 最終レポート割合：:30%

2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可となります。

最終レポート未提出の場合にも単位修得不可となります。

リアクションペーパーについては、次回の授業開始時に毎回フィードバックを行います。

テキスト / Textbooks

適宜プリント等を配布します。

参考文献 / Readings

平石貴樹 『アメリカ短編ベスト 10』 松柏社 2016 4775402374

亀井俊介（他） 『アメリカ名詩選』 岩波書店 1993 4003233514

渡辺信二 『アメリカ名詩選』 本の友社 1997 4894390825

木下卓（他） 『たのしく読める英米詩』 ミネルヴァ書房 1996 4623026205

寺門泰彦（他） 『アメリカ文学案内』 朝日出版社 2008 9784255004303

竹内里矢・山本洋平 『深まりゆくアメリカ文学』 ミネルヴァ書房 2021 9784623090778

その他随時授業で紹介します。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

表象文化

Culture and Representation

江戸歌舞伎と宣伝・曾我ものを中心に

ビュールク (BJOERK TOVE JOHANNA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC002
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

近世（江戸時代）の歌舞伎興行と演出方法を通し、当時の社会の文化表現としての「演劇」を考察する。

We will consider "theater" as a cultural expression of society in the early modern period (Edo period) through Kabuki performances and production methods of that time.

授業の内容 / Course Contents

江戸時代に初演された歌舞伎の代表的作品の読み解きについて講義する。また、演劇の理解を深めるために、観劇し、観劇レポートにまとめる。

Lectures will be given on reading and interpreting leading works of Kabuki premiered in the Edo period. Also, in order to deepen understanding of theatrical performances, students will watch performances and write theater reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：「表象文化」としての「演劇」とは？

2 回：日本の演劇史 I—古代から中世まで

- 3回：日本の演劇史 II—近世の大衆演劇
 4回：商業演劇としての歌舞伎と歌舞伎劇場の発展
 5回：歌舞伎の人々
 6回：歌舞伎の観客
 7回：歌舞伎の種類
 8回：歌舞伎役者の生き方
 9回：身体表現としての歌舞伎—やつしと見立て物売りの芸
 10回：歴史の演出—『曾我物語』と「曾我もの」
 11回：「曾我对面」の種々層
 12回：「外郎売り」の種々層
 13回：「助六所縁江戸桜」I—宣伝の演技
 14回：「助六所縁江戸桜」II—曾我物語の趣向

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

配布資料および Canvas 資料を閲読すること、歌舞伎劇場で観劇すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :45%

平常点割合 :55% 出席およびリアクションペーパー:15% 感想文:20% 観劇レポート:20%

学期中に各自歌舞伎の上演を見に行き、観劇レポートを提出しなければならない。

テキスト / Textbooks

毎回ハンドアウト・資料を配付する。

参考文献 / Readings

授業期間中に指示する。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

美術の歴史

History of Art

西洋美術史入門：古代ギリシア・ローマ美術から 20 世紀初頭の芸術運動まで

井口 俊 (IGUCHI SHUN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC003

授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）

授業形態（補足事項） この授業は、オンデマンド科目（配信開始日：9月20日）です。

授業の行われる金曜日ごとに動画、課題が配信されますので、受講生は動画を視聴した上で、期限内に課題を提出する必要があります。

校地： 他

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

西洋美術史の大まかな流れを把握し、各時代、様式、芸術運動ごとの特徴を理解する。また、美術作品が制作される背景に同時代の政治や社会、文化的な状況があることにも目を向けながら、特に注目すべき芸術家、作品について学ぶ。

最終的には、授業を通じて得られた知見が、受講者の将来の鑑賞体験をより豊かなものとすることを目指しています。

Students will understand the general flow of Western art history, and understand the characteristics of each era, style, and artistic movement. Also, students will learn about important artists and their works, focusing on the political, social, and cultural contexts of the time in which they were created. Ultimately, the aim of the course is that the findings obtained through the classes enrich the students' future experiences of art appreciation.

授業の内容 / Course Contents

古代ギリシア・ローマ時代の美術から、20世紀初頭に展開された芸術運動までの西洋美術史を概観する。授業の基本的な進め方としては、各回のテーマについて説明した上で、関係する美術作品をスライドとして提示し、それぞれに解説を加えてゆく。

授業は通史として展開されるが、他の時代、地域の作品との比較検討を行うことで、西洋美術において頻出する重要な主題やモチーフについても理解を深める。

We will provide an overview of Western art history, from ancient Greek and Roman art to the artistic movements that developed in the early 20th century. As a basic approach for the course, after explaining the theme of each class, we will present related works of art as slides and provide commentary on each one.

The classes will proceed in chronological order, but we will conduct comparisons with works from other periods and regions to deepen students' understanding of the important subjects and motifs that frequently appear in Western art.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクションおよび古代ギリシア・ローマ美術

(配信開始日：9月20日／課題提出日：9月26日)

2回：ロマネスク、ゴシック美術

(配信開始日：9月27日／課題提出日：10月3日)

3回：ルネサンス1：初期イタリア・ルネサンス

(配信開始日：10月4日／課題提出日：10月10日)

4回：ルネサンス2：盛期イタリア・ルネサンス

(配信開始日：10月11日／課題提出日：10月17日)

5回：ルネサンス3：北方ルネサンス

(配信開始日：10月18日／課題提出日：10月24日)

6回：バロック1：イタリアとオランダのバロック

(配信開始日：10月25日／課題提出日：10月31日)

7回：バロック2：スペインとフランスのバロック

(配信開始日：11月8日／課題提出日：11月14日)

8回：ロココ、新古典主義

(配信開始日：11月22日／課題提出日：11月28日)

9回：ロマン主義

(配信開始日：11月29日／課題提出日：12月5日)

10回：リアリズム

(配信開始日：12月6日／課題提出日：12月12日)

11回：印象派

(配信開始日：12月13日／課題提出日：12月19日)

12回：ポスト印象派

(配信開始日：12月20日／課題提出日：12月26日)

13回：新印象派、ナビ派

(配信開始日：1月10日／課題提出日：1月16日)

14回：フォーヴィスム、キュビスム

(配信開始日：1月17日／課題提出日：1月23日)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

作品理解を深めるため、毎回の授業で提示する作品およびその関連作を実際に鑑賞出来るよう、「その他」の欄にあるウェブサイト等を活用し、美術館、展覧会に積極的に足を運ぶことを推奨します。また、授業期間中に開催される特別展に関しては、授業内でも随時紹介してゆきます。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 作品記述課題:30%

毎回の課題として、授業内で扱った作品1点を選択し400字程度で自分の観察から得られた内容を記述していただきます (事前知識は一切必要ありません)。

課題の提出が14回中11回に満たない場合は、単位修得不可となります。

レポート試験では、美術館で作品を実見することが必要となります。詳しい内容、形式等は試験方法発表掲示を確認してください。

テキスト / Textbooks

教科書は用いません。必要に応じてプリントを配布します。

参考文献 / Readings

高階秀爾、三浦篤 『西洋美術史ハンドブック』 新書館 1997 4403250246

青柳正規ほか 『西洋美術館』 小学館 1999 4096997056

小佐野重利、小池寿子、三浦篤編集 『西洋美術の歴史 全8巻』 中央公論新社 2016-2017
9784124803402

秋山聰、田中正之監修 『西洋美術史』 美術出版社 2021 4568389089

その他の参考文献は授業内で紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

美術史に関する事前知識は一切必要ありません。

これまで一度も美術館を訪れたことがなくとも、美術作品を見て、何かを考えることに興味がある方であれば、どなたでも履修を歓迎します。

その他 / Others

以下のウェブサイトが展覧会情報を得るのに有用です。

art commons : <http://ac.nact.jp/>

TOKYO ART BEAT : <http://www.tokyoartbeat.com/>

artscape : <http://artscape.jp/index.html>

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

美術と社会

Art and Society

グランドツアーにまつわる風景・美術・建築

(The Grand Tour: Landscape, Art and Architecture)

河村 英和 (KAWAMURA EWA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC004

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

18-19 世紀のヨーロッパでは、様々な芸術分野の発展が、社会現象となったグランドツアーなる旅行文化によって、支えられてきたことを理解する。

Understanding the Grand Tour as a social phenomenon, and the development of various artistic genres supported by this travel culture in the 18th and 19th Century.

授業の内容 / Course Contents

18 世紀のヨーロッパ各国を巻き込んだ社会現象「グランドツアー」は、造園、絵画、彫刻、建築、音楽、文学などの、多彩な芸術文化に強い影響を与えた。それは、詩人ウェルギリウスの牧歌と古代芸術礼賛に始まるが、やがて「崇高」なる新たな自然美に目覚めたり、中世美術への再評価が 19 世紀に起こったりするなど、美に対する評価が時代ごとに変化してゆく。貴族のグランドツアーと、後年それを模したブルジョワや知識人たちの長期海外滞在の影響は、芸術作品の好みに反映された。以上、主にイタリアとスイス旅行をインスピレーション源とした、18-19 世紀の外国人目線で見ると、美の価値観の変容をテーマとするが、最後は、20 世紀のアメ

リカや日本においても、イタリアやスイスをはじめとする観光地に憧れ、それらの建物を真似る現象が増加したことについても言及する。

The Grand Tour, an 18th-century social phenomenon that involved many European countries, strongly influenced artistic cultures, including landscaping, painting, sculpture, architecture, music, and literature. It began with the Virgil pastoral songs and the praise of ancient art. The esthetic appreciation changed over time, with the eventual awakening of new natural beauty, the sublime, and a re-evaluation of medieval art in the 19th century. The influence of the Grand Tour by the nobility and the long stays abroad of the bourgeois and intellectuals who emulated it in later years reflected in their taste for artworks. The above is about the transformation of beauty values from a foreigner's perspective in the 18th and 19th centuries, mainly inspired by travels to Italy and Switzerland. At last, the lecture refers to the architectural imitation of popular tourist destinations such as Italy and Switzerland that occurred in the USA and Japan in the 20th century.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：グランドツアーとは
- 2 回：ウェルギリウスにまつわる場所と芸術
- 3 回：古代遺跡と廃墟趣味
- 4 回：ローマの思い出
- 5 回：ナポリの思い出
- 6 回：ヴェネツィアの思い出
- 7 回：パラディアンスタイル
- 8 回：イタリアの自然－カンパーニアの崇高と風光
- 9 回：崇高なるスイス－氷河・アルプス・滝の景勝
- 10 回：田舎っぽさ－新たなローマ平原と民族衣装の美しい娘たち
- 11 回：フィレンツェの思い出－ダンテにまつわる場所と芸術
- 12 回：イタリア国外のイタリア風建築、スイス国外のスイスシャレー
- 13 回：旅行とオペラ・バレエ・映画
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

復習をすすめる。授業のなかで出てきた芸術家の作品が、他にもないか画像検索でチェックしてみたり、関連する地名や建物をグーグルマップで調べて、その位置・周辺環境やストリートビュー写真を確認するとよい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

河村英和 『イタリア旅行－「美しい国」の旅人たち』 中央公論新社 2011 9784121021267 -

河村英和 『観光大国スイスの誕生－「辺境」から「崇高なる美の国」へ』 平凡社 2013 9784582856927

参考文献 / Readings

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

音楽の歴史

History of Music

音楽とイメージ

長屋 晃一 (NAGAYA KOICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC005
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

人間は音楽にいかなるイメージを見出してきたのか、西洋音楽の歴史をたどり、現代の文化を問い直す。

This lecture traces the history of what kind of image we have found in western music, and reexamines modern culture.

授業の内容 / Course Contents

19 世紀は、現代文化の基礎が形づくられた時代である。

この時代、西洋音楽では、視覚的なイメージを反映した描写性の高い音楽が作曲され、また、感情をあらわすものとして音楽が意味づけられるようになった。

その一方で、音楽には精神性が求められ、鑑賞されるようになったのもこの時代である。

そうした 19 世紀の音楽を通して、現代の私たちの身の回りの音楽が、どのようなものとして作曲され、受容されているのか、考察をおこなう。

The culture of the 19th century was a period in which the basis of our culture was formed.

During this period, Western music was composed to be highly descriptive, reflecting visual images, and music came to be understood as expressing sentiment.

On the other hand, it was also during this period that spirituality was sought in music and people began to appreciate it.

By taking up music of the 19th century and placing it in the context of the society of the time, we will consider what kind of music around us today is composed and received.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
音楽にとっての「イメージ」とは何か
- 2回：「バッハ」への眼差し
- 3回：「ベートーヴェン」の神格化
- 4回：「精神」の芸術としての音楽
- 5回：「民謡」の発見
- 6回：中国のスフィンクス
- 7回：近くて遠い「スペイン」
- 8回：「バレエ」の身体
- 9回：ワーグナーの魔術
- 10回：音楽と感情
- 11回：ヴェルディの《仮面舞踏会》
- 12回：交響詩の誕生
- 13回：リヒャルト・シュトラウスの交響詩
- 14回：ジャズの印象

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

この授業は通史ではなく、テーマに沿っていくつかの切り口から西洋音楽を中心に論じる。そのため、高校程度の世界史の知識があること、もしなくても自分で調べる積極性をもとめる。

楽譜は用いるが、専門的な知識は必要ない。ただ、中学で習う程度の楽譜の記号や音名等は理解できているものとして進める。

平常点は毎回、授業の要約を提出してもらい、授業内容の把握に即しておこなう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 毎回のリアクションペーパー（要約）:50%

全14回の授業のうち、10回以上の出席（課題提出）を評価対象とする（欠席は最大4回まで）。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

必要に応じて、授業で紹介します。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

音楽と社会

Music and Society

シンフォニーの歴史

大津 聡 (OTSU SATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC006
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

シンフォニーの歴史において、今日レパートリーの中核を成す時代の作曲家とその作品を取り上げながら、主にヨーロッパ社会との関係について多面的な理解を深める。

This course will deepen students' understanding of the relationship of the history of symphony with European society from multiple perspectives, while taking up composers and their works of the era that form the core of the repertoire today.

授業の内容 / Course Contents

講義。シンフォニーは社会や時代精神の変遷とともに発展し、同時にシンフォニーの役割や理想も変化してきた。本講義では、各時代（古典派、ロマン派）の諸相に、具体的な作品と特定のテーマをもってアプローチする。授業内容のイメージを明確にするため、以下の授業計画には、あえて主に言及する予定の作曲家名や作品名等を記した。

Lectures. The symphony has expanded with the transition of society and the spirit of the age, and at the same time the role and ideal form of symphony has changed. In this course, we will approach multiple aspects of each

period (classical-romantic) through particular works and specific themes. In order to make the course contents clear, in the following course plan, we have intentionally written the names of the composers and works, etc. which we plan to focus on.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスと導入：「シンフォニー」とは何か？
- 2回：前古典派：シンフォニーの誕生と型の形成
- 3回：ウィーン盛期古典派1：エステルハーゲン公爵邸楽長時代の J. ハイドン
- 4回：ウィーン盛期古典派2：J. ハイドンのロンドン滞在と《ザロモン・シンフォニー》
- 5回：ウィーン盛期古典派3：W. A. モーツァルトのシンフォニー創作
- 6回：ベートーヴェン1：転換期としてのベートーヴェン
- 7回：ベートーヴェン2：《田園シンフォニー》と「標題」
- 8回：ベートーヴェン3：《第9シンフォニー》におけるジャンルの拡大
- 9回：ポスト・ベートーヴェンのシンフォニー
- 10回：ベルリオーズの管弦楽作品：「標題シンフォニー」の新たな展開
- 11回：ブラームスとブルックナー：絶対音楽としてのシンフォニーへの回帰？
- 12回：ナショナル・シンフォニー：国民主義音楽とシンフォニーの国際化
- 13回：マーラー：最後の(?)シンフォニストとそのジャンル意識
- 14回：R. シュトラウスと管弦楽作品：「シンフォニー神話」の崩壊

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

本授業は音楽作品とその社会的コンテクストに光をあてるものであるが、音楽を扱う授業である以上、可能な限り、視聴覚資料に触れたい一方で、シンフォニーというジャンルは規模が大きく、いわゆる「鑑賞」レベルの時間は取れない。それ故、メディアの種類は問わないが、授業時間外で作品に触れる機会を積極的に設けること。また、授業で用いたスライドは、後日 Canvas LMS にアップするので、とりわけ各回の流れの理解に役立てて欲しい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 複数回のリアクションペーパーの内容:70% 小レポート:30%

なお、4分の3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

特定のテキストは用いない。随時プリントを配布する他、授業で用いたスライドは、後日 PDF ファイルとして Canvas LMS にアップする。

参考文献 / Readings

初回授業時に参考文献表を配布する他、随時紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

西洋芸術音楽を対象とする授業であるが、専門的な知識や技能を必要とするものではない。一方で、授業内容

への関心と能動的な受講が強く期待される。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

本授業では Canvas LMS を活用する。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

美術論演習

Seminar: Art Theory

美術作品をわかる・読む：美術理論と解釈入門

黒岩 三恵 (KUROIWA MIE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC007
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2340
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

西洋を中心として、古代から現代にいたる美術作品を観察し、解釈を試みることを通じて、時代ごとの固有性や美術の理論について理解する。また、そのような歴史的な背景を理解して、自分でも様々な作品の解釈を深められるようにする。

Through close observation, tentative interpretation on selected works of Western art, dating from the antiquity up until today, students will acquire basic knowledge of art theories and understand the specificity of the art of a given period. Conversely, students will come to appreciate different works of art in a meaningful way and build his/her own opinion.

授業の内容 / Course Contents

各回、様々な美術作品を取り上げる。履修者は、詳細な観察と記述を通じて気がついたことを出発点として、必要に応じて教員が提示した知見やキーワード等を踏まえて解釈を試みる。これらの観察や解釈をディスカッションを通じて共有すると同時に、美術作品の持つ特性を当時の美術理論、歴史的な背景、社会的な機能などを踏まえて理解を深めていく。

One or a small number of work(s) of art will be selected for each session. The selection will be diverse. Students will discuss firstly, about their findings through a close observation of the artwork in an attempt to elucidate the purpose of the artist and meaning of the artwork. Basic key concepts will be lectured during discussion. Students will then develop their own interpretation of the artwork taking into account theories of art, historical background or social function of art, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：授業の進め方、評価の仕方、参考文献・ウェブサイトについて
- 2 回：作品の観察とディスカッション：物語を主題とする美術①（予定、以下同*）
- 3 回：作品の観察とディスカッション：物語を主題とする美術②（シンボルとアレゴリー）
- 4 回：作品の観察とディスカッション：物語を主題とする美術③（シンボルとアレゴリー）
- 5 回：作品の観察とディスカッション：抽象概念の視覚化（寓意画）
- 6 回：作品の観察とディスカッション：美術における時間①
- 7 回：作品の観察とディスカッション：美術における色彩①
- 8 回：作品の観察とディスカッション：絵画における立体性・三次元性
- 9 回：作品の観察とディスカッション：空想・幻想の視覚化
- 10 回：作品の観察とディスカッション：美術における色彩②
- 11 回：作品の観察とディスカッション：平面と立体
- 12 回：作品の観察とディスカッション：美術における時間②
- 13 回：作品の観察とディスカッション：光と闇
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

特に予習・復習は要求しないが、各回の授業時の作品観察とディスカッションには全員が積極的に参加すること。なお、授業時に取り上げる美術作品とテーマは、履修者から意見を募って変更する可能性もある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の作品観察・解釈（合計）:30% ディスカッションでの積極性:30% 最終
レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業時に随時紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

美術や美術史などの予備知識は必要としない。作品解釈や分析を行うので、自分の考えや解釈を整理し、文章にまとめることが求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート型パソコンまたはタブレットなどの電子機器を持参すること。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

音楽論演習

Seminar:Music Theory

音楽は社会とどうかかわるか

増野 亜子 (MASHINO AKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC008

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2340

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

音楽や舞踊を社会とのかかわりにおいて考え、多様な音楽文化を理解するための視点や方法をまなぶことが目標です。

Acquiring basic knowledge and methods for thinking cultural and social aspects of music and dance.

授業の内容 / Course Contents

演習形式で基本的に学生個々のプレゼンテーションに基づき、学生同士及び講師とのコメントや質問のやりとりで進行します。ショート・プレゼンテーションでは自分の関心のある音楽を紹介します。ロング・プレゼンテーションでは＜音楽(舞踊)と社会＞をテーマに、履修生自身の関心に基づいて研究発表を行います。

The class mainly consists of the presentation of each student and the following discussions and dialogues among the students and the lecturer. Short and long presentation are required for each student. In a short presentation, the student is required to introduce the music you are mostly concerned. In long presentation, the student is required to do a presentation on "music(dance and/in society)" according to the students' concern.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：自己紹介、授業構成や発表方法の概説、講師のレクチャー
 2回：学生による発表(ショートプレゼンテーション) ①<私の音楽(舞踊) 紹介>
 3回：学生による発表(ショートプレゼンテーション) ②<私の音楽紹介>
 4回：学生による発表(ショートプレゼンテーション) ③<私の音楽紹介>
 5回：学生による発表(ロング・プレゼンテーション) ①音楽(舞踊) と社会
 6回：学生による発表(ロング・プレゼンテーション) ②音楽(舞踊) と社会
 7回：学生による発表(ロング・プレゼンテーション) ③音楽(舞踊) と社会
 8回：学生による発表(ロング・プレゼンテーション) ④音楽(舞踊) と社会
 9回：学生による発表(ロング・プレゼンテーション) ⑤音楽(舞踊) と社会
 10回：学生による発表(ロング・プレゼンテーション) ⑥音楽(舞踊) と社会
 11回：学生による発表(ロング・プレゼンテーション) ⑦音楽(舞踊) と政治
 12回：特別回①：普段触れない音楽文化を知ろう① 実技ワークショップ
 13回：特別回②：普段触れない音楽文化を知ろう② レクチャー・デモンストレーション
 14回：まとめのディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

自分の担当するプレゼンテーションの準備は授業時間外に行う必要があります。また授業内容に関連する資料や動画等を各自で視聴してもらう場合があります (その回に指示します)。また特別回に関しては後日提出の課題を課すことがあります。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ショートプレゼンテーション:20% ロングプレゼンテーション:30% 授業や議論への貢献:30% 最終レポート割合 :20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

この授業は主に履修生が主体になって実施する発表と議論で構成します。自ら問いを立て、情報収集して、発表する必要があり、また他の履修生の発表に対して積極的に質問やコメントを述べ、互いの意見や視点の違いをききあい、理解して、さらに自分で考えることが必要です。コミュニケーションやプレゼンテーションは最初から上手にできなくても構いませんが、授業に積極的に参加することで、こうした能力を磨く姿勢が求められます。

その他 / Others

授業の構成(各回に行うプレゼンテーションの種類やテーマ) は、履修者の人数や関心によって流動的に変更します。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

キリスト教美術

Christian Art

キリスト教美術の見方—基礎知識からより深い理解へ

米倉 立子 (YONEKURA RYUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FC009
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2300
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

キリスト教美術に関する知識は、西洋美術やキリスト教の世界観を理解するのに必要な大きな要素です。本授業では、キリスト教美術の読解に必要な基本事項を押さえることから始め、主題やモチーフの意味が分かるようになるだけでなく、図像が作り出される歴史的・社会的背景にも目を配って、図像の多様な機能や社会との関わりについて理解を深めることを目指します。

Knowledge of Christian art is a key element in understanding Western art and the Christian worldview. Starting with the basics necessary to read Christian art, the aim of this course is that students not only become able to understand the meaning of the subjects and motifs, but by paying attention to the historical and social background in which the images were created, students deepen their understanding of the various functions of the imagery and its relationship with society.

授業の内容 / Course Contents

普段美術館の展示室で「美術作品」として、その時々テーマに沿った組み合わせで並べられた図像を見ることが多い私たちですが、聖性を帯びた宗教的図像が本来置かれていた状況ではどのように機能していたのか、

その多様なあり方を探っていきましょう。

まず作例を多数見ながら、キリスト教美術に頻出する主題やシンボリックなモチーフの意味を知って、図像読解の基礎知識を学ぶことから始めます。

授業後半では偶像崇拜を禁じているユダヤ教を母胎として生まれたキリスト教と図像の関係がどのような変遷を辿ったか、歴史的側面にも目を向けます。神の姿を図像化したい、神の存在を感じたいという要請と偶像崇拜の危険をめぐる葛藤を大きなテーマとして考えていきます。

人によっては、「美術」というと感覚的な印象や才能の有無などで鑑賞されたり、評価されたりして基準があいまいでわかりづらいもの、あるいは現在の資産的評価で価値が決まりうるものかと思っていたりするかもしれません。しかし、そのような捉え方だけでは現在の私たちと異なる時代や地域の人々の感覚を理解できません。本授業では、作例がどのような社会の中で生まれ、どのように捉えられていたのかに注目し、宗教的崇敬対象として、また多様なメッセージを発する視覚的情報メディアとしてのキリスト教美術を考察していきます。

We often see these images arranged by theme as "art works" in museum exhibition rooms, but in this course we will explore the functions of the diverse situations in which sacred religious images were originally placed.

We will start by learning the basic knowledge of iconographical interpretation by first looking at many examples and coming to know the meaning of recurrent subjects and symbolic motifs in Christian art.

In the second half of the course, we will also examine the relationship between the image and Christianity from a historical viewpoint, tracing back the Christian prohibition of idol worship to Judaism. The conflict between the desire to make images of God and to feel His presence thereby and the risk of idolatry will be a major theme.

Some people think that "art" is something that is appreciated or evaluated based on feelings or the presence of talent, where the criteria are vague and hard to understand, or where the value can be determined by the current asset valuation. However, with such a way of thinking alone we cannot understand the senses of people of different times and regions from us today. In this course, we will focus on what kind of society the work was born in and how it was viewed, and consider Christian art as an object of religious admiration or a visual information media that conveys various messages.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：シラバスの解説（授業内容・スケジュール・評価方法等についての説明）・ガイダンス（メッセージを運ぶメディアとしての図像）

各自どのような美術作品やヴィジュアルイメージに関心があるかなど、アンケートに回答など。

2回：キリストの生涯をめぐる主題1 アトリビュートとは、旧約・新約聖書について 「幼児伝」

3回：キリストの生涯をめぐる主題2 「公生涯」

4回：キリストの生涯をめぐる主題3 「受難伝」予型論

5回：聖母マリアの図像1 「マリアの幼児伝」「受胎告知」

6回：聖母マリアの図像2 「聖母子像」「聖母被昇天」

7回：聖母マリアの図像3 聖母マリアに関わる図像の源泉、その多面的な性格

8回：聖ヨセフの図像の変遷 マリアの夫、イエスの養父たるヨセフはどのような役割を引き受けてきたか

9回：旧約聖書1 旧約聖書の物語図像 アダムとエヴァー神人同型の根拠

10回：旧約聖書2 旧約聖書の物語図像 ノア、アブラハムなど

11回：旧約聖書3 旧約聖書の物語図像 モーセ、ダヴィデなど

12回：旧約聖書4 旧約聖書の物語図像 ソロモン、ヨナ、ヨブなど

13回：キリスト教信仰と物質的な崇敬対象1 キリスト教信仰において神への手掛かりとなる物質的存在はどのように扱われてきたかーアイコン

14 回：キリスト教信仰と物質的な崇敬対象 2 キリスト教信仰において神への手掛かりとなる物質的存在はどのように扱われてきたか—聖遺物

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

展覧会や旅行先など、機会があったら是非本物の作品を見る機会を作ってください。日本の美術館で見られる作品の割合において、キリスト教美術は多いとは言えないかもしれませんが、実物を見ることで、画像等では伝わらない作品のサイズや質感を発見してみましょう。

授業時に資料を配布するので、それらを参照して、授業の復習をすること。

参考文献にも是非目を通してください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 随時行うリアクションペーパーの提出:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

E.H. ゴンブリッチ [著]; 天野衛 [ほか] 翻訳 『美術の物語』 ファイドン 2011 9784864410069

青柳正規ほか 『西洋美術館』 小学館 1999 4096997056

水野千依 『キリストの顔：イメージ人類学序説』 筑摩書房 2014 9784480016010

秋山聰 『聖遺物崇敬の心性史：西洋中世の聖性と造形』 講談社学術文庫 2018 9784065135181

加藤磨珠枝, 益田朋幸 『西洋美術の歴史 中世 I キリスト教美術の誕生とビザンティン世界』 中央公論新社 2016 9784124035926

越 宏一 『ラヴェンナのモザイク芸術』 中央公論美術出版 2016 9784805507568

ベルトラン・ランソン著; 大清水裕, 瀧本みわ訳 『古代末期：ローマ世界の変容』 白水社 2013 9784560509814

岡田温司著『キリストの身体：血と肉と愛の傷』中公新書、2009。岡田温司著『処女懐胎：描かれた「奇跡」と「聖家族」』中公新書、2007。岡田温司著『アダムとイヴ：語り継がれる「中心の神話」』中公新書、2012。水野千依編『古代から初期ルネサンスまで—西洋の芸術史造形篇〈1〉』幻冬舎、2013。池上英洋著『西洋美術史入門』ちくまプリマー新書、2012。池上英洋著『ヨーロッパ文明の起源：聖書が伝える古代オリエントの世界』ちくまプリマー新書、2017。中村明子著『聖書と名画：ビジュアル図解』

その他 / Others

参考になるサイト

<http://artscape.jp/> (展覧会情報サイト)

<http://www.wga.hu/index1.html> (3世紀から19世紀までの美術作品画像が網羅されたサイト)

皆さんへの授業関連のお知らせや資料配布など全て Camvas LMS を通じて行います。

提出期間を定めたリアクションペーパーの提出をもって、どのように授業内容を理解しているか、質問等がないかを測ります。

何かわからない点がありましたら、以下の教員宛てアドレスに「学科・学年・学籍番号・名前」を必ず明記の

上、メ

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

キリスト教音楽

Christian Music

キリスト教音楽の歴史--その変遷と多様性について--

新林 一雄 (NIIBAYASHI KAZUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC010
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

キリスト教が成立してから 20 世紀までの間に教会で演奏された音楽について考察し、理解を深める。

This course will discuss the music played in churches from the beginning of Christianity until the 20th century.

授業の内容 / Course Contents

本講座は講義形式とする。教会音楽は、ヨーロッパの音楽の歴史（西洋音楽史）を理解するために欠かせない音楽ジャンルの一つである。この講座では、西洋音楽史において取りあげられることが多い作曲家の曲について、そのテーマや特色、作曲の背景などを検証する。授業では演奏を聴くだけでなく、作曲の技法や音楽の理論、社会の情勢を視野に入れて楽曲を分析する。履修者には、楽器の演奏や楽譜を読むなどの音楽に関する専門の技術・知識の有無は問わないが、音楽への積極的な関心、音楽を理解したいという意欲を求める。

The course will consist of lectures. Church music is one of the major music genres which is indispensable to understand the history of Western music. This course will examine the theme, feature, and background to compositions, focusing on works that are often explained in Western music history. In the classes, we will not only listen to music but also analyze the music based on composition technique, music theory and social

situation. There is no necessity, whether students have professional skills or knowledge of music, but they should have an interest in music and be motivated to understand music.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス＋導入
- 2 回：古代から中世へ
- 3 回：中世：グレゴリオ聖歌の成立と変容
- 4 回：アルスノヴァとルネサンスのはじまり
- 5 回：ルネサンス：通模倣、宗教改革、対抗宗教改革
- 6 回：バロックのはじまり：オペラの誕生
- 7 回：バロックの声楽曲：オラトリオ、カンタータ、受難曲
- 8 回：バロックの器楽曲：ソナタ、協奏曲、フーガ
- 9 回：古典主義のはじまり：ソナタ形式と器楽曲
- 10 回：古典主義の教会音楽
- 11 回：ロマン主義へ：19 世紀の音楽
- 12 回：ロマン主義の教会音楽
- 13 回：近代：二つの世界大戦と音楽
- 14 回：現代：第 2 次世界大戦後の音楽

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習や復習を課す予定はないが、西洋音楽史の本に書かれたキリスト教音楽の部分を読むと、授業内容をより深く理解することができる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終レポート:40% 授業時に実施する小テスト（30%×2回）:60%

2/3 回以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

片桐功、吉川文、岸啓子、久保田慶一、長野俊樹 『決定版 はじめての音楽史：古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』 音楽之友社 2017 9784276110199

高橋浩子、中村孝義、本岡浩子、網干毅編 『西洋音楽の歴史』 東京書籍 1996 9784487792443

D. J. グラウト、C. V. パリスカ 『新 西洋音楽史』 音楽之友社 1998

「参考文献」欄に記載した書籍を参照すると、より授業を理解しやすい。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

建築と文化

Architecture and Its Culture

日本建築・都市の歴史と文化

服部 佐智子 (HATTORI SACHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC012
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

古代から近代における各時代の建築や都市の特徴とその変容過程を理解し、日本の社会・文化を考察する。
The aim of this course is for students to become able to understand Japanese society and culture through the characteristics of the architecture and cities of each era from ancient times to modern times and their transformation process.

授業の内容 / Course Contents

日本では、中国大陸・朝鮮半島・西洋から、その文化、宗教、政治制度、思想を取り込み、日本の気候風土や既存の文化・宗教と融合させ、様々な建築や都市を築いてきた。同時に、建築や都市は人々の生活の場であり、新たな文化が生まれ、育まれる場所でもある。本講義では、住宅を中心に日本人の生活について学び、さらに都市施設へと視野を広げ、日本の建築や都市の特徴やその変遷と、そこで生きていた人々の生活・文化を学ぶ。以上より、日本の社会・文化について考察する。

Japan has incorporated various cultures, religions, political systems, and thought from the Chinese continent, the Korean peninsula, and the West, fusing them with the Japanese climate, topography, existing culture, and

religion to build various architecture and cities. At the same time, architecture and cities are places where people live their lives and places where new cultures are born and nurtured. In this course, students will learn about Japanese life and living mainly focused on housing, and we will broaden our horizons to urban facilities, and students will learn about the characteristics of Japanese architecture and cities, their transitions, and the life and culture of the people who live in them.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス／授業の目的と進め方の説明
- 2 回：宗教と建築（建築基礎知識）
- 3 回：使い方からみた住宅の歴史 1（接客）
- 4 回：使い方からみた住宅の歴史 2（団欒）
- 5 回：住まいと文化 1（沓脱/ユカ座とイス座）
- 6 回：住まいと文化 2（住宅設備）
- 7 回：都市計画（江戸）
- 8 回：都市計画（近代東京）
- 9 回：都市計画（戦後東京）
- 10 回：商いと建築・都市（百貨店など）
- 11 回：社交と建築・都市（ホテルなど）
- 12 回：娯楽と建築・都市（遊園地など）
- 13 回：衛生と建築・都市（公衆浴場、病院など）
- 14 回：まとめ・補足

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :45%

平常点割合 :55% リアクションペーパーの内容:30% 授業内で指示した課題:25%

詳細は1回目の授業で説明する、フィードバックについては、各授業のはじめに行う。欠席回数が5回以上の場合には、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

配布資料は授業にて配布する

参考文献 / Readings

Canvas LMS に適宜提示する

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業中に閲覧してほしい web 公開史料のリストの掲示、授業中のリアクションペーパー・課題の提出に「Canvas LMS」を使用するので、授業時にスマホもしくは PC を持参すること

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

舞踊論

Theory of Dance

舞踊の意味を探る

糟谷 里美 (KASUYA SATOMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC013

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業は、社会における多種多様な舞踊を取り上げ、現象としての舞踊を理論的科学的に捉えることにより、様々な視点から身体文化の一つである舞踊の意味を探求する力を涵養する。

This course takes up a diverse range of dances in society, and cultivates students' ability to explore the meaning of dance which is one of human culture by understanding dance theoretically and scientifically from various viewpoints.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、地域に根差した文化や舞踊家たちの芸術活動の背景に触れながら、そこに出現する様々な舞踊に着目し、関連する研究を通じて、舞踊への理解を深めていく。取り上げる舞踊は、「生活文化の中の舞踊」「芸術としての舞踊」「教育の中の舞踊」「身体科学の中の舞踊」等である。授業内では、映像を適宜用いながら、舞踊について考察していく。

This course touches on the background of cultures in communities and of the dancers that appear in these communities to deepen students' understanding of dance through related research. The dances to be taken up are

"dance in our life", "dance in art", "dance in education", and "dance in physical science", etc. In the classes, we will study dance while watching videos as appropriate.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：舞踊とは何か
- 2 回：生活文化の中の舞踊
- 3 回：バレエの発祥と発展
- 4 回：モダンダンスの成立背景と展開
- 5 回：バレエ・リュスとその遺産
- 6 回：芸術としての舞踊
- 7 回：モダンダンスの発展
- 8 回：バレエとモダンダンスの融合
- 9 回：コンテンポラリーダンスに求められるもの
- 10 回：教育としての舞踊
- 11 回：日本における洋舞史
- 12 回：邦舞と洋舞の違いとは
- 13 回：バレエを科学する
- 14 回：舞踊をめぐる様々な視点

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容に関連した舞踊を劇場において生（ライブ）で観る機会を持ち、舞踊への理解を深めることが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%
 平常点割合 :50% 出席および授業に取り組む姿勢:50%

テキスト / Textbooks

授業内で資料（レジュメ）を配付する。

参考文献 / Readings

授業内で紹介する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

映像と社会

Visual Expression and Society

映画ジャンルと社会

山本 祐輝 (YAMAMOTO YUUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC014
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

古典的ハリウッド映画におけるさまざまなジャンルの特質とその変容について理解するとともに、戦争、ジェンダー、人種／民族性などの社会的・政治的問題とジャンル映画の入り組んだ関係性について、具体的な映像と音に基づいて思考する能力を身につけることを目指します。

This course aims to understand the characteristics and transformations of various genres in classical Hollywood cinema, while also developing the ability to think about the relationship of social and political issues such as warfare, gender, and race/ethnicity and diverse genre films on the basis of specific images and sound.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、ハリウッドで製作されたさまざまなジャンル映画を取り上げます（現代の作品も扱いますが、1910年代後半から1960年頃までのいわゆる古典期の作品がメインとなります）。映画のジャンルはそのときどきの社会的状況や人々の価値観と密接に結びついているからです。たとえ同じジャンルに属し、似たような題材を扱った作品であっても、製作された時代や作り手が違えば、まったく別様の表現や政治的態度が含まれることになります。授業では、各ジャンルを特徴づける演出やそのヴァリエーションを分析していくと同時に、

ジャンル映画において戦争や性、人種などがどのように表象されてきたのかを検討していきます。

また、「映画は社会を映す鏡である」といった素朴な社会反映論的な見方ではなく、それぞれの作家や作品がどのようなパースペクティブから歴史や社会を捉えようとしたのか、批評家や観客たちは作品をどのように受容したのかといった点を重視しながら、映画と社会との複雑かつダイナミックな関係性について考えていきます。

This class examines various genre films in Hollywood, focusing primarily on classical works from the late 1910s to around 1960, though it will also include some contemporary pieces. The class emphasizes genres due to their close links with the social conditions and prevailing values of their respective periods. Films belonging to the same genre and created on similar themes can exhibit vastly different expressions and political attitudes, depending on the era and the creators. Students will analyze the stylistic directions and variations that characterize each genre, examining how themes such as warfare, gender, and race are depicted.

Additionally, students will move beyond simplistic views based on the social reflection theory perspective, such as "movies are mirrors of society," and aim to think about the complex and dynamic relationship between cinema and society. To that end, students will focus on the perspectives through which directors and works have attempted to capture history and society, and how critics and audiences have received these pieces.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション——古典的ハリウッド映画、ジャンルとサイクル
- 2 回：ギャング映画
- 3 回：ミュージカル映画
- 4 回：戦争映画①
- 5 回：戦争映画②
- 6 回：メロドラマ／女性映画①
- 7 回：メロドラマ／女性映画②
- 8 回：「フィルム・ノワール」①
- 9 回：「フィルム・ノワール」②
- 10 回：西部劇①
- 11 回：西部劇②
- 12 回：SF 映画
- 13 回：現代映画におけるジャンル①
- 14 回：現代映画におけるジャンル②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

■ 予習として、指定した映画作品を全編見ておくよう指示する場合があります。

■ 映画について理解を深める・視野を広げるためには、授業内で上映する抜粋だけでなく、作品全体を見る必要不可欠です。まずは関心を持ったものからで良いので、授業内で取り上げられた作品については各自

で積極的に全編を見るよう努めてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 複数回のリアクション・ペーパー:50%

リアクション・ペーパーは内容に応じて採点します。授業を踏まえて自分なりに考えたことや気づいたこと、疑問点などが積極的に言語化されているコメントを高く評価します。一方で、短文やいい加減な感想文、授業内容とは関連性の薄いコメントは低評価とします。

テキスト / Textbooks

特に指定しません。必要な場合は PDF をダウンロードできるようにします。

参考文献 / Readings

デイヴィッド・ボードウェル、クリスティン・トンプソン 『フィルム・アート——映画芸術入門』 名古屋大学出版局 2007 9784815805678

長谷正人・中村秀之編著 『映画の政治学』 青弓社 2003 4787232207

ジョン・マーサー、マーティン・シングラー 『メロドラマ映画を学ぶ——ジャンル・スタイル・感性』 フィルムアート社 2013 9784845913008

吉田広明 『西部劇論——その誕生から終焉まで』 作品社 2018 9784861827242

その他の文献は授業時に紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

■映画に関する知識の有無は問いませんが、「ストーリーの展開を楽しむ」、「主人公に感情移入して没入する」といった一般的な見方とはまったく異なる観点から映画にアプローチするという点を理解した上で履修してください（「映画を楽しむ」ということを目的とした授業ではありません）。

■この授業では、私たちが普段見逃したり、聞き逃したりしてしまうような映像と音の細部に注目し、その意味を学術的に読み解いていく能動的な姿勢が求められます。映画を分析的・批評的に観る／聴くということに関心のある方に向いています。

また、思考した

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

■リアクション・ペーパーは授業中に提示する QR コードおよび URL（Google フォーム）から提出していただくので、毎回スマートフォンや PC などを準備してください。

■運営には Canvas LMS を使用します。

その他 / Others

■授業の進め方や評価方法、欠席の扱い、授業内容全体に関わる基礎的な知識などについて詳しく説明するので、初回授業には必ず出席してください。

■上記の授業計画はシラバス執筆時のものです。授業の進捗や受講者の関心に応じて変更となる場合があります。

■授業内ではなるべく受講者全員が安心して見ることのできる作品を取り上げるよう努めますが、暴力的な表現や残酷な表現など、人によっては強いストレスや不安、恐怖を感じてしまうようなシーンを扱う可能性もあります。そういった場合は事前に周知するなどの配慮を行ないますが、限界もあ

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

身体表現と哲学

Bodily Expression and Philosophy

身体は何をなしうるか

杉本 隆久 (SUGIMOTO TAKAHISA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FC015
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2300
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

身体および身体表現に関する諸学説を通して、身体が何をなしうるか、身体表現とは何かを理解することを目標とする。

The aim is to understand what the body can do and what body expression is through theories about body and body expression.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、人間の身体や人間の振る舞い、行動、演技、芸術表現などといった身体表現が、哲学においてどのように考えられてきたかを紹介していきながら、精神と身体、知覚と行動、創造的表現と二次的表現といった問題について考察する。また、身体や身体表現について哲学的に思考することがいかなる意味と価値をもつのかということも明らかにする。

In this course, we will introduce how the human body, and expressions of the body such as human behavior, action, performance, and artistic expression, etc. have been considered in philosophy, while considering issues such as the mind and body, perception and action, creative expression and secondary expression. We will also

clarify what meaning and value philosophical thinking about body and body expression has.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：身体の哲学史(1)-精神と身体について
- 3回：身体の哲学史(2)-心身問題
- 4回：身体の哲学史(3)-カテゴリー的誤謬
- 5回：身体は何を見ているか?-ゲシュタルト
- 6回：身体表現としての行動(1)-身体行動の3つの形態
- 7回：身体表現としての行動(2)-ゲシュタルトとしての行動
- 8回：心身交差論
- 9回：世界内存在としての身体(1)-世界内存在とは何か?
- 10回：世界内存在としての身体(2)-両義的な存在
- 11回：身体図式
- 12回：身体と自由
- 13回：身体表現とは何か?(1)-創造的表現と現実的経験
- 14回：身体表現とは何か?(2)-創造的表現と身体の本性=傾向性

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に配布した資料を読み、分からなかった部分についてはノートに抜き書きするなどして、問題意識を持った上で授業に臨むこと。

受講後は、不明点を理解できたかどうか復習すること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業毎の課題:60% 最終レポート割合 :40%

欠席数が授業回数の1/3を超えたものについてはD評価とする。

テキスト/Textbooks

適宜、資料を配布する。

参考文献 / Readings

適宜、授業内で指示する。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項(検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

ドイツ語圏の文学

Literature in the German-speaking sphere

「道徳的施設としての舞台」——ドイツの演劇文化——

丸山 達也 (MARUYAMA TATSUYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FC016
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2300
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

- ・ただ作品を読むだけでなく、詩人（作家）や作品の成立背景も踏まえた上で作品に触れることで、ドイツ語圏の文学への理解と関心を深める。
- ・ドイツ語圏の演劇作品を実際に読み、ドイツ語圏の歴史や文化の一端に触れる。
- ・日本とは異なる劇場のあり方や演劇文化について知る。

The works are also presented in the context of the author's background and the creation of the work. This deepens understanding of and interest in the literature of the German-speaking areas.

Through reading plays, students will learn about the history and culture of the German-speaking areas.

Students will learn about the theater culture, which is different from that of Japan.

授業の内容 / Course Contents

- ・近現代のドイツ語圏の文学作品（戯曲）を取り上げ、詩人の生涯や作品の成立事情および時代背景、作品の内容等について概説する。
- ・上演映像等の視聴覚資料も鑑賞する機会を設ける予定。

This course introduces modern and contemporary German-language literary works (plays) and provides an overview of the poet's life, the circumstances and historical context in which the works were written, and the content of the works.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、講義の進め方
- 2回：ドイツの演劇文化・劇場制度
- 3回：18世紀ドイツでの演劇改革
- 4回：貴族のための劇から市民の劇へ レッシング『エミーリア・ガロッティ』
- 5回：ドイツ独自の展開 レッシング『賢者ナータン』
- 6回：シュトゥルム・ウント・ドラング ゲーテ『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』
- 7回：J・M・R・レンツ『家庭教師』
- 8回：シラー『群盗』
- 9回：ドイツ版『ロミオとジュリエット』 シラー『たくらみと恋』
- 10回：クライスト『壊れ瓶』
- 11回：非アリストテレス的演劇 ブレヒト『セチュアンの善人』
- 12回：新たな演劇の形 ハントケ『観客罵倒』
- 13回：シーラハ『テロ』
- 14回：現代のドイツ語圏演劇 古典との向き合い方

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義内で取り上げる作品をぜひ自分でも通読してもらいたい。（一部を除いて図書館に蔵書あり）

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:10% 提出課題 2回 (25%x2) :50% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

手塚富雄／神品芳夫 『増補 ドイツ文学案内』 岩波書店 1993 4255252343

柴田翔編著 『はじめて学ぶドイツ文学史』 ミネルヴァ書房 2018 9784623037124

畠山寛／吉中俊貴／岡本和子編著 『ドイツ文学の道しるべ——ニーベルンゲンから多和田葉子まで——』 ミネルヴァ書房 2021 9784623090785

講義内で取り上げる作品（翻訳）については別途作品リストを配布する。

その他 / Others

受講者の希望や理解度に応じて、扱う作品に変更が生じることもあります。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

フランス語圏の文学

Literature in the French-speaking sphere

文学からフランス語圏の広さを感じよう

羽生 敦子 (HANYU ATSUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FC017
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2300
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

フランス語圏は、いわゆる「フランス」から、アフリカ大陸、インド洋、インドシナ半島、北米、カリブ海の島々に広がる。それぞれの地域の作家たち、あるいは移民作家たちは、「フランス語」でテキストを織りなす。当然、紡がれた作品は、それぞれの地域・文化を反映する。本講座では文学作品を通し、フランス語圏の多様性について学び、理解することを目標とする。

The French-speaking world extends from so-called 'France' to the African continent, the Indian Ocean, the Indochina Peninsula, North America and the Caribbean islands. Writers from each of these regions, or immigrant writers, weave texts in 'French'. Naturally, the works spun reflect the respective regions and cultures. The aim of this course is to learn about and understand the diversity of the French-speaking world through literary works.

授業の内容 / Course Contents

Francophonie と francophone というフランス語圏についての定義を学ぶ。本講座ではフランス本国もフランス語圏のひとつとみなし、フランスの現代作家の作品から始め、ベルギーの作品へと進む。ベルギーの作品では BD（バンド・デシネと呼ばれる「まんが」）も取り上げ、BD の国であることも学ぶ。次に、かつてフランス

の植民地と呼ばれた地域であったカリブ海やケベック地域の文学を紹介する。フランス語圏の移民文学（移動文学）では、言語と作家の関係について考察する予定である。（授業予定の順番の変更もあります）扱う作品については、事前に、教室あるいは Canvas で伝えます。

At first, we learn the definitions of francophone and Francophone. In this course, the mainland France is also considered a francophone country, so, we will start with works by contemporary French authors and then move on to Belgian works. The Belgian works will also cover BD (bande dessinée, or 'manga') and learn that it is a country of BD. Next, the literature of the Caribbean and Quebec regions, formerly known as French colonies, will be introduced. In French-speaking immigrant literature (migratory literature), the relationship between language and writer will be discussed. (The order of the class schedule is subject to change.)

The works to be covered will be communicated in advance, either in the classroom or on Canvas.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：フランコフォンについて
- 2 回：フランスの文学 I 現代作家を対象に：ミシェル・ウルベック
- 3 回：フランスの文学 II 現代作家を対象に：マリー・ダリュセック、アニー・エルノー
- 4 回：ベルギーの文学 I ジョルジュ・シムノンのメグレシリーズ
- 5 回：ベルギーの文学 II ジョルジュ・シムノンの小説
- 6 回：フランコフォンのマンガ(BD) I 『タンタン』
- 7 回：フランコフォンのマンガ II フランスの manga 事情
- 8 回：カリブ海文学
- 9 回：ケベック文学 I (フランス系カナダ人のエクリチュール)
- 10 回：ケベック文学 II (移民のエクリチュール)：ダニー・ラフェリエール
- 11 回：ケベック文学 III (移民のエクリチュール)：アキ・シマザキ
- 12 回：アゴタ・クリストフ (移民のエクリチュール)
- 13 回：マルグリット・デュラスとインドシナ
- 14 回：授業内テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

対象とする作品、あるいは作家について調べておくことが望ましい。

授業後は、パワーポイントを canvas に掲載します。再度内容を確認してください。できれば、作品を実際に読むことを推奨します。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 複数回のリアクションペーパー:60%

最終テスト割合 :40%

テキスト / Textbooks

テキストは特に指定しない。授業中に、次回の授業ために読むべき作品を紹介する。

参考文献 / Readings

アゴタ・クリストフ 文盲：アゴタ・クリストフ自伝 白水社 2014

岩本和子 終焉の文学：ベルギーのフランス語文学にみるナショナリズムの変遷 松籟社 2007

ワーク・チャング 岩津航訳 キムチ 青土社 2007

ジョルジュ・シムノン著 長島良三 訳 世界の名探偵コレクション メグレ警視 集英社 1997

マルグリット・デュラス著 清水徹訳 愛人・ラマン 河出文庫 1992

ミシェル・ウルベック著 大塚桃和訳 服従 河出文庫 2017

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

語学的能力（知識）は問いません。文学作品、芸術作品に関心を持って取り組んでください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、タブレット、スマホ等の機器

その他/ Others

扱う作品がシラバスと異なることもあります。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

スペイン語圏の文学

Literature in the Spanish-speaking sphere

イスパノアメリカの文学とその背景

内田 兆史 (UCHIDA AKIFUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC018

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

いわゆる「ラテンアメリカ」地域を、それ以外のアメリカやヨーロッパと比較し、またそれぞれの関係をとらえられるようになり、そのうえでイスパノアメリカの代表的作家たちの意識や作品に対する理解を深める。

The students will be able to compare the "Latin American" region with the rest of the New World and the Old, and their relationship to each other deepening understanding of the Hispano-American writers and their works.

授業の内容 / Course Contents

イスパノアメリカと呼ばれる地域、そして広くラテンアメリカが生み出した文学作品を、そこに暮らす人びとの歴史と、その中で生まれた暮らしやメンタリティ、政治との関わりとともに考察する。

イスパノアメリカについて、まずはその成り立ちや、歴史に基づいたモザイク模様を織りなす文化を概観し、20世紀から今世紀にかけてのこの地域の代表的作家とその作品を取り上げ、それぞれの作家、作品を、地域や時代の特徴をとらえる。また、そうした文学作品をきっかけに制作された映画についても考察する。

This class will examine the literary works produced in so-called Hispano-American region, knowing broadly its history, politics and the mentality of the people.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション 授業の目的と概要について説明し、中南米、ラテンアメリカおよびイスパノアメリカという語のとらえ方、それぞれが覆う範疇を定義する
- 2回：アメリカが誕生するまで ラテンアメリカ、とりわけイスパノアメリカの古代史を概観する。
- 3回：アメリカの誕生 ラテンアメリカ、とりわけイスパノアメリカの歴史を、そのほかのアメリカおよびヨーロッパとの比較・関連を考えながら、征服・植民地時代までを概観する。
- 4回：アメリカの独立 ラテンアメリカ、とりわけイスパノアメリカの歴史を、そのほかのアメリカおよびヨーロッパとの比較・関連を考えながら、各国独立以降の歴史を概観する。
- 5回：ラテンアメリカ文学概観
- 6回：カルロス・フエンテス「チャック・モール」を読む
- 7回：イサベル・アジェンデ「ワリマイ」を読む
- 8回：ミゲル・アンヘル・アストゥリアス「大帽子男の伝説」を読む
- 9回：エレナ・ガーロ「トラスカラ人の罪」を読む
- 10回：アウグスト・モンテローソ「日蝕」を読む
- 11回：オラシオ・キログ「流れのままに」を読む
- 12回：マリオ・バルガス＝リョサ「決闘」を読む
- 13回：ガブリエル・ガルシア＝マルケス「フォルベス先生の幸福な夏」を読む
- 14回：アルゼンチンの作家たち

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

作品についてはそれまでに学んだ背景を意識しつつ授業前に読んで分析する。終了後に授業についてアクションペーパーへの記述を求める。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回のアクションペーパー:30% 短篇の感想を主とした小レポート (10回予定) :40% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

野谷文昭編訳 『20世紀ラテンアメリカ短篇選』 岩波書店 2019 9784003279311 ○

参考文献 / Readings

参考文献等は授業内で提示する。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

中国語圏の文学

Literature in the Chinese-speaking sphere

中国漢詩を読む

山崎 藍 (YAMAZAKI AI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC019
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 第1回～第6回をオンラインで実施する
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 中国古典漢詩について、基礎的な知識を身につける。
- 中国文学の全体像を概観し、後世および日本に与えた影響や相違点を分析する。
- Acquire basic knowledge about classical Chinese poetry.
- Have an overview of Chinese literature, and analyze the influence and differences it had on later generations and Japan.

授業の内容 / Course Contents

古代から清代までの詩歌を主な題材として、その特徴と歴史的背景などを概観する。授業を通して、日本にあたえた影響や日本文学との違いについて考察する基礎力を涵養する。毎回、講義で取り上げた作品の感想や自分の考えをまとめたリアクションペーパー（200字以上）を期日までに提出しつつ、第6回目と第12回目に小レポート（講義で取り上げた作品の鑑賞・分析。1000字以上）提出、および、学期末には文学史（漢詩）の概略をまとめてもらう予定である。

The main focus will be on the poetry from ancient times up to the Qing dynasty, examining their characteristics

and historical background, and developing fundamental skills to examine their impact on Japan and the differences from Japanese literature. For each lecture, it is planned for the students to submit a reaction paper (over 200 characters) by the deadline that summarizes their thoughts about the works discussed. Additionally, short reports (on the appreciation and analysis of the works covered in the lectures. Over 1000 characters) are due to be submitted in the 6th and 12th sessions. At the end of the term, students are expected to prepare an overview of literary history (Chinese poems).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション・漢詩概説
- 2 回：上古歌謡――北の『詩経』と南の『楚辞』――
- 3 回：秦・漢――辞賦と楽府・古詩――
- 4 回：魏晋南北朝（1）――建安文学と正始文学――
- 5 回：魏晋南北朝（2）――潘岳・陶淵明――
- 6 回：隋・唐代（1）――近体詩の確立・平仄 初唐の詩――
- 7 回：唐代（2）――盛唐 辺塞詩・自然詩――
- 8 回：唐代（3）――盛唐 李白・杜甫――
- 9 回：唐代（4）――中唐 韓愈・白居易――
- 10 回：唐代（5）――晩唐 杜牧・李商隠――
- 11 回：北宋――欧陽脩・蘇軾・詞の興隆――
- 12 回：南宋――李清照・陸游・楊万里――
- 13 回：元・明・清代――元明清の詩・『唐詩選』編纂――
- 14 回：前期の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小レポート（作品鑑賞）2回:40% 講義後のリアクションペーパー提出:30%

最終レポート割合 :30%

講義全体の3分の2以上の出席がない場合、最終レポートの提出を認めません。

テキスト / Textbooks

教科書は無し。プリント配布を行う。

参考文献 / Readings

松原朗, 佐藤浩一, 児島弘一郎著 教養のための中国古典文学史 研文出版 2009.10 9784876363049

前野直彬編 中国文学史 東京大学出版会 1975.6 4130820362

佐藤進, 濱口富士雄編 全訳漢辞海 三省堂 2017.1 9784385140483

その他 / Others

・履修を考えている学生は、初回の授業から出席すること。初回からコメントを平常点に加点します。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

朝鮮語圏の文学

Literature in the Korean-speaking sphere

近現代の小説と朝鮮半島の言語文化

相川 拓也 (AIKAWA TAKUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC020

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

20 世紀以降の朝鮮・韓国で書かれた小説を通じて、朝鮮語圏の近現代文学がどのように展開していったのかを学びます。その学習を通じて、日本ともきわめて密接な関係にあった朝鮮半島の言語、文化、歴史についての深みのある理解を目指します。

The course focuses on novels written in Korea from the 20th century onwards, and how modern and contemporary Korean literature developed. Through this study, students will be able to gain a deeper understanding of the language, culture and history of Korea, which has had extremely close relationships with Japan.

授業の内容 / Course Contents

授業は講義形式でおこなう予定です（受講人数によっては、演習に近い形式を試行することがあります）。

授業では主として小説の表現を抜粋して検討し、小説の主題に関する時代背景についても解説します。とりわけ、文学として書かれ流通するテキストが、それぞれの時代状況とどう切り結びつつ、その時代特有の表現として成立しているかという問題を、社会史や文化史の視点も加味しながら探求します。

The course will be conducted in lecture form (or we may try a seminar-like format depending on the number of students).

In the course, the lecturer will present some excerpts from the novels and stories and their interpretations, as well as explanations of the historical background of the work's subjects. In particular, we will explore the question of how literary texts are connected to the circumstances of their times, and are established as expressions specific to those times, while also taking into account perspectives of social and cultural history.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：近代文学の嚆矢 (1)：李光洙『無情』
- 3回：近代文学の嚆矢 (2)：3・1 独立運動と文学
- 4回：貧困と格差：姜敬愛『人間問題』
- 5回：植民地の風景：李孝石「そばの花咲く頃」
- 6回：中間まとめ (1)
- 7回：朝鮮戦争 (1)：黄順元『木々、坂に立つ』
- 8回：朝鮮戦争 (2)：朴婉緒「母さんの杭」
- 9回：冷戦と独裁の時代：趙世熙『こびとが打ち上げた小さなボール』
- 10回：中間まとめ (2)
- 11回：文学と社会：孔枝泳『トガニ』
- 12回：閉塞する世界で (1)：キム・エラン「三十」ほか
- 13回：閉塞する世界で (2)：キム・チョヨプ「館内紛失」ほか
- 14回：最終まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で使用する資料 (原稿・スライド) を PDF で配布します。予習・復習や課題・試験に取り組む際に役に役立ててください。

授業で取り扱う文学作品の日本語訳について、イントロダクションで情報を提供します。すべてを読破する必要はありませんが、関心のある作品については、学習の深度を上げるためにも学期中に一読することをおすすめします。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :55%
平常点割合 :45% レスポンスシート (学期中3回) :45%

テキスト / Textbooks

教科書は使用しません。授業資料を PDF で配布します。

参考文献 / Readings

波田野節子、斎藤真理子、きむ ふな編著 『韓国文学を旅する 60 章』 明石書店 2020 9784750351070
その他、講義で取り扱う文学作品の日本語訳を初回 (イントロダクション) および授業内で紹介します。

その他/ Others

履修にあたって朝鮮語の能力は不要ですが、朝鮮語や朝鮮語圏の文化・社会に関心のある方の受講を歓迎します。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

演芸の世界

World of Entertainment 'Engei'

ポスト・グローバル時代の大衆文化

細井 尚子／宮 信明／一龍齋 貞橘／入船亭 扇橋／鏡味 仙成／江戸家 猫八 (HOSOI NAOKO/ MIYA NOBUAKI/ ICHIRYU-SAI TEIKITU/ IRIHUNETEI SENKYO/ KAGAMI SENNARI/ EDOYA NEKOHACHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC081

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は土曜日 3 限～5 限で開講される科目となるため、その時限に他の科目を履修しないよう注意すること。

授業の目標 / Course Objectives

近代化からグローバル化に移行する影響を受け、娯楽市場において「演芸」の属性が新たな文脈で置換され、娯楽ソフトとして機能している。「演芸」の代表的空間である寄席とそこで演じられる寄席芸を通じて、ポスト・グローバル時代の大衆文化の特性を理解する。

Under the influence of the transition from modernization to globalization, the attributes of "performing arts" in the entertainment market have been replaced in new contexts, and they function as "entertainment software".

This course will help student understand the characteristics of popular culture in the post-globalization era through the entertainment halls (yose theater) that are the iconic spaces of the "performing arts" and the performances that are performed there.

授業の内容 / Course Contents

「演芸」は「演劇」同様、近代になって定着する概念で、具体的に指す芸（芸態）は多様だが、上演空間が狭い・気楽に楽しむ消費型娯楽という点を共有する。グローバル化した現代では、ウォークマン以降定着した個別に楽しむスタイル、ライブの価値の再発見、消費者が自身の属性、芸（芸態）の属性に関わらず、日本内外のものがフラットに並ぶ選択肢の中から自身の好みにより楽しむ芸（芸態）を選択するなど、娯楽における新たな消費スタイルが定着してきた。本講座では寄席で演じられる芸に生きる方々を講師としてお迎えし、具体的なお話によって展開し、寄席の世界を理解する。

Like "ENGEKI(theater)", "ENGEI" is a concept that has been established in the modern age. Although they refer to various of arts (forms of performance), they have something in common: they are consumption-type entertainment and the performance space is small and the art is easy to enjoy. In today's globalized world, since the appearance of the Walkman the individual forms of enjoyment and the value of live performance were re-valued, regardless the consumers' own attributes and the attributes of the arts (form of performance). Consumers are able to select their preferred art (form of performance) from a variety of parallel options in Japan and overseas, which show that a new form of consumption in entertainment has been established. In this course, we will invite the actor/actress who are dedicated to the art of entertainment hall(寄席芸能) as lecturers to share specific examples so that we can understand better the world of the entertainment (yose performance).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：4月13日①オリエンテーション・講談

細井尚子＋宮信明＋一龍齋貞橋

2回：4月13日②講談

細井尚子＋宮信明＋一龍齋貞橋

3回：4月13日③講談

細井尚子＋宮信明＋一龍齋貞橋

4回：5月11日①落語

細井尚子＋宮信明＋入船亭扇橋

5回：5月11日②落語

細井尚子＋宮信明＋入船亭扇橋

6回：5月11日③落語

細井尚子＋宮信明＋入船亭扇橋

7回：6月1日①太神楽

細井尚子＋宮信明＋鏡味仙成

8回：6月1日②太神楽

細井尚子＋宮信明＋鏡味仙成

9回：6月1日③太神楽

細井尚子＋宮信明＋鏡味仙成

10回：6月29日①動物ものまね

細井尚子＋宮信明＋江戸家猫八

11回：6月29日②動物ものまね

細井尚子＋宮信明＋江戸家猫八

12回：6月29日③動物ものまね

細井尚子＋宮信明＋江戸家猫八

13回：7月13日①寄席囃子

細井尚子＋宮信明＋田村かよ・金原亭馬久・柳家小はだ

14回：7月13日②寄席囃子・総括・教場レポート

細井尚子＋宮信明＋田村かよ・金原亭馬久・柳家小はだ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:			:			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて教場で具体的な課題を示す。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度：10% リアクションペーパー@15%×4回：60% 最終回教場レポート：30%

出席コマ数が10コマ以上ない場合、成績評価を出す対象としない。

テキスト / Textbooks

必要に応じ、教場で示す。

参考文献 / Readings

必要に応じ、教場で示す。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

講義のほか、ワークショップ、質疑応答など、積極的に授業に参加してほしい。

その他 / Others

- ・本講座は1回3コマ集中（最終回7月13日のみ2コマ）で行う。
- ・1回欠席すると、週1回授業の場合の3回欠席に相当するので気を付けること。
- ・最終回は総括の後、課題を提示、教場でレポートを作成するので、必ず出席すること。
- ・新座キャンパス N852 教室で開講。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

観光と文学

Tourism and Literature

石橋 正孝／舩谷 鋭／羽生 敦子 (ISHIBASHI MASATAKA/ MASUTANI SATOSHI/ HANYU ATSUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC082
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2310
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光と文学が密接に関連している具体的事例を考察するとともに、文学研究の技法を観光研究に応用する手法を学ぶ。

Students will learn about specific cases where tourism and literature are closely related, and learn how to apply literary research methods to tourism research.

授業の内容 / Course Contents

人文社会科学からの観光現象に対するアプローチは、これまでもっぱら地理学・社会学・文化人類学などの分野から研究が行われてきた。しかし、国木田独歩の武蔵野、徳富蘆花の湘南のように、文学が新たな観光地を作り出したケースが過去には存在し、文学が力を失った現在もなお「シャーロック・ホームズ」シリーズのように視覚メディアにおける新たな展開を通して、「聖地巡礼」を惹き起こしているケースもあれば、城の崎における志賀直哉等、単なる記号のかたちであるにせよ、観光資源として活用され続けているケースも数多い。この授業では、以上のような状況を踏まえ、文学による観光（文学作品に描かれた観光地の疑似体験やそれを通じた舞台探訪）と観光による文学（舞台を訪れた経験による作品理解や享受の促進）の双方から、観光経験における主観的意味づけとその言語化の重要性を考えてもらうことを目的としている。さらに、ガイドブックや

トラベルライティングにそうした意味づけが経験的に活用されていることを紹介し、観光に適用される文学研究の応用可能性を考察する。

Approaches to the phenomenon of tourism from the humanities and social sciences have so far been conducted exclusively from the fields of geography, sociology, and cultural anthropology. However, there have been cases where literature has created new tourist attractions, and even today, when literature has lost its power, there are some cases where "pilgrimages" are still triggered by new developments in visual media, such as the "Sherlock Holmes" series. The purpose of this course is to have students consider the importance of subjective meanings and their verbalization in the tourism experience from the perspective of both literature-based tourism (simulated experience of a tourist attraction depicted in a literary work and exploration of the stage with one's own eyes) and tourism-based literature (understanding and enjoyment of the work through the experience of visiting the stage). Furthermore, empirical use of such meaning-making in guidebooks and travel writing will be introduced, and the applicability of literary studies applied to tourism will be discussed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：事例と考察1 赤毛のアンの文学聖地
- 3回：事例と考察2 ケベックの先住民と文学
- 4回：事例と考察3 コンタクトゾーン
- 5回：事例と考察4 文学におけるヴェネツィア
- 6回：事例と考察5 ロシア文学と都市
- 7回：事例と考察6 京都の文学観光
- 8回：事例と考察7 トラベルライティングとは
- 9回：事例と考察8 永井荷風『日和下駄』
- 10回：事例と考察9 捕鯨と文学
- 11回：事例と考察10 ダークツーリズム
- 12回：事例と考察11 郊外の記憶の先
- 13回：事例と考察12 シャーロック・ホームズ巡礼
- 14回：教場レポートテスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り上げられた作品を積極的に読むこと。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業態度および授業毎のリアクションペーパー:60% 最終レポート割合 :40%

毎回、授業理解を確認するためのリアクションペーパーを提出してもらう。

テキスト/Textbooks

観光学部 RT3号 立教大学 2024 -

参考文献 / Readings

コンテンツツーリズム学会 『地域は物語で「10倍」人が集まる コンテンツツーリズム再発見』 生産性出版 2021 4820121162

鈴木智之 『郊外の記憶』 青弓社 2021 4787234951

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

文学含むいわゆる読書に対し前向きな姿勢

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

文学への扉

Door to Literature

批評理論入門（英米仏文学からジブリまで）

遠藤 不比人 (ENDO FUHITO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC101
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

文学テキストの読解を単なる感想ではなく、大学での研究に相応しい「解釈」の次元で実践できるような知識を獲得するために、「文学理論」の基礎を学びます。同時に狭く文学だけでなく、ジェンダー研究、ポストコロニアル批評、マルクス主義理論など、現在の世界を解釈するために必要な知識も講義の対象にします。

The aim of this course is to provide students with a basic knowledge of 'literary theory' which will enable them to interpret literary texts at an appropriate academic level, beyond mere subjective impressions. Students will also be introduced to a range of theoretical discourses, such as gender, postcolonial, or Marxist theories, which will empower them to interpret not only literature but also contemporary global issues.

授業の内容 / Course Contents

下記の教科書を使用しながら、ジェンダー、ポストコロニアル、マルクス主義、精神分析などの視点から、ある特定の文学テキストを解釈する訓練を実践的にを行います。対象テキストは、英米仏の古典的な作家のみならず、現代日本で活躍する作家、あるいはジブリ作品を含みます。双方向的な議論を可能にするために、講義の後に reaction paper を提出したり、その場でコメントを受講生に求めたりするので、積極的な講義への参加を

期待します。

Using the following textbook, students will be trained to interpret a variety of literary works—classics of English, American, or French literature as well as our contemporary Japanese texts (including Ghibli films)—from the perspective of gender, postcolonial, Marxist, or psychoanalytic theories. The course will be interactive in the following ways: submitting reaction papers or making comments in class. Students will be strongly expected to take an active part in class discussions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入（下記の教科書の「はじめに」を事前に読んでおく）
- 2回：精神分析批評1（当該章を事前に読んでおく）
- 3回：精神分析批評2（当該章を事前に読んでおく）
- 4回：ジェンダー批評1（当該章を事前に読んでおく）
- 5回：ジェンダー批評2（当該章を事前に読んでおく）
- 6回：フェミニズム批評1（当該章を事前に読んでおく）
- 7回：フェミニズム批評2（当該章を事前に読んでおく）
- 8回：ポストコロニアル批評1(当該章を事前に読んでおく)
- 9回：ポストコロニアル批評2(当該章を事前に読んでおく)
- 10回：マルクス主義批評1(当該章を事前に読んでおく)
- 11回：マルクス主義批評2 当該章を事前に読んでおく)
- 12回：テーマ批評1(当該章を事前に読んでおく)
- 13回：テーマ批評2 (当該章を事前に読んでおく)
- 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度:30% リアクションペーパー:30% 最終テスト割合：:40%

テキスト / Textbooks

小倉孝誠編集 『批評理論を学ぶ人のために』 世界思想社 2023 4790717763 ○

参考文献 / Readings

講義中に複数を適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

ある程度抽象的な議論にも参加できること。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

文学への扉

Door to Literature

文学と歴史

大坪 裕幸 (OTSUBO HIROYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC102
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ヨーロッパ各国（および米国や日本）の文学作品を扱い、様々な文学作品に描かれた「歴史」について考えていく。

We will deal with the literary works of each European countries and consider 《the history》 depicted in these works.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、我々は文学と歴史の関係について分析・考察する。より正確には、文学のなかで描写された歴史と、それらの作品の歴史的背景との関係を考える。まず作品に描写された様々な分野の歴史（の断片）について精読し、次に取り上げた作品を現実の歴史のコンテキストに当てはめて俯瞰する。このようにして毎回の講義で、文学と歴史の錯綜した関係を解きほぐしていく。

The purpose of this lecture is to analyze and consider the relationship between the literature and the history, to be more exact, between the histories depicted in literal works and the historical background of these works. At first we will read carefully the depiction of various genres of histories, secondly focus on the historical context of

the works examined. In this way we will comprehend the intricate relationship between the literature and the history.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：叙事詩から歴史小説へ
- 3回：国民国家を作る文学
- 4回：フランス革命とドイツ教養小説
- 5回：美術史・音楽史と文学
- 6回：幻想小説・ゴシック小説と歴史—非歴史
- 7回：文学と神秘主義
- 8回：感覚の歴史と文学
- 9回：歴史のなかでの「他者との出会い」(1)
- 10回：歴史のなかでの「他者との出会い」(2)
- 11回：ユートピア小説と歴史—非・歴史
- 12回：マルクス主義の歴史観と文学(1)
- 13回：マルクス主義の歴史観と文学(2)
- 14回：世界戦争の時代と文学の終焉

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義そのものは熟達者のレベルに合わせるが、前準備・復習には Canvas LMS やメールを活用してフォローします。講義の内容についての詳しい解説も随時行うので、やる気と(予習・復習する)時間のある学生は大歓迎。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業態度:20% コメントペーパー:20%

授業態度20%+コメントペーパー20%+レポート試験60%により評価する。当然だが私語厳禁(守らない者はD判定)。なお2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト/Textbooks

ハンドアウトを配布する。

参考文献 / Readings

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項(検索結果画面)

全学共通科目/多彩な学び

文学への扉

Door to Literature

『平家物語』と日本中世への扉

鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC104
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

『平家物語』に登場する代表的な人物に注目して、関連する話題を精読し、その特質について理解する。あわせて、日本の古典文学を読み解くためのさまざまな視座や方法についての理解を深める。

In this class, we will focus on the representative personalities who appear in the Tale of the Heike, and read related materials to understand each's special characteristics. In doing so, other points of view and methods will be used to make detailed readings of Japan's Classic Literature.

授業の内容 / Course Contents

『平家物語』は13世紀に成立したのち、今日に至るまで長く読み継がれてきた、日本の中世文学を代表する作品の一つである。作中には、実際に起きた歴史上の出来事、実在した人物たちの姿が描き出されている。この授業では、主要登場人物を毎回一人ずつ取りあげて関連する話題を読み解き、この物語の特質をつかむとともに、人間や人間社会のありかたに対する語り手のまなざしを読み解いていく。

The Tale of the Heike is a representative work of Japan's Middle Age literature originating in the 13th century, and read until the present day. Within the text, actual historical events and persons are featured and depicted. In

this course, in each class one such person will be taken up, relevant readings will be completed, and the narration pertaining to people and society, as well as the characteristics of the tale will be focused on.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：テーマ概説
- 2回：平清盛――悪行人のゆくえ
- 3回：平重盛――賢人像の虚実
- 4回：平宗盛――大将として、父として
- 5回：平知盛――弟という立場
- 6回：平重衡――仏敵としての生と死
- 7回：平維盛――小松殿の公達
- 8回：平頼盛――裏切り者の作られかた
- 9回：平忠度――大力と風雅の才
- 10回：平敦盛――功名譚と悲劇
- 11回：平忠盛――平家繁昌の基盤
- 12回：安徳天皇――幼帝の入水
- 13回：建礼門院（平徳子）――女性に託されたもの
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業後に再読することが、物語を読む力をつけるための効果的な手段である。また、関心にしたがって、授業で扱った話題の前後の流れを読んでみることも、日本史・美術史・思想史・仏教史などの隣接諸学の入門書等を読んでみることも強くすすめたい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 各回の授業時のコメント:30%

理由にかかわらず、4回以上欠席した場合は評価対象とはしない。

テキスト / Textbooks

プリントを使用する。

参考文献 / Readings

日下力・鈴木彰・出口久徳 『平家物語を知る事典』 東京堂出版 2005 9784490106640

その他は授業時に随時指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本の古典文法に関する基礎的知識と、それを用いて原文を読む能力が必要。内容の読解と分析が中心となるため、自発的に考えながら読む姿勢が必要となる。

その他 / Others

講読は古文（原文）で行う。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目
多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

文学への扉

Door to Literature

ストリート・カルチャーの重要性

荏開津 広 (EGAITSU HIROSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC105
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

21 世紀、グローバルに私たちの住む世界を覆うカルチャーの大きな流れの一つは、1970 年代のニューヨークをルーツに持つヒップホップから発展したものである。他人の音楽をプレイする DJ、歌ではなくリズムカルなお喋りのラップなど、短命な若者向けの流行だと思われていたヒップホップがいかなる政治的、経済的、文化的利害と結びついていたのか、なぜローカルな文化と経験を超えたのか。この授業では、音楽、映像、文学のみならず、ファッション、デザイン、アートとその領域を拡げていくストリートの内と外での文化表現の特性を学び理解を深

In the 21st century, one of the major cultural trends covering the global world we live in developed from hip hop that started in New York in the 1970s. What political, economic, and cultural interests were associated with hip hop, which was thought to be a short-lived trend for young people, with its DJs who play other people's music and rappers who do not sing but rap rhythmically, and why did this culture go beyond its local culture and experience? In this course, we would like students to learn and deepen their understanding not only of music, videos, and literature, but also fashion, design, art and the characteristics of cultural expression on the inside and

outside of the street that expand the area.

授業の内容 / Course Contents

紋切り型で形容されがちなヒップホップという文化が、実際にはどのような政治的／社会的／技術的な条件や、送り手と受け手の関係のありようのなかで生まれていき、享受・消費されているかを探り、理解するようにつとめる。特にラップとDJが、その関連のなかでのストリート・アート／グラフィティ、(ストリート)ファッションをその題材としてとりあげる。使用するテキストは英語のものもあり、義務教育程度の英語の力を要する。

We will try to explore and understand from what political, social, and technical conditions and relationships between sender and receiver the culture of hip-hop, which tends to be stereotyped, was born and is enjoyed and consumed. In particular, we will take up rappers and DJs, in particular, and related street art/graffiti and (street) fashion as our subject matter. Some of the texts used will be in English, and students will require English skills up to compulsory education level.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：廃墟から立ち上がる 1
- 3回：廃墟から立ち上がる 2
- 4回：廃墟から立ち上がる 3
- 5回：声の文化と文字の文化 1
- 6回：声の文化と文字の文化 2
- 7回：声の文化と文字の文化 3
- 8回：押韻と意味の生成 1
- 9回：押韻と意味の生成 2
- 10回：押韻と意味の生成 3
- 11回：押韻と意味の生成 4
- 12回：日本のヒップホップ 1
- 13回：日本のヒップホップ 2
- 14回：日本のヒップホップ 3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

配布資料の読み込み、指示された映像・音資料の視聴などが望まれる

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 出席および授業参加度:20% 中間コメントペーパー:10%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

トリーシャ・ローズ ブラック・ノイズ みすず書房 2009

高山明 テアトロン 河出書房新社 2021

その他/ Others

授業にあたっては注意を払い事前に注意を喚起しますが、暴力や性的な行為を示唆する表現を扱うときがあります。履修する前によく留意して判断をお願いします

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

表象文化

Culture and Representation

映画分析入門

早川 由真 (HAYAKAWA YUMA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC106

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） 対面（一部オンライン）

- ・第 1, 3, 5, 6, 11, 12, 13 回授業をオンライン（オンデマンド）で実施する予定。
- ・大学の規定にしたがい、オンデマンドでの実施回は 7 回以下とする。
- ・オンデマンド実施回のスケジュールは諸事情により変更となる場合がある。その場合、なるべく早めに授業内および Canvas LMS のアナウンスメント機能にて通達する。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

映画は、様々な技法によって成り立っている。この授業では、映画を分析するさいに知っておくべき基本的な技法や知識を、古今東西における映画作品の様々な抜粋を用いつつ解説していく。それによって映画をより深く理解するための「見る力」および「聴く力」を鍛えることを目指す。

Films are made up of a variety of techniques. In this class, we will learn the basic techniques and knowledge to analyze films, using various films of the history. The aim is to develop the ability to “see” and “listen” in order to understand films more deeply.

授業の内容 / Course Contents

私たちは、ごく日常的に娯楽として（映画館で、あるいは自宅のテレビやモニターで...）映画を観て、楽しん

でいる。そして、映画の物語について「面白い」「つまらない」「感動した」「飽きた」等々の感想を抱いたり、誰かと語り合ったりするだろう。しかし、映画の魅力は「物語」だけにあるのではない。私たちを楽しませてくれる映画は、実のところ、様々な技法の集積のうえに成り立っている。分析する技術を磨くことで、「物語」とどまらない、映画の多彩な表情を楽しむことができるようになるのである。知識や経験を積むことで、映画を成り立たせている様々な技法や戦略などが「見えて」くるはずだ。そうした技法や戦略は、19世紀末に映画が誕生して以来、120年の歴史のなかで培われてきたものである。この授業では、古今東西の様々な映画作品の抜粋を取り上げつつ、映画を緻密に分析するために知っておくべき用語や知識、注目すべきポイントなどを解説していく。それによって、映画をより深く理解するための「見る力」および「聴く力」を鍛えることを目指す。

We watch and enjoy movies for entertainment on a daily basis. We have impressions about the story of a movie, such as “interesting” or “boring,” and discuss it with someone else. However, the appeal of films is not only in its “story.” Films that entertain us are in fact based on the accumulation of various techniques. By improving our analytical skills, we will be able to enjoy not only the “story” but also the various expressions of the film. As we gain knowledge and experience, we will be able to “see” the various techniques and strategies that make a film what it is. These techniques and strategies have been cultivated over 120 years of history since the birth of cinema at the end of the 19th century. In this class, we will take up various films from the history, and learn the terms and knowledge to analyze films in detail. The class aims to develop the ability to “see” and “listen” in order to understand films more deeply.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：映画産業とテクノロジー
- 3回：映画分析の基礎知識① フレーム、撮影
- 4回：映画分析の基礎知識② 編集
- 5回：映画分析の基礎知識③ 演出 (1)
- 6回：映画分析の基礎知識④ 演出 (2)
- 7回：見ること、動くこと①
- 8回：見ること、動くこと②
- 9回：映画の空間①
- 10回：映画の空間②
- 11回：動線
- 12回：主題論
- 13回：音
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

特定の映画作品の観覧や、文献の熟読を課す場合がある。作品の観覧にあたっては、図書館やレンタルショップ

プ、動画配信サイトなどを活用すること。それらの活用方法に関しては、授業内で詳しく説明する。なお、授業で紹介された作品や文献をはじめ、興味を持った作品や文献を自発的に観覧したり、読んだりする姿勢が望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111）/ Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

- ・レポート試験の提出が単位取得の前提となる。
- ・単位取得のためには平常点とレポート試験の点数の合計が合格点を上回る必要がある（＝レポート試験を提出しても、平常点との合計が合格点を上回っていない場合、単位を取得できない）。
- ・出席していれば自動的に平常点が加算されるわけではない（＝出席自体は平常点とならない）。平常点はリアクションペーパーの内容に応じて、毎回0～5点で採点し加算していく。
- ・すなわち、一定の出席回数を満たしていれば単位が自ずと取得できるタイプの授業ではない。出席の回数よりもリアクションペーパー

テキスト/ Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業内で必要に応じて資料を配布する。なお、参考資料としてさしあたり以下を挙げておく。

デイヴィッド・ボードウェル、クリスティン・トンプソン『フィルム・アート——映画芸術入門』名古屋大学出版会、2007年。

スティーヴ・ブランドフォード他『フィルム・スタディーズ事典——映画・映像用語のすべて』杉野健太郎、中村裕英監訳、フィルムアート社、2004年。

村山匡一郎（編）『新装増補版 映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルムアート社、2013年。

ジョン・マーサー、マーティン・シングラー『メロドラマ映画を学ぶ』

その他/ Others

■レジュメまたはPowerPointを用いた講義形式で、映像資料も適宜使用する。

■上記「授業計画」はあくまで暫定的なものであり、受講者の意向や関心に応じて臨機応変に調整することがある。

■《※注意》暴力的・性的にやや過激な描写を含む作品を取り扱う場合がある。そうした場合は上映前にアナウンスをする等、一定の配慮をするが、そのような描写が極端に苦手な方は受講の際に注意すること。

■専門や学年を問わず、映画に関心を持つ者を歓迎する。ただし、「好き／嫌い」や「共感できる／できない」などといったアマチュア的

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

表象文化

Culture and Representation

〈異文化の他者〉の表象

吉田 治代 (YOSHIDA HARUYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC107
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

〈異文化の他者〉の表象という観点から、ヨーロッパ（特にドイツ）近代の思想文化、さらには日本を含めた世界の一体化の歴史的プロセスとその問題に対する理解を深める。

This lecture aims to give an overview of the history of cross-cultural representation in modern Europe.

授業の内容 / Course Contents

近世におけるいわゆる新世界の発見以来、それに続く植民地主義や帝国主義、20世紀の戦争の時代に至るまで、ヨーロッパにおいては、哲学的思索から文学や美術、映画など、さまざまな分野で、非西洋の〈異文化の他者〉の像が繰り返し描かれ議論とされてきた。本講義では、18世紀以降の他者イメージの変遷をたどり、他者像を通して見えてくるヨーロッパの自己像について議論していく。後半では特にヨーロッパにおける日本像にフォーカスするとともに、日本における他者像についても検討する。

From the so-called discovery of the new world to the era of colonialism and imperialism, images of non-european others have been repeatedly drawn and discussed in various fields from philosophical thinking to literature, painting art and film. In this lecture, we will trace the transition of the image of others since the 18th century.

In the second half of the class we will focus on the image of Japan in Europe. In addition, we will examine the image of others in Japan.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：啓蒙主義の時代の異文化表象（1）
- 3回：啓蒙主義の時代の異文化表象（2）
- 4回：帝国主義の時代の異文化表象（1）
- 5回：帝国主義の時代の異文化表象（2）
- 6回：帝国主義の時代の異文化表象（3）
- 7回：ヨーロッパにおける日本像（1）
- 8回：ヨーロッパにおける日本像（2）
- 9回：ヨーロッパにおける日本像（3）
- 10回：近代日本の異文化表象（1）
- 11回：近代日本の異文化表象（2）
- 12回：戦後の異文化表象（1）
- 13回：戦後の異文化表象（2）
- 14回：まとめとテスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り上げた文献は、図書館などを利用して可能な限り読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回のリアクションペーパー・授業への参加度：60% 最終テスト割合：40%

正当な理由なく3回欠席した場合、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

授業の進度や履修者の関心に応じて、取り上げる作品やテーマを変更する可能性がある。なお、本講義のテーマは2022年度「文学講義117」の一部と重複しているが、内容は全学共通科目向けにアレンジされている。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別A

表象文化

Culture and Representation

フランスのフェミニズム映画

中田 麻理 (NAKATA MARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC108

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

フェミニズム的な企図のもと製作されたフランスのいくつかの映画作品に触れ、ディスカッション等を通して理解を深める。

In this class, we will discuss and deepen our understanding of several French films made with a feminist agenda.

授業の内容 / Course Contents

・3週間で1本の映画を鑑賞し、グループディスカッションなどを通してフェミニズムに関するさまざまなテーマについて理解を深める。

・本授業は18歳以上の履修者を想定している。映像倫理機構（映倫）のR18+指定を受けた映画や、それに準ずるような性表現や暴力的な表現を含む映画を扱う可能性があるため、慎重に判断した上で履修すること。

- We will watch one film in three weeks and deepen our understanding of various feminist topics through group discussions and other activities.

- This class is intended for students 18 years of age or older. Sexually explicit or violent films may be covered.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（授業の運営方針の確認、フェミニズムとは何か？、フランスにおけるフェミニズムの歴史）
- 2回：ミソジニーとは？①
- 3回：ミソジニーとは？②
- 4回：ミソジニーとは？③
- 5回：性と政治①
- 6回：性と政治②
- 7回：性と政治③
- 8回：中間テスト
女性の解放？①
- 9回：女性の解放？②
- 10回：女性の解放？③
- 11回：クィアな視線①
- 12回：クィアな視線②
- 13回：クィアな視線③
- 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ジェンダーやセクシュアリティ等のトピックに関して基本的なことは学習しておくことが望ましい。
- ・最終テストまでには授業で扱った映画とは別に関連のある内容の映画を最低1本視聴することが求められます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間テスト:30% リアクションペーパーの内容と提出率:30% 最終テスト割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

イレヌ・テリー 『フランスの同性婚と親子関係——ジェンダー平等と結婚・家族の変容』 明石書店
2019 9784750347769

シモーヌ・ヴェーユ 『シモーヌ・ヴェーユ回想録』 パドウィメンズオフィス 2011 9784904111987

参考文献は必要に応じて授業中に紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・ジェンダー、フェミニズム等に関心があることが望ましい。
- ・フランス語の学習歴は問わない。

その他 / Others

授業内容は予定であり、授業開始時の状況や学生の希望などによって変更する可能性があります。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

表象文化

Culture and Representation

〈戦禍〉の文学を読む

石川 巧 (ISHIKAWA TAKUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC109
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

文学テキストや映像表現の分析を通して、そこに描かれる人間、および、社会・風俗・文化の諸相を考察する能力を鍛える。文学テキストを解釈し、そのテキストが投げかけている問題を自らの言葉で編成し直す能力を鍛える。

Through analysis of literary texts and visual expressions, we will train students' ability to consider the people and various aspects of society, customs and culture that are depicted. We will interpret literary texts and train students' ability to restructure the problems that the texts raise in their own words.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、〈戦禍〉すなわち戦争が人々にもたらしたさまざまな禍を描いた文学テキストを精読する。戦争は戦場だけで起こってということではなく銃後の暮らしをも破壊する。その暗い影は長い時間が経っても残存し続け、人々の運命を変えてしまう。この授業では、毎回、ひとつの文学テキストを取り上げ、それが投げかける問題を受講生のみなさんと共有しながら文学を読むという行為そのものについて考察をめぐらせる。

In this class, we will carefully read literary texts that depict the various disasters that war brings to people. War

doesn't just happen on the battlefield; it also destroys people's lives behind the scenes. That dark shadow continues to remain even after a long time, changing people's destinies. In this class, we take up one literary text each time, share with students the questions it raises, and reflect on the act of reading literature itself.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション 徳富蘆花「不如帰」を事例として
- 2回：芥川龍之介「羅生門」
- 3回：江戸川乱歩「芋虫」
- 4回：夢野久作「氷の涯」
- 5回：久保田万太郎「樹蔭」
- 6回：太宰治「メリイクリスマス」
- 7回：横光利一「微笑」
- 8回：川端康成「山の音」
- 9回：占領期のカストリ雑誌における原爆の表象
- 10回：長谷川四郎「小さな礼拝堂」
- 11回：吉川英治「宮本武蔵」(ラジオドラマ版)
- 12回：松本清張「赤いくじ」
- 13回：石原吉郎「望郷と海」
- 14回：早坂暁「夢千代日記」

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で扱うテキストについては、毎回、授業時間外での精読を指示し、各自の〈読み〉をリアクション・ペーパーにまとめてもらう。また、リアクション・ペーパーのなかで特に優れた内容のものを翌週の授業冒頭で紹介し、複数の〈読み〉を共有する。レジュメ、論文などの資料はすべてPDF化してCanvas LMSに掲載する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回のリアクション・ペーパーの評価:100%

テキスト/ Textbooks

○

毎週、テキストに沿って講義をする。補助的にプリントを配布したり映像資料を見てもらったりするが、基本的にはテキストなしでは理解できない内容になる。したがって、テキストは必ず購入すること。リアクション・ペーパーはCanvas LMSで管理する。

参考文献 / Readings

その他/ Others

(1) 授業中に私語をする学生は退出していただく。(2) リアクション・ペーパーについてはCanvas LMSに提出してもらう。(3) 正当な理由のもとで「欠席届」が提出されている場合は、当該授業に関して欠席と見做

さない。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

表象文化

Culture and Representation

米文学のアダプテーションとポリアモリーの水脈

舌津 智之 (ZETTSU TOMOYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FC110
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（全回対面）
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2300
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

古典的なアメリカの小説ないしは演劇作品とその映像化がもたらす解釈の方法論を見定め、文学テキストの間メディア的な振幅を定位する。その際、性の規範を攪乱するポリアモリー（polyamory）の主題に着眼する。

The objective of this course is to comprehend the interpretive methodology by which to contextualize a selection of classic American novels or plays and their corresponding film adaptations. Throughout the course, particular emphasis will be placed on exploring the theme of polyamory, which challenges conventional norms of sexuality.

授業の内容 / Course Contents

言語構築物としての文学作品を、非言語の表象を含む領分へと開展するアダプテーションの方法は、近年、間メディア性の力学として注目を集めつつある。たとえば、本講義の最初に取り上げるレオス・カラックス監督のフランス映画『ポーラ X』の“Pola”とは、下敷きとなるメルヴィル作品の仏訳タイトル（Pierre ou les ambiguïtés）を成す4語の頭文字をつないだものであり、原作の脱構築による創造的な反復可能性を象徴的に示しつつ、メルヴィルが提示する性の深みに寄り添う姿勢を打ち出した符牒であると言ってよい。本講義では、モノガミーを相対化する複数愛の主題を補助線に、いくつかの米文学テキストを時間の能う限り精読しな

がら、その映像化作品を併せて鑑賞することで、言語と非言語の共振に淵源する官能の諸相を捉えたい。

The method of adaptation that expands literary works as linguistic constructs into the domain encompassing non-verbal representations has garnered attention in recent years as a cross-media dynamic. For instance, “Pola” in the French film *Pola X*, directed by Leos Carax, is derived from the initials of the four words composing the French translation title of the underlying Melville work (*Pierre ou les ambiguïtés*). As such, Carax’s title symbolically illustrates the creative repeatability resulting from the deconstruction of the original, while effectively presenting an attitude that aligns with Melville’s profound exploration of sexuality. In this course, we aim to capture various aspects of sensual experiences rooted in the resonance between verbal and non-verbal elements. Using the theme of polyamory that relativizes monogamy, we will analyze several American literary texts and concurrently appreciate their cinematic adaptations, delving into the facets of sensuality arising from the convergence of language and non-verbal expressions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：序説
- 2回：ハーマン・メルヴィル『ピエール』と『ポーラ X』(1)
- 3回：ハーマン・メルヴィル『ピエール』と『ポーラ X』(2)
- 4回：ハーマン・メルヴィル『ピエール』と『ポーラ X』(3)
- 5回：ケイト・ショパン『目覚め』と『グランド・アイル』(1)
- 6回：ケイト・ショパン『目覚め』と『グランド・アイル』(2)
- 7回：小テスト (1)
- 8回：イーディス・ウォートン『エイジ・オブ・イノセンス』とその映画版 (1)
- 9回：イーディス・ウォートン『エイジ・オブ・イノセンス』とその映画版 (2)
- 10回：テネシー・ウィリアムズ『欲望という名の電車』とその映画版 (1)
- 11回：テネシー・ウィリアムズ『欲望という名の電車』とその映画版 (2)
- 12回：アーネスト・ヘミングウェイ『エデンの園』と『ガーデン・オブ・エデン』(1)
- 13回：アーネスト・ヘミングウェイ『エデンの園』と『ガーデン・オブ・エデン』(2)
- 14回：小テスト (2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り上げられる作品は、(翻訳でよいので) 可能な範囲内で (授業前であれ授業後であれ) 手に取って読むことが望ましい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 小テスト (2回) :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

ハーマン・メルヴィル 『ピエール』 国書刊行会 1999 9784336041913

ケイト・ショパン 『目覚め』 荒地出版社 2004 4752100908

イーディス・ウォートン 『エイジ・オブ・イノセンス』 新潮文庫 1993 9784102413012

テネシー・ウィリアムズ 『欲望という名の電車』 新潮文庫 1988 9784102109069

アーネスト・ヘミングウェイ 『エデンの園』 集英社文庫 1990 9784087601947

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

学期中に行う2度の論述式小テストはそれぞれ2,000字以上、それとは別に課される最終レポートは6,000字以上とする。文学とその文化表象に深い関心を持ち、その関心を自らの言葉で文章へと落とし込むいとなみに意欲的な受講者を歓迎する。また、扱う作品の原文を示したり、字幕のない本邦未公開の映像作品を鑑賞したりもするので、一定の英語能力を有していることが期待される。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

美術の歴史

History of Art

西洋美術史入門：原始美術から 20 世紀の芸術運動まで

本橋デミル 瞳 (MOTOHASHI DEMIR H.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC111
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 1、西洋美術史の大きな流れを知ること（時代区分、様式、図像など）。
- 2、見えるもの（作品）と見えないもの（歴史・文化・社会・経済・地理など）との合理的な関連性を理解すること。
- 3、受講者自身が作品（見えるもの）を前にし、その制作背景（見えないもの）とのつながりに、おのずと気づくことができるようになること。

以上を通して、受講者の「作品を観る力」が養われることを目標としている。

This course introduces how to build skills and capabilities to “SEE works.”

The aim of this course is to help students acquire

- 1) An knowledge of the major flow of Western art history,
- 2) An understanding the reasonable relation between what you can see (the work) and what you cannot see (the background of the work; history, culture, society, economy or geography, etc.),
- 3) An ability to notice the connection of the background to the work, namely, what you cannot see and what you

can see, when you see a work.

授業の内容 / Course Contents

パワーポイントを多用した講義形式となるが、出席者の積極的な参加（リアクションペーパー含む）も期待する。授業では作品を多く見せつつ、見えるもの（作品）と見えないもの（制作背景）とのつながりに注目し、西洋美術史の大きな流れを追う。科目は西洋美術とされるが、他の美術も比較対象として扱う。

This class will focus on the connection of what you cannot see to what you can see, while following the major flow of Western art history, by showing many images with PowerPoint. Students' active participation is also welcomed.

Though the subject of the course is Western art history, various worldwide works will be also considered for comparison.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：美の定義・原始美術・古代オリエント美術
- 3回：エジプト美術・ギリシャ美術
- 4回：ローマ美術・初期キリスト教美術
- 5回：ビザンツィン美術・初期中世美術・ロマネスク美術
- 6回：ゴシック美術・初期ルネサンス
- 7回：盛期ルネサンス・北方ルネサンス
- 8回：ドイツルネサンス・マニエリスム・バロック美術・オランダ絵画・フランス古典主義
- 9回：ロココ美術・新古典主義・ロマン主義・アカデミズム
- 10回：レアリズム・イギリス美術・バルビゾン派・印象派
- 11回：印象派・後期印象派・新印象派・ナビ派
- 12回：ラファエル前派・象徴主義・世紀末美術
- 13回：フォービズム・ドイツ表現主義・キュビズム・未来派・ダダ・シュルレアリスム・岡本太郎
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

積極的に展覧会や展示などに足を運び、本物の作品を観てその制作背景などを考えること。実践をつみ、可視と不可視の世界とのつながりに気づくことが多ければ多いほど美術作品の理解にも反映されるため、作品のみならず、見えているもの（鉛筆やパソコン、動物や人など）と、その成り立ちとのつながりを意識的に考え、自ら感じてみることも同時に有意義であり推奨される。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクションペーパー：30% 中間レポート：40% 最終テスト割合：30%

中間レポートはweb提出とする（紙媒体不可）。

テキスト / Textbooks

高階秀爾 『西洋美術史』 美術出版社 2002 9784568400649 -

購入は任意である。

参考文献 / Readings

レジュメは当日配布する。なお、レジュメおよびパワポを pdf 資料として授業後に web 上に公開する。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

美術の歴史

History of Art

19 世紀フランス絵画を通じて美術の見方を学ぶ

近藤 学 (KONDOU GAKU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FC112
授業形態：	オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）	
校地：	他
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2300
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

美術作品の歴史的・社会的背景を探ることで、好き嫌いとは異なる鑑賞法を身につける。

An exploration of historical and social background of artwork to learn ways of appreciation different from simple likes and dislikes.

授業の内容 / Course Contents

19 世紀フランス絵画の流れを概観します。高解像度スライドを大量に使用し、できるだけ具体的にわかりやすく解説します。講義は毎週アップロードとする動画で実施します（オンデマンド形式）。

並行して個々の事例を取り巻く歴史的・社会的文脈に注目します。初めはさして面白く思えない対象が、背景を知ると興味深く見えてくることもあります。美術鑑賞は「趣味（直感的な好き嫌い）」が決め手とみなされがちですが、「知る」「学ぶ」も重要だということを実感してもらいます。

美術の歴史は多様かつ幅広いため、一学期間の授業で全体を見渡すのはなかなか困難です。このため本講義ではあえてまとを絞ります（全カリでは他にも美術関連科目が開講されていますので、より広範な視点を求める方は調べてみてください）。とはいえ 19 世紀フランスは現代にまで影響を及ぼす美術上の大変化が数多く起

きた時期です。この授業で取り上げるクールベ、マネ、印象派などを深く学べば、21世紀を含めた他の時代・地域の美術を考える際のヒントになるはずです。

A survey of the 19th century French painting, presented and commented through numerous high resolution slides.

The focus is on the historical and social context of the cases examined. Works not immediately appealing may begin to be interesting when you know the background. Although looking at art is often seen as a matter of “taste” (intuitive likes and dislikes), study can enrich the experience significantly. No previous knowledge of or exposure to art required: anyone with curiosity or intellectual ambition is welcome to this course.

Given the breadth and diversity of history of art, a single lecture can hardly hope to encompass its entirety. For this reason this course intentionally limits its scope (there are other art history classes offered which provide a more broader view). That said, the 19th-century France was a time that saw great changes in art, the echoes of which can still be heard today. In-depth study of Courbet, Manet, Impressionism, and other artists to be covered in this course will be useful for understanding arts of other times and places, including our own 21st century.

The course schedule below is subject to change.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション [2024/09/20 配信開始]
- 2回：印象派(1) [2024/09/27 配信開始]
- 3回：公式美術（アカデミズム）の制度と様式(1)：アカデミー [2024/10/04 配信開始]
- 4回：公式美術（アカデミズム）の制度と様式(2)：国立美術学校 [2024/10/11 配信開始]
- 5回：公式美術（アカデミズム）の制度と様式(3)：サロン（官展） [2024/10/18 配信開始]
- 6回：19世紀フランスの新しい風景画(1) [2024/10/25 配信開始]
- 7回：19世紀フランスの新しい風景画(2) [2024/11/8 配信開始]
- 8回：クールベ(1) [2024/11/22 配信開始]
- 9回：クールベ(2) - マネ (1) [2024/11/29 配信開始]
- 10回：マネ(2) [2024/12/06 配信開始]
- 11回：マネ(3) [2024/12/13 配信開始]
- 12回：マネ(4) [2024/12/20 配信開始]
- 13回：マネ(5) - 印象派 (2) [2025/01/10 配信開始]
- 14回：印象派(3) [2025/01/17 配信開始]

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

学期中に首都圏で開催される展覧会や各美術館のなかから授業と関連の深いものを選んで紹介します。予復習を兼ねてぜひ足を運んでください。鑑賞に行った場合、成績評価の際に勘案します。詳細については授業内で説明します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% コメント (リアクションペーパー) :30%

●毎回コメント (リアクションペーパーに相当) をGoogleフォームで提出していただき、「授業参加度」として成績評価対象とします。意見・質問等には時間の許すかぎり講義内で回答します。書き方は自由ですが、授業を聞いていたかどうか伝わらない内容のものは無効とします (例: 極端に短い/インターネットに関連のありそうなキーワードを検索し、ただ書き写す)。●コメントおよびレポートでの剽窃 (いわゆる「コピペ」) は固く禁止します。発見した場合は「不可」評価となり、単位は取得できません。●講義動画は学期中いつでも閲覧できますが

テキスト/ Textbooks

参考文献 / Readings

PEN 編集部 編 『印象派。絵画を変えた革命家たち』 阪急コミュニケーションズ 2010 9784484102283

池上忠治・責任編集 『印象派時代 (世界美術大全集西洋編・第22巻)』 小学館 1993 4096010227

坂上桂子・大屋美那・賀川恭子 編 『印象派美術館』 小学館 2004 4096997072

ジョン・リウォルド 『印象派の歴史』 角川学芸出版 2004 4046519126

ジャン・クレイ 『印象派』 中央公論社 1987 4120016242

講義内容に関連する展覧会が毎年いくつか首都圏で開かれます。授業や Canvas LMS で紹介します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

授業を聞き、自分の関心や知識、経験にもとづいて、自分なりの感想をもち、それをコメントやレポートにまとめる能力

その他/ Others

予備知識がゼロでも、好奇心のある方ならどなたでも歓迎します。講義では自分の常識と異なる事象が紹介されることもあります。できるだけ明快に説明を試みますので、皆さんもオープンな心で聞いてみてください。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

美術と社会

Art and Society

「日常と非日常」、「象徴」、「不可視」の美術

毛塚 実江子 (KEZUKA MIEKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC113
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

西洋美術史の通史から一歩進み、各テーマに沿って作品を紹介する。興味を持ったテーマによる作品分析、考察をする力を養う。

Students are to be introduced art works with specific themes in Western Art history. Deepen the knowledge of Art history and understand universality and variety of the works.

授業の内容 / Course Contents

美術表現における「日常と非日常」、「象徴」、「不可視」をテーマにし、各時代、社会においてそれらがどのように描かれてきたかを追う。通史から一歩進み、テーマごとに作品を紹介する形式である。近現代美術も視野に入れつつヨーロッパの古代から中世のキリスト教社会を中心とした美術作品を扱う。

Seeing Western Art history from the point of each theme; Things Usual and unusual, Drawn Symbols, Invisibility. Analysis and consideration is needed according to each themes. The era that we mainly deal with is Medieval. Ancient and Contemporary Art will be introduced as comparison.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：日常と非日常 1 ギリシア神話と美術—パンアテナイア祭などの神々の祭り、オリンピック、神話の表現。
- 2回：日常と非日常 2 ローマ建築と美術：ポンペイ遺跡の日常、コロセウム、墓廟、凱旋門などの建築。
- 3回：日常と非日常 3 キリスト教美術と終末論：古代末期から中世末期までを通じた神の再臨と最後の審判。
- 4回：日常と非日常 4 旅と巡礼：ロマネスク期の聖遺物崇敬や巡礼路の教会建築を見る。
- 5回：日常と非日常 5 祝祭の美術：クリスマスや謝肉祭の源流を古代から中世まで辿る。
- 6回：美術と象徴 1 象徴的な表現とは：記号的表現から象徴主義、近現代美術まで。
- 7回：美術と象徴 2 動物の象徴性：供犠の獣、古代ギリシアのフィシオロゴスから中世のベスティアリまで。
- 8回：美術と象徴 3 植物の象徴性：古代ギリシアやイスラムの建築、アールヌーボー、ジャポニズムと、自然というキーワードも併せて考察対象とする。
- 9回：美術と象徴 4 擬人化表現：獣と人との混合、古代メソポタミアからギリシア・ローマの「古典」まで。
- 10回：不可視の美術 1 神の表現：キリスト教を中心にどのような表現で神が表されたかを見る。
- 11回：不可視の美術 2 夢の表現：旧約聖書のお告げから近代の幻想までを見る。
- 12回：不可視の美術 3 天使と魂の表現：古代から近現代までの天使、聖霊、霊の表現を見る。
- 13回：不可視の美術 4 悪魔と地獄、怪物の表現：キリスト教を中心に古代から 19 世紀末まで追う。
- 14回：不可視の美術 5 驚異の表現：世界地図と中世の東方譚からオリエンタリズムの考察まで。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

全カリ科目であるため、美術史の通史を修めている必要はないが、高校世界史程度の知識があるほうが望ましい。授業後に歴史的背景の復習を行うと理解が深まるだろう。

授業で扱ったテーマを用いたミニレポートを出題するので、興味をもった作品をより深く調べておくことよ。レポートには参考文献、信頼できる資料を添えることを条件とするので、早い時点で資料を集めておくことが望ましい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回のリアクションペーパー:40% 最終レポート割合 :30%最終テスト割合 :30%

レポートの課題は「いずれかの回のテーマを選び、具体的な作品を一つ以上挙げて独自に調査を行い、レポート形式に整えて 1500-2000 字にまとめる」を予定している。必ず参考文献を付して提出すること。リアクションペーパーも加点対象であるため、小問を出す場合がある。

テキスト / Textbooks

適宜レジュメで関連文献や資料を紹介する。

参考文献 / Readings

適宜レジュメで紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

西洋美術史を中心に扱うので、高校レベルの世界史の知識が必要です。世界史を全く履修していない場合は少

し難しいかもしれません。リアクションペーパーでは授業の内容を簡単にまとめる力が、レポートでは情報収集と考察を加える力が問われます。授業最後に行われるテストは持ち込み可ですが、ネットの使用は不可です。知識問題、授業の話題が出題されるので、授業に参加し、講師の話聞き、レジュメの内容を理解する能力が問われます。

その他/ Others

授業内容はリアクションや質疑、学生の方からの希望によって変更されることもある。上記のシラバス内容はあくまで目安である。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

美術と社会

Art and Society

西洋古代における美術と権力/ Art and Power in Antiquity

坂田 道生 (SAKATA MICHIO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC114
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

権力との関係を踏まえて各時代の美術の特徴を把握することで、西洋古代美術史の流れを掴むことを目標とする。

This class is aimed to study the course of ancient art by understanding Egyptian, Greek and Roman art history focused especially on the relationship between Art and Power.

授業の内容 / Course Contents

王や皇帝、教皇などの権力者は様々な美術作例や建築を創り上げてきた。エジプトの王ファラオはピラミッドを、古代ギリシアの政治家ペリクレスはパルテノン神殿を建設した。この講義では、単に美術作品を網羅的に見ていくのではなく、美術と権力との関わりに焦点を当てながら、古代エジプトから古代ギリシア、古代ローマにおいて制作された作品を考えてみたい。

Emperors, Kings and Popes created many art works and Architectures. Egyptian Pharaohs built Pyramids and Pericles built the Parthenon. In this class, students are encouraged to study Egyptian, Greek and Roman art works focused especially on the relationship between Art and Power.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：古代エジプト古王国の美術
- 2回：古代エジプト中王国の美術
- 3回：古代エジプト新王国の美術
- 4回：古代ギリシア美術と神話①遺跡
- 5回：古代ギリシア美術と神話②陶器画
- 6回：古代ギリシア美術と神話③神殿建築
- 7回：古代ローマ①ポンペイの壁画
- 8回：古代ローマ②肖像彫刻
- 9回：古代ローマ③スペルロンガ洞窟
- 10回：古代ローマ④トラヤヌスの記念柱
- 11回：古代ローマ⑤マルクス・アウレリウスの記念柱
- 12回：古代ローマ⑥ピアッツァ・アルメリーナの別荘
- 13回：古代ローマ⑦コンスタンティヌスの凱旋門と古代末期美術
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時レジュメで紹介する参考文献を参照し、授業の予習と復習をすることを推奨する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 複数回の小レポート:70% 出席及び授業態度:30%

なお、出席が6割以下の場合は評価対象としない。各回のリアクションペーパーにより加点。

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

適宜レジュメで紹介する。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

音楽の歴史

History of Music

近現代フランスの音楽と文化

神保 夏子 (JIMBO NATSUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC115

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

19 世紀後半～20 世紀前半のフランスの芸術音楽文化について基礎的な知識を身につけ、自らの関心や問題意識に引きつけて議論を展開することができる。

Students will acquire basic knowledge about the music culture of France from the late 19th century to the early 20th century and become able to develop discussions on the subject according to their own interests and issue-awareness.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、日本人にとっても比較的なじみ深い「ベル・エポック」と呼ばれる時代を中心に、19 世紀後半から 20 世紀中葉にかけてのフランスの芸術音楽と文化の諸相を辿ります。主要な音楽家の作品を通して、「フランス音楽」や「フランスにおける音楽」の歩みを追いながら、文学・美術・舞踊などの関連する諸芸術や文化史上のトピックについても、様々な角度から理解を深めていく予定です。授業では豊富な視聴覚資料を活用するとともに、プロの音楽家をゲストスピーカーとしてお招きし、できるだけ皆さんの耳や目で実際に音楽に触れていただく機会を設けたいと思います。

In this course, we will trace the history of French art music culture from the late 19th century to the middle of the 20th century, focusing on a period called "la Belle Époque," which may be familiar to Japanese people. Through the works and lives of major musicians, students will also deepen their understanding of various related art and cultural history topics including literature, fine arts, and dance from various angles while following the journey of "French Music" and "Music in France." In the classes, we would like to make use of abundant audiovisual materials and to invite professional musicians as guest speakers to provide opportunities for students to actually listen to and see the music.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業ガイダンスとイントロダクション
- 2 回：パリ・オペラ座とフランスのオペラ文化
- 3 回：カミーユ・サン＝サーンス (1835–1921)：「フランス音楽」の開拓者
- 4 回：ガブリエル・フォーレ (1845–1924)：サロンと教会の狭間で
- 5 回：クロード・ドビュッシー (1862–1918)：新たな響きの美学
- 6 回：作品鑑賞：オペラ《ペレアスとメリザンド》(1902)
- 7 回：モーリス・ラヴェル (1875–1937)：ファンタジーとエキゾティシズム
- 8 回：バレエ・リュスの世界：プリミティヴィズムから前衛まで
- 9 回：エリック・サティ (1866–1925)：音楽界の異端児
- 10 回：六人組と「狂乱の時代」
- 11 回：音楽史のなかの女性
- 12 回：大戦と音楽
- 13 回：オリヴィエ・メシアン (1908-1992)：「近代」から「現代」へ
- 14 回：ゲストスピーカーを迎えて

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・予習は特に必要ありませんが、授業内で紹介する参考書や配布資料記載の文献リストなどをガイドラインにしながら、各自で復習を行ってください。
- ・授業内で視聴した作品、時間の都合上紹介しきれなかった作品等の参考動画のプレイリストを Canvas LMS 上で共有します。文献とあわせて復習と発展的学習の一助にすることをお勧めします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 小テストとリアクションペーパー:40%

授業回数の 2/3 の出席がない場合は成績評価の対象としません。リアクションペーパーやレポートの代筆、剽窃を含む不正行為が発覚した場合は、出席取消、減点、単位取消などの措置を講じることがあります。

テキスト / Textbooks

授業は PowerPoint 資料に即して進め、適宜参考文献を紹介します。

参考文献 / Readings

今谷和徳・井上さつき 『フランス音楽史』 春秋社 2010 9784393931875

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

・西洋音楽に関する事前の専門知識や技能は必要ありませんが、授業内で紹介する作品や音楽史的事項について、各自の既有知識（日常のさまざまな音楽・文化体験、世界史、文学史など）と結び付けながら積極的に理解を深めようとする姿勢が求められます。

・毎回授業後に小課題の提出があります。過大な負担にはならないよう配慮していますが、学習の積み重ね（＝継続的な出席）を単位取得の前提としていますので、就職活動等であらかじめ多数の欠席（目安：授業回数の1/3以上）が見込まれる方には履修をおすすめしません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業支援システム「Canvas LMS」で授業資料や課題、授業連絡などを配信しますので、安定的に情報を受信できる端末が必要です。学期末にレポート試験（ウェブ提出）がありますので、PC環境の準備が推奨されます。

その他/ Others

すでにある程度音楽の知識や経験がある方はもちろん、クラシック音楽未経験の方にもできるだけわかりやすく解説していきます。学生のみなさんにとって「音楽」の捉え方の可能性が広がる授業となるよう願っています。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

音楽の歴史

History of Music

西洋音楽の歴史と理論

星野 宏美 (HOSHINO HIROMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC116

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

古代から現代まで、西洋音楽の歴史の変遷を理解するとともに、日常的に身近に聞いている音や音楽を、自らの論理と体系を持つ生命体として捉える。

The goal of this lecture is for students to understand the historical transition of Western music from ancient times to the present. Students will regard sounds and music as art form with its own logic and systems.

授業の内容 / Course Contents

講義。西洋音楽史の最重要な専門用語や基本概念を歴史的な視点から論じる。毎回の授業では音楽を実際に聴き、楽譜を用いながら分析を加える。音楽的能力（実技、楽典等）は問わないが、積極的な関心と意欲は必須。とくに理論的な側面に重点を置くので、学としての音楽との対峙を想定してほしい。下記のようなトピックを論じつつ、各時代（古代、中世、ルネサンス、バロック、古典・ロマン派、世紀転換期、現代）の音楽の特徴を考察する。

Lectures. We will discuss the most important technical terms and basic concepts of Western music history from a historical perspective. In each class, students will actually listen to the music and provide analysis while using the

musical score. Musical ability (practical, musical grammar, etc.) does not matter, but active interest and motivation are essential. As we will focus on theoretical aspects in particular, we hope that you will try to confront music as a scholar. We will consider the characteristics of the music of each period (ancient, medieval, renaissance, baroque, classical-romantic, turn of the century, modern) while discussing the following topics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：西洋音楽史の時代区分
- 2 回：音楽とは
- 3 回：音楽の構成（音、静寂、時間など）
- 4 回：音楽の素材（旋律、和声、リズム、音色、音強など）
- 5 回：音楽の記憶（形式、内容、感情、理念など）
- 6 回：音律（調律）
- 7 回：協和音程と不協和音程
- 8 回：音名（ドレミ）の起源
- 9 回：楽譜の基礎（五線、音部記号、調号など）
- 10 回：さまざまな音階・旋法
- 11 回：モノフォニー、ポリフォニー、ホモフォニー
- 12 回：和音の種類
- 13 回：調性とその崩壊
- 14 回：言葉と音楽

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

図書館所蔵の音楽事典類、AV コーナーの資料等を活用されたい。授業中に随時、具体的な活用法を紹介する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内小テストないし次週までの小レポートを毎回課し（兼出席票）、それらを合算:100%

2/3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

とくに指定しない。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

その他 / Others

時間厳守。私語厳禁。質問や指摘、討論はもちろん歓迎する。毎回の小テストや小レポートの概要を初回の授業で説明するので、必ず出席すること。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

音楽と社会

Music and Society

20 世紀音楽の冒険者たち

大宅 緒 (OYA ITO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC117
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面（全回対面）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

20 世紀音楽において、それまで誰もやらなかったことにあえて取り組んだ音楽家たち＝冒険者たちの活動や作品を通じて、個人の創造性と、その個人が属する社会との相互関係について考察する力を育む。

Through the activities and works of adventurers in 20th century music who dared to do things that no one had done before, students will develop the ability to consider the interrelationship between individual creativity and the society to which that individual belongs.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、19 世紀までのクラシック音楽とは一線を画したアイディアに基づく、20 世紀の音楽作品を鑑賞する。そして、そのような作品が生まれた必然性を、音楽の歴史のほか、同時代の政治や社会状況とあわせて検討する。

In this class, students will appreciate 20th century musical works based on ideas that were distinct from classical music up to the 19th century. The inevitability of such works will then be examined in conjunction with the history of music as well as the political and social conditions of the same period.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス～音楽の20世紀とは
- 2回：革命前夜
- 3回：都市の音・未来の音
- 4回：ドイツ音楽100年の覇権
- 5回：恐怖の芸術～スターリン時代の冒険者たち
- 6回：ニューヨーク52番街
- 7回：ダルムシュタット・夏
- 8回：鉄道のエチュード
- 9回：サイレンス～ジョン・ケージの軌跡
- 10回：実験工房の音楽
- 11回：ビートルズがやって来る
- 12回：In C～ミニマル、サイケ、モード・ジャズ
- 13回：すべてテキストは引用のモザイクである
- 14回：まとめ～音楽とは何か

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外に視聴することが望ましい演奏動画等は随時紹介する。このほか日常生活の中で触れる音楽が伝えるメッセージやその背景について、より意識的になってみる。また、分野や形態を問わず、音楽やダンスの実演に関わる機会があれば、それに一生懸命取り組むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回のリアクションペーパー:100%

テキスト / Textbooks

各授業回に資料を配布する。

参考文献 / Readings

- アレックス・ロス（柿沼敏江訳）『20世紀を語る音楽1』 みすず書房 2010 9784622075721
 アレックス・ロス（柿沼敏江訳）『20世紀を語る音楽2』 みすず書房 2010 9784622075738
 木石岳（編著）川島素晴（監修）『やさしい現代音楽の作曲法：はじめての〈脱〉音楽』 自由現代社
 2018 9784798222431
 沼野雄司 『現代音楽史：闘争しつづける芸術のゆくえ』 中央公論新社 2021 9784121026309

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

普段よく聴くジャンル以外の音楽に対して好奇心をもつこと。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

筆記用具のほか、PDF文書を見ることができるPC、タブレット端末、スマホ等を用意すること。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

音楽と社会

Music and Society

音楽する人一人の多様な感性や音楽的行動と社会との関わりを知る

横井 雅子 (YOKOI MASAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC118
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では世界の人々の歴史と生活を彩ってきた音楽（伝統音楽、俗に"民族音楽"として知られるもの、大衆音楽）や芸能のありさまを、地域や民族、時代との関わりを通して考察する。

音楽について学ぶが、必ずしも音楽そのものだけがフォーカスされるのではなく、その周辺にあるものにも広く目を向ける。

In this course, we will consider the music that has colored the history and lives of the people of the world (traditional music, what is known commonly as "ethnic music", popular music) and the state of performing arts through its relationship with regions, ethnic groups, and eras.

Students will learn about music, but rather than just focusing on the music itself, will also look broadly at the elements around it.

授業の内容 / Course Contents

さまざまな地域の音楽や芸能にかかわる読み切りのテーマを設け、多くの音源、映像資料を通して当該テーマの理解を深めることをめざす。回により、音楽的側面、社会的側面、文化的側面、関連領域との関わりなどを

クローズアップする。受講生が事象としての音とそれが発せられている様子や社会との関わりを通して対象を理解する手助けとしたい。

Basically, the classes will take the form of lectures. We will provide themes of readings related to music and entertainment in various regions, and the aim is to deepen students' understanding of these themes through many sound sources and video materials. We will look closely at the relationships between musical aspects, social aspects, cultural aspects, and related areas in each class. We would like to help students understand the subject through sounds as phenomena and the appearance of how they are emitted.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：音楽的感性を知り、音楽をすることの意味を考える
- 2回：歌う人一人が歌うことの意味を考える
- 3回：なぜ楽器は作られるのか一人が楽器によってめざすもの
- 4回：自然と音楽—自然の表象としての音楽
- 5回：信仰と音楽—神の音像としての音楽・芸能
- 6回：職能としての音楽—音楽を専門とする人々と伝承
- 7回：身体動作と音楽—舞踊と手を携える音楽
- 8回：パフォーマンス・アーツ
- 9回：西洋の進出と音楽
- 10回：西洋音楽にみる「異国」
- 11回：観光化と音楽・芸能
- 12回：国家戦略としての文化産業—「韓流」はどのようにして実現したのか（ゲスト：キム・ヨハンさん）
- 13回：キルギスの音楽と文化—シルクロードの音楽に触れる（ゲスト：ウメトバエヴァ・カリマンさん）
- 14回：伝統音楽とポピュラー音楽—ローカルからグローバルへ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

音楽を専門とする学生はほとんどいないと考えられ、特に知識を積むための授業でもないが、先入観や個人的な好みから離れて、さまざまな音楽をまずは聴いてみようという姿勢を尊重したい。授業の中で取り上げた例や関連する音楽を自発的に聴きなおす、あるいは探すことをぜひしてほしい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回のチェックシート:100%

テキスト / Textbooks

各授業回に資料を配布する。必要に応じて参考資料も添付する

参考文献 / Readings

参考資料は各回の資料の中で必要に応じて紹介する

その他 / Others

初回授業で実施の詳細を説明する

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

美術論演習

Seminar: Art Theory

作品を鑑賞し、語り合い、仮想展覧会を企画する

宮内 ふじ乃 (MIYAUCHI FUJINO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC119
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2340
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業は、展覧会を企画することによって、イメージや情報を説明、分析、解釈し、多様性を受け入れる力を向上させ、美意識を高めることを目標とします。

This course aims to improve students' ability to explain, analyze, and interpret imagery and information, to accept diversity, and to enhance their aesthetic awareness by planning exhibitions.

授業の内容 / Course Contents

- 受講生が実際に訪れた展覧会や美術館について報告をする。
- 展示空間を考えるワークショップを行う。
- 仮想展覧会を企画し、口頭発表する。
- 発表内容はレポートとして提出する。

授業の進行は受講者数によって調整される。

- Students will report on the exhibitions they have visited either online or in person.
- Workshop on art spaces.

3. Students will plan a virtual exhibition and make an oral presentation.

4. Students will submit a report on their presentation.

The progress of the class will be adjusted according to the number of students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

展覧会や美術館の鑑賞報告

2 回：学芸員を招聘し対話型鑑賞（日程調整有）を行う予定

3 回：展示空間を考えるワークショップ

4 回：展示空間を考えるワークショップ

5 回：展示空間を考えるワークショップ

6 回：仮想展覧会企画発表（構想のみ）

7 回：仮想展覧会企画発表（構想のみ）

8 回：仮想展覧会企画発表（構想のみ）

9 回：仮想展覧会企画発表と討論

10 回：仮想展覧会企画発表と討論

11 回：仮想展覧会企画発表と討論

12 回：仮想展覧会企画発表と討論

13 回：仮想展覧会企画発表と討論

14 回：仮想展覧会企画発表と討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

企画展や美術館に積極的に足を運ぶこと。

関心のある企画展や美術館の HP を訪問し、内容をチェックすること。

上記以外の授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表時の準備と報告:50% 担当時以外の討論への参加状況:25% レポート:25%

2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可。

仮想展覧会企画の口頭発表をしない場合は単位修得不可。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

特に指定しない。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

美術史に関する基礎知識が必要。

複数回の展覧会あるいは美術館に足を運んだ経験が必要。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、プレゼンテーションソフト

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

美術論演習

Seminar: Art Theory

キリスト教美術研究入門：作品を観る・読む

太田 泉 F. (OTA IZUMI FLORENCE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC120
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2340
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

英語による専門文献の講読を通じて、西洋美術史研究の基本的な方法論や知識を習得することを目指す。今回の授業では、2011年に大英博物館で開催された、キリスト教の聖なる人物の遺物である「聖遺物」を収める聖遺物容器をテーマとした展覧会「Treasures of Heaven: Saints, Relics and Devotion in Medieval Europe」の訳読を行う。美術史の専門的な解説を精読してゆくことにより、作品研究に必須の記述技能や方法論を学ぶ。

This course aims to provide students with primary methodologies and knowledge in studying Western art history through reading English texts. In this class, we will translate and read "Treasures of Heaven: Saints, Relics and Devotion in Medieval Europe," an exhibition held at the British Museum in 2011 on the theme of reliquaries that house the relics of Christian saints. Through closely reading specialized commentaries on art history, students will learn description skills and methodologies essential to studying artworks.

授業の内容 / Course Contents

西洋美術の歴史の中で、重要な役割を果たした聖遺物容器と造形作品の多様にして濃密な関係について、英文の専門文献を精読する。適宜、関連作品の画像を提示しつつ、補足的な作品解説を行う。

受講者にそれぞれ担当箇所を指示し、事前に訳文を作成してもらう。授業内で、英文・訳文を読み上げ、作品関連情報を紹介してもらう。

※適宜関連する日本語文献の紹介も行う。

The course will focus on the diverse and intense relationship between reliquaries and artworks that have played an important role in the history of Western art through close reading of specialized texts in English. The course will provide supplementary explanations of the works, presenting images of related works when appropriate. Each student will be assigned a section of the text and asked to prepare a translation of the text in advance. Students will be asked to read the English texts and translations in class and introduce information related to the works.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス キリスト教美術史と聖遺物容器
- 2 回：作品①②の解説、講読
- 3 回：作品③④の解説、講読
- 4 回：作品⑤⑥の解説、講読
- 5 回：作品⑦⑧の解説、講読
- 6 回：作品⑨⑩の解説、講読
- 7 回：作品 11,12 の解説、講読
- 8 回：作品 13,14 の解説、講読
- 9 回：作品 15,16 の解説、講読
- 10 回：作品 17,18 の解説、講読
- 11 回：作品 19,20 の解説、講読
- 12 回：作品 21,22 の解説、講読
- 13 回：作品 23,24 の解説、講読
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回で、事前に訳文を作成することが望ましい。また授業後、自らの訳文を修正すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 訳文評価:30% 授業への参加度:10%

テキスト / Textbooks

Martina Bagnoli et al. Treasures of Heaven: Saints, Relics and Devotion in Medieval Europe British Museum Press 2011 9780714123301 -

参考文献 / Readings

秋山聰 『聖遺物崇敬の心性史 西洋中世の聖性と造形』 講談社学術文庫 2018 4065135184

木俣元一／小池寿子 『西洋美術の歴史〈3〉中世—ロマネスクとゴシックの宇宙』 中央公論新社 2017

9784124035933

秋山聰／田中正之 『西洋美術史』 美術出版社 2021 4568389089

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

一定の英語力（大学入試レベル）

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

音楽論演習

Seminar:Music Theory

オペラ史

星野 宏美 (HOSHINO HIROMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC121
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2340
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

映像資料を用いてオペラを鑑賞し、作曲家と作品について学ぶとともに、時代的背景や題材、演奏や演出のあり方など、多角的な視点から考察する。

While appreciating operas using video materials, students will learn about the composers and the works and examine the historical background, the subject matter, and the way of performing and directing, etc. from various viewpoints.

授業の内容 / Course Contents

演習形式。初めの数回で教員が指針を与えた後、全受講生が発表を担当する。原則として毎回、1作のオペラを取り上げる。各回の担当者は、事前に必要事項を調査・分析した上で、鑑賞の手引きとしてレジュメ作成および口頭発表を行い、鑑賞後の討論を導く。受講人数によってはグループ発表となる。各国・各時代の代表作を中心に、多様な作品に触れることを目指すが、受講者の積極的な希望、提案があれば優先したい。

Seminar format. After guidance in the first few classes, all students will take charge of the presentations. As a general rule, we will take up one opera in each class. The person in charge of each session shall research and

analyze the necessary items in advance, make a summary and oral presentation as a guide for appreciating the opera, and guide the discussion after seeing the opera. Depending on the number of students, it will be a group presentation. We aim to touch upon various works, centered on the leading works of each country and era. We would like to give priority if there are proactive requests or suggestions from students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：総合芸術としてのオペラ
- 2回：音楽史とオペラ史
- 3回：オペラの前身
- 4回：バロック1（イタリアにおけるオペラ誕生）
- 5回：バロック2（型の生成）
- 6回：バロック3（各国への普及）
- 7回：古典派1（オペラの国際化とイタリアの支配力）
- 8回：古典派2（宮廷文化から市民文化へ）
- 9回：ロマン派1（各国のアイデンティティを求めて）
- 10回：ロマン派2（聖俗の新たな交錯）
- 11回：ロマン派3（オペレッタの誕生）
- 12回：20世紀以降（音楽と内容の多様化）
- 13回：新たな総合芸術（ミュージカル、映画など）との関係
- 14回：現代日本におけるオペラの意味

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

図書館所蔵の音楽事典類、AVコーナーの資料等を活用されたい。授業中に随時、具体的な活用法を紹介する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 担当回の発表、および毎回の討論とリアクション・ペーパー：60% 最終レポート割合：40%

3/4以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

とくに指定しない。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

その他 / Others

初めの数回の授業で取り上げる作品と担当者を決定するので、初回の授業に必ず出席すること。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

音楽論演習

Seminar:Music Theory

オペラ史

星野 宏美 (HOSHINO HIROMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC122
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2340
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

映像資料を用いてオペラを鑑賞し、作曲家と作品について学ぶとともに、時代的背景や題材、演奏や演出のあり方など、多角的な視点から考察する。

While appreciating operas using video materials, students will learn about the composers and the works and examine the historical background, the subject matter, and the way of performing and directing, etc. from various viewpoints.

授業の内容 / Course Contents

演習形式。初めの数回で教員が指針を与えた後、全受講生が発表を担当する。原則として毎回、1作のオペラを取り上げる。各回の担当者は、事前に必要事項を調査・分析した上で、鑑賞の手引きとしてレジュメ作成および口頭発表を行い、鑑賞後の討論を導く。受講人数によってはグループ発表となる。各国・各時代の代表作を中心に、多様な作品に触れることを目指すが、受講者の積極的な希望、提案があれば優先したい。

Seminar format. After guidance in the first few classes, all students will take charge of the presentations. As a general rule, we will take up one opera in each class. The person in charge of each session shall research and

analyze the necessary items in advance, make a summary and oral presentation as a guide for appreciating the opera, and guide the discussion after seeing the opera. Depending on the number of students, it will be a group presentation. We aim to touch upon various works, centered on the leading works of each country and era. We would like to give priority if there are proactive requests or suggestions from students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：総合芸術としてのオペラ
- 2 回：音楽史とオペラ史
- 3 回：オペラの前身
- 4 回：バロック 1（イタリアにおけるオペラ誕生）
- 5 回：バロック 2（型の生成）
- 6 回：バロック 3（各国への普及）
- 7 回：古典派 1（オペラの国際化とイタリアの支配力）
- 8 回：古典派 2（宮廷文化から市民文化へ）
- 9 回：ロマン派 1（各国のアイデンティティを求めて）
- 10 回：ロマン派 2（聖俗の新たな交錯）
- 11 回：ロマン派 3（オペレッタの誕生）
- 12 回：20 世紀以降（音楽と内容の多様化）
- 13 回：新たな総合芸術（ミュージカル、映画など）との関係
- 14 回：現代日本におけるオペラの意味

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

図書館所蔵の音楽事典類、AV コーナーの資料等を活用されたい。授業中に随時、具体的な活用法を紹介する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 担当回の発表、および毎回の討論とリアクション・ペーパー：60% 最終レポート割合：40%

3/4 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

とくに指定しない。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

その他 / Others

初めの数回の授業で取り上げる作品と担当者を決定するので、初回の授業に必ず出席すること。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

キリスト教美術

Christian Art

美術における聖母：聖母の図像学入門

黒岩 三恵 (KUROIWA MIE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC123
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

キリスト教美術で重要な位置を占める聖母マリアについて、旧約・新約聖書を参照しながら主要な図像の類型や、その背景にある教義、思想、美術家の意図について理解し、代表的な作品の解釈ができることを目標とする。

With a focus on Virgin Mary and her image in art, students will learn the basics of Christian art, and will be able to interpret Christian iconography on their own. Students will understand relations between Biblical passages, Christian dogma, cultural or social contexts and works of art.

授業の内容 / Course Contents

キリスト教美術は、ラテン語を解しない無学者すなわち一般信徒の聖書と比喻されることが知られるように、難解・複雑な教義を視覚化することで受容されやすくし、視覚を通じて超越的な真理へと信徒の信仰心を導く意図を持って制作された。この講義では、数多くの作品が制作された聖母に焦点を当て、彼女をめぐる教義や信仰のあり方にも触れながら、主要作品について掘り下げて解釈を行っていく。

Christian artworks purposefully translate complex doctrine into a visual form easier for laypeople to understand.

Carefully reading artworks reveals an intricate symbolism that guides the viewers' minds to a higher and deeper spirituality. In this course, an in-depth examination of the structure, meaning, and function of the image of the Virgin Mary will be given, and students will regularly write essays on a specific piece of art.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス・聖母とは何か？
- 2 回：聖母伝の図像（受胎告知1）
- 3 回：受胎告知2・小エッセイ
- 4 回：聖母伝：聖母の生涯1
- 5 回：聖母伝：聖母の生涯2
- 6 回：聖母伝：聖母の生涯3・小エッセイ
- 7 回：旧約聖書と聖母：エッセイの樹
- 8 回：聖母の家系図：聖アンナ三代ほか
- 9 回：旧約聖書と聖母：雅歌1
- 10 回：旧約聖書と聖母：雅歌2
- 11 回：小エッセイ・聖母子像
- 12 回：聖母子像
- 13 回：聖母子像
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

配布資料などを基に、典拠となる聖書抜粋などには必ず目を通すこと。小エッセイでは、聖書等のテキストを参照しながら作品の解釈をしてもらうので、復習を必ずしておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 小エッセイ:30% リアクションペーパー:10%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

参考文献、展覧会等については授業時に随時紹介する。授業時に使用する聖書の抜粋などは資料として随時配布する。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

キリスト教音楽

Christian Music

18/19世紀ドイツ語圏のオラトリオの系譜

星野 宏美 (HOSHINO HIROMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC124

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

18/19世紀ドイツ語圏のオラトリオおよび周辺ジャンルの代表作を知り、音楽とキリスト教、娯楽と建徳の関係を考察する。

This course will examine music and Christianity, entertainment and morality by acquainting students with representative works of the 18th/19th century German oratorio and surrounding genres.

授業の内容 / Course Contents

講義。オラトリオは宗教的な内容を歌詞とし、独唱と合唱、オーケストラのために作曲された大規模、大編成の作品である。宗教的な内容を題材とし、聖書に基づく台本が多い。台本や音楽の特徴、作曲家の生涯や、作品成立の背景などを検討する。毎回の授業では作品を実際に聴き、楽譜を用いながら分析を加える。音楽的能力（実技、楽典等）は問わないが、積極的な関心と意欲は必須。また、歌詞は主にドイツ語、加えて、英語、ラテン語などの外国語なので、授業で配布する対訳をもとに、内容を理解しようとする努力を期待する。

We will examine the characteristics of the script and music, the life of the composer, and the background of the works. In each class, students will listen to the work and analyze it using the score. No musical ability (practical

skills, musical notation, etc.) is required, but active interest and motivation are essential. The lyrics are mainly in German, but also in English, Latin.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オラトリオと周辺ジャンル（受難曲、ミサ曲、オペラなど）
- 2 回：バッハの《マタイ受難曲》
- 3 回：バッハの《ヨハネ受難曲》
- 4 回：ヘンデルの《エジプトのイスラエル人》
- 5 回：ヘンデルの《メサイア》
- 6 回：ハイドンの《天地創造》
- 7 回：ハイドンの《四季》
- 8 回：モーツァルトの《戴冠式ミサ》
- 9 回：ベートーヴェンの《オリーブ山のキリスト》
- 10 回：メンデルスゾーンの《パウロ》
- 11 回：メンデルスゾーンの《エリヤ》
- 12 回：シューマンの《楽園とペリ》
- 13 回：R. シュトラウスのオペラ《サロメ》
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

図書館所蔵の音楽事典類、音楽書、AV コーナーの CD や DVD を活用するとともに、積極的に生演奏に触れてほしい。授業中に随時、紹介する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業の理解度を問う小テスト・小レポート:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

授業中に紹介する。

その他 / Others

時間厳守。私語厳禁。質問や指摘、討論はもちろん歓迎する。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

都市と芸術

City and Art

15-17 世紀ネーデルラント美術と都市の発展・都市文化

中田 明日佳 (NAKADA ASUKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC125

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

15-17 世紀ネーデルラントにおける都市の発展や都市文化等をふまえつつ、そこで展開した美術の流れを理解する。

Taking into consideration factors such as urban development and urban culture in the Netherlands between the 15th-17th century, the course enables students to gain an understanding of the art that developed during this period.

授業の内容 / Course Contents

15-17 世紀ネーデルラントにおける美術の流れについて、それに密接に結びつき、大きな影響を与えた都市の発展や都市民たちの活動、都市文化等をふまえつつ講義する。

Focusing on the art in the Netherlands between the 15-17th century, the course will consider factors such as urban development, the activities of city dwellers, and urban culture which were closely connected to and had an immense impact on the art of that period.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション／近世初期ネーデルラント諸都市と美術～プロローグ
- 2回：15世紀ネーデルラント諸都市の成長と美術の発展1：ファン・エイク兄弟ほか
- 3回：15世紀ネーデルラント諸都市の成長と美術の発展2：ロベール・カンパン、ロヒール・ファン・デル・ウェイデン
- 4回：15世紀ネーデルラント諸都市の成長と美術の発展3：ディルク・バウツ、ヒューホ・ファン・デル・フースほか
- 5回：15世紀ネーデルラント諸都市の成長と美術の発展4：ペトルス・クリストゥス、ハンス・メムリンク
- 6回：世紀転換期ネーデルラント諸都市と美術1：ヘラルト・ダーフィット、ヒエロニムス・ボスほか
- 7回：世紀転換期ネーデルラント諸都市と美術2：アントウェルペンの画家たちの台頭
- 8回：16世紀アントワープと美術：ピーテル・ブリューゲル(父) ほか
- 9回：17世紀アントワープと美術1：ピーテル・パウル・ルーベンスほか
- 10回：17世紀アントワープと美術2：ヤン・ブリューゲル(父) ほか／17世紀オランダ諸都市と美術1：歴史画
- 11回：17世紀オランダ諸都市と美術2：歴史画つづき／風俗画
- 12回：17世紀オランダ諸都市と美術3：風俗画つづき
- 13回：17世紀オランダ諸都市と美術4：静物画
- 14回：17世紀オランダ諸都市と美術5：風景画／ネーデルラント版画史

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

美術館・博物館に足を運び、分野を問わず実際の作品を見る機会をつくってください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

基本的に毎回の授業中に課題を出します。成績評価の対象にはなりません。提出率が60%を切る場合は単位習得不可。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

勝国興責任編集 『世界美術大全集第14巻：北方ルネサンス』 小学館 1995

森洋子・若桑みどり責任編集 『世界美術大全集第15巻：マニエリスム』 小学館 1996

坂本満、高橋達史責任編集 『世界美術大全集第17巻：バロック』 小学館 1995

テーマにあわせて授業中に指示します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC等オンライン講義が受講できる環境を整えてください。

※接続の不具合等があった場合は、大学の担当部署に問い合わせ解決を図って下さい。

その他/ Others

講師本務の都合上、何度か休講させていただく可能性があります。オンデマンドへ形式の講義での代替等については都度お知らせしますので、あらかじめご了承ください。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

建築と文化

Architecture and Its Culture

日本建築・都市の歴史と文化

服部 佐智子 (HATTORI SACHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC126
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

古代から近代における各時代の建築や都市の特徴とその変容過程を理解し、日本の社会・文化を考察する。
The aim of this course is for students to become able to understand Japanese society and culture through the characteristics of the architecture and cities of each era from ancient times to modern times and their transformation process.

授業の内容 / Course Contents

日本では、中国大陸・朝鮮半島・西洋から、その文化、宗教、政治制度、思想を取り込み、日本の気候風土や既存の文化・宗教と融合させ、様々な建築や都市を築いてきた。同時に、建築や都市は人々の生活の場であり、新たな文化が生まれ、育まれる場所でもある。本講義では、住宅を中心に日本人の生活について学び、さらに都市施設へと視野を広げ、日本の建築や都市の特徴やその変遷と、そこで生きていた人々の生活・文化を学ぶ。以上より、日本の社会・文化について考察する。

Japan has incorporated various cultures, religions, political systems, and thought from the Chinese continent, the Korean peninsula, and the West, fusing them with the Japanese climate, topography, existing culture, and

religion to build various architecture and cities. At the same time, architecture and cities are places where people live their lives and places where new cultures are born and nurtured. In this course, students will learn about Japanese life and living mainly focused on housing, and we will broaden our horizons to urban facilities, and students will learn about the characteristics of Japanese architecture and cities, their transitions, and the life and culture of the people who live in them.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス／授業の目的と進め方の説明
- 2 回：宗教と建築（建築基礎知識）
- 3 回：使い方からみた住宅の歴史 1（接客）
- 4 回：使い方からみた住宅の歴史 2（団欒）
- 5 回：住まいと文化 1（沓脱/ユカ座とイス座）
- 6 回：住まいと文化 2（住宅設備）
- 7 回：都市計画（江戸）
- 8 回：都市計画（近代東京）
- 9 回：都市計画（戦後東京）
- 10 回：商いと建築・都市（百貨店など）
- 11 回：社交と建築・都市（ホテルなど）
- 12 回：娯楽と建築・都市（遊園地など）
- 13 回：衛生と建築・都市（公衆浴場、病院など）
- 14 回：まとめ・補足

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :45%

平常点割合 :55% リアクションペーパーの内容:30% 授業内で指示した課題:25%

詳細は1回目の授業で説明する、フィードバックについては、各授業のはじめに行う。欠席回数が5回以上の場合には、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

配布資料は授業にて配布する

参考文献 / Readings

Canvas LMS に適宜提示する

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業中に閲覧してほしい web 公開史料のリストの掲示、授業中のリアクションペーパー・課題の提出に「Canvas LMS」を使用するので、授業時にスマホもしくは PC を持参すること

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

舞踊論

Theory of Dance

舞踊の意味を探る

糟谷 里美 (KASUYA SATOMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC127

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業は、社会における多種多様な舞踊を取り上げ、現象としての舞踊を理論的科学的に捉えることにより、様々な視点から身体文化の一つである舞踊の意味を探求する力を涵養する。

This course takes up a diverse range of dances in society, and cultivates students' ability to explore the meaning of dance which is one of human culture by understanding dance theoretically and scientifically from various.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、地域に根差した文化や舞踊家たちの芸術活動の背景に触れながら、そこに出現する様々な舞踊に着目し、関連する研究を通じて、舞踊への理解を深めていく。取り上げる舞踊は、「生活文化の中の舞踊」「芸術としての舞踊」「教育の中の舞踊」「身体科学の中の舞踊」等である。授業内では、映像を適宜用いながら、舞踊について考察していく。

This course touches on the background of cultures in communities and of the dancers that appear in these communities to deepen students' understanding of dance through related research. The dances to be taken up are

"dance in our life", "dance in art", "dance in education", and "dance in physical science", etc. In the classes, we will study dance while watching videos as appropriate.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：舞踊とは何か
- 2 回：生活文化の中の舞踊
- 3 回：バレエの発祥と発展
- 4 回：モダンダンスの成立背景と展開
- 5 回：バレエ・リュスとその遺産
- 6 回：芸術としての舞踊
- 7 回：モダンダンスの発展
- 8 回：バレエとモダンダンスの融合
- 9 回：コンテンポラリーダンスに求められるもの
- 10 回：教育としての舞踊
- 11 回：日本における洋舞史
- 12 回：邦舞と洋舞の違いとは
- 13 回：バレエを科学する
- 14 回：舞踊をめぐる様々な視点

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容に関連した舞踊を劇場において生 (ライブ) で観る機会を持ち、舞踊への理解を深めることが望ましい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 出席および授業に取り組む姿勢:50%

テキスト / Textbooks

授業内で資料 (レジュメ) を配布する

参考文献 / Readings

授業内で紹介する

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

映像と社会

Visual Expression and Society

現代アメリカ映画論

早川 由真 (HAYAKAWA YUMA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC128

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） 対面（一部オンライン）

- ・第 1, 3, 5, 6, 11, 12, 13 回授業をオンライン（オンデマンド）で実施する予定。
- ・大学の規定にしたがい、オンデマンドでの実施回は 7 回以下とする。
- ・オンデマンド実施回のスケジュールは諸事情により変更となる場合がある。その場合、なるべく早めに授業内および Canvas LMS のアナウンスメント機能にて通達する。

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、具体的な作品分析の実践を通じて、現代のアメリカ映画を考察するための基本的な知識を学習する。映画を単に娯楽として消費するだけでなく、批判的に捉えたうえでより深く理解するための「見る力」および「聴く力」を鍛えることを目指す。

In this class, students will learn the basic knowledge for discussing “contemporary American cinema” through the practice of analyzing films. Through this perspective, the class aims to develop the ability to “see” and “listen” in order to understand films more deeply from a critical perspective, rather than simply consuming them as entertainment.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、現代のアメリカ映画について学術的にアプローチするための方法を学ぶ。「現代」の輪郭を明瞭に捉えるために、まずは「古典的ハリウッド映画」の歴史や形式に関する知識を習得し、そのうえで1960年代後半以後の「ニュー・ハリウッド」と呼ばれる変革について学習していく。さらには1990年代以降の様々な変化——CGをはじめとするデジタル技術の進展と普及、コングロマリット化や独立プロダクションの台頭といった産業面での変革、人種的・性的マイノリティの権利を重視したポリティカル・コレクトネスの導入、DVDやケーブルテレビおよびインターネット配信の普及などによる受容面での変化——についても学ぶことになるだろう。

In this class, students will learn how to approach American cinema of recent decades from an academic perspective. In order to get a clear picture of the outline of the “contemporary American cinema,” students will first acquire knowledge of the history and format of “classical Hollywood cinema,” and then learn about the changes that have taken place since the late 1960s, known as the “New Hollywood” period. In addition, students will learn about the various changes that have taken place since the 1990s: the development of digital technology, including computer graphics; industrial changes, such as conglomeration and the rise of independent production companies; the introduction of political correctness, emphasizing racial and sexual minority rights; and changes in reception, such as DVD, cable television and Internet streaming.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：古典的ハリウッド映画①
- 3回：古典的ハリウッド映画②
- 4回：撮影所システムとそれ以後①
- 5回：撮影所システムとそれ以後②
- 6回：ニュー・ハリウッド①
- 7回：ニュー・ハリウッド②
- 8回：ブロックバスター①
- 9回：ブロックバスター②
- 10回：デジタル革命とインデックス性①
- 11回：デジタル革命とインデックス性②
- 12回：インディペンデント映画①
- 13回：インディペンデント映画②
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

特定の映画作品の観覧や、文献の熟読を課す場合がある。作品の観覧にあたっては、図書館やレンタルショップ、動画配信サイトなどを活用すること。それらの活用方法に関しては、授業内で詳しく説明する。なお、授業で紹介された作品や文献をはじめ、興味を持った作品や文献を自発的に観覧したり、読んだりする姿勢が望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

- ・レポート試験の提出が単位取得の前提となる。
- ・単位取得のためには平常点とレポート試験の点数の合計が合格点を上回る必要がある（＝レポート試験を提出しても、平常点との合計が合格点を上回っていない場合、単位を取得できない）。
- ・出席していれば自動的に平常点が加算されるわけではない（＝出席自体は平常点とならない）。平常点はリアクションペーパーの内容に応じて、毎回0～5点で採点し加算していく。
- ・すなわち、一定の出席回数を満たしていれば単位が自ずと取得できるタイプの授業ではない。出席の回数よりもリアクションペーパー

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業内で適宜指示する。

なお、参考資料としてさしあたり以下を挙げておく。

北野圭介『新版ハリウッド100年史講義』平凡社新書、2017年。

藤井仁子（編）『入門・現代ハリウッド映画講義』人文書院、2008年。

『現代思想』2003年6月臨時増刊号〈総特集＝ハリウッド映画〉青土社。

村山匡一郎（編）『新装増補版 映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルムアート社、2013年。

吉本光宏『イメージの帝国／映画の終わり』以文社、2007年。

トマス・エルセサー&ウォーレン・バックランド『現代アメリカ映画研究

その他 / Others

■レジュメまたはPowerPointを用いた講義形式で、映像資料も適宜使用する。

■上記「授業計画」はあくまで暫定的なものであり、受講者の意向や関心に応じて臨機応変に調整することがある。

■《※注意》暴力的・性的にやや過激な描写を含む作品を取り扱う場合がある。そうした場合は上映前にアナウンスをする等、一定の配慮をするが、そのような描写が極端に苦手な方は受講の際に注意すること。

■専門や学年を問わず、映画に関心を持つ者を歓迎する。ただし、「好き／嫌い」や「共感できる／できない」などといったアマチュア的

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別A

身体表現と哲学

Bodily Expression and Philosophy

非日常的なものの冒険

堀 千晶 (HORI CHIAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC129
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

身体を精確に体験しなおすこと。

Precisely (re)experience the body.

授業の内容 / Course Contents

世の中の人々は、その大半は、身体をもっています。幽霊さえも、しばしば身体をもっています。雑踏を見わたせば、あちらにも身体、こちらにも身体……があります。とにかく様々な身体が、世界にはあふれています。しかし、身体が「あふれている」ことは、身体が「ありふれている」という意味ではありません。

ある人の身体は、ほかの誰の身体とも置き換えることのできないものです。つまり、一見意外かもしれませんが、「意識」や「考え方」よりも、「身体」のほうが、ある意味で、個性的だとすらいえるのです。どんな身体であれ、ありふれたものなどありません。

しかし、正確さを欠いた眼（日常を生きるなかで、どんどん差異に鈍感になっていってしまう）には、そう見えてしまうらしいのです。そうだとするなら、「ありふれていないもの」、「途方もないもの」こそが「あふれている」のを見るためには、世界の過剰さにふれるためには、緻密な眼（あるいは、緻密な身体）の育成が、

おそらく必要だといえます。

しかし身体は、あまりに身近なものであるがゆえに、あるいは、身「近」どころか「身そのもの」であるがゆえに、その個性がよく分からないというの、また事実だろうとおもいます。そもそも、私たちは自分自身の顔も全身像も直接見ることができませんし（鏡に写っている自分の顔は左右反転しています）、自分の身体がどのように機能しているのかもよく知りませんし（たとえば、内臓がいまちょうどなにを消化・吸収しているのか、精確に知っている人は、ほとんどいないはず）、自分の身体がどこまで非日常的なものに変身できるのかもよくわかっていません（おもいきって大胆な格好をはじめた（あるいは、これからしようとしている）ときの感情を想起してみてください）。

日常的な身体の使い方が、きわめて限定され、制限されたものである以上、人間の身体がもっているポテンシャルは、その狭い枠内でしか発揮されていません。身体のポテンシャルがどれほどのものなのか、身体はなにをなすのか、どんなふうにはたらくかが分かるのは、身体が日常性の外に出るとき、あるいは、決まった枠組の外に出ざるをえないときのことです。そのような営みを、ここでは仮に「表現」と呼ぶことにします。

本講義が扱うのは、身体を日常的な制約の外に連れ出すような表現行為の歴史です（ひるがえって、それは日常的な身体のあるかたを見つめ直すことにもなるとおもいますが、それはあくまで副産物でしょう）。映画、文学、ダンス、彫刻、音楽、絵画、写真、衣服……などにおける、身体の表現をとおして、個々の身体が有する個性の途方もなさを、さまざまな角度から考えてみたいとおもいます。関連する哲学・思想も、ジェンダー／セクシュアリティ／エロス論などを含め、適宜紹介します。

以下に授業計画を記しますが、あくまで暫定的で、予定のとおり進むとはまったくかぎらないということ、あらかじめご承知おきください。

Most people in the world have bodies. Even ghosts often have bodies. If you look at crowds, there are bodies here and there, too. Anyway, there are various bodies overflowing in the world. However, the fact that the world is "overflowing" with bodies does not mean that bodies are "ordinary."

One person's body cannot be replaced by anyone else's body. In other words, it may seem surprising at first glance, but the "body" is, in a sense, even more individual than "consciousness" or "thought." No matter what the body, there is nothing ordinary about it.

However, eyes that don't see reality clearly (eyes that have become increasingly insensitive to differences in daily life) will not see this. If so, in order to see that "unordinary things" or "extraordinary things" are "overflowing," in order to touch upon the excesses of the world, a precise eye (or a fine body) probably must be trained.

However, it is also true that since the body is so close to us, or because it is not "close" to us but "is" us, we cannot understand its individuality well. In the first place, we cannot directly see our own face or full-body image (our face in the mirror is flipped left to right), we don't know well how our bodies work (for example, I guess few people know exactly what their internal organs are digesting and absorbing right now), and we don't know well to what extent we can transform our bodies into something extraordinary (please recall the emotions of when you started (or were about to start) a bold style.)

As our daily usage of the body is extremely limited, the potential possessed by the human body is manifested only within this narrow range. The time that we understand what the potential of the body is, what it can do, and how it works, is when the body goes outside daily life or outside our fixed framework. Such activities are tentatively called "expressions" here.

What this lecture deals with is the history of the act of expression that brings the body out of the constraints of

everyday life. (On reflection, this will mean reconsidering the way of our bodies in daily life, but this will only be a by-product.) I would like to think about the extraordinary individuality of each body from various angles through the expression of the body in films, literature, dance, sculpture, music, paintings, photographs, and clothing, etc. Related philosophy and thought will be introduced as appropriate, including gender, sexuality and eros theory.

Please be aware that the lesson plan described below is tentative and may not always proceed as planned.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：ポール・ヴァレリーと三つの身体
- 3回：顔、鏡、欲望
- 4回：まなざしをめぐって
- 5回：ジェンダー、セクシュアリティ、アイデンティティ
- 6回：身体／音楽、あるいは身体を聴く
- 7回：身体と倒錯
- 8回：身体＝脳の世界
- 9回：ピナ・バウシュにふれる
- 10回：皮膚と表層の美学
- 11回：身体愛（1）穴をあける、彫る、彩色する
- 12回：身体愛（2）服をまとう
- 13回：個／集団のゆらぎ（ソロ／群舞）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本をたくさん読み、映画をたくさん見、刺激的な作品にたくさんふれること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :75%

平常点割合 :25% 中間レポート:25%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

ドイツ語圏の文学

Literature in the German-speaking sphere

ドイツ語圏の文学が映し出す生

五十嵐 豊 (IGARASHI YUTAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC130
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ドイツ語圏の文学の歴史的な流れを大まかに理解しつつ、個々の作品に見出される表現手法や問題性と向き合うことで、文学への理解と関心を深める。また、自分自身で作品を通読した上で、作品が内包する問題を見出し、それについて適切な文章で論じることができる。

While gaining a rough understanding of the historical flow of literature in the German-speaking sphere, we will deepen students' understanding and interest in literature by confronting the expressive methods and problems found in individual works. Also, after reading through the works themselves, students will be able to identify the problems contained in the works and discuss them in appropriate writing.

授業の内容 / Course Contents

近代～現代のドイツ語圏の文学作品（小説・戯曲）の中から、ぜひとも知ってもらいたいもの、学生時代に読んでもらいたいものを取り上げ、作者の生涯や時代背景、作品の内容などについて概説する。その上で、作品の一部を翻訳で読み、そこに見出される表現手法や問題性について考察する。毎回授業後、コメントペーパーとして自分の考えを適切な文章でまとめてもらい、提出してもらう。

また、映像化されている作品については、一部を DVD で観ながら、文字テキストとの表現の違いなどについて比較検討する機会を持つ予定である。

Among early modern to modern literary works in the German-speaking sphere (novels and plays), we will highlight those that we want the students to know and those that we want students to read in their student days, and will provide outlines the authors' lives and backgrounds, and the content of the works, etc. Following this, we will read translations of parts of the works and consider the expressive methods and problems found in them. In each class, students will be required to submit their opinions and thoughts about the work in appropriate writing. For works that have been made into films, we will watch parts of the DVDs and try to compare them with the text.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス ～ドイツ語とはどのような言語か、ドイツ語圏の文学とはどのようなものか
- 2 回：英雄叙事詩に刻まれた愛と復讐 ～『ニーベルンゲンの歌』
- 3 回：若きゲーテによる書簡体小説 ～ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ『若きウェルテルの悩み』
(1)
- 4 回：若きゲーテによる書簡体小説 ～ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ『若きウェルテルの悩み』
(2)
- 5 回：揺さぶられる人間性 ～クライスト『チリの地震』
- 6 回：「不気味なもの」を作り出すもの ～E.T.A. ホフマン『砂男』
- 7 回：芸術家と孤独 ～トーマス・マン『トニオ・クレーガー』
- 8 回：車輪に押しつぶされる少年 ～ヘルマン・ヘッセ『車輪の下』
- 9 回：リアルな非現実 ～フランツ・カフカ『変身』
- 10 回：新たな時代の新たな演劇を目指して ～ベルトルト・ブレヒト『三文オペラ』
- 11 回：児童文学を振り返る ～エーリッヒ・ケストナー『飛ぶ教室』
- 12 回：心のゆとりを失った現代人へ ～ミヒャエル・エンデ『モモ』
- 13 回：現代のベストセラーを読む ～ベルンハルト・シュリンク『朗読者』①
- 14 回：現代のベストセラーを読む ～ベルンハルト・シュリンク『朗読者』②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り扱う作品は、いずれも日本語訳があり、文庫本で購入可能である。上の「授業計画」に掲げた作品について、興味のあるものはできれば事前に、あるいは授業を受けた後に通読してほしい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業への積極的参加 (コメントペーパーへの取り組み、記述内容など) :50%

欠席が 5 回以上、もしくはコメントペーパーの未提出が 5 回以上ある場合、評価対象外となるので注意すること。

テキスト / Textbooks

毎回、資料（レジュメ、作品の抜粋など）を配布する。

参考文献 / Readings

手塚富雄・神品芳夫 『増補 ドイツ文学案内』 岩波書店 1993 4003500032

ドイツ語圏の文学の流れをコンパクトにまとめた上記の資料を手元に備えておき、必要に応じて参照することを推奨する。

その他/ Others

- * ドイツ語の知識は必要ではありませんので、ドイツ語を履修していない学生も履修可能です。
- * 「授業計画」に掲げた内容・順序などは一部変更されることがあります。
- * 初回授業時、詳しい文献リストを配布します。
- * ドイツ語圏の国々の文化や歴史に興味がある人、読書が好きな人、さらには読書の楽しさを知ってみたいと思う人などの積極的な参加を期待しています。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

フランス語圏の文学

Literature in the French-speaking sphere

言語とアイデンティティー

新行内 美和 (SHINGYOUCHI MIWA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FC131
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2300
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、フランス語で書く作家たちの文学作品をコーパスとし、各作品の読解をとおしてその背景にある思想や歴史を知り、文化の多様性を理解するとともに、エクリチュール（言語活動）が作家個人のアイデンティティーの問題といかに関わっているかを考える。

This course invites the students to find out literary works written in the French language. Through the reading of each work (translated in Japanese), the students will learn and understand about the philosophy behind it, historical background, and cultural diversity. Moreover, we will consider how "écriture (writing)" is related to issues of personal identity for the author.

授業の内容 / Course Contents

いわゆる「フランス文学」と「フランス語圏文学」との間に否応なく横たわる「隔たり」を意識しつつも、これらを「フランス語で書かれた文学」というより大きな枠組みでとらえ、様々な地域にルーツを持つ近現代の作家と作品を扱う。

言語とアイデンティティーとの関係を共通のテーマとして、作品の文化的・社会的背景を個別に分析すると同

時に、フィクション、自伝的テキスト、旅行記、民話、エッセイなど、文学の多様な表現手法を概観する。紹介する作家たちとフランス語との関わり方も様々である。ある作家にとっては母語であり、別の作家にとっては押し付けられた「支配者の言語」であり、また他の作家にとっては偶然めぐり合い外国語として習得した言語である。しかしいずれも「他者」との関係において「自分とは何者なのか」を問い、「書くこと」を通じて「主体的な自己」を新たに創造しようと模索した作家たちであり、そうして文学に新境地を開拓した彼ら/彼女らの作品に触れることで、言語という表現媒体が持つ力と可能性を再考する。

While being aware of the "gap" that inevitably exists between so-called "French literature" and "francophone literatures", we will take a broader framework of "French-language literature" and present modern and contemporary writers from different origins under a common theme, "writing and identity".

The cultural and social backgrounds of the works are analysed individually, we will also consider the various modes of literary expression (fiction, autobiographical writings, travel narratives, folk tales, essays...).

The authors we discuss here have a particular relationship with the French language. For some it is their native language, for others it is an imposed language, and for others it is a second language... However, all of these writers questioned "who they are" in relation to "others" and sought new ways to create a 'subjective self' through the act of writing. Studying their works, which broke new ground in literature, we will reconsider the power and potential of language as a medium of expression.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション（授業概要の確認、世界にひろがるフランス語の分布）
- 2 回：旅する作家たち：ニコラ・ブーヴィエを案内人に
- 3 回：「狂乱の時代」のパリと「外国人」たち
- 4 回：ネグリチュードと「黒人思想（パンセ・ノワール）」：エメ・セゼール
- 5 回：クレオールと「群島の思考」：エドゥアール・グリッサン
- 6 回：個と集団① 民の言葉を記録する：マリーズ・コンデ、パトリック・シャモワゾー
- 7 回：個と集団② 戦争と証言：アマドゥ・クルマ、ヴェロニク・タジョ
- 8 回：響くマグレブの声：アジア・ジェバル、タハール・ベン・ジェルーン、カメル・ダーウド
- 9 回：植民地に生まれ育った「フランス人作家」：マルグリット・デュラス、アルベール・カミュ
- 10 回：間文化社会ケベックと越境者たち：キム・チュイ、ダニー・ラフェリエール
- 11 回：フランス語と亡命者たち：アゴタ・クリストフ、アンドレイ・マキーヌ
- 12 回：言語と社会階層：アニー・エルノー、ディディエ・エリボン、エドゥアール・ルイ
- 13 回：母語の外で考える：エクソフォニーの作家たち
- 14 回：まとめ：アイデンティティーと視点の複数性（アミン・マアルーフを手がかりに）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・上記に名前をあげた作家は、いずれも日本語に訳されている作品があり、図書館にも所蔵があります。どの作家でもよいので少なくとも1冊は読むこと。
- ・上記のプログラムは、あくまでフランス語で書かれた文学作品のいくつかの潮流を大まかに示すものではあ

りますが、ここに提示した作家だけでもってその真の多様性をあらわすことはできません。授業内では他の作家や作品についても（日本語に訳されていないものも含め）できるだけ言及します。興味を持った学生は、各小テーマや作家について詳細に論じている参考文献を閲覧したり、原語あるいは英

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度（授業毎のリアクションペーパーの内容）:60%
ト割合 :40%

最終レポート

テキスト / Textbooks

授業内で資料（作品の抜粋など）を適宜配布する。

参考文献 / Readings

授業内で参考文献リストを提示する。

その他 / Others

- ・フランス語の知識はとくに必要ありません。
- ・「授業内容」は一部変更する可能性があります。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

スペイン語圏の文学

Literature in the Spanish-speaking sphere

イスパノアメリカの文学とその背景

内田 兆史 (UCHIDA AKIFUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC132

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

いわゆる「ラテンアメリカ」地域を、それ以外のアメリカやヨーロッパと比較し、またそれぞれの関係をとらえられるようになり、そのうえでイスパノアメリカの代表的作家たちの意識や作品に対する理解を深める。

The students will be able to compare the "Latin American" region with the rest of the New World and the Old, and their relationship to each other deepening understanding of the Hispano-American writers and their works.

授業の内容 / Course Contents

イスパノアメリカと呼ばれる地域、そして広くラテンアメリカが生み出した文学作品を、そこに暮らす人びとの歴史と、その中で生まれた暮らしやメンタリティ、政治との関わりとともに考察する。

イスパノアメリカについて、まずはその成り立ちや、歴史に基づいたモザイク模様を織りなす文化を概観し、20世紀から今世紀にかけてのこの地域の代表的作家とその作品を取り上げ、それぞれの作家、作品を、地域や時代の特徴をとらえる。また、そうした文学作品をきっかけに制作された映画についても考察する。

This class will examine the literary works produced in so-called Hispano-American region, knowing broadly its history, politics and the mentality of the people.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション 授業の目的と概要について説明し、中南米、ラテンアメリカおよびイスパノアメリカという語のとらえ方、それぞれが覆う範疇を定義する
- 2回：アメリカが誕生するまで ラテンアメリカ、とりわけイスパノアメリカの古代史を概観する。
- 3回：アメリカの誕生 ラテンアメリカ、とりわけイスパノアメリカの歴史を、そのほかのアメリカおよびヨーロッパとの比較・関連を考えながら、征服・植民地時代までを概観する。
- 4回：アメリカの独立 ラテンアメリカ、とりわけイスパノアメリカの歴史を、そのほかのアメリカおよびヨーロッパとの比較・関連を考えながら、各国独立以降の歴史を概観する。
- 5回：ラテンアメリカ文学概観
- 6回：カルロス・フエンテス「チャック・モール」を読む
- 7回：イサベル・アジェンデ「ワリマイ」を読む
- 8回：ミゲル・アンヘル・アストゥリアス「大帽子男の伝説」を読む
- 9回：エレナ・ガーロ「トラスカラ人の罪」を読む
- 10回：アウグスト・モンテローソ「日蝕」を読む
- 11回：オラシオ・キロガ「流れのままに」を読む
- 12回：マリオ・バルガス＝リョサ「決闘」を読む
- 13回：ガブリエル・ガルシア＝マルケス「フォルベス先生の幸福な夏」を読む
- 14回：アルゼンチンの作家たち

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

作品についてはそれまでに学んだ背景を意識しつつ授業前に読んで分析する。終了後に授業についてリアクションペーパーへの記述を求める。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回のリアクションペーパー:30% 短篇の感想を主とした小レポート (10回予定) :40% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

野谷文昭編訳 『20世紀ラテンアメリカ短篇選』 岩波書店 2019 9784003279311 ○

参考文献 / Readings**その他 / Others**

参考文献等は授業内で提示する。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

中国語圏の文学

Literature in the Chinese-speaking sphere

中国漢詩を読む

山崎 藍 (YAMAZAKI AI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC133
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2300
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 中国古典漢詩について、基礎的な知識を身につける。
- 中国文学の全体像を概観し、後世および日本に与えた影響や相違点を分析する。
- Acquire basic knowledge about classical Chinese poetry.
- Have an overview of Chinese literature, and analyze the influence and differences it had on later generations and Japan.

授業の内容 / Course Contents

古代から清代までの詩歌を主な題材として、その特徴と歴史的背景などを概観する。授業を通して、日本にあたえた影響や日本文学との違いについて考察する基礎力を涵養する。毎回、講義で取り上げた作品の感想や自分の考えをまとめたリアクションペーパー（200 字以上）を期日までに提出しつつ、第 6 回目と第 12 回目に小レポート（講義で取り上げた作品の鑑賞・分析。1000 文字以上）提出、および、学期末には文学史（漢詩）の概略をまとめてもらう予定である。

The main focus will be on the poetry from ancient times up to the Qing dynasty, examining their characteristics

and historical background, and developing fundamental skills to examine their impact on Japan and the differences from Japanese literature. For each lecture, it is planned for the students to submit a reaction paper (over 200 characters) by the deadline that summarizes their thoughts about the works discussed. Additionally, short reports (on the appreciation and analysis of the works covered in the lectures. Over 1000 characters) are due to be submitted in the 6th and 12th sessions. At the end of the term, students are expected to prepare an overview of literary history (Chinese poems).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション・漢詩概説
- 2回：上古歌謡――北の『詩経』と南の『楚辞』――
- 3回：秦・漢――辞賦と楽府・古詩――
- 4回：魏晋南北朝（1）――建安文学と正始文学――
- 5回：魏晋南北朝（2）――潘岳・陶淵明――
- 6回：隋・唐代（1）――近体詩の確立・平仄 初唐の詩――
- 7回：唐代（2）――盛唐 辺塞詩・自然詩――
- 8回：唐代（3）――盛唐 李白・杜甫――
- 9回：唐代（4）――中唐 韓愈・白居易――
- 10回：唐代（5）――晩唐 杜牧・李商隠――
- 11回：北宋――欧陽脩・蘇軾・詞の興隆――
- 12回：南宋――李清照・陸游・楊万里――
- 13回：元・明・清代――元明清の詩・『唐詩選』編纂――
- 14回：後期の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 小レポート（作品鑑賞）2回：40% 講義後のリアクションペーパー期日までの提出：30%
最終レポート割合：30%

講義全体の3分の2以上の出席がない場合、最終レポートの提出を認めません。

テキスト / Textbooks

教科書は無し。プリント配布を行う。

参考文献 / Readings

松原朗, 佐藤浩一, 児島弘一郎著 『教養のための中国古典文学史』 研文出版 2009.10

前野直彬編 『中国文学史』 東京大学出版会 1975.6

佐藤進, 濱口富士雄編 『全訳漢辞海』 三省堂 2017.1

その他 / Others

・履修を考えている学生は、初回の授業から出席すること。初回からコメントを平常点に加点します。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

朝鮮語圏の文学

Literature in the Korean-speaking sphere

近現代の小説と朝鮮半島の言語文化

相川 拓也 (AIKAWA TAKUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC134

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

20 世紀以降の朝鮮・韓国で書かれた小説を通じて、朝鮮語圏の近現代文学がどのように展開していったのかを学びます。その学習を通じて、日本ともきわめて密接な関係にあった朝鮮半島の言語、文化、歴史についての深みのある理解を目指します。

The course focuses on novels written in Korea from the 20th century onwards, and how modern and contemporary Korean literature developed. Through this study, students will be able to gain a deeper understanding of the language, culture and history of Korea, which has had extremely close relationships with Japan.

授業の内容 / Course Contents

授業は講義形式でおこなう予定です（受講人数によっては、演習に近い形式を試行することがあります）。

授業では主として小説の表現を抜粋して検討し、小説の主題に関する時代背景についても解説します。とりわけ、文学として書かれ流通するテキストが、それぞれの時代状況とどう切り結びつつ、その時代特有の表現として成立しているかという問題を、社会史や文化史の視点も加味しながら探求します。

The course will be conducted in lecture form (or we may try a seminar-like format depending on the number of students).

In the course, the lecturer will present some excerpts from the novels and stories and their interpretations, as well as explanations of the historical background of the work's subjects. In particular, we will explore the question of how literary texts are connected to the circumstances of their times, and are established as expressions specific to those times, while also taking into account perspectives of social and cultural history.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：近代文学の嚆矢 (1)：李光洙『無情』
- 3回：近代文学の嚆矢 (2)：3・1 独立運動と文学
- 4回：貧困と格差：姜敬愛『人間問題』
- 5回：植民地の風景：李孝石「そばの花咲く頃」
- 6回：中間まとめ (1)
- 7回：朝鮮戦争 (1)：黄順元『木々、坂に立つ』
- 8回：朝鮮戦争 (2)：朴婉緒「母さんの杭」
- 9回：冷戦と独裁の時代：趙世熙『こびとが打ち上げた小さなボール』
- 10回：中間まとめ (2)
- 11回：文学と社会：孔枝泳『トガニ』
- 12回：閉塞する世界で (1)：キム・エラン「三十」ほか
- 13回：閉塞する世界で (2)：キム・チョヨプ「館内紛失」ほか
- 14回：最終まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で使用する資料 (原稿・スライド) を PDF で配布します。予習・復習や課題・試験に取り組む際に役に役立ててください。

授業で取り扱う文学作品の日本語訳について、イントロダクションで情報を提供します。すべてを読破する必要はありませんが、関心のある作品については、学習の深度を上げるためにも学期中に一読することをおすすめします。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :55%
平常点割合 :45% レスポンスシート (学期中3回) :45%

テキスト / Textbooks

教科書は使用しません。授業資料を PDF で配布します。

参考文献 / Readings

波田野節子、斎藤真理子、きむ ふな編著 『韓国文学を旅する 60 章』 明石書店 2020 9784750351070
その他、講義で取り扱う文学作品の日本語訳を初回 (イントロダクション) および授業内で紹介します。

その他/ Others

履修にあたって朝鮮語の能力は不要ですが、朝鮮語や朝鮮語圏の文化・社会に関心のある方の受講を歓迎します。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

立教ゼミナール3

Seminars for Students of Rikkyo University 3

フランス文学・文化・思想への招待

桑瀬 章二郎 (KUWASE SHOJIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC171
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2340
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

フランス文学の代表作の抜粋を読み、多角的に考察します。もちろん文化、思想、芸術をふくみます。
Students will read extracts of iconic French literatures and reflect on them from multiple perspective.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、毎回一つのテキストを選び、そのテキストを多角的に検討します。これはあくまで、学生の発表・議論を中心に構成される授業です。しっかりと予習して参加してください。扱うテキストは、16世紀から20世紀までの文学、芸術や思想と多種多様です。モンテーニュ、ルソー、ゴッホなど有名な作家、著作ばかりを選んでいきます。自分が興味を持っている領域だけではなく、あらゆる分野について（いい意味で）「広く浅く」フランス文学について学びましょう。

In this class, a specific text will be selected every time. Students will discuss the selected text from multiple perspectives. In general, the class is made up of students' presentations and discussions. Students should study before the class and participate. Wide variety of texts will be used, including literatures, arts, and thoughts from

the 16th to 20th century. Solely well-known authors and works will be selected. Students will not be confined to their areas of interest. Instead, students will learn about French literatures in various areas (in a good sense) in wide yet shallow manner.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入。授業内容紹介。
- 2回：作品分析（1）。参加者による報告。全員での議論。
- 3回：作品分析（2）。参加者による報告。全員での議論。
- 4回：作品分析（3）。参加者による報告。全員での議論。
- 5回：作品分析（4）。参加者による報告。全員での議論。
- 6回：作品分析（5）。参加者による報告。全員での議論。
- 7回：作品分析（6）。参加者による報告。全員での議論。
- 8回：作品分析（7）。参加者による報告。全員での議論。
- 9回：作品分析（8）。参加者による報告。全員での議論。
- 10回：作品分析（9）。参加者による報告。全員での議論。
- 11回：作品分析（10）。参加者による報告。全員での議論。
- 12回：作品分析（11）。参加者による報告。全員での議論。
- 13回：作品分析（12）。参加者による報告。全員での議論。
- 14回：記述式テスト。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、指定されたテキストを熟読して授業にのぞむんでください。担当教員が課題テキストについて複数の「問い」を出すので、それについて考察・調査してきてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 小レポート:30% 報告・提出物（リアクションペーパーと並行）:20% リアクションペーパー:30% 最終テスト割合：20%

テキスト / Textbooks

初回の授業の際に資料を配布。

参考文献 / Readings

初回の授業の際に指示（プリント配布）。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

翻訳文献をつかいます。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

立教ゼミナール3

Seminars for Students of Rikkyo University 3

映像制作

樋本 淳 (HIMOTO JUN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC172
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2340
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

映像作品は「創り手」と「受け手」の関係で成り立っています。それは、劇映画であっても、TV 番組であっても、ドキュメンタリー作品であっても、ユーチューブでも変わりません。つまり、映像の「創り手」には、「受け手」の感情をコントロールするテクニックが必要となります。

この授業では、映像制作の各プロセスにおける「創り手のテクニック」を紹介。さらに短い映像作品を制作することで、そうしたテクニックの実践を目指します。

Moving-image works exist based on the relationship between the creator and the audience, a premise that applies to fictional films, TV shows, documentaries, and YouTube videos alike. In other words, the creator of a moving-image work must possess the techniques to control the emotions of the audience.

This course will introduce the techniques that creators use in each process of making their moving-image works. Furthermore, students will practice these techniques by creating their own short moving-image works.

授業の内容 / Course Contents

映像制作には、他の芸術作品と比べて、やや複雑なプロセスがあります。

授業では、劇映画の制作プロセスを紹介。それと並行して、受講者は映像作品の制作を行います。

前半の7週では、各自が短い映像（1～2分）を制作・発表。

後半の7週では、数人のグループで協力しながら、短編作品（3～10分）を制作・発表します。

Compared to the creation of other works of art, making a moving-image work involves a slightly more complicated process. This course will introduce the processes involved in making a fictional film. As they learn about these processes, students will also create their own moving-image works.

During the first seven weeks of the course, each student will create and present their own short work (1-2 minutes long).

During the seven weeks in the second half of the course, students will work in groups to create and present a short work (3-10 minutes long).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：作品1 構想・構成
- 3回：作品1 撮影
- 4回：作品1 撮影
- 5回：作品1 編集
- 6回：作品1 発表・講評①
- 7回：作品1 発表・講評②
- 8回：作品2 構成・脚本
- 9回：作品2 脚本
- 10回：作品2 ロケハン／撮影
- 11回：作品2 撮影
- 12回：作品2 撮影／編集
- 13回：作品2 編集
- 14回：作品2 発表・講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

構成・脚本・撮影・編集など、授業時間内に終了しなかったものについては、時間外に行う可能性があります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 1. 課題作品の提出（2回）：60% 2. 授業に臨む姿勢：40%

テキスト / Textbooks

適宜、プリントを配布します。

参考文献 / Readings

映像作品も含め、適宜、紹介します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

撮影・編集等の経験の有無は問いません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

撮影は、基本的に各自が持っているスマートフォンの動画撮影機能を使用して行います。

(スマートフォンに動画撮影機能がない場合でも受講可能です。)

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

立教ゼミナール発展編 3

Seminars for Senior Students of Rikkyo University 3

クリエイションの現場～インスピレーションの源泉としての音楽～

グレース, A. (GRACE AKIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC173

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP3340

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

音楽制作を原点に「映像と音楽」「五感とクリエイション」「AIと音楽」「建築と音楽」など、学際的なアプローチで音源や作品を考察し、創造の現場について理解を深める。国際的な視点をもって芸術文化を見つめ、日本独自の感性についても、伝統と革新の両方から考察する。さらに、ディスカッションや発表を通して発想力を身につけ、自身の専門分野をより広い文脈で捉えられるようになる。音楽、映像、建築、絵画、文学など、何らかの創作活動に強い興味を持っている学生の履修が望ましい。

In this course, students will explore the scene of interdisciplinary creativity, placing music at the center, through topics such as “Music and Video Art”, “The Five Senses in Creativity”, “AI and Music”, and “Architecture and Music” examining various art forms. Students will learn about music, art, and culture from an international point of view, and gain a new appreciation of sensitivities unique to Japanese culture, both traditional and modern.

Discussions and presentations on these topics will sometimes be held in the classroom when students will be able to investigate various ways of expressing themselves to convey their ideas to others, which will help them to comprehend their field more extensively. It is desirable that students have deep interests in creation, such as

music, video arts, architecture, visual arts, and literature, etc.

授業の内容 / Course Contents

ピアニスト・作曲家として日米を主な活動拠点とし、アルバム制作、演奏活動、視覚芸術とのコラボレーションなど創作活動を行ってきた立場から、制作現場の要所を伝え、ゆたかな発想への気づきを促す。ゲスト・スピーカーとのセッション、質疑応答などを通じて、様々な分野の創造の現場を感じてもらい、実際に作品や演奏に触れてもらう。コミュニケーションとしての即興演奏を体感する目的で、音楽家（今学期はフルート奏者、尺八奏者）を迎えて演奏する場も設ける。また、テレビ・プロデューサー、創業者、建築家など各分野の第一人者をゲスト・スピーカーとして迎えて、音楽を軸とした学際的な講義を行う。ゲスト・スピーカー回は全7回の予定。

As a pianist and composer who has been active (mainly in the U.S. and Japan) releasing albums, working with film and visual art, and so on, the lecturer will convey the diverse aspects of creating music and inspire awareness of the richness of the imagination. Guest speaker sessions along with questions and answers will be facilitated for participants to experience the scene of creation from various points of view. There will also be live performances with guest performers, a flutist and a shakuhachi player, invited to the classroom during this semester to provide sessions with the aim of presenting conversational improvisation as a form of non-verbal communication. In addition, leading experts in their fields, such as TV producer, company founder, architect will also be invited to the classroom for interdisciplinary lectures as guest speakers (7 guest speaker sessions in total).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：「クリエイションの現場」発想の源泉～創造的な思考力とは
- 2 回：沈黙は聞こえるのか？～静寂と音とクリエイション（即興リレー・連想編）
- 3 回：即興演奏とは～ライブ・コンサートの演奏の現場、セッションの魅力
ゲスト・スピーカー/ 赤木りえ・フルート奏者
- 4 回：調律とクリエイション～間違いだらけのクラシック音楽・ピアノ編
ゲスト・スピーカー/ 高木裕・調律師、ピアノ・プロデューサー
- 5 回：創造する思考力～作曲とビジネスの創造プロセスの対比
ゲスト・スピーカー/ 岡本晴彦・クリエイティブ・レストランツ・ホールディングス創業者
- 6 回：日本文学と音楽～「音読」の趣、無常観、月を弾く（即興リレー・物語編）
- 7 回：和楽器とクリエイション～尺八と新たな世界
ゲスト・スピーカー/ 藤原道山・尺八奏者、東京芸術大学准教授
- 8 回：AI は芸術作品を創れるか？～デジタル時代のクリエイション、アナログの秘めたる力
- 9 回：音とクルマとクリエイション～五感を研ぎ澄ます、音楽とものづくり
ゲスト・スピーカー/ 小島誠・オーディオ・ジャパン元広報部長
- 10 回：建築とクリエイション～建築と音楽と高次情報
ゲスト・スピーカー/ 豊田啓介・建築家、東京大学特任教授
- 11 回：シュールレアリスムと音楽～コラージュとミュージック・コンクレート
- 12 回：映像とクリエイション～音の色彩、音のテクスチュア（即興リレー・映像編）
- 13 回：メディアとクリエイション～テレビ音楽番組の作り方
ゲスト・スピーカー/ 鬼久保美帆・テレビ朝日「題名のない音楽会」プロデューサー
- 14 回：創造のモチベーション～インスピレーションの源泉としての音楽

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業毎のコメントペーパーと授業への参加度:60%

最終レポート割合：40%

単位取得のためには3/4以上の出席が必要。

テキスト / Textbooks

各授業回、もしくは事前に資料/プリントを配布する。講義内容は変更になる場合がある。

詳細は本講義内、及び公式ページ www.akikograce.com で案内する。

参考文献 / Readings

参考 CD アルバム

Akiko Grace, フロム・ニューヨーク, 日本コロムビア, 2002.1

Akiko Grace, マンハッタン・ストーリー, 日本コロムビア, 2002.9

Akiko Grace, ニューヨーク・スタイル, コロムビアミュージックエンタテインメント, 2003.7

Akiko Grace, フロム・オスロ, コロムビアミュージックエンタテインメント, 2004.1

Akiko Grace, イリューム, コロムビアミュージックエンタテインメント, 2006.6

Akiko G

その他 / Others

詳細は本講義内、及び公式ページ www.akikograce.com 等で案内する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

日本の美術

Visual Arts of Japan

トピックで見る日本美術と日本美術史

伊藤 紫織 (ITO SHIORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC401

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本美術の代表的な作品、作者について宗教、主題、文学とのかかわりなどトピックごとに学びながら美術史的な知識を深め、日本文化への理解を深める。

Students will deepen their understanding of Japanese culture by deepening their knowledge about leading works and artists of Japanese art history by topics.

授業の内容 / Course Contents

日本史や日本美術史の教科書に載ったり、広く紹介されている日本美術の代表的な作品を主題、作者、地域、吉祥性、文学や宗教との関わりなど様々な角度から概観したり、掘り下げたりして見ていきます。日本美術を多角的に捉えることによって、知識を深く定着させ、その面白さと特徴を考えます。合わせて日本文化への理解も深めます。

We will give an outline, explore, and look at the leading works of Japanese art from various angles, covering the subjects, artists, regions, fortune, and relation with literature and religion. We will appreciate Japanese art, understand its interest, and think about its characteristics. Also students will deepen their understanding of

Japanese culture.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：日本美術と日本美術史
- 2 回：日本美術史の歴史と方法
- 3 回：日本美術の特徴
- 4 回：日本美術と宗教
- 5 回：日本美術の人物表現
- 6 回：日本美術と植物・動物
- 7 回：日本美術の風景表現
- 8 回：メディアとしての日本美術
- 9 回：日本美術の地域性
- 10 回：日本美術と文学
- 11 回：日本美術と吉祥
- 12 回：日本美術の流派
- 13 回：世界の美術と日本美術
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

全体の予習として日本の歴史について関心を持ち、歴史の流れを学ぶ、もしくは思い出しておく。日本の中学校の社会科程度で結構です。

予習、復習として実際に日本美術を展示する博物館や美術館を訪問し、展示を見て作品に接する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー:20%

テキスト / Textbooks

レジュメを配布

参考文献 / Readings

辻惟雄 『増補新装カラー版日本美術史』 美術出版社 2003 9784568400656

山下裕二・高岸輝 『日本美術史』 美術出版社 2014 9784568389074

中村興二・岸文和 『日本美術を学ぶ人のために』 世界思想社 2001 4790708586

古田亮 『教養の日本美術史』 ミネルヴァ書房 2019 9784623085156

伊藤紫織 『江戸時代の唐画——南蘋派、南画から南北合派へ 単行本 -』 春風社 2023 9784861108570

辻惟雄他 『日本美術全集』 講談社 1990-94

辻惟雄他 『日本美術全集』 小学館 2012-16

その他随時授業内で紹介します。日本史の資料集、国語便覧なども使えるので持っている人は捨てずにとっておいてください。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

中学校で学習する日本の歴史の知識を必要とする。日本の歴史の知識がない場合は予習が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料は教室で配布し、その後 Canvas LMS でも配布する。授業内にリアクションペーパーを提出するため筆記用具が必要である。

その他/ Others

PowerPoint を使用した講義形式です。

リアクションペーパーについては次回授業開始時にフィードバックを行います。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

日本の音楽

Traditional Music in Japan

鑑賞から学ぶ日本の音楽—古典を中心に

三浦 裕子 (MIURA HIROKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC402

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- （1）日本の古典音楽に関する基礎知識を養う。
 - （2）歴史的な視点に立って、日本の古典音楽の流れを把握する。
 - （3）総合的視野から日本の古典音楽の美を理解し、現代との接点を探る。
- (1) Students will acquire basic knowledge about Japanese classical music. (2) Students will grasp the flow of classical music in Japan from a historical point of view. (3) Students will understand the beauty of Japanese classical music from a comprehensive perspective, and explore contact points with the present.

授業の内容 / Course Contents

日本の古典音楽には多くのジャンルがあり、多様な広がりを見せている。その特徴には次のようなことがあげられる。

- （1）多くが声楽である。
- （2）舞踊・演劇・美術などの諸要素と深く結びついている場合が多い。
- （3）先行の芸能・音楽などの影響を受けている場合が多い。

日本の古典音楽の各ジャンルを通じて上記の特徴を学ぶと同時に、基礎知識を習得し、歴史的な流れを把握する。また実演家による演奏を鑑賞し、日本の古典音楽の美を理解し、現代に生きる我々との接点を探る。

There are many genres and great variety in Japanese classical music. In terms of its characteristics, we can say that (1) Many works are vocal music, (2) Many works are connected closely to elements such as dance, theater and art, and (3) Many works are influenced by leading entertainment and music. At the same time as learning the above characteristics through each genre of Japanese classical music, students will acquire basic knowledge and understand the historical flow. Also, students will appreciate performances by performers, understand the beauty of classical Japanese music, and explore the contact points with us in our modern lives.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：日本の古典音楽を概観する（1）－歴史的な流れを確認する
- 2回：日本の古典音楽を概観する（2）－全体に共通する特徴を知る
- 3回：雅楽の紹介と鑑賞
- 4回：声明の紹介と鑑賞
- 5回：平家および琵琶楽の紹介と鑑賞
- 6回：能・狂言の紹介と鑑賞（その1）
- 7回：能・狂言の紹介と鑑賞（その2）
- 8回：三線および三味線の紹介と鑑賞
- 9回：歌舞伎の紹介と鑑賞
- 10回：人形浄瑠璃文楽の紹介と鑑賞
- 11回：箏曲および尺八の紹介と鑑賞
- 12回：組踊および琉球芸能の紹介と鑑賞
- 13回：国家と文化政策を考える
- 14回：まとめ～日本の古典音楽と現代との接点を探る

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習・復習の一環として以下に努めること。

その具体的方法などについては、必要に応じて授業内にて説明する。

- 1.日常生活に鳴り響いている音楽を意識的にとらえる。
- 2.日本の古典音楽を実際に鑑賞する機会を積極的に見つける（動画上でも可）。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業ごとの課題 5%×10回（パーセントと回数は増減する可能性はあるが、合計のパーセンテージは変わらない） :50%

2/3以上の出席をしていない場合、あるいは筆記試験の正解率が50%未満の場合、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

とくになし。適宜プリントを配布。

参考文献 / Readings

日本芸術文化振興会および文化庁の HP

その他/ Others

鑑賞にふさわしい演奏会などの情報を適宜、知らせる予定である。

講義時には静粛を求める。

講義の内容および音楽全般に関する質問を大歓迎する。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Japanese Arts A

Japanese Arts A

History of Japanese Art

ウィットカム (WITKAM FRANK)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC403
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2331
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- Students develop an understanding of the historical development of Japanese art.
- Students obtain skills in identifying artworks and techniques.
- Students learn to interpret the meanings of artworks by situating them into their contemporary cultural and social contexts.

授業の内容 / Course Contents

This course explores Japanese art from prehistory to the modern era. The focus is on painting, sculpture, woodblock prints, ceramics, architecture, etc. The first part of the course focuses on premodern art and the second half on (early) modern art. What do artworks tell us about developments in Japanese culture and how can we analyze them to find out? This course introduces various approaches to describing artworks within their cultural context.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction, Jōmon period

- 2回：Yayoi, Kofun, Asuka & Hakuho periods
 3回：Nara period
 4回：Heian period
 5回：Kamakura period
 6回：Nanbokuchō & Muromachi periods
 7回：Azuchi-Momoyama period
 8回：Edo period I
 9回：Edo period II
 10回：Meiji era
 11回：Prewar art
 12回：Wartime art
 13回：Postwar art
 14回：Contemporary art

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Weekly readings and quizzes

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and participation:40% Weekly quiz:30% Written assignment:30%

テキスト / Textbooks

Readings are provided by the lecturer.

参考文献 / Readings

注意事項

- ・ F 科目中級 (外国語による総合系科目)
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

Japanese Arts B

Japanese Arts B

The Roles of Japanese Traditional Music: What is a "Japanese" Sound

シムムコー (SCHMUCKAL COLLEEN C.)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FC404
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2331
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、音楽芸術として、また日本の歴史、社会、流行の反映として伝統音楽を批判的に聴く方法を学び、ひとつの問いに答えることである：日本らしい音とは何か？

The goal of this course is to learn how to critically listen to traditional music as both a musical art form as well as a reflection of Japanese history, society, and popular trends to answer one overarching question: What is a "Japanese" sound? Students will learn how to voice their observations through in-class discussions and presentations. After examining and debating the historical and modern roles for each major traditional instrument and genre, the class will experience performing each major music covered within the course. This hands on approach to learning will help students deepen their understanding of traditional music, as well as form more compelling criticisms on the music heard daily through media, advertisements and for entertainment.

授業の内容 / Course Contents

授業の内容は、日本で現在も演奏されている主な伝統ジャンルや楽器について学びます。ゲスト演奏家によるワークショップや、クラス内・オンライン上での実際演奏など、インタラクティブな要素も取り入れます。ま

た、「日本の音とは何か」という問いに個人的に答えるための個人的な研究にも取り組み、授業の最終週にはビデオ・プレゼンテーションを行います。

Japanese traditional music is often thought to be a relic of the past that should be appreciated but never changed. However, traditional music has always been connected with the ever changing societal structures of Japan, its roles and music evolving to stay relevant. This course will give a basic overview of major traditional genres and instruments still currently performed today in Japan and their historical and modern significance. This course will also include interactive components including workshops by guest performers and in-class/online performances. Students will also undertake research projects to personally answer the question "what is a Japanese sound"? that will result in class/online video presentations during the final weeks of class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Orientation: Invoking Culture through School Dances (American vs Japanese experience)
- 2 回：Gagaku and Shōmyō: Ritual, Political, and Religious Music (workshop)
- 3 回：“Japanese” Music and the Creation of a New "Japanese" Identity: Reflections on the Modernization of Gagaku and Shōmyō
- 4 回：Shakuhachi: from Buddhist Ritual Tool to Musical Instrument (workshop)
- 5 回：Koto: from Temples to Private Homes (workshop)
- 6 回：Shamisen: Commoner's Entertainment to Art Music (workshop)
- 7 回：Gendai Hōgaku: Reflections on Modernizing Koto, Shakuhachi and Shamisen
- 8 回：Noh: Meditative Theater (workshop)
- 9 回：Kabuki and Bunraku: Entertainment Theater (workshop)
- 10 回：Modernizing the "Japanese" Stage: the Expansion of Noh, Kabuki, and Japanese Dance
- 11 回：How to Sound “Japanese” Part 1: Reflections on Popular Japanese Traditional Music (Enka)
- 12 回：How to Sound “Japanese” Part 2: Reflections on Popular Japanese Traditional Music (Shamisen Boom and Festival Music)
- 13 回：In-class presentations
- 14 回：Course Recap: What is a "Japanese" Sound?

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Each student will be required to listen to, watch, and/or attend a Japanese music concert, of their choice, and submit observations.

Explorative Learning will be announced as needed.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:30% Report (x 3):30% Final Presentation:40%

テキスト / Textbooks

No textbooks

参考文献 / Readings

Tokita, Alison McQueen and David W. Hughes The Ashgate Research Companion to Japanese Music
Ashgate 2008

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Japanese Culture 1

Japanese Culture 1

Tradition, modernity, and change in the construction of Japanese culture.

レイゼル, M. (REISEL MARY)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC405
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2331
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

The course provides an introduction to the evolution of cultural values, practices, and production in different historical periods with an emphasis on the modern age and on contemporary trends. Major historical shifts, new traditions, and popular products will be presented along multi-disciplinary theories of cultural studies, neo-liberalism, and social sciences. During the lessons, students will be able to present their own opinions, gain new academic knowledge, and practice various skills of analysis while focusing on their own favorite themes and interests.

授業の内容 / Course Contents

Products and habits that seem trivial and common in daily life carry deeper meanings that go beyond entertainment and fun. They reflect ideologies and values of the institutions that produce them, and they deliver hidden messages to the audience. Throughout the course, students will observe different cultural habits, examine popular products, and develop their own ideas and independent analysis skills according to their themes and topics of interest. The course will focus on specific case studies from different fields of culture, such as manga,

anime, kawaii culture, J-Pop, real and virtual idols, subcultures, fashion, entertainment, and more.

The course is multi-disciplinary and presents theories from different fields of study.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: the unique aspects of cultural values and social life in Japanese society.
- 2 回：From ancient myths to modern drawings: the development of manga (I).
- 3 回：Manga and anime in the modern age (II).
- 4 回：Edo culture and its impact on modern Japan.
- 5 回：Otaku culture, moe, and the boom of virtual love.
- 6 回：The idol phenomenon and the fans: from AKH48 to Hatsune Miku and virtual influencers.
- 7 回：Students' themes and presentations.
- 8 回：The role of J-Pop in the construction of Japanese nationalism.
- 9 回：Kawaii culture over half a century (I)
- 10 回：Kawaii culture over half a century (II)
- 11 回：The function of youth subcultures and cosplay in Japanese society.
- 12 回：Super-heroes in Japanese culture: Pokemon, Godzilla, and the world of characters.
- 13 回：SNS and virtual worlds: the meaning of social networks as cultural designers.
- 14 回：Summary and closing notes.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Reading texts and class assignments will be uploaded on the university website, Canvas, at the beginning of the course.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Attendance and weekly assignments:40% midterm paper:30% 最終レポート
割合：:30%

テキスト / Textbooks

The required reading assignments will be posted online together with additional reading texts.

参考文献 / Readings

Recommended texts:

Strinati, D., An Introduction to Theories of Popular Culture (Routledge, 2004.)

(Available in Japanese translation)

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する

- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

日本の美術

Visual Arts of Japan

近世日本絵画史の諸様相

石田 佳也 (ISHIDA YOSHIYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC501

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本美術史における主要作品や画家に関する基本事項を学びながら、とくに近世の絵画史に関して、作品の主題や技法、制作環境について理解を深める。

While learning basic matters about major works and painters in Japanese art history, students will deepen their understanding of the subject matter, techniques, and production environment of works, especially with regard to the painting history of early modern times.

授業の内容 / Course Contents

日本の美術史の流れを確認しつつ、毎回特定の画家や作品を選び、描かれた主題を中心に詳しく紹介する。その際に比較作例を古今東西に幅広く求め、同時代の文学や芸能などとの関わりにも着目し、作品のもつ特徴や文化史的意義を多角的なアプローチから考察する。

While confirming the flow of art history in Japan, we will select specific painters and works in each class and introduce them in detail, focusing on the subjects that are depicted. At that time, we will seek a range of comparative examples from all times and places, focus on the relationships with the literature and performing

arts, etc. of the same period, and consider the characteristics of the works and the cultural and historical significance from a multi-perspective approach.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：日本美術の基礎知識（画面形式と技法）
- 2回：日本絵画の画家と流派（狩野派・琳派を中心に）
- 3回：同上
- 4回：日本絵画の主題 動物画の概観（獅子、象、猿をめぐる絵画史）
- 5回：同上
- 6回：日本絵画の主題 合戦図の概観（武将をめぐる造形表現）
- 7回：日本絵画の主題 南蛮美術の概観（初期洋風画の特質）
- 8回：同上
- 9回：日本絵画の主題 風俗画の概観（洛中洛外図を中心に）
- 10回：日本絵画の主題 絵巻の概観（やまと絵の表現）
- 11回：同上
- 12回：日本絵画の主題 浮世絵の概観（師宣から国芳まで）
- 13回：日本絵画の主題 18世紀の京都画壇（伊藤若冲を中心に）
- 14回：日本絵画の流れ 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回授業の前半で、特定の項目に関して研究史をふまえながら概要を講義するが、可能な限り次回の講義内容と参考文献を伝える。なお、シラバスの項目の順番は変更されることがあり、また一つの項目に関し複数回にわたって講義する場合もある。

また適宜、開催中の展覧会の中から鑑賞すべき企画展を推薦する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

テキスト / Textbooks

特に定めない。

参考文献 / Readings

授業中に随時指示する。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

日本の音楽

Traditional Music in Japan

鑑賞から学ぶ日本の音楽—古典を中心に

三浦 裕子 (MIURA HIROKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC502

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2300

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- （1）日本の古典音楽に関する基礎知識を養う。
 - （2）歴史的な視点に立って、日本の古典音楽の流れを把握する。
 - （3）総合的視野から日本の古典音楽の美を理解し、現代との接点を探る。
- (1) Students will acquire basic knowledge about Japanese classical music. (2) Students will grasp the flow of classical music in Japan from a historical point of view. (3) Students will understand the beauty of Japanese classical music from a comprehensive perspective, and explore contact points with the present.

授業の内容 / Course Contents

日本の古典音楽には多くのジャンルがあり、多様な広がりを見せている。その特徴には次のようなことがあげられる。

- （1）多くが声楽である。
- （2）舞踊・演劇・美術などの諸要素と深く結びついている場合が多い。
- （3）先行の芸能・音楽などの影響を受けている場合が多い。

日本の古典音楽の各ジャンルを通じて上記の特徴を学ぶと同時に、基礎知識を習得し、歴史的な流れを把握する。また実演家による演奏を鑑賞し、日本の古典音楽の美を理解し、現代に生きる我々との接点を探る。

There are many genres and great variety in Japanese classical music. In terms of its characteristics, we can say that (1) Many works are vocal music, (2) Many works are connected closely to elements such as dance, theater and art, and (3) Many works are influenced by leading entertainment and music. At the same time as learning the above characteristics through each genre of Japanese classical music, students will acquire basic knowledge and understand the historical flow. Also, students will appreciate performances by performers, understand the beauty of classical Japanese music, and explore the contact points with us in our modern lives.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：日本の古典音楽を概観する（1）－歴史的な流れを確認する
- 2回：日本の古典音楽を概観する（2）－全体に共通する特徴を知る
- 3回：雅楽の紹介と鑑賞
- 4回：声明の紹介と鑑賞
- 5回：平家および琵琶楽の紹介と鑑賞
- 6回：能・狂言の紹介と鑑賞（その1）
- 7回：能・狂言の紹介と鑑賞（その2）
- 8回：三線および三味線の紹介と鑑賞
- 9回：歌舞伎の紹介と鑑賞
- 10回：人形浄瑠璃文楽の紹介と鑑賞
- 11回：箏曲および尺八の紹介と鑑賞
- 12回：組踊および琉球芸能の紹介と鑑賞
- 13回：国家と文化政策を考える
- 14回：まとめ～日本の古典音楽と現代との接点を探る

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習・復習の一環として以下に努めること。

その具体的方法などについては、必要に応じて授業内にて説明する。

- 1.日常生活に鳴り響いている音楽を意識的にとらえる。
- 2.日本の古典音楽を実際に鑑賞する機会を積極的に見つける（動画上でも可）。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業ごとの課題 5%×10回（パーセントと回数は増減する可能性はあるが、合計のパーセンテージは変わらない） :50%

2/3以上の出席をしていない場合、あるいは筆記試験の正解率が50%未満の場合、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

とくになし。適宜プリントを配布。

参考文献 / Readings

日本芸術文化振興会および文化庁の HP

その他/ Others

鑑賞にふさわしい演奏会などの情報を適宜、知らせる予定である。

講義時には静粛を求める。

講義の内容および音楽全般に関する質問を大歓迎する。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

日本の演劇

Japanese Theater

「能」という日本の古典演劇を個々の身体を通して実体験し、それぞれの身体を通して「演じる」ということ探っていく。

鶴澤 光 (UZAWA HIKARU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FC503
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	実技中心。全員謡い、舞い、演じます。
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2300
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

能の表現を裏づける根源的な力とは何か、それを能の詞（ことば）・型（動き）を身体を通して学ぶ。それによって日本人の培った、豊かな感性に気づき、更に日本文化の深層に触れて行く。能を通して「演じること」を探っていく。

Students will learn the underlying power that supports the expression of Noh, the lyrics of Noh (words) and movements through the body. As a result, students will become aware of the rich sensibility of Japanese people, and will touch upon the deeper layers of Japanese culture.

授業の内容 / Course Contents

能という舞台芸術について多角的に学ぶ。能の一曲を取り上げ内容を理解した上で、その一部分を詞章、節、それに伴う動きを含め、実際に身体で学び、最終的に演じる。実技中心。己れの肉体を目一杯使って、能の表現にどれだけ近付けるか、自分に仕掛ける事。

本年は「松風」（まつかぜ）という観阿弥作世阿弥改修の名曲をテーマに据え、演劇、文学、歴史など多岐にわ

たる日本文化、芸術を縦断する授業を展開する。

We will take a Noh songs, understand the contents, and learn parts of them with the body, including poetry and prose, verses, and movements associated with them. The course will be practically-oriented. Students will have to challenge themselves to use their own bodies to the fullest to see how close they can get to the expression of Noh.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーションと実技・・・授業をどう進行するかの説明。「能」とはどのような演劇なのか、その内容・歴史などを映像を観つつ学ぶ。

2回：オリエンテーションと実技・・・能「松風」(まつかぜ)を素材に戯曲を音読し、現代語訳しつつ、内容を把握する。実技の基本を学ぶ。

3回：「松風」を学ぶ・・・能「松風」の映像を見る。

4回：実技。「松風」の一部分を実際に演じる(これが最終テストの課題である。)

「松風」の課題部分を最終テストに向けて少しづつ学ぶ、暗記する。

5回：実技。前回のつづき。

「松風」の課題部分の学びを少しづつ進め、深める。

6回：実技。前回のつづき。

「松風」の課題部分の学びを少しづつ進め、深める。

7回：ゲストスピーカー(囃子方、ワキ方、狂言方、いずれかを予定)を招き、能一曲をどう作り上げてゆくのか、違う視点から学ぶ(予定)

8回：実技。前回のつづき。

「松風」の課題部分の学びを少しづつ進め、深める。

9回：実技。前回のつづき。

「松風」の課題部分の学びを少しづつ進め、深める。

10回：身体との関わりについて、古典とは違う視点から学ぶ。

11回：実技。最終テストに向けてしっかり身に付いているか、一人一人細かく学ぶ。

12回：実技。前回のつづき。

最終テストに向けてしっかり身に付いているか、一人一人細かく学ぶ。

13回：授業内「松風」の最終実技発表会その1を実施。

14回：授業内「松風」の最終実技発表会その2を実施。能鑑賞のレポート提出。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	○ ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回実習したことを反復練習すること。指示されたことを予習、暗記、復習してこること。きちんと授業に出れば試験範囲は習得できるので、諦めないこと。実技中心の積み重ねが肝要な授業である為、欠席しないこと。授業では積極的に己れに仕掛けて行くこと。

能鑑賞のインフォメーションは授業にて致します。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席状況と授業参加度:40% 能鑑賞後のレポート:20%
合 :40%

最終テスト割

テキスト/ Textbooks

世阿弥 『観世流大成版「松風」(ふじと)』 檜書店 ○

参考文献 / Readings

観世 寿夫 『心より心に伝ふる花』 角川ソフィア文庫 2008 9784044080013

石井 倫子 『能・狂言の基礎知識』 角川選書 2009 9784047034402

小林 保治 『能・狂言図典』 小学館 1999 9784093620628

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

何事にも興味を持って積極的に取り組む

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

白足袋 (初回授業で説明します)

筆記用具

動きやすい服装

その他/ Others

<http://www.tessen.org>

<http://www.hikaruuzawa.com>

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

Japanese Culture 1

Japanese Culture 1

Performance and Multimedia in Japanese Culture

バットナー (BUTTNER EMILY)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC504
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2331
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course focuses on using performance as a framework to understand aspects of Japanese society and culture. Students will learn about events in Japanese theater and multimedia art, and will be introduced to core concepts in performance theory. We will aim to understand performance as both an art and an “epistemology”, a tool for knowing the world around us.

授業の内容 / Course Contents

This course is dedicated to understanding Japanese art and culture through the lens of performance. We will discuss selected topics in Japanese theatrical history, and collaboratively explore how using performance as a mode of analysis can help us understand culture and society. We will ask questions such as, “How does performance shape our understanding of history?” and “What does it mean to ‘perform’ our gender in today’s society?” The class will culminate in a final performance project, in which students apply a theoretical concept from the course to an art or performance object of their choice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction (I): Course objectives and key concepts in performance theory
- What is performance and how can we use it to understand the world around us?
- 2 回：Introduction (II): Introduction to embodied and social practices
- What are embodied and social practices? How may our actions and behaviors reflect and reinforce social norms?
- 3 回：Traditional Arts (I): Embodiment and materiality in Japanese tea practice
- 4 回：Traditional Arts (II): Traditional Japanese performances as examples of intermedia
- 5 回：Performance as Living History (I): Restored behavior at Nikko Edo-mura and Tono Historical Village
- 6 回：Performance as Living History (II): To what extent restored villages challenge a dominant narrative through performance?
- 7 回：Performance for a Changing Society (I): Social commentary in 1960's Japanese street art.
- 8 回：Performance for a Changing Society (II): Connecting Japanese political and street artists to the international "fluxus" movement.
- 9 回：Performance for a Changing Society (III): Social commentary in the plays of Betsuyaku Minoru
- 10 回：Performance for a Changing Society (IV): Betsuyaku Minoru and the "Theater of the Absurd"
- 11 回：Performance and Identity (I): Introduction - How do we "do" our gender?
- 12 回：Performance and Identity (II): Performance of gender and the self in 21st century Japanese performance art
- 13 回：Theater Skills are Life Skills?: Contemporary Performance Education in Japan
- 14 回：Final performance project presentations and closing notes

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

1. Weekly Readings - from both primary sources such as plays, and critical theory concerning performance. You will also periodically be asked to watch short videos of live performances.
2. Weekly "Quick Response" Assignments - Reflect on this week's read

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Midterm Paper (~1600 words):25% Participation and Weekly Assignments:40%

最終レポート割合 :35%

The final project (listed 最終レポート above) is comprised of a creative presentation or performance (five to ten minutes, delivered in class), and a written reflection (800-1200 words, submitted online).

テキスト / Textbooks

Recommended Text: Performance by Diana Taylor (Duke University Press, 2016)

<https://www.dukeupress.edu/performance>

参考文献 / Readings

A packet of the required reading assignments will be posted online in the university Canvas LMS website.

Occasional video content and images will also be provided.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

- Willingness to participate in class discussions and reflect on course content with peers.
- Ability to apply critical theories learned in class to an art object in an original, written essay.
- A "challenger" attitude toward occasional creative exercise

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- A personal computer with a camera, microphone and strong internet connection. This is a "cameras-on" course.
- Class notebook and writing utensil.

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Japanese Culture 2

Japanese Culture 2

The History and Globalization of Japanese Subculture

レナト, R. (RENATO RUSCA RIVERA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC505
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2331
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to serve as an introduction to Japanese subcultures, in particular anime and manga, and how they have evolved through history, always remaining inextricably linked to Japanese society and culture.

授業の内容 / Course Contents

The course is made up of key topics in the evolution of Japanese popular culture contents that led to the formation of influential worldwide movements and firmly placed Japan as a cultural superpower. We will explore and discuss these case studies from a variety of different perspectives. We will analyze and discuss manga and anime as a cultural phenomenon through a variety of topics: their history, evolution, and important figures. Course participants are expected to research on their own outside of the classes and, by the end of the semester, gain a working knowledge of popular culture and its role within Japanese society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introduction — Perceptions of manga and Japanese pop culture
- 2 回： Woodblock prints, Ukiyo-e, and Impressionism

- 3回：Early Manga — Pre-modern roots: From Akahon and Kashihon to Osamu Tezuka
 4回：Pop Culture during WWII -- Animated propaganda films; Momotaro's Divine Sea Warriors
 5回：Manga visual grammar — Lines of sight and panel structure
 6回：Manga visual grammar — Shojō manga
 7回：Early Anime： Hakujo and Toei Doga
 8回：Students' midterm research findings discussion
 9回：Television Anime and Merchandising
 10回：The "Comic Market (Comiket)" and Doujinshi Culture
 11回：Otaku and Social Issues： Crime, Stereotypes and distancing
 12回："Pilgrimages" -- Pop culture contents in the tourism industry
 13回：New markets, new media, new business models
 14回：Final discussion and review

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

The students are encouraged to research each topic and form opinions about each topic in advance, in order to facilitate an atmosphere conducive to a multifaceted discussion.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および参加度（Attendance & Participation）:30% 課題・宿題（Assignments）:30%

最終レポート割合：40%

"Participation" is defined as being actively involved in class discussions. Failure to attend 3/4 of classes will result in ineligibility for grading. 「参加度」とは授業内でのコメントや意見主張などの貢献のこと。なお、3/4以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

Some materials will be provided in class, but the students will also be expected to research their own sources.

参考文献 / Readings

Some materials will be provided in class, but the students will also be expected to research their own sources.

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

Japanese Arts A

Japanese Arts A

History of Japanese Art

ウィットカム (WITKAM FRANK)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FC506
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2331
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

- Students develop an understanding of the historical development of Japanese art.
- Students obtain skills in identifying artworks and techniques.
- Students learn to interpret the meanings of artworks by situating them into their contemporary cultural and social contexts.

授業の内容 / Course Contents

This course explores Japanese art from prehistory to the modern era. The focus is on painting, sculpture, woodblock prints, ceramics, architecture, etc. The first part of the course focuses on premodern art and the second half on (early) modern art. What do artworks tell us about developments in Japanese culture and how can we analyze them to find out? This course introduces various approaches to describing artworks within their cultural context.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Introduction, Jōmon period

- 2回：Yayoi, Kofun, Asuka & Hakuho periods
 3回：Nara period
 4回：Heian period
 5回：Kamakura period
 6回：Nanbokuchō & Muromachi periods
 7回：Azuchi-Momoyama period
 8回：Edo period I
 9回：Edo period II
 10回：Meiji era
 11回：Prewar art
 12回：Wartime art
 13回：Post-war art
 14回：Contemporary art

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Weekly readings and quizzes.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and participation in class:40% Written assignment:30% Weekly quiz:30%

テキスト / Textbooks

Readings will be provided in class.

参考文献 / Readings

注意事項

- ・ F 科目中級 (外国語による総合系科目)
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

Japanese Arts B

Japanese Arts B

The Roles of Japanese Traditional Music: What is a "Japanese" Sound

シュムコー (SCHMUCKAL COLLEEN C.)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FC507
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2331
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、音楽芸術として、また日本の歴史、社会、流行の反映として伝統音楽を批判的に聴く方法を学び、ひとつの問いに答えることである：日本らしい音とは何か？

The goal of this course is to learn how to critically listen to traditional music as both a musical art form as well as a reflection of Japanese history, society, and popular trends to answer one overarching question: What is a "Japanese" sound? Students will learn how to voice their observations through in-class discussions and presentations. After examining and debating the historical and modern roles for each major traditional instrument and genre, the class will experience performing each major music covered within the course. This hands on approach to learning will help students deepen their understanding of traditional music, as well as form more compelling criticisms on the music heard daily through media, advertisements and for entertainment.

授業の内容 / Course Contents

授業の内容は、日本で現在も演奏されている主な伝統ジャンルや楽器について学びます。ゲスト演奏家によるワークショップや、クラス内・オンライン上での実際演奏など、インタラクティブな要素も取り入れます。ま

た、「日本の音とは何か」という問いに個人的に答えるための個人的な研究にも取り組み、授業の最終週にはビデオ・プレゼンテーションを行います。

Japanese traditional music is often thought to be a relic of the past that should be appreciated but never changed. However, traditional music has always been connected with the ever changing societal structures of Japan, its roles and music evolving to stay relevant. This course will give a basic overview of major traditional genres and instruments still currently performed today in Japan and their historical and modern significance. This course will also include interactive components including workshops by guest performers and in-class/online performances. Students will also undertake research projects to personally answer the question "what is a Japanese sound"? that will result in class/online video presentations during the final weeks of class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Orientation: Invoking Culture through School Dances (American vs Japanese experience)
- 2 回：Gagaku and Shōmyō: Ritual, Political, and Religious Music (workshop)
- 3 回：“Japanese” Music and the Creation of a New "Japanese" Identity: Reflections on the Modernization of Gagaku and Shōmyō
- 4 回：Shakuhachi: from Buddhist Ritual Tool to Musical Instrument (workshop)
- 5 回：Koto: from Temples to Private Homes (workshop)
- 6 回：Shamisen: Commoner's Entertainment to Art Music (workshop)
- 7 回：Gendai Hōgaku: Reflections on Modernizing Koto, Shakuhachi and Shamisen
- 8 回：Noh: Meditative Theater (workshop)
- 9 回：Kabuki and Bunraku: Entertainment Theater (workshop)
- 10 回：Modernizing the "Japanese" Stage: the Expansion of Noh, Kabuki, and Japanese Dance
- 11 回：How to Sound “Japanese” Part 1: Reflections on Popular Japanese Traditional Music (Enka)
- 12 回：How to Sound “Japanese” Part 2: Reflections on Popular Japanese Traditional Music (Shamisen Boom and Festival Music)
- 13 回：In-class presentations
- 14 回：Course Recap: What is a "Japanese" Sound?

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Each student will be required to listen to, watch, and/or attend a Japanese music concert, of their choice, and submit observations.

Explorative Learning will be announced as needed.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:30% Report (x 3):30% Final Presentation:40%

テキスト / Textbooks

No textbooks

参考文献 / Readings

Tokita, Alison McQueen and David W. Hughes The Ashgate Research Companion to Japanese Music
Ashgate 2008

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Literature and Society

Literature and Society

The Individual and Society

キヴァニー (KEAVENEY CHRISTOPHER)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC508
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： CMP2331
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- Develop the skills appropriate to research and effective writing in the Humanities
- Use the tools of analysis to respond to specific works of literature
- Become familiar with literary theory
- Hone skills in academic writing and presentations

授業の内容 / Course Contents

Much of the world's great literature explores the relationship of the individual to society. Some literary works depict the individual in harmony with society while others describe the individual in conflict with society or leaving society behind altogether. In this course we will read and respond to works from a range of time periods and national literary traditions in order to assess how writers have depicted the individual's relationship to society. In this course, students also will be introduced to literary theory and to essays about literature and society to better contextualize the discussions about the literary works themselves.

授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回 : Introduction: The individual and society in literature
Survey about reading habits
Essay: "The Relationship Between Literature and Society"
- 2 回 : Introduction, continued: The individual and society in literature
What to Look for in Literature
How to Write about Literature
Reading: "Writers Must Serve a Social Purpose"
- 3 回 : Unit 1: The social animal: the individual in harmony with society
Readings: Selections from Plato's "Republic"
- 4 回 : Unit 1, Continued: The social animal: the individual in harmony with society
Readings: selections from More's Utopia
Essays: "Excerpts from Aristotle's Politics"; "Tao Qian and Utopia"
- 5 回 : Unit 1, Continued: The social animal: the individual in harmony with society
Readings: Selections from Tao Qian's "Peach Blossom Spring"
- 6 回 : Unit 1: The social animal: the individual in harmony with society
Readings: Selections from John Steinbeck's "Cannery Row"
- 7 回 : Unit 2: The outsider: the individual in conflict with society
Readings: Selections from Albert Camus's "The Stranger"
Essays: "Outsider in Literature Inventory"
- 8 回 : Unit 2, continued: The outsider: the individual in conflict with society
Readings: Selections from Albert Camus's "The Stranger" (continued)
Essays: "Outsider in Literature Inventory"
- 9 回 : Unit 2, continued: The outsider: the individual in conflict with society
Readings: Baldwin's "Notes of a Native Son"
- 10 回 : Unit 2, continued: The outsider: the individual in conflict with society
Readings: Baldwin's "Notes of a Native Son" (continued)
- 11 回 : Unit 3: Back to nature: escape from society
Readings: Tao Qian's "Going Back to the Countryside"
- 12 回 : Unit 3, continued: Back to nature: escape from society
Readings: Kamo no Chomei's "An Account of my Hut"
Essay: "Two Forms of Solitude"
- 13 回 : Unit 3, continued: Back to nature: escape from society
Readings: Yeats's "Lake Isle of Innisfree", Selections from Thoreau's Walden
Essay: "Two Forms of Solitude"
- 14 回 : Unit 3, continued: Back to nature: escape from society
Readings: Krakauer's "Death of an Innocent"
- 15 回 : Unit 4: The heroic individual: Making a better society
Readings: Cervantes, Selections from "Don Quixote"
- 16 回 : Unit 4, continued: The heroic individual: Making a better society
Readings: Selections from Takeyama's "The Burmese Harp"
- 17 回 : Unit 4, continued: The heroic individual: Making a better society

Readings: Selections from Takeyama's "The Burmese Harp"

18 回：Unit 4, continued: The heroic individual: Making a better society

Readings: selections from "To Kill a Mockingbird"

19 回：Unit 5: Dystopia: When society fails

Readings: Jackson's "The Lottery"

Essay: "Uncle Ray's Dystopia"

20 回：Unit 5, continued: Dystopia: When society fails

Readings: Orwell's "1984"

21 回：Unit 5, continued: Dystopia: When society fails

Readings: Vonnegut's "Harrison Bergeron"

22 回：Unit 5, continued: Dystopia: When society fails

Readings: Selections from Tawada's "The Last Children of Tokyo"

23 回：Unit 6: The road home: literature of returning

Readings: Selections from Homer's "The Odyssey"

24 回：Unit 6, continued: The road home: literature of returning

Readings: Selections from Saint-Exupery's "The Little Prince"

25 回：Unit 6, continued: The road home: literature of returning

Readings: Essay: Chang-Rae Lee's "Coming Home Again"

26 回：Unit 6, continued: The road home: literature of returning

Readings: Weir, "The Martian"

27 回：Review of "The Martian"

Review of course themes

28 回：Review and student presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

There will be an average of 20-30 pages of reading required each week. All readings must be completed before the class for which they are assigned. Weekly reading responses are due by 5:00 PM each Friday via the "Discussions" tool on the Canvas course page

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分: 2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Weekly Reading Response Essays:30% Research paper based on course theme:30%

Class participation including group work and reading checks:25% In-class presentations including research presentation:15%

Students are expected to attend every session. Students who miss more than one quarter of the sessions will receive no credits for the "Class participation" evaluation category.

テキスト / Textbooks

All the readings in this course will be available as PDF files on the Canvas course page. If students choose not to purchase the texts, they should bring those PDF files with them to class in digital or hard copy.

参考文献 / Readings

その他/ Others

- The Canvas course page will be used extensively for distributing readings and for submission of assignments
- Small group and pair work will be a regular feature of this course and will complement course lectures
- Late work will generally not be accepted

注意事項

- 他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム 所属学生/特別外国人学生が履修
- この授業は、英語圏での大学の授業を想定し、全て英語で行う
- 以下の英語力を有していることが履修の目安になる

英検準 1 級, IELTS 5.5, TOEFL®iBT 72, TOEIC®L&R 785

- 週 2 回開講
- 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Culture and Fine Arts

Culture and Fine Arts

Arts, Culture, and Society

大橋 里見 (OHASHI SATOMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC509
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 4
科目ナンバリング： CMP2331
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

By exploring diverse aspects, functions and roles of artworks, art-related activities, and artists in the modern world, the class examines:

1) what art and fine arts mean to people and to us* and what they give people and us*,

*People and us mean both individual human beings and an important member of society and social groups.

2) what society, social groups, and individual people expect arts and fine arts to do,

3) what we can bring about to societies with arts, works of art, and art-related activities.

授業の内容 / Course Contents

Arts and fine arts and its value are generally considered universal and invariable. (Perhaps, this is the most distinctive difference between fashion and arts/fine arts!) Nevertheless, the reasons and social contexts where arts and fine arts are based vary: How we see, think, and feel about arts and artworks are not always and necessarily the same. Likewise, the roles and functions of arts and fine arts are not the same.

Arts and fine arts have a long history since ancient times. In that long history, in modern times, arts and artworks

have attracted a wider audience, making even general people feel closer to artworks in their daily lives. During this modern process, people's understanding of arts/fine arts has enhanced, and the roles, functions, and values of artwork have become diverse. Why?

By taking examples from art stories and works of art, chiefly from the modern world, this course examines diverse phenomena and social environments where arts and fine arts play/ed significant roles. Through these examinations, the course questions why people and society create, appreciate, and support (and do not support particular) cultural assets called "arts" and "fine arts".

Students will:

- research, look into, and discuss the given topics in and out of class.
- write their comments and thoughts about the topics. Some of them will be shared in class.
- give presentations twice (one individually and the other in groups).
- write 2 essays during the course (mid-term and final. Both will be done individually).

*A day trip to museums or art galleries will be planned.

* There will be a guest speaker during the course (TBC).

授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回： Introduction to the course
- 2 回： Students' self-introduction with art
- 3 回： You will be an artist?!: creative time
- 4 回： Arts in chronological order?? (history and art 1)
- 5 回： Themes and genres and arts (history and art 2)
- 6 回： Artists in the past and arts (history and art 3)
- 7 回： Arts, countries or nation states, and people 1: themes, expression
- 8 回： Arts, countries or nation states, and people 2: institutions and education
- 9 回： Collections, art galleries, and museums 1: public ownership and display of artwork
- 10 回： Collections, art galleries, and museums 2: private ownership and display of artwork
- 11 回： Comparisons and overall discussions: arts, countries or nation states, and people, different ownerships of art, and display of artwork
- 12 回： Museum and gallery day: schedule TBC
- 13 回： Reflection on Museum and gallery day/ Workshop for the mid-term presentation
- 14 回： Mid-term presentation 1
- 15 回： Mid-term presentation 2
- 16 回： Arts and social spaces 1: Architecture and buildings
- 17 回： Arts and social spaces 2: Objects, colours, and performances
- 18 回： Social issues and arts 1: Gender and arts
- 19 回： Social issues and arts 2: Politics and arts
- 20 回： "Creating" values of art 1: Criticism and reviews
- 21 回： "Creating" values of art 2: Market and arts
- 22 回： Values and meanings of art 1: What is art in society?
- 23 回： Values and meanings of art 2: What is art for/and you?
- 24 回： Workshop for the final presentation
- 25 回： Final presentation 1

- 26回：Final presentation 2
 27回：Final presentation 3
 28回：Summary and reflection

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to:

- read suggested and assigned reading materials provided before the sessions.
- regularly review and reflect on feedback and comments of the instructor on their work.
- research further relating to session topics.
- prepare for m

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Performance and participation in classes:40% Presentation (mid-term: 10, final: 20) :30% Mid-term Report:10% 最終レポート割合 :20%

Class attendance is essential. If you have any reasons for not being able to attend the sessions, please tell the instructor beforehand.

Performance and participation include discussions, research in class, and regular assignments, including comments and

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Dana Arnold Art History : A Very Short Introduction Oxford University Press 2020 (2nd edn.)
 9780198831808

Michael Findlay The Value of Art: Money, Power, Beauty Prestel (revised) 2014 9783791349138

Marcia Pointon History of Art: A Student's Handbook Routledge 2014 (5th edn) 9780415639248

Arthur C. Danto What Art Is Yale University Press 2013 9780300205718

John Berger Ways of Seeing Penguin 2000 (1972) 9780140135152

Reading materials will be uploaded (PDF) on the Canvas course page before the class.

The books in the "Readings" are available from the Rikkyo Library.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Please bring a laptop to class. If it is impossible, please bring a tablet, such as an iPad.

その他 / Others

The course schedule may change for necessary reasons (e.g. the number of students registered, etc.).

注意事項

- ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム 所属学生/特別外国人学生が履修
- ・この授業は、英語圏での大学の授業を想定し、全て英語で行う
- ・以下の英語力を有していることが履修の目安になる

英検準 1 級, IELTS 5.5, TOEFL®iBT 72, TOEIC®L&R 785

- ・週 2 回開講
- ・2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

The Psychology of Literature 1

The Psychology of Literature 1

The Psychology of Literature 1: Myths and legends

マッキロイ (MCILROY TARA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FC510

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期 1

単位： 1

科目ナンバリング： CMP2331

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

The objectives of this course are that studies will 1) describe the methods of literary analysis related to psychology and 2) apply those methods to the analysis of literary texts. Students will develop skills in textual analysis, applying inquiry methods to a variety of texts.

By the end of the course, students will be able to:

- (i) discuss different aspects of psychology in literature;
- (ii) in a pair or small group, prepare and present an interactive talk related to aspects of psychology in literature;
- (iii) write short reflective responses to literary topics while showing an understanding of relevant theories of literature and psychology.

授業の内容 / Course Contents

The contents of this course will be based on myths, legends and traditional stories from around the world. In this course, we will explore the psychology of literature from a variety of perspectives, using examples from prose,

drama and poetry. Topics for investigation include empathy, emotions, theory-of-mind, effects of literature on the reader and creativity in fictional texts.

授業計画(授業計画数：7) / Course Schedule

1回：Introduction.

Key questions: Why read fiction?

What is psychology and how does it link to literature?

What are myths and legends? Definitions and examples.

2回：Fictional Worlds and Dreaming

Mini-lecture

Group work and discussion

3回：Characters and Action

Mini-lecture

Group work and discussion

4回：Empathy, Emotions and Effects

Mini-lecture

Group work and discussion

5回：Applying psychological theories to literary stories and characters

Student-selected topics

Group work and discussion

6回：Group Presentation preparation.

Researching a topic.

7回：Presentations.

Course Review & Reflective Paper

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

1) Completing weekly assignments

2) Preparing for presentations

3) Completing an individual reflective paper

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation (actively cooperating in groups, using English, preparing for class):30% Assignments:40% Final project and reflective paper:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Kidd, D. C., & Castano, E. Reading literary fiction improves theory of mind. Science. 2013

Tyson, L. Using Critical Theory: How to Read and Write about Literature. Routledge (3rd Ed) 2020

1138586471

Oatley, K. Such stuff as dreams: The psychology of fiction. Wiley. 2011 9780470974575

DK The Mythology Book: Big Ideas Simply Explained DK Books 2018 9780241301913

DK The Psychology Book: Big Ideas Simply Explained DK Books 2015 9781405391245

The above are used as reference texts, along with other digital readings and some videos.

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Language of delivery: All instructions will be given in English. Students are required to use English in classroom discussions, readings and activities. In groups and individually, students are expected to interact in English.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

This course will be taught online so students should prepare appropriate tools for a Zoom lesson. This includes earphones and mic for interaction with other students during class time.

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

The Psychology of Literature 2

The Psychology of Literature 2

The Psychology of Literature 2: Fairy Tales

マッキロイ (MCILROY TARA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC511
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地： 池袋
学期： 秋学期 2
単位： 1
科目ナンバリング： CMP2331
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

The objectives of this course are that studies will 1) describe the methods of literary analysis related to psychology and 2) apply those methods to the analysis of literary texts. Students will develop skills in textual analysis, applying inquiry methods to a variety of texts.

By the end of the course, students will be able to:

- (i) discuss different aspects of psychology in literature;
- (ii) in a pair or small group, prepare and present an interactive talk related to aspects of psychology in literature;
- (iii) write short reflective responses to literary topics while showing an understanding of relevant theories of literature and psychology.

授業の内容 / Course Contents

The contents of this course will be based on fairy tales from around the world. In this course, we will explore the psychology of literature from a variety of perspectives, using examples from tradition versions of tales, as well as

adaptations and remixed/contemporary versions. Topics for investigation include empathy, emotions, theory-of-mind, effects of literature on the reader and creativity in fictional texts.

授業計画(授業計画数：7) / Course Schedule

1回：Introduction.

Key questions: Why read fairy tales today?

What are some features of fairy tales?

Elements of psychology in fairy tales. Definitions and examples.

2回：Beginnings of fairy tales

Memories of fairy tale encounters

UN fairy tales and social issues

Mini-lecture

Group work and discussion

3回：Characters and types in fairy tales

Contemporary theories psychology applied to fairy tales (1)

Mini-lecture

Group work and discussion

4回：Adaptations of fairy tales

Contemporary theories psychology applied to fairy tales (2)

Mini-lecture

Group work and discussion

5回：Fairy tales and psychological aspects

The psychology of the reader

Mini-lecture

Group work and discussion

6回：Final project preparation

7回：Final project presentations

Course Review & Reflective paper

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

1) Completing weekly assignments

2) Preparing for presentations

3) Completing an individual reflective paper

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation (actively cooperating in groups, using English, preparing for

class):30% Assignments:40% Final project and reflective paper:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Maria Werner Fairy Tale: A very short introduction. Oxford. 2018 9780199532155

UN Women Awake, not sleeping. Reimagining fairy tales for a new generation. UN. Weblink:
<https://interactive.unwomen.org/eca/fairytales/en/index.html>. 2023

Tyson, L. Using Critical Theory: How to Read and Write about Literature. Routledge 2021 1138586471

Oatley, K. Such stuff as dreams: The psychology of fiction. Wiley 2021 9780470974575

DK Books DK, The Psychology Book: Big Ideas Simply Explained DK Books 2015 9781405391245

The above are used as reference texts, along with other digital readings and some videos.

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Language of delivery: All instructions will be given in English. Students are required to use English in class discussions, readings and activities.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

This course will be taught online so students should prepare appropriate tools for a Zoom lesson. This includes earphones and mic for interaction with other students during class time.

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Exploring Children's Literature

Exploring Children's Literature

Developing deeper knowledge and appreciation of children's literature in English.

長谷川 A. (HASEGAWA ALISON)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC512
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2331
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course will examine 'The Picturebook,' as a genre of literature, an artform and a representation of societies, cultures and history. Picturebooks combine visual text – pictures, and verbal text – words, and have their own peritext - which are the individual parts of the book, e.g., the front and back cover, dedication or endpapers. We will explore the work of a variety of authors/illustrators, and through the picturebooks selected, will also discuss a range of themes, such as friendship, resilience and embracing diversity.

授業の内容 / Course Contents

This course will allow students to gain deeper specialist knowledge and examine in detail various examples of well-known English children's literature. In each class, a selection of famous picturebooks created by a range of author/illustrators, both past and present, will be presented and discussed.

Students will learn specialist terminology and develop their own criteria for describing and assessing these picturebooks. Common themes such as friendship, resilience and celebrating or embracing diversity will be discussed by participants from both the characters' and their own perspective in pairs and small groups.

Students training to be English instructors at primary, junior-high, or high-school level, as well as anyone interested in literature, and ways to enjoy children's literature with their own, or future, children will find this course valuable.

By the end of the course, students will have:

- (i) Read, analyzed and discussed in pairs or groups many well-known children's books in English.
- (ii) Learnt how to analyze and comment on a picturebook using correct terminology.
- (iii) Discussed themes from illustrated books and picturebooks, such as friendship, resilience or embracing diversity.
- (iv) Done a short presentation and written a Final Report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction to the Instructor and Course.
- 2回：The Parts of a Picturebook & Connection between the pictures and text.
- 3回：Eric Carle - Master of the picturebook 1
- 4回：Leo Lionni- Master of the picturebook 2
- 5回：Learning about Culture through picturebooks.
- 6回：The Beauty of Wordless books.
- 7回：Animal Antics - books with animals featured as main characters.
- Presentation Group 1
- 8回：Oliver Jeffers, Emily Gravett and other modern masters.
- 9回：Theme - Learning About Diversity through picturebooks.
- 10回：Celebrate Diversity - respecting and appreciating what makes us different.
- Presentation Group 2
- 11回：Theme - Building resilience through picturebooks.
- 12回：Theme - Valuing friendships and experiencing loss.
- Presentation Group 3
- 13回：Theme - Learning about Social Issues, Immigration and Climate Change through picturebooks.
- Presentation Group 4
- 14回：Theme - Exploring Emotions through picturebooks.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Reading background materials, making a short presentation about a picturebook, and writing a Final Report on a book of your choice.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Active participation & discussion in class and online in the Google Classroom:40% Short

Presentation:20%

最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

Techniques for reading and enjoying a picturebook in English

Techniques for reading and enjoying a picturebook in English

Creating an interactive read-aloud with a picturebook in English.

長谷川 A. (HASEGAWA ALISON)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC513
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2331
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

Picturebook read-alouds are an engaging and motivating classroom activity for learners of all ages, that can help develop a wide range of literacies including; visual, emotional, or cultural literacy, as well as the foundation for reading and writing. Interactive read-alouds can initiate critical thinking and facilitate real communication, naturally developing learners' listening and speaking skills too. Students will take part in, then plan and carry out interactive picturebook read-alouds, aimed at developing not only children's listening and speaking skills but also critical thinking and creativity.

授業の内容 / Course Contents

Participants will gain knowledge about various picturebooks and authors, as well as plan and practice two picturebook read-alouds in class following the pre-reading, during-reading, and post-reading framework. This framework is designed to help instructors nurture the development of learners' language and other skills through, pre and post-reading discussion, drawing, writing or craft activities, for example.

Students training to be English instructors at primary, junior-high, or high-school level, as well as anyone

interested in literature, and ways to share children's literature with their own, or future children will find this course valuable.

By the end of the course, students will have:

- (i) observed, then planned, and practiced doing two interactive picturebook read-alouds following the pre-reading, during-reading and post-reading framework.
- (ii) written a Final Report, and taken part in discussions around the picturebooks presented.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：An Introduction to 'The Picturebook' as an EFL/ESL Classroom Resource.
- 2 回：The Parts of a Picturebook and Demonstration Read-aloud.
- 3 回：The Relationship between Words and Pictures and Demonstration Read-aloud.
- 4 回：Building a Framework for an Effective Read-Aloud - the 3 stages.
Reading 'with' children not 'to' children - Strategic Questions.
- 5 回：The Possibilities of Pre, During and Post-reading Activities.
Planning for a Read-aloud.
- 6 回：Group 1 - Read-aloud 1
- 7 回：Focus on Classic Authors/Illustrators - Eric Carle & Leo Lionni
- 8 回：Group 2 - Read-aloud 1
- 9 回：Focus on theme 1 - Celebrating Individuality & Embracing Diversity
- 10 回：Group 1 - Read-aloud 2
- 11 回：Focus on Modern Authors/Illustrators - Emily Gravett, Chris Haughton, Anthony Browne, Mac Barnett, Christian Robinson, Kevin Henkes, Oliver Jeffers & David Wiesner.
- 12 回：Group 2 - Read-aloud 2
- 13 回：Focus on theme 2 - Developing Resilience & Dealing with Grief through Interactive Read-alouds.
- 14 回：Recognizing and Talking about Feelings - Social Emotional Learning (SEL) and the Read-aloud.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Answering questions and joining discussions in the Google Classroom.

Planning for 2 (20-30 min.) Interactive Read-aloud Sessions.

Writing a Final Report.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Active participation & discussion in class and online in the Google Classroom:20%

Read-Aloud 1, planning, presentation and reflection:20% Read-Aloud 2, planning, presentation and reflection:20% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

Attendance Policy: 80% attendance is required to receive credit for the course. 4 absences = no credit.

2 late = 1 absence. Late = not seated when the bell rings.

2 early departures = 1 absence. Early departure = leaving class 15 minutes or more before th

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

International Humanities 3

International Humanities 3

Thinking About Culture

チルトン, M. (CHILTON MYLES K.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC514
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2331
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

The overall aim of this course is to broaden and deepen our understanding of culture. Students who successfully complete the course will be able to, in English: offer various definitions of culture; understand how the meaning of culture has changed over time and in different places; analyze how culture is made or understood; and present their own responses to our discussions of culture in short presentations and papers.

授業の内容 / Course Contents

Culture is an idea, a concept, or a set of assumptions, or it is what a group of people make, or it means artistic creations, or it is what shapes and reflects a set of values. Culture, in other words, means many things to many people. In this course we will examine and analyze a variety of ways in which culture can be defined, considered, valued, and otherwise used as a way of understanding human life. Culture, therefore, is not a simple, straightforward thing. By the end of the course, it is hoped that students will never use or hear the word 'culture' without stopping to think about how and why the term is being used.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Introduction: What is culture? What is 'your' culture?

Homework: Read Weil, "What Is Culture?" (pp. 7-21), do Application (p. 21-23).

2 回：Origins and early development of culture

Review, discuss homework.

Culture as a product of human activity, tools, figurines, painting, mythology.

Homework: Read Weil, "Origins and Early Development of Culture" (pp. 45-76), do Application (p. 77).

3 回：Culture as thought and action

Review, discuss homework.

Beliefs, values, norms, customs and traditions, rituals.

Homework: Read Weil, "Culture as Thought and Action" (pp. 101-111), do Application (p. 111-12).

Presentation assignment 1: Prepare a short pre

4 回：Culture as thought and action roundtable discussions

In groups, students will present and discuss their responses to the homework questions. At the end of the class, students will submit their written answers.

5 回：Beliefs, values and cultural universals

Review, discuss homework.

Human nature, humans and nature, time, individual and society, gender, power.

Homework: Read Weil, "Beliefs, Values, and Cultural Universals" (pp. 113-128), do Application (p. 128).

6 回：Group membership and identity

Review, discuss homework.

Cultures and subcultures, ethnicity, race, social class, nationality.

Homework: Read Weil, "Group Membership and Identity" (pp. 130-151), do Application (p. 151-52).

Presentation assignment 2: Prepar

7 回：Group membership and identity roundtable discussions

In groups, students will present and discuss their responses to the homework questions. At the end of the class, students will submit their written answers.

8 回：Matthew Arnold: the culture and civilization tradition

Review, discuss homework.

Sweetness and light, the best that has been thought and known in the world.

Homework: Read Arnold excerpts, and Walton, "Culture and Anarchy in the UK: A Dialogue with Matthe

9 回：Leavis, Eliot, high culture vs the masses

Review, discuss homework.

The civilizing project of high culture and criticism, and culture as a whole way of life.

Homework: Read Eliot and Leavis excerpts, and Walton, "The Leavisites and T.S. Eliot Combat Mass

10 回：The 'Culture Industry'

Review, discuss homework.

The Frankfurt School, Adorno, capitalism and the politics of culture.

Homework: Read Adorno excerpts, and Walton, "Adorno, the Frankfurt School and the 'Culture Industry'"; do

Practice Exercise 1: Working w

11 回：The 'Culture Industry' roundtable discussions

In groups, students will present and discuss their response to the Working with the Culture Industry Heuristic. At

the end of the class, students will submit their written answers.

12 回：Global culture?

Review, discuss homework.

Is there a global culture? Globalization, localization, globalism, and hybridity.

Homework: Read “The Leavisites and T.S. Eliot Combat Mass Urban Culture”, do Practice Exercise: Working with Eliot’s ‘Transnational

13 回：Comparing cultures

Review, discuss homework.

Methods of cultural comparison, compare Disneyland and Tokyo Disneyland.

Homework: Prepare for the final examination.

14 回：Final in-class examination.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to actively participate in class, as the teacher will ask many questions, and there will be group discussions requiring students to facilitate and/or present their ideas. Students who try their best, and commit themselves to active p

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Homework and class participation:30% 3 presentations based on homework, plus 1-page written responses:30% final in-class examination:40%

テキスト / Textbooks

Speaking of Culture, Nathan Weil; Introducing Cultural Studies: Learning Through Practice, David Walton; plus supplementary readings all available as pdfs on Canvas.

参考文献 / Readings

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Japanese Arts A

Japanese Arts A

Visual Culture of Edo and Early Meiji

フォンデヴィリ (FONDEVILLA HERBETH)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC515
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2331
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

Based on selected themes, this course teaches Japanese visual culture from the Edo period to the early Meiji era. Through semiotic analysis, close-looking, and discussions, we will analyze the relationship between Japanese society and its artistic creations, as well as its influences on contemporary culture.

授業の内容 / Course Contents

The goals of this class are for students to:

- Develop a deeper understanding and critical eye for Japanese art and culture.
- Develop the ability to construct what to say as an organized discourse.
- Discuss with insight aspects of Japanese visual culture and the fine arts, as well as its impact on contemporary life.
- Practice formulating and expressing thoughts and ideas in writing and presentation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: Why study visual culture?
 2 回：The Beginnings of Ukiyo-e
 3 回：Ukiyo-e as Popular Culture
 4 回：The Pleasure Quarters: Kabuki Theatre
 5 回：The Pleasure Quarters: Yoshiwara
 6 回：Women Artists of the Edo Period
 7 回：MIDTERMS
 8 回：Art and the Supernatural: Yokai
 9 回：Art and the Supernatural: Yurei
 10 回：Art and Disasters
 11 回：Japan and the West: Aesthetics
 12 回：Japan and the West: Themes
 13 回：Independent Work
 14 回：Finals

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Weekly readings and quizzes.

Explorative learning will be announced as needed.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:30% Assignments and Projects:40% Final Work:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Computer or tablet, note-taking instruments

注意事項

- ・ F 科目中級 (外国語による総合系科目)
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

Topics in Humanities and Arts

Topics in Humanities and Arts
Introduction to East Asian Film

キヴァニー (KEAVENEY CHRISTOPHER)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FC516
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2331
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- Acquire a basic, general knowledge of major developments in East Asian film through the 20th century
- Learn about important movements in East Asian cinema, genres, directors, production practices, set design, politics and film, etc.
- Become familiar with the basic tools and language of film analysis

授業の内容 / Course Contents

Introduction to the history and development of film in East Asia with a focus on the rich film traditions that have developed in Japan, Hong Kong, China PRC, Taiwan, and South Korea. Consideration of Western influences on East Asian cinema alongside an examination of traditional East Asian values and aesthetics. Acquisition of tools of visual literacy in conjunction with inquiry into modern East Asian culture through film. Class sessions will include viewing clips of films, student presentations, lectures and discussions. Conducted in English. Please note that viewing of the weekly film must be completed by the student outside of class time.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Wk. 1: An Introduction to Film Studies and Age of Silent Film in East Asia
Introduction of the Tools of Film Analysis and discussion of Film Viewing Habits
Focus Film: "The Goddess" [dir. Wu Yonggang] (Jp. 神女)
- 2回：Wk. 2: The Age of Silent Film in East Asia
Film Element: Style
Focus Film: "I Was Born, But..." [dir. Ozu Yasujiro] (Jp. 大人の見る絵本、生まれてみたけれど)
- 3回：Wk. 3: Postwar Japanese Film and "The Big Three": Kurosawa
Film Element: Characters and Acting
Focus Film: "Rashomon" [dir. Kurosawa Akira] (Jp. 羅生門)
- 4回：Wk. 4: Postwar Japanese Film and "The Big Three": Mizoguchi
Film Element: Lighting and Cinematography
Focus Film: "Ugetsu" [dir. Mizoguchi Kenji] (Jp. 雨月物語)
- 5回：Wk. 5: Postwar Japanese Film and "The Big Three": Ozu
Film Element: Mise-en-scene
Focus Film: Banshun (Late Spring) [dir. Ozu Yasujiro] (Jp. 晩秋)
- 6回：Wk. 6: Korean Film of the Eighties and Chinese Film of the Seventies and Eighties:
Film Element: Shots and Cuts
Focus Film: [No films, just clips of representative films]
- 7回：Wk. 7: Japanese Film of New Wave Period
Film Element: Sounds and Music
Focus Film: [No films, just clips of representative films]
Analysis Paper 1 is due
- 8回：Wk. 8: Taiwanese Film
Film Element: Theme and Purpose
Focus Film: "Eat Drink Man Woman" [dir. Ang Lee] (Jp. 恋人たちの食卓)
- 9回：Wk. 9: Hong Kong Film
Film Element: Mood
Focus Film: "In the Mood for Love" [dir. Wong Kar-wai] (Jp. 花樣年華)
- 10回：Wk. 10: Golden Age: Chinese Fifth Generation: Zhang Yimou
Focus Film: "Raise the Red Lantern" [dir. Zhang Yimou] (Jp. 紅夢)
- 11回：Wk. 11: Golden Age: Chinese Fifth Generation: Chen Kaige
Focus Film: "Farewell My Concubine" [dir. Chen Kaige] (Jp. さらば、わが愛)
- 12回：Wk. 12: Contemporary East Asian Film
Focus Film: "Still Life" (China PRC) [dir. Jia Zhang Ke] (Jp. 長江哀歌)
- 13回：Wk. 13: Contemporary East Asian Film
Focus Film: "Poetry" (Korea ROK) [dir. Lee Chang-dong] (Jp. ポエトリー アグネスの詩)
- 14回：Wk. 14: Contemporary East Asian Film
Focus Film: "Still Walking" (Japan) [dir. Koreeda Hirokazu] (Jp. 歩いてても歩いてても)
Analysis Paper 2 is due

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Beside the weekly readings, students will need to view and respond to one film outside of class (either the week's featured film or another approved film). Students will need to have access to either Netflix or Hulu or another online film account or will

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and Participation:30% Weekly Reading Response:30% Film Analysis Paper 1:15% Film Analysis Paper 2:15% In-Class Presentations:10%

テキスト / Textbooks

Readings will be included on the course's password protected Canvas course page. Readings will be derived from: Piper, Jim. Get the Picture 2nd edition (Norton: 2008) and Vick, Tom. Introduction to East Asian Film: A Field Guide (Smithsonian: 2007).

参考文献 / Readings

その他 / Others

- The Canvas course page will be used extensively for distributing readings and for submission of assignments
- Small group and pair work and student presentations will be a regular feature of this course and will complement readings and brief lectures
- La

注意事項

- ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム 所属学生/特別外国人学生が履修
- ・この授業は、英語圏での大学の授業を想定し、全て英語で行う
- ・以下の英語力を有していることが履修の目安になる

英検準 1 級, IELTS 5.5, TOEFL®iBT 72, TOEIC®L&R 785

- ・2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

言葉と身体

Language and Body

「能」という日本の古典演劇を個々の身体を通して実体験し、それぞれの身体を通して「演じる」ということ探ってゆく。

鶴澤 光 (UZAWA HIKARU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FC553
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	実技中心。全員謡い、舞い、演じます。
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	-----
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

能の表現を裏づける根源的な力とは何か、それを能の詞（ことば）・型（動き）を身体を通して学ぶ。それによって日本人の培った、豊かな感性に気づき、更に日本文化の深層に触れて行く。能を通して「演じること」を探っていく。

Students will learn the underlying power that supports the expression of Noh, the lyrics of Noh (words) and movements through the body. As a result, students will become aware of the rich sensibility of Japanese people, and will touch upon the deeper layers of Japanese culture.

授業の内容 / Course Contents

能という舞台芸術について多角的に学ぶ。能の一曲を取り上げ内容を理解した上で、その一部分を詞章、節、それに伴う動きを含め、実際に身体で学び、最終的に演じる。実技中心。己れの肉体を目一杯使って、能の表現にどれだけ近付けるか、自分に仕掛ける事。

本年は「松風」（まつかぜ）という観阿弥作世阿弥改修の名曲をテーマに据え、演劇、文学、歴史など多岐にわ

たる日本文化、芸術を縦断する授業を展開する。

We will take a Noh songs, understand the contents, and learn parts of them with the body, including poetry and prose, verses, and movements associated with them. The course will be practically-oriented. Students will have to challenge themselves to use their own bodies to the fullest to see how close they can get to the expression of Noh.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーションと実技・・・授業をどう進行するかの説明。「能」とはどのような演劇なのか、その内容・歴史などを映像を観つつ学ぶ。

2回：オリエンテーションと実技・・・能「松風」(まつかぜ)を素材に戯曲を音読し、現代語訳しつつ、内容を把握する。実技の基本を学ぶ。

3回：「松風」を学ぶ・・・能「松風」の映像を見る。

4回：実技。「松風」の一部分を実際に演じる(これが最終テストの課題である。)

「松風」の課題部分を最終テストに向けて少しづつ学ぶ、暗記する。

5回：実技。前回のつづき。

「松風」の課題部分の学びを少しづつ進め、深める。

6回：実技。前回のつづき。

「松風」の課題部分の学びを少しづつ進め、深める。

7回：ゲストスピーカー(囃子方、ワキ方、狂言方、いずれかを予定)を招き、能一曲をどう作り上げてゆくのか、違う視点から学ぶ(予定)

8回：実技。前回のつづき。

「松風」の課題部分の学びを少しづつ進め、深める。

9回：実技。前回のつづき。

「松風」の課題部分の学びを少しづつ進め、深める。

10回：身体との関わりについて、古典とは違う視点から学ぶ。

11回：実技。最終テストに向けてしっかり身に付いているか、一人一人細かく学ぶ。

12回：実技。前回のつづき。

最終テストに向けてしっかり身に付いているか、一人一人細かく学ぶ。

13回：授業内「松風」の最終実技発表会その1を実施。

14回：授業内「松風」の最終実技発表会その2を実施。能鑑賞のレポート提出。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○ グループ発表	:	○ ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回実習したことを反復練習すること。指示されたことを予習、暗記、復習してこること。きちんと授業に出れば試験範囲は習得できるので、諦めないこと。実技中心の積み重ねが肝要な授業である為、欠席しないこと。授業では積極的に己れに仕掛けて行くこと。

能鑑賞のインフォメーションは授業にて致します。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席状況と授業参加度:40% 能鑑賞後のレポート:20%
合 :40%

最終テスト割

テキスト/Textbooks

世阿弥 『観世流大成版「松風」(ふじと)』 檜書店 ○

参考文献 / Readings

観世 寿夫 『心より心に伝ふる花』 角川ソフィア文庫 2008 9784044080013

石井 倫子 『能・狂言の基礎知識』 角川選書 2009 9784047034402

小林 保治 『能・狂言図典』 小学館 1999 9784093620628

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

何事にも興味を持って積極的に取り組む

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

白足袋 (初回授業で説明します)

筆記用具

動きやすい服装

その他/ Others

<http://www.tessen.org>

<http://www.hikaruuzawa.com>

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通カリキュラム / 主題別 A

認知・行動・身体

Recognition, Behavior and Body

心と身体の関係

小堀 晶子 (KOBORI AKIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD001
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項） 全回オンデマンド
校地： 新座
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

心と身体がどのように相互に影響しているのかを心理学的な視点から理解することを目標とする。

The goal of this course is to understand how the mind and body interact with each other from the viewpoint of psychology.

授業の内容 / Course Contents

「心と身体はつながっている」とはよく言われることである。心と身体が相互に影響を与え合うことは心身相関と呼ばれる。本講義は心身相関を軸として進めていく。心身相関の代表として、ストレスや心身症を出発点とし、対人関係を含めこれらに関連する環境や刺激などを私たちはどのように捉え、処理しているのかを学ぶ。さらに、現在の精神科医療における課題や問題とどう向き合うべきかを受講者とともに考えていきたい。

It is often said that the mind and body are connected. The mutual influence of mind and body is called psychosomatic correlation. We will study psychosomatic correlation as the theme of this lecture. Stress and psychosomatic disorders will be the starting point of the lectures as representatives of psychosomatic correlation. The lectures will consider how we perceive and process the environment and stimuli related to these issues,

including interpersonal relationships. Furthermore, we would like to consider with the students how we should face the issues and problems in current psychiatric care.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：心と身体の関係①
- 3回：心と身体の関係②
- 4回：視知覚
- 5回：学習・動機づけ
- 6回：精神科医療の課題
- 7回：精神疾患と食事・運動①
- 8回：精神疾患と食事・運動②
- 9回：コロナウイルス禍における精神科医療が抱える問題
- 10回：共生を考える
- 11回：発達過程で生じる問題①
- 12回：発達過程で生じる問題②
- 13回：こころのケア
- 14回：こころの健康と健康格差

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義の内容が日常の出来事や体験とどのように結びついているか考えながら復習を行ってほしい。
また、疑問に感じたことは質問することも大切であるが、まずは自分で調べてみるのが何より重要である。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)が望まれる。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業課題:60% 最終課題:40%

授業課題の提出が全授業回の2/3以下の場合、評価の対象から除外する。

テキスト/ Textbooks

参考文献 / Readings

成田善弘 『心身症と心身医学』 1986 1986 9784000040068

中井久夫/山口直彦 『看護のための精神医学(第2版)』 医学書院 2004 9784260333252

絲山秋子 『絲的ココロエ』 日本評論社 2019 9784535563766

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

本科目は全回オンデマンド形式で行われる。したがって、自身で学習計画を立て、学びの意欲を持って臨めることが求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業に関する連絡や授業資料の配布、課題提出等といった授業に関わる活動はCanvasLMSを使用する予定で

ある。本科目の連絡については CanvasLMS をこまめに確認すること。

その他/ Others

- ・授業は毎週月曜日 1 限の時間に配信予定であり、原則として 70 分～90 分を目安とした内容を想定している。
- ・授業課題を配信と同じ週の木曜日までに提出すること。
- ・授業課題は、小テストもしくはリアクションペーパーの形式を予定している。
- ・小テストは、回答に制限時間を設け、受験回数は 1 回とする。
- ・授業課題の提出が全授業回の 2/3 以下の場合、評価の対象から除外する。
- ・初回の授業で、本授業の目的・方法・成績評価法等の重要事項を説明するため、初回の授業に必ず出席すること。
- ・受講者数や学習進度により授業内容を一部

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

心の科学

Science of Mind

心理学の基本的概念を学ぶ

久 雅子 (HISA MASAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FD002

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

様々な領域の心理学を学ぶことにより、それらが日常生活での出来事とどのようなつながりをもっているのか考える手がかりを得ることを目標とする。

By studying the psychology of various fields, we will aim to obtain clues to think about how they relate to events in daily life.

授業の内容 / Course Contents

心理学とは人間の心を科学的に解明しようとする学問であり、心理学の研究を通して明らかになっていることは、私たちの日常生活と密接な関わりをもっている。この授業では、様々な心理学の領域を概観し、日常生活での出来事と心理学で取り上げられているトピックとの関連性を紹介する。

Psychology is a study that tries to elucidate the human mind scientifically, and what has become clear through psychology research has a close relationship with our daily life. In this course, we will outline various psychology areas and introduce the relationships between events in daily life and topics covered in psychology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：心理学への招待・・・心理学の研究手法
- 2 回：心理学への招待・・・心理学の歴史
- 3 回：感覚・知覚・・・明るさと色の知覚・錯視
- 4 回：感覚・知覚・・・注意・視覚の法則性
- 5 回：記憶・・・記憶の貯蔵庫モデル
- 6 回：記憶・・・記憶研究の応用
- 7 回：学習と動機づけ・・・行動の過程
- 8 回：学習と動機づけ・・・動機づけ
- 9 回：発達・・・乳児期の発達
- 10 回：発達・・・青年期の発達
- 11 回：性格・・・性格の認知・性格の理解
- 12 回：性格・・・性格の測定・性格の形成
- 13 回：対人関係・・・対人認知・対人魅力
- 14 回：対人関係・・・自己と他者・集団の心理

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各トピックの授業終了後に「Canvas LMS」で実施する課題に取り組むため、各回の授業内容について、重要な概念等をしっかりと復習し、その上でそれらの概念がどのように自分自身の日常生活と関わっているのか考える習慣を身につけるよう心がけること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :65%

平常点割合 :35% 各トピックの授業終了後に「Canvas LMS」にて提出を求める課題の内容:35%

テキスト / Textbooks

使用しない。授業で使用する資料は「Canvas LMS」に PDF のファイルをアップロードするので、各自印刷して授業に臨むこと。

参考文献 / Readings

授業中に随時紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

心理学を初めて学ぶ学生を対象にしているので、履修にあたり心理学についての知識は必要としない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料の配布や課題の提出には「Canvas LMS」を使用する。

なお、課題の提出は授業終了後に各自で取り組むので、授業に PC を持参する必要はない。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

パーソナリティの心理

Psychology of Personality

人が「その人」となるプロセスを理解する

田中 志帆 (TANAKA SHIHO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD003
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 授業で取り上げた基本的な人格理論、性格理論・概念をもとに自己・他者理解を試みることができる。
 - 簡単な性格テストから、倫理的配慮について考慮し、複数の観点で人格を理解することができる。
 - 社会生活や心理・福祉的支援の場で、人格形成にかかわる要因を考慮した提案やサービスを考えることができる。
- Students will attempt to understand self, and others based on basic theories and concepts of personality and character.
 - Students will understand personality from different perspectives and simple personality tests with ethical aspects.
 - Student will be able to consider suggestions and services related to personality development in social life and psychological and social support settings.

授業の内容 / Course Contents

日本語 人格・性格心理学に関する講義と、簡単に侵襲的でない心理検査の実習から、「その人らしさ」を理解

すること、そして個性ある人々が共生し、互いの存在意義を認め合うことの大切さを考えます。心理学の理論的立場の相違や観点も含め、将来的に他者や自己を理解するために役立てられるような基礎的な人格心理学の理論とその歴史も含めて紹介します。

Through lectures on personality and character psychology and practical training in simple psychological tests, we will consider the importance of understanding "personality" and living together and recognizing the significance of each other's existence. We will overview the differences in theoretical perspectives in psychology, as well as basic personality psychology theories and their history that can be used to understand others and the self in the future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：心理学における人格と性格の定義
- 2 回：人格理論の歴史と展開①
- 3 回：人格理論の歴史と展開②
- 4 回：フロイトとユングの性格理論①
- 5 回：フロイトとユングの性格理論②
- 6 回：アタッチメントスタイルと人格形成
- 7 回：パーソナリティと知能
- 8 回：パーソナリティのアセスメント法
- 9 回：心身症と性格・人格①
- 10 回：心身症と性格・人格②
- 11 回：うつ病と性格①
- 12 回：うつ病と性格②
- 13 回：BIG 5 と新しい特性論について
- 14 回：人生そのものの人格 歴史的人物（病跡学より）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の講義に対し、配布プリントの予習と復習をそれぞれ行うこと。さらに簡単な実習で体験したアセスメント、心理検査について、その意義と限界について考察すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%
 平常点割合 :40% 授業感想文(リアクションペーパー):40%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊 『性格心理学への招待（改訂版）自分を知り他者を理解するために』 サイエンス社 2003 9784781910444
 二宮克美・子安増生 『パーソナリティ心理学』 新曜社 2006 9784788510210

願興寺礼子・吉住隆弘（編） 『心理学基礎講座 Vol.5 心理検査の実施の初歩』 ナカニシヤ出版 2011
9784779503870

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

好奇心をもって心理学や人格心理学分野について知りたいと思っている方を対象とします。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特にないが、体験ワークを行う場合には鉛筆やクレヨンを用意していただくことがある。

その他/ Others

授業は講義形式で行い、映像資料も用いることがある。印刷物を配布する場合もある。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

対人関係の心理

Psychology of Human Relations

対人関係が人の認知・感情・行動に及ぼす影響

川久保 惇 (KAWAKUBO ATSUSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FD004
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2400
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

私たちが社会生活を送る上で、他者との関わりを避けることは困難である。そのため、世の中の多くの人が自己のみならず他者や対人関係に興味を持っていることは、共通の認識として共有できる。

本講義では、対人関係に関する社会心理学の知見をもとに、対人関係に起因する諸問題について理解することを目的とする。対人関係によって生じる心の動きやさまざまな問題について、社会心理学的観点から理解を深め、日常生活に役立てる。

As long as we live in society, it is difficult to avoid involvement with others. For that reason, we have a common view that many people in the world are interested in themselves, others and interpersonal relationships.

The aim of this course is to help students acquire understanding of various problems caused by interpersonal relationships and use this learning for everyday life.

授業の内容 / Course Contents

各回では自己と他者の関わりから始まり、対人認知、社会的態度、集団の影響力や対人関係の各段階（親密な関係の形成・発展・維持・崩壊）といったテーマを取り上げる。各テーマの基本的な用語、概念を解説しな

がら、それらに関する具体的な研究を紹介することで対人関係の諸問題に対する理解を深めていく。人の悩みの多くは、対人関係が原因となる。そのため、「良好なコミュニケーションとは何か?」、「なぜ助けてと言えないのか?」や「空気を読むとは何か?」などの日常生活で感じる疑問にも焦点を当てながら、講義を進める。

講義は主にパワーポイントを用いて進めるが、必要に応じて映像教材なども使用する。毎回の講義の終わりにはコメントペーパーを作成し、提出してもらう。コメントペーパーの作成は、講義で学んだ知識を整理する上で重要であるため、各学生の積極的な取り組みが求められる。

This course introduces the relationship between oneself and others, and deals with topics, such as interpersonal cognition, social attitude, group influence, and the stages of interpersonal relationships (formation, development, maintenance, and collapse of intimate relationships). While explaining the basic terms and concepts of each theme, this course introduces concrete examples on them and enhances students' understanding of interpersonal issues. Everyone has worries, and many of them are caused by interpersonal relationships. For this reason, lectures focus on questions in daily life such as "What is good communication?", "Why people can't ask others for help?" and "What is reading between the lines?".

This course will be conducted mainly using PowerPoint, but video teaching materials also will be used as needed. At the end of each lecture, all students have to submit a comment paper.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：対人コミュニケーションの社会心理学
- 2 回：対人関係における自己：自己概念、自己呈示と自己開示
自分はどんな人か？自分のことを人にどう伝えるか？
- 3 回：対人関係における他者：社会的認知と対人魅力
どのような相手に魅力を感じ、好意を抱くか？
- 4 回：集団と対人関係
集団が個人に及ぼす影響とは？
- 5 回：対人影響力
相手を説得するにはどうしたら良いのか？
- 6 回：心理学と幸福感
日本人の幸福感はなぜ低い？
- 7 回：パーソナリティ：遺伝と環境
人の性格はどのように形成されるのか？
- 8 回：ソーシャルスキル
円滑な対人関係を築くにはどうしたら良いのか？
- 9 回：恋愛：出会いと別れ
吊り橋効果は実在するか？
- 10 回：援助行動と攻撃行動
援助行動・攻撃行動を促進する要因にはどのようなものがあるか？
- 11 回：メディアコミュニケーション
コミュニケーション環境の変化と対人関係
- 12 回：対人関係と健康
対人関係が人の身体的・精神的健康を悪化させる？
- 13 回：カウンセリングにおける対人関係
人はなぜカウンセリングを受けるのか？

14回：講義の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の講義資料に目を通し、内容への理解を深め、知識の定着を図ること。

各授業の復習を通じて、レポート試験への準備をきちんとすること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業終了時に提出するリアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

特にテキストは指定しない。適宜、プリントなどの資料を配布する。

参考文献 / Readings

各回の授業で参考文献を紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし。心理学に関する知識がなくても問題ない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他 / Others

パワーポイントを使用した講義形式で、映像資料も適宜活用する。

講義形式を中心とするが、リアクションペーパー提出への積極的な受講態度を期待する。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

心の健康

Mental Health

人の一生と心の健康を考える

金 智慧 (KIM JIHYE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD005
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「こころの健康とは何か」について理解したうえで、様々なこころの健康問題や特徴に関する基本的な知識を身につける。また、こころの健康を維持・向上させるための手段や資源を適切に選択できるようになる。

We will gain a basic knowledge of various mental health issues and characteristics based on an understanding of what mental health is. Also, we will be able to make appropriate choices about the means and resources to maintain and improve our mental health.

授業の内容 / Course Contents

私たちの「健康」は、身体だけでなく、「こころ」のあり方にも大きく影響されます。生きていく中で私たちは、日々の生活における様々な出来事や、それによるさまざまなこころの動きを体験しており、時に「こころの健康問題」に直面することも少なくありません。本授業では、おもに講義形式を通して、人間の一生を視野に入れ、心の健康と問題の境目の見極め方、問題が生じる背景、対策について、紹介していきたいと思えます。

Our "health" is greatly affected not only by physical condition, but also by "state of mind". As we live our lives, we

experience a variety of events in our daily lives and the resulting various mental movements, and we are often faced with "mental health issues" at times. In this course, mainly through a lecture format, with a view to the entire human life span, we would like to introduce how to identify the boundary between mental health and problems, the background of problems, and measures.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：こころの健康とは—こころの「正常」と「異常」について考える—
・授業形式・目標・評価に関する説明
・こころの健康の定義について説明し、こころの「正常」「異常」の基準について考える
- 2回：こころの健康と問題1：こころの健康に影響を与える要因
・こころの健康に影響を与える要因について、身体・心理・社会文化的な視点から考える
- 3回：こころの健康と問題2：様々なこころの問題の特徴（乳幼児期）
・幼少期の発達段階について学び、幼少期特有のこころの問題とサポートについて考える
- 4回：こころの健康と問題3：様々なこころの問題の特徴（学齢期Ⅰ）
・学齢期の発達段階について学び、学齢期特有のこころの問題とサポートについて考える
- 5回：こころの健康と問題4：様々なこころの問題の特徴（学齢期Ⅱ）
・学齢期の発達段階について学び、学齢期特有のこころの問題とサポートについて考える
- 6回：こころの健康と問題5：様々なこころの問題の特徴（青年期Ⅰ）
・青年期の発達段階について学び、青年期特有のこころの問題とサポートについて考える
- 7回：こころの健康と問題6：様々なこころの問題の特徴（青年期Ⅱ）
・青年期の発達段階について学び、青年期特有のこころの問題とサポートについて考える
- 8回：こころの健康と問題7：様々なこころの問題の特徴（成人期）
・成人期の発達段階について学び、成人期特有のこころの問題とサポートについて考える
- 9回：こころの健康と問題8：様々なこころの問題の特徴（高齢期）
・高齢期の発達段階について学び、高齢期特有のこころの問題とサポートについて考える
- 10回：こころとの付き合い方1：自分の感情・情動をよく知る
・感情や情動とは何かについて説明し、自分の感情や情動を健康的にコントロールすることについて考える
- 11回：こころとの付き合い方2：自分の認知・思考の「クセ」をよく知る
・認知・思考とは何かについて説明し、自分の認知や考え方のクセについて考える
- 12回：こころとの付き合い方3：すぐに実施できる自分カウンセリング
・自分自身のこころの健康を維持・向上するために役立つカウンセリング技法を紹介する
- 13回：こころとの付き合い方4：誰かのこころの健康のためにできること
・周りや身近な他者のこころの健康をサポートするために私たちができることについて考える
- 14回：総括
・13回の授業の総括を行う

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習復習として、ニュース等で触れた情報や日常生活での体験について入念に関心をもって振り返り、各授業で学んだ内容をもとに考察してください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :45%

平常点割合 :55% 出席および授業参加度:55%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

身体パフォーマンス

Body and Performance

シェイクスピア/ワイルド

PERFORMING SELF

田崎 英明 (TAZAKI HIDEAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FD006

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

シェイクスピアとワイルドの演劇を通して近代社会における自己とパフォーマンスとの関係について理解を深め、パフォーマンスという観点から社会、歴史、文化を論じることができるようになる。

Through the theatrical works of Shakespeare and Oscar Wilde, this course aims to understand the relationship between the self and its performance in the modern society. Successful students will be able to criticize modern society and its culture from the view point of performativity.

授業の内容 / Course Contents

講義形式で行う。Google Classroom 等にアップしたテキストおよび映像教材を用いる。

The teacher gives lectures using some visual materials and text excerpt from Terry Eagleton and other authors.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

演劇性 theatricality とは何か

- 2回：反演劇思想の系譜
 3回：シェイクスピアの時代のイングランドにおける少年俳優と異性装
 4回：シェイクスピアと亡霊1
 5回：シェイクスピアと亡霊2
 6回：負債と身体の出会い
 『ヴェニス商人』1
 7回：『ヴェニス商人』2
 8回：ロマンス喜劇1
 9回：ロマンス喜劇2
 10回：ヴィクトリア期のダンディ
 オスカー・ワイルド
 11回：『真面目が肝心』1
 12回：『真面目が肝心』2
 13回：『真面目が肝心』3
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Google Classroom 等にあげる参考文献に事前に目を通しておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% 毎回課すリアクション・ペーパー:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

ストレスマネジメント

Theory of Stress Management

健康やウエルネスレベルとストレスなどの心理的要因

遠藤 伸太郎 (ENDO SHINTARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD007
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日々の出来事をどのように捉えるか（認知的評価）は、個人によって様々であることから、日々のストレスの感じ方には個人差が大きい。健康やウエルネスレベルはストレスや心理的要因との関係が深いため、これらの関係を学ぶことで、豊かな人生を送るための基礎を習得する。

How we regard daily events (cognitive evaluation) varies depending on the individual, so individual differences in the amount of daily stress are large. Because health and wellness levels are closely related to stress and psychological factors, learning these relationships will allow students to acquire the basics for living a rich life. Students will learn about how psychology relates to this topic. Students will understand how cognitive work relates to physical and mental function, sense of purpose, and well-being.

授業の内容 / Course Contents

ウエルネスレベルの向上には、ストレス対処の知識とその実践が不可欠である。本講義では、ストレスを招かない思考やコミュニケーションスキル、状況に左右されずにウエルネスレベルを高めるスキル、それに様々な心理療法とその背景にある理論や価値観などを講義する。内容は受講生の興味や社会情勢などにより柔軟に対

応する。

Knowledge of stress management and its practice are essential for improving wellness level. In this course, students will learn about stress-free thinking and communication skills, skills to improve their well-being level regardless of the situation, and various psychotherapies and the theories and values behind them. We will adjust the contents flexibly according to the students' interests and social situation, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：健康、ウエルネスとは
- 2 回：ストレス対処とウエルネス（1）
- 3 回：ストレス対処とウエルネス（2）
- 4 回：リラクゼーションスキル
- 5 回：コミュニケーションスキル
- 6 回：アンガーマネジメント
- 7 回：生きがいとウエルネス
- 8 回：ストレス外傷後成長 PTG とウエルネス
- 9 回：リフレーミングとウエルネス
- 10 回：心理サポートとウエルネス
- 11 回：首尾一貫感覚 SOC とウエルネス
- 12 回：様々な心理療法とウエルネス（1）
- 13 回：様々な心理療法とウエルネス（2）
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業前や授業後に課題を提示し、その提出や発表を求めることがある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%
 平常点割合 :50% 小テスト:25% リアクションペーパー:25%
 2/3 以上の出席を単位取得の条件とする。

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

必要に応じて講義中に紹介する。

その他 / Others

ストレス反応やストレス対処スキル等に関する基礎的知識については、別に開講されている「メンタルマネジメント」や「スポーツウエルネス心理学（基礎）」の講義と重複する部分があるので留意されたい。
 また、最低限の出席回数を満たしていても、最終レポートの内容が基準を満たさない場合には単位を取得できない場合があるので、十分に注意したい。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

癒しの科学

Healing Sciences

癒しとは？生涯にわたって健やかに生きるための学び

松原 恵理 (MATSUBARA ERI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD008
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面（全回対面）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自分の心や身体を心地よく癒すことの意味と方法論を学び、現在及び生涯にわたり癒しとともにある健やかな生き方を考究することを目標とします。

The aim is to learn about the meaning and methodology of healing your mind and body comfortably, and consider how to live a healthy life with healing both now and in the future.

授業の内容 / Course Contents

この授業の前半では人の心や身体と癒しの関わりについて、後半では最新の研究事例とともにいくつかの癒しの方法について学んでいきます。授業全体を通して、自らを癒し健やかに生きることについて考えをまとめていきます。

In the first half of this class, we will learn about the relationship between the human mind, body and healing. In the second half, we will learn about several healing methods, along with latest research examples. Throughout the class, we will develop their understanding of how to heal themselves and live a healthy life.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：癒しとは
- 2回：癒しと心や身体の健康
- 3回：癒しの効果：概論
- 4回：癒しの効果：心理的反応
- 5回：癒しの効果：身体的反応①
- 6回：癒しの効果：身体的反応②
- 7回：自然の持つ癒し①
- 8回：自然の持つ癒し②
- 9回：自然の持つ癒し③
- 10回：香りの持つ癒し①
- 11回：香りの持つ癒し②
- 12回：生活と癒し①
- 13回：生活と癒し②
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:30% 授業内に行う小テスト(10%×3回):30% 最終レポート:40%

2/3 以上の出席を単位取得の条件とします。リアクションペーパーも評価の対象とします。

テキスト / Textbooks

特にありません。授業内で資料を配布します。

参考文献 / Readings

必要に応じて授業中に紹介します。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

スポーツの科学

Sports Science

医学的観点からスポーツを考える。(Considering Sports from a Medical Perspective.)

加藤 晴康 (KATO HARUYASU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD009
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

トップアスリートを取り巻く環境は、スポーツ医科学によって形成されている。スポーツは、いくつもの学問から形成され、科学的エビデンスに基づいて進歩していることを理解する

The environment surrounding top athletes is formed by sports medicine science. Students will understand that sports are formed from a number of disciplines and progress based on scientific evidence

授業の内容 / Course Contents

スポーツは身体の運動であるが、生理学、心理学、解剖学や医学など多くの学問が関与している。スポーツを軸に、いろいろな視点からスポーツを見つめる。また、スポーツと科学の関連について紹介する。

Sports are physical activities in which many studies such as physiology, psychology, anatomy and medicine are involved. Focusing on sports, we will look at sports from various viewpoints. In addition, we will introduce the relationship between sports and science.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス

- 2回：筋肉について - 筋の基礎医学的な知識-
- 3回：筋肉と持久力
- 4回：筋痙攣を考えてみる
- 5回：熱中症による不慮の事故を防ぐ
- 6回：頭部打撲の恐怖
- 7回：スポーツビジョンとは何か
- 8回：女性アスリートを考える
- 9回：応急処置について
- 10回：ケガの予防について
- 11回：試合に臨むために大事な事とは何か
- 12回：ドーピングの知識を学ぼう
- 13回：スポーツと科学
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

CANVAS を使用して、授業中に提示する課題により予習と復習を行う予定がある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0% :0%

最終レポート割合 :0% 最終テスト割合 :0%

テキスト / Textbooks

特に指定しない

参考文献 / Readings

特に指定しない

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

健康の科学

Health Science

人体の仕組みと健康

舘川 宏之 (TACHIKAWA HIROYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FD010
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2400
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

健康維持のためには己の体とそこに生じる様々な疾病について詳しく知る必要がある。そこで本授業ではまず健康を考える上で必要不可欠な人体の構造と機能への理解を深める。また、疾病のメカニズムとその予防方法・治療方法についての基礎知識を身に付けることを目標とする。

In order to maintain good health, it is necessary to have detailed knowledge about one's own body and the various diseases that occur in it. In this course, the students will have better understanding of the structure and functions of the human body, which is essential to study health. In addition, they aim to acquire the basic knowledge about the mechanism of diseases and their prevention and treatment methods.

授業の内容 / Course Contents

- 人体の構造と健康を維持する仕組みについて講義する。
- 代表的な疾病についてそのメカニズムと予防方法・治療方法を紹介していく。
- 生命に関する倫理的問題についてもいくつか検討する。

1. Lecture will be given on the structure of the human body and the mechanism of maintaining health.
2. Mechanisms of representative diseases and their prevention and treatment methods will be introduced.
3. Some examples of life-related ethical issues will be examined.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：健康と病気について考える
- 2回：人体の構造と維持する仕組み
- 3回：人体を動かす仕組みを知る
- 4回：免疫の仕組みを知る
- 5回：様々な感染症とその対策を考える
- 6回：がんの発生の仕組みを知る
- 7回：生活習慣病とは何か
- 8回：脳の機能について知る
- 9回：精神及び行動の障害を脳機能の側面から理解する
- 10回：ホルモンによる身体機能の調節とその異常による疾患
- 11回：生殖医療の仕組みと様々な問題点を考える
- 12回：歯と口腔の健康
- 13回：先端医療について知る
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業に関連する内容について質問し、コメントシートに回答を求める。単に聴講するだけでなく、各自が予習・復習をすること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コメントシート:30% 中間テスト:30% 最終テスト割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

木村康一 『学生のための健康管理学 改訂3版』 南山堂 2021 9784525620530

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC またはスマートフォン。PCの方が望ましい。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

栄養の科学

Sciences of Nutrition

身近にある食と栄養の「へえ～」に気付こう/食行動の変容・定着を目指す

酒井 健介 (SAKAI KENSUKE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD011
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

食物、栄養、生命活動の関係を概念的に理解し、身体の機能と栄養との関係についての理解を深め、自らの食生活を管理するための方策を身につける。

Students will conceptually understand the relationships between food, nutrition, and life activities, deepen their understanding of the relationships between body function and nutrition, and acquire strategies for managing their own dietary habits.

授業の内容 / Course Contents

「食と栄養」を通じて「日常を科学する」知識や視点を持ち合わせるよう講義を展開し、体重管理や競技力向上、健康増進や疾病予防などさまざまな状況下で「食と栄養」についての自己管理を促す知識やスキルを提供する。

In recent years, interest in health, food, and nutrition has increased. Through this course, students will be taught knowledge and perspectives on "science of daily life" related to "food and nutrition." In addition, we will provide opportunities, knowledge, and skills to promote self-management about "food and nutrition" under various

conditions such as weight management, competitive ability improvement, health promotion, and disease prevention.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・ヒトのカラダと栄養 ①ヒトのカラダの構成を食事・栄養 課題1
- 2回：ガイダンス・ヒトのカラダと栄養 ②筋骨格系の健康の維持と食事
- 3回：ガイダンス・ヒトのカラダと栄養 ③脂質・水分と体重の関係
- 4回：ガイダンス・ヒトのカラダと栄養 ④体位・体格と食事
- 5回：食生活・栄養に関するガイドラインや指針 課題2
- 6回：食物と物質（栄養素）の関係 ①食品中の栄養素
- 7回：食物と物質（栄養素）の関係 ②類似栄養素が含まれる食品群
- 8回：食事のバランス：自分の食事を見直そう 課題3
- 9回：エネルギー収支と体重管理
- 10回：食品表示（正しい食品の購入方法）
- 11回：健康食品について
- 12回：消化と吸収
- 13回：各論 糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルの栄養
- 14回：授業内テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎授業後に提供する小テストを実施すること。

食物と栄養，ヒトのカラダについて興味を持ち，日常の食行動の変容や健康的な食生活の獲得に意欲を持つこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内レポート：40% 小テスト：20% 最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

指定しない。CanvasLMS に授業資料は掲出し、必要に応じ授業時にプリントを配付。

参考文献 / Readings

必要に応じて授業中に紹介。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

履修において専門課程の文理は問わないが、一部化学結合や生体組織、構造に関する知識を求める場合がある。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

小テスト実施のため、Canvas LMS にアクセスできる端末を準備。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

アンチエイジングの科学

Science of Anti-Aging

老化のメカニズムとそれに伴う疾病への対策

舘川 宏之 (TACHIKAWA HIROYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FD012

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）対面超高齢社会をむかえてなお高齢化率が増加し続けている日本では、社会的にもアンチエイジングが重要視されている。本講義では老化とそれに伴う疾病の原因や仕組みを学び、最新の研究に触れることで、アンチエイジングに対する科学的な理解を深めることを目標とする。

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

超高齢社会をむかえてなお高齢化率が増加し続けている日本では、社会的にもアンチエイジングが重要視されている。本講義では老化とそれに伴う疾病の原因や仕組みを学び、最新の研究に触れることで、アンチエイジングに対する科学的な理解を深めることを目標とする。

As the population ages further in the super-aging society, there is social emphasis on anti-aging in Japan. The course aims to gain deeper scientific understanding on anti-aging by learning the cause and structure of aging and age-related diseases and studying the latest research.

授業の内容 / Course Contents

- 生命現象としての老化の基礎を紹介する
- 加齢に伴う疾病の原因と機序を講義し、その対策を考察する。
- 現在のアンチエイジング研究の紹介し、今後の研究課題を検討する。

1. Introduces the basics of aging as a biological phenomenon.
2. Lecture on the cause and mechanism of age-related diseases and consider responses.
3. Introduce the current anti-aging research and consider future research topics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：老化とは何か
- 2回：老化のメカニズム 1
- 3回：老化のメカニズム 2
- 4回：老化のメカニズム 3
- 5回：老化のメカニズム 4
- 6回：老化を加速させる因子を考えてみる
- 7回：寿命を伸ばすことができるか
- 8回：見た目の老化の仕組みを知ろう
- 9回：老化に伴うホルモン分泌の変化とは
- 10回：骨代謝老化のメカニズムとその対策
- 11回：認知機能の低下のメカニズムとその対策
- 12回：食とアンチエイジング
- 13回：アンチエイジング医学と薬
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業に関連する内容について質問し、コメントシートに回答を求める。単に聴講するだけでなく、各自が予習・復習をすること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コメントシート:30% 中間テスト:30% 最終テスト割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

日本抗加齢医学会 『アンチエイジング医学の基礎と臨床 第3版』 メジカルビュー社 2015
9784758304917

小林武彦 『生物はなぜ死ぬのか』 講談社 2021 9784065232170

高杉征樹 『老化研究をはじめの前に読む本』 羊土社 2023 9784758121262

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC または スマートフォン。PC が望ましい。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

スポーツとメディア

Sport and Media

スポーツ報道の歴史から将来像を展望する

瀧口 隆司 (TAKIGUCHI TAKASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD013
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本におけるスポーツ報道の歴史を学び、新しい時代のメディアがどうあるべきかを考察する。

The aim of this course is to learn the history of sports coverage in Japan and to consider what the media should be in a new era.

授業の内容 / Course Contents

スポーツ記者を長く務めてきた毎日新聞論説委員が、スポーツとメディアの関係や報道の役割について、自らの経験も踏まえて講義する。インターネットによる SNS の発展でメディアが変革期を迎える中、スポーツジャーナリズムの将来も展望していく。

The lecturer of this course is the Mainichi Shimbun editorial writer, who has been a sports reporter for a long time. He will give a lecture on the role of the press and the relationship between sports and the media, based on his own experience. As the media enters a period of change due to the development of social networking service (SNS) via the Internet, we will also look into the future of sports journalism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに・スポーツ報道の現在地
- 2回：黎明期のスポーツジャーナリズム
- 3回：テレビの登場と娯楽化への道
- 4回：雑誌 Number の創刊とスポーツ記者の変容
- 5回：スポーツ記者に求められる資質
- 6回：スポーツメディアの矛盾と葛藤
- 7回：国家主義・商業主義とスポーツイベント
- 8回：世界のスポーツを変えたテレビマネー
- 9回：SNS で発信するアスリートたち
- 10回：ロボット化するスポーツ記者の仕事
- 11回：地方メディアの可能性
- 12回：スポーツそのものがメディア
- 13回：情報爆発時代に求められるもの
- 14回：まとめ・スポーツ報道はなぜ必要か

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ*等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

スポーツ報道に関心を持ち、新聞、テレビ、インターネットでのニュース、評論、解説を読む習慣をつける。さらに興味の幅を広げ、関連する本や雑誌にも幅広く目を通してほしい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業への取り組み:25% リアクションペーパー:25%

テキスト / Textbooks

資料を適宜配布する。

参考文献 / Readings

滝口隆司 『情報爆発時代のスポーツメディア－報道の歴史から解く未来像－』 創文企画 2018
9784864131131

滝口隆司 『スポーツ報道論 新聞記者が問うメディアの視点』 創文企画 2008 9784921164645

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

スポーツと社会

Sport and Society

スポーツを通して社会を知る (Understanding Society through Sports)

中村 聡宏 (NAKAMURA AKIHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム (総合系)

科目コード等： FD014

授業形態： 対面 (全回対面)

授業形態 (補足事項)

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

スポーツがもつ機能や構造を把握し、社会を構成するさまざまな要素との関係性について、普遍的かつ多様な視点から理解する。人間の可能性を追求し、誰もが快適で活力に満ちたウェルネス社会の実現に寄与するための基本的な思考を身につける。

Students will grasp the functions and structure of sport and its relationship to the various elements that make up society from universal and diverse perspectives. They will acquire the basic thinking needed to pursue human potential and contribute to the realization of a wellness society that is comfortable and vibrant for all.

授業の内容 / Course Contents

スポーツがもつ機能や構造や社会を構成するさまざまな要素との関係性について明らかにする。数多くの分野とスポーツの関わり方を示す事例などを通して、普遍的かつ多様な視点からスポーツを考える。

We will clarify the functions and structures of sports and their relationships with the various elements that make up society. We will consider sports from universal and diverse perspectives through case studies and other examples that illustrate how sports relate to numerous fields.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：本講を学ぶ意義　－スポーツと社会の関係性－
- 2 回：スポーツとはなにか　－スポーツの社会的機能を考える－
- 3 回：スポーツマンシップとビジネスパーソンシップ
- 4 回：スポーツとウエルネス
- 5 回：スポーツと教育
- 6 回：スポーツと文化
- 7 回：スポーツとビジネス
- 8 回：スポーツと法律
- 9 回：スポーツとメディア
- 10 回：スポーツとテクノロジー
- 11 回：スポーツとエンターテインメント
- 12 回：スポーツとナショナリズム
- 13 回：スポーツとまちづくり
- 14 回：総括　－スポーツを通して社会を知る－

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100%　授業への参加度・貢献度:50%　授業内に指示した複数回の提出物:50%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項**

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

スポーツと文化

Sports and Culture

スポーツ文化人類学

後藤 光将 (GOTOU MITSUMASA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD015
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業は、外国・日本における地域コミュニティのつながり方の代表的な事例を紹介します。異文化理解の有用な方策としての「スポーツ」について考えることを目標とします。

This course introduces examples which represent the way in which communities abroad/within Japan create connections. The course aims to examine sports as an effective strategy for developing cross-cultural understanding.

授業の内容 / Course Contents

地球上の様々な地域でおこなわれている伝統遊戯（伝統スポーツ）、および、近代スポーツの受容と変容の真相を、異文化交流というグローバルな視点で捉え直します。スポーツを切り口にして、文化創造のダイナミズムを歴史学、および、文化人類学的視点から比較検討します。祝祭的な空間における身体活動の意義を現代的課題と結びつけながら考えます。

Based on a global perspective of cross-cultural exchange, the course aims to reexamine traditional games (traditional sports) which are executed in various regions throughout the world, as well as the actuality regarding

the acceptance and transformation of modern sports. Utilizing sports, the course compares the dynamism of cultural creation from a historical and cultural anthropological perspective. Students will consider the meaning of physical movement within an celebratory space by connecting it with contemporary issues.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：古代ギリシャの葬送競技（古代オリンピック）
- 3回：古代ローマの見世物（剣闘士競技）
- 4回：メキシコの古式長距離競走（ララムリ）
- 5回：世界の特徴的な通過儀礼（ナゴール、サメ獲り）
- 6回：イギリスの古式サッカー（シュローヴ・タイド・フットボール）
- 7回：イタリアの古式サッカー（カルチョストーリーコ）
- 8回：イタリアの古式競馬（パリオ）
- 9回：秋田県刈和野の大綱引
- 10回：福岡県八幡古表神社の神相撲
- 11回：福島県相馬の野馬追
- 12回：スポーツ発祥の類型
- 13回：スポーツ組織の広がり・ルールの変遷
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前・事後に参考文献に目を通しておいってください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の小レポート（5%×12回）:60% 最終レポート割合 :40%最終テスト割合 :0%

テキスト / Textbooks

特に指定しません。原則として毎回資料を配付します。

参考文献 / Readings

後藤光将 『オリンピック・パラリンピックを学ぶ』 岩波書店 2020 9784005009114

高峰修 『夢と欲望のオリンピック』 成文堂 2020 9784792380847

新井博 『新版スポーツの歴史と文化』 道和書院 2019 9784810521351

瀬戸邦弘・杉山千鶴 『近代日本の身体表象 演じる身体・競う身体』 森話社 2013 9784864050524

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回の小レポートは授業時間内に Canvas LMS で提出してもらいますので、PC やスマートフォンなどを持参してください。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

レジャー・レクリエーションと現代社会

Leisure and Recreation in Modern Society

ユース世代における豊かなライフスタイルのための自由時間やレジャー空間の意義を考える

水上 博司 (MIZUKAMI HIROSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD016
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面（全面对面）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「多彩な学び」の基本方針である「専門領域の枠を超えた人間としての深い認識や価値観、総合的な判断力」を養うために、歴史社会学的・文化論的な視点から日本人（若者文化・サブカルチャー）のライフスタイルやレジャー・レクリエーションの変遷を理解し、自らのライフスタイルと社会の問題を発見するための基礎的な知識を身につける。

In this course, students will gain a basic understanding of the evolution of Japanese (youth culture and subculture) lifestyle and leisure/recreation from a historical-sociological and cultural-theoretical perspective, and will acquire the basic knowledge to discover their own lifestyle and social problems. And to acquire basic knowledge for discovering one's own lifestyle and issues in Japanese society.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、スポーツやレジャーやレクリエーションという文化が誕生した社会的背景とその変遷を歴史社会学的に振り返りながら日本人、とりわけ若者文化・サブカルチャーからみたライフスタイル観やレジャー観の特徴を理解します。毎時の講義では講義テーマに関連した資料をオンライン配布し、スライド提示や映像を

活用します。毎時の講義ではリアクションペーパーを提出します。また講義の中間回と最終回に授業内テストを実施します。

In this lecture, we will look back at the social background and evolution of the culture of sports, leisure and recreation from a historical sociological perspective to understand the characteristics of the Japanese view of lifestyle and leisure, especially from the viewpoint of youth culture and subcultures. Materials will be distributed at each lecture, and slide presentations and videos will be used. Students will submit reaction papers. Students will also be evaluated by two written tests.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（Classroom への登録・リアクションペーパーの提出の仕方、2回の筆記テストなど評価方法について）と労働と余暇の成立
- 2回：有閑階級（レジャークラス）が生み出した自由時間
- 3回：レジャーやレクリエーションの楽しさと成立の条件
- 4回：遊び（プレイ）の理論とレジャー・レクリエーション
- 5回：ライフスタイル空間のオンとオフの切り替え
- 6回：身体の解放とデジタル社会におけるライフスタイル
- 7回：授業内テスト（中間）
- 8回：戦後日本の政治・経済・生活とサブカルチャー・余暇行政
- 9回：1960年代の日本の政治・経済・生活とサブカルチャー・余暇行政
- 10回：1970年代の日本の政治・経済・生活とサブカルチャー・余暇行政
- 11回：1980年代の日本の政治・経済・生活とサブカルチャー・余暇行政
- 12回：1990年代の日本の政治・経済・生活とサブカルチャー・余暇行政
- 13回：2000年代の日本の政治・経済・生活とサブカルチャー・余暇行政
- 14回：授業内テスト（最終）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内テスト:40% 出席および複数回のリアクションペーパー:60%

2/3 以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。

テキスト / Textbooks

テキストは使用しない

参考文献 / Readings

随時紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

とくにありません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

とくにありません。

その他/ Others

毎回の講義では Canvas LMS から資料を配布します。この資料に関連したスライドを提示し、映像資料も活用しながら講義を進めていきます。遅刻や中途退室について。出席カード配布後以降の入室は遅刻とします。遅刻 2 回は欠席 1 回とカウントしますので注意をしてください。講義中の無断退室は欠席となります。不正行為は単位修得不可とします。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

アウトドアの知恵に学ぶ

Learning from the Outdoors

人と自然の本質的關係

Think about the essential relationship between people and nature

鹿熊 勤 (KAKUMA TSUTOMU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FD017

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

人が生きるために見出し伝承してきたさまざまな生活技術や、平等・協力を前提とした社会的なしくみ。

これらの源流は狩猟・漁労・採集で暮らした縄文時代にまでさかのぼることができます。縄文の知恵は完全に消失してしまっただけではなく、今も農山村の伝統的な生活技術や、自然の中で行なう娯楽の中にエッセンスとして生きています。これら「アウトドアの知恵」について知っておくことは、非常時の行動選択に役立つと同時に、自然と人間の本質的な関係を振り返り、持続可能な社会の在り方を考えるヒントになります。

A variety of life skills that people have found and passed down for living, and social mechanisms based on equality and cooperation. These origins can be traced back to the Jomon period, when people hunted, fished, and gathered food. The wisdom of Jomon people has not completely disappeared, and still lives as an essence in the traditional life skills of farming and mountain villages and entertainment performed in nature. Knowing this "wisdom of the outdoors" is useful for selecting actions during emergencies, as well as for providing insights on the essential relationship between nature and human beings and how to think about a sustainable society.

授業の内容 / Course Contents

スライド写真による解説を中心に進行します。テーマに応じて実体標本を回覧し、ゲストスピーカーからより専門的なお話を伺う予定です。本授業で扱う「アウトドア」とは、自然を上手に利用する技術や知恵全般のことであり、テントの張り方やバーベキューの方法といった個別のレジャーテクニックを学ぶ場ではありません。なお「命」についても多く取り上げます。狩猟などの回では人により不快に感じる画像も扱いますが、人間の営みを振り返るうえで避けることのできないテーマですので、ご承知おきください。

We will focus on commentary on slides. We will circulate actual samples according to the theme, and plan to hear more specialized stories from guest speakers. "Outdoor" in this class refers to techniques and wisdom in general that use nature well, and is not a place to learn individual leisure techniques such as how to put up a tent or barbecue methods. In addition, we deal with "life" a lot. While we will use images that may be unpleasant when we cover hunting, etc., it is an unavoidable theme to look back on human activities, so please be aware of this.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス guidance
- 2 回：採集の知恵 Wisdom of Gathering
- 3 回：地球のリズムで暮らす Living with the rhythm of the earth
- 4 回：自然の毒と薬 Natural medicines and poisons
- 5 回：漁撈の知恵 1 Wisdom of fishing1
- 6 回：漁撈の知恵 2 Wisdom of fishing2
- 7 回：発酵の知恵 Wisdom of fermentation
- 8 回：昆虫へのまなざし 1 Insects and human life1
- 9 回：昆虫へのまなざし 2 Insects and human life2
- 10 回：工芸の知恵 wisdom of crafts
- 11 回：日本人と野生動物 Japanese and wild animals
- 12 回：狩猟の知恵 Wisdom of hunting
- 13 回：火と人間 Fire and human
- 14 回：刃物と人間 Knife and human

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に関心を持ったことについて継続的に調べることが望ましい

It is advisable to check on your own interests

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

かくまつとむ 『糧は野に在り 現代に息づく縄文的生活技術』 農文協 2015 9784540141966 ○

参考文献 / Readings

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

立教ゼミナール4

Seminars for Students of Rikkyo University 4

Seminar on Religion and Ritual Psychology

カヴァナ, C. (KAVANAGH CHRISTOPHER)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD071
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2441
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

The goal of this seminar is to:

- Provide students with an overview of modern research on religion and ritual, especially from the perspective of cognitive psychology and evolutionary theory.
- Teach students how to critically evaluate research and compare theoretical approaches
- Improve students' abilities to discuss research and communicate opinions
- Introduce students to ongoing debates and new methodological standards

授業の内容 / Course Contents

The seminar focuses on modern research on religion and ritual, particularly research that adopts an evolutionary or cognitive perspective. Many in Japan and other societies do not follow any specific religion but the majority of people across the world believe in Gods and belong to religious groups. Rituals are also important in all societies and are important aspects of culture. This course examines religion and ritual as a cross-culturally recurrent social phenomenon and examines modern research that explores the psychological and social effects of religious

belief and ritual participation.

We begin with introductory lectures to develop research skills, setting a solid foundation for the detailed study of ritual and religion. The course then progresses to cover key topics in these areas, offering a mix of theoretical knowledge and practical analysis. we focus on examining specific research in depth over two weeks. In the first week, students focus on a key study and we discuss the strengths and weaknesses. Then we move on to explore follow-up studies or related research through group discussions and/or reaction papers.

Students are required to make a presentation (15-20 mins) on one selected topic during the course and will be required to submit short reaction papers for certain weeks. Classes throughout are a combination of lectures and group discussion segments.

The course is conducted in English, and the content is adapted to suit the language proficiency of the students. By the end of the seminar, students will have a deeper understanding of key theories in religion and ritual, along with enhanced skills in critical research analysis and effective communication of their ideas.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： [Lecture] Course Introduction & How to Read Studies Critically/Conduct Independent Research.
- 2 回： [Lecture] The Replication Crisis & Modern Social Science Research
- 3 回： [Lecture] What is Religion?
- 4 回： [Lecture] Ritual Psychology
- 5 回： [Lecture] Minimally Counterintuitive Concepts
- 6 回： [Lecture] Big Gods & Supernatural Punishment
- 7 回： [Lecture] The Psychology of Religious Extremism
- 8 回： [Practice] Research Paper 1
- 9 回： [Practice] Follow-Up Discussion on Paper 1
- 10 回： [Practice] Research Paper 2
- 11 回： [Practice] Follow-Up Discussion on Paper 2
- 12 回： [Practice] Research Paper 3
- 13 回： [Practice] Follow-Up Discussion on Paper 3
- 14 回： [Practice] Final Presentations & Review of Course

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Some independent reading of English materials is required and completion of short reaction papers.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation in class discussion:40% Final Presentation:20% Reaction Papers:40%

テキスト / Textbooks

None

参考文献 / Readings

Reading material will be distributed in class.

読み物はクラスで提供されます。

その他/ Others

Class content will be adjusted according to the number of students and their specific abilities/needs.

具体的な授業の進め方は、履修者の数やニーズに合わせて調整していきます。

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降 1 年次入学者対象科目
- ・ 多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

認知・行動・身体

Recognition, Behavior and Body

生物としてのヒトの心と行動、その未来

中村 優子 (NAKAMURA YUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FD101

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

知覚認知・身体運動・睡眠・情動・性行動・社会性など、私達の日常生活を可能にする神経ネットワークや、神経伝達物質・ホルモンなどの働きについて学ぶ。

Students will learn about the functions of neural networks, neurotransmitters, and hormonal controls that maintain our daily lives, such as cognition, body movement, sleep, emotion, sexual behavior, and sociality.

授業の内容 / Course Contents

私たちの心身の状態は、さまざまな神経伝達物質や神経回路の相互作用によって維持されている。この相互作用の動態が、マジョリティのものから逸脱していると、「障害」とみなされたり、さまざまな生きづらさのもとになったりする。一方で、その逸脱が特別な能力や創造性をもたらす場合もある。本講義では、身近な実例や症例を入り口にして、ヒトの心や行動のあり方を自然科学的に探求する方法と、それにより得られた知見の概要を学ぶ。講義は、日常生活にも役立つ内容を紹介し、科学的な思考を無理なく身につけられるように構成する。無意識的に形成してきた「ヒトの在りよう」のとらえ方を見直すことで、社会における多様性を受容・推進する必要性の理解をうながす。心や行動に対する生物学的アプローチに加えて、神経科学と情報科学（機械

学習・人工知能など)を組み合わせた技術の動向にも触れ、心とは何か、意識とは何かという問いまで議論を進める。リアクションペーパーを通じた学生とのコミュニケーションと、自主学習を重視する。

The mind and body are maintained by multiple interactions among various neurotransmitters and neural circuitries in the brain. If the dynamics of such interactions deviate from that of most other people, the person could be diagnosed as having a “disorder” or would experience various difficulties in his/her life. On the contrary, it is possible that the deviation provides special abilities or creativity to the person. In this lecture, students will learn how to explore the human mind and behavior from a natural scientific perspective using familiar examples and cases as entry points, as well as an overview of the findings obtained from such exploration. The lecture will be structured to introduce content that is useful in daily life and to enable students to acquire scientific thinking. By reviewing our understanding of “the way of being human,” the lecture will help students to understand the need for accepting and promoting diversity in our society. In addition to biological approaches to the mind and behavior, we will touch on trends in technologies that combine neuroscience and information science (machine learning, artificial intelligence, etc.), and will also discuss what the mind is and what consciousness is from the scientific viewpoint.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：授業内容のレビュー、成績評価についてなど
- 2 回：脳と体：脳の解剖と脳機能
- 3 回：記憶・思考：脳の発達から記憶、思考の機序
- 4 回：睡眠：睡眠、夢、睡眠薬など
- 5 回：脳の働き・病気：自律神経、疲労、脳卒中、認知症など
- 6 回：脳と心の関係：意思決定、自覚できない脳活動、脳科学の未来など
- 7 回：心の発達：発達心理学の基礎、アイデンティティなど
- 8 回：個人差の心理学：遺伝と環境、特性論など
- 9 回：犯罪の心理学：衝動的犯罪、疎外と孤独など
- 10 回：心理学的支援：心理療法の歴史、認知行動療法など
- 11 回：A I の仕組み：コンピューターの歴史、機械学習など
- 12 回：A I と医療：画像診断とA I、創薬A I など
- 13 回：A I と言語：自動翻訳、音声認識など
- 14 回：A I の多様性：さまざまな分野で活用されるA I 技術の実例

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド* (パワポ等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で紹介する一般向け科学書を通じた学習。

授業内容に関連したビデオなどの資料を視聴したり、クイズの答えを考えてきたりしてもらうことがある。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席兼コメントペーパー、クイズ:35%

最終レポート割合 :35%最終テスト

割合：:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

櫻井武 『「こころ」はいかにして生まれるのか—最新脳科学で解き明かす「情動」』 講談社 2018
4065135222

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

認知・行動・身体

Recognition, Behavior and Body

日常生活の認知科学

(Cognitive science in daily life)

関口 勝夫 (SEKIGUCHI KATSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD102
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項） オンデマンド（2024年9月20日配信開始）
校地： 他
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

身の回りの心理、認知事象を題材に、我々がどのように世界をとらえているかを認知科学の観点から考察することで、人間の心に興味を持ち、さらに日常生活の経験から自分自身を見つめ直すことができる。

By considering about how we grasp the world from the perspective of cognitive science, using psychological and cognitive events around us as subjects, we will be interested in the human mind and also reconsider ourselves from our experiences in daily life.

授業の内容 / Course Contents

我々は、世界をありのままにとらえているわけではない。視覚認知の話題を中心に、我々の身の回りの事象に深く関連する認知科学のトピックを紹介しつつ、「心」が外界の情報をどのように処理しているのか解説する。また、関連する他の研究領域の題材や最新の研究トピックも体系的に学び、認知科学の全体を概観する。

We do not grasp the world as it is. We will introduce topics of cognitive science closely related to events around us, focusing on visual cognition, and explain how "the mind" processes external information. Also, students will

systematically learn about subjects in the related researches and topics in the latest research. Through these activities, this course will give an overview of cognitive science.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション・認知科学とは（9月20日）
- 2回：境界の検出・コントラストと空間周波数（9月27日）
- 3回：図地の分離・群化（10月4日）
- 4回：知覚的体制化・主観的輪郭・アモーダル補完（10月11日）
- 5回：視覚失認①（相貌失認・連合型失認・視覚形態失認）（10月18日）
- 6回：視覚失認②（同時失認・統合失認・運動失認）（10月25日）
- 7回：奥行き知覚（11月8日）
- 8回：大きさ・明るさ・色の知覚（11月22日）
- 9回：運動知覚（11月29日）
- 10回：聴覚情報処理（12月6日）
- 11回：記憶・カテゴリ化・思考・推論・問題解決等の認知科学の諸領域（12月13日）
- 12回：錯視（12月20日）
- 13回：視覚的注意（1月10日）
- 14回：比較認知科学・空間認知（1月17日）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

主に講義ごとに出される課題で復習できるように、講義動画内で課題内容を指示する。
 認知科学的な問題は日常経験するものも多く、問題ではないように思えることでも、突き詰めていくと不思議なことがある。当たり前にも思えることにも疑問を持てるように、考える癖をつけておくとよい。また、講義内容を日常生活の中で実際に体験・経験し、認知や心の働きを実感しながら復習できることが望ましい。
 講義内容で不明な点があれば、遠慮などせずに極力質問するようにする。
 講義スライドの動画を見ただけでは講義内容を理解することが難しいことを前提

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト:100%

講義ごとに出される課題を小テストとして次回講義配信開始時まで提出すること。小テスト提出が全回の2/3以上ある場合に成績評価の対象とする。

テキスト / Textbooks

学内授業支援システム「Canvas LMS」上において、授業動画と講義スライド（PDF）を資料としてオンデマンド配信し、テキストは特に使用しない。

参考文献 / Readings

- 森敏昭・井上毅・松井孝雄 『グラフィック認知心理学』 サイエンス社 1995 9784781907765
 御領謙・江草浩幸・菊地正 『最新 認知心理学への招待—心の働きとしくみを探る（新心理学ライブラリ）』

サイエンス社 1993 9784781907048

大山正・梅本堯夫 『視覚心理学への招待—見えの世界へのアプローチ (新心理学ライブラリ)』 サイエンス社 2000 9784781909639

参考文献は購入希望者向けに紹介するものであり、購入する必要は特にない。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

我々、ヒトが主に見て感じたり考えたりするという、普段当たり前に行っていることを実際にどのようにしておこなっているかを理解するために、科学的思考が求められる。講義内で実験研究や実験データを示すため、どのような因果関係をしらべるための実験なのか、それらのデータからどのような因果関係が成り立つこととなるのかを理解する必要がある。

その他/ Others

PowerPoint を使用した講義動画で、視覚教材、映像資料をメインに活用する。

認知科学や心理学の事前予備知識がなくても、受講できるように講義をおこなう。

心理学科開講の専門科目とも重複する講義内容なので、心理学科所属であれば、履修を推奨しない。

非常勤であるため、本学にオフィスがなく、質問等は Canvas LMS やメール等で受け付ける。授業内容に関する質問であれば、常時受け付ける。受講生への配信や課題提出、事務連絡に「Canvas LMS」を利用する。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

心の科学

Science of Mind

行動科学としての心理学の基礎を学ぶ

平田 万理子 (HIRATA MARIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FD103

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

対人場面で生じる様々な出来事の中から、それぞれに関連する心理学の基礎的な知識について学び、一つ一つの行動の意味を考える力を養う。

From various events that occur in interpersonal situations, students will learn about the basic knowledge of psychology related to each, and cultivate the ability to think about the meaning of each action.

授業の内容 / Course Contents

対人場面には、様々な“なぜ？”がある。心理学をどれだけ学んでも、他者あるいは自分自身の心が手に取るようにわかることはないだろう。だが、行動に潜む心を読み取ろうとすることで、問いに対する何らかの答えは出るし、その後の行動予測にも役立つだろう。本授業ではこのような“心を読み取る姿勢”を、様々な知見を通して習得することを目的とする。

There are various "Whys?" in interpersonal scenes. No matter how much you study psychology, you will not understand your own mind or others' minds in a simple way. However, trying to read the mind hidden in the action will give some answers to the question, and it will also help in predicting future behavior. The purpose of

this course is for students to master such a "mind reading attitude" through various findings.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業の概要紹介・心理学とは（導入）
- 2 回：心理学のはじまり
- 3 回：感覚・知覚：目立つことの意味（図と地）
- 4 回：感覚・知覚：地獄耳の正体（選択的知覚）
- 5 回：学習・認知：見たくないものはないもの（知覚的防衛）
- 6 回：学習・認知：似たものは間違ふ（抑制と干渉）
- 7 回：学習・認知：末っ子は要領がいい？（条件づけとモデリング）
- 8 回：社会：心変わりの理由（態度変容）
- 9 回：社会：“類は友を呼ぶ”は本当？（対人魅力）
- 10 回：社会：人前ではなぜあがるのか？（社会的促進）
- 11 回：人格・臨床：苛々のメカニズム（フラストレーション）
- 12 回：人格・臨床：個人差の調べ方（心理検査）
- 13 回：教育・発達：自分さがしの時期（アイデンティティの確立）
ほめられて伸びる（外発的動機づけ）
- 14 回：総括：心理学から社会現象を考える

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:			:			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で使用する資料（教材）は、授業前日に Canvas LMS で公開するので、授業までに各自でダウンロードしておくこと。また、毎回の授業終盤 Canvas LMS で出される「確認テスト」を指定の期日まで解答し、提出する必要がある（平常点として成績に加味する）。詳細については、授業時に伝える。その他、授業時間外学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :72%

平常点割合 :28% 授業後の確認テスト:28%

公欠等の理由なく、出席確認代わりの「授業後の確認テスト」の未提出が5回以上の場合、出席不良につき期末に対面で実施する最終試験を受けても単位は得られない。また、私語などの授業妨害をはじめ、受講態度が不良な場合および他学生の利益を損なう身勝手な振舞いをした場合、その場で氏名を確認した上で、一項目につき5点を成績から減点する。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

適宜紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布、確認テストの実施を全て Canvas LMS を用いて行うため、パソコンなどの情報端末を持っている

ことが好ましい。資料は、授業前日に上記で公開するため、授業前にそれらを印刷をしている場合を除き、情報端末を授業時に持参すること。

その他/ Others

- ①主にパワーポイントを使用した講義形式で行うが、別途映像資料なども適宜活用する。また、必要に応じて、理解を深めるために簡単な実験なども行う予定である。
- ②配布資料は、原則として Canvas LMS 上で配布する（詳細については、授業初日に説明する）。受講生は、授業の前までに、各自で資料をダウンロードし、授業に出席すること。紙の形式での配布は、原則として行わない。（どうしても紙の形式での配布を希望する学生は、初回授業後に、直接教員へ申し出ること）
- ③出席確認として、授業終盤、Canvas LMS 上にて、毎回「

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

心の科学

Science of Mind

人間の hochi 認知過程（認知心理学）と近接領域

都築 誉史（TSUZUKI TAKASHI）

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD104
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「心の科学」の中でも、特に認知心理学に焦点をあて、その理解を目指す。人間が外界の事象を記憶し、言語を理解し、問題解決や、判断と意思決定を行う一連の「高次認知過程」について、近接領域にまたがった学際的観点から近年の研究動向を理解する。

This “Science of Mind” course aims to develop a better understanding of cognitive psychology by investigating recent research trends on high-level cognitive processing, such as humans’ ability to recall scenes from nature, language comprehension, problem solving, judgement and decision making, from an interdisciplinary point of view.

授業の内容 / Course Contents

認知心理学は、人間の認識のしくみとその「不思議さ」を探求する。認知心理学は現代心理学における中心的なアプローチであり、人間の認識過程と知識構造について研究が進められている。本講義では、特に高次認知過程（記憶、言語、思考など）に焦点を当てる。また、狭い枠組みにとらわれず、生理心理学、臨床心理学、情報行動心理学、社会心理学、消費者行動心理学など近接領域にまたがった研究を積極的に紹介する。

Cognitive psychology focuses on exploring the mechanism of human awareness and its “wonder.” It is a core approach in modern psychology, resulting in significant progress in research on human cognitive processes and knowledge structures. This course mainly focuses on high-level cognitive processes (memory, language, and thought processes). However, it is not limited by a narrow framework but rather actively introduces research in related fields like psychophysiology, clinical psychology, information behavior psychology, social psychology, and consumer behavior psychology.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：序論：基本概念とアプローチ
- 2 回：記憶：意識できる過去と意識できない過去
- 3 回：日常認知：思い出は変容するか
- 4 回：言語理解：言語を処理する心の仕組み
- 5 回：問題解決と推論：知性のきらめきと思考の多様性
- 6 回：判断と意思決定：選択のゆがみと判断の落とし穴
- 7 回：判断と意思決定：選択のゆがみと判断の落とし穴
- 8 回：認知行動療法
- 9 回：脳波と事象関連電位
- 10 回：認知心理学的手法による注意研究
- 11 回：ICT・情報行動の心理
- 12 回：消費者の認知と購買意思決定
- 13 回：感情、認知、意思決定
- 14 回：批判的思考（クリティカル・シンキング）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時の指示に従い、予習・復習を行うことが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内に指示した課題に対する提出物, 14回:40%

テキスト / Textbooks

箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 『認知心理学』 有斐閣 2010年 9784641053748 ○

参考文献 / Readings

都築誉史(編) 『認知科学パースペクティブ』 信山社 2002年 4797222174

都築誉史(編) 『ICT・情報行動心理学』 北大路書房 2017年 9784762829642

授業中に適宜紹介する。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

パーソナリティの心理

Psychology of Personality

日常生活とパーソナリティ

清水 裕 (SHIMIZU YUTAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FD105

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

パーソナリティについて自己洞察を深めるとともに、日常生活の中でのパーソナリティの影響について理解を深める。

As well as deepening self-insight about personality, students will deepen their understanding of the effects of personality in everyday life.

授業の内容 / Course Contents

パーソナリティの定義と形成過程・構造などに関する理論および理解の方法について解説した後、対人関係・対人行動・心身の健康とパーソナリティとの関連性について、具体的な研究も示しながら考察する。

After explaining the definition of personality and the theory and understanding of the formation process and structure, etc., we will consider the relationships between interpersonal relationships, interpersonal behavior, physical and mental health, and personality while showing specific research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：パーソナリティとはどのようなものか

- 2回：パーソナリティの研究史
 3回：パーソナリティに関する考え方1 類型論
 4回：パーソナリティに関する考え方2 特性論
 5回：パーソナリティに関する理論1 構造論
 6回：パーソナリティに関する理論2 現象学的理論
 7回：パーソナリティの測定法1 観察法・面接法
 8回：パーソナリティの測定法2 テスト法(質問紙法・投影法・作業検査法)
 9回：パーソナリティの発達1 遺伝要因と環境要因がパーソナリティに及ぼす影響
 10回：パーソナリティの発達2 ライフサイクル
 11回：対人関係とパーソナリティ1 友人関係の親密化に影響する要因
 12回：対人関係とパーソナリティ2 対人関係の進展に関する理論
 13回：心身の健康とパーソナリティ1 精神疾患と心理的不適応
 14回：心身の健康とパーソナリティ2 心理療法

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

前の週に次回の授業で使用するプリントを配付し、予習を指示する。また、復習については、提出物に関する説明を含め、毎回の授業時に指示する。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% コメントペーパーおよび小レポート等の提出物:30%

テキスト / Textbooks

詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊 『性格心理学への招待 [改訂版]』 サイエンス社 2003
 4781910440 ○

参考文献 / Readings

参考文献は授業時に適宜指示する。

その他 / Others

プリントや視覚教材を用いる。コメントペーパーや小レポート等の提出には CANVAS LMS を使用する。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項(検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

パーソナリティの心理

Psychology of Personality

心の生涯発達

菅沼 真樹 (SUGANUMA MAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD106
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

人の心の個性の成り立ちや、加齢に伴って経験される心理的变化について、生涯発達心理学の観点から理解を深める。

Students will deepen their understanding of the formation of individuality of human mind and the psychological changes experienced with aging from the viewpoint of life-span developmental psychology.

授業の内容 / Course Contents

パーソナリティ発達や対人関係の発達など、社会情緒的な側面の発達を中心に概観していく。受講者各人が「これまで」を振り返り、「これから」を展望するためのヒントともなるように、具体的場面と関連づけながら講義を進めていく。生活の中でみられるエピソードの紹介なども、積極的に取り入れていく。授業全体を通じて、受講者各人が「人の発達とは何か」を考えるきっかけを提供したい。

We will focus on the development of social emotional aspects such as personality development and the development of interpersonal relationships. Each student will reflect on their "past" and we will proceed with the lectures while relating them to specific scenes so that the course can be a hint for the "future." We will also

actively introduce episodes that appear in our lives. We want to provide opportunities for each student to think about "what is human development" throughout the course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：心理学とは
- 2 回：心理学の研究法
- 3 回：生涯発達とライフサイクル論（1）（乳児期、幼児期、児童期）
- 4 回：生涯発達とライフサイクル論（2）（青年期、成人期、老年期）
- 5 回：乳幼児期の心理（1）
- 6 回：乳幼児期の心理（2）
- 7 回：親子関係の発達（1）
- 8 回：親子関係の発達（2）
- 9 回：児童期の心理
- 10 回：青年期の心理（1）
- 11 回：青年期の心理（2）
- 12 回：家族関係の発達
- 13 回：成人期の心理
- 14 回：老年期の心理

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

開講にあたっての既有知識は、特に求めない。心理学関連科目の初学者にも理解できるように授業を進めていく。授業外でも、自身と同年代にある者だけでなく、自身とは異なる発達段階にある者（乳幼児、児童、高齢者など）に対しても積極的に関心を寄せ、生涯発達への理解を深めてほしい。授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

塚本伸一・堀耕治（編） 『現代心理学への招待』 樹村房 2005年 488367116

無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編） 『よくわかる発達心理学第2版』 ミネルヴァ書房 2009年
9784623053797

林 創 『発達心理学』 ミネルヴァ書房 2019年 9784623086221

その他、授業内で適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

私語は厳禁とする。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

対人関係の心理

Psychology of Human Relations

対人関係の両面性と心理的健康

竹田 葉留美 (TAKEDA HARUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD107
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

社会的場面における人との相互関係のなかで生じる問題について、社会心理学、臨床心理学の視座から理解を深める。講義で得られた知識を、日常生活で応用することができるようになることを目指す。

Students will deepen their understanding of problems that arise in interaction with people in social situations from the perspectives of social psychology and clinical psychology. The goal is for students to be able to apply the knowledge gained in the lectures in their daily lives.

授業の内容 / Course Contents

対人関係にはポジティブな面とネガティブな面の2つの側面があり、この2つの側面はいずれも個人の心理的健康と深くかかわっている。授業では、コミュニケーションを基盤に、対人行動や対人関係の展開、あるいはストレスフルな対人関係など、さまざまな視点から理解を深めていく。

There are two aspects of interpersonal relationships - positive and negative - both of which are intimately related to the psychological health of the individual. In this course, students will deepen their understanding from various perspectives, such as interpersonal behavior and development of interpersonal relationships, and stressful

interpersonal relationships, based on communication.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンスおよび講義への導入－対人関係、コミュニケーションの基礎
- 2 回：コミュニケーションの分類と機能
- 3 回：対人関係の調整機能－心理的距離
- 4 回：対人関係の調整機能－自己開示
- 5 回：対人関係の調整機能－自己呈示
- 6 回：対人関係の調整機能－印象操作
- 7 回：対人関係の調整機能－対人魅力
- 8 回：対人関係の展開－恋愛関係の成立・進展
- 9 回：対人関係の展開－恋愛関係の維持・継続
- 10 回：相互作用からの視点－承認欲求
- 11 回：相互作用からの視点－多様性
- 12 回：相互作用からの視点－ソーシャルサポート・被援助要請行動
- 13 回：より良い対人関係の構築－アサーティブネス
- 14 回：より良い対人関係の構築－対人ストレスマネジメント

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

心理学，社会心理学，臨床心理学の基本的知識を学習しておくことと授業が理解しやすい。入門書または概論書を読んでおくことを勧める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:20% 小レポート:10%

なお、3/4 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

就職活動及びその他大学が公欠と認めていない欠席について、配慮はしませんので予めご了承ください。

テキスト / Textbooks

レジュメ・プリント等を適宜配布する。

参考文献 / Readings

授業のなかで適宜紹介する。

その他 / Others

- ・ 受講者の人数、興味関心により授業の内容、順番については変更することもある。
また可能であればゲストスピーカーを招請する予定なので、その際は授業内容が変更となる。
- ・ パワーポイントを使用した講義形式で、映像資料や現物資料なども適宜活用する。
資料の配布は Canvas LMS を使用する。
- ・ リアクションペーパーについては、毎回提出を求める。次回の講義開始時にフィードバックを行う。
尚、リアクションペーパーについては、全 14 回の授業の内、4 回～6 回を評価の対象とする。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

対人関係の心理

Psychology of Human Relations

「集団」の心理学的検討を通して、私たちの生き方を見つめ直す

浅井 健史 (ASAI TAKESHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD108
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「集団」で生じる行動や対人関係について、社会心理学の知見や発想を学び、日常生活の対人関係や社会問題を心理学的に理解する力を養う。

Students will learn about the findings and ideas of social psychology regarding behavior and interpersonal relationships that occur in "groups," and cultivate the ability to understand familiar events and social problems from a psychological perspective.

授業の内容 / Course Contents

社会的存在である人間は、集団を離れて生きられない。集団は協働により偉業を達成したり、成員に支援や安心感を与えるが、時として内外に破壊的な影響をもたらす。そうした「集団」で生じるさまざまな現象を、具体例をもとに心理学的に検討する。社会に生きる人間にとって、個と集団の理想的な関係はどうあるべきかを模索したい。

As social beings, we cannot live apart from groups. Groups work together to achieve great accomplishments, provide support and a sense of security to members, but sometimes have disruptive effects both inside and

outside. We will examine the various phenomena that occur in such "groups" from a psychological perspective based on specific examples. I would like to explore how ideal relationships between individuals and groups should be and how they can be built for people living in society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：社会的存在としての人間－私たちはなぜ集団を必要とするか
- 2回：集団心理の基本概念－社会的手抜き、集団規範、同調
- 3回：集団意思決定の心理－集団極性化、集団思考
- 4回：リーダーシップの心理－社会で活躍するリーダーを例に
- 5回：群衆行動の心理－群衆の破壊的行動、流言
- 6回：災害発生時の心理－パニック、避難行動、災害時流言
- 7回：非倫理的行動の心理－アイヒマン実験、スタンフォード刑務所実験を例に
- 8回：偏見・差別の心理－メカニズムと対策の検討
- 9回：「いじめ」の心理－予防と解決に向けて
- 10回：マインド・コントロールと説得の心理－カルト、悪徳商法を例に
- 11回：オンライン・コミュニティの心理－SNS、ネット依存などを例に
- 12回：ピアサポートによる心理的支援(1)－ピアサポートの意義
- 13回：ピアサポートによる心理的支援(2)－勇気づけのメカニズム
- 14回：ピアサポートによる心理的支援(3)－状況の影響

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：		学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：			：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回で提示した参考文献を中心に、授業後も履修者が発展的学習に努め、学期末レポートに結実させること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 出席兼コメントペーパーの内容:30%

テキスト / Textbooks

Canvas LMS にアップしたプリント教材を用いて授業を進めるので、テキストは指定しない。

参考文献 / Readings

各回の授業で参考文献を紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

心理学に関する予備知識は、特に必要としない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他 / Others

私語には厳しく対応する。受講者は互いを思いやり、快適な学習環境の創出に努めること。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

心の健康

Mental Health

精神保健

よりよく生きていくために必要な生涯発達の臨床心理学入門

三好 力 (MIYOSHI CHIKARA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FD109
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2400
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

過剰なストレスがかかる現代社会において、生涯の様々な場面で役に立つであろう発達臨床心理学の知識を学び、メンタルヘルスの危機に対処できる力を身につけることを目標とします（基本的に初学者対象）。

The goal shall be to learn the knowledge of developmental clinical psychology that will be useful in various situations in life and to acquire the ability to cope with mental health crises in modern society where stress is excessive (basically aimed at beginners).

授業の内容 / Course Contents

日本は高齢社会に突入しました。その長い人生の中では、受験、就職、結婚、出産、そして配偶者の死など様々な出来事があり、たくさんのストレスがかかります。その結果、心のバランスを崩してしまう人も少なくありません。そんな中で我々が健やかに生きていけるように心の健康を考えていきます。知識があれば、防げることもあります。

まず「心の健康」を精神保健（異常心理学）の観点からみていきます。心理学の立場から、自分や家族がその

状況に立たされたときにどのように対処できるのか、生きていくヒントを提示していきます。一部の症状については、様々な文化からもその現象を捉え、それが身近なものであることにも触れていきます。その上で、最後には「こころ」の正常と異常というものをトータルに自ら考えられるようにしていきます。

Japan has entered an aging society. In such a long life, there are many stressful events such as exams, employment, marriage, childbirth, and the death of one's spouse. As a result, many people lose their mental balance. Under such circumstances, we will consider mental health so that we can live healthily. With knowledge, we can prevent these problems.

First of all, we will look at "the health of the mind" from the perspective of mental health (abnormal psychology). From the point of view of psychology, we will give tips on living for how you or your family can cope with such problems. With regard to some symptoms, we will take up the phenomena from various cultures and also mention that these problems are common. Finally, in the end students will be able to think comprehensively for themselves about the normality and abnormalities of the "mind."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：問題提起「正常と異常」
- 2 回：心の発達①
- 3 回：心の発達②
- 4 回：精神保健の基礎知識（DSM と ICF から）
- 5 回：臨床心理学（異常心理学）の基礎知識
- 6 回：統合失調症
- 7 回：うつと躁鬱
- 8 回：統合失調症と躁鬱のまとめ
芸術からの視点
- 9 回：不安症／不安障害群と強迫症／強迫性障害群
- 10 回：解離症／解離性障害群と摂食障害 他
- 11 回：パーソナリティ障害群
境界性人格障害（ボーダーライン）の世界
- 12 回：神経発達症／神経発達障害群①
- 13 回：神経発達症／神経発達障害群神経発達障害②
- 14 回：高齢者の精神保健と諸問題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業中に指示します。毎回の授業でのファーストインパクトを大事にしますので、予習は必要ありません。授業中と復習に集中してください。

復習に関しては、参考文献や授業中に紹介するものを利用して復習することを基本とする。また、多様な考え方を身につけるためにインターネットなどでも利用してさまざまな立場の意見なども調べて学ぶような復習を推奨します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としません。30 分以上の遅刻、および早退は出席としては扱いません。授業中の出入りは原則禁止です。欠席扱いは立教大学のルールに則ります。特別な配慮はありませんし、個別の交渉は受け付けません。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

配布プリントを中心とする。

参考文献 / Readings

下山晴彦 『よくわかる臨床心理学 [改訂新版]』 ミネルヴァ書房 2009 4623054357

藤田哲也 『絶対に役立つ臨床心理学』 ミネルヴァ書房 2016 4623077950

American Psychiatric Association 『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引』 医学書院 2014 4260019082

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

心理学に接したことがない人に向けての授業なので、基本初学者でも大丈夫ですが、興味関心が無いと難しく感じることも少なくないようです。人の心という概念的に難しいものを扱うため、イマジネーションが重要です。とにかく人の心に興味があることと精神保健に興味関心があることが大切な要件になります。

その他 / Others

授業の内容は、一部事例など人間の生々しい行為や思考など決して道徳的とはいえない表現が出てくる場合があります。性的な問題についても取り扱われるので、苦手な方はご遠慮いただくのが良いと思います。男性性や女性性といった文脈も出てきますが、細かい LGBTQ まで踏まえた文脈の話は時間の関係でできません。内容は DSM や ICD といった一般的な典型論で進みます。個別性についてはあまり取り上げません。

授業中の私語、携帯電話の使用は禁止です。スマホなどの写真撮影や動画撮影なども禁止します。他者や教員に迷惑な行為は退出を

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

身体パフォーマンス

Body and Performance

舞台芸術の創作プロセスと創作環境

横堀 応彦 (YOKOBORI MASAHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD110
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

これまで作り手は何を考えながら、どのように演劇を創作してきたのだろうか。舞台芸術の創作プロセスおよび創作環境に着目しながら、日本および海外の演劇／劇場をめぐる状況について講義する。

What did the creators of theater think about as they created, and how did they create theater works? We will provide lectures on the situation surrounding theaters in Japan and abroad, focusing on the creative process and environment of the performing arts.

授業の内容 / Course Contents

国内外で上演されている舞台芸術作品（劇場外での上演も含まれる）の記録映像を見ながら、作り手が何を考え、どのようなプロセスで舞台芸術を創作してきたのか歴史的・理論的に講義する。前半の授業（第1回～第7回）では歴史的に重要な作品および関連文献を取り上げ、舞台芸術を見るための枠組（フレーム）について考える。後半の授業（第9回～第14回）では、ここ数年間に国内外で上演された作品および関連文献を取り上げ、国内外における舞台芸術および創作環境について紹介し、現代における舞台芸術や劇場環境の在り方について考える。これまで劇場に足を運んだことのない学生をはじめ、舞台芸術に関する予備知識のない学生の受

講を歓迎する。

While watching videos of performing arts works performed in various cities in Japan and the world (including performances outside theaters), we will discuss what the creators thought about and what process they used to create the theater from historical and theoretical perspectives. In the first half of the course (1st to 7th classes), we will take up historically important works and related documents, and think about a framework for viewing performing arts. In the second half of the course (9th to 14th classes), we will take up works presented in Japan and abroad in the last few years and related documents, introduce performing arts and creative environments in Japan and the world, and consider the way of contemporary performing arts and the theatrical environment. We welcome students who have never been to the theater or have no background in the performing arts.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：日本編 1
- 3 回：日本編 2
- 4 回：日本編 3
- 5 回：海外編 1
- 6 回：海外編 2
- 7 回：海外編 3
- 8 回：インターミッション (映像鑑賞予定)
- 9 回：日本編 4
- 10 回：日本編 5
- 11 回：日本編 6 (ゲストスピーカーの可能性あり)
- 12 回：海外編 4
- 13 回：海外編 5
- 14 回：海外編 6 (ゲストスピーカーの可能性あり)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で紹介する文献を読み、実際の舞台を見に行くこと。その他、必要に応じて授業時に指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業毎のリアクションペーパーおよび授業内に指示した複数回の提出物:50%

欠席回数が5回を超えたものについては成績評価の対象としない。なお授業内に指示する提出物には、実際の観劇が必要となるものが含まれ、そのチケット代 (1作品あたり 3000円～目安) は自己負担となる。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。毎回プリントを配布する。

参考文献 / Readings

随時授業時に指示する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目
多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

癒しの科学

Healing Sciences

癒しとは？生涯にわたって健やかに生きるための学び

松原 恵理 (MATSUBARA ERI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD113
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面（全回対面）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自分の心や身体を心地よく癒すことの意味と方法論を学び、現在及び生涯にわたり癒しとともにある健やかな生き方を考究することを目標とします。

The aim is to learn about the meaning and methodology of healing your mind and body comfortably, and consider how to live a healthy life with healing both now and in the future.

授業の内容 / Course Contents

この授業の前半では人の心や身体と癒しの関わりについて、後半では最新の研究事例とともにいくつかの癒しの方法について学んでいきます。授業全体を通して、自らを癒し健やかに生きることについて考えをまとめていきます。

In the first half of this class, we will learn about the relationship between the human mind, body and healing. In the second half, we will learn about several healing methods, along with latest research examples. Throughout the class, we will develop their understanding of how to heal themselves and live a healthy life.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：癒しとは
- 2回：癒しと心や身体の健康
- 3回：癒しの効果：概論
- 4回：癒しの効果：心理的反応
- 5回：癒しの効果：身体的反応①
- 6回：癒しの効果：身体的反応②
- 7回：自然の持つ癒し①
- 8回：自然の持つ癒し②
- 9回：自然の持つ癒し③
- 10回：香りの持つ癒し①
- 11回：香りの持つ癒し②
- 12回：生活と癒し①
- 13回：生活と癒し②
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:30% 授業内に行う小テスト(10%×3回):30% 最終レポート:40%

2/3以上の出席を単位取得の条件とします。リアクションペーパーも評価の対象とします。

テキスト / Textbooks

特にありません。授業内で資料を配布します。

参考文献 / Readings

必要に応じて授業中に紹介します。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

スポーツの科学

Sports Science

アスリートの科学 競技スポーツで展開されるプレーの数々から、人生を歩くためのヒントを見つける

杉浦 雄策 (SUGIURA YUSAKU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FD114

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

競技スポーツで展開されるプレーの数々は、筋書きのないドラマであり、結果に至るまでの想いや決断、勇気、指導、育成プロセスといった多様な側面をもっており、それらはまさに人生に相通じる。競技スポーツを「みる」ことで、人生を歩いていくための“ヒント”を見つける。

By “watching” many plays that unfold in competitive sports, we can find tips for walking through life.

授業の内容 / Course Contents

世界で活躍するアスリートの心・技・体に焦点を当て、「競技スポーツ」の知られざる全貌に、スポーツ科学の視点から迫る。いまや、トップアスリートの高みへの挑戦に科学の活用は欠かせない。さらなるパフォーマンス発揮（競技力の向上）は、科学者、アスリート、コーチの協働作業によって達成されている。理論（科学）と実践の統合は「トレーニング、現場での経験、情報、観察、問題提起、仮説をもとに合理的な事象を追求し、エビデンスとして確認する、というサイクルを繰り返し、また新たな発見をすることによって、パフォーマンスの向上を図ること」に寄与する。これこそが人にしかできない行為であり、人はそこから学ぶ。本講義では、視聴覚教材（DVD、スライド）などを用いて、競技スポーツの“奥深さ”を明らかにしていく。

Focusing on the minds, skills, and bodies of athletes who are successfully playing throughout the world, the course approaches the whole picture of competitive sports from the perspective of sports science. Today, support from sports science is indispensable for top athletes. In addition to the results of the games themselves, the process to achieve the results is of great interest. Using audiovisual materials (DVDs and slides), we will reveal the “profound value” of competitive sports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：「スポーツ」を考える
- 3回：スポーツとアスリート
- 4回：アスリートの「心」を探る
- 5回：アスリートの「技」を探る
- 6回：アスリートの「体力・運動能力」を探る
- 7回：アスリートの「才能」を探る
- 8回：人類の進化と科学の進歩 「競泳 高速水着」
- 9回：人類の進化と科学の進歩 「陸上競技 背面跳び」
- 10回：人類の進化と科学の進歩 「陸上競技 アンダーハンドパス」
- 11回：人類の進化と科学の進歩 「ドーピングとアンチドーピング」
- 12回：人類の進化と科学の進歩 「テクノロジーの発展と人間の価値」
- 13回：アスリートのリテラシー
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の予習範囲や課題は、適宜お知らせします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% テキストの理解度:40% 複数回の課題:60%

テキスト / Textbooks

杉浦雄策 『日常生活に活かすスポーツ科学リテラシー』 ライフ出版社 2024 ○

※受講期間中に、テキストへの書き込み・その他があり、評価の対象とするため、購入は必須となります（中古は不可）。

参考文献 / Readings

杉浦 雄策 『学生生活とライフマネジメント』 ライフ出版社 2024

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

健康の科学

Health Science

健康スポーツと科学 正しく、楽しく、健康・体力をアップするコツとウェルネスについて考える

杉浦 雄策 (SUGIURA YUSAKU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FD115

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

スポーツを「する」ことの素晴らしさを再認識して、人生をエンジョイしてもらいたい。生涯を通じて、健康・体力をキープするための理論を学ぶ。健康スポーツと向き合うことで、豊かな人生に欠かせない健康・体力、ウェルネスを獲得する。

I want students to reaffirm the wonder of doing sports and enjoy life. Students will learn theories to keep their health and strength through life.

授業の内容 / Course Contents

生涯を通じて、スポーツで身体すことは、身体の機能が向上したり、その衰えを緩やかにすることもでき、病気や傷害も予防できる一助にもなり得る。健康スポーツと向き合うことで、豊かな人生に欠かせない健康・体力とウェルネスを獲得することができる。本講義では、スポーツで、真剣に楽しんで一所懸命に遊ぶために、知っておきたい身体とスポーツの関係を紹介する。また、その具体的なノウハウについても明らかにしていく。安全で効果的なスポーツを実践するための多くの知識を得て、「わたしの健康スポーツ（種目）の実践・ウェルネス」について考える。

In health sports, in order to enjoy them seriously and play hard, we will introduce the important relationships between the body and sports. We will also clarify the specific know-how for each item. Students will gain a lot of knowledge to practice safe and effective sports and will think about "My health sports (events)."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：「スポーツ」を考える
- 3回：スポーツと健康・体力 運動不足と生活習慣病 健康と体力を考える
- 4回：スポーツと健康・体力 安全に、効果的にスポーツをする
- 5回：身体をつくる スタミナのある身体
- 6回：身体をつくる 力強い身体
- 7回：身体をつくる しなやかな身体
- 8回：身体を整える 骨・筋肉 女性の「やせすぎ」にご用心
- 9回：身体を整える 肥満を考える
- 10回：身体を整える 熱中症を予防する
- 11回：身体を動かす 代表的な有酸素系・フィットネススポーツ
- 12回：身体を動かす 楽しくスポーツをする
- 13回：「わたしの健康スポーツ種目の実践・ウェルネス」を考える
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の予習範囲や課題は、適宜お知らせします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% テキストの理解度:40% 複数回の課題:60%

テキスト / Textbooks

杉浦雄策 『日常生活に活かすスポーツ科学リテラシー』 ライフ出版社 2024 ○

※受講期間中に、テキストへの書き込み・その他があり、評価の対象とするため、購入は必須となります（中古は不可）。

参考文献 / Readings

杉浦 雄策 『学生生活とライフマネジメント』 ライフ出版社 2024

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

栄養の科学

Sciences of Nutrition

身近にある食と栄養の「へえ～」に気付こう/食行動の変容・定着を目指す

酒井 健介 (SAKAI KENSUKE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD117
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

食物、栄養、生命活動の関係を概念的に理解し、身体の機能と栄養との関係についての理解を深め、自らの食生活を管理するための方策を身につける。

Students will conceptually understand the relationships between food, nutrition, and life activities, deepen their understanding of the relationships between body function and nutrition, and acquire strategies for managing their own dietary habits.

授業の内容 / Course Contents

「食と栄養」を通じて「日常を科学する」知識や視点を持ち合わせるよう講義を展開し、体重管理や競技力向上、健康増進や疾病予防などさまざまな状況下で「食と栄養」についての自己管理を促す知識やスキルを提供する。

In recent years, interest in health, food, and nutrition has increased. Through this course, students will be taught knowledge and perspectives on "science of daily life" related to "food and nutrition." In addition, we will provide opportunities, knowledge, and skills to promote self-management about "food and nutrition" under various

conditions such as weight management, competitive ability improvement, health promotion, and disease prevention.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・ヒトのカラダと栄養 ①ヒトのカラダの構成を食事・栄養 課題1
- 2回：ガイダンス・ヒトのカラダと栄養 ②筋骨格系の健康の維持と食事
- 3回：ガイダンス・ヒトのカラダと栄養 ③脂質・水分と体重の関係
- 4回：ガイダンス・ヒトのカラダと栄養 ④体位・体格と食事
- 5回：食生活・栄養に関するガイドラインや指針 課題2
- 6回：食物と物質（栄養素）の関係 ①食品中の栄養素
- 7回：食物と物質（栄養素）の関係 ②類似栄養素が含まれる食品群
- 8回：食事のバランス：自分の食事を見直そう 課題3
- 9回：エネルギー収支と体重管理
- 10回：食品表示（正しい食品の購入方法）
- 11回：健康食品について
- 12回：消化と吸収
- 13回：各論 糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルの栄養
- 14回：授業内テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎授業後に提供する小テストを実施すること。

食物と栄養，ヒトのカラダについて興味を持ち，日常の食行動の変容や健康的な食生活の獲得に意欲を持つこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内レポート：40% 小テスト：20% 最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

指定しない。CanvasLMS に授業資料は掲出し、必要に応じ授業時にプリントを配付。

参考文献 / Readings

必要に応じて授業中に紹介。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

履修において専門課程の文理は問わないが、一部化学結合や生体組織、構造に関する知識を求める場合がある。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

小テスト実施のため、Canvas LMS にアクセスできる端末を準備。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

アンチエイジングの科学

Science of Anti-Aging

老化のメカニズムとそれに伴う疾病への対策

舘川 宏之 (TACHIKAWA HIROYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FD118
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2400
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

超高齢社会をむかえてなお高齢化率が増加し続けている日本では、社会的にもアンチエイジングが重要視されている。本講義では老化とそれに伴う疾病の原因や仕組みを学び、最新の研究に触れることで、アンチエイジングに対する科学的な理解を深めることを目標とする。

As the population ages further in the super-aging society, there is social emphasis on anti-aging in Japan. The course aims to gain deeper scientific understanding on anti-aging by learning the cause and structure of aging and age-related diseases and studying the latest research.

授業の内容 / Course Contents

- 生命現象としての老化の基礎を紹介する
- 加齢に伴う疾病の原因と機序を講義し、その対策を考察する。
- 現在のアンチエイジング研究の紹介し、今後の研究課題を検討する。

1. Introduces the basics of aging as a biological phenomenon.

2. Lecture on the cause and mechanism of age-related diseases and consider responses.
3. Introduce the current anti-aging research and consider future research topics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：老化とは何か
- 2 回：老化のメカニズム 1
- 3 回：老化のメカニズム 2
- 4 回：老化のメカニズム 3
- 5 回：老化のメカニズム 4
- 6 回：老化を加速させる因子を考えてみる
- 7 回：寿命を伸ばすことができるか
- 8 回：見た目の老化の仕組みを知ろう
- 9 回：老化に伴うホルモン分泌の変化とは
- 10 回：骨代謝老化のメカニズムとその対策
- 11 回：認知機能の低下のメカニズムとその対策
- 12 回：食とアンチエイジング
- 13 回：アンチエイジング医学と薬
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業に関連する内容について質問し、コメントシートに回答を求める。単に聴講するだけでなく、各自が予習・復習をすること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コメントシート:30% 中間テスト:30% 最終テスト割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

日本抗加齢医学会 『アンチエイジング医学の基礎と臨床 第3版』 メジカルビュー社 2015
9784758304917

小林武彦 『生物はなぜ死ぬのか』 講談社 2021 9784065232170

高杉征樹 『老化研究をはじめの前に読む本』 羊土社 2023 9784758121262

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC またはスマートフォン。PC が望ましい。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

スポーツとメディア

Sport and Media

スポーツ報道の歴史から将来像を展望する

瀧口 隆司 (TAKIGUCHI TAKASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD119
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本におけるスポーツ報道の歴史を学び、新しい時代のメディアがどうあるべきかを考察する。

The aim of this course is to learn the history of sports coverage in Japan and to consider what the media should be in a new era.

授業の内容 / Course Contents

スポーツ記者を長く務めてきた毎日新聞論説委員が、スポーツとメディアの関係や報道の役割について、自らの経験も踏まえて講義する。インターネットによる SNS の発展でメディアが変革期を迎える中、スポーツジャーナリズムの将来も展望していく。

The lecturer of this course is the Mainichi Shimbun editorial writer, who has been a sports reporter for a long time. He will give a lecture on the role of the press and the relationship between sports and the media, based on his own experience. As the media enters a period of change due to the development of social networking service (SNS) via the Internet, we will also look into the future of sports journalism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：はじめに・スポーツ報道の現在地
- 2 回：黎明期のスポーツジャーナリズム
- 3 回：テレビの登場と娯楽化への道
- 4 回：雑誌 Number の創刊とスポーツ記者の変容
- 5 回：スポーツ記者に求められる資質
- 6 回：スポーツメディアの矛盾と葛藤
- 7 回：国家主義・商業主義とスポーツイベント
- 8 回：世界のスポーツを変えたテレビマネー
- 9 回：SNS で発信するアスリートたち
- 10 回：ロボット化するスポーツ記者の仕事
- 11 回：地方メディアの可能性
- 12 回：スポーツそのものがメディア
- 13 回：情報爆発時代に求められるもの
- 14 回：まとめ・スポーツ報道はなぜ必要か

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

スポーツ報道に関心を持ち、新聞、テレビ、インターネットでのニュース、評論、解説を読む習慣をつける。さらに興味の幅を広げ、関連する本や雑誌にも幅広く目を通してほしい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業への取り組み:25% リアクションペーパー:25%

テキスト / Textbooks

資料を適宜配布する。

参考文献 / Readings

滝口隆司 『情報爆発時代のスポーツメディア－報道の歴史から解く未来像－』 創文企画 2018
9784864131131

滝口隆司 『スポーツ報道論 新聞記者が問うメディアの視点』 創文企画 2008 9784921164645

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

スポーツと社会

Sport and Society

スポーツ文化論

後藤 光将 (GOTOU MITSUMASA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FD120

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

我々にとって、「身体」「からだ」の存在は、人間である以上普遍的なテーマとなりえます。古代ギリシャから現代に至るまで、哲学をはじめ様々な分野でこれらが探求され続けています。この授業では、人間の生身の「身体」を表現する文化複合体として「スポーツ」に注目します。FIFA W 杯、オリンピック、パラリンピックなどメガスポーツイベントは、もはや国際政治・経済の分野においても無視することはできません。「スポーツ」は、我々にとってもはや必要不可欠な存在ともいえます。文化論的学問対象として「スポーツ」に接近することにより

For us, the existence of the "body" can be a universal theme as a human being. From ancient Greece to the present, this has been explored in a variety of areas, including philosophy.

In this course, we will focus on "sports" as a cultural complex that expresses the human body. Mega sports events such as the FIFA World Cup and the Olympics can no longer be ignored in the field of international politics and economics. "Sports" can be considered to be essential to us.

By approaching "sports" as a cultural study subject, we will interpret "sports" that we have casually played and

watched using historical and cultural anthropological methods.

By taking this course, students will broaden their historical perspective on various events.

授業の内容 / Course Contents

本講では、文化人類学的視点と歴史学的視点でスポーツに関連する様々な事象に接近します。時事的な問題も取り扱うので、国際情勢の変化によって授業内容も変更になる場合があります。

In this course, we will access various events related to sports from cultural anthropological and historical perspectives. As we will also deal with current issues, shifts in the international situation may change the course content.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、スポーツアニメに見る文化性
- 2回：スポーツの概念史
- 3回：体育の概念史
- 4回：キリスト教と身体・体育・スポーツ
- 5回：日本人初のオリンピック 金栗四三
- 6回：日本人初のメダリスト 熊谷一彌
- 7回：東京のオリンピック招致
- 8回：テロ・赤字・冷戦
- 9回：スポーツと民族問題
- 10回：ドーピング問題
- 11回：スポーツ選手の社会貢献
- 12回：パラスポーツの可能性
- 13回：スポーツ・メディア・経済
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に学習する必要はありませんが、スポーツ関連の時事問題に常に注目して下さい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内に行う小テスト（5%×12回）:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 後藤光将編 『オリンピック・パラリンピックを学ぶ』 岩波書店 2020 9784005009114
 高峰修編 『夢と欲望のオリンピック』 成文堂 2020 9784792380847
 新井博編 『新版スポーツの歴史と文化』 道和書院 2019 9784810521351
 日本オリンピック・アカデミー編 『JOA オリンピック小事典』 メディア・パル 2016 9784896101607
 瀬戸邦彦・杉山千鶴編 『近代日本の身体表象—演じる身体・競う身体』 森話社 2013 9784864050524

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回の小レポートは授業時間内に Canvas LMS で提出してもらいますので、PC やスマートフォンなどを持参してください。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

スポーツと文化

Sports and Culture

近・現代のスポーツ特有の文化的特性を多面的に理解する

高峰 修 (TAKAMINE OSAMU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FD121

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

これまでは「やる」対象であったスポーツを「知る」「考える」対象として位置づけ、近・現代のスポーツ文化について「観念」「規範」「技術」「物質」といった面から理解し、批判的に考えられるようになることを目標とします。

We will regard sports that have been the subject of "doing" as subjects of "knowing" and "thinking," and understand modern and contemporary sports culture from the aspects of "ideas," "norms," "technology," and "matter," with the goal being to be able to think critically.

授業の内容 / Course Contents

毎回の講義にテーマを設定し、各テーマについて、テキストやその他の資料・映像などの情報を基にしながら講義をします。

講義終了時には毎回アクションペーパーに記入してもらい、評価の対象とします。記入内容があまりにも不十分な場合は出席になりませんので気をつけてください。

We will set a theme for each class and give a lecture on the theme on the basis of information such the textbook, other materials, and videos.

At the end of the lecture, students will be asked to fill out a reaction paper in each class for evaluation. Please be aware that your attendance will not be counted if the content you write is insufficient.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション「炎のランナー」を観る
- 2回：近・現代スポーツを理解する①：近代スポーツとは
- 3回：近・現代スポーツを理解する②：アマチュアリズム
- 4回：近・現代スポーツを理解する③：ナショナリズム
- 5回：近・現代スポーツを理解する④：オリンピズム
- 6回：近・現代スポーツを理解する⑤：コマーシャリズムとメディア化
- 7回：近・現代スポーツを理解する⑥：グローバリゼーション
- 8回：ジェンダー論①：スポーツとジェンダー
- 9回：ジェンダー論②：スポーツと身体的性
- 10回：ジェンダー論③：スポーツとセクシュアリティ
- 11回：各論①：ルール論
- 12回：各論②：スポーツとテクノロジー
- 13回：各論③：障がい者スポーツ論
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のテーマに関わるテキストの該当部分を事前に熟読してくる。その内容について授業開始時にクイズを出します。詳細については講義時間内に説明します。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席およびリアクションペーパーの内容:60% 最終レポート割合 :40%

3分の2以上の出席をしていない場合は成績評価の対象となりません。

テキスト / Textbooks

井上俊・菊幸一 『よくわかるスポーツ文化論』改定版 ミネルヴァ書房 2020 9784623088393 ○

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業で使用するスライドは PDF ファイルにて講義前に"Canvas LMS"にアップロードしますので、適宜ダウンロードして活用してください。

リアクションペーパーは PC ファイルにて作成し"Canvas LMS"から提出してもらいます。

以上の作業をこなせる機器を準備してください。

その他/ Others

基本的にはスライドを用いて講義を進め、映像資料を適宜使用します。
時間が許す限り、リアクションペーパーのフィードバックを次回講義開始時に行います。
「受講者は講義を聞く意思をもっている」ことを前提として授業を進めます。
講義中の退室は遠慮してください。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

レジャー・レクリエーションと現代社会

Leisure and Recreation in Modern Society

ユース世代における豊かなライフスタイルのための自由時間やレジャー空間の意義を考える

水上 博司 (MIZUKAMI HIROSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD122
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面（全面对面）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2400
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「多彩な学び」の基本方針である「専門領域の枠を超えた人間としての深い認識や価値観、総合的な判断力」を養うために、歴史社会的・文化論的な視点から日本人（若者文化・サブカルチャー）のライフスタイルやレジャー・レクリエーションの変遷を理解し、自らのライフスタイルと社会の問題を発見するための基礎的な知識を身につける。

In this course, students will gain a basic understanding of the evolution of Japanese (youth culture and subculture) lifestyle and leisure/recreation from a historical-sociological and cultural-theoretical perspective, and will acquire the basic knowledge to discover their own lifestyle and social problems. And to acquire basic knowledge for discovering one's own lifestyle and issues in Japanese society.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、スポーツやレジャーやレクリエーションという文化が誕生した社会的背景とその変遷を歴史社会的に振り返りながら日本人、とりわけ若者文化・サブカルチャーからみたライフスタイル観やレジャー観の特徴を理解します。毎時の講義

では講義テーマに関連した資料を
オンライン配布し、スライド提示や映像を活用します。毎時の講義ではリアクションペーパーを提出します。
また講義の中間回と最終回到授業
内テストを実施します。

In this lecture, we will look back at the social background and evolution of the culture of sports, leisure and recreation from a historical sociological perspective to understand the characteristics of the Japanese view of lifestyle and leisure, especially from the viewpoint of youth culture and subcultures. Materials will be distributed at each lecture, and slide presentations and videos will be used. Students will submit reaction papers. Students will also be evaluated by two written tests.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス（Classroom への登録・リアクションペーパーの提出の仕方、2 回の筆記テストなど評価方法について）と労働と余暇の成立
- 2 回：有閑階級（レジャークラス）が生み出した自由時間
- 3 回：スポーツやレジャーやレクリエーションの楽しさと成立の条件
- 4 回：遊び（プレイ）の理論のスポーツ・レジャー・レクリエーション
- 5 回：ライフスタイル空間のオンとオフの切り替え
- 6 回：身体解放とデジタル社会におけるライフスタイル
- 7 回：授業内テスト（中間）
- 8 回：戦後日本の政治・経済・生活とサブカルチャー・余暇行政
- 9 回：1960 年代の日本の政治・経済・生活とサブカルチャー・余暇行政
- 10 回：1970 年代の日本の政治・経済・生活とサブカルチャー・余暇行政
- 11 回：1980 年代の日本の政治・経済・生活とサブカルチャー・余暇行政
- 12 回：1990 年代の日本の政治・経済・生活とサブカルチャー・余暇行政
- 13 回：2000 年代の日本の政治・経済・生活とサブカルチャー・余暇行政
- 14 回：授業内テスト（最終）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内テスト:40% 出席および複数回のリアクションペーパー:60%

2/3 以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。

テキスト / Textbooks

テキストは使用しない

参考文献 / Readings

随時紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

とくにありません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

とくにありません。

その他/ Others

毎回の講義では Canvas LMS から資料を配布します。この資料に関連したスライドを提示し、映像資料も活用しながら講義を進めていきます。遅刻や中途退室について。出席カード配布後以降の入室は遅刻とします。遅刻 2 回は欠席 1 回とカウントしますので注意をしてください。講義中の無断退室は欠席となります。不正行為は単位修得不可とします。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

アウトドアの知恵に学ぶ

Learning from the Outdoors

人と自然の本質的関係を考える

Think about the essential relationship between people and nature

鹿熊 勤 (KAKUMA TSUTOMU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FD123

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

人が生きるために見出し伝承してきたさまざまな生活技術や、平等・協力を前提とした社会的なしくみ。

これらの源流は狩猟・漁労・採集で暮らした縄文時代にまでさかのぼることができます。縄文の知恵は完全に消失してしまっただけではなく、今も農山村の伝統的な生活技術や、自然の中で行なう娯楽の中にエッセンスとして生きています。これら「アウトドアの知恵」について知っておくことは、非常時の行動選択に役立つと同時に、自然と人間の本質的な関係を振り返り、持続可能な社会の在り方を考えるヒントになります。

A variety of life skills that people have found and passed down for living, and social mechanisms based on equality and cooperation. These origins can be traced back to the Jomon period, when people hunted, fished, and gathered food. The wisdom of Jomon people has not completely disappeared, and still lives as an essence in the traditional life skills of farming and mountain villages and entertainment performed in nature. Knowing this "wisdom of the outdoors" is useful for selecting actions during emergencies, as well as for providing insights on the essential relationship between nature and human beings and how to think about a sustainable society.

授業の内容 / Course Contents

スライド写真による解説を中心に進行します。テーマに応じて実体標本を回覧し、ゲストスピーカーからより専門的なお話を伺う予定です。本授業で扱う「アウトドア」とは、自然を上手に利用する技術や知恵全般のことであり、テントの張り方やバーベキューの方法といった個別のレジャーテクニックを学ぶ場ではありません。なお「命」についても多く取り上げます。狩猟などの回では人により不快に感じる画像も扱いますが、人間の営みを振り返るうえで避けることのできないテーマですので、ご承知おきください。

We will focus on commentary on slides. We will circulate actual samples according to the theme, and plan to hear more specialized stories from guest speakers. "Outdoor" in this class refers to techniques and wisdom in general that use nature well, and is not a place to learn individual leisure techniques such as how to put up a tent or barbecue methods. In addition, we deal with "life" a lot. While we will use images that may be unpleasant when we cover hunting, etc., it is an unavoidable theme to look back on human activities, so please be aware of this.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス guidance
- 2回：採集の知恵 Wisdom of Gathering
- 3回：地球のリズムで暮らす Living with the rhythm of the earth
- 4回：自然の毒と薬 Natural medicines and poisons
- 5回：漁撈の知恵 1 Wisdom of fishing 1
- 6回：漁撈の知恵 2 Wisdom of fishing 2
- 7回：発酵の知恵 Wisdom of fermentation
- 8回：昆虫へのまなざし 1 Insects and human life1
- 9回：昆虫へのまなざし 2 Insects and human life 2
- 10回：工芸の知恵 wisdom of crafts
- 11回：日本人と野生動物 Japanese and wild animals
- 12回：狩猟の知恵 Wisdom of hunting
- 13回：火と人間 Fire and human
- 14回：刃物と人間 Knife and human

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に関心を持ったことについて継続的に調べることが望ましい

It is advisable to check on your own interests

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト/ Textbooks

かくまつとむ 『糧は野に在り 現代に息づく縄文的生活技術』 農文協 2015 9784540141966 ○

参考文献 / Readings

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

いのちを健康で彩る智慧

Wisdom for a Healthy Life(Introduction to the Health Humanities)

Health Humanities への招待

(Introduction to the Health Humanities)

後藤 広史 (GOTO HIROSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FD125

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2400

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： ・春学期集中講義【8月5日(月)～8月8日(木)】

・立教大学池袋キャンパスおよび聖路加国際大学にて開講

授業の目標 / Course Objectives

健康は、世界の平和と安全を達成するための基礎である。そこで、この科目では、さまざまな学問を専門とする有識者からの基礎的な講義と履修者同士の討論を通して、リベラル・アーツの智慧と実践が、すべての人びとの健康を実現するために、どのように貢献できるのだろうか、という命題について、深く考える機会を提供する。

Health is the foundation for achieving peace and safety in the world. This course will provide an opportunity to think deeply about the question of how the wisdom and practice of the liberal arts can contribute to the realization of health for all people through basic lectures by experts in various academic fields and discussions among students.

授業の内容 / Course Contents

(1) ひとつの事象をさまざまな視座から素直に観聴きする姿勢を育む。

(2) これまでに体験したことのない事象をイメージできる豊かな想像力を育む。

(3) 「健康」の概念、「健康」に関する価値観を形成する礎となる、さまざまな専門分野の「知」に触れる。

(4) 履修者、ひとり一人が授業で得た気づきを統合し、「Health Humanities」の概念について、自分なりに熟考するとともに、人類の「生」と「健康」への貢献可能性について、さまざまな人生背景を有する履修者とともに考え、語り合い、分かちあう。

(5) 一人ひとりの「思考の自律性」を高めるとともに、すべての市民が健康を享受できる世界を創りあげていくために、自らが社会で果たすべき役割を意識づける。

(1) Cultivate the attitude of seeing and hearing an event honestly from various perspectives.

(2) Foster a rich imagination that can imagine events that have never been experienced before.

(3) Feel to knowledge in various specialized fields that forms the basis for the "concept of health" and "values related to health".

(4) Each student will integrate the insights gained in the class and think about the concept of "Health Humanities" in his/her own way. In addition, students from various life backgrounds will think, talk and share with each other about the possibility of contributing to the life and health of humanity.

(5) Increase the autonomy of thought of each students, and raise awareness of the role we should play in society to create a world where all citizens can enjoy good health.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：○履修オリエンテーション

- ・この科目のねらいと授業の進め方について
- ・アイスブレイキング / グループディスカッションのためのグループづくり

菊田 文夫・後藤 広史

2回：【第1セッション：「Health Humanities」の現状と展望】

- ・ヘルスヒューマニティーズの思想
- ・ヘルスヒューマニティーズ研究の国際的動向

井上 麻未・Jeffrey Huffman (聖路加国際大学・基盤領域【英語】)

3回：【第2セッション：デジタル社会のみらいを俯瞰する】1

- ・人類の未来を拓く哲学的教養 — 自律的思考力の涵養

佐々木 一也 (立教大学名誉教授)

4回：【第2セッション：デジタル社会のみらいを俯瞰する】2

- ・人工知能・データサイエンスを価値ある新たな知見の創出に活かす

大西 立顕 (立教大学・人工知能科学研究科)

5回：【第3セッション：地域で安心して暮らせる仕組みづくり】1

- ・心に不調を抱える人が安心して暮らせるコミュニティ

金田 渉 (帝京大学・医学部・精神神経科学講座)

6回：【第3セッション：地域で安心して暮らせる仕組みづくり】2

ホームレス問題と民間団体によるコミュニティベースの支援

後藤 広史 (立教大学・コミュニティ福祉学部・福祉学科)

7回：【第4セッション：すべての人びとが健康を享受するために】1

- ・生きかたを創造する「いのちの教育」

菊田 文夫 (聖路加国際大学・基盤領域【健康教育】)

8回：【第4セッション：すべての人びとが健康を享受するために】2

・市民主導型の健康生成をめざすケアモデル – PCC (People-Centered Care)

射場典子 (聖路加国際大学・基盤領域【看護情報学】)

中村 めぐみ (聖路加国際大学 PCC 開発・地域連携室)

9 回：【第 5 セッション：人びとを病から救う生きた有機体にふれる】

・聖路加国際病院の理念／地下鉄サリン事件をふり返って

石松 伸一 (聖路加国際病院)

10 回：【第 6 セッション：聖路加国際病院の働き】 1

・患者ファーストの病院であるために (1)

相談支援センター／医療社会事業科

11 回：【第 6 セッション：聖路加国際病院の働き】 2

・患者ファーストの病院であるために (2)

相談支援センター／医療社会事業科

・聖路加国際病院の見学ツアー

12 回：【第 7 セッション：医学にみる「いのち」の尊さと美】 1

・美しい動きを生み出す身体のカニズム

田崎 篤 (聖路加国際病院・整形外科)

13 回：【第 7 セッション：医学にみる「いのち」の尊さと美】 2

・終末期医療にみる「いのち」のかがやき

林 章敏 (聖路加国際病院・緩和ケア科)

14 回：【第 8 セッション 社会の健康を高めるヒント】

・シニアの社会参加を促す取り組み

木下 健康 (聖路加国際大学・基盤領域【社会学】)

・Health Humanities が人類に貢献できること (討論・ふり返り)

菊田 文夫・後藤 広史

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に立教大学・聖路加国際大学のシステムを通じて履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎授業時のリアクションペーパーの内容+ディスカッションへの参加度:70% 集中講義終了後に提出を求める最終レポートの内容:30%

聖路加国際大学の受講生については菊田文夫、立教大学の受講生については後藤広史がそれぞれ成績評価を行う。

各回、講師の発表に基づいてディスカッションを行うため、相応の理由がない限り開始 10 分以上の遅刻は原則認めない (不参加扱いとする)。早退についても同様。不参加の場合は、その回の平常点 (毎授業時のリアクシ

ョンペーパーの内容+ディスカッションへの参加度)は0となる。

詳細は初回の授業で説明するので必ず参加すること。

テキスト/ Textbooks

テキストは使用しない。

参考文献 / Readings

その他/ Others

本科目は、8月5日(月)～8日(木)の4日間で集中講義形式で開講する。

前半の2日間は立教大学(池袋キャンパス)、後半の2日間は聖路加国際大学で開講する。履修の際に開講日、開講キャンパスを必ず確認しておくこと。

【開講時期/場所】2024年8月5日(月)～8日(木)

8月5日(月) 9:30～17:10 /立教大学池袋キャンパス 5401教室(5号館4階)

8月6日(火) 10:00～17:10 /立教大学池袋キャンパス 5401教室(5号館4階)

8月7日(水) 9:00～17:10 /聖路加国際

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

<個人情報の取り扱い>

本科目を履修する場合、以下の個人情報を聖路加国際大学に提供します。

学生番号、氏名、性別、生年月日、現住所・電話番号、携帯電話番号、緊急連絡先住所・電話番号

個人情報は聖路加国際大学および立教大学にて管理のうえ、本科目の履修に関してのみ利用し、他の目的には利用しません。

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項(検索結果画面)

全学共通科目/多彩な学び

全学共通カリキュラム/主題別 A

立教ゼミナール4

Seminars for Students of Rikkyo University 4

データサイエンス

小林 哲郎 (KOBAYASHI TETSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD171
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2440
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

データサイエンスが解決する主な課題や事例を学び、データサイエンスの課題解決の方法論に関する理解を深める。また、データサイエンス的課題解決力の向上を図る。

This course covers major data science problems and use cases. Students will learn data science approaches to such problems. Students will also learn some practical data scientific problem-solving abilities.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、データサイエンスの分野における一般的な課題と事例を紹介し、それらを解決するデータサイエンスの手法を紹介する。

This course will introduce general problems and examples in the field of data science, and introduce data science methods to solve such problems.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス、自己紹介、データ分析の目的

2 回：一般的なデータ分析プロセス

- 3回：分析ユースケース定義
 4回：業界別のデータ分析テーマ (1)
 5回：業界別のデータ分析テーマ (2)
 6回：業界別のデータ分析テーマ (3)
 7回：業界別のデータ分析テーマ (4)
 8回：業界別のデータ分析テーマ (5)
 9回：デジタルトランスフォーメーション
 10回：業界別のデータ分析テーマ (6)
 11回：業界別のデータ分析テーマ (7)
 12回：業界別のデータ分析テーマ (8)
 13回：業界別のデータ分析テーマ (9)
 14回：AI 活用の動向

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:10% 複数のレポート課題:90%

テキスト / Textbooks

授業中に適宜紹介します。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介します。

注意事項

- ・2016 年度以降 1 年次入学者対象科目
- ・多彩な学び

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

立教ゼミナール発展編 4

Seminars for Senior Students of Rikkyo University 4

筋トレリテラシーを身につける

宮村 淳 (MIYAMURA ATSUSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD172
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP3440
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

人生 100 年時代、一生付き合わなければならない自分の身体への理解を深め、ライフスキルとして長年活用できる筋トレリテラシーの基礎を身につける。

Students will deepen their understanding of their own body that they must live with for life, in this era of living to 100 years, and acquire the foundation of strength training and muscle conditioning literacy that can be used as a life skill for many years.

授業の内容 / Course Contents

日常生活で意識することの少ない人体の構造や力学的特性を学んで「身体への気付き」を促し、健康管理ツールとしてのストレッチや筋トレを、初級レベルで使えることを目標としたい。運動技術の習得をゴールとするのではなく、学生間の議論と共有体験を通じて各人が「カラダを探究する」入口に立てることを重視する。講義全体を通して、下記のテーマに対して多様な視点からアプローチしていく。

- ・筋肉は重層構造を成し、表面から触ることのできない深部筋への働きかけが重要である
- ・全身の筋肉や関節は、お互いが影響しあうシステムとして機能しており、痛みや不調の原因が該当部位以外

に存在する

・自身の身体の状態を常に把握し、筋トレやストレッチを通じて自身で調整する習慣の重要性を理解する
By learning the structure and mechanical characteristics of the human body that we are less conscious of in everyday life to promote "awareness of the body," we will aim to use strength training as a health management tool. Rather than focusing on the acquisition of motor skills, the emphasis will be placed on each student's entrance to the "quest for an ideal body" through discussion and sharing experiences among students. We will approach the following themes from various perspectives.

- Muscles have a multi layer structure, and it is important to work on deep muscles that cannot be touched from the surface.
- The muscles and joints of the whole body function as a system that influences each other, and the cause of pain and discomfort exists outside the relevant part.
- Understanding the importance of maintaining a constant awareness of one's own physical condition and adjusting it by oneself through strength training and stretching.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション（各自の受講動機、バックグラウンドのヒアリングなど）

※初回は一般教室にて座学中心の内容。

2 回：体幹の構造を理解し強化する

※第2回目以降は、トレーニングルームにて実技+講義

3 回：肩甲骨を意識し、動きを高める 1

4 回：肩甲骨を意識し、動きを高める 2

5 回：上半身の筋トレ種目 大胸筋を使う

6 回：トレーニング変数・体幹 2

7 回：股関節 1 大腰筋エクササイズ

8 回：股関節 2 臀部を鍛える

9 回：股関節 3 スクワットを究める

10 回：一流ボディビルダーの考え方と実践（ゲストスピーカー講義）

11 回：筋肥大ストレス、体幹固定上半身エクササイズ

12 回：股関節伸展とデッドリフト

13 回：運動連鎖

14 回：アラカルト、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	○ 校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で学んだことを意識して生活動作・スポーツ動作を心がけ、そこで気付いたことを授業で再確認する。
当該年度の定期健康診断を必ず受診すること。

【注意事項】

初回授業：一般教室にて座学中心に行う。服装は自由。

2回目以降：トレーニングウェア等の動きやすい服装とシューズを着用すること。裸足やスリッパでの参加は厳禁とする。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:70% 授業内提出物:30%

テキスト / Textbooks

必要に応じて授業時に配布する。

参考文献 / Readings

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

立教ゼミナール発展編 4

Seminars for Senior Students of Rikkyo University 4

身体と霊性—坐禅からのアプローチ—

松澤 裕樹 (MATSUZAWA HIROKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD173
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP3440
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

東西宗教思想における霊性論と身体論について理論面から学ぶと共に、坐禅等を通して実践面からも学ぶことで、総合的な人間理解を深めることが本授業の目標となる。

In addition to learning from the theory aspects of spirituality and body theory in East-West religious thought, the aim of the course is to deepen comprehensive human understanding by also learning from practical aspects through zazen.

授業の内容 / Course Contents

テクノロジーによる身体の拡張によって引き起こされる生身の身体の意義の希薄化、五感で知覚される世界への執着から導かれる霊性の否定という二つの傾向を特徴とする現代社会において生じる様々な問題を自覚し、それに適切に対処するためには、過去の様々な思想との対話を通して現代社会における自己のあり方を客観視する必要がある。

本授業では、以上のような現代的課題を念頭に置きながら東西宗教思想における霊性論と身体論を理論的かつ実践的に探究することで、理論と実践の相互作用による総合的な人間理解を目指す。

We are aware of various problems that occur in modern society characterized by the two tendencies of dilution of the meaning of the physical body caused by extension of the body due to technology and denial of spirituality derived from attachment to the world perceived by the five senses. In order to cope with this properly, it is necessary to objectively look at the way of self in modern society through dialog with various ideas of the past. In this course, the aim is that by studying spiritual theories and physical theories in East-West religious thought theoretically and practically while keeping in mind the above-mentioned modern issues, students will gain comprehensive human understanding through the interaction between theory and practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：坐禅指導
- 3回：中国仏教における身体と霊性①
- 4回：中国仏教における身体と霊性②
- 5回：日本仏教における身体と霊性①
- 6回：日本仏教における身体と霊性②
- 7回：禅とマインドフルネス①
- 8回：禅とマインドフルネス②
- 9回：聖書における身体と霊性①
- 10回：聖書における身体と霊性②
- 11回：東方キリスト教における身体と霊性①
- 12回：東方キリスト教における身体と霊性②
- 13回：キリスト教・イスラム教神秘思想における身体と霊性①
- 14回：キリスト教・イスラム教神秘思想における身体と霊性②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業前・後にそれぞれの分野に関する参考文献を読むことが必須となる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度（コメントペーパー等）：60% 最終レポート：40%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

授業で適宜紹介する。

その他 / Others

毎回の授業で坐禅を行う予定。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

Applied Data Science with the focus on Sport and Wellness

Applied Data Science with the focus on Sport and Wellness

Data Science, Sports data analysis

小林 哲郎 (KOBAYASHI TETSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD403
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2431
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

データサイエンスが解決する主な課題やスポーツにおける応用事例を学び、データサイエンスの課題解決の方法論に関する理解を深める。

This course covers major problems in data science as well as applied use cases in sports science. Students will learn the basic problem-solving methods using data science approaches.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、データサイエンスの分野における一般的な課題とそれらを解決するデータサイエンスの手法を学ぶとともに、スポーツにおける応用事例についても理解を深める。また、プログラミング言語である Python やデータ可視化ツールの Tableau などに触れ、データ分析の演習も行う。

This course will provide you knowledge regarding data science-based problem-solving skills. During this semester, you will learn (1) major data science problems, (2) and data science methods to solve such problems, (3) applied use cases in sports science. Students will also learn the basic usage of Python, a programming language, and Tableau, a data visualization tool.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction and overview of the course
 2 回：A standard process of data analysis
 3 回：Data analysis use cases and use case definition (1)
 4 回：Data analysis use cases and use case definition (2)
 5 回：Data collection technologies in sport and wellness (1)
 6 回：Data collection technologies in sport and wellness (2)
 7 回：Descriptive statistics
 8 回：Exploratory data analysis (1)
 9 回：Exploratory data analysis (2)
 10 回：Basics of machine learning
 11 回：Machine learning/AI in sport and wellness
 12 回：Class presentation and discussion
 13 回：AI application development
 14 回：Neural network and large language models

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Instructions will be on Canvas after course registration is complete.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Tests:30% Lab assignments:20% In-class presentation:50%

テキスト / Textbooks

Introduced in a classroom as needed

参考文献 / Readings

Introduced in a classroom as needed

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Students need to bring his/her laptop computer.

注意事項

- ・ F 科目上級 (外国語による総合系科目)
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

Japanese Mind

Japanese Mind

Gaining an insight into young Japanese people's perspectives regarding how communities should approach issues and solve them at the grass-roots level.

リッチー, Z. (RITCHIE ZANE AARON)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FD501
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2431
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

The course objectives are as follows:

- To provide an insight into how various community issues were addressed in different communities, both inside and outside of Japan, through the lecturer's first-hand research.
- To develop critical thinking and analytical skills through engaging in class discussions and debates on these issues.
- Enhance communication and collaboration skills through sharing personal perspectives and ideas on how to address community challenges through reaction papers and class discussions.
- Develop a deeper understanding of the cultural and social context of community challenges and adversity in Japan and in other countries.
- To be able to evaluate and analyze community development projects in New Zealand, Kenya and Japan.

授業の内容 / Course Contents

This class will provide an in-depth understanding of community challenges and adversity through the lens of the lecturer's first-hand research and experience in various communities both inside and outside of Japan. It will explore how different community issues are addressed at the grassroots level by examining:

1. The impact of natural disasters such as the Christchurch earthquakes and the Tohoku earthquake on local communities.
2. Local community development projects and education in Kenya.
3. Student led community development projects in Saitama.
4. The impact of tourism on local communities in Japan.

Following each lecture, students will be encouraged to share their own perspectives and opinions on these issues through reaction papers and class discussions. Specific questions will be posed to provoke debate and encourage students to share their own ideas on how to address local community challenges.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introduction and class outline.
- 2 回： The Christchurch Earthquakes and the local community I: Overview
- 3 回： The Christchurch Earthquakes and the local community II: The East-West divide
- 4 回： The Christchurch Earthquakes and the local community III: The Student Volunteer Army
- 5 回： The Christchurch Earthquakes, Resilience and 315. Community Resilience Following Adversity
- 6 回： The Great East Japan Tsunami and Earthquake: Grassroots Community Projects in Ishinomaki
- 7 回： Education initiatives in local communities in Kenya I: Introduction
- 8 回： Education initiatives in local communities in Kenya II: Case Study: Korogocho Slum, Nairobi
- 9 回： Education Initiatives in Local Communities in Kenya III: How and Why I got out of the slum (Guest Lecture by Nelson Ogot).
- 10 回： The Impact of Tourism on Local Communities I: Case Study Rwanda (Guest Lecture by Fabien Niyonshuti)
- 11 回： The Impact of Tourism on Local Communities II: Case Study Kyoto
- 12 回： The Impact of Tourism on Local Communities III: Case study Kawagoe
- 13 回： Community Development Projects with Students in Ogawamachi, Saitama
- 14 回： Final Test and tie-up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Required readings will be distributed in advance where required.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance:20% Participation (reaction papers):40% Final test:40%

テキスト / Textbooks

Materials to be distributed in class.

参考文献 / Readings**その他/ Others**

Google Classroom will be used for this class. All work will be submitted electronically via Google Classroom.

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Health and Wellness

Health and Wellness

水島 淳 (MIZUSHIMA JUN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD502
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 4
科目ナンバリング： CMP2431
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業終了時に、以下の点を達成することが期待されます：1) どのようにして身体活動を通じて自己と他者の健康とウェルネスを促進できるかについて説明できるようになる。2) 目的と練習内容、指導者の介入、対象学生の参加度合いに一貫性のあるセッション計画を作成できるようになる。3) セッション計画実施に向けた準備、実施、評価を行えるようになる。

By the end of the course, students should be able to achieve the followings in health and wellness through physical activities:

- 1) Explain how we can promote health and wellness of themselves and others through physical activities,
- 2) Create session plans where objectives match up against proposed practice tasks, leader interventions and expected student engagement, and
- 3) Prepare, deliver planned sessions, followed by reflective assessments.

授業の内容 / Course Contents

授業内容は、受講生が身体活動を通じた健康とウェルネスにおける指導者としての技能を身につけることができるようにデザインされています。

The course content is designed to guide students becoming leaders in health and wellness through physical activities.

授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：Lecture: becoming leaders in health and wellness through physical activities
 2回：Practical: Boccia
 3回：Lecture: creating session plans
 4回：Practical: creating session plans
 5回：Lecture: learn and reflect
 6回：Practical: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
 7回：Lecture: set the vision and strategy
 8回：Practical: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
 9回：Lecture: set the vision and strategy
 10回：Practical: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
 11回：Lecture: shape the environment
 12回：Practical: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
 13回：Lecture: shape the environment
 14回：Practical: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
 15回：Lecture: build relationships
 16回：Practical: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
 17回：Lecture: build relationships
 18回：Practical: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
 19回：Lecture: conduct practices
 20回：Practical: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
 21回：Lecture: conduct practices
 22回：Practical: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
 23回：Lecture: read and react to the field
 24回：Practical: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
 25回：Lecture: read and react to the field
 26回：Practical: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
 27回：Lecture: becoming leaders in health and wellness through physical activities
 28回：Practical: Reflection

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート : ○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read lecture sheets on a weekly basis.

Also, students are expected to make session plans and prepare for delivering them.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Positive learning contribution:10% Session plan:20% Reflection sheet:20% Final report:20% Presentation:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

- ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム 所属学生/特別外国人学生が履修
- ・この授業は、英語圏での大学の授業を想定し、全て英語で行う
- ・以下の英語力を有していることが履修の目安になる

英検準 1 級, IELTS 5.5, TOEFL®iBT 72, TOEIC®L&R 785

- ・ 2 時限連続開講
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Understanding Speech Sounds 1

Understanding Speech Sounds 1

Understanding Speech Sounds 1

シュロスブリー (SHROSBREE MIKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FD505

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期 1

単位： 1

科目ナンバリング： CMP2431

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed for students with little or no background in phonetics. It will help students understand the nature of speech sounds. Students will learn how speech sounds are produced and how they can be described. They will also learn phonological differences between Japanese and English.

授業の内容 / Course Contents

This course covers basic articulatory phonetics. Students will firstly learn speech anatomy and physiology. Then they will learn phonetic transcription (IPA) and description of consonants and vowels. They will also learn suprasegmental features, such as stress, rhythm and intonation.

授業計画(授業計画数：7) / Course Schedule

1 回： Introduction

2 回： The human vocal tract

3 回： Phonetic Transcription (IPA)

4 回： Describing Consonants (Place and manner of articulation)

5回：Describing Vowels (Vowel chart)

6回：Suprasegmental Features (Stress, rhythm, and intonation)

7回：Final Test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to review each lesson and write a reflection paper. They also need to prepare for the final test and some quizzes during the course.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Worksheets, Quizzes:30% Weekly reaction paper:30% 最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Murray J. Munro Applying Phonetics: Speech Science in Everyday Life Wiley Blackwell 2021
9781119164548

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Understanding Speech Sounds 2

Understanding Speech Sounds 2

Understanding Speech Sounds 2

シュロスブリー (SHROSBREE MIKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD506
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期2
単位： 1
科目ナンバリング： CMP2431
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course is designed to help students understand the nature of speech sounds. Students will understand characteristics of speech sounds using visual representation of speech sounds using an application called Praat, and students will also learn how to use it.

授業の内容 / Course Contents

This course introduces basic acoustic phonetics. Students will firstly learn sound wave and waveforms. Then they will learn characteristics of sounds, such as pitch, loudness, duration, and quality. Then students will learn the production of speech and acoustic properties of vowels and consonants. They will also learn how to use a phonetic application called praat.

授業計画(授業計画数：7) / Course Schedule

1 回： Introduction

2 回： Sound waves and waveforms

3 回： Characteristics of sounds: pitch, loudness, duration, and quality

4回：Speech production: vowels and consonants

5回：Acoustic properties of vowels

6回：Acoustic properties of consonants

7回：Final Test

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to review each lesson and write a reflection paper. They also need to submit weekly worksheets.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Weekly worksheets:30% Weekly reflection paper:30% 最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Nigel Hewlett, Janet Mackenzie Beck An Introduction to the Science of Phonetics Routledge 2006
0805856729

Peter Ladefoged, Sandra Ferrari Disner Vowels and Consonants Wiley Blackwell 2012 1444334296

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Applied Data Science with the focus on Sport and Wellness

Applied Data Science with the focus on Sport and Wellness

Data Science, Sports data analysis

小林 哲郎 (KOBAYASHI TETSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD507
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2431
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

データサイエンスが解決する主な課題やスポーツにおける応用事例を学び、データサイエンスの課題解決の方法論に関する理解を深める。

This course covers major problems in data science as well as applied use cases in sports science. Students will learn the basic problem-solving methods using data science approaches.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、データサイエンスの分野における一般的な課題とそれらを解決するデータサイエンスの手法を学ぶとともに、スポーツにおける応用事例についても理解を深める。また、プログラミング言語である Python やデータ可視化ツールの Tableau などに触れ、データ分析の演習も行う。

This course will provide you knowledge regarding data science-based problem-solving skills. During this semester, you will learn (1) major data science problems, (2) and data science methods to solve such problems, (3) applied use cases in sports science. Students will also learn the basic usage of Python, a programming language, and Tableau, a data visualization tool.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction and overview of the course
 2 回：A standard process of data analysis
 3 回：Data analysis use cases and use case definition (1)
 4 回：Data analysis use cases and use case definition (2)
 5 回：Data collection technologies in sport and wellness (1)
 6 回：Data collection technologies in sport and wellness (2)
 7 回：Descriptive statistics
 8 回：Exploratory data analysis (1)
 9 回：Exploratory data analysis (2)
 10 回：Basics of machine learning
 11 回：Machine learning/AI in sport and wellness
 12 回：Class presentation and discussion
 13 回：AI application development
 14 回：Neural network and large language model

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Instructions will be on Canvas after course registration is complete.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Tests:30% Lab assignments:20% In-class presentation:50%

Introduced in a classroom as needed

テキスト / Textbooks

Introduced in a classroom as needed

参考文献 / Readings**学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare**

Students need to bring his/her laptop computer.

注意事項

- ・ F 科目上級 (外国語による総合系科目)
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

Health Science

Health Science

Enhancing Health and Well-being through Physical Activity

川端 雅人 (KAWABATA MASATO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FD508
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2431
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

By the end of the course, students should be able to

- 1) Explain the effects of physical activity on well-being,
- 2) Discuss why people do or do not physical activity,
- 3) Describe the determinants of physical activity adherence, and,
- 4) Explain the key points to enhance health and well-being through physical activity.

授業の内容 / Course Contents

This course is designed to provide students with a foundation to understand how to promote health and well-being through physical activity. The course consists of lectures, tutorial, and practical sessions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introduction to the key words used in the course
- 2 回： Understanding physical activity levels worldwide
- 3 回： Effects of physical activity on mental health

- 4回：Relationship between physical activity and mood states
 5回：Effects of physical activity on psychological well-being
 6回：Effects of physical activity on cognitive functioning
 7回：Physical activity correlates and barriers
 8回：Theories and models of exercise behavior
 9回：Determinants of physical activity adherence
 10回：Strategies for enhancing adherence to physical activity
 11回：Written test in class
 12回：Revision; Group work
 13回：Group work
 14回：Group presentation on the project

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read recommended materials before attending lessons and work on assignments specified in the course.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Written test:30% Group project:30% Individual assignment:30% Positive learning contribution:10%

テキスト / Textbooks

Weinberg R. S., & Gould, D. Foundations of sport and exercise psychology (7th ed.) Human Kinetics 2019

-

Other recommended books are introduced in the course.

参考文献 / Readings

Recommended reading materials are introduced in the course.

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

舞踊論

Theory of Dance

舞踊の意味を探る

糟谷 里美 (KASUYA SATOMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FD601

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業は、社会における多種多様な舞踊を取り上げ、現象としての舞踊を理論的科学的に捉えることにより、様々な視点から身体文化の一つである舞踊の意味を探求する力を涵養する。

This course takes up a diverse range of dances in society, and cultivates students' ability to explore the meaning of dance which is one of human culture by understanding dance theoretically and scientifically from various viewpoints.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、地域に根差した文化や舞踊家たちの芸術活動の背景に触れながら、そこに出現する様々な舞踊に着目し、関連する研究を通じて、舞踊への理解を深めていく。取り上げる舞踊は、「生活文化の中の舞踊」「芸術としての舞踊」「教育の中の舞踊」「身体科学の中の舞踊」等である。授業内では、映像を適宜用いながら、舞踊について考察していく。

This course touches on the background of cultures in communities and of the dancers that appear in these communities to deepen students' understanding of dance through related research. The dances to be taken up are

"dance in our life", "dance in art", "dance in education", and "dance in physical science", etc. In the classes, we will study dance while watching videos as appropriate.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：舞踊とは何か
- 2 回：生活文化の中の舞踊
- 3 回：バレエの発祥と発展
- 4 回：モダンダンスの成立背景と展開
- 5 回：バレエ・リュスとその遺産
- 6 回：芸術としての舞踊
- 7 回：モダンダンスの発展
- 8 回：バレエとモダンダンスの融合
- 9 回：コンテンポラリーダンスに求められるもの
- 10 回：教育としての舞踊
- 11 回：日本における洋舞史
- 12 回：邦舞と洋舞の違いとは
- 13 回：バレエを科学する
- 14 回：舞踊をめぐる様々な視点

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容に関連した舞踊を劇場において生 (ライブ) で観る機会を持ち、舞踊への理解を深めることが望ましい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%
 平常点割合 :50% 出席および授業に取り組む姿勢:50%

テキスト / Textbooks

授業内で資料 (レジュメ) を配付する。

参考文献 / Readings

授業内で紹介する。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通カリキュラム / 主題別 A

脳と心

Biology of Brain

心の神経科学入門

旦 直子 (DAN NAOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FD602

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

心理学が扱う心の様々な側面を神経科学の視座から論じることにより、心の働きと中枢神経系とのつながりについて理解する。

Through the lecture on various topics of psychology from the perspective of neuroscience, students should understand the connection between the psychological process and the central nervous system.

授業の内容 / Course Contents

まず、脳の構造と機能についての基本的な情報を提供する。その上で、心理学の研究分野の中でも特に脳科学からのアプローチが盛んないくつかのテーマを取り上げ、今日までに得られている知見を各論的に解説していく。その際、できるだけ具体的な事例や実験結果を紹介する予定である。基本的な知識を身につけるとともに、現代の脳科学がどこまで人の心の働きを解明しているのかについて理解することを目指す。

After providing fundamental knowledge about brain structure and function, we will pick up several themes of psychological research frequently studied using methodology of brain science, and lecture on various findings to date with introducing specific experiments. The aim is for students to acquire basic knowledge and to

understand how modern brain science elucidates human mind.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：脳神経系の構造および機能／脳と心を調べる方法
- 3回：感覚・知覚と脳の機能
- 4回：視覚系の基礎および特性
- 5回：視覚の障害／視聴覚相互作用
- 6回：注意障害／体性感覚および運動と脳の機能
- 7回：記憶の基礎
- 8回：記憶の障害と脳の機能
- 9回：情動の基礎
- 10回：情動の障害と脳の機能
- 11回：右脳・左脳の違い／言語の障害と脳の機能
- 12回：発達と脳（1）
- 13回：発達と脳（2）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパーの内容:30%

テキスト / Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 A

舞踊論

Theory of Dance

舞踊の意味を探る

糟谷 里美 (KASUYA SATOMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FD701

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業は、社会における多種多様な舞踊を取り上げ、現象としての舞踊を理論的科学的に捉えることにより、様々な視点から身体文化の一つである舞踊の意味を探求する力を涵養する。

This course takes up a diverse range of dances in society, and cultivates students' ability to explore the meaning of dance which is one of human culture by understanding dance theoretically and scientifically from various.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、地域に根差した文化や舞踊家たちの芸術活動の背景に触れながら、そこに出現する様々な舞踊に着目し、関連する研究を通じて、舞踊への理解を深めていく。取り上げる舞踊は、「生活文化の中の舞踊」「芸術としての舞踊」「教育の中の舞踊」「身体科学の中の舞踊」等である。授業内では、映像を適宜用いながら、舞踊について考察していく。

This course touches on the background of cultures in communities and of the dancers that appear in these communities to deepen students' understanding of dance through related research. The dances to be taken up are

"dance in our life", "dance in art", "dance in education", and "dance in physical science", etc. In the classes, we will study dance while watching videos as appropriate.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：舞踊とは何か
- 2 回：生活文化の中の舞踊
- 3 回：バレエの発祥と発展
- 4 回：モダンダンスの成立背景と展開
- 5 回：バレエ・リュスとその遺産
- 6 回：芸術としての舞踊
- 7 回：モダンダンスの発展
- 8 回：バレエとモダンダンスの融合
- 9 回：コンテンポラリーダンスに求められるもの
- 10 回：教育としての舞踊
- 11 回：日本における洋舞史
- 12 回：邦舞と洋舞の違いとは
- 13 回：バレエを科学する
- 14 回：舞踊をめぐる様々な視点

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容に関連した舞踊を劇場において生 (ライブ) で観る機会を持ち、舞踊への理解を深めることが望ましい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 出席および授業に取り組む姿勢:50%

テキスト / Textbooks

授業内で資料 (レジュメ) を配布する

参考文献 / Readings

授業内で紹介する

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通カリキュラム / 主題別 A

脳と心

Biology of Brain

心の神経科学入門

旦 直子 (DAN NAOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FD702

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

心理学が扱う心の様々な側面を神経科学の視座から論じることにより、心の働きと中枢神経系とのつながりについて理解する。

Through the lecture on various topics of psychology from the perspective of neuroscience, students should understand the connection between the psychological process and the central nervous system.

授業の内容 / Course Contents

まず、脳の構造と機能についての基本的な情報を提供する。その上で、心理学の研究分野の中でも特に脳科学からのアプローチが盛んないくつかのテーマを取り上げ、今日までに得られている知見を各論的に解説していく。その際、できるだけ具体的な事例や実験結果を紹介する予定である。基本的な知識を身につけるとともに、現代の脳科学がどこまで人の心の働きを解明しているのかについて理解することを目指す。

After providing fundamental knowledge about brain structure and function, we will pick up several themes of psychological research frequently studied using methodology of brain science, and lecture on various findings to date with introducing specific experiments. The aim is for students to acquire basic knowledge and to

understand how modern brain science elucidates human mind.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：脳神経系の構造および機能／脳と心を調べる方法
- 3回：感覚・知覚と脳の機能
- 4回：視覚系の基礎および特性
- 5回：視覚の障害／視聴覚相互作用
- 6回：注意障害／体性感覚および運動と脳の機能
- 7回：記憶の基礎
- 8回：記憶の障害と脳の機能
- 9回：情動の基礎
- 10回：情動の障害と脳の機能
- 11回：右脳・左脳の違い／言語の障害と脳の機能
- 12回：発達と脳（1）
- 13回：発達と脳（2）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパーの内容:30%

テキスト / Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 A

数学の世界

World of Mathematics

初等整数論

佐藤 信哉 (SATO NOBUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE001
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

整数の基本的な性質を身につけて、日常生活への活用を学ぶ。

Students will learn the basic properties of integers and learn how to use them in everyday life.

授業の内容 / Course Contents

整数は身近な数でありながら様々な性質を持ち、現在でもいくつもの側面から研究が進められている数学的な対象である。この授業では、整数の割り算とその余りに注目して、素数の持ついくつもの性質について解説する。応用として、インターネット社会に不可欠な暗号技術の基本原則を紹介する。

Integers are familiar numbers, have various properties, and are mathematical objects that are being studied from several aspects even today. In this course, we will focus on integer division and remainders, and explain some of the properties of prime numbers. As an application, we will introduce the basic principles of cryptographic technology that is essential in the internet society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：整数の基本性質(復習)

- 2回：ピタゴラスの定理とピタゴラス数
 3回：フェルマーの最終定理
 4回：ユークリッドの互除法と1次不定方程式の解法
 5回：素因数分解
 6回：素数を数える
 7回：合同式
 8回：合同式とフェルマーの小定理
 9回：合同式とオイラーの公式
 10回：オイラーのファイ関数と中国の剰余定理
 11回：べき乗の計算
 12回：べき乗根の計算
 13回：RSA 暗号 (1)
 14回：RSA 暗号 (2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	: ○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

高等学校で学んだ「整数の性質」の範囲を復習しておくこと。授業の各回の確認問題を通して、授業内容の理解に努めること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% レポート:30% 各回の確認問題とコメントペーパーの内容:20%

テキスト / Textbooks

使用しない。配布資料に基づき講義を行う。

参考文献 / Readings

J.H.シルヴァーマン 『はじめての数論 原著第4版』 丸善出版 2022 9784621306611

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

高等学校で学んだ数学 I, 数学 II, 数学 A, 数学 B の内容を十分に理解しており、式の取り扱いや数と式の計算を不自由なく行えること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

電卓または関数電卓を持参することが望ましい。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

宇宙の科学

Astronomical Science

地球人になろう

浅井 和美 (ASAI KAZUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE002

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代科学が解き明かした宇宙観の理解を深め、さらに、グローバル化が進む現代に重要な地球的規模で物事を見る目を養うことを本講義の目標とする。

The aim of the course is for students to deepen their understanding of the view of the universe that modern science has unraveled, and to cultivate an eye for looking at things that are important on a global scale in the globalizing world.

授業の内容 / Course Contents

現代の宇宙科学は、電波からガンマ線に至る全電磁波領域で観測が行われ、宇宙の構造と進化の理解が進んできた。この授業では、最新の観測結果に基づいて、現代天文学の宇宙観、すなわち地球、太陽系、恒星、銀河、銀河団の誕生と進化、宇宙の起源について学ぶ。

Modern space science has observed the whole electromagnetic wave region from radio waves to gamma rays, and our understanding of the structure and evolution of the universe has advanced. In this course, based on the latest observation results, we will study the modern astronomical view of the universe, that is, the birth and evolution of

the earth, solar system, stars, galaxies, and clusters of galaxies, and the origin of the universe.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：宇宙を学ぶとは？
- 2回：宇宙の大きさ
- 3回：太陽と惑星1「青い惑星－地球」
- 4回：太陽と惑星2「母なる星－太陽」
- 5回：太陽と惑星3「太陽系の家族たち－惑星と衛星」
- 6回：太陽と惑星4「太陽系小天体、系外惑星」
- 7回：星の誕生と進化1「原始星の誕生から主系列星へ」
- 8回：星の誕生と進化2「主系列星から惑星状星雲へ」
- 9回：星の誕生と進化3「超新星爆発，超新星残骸，高密度星」
- 10回：銀河系と系外銀河1「銀河系(天の川銀河)」
- 11回：銀河系と系外銀河2「系外銀河」
- 12回：銀河系と系外銀河3「活動銀河核を持つ銀河」
- 13回：銀河団と超銀河団，宇宙の未来
- 14回：宇宙の誕生から現在まで

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

「Canvas LMS」に、講義資料 (PDF) が載せてありますので、復習に、活用してみましょう。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー:10% 小テスト:10%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

その他 / Others

パワーポイントを使用した講義形式で、その講義資料(PDF)は、「Canvas LMS」にすべて載せてあります。
毎回、リアクションペーパーによる提出物があります。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

生命の科学

Life Science

プロテインサイエンス入門

岩崎 容子 (IWASAKI YOUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE003
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

生命のしくみの基礎を学び、生命現象をより深く理解する。

Students will learn the basics of how life works and understand life phenomena more deeply

授業の内容 / Course Contents

地球上の多様な生物にも、共通の「生命のしくみ」がある。まず、生命現象を作り出すタンパク質や遺伝を司る DNA のしくみについて、身近な事例を絡めて概説する。さらに、応用的な内容として、生命の進化やその多様性、さまざまな環境に生きる微生物研究やタンパク質工学研究などを紹介し、ライフサイエンス技術と社会との関わりについて考えていく。おもにパワーポイントを用い、グラフィックスや動画を交えた講義を行う。

The various living things on the earth also have a common "mechanism of life." First, we will outline the basic mechanisms of proteins that create life phenomena and DNA that controls inheritance that forms the basis of life, while taking up familiar cases. Furthermore, we introduce research on microbes that live in various environments and protein engineering research as applied contents, and consider the evolution of life, its diversity, and the relation between life science technology and society. We will mainly use PowerPoint to give

lectures with graphics and videos.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：生命現象のしくみ：細胞とタンパク質
- 3回：タンパク質の構成単位：20種のアミノ酸
- 4回：タンパク質はアミノ酸の鎖
- 5回：タンパク質の形と機能
- 6回：遺伝子：タンパク質の設計図
- 7回：生命の起源
- 8回：生命の進化
- 9回：温度とタンパク質
- 10回：タンパク質と病気
- 11回：遺伝子組換え
- 12回：組換えタンパク質とタンパク質工学
- 13回：バイオテクノロジー
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

中間テストは、授業時間外の課題で Canvas LMS からオンラインで行います。また、日ごろから、ニュースなどのメディアを通してライフサイエンス関連の情報に触れるとともに、授業内で紹介する WebSite にアクセスし学びを深めて下さい。他、授業内で具体的に指示します。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパーの内容:20% 中間テスト:20%

リアクションペーパーについて、次回以降の講義および Canvas LMS で紹介・回答するなどのフィードバックを行います。中間テストは Canvas LMS で行います。

テキスト / Textbooks

特に使用しません。毎回レジメ (スライド資料) を配布します (オンライン、または、紙面)。

参考文献 / Readings

大島 泰郎 『極限環境の生き物たち (なぜそこに棲んでいるのか)』 技術評論社 2012 9784774150307
講義中に補足します

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料配布および課題提出に Canvas LMS を使用します

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

生命の科学

Life Science

生命とは何か：遺伝子から個体、そして社会まで

池淵 万季 (IKEBUCHI MAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE004

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

生命科学の知識や技術が現在の社会とどう関わり、どのような影響を与えるのかを理解し、考察する。

Students will understand and consider how knowledge and technology of life sciences interact with and affect modern society.

授業の内容 / Course Contents

個体レベルから細胞レベルまで、生命科学に関して広く理解する。その上で、生命科学的技術が我々の社会にどう貢献しているのかを知り、今後何ができるのかを考える。義務教育以来、生命科学分野になじみのない学生にもわかりやすく、かつ、最新の生命科学現象にも触れられるような構成にする。

Students will gain a broad understanding of life sciences from the individual level to the cellular level. They will then know how knowledge and technology of life science contributes to our society and think about what we can do in the future. The course will be structured so that students who do not have enough fundamental knowledge with the field of life sciences can easily understand, and we will touch upon the latest life science phenomena.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：講義の流れの説明
- 2回：社会その1 動物のコミュニケーション1：音声によるコミュニケーション、視覚によるコミュニケーション
- 3回：社会その2 動物のコミュニケーション2：嗅覚によるコミュニケーション、複数の感覚を利用したコミュニケーション
- 4回：社会その3 環境：我々を取り巻く環境と生命の関わりについて
- 5回：神経その1 神経細胞：神経細胞の構造と機能、神経細胞間の情報伝達
- 6回：神経その2 脳：脳の構造と機能、脳の進化
- 7回：神経その3 脳：感覚と運動、記憶
- 8回：神経その4 行動の制御：内分泌(ホルモン) など
- 9回：神経その5 脳科学の社会的インパクト：脳科学と医療、脳と機械の接続
- 10回：細胞・遺伝その1 遺伝：遺伝情報とその伝達について
- 11回：細胞・遺伝その2 遺伝(応用)：分子遺伝学の研究方法、生命医学
- 12回：細胞・遺伝その3 細胞：細胞の構造と機能、細胞生物学の研究方法
- 13回：細胞・遺伝その4 細胞(応用)：生殖医学、細胞に関する医療と社会
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :90%

平常点割合 :10% 出席兼コメントペーパー:10%

テキスト / Textbooks

講義時に資料配付。

参考文献 / Readings

講義時に適宜紹介。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項(検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

物質の科学

Science of Matter

私たちの世界を構成する物質

木村 直樹 (KIMURA NAOKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE005
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

私たちの住む世界を構成する物質をミクロな視点から紐解きます。

最終的に世界を構築する物質の構造を理解し、自然現象や文明技術の仕組みを考える力を養うことを目標とします。

理科系科目(物理・化学・地学・生物)の既習の有無は問いません。

We review physical matters that comprise the world from a micro perspective.

This course aims to finally understand the structure of physical matters and acquire the ability to consider questions about nature and technology.

授業の内容 / Course Contents

『未知な事象に興味を持つ心』（好奇心）は科学技術を発展させるために必要な原動力です。

本講義のテーマでもある『私たちの世界を構成する物質』は人類にとって最も根源的かつ重要な問いと言えます、古くから科学者の好奇心を駆り立ててきました。

先人の努力の結果、現代では既に多くの謎が解かれています。

本講義では、この根源的な問いに関して人類が解き明かしてきた解釈を、時には最新の研究を紹介しながら解説します。

理科系科目(物理・化学・地学・生物)の既習の有無は問いません。

Interest in unknown phenomena (curiosity) is a driver necessary for the development of science and technology. “Physical matters that comprise our world,” the theme of this course, is one of the most fundamental and significant questions for us and has accelerated the activity of scientists.

As a result of efforts by many scientists, many mysteries have already been solved.

In this course, interpretations given to this fundamental question by researchers will be explained by introducing recent research.

Science subjects (physics, chemistry, geoscience, biology) are not prerequisites for students who take this class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション～科学への招待
- 2回：物質の階層～素粒子から宇宙まで
- 3回：素粒子と相互作用
- 4回：原子核と核図表
- 5回：原子と周期表、そして分子
- 6回：荷電粒子・イオン
- 7回：量子論と相対論 ① ～ その位置づけ、前期量子論
- 8回：量子論と相対論 ② ～ 量子の概念
- 9回：量子論と相対論 ③ ～ 相対性理論の概念
- 10回：量子論と相対論 ④ ～ 相対論がもたらす効果
- 11回：宇宙の歴史と物質の進化
- 12回：星の歴史と物質の進化
- 13回：残された謎・未解決問題への挑戦
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容で興味を持ったことがあれば、独自に深く調べることをお勧めします。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回のリアクションペーパー:70% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

理科系科目(物理・化学・地学・生物)の既習の有無は問いません。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目
多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

身近な物質の化学

Chemistry of Familiar Materials

化学的視点で物質の機能や現象を理解するとともに、労働現場における化学物質管理について学ぶ

宮里 裕二 (MIYAZATO YUJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE006

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ・ 化学トピックを相手に説明できる
- ・ 化学的視点で化学物質の性質や現象を説明できる
- ・ 労働安全衛生において化学物質をどのように取り扱う必要があるか説明できる
- ・ Students will become able to explain chemical topics.
- ・ Students will become able to explain the nature of chemical substances and chemical phenomena from the chemical viewpoint.
- ・ Students will become able to explain how chemical products are handled in labor industrial field.

授業の内容 / Course Contents

我々の身のまわりにある様々な物質あるいは化学現象がどのような性質に基づいて利用されているのか、そして労働現場における化学物質管理について講義の中で紹介する。

We will introduce the properties of various substances and chemical phenomena around us, and managements for chemical substances in the labor industrial in japan.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（講義の概要説明等）
- 2回：原子のその成り立ちと物質
- 3回：化学の基本（物質量、化学反応式）
- 4回：超分子とよばれる分子
- 5回：物質の色
- 6回：光合成と呼吸
- 7回：薬に利用される化学物質
- 8回：オゾン層を破壊する物質
- 9回：地球温暖化に影響を与える物質
- 10回：資源としての化学物質
- 11回：食品中の化学物質
- 12回：労働安全衛生法における化学物質の取扱い
- 13回：化学物質による労働災害とリスクアセスメント
- 14回：小論文の作成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の講義内容について書籍やインターネットなどで概要を調べておくことを薦めます。

14回目の授業では、各自が調べた化学トピックについて小論文を作成してもらいますので日頃からその準備作業を進めて下さい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎授業時のコメントペーパー:50% 課題への取り組み:30% 小論文の内容:20%

如何なる理由に関わらず、欠席回数が4回を超えたらD評価とします

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項**

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

化学と自然

Chemistry and Nature

身近な物質の性質やその自然環境における役割、私たちが利用しているエネルギー、さらに自然現象や環境問題の本質を理解するための化学

釘田 強志 (KUGITA TSUYOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE007
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

我々の身の回りの物質、身近で起きている現象や環境問題、さらに利用しているエネルギーなどを理解するための化学の基礎を学び、それらを科学的に説明できるようになる。

Students will learn the basics of chemistry in order to understand the materials around us, phenomena that are happening around us, environmental problems, and the energy that we use, and become able to explain these topics scientifically.

授業の内容 / Course Contents

空気、オゾン、二酸化炭素、エネルギー、化石燃料、水、原子力ならびに代替エネルギーなどをテーマに、それぞれ2回にわたって講義する。それぞれのテーマに関連する化学の基礎知識について解説し、それをもとに将来の予測、可能性について考える。

Two lectures will be given each on air, ozone, carbon dioxide, energy, fossil fuels, water, nuclear energy, and alternative energy. We will explain the basic knowledge of chemistry related to each theme, and based on that, we

will consider the future prospects and possibilities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに
持続可能性とライフサイクルアセスメント
- 2回：空気の組成
空気中の微量な成分と有害性
- 3回：大気中の汚染物質の種類
- 4回：オゾンとは
光の種類と性質、紫外線と赤外線など
- 5回：地球環境とオゾン層（オゾン層の形成と破壊のメカニズム）
フロンガスと代替物質
- 6回：地球温暖化
二酸化炭素と赤外線
- 7回：炭素の循環
その他の温暖効果
- 8回：エネルギー
発電の仕組みとエネルギーの変換
- 9回：化石燃料
石炭、石油、天然ガス
- 10回：飲料水の成分
- 11回：水の性質
地球環境と水
- 12回：原子力と放射線
- 13回：原子力発電と代替エネルギー
- 14回：授業の振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の内容に関連した課題（Google フォーム）に取り組み、理解の振り返りと復習を行うこと。また次回のテーマに関するキーワードを提示するので、各自で予習しておくこと。

配布した資料はよく読み、理解が難しそうなところは関連するキーワードを検索しておくことよ。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% テーマごとの確認問題:30%

各テーマごとに確認問題を課し、理解度の確認と学修成果の評価を行う。

テキスト / Textbooks

テキストは使用しない。

各テーマごとに資料を配布する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

パワーポイントを用いた講義形式で、その資料も配布する。

必要に応じ、動画やアニメーションを用いる。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

行動の科学

Ethology

動物行動学入門

近藤 紀子 (KONDO NORIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE008
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

動物の行動の進化について考えられるようになることを目指す。

The aim of this course is to understand the evolution of animal behavior

授業の内容 / Course Contents

ヒトを含む動物は多様な行動をしているが、それにはどんな意味があるのだろうか？本講義では、動物の行動にがどのように進化したかを考えていく。遺伝子の話なども出てくるので中学理科程度の知識はあったほうがいいかもしれないが、生物学の専門的知識は特段必要としない。ヒト以外の動物の話がほとんどなので、ヒトにしか興味がない場合には受講しないことを強く推奨する。また、授業中に睡魔と格闘することなく安らかに寝る人間も受講しないことを非常に強く推奨する。

Animals including humans exhibit diverse behaviors, but what significance does that have? In this course, we will mainly focus on the evolutionary factors of animal behavior. It may be preferable for students to have junior high school science level knowledge since we will cover topics such as genetics, but special knowledge of biology is not required. It is very strongly recommended that students who are only interested in humans do not attend, as we

will mostly cover non-human animal behavior. It is also extremely highly recommended that students who sleep on the desk without any fight against the sandman during class not take the course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：進化とは何か？ダーウィン以前からダーウィンまで
- 3回：進化は必然か？偶然か？
- 4回：収斂進化と適応放散—この進化 やり直したら どうなるの—
- 5回：ヘビ・イモリ 食って食われて 共進化
- 6回：子孫を残す配偶システム
- 7回：性選択—オスは派手 メスは地味なの なんぞなの—
- 8回：性選択 2
- 9回：包括適応度—働きバチ 繁殖しなくて なぜいいの？—
- 10回：協力行動—一名も知らぬ あなたを助けて 何になる—
- 11回：高次認知機能の進化—本当に 人間だけが 「賢い」の？—
- 12回：コミュニケーション—信号の やりとりとても 美しい—
- 13回：カラス研究の話—カラスさん ああカラスさん カラスさん—
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示いたします。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :95%

平常点割合 :5% リアクションペーパー:5%

リアクションペーパーには授業の感想や質問を書いてもらいますが出しても出さなくても構いません。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業中に突っ伏して寝ることは全力で回避してください。動物が大好きであらゆる動物情報に詳しい人にとってはつまらない授業かもしれません。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

生命の歩み

Origin of Life

地球の歴史と脊椎動物の進化 (History of earth and evolution of vertebrates)

青塚 圭一 (AOTSUKA KEIICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE009

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

私たちヒトは脊椎動物の中でも極めて特異な生き物である。この授業では地球の歴史を通じて、脊椎動物のボディプランがどのように変化してきたのかを学習し、脊椎動物の進化とヒトの誕生について基礎的な内容を理解することを目標とする。

Humans are remarkably unique animals among vertebrates. In this class, students will learn how the body plans of vertebrates have changed throughout the earth's history. The goal of this class is for students to understand the evolution of vertebrates, including humans.

授業の内容 / Course Contents

【キーワード】 古生物学、進化、地球史、骨学

古生物学は私たちの生活と無関係に思える学問であるが、ヒトの身体には長い進化の歴史が詰まっている。私たちにはなぜ眼があり、なぜ骨格があり、なぜ二足歩行を行うのか？この授業では私たちヒトの身体に見られる様々な器官や構造が生物の進化の歴史の中でいつ獲得され、どのように引き継がれ、そして、ヒトという特異な生物がどうして誕生したのかについて地球史や生物進化の歴史を通じて学習する。授業には対話型・双方

向型で行う課題も含まれているため、積極的に質問・発言をする姿勢を持って履修することが望ましい。

[Key words] Paleontology, Evolution, Earth history, Osteology

Have you ever wondered why we have eyes, why we have skeletons, and why we walk on two legs? Paleontology is a curriculum that may seem unrelated to our daily lives. However, the structure of the human body has formed through the long history of life evolution. In this class, students will learn when various structures or organs, such as eyes, vertebrae, and limbs, were formed on earth/life history and how they have been passed down to humans. Classes include dialogue-based or interactive workshops. Students will be required to ask questions and make comments actively.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ヒト ～この奇妙な生物～
- 2 回：進化 ～予期せぬ出来事～
- 3 回：地球 ～生と死の惑星～
- 4 回：共生 ～私の中にいる誰か～
- 5 回：対称 ～手と手を重ねて～
- 6 回：光彩 ～光が生んだ奇跡～
- 7 回：凶器 ～99%の共通点～
- 8 回：予測 ～ブラックボックスの中身～
- 9 回：変身 ～人魚の願い～
- 10 回：体温 ～恐竜たちの温もり～
- 11 回：咀嚼 ～口の中の宝物～
- 12 回：歩行 ～二足のリスク～
- 13 回：子孫 ～生命を紡ぐ者～
- 14 回：人類 ～奇妙な生物の行方～

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講義内容として地球史などの連続したトピックを取り扱うため、各自で前回の講義ノートを確認してから授業に臨むこと。特に3回目で学習する地質時代の名称は4回目以降も頻繁に登場するため、時代の名称や時代の前後関係をよく覚えておくこと。

The lecture covers continuous topics such as earth history; please check the previous lecture notes before the class. In particular, the nam

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー・講義中の課題への取り組み姿勢、またはレポート課題:30%

テキスト / Textbooks

テキストは特に指定しない

参考文献 / Readings

参考文献は適宜紹介する

その他/ Others

講義の内容や受講生の数に応じてグループワークも実施する。

ヒトや古生物のみでなく、様々な動物の骨格についても学習するため、日頃から博物館や動物園の見学、野鳥やペットなどを含む身近な動物観察、あるいは生き物の骨格(フライドチキンの骨や焼魚の骨など)に注目するとより深い理解に繋げることができる。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

地球の理解

Understanding of the Earth

地球と現在の気候変動の特殊性を学び将来を選ぶ

小森 次郎 (KOMORI JIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE011
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

2023 年から 2024 年初旬にかけて、世界の月別の平均気温はのきなみ過去最高を記録した。こういった近年の気候変化が地球の長い歴史の中でどれ程に特異なことなのか、それに伴った環境変化がどれほど深刻なのか、我々はいつからそれに気付いていたのか、これからの世界の動向はどのようなのかについて学ぶ。これによって、自分ごととして気候変動問題に対峙し、大量に存在する情報や選択肢の何を選ぶべきなのかを考えられるようになることを目指す。

In 2023 and early 2024, global monthly average temperatures reached record highs for many months. We will learn how extraordinary these recent climate changes are in the Earth's long history, how serious the associated environmental changes are, how long we have been aware of them, and what the future global trends will be. Ultimately, the goal is for students to be able to confront the issue of climate change as their own problem, and to be able to think about what they should choose from the large amount of information and options that exist.

授業の内容 / Course Contents

前半では、現在の地球がどのような空間と時間に存在するのか、ならびに近年の気候と環境の変化が過去も含

めるとどういった特徴をもっているのかについて学ぶ。中盤では温暖化に伴う世界各地の変化について、特に雪氷学に関連した専門家の解説や動画を基に理解をする。後半では、温暖化の理解の歴史と現在、未来について学び考える。

授業の後半には、その時間のテーマについて周囲とのディスカッションを行う場合がある。積極的な履修姿勢が求められる。

As an introduction to the class, we will review the space and time in which the Earth exists today, and learn how recent changes in climate and environment are characterized by the past as well.

In the middle part of the course, the class will cover about the changes in various parts of the world due to global warming, especially in relation to glaciology, based on explanations and videos by experts.

In the final part of the course, students will learn about the history of our understanding of global warming and examples of countermeasures for the present and future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：・ガイダンス。授業の概要説明。
・世界の政治・経済分野から見た「気候変動対策の失敗」の評価。
- 2回：・温暖化にともなう環境変化の事例
- 3回：・4次元デジタル宇宙ビューワー「mitaka」で見る、宇宙から見た地球。
- 4回：・大型の年表の作成から考える地球の歴史。
- 5回：・過去の大量絶滅
・隕石衝突の痕跡
- 6回：・地球の大気組成の変遷
- 7回：・身近な堆積物から考える人新世
- 8回：・南極・グリーンランドの氷床とその変化
- 9回：・温暖化の理解と対策の歴史①
- 10回：・温暖化の理解と対策の歴史②
- 11回：・地球環境変動の対策の「他山の石」
- 12回：・再生可能エネルギーと次世代エネルギー利用の光と影。
- 13回：・我々はどうすればよいのか。
- 14回：・理解度チェック②。まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

関連の動画やニュースの事前収集と理解、および授業後の各自の振り返り・まとめが必要。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパーを兼ねた課題:30% 理解度チェック (授業内の小テスト) :30%
授業内のディスカッションと発表:20% 最終テスト割合 :20%

リアクションペーパー、授業内のディスカッションと発表・提出物、理解度チェック (小テスト) をから総合的

に判断する。

テキスト / Textbooks

特に無し。関連資料はオンラインで共有します。

参考文献 / Readings

特に無し。必要な場合は授業内でアナウンスします。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内でネット情報の調査を行う場合があるので、インターネットにつながる機材（スマートフォン可）を持参してください。

その他 / Others

座席位置を指定します。スクリーンが見えにくい、等のリクエストがあれば気楽に相談してください。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

情報科学 A

Information Science A

情報機器の仕組みとセキュリティ脅威

古賀 ひろみ (KOGA HIROMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE012
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

情報機器の構成、動作の原理、データの処理方法の特徴と問題点、操作する人間が引き起こす偶発的要素について知ること、情報機器にかかわるインシデントが引き起こされる要因を理解し、安全な活用のために留意すべき点について考える。

By learning about the configuration of information devices, operating principles, characteristics and problems of data processing methods, and accidental factors caused by human operators, you can prevent incidents.

Understand the factors that cause this, and consider the points that should be kept in mind for safe use.

授業の内容 / Course Contents

セキュリティ脅威には物理的脅威、技術的脅威、人的脅威が含まれるが、その中から故障や経年劣化を含む物理的脅威と人が意図なく引き起こす偶発的脅威を扱う。物理的脅威として処理速度の低下や故障、保存したデータの消失をとりあげ、これらが生じる要因として演算処理装置やメモリ、SSD などの保存媒体の仕組み、特徴について説明するとともに、情報漏洩を防ぐためのデータ抹消方法についても紹介する。

また不正利用を防ぐための知識・所有・生体よる認証をとりあげ、各認証要素の特徴と問題点、またその問題

点への対処方法およびリスク対策が逆に偶発的脅威を引き起こす事例について説明することで、安全性と効率性のバランスをとりつつセキュリティコントロールするためのポイントを習得する。

Security threats include physical threats, technological threats, and human threats, and among these, we will deal with physical threats, including failures and deterioration over time, and accidental threats caused by humans without intention. We will discuss slowdowns in processing speed, failures, and loss of saved data as physical threats, and will explain the mechanisms and characteristics of storage media such as processing units, memory, and SSDs as factors that cause these, and will also explain how to prevent information leaks. We will also introduce how to erase data.

We will also discuss authentication based on knowledge, possession, and biometrics to prevent unauthorized use, and explain the characteristics and problems of each authentication factor, how to deal with those problems, and cases where risk countermeasures conversely cause accidental threats. Learn the key points for controlling security while balancing safety and efficiency.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：セキュリティ脅威とセキュリティ指標，ノイマン型コンピュータの特徴
- 2 回：ノイマン型コンピュータの基本構成と演算制御装置 CPU, GPU の処理過程
- 3 回：演算回路：半導体を利用した MOS 型トランジスタの動作と消費電力
- 4 回：主記憶装置：処理を効率化するキャッシュメモリ，メインメモリの役割
- 5 回：主記憶装置：キャッシュを構成する SRAM とメインメモリを構成する DRAM の特徴
- 6 回：フラッシュメモリ：電圧を利用したスタックゲートトランジスタへの書き込みと消去
- 7 回：フラッシュメモリ：NAND 型/NOR 型フラッシュメモリの読出しとセル劣化によるデータ消失
- 8 回：ハードディスク：磁気を利用した読出しと書き込み，モーターの熱と物理的故障
- 9 回：光ディスク：レーザーを利用した読出しと書き込み，傷や歪みによるずれと光による劣化
- 10 回：OS のファイル管理：ハードディスクを基準とするファイル管理と読出し，保存の仕組み
- 11 回：削除と消去：ファイルの削除と消去の違い，削除ファイルの復元，フラッシュメモリの削除と消去
- 12 回：データ抹消：消去後の記憶痕跡残存リスク，情報漏洩防止のための抹消手段（消去，暗号化，物理的破壊）の選択基準
- 13 回：認証：知識認証の特徴と不正取得手段，所有認証の特徴と管理に伴う問題，認証強度を高める手段
- 14 回：生体認証とリスク評価：生体認証の特徴と誤認証・代替不可の危険性，リスク対応の心理的負荷が生むリスク

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に資料を Canvas LMS にあげるのを目を通し，日常生活での情報機器のトラブルの経験をふまえて疑問点を整理しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%
平常点割合 :0%

テキスト/ Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

特に指定しない。

その他/ Others

CanvasLMS で資料を配布する

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

情報科学 B

Information Science B

Cookie を利用した個人属性推測の規制とネットワーク技術の脆弱性

古賀 ひろみ (KOGA HIROMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE013
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

インターネットセキュリティに関する問題としてユーザー情報収集と推測による権利の侵害と、不正アクセスなどの技術的な攻撃をとりあげる。

インターネットは初期に「善意のシステム」と呼ばれたように意図的な攻撃を想定しておらずセキュリティ要素がなかったため、不正な利用に弱かった。インターネットの普及とともにセキュリティのためのプロトコルが追加されてきたが、現在でも脆弱性自体は残っており攻撃に利用されている。

また Web サイトも本来は情報を継続して残さないシステムであったが、利用の拡大につれてユーザーに継続的に情報

This course will cover Internet security-related issues such as infringement of rights through user information collection and speculation, and technical attacks such as unauthorized access.

In its early days, the Internet was called a "benevolent system," as it did not anticipate intentional attacks and had no security elements, making it vulnerable to unauthorized use. With the spread of the Internet, security protocols have been added, but vulnerabilities still remain and are still being used for attacks.

Additionally, websites were originally systems that did not leave information continuously, but as usage expanded, it became necessary to continuously present information to users, and protocols were added to enable comprehensive information management. This leads to extensive information collection and inference of individual attributes for marketing purposes.

By understanding issues related to safety related to the elements necessary for such communication based on the mechanisms and procedures of the Internet, and changes in social conditions related to Internet use, we will be able to balance safety and convenience. Acquire the perspective to select and judge usage.

授業の内容 / Course Contents

個人属性の推測とインターネットを介した攻撃手段について、それぞれどのような技術に由来するのか、それに対してどのような対処が可能なのかを理解するため、以下について説明する。

(1) ウェブサイトによる「行動履歴」の利用

ネットワークとは利用者と提供者双方によるデータの送受信であり、通信を成立させるために、また過去の情報を残さないプロトコルを利用しつつログインや購買履歴など過去の情報を反映させるなど利便性向上のために、利用者の通信に関する情報や行動履歴の収集と統括的管理が必要であることを理解した上で、どのような情報が収集・分析され、個人の属性を推測しているのか、また推測された属性はどのような目的で利用されているのか説明する。またこのような収集や推測をめぐる社会的な動向について、プライバシーの侵害や個人情報保護の観点を含めて説明することで、利用される情報の自己コントロールについて考える。

(2) インターネットの仕組みと攻撃

インターネットの仕組みやプロトコルが規定する通信手順の役割と必要性について理解した上で、必要な手順が抱える問題点や脆弱性とそれらを悪用した不正利用や攻撃の手法について学ぶことで、不正利用の防止に求められるもの、また手順を利用する以上防止が難しい不正利用への対処について考察する。

In order to understand what technologies are derived from inference of personal attributes and attack methods via the Internet, and what countermeasures can be taken against them, we will explain the following.

(1) Use of "behavior history" by website

A network is the transmission and reception of data between users and providers, and in order to establish communication, it also improves convenience by reflecting past information such as login and purchase history while using a protocol that does not leave past information. For this purpose, we understand that it is necessary to collect and comprehensively manage information on users' communications and behavior history, but what kind of information is collected and analyzed to infer personal attributes? It also explains what purpose the inferred attributes are used for. In addition, by explaining the social trends surrounding such collection and speculation, including the perspective of invasion of privacy and protection of personal information, we will think about self-control over the information used.

(2) Internet structure and attacks

After understanding the role and necessity of the communication procedures stipulated by the Internet structure and protocols, you can learn about the problems and vulnerabilities of the necessary procedures and the methods of fraudulent use and attacks that exploit them. We will discuss what is required for prevention and how to deal with unauthorized use, which is difficult to prevent as long as procedures are used.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：セキュリティ指標の種類と TCP/IP モデルの 4 階層

2 回：通信機器の識別 1：直接接続範囲を識別する MAC アドレスとネットワークを超えて識別数 IP アドレス

3 回：通信機器の識別 2：IP アドレスから把握できる送信者の情報と把握できない情報

- 4回：Webサイトの情報収集と個人属性の推測 1：継続しないWebサイトのプロトコルhttpとcookieを利用した継続的なセッション管理
- 5回：Webサイトの情報収集と個人属性の推測 2：セッション管理を利用した情報収集と属性推測，産業振興と収集範囲拡大・推測精度の向上
- 6回：Webサイトの情報収集と個人属性の推測 3：推測精度向上に伴うプライバシー侵害や個人情報化の問題、収集規制への社会的動向
- 7回：インターネットの仕組みと攻撃 1：主な攻撃パターンと分散型ネットワーク（クライアントサーバー方式，p2p方式）の特徴
- 8回：インターネットの仕組みと攻撃 2：回線交換方式とパケット交換方式，遅延と信頼性
- 9回：インターネットの仕組みと攻撃 3：有線LAN及び無線LANの集線装置の機能，ネットワークへの接続と送信手順
- 10回：インターネットの仕組みと攻撃 4：送信経路の決定，経路上のパケットロスに対するエラー保証，セキュリティを高めるVPN
- 11回：インターネットの仕組みと攻撃 5：ポート番号の役割とポート開放，効率性を重視するUDPの通信手順
- 12回：インターネットの仕組みと攻撃 6：信頼性を重視するTCPとセキュリティを高めるTLSの通信手順
- 13回：インターネットの仕組みと攻撃 7：文字による送信先の指定DNSと端末への不正アクセスや過剰なアクセスによる攻撃に利用されるプロトコル，
- 14回：インターネットの仕組みと攻撃 8：集線装置を利用した盗聴，DNSを利用した偽サイトへの誘導，経路決定を利用したパケット不正取得などパケットへの攻撃

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS で事前に配布する資料の内容を確認し，内容と関連する日常的なインターネット利用経験やその中で実際に生じた問題について整理し，そのような問題に対して現実的にどのような対応が可能なのか考察すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

日本経済新聞データエコノミー取材班 『データの世紀』 日本経済新聞出版社 2019 9784532358419

齋藤 孝道 マスタリングTCP/IP 情報セキュリティ編(第2版) オーム社 2022 9784274228797

みやたにひろし 『仕組み・動作が見てわかる図解入門TCP/IP』 SB creative 2020 9784815604974

その他 / Others

Canvas LMS で資料を配布する

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

自然環境の保全

Nature conservation

自然環境の保全とそれに影響を及ぼす資源開発・利用について考える～アフリカ熱帯林の事例より

西原 智昭 (NISHIHARA TOMOAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE015

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）【授業計画】1回目と2回目の授業は、オンデマンドで実施する。

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

自然環境の保全を目指すには、資源開発の問題は避けて通れない。資源の開発・利用により危機的状況に直面している生物多様性、そうした自然環境に依拠してきた先住民族への権利侵害について、アフリカの熱帯林の事例を中心に話題提供しながら、特に資源の乏しい日本に住むわれわれが自然環境の保全に対して果たすべき役割を考察していく。

It is inevitable to face to problems of natural resource extraction if we think about conservation of nature environment. Offering topics on both crisis of bio-diversity loss and indigenous people's rights violation that cause threats to nature, this lecture will provide an opportunity to debate what we Japanese should do as a country that has almost no raw materials.

授業の内容 / Course Contents

文明・科学技術の進展とグローバル社会の拡大に伴い、膨大な原材料や物資調達のための過剰な資源開発が全世界で進行中である。それは地球上に存在する自然環境や生物多様性に危機をもたらしている。この講義では、アフリカの熱帯林を事例に、われわれ人類の祖先が生まれ出た本来の自然環境や生物多様性の機能や役割

を学びつつ、資源開発に伴う地球規模の自然界への脅威だけでなく従来より自然界に依拠し長大な年月に渡り持続可能な自然環境保全を実践してきた先住民族への土地・人権侵害などについても話題提供する。とりわけ大量の資源を輸入依存に頼る日本の責任は重い点から、日本人として何ができるのかを考察する機会をも提供する。

Along with significant evolution of civilization and scientific technology and with large extension of global societies, excessive natural resources extractions are continuously conducted to satisfy enormous demand of raw materials and goods in the world. This causes critical threats to natural environment and bio-diversity on the planet. In this lecture, while learning original functions and roles of natural environment and biodiversity from African tropical forest ecosystem where we human-being came from, field topics will be provided both about crisis of nature from natural resources extraction and about serious violation of rights of indigenous people who though have actually been contributing to sustainable management of nature through thousands of years. Particularly, since we Japanese have a strong responsibility to these issues as a country almost totally depends on importation of raw natural resources, this lecture will provide an opportunity to debate what we Japanese should do.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：講義「アフリカ熱帯林」人類進化論の見地かつ生態学的重要性からアフリカ熱帯林とその生態系、ゴリラ・チンパンジー・昆虫などの野生動物ほか森林環境音、エボラウイルスについて
- 2回：講義「ゾウと象牙」アフリカ熱帯林に棲息する生態学的礎石種マルミミゾウの生態・社会、その象牙利用に伴う絶滅危機について
- 3回：講義「ペット需要と野生動物」ペット需要がもたらすアフリカ熱帯林の野生動物への影響について
- 4回：グループ討論「動物利用と文化・ペット」象牙利用という日本などでの伝統文化とその継承及び野生マルミミゾウの保全、および、ペット需要と野生ヨウムとの保全のバランスをどう考えるか、動物園・水族館の果たすべき役割はあるのかについて
- 5回：講義「先住民族ピグミー」アフリカ熱帯林に依拠してきた先住民族とその特徴と社会、ライフスタイル、現在の世界での位置づけなどについて
- 6回：グループ討論「獣肉食と先進国型近代的学校教育」先住民族にとって必須の獣肉食と先住民族の社会に浸透している学校教育をどう考えるかについて
- 7回：講義「先住民族アイヌ」北海道などを中心に生活しているアイヌ民族とその特徴と社会、歴史、現在の世界での位置づけなどについて
- 8回：講義「熱帯材目的と大規模農園目的の森林開発」アフリカ熱帯林における林業とヤシアブラ農園開発について
- 9回：グループ討論「木材利用とヤシアブラ利用」木材・紙製品、ヤシアブラ使用の商品への国際認証制度について
- 10回：講義「エネルギー開発」特に再生可能エネルギー設置に伴う問題について
- 11回：講義「鉱物資源開発」鉱物資源開発がもたらす森林開発と先住民族への人権侵害について
- 12回：グループ討論「気候変動対策」エネルギー問題と鉱物資源開発との兼ね合いから気候変動対策で考えるべきことについて
- 13回：講義「海洋生態系と国際貢献」アフリカ沿岸部での海浜部における野生生物と開発について
- 14回：講義「森林・海洋生態系の保全と関連する日本人の課題」エネルギーも電気もなく野生生物の保全と関わってきたアフリカでの生活から得られた経験を通して資源のない国に住む日本人の課題について

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各回授業後に当日使用したパワポ資料を Canvas LMS でシェアするので、次回の授業までに復習をしておくこと

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :65%

平常点割合 :35% 各回授業後の小テスト提出:35%

テキスト / Textbooks

西原智昭 『コンゴ共和国～マルミミゾウとホテルの行き交う森から (増補改訂版)』 現代書館 2020
9784768458778 ○

篠田謙一 『人類の起源 古代 DNA が語るホモサピエンスの「大いなる旅」』 中公新書 2023
9784121026835 ○

井田徹治 『追いつめられる海～猶予はない ブルーエコノミーの実現を!』 岩波書店 2020
9784000296946 ○

山口真奈美 『サステナブル調達を成功させるための「国際認証」の教科書』 生産者出版 2024
9784820121480 ○

参考文献 / Readings

尾本恵市 『ヒトと文明』 ちくま新書 2016 9784480069337

デビッド・クアメン 『エボラの正体』 日経 BP 2015 9784822250751

西原智昭ら 『アフリカ潜在力 第5巻 自然は誰のものか 住民参加型保全の逆説を乗り越える』 京大出版
2016 9784814000098

大橋力 『音と文明～音の環境学ことはじめ』 岩波書店 2003 4000223674

原田憲一 『人間に必要な三つのつながり』 藤原印刷 2023 9784908869228

加藤やすこ 『再生可能エネルギーの問題点』 緑風出版 2022 9784846122072

小坂洋右 『アイヌ、日本人、その世界』 藤田印刷エクセレントブックス 2019 9784865380965

その他 / Others

- ・ Power Point を使用した講義型式で、映像資料なども適宜活用する
- ・ 毎回授業の最後には質疑応答/意見交換の時間を設けるので、積極的な発言を期待する
- ・ 特定の課題に対してグループ討論とグループ討論後の意見交換と講評を実施する
- ・ 各回の授業の終わりに当日の授業のフィードバックを兼ねた 5 分程度の記述式小テストを行う
- ・ 期末試験はレポート試験とする
- ・ 以下の HP も併せて参照されたい

西原智昭『野生生物と人類を考える講座～グローバルで超分野視点から学ぶ 第1回～第50回』星槎大学より

★シームレスな学びの形：

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

地球環境の未来

Future of Environment

地球環境問題の現状を理解し、未来を考える

加藤 みか (KATO MIKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE016

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）【授業計画】 オンラインで7回実施する（2・4・6・8・10・12・14回）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

地球環境の現状を理解し、人類が直面している問題を認識して、持続可能な社会のために今後望まれる解決策等について総合的に考え、自ら行動できる力を身につける。

Students will understand the current state of the global environment and recognize the problems facing humanity, think desirable solutions comprehensively for a sustainable society in the future, and obtain the skills to act independently.

授業の内容 / Course Contents

この講義では、地球環境の成り立ち、様々な地球環境問題の原因やしくみ、影響等、地球環境の現状について学び、理解を深めます。また、私たちの日常生活は地球環境と密接に関係していることを念頭に置きながら、地球環境の未来を考えていきます。さらに、持続可能な社会のために今後望まれる解決策や個人でできる取り組みについても議論を進めます。

In this lecture, you will learn and deepen your understanding of the current state of the global environment, such as the causes, mechanisms, and effects of various global environmental issues.

We will consider the future of the global environment, keeping in mind that our daily lives are closely related to the global environment. In addition, we will discuss desirable solutions and personal actions for a sustainable society in the future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：地球環境の成り立ち
- 3回：生態系のしくみ
- 4回：生物多様性
- 5回：オゾン層破壊
- 6回：地球温暖化とエネルギー
- 7回：食とごみ
- 8回：有害化学物質と地球環境汚染
- 9回：身近な化学物質とエシカル（倫理的）消費
- 10回：持続可能な開発目標(SDGs)
- 11回：大気と環境
- 12回：水と環境
- 13回：水土と環境
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

<予習>

- ・事前課題（レポート等）を出して、レポート提出を求める場合があります。

<復習>

- ・毎回の授業で、リアクションペーパー（感想、質問等）の提出を求めます。
- ・各回の授業で興味を持った内容について、自ら調べ学び、知識を深めてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前課題（レポート等）や毎回の授業でのリアクションペーパー等:70% 最終レポート割合 :30%

最終レポート未提出者は成績評価の対象としません。

テキスト / Textbooks

毎回の授業資料は「Canvas LMS」等を使用して配信します。

参考文献 / Readings

浦野紘平、浦野真弥 地球環境問題がよくわかる本 オーム社 2017 4274220907

東京商工会議所 環境社会検定試験 e c o 検定公式テキスト 日本能率協会マネジメントセンター 2023

4800590698

毎回の授業にて関連資料を紹介しますので、参考にしてください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- ・資料の配付、課題の提出等に「Canvas LMS」を使用しますが、対面授業でPCを持参する必要はありません。
- ・オンライン授業はZoomにて実施します。授業開始日までに出席できるように準備しておいてください。

その他/ Others

- ・授業は、パワーポイントを使用した講義形式で、映像資料等も適宜活用します。
- ・授業計画（順番）は、変更となる場合があります。
- ・課題（レポート等）やリアクションペーパーについては、適宜フィードバックを行います。
- ・オンライン授業の場合は、グループに分けての意見交換等の実施（参加は任意）や授業の録画ファイルをGoogleドライブにより配信する予定です。
- ・1回目の授業の形態（対面・オンライン(zoomのURL,ID,パスワード))については、事前に「Canvas LMS」等を利用して通知しますので、確認して

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

自然と人間の共生

Co-existence between environment and mankind

国道も信号もコンビニもない、「何もない」へき地山村。その地に埋め込まれた「教育力」に学べ。

辻 英之 (TSUJI HIDEYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE017

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

へき地山村に住む人々が営む自然と共存する暮らし。その暮らしに埋め込まれた教育力を学び、今求められる自然と人間の関係性を考える。

People living in remote mountain villages live in harmony with nature. Learn the educational power embedded in that life and think about the relationship between nature and humans that is required today

授業の内容 / Course Contents

限界自治体ともいふべき長野県泰阜村（やすおかむら）。非効率、不合理と切り捨てられてきた山村が今、循環型の地域社会作りの先頭に立っている。村民とヨソモノ・若者の環境教育 NPO が協働して、持続可能な地域社会を創る事例（山村留学など）を紹介しながら、自然と共存する人間のあり方を考察する。なお、科目担当者は泰阜村で実際に活動する上記環境教育 NPO の代表理事である。

Yasuokamura, Nagano Prefecture, which can be called a marginal municipality. Mountain villages, which have been dismissed as inefficient and irrational, are now leading the way in creating a recycling-oriented community. While introducing examples of how villagers, strangers, and environmental education NPOs for young people

collaborate to create a sustainable community (such as study abroad in a mountain village), we will consider how humans should coexist with nature. The person in charge of the subject is the representative director of the environmental education NPO actually active in Taifu Village.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：こんな村いやだ！年貢は米じゃねえ ～今は過疎、昔は過密？ 過疎へき地山村のリアル実態～
- 2 回：村の子の血が染まる ～山村における「ムラの論理（排除の論理）」と自然環境の関係性～
- 3 回：お互い様は身体で学ぶ ～里山・棚田保全とこどもの教育の奇妙な WIN-WIN 関係～
- 4 回：もったいないの本質 ～エコ？ 循環型の生活様式？ 感謝のころ～
- 5 回：農家冥利に尽きる ～地域を潤す地産地消と農家のプライド～
- 6 回：わしゃ職人だぞ！ ～自然と共存してきたプライドが自然を守る～
- 7 回：山村は山村だからいいのだ ～戦後教育が自然と共存する村民を追い詰めた～
- 8 回：わしゃ、生まれ変わったら教師になりたい（ゲストスピーク①） ～限界集落住民の壮絶なコンプレックス～
- 9 回：朝獲りシシ鍋だ ～スーパー猟師が挑む野生生物・獣害との闘い～
- 10 回：よみがえれ！学校林 ～森と共に生きる文化が暮らしと教育をつなぐ～
- 11 回：東日本大震災・熊本地震から学ぶこと（ゲストスピーク②） ～被災地は、今～
- 12 回：東日本大震災・熊本地震から学ぶこと2 ～被災地から学ぶ、支え合い・お互い様の社会づくりへの挑戦～
- 13 回：教育を中心に据えた持続可能な地域づくり1 ～食えない3点セットが日本を変える！～
- 14 回：教育を中心に据えた持続可能な地域づくり2～まとめ～

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習等の指示は、必要に応じて授業内あるいは CanvasLMS 上で行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題レポート:40% 毎回の授業後提出のリアクションペーパーの内容:60%

テキスト / Textbooks

辻英之 『奇跡のむらの物語 ～1000 人の子どもが限界集落を救う！』 農文協 2011 年 9784540111068
○

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

パワーポイント・動画を使用したビジュアル中心の講義形式だが、必要に応じて周囲の人と簡単なディスカッションを行う他、大人数のアクティブラーニング型運営を行う授業もあるため、積極的・主体的に授業に参画する姿勢が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業中にオンラインツールを活用してコメントを集約する場合がありますので、できるだけノート PC・タブレット持参が望ましい。

他、持ってくるものは「やる気」

その他/ Others

講師は泰阜村で実際に活動する上記環境教育 NPO の代表理事である。毎週毎週、信州の山村から片道 5 時間 (!) かけて大学に通い、旬な情報を伝える。

担当者所属 NPO の URL <http://www.greenwood.or.jp>

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

脳と心

Biology of Brain

心の神経科学入門

旦 直子 (DAN NAOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE018

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

心理学が扱う心の様々な側面を神経科学の視座から論じることにより、心の働きと中枢神経系とのつながりについて理解する。

Through the lecture on various topics of psychology from the perspective of neuroscience, students should understand the connection between the psychological process and the central nervous system.

授業の内容 / Course Contents

まず、脳の構造と機能についての基本的な情報を提供する。その上で、心理学の研究分野の中でも特に脳科学からのアプローチが盛んなくつかのテーマを取り上げ、今日までに得られている知見を各論的に解説していく。その際、できるだけ具体的な事例や実験結果を紹介する予定である。基本的な知識を身につけるとともに、現代の脳科学がどこまで人の心の働きを解明しているのかについて理解することを目指す。

After providing fundamental knowledge about brain structure and function, we will pick up several themes of psychological research frequently studied using methodology of brain science, and lecture on various findings to date with introducing specific experiments. The aim is for students to acquire basic knowledge and to

understand how modern brain science elucidates human mind.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：脳神経系の構造および機能／脳と心を調べる方法
- 3回：感覚・知覚と脳の機能
- 4回：視覚系の基礎および特性
- 5回：視覚の障害／視聴覚相互作用
- 6回：注意障害／体性感覚および運動と脳の機能
- 7回：記憶の基礎
- 8回：記憶の障害と脳の機能
- 9回：情動の基礎
- 10回：情動の障害と脳の機能
- 11回：右脳・左脳の違い／言語の障害と脳の機能
- 12回：発達と脳（1）
- 13回：発達と脳（2）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパーの内容:30%

テキスト / Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

オーダーメイド医療最前線

Forefront of made-to-order medicine

人間の幸福追求と先端医科学技術との行方を問う

川上 祐美 (KAWAKAMI YUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FE019
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2500
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

オーダーメイド医療を通して生命医科学技術とその社会的背景について理解し、それをめぐる倫理的課題ならびに人間の尊厳のあり方を考える。

To understand life science technology and its social context, ethical issues surrounding it, and its impact on human dignity through discussions on personalized medicine.

授業の内容 / Course Contents

「オーダーメイド医療」とは、狭義には、個々人の遺伝子の形質に合わせた薬剤や治療法などを選択する医療のことを指します。広義には、人間の生き方死に方も個人の価値観が尊重されるという考えに基づき、生老病死へのあらゆる医学的介入を自律的に選択していくことを意味します。

そのような個人のニーズに合わせた「オーダーメイド医療」は、より効率的な治療効果が期待される一方で、遺伝子偏重の見方を強め、私たちの生命観や健康観に大きな影響をもたらす可能性があります。また、個を大切に、国家や社会に不当に制約・疎外されない自由な生き方を希求することは基本的な権利ですが、方向性を誤れば、格差を助長し共存存在としての他者理解を阻むことも危惧されます。

本講では、人間の幸福追求と先端医科学技術の利用との間の多層的問題に触れ、ともに考える時間を持ちたいと思います。

"Personalized medicine", in a narrow sense, refers to medical treatment in which drugs and therapies are selected according to the genetic traits of each individual. In a broader sense, it means self-determination in all medical interventions involving birth, aging, sickness, and death, based on the idea that individual values should be respected in matters of life and death.

While such "personalized medicine" tailored to the needs of the individual is expected to produce more efficient therapeutic effects, it may also reinforce a view that overemphasizes genetic information as well as have a significant impact on our views on life and health. It is a fundamental right to value one's individuality and to seek a free way of life that is not unreasonably restricted or marginalized by the state or society, but if misdirected, it may promote inequality and hinder mutual understanding among people who are vulnerable and dependent on each other.

In this course, I would like to touch on multi-layered issues that arise in the pursuit of human happiness and the use of advanced medical science and technology as well as invite the class to delve into these issues together.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オーダーメイド医療とは ～新たな恩恵と葛藤
- 2回：患者の権利擁護と自律① ～オーダーメイドに至る道のり
- 3回：患者の権利擁護と自律② ～バイオエシックスの4原則
- 4回：生殖医療とデザイナーベビー① ～親たち子たちの苦悩
- 5回：生殖医療とデザイナーベビー② ～生まれる命の操作
- 6回：ジェンダーの社会的変遷と科学的理解 ～LGBT理解の礎として
- 7回：ゲノム技術の法といま① ～ゲノムテクノロジーの光と影
- 8回：ゲノム技術の法といま② ～遺伝子操作をめぐる倫理
- 9回：脳死と臓器移植 ～いのちの優先順位とその格差
- 10回：再生医療と移植医療 ～臓器不足の打開策か、それとも…
- 11回：自分らしい死とは① ～尊厳死・安楽死の国際的動向
- 12回：自分らしい死とは② ～スイスの自殺幫助から考える
- 13回：サイボーグ技術で生きる ～これからの人間像は？
- 14回：エンハンスメントと人間の幸福 ～人体増強の行く先

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で紹介する資料をよく読んでみてください。

日頃のニュース（健康医療、政治経済、科学技術、宗教文化等）に関心をもってください。

その他、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業内レポート（リアクションペーパー）:100%

テキスト/Textbooks

必ず購入しなければならないテキストはありませんが、下記の参考書をはじめ、講義内でも関連書籍を適宜紹介します。

参考文献 / Readings

島菌 進 『いのちを“つくって”もいいですか? 生命科学のジレンマを考える哲学講義』 NHK 出版 2016
9784140816943

マイケル・サンデル 『完全な人間を目指さなくてもよい理由』 ナカニシヤ出版 2010 9784779504761

オルダス・ハックスリー 『すばらしい新世界』 講談社文庫 1974 9784061370012

青野 由利 『ゲノム編集の光と闇』 筑摩書房 2019 9784480072023

勝島次郎 『先端医療と向き合う』 平凡社新書 2020 9784582859454

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

大学と科学技術

Universities And Science Technology

リベラルアーツおよび社会における大学の役割 (The role of universities / liberal arts in a social context)

古谷 紳太郎 (FURUYA SHINTARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE020
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

大学は学びの場なのか？研究の場なのか？大学が教育と研究の両方を行う場だとして、それは高校とどう違うのだろうか？また、先行きの見えない世の中で、大学での学びの代表と見なされるリベラルアーツが注目されているが、リベラルアーツとはいったい何なのだろうか？そして、それは本当に先行きの見えない世の中を見通す力を与えるものなのだろうか？

本授業の主な目的は、上記の疑問を明らかにし、受講者に大学での学びの「地図」と、自ら学びを深めるための基礎を与えることにある。加えて、大学と科学技術の関係性を歴史的な観点から講じ、受講

Is a university a place of learning? A place of research? Supposing they are, in what ways are they different from high schools? In this uncertain future of the world, the focus is on “liberal arts” – which is considered the very symbol of learning in many universities - what exactly is it? Will it give us the foresight we need for the uncertain future upon us?

The main goal of this course is to provide a “map” for learning at university and a base so that students know how to make the most of their study; all through elucidating the aforementioned questions. An additional purpose is

to provide students a frame for discourse - such as that of how science and technology should be in society - by lecturing on the relationship between universities, science and technology from a historical perspective.

授業の内容 / Course Contents

社会における大学と科学技術の歴史を、古代ギリシアから現代まで辿っていく。その過程で、リベラルアーツとは何か？大学がどのように登場したのか？科学、技術、科学技術のそれぞれの違いについて、大学で科学技術が研究されるようになった背景について学ぶ。講義は、講師との対話やスモールディスカッションを挟みながら進められる。最終回には、テーマを決めたディスカッションを行い、本授業での学びを受講者自身でまとめるとともにレポート課題の準備を兼ねる。

We look back on the history of universities, science and technology from the period of ancient Greece until today. During that process, we ask, what is "liberal arts?" How did "universities" form? What is the difference between science, technology, and "science technology?" How did universities develop into places of research for "science technology?" The lecture series will take place as a dialogue and lecture combination. The final class will be a wrap-up discussion for students to summarize what they learned on their own. This discussion will form the basis for them to write a final report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンスとイントロダクション (Guidance and Introduction)
- 2 回：古代の研究・教育① (Research and Education in Ancient Times①)
- 3 回：古代の研究・教育② (Research and Education in Ancient Times ②)
- 4 回：古代の研究・教育③ (Research and Education in Ancient Times③)
- 5 回：中世の研究・教育① (Research and Education in Medieval Times①)
- 6 回：中世の研究・教育②：大学の誕生 (Research and Education in Medieval Times② :The Birth of Universities)
- 7 回：中世の研究・教育③ (Research and Education in Medieval Times③)
- 8 回：近世の研究・教育① (Research and Education in Early Modern Times①)
- 9 回：近世の研究・教育②：科学革命 (Research and Education in Early Modern Times② : The Scientific Revolution)
- 10 回：科学技術の誕生 (The birth of "Science Technology")
- 11 回：近代化とは何か？ (What is Modernization?)
- 12 回：現代社会における大学と科学技術① (University and "Science Technology" in Contemporary Society ①)
- 13 回：現代社会における大学と科学技術② (University and "Science Technology" in Contemporary Society ②)
- 14 回：グループディスカッション (Group Discussion)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の範囲を、テキストで予習・復習すること。また、グループディスカッションとレポートのため、参考文献

献を読み、事前調査をすること（参考文献等は授業中に示す）。

(Prepare and review all materials related to each class, both in preparation for group discussions and the final report.)

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎授業時のコメントシート:30% 出席及び授業への取り組み:30% 最終レポート割合：40%

最終レポートの期日は授業内で示す（メール添付での入稿を想定）。（Deadline for final report will be announced in class. Submission is expected to be online.）

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

化学と社会

Chemistry and Society

物質-人間-社会のコンビネーション (Combination among substances, people, and society)

松尾 基之 (MATSUO MOTOYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE021
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

物質理解のサイエンスである化学は様々な新物質の発見あるいは合成とともに発展して来た。人々の生活や社会に化学物質がどのような影響を与えて来たのか、現代社会が直面する諸問題と化学物質との関わり合いについて、より発展的な理解に到達することを目標とする。

Chemistry, the science of understanding substances, has evolved together with the discovery or synthesis of various new substances. The goal is to reach a more advanced understanding of the impact of chemical substances on people's lives and society, and the relationship between issues that modern society faces and chemical substances.

授業の内容 / Course Contents

現代社会の直面する課題として、化学物質が原因となっている環境問題を取り上げ、物質と社会との関わり合いについて、自然科学の立場から考察を加える。また、化学が対象として来た物質とその社会とのつながりについて、「文明と物質」という観点から学習する。さらに、化学物質や原子力によるエネルギー生産についても触れる。物質-人間-社会の強い結びつきが現代社会を支える重要な要因の一つであることについて、学際的な

理解を求める。

Environmental problems caused by chemical substances are taken up as issues facing modern society, and the relationship between substances and society is considered from the viewpoint of natural sciences. In addition, we will learn about the connection between substances that chemistry has been targeting and their society from the perspective of "civilization and substances". We also touch on energy production from chemicals and nuclear power. We seek an interdisciplinary understanding that the strong bond among substances-people-society is one of the important factors that support modern society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、序論
- 2回：公害と地球環境問題
- 3回：大気を通しての物質循環
- 4回：水圏を通しての物質循環
- 5回：地球の温暖化1
- 6回：地球の温暖化2
- 7回：オゾンの化学
- 8回：フロンとオゾンホール
- 9回：酸性雨
- 10回：生物圏・生活圏の環境
- 11回：文明と物質
- 12回：放射線と放射能
- 13回：原子力エネルギー
- 14回：燃料電池と太陽光発電

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で使用する資料を順次配信するので予習・復習に利用して欲しい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内レポート:40%

テキスト / Textbooks

教科書は使用しない。授業で使用する資料を順次配信する。

参考文献 / Readings

渡辺範夫・葉袋佳孝 『あなたが捉える化学の世界』 三共出版 2004 9784782704752 3043

鳥居寛之・小豆川勝見・渡辺雄一郎 『放射線を科学的に理解する -基礎からわかる東大教養の講義-』 丸善出版 2012 9784621085974

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

カーボンニュートラル人材育成講座

Carbon Neutrality human resources development course

SDGsのうち、地球温暖化・気候変動問題について、より深く学び、国・地方公共団体・企業・大学などの取り組みを知り、自分たちで課題解決の提案をしてみたい学生のための講座

河村 賢治／村上 千里 (KAWAMURA KENJI/ MURAKAMI CHISATO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE022
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

近年、極端な熱波、干ばつ、熱帯低気圧の強大化、豪雨などの異常気象が、世界中の人々の生活に深刻な被害をもたらし、生態系にも大きな影響を与えています。これらの異常気象には地球温暖化が関係していると考えられており、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第6次評価報告書第1作業部会報告書（自然科学的根拠）では、人間の影響が大气、海洋及び陸域を温暖化させてきたことに疑う余地はないとされています。私たちの命の基盤である地球を、持続可能な形で次世代へつなげていくために、私たちはいま何をすべきかが問われています。

そ

In recent years, extreme weather events such as extreme heat waves, droughts, intensified tropical cyclones, and heavy rains have caused serious damage to people's lives around the world and have a great impact on ecosystems. Global warming is thought to be related to these extreme weather events, and according to the Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) Sixth Assessment Report, there is no doubt that human

influences have warmed the atmosphere, oceans and land. What we should do now is being asked in order to sustainably connect the earth, which is the foundation of our lives, to the next generation.

Therefore, the goals of this class are (1) to understand the current state of the global environment based on facts, (2) to learn deeply about efforts to reduce greenhouse gas emissions to zero as a whole (carbon neutral), and

(3) To develop human resources who can actually propose and implement measures to realize carbon neutrality in companies and organizations.

授業の内容 / Course Contents

受講生の皆さんには、リアルな課題に取り組んでもらいます。今年度は、地域と本学が連携しながらカーボンニュートラルを実現するにはどうすればよいか、という点に関連する具体的な課題を皆さんに投げかけます。皆さんには、授業を通じて課題解決に役立つ知識を学んでもらい、グループワークによって課題に対する自分たちのアイデアを練り上げ、最後にそのアイデアを披露してもらいます。こうした実践的な学びを通じて得られる力は、皆さんの社会課題解決への思いを実現していく上できっと役立つはずです。この授業では、第一線で活躍される方々にゲストスピーカーとして来ていただき、皆さんの学びをサポートします。本学キャンパスにおける関連施設の見学なども取り入れる予定です。なお、グループを作りますので、最後までこの授業を受講する気持ちのある方だけに参加してもらえればと思います。

また、村上千里先生（本科目兼任講師）に授業のサポートをしていただきます。

We ask all students to take on real challenges. This year, we will raise specific issues related to how local communities and Rikkyo University work together to achieve carbon neutrality. We ask all students to (1) learn useful knowledge for problem solving through class, (2) formulate your own ideas for problems through group work, and (3) finally present your ideas. The power gained through such practical learning will surely help you to realize your thoughts on solving social issues. In this class, we invite people who are active on the front lines to come as guest speakers to support your learning. We also plan to include tours of related facilities on our campus. In addition, since we will create a group, we hope that only those who are willing to take this class until the end will participate.

In addition, Lecturer Chisato Murakami (as a lecturer for this subject) will support the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：9/20 授業概要の説明・課題の提示・基礎知識①

アイスブレイキング、授業概要の説明・課題の提示、気候変動問題に関する基礎知識①

2回：9/27 基礎知識②

気候変動問題に関する基礎知識②

3回：10/4 大学生・社会人として気候変動問題への向き合い方を考えよう

ゲストスピーカー：本学在学時から気候危機問題に取り組まれていた宮崎紗矢香様（国立環境研究所 社会対話・協働推進室コミュニケーター/人間活動家）

4回：10/11 IPCC 報告書を踏まえて気候変動の現状や対策を知ろう

ゲストスピーカー：この分野における日本を代表する専門家であり、IPCC 報告書の執筆者の一人である江守正多先生（国立環境研究所地球システム領域上級首席研究員、東京大学未来ビジョン研究センター教授）

5回：10/18 国の取り組みを学ぼう

ゲストスピーカー：日本の環境政策を所管する環境省で気候変動に関する各種政策を担当されている方（環境省）

6回：10/25 事業会社の取り組みを学ぼう

ゲストスピーカー：気候変動問題への取り組みがビジネスの世界でも重要な関心事になっている中、私たちに

とって身近な業界でカーボンニュートラルの取り組みを進めている事業会社の方

7回：11/8 地域新電力や再生可能エネルギーについて学ぼう

ゲストスピーカー：再生可能エネルギーの利用拡大、エネルギーの地産地消、地域経済の活性化などの同時解決に取り組んでいる秩父新電力の滝澤隆志様（秩父新電力株式会社 COO）

8回：11/22 カーボンニュートラルに関する本学の取り組みを学ぼう（キャンパス内施設見学が含まれる予定です）

ゲストスピーカー：本学において省エネ等を含めた施設管理等を担当しておられる餅田忠様および施設課の方（立教学院総務部施設課）

9回：11/29 カーボンニュートラルに関する地域の取り組みを学ぼう

ゲストスピーカー：豊島区において環境施策に係る計画策定や地球温暖化対策等を担当しておられる石井聡美様（豊島区 環境清掃部 環境政策課 環境計画グループ）および新座市環境課の方（各キャンパスに分かれて実施します）

10回：12/6 グループワーク（大学・地域のカーボンニュートラルを進めるための企画を考えよう。以下同じ）

プレゼンテーションの準備

11回：12/13 グループワーク

プレゼンテーションの準備

12回：12/20 グループワーク

プレゼンテーション中間報告

13回：1/10 グループワーク

プレゼンテーション準備

14回：1/17 プレゼンテーション

ゲストスピーカー（プレゼンテーションに対するコメント）：地域および本学の方

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

最終回のプレゼンテーションに向けて、授業外でも相応の準備時間が必要になります。

また、受講生の皆さんは、各回のテーマに関連する情報を新聞等で収集しておき、先生方の話をより深く理解できるよう努めてください。先生方から予習・復習の指示がある場合には、各回の資料に掲載されますので、それに従ってください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題に対するプレゼン 2回:50% 授業時の発言・グループワークへの協力・リアクションペーパー等:50%

テキスト / Textbooks

特に指定しません。

参考文献 / Readings

必要に応じ、先生方から紹介していただきます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

グループワーク時にはパソコン等で作業をしてもらいます。

その他/ Others

・第一線で活躍されるゲストスピーカーの先生方のお話を聞けるだけでなく、受講生自らが課題解決のためのアイデアを検討していく実践型の授業です。

・本授業は対面授業ですが、新座キャンパスと池袋キャンパスをオンラインで繋いで授業を行います。

(新座キャンパス担当：河村 賢治、池袋キャンパス担当：村上 千里)

新座キャンパスで授業を受ける場合は、FE022 のシラバスを参照してください。

池袋キャンパスで授業を受ける場合は、FE144 のシラバスを参照してください。

履修登録後の受講キャンパスの変更は認められません。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

数学の世界

World of Mathematics

確率および集合と写像/Probability, Sets and Maps

水澤 靖 (MIZUSAWA YASUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE101

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

「確率」をひとつの題材としながら、言語としての数学の基礎である「集合と写像」の扱いに習熟する。特に、集合と写像の言葉を用いて確率を適切に定義し、計算できるようになることを目標とする。

The purpose of this course is to learn Sets and Maps as a basic mathematical language with related topics on Probability, in particular, aiming to be able to suitably define and calculate Probability using the words of Sets and Maps.

授業の内容 / Course Contents

「確率」は日常的にもよく使われる単語であるが、数学では「集合と写像」の言葉を用いて、厳密に定義される。確率に限らず、自然科学を記述する言語としての数学では、集合と写像の言葉は必要不可欠である。この講義では、確率の基礎事項の学習と並行して、集合と写像および集合の濃度の基礎事項について学ぶ。

Probability is a usual word which is used in daily life. In mathematics, Probability is strictly defined in the words of Sets and Maps. Sets and Maps are indispensable words in mathematics as a language of natural sciences. In this course, the students learn the basics of Sets, Maps and Cardinality, with some topics on Probability.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：確率の定義(1): 場合の数と確率
- 2回：確率の定義(2): 事象と確率
- 3回：集合と写像(1): 事象と集合
- 4回：集合と写像(2): 写像と関数
- 5回：条件付き確率(1): 事象の独立性
- 6回：条件付き確率(2): ベイズの定理
- 7回：確率変数(1): 離散型と連続型
- 8回：確率変数(2): 確率分布
- 9回：確率変数(3): 期待値と分散
- 10回：同値関係
- 11回：集合の濃度(1): 濃度の大小
- 12回：集合の濃度(2): 可算無限と非可算無限
- 13回：非可測集合
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外 (予習・復習等) の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% レポート課題:40%

テキスト / Textbooks

必要に応じて資料等を用意する。

参考文献 / Readings

「確率」や「集合と写像」をキーワードに、各自に合ったものを選んでほしい。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

高等学校で学んだ数学の内容を十分に理解しており、式の取り扱いや数と式の計算を不自由なく行えることを前提として授業を行う。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

数学の世界

World of Mathematics

確率と統計の基礎 を学んでみる

横山 聡 (YOKOYAMA SATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE102
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義では確率論と統計学の基礎を具体例を交えながら学ぶことを目的とする。確率論は偶然に起こる事象を、確率を通して扱うものである。身近な現象の確率の例として、行列の待ち時間の確率、あるいは単位時間あたりにかかってくる電話の回数や単位時間あたりに発生する事故などの件数の確率などが挙げられる。この講義では具体的な例を紹介しながら確率論の考え方の基礎を学ぶ。一方で、統計学は取得された有限個のデータ（標本）から全体（母集団）を推測するために使われる。この手続きで確率論の考え方が用いられるが、こちらについても具体例

The purpose of this lecture is to learn the basics of probability theory and statistics with concrete examples. Probability theory deals with events that happen by chance through probability. As an example of the probability of a familiar phenomenon, the probability of waiting in line, the number of calls received per unit time, or the probability of accidents occurring per unit time can be mentioned. We will learn the basics of the idea of probability theory by introducing concrete examples. On the other hand, statistics are used to infer and know the whole (population) from the obtained finite number of data (samples). In this procedure, the idea of probability

theory is used.

授業の内容 / Course Contents

まず前半は確率の話題を紹介していく。この中でいくつかの確率分布、平均、分散の計算の方法を紹介するが、必要事項を適時補足しながら進める予定である。後半は統計の話題を予定している。

In the first half, I will introduce the topic of probability theory. Within this, I will also explain several methods for calculating probability distributions, mean, and variance, while supplementing necessary details. The second half is planned to talk about statistics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入部分：確率、統計の考え方
- 2 回：微分と積分の復習
- 3 回：確率、確率変数について
- 4 回：平均(期待値)、分散について
- 5 回：独立性の概念、確率分布の例
- 6 回：確率分布の例
- 7 回：待ち時間を表している確率分布，ポアソン過程
- 8 回：確率論の極限定理について 1
- 9 回：正規分布とその性質
- 10 回：確率論の極限定理について 2
- 11 回：統計学で使われる確率分布
- 12 回：推定する方法
- 13 回：推定した結果の検定
- 14 回：これまでの確率、統計のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の復習を期待します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業への取り組み、複数回の課題の取り組みなど:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

参考書は講義中に改めてお知らせする予定です。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業であ

る。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

数学の世界

World of Mathematics

組合せ論の基本的概念と応用

柴田 和樹 (SHIBATA KAZUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE103
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

組合せ論の基本的概念を習得し、その応用例への理解を深める。

Learn fundamental properties of combinatorics, and understand their application example.

授業の内容 / Course Contents

組合せ論は「離散数学」とよばれる分野の1つであり、コンピューターサイエンスの様々な場面で応用されている。

前半は数え上げに関する基本的概念、後半は具体例を用いて様々なものを数え上げていく。

Combinatorics is one of the class called "discrete mathematics", and is used in computer science.

In this lecture, we will learn about fundamental properties of mathematics of counting. In latter half, we will learn their application examples.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：集合や記号の使い方

2 回：順列と組合せ

- 3回：重複順列と重複組合せ
 4回：二項係数と二項定理
 5回：一般化された二項定理
 6回：母関数とその性質
 7回：前半のまとめ
 8回：重複円順列・重複数珠順列について
 9回：ポリアの数え上げ
 10回：多面体の話
 11回：ピックの公式
 12回：多面体の格子点の個数
 13回：後半のまとめ
 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の講義内容は相互に関連しているので、内容を理解していくことが重要である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 中間レポート:40% 課題:20% 最終テスト割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

講義中に紹介する。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

宇宙の科学

Astronomical Science

宇宙とは何か、何が分かってきたのか。宇宙における地球の存在は？

亀田 真吾 (KAMEDA SHINGO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE104
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

宇宙とは何か？宇宙の起源と歴史、太陽系の現在の姿とその歴史・進化を概観する。最先端技術によって得られた最新の宇宙像に触れ、宇宙に対する理解を深めつつ、その中にある地球の存在について考える。

What is the universe? We will provide an overview of the origin and history of the universe and the history and evolution of the galaxy and the solar system. We will touch upon the latest space images obtained from the state-of-the-art technology, deepen students' understanding of the universe, and think about the existence of the earth within the universe.

授業の内容 / Course Contents

太陽系の惑星、銀河系、そして宇宙の大規模構造を最新の観測結果に基づいて概観し、それぞれの天体やそこで起きている現象について解説する。また、2020年12月に小惑星リュウグウから表面物質を持ち帰ったはやぶさ2や2025年水星に到着予定の水星探査機みおについて、開発を担当した講師自身の体験を織り交ぜつつ紹介する。また、近年になり太陽系の外に惑星が数多く発見されており、それらに関する最新の成果について紹介する。

We will outline the large-scale structures of the planets of the solar system, the galaxy, and the universe based on the latest observational results, and explain each celestial body and the phenomena occurring there. In addition, we will introduce the experience of the instructor who was responsible for development of the cameras on Hayabusa2 which brought the samples of the asteroid Ryugu in December 2020 and the Mercury explorer Mio launched in October 2018. Also, in recent years many earth-like planets have been discovered outside the solar system, and the latest research will be introduced.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：宇宙の全体像
- 2 回：太陽と地球
- 3 回：太陽系地球型惑星 1
- 4 回：太陽系地球型惑星 2
- 5 回：太陽系地球型惑星 3
- 6 回：太陽系ガス惑星 1
- 7 回：太陽系ガス惑星 2
- 8 回：準惑星・小惑星 1
- 9 回：小惑星 2・彗星
- 10 回：衛星・リング
- 11 回：太陽系概観
- 12 回：太陽系形成
- 13 回：太陽系外惑星
- 14 回：宇宙にある地球

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業時に出される指示に従って復習を行うこと。CAMVAS 等で連絡する場合もあるので、必ず確認すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :50%
 平常点割合 :50% 毎回の課題提出:50%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

チャールズ・H・ラングミュアー、ウォリー・ブロッカー 『生命の惑星』 京都大学学術出版会 2014
 9784876985418

北本俊二、原田知広、亀田真吾 『宇宙まるごと Q&A』 理工図書 2021 9784844609049

Sara Seager Exoplanet Atmospheres Princeton University Press 2010 9781400835300

Charles H. Langmuir How to Build a Habitable Planet Princeton University Press 2012 9781400841974

その他/ Others

私語など、他の受講者への迷惑行為が認められた場合は、退席。

授業に関する連絡事項は立教時間を通して周知するので、毎週、確認すること。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

宇宙の科学

Astronomical Science

オーロラは、なぜ光るか？

中村 正人 (NAKAMURA MASATO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE105

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

太陽が惑星に対して与えている影響を様々な観点から理解する。

Students will understand the impact of the sun on the planets from various perspectives

授業の内容 / Course Contents

太陽は惑星に対して電磁的エネルギーを供給しているが、その他にも太陽風という超高温の気体を放出しており、それが磁場を持つ惑星（水星、地球、木星、土星など）と磁場を持たない惑星（金星、火星、月、彗星、小惑星など）とプラズマを通じて相互作用している。その結果、磁場を持つ惑星では美しいオーロラ現象が見られたりする。授業では、何故そのような相互作用が起こるかを初学者にも理解出来るように解説する。授業の中でコメントカードの記入、および解答の時間を多く取り、理解を増進する。

The sun supplies electromagnetic energy to the planets and also emits ultra-high-temperature gases such as the solar wind, which interacts with both the planets that have a magnetic field (Mercury, Earth, Jupiter, Saturn, etc.) and the planets and objects that do not have one (Venus, Mars, Moon, Comets, Asteroids, etc.). As a result, beautiful aurora phenomena can be seen on the planets with magnetic fields. In this course, we will explain in a

manner that beginners can also understand why such interaction occurs. Students will fill in comment cards in class and we will take plenty of time to answer them to improve understanding.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：太陽とは
- 3回：太陽から噴き出すプラズマの風
- 4回：太陽物理学と数値シミュレーション
- 5回：太陽と磁場を持つ惑星の相互作用
- 6回：様々な星に現れるオーロラ
- 7回：地球の磁気圏
- 8回：プラズマの観測
- 9回：地球で「見られるオーロラのモデル」リンク
- 10回：太陽風と磁場を持たない惑星や彗星の相互作用
- 11回：金星大気の観測
- 12回：惑星探査における失敗の意義
- 13回：復習
- 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で使うスライドを公開するのでそれを学んでくること

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポート:30% コメントカードの内容:30% 最終テスト割合 :40%

三つの合計で60点以上の者に単位を与える

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 上出洋介 『オーロラの秘密』 偕成社 2002 9784036346905
 阿部豊 『生命の星の条件を探る』 文藝春秋 2015 9784163903224
 青木薫 『宇宙はなぜこのような宇宙なのか』 講談社 2013 9784062882194
 廣瀬敬 『地球を掘りすすむとなにがあるか?』 河出書房新社 2022 9784309504377

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、タブレット、スマホなどGoogleフォームに接続できる機器

その他 / Others

授業のレジメをPDFにして (部分) 公開する。また授業の最後 20 分間でコメントカードを回収するので、授業の感想、内容に対する質問、そのほか何でも良いので書き込むこと。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

生命の科学

Life Science

免疫について学ぶ

眞島 恵介 (MASHIMA KEISUKE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE106
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面で行います。
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

いかにして私たちは病原体から守られているかを理解する。

The aim of this lecture is to understand how we are protected from pathogens.

授業の内容 / Course Contents

本講義では最初に免疫を理解するための基礎として、細胞や遺伝子などについて学ぶ。さらに、免疫について学んだ後、免疫に関わる様々なトピックスについて紹介する予定である。

In this lecture, we will first learn about cells and genes as a basis for understanding immunity. In addition, after learning about immunity, various topics related to immunity will be introduced.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロ 分子で生命現象を見る
- 2 回：細胞を分子から見る。種々の生命現象を担う細胞を理解する (1)
- 3 回：同上 (2)
- 4 回：同上 (3)

- 5回：小テスト
 6回：免疫応答の全体像と自然免疫
 7回：獲得免疫（1）
 8回：獲得免疫（2）
 9回：小テスト
 10回：免疫応答の立場からのトピックス（1）
 アレルギー
 11回：免疫応答の立場からのトピックス（2）
 感染症との戦い。HIVとインフルエンザウイルス
 12回：免疫応答の立場からのトピックス（3）
 感染症との戦い。HIVとインフルエンザウイルス
 13回：免疫応答の立場からのトピックス（4）
 拒絶反応との戦い。拒絶反応とは。
 14回：小テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で使うパワーポイントの配付資料は事前に配布する予定です。その資料を予習や復習に活用してください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 複数回の授業内小テスト:100%

テキスト / Textbooks

資料を配付する。

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業計画は状況によって変更する場合があります。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

生命の科学

Life Science

生命のしくみから捉える生命現象

関根 靖彦 (SEKINE YASUHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE107

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ヒトを含む様々な生物のしくみを理解することにより、生命現象を科学的にとらえることができるようになる。

By understanding how various organisms, including humans, work, students will be able to take a scientific look at familiar life phenomena.

授業の内容 / Course Contents

生物共通のあるいは各生物特有の「しくみ」について概説し、その理解の上に、私たち自身及び私たちの周りの生命現象に関して、その機構や意義を解説する。時には専門的な領域にまで踏み込んだ解説を行うが、本質的な理解にはそれが必要であるととらえてほしい。生命現象に対して問題意識を持ち、それを論理的にとらえようとする姿勢が望まれる。生物は物質から成り立っているので、化学的な観点からの解説も織り込む予定である。

This course provide an overview of the "mechanisms" common to all living organisms or unique to each living organism, and based on this understanding, explain the mechanisms and significance of life phenomena in

ourselves and in our surroundings. Although the course sometimes delves into specialized areas, it should be understood that this is necessary for an essential understanding of the subject. Students are expected to have an awareness of the problems involved in life phenomena and to try to understand them logically. Since living organisms are made up of substances, explanations from a chemical perspective will also be incorporated.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：生体を構成する物質（1）
- 3回：生体を構成する物質（2）
- 4回：生体とエネルギー
- 5回：細胞の構造と機能
- 6回：遺伝情報の流れ（1）
- 7回：遺伝情報の流れ（2）
- 8回：抗生物質
- 9回：DNAの変異
- 10回：遺伝
- 11回：ウイルス
- 12回：免疫
- 13回：腸内細菌
- 14回：まとめ・最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎授業時のリアクションペーパー・小テスト：60% 最終テスト割合：40%
毎授業後の小テストは、授業で取り上げた用語等を答える問題ではなく、授業内容を論理的に理解しているかどうかを測る問題を出題する。漫然と授業を聞いているだけでは得点は望めない可能性がある。

テキスト / Textbooks

講義時に資料配付。

参考文献 / Readings

講義時に適宜紹介。

その他 / Others

本授業の目的は役に立つ知識の伝授ではない。生命現象に関する専門用語を単に暗記するのではなく、その意味することを論理的に正しく理解することが望まれる。授業では受講者への質問も活発に行う予定なので、積極的な受講態度が期待される。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

生命の科学

Life Science

なぜ今、合成生物学なのか？

末次 正幸 (SUETSUGU MASAYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE108
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

新しい生命科学の潮流である「合成生物学」は、次世代の産業分野としても注目されている。合成生物学について科学的に正しく理解し、その未来と可能性について説明できるようになる。

Richard Feynman once said "what I cannot create, I do not understand." A recent progress of life sciences provided a new science field, synthetic biology. This course will teach students what synthetic biology is.

授業の内容 / Course Contents

- 前半はゲノム、タンパク質、細胞といった生命科学の基礎的な内容を盛り込みながら合成生物学とはどのような学問なのかを紹介する。実際のバイオ実験なども体験。
- 後半は、合成生物学の未来および産業としての可能性について、医療、産業、倫理面を中心に、スタートアップ創業&Exit の実体験も交えて解説する。キャリア、アントレプレナーシップを意識した内容。
- google フォームを介したりアルタイム双方向コミュニケーション。

In the first half, student will learn about synthetic biology including basic knowledge of life sciences like genome, protein and cell. The second half will focus on potential impact of synthetic biology on our societies including

healthcare, industry, and ethics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：なぜ今、合成生物学なのか？
- 2回：生命とは何か？
- 3回：DNA（ソフトウェア）とタンパク質（ハードウェア）
- 4回：細胞はつくれるか？
- 5回：ウイルス、パンデミック、ワクチン
- 6回：合成生物学の倫理、デュアルユース
- 7回：地球課題とバイオエコノミー
- 8回：合成生物学と産業1（グリーンイノベーション）
- 9回：合成生物学と産業2（医療）
- 10回：製薬業界の最新動向（ゲストスピーカー）
- 11回：スタートアップの知財戦略（ゲストスピーカー）
- 12回：バイオスタートアップ入門1（創業期、資金調達）
- 13回：バイオスタートアップ入門2（成長期、イグジット戦略）
- 14回：総合討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

聞き慣れない言葉も多いかもしれないが、授業で興味を持った内容はネット検索などで深掘りしてみると良い。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内の複数回の課題および質問コメント：100%

課題および質問コメントはリアルタイムに Google フォームで提出

テキスト / Textbooks

資料は事前に Canvas LMS にアップロードします

参考文献 / Readings

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

物質の科学

Science of Matter

時間は本当に流れているのか？ - 時間と空間の科学 -

村田 次郎 (MURATA JIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE110
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

私たちは、縦横高さの三次元空間の中で、過去から未来へと時間が流れる世界に生きてると信じています。しかし、それは本当でしょうか。本授業では、これらの考えを科学的に多方面から疑って、最先端の科学へとつなげることを目標とします。

We believe that we live in a world where time flows from the past to the future in a three-dimensional space of length, width, and height. But, is that really true? In this course, we will aim to connect these ideas to cutting edge science by asking questions scientifically from many angles.

授業の内容 / Course Contents

私たちの世界観の最も基礎となる知識は、科学的に得られてきたものが多々あります。例えば、私たちは何故、空間が三次元だと思っているのでしょうか？ どうして、時間が流れると思っているのでしょうか。この授業では、このような、基礎的な世界観を支える科学的な根拠と、それを疑い続ける現代科学の最前線を紹介します。特に、流れ続ける時間の中である時期だけ、自分が生きているという当たり前の人生観について考察します。授業内では、多くのグループワークを通じて、自分たちで議論し、簡単な実験を含めて確認して理解でき

る様にします。

Most of the basic knowledge of our worldview has been obtained scientifically. For example, why do we think that space is three dimensional? Why do we think that time flows? In this course, we will introduce the scientific basis that supports such a basic view of the world and the forefront of modern science that continues to doubt it. In particular, we will consider the usual view of life that you are only alive in one moment during the continuous flow of time. In the course, students will discuss among themselves and confirm and become able to understand, including conducting simple experiments.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：時間は流れていない
- 2 回：鏡の左右逆転についての問題提起
- 3 回：鏡の機能
- 4 回：右と左
- 5 回：物理法則と左右の定義 1
- 6 回：物理法則と左右の定義 2
- 7 回：主観と客観、時間の止まった世界
- 8 回：相対性理論
- 9 回：エントロピーの法則 1
- 10 回：エントロピーの法則 2
- 11 回：自己組織化・生命の時間
- 12 回：量子力学の時間
- 13 回：時間の流れの正体
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する課題等

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポート:20% 授業参加度:50% 最終レポート割合 :30%

授業時に指示する課題とレポート, 出席等の授業参加度に基づき総合的に評価を行う

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

村田次郎 『「余剰次元」と逆二乗則の破れ』 講談社 2011 9784062577168

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項 (検索結果画面)

物質の科学

Science of Matter

宇宙を構成する物質と非物質

小谷 太郎 (KOTANI TAROU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE111
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この宇宙が何からできているか、現代科学の成果に基づいて概観します。
私たちが宇宙のどのような歴史の結果存在しているのか知ることと、身近な物質の構造が理解できることが目標です。
物理や化学や地学を既習かどうかは問いません。
We will give an overview of what this universe is made of, based on the results of modern science.
The aim is for students to know how the universe exists as a result of what kind of history and to understand the structure of familiar materials.
It does not matter whether students have already studied physics, chemistry or geology.

授業の内容 / Course Contents

この宇宙は何からできているか、私たちが何からできているか知りたいという好奇心は、科学の最初の動機であり、最終的な目標です。最近の科学のめざましい進展により、物質を構成する原子の構造から宇宙の進化の過程まで、多くの現象が説明できるところまできました。しかし最近得られた観測データは、宇宙に正体不明

の膨大なエネルギーが満ちていることを示唆しています。人類は宇宙の数パーセントしか知らないことが明らかになってしまいました。

私たちが現在何を知っていて何を知らないのか、科学の進展を振り返りながら概説します。

The curiosity to know what this universe is made of and what we are made of is the first motivation and the ultimate goal of science. Recent remarkable progress in science has enabled us to explain many phenomena from the structure of atoms that constitute matter to the process of evolution of the universe. However, recently obtained observational data suggest that the universe is filled with vast unidentified amounts of energy. It has become clear that humanity knows only a few percent of the universe.

We will outline what we know now and what we do not know, reflecting the progress of science.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：原子論
- 2 回：周期表
- 3 回：元素合成～イントロ
- 4 回：原子核 ～壊変・半減期
- 5 回：原子核 ～壊変モード
- 6 回：原子核 ～核分裂・放射能
- 7 回：電磁波 ～電波・赤外線・可視光
- 8 回：電磁波 ～電波・赤外線・可視光
- 9 回：国際単位系
- 10 回：元素合成 ～人工元素、ニホニウム
- 11 回：素粒子物理～クォーク
- 12 回：素粒子物理～レプトン、ゲージボソン
- 13 回：宇宙物理 ～宇宙の階層構造とダーク・マター
- 14 回：宇宙物理 ～宇宙膨張と暗黒エネルギー

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業は復習しましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業参加度:40%

テキスト / Textbooks

特に指定しません。

参考文献 / Readings

適宜指示します。

その他 / Others

秋学期の「宇宙の科学 FE139」（担当：小谷太郎）と、授業内容が一部共通です。合わせて履修する場合は御注

意ください。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

身近な物質の化学

Chemistry of Familiar Materials

化学物質の安全を考える

吉川 治彦 (KIKKAWA HARUHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE112
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代の私たちの生活は、化学物質の持つ利便性を生かした様々な製品に取り囲まれ、化学物質は私たちの生活に必要不可欠なものとなっている。一方、化学物質の中には、爆発性や引火性などの危険性をもつものや、人の健康や環境中の生物に有害な影響を与えるものが少なからずある。化学物質の安全は、事故や環境問題をふまえた法規制による管理から、危険・有害性及び摂取量を考慮したリスク評価による管理へ変わりつつある。本講義では、化学物質のリスク評価を理解し、様々な局面において総合的に判断できる力を身につける。

Our modern life is surrounded by various products that take advantage of the convenience of chemical substances, and chemical substances have become essential to our lives. On the other hand, among chemical substances, there are many which carry the danger of explosibility and inflammability, and which have a harmful impact on human health and living organisms in the environment. The safe handling of chemical substances is in the process of changing from management through legal regulations based on accident and environmental problems to management through risk assessment which takes into account hazardousness and toxicity as well as dietary intake. In this course, students will understand risk assessment of chemical substances and acquire the

ability to judge comprehensively in various situations.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、化学物質の法規制、危険性、有害性について解説し、さらに摂取量を考慮したリスク評価、リスクコミュニケーションへ展開する。リスクの考え方は、社会において専門的な判断をする際の幅広い考え方へ繋がることも講義する。化学物質を安全に利用するための情報の調べ方にも触れる。持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）など国際的な取り組みについても紹介する。

In this course, we will explain the legal regulations, dangers, and toxicity of chemical substances and furthermore broaden the discussion to risk assessment taking into account dietary intake and risk communication. The lecturer will lecture on the fact that the approach to risk is connected to a broad approach when making technical judgments regarding society. We will also touch upon how to find the information required to use chemical substances safely. We will also introduce international initiatives such as the Sustainable Development Goals (SDGs).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション 私たちの生活を支えている化学物質
- 2 回：化学物質により生じた問題とその対策
- 3 回：法規制による化学物質の管理①（化審法、化管法）
- 4 回：法規制による化学物質の管理②（安衛法、毒劇法）
- 5 回：法規制による化学物質の管理③（消防法、製品関連の法規制）
- 6 回：化学物質の安全性情報の調べ方と読み方
- 7 回：化学物質の安全性情報の活用方法
- 8 回：化学物質の物性はなぜ重要か
- 9 回：化学物質の危険性評価
- 10 回：化学物質の人の健康リスク評価
- 11 回：化学物質の安全性評価のケーススタディ①
- 12 回：化学物質の生態環境のリスク評価
- 13 回：化学物質のリスクトレードオフ評価とリスクの心理
- 14 回：化学物質の安全性評価のケーススタディ②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS に配信した資料を読んでおくこと。毎回、確認課題の解説を行い、良い解答や問題提起などがあったものは紹介し、知識や考え方を共有する。確認課題は復習に活用すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回の確認課題（小テスト又は小レポート）及び最終課題を合算（課題は出席票を兼ねる）：100%

なお、2/3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト/Textbooks

パワーポイントを使用した授業形式で、PDF化した資料を予め Canvas LMS に配信するので各自ダウンロードすること（印刷媒体は配布しない）。

参考文献 / Readings

化学物質評価研究機構 『化学物質のリスク評価がわかる本』 丸善出版 2012 9784621086087

吉川治彦 『Q & A で解決 化学品の GHS 対応 SDS をつくる本』 丸善出版 2019 9784621304211

浦野紘平、浦野真弥 『えっ! そうなの?! 私たちを包み込む化学物質』 コロナ社 2018 9784339066432

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配信、確認課題（小テスト、小レポート）及び最終課題の提出は、「Canvas LMS」を使用するので、授業に PC 等を持参すること。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

身近な物質の化学

Chemistry of Familiar Materials

身の回りの原子・分子とその生活への関わり

永野 修作 (NAGANO SHUSAKU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE113

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

私達の身の回りを物質という観点から見渡し、化学の原理（化学構造と性質、反応など）と物質への興味を深め、知識人として人類の生活と化学物質の関わりや環境問題（大気汚染、オゾン層破壊、エネルギー、温暖化、水質汚染など）を考えていくことを目標とする。

Students will study the presence of material chemistry in daily life and also develop interests in the materials and the principles of chemistry.

授業の内容 / Course Contents

物質の観点から私達の身の回りをながめると、生命体を含めて、原子の結合体や分子の集合体に他ならない。本授業では、身の回りを物質の観点から捉え、身の回りの技術や現代が抱える課題を考えることにより、化学の原理と物質科学に対する興味を深めることを目的とする。空気、オゾン層、地球温暖化、エネルギー・化学・社会、水、酸性雨、ナノテクノロジー、高分子、分子間力と分子認識、液晶をそれぞれ題材とした講義を行う。

From the perspective of material chemistry, we can recognize all the things, including living things, as the

aggregates of atoms and molecules. The purpose of this course is to consider the technologies and problems facing modern society and also to develop interests in the material chemistry and principles of chemistry. The course deals with the air, ozone layer, global warming, energy and chemistry in society, water, acid rain, nanotechnology, polymers, intermolecular force, molecular recognition, and liquid crystals.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：空気
- 2 回：大気汚染と化学変化
- 3 回：オゾン層と分子の構造
- 4 回：光化学
- 5 回：地球温暖化
- 6 回：分子の振動
- 7 回：燃焼
- 8 回：エネルギー
- 9 回：水
- 10 回：イオンの化学
- 11 回：酸性雨
- 12 回：材料ナノテクノロジー
- 13 回：高分子
- 14 回：液晶

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

高校の化学を復習しておくことが望ましい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業内の演習 (5点×14回) :70% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

特になし、必要に応じて資料を配付する。

参考文献 / Readings

廣瀬 千秋 (訳) 『実感する化学 上巻 地球感動編』 NTS 2015

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

化学と自然

Chemistry and Nature

化学の歩みを捉えてその基礎を学び、身の回りの様々な事象を化学的観点から考察する。

宮部 寛志 (MIYABE KANJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE114
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

様々な物質や現象を化学的観点から理解する際の拠り所となる化学の基本的な内容の理解を目標とする。

Students will learn the basics of chemistry and understand various materials and phenomena from the chemical point of view.

授業の内容 / Course Contents

我々はどのようにして現代化学の理解に到達したのか。現代化学へと続く化学の歴史や過去の経緯を辿ることによって現代化学の内容をより深く理解する。また、その過程で発生した様々な事象から我々は何を読み取ることができるかを考え、現代につながる課題を考察する。

How did we arrive at our modern understanding of chemistry? In this course, students will more deeply understand the basics of chemistry by following chemical history and past processes to continue to modern chemistry. We will also think about what we can consider from various phenomena generated in the processes and problems that have arisen in the present age.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、現代化学の基礎的知見
- 2回：古代～中世の物質観の変遷、錬金術の特徴と位置付け
- 3回：化学革命（現代化学の黎明期）、燃焼理論、原子論の復活
- 4回：元素の発見（金属、気体）、電気分解、分光法
- 5回：元素の発見（希ガス）、周期律
- 6回：原子の探求（電子・陽子の発見）、X線の発見と原子番号
- 7回：原子構造の解明、化学結合・分子構造、有機化学
- 8回：工業化学の発展（人工染料の合成・ナイロンの発明）
- 9回：大気を変える錬金術（ハーバー・ボッシュ法、第1回）
- 10回：大気を変える錬金術（ハーバー・ボッシュ法、第2回）
- 11回：高性能精密分離（クロマトグラフィー）、アミノ酸分析
- 12回：代表的医薬品の概観、抗生物質（サルバルサン）の開発
- 13回：抗生物質（サルファ剤・ペニシリン）の開発
- 14回：DDT（有機塩素系殺虫剤）、フロン（冷媒）、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

化学の基礎を学びますので、高等学校での学習内容等を適宜復習して下さい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

テキストは使用しません。視覚教材を使用して講義を進めます。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

化学と自然

Chemistry and Nature

地球と人間生活における化学

森本 正和 (MORIMOTO MASAKAZU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE115
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

自然界で起こる現象や、生活の中で利用される物質・材料、環境・エネルギー問題などにおける化学の役割について学ぶ。自然を身近に感じながら地球と人間生活の未来について考えていくための知的基盤をつくる。
Students will learn about the role of chemistry in phenomena that occur in the natural world, substances and materials used in daily life, and environmental and energy problems. Students will also create an intellectual foundation to think about the future of the earth and human life while feeling close to nature.

授業の内容 / Course Contents

まず、化学に関して考察する上で重要な事項、すなわち原子構造・元素周期表・化学結合・化学反応などについて概説する。その後、大気・水などの地球環境、化石燃料などのエネルギー、プラスチックなどの身近な物質・材料、および生命・健康に関わる生体関連物質を題材として、地球や人間生活と化学との関係について講義する。

First, we will outline the important issues in discussing chemistry, namely, atomic structure, the periodic table, chemical bonds, and chemical reactions. After that, students will learn the relationships between the

earth/human life and chemistry on the subject of the global environment such as air and water, energy such as fossil fuels, familiar substances and materials such as plastic, and biological substances related to life and health.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに，原子の構造と元素周期表
- 2回：化学結合
- 3回：化学反応，酸と塩基
- 4回：地球環境と化学（1）：大気汚染
- 5回：地球環境と化学（2）：地球温暖化
- 6回：地球環境と化学（3）：オゾン層
- 7回：地球環境と化学（4）：水資源
- 8回：エネルギーと化学（1）：酸化と還元，発熱反応と吸熱反応
- 9回：エネルギーと化学（2）：化石燃料の燃焼，新しいエネルギー技術
- 10回：プラスチックが関わる環境問題
- 11回：リサイクル
- 12回：生命・健康と化学（1）：糖類，油脂
- 13回：生命・健康と化学（2）：タンパク質，核酸，医薬品
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

高等学校で学習した化学の教科書の内容をあらかじめ復習しておくことよい。

授業中に学習した内容を復習する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験：75%

平常点割合：25% 授業中に指示する提出物：25%

テキスト / Textbooks

授業中に資料を配布する。

参考文献 / Readings

- 廣瀬千秋 訳 『改訂 実感する化学 上巻 地球感動編』 NTS 2015 9784860434441
 廣瀬千秋 訳 『改訂 実感する化学 下巻 生活感動編』 NTS 2015 9784860434458
 萩野・竹内・柘植 編 『環境と化学 グリーンケミストリー入門 第3版』 東京化学同人 2018
 9784807909339

必要に応じて授業中に紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

化学の基礎を学ぶとともに，自然現象とその社会とのつながりについて関心を持ち，考察し，その結果を日常の中での自分の行動に反映させようとする姿勢が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

課題に取り組む上で電卓を必要とする場合がある。

その他/ Others

提出物（課題など）について授業中に解説し、フィードバックを行う。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

行動の科学

Ethology

動物および人間行動の進化

入江 尚子 (IRIE NAOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE118

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

動物および人間行動を科学的に分析し、客観的に評価することを学ぶ。また、進化論を正しく理解し、人間を含めた動物行動の適応的意義を理解する。そのうえで、生物の一種として、ヒトがどのように現在の様な特性を獲得してきたのかを進化的観点から考え、現代社会にみられる社会問題について、生物学的アプローチを試みる。

Students will learn how to scientifically analyze and objectively assess animal and human behavior. Also, students will understand the theory of evolution correctly and understand the adaptive significance of animal behavior. Then, we will consider how humans, as a type of organism, have acquired their current characteristics and try a biological approach to the social problems found in modern society.

授業の内容 / Course Contents

スライドとビデオを使用し、進化論と動物行動の適応的意義について講義する。また、最新の論文などを紹介する。また、現代社会問題を取り上げ、それらを生物学的観点から考察した際に浮き彫りとなる人間社会特有の異常現象についても議論する。

Using slides and videos, we will provide lectures on evolutionary theory and the adaptive significance of animal behavior. In addition, we will introduce the latest papers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：進化と適応
- 3回：種の保存の誤り
- 4回：性淘汰
- 5回：性淘汰2 ヒトにおける性淘汰
- 6回：血縁淘汰～アリの社会の進化
- 7回：非血縁者間の葛藤
- 8回：血縁者間の葛藤
- 9回：直接互惠性～親切の進化
- 10回：間接互惠性
- 11回：動物研究の現場
- 12回：人類の進化
- 13回：言語の進化
- 14回：授業総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて授業内で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 複数回の小レポート:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 長谷川寿一・長谷川真理子・大槻久 『進化と人間行動 第2版』 東京大学出版 2022
 スティーブ・パーカー 『動物が見ている世界と進化』 エクスナレッジ 2018 4767824245
 カール・ジンマー 『進化～生命のたどる道』 岩波書店
 入江尚子 『ゾウが教えてくれたこと ゾウオロジーのすすめ』 化学同人 2021 9784759816907

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

canvas を使って課題提出します

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

生命の歩み

Origin of Life

地球の歴史と脊椎動物の進化 (History of earth and evolution of vertebrates)

青塚 圭一 (AOTSUKA KEIICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE119

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

私たちヒトは脊椎動物の中でも極めて特異な生き物である。この授業では地球の歴史を通じて、脊椎動物のボディプランがどのように変化してきたのかを学習し、脊椎動物の進化とヒトの誕生について基礎的な内容を理解することを目標とする。

Humans are remarkably unique animals among vertebrates. In this class, students will learn how the body plans of vertebrates have changed throughout the earth's history. The goal of this class is for students to understand the evolution of vertebrates, including humans.

授業の内容 / Course Contents

【キーワード】 古生物学、進化、地球史、骨学

古生物学は私たちの生活と無関係に思える学問であるが、ヒトの身体には長い進化の歴史が詰まっている。私たちにはなぜ眼があり、なぜ骨格があり、なぜ二足歩行を行うのか？この授業では私たちヒトの身体に見られる様々な器官や構造が生物の進化の歴史の中でいつ獲得され、どのように引き継がれ、そして、ヒトという特異な生物がどうして誕生したのかについて地球史や生物進化の歴史を通じて学習する。授業には対話型・双方

向型で行う課題も含まれているため、積極的に質問・発言をする姿勢を持って履修することが望ましい。

[Key words] Paleontology, Evolution, Earth history, Osteology

Have you ever wondered why we have eyes, why we have skeletons, and why we walk on two legs? Paleontology is a curriculum that may seem unrelated to our daily lives. However, the structure of the human body has formed through the long history of life evolution. In this class, students will learn when various structures or organs, such as eyes, vertebrae, and limbs, were formed on earth/life history and how they have been passed down to humans. Classes include dialogue-based or interactive workshops. Students will be required to ask questions and make comments actively.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ヒト ～この奇妙な生物～
- 2回：進化 ～予期せぬ出来事～
- 3回：地球 ～生と死の惑星～
- 4回：共生 ～私の中にいる誰か～
- 5回：対称 ～手と手を重ねて～
- 6回：光彩 ～光が生んだ奇跡～
- 7回：凶器 ～99%の共通点～
- 8回：予測 ～ブラックボックスの中身～
- 9回：変身 ～人魚の願い～
- 10回：体温 ～恐竜たちの温もり～
- 11回：咀嚼 ～口の中の宝物～
- 12回：歩行 ～二足のリスク～
- 13回：子孫 ～生命を紡ぐ者～
- 14回：人類 ～奇妙な生物の行方～

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義内容として地球史などの連続したトピックを取り扱うため、各自で前回の講義ノートを確認してから授業に臨むこと。特に3回目で学習する地質時代の名称は4回目以降も頻繁に登場するため、時代の名称や時代の前後関係をよく覚えておくこと。

The lecture covers continuous topics such as earth history; please check the previous lecture notes before the class. In particular, the nam

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー・講義中の課題への取り組み姿勢、またはレポート課題:30%

テキスト / Textbooks

テキストは特に指定しない

参考文献 / Readings

参考文献は適宜紹介する

その他/ Others

講義の内容や受講生の数に応じてグループワークも実施する。

ヒトや古生物のみでなく、様々な動物の骨格についても学習するため、日頃から博物館や動物園の見学、野鳥やペットなどを含む身近な動物観察、あるいは生き物の骨格(フライドチキンの骨や焼魚の骨など)に注目するとより深い理解に繋げることができる。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

生命の歩み

Origin of Life

あまたある生命の中でも、とくにヒトという生物について、その過去～現在～未来を自然人類学的な視点から考察する。

楠本 彩乃 (KUSUMOTO AYANO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE121

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

自身のルーツを科学的に探究することができる素養を培う。

This course aims to cultivate knowledge that enables students to scientifically explore their own roots.

授業の内容 / Course Contents

ホモサピエンスの出現、進化、多様性を学び、ヒトという生物の弱みや強みを理解する。

To learn about emergence, evolution and variation of homo sapiens and understand humans strengths and weaknesses.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション / 本講義の目的と概要

2 回：サル→猿人 / 進化におけるヒトの強み、弱み、持病

3 回：猿人→原人 / 進化におけるヒトの強み、弱み、持病

4 回：旧人とは / 謎のネアンデルタール人

- 5回：遺伝様式の基礎知識（1） / イヴとアダムの物語り
 6回：遺伝様式の基礎知識（2） / イヴとアダムの物語り
 7回：現生人類誕生までの最新学説
 8回：出アフリカ第1陣 / オーストラロイドの拡散
 9回：出アフリカ第2陣 / モンゴロイドの大拡散
 10回：人種について
 11回：北方系モンゴロイドの身体的特徴（1）
 12回：北方系モンゴロイドの身体的特徴（2）
 13回：日本列島への移住
 14回：日本人はどこから来たか

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜、参考文献や参考動画を紹介してゆく。

授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

必要があれば紹介する。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業中にリアクションペーパーの提出を求められることがあるので、それに使用する筆記用具。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

地球の理解

Understanding of the Earth

地球の成り立ちと地球科学的諸現象

三部 賢治 (MIBE KENJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE123

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

地球の起源と進化、構造や地球科学的諸現象について学ぶ。これらの事実がどのような観測や実験から導かれたかを理解することを通じ、科学的思考力を養う。同時に、地球規模で起こる現象、災害や環境問題などについて深く考えることを通じて、地球人として生きていくための自覚と素養を身につける。

Students will learn about the origins and evolution of the earth, structures and geoscientific phenomena.

Students will acquire scientific thinking skills through understanding what observations and experiments led to these facts. At the same time, through thinking deeply about the phenomena, disasters, and environmental problems that occur on a global scale, students will acquire the awareness and grounding required for living as an inhabitant of earth.

授業の内容 / Course Contents

地球がどのように誕生して進化してきたか、構造はどうなっているのか、地表や地球内部で起こる様々な地球科学現象がどういった仕組みで起こるのか等について映像や写真をまじえながら紹介する。それぞれの内容に関し、それがどういった観測や実験に基づいて明らかにされてきたのかについて解説する。教科書等に記載され

ている基礎的内容に加え、専門誌に発表されたばかりの最新の研究成果についても紹介していく。

We will use a mix of photos and videos to introduce how the earth was created and has evolved, what its structure is, and how various earth science phenomena occur on and inside the earth. We will explain what kind of observations and experiments led to the understanding of each item of content. In addition to the basic content described in the textbook, we will introduce the latest research results that have just been published in technical journals.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：地球の原材料と地球集積過程
- 2 回：地球中心核と月の形成
- 3 回：大気と海洋の起源
- 4 回：地球の内部構造
- 5 回：固体地球を構成する物質
- 6 回：プレートテクトニクス
- 7 回：火山とマグマ
- 8 回：地震と断層
- 9 回：日本列島の成り立ち
- 10 回：地球表層の環境
- 11 回：水と二酸化炭素の循環
- 12 回：気候変動
- 13 回：生命の起原と地球外生命探査
- 14 回：生命の進化と大量絶滅

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

1. 自然科学に関連するテレビ番組を見たり、新聞雑誌記事等を読んだりしてみる。
2. 授業内容に関連する博物館等の関連施設に行ったり、自然を実際に見に行ってみる。
3. 授業で学んだ内容について、ご家族やご友人と話し合ってみる。
4. 飛行機等乗り物に乗る機会があれば、窓から地球を観察してみる。
5. 空を見上げてみる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 出席兼毎回のリアクションペーパーの内容:50%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

酒井治孝 『地球学入門 第2版: 惑星地球と大気・海洋のシステム』 東海大学出版部 2016

9784486020998

杉本憲彦・杵島正洋・松本直記 『はじめて学ぶ大学教養地学』 慶應義塾大学出版会 2020

9784766426625

高木秀雄 『世界自然遺産でたどる 美しい地球』 新星出版社 2018 9784405108080

荒木健太郎 『雲を愛する技術』 光文社新書 2017 9784334043292

山岸明彦(編集) 『アストロバイオロジー』 化学同人 2013 9784759815047

篠田謙一 『人類の起源：古代 DNA が語るホモ・サピエンスの「大いなる旅」』 中央公論新社 2022

9784121026835

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

私語をつつしむ

他の参加者に迷惑をかけない

その他/ Others

パワーポイントを使用した講義形式で、映像資料や現物資料なども適宜活用する。

リアクションペーパーについては、次回以降の授業時にフィードバックを行う場合がある。

授業で使ったパワーポイントは、授業後に Canvas LMS 上に PDF ファイルを掲載する。

数式は最小限にとどめ、ことばと視覚（映像・写真・図など）で地球を理解することを目指す。

講義は日本語で行い、質問は日本語及び英語を受け付ける。

リアクションペーパー及びレポート試験は、日本語または英語で記述すること。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

情報科学 A

Information Science A

IT を支える技術と理論の基礎

佐藤 尚 (SATO HISHASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE124
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

情報のデジタル化に関わる基本的な事項を理解できるようになる。

コンピュータやマルチメディア情報処理の基礎にある仕組みを理解できるようになる。

人工知能に関わるの基本的な仕組みを理解できるようになる。

Students will become able to understand the basic issues involved in digitizing information.

Students will become able to understand the underlying mechanisms of computer and multimedia information processing.

Students will become able to understand the basic mechanisms involved in artificial intelligence.

授業の内容 / Course Contents

情報処理の「仕組みや原理の理解」を目的として、情報のデジタル化の概念からコンピュータの基本的な機構、マルチメディアシステム、ネットワーク、人工知能の基礎な事項などについて学ぶ。

Students will learn about the basic mechanisms of computers, multimedia systems, and the basics of artificial intelligence from the concept of digitization of information with the purpose of "understanding the mechanisms

and principles" of information processing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：コンピュータの仕組みその 1
- 2 回：コンピュータの仕組みその 2
- 3 回：情報のデジタル化とマルチメディアデータ
- 4 回：アルゴリズムとプログラム
- 5 回：コンピュータシステム—ソフトウェアの視点から (その 1)
- 6 回：コンピュータシステム—ソフトウェアの視点から (その 2)
- 7 回：コンピュータシステム—システム開発の視点から
- 8 回：インターネットとセキュリティ (その 1)
- 9 回：インターネットとセキュリティ (その 2)
- 10 回：人工知能と機械学習
- 11 回：大規模言語モデル
- 12 回：コンピュータグラフィックスと画像処理 (その 1)
- 13 回：コンピュータグラフィックスと画像処理 (その 2)
- 14 回：ヒューマンインターフェースとゲーム

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業時に参考文献や参考動画を紹介する。授業後にクイズに解答すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポート:30% クイズ:35% 最終レポート割合 :35%

テキスト / Textbooks

特定のテキストは使用しない。

参考文献 / Readings

授業中や Canvas LMS で告知する。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

情報科学 A

Information Science A

知覚とコンテンツの表現, ハードウェアの処理とトランジスタ

古賀 ひろみ (KOGA HIROMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE125
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

コンテンツおよびハードウェアの 1/0 の処理を中心に、デジタル化の過程や情報量とコンテンツ表現との関係、トランジスタの仕組みとハードウェアの処理の関係などコンピューターの原理について知見を得ることで、コンテンツの活用に必要な知識と問題点への理解を深める。

Focusing on 1/0 processing of content and hardware, we will gain knowledge about computer principles such as the digitization process, the relationship between the amount of information and content expression, and the relationship between transistor mechanisms and hardware processing. Students will deepen their understanding of the knowledge and issues necessary to utilize the technology.

授業の内容 / Course Contents

コンテンツのデジタル化には機器の処理能力と再現性の関係だけでなく人の知覚もかかわっている。デジタル化の過程と 2 進数符号化の利点と選択情報量、人の音声や色の知覚処理とコンテンツ表現、量子化誤差の影響と拡散に関する方法や理論的背景を通して用途・目的に応じたデータの特性を学ぶ。

またトランジスタを中心にハードウェアを構成する機器の動作と特徴について説明することでコンピューター

の可用性の問題について理解を深める。

The digitization of content involves not only the processing power of devices and reproducibility, but also human perception. The process of digitization, the advantages of binary encoding, the amount of selective information, the perceptual processing and content expression of human speech and color, the influence of quantization errors and diffusion, and the methods and theoretical background of how data can be adjusted according to its use and purpose. Learn characteristics.

Also, by explaining the operation and characteristics of devices that make up the hardware, mainly transistors, students will gain a better understanding of computer availability issues.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：アナログデータとデジタルデータの特徴：再現性と復元性，アナログ回路の計算
- 2 回：デジタル化の過程と 2 進数符号化の利点：値の識別，補数換算・シフト演算の効率化
- 3 回：2 進数符号化の利点：ブール代数，トランジスタを利用した論理演算回路と四則演算
- 4 回：コンテンツの表現・文字：情報の定および選択情報量 S_h と bit, 文字コードの変遷
- 5 回：コンテンツの表現・音声：標本化定理とエイリアシング，ビット深度とデシベル
- 6 回：コンテンツの表現・音声と画像：量子化ノイズと拡散，画素とエイリアシング
- 7 回：コンテンツの表現・画像：視細胞と色の知覚，光の三原色と階調，量子化誤差と拡散
- 8 回：コンテンツの表現・動画と 3D：仮現運動とフレームの表示，両眼視差をもたらす映像提示
- 9 回：情報の加工・圧縮：平均情報量と知覚の性質に基づく冗長性の変換と削除
- 10 回：計算機からコンピューターへ：ノイマン型コンピューターの構成要素
- 11 回：演算処理装置：半導体の性質と MOS 型トランジスタの動作
- 12 回：処理データの格納：メインメモリとキャッシュメモリ，SRAM と DRAM
- 13 回：データの保存・スタックゲートトランジスタ：フラッシュメモリの特徴と 1/0 の記録
- 14 回：データの保存・磁気と光の反射：ハードディスクと光ディスクの特徴と 1/0 の記録，保存媒体の比較

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に Canvas LMS で資料を配布するので内容を確認し、疑問点を整理しておくこと。またコンピュータ利用上の長所や短所と授業で取り上げたコンピュータの特徴との関係性について整理すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

特に指定しない。

その他 / Others

Canvas LMS で資料を配布する

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

情報科学 B

Information Science B

AI とインターネットを支える理論と技術

佐藤 尚 (SATOOU HISASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE126
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

社会・組織で利用される情報科学的な考え方や情報システムの基礎的な事項を理解できるようになる。
コンピュータをはじめとする情報機器の利用が人間の社会や組織に与える影響への理解を深める。
インターネットに代表されるようなコンピュータネットワーク、IoT、マルチメディアシステムの構造・利用方法・影響などを説明できるようになる。
Students will become able to understand information science thinking used in society and organizations and the basic facts of information systems.
Deepen students' understanding of the effects of using computers and other information devices on human society and organizations.
Become able to explain how to use multimedia systems and their effects.

授業の内容 / Course Contents

主に人間や社会にかかわる側面についての情報処理技術が与える影響を学ぶものである。コミュニケーションの基礎知識からインターネット、IoT、マルチメディアシステムなどの構造・利用方法・影響などについて学

ぶ。また、計算論的思考(Computinal Thinking)の基礎となる知識を学ぶ。

Students will learn about information activities mainly from the aspects of humans and society, and will learn the actual usage and influence of multimedia systems such as networks based on a basic knowledge of communications. Students will learn basic knowledge about Computinal Thinking.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：コンピュータシステムの基礎
- 2 回：アルゴリズムとは
- 3 回：社会におけるコンピュータシステム
- 4 回：インターネットその 1
- 5 回：インターネットその 2
- 6 回：情報科学的な発想と社会
- 7 回：人工知能その 1
- 8 回：人工知能その 2
- 9 回：大規模言語モデル
- 10 回：データサイエンス
- 11 回：マルチメディア技術その 1
- 12 回：マルチメディア技術その 2
- 13 回：プログラムを作る：Scratch その 1
- 14 回：プログラムを作る：Scratch その 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業時に、授業時に参考文献、参考動画を紹介し、クイズを出す。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポート:30% クイズ:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

特定のテキストは使用しない。

参考文献 / Readings

授業内において、随時紹介する。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

情報科学 B

Information Science B

インターネットにおける TCP/IP プロトコル群の特徴と脆弱性

古賀 ひろみ (KOGA HIROMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE127
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

インターネット通信におけるデータの形態と処理、ネットワークシステム、情報と社会との関わりを、過去の経緯や通信機器の特徴、今後の動向を踏まえつつ学ぶことで、ネットワークを利用した情報機器の応用とネットワークの抱える脆弱性について考える。

By learning about data formats and processing in Internet communications, network systems, and the relationship between information and society, taking into account past history, characteristics of communication devices, and future trends, you will be able to learn the applications of information devices that use networks and the vulnerabilities of networks.

授業の内容 / Course Contents

1950 年代以降のコンピューターやネットワークの変化を踏まえつつ、インターネットが「分散型でありプロトコルが標準化され、パケット交換方式かつベストエフォート型」のネットワークとなった理由と、このような特徴がもたらす問題点について説明する。

さらに TCP/IP モデルのネットワーク階層ごとに代表的なプロトコルの役割とインターネットサービスを実現

する仕組み、またその仕組みに潜在する脆弱性についても説明する。また脆弱性の問題や情報機器の進化、ネットワーク利用状況の変化など対応するためのプロトコルの変化についてもあわせて取り上げることで、情報環境との関わり方について考える。

Considering the changes in computers and networks since the 1950s, why the Internet became a "distributed, standardized, packet-switched, and best-effort" network, and the problems brought about by these characteristics. explain.

It also explains the roles of typical protocols for each network layer of the TCP/IP model, the mechanisms that implement Internet services, and the vulnerabilities that are hidden in these mechanisms. We will also consider how to relate to the information environment by also discussing changes in protocols to deal with vulnerability issues, the evolution of information devices, and changes in network usage.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：コンピュータ資源の共有から分散型ネットワークへ
- 2 回：共有範囲の拡大とプロトコルの標準化、TCP/IP モデルの階層の特徴
- 3 回：回線交換方式とパケット交換方式の特徴、通信品質とベストエフォート型ネットワーク
- 4 回：ネットワークインターフェース層（物理層）：ケーブル、周波数帯や伝送方式の種類
- 5 回：ネットワークインターフェース層（データリンク層）：フレーム構造と MAC アドレス、集線装置の役割
- 6 回：ネットワークインターフェース層（データリンク層）：有線の半二重通信および無線 LAN への接続通信手順、データの盗聴と暗号化
- 7 回：ネットワークインターフェース層（データリンク層）：スイッチングハブの機能、ポート識別と任意の機器への転送
- 8 回：インターネット層：IP アドレスの構成と自動割り当て、IP アドレスから判明する情報
- 9 回：インターネット層：IP アドレスを利用した MAC アドレスの取得、グローバル IP アドレスとプライベート IP アドレスのアドレス変換
- 10 回：インターネット層：経路決定と通信のサポート、ルーターを利用した不正取得、セキュリティに配慮した仮想プライベートネットワーク
- 11 回：トランスポート層：ポート番号の役割、クライアント/サーバー方式と p2p 方式の違いとポート番号の取得、アドレス変換への利用
- 12 回：トランスポート層：確実性重視と効率性重視のプロトコルの特徴、セキュリティを要求するプロトコルの追加と新標準プロトコル
- 13 回：アプリケーション層：web サイトのプロトコルの特徴と問題点、セッション管理と cookie を利用した情報収集の規制
- 14 回：アプリケーション層：ドメインネームシステムと名前解決、アクセス先の偽装

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS で事前に資料を配布するので内容を確認し、疑問点を整理しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト/ Textbooks

特に指定しない

参考文献 / Readings

みやたにひろし 『仕組み・動作が見てわかる図解入門 TCP/IP』 SB creative 2020 9784815604974

井上直也, 村山公保, 竹下隆史, 荒井透, 荻田幸雄 『マスタリング TCP/IP—入門編—』 オーム社 2019
9784274224478

その他/ Others

Canvas LMS で資料を配布する。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

生物の多様性

Biodiversity

植物の生存戦略と生物多様性／身近な生き物たちの世界に目を向け、この地球上における生命の多様性に知識と意識を広げる

多田 多恵子 (TADA TAEKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE131

授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）

授業形態（補足事項） 講義形式。課外時間に一部フィールドワークや実験を含む。

校地： 他

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

身近な生き物たちの世界に目を向け、パワーポイントの映像を見たり自ら観察を行うことで得た体験と発見を通じて、生き物たちの多様で個性的な生き方に気づき、この地球上の自然と生物多様性に目を向ける。身近な観察から自然科学への扉を開くと同時に、多様性の保全と共生を考える。

Through the experiences and discoveries obtained by looking at the familiar world of living creatures, watching PowerPoints, and observing themselves, we will realize the diverse and unique ecology of living creatures, and think about the nature and biodiversity on this planet. At the same time as opening the door from familiar observation to natural science, we will consider conservation of diversity and symbiosis.

授業の内容 / Course Contents

講義では、オリジナルの写真で構成したパワーポイントと、植物に関する重要なテーマを分かりやすく説明した資料を用いて、花の受粉、種子散布、昆虫や菌類などとの共生関係、さまざまな環境への適応などを解説する。映像や実際の観察を通して、植物の生き方を見ていく。観察を深めるために植物のスケッチも行う。身近

な自然から日本そして世界の自然と生物へと視野を広げていく中で、生物多様性の意味とその危機、自然との共生なども考える。

Every lecture will be based on PowerPoint slides with original photographs, and handouts written about important themes about plants; such as flower pollination, seed dispersal, plant symbiosis with insects or fungus, adaptation of plants to various environments, etc. We will look at the various types of life and ways of living through videos and actual observation. Students will also make sketches of plants to deepen their observation. We will also consider biodiversity and its crisis, environmental education, conservation, and symbiosis with nature.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：植物とはどのような生き物なのか。動物と植物の違いはなんだろう。授業を受ける前に、各自、穂と葉のついた状態の「ネコジャラシ（エノコログサ）」を探して採ってくる。実物のネコジャラシを手に、五感を駆使して観察し、スケッチをしてみよう。虫の目線、草食動物の目線から、身近な植物をじっくり観察してみよう。

2回：生物はどのように進化してきたのだろうか。植物の進化と最新の分類体系をみていこう。植物は、コケ、シダ、裸子植物、被子植物と進化してきた。最近のDNAを用いた研究で、被子植物は、まず原始的（基部）被子植物が生まれ、そこから真正双子葉類と単子葉類に分かれて進化したことが分かっている。花の進化を見ていこう。何にどう花粉を運ばせるか。昆虫の進化とともに花の形や色の多様性が生まれてきた。

3回：風に花粉を運ばせる風媒花は地味で目立たないが、それぞれに花粉を風に乗せる工夫がある。虫や鳥などの動物（送粉者）に花粉を運ばせる花は、きれいな花びらを広げ、蜜や香りで相手を招く。そこには花と送粉者の共進化の歴史がある。花はいわばレストラン、広く客を招くファミレスタイプの花と、客を限定する会員制レストランの花があり、客層のターゲットにより花の色や形は違っている。

4回：前回に続いて、花と送粉者の共進化を見ていく。中には、絶対送粉系といって、特定の花と送粉昆虫の間で、送粉の見返りに幼虫のすみかやエサを提供する、つまり互いの存在なくしては存続できない送粉系の例もある。一方で、動物の死体や雌の昆虫を擬態することにより、虫をだまして送粉を行う花もある。世界最大の花であるラフレシア、ショクダイオオコンニャクもそうしただましの花である。

5回：花の性戦略についてみていく。雌株と雄株、雌花と雄花、両性花など、花の性表現はさまざまである。ほかの花の花粉を優先して受け取ることで遺伝子の多様性をふやすのか、あるいは自分の花粉でも積極的に受け取ることで確実な種子生産をめざすのか。その違いが、多様な性表現をもたらす。球根やイモ、地下茎、むかごなど栄養繁殖についてもみていく。毎回の課題のほかに、花の観察とスケッチの課題を出す。

6回：まずは葉っぱをよく観察しよう。葉っぱは植物の生産工場である。ここで植物は光合成を行い、光エネルギーを使って空中の二酸化炭素から糖やデンプン、アミノ酸などの有機物を作り出す。どのような形や質の葉をどのようにつけるのがよいのだろう。その最適解は、植物のおかれた環境の特性と不確実性によって変わってくる。

7回：植物の光獲得戦略についてさらにみていこう。樹木の枝の伸ばし方、他の植物を利用するつる植物や絞め殺し植物、木の幹にはりつく着生植物。落葉樹林の下に生える林床植物は、どのように光を獲得しているのだろうか。

8回：植物の被食防衛についてみていく。とげや粘液、毒など、植物は虫や草食動物に食べられないように様々な方法で身を守っている。サクラやカラスノエンドウは葉から蜜を出し、集まってきたアリのボディガードにして身を守っている。昆虫サイドからの葉を食べる戦略もみていこう。身近な植物の葉の観察・スケッチの課題を出す。

9回：動物は時間を越えて生きることができないが、植物は種子という小さく丈夫な時空間カプセルを作り出して、不適切な季節や環境変動を乗り越える。種子のなかには休眠能力をもつものがあり、何十年、何百年と

いう年月も飛び越えて芽を出すこともある。どのような種子をつくってどのように運ばせるか。風散布、海流散布など、種子のさまざまな散布のしくみを見ていこう。

10回：前回に引き続き、種子散布についてみていく。種子散布に動物を利用する植物は、種子をおいしい果肉に包んだり、種子の端にごちそうをつけたり、硬い殻に詰めて貯食させたりして、種子を運ばせている。ターゲットを鳥にするか、哺乳類にするかによって、果実の大きさや形状、味も違ってくる。種子の数と大きさのジレンマについても考えてみよう。実と種子の観察・スケッチの課題を出す。

11回：植物と菌類の関係についてみていこう。菌類とはどのような生き物なのか、植物との関係は。菌類と植物の共生関係、逆に菌類に栄養を依存して光合成をやめてしまった菌従属栄養植物など、菌類と植物の多様な関係をみていく。一方で、マメ科植物やハンノキ科の植物のように根粒をつくって窒素固定細菌と共生する植物もある。

12回：ほかの植物に寄生して栄養を搾取る植物もある。ヤドリギ、ツチトリモチ、ヤッコソウなど、栄養を他人に依存する寄生植物の生態も見ていこう。ラフレシアも寄生植物である。ウツボカズラ、ハエトリグサ、モウセンゴケなどの食虫植物は、貧栄養の環境で虫をとらえて消化し、窒素栄養源としている。熱帯には体内にアリを住まわせる見返りに防衛隊および窒素栄養源として利用するアリ植物もある。

13回：多様な環境で懸命に生きる植物たちの知恵と工夫を見ていこう。塩分の強い汽水域で生活するマングローブ植物や塩生植物、極寒の環境で生きる極北の植物や高山植物、乾燥に耐えて生きる多肉植物など、厳しい環境に耐えて体の仕組みを大きく変化させて生きぬいてきた植物たちの驚きの生態を紹介する。

14回：日本列島の多様な自然を北から南へとみていく。冷帯から亜熱帯と、日本列島は豊かな自然に恵まれ、地球の生物多様性のホットスポットでもある。さらに、田畑や雑木林、ため池などからなる里山の自然は、人と自然の長年の共生から生まれた豊かな生態系として注目されている。しかし近年、人による自然破壊、環境汚染、外来種、獣害、プラスチックごみなど、多くの問題が生じている。私たちに何ができるのか。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の前に植物を野外で探して授業に持参するようになどと指示を出す場合があります。実際に植物を観察したり、スケッチをしたりすることがあります。また3回、植物のスケッチ課題を出します。内容の理解に役立つ資料も適宜アップします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の課題 各5点 x 1 4:70% スケッチ課題 各10点 x 3:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 多田多恵子 『ようこそ！ 葉っぱ科学館』 少年写真新聞社 2018 9784879816603
 多田多恵子 『ようこそ！ 花のレストラン』 少年写真新聞社 2017 9784879816009
 多田多恵子 『身近な草木の実とタネハンドブック』 物の生態図鑑』 学研 2010 9784052031304
 多田多恵子 『小学館の図鑑 NEO 花』 小学館 2014 9784092172197
 多田多恵子 『美しき小さな雑草の花図鑑』 山と溪谷社 2018 9784635550123

多田多恵子 『実とタネキャラクター図鑑』 誠文堂新光社 2017 9784426616499

多田多恵子 『したたかな植物たち 春夏篇/秋冬篇』 ちくま書房 2019 9784480435729

NHK・Eテレ「趣味どきっ！道草さんぽ」、NHK ラジオ「子ども科学電話相談」に出演し、植物の解説をしています。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

履修にあたり文系・理系を問いません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

スマートフォンにつけるマクロレンズ。(100円ショップで入手できます。細部が飛躍的によく見えて写真も撮れます)

その他/ Others

毎週水曜日配信。初回は9月25日予定(各自、授業を受ける前にネコジャラシを摘んでくること)。各回の持ち物などは適宜メールで連絡します。課題は翌週火曜日に提出。それとは別にスケッチ課題は3週間後の火曜日に提出。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

生物の多様性

Biodiversity

多様性からみる生物学、進化学と生物学の現在

大槻 涼 (OOTSUKI RYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE132

授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）

授業形態（補足事項） この講義は全回オンデマンドによる講義を実施します。

必ず初回の講義までに「Canvas LMS」にログインし、具体的な受講方法について確認してください。

講義動画の配信は毎週水曜日正午に配信を予定しています。

校地： 他

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

「生物多様性」は持続可能な開発（SDGs）でも重要な位置を占める概念である。しかし、多様性そのものを理解することは難しい。本講義を通し、生物の多様性を多角的にとらえ自分で考えることを目標とする。

"Biodiversity" is an important concept in the sustainable development (SDGs). However, diversity itself is difficult to understand. Through these lectures, the goal is for students to consider the diversity of living things in multiple ways using their own thinking.

授業の内容 / Course Contents

生物学は「普遍性」と「多様性」が両輪となって発展している。これらは互いに密接に関係し合っている。本講義はこの多様性に着目し、様々なスケール（分子レベルから地球規模まで）の生物学を俯瞰することを目指す。また、最新の生物学の研究について関心を高めることも目指す。

In biology, "universality" and "diversity" develop as two halves of the whole. These are closely related to each

other. These lectures will focus on this diversity and we will aim to have an overhead view of biology from various scales (from molecular level to global scale). We will also aim to raise students' interest in the latest biology research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：生物学とはどんな科学か？「4つのなぜ」から考える生物学のユニークさ
- 2回：多様性←→普遍性 生物学を支える2つの「柱」とは？進化とは何か、「よくある誤解」と進化学の基本
- 3回：系統学と分類学、生物の多様性を理解する視点 博物館の役割と市民科学の可能性
- 4回：多様性を生み出す「普遍性」、セントラルドグマと現代生命科学の現在
- 5回：「最初の生命」と化学進化、地球誕生から生物誕生まで、地球の歴史と細胞の誕生 宇宙生物学の現在
- 6回：生物多様性の3つのスケール（1） 遺伝的多様性
- 7回：生物多様性の3つのスケール（2） 種多様性
- 8回：生物多様性の3つのスケール（3） 生態的多様性
- 9回：世界の気候と生態系、バイオームとはなにか？
- 10回：「超高速」進化現象としての適応放散
- 11回：全生物の系統と「3ドメイン」 生物観の変遷
- 12回：新天地を求めての挑戦 生物の上陸作戦と空への挑戦
- 13回：「ヒト」にいたる道 人類の進化と「出アフリカ」
- 14回：「第6の大量絶滅」と人間社会 地球環境問題と生物多様性のこれから

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の講義でリアクションペーパーの作成と提出を求める。リアクションペーパーの内容は、講義内容の復習や次回以降の予習のための情報収集と文章の作成を予定している。

また、講義内で説明した専門用語をまとめた用語集を作成し、復習に備えることを求める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 中間レポート:35% リアクションペーパー:15%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

赤坂甲治 『進化生物学』 裳華房 2021 9784785358723

池内昌彦ら監訳 『キャンベル生物学 原書11版』 丸善出版 2018 9784621302767

宮下直ら 『生物多様性概論—自然のしくみと社会のとりくみ—』 朝倉書店 2017 9784254171648

宮下直ら 『生物多様性と生態学—遺伝子・種・生態系』 朝倉書店 2012 9784254171501

日本進化学会編 『進化学辞典』 共立出版 2012 9784320057777

その他 / Others

講義は PowerPoint を用いたプレゼンテーションを予定している。リアルタイム字幕システムを使用し、幅広い受講者に対応する。

毎回の講義にてリアクションペーパーの作成を行い、講義内容の定着と理解を進める。

適宜、アカデミックスキルの観点から、「大学におけるレポート作成方法」についても講義内で扱う予定である。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

地球環境の未来

Future of Environment

地球環境問題の現状を理解し、未来を考える

加藤 みか (KATO MIKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE133
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項）【授業計画】 オンラインで7回実施する（1・3・5・7・9・11・13回）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

地球環境の現状を理解し、人類が直面している問題を認識して、持続可能な社会のために今後望まれる解決策等について総合的に考え、自ら行動できる力を身につける。

Students will understand the current state of the global environment and recognize the problems facing humanity, think desirable solutions comprehensively for a sustainable society in the future, and obtain the skills to act independently.

授業の内容 / Course Contents

この講義では、地球環境の成り立ち、様々な地球環境問題の原因やしくみ、影響等、地球環境の現状について学び、理解を深めます。また、私たちの日常生活は地球環境と密接に関係していることを念頭に置きながら、地球環境の未来を考えていきます。さらに、持続可能な社会のために今後望まれる解決策や個人でできる取り組みについても議論を進めます。

In this lecture, you will learn and deepen your understanding of the current state of the global environment, such as the causes, mechanisms, and effects of various global environmental issues.

We will consider the future of the global environment, keeping in mind that our daily lives are closely related to the global environment. In addition, we will discuss desirable solutions and personal actions for a sustainable society in the future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：地球環境の成り立ち
- 3回：生態系のしくみ
- 4回：生物多様性
- 5回：オゾン層破壊
- 6回：地球温暖化とエネルギー
- 7回：食とごみ
- 8回：有害化学物質と地球環境汚染
- 9回：身近な化学物質とエシカル（倫理的）消費
- 10回：持続可能な開発目標(SDGs)
- 11回：大気と環境
- 12回：水と環境
- 13回：水土と環境
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

<予習>

- ・事前課題（レポート等）を出して、レポート提出を求める場合があります。

<復習>

- ・毎回の授業で、リアクションペーパー（感想、質問等）の提出を求めます。
- ・各回の授業で興味を持った内容について、自ら調べ学び、知識を深めてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 事前課題（レポート等）や毎回の授業でのリアクションペーパー等:70% 最終レポート割合：:30%

最終レポート未提出者は成績評価の対象としません。

テキスト / Textbooks

毎回の授業資料は「Canvas LMS」等を使用して配信します。

参考文献 / Readings

浦野紘平、浦野真弥 『地球環境問題がよくわかる本』 オーム社 2017 4274220907

東京商工会議所 『環境社会検定試験 e c o 検定公式テキスト』 日本能率協会マネジメントセンター 2023

4800590698

毎回の授業にて関連資料を紹介しますので、参考にしてください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- ・資料の配付、課題の提出等に「Canvas LMS」を使用しますが、対面授業でPCを持参する必要はありません。
- ・オンライン授業はZoomにて実施します。授業開始日までに出席できるように準備しておいてください。

その他/ Others

- ・授業は、パワーポイントを使用した講義形式で、映像資料等も適宜活用します。
- ・授業計画（順番）は、変更となる場合があります。
- ・課題（レポート等）やリアクションペーパーについては、適宜フィードバックを行います。
- ・オンライン授業の場合は、グループに分けての意見交換等の実施（参加は任意）や授業の録画ファイルをGoogleドライブにより配信する予定です。
- ・1回目の授業の形態（対面・オンライン(zoomのURL,ID,パスワード))については、事前に「Canvas LMS」等を利用して通知しますので、確認して

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

自然と人間の共生

Co-existence between environment and mankind

国道も信号もコンビニもない、「何もない」へき地山村。その地に埋め込まれた「教育力」に学べ。

辻 英之 (TSUJI HIDEYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE134

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

へき地山村に住む人々が営む自然と共存する暮らし。その暮らしに埋め込まれた教育力を学び、今求められる自然と人間の関係性を考える。

People living in remote mountain villages live in harmony with nature. Learn the educational power embedded in that life and think about the relationship between nature and humans that is required today

授業の内容 / Course Contents

限界自治体ともいふべき長野県泰阜村（やすおかむら）。非効率、不合理と切り捨てられてきた山村が今、循環型の地域社会作りの先頭に立っている。村民とヨソモノ・若者の環境教育 NPO が協働して、持続可能な地域社会を創る事例（山村留学など）を紹介しながら、自然と共存する人間のあり方を考察する。なお、科目担当者は泰阜村で実際に活動する上記環境教育 NPO の代表理事である。

Yasuokamura, Nagano Prefecture, which can be called a marginal municipality. Mountain villages, which have been dismissed as inefficient and irrational, are now leading the way in creating a recycling-oriented community. While introducing examples of how villagers, strangers, and environmental education NPOs for young people

collaborate to create a sustainable community (such as study abroad in a mountain village), we will consider how humans should coexist with nature. The person in charge of the subject is the representative director of the environmental education NPO actually active in Taifu Village.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：こんな村いやだ！年貢は米じゃねえ ～今は過疎、昔は過密？ 過疎へき地山村のリアル実態～
- 2 回：村の子の血が染まる ～山村における「ムラの論理（排除の論理）」と自然環境の関係性～
- 3 回：お互い様は身体で学ぶ ～里山・棚田保全とこどもの教育の奇妙な WIN-WIN 関係～
- 4 回：もったいないの本質 ～エコ？ 循環型の生活様式？ 感謝のころ～
- 5 回：農家冥利に尽きる ～地域を潤す地産地消と農家のプライド～
- 6 回：わしゃ職人だぞ！ ～自然と共存してきたプライドが自然を守る～
- 7 回：山村は山村だからいいのだ ～戦後教育が自然と共存する村民を追い詰めた～
- 8 回：わしゃ、生まれ変わったら教師になりたい（ゲストスピーク①） ～限界集落住民の壮絶なコンプレックス～
- 9 回：朝獲りシシ鍋だ ～スーパー猟師が挑む野生生物・獣害との闘い～
- 10 回：よみがえれ！学校林 ～森と共に生きる文化が暮らしと教育をつなぐ～
- 11 回：東日本大震災・熊本地震から学ぶこと（ゲストスピーク②） ～被災地は、今～
- 12 回：東日本大震災・熊本地震から学ぶこと2 ～被災地から学ぶ、支え合い・お互い様の社会づくりへの挑戦～
- 13 回：教育を中心に据えた持続可能な地域づくり1 ～食えない3点セットが日本を変える！～
- 14 回：教育を中心に据えた持続可能な地域づくり2～まとめ～

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習等の指示は、必要に応じて授業内あるいは CanvasLMS で行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題レポート:40% 毎回の授業後提出のリアクションペーパーの内容:60%

テキスト / Textbooks

辻英之 『奇跡のむらの物語 ～1000 人の子どもが限界集落を救う！』 農文協 2011 年 9784540111068
○

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

パワーポイント・動画を使用したビジュアル中心の講義形式だが、必要に応じて周囲の人と簡単なディスカッションを行う他、大人数のアクティブラーニング型運営を行う授業もあるため、積極的・主体的に授業に参画する姿勢が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業中にオンラインツールを活用してコメントを集約する場合がありますので、できるだけノート PC・タブレット持参が望ましい。

他、持ってくるものは「やる気」

その他/ Others

講師は泰阜村で実際に活動する上記環境教育 NPO の代表理事である。毎週毎週、信州の山村から片道 5 時間 (!) かけて大学に通い、旬な情報を伝える。

担当者所属 NPO の URL <http://www.greenwood.or.jp>

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

脳と心

Biology of Brain

心の神経科学入門

旦 直子 (DAN NAOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE135

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

心理学が扱う心の様々な側面を神経科学の視座から論じることにより、心の働きと中枢神経系とのつながりについて理解する。

Through the lecture on various topics of psychology from the perspective of neuroscience, students should understand the connection between the psychological process and the central nervous system.

授業の内容 / Course Contents

まず、脳の構造と機能についての基本的な情報を提供する。その上で、心理学の研究分野の中でも特に脳科学からのアプローチが盛んないくつかのテーマを取り上げ、今日までに得られている知見を各論的に解説していく。その際、できるだけ具体的な事例や実験結果を紹介する予定である。基本的な知識を身につけるとともに、現代の脳科学がどこまで人の心の働きを解明しているのかについて理解することを目指す。

After providing fundamental knowledge about brain structure and function, we will pick up several themes of psychological research frequently studied using methodology of brain science, and lecture on various findings to date with introducing specific experiments. The aim is for students to acquire basic knowledge and to

understand how modern brain science elucidates human mind.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：脳神経系の構造および機能／脳と心を調べる方法
- 3回：感覚・知覚と脳の機能
- 4回：視覚系の基礎および特性
- 5回：視覚の障害／視聴覚相互作用
- 6回：注意障害／体性感覚および運動と脳の機能
- 7回：記憶の基礎
- 8回：記憶の障害と脳の機能
- 9回：情動の基礎
- 10回：情動の障害と脳の機能
- 11回：右脳・左脳の違い／言語の障害と脳の機能
- 12回：発達と脳（1）
- 13回：発達と脳（2）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパーの内容:30%

テキスト / Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜指示する。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

オーダーメイド医療最前線

Forefront of made-to-order medicine

人間の幸福追求と先端医科学技術との行方を問う

川上 祐美 (KAWAKAMI YUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FE136
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2500
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

オーダーメイド医療を通して生命医科学技術とその社会的背景について理解し、それをめぐる倫理的課題ならびに人間の尊厳のあり方を考える。

To understand life science technology and its social context, ethical issues surrounding it, and its impact on human dignity through discussions on personalized medicine.

授業の内容 / Course Contents

「オーダーメイド医療」とは、狭義には、個々人の遺伝子の形質に合わせた薬剤や治療法などを選択する医療のことを指します。広義には、人間の生き方死に方も個人の価値観が尊重されるという考えに基づき、生老病死へのあらゆる医学的介入を自律的に選択していくことを意味します。

そのような個人のニーズに合わせた「オーダーメイド医療」は、より効率的な治療効果が期待される一方で、遺伝子偏重の見方を強め、私たちの生命観や健康観に大きな影響をもたらす可能性があります。また、個を大切に、国家や社会に不当に制約・疎外されない自由な生き方を希求することは基本的な権利ですが、方向性を誤れば、格差を助長し共存存在としての他者理解を阻むことも危惧されます。

本講では、人間の幸福追求と先端医科学技術の利用との間の多層的問題に触れ、ともに考える時間を持ちたいと思います。

"Personalized medicine", in a narrow sense, refers to medical treatment in which drugs and therapies are selected according to the genetic traits of each individual. In a broader sense, it means self-determination in all medical interventions involving birth, aging, sickness, and death, based on the idea that individual values should be respected in matters of life and death.

While such "personalized medicine" tailored to the needs of the individual is expected to produce more efficient therapeutic effects, it may also reinforce a view that overemphasizes genetic information as well as have a significant impact on our views on life and health. It is a fundamental right to value one's individuality and to seek a free way of life that is not unreasonably restricted or marginalized by the state or society, but if misdirected, it may promote inequality and hinder mutual understanding among people who are vulnerable and dependent on each other.

In this course, I would like to touch on multi-layered issues that arise in the pursuit of human happiness and the use of advanced medical science and technology as well as invite the class to delve into these issues together.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オーダーメイド医療とは ～新たな恩恵と葛藤
- 2回：患者の権利擁護と自律① ～オーダーメイドに至る道のり
- 3回：患者の権利擁護と自律② ～バイオエシックスの4原則
- 4回：生殖医療とデザイナーベビー① ～親たち子たちの苦悩
- 5回：生殖医療とデザイナーベビー② ～生まれる命の操作
- 6回：ジェンダーの社会的変遷と科学的理解 ～LGBT理解の礎として
- 7回：ゲノム技術の法といま① ～ゲノムテクノロジーの光と影
- 8回：ゲノム技術の法といま② ～遺伝子操作をめぐる倫理
- 9回：脳死と臓器移植 ～いのちの優先順位とその格差
- 10回：再生医療と移植医療 ～臓器不足の打開策か、それとも…
- 11回：自分らしい死とは① ～尊厳死・安楽死の国際的動向
- 12回：自分らしい死とは② ～スイスの自殺幫助から考える
- 13回：サイボーグ技術で生きる ～これからの人間像は？
- 14回：エンハンスメントと人間の幸福 ～人体増強の行く先

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業で紹介する資料をよく読んでください。

日頃のニュース(健康医療、政治経済、科学技術、宗教文化等)に関心をもってください。

その他、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業内レポート（リアクションペーパー）:100%

テキスト/Textbooks

必ず購入しなければならないテキストはありませんが、下記の参考書をはじめ、講義内でも関連書籍を適宜紹介します。

参考文献 / Readings

島菌 進 『いのちを“つくって”もいいですか? 生命科学のジレンマを考える哲学講義』 NHK 出版 2016
9784140816943

マイケル・サンデル 『完全な人間を目指さなくてもよい理由』 ナカニシヤ出版 2010 9784779504761

オルダス・ハックスリー 『すばらしい新世界』 講談社文庫 1974 9784061370012

青野 由利 『ゲノム編集の光と闇』 筑摩書房 2019 9784480072023

勝島次郎 『先端医療と向き合う』 平凡社新書 2020 9784582859454

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

オーダーメイド医療最前線

Forefront of made-to-order medicine

人間の幸福追求と先端医科学技術との行方を問う

川上 祐美 (KAWAKAMI YUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FE137
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2500
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

オーダーメイド医療を通して生命医科学技術とその社会的背景について理解し、それをめぐる倫理的課題ならびに人間の尊厳のあり方を考える。

To understand life science technology and its social context, ethical issues surrounding it, and its impact on human dignity through discussions on personalized medicine.

授業の内容 / Course Contents

「オーダーメイド医療」とは、狭義には、個々人の遺伝子の形質に合わせた薬剤や治療法などを選択する医療のことを指します。広義には、人間の生き方死に方も個人の価値観が尊重されるという考えに基づき、生老病死へのあらゆる医学的介入を自律的に選択していくことを意味します。

そのような個人のニーズに合わせた「オーダーメイド医療」は、より効率的な治療効果が期待される一方で、遺伝子偏重の見方を強め、私たちの生命観や健康観に大きな影響をもたらす可能性があります。また、個を大切に、国家や社会に不当に制約・疎外されない自由な生き方を希求することは基本的な権利ですが、方向性を誤れば、格差を助長し共存存在としての他者理解を阻むことも危惧されます。

本講では、人間の幸福追求と先端医科学技術の利用との間の多層的問題に触れ、ともに考える時間を持ちたいと思います。

"Personalized medicine", in a narrow sense, refers to medical treatment in which drugs and therapies are selected according to the genetic traits of each individual. In a broader sense, it means self-determination in all medical interventions involving birth, aging, sickness, and death, based on the idea that individual values should be respected in matters of life and death.

While such "personalized medicine" tailored to the needs of the individual is expected to produce more efficient therapeutic effects, it may also reinforce a view that overemphasizes genetic information as well as have a significant impact on our views on life and health. It is a fundamental right to value one's individuality and to seek a free way of life that is not unreasonably restricted or marginalized by the state or society, but if misdirected, it may promote inequality and hinder mutual understanding among people who are vulnerable and dependent on each other.

In this course, I would like to touch on multi-layered issues that arise in the pursuit of human happiness and the use of advanced medical science and technology as well as invite the class to delve into these issues together.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オーダーメイド医療とは ～新たな恩恵と葛藤
- 2回：患者の権利擁護と自律① ～オーダーメイドに至る道のり
- 3回：患者の権利擁護と自律② ～バイオエシックスの4原則
- 4回：生殖医療とデザイナーベビー① ～親たち子たちの苦悩
- 5回：生殖医療とデザイナーベビー② ～生まれる命の操作
- 6回：ジェンダーの社会的変遷と科学的理解 ～LGBT理解の礎として
- 7回：ゲノム技術の法といま① ～ゲノムテクノロジーの光と影
- 8回：ゲノム技術の法といま② ～遺伝子操作をめぐる倫理
- 9回：脳死と臓器移植 ～いのちの優先順位とその格差
- 10回：再生医療と移植医療 ～臓器不足の打開策か、それとも…
- 11回：自分らしい死とは① ～尊厳死・安楽死の国際的動向
- 12回：自分らしい死とは② ～スイスの自殺幫助から考える
- 13回：サイボーグ技術で生きる ～これからの人間像は？
- 14回：エンハンスメントと人間の幸福 ～人体増強の行く先

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で紹介する資料をよく読んでみてください。

日頃のニュース (健康医療、政治経済、科学技術、宗教文化等) に関心をもってください。

その他、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業内レポート（リアクションペーパー）:100%

テキスト/Textbooks

必ず購入しなければならないテキストはありませんが、下記の参考書をはじめ、講義内でも関連書籍を適宜紹介します。

参考文献 / Readings

島菌 進 『いのちを“つくって”もいいですか? 生命科学のジレンマを考える哲学講義』 NHK 出版 2016
9784140816943

マイケル・サンデル 『完全な人間を目指さなくてもよい理由』 ナカニシヤ出版 2010 9784779504761

オルダス・ハックスリー 『すばらしい新世界』 講談社文庫 1974 9784061370012

青野 由利 『ゲノム編集の光と闇』 筑摩書房 2019 9784480072023

勝島次郎 『先端医療と向き合う』 平凡社新書 2020 9784582859454

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

大学と科学技術

Universities And Science Technology

文系・理系の区別を越えて、大学と科学技術について社会的・歴史的側面から考える

柿原 泰 (KAKIHARA YASUSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE138
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

大学・アカデミズムと科学技術の関係を多面的に理解する。文系・理系の区別を越えて、現代を生きる私たちみなにとって関わりのある、重要なものとして、科学技術の絡む社会的諸問題を考えるようにできることを目標とする。

Students will understand the relationships between universities/academism and science and technology from various perspectives. We will consider social issues involving science and technology as important and relevant for all of us living today beyond social and scientific distinctions.

授業の内容 / Course Contents

原子力や放射能、遺伝子操作、化学物質汚染など、科学技術が絡む現代社会のさまざまな問題をどのように読み解けばよいのだろうか。大学・アカデミズムと科学技術との関係を解きほぐしながら、科学史や科学社会学などの科学技術論の視点を紹介し、社会的側面から考察する。また、それらを大学・学問のあり方と絡めて考えていく。

How should we understand the various problems involving science and technology in modern society, such as

nuclear energy, radiation exposure, genetic modification, and chemical pollution, etc. While unraveling the relationships between universities/academism and science and technology, we will introduce the perspectives of history and sociology of science and technology, and consider them from a social aspects. In addition, we will consider them in relation to the way of universities/academism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション——講義のねらい 文系・理系の区別を越えて
- 2回：＜大学＞と＜科学技術＞ さまざまな機能や役割——歴史 概説
- 3回：「科学的」とは何か——科学の用いられ方、そして社会の変容
- 4回：科学研究の評価の仕組みと社会的観点——研究成果の発表と流通・普及
- 5回：科学者の規範・エートス
- 6回：ディスカッション：それぞれの入門
- 7回：「科学的」な問題と「社会的」な問題とが絡む領域
- 8回：「科学的」な問題と「社会的」な問題とが絡む領域——放射能をめぐる
- 9回：「科学的」な問題と「社会的」な問題とが絡む領域——BSEをめぐる
- 10回：科学知識が生成される過程に社会的なものが関わる——科学知識の社会学
- 11回：つくられる懐疑論——公害事件、環境問題
- 12回：大学・学問のあり方を問い直す——専門分野の細分化と連関
- 13回：大学・学問のあり方を問い直す——大学資本主義と公共性
- 14回：まとめ

(授業の進捗度・理解度等により、上記の順序や内容を変更する場合もある)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の講義内容を復習したうえで、リアクション、コメントを提出すること。それを通じて次回の予習をすること。

平常から自らの関心や問題意識を発展させ、深めるよう、積極的に書物を読み、自らの頭を使って考えること。

中間レポート、最終レポートの作成に向け、準備を早めに開始し、学習を進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回のリアクションペーパーの内容:30% 中間レポート:30% 最終レポート割合:40%

テキスト / Textbooks

塚原東吾ほか編 『よくわかる現代科学技術史・STS』 ミネルヴァ書房 2022 9784623092154 ○
適宜、レジюмеや資料を配布する。

参考文献 / Readings

金森修 『科学の危機』 集英社 2015 9784087207828

平川秀幸 『科学は誰のものか』 NHK 出版 2010 9784140883280

吉見俊哉 『大学とは何か』 岩波書店 2011 9784004313182

隠岐さや香 『文系と理系はなぜ分かれたのか』 星海社 2018 9784065123843

その他，講義時間中に随時，紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業中に使用するための配布資料（レジュメや参考資料）を「Canvas LMS」に電子ファイル形式でアップロードするので、自分の PC やタブレット等を持参して閲覧できるようにするか、またはプリントアウトして持参するようにすること。

その他/ Others

授業形態：講義形式を中心とし、教材はテキストの一部分を参照しながら、適宜、レジュメや参考資料を配布、板書も利用する。受講者数や進捗具合を考慮しつつ、グループ・ディスカッションの機会を設ける予定である。参考資料の配布やリアクションペーパー・課題の提出などに授業支援システムの「Canvas LMS」を使用する。

フィードバック：各回のリアクションペーパーの内容について、次回の授業のはじめにフィードバックを行なう。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

宇宙の科学

Astronomical Science

現在の宇宙像

小谷 太郎 (KOTANI TAROU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE139
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

私たちがどんな宇宙に住むのか知ることが目標とします。宇宙は広く古く、奇妙な天体現象で満ちています。宇宙の姿を知り、私たちの位置を確認します。

We will give an overview of the universe, which has a long history and is full of strange phenomena.

授業の内容 / Course Contents

現代宇宙物理学のえがく宇宙を概観します。宇宙の構造と成り立ち、その中で生まれた天体にはどのようなものがあるか、宇宙とヒトはどのように関わっているか、またその知識がどのような苦勞の果てに得られたか、紹介します。

Topics of the modern astrophysics are reviewed, such as the structure and history of the universe, various astrophysical objects, and the progress of the space science.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：宇宙の階層構造 ～イントロ

2 回：ケプラーの法則と太陽系

- 3回：ニュートン力学
 4回：電磁波天文学 ～電波、赤外線、可視光
 5回：電磁波天文学 ～紫外線、X線、ガンマ線
 6回：電磁波天文学 ～光子
 7回：系外惑星
 8回：宇宙の生命と液体の水
 9回：恒星進化と元素合成
 10回：超新星爆発とニュートリノ天文学
 11回：特殊相対性理論と時間のゆっくり化
 12回：重力波天文学
 13回：宇宙の階層構造 ～ダーク・マター
 14回：宇宙膨張 ～ドップラー偏移、ルメートル=ハッブルの法則、暗黒エネルギー

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業は復習しましょう。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業参加度:40%

テキスト / Textbooks

特に指定しません。

参考文献 / Readings

適宜指示します。

その他 / Others

春学期の「物質の科学 FE111」(担当: 小谷太郎) と、授業内容が一部共通です。合わせて履修する場合は御注意ください。

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

化学と社会

Chemistry and Society

物質-人間-社会のコンビネーション (Combination among substances, people, and society)

松尾 基之 (MATSUO MOTOYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE140
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

物質理解のサイエンスである化学は様々な新物質の発見あるいは合成とともに発展して来た。人々の生活や社会に化学物質がどのような影響を与えて来たのか、現代社会が直面する諸問題と化学物質との関わり合いについて、より発展的な理解に到達することを目標とする。

Chemistry, the science of understanding substances, has evolved together with the discovery or synthesis of various new substances. The goal is to reach a more advanced understanding of the impact of chemical substances on people's lives and society, and the relationship between issues that modern society faces and chemical substances.

授業の内容 / Course Contents

現代社会の直面する課題として、化学物質が原因となっている環境問題を取り上げ、物質と社会との関わり合いについて、自然科学の立場から考察を加える。また、化学が対象として来た物質とその社会とのつながりについて、「文明と物質」という観点から学習する。さらに、化学物質や原子力によるエネルギー生産についても触れる。物質-人間-社会の強い結びつきが現代社会を支える重要な要因の一つであることについて、学際的な

理解を求める。

Environmental problems caused by chemical substances are taken up as issues facing modern society, and the relationship between substances and society is considered from the viewpoint of natural sciences. In addition, we will learn about the connection between substances that chemistry has been targeting and their society from the perspective of "civilization and substances". We also touch on energy production from chemicals and nuclear power. We seek an interdisciplinary understanding that the strong bond among substances-people-society is one of the important factors that support modern society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス、序論
- 2 回：公害と地球環境問題
- 3 回：大気を通しての物質循環
- 4 回：水圏を通しての物質循環
- 5 回：地球の温暖化 1
- 6 回：地球の温暖化 2
- 7 回：オゾンの化学
- 8 回：フロンとオゾンホール
- 9 回：酸性雨
- 10 回：生物圏・生活圏の環境
- 11 回：文明と物質
- 12 回：放射線と放射能
- 13 回：原子力エネルギー
- 14 回：燃料電池と太陽光発電

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で使用する資料を順次配信するので予習・復習に利用して欲しい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内レポート:40%

テキスト / Textbooks

教科書は使用しない。授業で使用する資料を順次配信する。

参考文献 / Readings

渡辺範夫・葉袋佳孝 『あなたが捉える化学の世界』 三共出版 2004 9784782704752 3043

鳥居寛之・小豆川勝見・渡辺雄一郎 『放射線を科学的に理解する -基礎からわかる東大教養の講義-』 丸善出版 2012 9784621085974

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

地球の理解

Understanding of the Earth

地球・惑星の起源と進化を理解する / Origin and evolution of the Earth and planets

小玉 貴則 (KODAMA TAKANORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE141

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2500

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

我々の住む地球がどのように形成され、そして進化してきたのかを学ぶ。

This course aims to learn about the origin and history of the Earth.

授業の内容 / Course Contents

地球と他の惑星を比較し、地球の特殊性と普遍性を考える。太陽系の惑星や系外惑星から地球を考えることで、地球を理解する。

Compare the Earth with other planets and consider the uniqueness and universality of the Earth.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：概要/Introduction

2 回：地球の姿/The Earth

3 回：太陽・星/Sun and stars

4 回：太陽系惑星/Solar system planets

5 回：太陽系探査/Exploration of solar system

- 6回：惑星の作り方/Planetary formation
 7回：系外惑星(1)/Exoplanets(1)
 8回：系外惑星(2)/Exoplanets(2)
 9回：地球気候システム(1)/Climate system of the Earth(1)
 10回：地球気候システム(2)/Climate system of the Earth(2)
 11回：ハビタブル惑星/Habitable Planets
 12回：地球史/History of the Earth
 13回：地球の条件/Conditions of the Earth
 14回：まとめ/Summary

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 小レポート(毎授業後):50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

2016年度以降入学者：多彩な学び

2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

自然環境の保全

Nature conservation

<都市に住む鳥類を通して自然を理解する>

松原 始 (MATSUBARA HAJIME)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE142
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

鳥類は非常に身近であり、かつ目につきやすい生物であると同時に、環境を知る指標としても重要である。この授業は身近な都市に生息する野鳥を通して生態系・生物学の基礎を学び、保全問題、人間と自然の関わりについて知識を深めることを目的とする。

Birds are very familiar to us and conspicuous animal. Adding to that, they are important to access the environment and its changing. This class aims understanding basic ecology and biology to know natural conservation. For that aim, I introduce the life histories of urban birds and the relationship with human activities.

授業の内容 / Course Contents

東京のような大都市であっても、我々の周囲には多くの野鳥が生活している。鳥たちはどのような生活史をもつのか。また、その生活史は人間の活動とどのように関連し、どのような問題を引き起こしているのか。身近な鳥類を取り上げてその生活史をなるべく具体的に解説する。また身近な鳥類を通して、環境問題・保全問題を考える一助としたい。

We can see many species of birds around us, even in big cities like Tokyo. How they are living in urbanized

environment? How the urban environment affect on their life, and what problems is caused by that? I will pick up some topics of common birds in Japan. And hope this class can help your understanding environment and conservation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：都市鳥とよばれる鳥たち
- 2 回：鳥から見た都市の環境・採餌
- 3 回：鳥から見た都市の環境・営巣
- 4 回：鳥から見た都市の環境・ねぐら
- 5 回：カラスの博物誌
- 6 回：カラスの自然史
- 7 回：都市鳥とイメージ
- 8 回：餌付け
- 9 回：もっとも身近な鳥 スズメとツバメ
- 10 回：夜の都市鳥 光や騒音の影響
- 11 回：カワセミ
- 12 回：移入種と新たな都市鳥
- 13 回：緑地の構造と鳥類への影響、生物学的多様性の理解
- 14 回：総集編

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

家の中からでもよいので、身の回りにどんな鳥がいるか見ておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

特に指定しない

No requirement

参考文献 / Readings

特に指定しないが、授業中に参考となる図書や文献を紹介する。

No requirement, I will tell some adequate readings and papers

その他 / Others

特になし

No requirement

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

宇宙から地球のみらいを考える

Considering the Earth's Future from the Perspective of Space

天文学

聖路加国際大学：菊田文夫（St. Luke's International University：KIKUTA FUMIO）

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FE143
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	他
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2550
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	秋学期集中講義科目（学外）

授業の目標 / Course Objectives

- ・地球上で育まれてきた生態系や自然環境、そのベースである地球の長い活動の歴史、さらに太陽系や宇宙史といった大きな自然の動きの中で、私たちが「生かされている」存在であることに気づく。
- ・宇宙の成り立ちについての基礎的知識を深める。
- ・電波を観測することによって宇宙の謎を解き明かす「電波天文学」の研究とその成果についての知識を得る。
- ・遙か彼方に位置する星雲に想いを馳せ、星空の美しさを楽しむ。
- ・Students will come to realize that we live in the ecosystems and natural environments that have been nurtured over the course of the earth's long history and in the context of large natural movements such as the solar system and the universe.
- ・Students will develop basic knowledge about the formation of the universe.
- ・Students will acquire knowledge about the research and results thereof in the field of radio astronomy, which attempts to uncover the mysteries of the universe by observing radio waves.

・ We will enjoy the beauty of the starry sky and fall in love with the faraway nebulas.

授業の内容 / Course Contents

2025年2月5日(水)～8日(土)の3泊4日の集中講義として開講する。なお、集中講義にあたっては、2025年2月1日(土)9:30～11:30に、聖路加国際大学アリス・C・セントジョンメモリアルホールでオリエンテーションと90分の事前学習を予定している。これには必ず出席すること。事前学習と集中講義の詳細については、受講決定者に改めてmanabaを通じて通知する。

国立天文台野辺山宇宙電波観測所における授業では、天文学に関する基礎的な講義の後、施設見学、天体観測を体験するとともに、担当教員から提示される課題に、受講生全員が取り組む。最終回に予定している課題のプレゼンテーションに対しては、集中講義を担当するすべての教員から、その場でフィードバックを行うこととする。なお、質問は、各講義の時間内、終了直後、および昼休みに受け付けるので、履修者は授業に対して積極的に参加して欲しい。

The course will be offered as intensive lectures over 3 nights and 4 days from February 5 (Wed) to 8 (Sat) 2025. In addition, prior to the intensive lectures, a 120-minute advance learning session will be held from 9:30 to 11:30 on Saturday, February 1, 2025 in St.Luke's International University. Students must attend this advance learning session. The details of the advance learning session and intensive lectures will be notified to confirmed students again via manaba (St. Luke's International University Learning Support System).

In the class, after a basic lecture on astronomy, students will experience a tour of the facilities and then work on tasks presented by the faculty member in charge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：【事前学習／聖路加国際大学】

オリエンテーション (菊田 文夫)

2025年2月1日(土)9:30～

星空から宇宙の果てまで (立松 健一)

2025年2月1日(土)10:00～11:30

2回：【清泉寮】開講にあたって／オリエンテーション (菊田 文夫・立松 健一)

2025年2月5日(水)16:30～17:30

3回：【清泉寮】観測体験 (立松 健一)

2025年2月5日(水)19:30～21:00

4回：【国立天文台野辺山】電波天文学とは (西村 淳)

2025年2月6日(木)9:00～10:30

5回：【国立天文台野辺山】分子雲からの星の誕生 (西村 淳)

2025年2月6日(木)10:40～12:10

6回：【国立天文台野辺山】ブラックホールの不思議 (井上 允)

2025年2月6日(木)13:00～14:30

7回：【国立天文台野辺山】活動的な銀河 (井上 允)

2025年2月6日(木)14:40～16:10

8回：【国立天文台野辺山】究極の電波望遠鏡アルマ (立松 健一)

2025年2月6日(木)16:20～17:50

9回：【清泉寮】課題に取り組む時間(自己学習)

2025年2月6日(木)20:00～

10回：【国立天文台野辺山】電波で見る「天の川」 (西村 淳)

2025年2月7日（金）9：00～10：30

11回：【国立天文台野辺山】恐竜はブラックホールを見たか！（井上 允）

2025年2月7日（金）10：40～12：10

12回：【国立天文台野辺山】高地での天文学について（立松 健一）

2025年2月7日（金）13：00～14：30

13回：【国立天文台野辺山】施設見学（西村 淳）

2025年2月7日（金）14：40～16：10

【清泉寮】課題に取り組む時間（自己学習）

2025年2月7日（金）19：00～

14回：【清泉寮】課題のプレゼンテーション（立松 健一・井上 允・西村 淳・菊田 文夫）

2025年2月8日（土）9：00～12：30

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

集中講義の受講に際して、宮沢賢治「銀河鉄道の夜」を読んでおくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席態度：20% 担当教員から提示される課題：40% プレゼンテーションの内容：40%

特に、担当教員から提示される課題の成果と、そのプレゼンテーションの内容で評価します。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。必要な資料は、事前学習当日に配布する。

参考文献 / Readings

宮沢賢治 『新編 銀河鉄道の夜』 新潮文庫 1989 9784101092058

藤井旭 『宇宙への招待』 河出書房新社 2007 9784309252094

・宮沢賢治「銀河鉄道の夜」インターネット上に無料の「青空文庫」もあります。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし。好奇心と情熱をもって、最先端の「天文学」を学ぼうとする姿勢。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

課題のプレゼンテーションで使用するノート型PCと、必要な場合はHDMI接続アダプタ

その他 / Others

・夜間の天体観測があるので、十分な防寒着が必要。この時期の夜間は、気温が氷点下20℃近くまで下がることがあります。

・学びの場は、聖路加国際大学、国立天文台野辺山宇宙電波観測所、および公益財団法人キープ協会清泉寮とし、受講生は清泉寮に宿泊します。なお、交通費および宿泊費については自己負担とし、集合および解散は清泉寮新館（現地）とします。（宿泊費は3泊4日10食で税込48,000円程度の子定）

・清泉寮と国立天文台野辺山宇宙電波観測所を往復する2日分のバス料金として、1,000円程度の自己負担が生じます。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

<個人情報の取り扱い>

本科目を履修する場合、以下の個人情報を聖路加国際大学に提供します。

学生番号、氏名、性別、生年月日、現住所・電話番号、携帯電話番号、緊急連絡先住所・電話番号

個人情報は聖路加国際大学および立教大学にて管理のうえ、本科目の履修に関してのみ利用し、他の目的には利用しません。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

秋学期集中講義科目（学外）

カーボンニュートラル人材育成講座

Carbon Neutrality human resources development course

SDGsのうち、地球温暖化・気候変動問題について、より深く学び、国・地方公共団体・企業・大学などの取り組みを知り、自分たちで課題解決の提案をしてみたい学生のための講座

河村 賢治／村上 千里 (KAWAMURA KENJI/ MURAKAMI CHISATO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE144
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2500
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

近年、極端な熱波、干ばつ、熱帯低気圧の強大化、豪雨などの異常気象が、世界中の人々の生活に深刻な被害をもたらし、生態系にも大きな影響を与えています。これらの異常気象には地球温暖化が関係していると考えられており、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第6次評価報告書第1作業部会報告書（自然科学的根拠）では、人間の影響が大气、海洋及び陸域を温暖化させてきたことに疑う余地はないとされています。私たちの命の基盤である地球を、持続可能な形で次世代へつなげていくために、私たちはいま何をすべきかが問われています。

そ

In recent years, extreme weather events such as extreme heat waves, droughts, intensified tropical cyclones, and heavy rains have caused serious damage to people's lives around the world and have a great impact on ecosystems. Global warming is thought to be related to these extreme weather events, and according to the Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) Sixth Assessment Report, there is no doubt that human

influences have warmed the atmosphere, oceans and land. What we should do now is being asked in order to sustainably connect the earth, which is the foundation of our lives, to the next generation.

Therefore, the goals of this class are (1) to understand the current state of the global environment based on facts, (2) to learn deeply about efforts to reduce greenhouse gas emissions to zero as a whole (carbon neutral), and

(3) To develop human resources who can actually propose and implement measures to realize carbon neutrality in companies and organizations.

授業の内容 / Course Contents

受講生の皆さんには、リアルな課題に取り組んでもらいます。今年度は、地域と本学が連携しながらカーボンニュートラルを実現するにはどうすればよいか、という点に関連する具体的な課題を皆さんに投げかけます。皆さんには、授業を通じて課題解決に役立つ知識を学んでもらい、グループワークによって課題に対する自分たちのアイデアを練り上げ、最後にそのアイデアを披露してもらいます。こうした実践的な学びを通じて得られる力は、皆さんの社会課題解決への思いを実現していく上できっと役立つはずです。この授業では、第一線で活躍される方々にゲストスピーカーとして来ていただき、皆さんの学びをサポートします。本学キャンパスにおける関連施設の見学なども取り入れる予定です。なお、グループを作りますので、最後までこの授業を受講する気持ちのある方だけに参加してもらえればと思います。

また、村上千里先生（本科目兼任講師）に授業のサポートをしていただきます。

We ask all students to take on real challenges. This year, we will raise specific issues related to how local communities and Rikkyo University work together to achieve carbon neutrality. We ask all students to (1) learn useful knowledge for problem solving through class, (2) formulate your own ideas for problems through group work, and (3) finally present your ideas. The power gained through such practical learning will surely help you to realize your thoughts on solving social issues. In this class, we invite people who are active on the front lines to come as guest speakers to support your learning. We also plan to include tours of related facilities on our campus. In addition, since we will create a group, we hope that only those who are willing to take this class until the end will participate.

In addition, Lecturer Chisato Murakami (as a lecturer for this subject) will support the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：9/20 授業概要の説明・課題の提示・基礎知識①

アイスブレイキング、授業概要の説明・課題の提示、気候変動問題に関する基礎知識①

2回：9/27 基礎知識②

気候変動問題に関する基礎知識②

3回：10/4 大学生・社会人として気候変動問題への向き合い方を考えよう

ゲストスピーカー：本学在学時から気候危機問題に取り組まれていた宮崎紗矢香様（国立環境研究所 社会対話・協働推進室コミュニケーター/人間活動家）

4回：10/11 IPCC 報告書を踏まえて気候変動の現状や対策を知ろう

ゲストスピーカー：この分野における日本を代表する専門家であり、IPCC 報告書の執筆者の一人である江守正多先生（国立環境研究所地球システム領域上級主席研究員、東京大学未来ビジョン研究センター教授）

5回：10/18 国の取り組みを学ぼう

ゲストスピーカー：日本の環境政策を所管する環境省で気候変動に関する各種政策を担当されている方（環境省）

6回：10/25 事業会社の取り組みを学ぼう

ゲストスピーカー：気候変動問題への取り組みがビジネスの世界でも重要な関心事になっている中、私たちに
とって身近な業界でカーボンニュートラルの取り組みを進めている事業会社の方

7回：11/8 地域新電力や再生可能エネルギーについて学ぼう

ゲストスピーカー：再生可能エネルギーの利用拡大、エネルギーの地産地消、地域経済の活性化などの同時解
決に取り組んでいる秩父新電力の滝澤隆志様（秩父新電力株式会社 COO）

8回：11/22 カーボンニュートラルに関する本学の取り組みを学ぼう（キャンパス内施設見学が含まれる予定
です）

ゲストスピーカー：本学において省エネ等を含めた施設管理等を担当しておられる餅田忠様および施設課の方
（立教学院総務部施設課）

9回：11/29 カーボンニュートラルに関する地域の取り組みを学ぼう

ゲストスピーカー：豊島区において環境施策に係る計画策定や地球温暖化対策等を担当しておられる石井聡美
様（豊島区 環境清掃部 環境政策課 環境計画グループ）および新座市環境課の方（各キャンパスに分かれて実
施します）

10回：12/6 グループワーク（大学・地域のカーボンニュートラルを進めるための企画を考えよう。以下同
じ）

プレゼンテーションの準備

11回：12/13 グループワーク

プレゼンテーションの準備

12回：12/20 グループワーク

プレゼンテーション中間報告

13回：1/10 グループワーク

プレゼンテーション準備

14回：1/17 プレゼンテーション

ゲストスピーカー（プレゼンテーションに対するコメント）：地域および本学の方

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

最終回のプレゼンテーションに向けて、授業外でも相応の準備時間が必要になります。

また、受講生の皆さんは、各回のテーマに関連する情報を新聞等で収集しておき、先生方の話をより深く理解
できるよう努めてください。先生方から予習・復習の指示がある場合には、各回の資料に掲載されますので、
それに従ってください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題に対するプレゼン 2回:50% 授業時の発言・グループワークへの協力・リアクシ
ョンペーパー等:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

グループワーク時にはパソコン等で作業をしてもらいます。

その他/ Others

・第一線で活躍されるゲストスピーカーの先生方のお話を聞けるだけでなく、受講生自らが課題解決のためのアイデアを検討していく実践型の授業です。

・本授業は対面授業ですが、新座キャンパスと池袋キャンパスをオンラインで繋いで授業を行います。

(新座キャンパス担当：河村 賢治、池袋キャンパス担当：村上 千里)

新座キャンパスで授業を受ける場合は、FE022 のシラバスを参照してください。

池袋キャンパスで授業を受ける場合は、FE144 のシラバスを参照してください。

履修登録後の受講キャンパスの変更は認められません。

注意事項

2016 年度以降入学者：多彩な学び

2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

立教ゼミナール5

Seminars for Students of Rikkyo University 5

現代社会を支える化学：

グループ調査とプレゼンテーション

田淵 真理 (TABUCHI MARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE171

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2540

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

化学に関する技術の調査を通して、現代社会に欠かせない化学への理解と歴史への理解を深め、グループ単位での協調作業によって、プレゼンテーションやディスカッション、レポートにまとめる能力を高める。

Through research on chemical technology, we will deepen understanding of chemical technology and its history that supports the modern society, and improve our ability to compile presentations, discussions, and reports through collaborative work on a group basis.

授業の内容 / Course Contents

どのようなテーマがふさわしいかを最初に考え、テーマごとに5人くらいのグループを作る。協力して調査し、プレゼンテーションを行い、他のグループとの意見交換や討論を行う。そのような作業を通して情報技術への理解を深める。場合によっては授業計画を一部変更することもある。

Students begin to think about what kind of theme is appropriate, and we then create a group of about 5 students for each theme. Collaborate on research, give presentations, exchange ideas and discuss with other groups.

Deepen understanding of information technology through such work. In some cases, the lesson plan may be partially changed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：全体の概要説明・グループ分け
- 2 回：グループでの研究テーマ探し (1/2)
- 3 回：グループでの研究テーマ探し (2/2) + テーマ決定
- 4 回：グループごとの調査 (1/3)
- 5 回：グループごとの調査 (2/3)
- 6 回：グループごとの調査 (3/3)
- 7 回：発表会・ディスカッション+新規グループ分け
- 8 回：グループでの研究テーマ探し (1/2)
- 9 回：グループでの研究テーマ探し (2/2) + テーマ決定
- 10 回：グループごとの調査 (1/3)
- 11 回：グループごとの調査 (2/3)
- 12 回：グループごとの調査 (3/3)
- 13 回：発表会・ディスカッション
- 14 回：まとめ (最終レポート提出)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

現代の情報社会を支える化学との関わりについて、何を知りたいか関心を持ってテーマをいくつかあげておくことが望ましい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と授業態度:40% 調査した成果:40% まとめのレポート:20%

テキスト / Textbooks

基礎となる知識については、適宜紹介します。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC を準備

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

多彩な学び

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

Science Studies

Science Studies

災害の科学と管理/Disaster Science and Management, -theory and practice-

目黒 公郎 (MEGURO KIMIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE501
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2531
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

防災対策の基本を理解するとともに、適切な防災対策の立案と実施において最も重要な「災害イマジネーション」を身につけること。「災害イマジネーション」とは、ハザードと対象地域の地域特性（自然環境特性と社会環境特性から構成）と発災時の条件（季節や天候、曜日や時刻）を踏まえた上で、発災からの時間経過に基づいて、自分の周りで発生する状況を正しく想像する能力。この能力が最も重要な理由は、人間は自分が想像できないことに対して、適切に備えたり、対応したりすることは絶対にできないためである。

In addition to understanding the basics of disaster management, acquire the most important "disaster imagination" in planning and implementing appropriate disaster countermeasures. "Disaster Imagination" is an ability for correctly imaging what will happen around you when you will be attacked by a hazard as time goes based on the following three points that are hazards, regional characteristics of the target area (consisting of natural environmental characteristics and social environmental characteristics) and the time factors of the occurrence of the hazard (season, weather, day of the week and time). The reason why this ability is most important is that humans can never adequately prepare for or respond to things they cannot imagine.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、各種の自然の脅威（ハザード）によって生じる様々な現象を理解するとともに、それらが社会に与える負の影響(障害・被害)を最小限に抑えるためのハードとソフト対策、さらに発災時のタイミングを有効活用した「より良い復興（Build Back Better）」を実現する総合的災害管理について学ぶ。また防災の担い手である「自助・共助・公助」の関係と今後の在り方についても学ぶ。

Through this lecture, you can understand the various phenomena caused by various natural threats (hazards), as well as disaster countermeasures consist of both structural (hardware) and non-structural measures to minimize the negative impacts on society. Also, you can learn about integrated disaster management that effectively utilizes the timing of the disaster as an important opportunity to achieve “Build Back Better” that makes it possible to improve affected area better than before the hazard attacks. Moreover, you can learn about the relationship among self-help effort, mutual-assistance, and public-support, which are responsible for disaster management, and how they should be in the future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：講義と日本の災害の概要（過去の大災害からの教訓）
Introduction of the class and disasters in Japan (lessons learnt from past major disasters)
- 2 回：地域社会と都市災害
Changes in disaster legal systems and disaster management systems
- 3 回：害法制度と防災体制の変化
Mechanism of disaster and disaster imagination
- 4 回：総合防災と災害ライフサイクル
Comprehensive disaster management and disaster life cycle
- 5 回：造的（ハード）対策と非構造的（ソフト）対策、災害想像力
Structural (hard-) and non-structural (soft-) countermeasures
- 6 回：気象災害とその対応
Meteorological disasters and their management
- 7 回：地震災害とその対応
Earthquake disaster and its management
- 8 回：津波災害とその対応
Tsunami disaster and its management
- 9 回：延焼災害とその管理
Disaster due to Fire spread and its management
- 10 回：土木インフラと建築構造物の安全
Safety of civil infrastructure and building structures
- 11 回：災害情報に関するマスメディア・マイクロメディアの課題
Issues of mass media and micro media concerning disaster information
- 12 回：備えと災害対応（リスクマネジメント・クライシスマネジメント）
Preparedness and disaster response (risk management and crisis management)
- 13 回：災害マニュアルと災害情報システム
Disaster manual and disaster information system
- 14 回：回復とビルド・バック・ベター、総合討論

Recovery and Build Back Better, and general discussion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

表面的な現象のみに目を向けるのではなく、物事の道理を理解するために隠されたメカニズムに注意して、観察すること。

Instead of looking only at superficial phenomenon, you are required to pay attention to and observe hidden mechanisms, which governs human decision and/or behavior, in order to understand the reason

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義への出席及び授業への取り組み:30% 質疑応答の評価:30% 最終レポート
割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Nature of the Earth

Nature of the Earth

小林 潤司 (KOBAYASHI JUNJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE502
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 4
科目ナンバリング： CMP2531
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

地球は巨大な自然科学のシステムの集合体であり、それぞれを個別に理解するのではなく、相互に連携させながら理解することが、地球環境の理解には重要です。本コースでは、地球の自然に関わる様々な側面を取り上げ、知識を得るとともに、自分自身の地球への問いかけを持つことを目標としています。

The earth is a collection of huge natural science systems, and it is important to understand the global environment not by understanding each one individually, but in conjunction with each other. This course covers various aspects related to the earth's nature, with the goal of gaining knowledge and asking your own questions about the earth.

授業の内容 / Course Contents

本コースでは、広範囲にわたる膨大な主題を扱います。地質学、天文学、気象学、海洋学の科学はすべて地球科学の範囲内に含まれます。したがって、次の内容はカリキュラム全体に含まれますが、個々のコースセッションでは程度に応じて重み付けされる場合があります。

The course "Nature of the Earth" addresses a broad and voluminous body of subject matter. The Sciences of Geology, Astronomy, Meteorology and Oceanography are all included within the purview of Earth Science.

Therefore, the following contents will be included in the overall curriculum but may be weighted to varying degrees in individual course sections.

授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1 回：Orientation/Scientific Thinking
- 2 回：The Earth System
- 3 回：Plate Tectonics: The Unifying Theory
- 4 回：Earth Materials: Minerals and Rocks
- 5 回：Igneous Rocks: Solids from Melts
- 6 回：Sedimentation: Rocks Formed by Surface Processes
- 7 回：Metamorphism: Alteration of Rocks
- 8 回：Clocks in Rocks: Timing the Geologic Record
- 9 回：History of the Continents
- 10 回：Geobiology: Life Interacts with Earth
- 11 回：Volcanoes
- 12 回：Earthquakes
- 13 回：Exploring Earth's Interior
- 14 回：The Climate System
- 15 回：Weathering, Erosion, and Mass Wasting
- 16 回：The Hydrologic Cycle and Groundwater
- 17 回：Stream Transport: From Mountains
to Oceans
- 18 回：Winds and Deserts
- 19 回：Coastlines and Ocean Basins
- 20 回：Landscape Development
- 21 回：Guest Lecture
- 22 回：Guest Lecture
- 23 回：Guest Lecture
- 24 回：Guest Lecture
- 25 回：Student Presentations
- 26 回：Student Presentations
- 27 回：Student Presentations
- 28 回：Student Presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド* (パワポ* 等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

The course is offered in interactive lecture and seminar styles. There will be reading requirement of topics as suggested in class. Students will be required to do presentations at the end of course and students will be

expected to prepare their presentat

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presentation:40% Reflection sheets on each class:30% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

John P. Grotzinger and Thomas H. Jordan Understanding Earths W.H.Freeman and Company 2014
9781464138744 -

The materials will be provided in the class and the students are not required to buy the textbook.

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC

その他 / Others

The course will be scheduled twice a week. Classes are held in both lecture and seminar styles. The number of sessions for the students' presentation will change according to the number of students registered.

Students are required to check the feedback g

注意事項

- ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム 所属学生/特別外国人学生が履修
- ・この授業は、英語圏での大学の授業を想定し、全て英語で行う
- ・以下の英語力を有していることが履修の目安になる

英検準1級, IELTS 5.5, TOEFL®iBT 72, TOEIC®L&R 785

- ・週2回開講
- ・2016年度以降入学者：多彩な学び
- ・2015年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Understanding of Agricultural Science

Understanding of Agricultural Science

General understanding of agriculture and agricultural science

キム, O. (KIM OK-KYUNG)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE503

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2531

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course will provide insights regarding how we need to concern with agriculture and agricultural science by looking through a history and current issues of the agriculture and agricultural sciences.

授業の内容 / Course Contents

We are currently facing to several agricultural problems coming from climate change, population pressure, resource limitation, and so on. This course will be helpful to understand the history and current issues on agriculture and agricultural science. Based on the comprehensive understanding of those points, we will discuss how the agriculture should be practicing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction and outline of course

2 回： Diverse fields on agricultural science

3 回： Contribution of agricultural science onto SDGs

4 回： Origin and advance of traditional agriculture: Overview

- 5 回：Origin and advance of traditional agriculture in Japan
 6 回：History and impact of the Green revolution: Overview
 7 回：The Green revolution in Asia (I)
 8 回：The Green revolution in Asia (II)
 9 回：The Green revolution in Latin America (I)
 10 回：The Green revolution in Latin America (II)
 11 回：Agriculture with biotechnology (I)
 12 回：Agriculture with biotechnology (II)
 13 回：Agriculture of the future
 14 回：Review and wrap-up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Related readings (research paper or newsletter) and preparation for personal or group presentations will be required.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Participation and attitude:30% Presentations:40% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

No assigned textbook.

参考文献 / Readings

Reference readings will be provided in class.

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Importance of Global Plant Health

Importance of Global Plant Health

Occurrence and management of plant diseases

キム, O. (KIM OK-KYUNG)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE504

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2531

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course will provide the knowledge about the causes and control of plant diseases. As learning about why and how we protect the plants, you may get an idea for sustainable and eco-friendly practical agriculture system.

授業の内容 / Course Contents

Plants are essential of human beings, making up 80% of the food we eat. Food plants (crops) are suffering from diseases, pests, and weeds; consequently, 20 to 40% of crops are destroyed in every year. Along with a development of transportations leading to an active inter- and intra-national trading and travelling, we must pay attention to reduce a risk of plant pests and diseases spreading.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction and outline of course

2 回： Overview of the food and environmental security

3 回： Development of disease in plants

4 回： Plant disease in crops (I)

- 5 回：Plant disease in crops (II)
 6 回：Plant disease in crops (III)
 7 回：Plant disease in crops (IV)
 8 回：Diagnosis of plant diseases (I)
 9 回：Diagnosis of plant diseases (II)
 10 回：Diagnosis of plant diseases (III)
 11 回：Control of plant diseases
 12 回：Integrated pest management in crops (I)
 13 回：Integrated pest management in crops (II)
 14 回：Review and wrap-up

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Related readings (research paper or newsletter) and preparation for personal or group presentations will be required.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Participation and attitude:30% Presentations:40% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

No assigned textbook.

参考文献 / Readings

Reference readings will be provided in class.

注意事項

- ・ F 科目中級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Ecology:Environment and Sustainability 1

Ecology:Environment and Sustainability 1

Ecology: Environment and Sustainability 1

モック, J. (MOK JEFFREY)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE505

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期 1

単位： 1

科目ナンバリング： CMP2531

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Students will be able to discuss the major ecological and environmental problems and challenges that Earth is facing and its sustainability issues. 1) Identify and explain the concerns about the extent of the current ecological challenges, their impact on the environment and human life including personal responsibility. 2) Evaluate and propose solutions to current environmental problems through collaboration. 3) Identify arguments, nuances and implied meaning of texts and digital media on current environmental issues.

授業の内容 / Course Contents

Ecological threats, Climate change, Clean water, World population, and Environmental Challenges.

授業計画(授業計画数：7) / Course Schedule

1 回： Overview of Ecology and environment issues

2 回： Ecological threats

3 回： Climate change

4 回： Clean water

5回：World population

6回：Environmental Challenge I

7回：Evaluation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Completing weekly readings

Preparing for group/individual presentations or research paper

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Team Quizzes:30% Individual Quizzes:30% Final Essay/Presentation:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項**

- ・ F 科目中級 (外国語による総合系科目)
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

Ecology:Environment and Sustainability 2

Ecology:Environment and Sustainability 2

Ecology: Environment and Sustainability 2

モック, J. (MOK JEFFREY)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE506

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期 2

単位： 1

科目ナンバリング： CMP2531

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

Students will be able to discuss the major ecological and environmental problems and challenges that Earth is facing and its sustainability issues. 1) Identify and explain the concerns about the extent of the current ecological challenges, their impact on the environment and human life including personal responsibility. 2) Evaluate and propose solutions to current environmental problems through collaboration. 3) Identify arguments, nuances and implied meaning of texts and digital media on current environmental issues.

授業の内容 / Course Contents

COP 29

Fast Fashion

Food

Loss and Waste

Transportation

Sustainable Lifestyles

授業計画(授業計画数：7) / Course Schedule

- 1 回：COP 29
 2 回：Fast Fashion
 3 回：Food Loss and Waste
 4 回：Transportation
 5 回：Sustainable Lifestyles
 6 回：Preparation for Presentation or Essay
 7 回：Evaluation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド* (パワポ* 等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Completing weekly readings

Preparing for group/individual presentations or research paper

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation:30% Quizzes:30% Final Essay/Presentation:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項**

- ・ F 科目中級 (外国語による総合系科目)
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 550 点相当以上の英語力を有することが望ましい
- ・ 2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・ 2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 主題別 A

Topics in Environment

Topics in Environment

二ノ宮リム (NINOMIYA-LIM SACHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE507
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2531
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course aims at letting students reach the objectives as follows:

- To gain an overview of environmental issues in the current world, with a particular focus on climate change, biodiversity loss, and pollution.
- To critically review the current socio-economic system in relation to such issues.
- To feel empowered to participate in collective action to tackle environmental issues and create a sustainable and equitable society.

授業の内容 / Course Contents

The world we live in is facing the environmental crises. The triple planetary issues caused by human activities – climate change, biodiversity loss, and pollution – impact the lives of people all over the world though in an unfair pattern. What we do and how we live are all related to both the causes and effects of such a situation. In this course, we overview the current environmental crises, reflect on the socio-economic system we live in, and share ideas on how we can tackle the crises with collective action, through lectures, movies, discussions, and student presentations.

Topics and contents are to be coordinated according to the students' interest.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction – Sharing Interests and Objectives
- 2 回：The Triple Planetary Crises – Interconnected Environmental Issues and the Global Society
- 3 回：Pollution I
- 4 回：Pollution II
- 5 回：Biodiversity Loss I
- 6 回：Biodiversity Loss II
- 7 回：Climate Change I
- 8 回：Climate Change II
- 9 回：Sustainability and Environmental Justice
- 10 回：Just Transition (Guest Lecturer)
- 11 回：Dialogue and Communication for Sustainability (Guest Lecturer)
- 12 回：Transformation toward Sustainability – Discussion
- 13 回：Student Presentation and Discussion I
- 14 回：Student Presentation and Discussion II

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students will need to prepare for the presentation at the end of the course. They are also expected to connect their learning in this course with their everyday life and work outside of class. Other required study will be announced in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Contribution to discussion in class:20% Reflection sheet after each class:20%

Presentation:30% Final report:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

To be distributed and announced in class.

その他 / Others

Students are required to check the feedback given by the course instructor.

注意事項

- ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム 所属学生/特別外国人学生が履修
- ・この授業は、英語圏での大学の授業を想定し、全て英語で行う
- ・以下の英語力を有していることが履修の目安になる

英検準1級, IELTS 5.5, TOEFL®iBT 72, TOEIC®L&R 785

- ・2016年度以降入学者：多彩な学び

・2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／主題別 A

Topics in Natural Science

Topics in Natural Science

A Global approach of life science: genes, cells, individuals and populations.

池渕 万季 (IKEBUCHI MAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE508
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2531
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

生命科学の知識や技術が現在の社会とどう関わり、どのような影響を与えるのかを理解し、考察する。

Students will understand and consider how knowledge and technology of life sciences interact with and affect modern society.

授業の内容 / Course Contents

個体レベルから細胞レベルまで、生命科学に関して広く理解する。その上で、生命科学的技術が我々の社会にどう貢献しているのかを知り、今後何ができるのかを考える。義務教育以来、生命科学分野になじみのない学生にもわかりやすく、かつ、最新の生命科学現象にも触れられるような構成にする。

Students will gain a broad understanding of life sciences from the individual level to the cellular level. They will then know how knowledge and technology of life science contributes to our society and think about what we can do in the future. The course will be structured so that students who do not have enough fundamental knowledge with the field of life sciences can easily understand, and we will touch upon the latest life science phenomena.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction to the course.
 2 回：Social 1_Animal communication 1: auditory communication, visual communication
 3 回：Social 2_Animal communication 2: olfactory communication, multisensory communication
 4 回：Social 3_enviroment, conservation
 5 回：Neuroscience 1_ Neuron: structure, function, action potentials, a neural network
 6 回：Neuroscience 2_ Brain: structure, function, brain evolution
 7 回：Neuroscience 3_ Brain: sensory and motion, memory
 8 回：Neuroscience 4_Hormon
 9 回：Neuroscience 5_brain science and medicine, brain and technology
 10 回：Cells and genes 1_Genes
 11 回：Cells and genes 2_Cells: structure and function
 12 回：Cells and genes 3_Biotechnology
 13 回：Cells and genes 4_ assisted reproductive technology, medicine and social environment
 14 回：Wrap up of the course

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

To be instructed as needed.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and participation:50% Position papers:30% Final report and/or presentation:20%

Full attendance is required. A minimum of 11 attendances will be required to acquire the course credits in general.

テキスト / Textbooks

Readings will be provided.

参考文献 / Readings

To be announced in class.

注意事項

- ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム 所属学生/特別外国人学生が履修
- ・この授業は、英語圏での大学の授業を想定し、全て英語で行う
- ・以下の英語力を有していることが履修の目安になる

英検準 1 級, IELTS 5.5, TOEFL®iBT 72, TOEIC®L&R 785

- ・2016 年度以降入学者：多彩な学び
- ・2015 年度以前入学者：主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

アウトドアの知恵に学ぶ

Learning from the Outdoors

人と自然の本質的關係

Think about the essential relationship between people and nature

鹿熊 勤 (KAKUMA TSUTOMU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE601

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

人が生きるために見出し伝承してきたさまざまな生活技術や、平等・協力を前提とした社会的なしくみ。

これらの源流は狩猟・漁労・採集で暮らした縄文時代にまでさかのぼることができます。縄文の知恵は完全に消失してしまっただけではなく、今も農山村の伝統的な生活技術や、自然の中で行なう娯楽の中にエッセンスとして生きています。これら「アウトドアの知恵」について知っておくことは、非常時の行動選択に役立つと同時に、自然と人間の本質的な関係を振り返り、持続可能な社会の在り方を考えるヒントになります。

A variety of life skills that people have found and passed down for living, and social mechanisms based on equality and cooperation. These origins can be traced back to the Jomon period, when people hunted, fished, and gathered food. The wisdom of Jomon people has not completely disappeared, and still lives as an essence in the traditional life skills of farming and mountain villages and entertainment performed in nature. Knowing this "wisdom of the outdoors" is useful for selecting actions during emergencies, as well as for providing insights on the essential relationship between nature and human beings and how to think about a sustainable society.

授業の内容 / Course Contents

スライド写真による解説を中心に進行します。テーマに応じて実体標本を回覧し、ゲストスピーカーからより専門的なお話を伺う予定です。本授業で扱う「アウトドア」とは、自然を上手に利用する技術や知恵全般のことであり、テントの張り方やバーベキューの方法といった個別のレジャーテクニックを学ぶ場ではありません。なお「命」についても多く取り上げます。狩猟などの回では人により不快に感じる画像も扱いますが、人間の営みを振り返るうえで避けることのできないテーマですので、ご承知おきください。

We will focus on commentary on slides. We will circulate actual samples according to the theme, and plan to hear more specialized stories from guest speakers. "Outdoor" in this class refers to techniques and wisdom in general that use nature well, and is not a place to learn individual leisure techniques such as how to put up a tent or barbecue methods. In addition, we deal with "life" a lot. While we will use images that may be unpleasant when we cover hunting, etc., it is an unavoidable theme to look back on human activities, so please be aware of this.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス guidance
- 2 回：採集の知恵 Wisdom of Gathering
- 3 回：地球のリズムで暮らす Living with the rhythm of the earth
- 4 回：自然の毒と薬 Natural medicines and poisons
- 5 回：漁撈の知恵 1 Wisdom of fishing1
- 6 回：漁撈の知恵 2 Wisdom of fishing2
- 7 回：発酵の知恵 Wisdom of fermentation
- 8 回：昆虫へのまなざし 1 Insects and human life1
- 9 回：昆虫へのまなざし 2 Insects and human life2
- 10 回：工芸の知恵 wisdom of crafts
- 11 回：日本人と野生動物 Japanese and wild animals
- 12 回：狩猟の知恵 Wisdom of hunting
- 13 回：火と人間 Fire and human
- 14 回：刃物と人間 Knife and human

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に関心を持ったことについて継続的に調べることが望ましい

It is advisable to check on your own interests

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

かくまつとむ 『糧は野に在り 現代に息づく縄文的生活技術』 農文協 2015 9784540141966 ○

参考文献 / Readings

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 A

物質の科学 1

Science of Matter 1

私たちの世界を構成する物質

木村 直樹 (KIMURA NAOKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE602
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

私たちの住む世界を構成する物質をミクロな視点から紐解きます。

最終的に世界を構築する物質の構造を理解し、自然現象や文明技術の仕組みを考える力を養うことを目標とします。

理科系科目(物理・化学・地学・生物)の既習の有無は問いません。

We review physical matters that comprise the world from a micro perspective.

This course aims to finally understand the structure of physical matters and acquire the ability to consider questions about nature and technology.

授業の内容 / Course Contents

『未知な事象に興味を持つ心』（好奇心）は科学技術を発展させるために必要な原動力です。

本講義のテーマでもある『私たちの世界を構成する物質』は人類にとって最も根源的かつ重要な問いと言えます、古くから科学者の好奇心を駆り立ててきました。

先人の努力の結果、現代では既に多くの謎が解かれています。

本講義では、この根源的な問いに関して人類が解き明かしてきた解釈を、時には最新の研究を紹介しながら解説します。

理科系科目(物理・化学・地学・生物)の既習の有無は問いません。

Interest in unknown phenomena (curiosity) is a driver necessary for the development of science and technology. “Physical matters that comprise our world,” the theme of this course, is one of the most fundamental and significant questions for us and has accelerated the activity of scientists.

As a result of efforts by many scientists, many mysteries have already been solved.

In this course, interpretations given to this fundamental question by researchers will be explained by introducing recent research.

Science subjects (physics, chemistry, geoscience, biology) are not prerequisites for students who take this class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション～科学への招待
- 2 回：物質の階層～素粒子から宇宙まで
- 3 回：素粒子と相互作用
- 4 回：原子核と核図表
- 5 回：原子と周期表、そして分子
- 6 回：荷電粒子・イオン
- 7 回：量子論と相対論 ① ～ その位置づけ、前期量子論
- 8 回：量子論と相対論 ② ～ 量子の概念
- 9 回：量子論と相対論 ③ ～ 相対性理論の概念
- 10 回：量子論と相対論 ④ ～ 相対論がもたらす効果
- 11 回：宇宙の歴史と物質の進化
- 12 回：星の歴史と物質の進化
- 13 回：残された謎・未解決問題への挑戦
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内容で興味を持ったことがあれば、独自に深く調べることをお勧めします。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回のリアクションペーパー:70% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

理科系科目(物理・化学・地学・生物)の既習の有無は問いません。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 A

物質の科学 2

Science of Matter 2

化学的視点で物質の機能や現象を理解するとともに、労働現場における化学物質管理について学ぶ

宮里 裕二 (MIYAZATO YUJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE603

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ・ 化学トピックを相手に説明できる
- ・ 化学的視点で化学物質の性質や現象を説明できる
- ・ 労働安全衛生において化学物質をどのように取り扱う必要があるか説明できる
- ・ Students will become able to explain chemical topics.
- ・ Students will become able to explain the nature of chemical substances and chemical phenomena from the chemical viewpoint.
- ・ Students will become able to explain how chemical products are handled in labor industrial field.

授業の内容 / Course Contents

我々の身のまわりにある様々な物質あるいは化学現象がどのような性質に基づいて利用されているのか、そして労働現場における化学物質管理について講義の中で紹介する。

We will introduce the properties of various substances and chemical phenomena around us, and managements for chemical substances in the labor industrial in japan.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（講義の概要説明等）
- 2回：原子のその成り立ちと物質
- 3回：化学の基本（物質量、化学反応式）
- 4回：超分子とよばれる分子
- 5回：物質の色
- 6回：光合成と呼吸
- 7回：薬に利用される化学物質
- 8回：オゾン層を破壊する物質
- 9回：地球温暖化に影響を与える物質
- 10回：資源としての化学物質
- 11回：食品中の化学物質
- 12回：労働安全衛生法における化学物質の取扱い
- 13回：化学物質による労働災害とリスクアセスメント
- 14回：小論文の作成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の講義内容について書籍やインターネットなどで概要を調べておくことを薦めます。

14回目の授業では、各自が調べた化学トピックについて小論文を作成してもらいますので日頃からその準備作業を進めて下さい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎授業時のコメントペーパー:50% 課題への取り組み:30% 小論文の内容:20%

如何なる理由に関わらず、欠席回数が4回を超えたらD評価とします

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項**

2015年度以前1年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 A

アウトドアの知恵に学ぶ

Learning from the Outdoors

人と自然の本質的関係を考える

Think about the essential relationship between people and nature

鹿熊 勤 (KAKUMA TSUTOMU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE701

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

人が生きるために見出し伝承してきたさまざまな生活技術や、平等・協力を前提とした社会的なしくみ。

これらの源流は狩猟・漁労・採集で暮らした縄文時代にまでさかのぼることができます。縄文の知恵は完全に消失してしまっただけではなく、今も農山村の伝統的な生活技術や、自然の中で行なう娯楽の中にエッセンスとして生きています。これら「アウトドアの知恵」について知っておくことは、非常時の行動選択に役立つと同時に、自然と人間の本質的な関係を振り返り、持続可能な社会の在り方を考えるヒントになります。

A variety of life skills that people have found and passed down for living, and social mechanisms based on equality and cooperation. These origins can be traced back to the Jomon period, when people hunted, fished, and gathered food. The wisdom of Jomon people has not completely disappeared, and still lives as an essence in the traditional life skills of farming and mountain villages and entertainment performed in nature. Knowing this "wisdom of the outdoors" is useful for selecting actions during emergencies, as well as for providing insights on the essential relationship between nature and human beings and how to think about a sustainable society.

授業の内容 / Course Contents

スライド写真による解説を中心に進行します。テーマに応じて実体標本を回覧し、ゲストスピーカーからより専門的なお話を伺う予定です。本授業で扱う「アウトドア」とは、自然を上手に利用する技術や知恵全般のことであり、テントの張り方やバーベキューの方法といった個別のレジャーテクニックを学ぶ場ではありません。なお「命」についても多く取り上げます。狩猟などの回では人により不快に感じる画像も扱いますが、人間の営みを振り返るうえで避けることのできないテーマですので、ご承知おきください。

We will focus on commentary on slides. We will circulate actual samples according to the theme, and plan to hear more specialized stories from guest speakers. "Outdoor" in this class refers to techniques and wisdom in general that use nature well, and is not a place to learn individual leisure techniques such as how to put up a tent or barbecue methods. In addition, we deal with "life" a lot. While we will use images that may be unpleasant when we cover hunting, etc., it is an unavoidable theme to look back on human activities, so please be aware of this.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス guidance
- 2 回：採集の知恵 Wisdom of Gathering
- 3 回：地球のリズムで暮らす Living with the rhythm of the earth
- 4 回：自然の毒と薬 Natural medicines and poisons
- 5 回：漁撈の知恵 1 Wisdom of fishing 1
- 6 回：漁撈の知恵 2 Wisdom of fishing 2
- 7 回：発酵の知恵 Wisdom of fermentation
- 8 回：昆虫へのまなざし 1 Insects and human life1
- 9 回：昆虫へのまなざし 2 Insects and human life 2
- 10 回：工芸の知恵 wisdom of crafts
- 11 回：日本人と野生動物 Japanese and wild animals
- 12 回：狩猟の知恵 Wisdom of hunting
- 13 回：火と人間 Fire and human
- 14 回：刃物と人間 Knife and human

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に関心を持ったことについて継続的に調べることが望ましい

It is advisable to check on your own interests

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト/ Textbooks

かくまつとむ 『糧は野に在り 現代に息づく縄文的生活技術』 農文協 2015 9784540141966 ○

参考文献 / Readings

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 A

物質の科学 1

Science of Matter 1

時間は本当に流れているのか？ - 時間と空間の科学 -

村田 次郎 (MURATA JIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE702
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

私たちは、縦横高さの三次元空間の中で、過去から未来へと時間が流れる世界に生きてると信じています。しかし、それは本当でしょうか。本授業では、これらの考えを科学的に多方面から疑って、最先端の科学へとつなげることを目標とします。

We believe that we live in a world where time flows from the past to the future in a three-dimensional space of length, width, and height. But, is that really true? In this course, we will aim to connect these ideas to cutting edge science by asking questions scientifically from many angles.

授業の内容 / Course Contents

私たちの世界観の最も基礎となる知識は、科学的に得られてきたものが多々あります。例えば、私たちは何故、空間が三次元だと思っているのでしょうか？ どうして、時間が流れると思っているのでしょうか。この授業では、この様な、基礎的な世界観を支える科学的な根拠と、それを疑い続ける現代科学の最前線を紹介します。特に、流れ続ける時間の中である時期だけ、自分が生きているという当たり前の人生観について考察します。授業内では、多くのグループワークを通じて、自分たちで議論し、簡単な実験を含めて確認して理解でき

る様にします。

Most of the basic knowledge of our worldview has been obtained scientifically. For example, why do we think that space is three dimensional? Why do we think that time flows? In this course, we will introduce the scientific basis that supports such a basic view of the world and the forefront of modern science that continues to doubt it. In particular, we will consider the usual view of life that you are only alive in one moment during the continuous flow of time. In the course, students will discuss among themselves and confirm and become able to understand, including conducting simple experiments.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：時間は流れていない
- 2 回：鏡の左右逆転についての問題提起
- 3 回：鏡の機能
- 4 回：右と左
- 5 回：物理法則と左右の定義 1
- 6 回：物理法則と左右の定義 2
- 7 回：主観と客観、時間の止まった世界
- 8 回：相対性理論
- 9 回：エントロピーの法則 1
- 10 回：エントロピーの法則 2
- 11 回：自己組織化・生命の時間
- 12 回：量子力学の時間
- 13 回：時間の流れの正体
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する課題等

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間レポート:20% 授業参加度:50% 最終レポート割合 :30%

授業時に指示する課題とレポート, 出席等の授業参加度に基づき総合的に評価を行う

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

村田次郎 『「余剰次元」と逆二乗則の破れ』 講談社 2011 9784062577168

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

物質の科学 1

Science of Matter 1

宇宙を構成する物質と非物質

小谷 太郎 (KOTANI TAROU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE703
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この宇宙が何からできているか、現代科学の成果に基づいて概観します。

私たちが宇宙のどのような歴史の結果存在しているのか知ることと、身近な物質の構造が理解できることが目標です。

物理や化学や地学を既習かどうかは問いません。

We will give an overview of what this universe is made of, based on the results of modern science.

The aim is for students to know how the universe exists as a result of what kind of history and to understand the structure of familiar materials.

It does not matter whether students have already studied physics, chemistry or geology.

授業の内容 / Course Contents

この宇宙は何からできているか、私たちが何からできているか知りたいという好奇心は、科学の最初の動機であり、最終的な目標です。最近の科学のめざましい進展により、物質を構成する原子の構造から宇宙の進化の過程まで、多くの現象が説明できるところまできました。しかし最近得られた観測データは、宇宙に正体不明

の膨大なエネルギーが満ちていることを示唆しています。人類は宇宙の数パーセントしか知らないことが明らかとなってしまいました。

私たちが現在何を知っていて何を知らないのか、科学の進展を振り返りながら概説します。

The curiosity to know what this universe is made of and what we are made of is the first motivation and the ultimate goal of science. Recent remarkable progress in science has enabled us to explain many phenomena from the structure of atoms that constitute matter to the process of evolution of the universe. However, recently obtained observational data suggest that the universe is filled with vast unidentified amounts of energy. It has become clear that humanity knows only a few percent of the universe.

We will outline what we know now and what we do not know, reflecting the progress of science.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：原子論
- 2 回：周期表
- 3 回：元素合成～イントロ
- 4 回：原子核 ～壊変・半減期
- 5 回：原子核 ～壊変モード
- 6 回：原子核 ～核分裂・放射能
- 7 回：電磁波 ～電波・赤外線・可視光
- 8 回：電磁波 ～電波・赤外線・可視光
- 9 回：国際単位系
- 10 回：元素合成 ～人工元素、ニホニウム
- 11 回：素粒子物理～クォーク
- 12 回：素粒子物理～レプトン、ゲージボソン
- 13 回：宇宙物理 ～宇宙の階層構造とダーク・マター
- 14 回：宇宙物理 ～宇宙膨張と暗黒エネルギー

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業は復習しましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業参加度:40%

テキスト / Textbooks

特に指定しません。

参考文献 / Readings

適宜指示します。

その他 / Others

秋学期の「宇宙の科学 FE139」（担当：小谷太郎）と、授業内容が一部共通です。合わせて履修する場合は御注

意ください。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 A

物質の科学 2

Science of Matter 2

化学物質の安全を考える

吉川 治彦 (KIKKAWA HARUHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FE704
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代の私たちの生活は、化学物質の持つ利便性を生かした様々な製品に取り囲まれ、化学物質は私たちの生活に必要不可欠なものとなっている。一方、化学物質の中には、爆発性や引火性などの危険性をもつものや、人の健康や環境中の生物に有害な影響を与えるものが少なからずある。化学物質の安全は、事故や環境問題をふまえた法規制による管理から、危険・有害性及び摂取量を考慮したリスク評価による管理へ変わりつつある。本講義では、化学物質のリスク評価を理解し、様々な局面において総合的に判断できる力を身につける。

Our modern life is surrounded by various products that take advantage of the convenience of chemical substances, and chemical substances have become essential to our lives. On the other hand, among chemical substances, there are many which carry the danger of explosibility and inflammability, and which have a harmful impact on human health and living organisms in the environment. The safe handling of chemical substances is in the process of changing from management through legal regulations based on accident and environmental problems to management through risk assessment which takes into account hazardousness and toxicity as well as dietary intake. In this course, students will understand risk assessment of chemical substances and acquire the

ability to judge comprehensively in various situations.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、化学物質の法規制、危険性、有害性について解説し、さらに摂取量を考慮したリスク評価、リスクコミュニケーションへ展開する。リスクの考え方は、社会において専門的な判断をする際の幅広い考え方へ繋がることも講義する。化学物質を安全に利用するための情報の調べ方にも触れる。持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）など国際的な取り組みについても紹介する。

In this course, we will explain the legal regulations, dangers, and toxicity of chemical substances and furthermore broaden the discussion to risk assessment taking into account dietary intake and risk communication. The lecturer will lecture on the fact that the approach to risk is connected to a broad approach when making technical judgments regarding society. We will also touch upon how to find the information required to use chemical substances safely. We will also introduce international initiatives such as the Sustainable Development Goals (SDGs).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション 私たちの生活を支えている化学物質
- 2 回：化学物質により生じた問題とその対策
- 3 回：法規制による化学物質の管理①（化審法、化管法）
- 4 回：法規制による化学物質の管理②（安衛法、毒劇法）
- 5 回：法規制による化学物質の管理③（消防法、製品関連の法規制）
- 6 回：化学物質の安全性情報の調べ方と読み方
- 7 回：化学物質の安全性情報の活用方法
- 8 回：化学物質の物性はなぜ重要か
- 9 回：化学物質の危険性評価
- 10 回：化学物質の人の健康リスク評価
- 11 回：化学物質の安全性評価のケーススタディ①
- 12 回：化学物質の生態環境のリスク評価
- 13 回：化学物質のリスクトレードオフ評価とリスクの心理
- 14 回：化学物質の安全性評価のケーススタディ②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Canvas LMS に配信した資料を読んでおくこと。毎回、確認課題の解説を行い、良い解答や問題提起などがあったものは紹介し、知識や考え方を共有する。確認課題は復習に活用すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回の確認課題（小テスト又は小レポート）及び最終課題を合算（課題は出席票を兼ねる）：100%

なお、2/3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト/Textbooks

パワーポイントを使用した授業形式で、PDF化した資料を予め Canvas LMS に配信するので各自ダウンロードすること（印刷媒体は配布しない）。

参考文献 / Readings

化学物質評価研究機構 『化学物質のリスク評価がわかる本』 丸善出版 2012 9784621086087

吉川治彦 『Q & A で解決 化学品の GHS 対応 SDS をつくる本』 丸善出版 2019 9784621304211

浦野紘平、浦野真弥 『えっ! そうなの?! 私たちを包み込む化学物質』 コロナ社 2018 9784339066432

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配信、確認課題（小テスト、小レポート）及び最終課題の提出は、「Canvas LMS」を使用するので、授業に PC 等を持参すること。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 A

物質の科学 2

Science of Matter 2

身の回りの原子・分子とその生活への関わり

永野 修作 (NAGANO SHUSAKU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FE705

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

私達の身の回りを物質という観点から見渡し、化学の原理（化学構造と性質、反応など）と物質への興味を深め、知識人として人類の生活と化学物質の関わりや環境問題（大気汚染、オゾン層破壊、エネルギー、温暖化、水質汚染など）を考えていくことを目標とする。

Students will study the presence of material chemistry in daily life and also develop interests in the materials and the principles of chemistry.

授業の内容 / Course Contents

物質の観点から私達の身の回りをながめると、生命体を含めて、原子の結合体や分子の集合体に他ならない。本授業では、身の回りを物質の観点から捉え、身の回りの技術や現代が抱える課題を考えることにより、化学の原理と物質科学に対する興味を深めることを目的とする。空気、オゾン層、地球温暖化、エネルギー・化学・社会、水、酸性雨、ナノテクノロジー、高分子、分子間力と分子認識、液晶をそれぞれ題材とした講義を行う。

From the perspective of material chemistry, we can recognize all the things, including living things, as the

aggregates of atoms and molecules. The purpose of this course is to consider the technologies and problems facing modern society and also to develop interests in the material chemistry and principles of chemistry. The course deals with the air, ozone layer, global warming, energy and chemistry in society, water, acid rain, nanotechnology, polymers, intermolecular force, molecular recognition, and liquid crystals.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：空気
- 2 回：大気汚染と化学変化
- 3 回：オゾン層と分子の構造
- 4 回：光化学
- 5 回：地球温暖化
- 6 回：分子の振動
- 7 回：燃焼
- 8 回：エネルギー
- 9 回：水
- 10 回：イオンの化学
- 11 回：酸性雨
- 12 回：材料ナノテクノロジー
- 13 回：高分子
- 14 回：液晶

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

高校の化学を復習しておくことが望ましい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業内の演習 (5点×14回) :70% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

特になし、必要に応じて資料を配付する。

参考文献 / Readings

廣瀬 千秋 (訳) 『実感する化学 上巻 地球感動編』 NTS 2015

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 A

注意事項 (検索結果画面)

全学共通カリキュラム / 主題別 A

キリスト教学への招待

Introduction to Christian Studies

「考古学」は「聖書」をどう説明できるのか ～聖書時代の背景を探る～

宮崎 修二 (MIYAZAKI SHUJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FF601
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 文学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

「聖書」という宗教文書の理解に考古学はどのような役割を果たすのか。考古学調査に対して、聖書信仰はどのような影響を与えてきたのか。両者の関係の歴史を辿りながら、聖書研究、考古学研究、西アジア古代史研究の将来を展望する。

What role does archeology play in understanding of the Bible as a religious document? What has the Biblical faith made influence to archaeological research? Tracing the history of Biblical archaeology, we will look forward to the future of the studies and researches of Bible, archaeology, and ancient western Asian history.

授業の内容 / Course Contents

講義形式で、聖書思想、イスラエル史研究、考古学調査の関係をそれぞれの立場から多角的に検討していく。それぞれの分野についての入門的な知識にも触れていく。

We will examine the relationship between Bible thought, Israeli history research, and archaeological research from various points of view. We will also deepen our knowledge about each field.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション、「聖書考古学」とはなにか
- 2 回：聖書における歴史と考古学 (1) 「聖書」という書物について
- 3 回：聖書における歴史と考古学 (2) 歴史的・地理的概観
- 4 回：ノアの洪水と聖書考古学の可能性 ～ノアの方舟は丸かった？～
- 5 回：古代イスラエル史 概略
- 6 回：ユダヤ教の歴史と考古学
- 7 回：聖書考古学の歴史 (1) 前史と黎明期
- 8 回：聖書考古学の歴史 (2) 方法論の進展、考古学的思考の変遷とイスラエルの考古学
- 9 回：イスラエルの起源から見る聖書と考古学 (1) 時代像
- 10 回：イスラエルの起源から見る聖書と考古学 (2) 聖書解釈と考古学
- 11 回：聖書時代の文化的考察の諸相：アブラハムは実在したのか？
- 12 回：古代イスラエル宗教と考古学 「聖書の神」の起源、「ヤハウエと彼のアシェラ」、聖所と祭具
- 13 回：古代史の中の「聖書」の地：地中海世界の中のイスラエル
- 14 回：古代史の中の「聖書」の地：「海の民」と「1200 年問題」

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

「テキスト」に指定した書籍のうち、少なくとも長谷川『聖書考古学』を学期中に各自通読すること。学期中にも随時、読むべき文献が指定される。聖書を全く読んだことのない人は、黒田裕『今さら聞けないキリスト教 聖書・聖書朗読・説教編』の前半を読んでおくことをお勧めする。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 中間課題:30%

テキスト / Textbooks

長谷川修一 『聖書考古学』 中央公論新社 2013 9784121022059 ○

黒田裕 『今さら聞けないキリスト教 聖書・聖書朗読・説教編』 教文館 2018 9784764299795 ○

月本昭男 『目で見える聖書の時代』 日本基督教団出版局 1994 9784818401938 ○

長谷川修一 『遺跡が語る聖書の世界』 新教出版社 2021 -

参考文献 / Readings

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通カリキュラム／領域別 A

地域研究への招待

Introduction to Regional Studies

フィールドワークと地域の理解

森 雅文 (MORI MASAFUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FF603
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	-----
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	文学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

フィールドワークに基づいた地域の文化・歴史の研究で求められる現在の知の方法、問題意識、基本の態度などを学習する。対象を既存の学知に収める手法ではなく、変化する対象との関係に向き合いながら理解の妥当性を問い続ける姿勢の獲得を目指す。

Students will learn the current knowledge methods, problem consciousness, and basic stance required in fieldwork-based area studies. The aim is to acquire an attitude of continually questioning the validity of understanding while confronting the changing relationship with the subject, rather than a method that subsumes the subject within existing academic knowledge.

授業の内容 / Course Contents

地域とは一枚岩の何かではなく、つねにさまざまな主体がせめぎ合う。越境や混濁が顕在化する一方で、その本質を期待する営為も顕著である。現代のフィールドワークでは、その多声性や過程性に向き合い、理解の基盤も含めて妥当性を吟味し、対象に向き合い続けることが求められている。

授業では、地域の文化・歴史をめぐる（陥りがちな）理解・説明を、アカデミズムによる対象規定や自文化

の偏見への問いかけを含めながら捉え直し、変容を続ける存在との交流に生じる「フィールドの知」のあり方を考える。事例では、奄美・沖縄と台湾を舞台として、親族・シャーマニズム・先住民・歴史理解などの文化事象を注目する。

A region is not a monolithic entity, but a constant struggle between various actors. While cross-boundaries and intermixing are becoming more apparent, there is also a marked tendency to engage in activities that anticipate the essence of the region. In fieldwork, we must confront the polyphonic and processual nature of the subject, examine its validity, including the foundations of our understanding, and continue to confront the subject.

We will rethink the (often fallible) understandings and explanations of local culture and history, including questioning the object prescriptions of academia and the prejudices of one's own culture, and consider the "knowledge in the field" that arises in exchange with the ever-changing existence. The case studies will focus on the Ryukyu Islands and Taiwan, focusing on cultural events such as kinship, shamanism, indigenous peoples, and historical understanding.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：講義のねらい
- 2回：地域の多声に向き合う：フィールドワークの現在
- 3回：伝統の描写に触れる：沖縄の親族文化の特徴化から
- 4回：伝統を過程と捉える：墓と祖先の歴史潮流
- 5回：過程の状況を見渡す：家と家族のアクチュアリティ
- 6回：異界の認識に触れる：南島シャーマニズムのフィールド
- 7回：理解の基盤を揺らす：文化の翻訳と脱構築
- 8回：多自然の可能を臨む：脱ヒューマニズムの人文学
- 9回：領域の現実に触れる：台湾アイデンティティのフィールド
- 10回：時代の理解を超える：先住民の現代と多文化主義
- 11回：対象と我々を省みる：歴史理解のコロニアリズム
- 12回：存在の現在に向き合う：フィールドの知とポジショナリティ
- 13回：インターロード：地域研究と未来学
- 14回：まとめ：質疑と応答

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

「学び」は他人が課す作業ではないので、講義内容の理解のために、自らの不足を補うことを自覚して復習してください。そこで生じた新たな疑問や関心についての研鑽があれば、それは発展的な学習になります。質問がある時は遠慮なくどうぞ。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業での課題・小レポート (3回) :50% 授業時の質疑応答 (コメントペーパーを含む) や自学に基づく発展的学習の成果があれば、その内容を吟味して加算する。:10% 最終テスト割合 :40%

テキスト/ Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

授業時のプリント資料で紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業連絡には、大学が提供する授業支援システムと授業連絡用ホームページ (開講後に開設) を利用する。

その他/ Others

シラバス閲覧時、一部のブラウザ上では、入力 of 文字列と異なる言葉が表示されることがあるようです。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通カリキュラム / 領域別 A

教育学への招待

Introduction to Pedagogy

ポップカルチャーの教育思想

渡辺 哲男 (WATANABE TETSUO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FF604

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 文学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

- 「ポップカルチャー」を通して現代社会を論じることの意義を理解する。
 - 教育をめぐる多様な思想を「ポップカルチャー」で語るようになる。
 - 「ポップカルチャー」とは何かを論じられるようになる。
- (1)Students understand the significance of discussing modern society through "pop culture."
(2)Students will be able to discuss diverse ideas surrounding education in "pop culture."
(3)Students will be able to discuss what "pop culture" is.

授業の内容 / Course Contents

「ポップカルチャー」に含まれる多様な作品とそれらを受容する私たちの感性は複雑に交差し、時代や社会のあり方を象徴的に浮かび上がらせることがある。本授業では、さまざまな「推し」をもち、あるいは同人誌を制作する研究者（アカデミック・ファン）が、「ポップカルチャー」を通して浮かび上がってくる現代社会のありようや人間観を明らかにしたテキストを読み解く。そして、その読解を踏まえて、学生が実際に「ポップカルチャー」を通して教育や社会の諸問題を発表する機会を設ける。

The diverse works contained in "pop culture" and our sensibilities in embracing them are intricately intersected. And those intersections can symbolically highlight the way times and societies are. In this class, researchers (academic fans) with a variety of "guesses" or who produce doujinshi (coterie magazines) will read texts that reveal the state of modern society and the view of people that emerges through "pop culture." Then, based on that reading, students have the opportunity to actually present educational and social issues through "pop culture."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：授業の進行についての説明、発表会のグループ分け（初回欠席者は2回目以降振り分ける）
- 2回：『すずめの戸締まり』の重要登場人物が「立教大学教育学科」に在籍しているのはなぜか？
- 3回：『君の名は。』、『すずめの戸締まり』、『シン・ゴジラ』と東日本大震災：「警告の教育学」
- 4回：『君の名は。』において、三葉が父親をどのように説得したのか？
- 5回：エヴァンゲリオン新劇場版の「特撮」テイスト：現実と虚構のあわい
- 6回：『シン・仮面ライダー』とドキュメンタリー映画、そして学校教育
- 7回：私が見ている世界を変える？：少年の日のLEDの思い出
- 8回：ポップカルチャー・パフォーマンス発表会（1）テキスト序章
- 9回：ポップカルチャー・パフォーマンス発表会（2）テキスト第1章
- 10回：ポップカルチャー・パフォーマンス発表会（3）テキスト第2章
- 11回：ポップカルチャー・パフォーマンス発表会（4）テキスト第3章
- 12回：ポップカルチャー・パフォーマンス発表会（5）テキスト第4章
- 13回：ポップカルチャー・パフォーマンス発表会（6）テキスト第5章
- 14回：ポップカルチャー・パフォーマンス発表会（7）テキスト第6章、授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・次回扱う内容が書かれている教科書当該章を事前に読んでおくように求めることがある。
- ・授業後半では、テキストの内容に書かれた内容をもとにして、学生をグループ分けしてパフォーマンス発表を行ってもらう。ただし、学生の意見を聴取して、テキストから離れた内容を発表してもらっても差し支えないこととする。授業時間外の準備が必要になるので、了解の上受講されたい。
- ・発表会については、履修者数が想定以上になった場合、形式を変更する場合がある。初回の履修者数をみて判断したい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% パフォーマンス発表会の準備と運営:40%

テキスト / Textbooks

渡辺哲男編 『ポップカルチャーの教育思想：アカデミック・ファンが読み解く現代社会』 晃洋書房 2023
97847711037236 ○

参考文献 / Readings

渡辺哲男ほか編 『言葉とアートをつなぐ教育思想』 晃洋書房 2019 9784771031623

田島悠来編 『アイドル・スタディーズ：研究のための視点、問い、方法』 明石書店 2022
9784750353234

岡部大介 『ファンカルチャーのデザイン：彼女らはいかに学び、創り、「推す」のか』 共立出版 2021
9784320094680

その他の参考文献は授業中に適宜提示する。

その他/ Others

授業担当者は教育学の専門ですが、映画、とりわけドキュメンタリーや演劇の好きな方には楽しい授業となると思います。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

法への招待

Invitation to Law

比較法とグローバリゼーション

貝瀬 幸雄 (KAISE YUKIO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FF606
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 法学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

法学の学習に必要な外国法についての基礎知識を修得するために、比較法の方法、比較法の隣接諸分野、法族論、法とグローバリゼーションなどのテーマを学習する。特にグローバリゼーションが比較法に及ぼす影響に注目する。不十分ではあるが、法学入門としての役割も果たしたい。

In order to acquire fundamental knowledge concerning foreign law which is required for the study of law in general. Students in this course will study the methods of comparative law, areas adjacent to comparative law, the doctrine of legal families, law and globalization, and other topics.

授業の内容 / Course Contents

担当者が執筆したテキストブックを用い、その内容について詳しく講述する。比較法の基礎理論すなわち比較法原論が講義の中心となる。講義の後半は、比較法学各論として、アメリカ比較法学を代表するマティアス・ライマンの比較法史研究とイタリアの優れた比較法学者ジュゼッペ・モナテリの比較法方法論を取り上げる。This course will use the textbook written by myself. The lectures will focus on the basic theories of comparative law. As the second part of this lecture, I will analyze the study of comparative legal history by Prof. Mathias

Reimann and the method of comparative law by Prof. Giuseppe Monateri.

]

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：比較法学の意義
- 2回：比較法と隣接諸分野（1）
- 3回：比較法と隣接諸分野（2）
- 4回：比較法の方法（1）
- 5回：比較法の方法（2）
- 6回：法族論（1）
- 7回：法族論（2）
- 8回：法族論（3）
- 9回：グローバル比較法学（1）
- 10回：グローバル比較法学（2）
- 11回：歴史法学派とコモン・ロー（1）
- 12回：歴史法学派とコモン・ロー（2）
- 13回：歴史法学派とコモン・ロー（3）
- 14回：結論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

まずはテキストを読んできていただきたい。復習は丹念に行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

貝瀬幸雄 『比較法学入門』 日本評論社 2019 ○

参考文献 / Readings

貝瀬幸雄 『現代アメリカ比較法学の行方』 日本評論社 2022

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

経営学入門

Introduction to Business

現代企業の経営戦略と組織運営を学ぶ

羽田 明浩 (HANEDA AKIHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FF607
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	-----
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

本講義は以下の取得を目的とする

- ①経営戦略理論と経営組織論の基礎的理論の理解
- ②事例を通じた経営分析手法の理解

The main aim of the course is for students to acquire the following:

- 1) Understand the basic theories of management strategy and management organization
- 2) Understand management analysis methods through case studies

授業の内容 / Course Contents

「現代のビジネスを学ぶ」うえで必要な経営学の基礎的な理論を解説したうえで、日本企業の実例を通して受講者の理解を深める講義を行う。

担当教員は、本学経営学科卒業の後、メガバンク勤務があり、組織運営の事例では本学と他大学の比較や金融業界を採り上げる予定である。

After explaining the basic theories of business administration necessary for "learning modern business," lectures

will be given to deepen students' understanding through examples of Japanese companies.

The faculty member in charge is from our university (Department of Business, from the athletic association volleyball club), and has experience working at a megabank. In the organizational management case studies, we plan to compare our university with other universities and the financial industry.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション 本講義を学ぶ意義
- 2回：企業の分類 法律面と経済面からの分類
- 3回：コーポレートガバナンスについて
- 4回：経営戦略論 (1) 全社戦略と事業ドメイン
- 5回：経営戦略論 (2) 多角化戦略とポートフォリオマネジメント
- 6回：経営戦略論 (3) 競争戦略論 ポジショニングと資源ベース
- 7回：経営戦略論 (4) 協調戦略とダイナミックケイパビリティ
- 8回：経営組織論 (1) 組織の定義
- 9回：経営組織論 (2) 組織デザイン
- 10回：経営組織論 (3) 組織のライフサイクル
- 11回：マーケティング論 (1) 基本理論と概念変遷
- 12回：マーケティング論 (2) セグメンテーション他
- 13回：ゲストスピーカーによる講義
- 14回：経営分析論 定性分析と定量分析

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

時事問題に関心を持ってください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

羽田明浩 『ナースのためのヘルスケアMBA』 創成社 2017 97847944249763034

羽田明浩 『医療経営戦略論』 創成社 2021 97847944259353034

亀川雅人 (監修) 『ストーリーのない経営学の教科書』 文眞堂 2022 9784830951695

羽田明浩 『ヘルスケア経営組織論』 文眞堂 2022 9784830951992

その他 / Others

本科目は、担当教員の実務経験及び、実務に携わるゲスト・スピーカーの招聘講義を活かした授業である。

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

領域別A科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

コミュニティと福祉

Community and Welfare

暮らしとコミュニティの多面性を読み解く

鈴木 将平 (SUZUKI SHOHEI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FF609

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： コミュニティ福祉学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

- ①身近な出来事やトピックから、地域社会が抱える課題や現状を捉えるための観点を身につけること
- ②地域社会の課題や現状をさまざまな観点から説明するための社会学的な知識を身につけること
- ③地域社会の課題や現状の背景にある社会的な現象に対する想像力・洞察力を身につけること
- ①To acquire perspectives to understand issues and current situations of local communities from familiar events and topics
- ②To acquire sociological knowledge to explain issues and current conditions of local communities from various perspectives
- ③To acquire imagination and insight into the social phenomena behind the issues and current conditions of local communities

授業の内容 / Course Contents

- ①「コロナ」(covid-19) をめぐって制作された映像作品を取り上げ、日々の生活の営みやそこでの人と人との関係性（暮らしとコミュニティ）という観点から分析します。

②社会学の基本的な考え方を参照ながら、「暮らしとコミュニティ」がどのように成り立っているかを映像作品から多面的に考察します。

③「暮らしとコミュニティ」を取り巻く社会的な状況や構造について、関連する新聞記事等を紹介します。

① We will take up video works produced around "Corona" (covid-19) and analyze them from the perspective of daily life and the relationships between people there (Livelihood and Community).

② While referring to the basic ideas of sociology, we will examine how "Livelihood and Community" are formed from a multifaceted perspective through video works.

③ Introduce related newspaper articles and other information on the social conditions and structures surrounding "Livelihood and Community".

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業概要、成績評価方法説明
- 2回：社会学の考え方① 意味と構造
- 3回：社会学の考え方② 期待される役割
- 4回：「コロナ」と地域社会① 感染症と身体
- 5回：「コロナ」と地域社会② 運送・移動
- 6回：「コロナ」と地域社会③ スティグマ
- 7回：「コロナ」と地域社会④ 学校と子ども
- 8回：「コロナ」と地域社会⑤ 家族
- 9回：「コロナ」と地域社会⑥ 死と死別
- 10回：「コロナ」と地域社会⑦ ジェンダー
- 11回：「コロナ」と地域社会⑧ 労働と感情
- 12回：「コロナ」と地域社会⑨ パーソナリティ
- 13回：「コロナ」と地域社会⑩ 映像資料の総括
- 14回：まとめとフィードバック

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日ごろから、ニュースや新聞記事、身の回りの出来事、感じたり考えたことについてメモを残しておくこと。中間レポートの課題となります。

講義で取り上げた内容以外にも、興味をもった事柄について、自身で参考文献などを収集し、考えを深めること。最終レポートの課題となります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度（リアクションペーパー）:30% 中間レポート:30% 最終レポート:40%

① 3分の2以上出席していない場合は単位修得不可とします。

② リアクションペーパーは採点し、コメントをつけて返却します。すぐれた内容については、匿名化した上

で全体に紹介することがあります。

テキスト / Textbooks

テキストは用いず配布資料を使用する。

参考文献 / Readings

長谷川 公一他編 『社会学 新版』 有斐閣 2019 4641053898

ジグムント・バウマン&ティム・メイ 『社会学の考え方〔第2版〕』 筑摩書房 2016 4641174814

友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編 『社会学の力〔改訂版〕——最重要概念・命題集』 有斐閣 2023
4641174814

友枝敏雄他編 『社会学のエッセンス——世の中のしくみを見ぬく〔新半補訂版〕』 有斐閣 2018
4641220980

野村一夫 『社会学感覚【増補版】』 →ウェブ上で閲覧可 文化書房博文社 1998 4830108223

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

観光学への招待

Introduction to Tourism

観光現象および観光学の総合的理解

李 崗 (LI GANG)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FF610
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 観光学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

日常生活にある観光現象を理解するための基本的手立てを身につけ、現代社会を批判的に捉える。

Students will comprehensively understand the tourism phenomena from various perspectives, and critically think about modern society.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、観光という多層的な社会現象について考える際の基礎的な視座を学ぶ。観光の歴史、観光と文化、観光と宗教、観光とメディアなど、観光関連問題について国内外の事例を交えながら紹介し、観光学という学際的な学問領域を概観する。

In this course, students will learn basic perspectives when thinking about the multi-layered social phenomena of tourism. We will introduce tourism-related issues such as the history of tourism, tourism and environment, tourism and media, etc. By analyzing examples from Japan and foreign countries, we will introduce the main ideas of tourism study.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：観光と観光学とは
- 2回：観光の世界史①：古代ローマから近世イギリスまで
- 3回：観光の世界史②：近代観光の誕生と発展
- 4回：観光の日本史①：旅好きの日本人
- 5回：観光の日本史②：開発の波
- 6回：「新しい観光」の系譜
- 7回：観光まちづくり（映像視聴1）
- 8回：観光とメディア：「南国」の誕生
- 9回：バックパッカーの旅ー「地上の楽園」を求めて（映像視聴2）
- 10回：ディスカッション1：「楽園」が崩壊したあと
- 11回：宗教巡礼からスピリチュアリティ追求へ
- 12回：観光と文化（映像視聴3）
- 13回：ディスカッション2：観光の限界と可能性
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・授業で紹介した諸視点を用いて、身の回りに生じている観光現象について意識的に考える。
- ・できる限り観光現場へ出掛けて、自分の身体で観光を体験する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 出席状況・授業への取り組み:20% 授業内の課題:30%

テキスト / Textbooks

授業内容に合わせて、随時資料を配布する。

参考文献 / Readings

John Urry (原著), Jonas Larsen (原著), 加太 宏邦 (翻訳) 『観光のまなざし』 法政大学出版局 2014 458801014

前田勇 『新現代観光総論-第2版』 学文社 2018 4762027863

山下晋司 『観光学キーワード』 有斐閣 2011 4641058911

授業内で関連書籍や論文などを紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特にないが、英語資料の配布と外国語映像（日本語字幕付き）の視聴はある。また、担当者による講義が中心であるが、履修者が議論に参加するように促したい。

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

文学への招待

Introduction to Literature

アメリカの短篇小説・詩を読む

関根 全宏 (SEKINE MASAHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FF611
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	-----
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	文学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

文学作品を読むことで、言語感覚・洞察力・想像力を養い、文学作品に対する造詣を深める。

アメリカ文学の代表的な作家・作品の特徴を理解し、文化的・社会的・歴史的背景をふまえて自分の言葉で説明することができる。

Students will develop a sense of language, insight, and imagination through reading literary works, and deepen their knowledge of literary works.

Students will be able to understand the characteristics of representative authors and works of American literature and explain them in their own words in light of their cultural, social, and historical backgrounds.

授業の内容 / Course Contents

毎回一つの短篇小説ないしは詩を数篇とりあげ、アメリカの代表的な作家・作品の特徴について講義します。

関連する映像資料も使用します。作者略歴や時代背景、作品に関する問いを含めた講義をもとに、受講者は作品を読んだ感想や問いに対する意見・考察等の小レポートを毎回提出してもらいます。内容確認のための小テストも行います。様々な視点から作品を読んでいき、学期末には一番興味をもった作品について短評を書いて

もらう予定です。

This course will focus on one short story or several poems in each class, and will lecture on the characteristics of each author and work. Relevant video materials will also be used. After a lecture on biography of the author and historic background for each work, the students will present issues concerning the works to gain understanding from diverse perspectives. A reaction paper (small report) is to be submitted at each class, and quizzes are also given to check students' comprehension of the lectures. A small review is to be written on the most interesting work at the end of the semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（アメリカ文学概説）
 2回：エドガー・アラン・ポー（1809-49）
 「アナベル・リー」（詩）他
 3回：ハーマン・メルヴィル（1819-91）
 「バートルビー」（短篇）
 4回：ウォルト・ホイットマン（1819-92）
 「おお船長！わが船長！」（詩）他
 5回：エミリー・ディキンソン（1830-86）
 「小鳥が道をやってきた」（詩）他
 6回：ロバート・フロスト（1874-1963）
 「雪の夜、森のそばに足を止めて」（詩）他
 7回：ウォレス・ステイブンス（1879-1955）
 「アイスクリームの皇帝」（詩）
 8回：ウィリアム・カーロス・ウィリアムズ（1883-1963）
 「寡婦の春の嘆き」（詩）他
 9回：ウィリアム・フォークナー（1897-1962）
 「あの夕陽」（短篇）
 10回：アーネスト・ヘミングウェイ（1899-1961）
 「何かの終わり」（短篇）
 11回：マーク・ストランド（1934-2014）
 「私の人生」（詩）他
 12回：リチャード・ブローティガン（1935-84）
 「グレイハウンド・バスの悲劇」（短篇）
 13回：レイモンド・カーヴァー（1938-88）
 「シェフの家」（短篇）
 14回：授業総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回で扱う作品を事前に読み、気になった一節や問題提起したい箇所、自分の解釈を持参する。事前に提示された Discussion Question について考えてくる。

授業後には各作家・作品の特徴や解釈等を自分の言葉で説明できるようにまとめておく。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度:20% リアクションペーパー:30% 小テスト（10%×2回）:20% 最終レポート割合：:30%

2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可となります。

最終レポート未提出の場合にも単位修得不可となります。

リアクションペーパーについては、次回の授業開始時に毎回フィードバックを行います。

テキスト / Textbooks

適宜プリント等を配布します。

参考文献 / Readings

平石貴樹 『アメリカ短編ベスト 10』 松柏社 2016 4775402374

亀井俊介（他） 『アメリカ名詩選』 岩波書店 1993 4003233514

渡辺信二 『アメリカ名詩選』 本の友社 1997 4894390825

木下卓（他） 『たのしく読める英米詩』 ミネルヴァ書房 1996 4623026205

寺門泰彦（他） 『アメリカ文学案内』 朝日出版社 2008 9784255004303

竹内里矢・山本洋平 『深まりゆくアメリカ文学』 ミネルヴァ書房 2021 9784623090778

その他随時授業で紹介します。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

身体学への招待

invitation to studies of performing arts

シェイクスピア/ワイルド

PERFORMING SELF

田崎 英明 (TAZAKI HIDEAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FF612

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 現代心理学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

シェイクスピアとワイルドの演劇を通して近代社会における自己とパフォーマンスとの関係について理解を深め、パフォーマンスという観点から社会、歴史、文化を論じることができるようになる。

Through the theatrical works of Shakespeare and Oscar Wilde, this course aims to understand the relationship between the self and its performance in the modern society. Successful students will be able to criticize modern society and its culture from the view point of performativity.

授業の内容 / Course Contents

講義形式で行う。Google Classroom 等にアップしたテキストおよび映像教材を用いる。

The teacher gives lectures using some visual materials and text excerpt from Terry Eagleton and other authors.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

演劇性 theatricality とは何か

- 2回：反演劇思想の系譜
 3回：シェイクスピアの時代のイングランドにおける少年俳優と異性装
 4回：シェイクスピアと亡霊1
 5回：シェイクスピアと亡霊2
 6回：負債と身体の出会い
 『ヴェニス商人』1
 7回：『ヴェニス商人』2
 8回：ロマンス喜劇1
 9回：ロマンス喜劇2
 10回：ヴィクトリア期のダンディ
 オスカー・ワイルド
 11回：『真面目が肝心』1
 12回：『真面目が肝心』2
 13回：『真面目が肝心』3
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Google Classroom 等にあげる参考文献に事前に目を通しておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% 毎回課すりアクション・ペーパー:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通カリキュラム / 領域別 A

いのちの尊厳と福祉

Sanctity of life and Welfare

人が抱える困難を理解し、支援を考える。

長倉 真寿美 (NAGAKURA MASUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FF613
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： コミュニティ福祉学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

人が生きていく上で抱える様々な困難を理解し、それを解決するためにはどのような支援が必要かを学び、考えることができるようになる。

To be able to understand the various difficulties that people face in their lives, and to learn and think about what kind of support is needed to solve them.

授業の内容 / Course Contents

要介護、疾病、自殺、孤独・孤立、貧困等の生活上の課題の実態について理解し、支援の内容について学ぶとともに、どのような支援をすべきかを検討する。

To understand the reality of life issues such as those requiring nursing care, illness, suicide, loneliness/isolation, poverty, etc., and to learn what kind of support is needed and what kind of support should be provided.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：要介護者と家族への支援

2 回：認知症患者と家族への支援

- 3回：がん患者と家族への支援
 4回：ALS患者と家族への支援
 5回：終末期ケアと支援
 6回：終活のすすめ
 7回：障害者とその家族への支援
 8回：アルコール中毒者への支援
 9回：自殺防止策
 10回：独居—どこでどう暮らすか—
 11回：孤立・孤独防止策
 12回：貧困者への支援
 13回：ホームレス支援
 14回：被災者支援

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に適宜指示をする。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー:20%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。授業資料は Canvas LMS のホームにアップする。

参考文献 / Readings

岡壇 『生き心地の良い町』 講談社 2013 9784062179973

NHK スペシャル取材班 『人生の終い方』 講談社 2017 9784062206143

上野千鶴子 『おひとりさまの老後』 文春文庫 2011 9784167801625

佐藤幹夫 『ルポ高齢者ケア』 ちくま書房 2014 9784480067777

町田康 『しらふで生きる』 幻冬舎 2019 9784344035324

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

広く人間、社会、社会問題に関心があること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

キリスト教学への招待

Introduction to Christian Studies

「考古学」は「聖書」をどう説明できるのか ～聖書時代の背景を探る～

宮崎 修二 (MIYAZAKI SHUJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FF701
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 文学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

「聖書」という宗教文書の理解に考古学はどのような役割を果たすのか。考古学調査に対して、聖書信仰はどのような影響を与えてきたのか。両者の関係の歴史を辿りながら、聖書研究、考古学研究、西アジア古代史研究の将来を展望する。

What role does archeology play in understanding of the Bible as a religious document? What has the Biblical faith made influence to archaeological research? Tracing the history of Biblical archaeology, we will look forward to the future of the studies and researches of Bible, archaeology, and ancient western Asian history.

授業の内容 / Course Contents

講義形式で、聖書思想、イスラエル史研究、考古学調査の関係をそれぞれの立場から多角的に検討していく。それぞれの分野についての入門的な知識にも触れていく。

We will examine the relationship between Bible thought, Israeli history research, and archaeological research from various points of view. We will also deepen our knowledge about each field.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション、「聖書考古学」とはなにか
- 2 回：聖書における歴史と考古学（1）「聖書」という書物について
- 3 回：聖書における歴史と考古学（2）歴史的・地理的概観
- 4 回：ノアの洪水と聖書考古学の可能性 ～ノアの方舟は丸かった？～
- 5 回：古代イスラエル史 概略
- 6 回：ユダヤ教の歴史と考古学
- 7 回：聖書考古学の歴史（1）前史と黎明期
- 8 回：聖書考古学の歴史（2）方法論の進展、考古学的思考の変遷とイスラエルの考古学
- 9 回：イスラエルの起源から見る聖書と考古学（1）時代像
- 10 回：イスラエルの起源から見る聖書と考古学（2）聖書解釈と考古学
- 11 回：聖書時代の文化的考察の諸相：アブラハムは実在したのか？
- 12 回：古代イスラエル宗教と考古学：「聖書の神」の起源、「ヤハウエと彼のアシェラ」、聖所と祭具
- 13 回：古代史の中の「聖書」の地：地中海世界の中のイスラエル
- 14 回：古代史の中の「聖書」の地：「海の民」と「1200 年問題」

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

「テキスト」に指定した書籍のうち、少なくとも長谷川『聖書考古学』を学期中に各自通読すること。学期中にも随時、読むべき文献が指定される。聖書を全く読んだことのない人は、黒田裕『今さら聞けないキリスト教 聖書・聖書朗読・説教編』の前半 を読んでおくことをお勧めする。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 中間課題:30%

テキスト / Textbooks

長谷川修一 『聖書考古学』 中央公論新社 2013 9784121022059 ○

黒田裕 『今さら聞けないキリスト教 聖書・聖書朗読・説教編』 教文館 2018 9784764299795 ○

月本昭男 『目で見える聖書の時代』 日本基督教団出版局 1994 9784818401938 ○

参考文献 / Readings

長谷川修一 『遺跡が語る聖書の世界』 新教出版社 2021

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

哲学への招待

Introduction to Philosophy

「人間」とは誰か。「人間」は何を「知る」ことができるのか。

縣 由衣子 (AGATA YUIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FF702
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	-----
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	文学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

- ・哲学で論じられてきた「人間」をめぐる諸概念について理解が深められるようになる。
- ・理解した概念や議論を踏まえて、自分が常識として持っている「人間」のイメージが何に起因しているかを分析し、そのイメージを批判的に捉えなおし、問いが立てられるようになる。
- ・「知る」ことについて多角的に考え、そこに働いているバイアスについて考えてみるができるようになる。

The course will provide an opportunity for students to deepen their understanding of the various concepts of "human" as discussed in philosophy.

The course will also provide students with an opportunity to analyse the image of the "human" that they have as common sense, and to critically rethink that image and ask questions based on their understanding of the concepts and arguments.

The students will be able to think about their "knowledge" from multiple perspectives and consider the biases at work in this process.

授業の内容 / Course Contents

「人間」概念は今様々な学術の分野で大きく揺れ動きつつあります。それに伴って、この「人間」が世界を「知ろう」とする、その営みも大きく変わろうとしています。この授業では、「人間」と「知る」をテーマとして取り上げ、現在論じられている議論を参照しつつ、これまでの哲学史をにおける議論を敷衍しながら、「人間」が「知る」ことをめぐる議論がどのように行われてきたのかをさまざまな論点から学びます。

授業の形式は講義形態ですが、毎回簡単なグループディスカッションを行い、哲学史における議論を自分のみの身の回りのことと関連づけて考える練習をします。また、授業後にはリアクションペーパーを通じて、疑問点や講義内容を通じて考えたこと、批判などを挙げてもらいます。

The concept of "human" is currently undergoing a major shake-up in various academic fields. In line with this, the way in which "human" attempts to "know" the world is also undergoing major changes. In this class, we will take up the theme of "human" and "knowledge", and learn how the debate over "human"'s "knowledge" has been conducted from various points of view, referring to the debates currently being discussed and expanding on the debates in the history of philosophy up to the present.

The class format is lecture-style, but each class will be followed by a brief group discussion to practise thinking about the debates in the history of philosophy in relation to one's own immediate surroundings. After class, students are asked to raise any questions, thoughts or criticisms they have about the content of the lectures in a reaction paper.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション／今問われている「人間」について・私たちは何を知ることができるのか①
- 2 回：今問われている「人間」について・私たちは何を知ることができるのか②
- 3 回：ギリシャ哲学において「人間」が「知る」こと①
- 4 回：ギリシャ哲学において「人間」が「知る」こと②
- 5 回：中世において「人間」が「知る」こと
- 6 回：近代において「人間」が「知る」こと①
- 7 回：近代において「人間」が「知る」こと②
- 8 回：近代において「人間」が「知る」こと③
- 9 回：近代において「人間」が「知る」こと④
- 10 回：現代における「人間」が「知る」こと①ネットワークとヴァーチャル
- 11 回：現代における「人間」が「知る」こと②ロボットとサイボーグ
- 12 回：現代における「人間」が「知る」こと③ポストヒューマン時代の身体
- 13 回：現代における「人間」が「知る」こと④ エコロジーと哲学
- 14 回：講義のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義で取り上げる内容については入門的な書籍の参考文献リストを案内しますので、授業前、授業後に読むと理解が深まります。

また、毎回次回授業の内容の予告および、ディスカッションテーマを提示しますので、自分なりの意見、観点を整理してくることをお勧めします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ディスカッションへの参加度:20% 授業参加態度:20% リアクションペーパーの内容:20% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

哲学に初めて触れる学生を対象としているので、予備知識がなくても履修可能です。ただし、最終的にレポートを書くにあたり、授業中に講義で聞いた内容の理解のみでは不十分であり、補足的な書籍や論文を読み、自発的に考える必要があります。「自発的に考えること」については、授業中のディスカッションがその予備訓練となります。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業前、授業後に配布資料があることがあるので、PDF や docx 形式のデータを開くことのできるソフトウェアを持っている必要があります。

その他 / Others

素早く正解を出すことよりも、じっくりといろんな視点から考えることが好きなひと、自分の考えていることについて他の人と話してみることが好きなひとに向いている授業です。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

哲学への招待

Introduction to Philosophy

世界の複雑さを受け止めながら明晰に考える

槇野 沙央理 (MAKINO SAORI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FF703
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	-----
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	文学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

このコースの目的は、哲学の現代的な問題、とくに悪い言葉、差別、注意を要する会話に関連して——例えば学生の授業参加、レポート作成、また教員や友人との会話において——発生する可能性のある問題について、学生の理解を深めることです。このコースの目的はまた、正義論、ケアの倫理、分析フェミニズム、ウィトゲンシュタイン哲学の中で、分析哲学的・倫理的アプローチを発展させ、高度な研究を行う可能性を学生に提供することです。

コース終了後、学生は以下のことができるようになることが期待されます。

- 応用哲学における現代的な

The course objective is to enhance the student's understanding of contemporary issues in philosophy, especially those that may arise in relation to bad language, discrimination and sensitive conversation, for example during the student's participation in classes, writing academic essays, and communication with friends and teachers. The course objective is also to provide the students with extended possibilities to develop an analytic-philosophical and ethical approach to advanced work within theories of justice, ethics of care, analytic feminism and

Wittgenstein's philosophy.

After a completed course, the student is expected to be able to:

- explain contemporary issues and theories in applied philosophy
- identify situations of structural injustice to discuss theories of justice, ethics of care, and analytic feminism
- analyze the basic conception of Wittgenstein's philosophy

授業の内容 / Course Contents

このコースでは、ものごとの「もっともらしさ」「自明性」を根源的に考える批判的思考力を身につけるため、実生活における経験から哲学的問いを立て、解答を形成することを試みます。「言葉」をめぐる「他者」との軋轢や、「制度」の中で抑圧される「個人」といったアクチュアリティのある問題設定からスタートし、ウィトゲンシュタインの哲学から問題の汲み取り方を学ぶことで、社会においてもっともらしいと考えられている知識のありようを分析する手法を身につけていきましょう。

具体的には、以下のような哲学の中心的テーマ、現代理論、現代的課題を取り上げます。

- 言語の哲学
- 悪い言葉の哲学
- 差別の哲学
- 会話の哲学
- 日常言語の哲学
- P・グライスの哲学
- 政治哲学
- 正義の理論
- J・ロールズの哲学
- ケアの倫理
- 分析フェミニズム

また、ウィトゲンシュタイン哲学の中心的なトピックとして、以下のものを取り上げます。

- 『論理哲学論考』(=前期ウィトゲンシュタイン)における「無意味 sinnlos」と「ナンセンス Unsinn, unsinnig」
- 『哲学探究』(=後期ウィトゲンシュタイン)における「アウグスティヌスの像」

This course attempts to formulate philosophical questions from real-life experiences and provide answers in order to develop critical thinking skills that fundamentally consider the “plausibility” and “self-evidentness” of things. Starting with issues of reality, such as conflicts with others over language and the individual oppressed by systems and institutions, we will learn how to take issues from Wittgenstein's philosophy, and acquire methods for analysing the state of knowledge that is considered plausible in society.

The course contains the following central themes, modern theories and contemporary issues of philosophy:

- Philosophy of language
- Philosophy of bad language
- Philosophy of discrimination
- Philosophy of conversation
- Ordinary language philosophy
- P. Grice's philosophy
- Political philosophy
- Western theories of justice

- J. Rawls's philosophy
- Ethics of care
- Analytic feminism

The course also contains the following central topics in Wittgenstein's philosophy:

- The conception of “no sense, lacking sense, without sense” and “nonsense” in Tractatus Logico-Philosophicus (=The early Wittgenstein)
- “The Augustinian picture” in Philosophical Investigations (= The later Wittgenstein)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション：応用哲学から古典へ

授業の構成について、ディスカッション I・II・IIIの区分に応じて説明します。また、授業内のルールや、安心して議論ができる「セーフター・スペース」についても案内を行います。

予習：知っている・聞いたことがある哲学者の名前や、気になる哲学的トピックをメモしておきましょう。

復習：シラバスの中から気になるトピックを見つけ、授業内で案内されたデータベースや Web サイトで、用語や参考文献を検索してみましょう。

2回：アクチュアルな問い①：悪い言葉の哲学

ある言葉が「悪い」と言われるとき、そもそもどのようにして「言葉」が悪さをなすことができるのか、言葉を使って人が悪いことをすることができるのかについて考えます。

予習：身近な悪口の例を挙げてみましょう。(自身の経験を無理に思い起こす必要はありません。また、授業内では、フラッシュバックを引き起こしそうな生々しい例は極力避け、もしそのような例を使う必要がある場合は、先に注意喚起を行います。)

復習：予習で考えてきた身近な悪口の例を、「害悪説」「悪意説」「ランクづけ説」のい

3回：アクチュアルな問い②：差別の哲学

ある人が特定の属性(人種・ジェンダー・性的指向・障害の有無・宗教・年齢)によって他の人と異なる対応を受けるとき、それが単なる「区別」ではなく「差別」と呼ばれるのはどのような理由からなのかについて考えます。また、差別の「悪さ」についても、四つの説から検討します。

予習：身近な差別の例を挙げてみましょう。(自身の経験を無理に思い起こす必要はありません。また、授業内では、アウティングが生じないよう配慮し、フラッシュバックを引き起こしそうな生々しい例は極力避け、もしそのような例

4回：アクチュアルな問い③：会話の哲学

言葉を使って人とやりとりするとき、そこで私たちは人と何を一緒に行おうとするのか(し損ねるのか)、あるいは、人に対して何を行わせようとするのかを考えます。

予習：会話がうまくいったり、うまくいかなかったりした例を挙げてみましょう。また、伝わってほしいことが伝わらなかったり、伝わってほしくないことが伝わってしまった例も考えてみましょう。

復習：予習で考えてきた例が、発言を通じて話し手と聞き手の間で約束事を構築していく「コミュニケーション」であるのか、発言を通じて話し手

5回：ディスカッション I：他者を尊重することはなぜ難しいのか

発表希望者(3名まで)を募り、発表者と他の受講者との間でディスカッションを行います。

他者との関わりの中で生じてくる「悪さ」について、「悪い言葉の哲学」「差別の哲学」「会話の哲学」の三つの観点から皆で議論します。とくに、「他者を尊重することはなぜ難しいのか」という問いを立て、この問いにどのような仕方でも答えることができそうかを話し合います。

予習：第2回から第4回までの授業内容を復習し、ディスカッションに備えましょう。

復習：ディスカッション

6回：良い生を考える①：正義の哲学

どのような社会が、公平で良い社会であると言えるかについて、ロールズの『正義論』から学びます。特に、ロールズ正義の二原理（平等な基本的諸自由をめぐる「第一原理」や、格差原理と公正な機会均等の原理をめぐる「第二原理」）と、正義の二原理の導出方法（原初状態における「無知のヴェール」）について考えます。

予習：個人の努力ではどうにもならないと思われる身近な例を考えましょう。

復習：予習で考えてきた例を使って、「良い」社会ではどのように、個人の努力ではどうにもならないと思われること

7回：良い生を考える②：ケアの倫理

これまで社会の中で強い発言権を持ってきた主体がどのような条件を備えていると前提されてきたのか、発言権を持たないとされがちだった人たちがどのような存在であるのかについて、「脆弱性」や「依存」といったキーワードを使って考えます。

予習：「社会の一員」ということであなたが思い浮かべるのはどんな主体か、考えてみましょう。

復習：第6回の授業内容を踏まえ、正義の哲学において前提とされる「主体」と、ケアの倫理において考えられる「個人」との違いについて考えてみましょう。

8回：良い生を考える③：分析フェミニズム

「女性」をはじめとするマイノリティの権利を擁護する営みであるフェミニズムが、何らかの弱い属性を被る人の立場を向上させるため、個々の生を抑圧するさまざまな機構（社会的構築物）のありようを暴露する活動でもあることを考えます。特に、フェミニズムに対する「分析哲学」からのアプローチを取り上げます。

予習：個人の生が規格化を被る（既存のあり方に合わせるよう強制ないし矯正が生じる）場面について、考えてみましょう。

復習：予習で考えてきた例について、「分析哲学的アプローチ」を使って

9回：ディスカッションⅡ：自分らしく生きるとは何とどのように戦うことなのか

発表希望者（3名まで）を募り、発表者と他の受講者との間でディスカッションを行います。

集団内での慣習・制度において生きる個人が被る不利益について、「正義の哲学」「ケアの倫理」「分析フェミニズム」の三つの観点から皆で議論します。とくに、「自分らしく生きるとは何とどのように戦うことなのか」という問いを立て、この問いにどのような仕方で答えることができそうかを話し合ひましょう。

予習：第6回から第8回までの授業内容を復習し、ディスカッション

10回：古典にふれる①：ウィトゲンシュタインという哲学者

19-20世紀を代表する哲学者で、オーストリア・ウィーン出身のL. ウィトゲンシュタイン（1889-1951）について、その生涯を学びます。

予習：「ウィトゲンシュタイン」という人について、データベース等で調べてみましょう。

復習：ウィトゲンシュタインがどのような哲学者か、生い立ち、他の哲学者との影響関係、思想、遺稿について得た情報から考察しましょう。

11回：古典にふれる②：『論理哲学論考』——前期ウィトゲンシュタインを知ろう

難解かつミステリアスなことで知られるウィトゲンシュタインの著作『論理哲学論考』のエッセンスに触れま

予習：『論理哲学論考』（またはその入門書）を図書館で見てください。

復習：『論理哲学論考』における、「無意味」と「ナンセンス」との違いについて考えてみましょう。

12回：古典にふれる③：『哲学探究』——後期ウィトゲンシュタインを知ろう

一度は哲学（界）から離れたウィトゲンシュタインが再び哲学を開始し、ウィーン学団や、ケンブリッジの同僚・学生とのやりとりの中から生み出した新しい作品『哲学探究』の導入箇所を読みます。

予習：『哲学探究』（またはその入門書）を図書館で見てください。

復習：『哲学探究』における「アウグスティヌス言語像」を分析していきましょう。

13回：ディスカッションⅢ：私たちが何かの意味を問う際に必要としていること

発表希望者（3名まで）を募り、発表者と他の受講者との間でディスカッションを行います。

言葉の意味および、言葉の意味を問題にするときに取る手法・前提・道具立てについて考え、私たちが何かを語る時に問題になること（あるいは、問題にせずに済ませてきたこと）は何であるかを議論しましょう。（題材は、ウィトゲンシュタイン以外でも構いません。）

予習：第10回から第12回までの授業内容を復習し、ディスカッションに備えましょう。

復習：ディスカッショ

14回：まとめ

これまでの授業を振り返り、三つの問い「他者を尊重することはなぜ難しいのか」「自分らしく生きるとは何とどのように戦うことなのか」「私たちが何かの意味を問う際に必要としていること」を参考に、それぞれが問いを立てます。

予習：ディスカッションⅠからⅢの復習を行いましょ。

復習：自身の問いに適した参考文献を選び、その文献を読みながら気になる点についてノート等へ書き出し、問いと解答を与えるプロセスを自分で形成していきましょう。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業計画を参照のこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小レポート:30% コメントシート:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

指定なし。適宜、スライドを配布します。

参考文献 / Readings

和泉悠 『悪い言語哲学入門』 筑摩書房 2022 4480074554

池田喬、堀田義太郎 『差別の哲学入門』 アルパカ 2021 4910024026

三木那由他 『会話を哲学する：コミュニケーションとマニピュレーション』 光文社 2022 4334046223

齋藤純一・田中将一 『ジョン・ロールズ』 中央公論新社 2021 4121026748

キャロル・ギリガン 『もうひとつの声で——心理学の理論とケアの倫理』 風行社 2022 4938662388

木下頌子、渡辺一暁、飯塚理恵、小草泰編訳 『分析フェミニズム基本論文集』 慶應義塾大学出版会 2022 4766428552

レイ・モンク 『ウィトゲンシュタイン〈1〉—天才の責務』 みすず書房 1994 9784622031857

ルートウィヒ・ウィトゲンシュタイン（2003）『論理哲学論考』、野矢茂樹訳、岩波書店。4003368916
——（2020）『哲学探究』、鬼界彰夫訳、講談社。4062199440

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業中の携帯電話の使用は禁止しますので、その他の端末（PC やタブレットなど）を持参してください。

その他/ Others

- ・このコースでは積極的な学習姿勢を求めます。楽に単位を取りたい方にはおすすりできません。私語、理由のない遅刻・早退、授業中のスマートフォン操作や内職などは基本的に認められませんのでご注意ください。悪質な態度があった場合は、退出を命じることがあります。
- ・教員は、授業内でのアウティングおよびミスジェンダリング予防に努めます。また、学生にも同様の努力を要請します。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

歴史学への招待

Introduction to Historical Studies

東西ユーラシア交流の歴史をフィールドワークする

四日市 康博 (YOKKAICHI YASUHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FF704
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	-----
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	文学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

歴史学、特にユーラシア交流史のフィールドワークに関する様々な情報を通じて歴史学に関心を持ち、歴史学の研究手法を理解できること。

なお、本講義はフィールドワークの方法論自体を詳説するものではなく、歴史学の楽しさを認識してもらうことを主眼とします。フィールドワークの方法論を本格的に勉強したい人は別途、専門の講義を受講してください。

The aim is to develop an interest in history, particularly through various information on fieldwork in Eurasian history, and to understand the methods of historiography.

授業の内容 / Course Contents

担当教員がイラン、アラブ諸国、中央アジア、東南アジア、ヨーロッパ、中国、モンゴルでおこなったフィールドワークの調査手法と関連する諸情報を提示し、関連する諸問題に関する講義をおこないます。

The lecturers present the research methods and related information from fieldwork conducted in Iran, Arab countries, Central Asia, South-East Asia, Europe, China and Mongolia, and give lectures on related issues.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導論：東西交流史研究とフィールドワーク
 イラン1：港市とキャラバンルートを巡る
- 2 回：イラン2：龍と鳳凰を探して
- 3 回：カザフスタン、ウズベキスタン：モンゴル襲来と国際貿易の道
- 4 回：サウジアラビア、オマーン：港市と国際商業ルートを巡る
- 5 回：イスラエル、パレスティナ：宗教の交差点・モンゴル襲来の足跡を辿る
- 6 回：タイ1：港市と国際貿易ルートを調査する
- 7 回：タイ2・ヴェトナム：狛犬（石獅子）の伝播を辿る
 ミャンマー：モンゴル襲来と海上貿易
- 8 回：インドネシア、マレーシア、シンガポール：港市国家と海上貿易
- 9 回：イタリア1：鳥獣紋・龍鳳紋を求めて
- 10 回：イタリア2：狛犬・石獅子を求めて
- 11 回：クロアチア、スロヴェニア、モンテネグロ：港市・海上貿易の道を巡る
 イギリス：港市・信仰・漁業
- 12 回：中国：中国王朝と遊牧民・海域世界
- 13 回：日本1：ユーラシアから見た弁才天と宇賀神
- 14 回：日本2：海を渡った菓子 お菓子のフィールドワーク
 附論：ユーラシアから見たチキンライスとピラフ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り上げる地域に関して各自の関心に応じて調べてみてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席およびリアクションペーパー：40% 授業参加（質疑応答も含む）：20% 最
 終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項**

2015年度以前1年次入学者対象科目

領域別A科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別A

歴史学への招待

Introduction to Historical Studies

中・近世ヨーロッパ都市の社会と文化

井上 周平 (INOUE SHUHEI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FF705
授業形態：	オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地：	他
学期：	春学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	-----
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	文学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

時代と地域という二重の意味で異文化である中・近世ヨーロッパの社会・生活文化の理解を通して、歴史や文化をその文脈のなかに位置づけて把握する態度を身につける。また、歴史に関する知見が、どのようなアプローチや史資料に基づいて得られたものなのかを考えられるようにする。

Through an understanding of the society and life culture of Medieval and Early Modern Europe, which are different in the dual senses of era and region, students will gain a stance to position and grasp history and culture in its context. In addition, students will become able to think about upon what kinds of approaches and historical sources they have obtained their knowledge about the past.

授業の内容 / Course Contents

中世から近世にかけてのヨーロッパの都市社会を取り上げ、さまざまな角度から捉えることで歴史的側面から社会・文化の多様性を学ぶとともに、歴史研究のさまざまなアプローチの可能性についても考えていく。

Taking urban societies in Europe from the Middle Ages to Early Modern times as examples from various angles, we will study the diversity of societies and cultures from the historical perspective, and also consider the

possibilities of various approaches to historical research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（4月10日）
- 2回：都市へのアプローチ（4月17日）
- 3回：中世都市の成立（4月24日）
- 4回：中世都市の社会構造と同職組合（5月8日）
- 5回：市民の日常と家（5月15日）
- 6回：黒死病と危機の時代（5月22日）
- 7回：都市の衛生環境（5月29日）
- 8回：都市と大学、中世の医学（6月5日）
- 9回：医療家たち：理髪師と瀉血（6月12日）
- 10回：入浴文化と公衆浴場（6月19日）
- 11回：社会の周縁：「レプラ」（6月26日）
- 12回：社会の周縁：死刑執行人（7月3日）
- 13回：社会の周縁：助産婦と「魔女」（7月10日）
- 14回：まとめ（7月17日）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

世界史とヨーロッパの地理の概要については、あらかじめ確認しておくことを勧めたい。また、講義内で参考文献を示した場合は、適宜閲読して欲しい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回の課題：70% 期末レポート：30%

課題の提出が開講回数の2/3に達していなければ期末レポートは受け付けない。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

河原温 『中世ヨーロッパの都市世界』 山川出版社 1996 9784634342309

河原温 『都市の創造力（ヨーロッパの中世2）』 岩波書店 2009 9784000263245

その他 / Others

- ・学修のリズムを保つために、オンデマンドの配信後一定期間の内に課題を提出することが求められる。
- ・授業スケジュールは変更される可能性もある。諸々の変更点については CanvasLMS を通じて指示する。

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

歴史学への招待

Introduction to Historical Studies

ジェンダーから見た日本近現代史

小野沢 あかね (ONOZAWA AKANE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FF706
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	-----
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	<input type="radio"/>
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	文学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

日本近現代史を女性史やジェンダーの視点から考察し、現代社会についての多面的な理解を深める。

Examine modern Japanese history from the perspective of women's history and gender, and deepen your multifaceted understanding of modern society.

授業の内容 / Course Contents

今日私たちが生きている社会では、男／女の区分にとらわれない、その人らしい多様な生き方を求める営みが発展しつつある。しかし、一昔前の社会では、人びとは好むと好まざるとにかかわらず、男／女のどちらかに区分され、どちらに区分されるかによって、生き方を大きく方向づけられ、制限されてきた。しかも男と女の間には明確な上下関係が存在しており、それは、家族や職場や学校、ひいては国家のあり方と深く関わっていたために、その区分を打ち破ることはとても困難だった。

本講義では、歴史上の人びとは男／女の区分によってどのように生き方を方向づけられ、制限されてきたのか、自分が女／男に区分されていることをどう認識してきたのか、その時代の「女らしさ」「男らしさ」を打ち破って自分らしく生きるためにどのような運動を展開してきたのか等について、日本の近現代史にそくして講

義する。

In the society we live in today, there is a growing trend towards people seeking diverse lifestyles that are unique to each person, without being bound by the distinctions of men and women. However, in society not so long ago, whether people liked it or not, people were categorized as male or female, and their way of life was largely determined and restricted depending on which category they were categorized into. Moreover, there was a clear hierarchical relationship between men and women, and this was deeply connected to the state of the family, workplace, school, and even the nation, so it was extremely difficult to break through this division.

In this lecture, we will discuss how people throughout history have been directed and restricted in their lives by the classification of men and women, and how they have recognized that they have been divided into women and men. Lectures will be given based on Japan's modern history about what kind of movements have been developed in order to break away from "femininity" and "masculinity" and live as oneself.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：近代国家とジェンダー:良妻賢母主義とつくられる男性性
- 3回：近代の様々な家族における女／男
- 4回：戦時体制・戦後改革とジェンダー
- 5回：高度経済成長とジェンダー①：性別役割分担家族の形成
- 6回：高度経済成長とジェンダー②：労働とジェンダー
- 7回：ウーマン・リブ：「女らしさ」を批判する①
- 8回：ウーマン・リブ：「女らしさ」を批判する②
- 9回：「企業社会」の性別役割分担への批判①
- 10回：「企業社会」の性別役割分担への批判②
- 11回：「男らしさ」批判①
- 12回：「男らしさ」批判②
- 13回：「男らしさ」批判③
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業の中で紹介する参考文献のうち、自分が興味を持ったものを積極的に読むこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 鹿野政直 『現代日本女性史：フェミニズムを軸として』 有斐閣 2004 4641076804
 鹿野政直 『祖母・母・娘の時代』 岩波書店 1985 4005000967

藤原千紗・山田和代編 『労働再審 3 女性と労働』 大月書店 2011 9784272301836

熊沢誠 『女性労働と企業社会』 岩波書店 2000 4004306949

天野正子ほか編 『新編日本のフェミニズム 12 男性学』 岩波書店 2009 9784000281478

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

歴史学への招待

Introduction to Historical Studies

戦後日本社会の諸相/Aspects of postwar Japanese society

中村 陵 (NAKAMURA RYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FF707
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目： ○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 文学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

戦後の日本社会の実態を把握することで、今日の日本社会における多様な出来事の歴史的起源、およびその変容過程を理解するのみならず、現在の日本社会における諸問題について歴史的視点からの分析ができるようになる。

By grasping the actual situation of postwar Japanese society, you will not only understand the historical origins and transformation process of various events in Japanese society, but also analyze various problems in Japanese society from a historical perspective.

授業の内容 / Course Contents

戦後の日本社会は敗戦の復興から高度経済成長、バブル経済、そして平成不況と、目まぐるしい速度で変化し、現在も変化の只中にある。その過程でいつしか人々の記憶から忘却され、現代ではその痕跡すら残されていない出来事も多いのではないだろうか。本講義では戦争孤児や集団就職、昭和レトロブームなどの戦後日本社会で現れた諸現象の実態を、近年の研究成果に即して概説してゆく。

Postwar Japanese society has changed at a dizzying pace, from the recovery of the defeat to the high economic

growth, the bubble economy, and the Heisei depression, and it is still in the midst of change. In the process, it may be forgotten from people's memories, and there are many events that do not even leave a trace of it now. In this lecture, it will outline various matters that occurred in postwar Japanese society in line with recent research results, such as war orphans, mass employment, retro-trendiness of the Showa period, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：前提としての「近代」
(Orientation: 'Modernity' as a premise of postwar Japan)
- 2 回：終戦直後の社会①：闇市の出現と盛衰
(Society immediately after WWII vol.1: The black market, its appearance and vicissitude)
- 3 回：終戦直後の社会②：戦争孤児の出現
(Society immediately after WWII vol.2: Appearance of war-damaged orphans)
- 4 回：終戦直後の社会③：戦争孤児の諸相
(Society immediately after WWII vol.3: Aspects of war-damaged orphans)
- 5 回：高度経済成長期の社会①：集団就職の軌跡
(Society in high economic growth vol.1: Footprints of mass employment)
- 6 回：高度経済成長期の社会②：同郷者集団の結成
(Society in high economic growth vol.2: Formation of hometown group)
- 7 回：「在日」朝鮮人社会の変遷①：在日本朝鮮人連盟と朝鮮戦争
(Transition in society of 'Korean residents in Japan' vol.1: Federation of Korean residents in Japan and Korean War)
- 8 回：「在日」朝鮮人社会の変遷②：北朝鮮帰国事業と「在日」二世
(Transition in society of 'Korean residents in Japan' vol.2: Repatriation Program of DPRK and 2nd generation of Korean residents in Japan)
- 9 回：自民党の変容①：自民党結党から日本型多元主義政党へ
(Transformation of LDP vol.1: From the formation of LDP to pluralism party for Japanese-style)
- 10 回：自民党の変容②：リベラル派の隆盛から右傾化へ
(Transformation of LDP vol.2: From the rise of liberal wing to emphasis of right wing)
- 11 回：貧困の諸相①：敗戦期・復興期の貧困
(Aspects of poverty in postwar Japan vol.1: Poverty in the defeat and reconstruction period)
- 12 回：貧困の諸相②：高度経済成長期以降の貧困
(Aspects of poverty in postwar Japan vol.2: Poverty after high economic growth)
- 13 回：「昭和ノスタルジー」の諸相①：1970、1980 年代の昭和レトロブーム
(Aspects of 'Showa Nostalgia' vol.1: Retro-trendiness of the Showa period in '70s and '80s)
- 14 回：「昭和ノスタルジー」の諸相②：1990、2000 年代の「昭和ノスタルジー」ブーム
(Aspects of 'Showa Nostalgia' vol.2: Retro-trendiness of 'Showa Nostalgia' in '90s and 2000s)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 1) 配布資料は Canvas LMS に投稿するので、授業当日までにダウンロードまたはプリントアウトして授業に臨むこと。
- 2) 授業内容の整理・把握にあたっては授業アーカイブを活用すること。
- 3) 新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、インターネットなど、各種メディアで取り上げられるニュースに関心を持ってあたること。
- 4) 理解度を深めるため、毎授業で紹介する参考文献を読むことが望ましい。

1) Handouts will be posted in Canvas LMS. You will download or print

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 小レポート 2 回(Short report in twice):50%

2/3 以上の出席をしていない場合（5 回以上欠席）、単位修得不可。

(If you don't attend more than two-third in the lecture (absence over 5 times), you'll not be able to earn the credit.)

テキスト / Textbooks

テキストは使用せず、Canvas LMS に配布資料を投稿する。

(In this lecture, it will use handouts posted in Canvas LMS instead of textbooks.)

参考文献 / Readings

参考文献は毎授業で適宜紹介する。

(References will be introduced as appropriate in every class.)

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

1) 中学・高校で学習する日本の戦後史の基本的な流れや知識を必要とする。2) 日本史に関連する講義を受講したことがない場合は日本近現代史に関する概説書（高校教科書・参考書など）にあらかじめ目を通しておくこと。

1) This lecture requires basic overview and knowledge of Japanese postwar history learned in junior high and high school.

2) If you have never taken a le

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

zoom アプリを用いたオンライン授業のため、初回授業までに zoom アプリを各種デバイスにインストールしておくこと。

(For online classes using the zoom app, you should install it on your devices before #1 of the class.)

その他 / Others

- 1) 配布資料、出欠席確認、zoom の ID・PW などは初回授業までに Canvas LMS に通知する。
- 2) 進捗状況によっては授業内容を変更する場合がある。

1) Information about handouts, attendance and ID/PW for zoom will be sent in Canvas LMS up to #1 of the class.

2) Class contents may change depending on the progress.

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

歴史学への招待

Introduction to Historical Studies

天皇制の現在・過去・未来

富永 望 (TOMINAGA NOZOMU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FF708
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	-----
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	文学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

日本の天皇制は独特であるとともに他国の王室と共通する面もある。その特異性と共通性に着目しながら、皇室の歴史を学んだうえで現在の象徴天皇制の実相を理解し、今後の天皇制の在り方について自分の考えを持つようになってもらいたい。

The Japanese emperor system is unique and has some aspects in common with the royal families of other countries. While paying attention to its uniqueness and commonality, studying its history, I would like students to understand the reality of the current symbolic emperor system and to develop their own ideas about how the emperor system should be in the future.

授業の内容 / Course Contents

天皇制について通史的に概観しながら、各時代における変容を理解する。その上で、現在の象徴天皇制がどのようにして成立したのかを認識し、各自の皇室論を作り上げる。

Understand the transformation in each era while overviewing the emperor system from a historical perspective. Moreover, students will recognize how the current symbolic emperor system was established and create their own

theories about the imperial family.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：皇室の日常：普段は何をしているの？—公務と行事
- 2回：古代の天皇1：神話から歴史へ—最初の天皇は誰か
- 3回：古代の天皇2：専制君主の時代—大王から天皇へ
- 4回：中世の天皇1：院政の時代—武士の登場
- 5回：中世の天皇2：院政の時代—武家政治と皇室
- 6回：近世の天皇：徳川の平和—権威のみの存在だったのか
- 7回：近現代の天皇1：明治天皇—近代化の先頭に立つ
- 8回：近現代の天皇2：明治天皇—立憲君主の役割
- 9回：近現代の天皇3：大正天皇—天皇とデモクラシー
- 10回：近現代の天皇4：戦前の昭和天皇—統帥権の暴走
- 11回：近現代の天皇5：戦中の昭和天皇—白馬にまたがった大元帥
- 12回：近現代の天皇6：戦後の昭和天皇—人間天皇への転身
- 13回：近現代の天皇7：平成の皇室—大衆天皇制のゆくえ
- 14回：これからの天皇制—我々は皇室に何を求めるか

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

下記参考文献をはじめとして、天皇制に関する概説書を読んでおくことが望ましい。また、皇室を題材にしたテレビのドキュメンタリー番組や皇室に関する新聞・テレビの報道についてもアンテナを張っておくことを期待する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への参加度:30%

毎回出席をとるので学生証を携帯すること。「学生証を忘れました」「学生証をなくしました」という弁明は認めない。授業への参加度の指標として CanvasLMS のディスカッションを活用する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 笠原英彦 『歴代天皇総覧 皇位はどう継承されたか 増補版』 中公新書 2021 9784121916174
 河西秀哉 『戦後史のなかの象徴天皇制』 吉田書店 2013 9784905497165
 大津透他 『天皇の歴史』全10巻 講談社学術文庫 2017～2018
 君塚直隆 『立憲君主制の現在 日本人は「象徴天皇」を維持できるか』 新潮選書 2018 9784106038235

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本史の基本的知識は持っていてほしい。なるべく最新の研究を紹介するつもりなので、高校の日本史の授業内容を理解していることが前提となる。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

地域研究への招待

Introduction to Regional Studies

地域研究におけるフィールドワーク

山下 亜紀郎 (YAMASHITA AKIO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FF709
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 文学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

地域研究にとって必須ともいえる現地調査（フィールドワーク）における、さまざまな調査法やそれらによって得られる成果について、地理学的な調査・研究に関する具体的な事例を通して学ぶ。

This course expects students to learn about various survey methods and the outcomes from them in fieldwork, which is essential for area studies, through specific research examples on geographical study.

授業の内容 / Course Contents

ブラジルにおける地域研究の事例について講義する。

日本と韓国における水環境問題に関する研究事例について講義する。

The contents of this course is research examples on regional geography in Brazil and water environmental issues in Japan and South Korea.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業内容についてのイントロダクション，講師の研究紹介

- 2回：ブラジル地域研究事例1：パンタナール湿原の自然環境と農業
 3回：ブラジル地域研究事例2：パンタナール湿原の観光開発と環境問題
 4回：ブラジル地域研究事例3：ノルデステの伝統的牧畜
 5回：ブラジル地域研究事例4：ノルデステの灌漑果樹農業
 6回：ブラジル地域研究事例5：ノルデステの日系社会
 7回：ブラジル地域研究事例6：アマゾンの日系農場の生業・生活
 8回：水環境問題の諸相，
 水環境問題研究事例1：豪雨による土砂災害のリスクと防災
 9回：水環境問題研究事例2：諏訪湖の環境変化と観光地としての変容
 10回：水環境問題研究事例3：東京の都市用水利用の歴史的変遷と現状
 11回：水環境問題研究事例4：金沢の都市内用水路と都市住民の生活との関わり
 12回：水環境問題研究事例5：都市の水辺景観の評価（金沢の用水路とソウルの清溪川）
 13回：水環境問題研究事例6：韓国公州市済民川の景観形成と地域活性化
 14回：地理学・地域研究におけるフィールドワークの方法論と成果（まとめ）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で紹介する参考文献の精読

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回授業終了時の小課題：60%

最終レポート割合：40% 最終テスト割

合：0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

丸山浩明 『パンタナール』 海青社 2011 9784860992767

斎藤 功ほか 『ノルデステ』 大明堂 1999 4470490318

丸山浩明 『砂漠化と貧困の人間性』 古今書院 2000 4772240187

山下亜紀郎 『水環境問題の地域的諸相』 古今書院 2015 9784772281157

その他、授業内で紹介する。

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

領域別A科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別A

地域研究への招待

Introduction to Regional Studies

地域の変容について学ぶ。 / Study of the transformation in various cities.

中台 由佳里 (NAKADAI YUKARI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FF710
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） ゲストスピーカー登壇のため、オンラインで1回実施する（第10回の授業）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 文学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

地域を多角的な視点から読み解き、記述する方法を学ぶ。資料の選択、文献の探し方などを学び、総合してまとめる力を養う。

Students will study the method of understanding and describing about the regions with various angles. Students will find out their data and documents, then reach to integrate them.

授業の内容 / Course Contents

地域研究のための基礎的なアプローチの仕方、テーマ設定、データの収集方法などを学ぶ。地域研究のテーマに基づき、グループ内で分担して口頭発表を行う。今年度は、構成要素や時系列によってグループが設定される。テーマに沿って各自の分担部分を資料、文献などに基づきレポートにまとめる。

Students will find out the fundamental way to approach, to set up their theme and to collect data for regional studies. The group are set up by ingredients and timelines. Students will make their presentation and make up their reports as their assigned part in their theme to use data and documents.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス/ 地域を学ぶことの意義を考える。
- 2回：地域研究の方法－アプローチの仕方 1
- 3回：地域研究の方法－アプローチの仕方 2
- 4回：「地域研究の方法」事例紹介 1
- 5回：「地域研究の方法」事例紹介 2
- 6回：地域研究の実践 1
- 7回：地域研究の実践 2
- 8回：地域研究の実践 3
- 9回：地域研究の実践 4
- 10回：外部講師による講義
- 11回：地域研究の実践 5
- 12回：地域研究の実践 6
- 13回：「地域を活かす」方法を探る 1
- 14回：「地域を活かす」方法を探る 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:							

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・テーマに基づき口頭発表の準備を行う。
- ・質問とコメントから追加調査を行い担当範囲に修正を加える必要がある。
- ・奥多摩にて炭焼き体験実習 (5月25日) を行う。希望者のみ参加、参加人数の上限あり。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 口頭発表:40% 出席兼リアクションペーパー:30% 口頭発表のまとめレポート:30%

- ・発表者へのコメントは次回の講義時に、担当者にフィードバックを行う。
- ・リアクションペーパーへのフィードバックは、次回以降の授業内に講評を行う。

テキスト / Textbooks

資料を配布する。テキスト等は使用しない。

参考文献 / Readings

- 宮内 泰介、上田 昌文 『実践自分で調べる技術』 岩波書店 2020 9784004318538
- 梶田 真他編 『地域調査ことはじめ』 ナカニシヤ出版 2007 9784779501326
- 松本 康編 『都市社会学・入門 改訂版』 有斐閣アルマ 2022 9784641222076
- 葉袋 奈美子他 『生活の視点でとく都市計画 第2版』 彰国社 2023 9784395321995
- 岡本 耕平監修 『論文から学ぶ地域調査』 ナカニシヤ出版 2022 9784779516207

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- ・資料配布や課題提出のため「Canvas LMS」を使用する。

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

教育学への招待

Introduction to Pedagogy

平和教育の歴史と実践

小園 崇明 (KOZONO TAKAAKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FF711
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	-----
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	文学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

第二次世界大戦後の平和教育を参照しながら、世界の平和学の理論や日本の社会科教育の歴史、現代の社会科教育の実践について学ぶ。これらを通して教育学に関する基礎知識や理論、課題についてを身につける。また、現代社会の諸問題に対して教育学の観点から理解・検討するための方法や視点を身につける。

While referring to peace education after World War II, students will learn about the theory of peace studies around the world, the history of social studies education in Japan, and the practice of modern social studies education. Through these activities, students acquire basic knowledge, theories, and issues related to pedagogy. In addition, students will acquire methods and perspectives for understanding and considering various issues in modern society from an pedagogical perspective.

授業の内容 / Course Contents

講義を通して第二次世界大戦の歴史やそこからはじまった戦後の平和教育について、世界の平和学の理論や日本の学校教育、博物館教育の現場の実践から学んでもらう。また、校外学習として実際に平和博物館の見学をし、それをふまえて学生が考えた平和教育を発表してもらおう。

Through lectures, students will learn about the history of World War II and the postwar peace education that began from it, from world peace studies theories and on-site practices in Japanese school education and museum education. In addition, students will actually tour the Peace Museum as an off-campus study and have students present their ideas for peace education based on that experience.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：平和教育の歴史の概要
- 2 回：教育とは何か
- 3 回：大正時代の聴覚障害者教育の歴史
- 4 回：第二次世界大戦
- 5 回：戦争体験の継承
- 6 回：平和学と日本の社会科教育
- 7 回：戦後の平和教育の課題と実践
- 8 回：現在の平和教育の実践
- 9 回：博物館の平和教育
- 10 回：博物館見学
- 11 回：平和教育の発表（1）
- 12 回：平和教育の発表（2）
- 13 回：平和教育の発表（3）
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：事前に配布した資料を読んでおくこと。また、それに関連する事柄についてインターネットや書籍等から調べ、自分なりの意見をもって講義に臨むこと。

復習：授業中に配布した資料やレジュメをよく読みながら、事前に考えていた自分の意見を発展させること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内の課題（小レポート及び発表）:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

小藺 崇明・渡辺 哲郎・和田 悠 子どもとつくる平和の教室 はるか書房 2019 9784434256325

その他の参考文献は授業中に適宜提示する。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

法への招待

Invitation to Law

比較法とグローバリゼーション

貝瀬 幸雄 (KAISE YUKIO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FF713
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 法学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

法学の学習に必要な外国法についての基礎知識を修得するために、比較法の方法、比較法の隣接諸分野、法族論、法とグローバリゼーションなどのテーマを学習する。特にグローバリゼーションが比較法に及ぼす影響に注目する。不十分ではあるが、法学入門としての役割も果たしたい。

In order to acquire fundamental knowledge concerning foreign law which is required for the study of law in general. Students in this course will study the methods of comparative law, areas adjacent to comparative law, the doctrine of legal families, law and globalization, and other topics.

授業の内容 / Course Contents

担当者が執筆したテキストブックを用い、その内容について詳しく講述する。比較法の基礎理論すなわち比較法原論が講義の中心となる。講義の後半は、比較法各論として、アメリカ比較法学を代表するマティアス・ライマンの比較法史研究とともにイタリアの代表的比較法学者であるジュゼッペ・モナテリの比較法方法論を取り上げる。

This course will use the textbook written by myself. The lectures will focus on the basic theories of comparative

law. As the second part of this lecture, I will analyze the study of comparative legal history by Prof. Mathias Reimann and the comparative law method by Prof. Giuseppe Monateri.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：比較法学の意義
- 2回：比較法と隣接諸分野（1）
- 3回：比較法と隣接諸分野（2）
- 4回：比較法の方法（1）
- 5回：比較法の方法（2）
- 6回：法族論（1）
- 7回：法族論（2）
- 8回：法族論（3）
- 9回：グローバル比較法学（1）
- 10回：グローバル比較法学（2）
- 11回：歴史法学派とコモン・ロー（1）
- 12回：歴史法学派とコモン・ロー（2）
- 13回：歴史法学派とコモン・ロー（3）
- 14回：結論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

まずはテキストを読んできていただきたい。復習は丹念に行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

貝瀬幸雄 『比較法学入門』 日本評論社 2019 ○

参考文献 / Readings

貝瀬幸雄 『現代アメリカ比較法学の行方』 日本評論社 2022

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

法への招待

Invitation to Law

日本法の形成と特徴、および社会の中での機能

佐伯 昌彦 (SAEKI MASAHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FF714
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 法学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

日本の法や司法制度の成り立ちや現状について、基本的な知識を獲得する。また、そのような法が社会のなかでどのような機能を果たしているかについて考察する視点の獲得を目指す。

This course aims to acquire a basic knowledge of the origins and current status of Japanese law and the judicial system. In addition, it aims at acquiring a viewpoint to consider how such laws function in society.

授業の内容 / Course Contents

日本の法や司法制度の成り立ちや現状、およびそれらの社会の中での機能に関して、基本的な知識を教授する。

This course will provide students with a basic knowledge of the origins and current status of Japanese law and the judicial system, and their function in society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

2 回：日本の法制度の沿革（1）

- 3回：日本の法制度の沿革（2）
 4回：日本の法制度の沿革（3）
 5回：司法制度（1）
 6回：司法制度（2）
 7回：司法制度（3）
 8回：司法制度（4）
 9回：民事司法制度（1）
 10回：民事司法制度（2）
 11回：民事司法制度（3）
 12回：刑事司法制度（1）
 13回：刑事司法制度（2）
 14回：刑事司法制度（3）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義を通してトピックと関連する基本的な文献を紹介する。関心のある内容について、それらの文献を参考にしながら学習を進めることを推奨する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

講義の中で、特定のトピックと関連の深い基本的な文献を適宜紹介していく。

参考文献 / Readings

村山眞維・濱野亮 『法社会学[第3版]』 有斐閣 2019 9784641221246

川嶋四郎・松宮孝明編 『レクチャー日本の司法』 法律文化社 2014 9784589035592

木佐茂男ほか 『テキストブック現代司法[第6版]』 日本評論社 2015 9784535519879

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

経営学入門

Introduction to Business

マーケティング戦略の基本を学ぶ

井上 一郎 (INOUE ICHIROU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FF716
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	-----
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

マーケティングの基本について理解し、市場における製品の中で、なぜ売れている製品もあればそうでない製品もあるのかについて批判的に考察できるための基礎力を身に付け、人に説明できるようになることを目標とする。

This course aims to understand marketing fundamentals, acquire the essential ability to consider critically why some products sell well and some do not, and explain these concepts to others.

授業の内容 / Course Contents

社会環境の変化、消費者の多様化を背景に、マーケティングは、一般企業はもちろん、自治体や学校さらには社会貢献活動を行う非営利団体などにおいても、その重要性は高まっています。

本講義においては、マーケティング要素の個別戦略を理解し、学生自身が、マーケティング視点で考察できるようになることを目指します。

具体的には、マーケティングを構成する製品戦略、ブランド戦略、価格戦略、流通戦略、プロモーション戦略について学びます。

Against a backdrop of changing social conditions and diversifying consumers, the importance of marketing is rising in for profit companies as well as non-profit sectors like governments, schools, and organizations involved in social contribution activities.

The goal of this course is to understand individual strategies of marketing elements, and to be able to consider matters from a marketing point of view. In particular, students study product, brand, pricing, distribution, and promotion strategies comprising marketing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入：マーケティングとは何か
- 2 回：マーケティングのコンセプトと構成要素（4P、7P）
- 3 回：マーケティングの定義と拡張①定義の変遷
- 4 回：マーケティングの定義と拡張②ソーシャルマーケティング
- 5 回：企業の存在意義とブランディング
- 6 回：企業事例研究 1：自動車会社のマーケティング
- 7 回：企業事例研究 2：自動車会社のマーケティングコミュニケーション
- 8 回：企業事例研究 3：ラグジュアリーブランドのマーケティングとコミュニケーション
- 9 回：製品戦略：物財とサービス財
- 10 回：価格戦略：価格の意義
- 11 回：流通戦略：流通の役割と種類
- 12 回：コミュニケーション戦略の役割と種類：PR、広告
- 13 回：コミュニケーションの役割と種類：プロモーション
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：各回のテーマに合わせて、日常生活において様々な製品について、その機能、価格の適正さ、流通、販売方法、そして広告などのプロモーションについてマーケティング視点で建設的に且つ批判的に観察する。

復習：各回アップするテキストをもとに復習する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー、授業内発言ポイント:40%

テキスト / Textbooks

教員が pdf でアップする

参考文献 / Readings

恩藏直人 『マーケティング第2版』 日本経済新聞出版社 2019 9784532114046

石崎徹編著井上一郎ほか 『わかりやすいマーケティングコミュニケーション第3版』 八千代出版 2024
9784842917382

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

社会学への招待 1

Invitation to Sociology 1

「ひきこもり」の社会学

石川 良子 (ISHIKAWA RYOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FF718
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 社会学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

「ひきこもり」について考えることを通して、自分自身の人生・生き方および社会のあり方を振り返ることが本講義の目的です。

The purpose of this course is to reexamine about your own life and society through thinking about "Hikikomori".

授業の内容 / Course Contents

ライフストーリー・インタビューに基づいて、「ひきこもり」とは当事者にとってどのような経験なのか理解するためのいくつかの視点を提示します。生きることをめぐる葛藤が「ひきこもり」の本質であることを理解するとともに、自分自身の人生・生き方に関連づけて考えることが重要です。

This course offer some viewpoints for understanding of experiences of social withdrawn people (Hikikomori), based on life story interviews. It is especially important to understand that the heart of Hikikomori is suffering of living, and to look upon them as being related to your own life.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：社会問題としての「ひきこもり」の歴史
- 3回：「ひきこもり」の定義の批判的検討
- 4回：「ひきこもり」の当事者とは誰か
- 5回：「ひきこもり」を捉える視点：自己防衛戦略
- 6回：「ひきこもり」を捉える視点：自己物語の破綻と再構築
- 7回：当事者に聴く①
- 8回：「ひきこもり」を捉える視点：「動けなさ」の経験①
- 9回：「ひきこもり」を捉える視点：「動けなさ」の経験②
- 10回：「ひきこもり」を捉える視点：「語れなさ」の経験①
- 11回：「ひきこもり」を捉える視点：「語れなさ」の経験②
- 12回：当事者に聴く②
- 13回：最終レポートの作成
- 14回：最終レポートのフィードバック（グループディスカッション）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストをもとにグループディスカッションを行う予定です。あらかじめ目を通しておいてください。そのほかは授業中に適宜指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクションペーパー（複数回）：60% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

石川良子 『「ひきこもり」から考える』 ちくま新書 2021 4480074384 ○

参考文献 / Readings

石川良子 『ひきこもりの〈ゴール〉』 青弓社 2007 4787232762

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・授業計画は履修者の関心などに応じて変更することがあります。
- ・第7・12回はゲストスピーカーを予定していますが、先方の都合で変更になることがあります。

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

領域別A科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別A

コミュニティと福祉

Community and Welfare

ノーマライゼーション論の視点からコミュニティを考える

結城 俊哉 (YUKI TOSHIYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FF720

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： コミュニティ福祉学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

この科目は、誰もが暮らしやすいコミュニティのデザイン方法を考える力を身につけることを目標とする。具体的には、コミュニティ問題を考える方法論として「ノーマライゼーション論」の視点と優生思想と障害者の自立生活運動についての理解を手がかりとして進める。

The goal of this course is to acquire the ability to think about ways to design communities that are comfortable for everyone to live in. Specifically, students will deepen their understanding of the perspective of "normalization theory," eugenic thought, and the independent living movement for people with disabilities as a methodology for thinking about community issues.

授業の内容 / Course Contents

この授業は、「共生社会」を実現するコミュニティとは何かについて問題についての検討から始める。次に「ノーマライゼーション理念」の発展の歴史について解説する。さらに、この授業でノーマライゼーション理念の体系化について述べる。同時に、コミュニティ・ケアの実践と施設ケアとの間に生じるコンフリクト問題についてどのような問題解決のアプローチができるのか検討する。最後に、コミュニティにおける優生思想による

排除と差別の問題とインクルーシブ社会実現の原動力となってきた障害当事者運動について講義する。

This class begins with an examination of the question of what constitutes a community that realizes an

``inclusive society." Next, I will explain the history of the development of the ``normalization philosophy."

Furthermore, this class will discuss the systematization of the normalization philosophy. At the same time, we will consider what approaches can be taken to resolve conflicts that arise between community care practices and institutional care. Finally, the lecture will discuss the issues of exclusion and discrimination caused by eugenic ideology in the community, and the movement for people with disabilities that has been the driving force for realizing an inclusive society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：授業の方針の説明
- 2 回：共生するコミュニティの探求（1）
- 3 回：共生するコミュニティの探求（2）
- 4 回：「ノーマライゼーション理念」の誕生をめぐって
- 5 回：ノーマライゼーション理念の父：バンク＝ミケルセンの生涯から考える
- 6 回：ノーマライゼーション理念の体系化をめぐって（1）
- 7 回：ノーマライゼーション理念の体系化をめぐって（2）
- 8 回：ノーマライゼーション論の体系化をめぐって（3）
- 9 回：ノーマライゼーション理念と優生思想問題：旧優生保護法を考える
- 10 回：ノーマライゼーション理念の具現化への方法としてのアプローチ
- 11 回：ノーマライゼーション理念の実現と障害者の自立生活運動の軌跡（1）
- 12 回：ノーマライゼーション理念の実現と障害者の自立生活運動の軌跡（2）
- 13 回：ノーマライゼーション論におけるコミュニティ・ケアと施設ケアの問題
- 14 回：総括：ノーマル（当たり前）の生活を実現する方法とは何か。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 中間課題レポート:20% 出席及び授業参加度:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

この授業は、PowerPoint を使用する講義です。（適宜、視聴覚教材も活用します）尚、授業の学生用配布レジュメは CanvasLMS から授業前に教材提示を行いますので受講者は前日には確認すること。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

コミュニティと福祉

Community and Welfare

福祉国家論と現代社会

林 昌子 (HAYASHI MASAKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FF721

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： コミュニティ福祉学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

福祉国家論を中心に、現代社会における様々な問題に理解を深めることを目指す。広い視野からこれらの課題を検討することで、それぞれの問題について自己の力で考察するスキルを磨くことが期待される。同時に、養った考えを効果的に他者に伝えることができるようになる。

Understand problems in contemporary society from the viewpoint of the welfare state studies. By examining various issues, such as social security, poverty, work and labour, raising children, education, ageing society, international conflicts, migrants and refugees, from a broad perspective, let your potential abilities flourish by thinking about these issues on your own. Share your thoughts with others and then communicate your ideas to others.

授業の内容 / Course Contents

「福祉国家とは何か」への理解が、自分や自分を取りまく人々、そしてコミュニティにとってどのように関わるのかを、おもに福祉国家の歴史的観点から検討する。まずは現代社会が抱える諸問題を知ることから出発する。少人数によるディスカッションを行い、それをクラス全体での議論に発展させる。その議論を受けて、自

らがどのようにそれらの社会問題に向き合うのかを考察する。

This course explores the relevance of the welfare state to our daily lives, communities, and surroundings, with a primary focus on its historical perspective. The initial phase involves gaining insights into the challenges confronting contemporary society. Students will engage in small-group discussions, which will be expanded to whole-class discussions. Subsequently, students will reflect on their approaches to addressing these social problems.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業の進め方、「福祉」「国家」「コミュニティ」
- 2 回：福祉国家と社会保障
- 3 回：コミュニティの問題 1：貧困
- 4 回：コミュニティの問題 2：労働
- 5 回：コミュニティの問題 3：子育てと政治
- 6 回：コミュニティの問題 4：教育と若者の自立
- 7 回：コミュニティの問題 5：高齢社会
- 8 回：世界に目を向ける：難民、移民、紛争
- 9 回：福祉国家以前の福祉社会
- 10 回：福祉国家とキリスト教
- 11 回：イギリスの福祉国家
- 12 回：アメリカの福祉国家
- 13 回：ヨーロッパ・その他の福祉国家
- 14 回：「ニーズ」を知る

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 中間レポート (Mid-term Report):30% 授業への参加度：リアクションペーパーを含む (Active participation in class):20%

授業計画および内容は、授業の進捗により変更されることがある。

テキスト / Textbooks

坏洋一、金子充、室田信一 『問いからはじめる社会福祉学』 有斐閣 2016 -

適宜資料を配布する

参考文献 / Readings

坏洋一 『福祉国家』 法律文化社 2012 4589034743

平岡公一、杉野昭博、所道彦、鎮目真人 『社会福祉学』 有斐閣 2011 4641053766

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

観光学への招待

Introduction to Tourism

観光学に関する総合的な理解

五艘 みどり (GOSO MIDORI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FF722
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	-----
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	観光学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

観光学の基礎知識を身につけ、多様な視点から観光現象を総合的に把握する。

The goal of this course is to acquire basic knowledge of tourism and to understand tourism phenomena from various perspectives.

授業の内容 / Course Contents

観光学の総合的な理解に向けて、観光を歴史、文化、政策、産業、人々の行動といった多様な側面からの視座を学ぶ。

Lectures will be held on various aspects such as tourism history, culture, policy, industry, and tourist's behavior in order to gain a comprehensive understanding of tourism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：観光学の概要
- 2 回：世界の観光史①
- 3 回：世界の観光史②

- 4回：日本の観光史①
 5回：日本の観光史②
 6回：サステイナブル・ツーリズム（持続可能な観光）
 7回：観光と文化
 8回：ミニテスト
 9回：観光政策
 10回：観光市場
 11回：観光とまちづくり
 12回：観光産業
 13回：観光行動とIT
 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

国内外の新聞やニュースを毎日確認し、そこで見られる観光現象はどのような観光学の知識から説明できるのかを考え、人に説明できるように訓練すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ミニテスト:40% 出席および授業参加の積極性:20% 最終テスト割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

前田 勇（著，編集）『新現代観光総論』-第3版 単行本（ソフトカバー）- 学文社 2019 9784762029172

その他 / Others

<https://researchmap.jp/read0144212>

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

文学への招待

Introduction to Literature

批評理論入門（英米仏文学からジブリまで）

遠藤 不比人 (ENDO FUHITO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FF725
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 文学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

文学テキストの読解を単なる感想ではなく、大学での研究に相応しい「解釈」の次元で実践できるような知識を獲得するために、「文学理論」の基礎を学びます。同時に狭く文学だけでなく、ジェンダー研究、ポストコロニアル批評、マルクス主義理論など、現在の世界を解釈するために必要な知識も講義の対象にします。

The aim of this course is to provide students with a basic knowledge of 'literary theory' which will enable them to interpret literary texts at an appropriate academic level, beyond mere subjective impressions. Students will also be introduced to a range of theoretical discourses, such as gender, postcolonial, or Marxist theories, which will empower them to interpret not only literature but also contemporary global issues.

授業の内容 / Course Contents

下記の教科書を使用しながら、ジェンダー、ポストコロニアル、マルクス主義、精神分析などの視点から、ある特定の文学テキストを解釈する訓練を実践的に行います。対象テキストは、英米仏の古典的な作家のみならず、現代日本で活躍する作家、あるいはジブリ作品を含みます。双方向的な議論を可能にするために、講義の後に reaction paper を提出したり、その場でコメントを受講生に求めたりするので、積極的な講義への参加を

期待します。

Using the following textbook, students will be trained to interpret a variety of literary works—classics of English, American, or French literature as well as our contemporary Japanese texts (including Ghibli films)—from the perspective of gender, postcolonial, Marxist, or psychoanalytic theories. The course will be interactive in the following ways: submitting reaction papers or making comments in class. Students will be strongly expected to take an active part in class discussions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入（下記の教科書の「はじめに」を事前に読んでおく）
- 2回：精神分析批評1（当該章を事前に読んでおく）
- 3回：精神分析批評2（当該章を事前に読んでおく）
- 4回：ジェンダー批評1（当該章を事前に読んでおく）
- 5回：ジェンダー批評2（当該章を事前に読んでおく）
- 6回：フェミニズム批評1（当該章を事前に読んでおく）
- 7回：フェミニズム批評2（当該章を事前に読んでおく）
- 8回：ポストコロニアル批評1(当該章を事前に読んでおく)
- 9回：ポストコロニアル批評2(当該章を事前に読んでおく)
- 10回：マルクス主義批評1(当該章を事前に読んでおく)
- 11回：マルクス主義批評2 当該章を事前に読んでおく)
- 12回：テーマ批評1(当該章を事前に読んでおく)
- 13回：テーマ批評2 (当該章を事前に読んでおく)
- 14回：最終テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度:30% リアクションペーパー:30% 最終テスト割合：:40%

テキスト / Textbooks

小倉孝誠編集 『批評理論を学ぶ人のために』 世界思想社 2023 4790717763 ○

参考文献 / Readings

講義中に複数を適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

ある程度抽象的な議論にも参加できること。

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

文学への招待

Introduction to Literature

文学と歴史

大坪 裕幸 (OTSUBO HIROYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FF726
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	-----
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	文学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

ヨーロッパ各国（および米国や日本）の文学作品を扱い、様々な文学作品に描かれた「歴史」について考えていく。

We will deal with the literary works of each European countries and consider 《the history》 depicted in these works.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、我々は文学と歴史の関係について分析・考察する。より正確には、文学のなかで描写された歴史と、それらの作品の歴史的背景との関係を考える。まず作品に描写された様々な分野の歴史（の断片）について精読し、次に取り上げた作品を現実の歴史のコンテキストに当てはめて俯瞰する。このようにして毎回の講義で、文学と歴史の錯綜した関係を解きほぐしていく。

The purpose of this lecture is to analyze and consider the relationship between the literature and the history, to be more exact, between the histories depicted in literal works and the historical background of these works. At first we will read carefully the depiction of various genres of histories, secondly focus on the historical context of

the works examined. In this way we will comprehend the intricate relationship between the literature and the history.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：叙事詩から歴史小説へ
- 3回：国民国家を作る文学
- 4回：フランス革命とドイツ教養小説
- 5回：美術史・音楽史と文学
- 6回：幻想小説・ゴシック小説と歴史—非歴史
- 7回：文学と神秘主義
- 8回：感覚の歴史と文学
- 9回：歴史のなかでの「他者との出会い」(1)
- 10回：歴史のなかでの「他者との出会い」(2)
- 11回：ユートピア小説と歴史—非・歴史
- 12回：マルクス主義の歴史観と文学(1)
- 13回：マルクス主義の歴史観と文学(2)
- 14回：世界戦争の時代と文学の終焉

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講義そのものは熟達者のレベルに合わせるが、前準備・復習には Canvas LMS やメールを活用してフォローします。講義の内容についての詳しい解説も随時行うので、やる気と(予習・復習する)時間のある学生は大歓迎。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業態度:20% コメントペーパー:20%

授業態度20%+コメントペーパー20%+レポート試験60%により評価する。当然だが私語厳禁(守らない者はD判定)。なお2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト/Textbooks

ハンドアウトを配布する。

参考文献 / Readings

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

領域別A科目

注意事項(検索結果画面)

全学共通カリキュラム/領域別A

文学への招待

Introduction to Literature

『平家物語』と日本中世への扉

鈴木 彰 (SUZUKI AKIRA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FF728
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	-----
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	文学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

『平家物語』に登場する代表的な人物に注目して、関連する話題を精読し、その特質について理解する。あわせて、日本の古典文学を読み解くためのさまざまな視座や方法についての理解を深める。

In this class, we will focus on the representative personalities who appear in the Tale of the Heike, and read related materials to understand each's special characteristics. In doing so, other points of view and methods will be used to make detailed readings of Japan's Classic Literature.

授業の内容 / Course Contents

『平家物語』は13世紀に成立したのち、今日に至るまで長く読み継がれてきた、日本の中世文学を代表する作品の一つである。作中には、実際に起きた歴史上の出来事、実在した人物たちの姿が描き出されている。この授業では、主要登場人物を毎回一人ずつ取りあげて関連する話題を読み解き、この物語の特質をつかむとともに、人間や人間社会のありかたに対する語り手のまなざしを読み解いていく。

The Tale of the Heike is a representative work of Japan's Middle Age literature originating in the 13th century, and read until the present day. Within the text, actual historical events and persons are featured and depicted. In

this course, in each class one such person will be taken up, relevant readings will be completed, and the narration pertaining to people and society, as well as the characteristics of the tale will be focused on.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：テーマ概説
- 2回：平清盛――悪行人のゆくえ
- 3回：平重盛――賢人像の虚実
- 4回：平宗盛――大将として、父として
- 5回：平知盛――弟という立場
- 6回：平重衡――仏敵としての生と死
- 7回：平維盛――小松殿の公達
- 8回：平頼盛――裏切り者の作られかた
- 9回：平忠度――大力と風雅の才
- 10回：平敦盛――功名譚と悲劇
- 11回：平忠盛――平家繁昌の基盤
- 12回：安徳天皇――幼帝の入水
- 13回：建礼門院（平徳子）――女性に託されたもの
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業後に再読することが、物語を読む力をつけるための効果的な手段である。また、関心にしたがって、授業で扱った話題の前後の流れを読んでみることも、日本史・美術史・思想史・仏教史などの隣接諸学の入門書等を読んでみることも強くすすめたい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 各回の授業時のコメント:30%

理由にかかわらず、4回以上欠席した場合は評価対象とはしない。

テキスト / Textbooks

プリントを使用する。

参考文献 / Readings

日下力・鈴木彰・出口久徳 『平家物語を知る事典』 東京堂出版 2005 9784490106640

その他は授業時に随時指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本の古典文法に関する基礎的知識と、それをを用いて原文を読む能力が必要。内容の読解と分析が中心となるため、自発的に考えながら読む姿勢が必要となる。

その他 / Others

講読は古文（原文）で行う。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目
領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

文学への招待

Introduction to Literature

ストリート・カルチャーの重要性

荏開津 広 (EGAITSU HIROSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FF729
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 文学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

21 世紀、グローバルに私たちの住む世界を覆うカルチャーの大きな流れの一つは、1970 年代のニューヨークをルーツに持つヒップホップから発展したものである。他人の音楽をプレイする DJ、歌ではなくリズムカルなお喋りのラップなど、短命な若者向けの流行だと思われていたヒップホップがいかなる政治的、経済的、文化的利害と結びついていたのか、なぜローカルな文化と経験を超えたのか。この授業では、音楽、映像、文学のみならず、ファッション、デザイン、アートとその領域を拡げていくストリートの内と外での文化表現の特性を学び理解を深

In the 21st century, one of the major cultural trends covering the global world we live in developed from hip hop that started in New York in the 1970s. What political, economic, and cultural interests were associated with hip hop, which was thought to be a short-lived trend for young people, with its DJs who play other people's music and rappers who do not sing but rap rhythmically, and why did this culture go beyond its local culture and experience? In this course, we would like students to learn and deepen their understanding not only of music, videos, and literature, but also fashion, design, art and the characteristics of cultural expression on the inside and

outside of the street that expand the area.

授業の内容 / Course Contents

紋切り型で形容されがちなヒップホップという文化が、実際にはどのような政治的／社会的／技術的な条件や、送り手と受け手の関係のありようのなかで生まれていき、享受・消費されているかを探り、理解するようにつとめる。特にラップとDJが、その関連のなかでのストリート・アート／グラフィティ、(ストリート)ファッションをその題材としてとりあげる。使用するテキストは英語のものもあり、義務教育程度の英語の力を要する。

We will try to explore and understand from what political, social, and technical conditions and relationships between sender and receiver the culture of hip-hop, which tends to be stereotyped, was born and is enjoyed and consumed. In particular, we will take up rappers and DJs, in particular, and related street art/graffiti and (street) fashion as our subject matter. Some of the texts used will be in English, and students will require English skills up to compulsory education level.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：廃墟から立ち上がる 1
- 3回：廃墟から立ち上がる 2
- 4回：廃墟から立ち上がる 3
- 5回：声の文化と文字の文化 1
- 6回：声の文化と文字の文化 2
- 7回：声の文化と文字の文化 3
- 8回：押韻と意味の生成 1
- 9回：押韻と意味の生成 2
- 10回：押韻と意味の生成 3
- 11回：押韻と意味の生成 4
- 12回：日本のヒップホップ 1
- 13回：日本のヒップホップ 2
- 14回：日本のヒップホップ 3

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

配布資料の読み込み、指示された映像・音資料の視聴などが望まれる

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 出席および授業参加度:20% 中間コメントペーパー:10%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

トリーシャ・ローズ ブラック・ノイズ みすず書房 2009

高山明 テアトロン 河出書房新社 2021

その他/ Others

授業にあたっては注意を払い事前に注意を喚起しますが、暴力や性的な行為を示唆する表現を扱うときがあります。履修する前によく留意して判断をお願いします

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

身体学への招待

invitation to studies of performing arts

舞台芸術の創作プロセスと創作環境

横堀 応彦 (YOKOBORI MASAHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FF730

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 現代心理学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

これまで作り手は何を考えながら、どのように演劇を創作してきたのだろうか。舞台芸術の創作プロセスおよび創作環境に着目しながら、日本および海外の演劇／劇場をめぐる状況について講義する。

What did the creators of theater think about as they created, and how did they create theater works? We will provide lectures on the situation surrounding theaters in Japan and abroad, focusing on the creative process and environment of the performing arts.

授業の内容 / Course Contents

国内外で上演されている舞台芸術作品（劇場外での上演も含まれる）の記録映像を見ながら、作り手が何を考え、どのようなプロセスで舞台芸術を創作してきたのか歴史的・理論的に講義する。前半の授業（第1回～第7回）では歴史的に重要な作品および関連文献を取り上げ、舞台芸術を見るための枠組（フレーム）について考える。後半の授業（第9回～第14回）では、ここ数年間に国内外で上演された作品および関連文献を取り上げ、国内外における舞台芸術および創作環境について紹介し、現代における舞台芸術や劇場環境の在り方について考える。これまで劇場に足を運んだことのない学生をはじめ、舞台芸術に関する予備知識のない学生の受

講を歓迎する。

While watching videos of performing arts works performed in various cities in Japan and the world (including performances outside theaters), we will discuss what the creators thought about and what process they used to create the theater from historical and theoretical perspectives. In the first half of the course (1st to 7th classes), we will take up historically important works and related documents, and think about a framework for viewing performing arts. In the second half of the course (9th to 14th classes), we will take up works presented in Japan and abroad in the last few years and related documents, introduce performing arts and creative environments in Japan and the world, and consider the way of contemporary performing arts and the theatrical environment. We welcome students who have never been to the theater or have no background in the performing arts.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：日本編 1
- 3回：日本編 2
- 4回：日本編 3
- 5回：海外編 1
- 6回：海外編 2
- 7回：海外編 3
- 8回：インターミッション（映像鑑賞予定）
- 9回：日本編 4
- 10回：日本編 5
- 11回：日本編 6（ゲストスピーカーの可能性あり）
- 12回：海外編 4
- 13回：海外編 5
- 14回：海外編 6（ゲストスピーカーの可能性あり）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で紹介する文献を読み、実際の舞台を見に行くこと。その他、必要に応じて授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業毎のリアクションペーパーおよび授業内に指示した複数回の提出物:50%

欠席回数が5回を超えたものについては成績評価の対象としない。なお授業内に指示する提出物には、実際の観劇が必要となるものが含まれ、そのチケット代（1作品あたり3000円～目安）は自己負担となる。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。毎回プリントを配布する。

参考文献 / Readings

随時授業時に指示する。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目
領域別 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／領域別 A

睡眠文化論

Sleep and Culture

舩谷 鋭／鍛治 恵 (MASUTANI SATOSHI/ KAJI MEGUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FG602
授業形態： オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は N851 教室の利用可。
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目： ○
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： ミックス型授業実施科目（詳細は下記「その他」欄参照）

授業の目標 / Course Objectives

人間の基本的活動である睡眠を、自然科学の視点からだけでなく、文化の視点から考えることを目的とする。
This course aims to address the basic human function of sleep from the viewpoints of natural sciences and culture.

授業の内容 / Course Contents

睡眠は、これまで人間の基本的な欲求に基づく行動であるとされ、もっぱら自然科学の領域において研究が行われてきた。しかし近年の研究では、これまで考えられてきた以上に睡眠には文化的要因が重要であることが指摘され始めている。この授業では、文学、文化人類学や社会学、比較文明論など様々な視点から、睡眠を文化的側面から考えることを目的とする。睡眠のしくみの基礎的な理解から始まり、睡眠の歴史的・地理的変異、現代の睡眠環境、寝具のこだわり、夢の民族誌、文学に見る眠りなどのテーマを扱う予定である。

Although sleep has been considered a biological function, and research has been conducted exclusively in the field of natural sciences, studies have begun pointing out that cultural factors are more vital for sleep than previously thought. This course aims to think about sleep from a cultural perspective including literature, anthropology, sociology, and comparative civilization theory viewpoints. Beginning with a basic understanding of

the mechanics of sleep, we will deal with themes such as historical and geographical variations in sleep, modern sleep environments, bedding preferences, dream ethnography, and sleep in literature.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：睡眠のしくみ 1
- 2 回：睡眠のしくみ 2
- 3 回：日本人と睡眠
- 4 回：寝不足時の認知機能
- 5 回：避難所環境と睡眠
- 6 回：快適睡眠のための寝具
- 7 回：日本の枕の変遷と枕の文化誌
- 8 回：夢の認知心理学
- 9 回：極北での眠り
- 10 回：チンパンジーの眠り
- 11 回：夢の民族誌
- 12 回：睡眠科学最前線
- 13 回：日本の寝室の歴史
- 14 回：日本文学における夢の表象

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業支援システムなどで示される各回キーワードを参考に教科書などで予習し、ゲスト講義、教員コメントを聞いた後の講義中の質問を高く評価する。授業後はゲストへの応答としてのリアペを授業支援システム掲示板へ、原則として1週間以内に投稿する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 複数回のリアクションペーパー:30%

テキスト/ Textbooks

高田公理ほか編 『睡眠文化を学ぶ人のために』 世界思想社 2008 479071330 ○

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

大教室やオンラインからのミックス参加であっても、積極的に質問や議論に加わろうとする、主体的な学びの姿勢を持てる

その他/ Others

本科目は対面 (全回対面) とオンライン (全回オンライン) を同時開講するミックス型授業として実施します。

対面・オンラインどちらの形態で受講するかについては、予め履修登録時点で選択のうえ、その希望に応じた科目コードで履修登録してください。一度選択した授業形態以外での参加は認められません。

本科目はオンラインで受講する科目ですので、対面で参加した場合は、欠席とみなされます。対面での履修を希望する場合は FA183 を参照のこと。

なお、授業内で授業方法に関する調査等へ協力をお願いすることがあります。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 B

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 B

哲学対話 in RIKKYO

Philosophical Dialogue in RIKKYO

渡名喜 庸哲／堀越 耀介／鈴木 信一／小林 雅博／丸山 諒士 (TONAKI YOTETSU/ HORIKOSHI YOSUKE/ SUZUKI SHINICHI/ KOBAYASHI MASAHIRO/ MARUYAMA RYOJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FG605
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業は、「正しいとはどういうことか」「自由とは何か」「なぜ人を殺してはいけないか」といった身近かつ「哲学的」な問題について、履修者がグループになって相互に自分自身の考えを述べ「対話」をすることで、実践的に「哲学する」仕方を身につけることを目指します。そのため、講義のように、哲学者たちの名前や概念を紹介したりすることはしません。また、哲学の知識も必要ありません。

具体的には、この授業の目標は以下の三つです。

- ① 哲学的なテーマについて、自分自身の経験に基づいて考え、他人を意識して話ができるようになる。
- ②

The aim of this course is to give students not the knowledge of philosopher's concepts but the opportunity to present their opinion seriously and in public, in order to understand practically how to "philosophize" through some questions such as "what is right?", "what is freedom?", "why is it prohibited to kill?" etc..

The concrete objectives of this course are as follows:

- (1) Students will become able to think about philosophical themes based on their own experiences and to explain

their opinion to others.

(2) Students will become able to listen to others opinion.

(3) Students will become able to exchange constructive opinions with others who have different opinions.

"Constructive" means that the student and their partners can both develop the opinions and have new ideas each other.

授業の内容 / Course Contents

この授業には毎回3名の教員が参加しますが、その役割は知識の伝授ではありません。導入的な説明のあとは、グループ・ディスカッションのファシリテータに徹します。

毎回、参加者には少人数のグループになってもらい、その都度のテーマについて議論をしてもらいます。この対話が授業の主たる内容です。授業の終わりに振り返りを行います。

この授業での哲学対話では、以下のルールを定めます。

- ①何を言ってもよい。他人の意見はそのまま聴く。
- ②他人を攻撃したり、他人の意見を否定したり、揶揄してはならない。
- ③学年や学科の違いを超え、出席者はすべて対等の立場で語る。

以上です。このルールに従う限りで、自由に発言できます。

各回のテーマは、以下のように、学生生活の身近にある問題を取りあげます。

Three teachers will be present each time. Their role is not to give knowledge about philosophical concepts but just to facilitate the dialog of students. The whole class will be divided into some small groups and the students exchange and develop their opinion with the partners. This is the main content of this course.

We will set some rules for this philosophical dialog.

- (1) You can say anything. Just listen to the opinions of others.
- (2) Do not attack others, deny their opinions, or make fun of them.
- (3) Regardless of the differences of their personal attributes, all participants speak on equal footing.

Themes will be taken from topics close to student life, that can be deepened philosophically.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション・趣旨説明
- 2回：大学で学んでどういうこと？
- 3回：幸せってどういうこと？
- 4回：正しいってどういうこと？
- 5回：死ぬってどういうこと？
- 6回：自由とは何だろう？
- 7回：芸術とは何だろう？
- 8回：言葉とは何だろう？
- 9回：差別とは何だろう？
- 10回：信頼とは何だろう？
- 11回：私とは何だろう？
- 12回：働くとは何だろう？
- 13回：なぜ人を殺してはいけないのか？
- 14回：対話とは何だろう？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、あらかじめ指定されているテーマに沿って、自分の意見をまとめて発表できるように考えてきてください。毎回終了時にリアクションペーパーにその日の振り返りを書いて提出してもらいます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度:30% 毎回の振り返りの内容:30% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

使用しません。必要に応じてプリントを配布することがあります。

参考文献 / Readings

河野哲也 他 『0からはじめる哲学対話』 ひつじ書房 2020 4823410327
 納富信留 『対話の技法』 笠間書院 2020 4305709325
 梶谷真司 『考えるとはどういうことか』 幻冬舎新書 2018 4344985141
 マシュー・リップマン 『探求の共同体』 玉川大学出版部 2014 4472404885
 永井均 他 『子供のための哲学対話』 講談社文庫 2009 4062764482
 永井玲衣 『水中の哲学者たち』 晶文社 2021 9784794972743
 その他授業でも適宜紹介します。

その他 / Others

- ・哲学についての前提知識は問いません。上にあるようなテーマについて「対話」をしてみたいという方ならどなたでも履修可能です。
- ・「知識はそんなにないけど、哲学的と言われるテーマについて、真剣に対話してみたい」という方を歓迎します。
- ・ただし、「楽な全カリ」ではありません。授業では、毎回グループで対話を行いますので、積極的な参加が求められます。適当な動機で参加すると、グループでの対話が成立しなくなるのでご注意ください。そのため、私語、理由のない遅刻・早退はもちろん、授業中のスマホや内職なども基本的に認められま

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

主題別 B

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 B

演芸の世界

World of Engei -Popular Culture in the Post- Global Era-
ポスト・グローバル時代の大衆文化

細井 尚子／宮 信明／一龍齋 貞橘／入船亭 扇橋／鏡味 仙成／江戸家 猫八 (HOSOI NAOKO/ MIYA NOBUAKI/ ICHIRYU-SAI TEIKITU/ IRIHUNETEI SENKYO/ KAGAMI SENNARI/ EDOYA NEKOHACHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FG609
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

近代化からグローバル化に移行する影響を受け、娯楽市場において「演芸」の属性が新たな文脈で置換され、娯楽ソフトとして機能している。「演芸」の代表的空間である寄席とそこで演じられる寄席芸を通じて、ポスト・グローバル時代の大衆文化の特性を理解する。

Under the influence of the transition from modernization to globalization, the attributes of "performing arts" in the entertainment market have been replaced in new contexts, and they function as "entertainment software". This course will help student understand the characteristics of popular culture in the post-globalization era through the entertainment halls (yose theater) that are the iconic spaces of the "performing arts" and the performances that are performed there.

授業の内容 / Course Contents

「演芸」は「演劇」同様、近代になって定着する概念で、具体的に指す芸（芸態）は多様だが、上演空間が狭

い・気楽に楽しむ消費型娯楽という点を共有する。グローバル化した現代では、ウォークマン以降定着した個別に楽しむスタイル、ライブの価値の再発見、消費者が自身の属性、芸（芸態）の属性に関わらず、日本内外のものがフラットに並ぶ選択肢の中から自身の好みにより楽しむ芸（芸態）を選択するなど、娯楽における新たな消費スタイルが定着してきた。本講座では寄席で演じられる芸に生きる方々を講師としてお迎えし、具体的なお話によって展開し、寄席の世界を理解する。

Like "ENGEKI(theater)", "ENGEI" is a concept that has been established in the modern age. Although they refer to various of arts (forms of performance), they have something in common: they are consumption-type entertainment and the performance space is small and the art is easy to enjoy. In today's globalized world, since the appearance of the Walkman the individual forms of enjoyment and the value of live performance were re-valued, regardless the consumers' own attributes and the attributes of the arts (form of performance). Consumers are able to select their preferred art (form of performance) from a variety of parallel options in Japan and overseas, which show that a new form of consumption in entertainment has been established. In this course, we will invite the actor/actress who are dedicated to the art of entertainment hall(寄席芸能) as lecturers to share specific examples so that we can understand better the world of the entertainment (yose performance).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：4月13日①オリエンテーション・講談

細井尚子＋宮信明＋一龍齋貞橋

2回：4月13日②講談

細井尚子＋宮信明＋一龍齋貞橋

3回：4月13日③講談

細井尚子＋宮信明＋一龍齋貞橋

4回：5月11日①落語

細井尚子＋宮信明＋入船亭扇橋

5回：5月11日②落語

細井尚子＋宮信明＋入船亭扇橋

6回：5月11日③落語

細井尚子＋宮信明＋入船亭扇橋

7回：6月1日①太神楽

細井尚子＋宮信明＋鏡味仙成

8回：6月1日②太神楽

細井尚子＋宮信明＋鏡味仙成

9回：6月1日③太神楽

細井尚子＋宮信明＋鏡味仙成

10回：6月29日①動物ものまね

細井尚子＋宮信明＋江戸家猫八

11回：6月29日②動物ものまね

細井尚子＋宮信明＋江戸家猫八

12回：6月29日③動物ものまね

細井尚子＋宮信明＋江戸家猫八

13回：7月13日①寄席囃子

細井尚子＋宮信明＋田村かよ・金原亭馬久・柳家小はだ

14回：7月13日②寄席囃子・総括・教場レポート

細井尚子+宮信明+田村かよ・金原亭馬久・柳家小はだ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて教場で具体的な課題を示す。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:10% リアクションペーパー@15%×4回:60% 最終回教場レポート:30%

出席コマ数が10コマ以上ない場合、成績評価を出す対象としない。

テキスト / Textbooks

必要に応じ、教場で示す。

参考文献 / Readings

必要に応じ、教場で示す。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

講義のほか、ワークショップ、質疑応答など、積極的に授業に参加してほしい。

その他 / Others

- ・本講座は1回3コマ集中 (最終回7月13日のみ2コマ) で行う。
- ・1回欠席すると、週1回授業の場合の3回欠席に相当するので気を付けること。
- ・最終回は総括の後、課題を提示、教場でレポートを作成するので、必ず出席すること。
- ・新座キャンパス N852 教室で開講。

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

主題別 B

注意事項 (検索結果画面)

全学共通カリキュラム / 主題別 B

観光と文学

Tourism and Literature

石橋 正孝／舩谷 鋭／羽生 敦子 (ISHIBASHI MASATAKA/ MASUTANI SATOSHI/ HANYU ATSUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FG612
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

観光と文学が密接に関連している具体的事例を考察するとともに、文学研究の技法を観光研究に応用する手法を学ぶ。

Students will learn about specific cases where tourism and literature are closely related, and learn how to apply literary research methods to tourism research.

授業の内容 / Course Contents

人文社会科学からの観光現象に対するアプローチは、これまでもっぱら地理学・社会学・文化人類学などの分野から研究が行われてきた。しかし、国木田独歩の武蔵野、徳富蘆花の湘南のように、文学が新たな観光地を作り出したケースが過去には存在し、文学が力を失った現在もなお「シャーロック・ホームズ」シリーズのように視覚メディアにおける新たな展開を通して、「聖地巡礼」を惹き起こしているケースもあれば、城の崎における志賀直哉等、単なる記号のかたちであるにせよ、観光資源として活用され続けているケースも数多い。この授業では、以上のような状況を踏まえ、文学による観光（文学作品に描かれた観光地の疑似体験やそれを通じた舞台探訪）と観光による文学（舞台を訪れた経験による作品理解や享受の促進）の双方から、観光経験における主観的意味づけとその言語化の重要性を考えてもらうことを目的としている。さらに、ガイドブックや

トラベルライティングにそうした意味づけが経験的に活用されていることを紹介し、観光に適用される文学研究の応用可能性を考察する。

Approaches to the phenomenon of tourism from the humanities and social sciences have so far been conducted exclusively from the fields of geography, sociology, and cultural anthropology. However, there have been cases where literature has created new tourist attractions, and even today, when literature has lost its power, there are some cases where "pilgrimages" are still triggered by new developments in visual media, such as the "Sherlock Holmes" series. The purpose of this course is to have students consider the importance of subjective meanings and their verbalization in the tourism experience from the perspective of both literature-based tourism (simulated experience of a tourist attraction depicted in a literary work and exploration of the stage with one's own eyes) and tourism-based literature (understanding and enjoyment of the work through the experience of visiting the stage). Furthermore, empirical use of such meaning-making in guidebooks and travel writing will be introduced, and the applicability of literary studies applied to tourism will be discussed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：事例と考察1 赤毛のアンの文学聖地
- 3回：事例と考察2 ケベックの先住民と文学
- 4回：事例と考察3 コンタクトゾーン
- 5回：事例と考察4 文学におけるヴェネツィア
- 6回：事例と考察5 ロシア文学と都市
- 7回：事例と考察6 京都の文学観光
- 8回：事例と考察7 トラベルライティングとは
- 9回：事例と考察8 永井荷風『日和下駄』
- 10回：事例と考察9 捕鯨と文学
- 11回：事例と考察10 ダークツーリズム
- 12回：事例と考察11 郊外の記憶の先
- 13回：事例と考察12 シャーロック・ホームズ巡礼
- 14回：教場レポートテスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で取り上げられた作品を積極的に読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業態度および授業毎のリアクションペーパー：60% 最終レポート割合：40%

毎回、授業理解を確認するためのリアクションペーパーを提出してもらう。

テキスト / Textbooks

観光学部 RT 3 号 立教大学 2024 -

参考文献 / Readings

コンテンツツーリズム学会 『地域は物語で「10 倍」人が集まる コンテンツツーリズム再発見』 生産性出版 2021 4820121162

鈴木智之 『郊外の記憶』 青弓社 2021 4787234951

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

文学含むいわゆる読書に対し前向きな姿勢

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 B

注意事項 (検索結果画面)

全学共通カリキュラム / 主題別 B

持続可能性の理論と実践

Sustainability Theory and Practice

エコロジー、エコノミー、生命倫理、地域の視点から学ぶ

空閑 厚樹／佐藤 太 (KUGA ATSUKI/ SATO FUTOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FG614

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

受講生は、批判的考察の方法を学び、持続可能性の概念を再確認します。また、持続可能性の課題を日常の暮らしの中から、具体的に解決していくための考え方や実践の例を学びます。これらを習得しつつ、自分の考えを分かりやすく人に伝える方法や、グループの意見のまとめ方をディスカッション体験を通して身に付けます。

Students will learn how to critically examine issues and they will review the concept of sustainability. They will also learn theories and practices on how to solve sustainability issues with daily activities. They will acquire, through discussion sessions, skills to clearly communicate their thoughts to others, as well as ways to synthesize opinions.

授業の内容 / Course Contents

エコロジー経済学と生命倫理学を参考に持続可能性概念を再確認し、それを基にエネルギー、気候変動、人口減少下の持続可能性という現代社会の抱える問題点を批判的に考察します。その後、地域から持続可能性を実現していくための考え方と実践例を学びます。実践例としては、農的暮らしや社会的連帯経済、エネルギーの

自給、ケアの自給、地域で職を作るなどを取り上げる予定です。

The course will review the concept of sustainability through the viewpoints of ecological economics and bioethics. It will then critically discuss contemporary issues of energy, climate change, and sustainability with declining population. It will examine practical examples of building sustainability in local level. The examples will include lifestyle based on agricultural activities, social and solidarity economy, self-provisioning energy, self-provisioning care, and creating jobs in local communities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入①：コースの背景、概要、および批判的考察について（空閑・佐藤）
- 2 回：エコロジー経済学と持続可能性（佐藤）
- 3 回：生命倫理学と持続可能性（空閑）
- 4 回：現状の批判的考察①：エネルギーと気候変動（佐藤）
- 5 回：現状の批判的考察②：コミュニケーションのあり方を考える（空閑）
- 6 回：対応策の枠組み検討①：「善さ」を支えるもの（空閑）
- 7 回：対応策の枠組み検討②：技術的な解決策と社会制度・ライフスタイルからの解決策（空閑・佐藤）
- 8 回：対応策の枠組み検討③：コモンズと社会的連帯経済（佐藤）
- 9 回：具体的事例検討①：農的暮らしと食の地域自給（ゲスト）
- 10 回：具体的事例検討②：エネルギーの地域自給（ゲスト）
- 11 回：具体的事例検討③：社会的連帯経済（ゲスト）
- 12 回：具体的事例検討④：ケアの地域自給（ゲスト）
- 13 回：具体的事例検討⑤：地域で仕事を作る（ゲスト）
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前学習、復習、課題については、授業内でお伝えします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクションペーパー:40% 最終レポート:40% 授業への貢献度:20%

テキスト / Textbooks

佐藤、川上、空閑 『さようなら、オメラス —「持続可能な世界」を自分たちでたぐりよせるために— (仮)』 まつやま書房 2024

参考文献 / Readings

授業時に紹介します。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 B

注意事項（検索結果画面）

睡眠文化論

Sleep and Culture

舩谷 鋭／鍛治 恵 (MASUTANI SATOSHI/ KAJI MEGUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FG703
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： ミックス型授業実施科目（詳細は下記「その他」欄参照）

授業の目標 / Course Objectives

人間の基本的活動である睡眠を、自然科学の視点からだけでなく、文化の視点から考えることを目的とする。This course aims to address the basic human function of sleep from the viewpoints of natural sciences and culture.

授業の内容 / Course Contents

睡眠は、これまで人間の基本的な欲求に基づく行動であるとされ、もっぱら自然科学の領域において研究が行われてきた。しかし近年の研究では、これまで考えられてきた以上に睡眠には文化的要因が重要であることが指摘され始めている。この授業では、文学、文化人類学や社会学、比較文明論など様々な視点から、睡眠を文化的側面から考えることを目的とする。睡眠のしくみの基礎的な理解から始まり、睡眠の歴史的・地理的変異、現代の睡眠環境、寝具のこだわり、夢の民族誌、文学に見る眠りなどのテーマを扱う予定である。

Although sleep has been considered a biological function, and research has been conducted exclusively in the field of natural sciences, studies have begun pointing out that cultural factors are more vital for sleep than previously thought. This course aims to think about sleep from a cultural perspective including literature, anthropology, sociology, and comparative civilization theory viewpoints. Beginning with a basic understanding of

the mechanics of sleep, we will deal with themes such as historical and geographical variations in sleep, modern sleep environments, bedding preferences, dream ethnography, and sleep in literature.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：睡眠のしくみ 1
- 2 回：睡眠のしくみ 2
- 3 回：日本人と睡眠
- 4 回：寝不足時の認知機能
- 5 回：避難所環境と睡眠
- 6 回：快適睡眠のための寝具
- 7 回：日本の枕の変遷と枕の文化誌
- 8 回：夢の認知心理学
- 9 回：極北での眠り
- 10 回：チンパンジーの眠り
- 11 回：夢の民族誌
- 12 回：睡眠科学最前線
- 13 回：日本の寝室の歴史
- 14 回：日本文学における夢の表象

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業支援システムなどで示される各回キーワードを参考に教科書などで予習し、ゲスト講義、教員コメントを聞いた後の講義中の質問を高く評価する。授業後はゲストへの応答としてのリアペを授業支援システム掲示板へ、原則として1週間以内に投稿する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 複数回のリアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

高田公理ほか編 『睡眠文化を学ぶ人のために』 世界思想社 2008 479071330 ○

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

大教室やオンラインからのミックス参加であっても、積極的に質問や議論に加わろうとする、主体的な学びの姿勢を持てる

その他 / Others

本科目は対面 (全回対面) とオンライン (全回オンライン) を同時開講するミックス型授業として実施します。

対面・オンラインどちらの形態で受講するかについては、予め履修登録時点で選択のうえ、その希望に応じた科目コードで履修登録してください。一度選択した授業形態以外での参加は認められません。

本科目は対面で受講する科目ですので、オンラインで参加した場合は、欠席とみなされます。オンラインでの履修を希望する場合は FA082 を参照のこと。

なお、授業内で授業方法に関する調査等へ協力をお願いすることがあります。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 B

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 B

ボランティア論

Volunteer Studies

～転換期を迎えた社会で求められること～

結城 俊哉 (YUKI TOSHIYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FG705
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

漠然としたボランティアのイメージを、いくつかの事例を通じて、具体的なイメージとして理解できるようにします。またボランティアを考えることを通して、自分と社会の接点を意識できるようにし、社会問題を自分の頭で考えられるようになり、実際の行動へとつなげられるようにします。そして、ボランティア経験を自分の言葉で発信し、自分のキャリア形成を考えることができるようになります。

This course will make students understand the vague image of a volunteer as a specific image through several examples. Also, by thinking about volunteering, students will become aware of the points of contact between themselves and society, and will become able to think about social problems with their own mind and connect this to actual actions. Then, students will express volunteer experiences in their own words and become able to think about their career development.

授業の内容 / Course Contents

2020 年から世界を新型コロナ感染症問題によりコミュニティにおける対人関係の変化が余儀なくされている。今回、コロナ禍の中で多くの市民が「共に生きることができる社会」を目指す新しい価値や活動が求められて

います。授業では、ボランティア活動について、ボランティアを提供する側だけでなく、サポートを受ける側の気持ちも汲み取りながら、日常的な活動だけでなく、災害や海外での支援、企業の社会貢献活動等の様々な切り口から、現場で活躍されている方々のメッセージも交えて多面的に検討し、社会に潜む諸問題に対して自分自身の視点から能動的にとらえられる学生へと成長できるようにします。

Since 2020, the issue of new coronavirus infections(COVID-19) has forced changes in interpersonal relationships in the community. This time, new values and activities are required to aim for a "society where many citizens can live together" in the Corona disaster. Students will consider volunteering from various aspects, including messages from people active in the field, from various viewpoints such as disasters, overseas support, and social contribution activities of companies as well as daily activities, not only from the party providing the volunteers but also the feelings of those receiving support, and will develop the ability to actively capture social issues from their own perspectives.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：ボランティアの歴史と諸概念
- 3回：ボランティアを取り巻く社会
- 4回：立教大生が取り組んでいるボランティア活動～ボランティア活動の紹介～
- 5回：地域と社会が連動した取り組み
- 6回：一步踏み出す。世界、広がる－「気持ちの良い人間関係」をもたらすワークキャンプの視点
- 7回：災害ボランティアとして～今、私たちにできることは？～
- 8回：地域における学習支援ボランティアの取り組み
- 9回：ボランティア体験を「言葉」にする方法と意義
- 10回：障害者当事者として地域支援の発想と社会を変える力
- 11回：企業が取り組む社会貢献活動－NPOと企業の連携
- 12回：立教大学在学中に取り組んだボランティアとその後のキャリア
- 13回：コミュニティで支援するボラティアに求められること
＝精神障害当事者支援の現場から考える＝
- 14回：ソーシャルデザイン～アイデアが世界を変える～（授業のまとめと振り返り）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本授業は、多くの様々な立場のゲスト講師で構成される授業である。したがって予習として履修者は、授業前にゲスト講師の活動等をインターネット等で調べ、講師への質問内容などを準備しておくことが望ましい。各授業ごとにゲスト講師の授業内容や感想を文書にしてまとめておくこと。リアクションペーパーの提出が求められる。尚、ゲスト講師の都合により担当される順番が前後に移動することがある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席及び毎時間のリアクションペーパー:20% 中間レポート:20%

レポートは中間と期末の2回です。また授業の最後に毎回リアクションペーパーを提出していただきます。

テキスト/ Textbooks

特に使用しないが、授業時に必要に応じて適宜紹介する。

参考文献 / Readings

結城俊哉 『共に生きるための障害者福祉学入門』 大月書店 2018 9784272412396

結城俊哉 『ケアのフォークロア：対人援助の基本原則と展開方法を考える』 高菅出版 2019
9784901793629

尚、講義の中でゲスト講師からも適宜紹介されることがある。

その他/ Others

立教大学ボランティアセンターHP： <http://www.rikkyo.ac.jp/support/volunteer/>

ボランティア活動に興味・関心のある方で、ボランティアを何かやってみたいという方は是非、積極的に受講してください。

日本財団学生ボランティアセンターHP: <https://www.volacen.jp/>

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 B

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 B

グローバルシティ・ソウルを読み解く

Seoul Studies: Exploring the Global City

黄 盛彬／阪堂 博之／金 兌恩 (HWANG SEONGBIN/ HANDO HIROYUKI/ KIM TAE EUN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FG718

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

グローバル都市としてのソウルへの知的な探求を目的とする。ソウルについての情報提供とともに、それをもとにいかにかその社会や文化を研究していけばいいのかについて、歴史的背景、社会学的、文化・メディア学的な知見と視座を身につける。

This course aims to explore Seoul intellectually as a global city. This course will provide historical background, sociological and cultural/media studies knowledge, and perspectives on the research of the society and cultures of Seoul.

授業の内容 / Course Contents

グローバル都市としてのソウルにおける諸現象を観察するために、様々な場所を訪れながら、その背景を解説する。ソウルにおける社会・文化的な諸現象を、どのような枠組みで分析しうるのかという理論枠組みを提示する。各回の講義では、ソウルのある場所を訪れて、そこでの顕著な現象を取り上げ、研究・分析のアプローチを紹介していく。ソウル広場・光化門広場、ソウル駅、北村、鐘路、新村、弘大、明洞、仁寺洞、恵化洞、東大門、梨泰院、大林洞、ソレマウル、汝矣島、上岩洞デジタルメディアシティ、聖水洞、江南といった観光スポットとしても馴染みのある場所を訪れ、政治、世論、階層、伝統、ポピュラーカルチャー、ジェントリフィケーション、外国

人労働者・移民，多文化化，社会的排除，貧困・格差，ジェンダー，文化資本などの社会学的テーマを多く取り上げる。

This course explores the background and current situation to observe Seoul's phenomena as a global city while visiting various places in Seoul. We will present theoretical frameworks to analyze social and cultural phenomena in Seoul. We will see a specific place in Seoul, take up the remarkable phenomena there, and introduce our research and analysis approach in each class. We will take up familiar places as tourist spots such as Seoul Square and Gwanghwamun Square, Seoul station, Bukchon, Jongno, Sinchon, Hongdae, Myeong-dong, Insadong, Itaewon, Dongdaemun, Yeouido, Daerim-dong, Kangnam and some other places and introduce sociological themes such as political culture and nationalism, tradition, popular culture, gentrification, foreign workers/immigrants, multiculturalization, social exclusion, poverty/disparity, gender, and cultural capital.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：ソウル・スタディーズへの招待
- 2回：新村（シンチョン）と弘大（ホンデ）：ジェントリフィケーションと都市再生、さまざまなフェスティバル（祝祭）とバスキング（路上ライブ）
- 3回：ソウル広場と光化門広場：「ナショナル」を考える
- 4回：青瓦台と汝矣島：二つの政治空間、そこから見えてくるもの
- 5回：ソウル駅：鉄道を中心と文化遺産、その過去・現在・未来
- 6回：仁寺洞（インサドン）と北村（プクチョン）：伝統の街の再生と創生
- 7回：龍山、東部二村洞：特殊な異邦人の空間
- 8回：多文化都市としてのソウルへの招待、中国朝鮮族の街で多文化化とアイデンティティを考える
- 9回：ソレマウル：ソウルのフレンチ村を歩く
- 10回：恵化洞のフィリピンマーケット
- 11回：東大門、昌信洞、光熙洞：その他の外国人の街
- 12回：梨泰院（イテウォン）におけるダイバーシティ：ドラマ『梨泰院クラス』を手掛かりとして
- 13回：江南（ガンナム）で Gangnam Style を考える
- 14回：グローバルシティとしてのソウルの行方

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の参考文献を事前に読んでおくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 複数回の授業内でのレポート:50% 出席などの授業参加度:10% 最終レポート割合:40%

テキスト / Textbooks

初回の授業時にシラバス詳細版を配布する。

参考文献 / Readings

Saskia Sassen 『グローバル・シティーニューヨーク・ロンドン・東京から世界を読む』 筑摩書房 2008
448086718

吉村剛史 『ソウル 25 区=東京 23 区』 合同会社パブリブ 2021 9784908468476

四方田 犬彦 『ソウルの風景—記憶と変貌』 岩波書店 2001 400430749

川村 湊 『ソウル都市物語—歴史・文学・風景』 平凡社 2000 4582850391

大瀬留美子 『ソウルおとなの社会見学』 亜紀書房 2022 9784750517629

Todd A. Henry Assimilating Seoul: Japanese Rule and the Politics of Public Space in Colonial Korea, 1910-
1945 Univ of California Pr 2016 0520293150

韓洪九 『韓国スタディーツアー・ガイド』 彩流社 2020 9784779126963

各回の授業で、その都度案内する。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 B

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 B

立教卒業生の「社長の履歴書」

From Rikkyo to CEO : The Histories of Alumni Leaders

菊池 航／井田 純一郎 (KIKUCHI WATARU/ IDA JUNICHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FG720
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

立教大学の教育課程の編成方針に掲げる「専門性に立つ教養人」になるため、立教大学卒業生の社長のキャリアを学びます。

立教大学卒業生の社長のキャリアを学ぶことで、自らのキャリア形成について考え、大学での学びや過ごし方を主体的に考えることを目標とします。

Students will learn about the careers of Rikkyo University alumni presidents in order to become "liberal arts people who stand for expertise," as stated in Rikkyo University's curricular organization policy.

Through listening to the career of the president of Rikkyo University alumnus, each student will have the opportunity to think specifically about their own career development and re-acknowledge the way that they learn and spend time at university.

授業の内容 / Course Contents

現役の社長として、現在、会社経営のかじ取りをしている立教大学卒業の社長をお招きする。大学時代をどう過ごしたか、起業した経緯や会社経営の難しさ、どのような人材がこれからの社会には必要か、大学時代に何をどのように学ぶべきか、などの様々な論点について、立教大学の先輩として後輩の学生たちに率直な考えを

伝えてもらう。学生と社長との討論や意見交換を積極的に行えるよう、インタラクティブな形式で授業を進める。受講生それぞれがキャリアやリーダーシップなどを考える講義である。

As an active president, we will invite the president of Rikkyo University alumnus, who is currently involved in company management to speak about various issues such as how he spent his university days, how he started his company, the difficulties of company management, what kind of human resources are needed for the future society, and how should students learn during their college years, and to communicate his frank ideas to students as a senior at Rikkyo University. In addition, rather than one-sided lectures, we will develop the classes in an interactive format so that students can actively discuss and exchange ideas with the president.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：登壇される社長の紹介，立教生のキャリア
 2 回：社長の履歴書 1 井田純一郎（サンヨー食品株式会社・代表取締役社長）
 3 回：社長の履歴書 2 中島 宏（GO 株式会社・代表取締役社長）
 4 回：社長の履歴書 3 佐藤光紀（株式会社セプテーニ・ホールディングス・代表取締役）
 5 回：社長の履歴書 4 高橋百合子（E.OCT 株式会社・代表取締役）
 6 回：社長の履歴書 5 調整中
 7 回：社長の履歴書 6 パネル・ディスカッション（1）
 8 回：社長の履歴書 7 石渡美奈（ホッピービバレッジ株式会社・代表取締役社長）
 9 回：社長の履歴書 8 横山直人（株式会社フライウィール・代表取締役 CEO）
 10 回：社長の履歴書 9 小坂文乃（株式会社日比谷松本楼・代表取締役社長）
 11 回：社長の履歴書 10 宮地勘司（株式会社教育と探求社・代表取締役社長）
 12 回：社長の履歴書 11 菅原勇一郎（株式会社玉子屋・代表取締役社長）
 13 回：社長の履歴書 12 パネル・ディスカッション（2）
 14 回：総括：立教卒業生から何を学び、これからどう生きるか？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義に登壇される先生方は、様々なメディアに登場されています。適宜、様々なメディアの記事を紹介しますので、事前に記事を読んできてください。

そのほか、授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 毎回のリアクションペーパー:30% ディスカッションへの参加:10%

テキスト / Textbooks

毎回、パワーポイントに基づいた講義が行われます。

参考文献 / Readings

和田成史・井田純一郎・加藤雄一ら 『成長と革新の企業経営：社長が語る学生へのメッセージ』 日本経営史研究所 2004 4931192114

そのほか、各回の講義で提示します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

キャリア関連科目をあわせて履修することが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

スライドの配布、成績評価に関する「毎回のリアクションペーパー」の提出は、Canvas LMS を通じて行ないます

その他/ Others

【授業形態】

授業の前半は、パワーポイントを使用した講義形式です。適宜、映像資料も活用します。

授業の後半は、学生への質問を起点として、インタラクティブな講義を行ないます。積極的な受講が期待されます。

【授業計画】

登壇する社長および登壇順は、都合により変更されることがあります。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 B

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 B

哲学対話 i n R I K K Y O

Philosophical Dialogue in RIKKYO

渡名喜 庸哲／齋藤 元紀／丸山 諒士／小林 雅博／鈴木 信一／堀越 耀介 (TONAKI YOTETSU/
SAITO MOTOKI/ MARUYAMA RYOJI/ KOBAYASHI MASAHIRO/ SUZUKI SHINICHI/ HORIKOSHI
YOSUKE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FG729
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に
基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業は、「正しいとはどういうことか」「自由とは何か」「なぜ人を殺してはいけないか」といった身近かつ「哲学的」な問題について、履修者がグループになって相互に自分自身の考えを述べ「対話」をすることで、実践的に「哲学する」仕方を身につけることを目指します。そのため、講義のように、哲学者たちの名前や概念を紹介したりすることはしません。また、哲学の知識も必要ありません。

具体的には、この授業の目標は以下の三つです。

①哲学的なテーマについて、自分自身の経験に基づいて考え、他人を意識して話ができるようになる。

②

The aim of this course is to give students not the knowledge of philosopher's concepts but the opportunity to present their opinion seriously and in public, in order to understand practically how to "philosophize" through some questions such as "what is right?", "what is freedom?", "why is it prohibited to kill?" etc..

The concrete objectives of this course are as follows:

(1) Students will become able to think about philosophical themes based on their own experiences and to explain their opinion to others.

(2) Students will become able to listen to others opinion.

(3) Students will become able to exchange constructive opinions with others who have different opinions.

"Constructive" means that the student and their partners can both develop the opinions and have new ideas each other.

授業の内容 / Course Contents

この授業には毎回3名の教員が参加しますが、その役割は知識の伝授ではありません。導入的な説明のあとは、グループ・ディスカッションのファシリテータに徹します。

毎回、参加者には少人数のグループになってもらい、その都度のテーマについて議論をしてもらいます。この対話が授業の主たる内容です。授業の終わりに振り返りを行います。

この授業での哲学対話では、以下のルールを定めます。

①何を言ってもよい。他人の意見はそのまま聴く。

②他人を攻撃したり、他人の意見を否定したり、揶揄してはならない。

③学年や学科の違いを超え、出席者はすべて対等の立場で語る。

以上です。このルールに従う限りで、自由に発言できます。

各回のテーマは、以下のように、学生生活の身近にある問題を取りあげます。

Three teachers will be present each time. Their role is not to give knowledge about philosophical concepts but just to facilitate the dialog of students. The whole class will be divided into some small groups and the students exchange and develop their opinion with the partners. This is the main content of this course.

We will set some rules for this philosophical dialog.

(1) You can say anything. Just listen to the opinions of others.

(2) Do not attack others, deny their opinions, or make fun of them.

(3) Regardless of the differences of their personal attributes, all participants speak on equal footing.

Themes will be taken from topics close to student life, that can be deepened philosophically.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション・趣旨説明

2回：大学で学んでどういうこと？

3回：幸せってどういうこと？

4回：正しいってどういうこと？

5回：死ぬってどういうこと？

6回：自由とは何だろう？

7回：芸術とは何だろう？

8回：言葉とは何だろう？

9回：差別とは何だろう？

10回：信頼とは何だろう？

11回：私とは何だろう？

12回：働くとは何だろう？

13回：なぜ人を殺してはいけないのか？

14回：対話とは何だろう？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、あらかじめ指定されているテーマに沿って、自分の意見をまとめて発表できるように考えてきてください。毎回終了時にリアクションペーパーにその日の振り返りを書いて提出してもらいます。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度:30% 毎回の振り返りの内容:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

使用しません。必要に応じてプリントを配布することがあります。

参考文献 / Readings

河野哲也 他 『0からはじめる哲学対話』 ひつじ書房 2020 4823410327
 納富信留 『対話の技法』 笠間書院 2020 4305709325
 梶谷真司 『考えるとはどういうことか』 幻冬舎新書 2018 4344985141
 マシュー・リップマン 『探求の共同体』 玉川大学出版部 2014 4472404885
 永井均 他 『子供のための哲学対話』 講談社文庫 2009 4062764482
 永井玲衣 『水中の哲学者たち』 晶文社 2021 9784794972743
 その他授業でも適宜紹介します。

その他 / Others

- ・哲学についての前提知識は問いません。上にあるようなテーマについて「対話」をしてみたいという方ならどなたでも履修可能です。
- ・「知識はそんなにないけど、哲学的と言われるテーマについて、真剣に対話してみたい」という方を歓迎します。
- ・ただし、「楽な全カリ」ではありません。授業では、毎回グループで対話を行いますので、積極的な参加が求められます。適当な動機で参加すると、グループでの対話が成立しなくなるのでご注意ください。そのため、私語、理由のない遅刻・早退はもちろん、授業中のスマホや内職なども基本的に認められま

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

主題別 B

注意事項 (検索結果画面)

全学共通カリキュラム／主題別 B

世界を動かす変革のチカラ

The Power to Change the World

和田 悠／平野 泉／高木 恒一 (WADA YU/ HIRANO IZUMI/ TAKAGI KOICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FG731
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

市民の多様な活動が人と時間を繋いで、社会を変えた実績を学ぶとともに受講生が「市民」として社会を変える主体であることを理解すること。

The purpose of this class is to learn about the achievements of citizens in changing society through their various activities. It also aims to help students understand that they, as "citizens," are the agents of social change.

授業の内容 / Course Contents

今日の社会では、政府や企業から相対的に自立した「市民」の活動がグローバルからローカルにいたるまで多種多様な領域で活動実績を積み重ね、社会を確実に変化させてきた。本授業では社会を動かす主体としての市民のあり方を市民活動家や自治体議員の取り組みを紹介しつつ検討していくとともに、こうした市民活動の記録を収集・保存・公開・分析する取り組みについても検討する。このために、多様な現場で活動を展開している市民またはこうした活動に造詣の深い研究者をゲストスピーカーとしてお招きして、多様な市民活動の可能性を検討していくこととしたい。

履修に際しては、以下の点に注意すること。

1)本授業では戦後の多様な社会問題や市民活動を取り上げる。受講生が日本史・世界史の現代史や公民の基礎

的知識（高校教科書水準）を持っていることに加えて、今日的な問題について新聞等の報道に高い関心を持ち情報収集していることを前提とする。

2) ロールプレイ、ワークショップ、資料読み合わせなどの多彩な手法の参加型授業を展開する予定である。また、ゲストスピーカー等への質問の時間も確保する。受講生には授業に積極的に参加することを求める。

Citizens, who are relatively independent from the government and corporations, have been accumulating activities and have been steadily changing society. In light of this situation, this class will examine the nature of citizens as agents of social change by introducing the efforts of researchers, citizen activists and local authority representatives involved in a variety of fields, and will also examine efforts to accumulate records of such citizen activities.

For this purpose, we will invite as guest speakers citizens and local authority representatives who are active in various fields or researchers who have deep knowledge of such activities to examine the possibilities of various citizen activities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション この授業で大切にしたいこと
- 2 回：日々の雑感や政治・社会へのもやもやを表現しよう！
- 3 回：韓国社会運動に学ぼう (1)
まちづくりや社会的企業に携わる日韓市民の橋渡しをしてきた経験から
- 4 回：韓国社会運動に学ぼう (2)
まちづくりや社会的企業に携わる日韓市民の橋渡しをしてきた経験から
- 5 回：政治家として社会を変える (1)
日本留学後、韓国に戻り政治家を目指している立場から
- 6 回：女性の政治参加を考える (1)
女性新聞記者の視点から
- 7 回：女性の政治参加を考える (2)
女性新聞記者の視点から
- 8 回：政治家として社会を変える (2)
NPO 活動×自治体議員の取り組みから
- 9 回：労働組合運動で社会を変える (1)
オルガナイザーの経験から
- 10 回：労働組合運動で社会を変える (2)
オルガナイザーの経験から
- 11 回：映像で社会を変える (1)
ドキュメンタリー作家の経験から
- 12 回：映像で社会を変える (2)
ドキュメンタリー作家の経験から
- 13 回：政治家として社会を変える (3)
教育研究者×自治体議員の取り組みから
- 14 回：総括 この授業で学び得たものは何か

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : ○ スライド (パワポ等) の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 : ○

個人発表 :○ グループ発表 :○ ディスカッション・ディベート :○
実技・実習・実験 :○ 学内の教室外施設の利用 :○ 校外実習・フィールドワーク :○
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本授業ではグローバル・ローカルな多彩な社会問題を取り扱う。この内容を理解するためには現代史および現代の経済・政治・社会問題に関する基礎的知識が必要となる。各自必要に応じてしっかりと学ぶこと。また授業時に紹介する文献や情報に積極的に取り組むことが必須である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業への参加度:50%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****その他 / Others**

この授業では講師（教員・ゲストスピーカー）と受講生の相互交流することを重視する。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 B

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 B

大衆演劇の世界

World of Popular Theatre

細井 尚子／中野 正昭／毛利 真人／後藤 隆基／輪島 裕介／齋藤 雅文／山崎 朋／濱口 久仁子
(HOSOI NAOKO/ NAKANO MASA AKI/ MORI MASATO/ GOTO RYUKI/ WAJIMA YUSUKE/ SAITO
MASAFUMI/ YAMAZAKI TOMO/ HAMAGUCHI KUNIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FG734
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

東アジアの大衆的な芸態（演劇・演芸・ショー・芸能など）を取り上げ、娯楽市場をサンプルに、「近代化」と「グローバル化」の相違について考え、理解する。

This course will focus on the popular arts of East Asia (theater, performing arts, shows, music, etc.). In this course we will take the entertainment market as an example to help students think about and understand the difference between "modernization" and "globalization".

授業の内容 / Course Contents

日本の近代化は、その手本である「西洋」に向かうという方向性をもつために、目標との距離によって評価されずに影を薄め、忘れられていったものも多い。しかしグローバル化の影響が浸透するに従い、こうした忘れられたものが復活する現象がみられるようになった。人々の日常生活の中にあった「行楽」としての大衆娯楽・大衆演劇もその内に含まれる。人々の身近な娯楽であり、消耗品でもある大衆的な芸態を通じて、近世文化と近代文化、近代化とグローバル化、各々の属性と相違について考える。

As modernization of Japan tends to imitate "The West", thus many things of Modernization in Japan are unrecognized, ignored or even forgotten due to the great distance between modernization of Japan and its target. However, as the influence of globalization have become stronger, these forgotten things are returning. These things include popular entertainment and popular theater which are called "recreation" in daily life. Popular types of performance are an entertainment, as well as a consumer products in life of ordinary people during early modern and modern times. In this course we will think about differences between early modern culture and modern culture, and differences between modernization and globalization through popular art forms.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：9月28日①喜劇・軽演劇・音楽劇——歴史と背景
細井尚子＋中野正昭＋毛利真人
- 2回：9月28日②喜劇・軽演劇・音楽劇を読み解く
細井尚子＋中野正昭＋毛利真人
- 3回：9月28日③喜劇・軽演劇・音楽劇の世界＋講師トーク・セッション、質疑応答
細井尚子＋中野正昭＋毛利真人
- 4回：10月12日①新演劇・新派：明治生まれの新興演劇
細井尚子＋後藤隆基＋齋藤雅文（劇団新派文芸部、劇作家・演出家）
- 5回：10月12日②新派の展開：多彩なる大正ロマンと昭和モダン
細井尚子＋後藤隆基＋齋藤雅文（劇団新派文芸部、劇作家・演出家）
- 6回：10月12日③新派の現在地：戦後から現代への水脈＋講師トーク・セッション、質疑応答
細井尚子＋後藤隆基＋齋藤雅文（劇団新派文芸部、劇作家・演出家）
- 7回：10月19日①大衆音楽史からみた大衆演劇
細井尚子＋輪島裕介＋山崎朋
- 8回：10月19日②「舞踊ショー」という発明
細井尚子＋輪島裕介＋山崎朋
- 9回：10月19日③大衆演劇とファンダム＋講師トーク・セッション、質疑応答
細井尚子＋輪島裕介＋山崎朋
- 10回：12月7日①女性による芸能—古代から近現代の系譜
細井尚子＋濱口久仁子
- 11回：12月7日②松竹歌劇と宝塚歌劇 東西歌劇の特性と差異
細井尚子＋濱口久仁子＋春日宏美（女優、元松竹歌劇団トップスター）
- 12回：12月7日③東アジアの少女歌劇系芸能＋講師トーク・セッション、質疑応答
細井尚子＋濱口久仁子＋春日宏美（女優、元松竹歌劇団トップスター）
- 13回：1月18日①「演劇」としての大衆演劇：歴史・特色・魅力
細井尚子＋お萩（大衆演劇ライター、脚本家）＋下野歩
- 14回：1月18日②「演劇」としての大衆演劇：創作の現場から
細井尚子＋お萩（大衆演劇ライター、脚本家）＋下野歩

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：

上記いずれも用いない予定：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回教室で、適宜課題等指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度:10% リアクションペーパー@15%×4回:60% 最終回教場レポート:30%
出席コマ数が10コマ以上ない場合、成績評価を出す対象としない。

テキスト / Textbooks

適宜教室で資料を配布。

参考文献 / Readings

必要に応じ、教場で示す。

その他 / Others

- ・本講座は1回3コマ集中（最終回1月18日のみ2コマ）で行う。
- ・1回欠席すると、週1回授業の場合の3回欠席に相当するので気を付けること。
- ・最終回は総括の後、課題を提示、教場でレポートを作成する。必ず出席すること。
- ・池袋キャンパス MB01 教室で開講。

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

主題別 B

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 B

SDGs × AI × 経済 × 法

SDGsxAIEconomyxLaw

河村 賢治／阿部 治 (KAWAMURA KENJI/ ABE OSAMU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FG735
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

国連が定めた持続可能な開発目標である SDGs（Sustainable Development Goals）について、①ファクトを踏まえて現状を理解し、②ゴールを達成するためにどのような取り組みがなされているのかを学び、③自分に何ができるのかを考え、行動する力を育むことを授業の目標とします。

The goal of this class are, relating to the Sustainable Development Goals set by the United Nations, (1) to understand the current situation based on facts, (2) to learn what kind of efforts are being made to achieve the goals, and (3) to think about what you can do and develop the ability to act.

授業の内容 / Course Contents

本授業のテーマに関し、それぞれの分野で活躍されている方をゲストスピーカーとしてお招きし、最先端の話をしていただきます。SDGs に関心がある学生はもちろんのこと、SDGs と技術・経済社会・法制度などとの関係を学問横断的に学びたい学生や、実務での取り組みを知りたい学生、将来の進路選択の参考にしたい学生などにとって、有意義な内容となるように授業を構成しています。

なお、本授業は、SDGs 推進の人づくりとして知られている ESD（持続可能な開発のための教育）の第一人者である阿部治先生のサポートを受けています。

Regarding the theme of this class, we will invite people who are active in each field as guest speakers to talk about the latest topics.

This class is designed to be meaningful to the following students: (1) Students who are interested in SDGs, (2) Students who want to learn the relationship between SDGs and technology, economic society, legal system, etc. across academic fields, (3) Students who want to know practical efforts, and (4) Students who want to make use of it in their future career choices.

This class is supported by Professor Osamu Abe, a leading expert in ESD (Education for Sustainable Development), which is known as human resource development for promoting SDGs.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：4/11 授業概要、SDGs 概論

本科目の責任者である河村、および、持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development) の第一人者である阿部治様

2回：4/18 ソーシャルデザインの視点を持ち、教育のあり方を考えよう

ゲストスピーカー：SDGs for School などコミュニケーションを通じて環境や社会について考え、行動するきっかけづくりを行っている上田壮一様 (一般社団法人 Think the Earth 理事)、および、生徒が主体的に学びを進める教育のデザイナーとして活躍されている山藤旅聞様 (新渡戸文化中学・高等学校副校長。本学卒業生)

3回：4/25 立教大学および立教生の取り組みを知ろう

ゲストスピーカー：持続可能な社会づくりに関する取り組みを行っている、本学の担当者および立教生 (2023年度本講義受講生等を含む) による活動の紹介

4回：5/9 世界をファクトで理解しよう

ゲストスピーカー：『データでわかる 2030年地球のすがた』(2020年)、『超入門カーボンニュートラル』(2021年)、『ネイチャー資本主義』(2022年)などの著者である夫馬賢治様 (株式会社ニューラル CEO)、および、同社でチーフコンサルタント兼事業開発室長として活躍されている菊池尚人様 (株式会社ニューラルチーフコンサルタント兼事業開発室長。本学卒業生)

5回：5/16 日本を代表する経済団体の取り組みを知り、日本経済が目指すべき方向性について考えよう

ゲストスピーカー：革新的な技術を最大限に活用することで経済発展と社会的課題の解決を両立させるコンセプト「Society 5.0 for SDGs」を推進している、日本経済団体連合会の小川尚子様 (日本経済団体連合会産業技術本部副本部長)

6回：5/23 AIの基本を学び、ELSIについて考える力を養おう

本学大学院人工知能科学研究科 (AI研究科) において医療データなどの深層学習を用いた応用研究を行なっている瀧雅人様

7回：5/30 気象データを利用した課題解決の取り組みを学ぼう

ゲストスピーカー：気象データを利用して安全・安心・快適な社会づくりに取り組んでいる日本気象協会の古賀江美子様 (日本気象協会 社会・防災事業部 気象デジタルサービス課)

8回：6/6 グローカルの観点から環境・人権問題を考えよう

ゲストスピーカー：気候変動や生物多様性などの環境課題について日本の環境政策を担っている環境省の方、および、紛争と難民・貧困などの人権課題について特に子どもの権利の観点から活動を行っているセーブ・ザ・チルドレンの方

9回：6/13 インベストメントチェーンの観点から環境・人権問題を考えよう

ゲストスピーカー：日本におけるサステナブル投資を長年にわたり牽引されている後藤敏彦様 (日本サステナブル投資フォーラム最高顧問)、および、資産運用業界の自主規制機関として投資者保護と投資運用業等の健全

な発展に取り組んでいる日本投資顧問業協会の徳田展子様（日本投資顧問業協会調査役 ESG 室長）

10 回：6/20 人権・D&I・ジェンダーに関する企業の取り組みや法制度について理解を深めよう

ゲストスピーカー：本学出身の弁護士として企業法務の第一線で活躍されている菅原清暁様（松田綜合法律事務所パートナー弁護士。本学卒業生）

11 回：6/27 サントリーが水源林保全活動をしている理由と活動内容を知ろう

ゲストスピーカー：サントリーにおける天然水の森事業を発案・推進している、サントリーホールディングス株式会社の山田健様（同社サステナビリティ推進部チーフスペシャリスト）

12 回：7/4 豊島区が消滅可能性都市から SDGs 未来都市になった経緯と取り組みを知り、自分に何ができるか考えよう

ゲストスピーカー：本学池袋キャンパスがある豊島区において、様々な関係者と連携しながら SDGs の活動を推進しておられる豊島区役所の方（豊島区 SDGs 未来都市推進課）

13 回：7/11 日本の防波堤・対馬が抱える課題と地域づくりの取り組みを知り、自分に何ができるか考えよう

ゲストスピーカー：対馬で海洋プラスチックごみを始めとする様々な課題に向き合い SDGs の活動を推進しておられる対馬市役所の前田剛様（対馬市しまづくり推進部 SDGs 推進課副参事兼係長。本学卒業生）、および、立教生。

14 回：7/18 本授業の受講生による取り組みを知り、自分らしい一歩を踏み出そう

本授業の受講生数名による発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

成績評価の対象となる授業毎のリアクションペーパーには、授業の感想だけでなく、基礎知識を問う問題や宿題などが含まれることもあります。授業終了間際数分間で書くような量・質のものではありませんので、授業時間外での学習時間が相応に必要になります。

また、受講生の皆さんは、各回のテーマに関連する情報を新聞等で収集しておき、ゲストスピーカーの先生方の話をより深く理解できるよう努めてください。先生方から予習・復習の指示がある場合には、各回の資料に掲載されますので、それに従ってください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業毎のリアクションペーパー:70% 授業時の発言等:30%

成績評価の対象となる授業毎のリアクションペーパーには、授業の感想だけでなく、基礎知識を問う問題や宿題などが含まれることもあります。授業終了間際数分間で書くような量・質のものではありませんので、授業時間外での学習時間が相応に必要になります。リアクションペーパーの内容を成績評価の対象としますので、リアクションペーパーを提出していれば単位が自動的にもらえるというわけではないことに注意してください。

テキスト / Textbooks

特に指定しません。

参考文献 / Readings

必要に応じ、ゲストスピーカーの先生方から紹介していただきます。

その他/ Others

成績評価の対象となる授業毎のリアクションペーパーには、授業の感想だけでなく、基礎知識を問う問題や宿題などが含まれることもあります。授業終了間際数分間で書くような量・質のものではありませんので、授業時間外での学習時間が相応に必要なになります。

リアクションペーパーの内容を成績評価の対象としますので、リアクションペーパーを提出していれば単位が自動的にもらえるというわけではないことに注意してください。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 B

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 B

ファミリービジネスの可能性

Multidimensional Studies of Family Business

有馬 賢治／尾崎 俊哉／西原 文乃／東條 吉純 (ARIMA KENJI/ OZAKI TOSHIYA/ NISHIHARA AYANO/ TOJO YOSHIZUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FG741
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ①ファミリービジネスとは何か、どのような法律や規範のなかで存在するか、わが国の経済活動のなかで、どのような役割を担っているか、通常の上場企業とは、何がどう違うか、を理解する。
- ②ファミリービジネスの強み・弱みや、社会的な意義を考える。
- ③ファミリービジネスの直面する課題を知り、その解決方法について考察する。
- ④企業の形態の多様性や、それらと経営戦略や組織のあり方との関係、企業と法や社会との関係、などについて理解と関心を深める。
- ⑤どのような企業で自分はより活躍できるか、を含め、自分のキャリアについて考えて

1. We examine the following questions: What is family business? What kinds of laws and social norms are necessary for successful family business? What are the similarities to and differences from regular listed companies?

2. By developing an understanding of family business, we analyze the roles family business plays in Japanese society and economy and examine its socio-economic relevance and importance for Japan.

3. We identify issues and challenges that family business face, and explore solutions to cope with them.
4. We examine the variety of firm ownership and its relationship with corporate strategies and organizational structures. We also analyze the relationship between laws, social norms, and ownership structures of firms.
5. We explore the question of whether family business may help serve our career aspirations.

授業の内容 / Course Contents

創業家一族などが株式の半数以上を保有し、実質的に経営する企業をファミリービジネスと呼ぶ。同族企業と呼ぶこともある。トヨタやサントリーのようなグローバル企業から、地方の中小零細企業に至るまで、日本の企業の約9割はファミリービジネスとされる。サントリーを含めた多くの同族企業は、株式を上場せず、一族で保有することで、経営権を保持している。他方で、ユニクロやトヨタのように株式を上場していても、創業家が引き続き経営権を保持している企業もある。海外にも米ウォルマートや独フォルクスワーゲンなどが知られる。創業理念や伝統を守った長期的な経営を行い、優れた業績をあげる企業が少なくない一方、所有と経営の分離が難しく、ガバナンスが不透明で、親族の対立などに経営が巻き込まれることもある。経営者が絶対的な力を持つため、ブラック企業が多いという声もある。どのような法律の下で存在しているのか。通常の上場企業と比べて、どのような点が優れ、どのような点が問題か。より持続的な経営を行うためには何が必要か。社会とどう向き合うべきか。理論とケースを踏まえ、学際的に考察する。

A company in which the founding family owns more than half of the shares and effectively controls the company is called a family business. Approximately 90% of Japanese companies are considered to be family businesses. They range from such multinational companies as Toyota and Suntory to local small and medium-sized companies. Many family-owned companies, including Suntory, are private companies that do not list their shares on the stock market. There are companies such as Uniqlo and Toyota whose founding families continue to control the companies even though their shares are listed on the stock market. The family business is not unique to Japan as Walmart in the US and Volkswagen in Germany are also known to be family businesses. Many family businesses perform well by upholding their founding principles and traditions and managing their firms from a long-term perspective. However, some family businesses are criticized for not separating ownership and management and poor corporate governance. Other family businesses are plagued by nepotism and conflicting interests among family members. Is it more difficult to manage family businesses than listed companies? What kind of laws and social norms are necessary to efficiently manage them? What are their advantages and disadvantages compared to listed companies? We invite guest speakers who are involved in these topics and employ an interdisciplinary approach to explore and analyze them.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

授業の目的や進め方、学び方について確認する。担当教員を紹介する。

2回：ファミリービジネスとは何か？

講義

3回：ゲストスピーカー

4回：ファミリービジネスとは何か？

グループディスカッション～ゲストスピーカーからの問題提起を、講義を踏まえて議論し、自分たちの考えをまとめてみる

5回：ファミリービジネスは知識の創造や継承がしやすいのか？

講義

6回：ゲストスピーカー

7回：ファミリービジネスは知識の創造や継承がしやすいのか？

グループディスカッション～ゲストスピーカーからの問題提起を、講義を踏まえて議論し、自分たちの考えをまとめてみる

8回：ファミリービジネスの経営のポイント

講義

9回：ゲストスピーカー

10回：ファミリービジネスの経営のポイント

グループディスカッション～ゲストスピーカーからの問題提起を、講義を踏まえて議論し、自分たちの考えをまとめてみる

11回：ファミリービジネスは、新しい資本主義の担い手となりえるか？

講義

12回：ゲストスピーカー

13回：ファミリービジネスは、新しい資本主義の担い手となりえるか？

グループディスカッション～ゲストスピーカーからの問題提起を、講義を踏まえて議論し、自分たちの考えをまとめてみる

14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に指定テキストを読んで受講することが望ましい

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% クラス参加：20% グループ発表：15% x 4回：60% 期末レポート：20%:20%

テキスト / Textbooks

浅羽茂、山野井順一 『ファミリー企業の戦略原理 継続と革新の連鎖』 日本経済新聞出版 2022 ○
 クレイグ、ジャスティン・B&ケン・ムーア 『ビジネススクールで教えているファミリービジネス経営論』
 プレジデント社 2019 ○

参考文献 / Readings

適宜授業内で紹介する

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

主題別 B

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 B

ジェンダー・宗教・社会

Gender, Religion and Society

ゾンターク, M/工藤 万里江/丹羽 宣子 (SONNTAG MIRA/ KUDO MARIE/ NIWA NOBUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FG744
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この科目では、立教大学のルーツを考慮して、現代におけるジェンダー、宗教と社会の相互作用を批判的に見つめる。

This lecture reconsiders the roots of Rikkyo University through a critical inquiry into the interaction of religion, society and gender in the contemporary period.

授業の内容 / Course Contents

日本では自身を「無宗教」と考える人が増えているが、宗教が社会から消えたわけではない。「宗教」と認知されていないものの、宗教性を帯びた場所で行われる「慣習」もあれば、宗教を背景に形成され、世俗社会によって継承された価値観もある。しかし「無宗教」を自認することは、「宗教家・信徒」に対する姿勢を規定し、自分の中に、そして世俗社会に潜在的に残っている宗教性を認識する妨げとなっている。こうした隠れた宗教性に気づき、それが社会と個人のジェンダー理解に与える影響について考えることが本講義の目的である。そのために、ジェンダーを専門とする宗教学者や社会学者はゲストスピーカーとして招き、宗教内の役割分担、儀礼の力学、LGBTの人々による批判、改宗によるアイデンティティ転換などといった研究課題について発題してもらい、討議をする。また、女性聖職者との対話を通して、彼女たちが「保守的」とされる宗教組織に留

まる理由やそれを変革する方法、そして一般社会に対する彼女たちの批判がどのようなものかを知り、ジェンダーと社会をめぐる課題への知識を深めることができるだろう。

More and more Japanese consider themselves non-religious, but this does not mean that religion has disappeared from society. “Customs” not considered “religious” in themselves, but conducted at religious sites persist, and values that were formed under the influence of religions are passed on by today’s secular society. On the other hand, the self-image of being non-religious determines peoples’ attitude towards “religionists/believers” and inhibits the recognition of latent religiosity in themselves as well as in society. This class seeks to raise awareness for this kind of hidden religiosity and considers its impact on individual and collective notions of gender. For this purpose, scholars of religion and sociology who specialize in gender studies will be invited as guest speaker to elaborate on and discuss research topics such as the distribution of gender roles in religious groups, the dynamics of ritual, criticism against religions from the side of LGBT people, and identity transformation through religion. Furthermore, through dialogue with women who work as religious specialists we will inquire into why they chose to stay in religious organizations labelled as “conservative”, how they intend to change them and what they feel critical about in contemporary society. Students will thus enrich their knowledge about problems pertaining to religion and society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：導入：ジェンダー・宗教・社会の多様な相互作用
- 3回：ゲストスピーカー①
- 4回：ゲストスピーカー①
- 5回：課題に基づくグループワーク、討議結果の発表
- 6回：ゲストスピーカー②
- 7回：ゲストスピーカー②
- 8回：課題に基づくグループワーク、討議結果の発表
- 9回：ゲストスピーカー③
- 10回：ゲストスピーカー③
- 11回：課題に基づくグループワーク、討議結果の発表
- 12回：ゲストスピーカー④
- 13回：ゲストスピーカー④
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習、復習、課題と発表の準備。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業に関する活動（予習復習そのほか課題の提出と内容の精度を含む）:70%

最終レポート割合：:30%

借り物の知識ではなく自分でどこまで徹底的に学び考えたかが重要であり、そのために、自らの考えを言葉によって示し、発表、対話、討議をつうじて深めることが求められる。いずれも授業担当者の指示をふまえて積極的に行うことが求められるので、受講希望者は留意すること。なお授業マナーについて注意された受講者は授業に関する活動を0点とする。課題やそのほかの指示が e-mail、Canvas LMS などで指示されるが、それを必ず確認すること。確認しないことによる不利益は受講者の責任となる。

テキスト / Textbooks

指定しない。

参考文献 / Readings

授業内に提示する。

注意事項

2015 年度以前 1 年次入学者対象科目

主題別 B

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 B

Knowledge, Design, and Innovation

Knowledge, Design, and Innovation

西原 文乃／レヘトネン (NISHIHARA AYANO/ LEHTONEN MIIKKA J.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FG752
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面（in-person）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本コースを修了した場合の学習成果には、以下の能力が含まれる：

- 組織の知識創造理論とデザイン思考の基礎を理解する。
2つの理論を理解し、それぞれの共通点と特徴を説明できる。
- 組織的知識創造理論とデザイン思考を実際のプロジェクトに適用し、イノベーションを促進する。
現実の課題に取り組む際の学際的アプローチの重要性を理解する。
重要な社会問題や環境問題に取り組む提案書を作成する

Learning outcomes for this course, upon successful completion, include the ability to:

- Understand the fundamentals of organizational knowledge creation theory and design thinking
Understand the two theories and explain what they have in common and what makes each unique
- Apply organizational knowledge creation theory and design thinking in a real-life project to facilitate innovation
Appreciate the significance of interdisciplinary approaches in addressing real-world challenges
Develop a proposal addressing critical social and environmental issues

授業の内容 / Course Contents

知識、デザイン、イノベーション」では、複雑な課題に取り組む最前線に立つことができる。組織の知識創造理論やデザイン思考を掘り下げ、実際のプロジェクトに応用する。この旅では、革新的な問題解決スキルを身につけるだけでなく、人間や地球を中心としたソリューションの創造についての理解を深める。また、学際的なアプローチが求められる世界において、これらのイノベーションがどのように「よい人生」のコンセプトと交差し、個人的・職業的成長を促すかを共同で探求する。このコースは、日進月歩の世界における変革の担い手になるための道しるべとなる。

In "Knowledge, Design, and Innovation", you'll be at the forefront of tackling complex challenges. You'll delve into organizational knowledge creation theory and design thinking, applying these in a real-life project. This journey will not only equip you with innovative problem-solving skills but also deepen your understanding of creating human- and planet-centric solutions. Collaboratively, we'll explore how these innovations intersect with the concept of a "good life," encouraging personal and professional growth in a world that demands multidisciplinary approaches. This course is your pathway to becoming an agent of change in an ever-evolving landscape.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回： Introduction to the course and practicalities, ice-breaking activities
- 2 回： Organizational Knowledge Creation 1: Knowledge and SECI
- 3 回： Organizational Knowledge Creation 2: "Ba" and Ecosystem
- 4 回： Organizational Knowledge Creation 3: Scrum and Wise Leadership
- 5 回： Organizational Knowledge Creation 4: review and possible applications
- 6 回： Game design: what makes games engaging?
- 7 回： Introduction to identifying problems and challenges
- 8 回： Empathize: Understanding the Player
- 9 回： Ideate: Generating Creative Ideas
- 10 回： Prototype: Building Your Game
- 11 回： Test: Playtesting and Iteration
- 12 回： Prototype: Building Your Game
- 13 回： Finalize the game
- 14 回： Final presentations and reflections

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Study required outside of class: For each session, you are expected to engage with the assigned readings or Nordic Rebels episodes, as this will enhance our in-class discussions and your overall understanding.

Additionally, the final team assignment will

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active class participation:15% Peer Evaluation:10% Individual Learning Diary:25%
Final Presentation:10% 最終レポート割合 :40%

Missing more than four sessions will regrettably result in receiving a "D" grade. This policy underscores the value of active participation and engagement in every class to ensure a comprehensive understanding and successful completion of the course.

テキスト/ Textbooks

Nonaka Ikujiro & Takeuchi Hirotaka The Wise Leader Oxford University Press 2019 0190497009 -

Additional readings will be provided by the instructors during the first session of the course.

Nordic Rebels (www.nordicrebels.com) videos and podcasts will also be utilized.

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

Able to actively engage in and enjoy group work and class discussions.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Notebook PC or Tablet PC

注意事項

- ・ F 科目 (外国語による総合系科目)
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 2015 年度以前 1 年次入学者対象科目
- ・ 主題別 B

注意事項 (検索結果画面)

全学共通カリキュラム / 主題別 B

多言語・多文化理解を促す日本語

Understanding Japanese for better multicultural and multilingual communication

三浦 愛香／高嶋 幸太／町 沙恵子／牛山 さおり／坂本 真一 (MIURA AIKA/ TAKASHIMA KOTA/
MACHI SAEKO/ USHIYAMA SAORI/ SAKAMOTO SHINICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FG754

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、母語である日本語を見つめ直し、学習言語である外国語を相対的に捉えていくことの重要性を体験することで、日本語における円滑なコミュニケーションを実現する知見を得るだけでなく、多言語・多文化間におけるコミュニケーションの理解を深めることを目標とする。

This course offers students opportunities to explore the Japanese language and communication, comparing them with other foreign languages from various perspectives. The objective is to cultivate students' communication skills in their mother tongue, Japanese, and enhance their understanding of multilingual and multicultural communication.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、外国語教育専門（日本語教育、英語教育、ドイツ語教育など）の日本人教員が複数担当するコラボレーション科目である。授業では、外国語にて円滑なコミュニケーションを実現することを念頭に置き、日本語がどのようなコミュニケーションスタイルを持ち、その背景にどのような思考や文化があるのかを扱う。日本語のコミュニケーションスタイルを中心として、他言語にも触れながら、言語形式や談話構造の特徴などを

学ぶ。各言語を特徴づける背景の文化や思考についても捉え、さらに、履修者自身が、言語データの分析や観察、グループによる議論や発表を行うことで、多言語・多文化間におけるコミュニケーションの理解を実践的に深めていく。

毎回の授業では、グループ討論が実施され、積極的に参加することが求められる。また、ミニ・プロジェクトやグループプロジェクトでは、自らが率先して言語分析に携わり、発表し、履修者と意見交換する機会を持つ。よって、受け身的な履修ではなく主体的に授業に参加することが必須となる。

This course is collaboratively taught by Japanese scholars specializing in foreign language teaching such as Japanese, English, and German. We focus on how Japanese culture and thought affect the way Japanese speakers communicate, exploring language forms, discourse structures, and more, comparing these with other languages. Students enhance their cross-cultural communication skills by analyzing language data and presenting their findings in groups and classes.

In every class, group discussions are held and active participation is expected. In mini-projects and group projects, students will have the opportunity to actively participate in conducting various linguistic analyses, present their work and exchange opinions with other students. Therefore, students are required to participate in the classes proactively rather than passively.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

担当者：三浦、高嶋、町、牛山

2回：日本語コミュニケーションをつかさどる思考や発想（日英）

担当者：三浦、高嶋

3回：日本語の文法と対人関係（日英）

担当者：三浦、高嶋

4回：日本語の非言語・言語コミュニケーション（日英）

担当者：三浦、高嶋

5回：日本語の思考表現（日英韓）

担当者：三浦、高嶋

6回：ミニ・プロジェクト1（日英）

担当者：三浦、高嶋

7回：談話分析入門（日英）

担当者：三浦、町

8回：談話分析実践（日英）

担当者：三浦、町

9回：談話分析実践（日英）およびミニ・プロジェクト2（日英）

担当者：三浦、町

10回：ドイツ語の文法と英語・日本語との比較（日独英）

担当者：三浦、牛山

11回：ドイツ語でのコミュニケーションスタイル（日独英）

担当者：三浦、牛山、坂本

12回：ミニ・プロジェクト3（日独）および本授業の総まとめ

担当者：三浦、牛山

13回：グループ・プロジェクトの発表、意見交換

担当者：三浦、高嶋、町、坂本

14回：グループ・プロジェクトの発表、意見交換

担当者：三浦、高嶋、町、坂本

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示された参考文献や資料の予習や復習、ミニ・プロジェクト1～3とグループ・プロジェクトの準備

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎回の授業の参加および貢献とリフレクションペーパーの提出：40% ミニ・プロジェクト3回分：30% グループ・プロジェクト1回分：30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

参考文献に関しては、授業内で指示を出す

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

毎回の授業では、グループ討論が実施され、積極的に参加することが求められる。また、ミニ・プロジェクトやグループプロジェクトでは、自らが率先して言語分析に携わり、発表し、履修者と意見交換する機会を持つ。よって、受け身的な履修ではなく主体的に授業に参加することが必須となる。

日本語母語話者ではない場合は、日本語で授業を問題なく受けることができ、日本語でのプレゼンテーションやディスカッションができる高い日本語能力があること。ただし、英語が苦手であったり、英語以外のドイツ語などの外国語の学習経験がなくても受講は可

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

課題提出等に PC が必要。

注意事項

2015年度以前1年次入学者対象科目

主題別 B

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／主題別 B

世界史の中のキリスト教

Christianity in World History

日本におけるキリスト教の展開

川口 葉子 (KAWAGUCHI YOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH001

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本におけるキリスト教の歴史を世界史・アジア史のなかで捉え、日本で受容されたキリスト教の展開とその地域的・時代的特徴を理解する。

The goals of this course are to be able to understand the development and regional and historical characteristics of Christianity that has been accepted in Japan while considering its history in the context of the world and Asian history.

授業の内容 / Course Contents

日本布教に至る世界史的背景を踏まえたうえで、日本におけるキリスト教の展開を学びます。キリスト教の受容と、近世・近代・現代それぞれの時代状況における展開に注目し、キリスト教の伝来から今日に至るそれらの歴史を通して、日本におけるキリスト教の地域的・時代的特徴を考察します。

This course will explore the expansion of Christianity in Japan, considering the global historical background leading to its propagation in Japan. Students will learn about Christianity's acceptance and development during the early modern, modern, and contemporary periods. Furthermore, through an examination of the history of

Christianity in Japan from its introduction to the present day, students will learn the regional and temporal characteristics of Christianity in Japan.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：キリスト教史における日本
- 2 回：キリスト教史概観
- 3 回：イエズス会の布教政策
- 4 回：イエズス会の「適応主義」
- 5 回：禁教政策と殉教
- 6 回：潜伏キリシタンの信仰
- 7 回：近代日本のキリスト教受容
- 8 回：報国のキリスト教
- 9 回：社会事業、社会運動
- 10 回：植民地政策とキリスト教
- 11 回：「日本的キリスト教」
- 12 回：キリスト教への弾圧
- 13 回：戦後社会とキリスト教
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習・復習を行なうこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 出席及び毎授業でのリアクションペーパー:50%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

適宜授業で紹介する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 学びの精神

思想を生み出すキリスト教

Christianity and Philosophy

キリスト教と世俗化

坪光 生雄 (TSUBOKO IKUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH002
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

西洋近代における「世俗化」の過程について、とくにキリスト教思想との関連で理解を深める。また同時に、近年議論の活発な「ポスト世俗性（化）」というテーマにも関心を広げ、現代社会における宗教の位置づけを問い直す視座を獲得する。

In this course, we attempt to deepen our understanding of secularization in Western modernity, especially in terms of Christian thought. Also, we will explore the theme of "post-secularity" (or "post-secularization") and gain a renewed perspective on the status of religion in contemporary society.

授業の内容 / Course Contents

チャールズ・テイラー『世俗の時代』（2007）の議論に依拠して、「世俗化」とその周辺概念について検討する。テイラーは、同書において、合理的な思考や科学の発展により宗教的信仰が不可逆的に論駁されたのだとする歴史理解に異を唱える。本講義では、支配的な世俗化の物語に対抗してテイラーが提示する批判的論点の数々を確認し、キリスト教の思想と実践に生じた歴史的変容が、いかにして今日の「世俗の時代」を生み出すことになったのかを学ぶ。

Following the discussion of Charles Taylor's *A Secular Age* (2007), we will reconsider the master narrative of secularization and other related concepts. In his book, Taylor challenges the popular historical understanding, which assumes that religious faith was irreversibly refuted by the development of rational thought and modern science. In reviewing the critical arguments that Taylor develops against this master narrative of secularization, we will learn how historical transformations in thoughts and practices of Christianity have given rise to today's "secular age."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入：『世俗の時代』について
- 2 回：「充溢」と「信仰の条件」
- 3 回：「超越」としての宗教
- 4 回：脱魔術化：緩衝化された自己と多孔的な自己
- 5 回：「大文字の改革」と世俗化
- 6 回：理神論から「排他的人間主義」へ
- 7 回：ロマン主義、ノヴァ・エフェクト
- 8 回：現代社会のスピリチュアリティ
- 9 回：「内在的枠組」の閉じた世界構造
- 10 回：内在と超越のジレンマ
- 11 回：暴力と宗教
- 12 回：より繊細な言語と身体性の回復
- 13 回：世俗主義の再定義
- 14 回：総括：ポスト世俗の時代？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献の該当箇所を自身で読むことをおすすめする。

授業中に教員からの指示があった場合や、Canvas LMS などに案内が掲示される場合には、それらに従って各自で予習・復習を行うこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% コメントペーパーの内容:30%

テキスト / Textbooks

授業は毎回配布する資料に基づいて行う。

参考文献 / Readings

チャールズ・テイラー 『世俗の時代』上 名古屋大学出版会 2020 9784815809881

チャールズ・テイラー 『世俗の時代』下 名古屋大学出版会 2020 9784815809898

Charles Taylor *A Secular Age* The Belknap Press of Harvard University Press 2007 9780674986916

坪光生雄 『受肉と交わり——チャールズ・テイラーの宗教論』 勁草書房 2022 9784326103126

入手必須のテキストとしては指定しないが、本講義の内容は、ここに挙げた参考文献に大きく依拠するので、適宜参照するとよい。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

美術の中のキリスト教

Christianity and Art

キリスト教美術の歴史：誕生から 17 世紀まで

山本 樹 (YAMAMOTO ITSUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH003

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- キリスト教の基本的な教義について学び、正確な知識を身につけること。
- キリスト教美術の代表的な作例について、自分の言葉で説明できるようになること。

The aim of this course is to learn the essential Christian doctrines through examples of Christian art. Students will be required to be able to explain them in their own words.

授業の内容 / Course Contents

ユダヤ教とキリスト教の教義と歴史の集成である旧／新約聖書は、その物語的な豊かさゆえに、のちの西洋の美術にはかりしれない影響を与えました。同じテーマや教義であっても、その表現は時代や社会の影響を受けて変化してゆき、宗派によっても異なります。今に残るキリスト教美術の作品は、人類が宗教に何を求め、どのように歩んできたのかを私たちに教えてくれるのです。本講義ではキリスト教誕生後から 17 世紀までのキリスト教美術の代表的な作例を紹介し、その表現がいかに変化してきたのかを考えていきます。

The Old/New Testaments, a collection of canons and the history of Jewish and Christianity, had an immeasurable influence on Western art due to its narrative richness. Even if it deals with the same themes or

doctrines, their depiction has changed with time and society and is different depending on denomination. The works of Christian art that survive today tell us what humankind has sought in religion and how they have evolved. This course introduces examples of Christian art from the period after the birth of Christianity to the 17th century and will survey how their depictions have changed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：キリスト教と美術
- 2回：古代ローマ帝国と初期キリスト教美術
- 3回：西欧中世美術／ビザンティン美術
- 4回：ロマネスク美術／ゴシック美術
- 5回：ルネサンスのキリスト教美術（1）
- 6回：ルネサンスのキリスト教美術（2）
- 7回：ルネサンスのキリスト教美術（3）
- 8回：ルネサンスのキリスト教美術（4）
- 9回：トレント公会議後の美術（1）
- 10回：トレント公会議後の美術（2）
- 11回：トレント公会議後の美術（3）
- 12回：トレント公会議後の美術（4）
- 13回：トレント公会議後の美術（5）
- 14回：授業の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習のあり方：授業の前に Canvas LMS に掲示されるパワーポイントに目を通しておくこと。

復習のあり方：授業中に紹介されたトピックについて図書館で関連文献を当たり、ネットで検索してみるなど、各自で学びを深めてください（30分～1時間）。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 毎授業でのリアクションペーパーの提出およびその精度:50%

リアクションペーパーは出席確認を兼ねているため、遅れて提出された場合は「遅刻」とします。また4回以上欠席した場合は成績評価の対象としないので注意してください。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

山我哲雄 『キリスト教入門』 岩波ジュニア新書 2014年 4005007929

岡田温司 『処女懐胎一描かれた「奇跡」と「聖家族」』 中公新書 2007年 4121018796

高階秀爾（監修） 『増補新装 カラー版 西洋美術史』 美術出版社 2002年 4568400643

エミール・マール 『ヨーロッパのキリスト教美術』（上下巻） 岩波文庫 1995年 4003356519

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

美術作品をじっくり見てもらうため、タブレットやPCの利用を推奨します。

その他/ Others

- ・連絡事項は Canvas LMS を通じて伝達する予定です。確認を怠らないようにしてください。
- ・美術作品の権利保護の観点から、授業で配布した資料の無断転載、無断使用は固く禁じます。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

音楽の中のキリスト教

Christianity and Music

キリスト教と西洋音楽

長岡 英 (NAGAOKA MEGUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH004
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

西洋音楽の歴史におけるキリスト教との関わりを理解する。様々な時代の作曲家による多様な音楽作品とそれらのキリスト教との関連について、基本的な知識を身につけ、映像などを通じて親しむ。

In this course, students will learn about the connection between Christianity and the History of Western Music while intimating themselves with the various works that emerged from said connection.

授業の内容 / Course Contents

講義。中世から 20 世紀までのキリスト教と関連がある音楽作品をほぼ時代順に取り上げ、作曲家や作品の構造、背景などを論じる。宗教曲はもちろん、キリスト教関連の要素が取り入れられている世俗曲や、作品発表が教会暦と関連している世俗曲など、多様な作品を紹介する。

Lectures. In this lecture, we will look at various pieces of music relating to Christianity from the Middle Ages to the 20th century in roughly chronological order. We will discuss the composers as well as the structure and contextual background of their work. Religious music aside, we will also introduce various secular works that incorporate components related to Christianity, as well as secular works whose publication announcements were

related to the church calendar in some way. While proficiency in a musical instrument is not required, we will be using sheet music, including orchestral scores, every class as a means to analyze and explain each work, so the ability to read sheet music and a desire to learn are a necessity.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：西洋音楽史概観、キリスト教と西洋音楽
- 2回：グレゴリオ聖歌と西洋音楽
- 3回：ミサとミサ曲
- 4回：宗教改革と音楽
- 5回：バロック音楽とキリスト教1：バッハの教会カンタータ
- 6回：バロック音楽とキリスト教2：バッハの受難曲
- 7回：バロック音楽とキリスト教3：ヘンデル
- 8回：古典派音楽とキリスト教1：ハイドン
- 9回：古典派音楽とキリスト教2：モーツァルト
- 10回：古典派音楽とキリスト教3：ベートーヴェン
- 11回：ロマン派音楽とキリスト教1：標題音楽
- 12回：ロマン派音楽とキリスト教2：メンデルスゾーン
- 13回：ロマン派音楽とキリスト教3：ブラームス
- 14回：ロマン派音楽とキリスト教4：オペラ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

図書館等の資料の利用については、授業中に随時指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :52%

平常点割合 :48% レポート:22% リアクションペーパー:26%

なお、2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

長岡 英 『オケ奏者なら知っておきたいクラシックの常識』 アルテスパブリッシング 2014
784903951904 ○

参考文献 / Readings

授業中に随時指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

楽器の演奏能力は問わないが、毎回の授業で楽譜（オーケストラのスコアなどを含む）を用いて分析・解説を行うため、楽譜を読む力と意欲が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回、授業中あるいは授業後に、Canvas LMS に課題を提出するための PC やスマートフォン

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

文学を生み出すキリスト教

Christianity and Literature

ファンタジー児童文学におけるキリスト教と魔女、イエスの死と再生のモチーフ

大澤 千恵子 (OOSAWA CHIEKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH005
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

文学の中のキリスト教的な表象に目を向けることで、作品のより深い読解を目指すとともにキリスト教に対する新たなアプローチを試みる。

Through examining various Christian symbols found in literature, this course aims to enable students to obtain a deeper comprehension of these works whilst helping them view Christianity from a different angle.

授業の内容 / Course Contents

児童文学ファンタジーは、キリスト教文化の影響を強く受けている。様々な物語の中にキリスト教的な主題を見て取ることが出来る。本講義では文学と宗教の関係を広くとらえ、現代でも親しまれている童話や児童文学の宗教的テーマや文化的背景としてのキリスト教とその変容から魔女の誕生や死と再生のモチーフを読み解く。

Children's fantasy literature has received a strong influence from Christian culture. One can often notice Christian themes present within various stories in the genre. In this course, students will extensively grasp the relationship between literature and religion through the examination of fairy tales and children's literature that remain familiar to many in the present day. Students will be able to understand the aspects of Christianity

relevant to the cultural backgrounds of each work as well as the themes presented within. They will also be able to read and comprehend variations of these aspects that often appear as motifs, such as the birth of the witch, death, and rebirth.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：宗教的神話から文学的神話へ 『アラジンと魔法のランプ』
- 3回：愛とは何か 『眠れる森の美女』 『マレフィセント』
- 4回：運命論から自助論へ 『シンデレラ』
- 5回：キリスト教と魔女 『白雪姫』『塔の上のラプンツェル』
- 6回：死と再生のモチーフ 『マッチ売りの少女』 『アナと雪の女王』
- 7回：無償の愛による献身 『人魚姫』
- 8回：別世界の創造 『ピーター・パン』
- 9回：イエスの死と復活1 『ナルニア国物語』
- 10回：多元的な世界を信じる1 『ナルニア国物語』
- 11回：多元的な世界を信じる2 『トイ・ストーリー』
- 12回：世俗的物語にみるキリスト教 『ハリー・ポッターシリーズ』
- 13回：日本の物語にみるキリスト教 『銀河鉄道の夜』
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に授業で扱う作品を読んでくるように指示することがある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 出席および議論への参加度:10% 授業毎の提出課題:40%

テキスト / Textbooks

大澤千恵子 『見えない世界の物語』 講談社 2014 ○

参考文献 / Readings

大澤千恵子 『〈児童文学ファンタジー〉の星図』 学芸大学出版会 2019 9784901665568

その他 / Others

欠席が授業回数数の3割に達した場合は単位を認めない。

平常点は、出席とCanvas LMSへの提出物の両方が含まれる。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

国際社会の中の宗教

Religions in Global Society

国際社会とイスラーム

加藤 瑞絵 (KATO MIZUE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH006

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、以下の3点である。

- イスラームに関する基本知識を獲得する。
- イスラームの普遍性と多様性を理解する。
- イスラームという事例を通して、今日の国際社会で生じる諸問題を広い視野から考察する力を涵養する。

The goals of this course are to

- acquire basic knowledge of Islam.
- understand the universality and the diversity of Islam.
- cultivate the ability to analyze the problems in today's global society from a broader perspective through the case study of Islam.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、まず、イスラーム成立の歴史的経緯と基本教義、聖典クルアーンといった基本的な事柄を学習する。その上で、イスラームの信仰に基づく諸実践について検討する。さらに、世界各地で実際に起きた事件を

取り上げて考察する。日々の報道にも目を配りながら、現代国際社会におけるイスラームの在り方を捉えていく。

This course first introduce the basic knowledge of Islam, such as the historical background of the establishment of Islam, its basic doctrine and the holy book, Qur'an. Next, we will examine various practices based on Islamic faith. Then, we will examin incidents that have occurred around the world. While keeping an eye on the daily news, we will analyze the state of Islam in today's global society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入：イスラームという宗教・文化から現代国際社会を捉えてみるの意味（以下の授業計画は、授業の進捗状況や受講生の反応を考慮して、若干の変更を加える可能性がある）
- 2回：アラビア語に触れてみよう：アラビア語の会話表現にみるイスラーム思想
- 3回：イスラームの成立と先行する一神教との関係：なぜイスラームはムハンマドを描くことを頑なに拒むのか
- 4回：イスラームの基本教義（1）六信五行とその実践
- 5回：イスラームの基本教義（2）五行以外の義務：ジハード、ハラールとハラーム
- 6回：聖典クルアーンの編纂とその内容：クルアーンを標的とする事件はなぜ起きたのか
- 7回：イスラーム法の成立と基本的思考法
- 8回：イスラーム法の実践（1）家族や婚姻に関わる諸規則を中心に
- 9回：イスラーム法の実践（2）服装の諸規則：ベール着用は犯罪か
- 10回：シーア派の形成、シーア派国家イラン：スンナ派とシーア派は何が違うのか
- 11回：今日まで続くスーフィズム、スーフィー教団、聖者崇拜
- 12回：イスラーム復古主義運動の成立と展開
- 13回：現代の急進派イスラーム主義（原理主義）勢力の組織と活動
- 14回：振り返りとまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回授業は、シラバスを熟読してくること。

それ以降の授業については、授業前には前回授業の内容を復習し、知識の定着をはかる（重要語の中にはアラビア語の聞きなれない言葉もあると思う。暗記する必要はないが、意味内容を理解すること）。授業後には、不明な点や疑問点を明らかにし、紹介した文献や資料を読み、さらに理解を深める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% コメントペーパーの提出状況および記入内容、授業参加態度:40%

出席回数が授業全体の2/3に満たない者は原則として評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

テキストは特に指定せず、プリントを配布する。また、授業の中で随時参考文献を紹介する。

参考文献 / Readings

佐藤次高 『イスラームの歴史1：イスラームの創始と展開』（宗教の世界史11） 岩波書店 2010年
9784634431416

小杉泰 『イスラームの歴史2：イスラームの拡大と変容』（宗教の世界史12） 岩波書店 2010年
9784634431423

大塚和夫他 『岩波イスラーム辞典』 岩波書店 2002年 4000802011

その他/ Others

基本的に、レジюмеとパワーポイントを使用した講義形式の授業となる。映像資料も随時活用する。

授業では、毎時間その回の内容を振り返ってコメントペーパーを記入し、提出してもらう。授業内で問いを提示し、皆さんに考えてもらう機会も適宜設けたい。コメントペーパーに寄せられた疑問や質問から主要なもの、重要なものを取り上げて、次回授業の冒頭で回答する。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

現代社会の中の宗教 1

Religions in Contemporary Society 1

「わたし」「我々／われわれ」「いのち」を考える

鳥居 雅志 (TORII MASASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH007
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代社会において見られる倫理／生命倫理的問題について、問題の確認やそれに対する批判・検討を行いながら、それがどこから語られているのか、それを語る自分自身はどのようにあるのか、ということに向き合う視点を持つための足掛かりをつくる。

In this course, we will examine various issues related to the ethics and bioethics found in present day society. Students will identify, assess, and consider the issues, ascertaining from where they arise while identifying their points of view on the matters. This course aims to provide an opportunity to express many differing viewpoints.

授業の内容 / Course Contents

倫理／生命倫理において問われる問題、特に「わたし」「われわれ」「いのち」といった問題は、それを語る自分自身が問われてくる問題でもある。本授業では、まず、そういった問題について、幾つかの倫理／生命倫理的テーマを扱うことによって確認・検討を行う。その上で、そこで確認・検討した問題に対して、幾人かの哲学者・思想家の見解を確認・検討・参照し、その者たちが語ろうとしているところ—それは〈宗教の源泉〉を感じさせるものであったりする—からどのように向き合っていけるのか、そして「わたし」「われわれ」「いのち」

ち」はどのようなあり様をしているのかといったことを考究していく。

なお、授業後に毎回コメントを提出してもらいますが、そのコメントペーパーは匿名化した上で皆と共有し、より多くの意見を知ることによって見識を広めてもらうつもりである。また、授業は提出してもらったコメントの紹介や、コメント同士の議論、疑問への応答、コメントへの応答などをしつつ進めていくため、積極的な参加を望む。授業の進行や扱うテーマも、受講者の関心や社会状況などに応じて適宜調整する予定である。

また、理解を深めるために、映像資料も用いるつもりである。(グループに分かれてディスカッションをしてもらうことも考えている。)

Questions related to ethics and bioethics, particularly ones relating to "I/me", "we/us", and "life", are questions one is quite likely to have posed to them should they ever discuss the topic. In this course, we will begin by discussing various ethical and bioethical topics relating to these questions in order to identify and consider the issues at hand. Upon doing this, we will identify, consider, and reference the opinions of philosophers and how they relate to the basis of religion. From this, we will develop various differing viewpoints as we examine what the ideal states of "I/us", "we/us", and "life" should be.

After the class, you will be asked to submit your comments. These comments will be anonymous, and the comments will be shared. This enables students to be exposed to differing viewpoints and helps them to widen their perspective. It is desirable that you participate actively, as the class will involve sharing submitted comments. In addition to discussions between students with different views, and answering questions and comments. The course will proceed by answering the questions and arguments. Topics and material covered are planned to be adjusted based on the students' interests and current world events.

Additionally, video materials will be used in order to cultivate a better understanding. (It is also planned for students to divide into groups and hold discussions.)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入：我々と倫理と「宗教」
- 2 回：「宗教」と価値観・世界観 1
- 3 回：「宗教」と価値観・世界観 2
- 4 回：「宗教」と価値観・世界観 3
- 5 回：現代と「宗教」 1
- 6 回：現代と「宗教」 2
- 7 回：現代と「宗教」 3
- 8 回：倫理／生命倫理への導入・基礎 1
- 9 回：倫理／生命倫理への導入・基礎 2
- 10 回：倫理／生命倫理における諸問題 1
- 11 回：倫理／生命倫理における諸問題 2
- 12 回：倫理／生命倫理における諸問題 3
- 13 回：哲学者・思想家の見解
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	○

上記いずれも用いない予定

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

共有するコメントは必ず読んでおいて欲しい。また、授業で触れたテーマで興味のあるものに関する文献や、授業時に紹介する参考文献で興味のあるものを数冊読んでみて、自分なりの見解を深めてもらいたい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 毎回提出してもらおうコメント+小レポート（最低2回提出）:40% 授業への参加協力度:10%

2/3以上の出席がない場合は成績評価の対象としません。なお、授業内に設ける出席確認時間に行っていただく「出席のご登録」と授業後の「コメントの提出」の両方を以て「出席」と見做します（出席数も評価に関係します）。また、小レポートの提出2回も必須とします（小レポートについての詳細などは別にご案内します）。※他の受講者の学びを妨害するような行為や不正と見做されるような行為はご遠慮ください（酷い場合には、大幅な減点をします）。

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

・積極的に他の受講者から学び取り、自身の考えを深める姿勢

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内での意見共有などに Google フォームや ZOOM ミーティングルームのチャット機能を用いることがあるので、PC やスマートフォン、タブレットなどを持参していただくと助かります。

その他 / Others

授業への積極的なご参加とご協力、どうぞよろしくお願いいたします。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

現代社会の中の宗教 2

Religions in Contemporary Society 2

オウム真理教と現代社会

(Aum Shinrikyo and modern society)

岩田 成就 (IWATA SHIGENARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH008

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

既成宗教の影響力が表面上は衰退しつつあるように見える 21 世紀の世界だが、「宗教過激主義」の問題や「政治と宗教」の問題、あるいは「宗教 2 世」などの問題は、今日でも宗教への問いが見えないところで社会を突き動かしていることを示している。かつて日本社会を震撼させた「オウム真理教事件」（1995 年）をとおして、現代社会において宗教がどのような意味をもつか、あるいは宗教的信仰はどのようにあるべきかについて考える。

Although the influence of established religions seems on the surface to be waning in 21st century society, issues such as "religious extremism," "politics and religion," or "second-generation religion" indicate that questions of religion still drive society in unseen ways today. In this course, through the "Aum Shinrikyo Incident" (1995), which once shook Japanese society, we will consider what meaning religion has in modern society, and what religious faith should be like.

授業の内容 / Course Contents

事件後のオウム内部を直接に取材したドキュメンタリー映画や、麻原彰晃自身の著作などを通して、オウム真理教の教えや実践がどのようなものであったかを、できるだけ偏見なしに知る。その上で、信者たちがオウムに入信し、教祖への絶対服従の中で凶行に走ったプロセスがどのようなものであったかを考察する。考察にあたっては、多数出版されているオウム幹部や元信者の手記、裁判傍聴記などを利用する。また、オウムのような宗教団体に若者が引き寄せられていった社会的要因について、これまでに提出されてきたオウムに関する様々な論考を検討する。

Through documentary films that directly cover the inside of Aum after the incident and Shoko Asahara's own writings, we will learn as much as possible about the teachings and practices of Aum Shinrikyō without prejudice. Then we will examine the process by which the followers joined Aum and committed heinous acts in absolute obedience to their guru. In this study, we will make use of the many published memoirs of Aum leaders and former believers, as well as the reports of court hearings. In addition, we will examine the various discussions of Aum that have been submitted on the social factors that attracted young people to religious groups such as Aum.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オウム真理教事件とは何か？
- 2回：現代社会の中の「宗教」
- 3回：「新宗教」とは何か？
- 4回：メディアと世間 映画『A』を観る
- 5回：オウム真理教とは何か？：麻原彰晃の思想と実践
- 6回：オウム真理教とは何か？：麻原彰晃の思想と実践
- 7回：オウム真理教とは何か？：麻原彰晃の思想と実践
- 8回：何が彼らをそうさせたのか？：信者たちの手記・裁判記録から
- 9回：何が彼らをそうさせたのか？：信者たちの手記・裁判記録から
- 10回：何が彼らをそうさせたのか？：信者たちの手記・裁判記録から
- 11回：何が彼らをそうさせたのか？：信者たちの手記・裁判記録から
- 12回：われわれの社会からなぜオウムが生れたのか？：オウム論再考
- 13回：われわれの社会からなぜオウムが生れたのか？：オウム論再考
- 14回：われわれの社会からなぜオウムが生れたのか？：オウム論再考

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義ではオウム真理教事件に関する多くの資料を紹介する。これらの多くは立教大学図書館に所蔵されているので、自分で目をとおり、授業内容について確認し、自分なりに考えを深めていくこと。また、この件に関しては、ネットにも無数の情報があるが、それらを検証し、精査しつつ利用すること。こうした作業をとおして小レポートを作成し、筆記試験に臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 小レポート:40%

テキスト/ Textbooks

特定の教科書は使用しない。資料集を配布する。

参考文献 / Readings

- 村上春樹 『約束された場所で』 文藝春秋 1998
降幡賢一 『オウム法廷1～13』 朝日文庫 1998-2004
高橋英利 『オウムからの帰還』 草思社 1996
林郁夫 『オウムと私』 文藝春秋 1996
佐々木隆三 『大義なきテロリスト』 NHK 出版 2002
門田隆将 『オウム死刑囚魂の遍歴』 PHP 2018
広瀬健一 『悔悟』 朝日新聞出版 2019

これらは（元）信者たちのインタビュー、手記、法廷での証言などである。他にも多数紹介する。

その他/ Others

講義をもとにした漫画を執筆中です。講義内容は別の講義（「宗教思想」）で扱っているものですが、作品全体のテーマは、当講義内容と深く関係しています。よろしければ、参考にしてください。

https://note.com/bright_ek820/

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

人文学からの学び（文学）

Humanities(Literature)

〈沖繩〉文学というジャンルのできかた

仲井眞 建一 (NAKAIMA KENICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH009

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

私たちの認識を構成する枠組みがいかに読みを規定し、対象をステレオタイプ化していく過程を考えていく。文学を通して他者を単純化して把握しようとするレトリックを理解することを目標とする。

We will consider how the frameworks that constitute our perceptions define how we read, and the process by which objects become stereotyped. The goal is to understand the rhetoric that seeks to simplify and understand others through literature.

授業の内容 / Course Contents

本講義では主に戦後の文学テキストを中心に、〈日本〉文学との境界画定の過程で〈周縁化〉されたテキストを扱う。前半は、国民国家の〈地方〉に位置づけられた〈沖繩〉の言葉が「方言」と位置付けられていくことの権力性を検討する。その中で、言語およびその言語の位置づけそのものに向き合ってきた〈沖繩〉文学を扱う。後半は自己表出と他者表象との相克を読むことで、ジャンル区分がどのように決定されていくか、また他者および自己イメージがどのように固定化されていくかを読んでいく。〈沖繩〉が、〈日本〉からまなざされ、期待される視線をどのように受け止め、裏返し、また自らを固定化していくかを検討する。そのため、映画お

よびエンターテインメントに分類される文学テクストを読んでいく。そこには表象する／されるが固定化することのない様態が描き出されている。

This lecture will mainly focus on postwar literary texts, and will deal with texts that were "marginalized" in the process of demarcating the boundaries with "Japanese" literature. The first half examines the power of the Okinawan language, which was positioned as a region within the nation-state, being positioned as a "dialect". In this context, we will be dealing with Okinawan literature that has confronted language and the very position of language. In the second half, by examining the conflict between self-expression and representation of others, we will examine how genre divisions are determined and how images of others and self become fixed. We will examine how Okinawa responds to the gaze and expectations placed on it by Japan, reverses itself, and solidifies itself. Therefore, we will read literary texts classified as movies and entertainment. It depicts a mode that is represented/represented but never fixed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：はじめに
- 2 回：〈沖縄〉文学について／ジャンル区分／〈日本〉文学との権力関係
- 3 回：言語の議論／山之口猷など
- 4 回：東峰夫「オキナワの少年」／方言を取り入れる文学
- 5 回：大城立裕「亀甲墓」／方言を取り入れる文学②
- 6 回：知念正真「人類館」／言語の権力性をあらわにする文学
- 7 回：山多美「ムイアニ由来記」／到来する言葉を描く文学
- 8 回：崎山多美「月や、あらん」／言葉が流通する条件を描く文学
- 9 回：文学の南島イメージを読む／「オリエンタリズム」を中心に
- 10 回：映画「ナビイの恋」／南島イメージの快樂①
- 11 回：映画「ナビイの恋」と池上永一／南島イメージの快樂②
- 12 回：吉本隆明の南島論／島尾敏雄のヤポネシア／南島についての理論的把握
- 13 回：大城立裕「レールの向こう」／〈沖縄〉文学の読まれ方
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎週、配布するテクストを精読して授業に臨むこと。また授業後に「テクストの読み」を書いてもらう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 毎授業のコメントペーパー:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

人文学からの学び（思想・教育）

Humanities(Philosophy,Pedagogy)

想像力とはなにか。

大倉 茂 (OHKURA SHIGERU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH010

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

想像力をめぐる思想史の概観を得た上で、現代社会の諸問題を想像力の観点から考えることができる契機とする。

Upon outlining the history of ideas that revolve around imagination, this course aims to serve as an opportunity for students to think about society's various problems from the standpoint of imagination.

授業の内容 / Course Contents

本講義の主題は、想像力である。現代社会は、“先が見えない”、“閉塞した”といった言葉で形容され、最近の若者は夢がないとも言われる。そのようなことを踏まえれば、想像力の視点から考えれば、現代は想像力不在の時代と考えることもできる。社会の閉塞性を打ち破るには、そして夢をもって生きていくためにはどうすればいいのだろうか。本講義では、そういった問いを、人間の心の能力の一つである想像力に注目して考えてみたい。実は人文学と切っても切れない関係にある想像力を一緒に考えましょう。さあ imagination の世界へ。

The subject of this course is imagination. Present day society can often be expressed figuratively by phrases like “We have no idea how things are going to turn out” or “Our path forward has been obstructed,” and it is often

said that young people today don't have any dreams. With that as the backdrop, it is easy to see why one would be able to think of the present as an age suffering from a distinct lack of imagination. What should we do in order to break through this "obstruction" in society and live a life filled with dreams? In this course, we will consider this question while paying particular attention to one of the human mind's many abilities: imagination. Let's think about imagination, which to be honest, is inseparably related to the humanities, together! Now, let us head to the world of imagination.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：人文学とは何か
- 3 回：想像力とは何か (1)
- 4 回：想像力とは何か (2)
- 5 回：人文学と想像力
- 6 回：デカルトの思想
- 7 回：規範理論の概観
- 8 回：市場経済
- 9 回：官僚制
- 10 回：近代個人主義と想像力
- 11 回：共同体と親密圏
- 12 回：公共圏
- 13 回：ケア
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

各回に指示する教科書の指定部を読んでくることを予習として求める。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

大倉茂 『機械論的世界観批判序説』 学文社 2015 9784762025754 ○

参考文献 / Readings

その他 / Others

www.s-ohkura.com

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項 (検索結果画面)

人文学からの学び（史学）

Humanities(History)

日本近代史のなかの政治と軍事

太田 久元 (OTA HISAMOTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH011

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本近代史における軍部と政治との関わりを取り上げ、軍部の政治的側面を検討することで、日本の軍部の特質について考察する。

This course addresses the relationship between the military and politics in modern Japanese history and examines the political aspects of the military in order to discuss the special characteristics of the Japanese military.

授業の内容 / Course Contents

明治以降の日本において、軍部の果たした政治的役割は極めて大きいものがあった。本講義では、戦争に至る過程での軍部に焦点をあて、史料を提示しつつ検討する。また、陸軍と海軍における差異にも着目し、講義を進める。近代の軍部と政治との関係性について考察することで、現代の安全保障問題への関心を深める機会としてほしい。

The military has played an extremely important political role in Japan since the Meiji. In this lecture, we will focus on the military in the process leading up to the war, presenting historical documents. The lecture will also focus on the differences between the army and the navy. By examining the relationship between the military and

politics in the modern, this lecture should provide an opportunity to deepen interest in contemporary security issues.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：政軍関係論
- 3回：陸海軍の創設と軍政機関の成立
- 4回：西南戦争と軍人勅諭
- 5回：軍令機関の成立と省部関係
- 6回：明治憲法における統帥権と編制権
- 7回：軍部大臣武官制と軍令の制定
- 8回：二個師団増設問題と大正政変
- 9回：ワシントン海軍軍縮会議
- 10回：大正デモクラシー下の軍部
- 11回：総力戦体制
- 12回：ロンドン海軍軍縮会議と統帥権問題
- 13回：海軍の組織構造の変遷と二元体制化
- 14回：日独伊三国同盟と南進政策—アジア・太平洋戦争に至る道程—

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% レポート:30%

テキスト / Textbooks

戸部良一 『逆説の軍隊』 中央公論新社 2012 9784122056725 ○

参考文献 / Readings

黒沢文貴 『大戦間期の日本陸軍』 みすず書房 2000 9784622036548

池田清 『海軍と日本』 中央公論新社 1981 9784121006325

太田久元 『戦間期の日本海軍と統帥権』 吉川弘文館 2017 9784642038621

手嶋泰伸 『日本海軍と政治』 講談社 2015 9784062882996

高杉洋平 『昭和陸軍と政治—「統帥権」というジレンマ—』 吉川弘文館 2020 9784642059138

小林道彦 『近代日本と軍部 1868-1945』 講談社 2020 9784065187449

また、講義の中で随時紹介する。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

芸術への扉

Stepping into the World of Art

オペラの諸相

小林 幸子 (KOBAYASHI YUKIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH012
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

様々なオペラにおける作品成立や上演に伴う諸問題を通じて、芸術のあり方について多角的に考えられるようになることを目標とする。同時に、みずから考える姿勢と、それを文章で表現する力の向上を目指す。

The objective is to be able to think about the state of the arts from multiple perspectives through the problems associated with the formation and performance of various operas. At the same time, the course aims to improve students' ability to think independently and to express this in writing.

授業の内容 / Course Contents

18 世紀から 20 世紀の各時代にヨーロッパで生み出された有名なオペラ作品を題材に、時代背景との関わり、台本とその原作、作曲技法の変化、そして演出家の解釈などに焦点を当て、総合芸術であるオペラならではの諸相を読み解く。

This course takes up famous operatic works produced in Europe during the 18th to 20th centuries, focusing on their relationship to the historical background, the librettos and its source materials, changes in compositional techniques and the interpretations of the directors, in order to decipher the various aspects unique to opera as a

comprehensive art form.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オペラの基礎知識
- 2回：18世紀：モーツァルト《フィガロの結婚》(1)
- 3回：18世紀：モーツァルト《フィガロの結婚》(2)
- 4回：19世紀：ヴェルディ《リゴレット》(1)
- 5回：19世紀：ヴェルディ《リゴレット》(2)
- 6回：19世紀：ヴェルディ《ラ・トラヴィアータ(椿姫)》(1)
- 7回：19世紀：ヴェルディ《ラ・トラヴィアータ(椿姫)》(2)
- 8回：19世紀：ワーグナー《ニュルンベルクのマイスタージンガー》(1)
- 9回：19世紀：ワーグナー《ニュルンベルクのマイスタージンガー》(2)
- 10回：20世紀：プッチーニ《蝶々夫人》(1)
- 11回：20世紀：プッチーニ《蝶々夫人》(2)
- 12回：20世紀：R. シュトラウス《ばらの騎士》(1)
- 13回：20世紀：R. シュトラウス《ばらの騎士》(2)
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業は次回以降の内容へとつながっていくので、配付資料やノートなどを通して理解を深め、関連する文献に目を通すなど、知識の定着を図るよう努めること。

また、音楽を対象とする授業なので、鑑賞経験も重ねることも大変に重要です。大学図書館経由でアクセスできる音楽データベース「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」や、図書館所蔵の視聴覚資料などを活用し、意識的に様々なクラシック音楽に触れてみてください。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業課題への取り組み:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。複数回の遅刻や早退は、欠席とみなす。

テキスト/Textbooks

指定なし。授業時に資料を配付する。

参考文献 / Readings

指定なし。必要に応じて、適宜授業内で紹介する。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

グローバル経済社会を考える

Global Economy and Society

SDGs を通して学ぶ国際政治経済

浜名 弘明 (HAMANA HIROAKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH013

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

グローバル経済社会の基本的構造と最新の展開について、近年話題の SDGs を通して学ぶ。国際政治経済学の知見を活用し、グローバル経済に関するニュースについて基礎的な見解が持てるようになることが目標である。

In this course, students learn the basic structure of the global economy and its latest developments from the recent topic of SDGs. The goal is to obtain the knowledge of international economics and create own basic perspective on the news around the global economy.

授業の内容 / Course Contents

受講者はあらかじめテキスト内容を予習した上で参加する。そのうえで教員がテキスト内容を解説し、理解を深める。講義では教員と受講者が適宜質疑応答等を行い、受講者の主体的、能動的学修を促進する。受講者は講義内容をリアクションペーパーに要約し自分の見解を述べて提出する

Students should prepare the text book before the lecture. The lecturer explains the text book and improve student understanding. In the lecture, the lecturer and students will give questions and answers actively, and promote the

students' active learning. Students are requested to summarize the contents of lectures on reaction papers, and submit their opinions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：開講ガイダンス：講義の狙い
- 2 回：経済学の基礎知識 (1)：経済学の基本用語と基礎的な考え方
- 3 回：経済学の基礎知識 (2)：ミクロ経済学とマクロ経済学
- 4 回：国際貿易の基礎：比較生産費説とは
- 5 回：国際機関の種類と役割 (1)：国際連盟と国際連合
- 6 回：国際機関の種類と役割 (2)：ブレトンウッズ機関の役割
- 7 回：政府開発援助 (ODA) の基礎と役割
- 8 回：開発アジェンダの変遷－「開発の 10 年」からミレニアム開発目標 (MDGs)、持続可能な開発目標 (SDGs)へ－
- 9 回：日本の ODA の歴史
- 10 回：リーマンショック後の国際金融危機への対応と国際協調の新たな枠組み
- 11 回：国際政治経済の最新状況 (1)：SDGs とビジネス
- 12 回：国際政治経済の最新状況 (2)：新規事業開発の理論
- 13 回：国際政治経済の最新状況 (3)：コロナ後の社会
- 14 回：国際政治経済の最新状況 (4)：予備

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの予習 (指定範囲を読む、分からない用語は調べておくなど) が必要である。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 出席とリアクションペーパー:20% 最終レポート割合 :20%

テキスト / Textbooks

浜名弘明 『持続可能な開発目標と開発資金』 文真堂 2017 ○

参考文献 / Readings

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 学びの精神

社会学からの学び

Understanding of Sociology

日常生活から考える「社会学」

田北 康成 (TAKITA YASUNARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH014

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

私たちの日常生活が複雑さを増すなかで、何が本当に大切かを見分ける知性が求められています。学校、家族、友人関係など日常生活の経験を糸口にして、社会学とはどんな考え方をする学問であるのかを学んでいきます。また社会調査という実証の方法についても学び、実際にそれを活かして日常生活を検証してみることを目標とします。講義内で得られた社会学的思考は、自分の生き方の自由度を広げていくための知的で有効なアイテムとして実感できることを講義のねらいとしています。

As our daily lives become more complex, we need the intelligence to discern what is truly important. Using experiences in daily life such as school, family, and friendships as clues, students will learn about the kind of thinking that sociology is. The students will also learn about the empirical method of social research, and aim to actually use it to examine daily life. The aim of the class is for students to experience the sociological thinking gained in class as an intellectual and effective tool for expanding the freedom of their own lives.

授業の内容 / Course Contents

この講義は、日常の社会で起きている身近な現象や問題について、メディアの映像資料等を用いながら、社会

学的な思考方法を通して問題解決に繋がるような思考方法を身に付けられるようにします。

This lecture will teach you how to think about familiar phenomena and problems that occur in everyday society, using a sociological way of thinking that will lead to solving problems, using video materials from the media.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：講義の概要、採点方法の説明
- 2回：実証研究としての調査方法
- 3回：社会で生きる「私」と家族
- 4回：性の多様なあり方を考える
- 5回：社会で生活するための社会学——労働・産業・消費——
- 6回：「格差」の社会学
- 7回：生活空間としての地域社会について考える（1）過疎社会
- 8回：生活空間としての地域社会について考える（2）都市社会
- 9回：グローバル社会とエスニシティ（1）
- 10回：グローバル社会とエスニシティ（2）
- 11回：グローバル社会とエスニシティ（3）
- 12回：グローバル社会とエスニシティ（4）
- 13回：「宗教」から社会をとらえる
- 14回：逸脱行動と社会問題・犯罪社会学

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

インターネット・スマホだけに頼らず、社会状況を広く把握してください。事前の準備はほとんど必要ありませんが、講義内容をさらに深く理解するために、授業内で提示された書籍や雑誌、番組、映画、施設等で興味を持ったものについて、積極的にアクセスするようにしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

評価は筆記試験のみとします

テキスト / Textbooks

テキストは指定しません。

参考文献 / Readings

参考文献は、毎回配布の資料の中で提示します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

講義内の問題提起にたいして、日々、好奇心を持っていただくことです。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

スマホやタブレット、PC等、ご自身で使いやすい機材を持ちこんでください。

その他 / Others

講義で使用するドキュメンタリー等の映像資料は、過去に公にされているものです。

困難で複雑な状況が描かれていたり、一見「残酷」ととらえられたりするようなシーンもありますが、テーマに照らして提示するものであり、背景を丁寧に説明します。そうした教材がいくつか登場することを理解してください。

また、学習効果の上で必要な範囲で、受講生自身が接してこなかったような立場の意見や資料などを提示することがあります。ご自身の価値観とは合わないものもあると思いますが、単に好き嫌いではなく、学問的な真理に到達するために必要なもの

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

法と政治の世界

World of Law and Politics

映像作品で考える政治学：戦後の日本政治について考える編

笠井 昭文 (KASAI AKIFUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH015
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	法学部所属学生随意科目（卒業要件単位に含むことはできない）

授業の目標 / Course Objectives

1. 政治学が扱ってきたテーマや政治思想を紹介しながら、戦後の日本政治の特徴とその問題点について考えていきたいとします。2. 小レポートの作成と学生同士の相互評価を通じて、学生にとって必要となる基礎的な文章能力の向上を図ります。3. 以上の目標を通じて、現代社会の諸問題について自ら考え、自分の言葉で表現しようとする人間を育てたいとします。

1) While introducing themes and political ideas handled by political science, this course aims to consider the characteristics of postwar Japanese politics and their problems. 2) Through writing reports and mutual evaluations between students, this course aims to strengthen the basic writing skills that are a necessity of every student. 3) Through the objectives described above, I would like to train people who can think on their own about various problems in modern society and who try to express their ideas in their own words.

授業の内容 / Course Contents

この講義は、政治を扱った映画を見る講義ではありません。また「楽単」と呼ばれるような講義でもありません。政治学の主要テーマや基本概念を理解するために、理解の補助線として映画を利用しながら、現代の日

本社会が抱える様々な問題について考えていく講義です。

講義は、戦後の高度成長期、自民党において「田中派支配」と呼ばれる時代を作り上げた田中角栄の政治手法を確認するところから始まります。その上で、自民党という政党の特徴と自民党政治の問題点について考察します。そのような自民党政治を2000年代前半において新自由主義的立場から「構造改革」しようと試みたのが、小泉純一郎でした。その際、小泉はポピュリスティックな政治手法を用いたため、ポピュリズムの特徴とその問題点についても確認します。そして2012年以降になると、「安倍一強」と呼ばれる政治体制が誕生しました。ですので、政権復帰後の自民党の変化とその問題点についても整理したいと思います。また、政権やメディア、そして私たちが、自らの「正しさ」を勝手に主張し合う結果、何が真実なのか良く分からない「ポスト真実」と呼ばれる時代が成立しています。情報が捏造され、事実が隠蔽され、そのために対立と分断が強まっていく「ポスト真実」の時代に対して、私たちはどのように立ち向かっていったら良いのか。この問題についても考えていきたいと思います。

このように、現代の日本政治を考える上で重要なテーマを取り上げていくことで、学生自身の政治を視る眼を育てていくことが、この講義のねらいです。また、自分で考え、それを文章として書くことが求められる「出力」重視の講義です。得られる単位は2単位だけなので、単位取得効率の点から言えば、はなはだ「コスパ/タイパ」の悪い講義ですが、自らの考えを深め、それを他者に向けて表現していくことに習熟したい人には、良い機会になると思います。

This course is not a lecture to watch movies dealing with politics. Also, it is not a course where you can easily take credits. Rather, this is a type of lecture that uses movies as an auxiliary line to understand the main themes and basic concepts of political science, and by doing so, considers various problems in modern society.

The lecture begins by confirming the political method of Kakuei Tanaka, who created an era called "Tanaka-ha shihai" in the liberal democratic party(LDP) during postwar period of rapid economic growth. After that, we will consider the characteristics of the LDP and the problems of LDP politics. In the early 2000s, Junichiro Koizumi tried to reform such LDP politics from a neo-liberal standpoint, so-called "Kouzou Kaikaku". At that time, Koizumi used a populist method to promote his reform. So, we will consider the characteristics and problems of populism. After 2012, a political system called "Abe ikkyou" was established. I would also like to sort out the changes in the LDP after the return to government and their problems. In addition, the era of "post-truth" has been established in which we do not know what is true, by arbitrarily asserting the "correctness" that the government, the media, and we think of ourselves. How should we face the "post-truth" era in which informations are fabricated and facts are concealed, and as a result confrontation and division are intensifying? I would like to think about this issue as well.

In this way, the aim of this course is to nurture the eyes of students to see politics through discussions on important themes in modern Japanese politics. And this course emphasizes "output" that requires you to think and write for yourself. Since only two credits will be received, in terms of the efficiency of acquiring credits, this course has poor "cost performance or time performance". But I think this course will be a good opportunity for those who want to deepen their own thoughts and value expressing them to others.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：地元を守るみんなのオヤジさん、政治的恩顧主義と利益誘導型政治 F.F.コッポラ監督『ゴッドファーザー』
- 2 回：自民党の支持基盤と派閥、そして田中派支配の成立 F.F.コッポラ監督『ゴッドファーザー』
- 3 回：官僚主導の政策形成と「政官財・鉄の三角形」 F.F.コッポラ監督『ゴッドファーザー』

- 4回：利益誘導型福祉国家と日本型福祉社会論、その結果、人生前半の社会保障が貧弱な日本社会 M.ハーマン監督『プラス！』
- 5回：新自由主義による福祉国家の見直し、非正規雇用労働者を中心にした「すべり台社会」の出現 M.ハーマン監督『プラス！』
- 6回：劇場型政治の開幕、ポピュリズムと民主主義との両義的な関係 A.パーカー監督『エビータ』
- 7回：無党派層の増大が生み出す「選挙の風」、郵政民営化をめぐる自民党内の攻防 A.パーカー監督『エビータ』
- 8回：「小泉劇場」への過剰な期待と急速な幻滅、見落とされていた日本社会の課題 A.パーカー監督『エビータ』
- 9回：選挙制度と低投票率によって作られた「自民党一強」 黒澤明監督『影武者』
- 10回：安倍政権の総花的な、だが「やってる感」に過ぎない政策展開 黒澤明監督『影武者』
- 11回：官邸官僚が主導した政権運営、財政問題で行き詰まる日本政治 黒澤明監督『影武者』
- 12回：「ポスト真実」という時代の中で出来事を誤読していく人々 J.J.アノー監督『薔薇の名前』
- 13回：情報の迷宮の中で人間は真実を見失い、相対主義に陥る J.J.アノー監督『薔薇の名前』
- 14回：暫定的真理という導きの糸、民主主義は人々の検証と議論に未来を委ねる J.J.アノー監督『薔薇の名前』

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

この講義では、学生が書いた小レポートを学生同士で批評し合う課題が複数回設定されています。まず、履修者は、講義レジュメの中で提示されたテーマで小レポートを3回執筆しなければなりません。提出した小レポートは履修者全員に公開されますので、他人が読むことを前提にした文章を書く必要があります。次に、他の履修者のレポートを5~10枚ほど読んだ上で、レポート評価シートを2枚作成する課題も3回行います。作成したレポート評価シートはレポート執筆者の手に渡りますので、レポート内容を踏まえた、しっかりとしたコメントを書かねば

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :41%

平常点割合 :59% 講義で提示するテーマで小レポートを執筆、3回提出:40% 他の学生のレポートを読んだ上でレポート評価シートを作成、2枚×3回提出:19%

小レポート3回、レポート評価シート2枚×3回、すべての課題が提出されない限り、定期試験を受けても成績評価の対象とはなりません。

テキスト / Textbooks

毎回、講義内容を概略したレジュメを配布します。

参考文献 / Readings

配布するレジュメや講義の中で随時紹介します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

課題提出は、すべて立教大学の授業支援システム Canvas LMS を介して行います。ですので、課題作成や提出

を行うために、インターネットに接続できるPCは必須です。

その他/ Others

映像作品を用いますが、聴覚障害・視覚障害等の障害を抱える学生の受講にも対応します。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

経営学への招待

Introduction to Business Administration

企業の組織と戦略の基礎を具体的なケースと問題演習で学ぶ

岸本 徹也 (KISHIMOTO TETSUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH016
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

企業の戦略と組織に関する基礎的な知識について学ぶ。

The purpose of this course is to learn the basics on corporate strategies and organization.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、企業の戦略と組織に関する基礎的な知識について、具体的なケースと問題演習を通じて習得していく。

専門的な用語や理論の説明はできるだけ具体的なケースを絡めて詳しく解説をしていき、その後の問題演習では、中小企業診断士試験や経営学検定試験の問題等を用い、基礎的な知識の定着を図りたい。

Students will learn the basics on corporate strategies and organization through specific case studies and exercises. Detailed explanation on technical terms and theories will be given with specific cases to the extent possible, followed by exercises using questions for Small and Medium Enterprise Management Consultant examination and Management Qualification Test (keieigaku kentei), to establish basic knowledge.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：経営学とは何か
- 3回：モチベーション理論
- 4回：集団活動とリーダーシップ
- 5回：組織行動論の復習と問題演習
- 6回：組織構造と組織デザイン
- 7回：組織理論の復習と問題演習
- 8回：プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント①
- 9回：プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント②
- 10回：競争戦略論①
- 11回：競争戦略論②
- 12回：戦略論の復習と問題演習
- 13回：経営学のさまざまな領域と研究テーマ
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

講義の指示に従って予習や復習を行う。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内レポート 1回:20% リアクションペーパーなど:20%

テキスト / Textbooks

榊原清則 『経営学入門 [上] <第2版>』 日本経済新聞出版社 2013 9784532112820 ○

参考文献 / Readings

必要に応じて随時紹介する。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／学びの精神

現代社会と観光

Modern Society and Tourism

観光は日本を元気にできるか？～「観光立国」のあり方を考える～

東 徹 (AZUMA TORU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH017
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

この授業は、観光の実態を知り、現代社会における観光のあり方について問題意識を持ってもらうことをねらいとしています。

This course addresses current topics and issues in tourism and helps students gain a sense of the problems relating to tourism in modern society.

授業の内容 / Course Contents

観光は、国の成長戦略や地方創生の切り札として大きな期待が寄せられています。しかし他方では、地域の暮らしや環境に悪影響を及ぼす“オーバートourizm”が問題視されています。この授業では、観光や地域振興に関わる様々な問題を提起していきます。現代の観光を取り巻く様々な環境条件と変わりゆく観光の動向を把握するとともに、現代社会における観光の意義や役割、あり方について考えてみましょう。

Tourism engenders high expectations as a key factor of community revitalization and economic growth in Japan. But “overtourism” is generating many problems in community life and the environment. This course will raise issues of tourism and community revitalization. Students will grasp the various environmental conditions

involving current tourism and changing trends in tourism and learn about the significance and role of tourism in modern society. Together we will think further about the ways to promote desired tourism in the future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業をはじめるにあたって～問題提起～
- 2 回：観光の意味と実態
 - ・観光の基礎的理解
 - ・観光の実態（コロナ禍から立ち直りつつある日本の観光）
- 3 回：平成時代に観光はどう変わったのか～転換の時代を振り返る～
- 4 回：日本はなぜ「観光立国」をめざすのか～そのねらいと背景～
- 5 回：観光・地域振興①～観光は地域を元気にできるか～
- 6 回：観光・地域振興②～「観光まちづくり」のめざすもの～
- 7 回：観光と地域ブランド構築～地域経済活性化の両輪として期待される DMO と地域商社の役割とは～
- 8 回：「(B 級) ご当地グルメ」を通して観光・地域振興を考える
- 9 回：「民泊」の光と影～民泊問題が投げかけるものとは～
- 10 回：ホスピタリティ・ビジネスの課題～日本の“もてなし”は大丈夫か～
- 11 回：これからの旅行ビジネスを考える～旅行市場の成熟化と質的变化～
- 12 回：「オーバーツーリズム」「観光公害」とは～観光のあり方を問い直す～
- 13 回：コロナ禍以降の日本の観光～課題と可能性～
- 14 回：日本は「観光立国」になれるか～まとめ～

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

観光に関する話題がメディアで取り上げられる機会が多くなっています。新聞や雑誌、テレビやインターネットなど、様々なメディアを通じて観光がどのように取り上げられているのか、日頃から関心を持ち、観光のあり方について考えてみてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%
 平常点割合 :20% 授業内課題・リアクションペーパー:20%

テキスト / Textbooks

テキストは特に指定しません。授業の際、プリントを配布します。
 皆さんの関心にしがたって参考書を適宜参照してください。

参考文献 / Readings

前田 勇編著 『新現代観光総論』第3版 学文社 2019
 立教大学観光学部旅行産業研究会編著 『旅行産業論』 公益財団法人 日本交通公社 2016
 立教大学観光研究所 『観光地経営論講義』 立教大学観光研究所 2021

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

現代社会の諸相

Aspects of Modern Society

国際比較で見る日本政治

Japanese politics in a comparative perspective

濱田 江里子 (HAMADA ERIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH018
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1133
使用言語： その他
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業の目標は、日本政治に関する基礎的な知識を習得し、国際比較の視点から政策課題を見つけ、社会的な解決策を模索することにある。

The aim of this course is to gain basic knowledge of Japanese politics with a comparative perspective and find key policy issues that Japan faces.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、現代日本が直面する政治的な課題を国際比較の視点を用いながら検討する。政治とはどのような営みなのか、なぜ社会問題をめぐり人々の意見は対立するのか、私たちの声はどのような仕組みを通じて政策形成の現場に届けることができるのか。先進民主主義国が直面する課題とその解決に向けた取り組みを学び、社会的な解決策を自ら考える。

本授業を通じて受講生は、日本政治に関する知識を深め、有権者としての視野を広げ、民主主義社会の主體的な市民となることを目指す。

This course investigates Japanese politics with a comparative perspective. The course offers an in-depth exploration of institutions and the policymaking process. The goal of this course is for students to deepen their understanding of Japanese politics and widen their perspectives, thus allowing them to become an informed citizen of a democratic society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
イントロダクション
- 2 回：What is "politics"
政治とは何か
- 3 回：Political participation
社会参画・政治参画
- 4 回：Political Ideologies
政治的価値観と政策対立軸
- 5 回：Political parties and politicians
政党と政治家
- 6 回：State and civil society
国家と市民社会
- 7 回：Governance system
統治の仕組み
- 8 回：Policymaking process
政策過程の全体像
- 9 回：Policy Issues
政策課題の提示
- 10 回：Policy research 1: Agenda setting
政策課題の探究①アジェンダ設定
- 11 回：Policy research 2: Planning a policy
政策課題の探究②：政策立案の実践
- 12 回：Individual/Group presentation 1
個人ワーク・グループワークの成果報告①
- 13 回：Individual/Group presentation 2
個人ワーク・グループワークの成果報告②
- 14 回：Wrap-up
まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

All the students are expected to come to class having read all the assigned readings and ready to actively

participate in discussions. In order to stimulate discussions and deepen one's understanding of the material, students may be required to conduct su

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業への参加度（リアクションペーパーの内容、個人・グループ発表への参加度・内容）:50%

Those who do not conduct individual/group presentations will not be eligible to take the final exam, thus can not gain credit for the course.

個人・グループ発表を行わなかった場合は、筆記試験の受験資格を失い、単位修得不可となる。

テキスト / Textbooks

All reading materials will be announced on week 1 and distributed through Canvas LMS.

テキストは使用しない。文献資料についての説明は第1回目の授業で行う。

参考文献 / Readings

Frith, Hore, Stowell Politics for Beginners Usborne 2017 9781474922524

Gaunder, Alisa Japanese Politics and Government Routledge 2017

上神貴佳・三浦まり 『日本政治の第一歩』 2018 有斐閣ストゥディア 9784641150546

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Students are expected to discuss their opinions on current affairs in English.

英語力は問わないが、英語「で」時事問題や政策的な課題を理解し、自らの言葉で論じる意欲があることを求める。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Class material, comment papers, presentation material are all to be submitted via Canvas LMS. Thus, students are required to have a PC.

資料配布、課題提出、発表資料の準備のために PC が必要となる。

注意事項

- ・ F 科目導入（外国語による総合系科目）
- ・ この授業は、主に日本語で行われるが、英語教材（文献や映像等）を使用する。
- ・ 履修にあたって英語力は問わない。英語「で」学ぶことや、グローバル環境に身を置くことに意欲のある学生の履修を歓迎する。
- ・ 2016 年度以降 1 年次入学対象科目
- ・ 学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

自然科学の探究

Quest for Natural Science

数学・物理学・化学における基本理念・方法論

山中 正浩／小森 靖／初田 泰之／平山 孝人／北本 俊二 (YAMANAKA MASAHIRO/ KOMORI YASUSHI/ HATSUDA YASUYUKI/ HIRAYAMA TAKATO/ KITAMOTO SHUNJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH019
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

数学・科学の具体的な題材を通して科学の成り立ち・現代社会における位置づけ・科学的思考法を学び、自然科学における基本的な理念や方法論を理解する。また、高度に発展していく自然科学に対するビジョンを得る。この科目は、導入期における「学びの精神」の科目群の1つである。

Through analyzing specific topics in science and mathematics, students will learn the history of science as well as its place in modern society. Students will also learn methods of thinking in a scientific manner, as well as basic fundamental principles and methodologies related to the natural sciences. Furthermore, students will gain a general vision of the natural sciences, which continue to develop at a high level. This discipline is part of the Introduction to Academic Studies subject group, which is part of one's Introduction Phase.

授業の内容 / Course Contents

数学・物理・化学の3分野に対して、いくつかの基本となるテーマを通して、自然科学が過去から現在までにいたる大きな発展を導いた基本理念や方法論を学んでいく。数学では整数や素数にまつわる話題、物理では宇

宙・物質・素粒子の物理、化学では化学物質のキラリティや光化学などを取り上げる。個々の分野において、まずはその不思議さに驚き、そこに現れる興味深い性質を堪能し、自然科学に対する知的好奇心を励起して欲しい。これらの学習を通じて、自然科学の基本的な理念を理解し、高度に発展していく自然科学に対するビジョンを得ることができるであろう。

Through learning basic topics relating to mathematics, physics, and chemistry, students will learn the fundamental principles and methodologies that have spurred large advancements in the natural sciences through time. With regards to mathematics, the course will deal with topics relating to integer and prime numbers. In physics, we will touch upon the universe, matters, and elementary particles. Chemistry will discuss the chirality of chemical substances and photochemistry. For each individual field, the aim is for students to marvel at the wonders contained, to enjoy the interesting properties studied, and to excite their intellectual curiosity for the natural sciences. Through learning these specific topics, students will understand various fundamental principles in the natural sciences while gaining a general vision of these fields, which continue to develop at a high level.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス (山中)
- 2回：化学編：身近な化学 ～身の回りの現象を分子レベルで考える～ (山中)
- 3回：化学編：光と色の化学 ～物質と光と色の関係～ (山中)
- 4回：化学編：鏡像の化学 ～物質における鏡の世界～ (山中)
- 5回：化学編：補足と小テスト (山中)
- 6回：数学編：素数 ～整数を積の基本単位に分割する～ (小森)
- 7回：数学編：整数の合同 ～余りの世界～ (小森)
- 8回：数学編：整数の素因数分解とセキュリティ ～数学と現実社会のかかわり～ (小森)
- 9回：数学編：補足・小テスト (小森)
- 10回：物理学編：現代物理学的視点～ミクロの世界とマクロの世界をつなぐ～ (初田)
- 11回：物理学編：ミクロの世界の物理～量子論とその応用～ (初田)
- 12回：物理学編：身近な物理～身の回りの自然現象を物理的に考える～ (平山)
- 13回：物理学編：宇宙の観測～宇宙からのメッセンジャー～ ・ 小テスト (北本)
- 14回：まとめ～振り返りと発表～ (山中)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

受講にあたり、数学・物理学・化学についての特段の知識を前提としないが、講義では主体的に学ぶ姿勢が必要となる。最終日には振り返りとして、講義の内容を深める形か関連する内容を広げる形で個人発表 (人数に応じてグループ発表もあり得る) を行い、自然科学への理解を深める。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :45%

平常点割合 :55% 複数回の小テストおよびリアクションペーパー:45% 最終発表:10%

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

参考資料については、授業中に適宜紹介・配布する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

身体科学からの学び

Learning from physical science

ジェンダー・スタディーズからの学び

佐野 信子 (SANO NOBUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH020
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

近年、目覚ましい発展を遂げている学問分野の一つとして、ジェンダー・スタディーズが挙げられる。ジェンダーは現代社会を生きる全ての者に共通する概念であることから、その概念を正しく理解することを目標とする。

In recent years, gender studies has stood out as a discipline that has experienced spectacular growth. The goal of this course is for students to understand that gender is a concept shared by everyone living in modern society, and for students to accurately comprehend this concept.

授業の内容 / Course Contents

ジェンダーの視点から自身の育成史を振り返り、各回のテーマと自らを結びつけて考察する。無用なジェンダー・バイアスから自らを解放し、よりよい社会づくりの一員となるために必要な知識を身につける。なお、各回のテーマを講義する際には、スポーツや学校体育に関する話題が中心となる。

Students will look back upon their growth from the standpoint of gender, examining each topic discussed by relating it to their own lives. Students will acquire knowledge necessary to liberate themselves from pointless

gender biases, enabling themselves to become a person who can contribute to the formation of a better society. Subjects related to sports and school gym classes will play a leading part in each topic discussed in the lecture.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：ジェンダー概念の理解：ジェンダーって何？（1）
- 3回：ジェンダー概念の理解：ジェンダーって何？（2）
- 4回：男性学
- 5回：身の回りのジェンダー・バイアス
- 6回：隠れたカリキュラム（1）
- 7回：隠れたカリキュラム（2）
- 8回：メディアとジェンダー（1）
- 9回：メディアとジェンダー（2）
- 10回：食行動とジェンダー
- 11回：セクシュアル・マイノリティ
- 12回：ジェンダーの視点からみた「オリンピック・パラリンピック」（1）
- 13回：ジェンダーの視点からみた「オリンピック・パラリンピック」（2）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間内に限らず、授業で得た知識を日々の生活の中で活かすことが望まれる。それらの行動から本授業内容をさらに深められることを期待する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 複数回のリアクションペーパー兼授業態度:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

飯田貴子ほか編著 『よくわかるスポーツとジェンダー』 ミネルヴァ書房 2018 9784623081561

その他 / Others

ジェンダーは「性」に深くかかわる概念である。従って、授業内で視聴する視聴覚資料の中には、性的な描写が含まれることもある。そのような資料を目にしたくない場合には、ガイダンス後に相談のこと。

また、授業の構成上、「ウェルネスプロモーション論」と内容の一部が重複することとなる。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

アジア地域での平和構築

Peace Building in Asia

ユン・ドンジュとその時代

呉 吉煥 (OH KILHWAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH022

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ユン・ドンジュ（1917～1945）は、日本の植民地時代の朝鮮を代表する詩人の一人で、『序詩』をはじめとする数々の作品は日本でもよく知られている。またユン・ドンジュは、戦時中に立教大学に留学をしていたことがあり、立教との縁も深い。講義では、詩人ユン・ドンジュと彼が生きていた植民地時代を含む朝鮮半島の近現代史について、基礎的な知識を習得しながらその理解を深め、近現代の朝鮮半島についての具体的なイメージ作りのための土台を提供することを目標とする。

Yoon Dong-ju (1917-1945) was one of the leading Korean poets during the Japanese colonial era. His works, such as "Prologue," are well known in Japan. He studied in Japan during the war and was enrolled at Rikkyo University, so he has a deep connection with Rikkyo. This lecture about the modern history of the Korean peninsula, including Yoon Dong-ju and the colonial era in which he lived, provides a foundation for deepening understanding of the Korean modern society and creates a concrete image while acquiring basic knowledge about Korean contemporary history studies.

授業の内容 / Course Contents

近代朝鮮の歴史は日本との関係を抜きにしては語るができないが、それは近代日本の歴史を語る場合にも同様である。授業では、近代朝鮮と日本との関係やユン・ドンジュに触れながら 19 世紀の開国前後から植民地時代、解放、分断、戦争、軍事政権時代を経て民主化に至るまでの朝鮮半島の近現代史を概観していく。

The history of modern Korea cannot be described without relation to Japan; similarly, modern Japan can not be explained without Korea. This course will explore the relationship between modern Korea and Japan and poet Yoon Dong-ju, to give an overview of the modern history of the Korean Peninsula, from the opening of the country in the 19th century to the colonial era, liberation, division, war, military administration, and democracy.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス (ユン・ドンジュについて、朝鮮近現代史の時期区分など)
- 2 回：十九世紀の朝鮮
- 3 回：朝鮮の開国
- 4 回：甲午農民戦争と大韓帝国
- 5 回：朝鮮の植民地化
- 6 回：日本の植民地支配下の朝鮮
- 7 回：ユン・ドンジュとその時代
- 8 回：解放と南北の分断
- 9 回：朝鮮戦争と四・一九学生革命
- 10 回：軍事政権の成立と日韓国交正常化
- 11 回：軍事独裁政権下の韓国
- 12 回：一九六〇～七〇年代の韓国社会
- 13 回：韓国の民主化
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、朝鮮近現代史を概説した朝鮮史の文献 (参考文献など参照) を読んでおくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 毎授業時のリアクションペーパーの内容:30%

テキスト / Textbooks

テキストは特に指定しない。毎回の授業時にプリントと資料を配布する。

参考文献 / Readings

- 伊吹郷 『空と風と星と詩』 影書房 1984 4877140646
 宋友恵 『尹東柱評伝』 藤原書店 2009 9784894346710
 武田幸男編 『朝鮮史』 山川出版社 2000 4634413205
 梶村秀樹 『朝鮮史－その発展』 明石書店 2007 9784750325750
 田中俊明編 『朝鮮の歴史－先史から現代』 昭和堂 2008 9784812208144

文京洙 『新・韓国現代史』 岩波書店 2015 9784004315773

木宮正史 『国際政治のなかの韓国現代史』 山川出版社 2012 9784694640566

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

グローバル社会での平和構築

Peace Building in a Global Society

植民地主義の清算と平和構築

高林 敏之 (TAKABAYASHI T.)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH023

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

現在世界における紛争と植民地主義の関係性を理解し、第2次世界大戦後の国際システムが直面する課題を考えるために必要な視座を身につける。

In this course, we aim to understand the relationship between conflicts in the modern world and colonialism, and acquire the perspective necessary to consider the challenges facing the international system in post-WW II.

授業の内容 / Course Contents

世界には帝国主義・植民地主義に起因する紛争問題が多数あり、今も解決されないまま続いています。これらの問題に対処して平和構築を進めるべき国連をはじめとする国際機構のシステムが抱える問題も明らかになっています。この状況は日本にとっても無縁なものではありません。本講義では植民地主義の清算に関わる代表的な事例をとり上げ、平和構築に向けた課題を考えます。

There are many conflicts caused by imperialism and colonialism in the world, and they are still unresolved. The problems facing the system of international organizations, including the United Nations, which should deal with these problems and promote peacebuilding, have also become clear. This situation is not unrelated to Japan. In

this course, we will take up considerable cases related to the liquidation of colonialism and consider issues for peacebuilding.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション～「国連」の概説（誕生の背景と性格）
- 2 回：「国連」における意思決定と投票行動
- 3 回：自決権、領土保全、国家承認をめぐる国際法
- 4 回：ディエゴ＝ガルシア問題①－植民地支配下の孤島における軍事基地問題
- 5 回：ディエゴ＝ガルシア問題②－国際司法裁判所の勧告意見が与える影響
- 6 回：北アイルランド問題①－ヨーロッパにおける「大英帝国」の清算問題
- 7 回：北アイルランド問題②－英国の EU 離脱がもたらした紛争再燃の危機
- 8 回：南アフリカのアパルトヘイト①－人種差別法体系の概要と実態
- 9 回：南アフリカのアパルトヘイト②－歴史的背景および日本との関係
- 10 回：南アフリカのアパルトヘイト③－なぜ今の南アフリカは自決権問題に熱心なのか
- 11 回：西サハラ問題①－「アフリカ最後の植民地問題」の背景と歴史的展開
- 12 回：西サハラ問題②－なぜ国連安全保障理事会の和平プロセスは破綻したか
- 13 回：西サハラ問題③－日本との重大な関係
- 14 回：朝鮮戦争－70 年間も続く「停戦」と「朝鮮国連軍」

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に必要に応じて指示します。

シラバスに挙げた事例を含む紛争問題についてのニュースに、日常的に目を配るようにしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 理解度確認ワークシート:30%

記述式試験、および期間中数回の理解度確認ワークシート（30%）により評価します。ワークシートの提出が皆無の場合、また試験未受験の場合は成績評価の対象となりません。

テキスト / Textbooks

テキストは指定せず、授業中にプリントを配布します。

参考文献 / Readings

アレクサンドラ・ノヴォスロフ/フランク・ネス 『世界を分断する「壁」』 原書房 2017 9784562054183

佐藤亨 『北アイルランドを目撃する』 水声社 2021 9784801005303

五味洋治 『朝鮮戦争はなぜ終わらないのか』 創元社 2017 9784422300573

新郷啓子 『抵抗の轍－アフリカ最後の植民地、西サハラ』 インパクト出版会 2019 9784755402999

読みやすい入門的文献です。このほか必要に応じて授業中に紹介することがあります。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

少なくとも新聞や新書本のようなものを日常的に読むよう努めてください。インターネットであれば信頼性の

高い報道機関（例えばBBCの日本語版）や国際機関のウェブサイトの一定分量の記事を読むように努めてください（外国語のものを読めるとなお良いです）。SNSのような短文にあまり慣れすぎると授業の配布資料を読むのも辛くなると思いますし、読解力も落ちます。

その他/ Others

- ・授業計画は状況に応じて変更する場合があります。
- ・基本的に講義形式ですので、100分の授業時間を忍耐できる十分な心構えと睡眠時間をもとに臨んでください。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

大学生の学び・社会で学ぶこと

A Guide to Service Learning and Civic Engagement

"Learning for action"の実践

中沢 聖史 (NAKAZAWA SATOSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH024
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（全回対面）
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

大学での学習が、社会の現実を理解し、また課題を発見するための基礎であることを学ぶ。また課題を解決するために、社会の課題に関わり、活動する視点と態度を習得することを目標とする。

Students will learn that university study is the basis for understanding social reality and identifying issues. The course also aims to provide students with the perspectives, attitudes, and basic skills to engage with and work on social issues through a service learning (citizenship education) approach.

授業の内容 / Course Contents

この科目は立教サービスラーニング(RSL)科目群のひとつとして開講する。RSLはコミュニティを理解し、コミュニティに関わる能力を習得することを通してシティズンシップ（市民性）を習得することを目的とする。授業の前半は「大学生の学び」の領域として、本学学生にとって4年間を過ごすコミュニティである立教大学の歴史、建学の精神や、サービスラーニングの役割と位置付けなどを理解する。

授業の後半は、「日本は平和か」という問いから、社会の一員としての自分を見つめ、自らがよりよい社会の実現のためにどのようなコミットメントができるのかを考える。大小様々な社会課題を取り上げることで、国際

社会のようなマクロの視点から、地方自治体のようなミクロの視点まで、自分自身と社会とのつながりを多角的に捉える。それぞれの課題の解決に向けてアクションを起こすために貪欲に学び、またその学びを言語化すること、可視化する姿勢を重視する。

This course is offered as part of the Rikkyo Service Learning (RSL) subjects, which aims to help students acquire the sense of citizenship through understanding the community and the ability to engage with it.

In the first half of the class, students will learn about the history of Rikkyo University, the community where they will spend the next four years, its founding spirit, and the role and position of service learning.

In the second half of the class, students will look at themselves as members of society and consider what kind of commitment they can make to realize a better society, based on the question, "Is Japan at peace?" By looking into a variety of social issues, both large and small, students will gain a multifaceted view of the connection between themselves and society, from the international community to the local community. The course emphasizes the importance of learning attitude in order to take action to solve each issue, as well as verbalizing and visualizing their learning outcomes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション ～授業のねらい、進め方、受講に際しての準備～
- 2 回：立教大学の建学の精神と立教大学での学び
- 3 回：正課外活動（授業外の活動）における立教生の学び
- 4 回：大学での学び方（正課教育）と立教生の学び
- 5 回：サービ斯拉ーニングと立教生の学び
- 6 回：日本は平和か 直接的暴力と構造的暴力
- 7 回：経済活動と搾取
- 8 回：グループワーク 社会的弱者とは誰か①
- 9 回：マイノリティと人権
- 10 回：グループワーク 社会的弱者とは誰か②
- 11 回：移民・難民問題と多文化共生
- 12 回：グループワーク 社会的弱者とは誰か③
- 13 回：社会と自分のつながりを考える
- 14 回：ふりかえり学習：学びを言語化する

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、履修登録完了後に「Canvas LMS」上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業のリアクションペーパー:20% 小グループでおこなうリサーチペーパー:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

人権とジェンダー

Human Rights and Gender

性と人権とのかかわりについて学ぶ。

佐野 敦子 (SANO ATSUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH025
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

ジェンダーに関する基本的な知識を習得し、現代社会の様々な事象について人権とジェンダーの視点から考えることができるようになる。

The goal of this course is to obtain basic knowledge of gender studies in order to think critically about social phenomena from the perspective of gender as well as human rights.

授業の内容 / Course Contents

すべての人間は生まれながらにして自由でありかつ尊厳と権利とについて平等である（世界人権宣言）。しかし、近代になって生まれた人権の原初的な概念からは女性は排除されており、そのような状況に対する女性たちの反発がイギリスの第一波フェミニズムに結実した。

本講義ではフェミニズムが生まれたそうした背景や、その展開のなかで顕在化した人権とジェンダーに関わる課題について知ることから始める。そしてその延長でもあり、いまだ解決したとはいえない今日のジェンダーにまつわる問題について、ジェンダー・ギャップ指数や国連持続可能な開発目標（SDGs）等をふまえた日本や国際社会における最新の議論を学ぶ。

ジェンダー平等の実現は、SDGs のすべての目標達成に関わる死活的な課題である。そしてその達成には、市民の理解と声が重要とされる。本授業が、複雑化している現代社会の様々な課題をジェンダーや人権の観点から知る・学ぶだけでなく、「誰ひとり取り残さない」をスローガンに掲げた SDGs の達成にむけて自分になにができるかを市民のひとりとして考えるきっかけになることを願う。

"All human beings are born free and equal in dignity and rights" (Universal Declaration of Human Rights).

However, women were excluded from the primal concept of human rights that emerged in the modern era, and the opposition of women to such situation resulted in the first wave of feminism in England.

In this lecture, we will begin with such background behind the emergence of feminism and the modern issues related to gender and human rights, which were revealed through its development and lasting today. The lecture will also cover the latest debates on human rights and gender issues in Japan and the international community, including gender gap index and the UN Sustainable Development Goals (SDGs).

Gender equality is a crucial issue related to all SDGs to achieve. To make it realize, understanding and voice of citizens are very important. I hope this class will not only provide you an opportunity to learn about various contemporary and complex social issues from the perspective of gender and human rights, but also encourage you to think about what you can do as a citizen to contribute to the SDGs whose the slogan is "leave no one behind".

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入：人権の尊重とジェンダー平等推進との関連
- 2 回：フェミニズムの歴史から考える人権とジェンダー
- 3 回：身の回りから考える人権とジェンダー（人権・ハラスメントセンター相談員による講義）
- 4 回：日本の憲法と男女共同参画社会基本法から考える人権とジェンダー
- 5 回：日本における人権とジェンダーギャップ（1） 経済・労働分野
- 6 回：日本における人権とジェンダーギャップ（2） 政治分野
- 7 回：日本における人権とジェンダーギャップ（3） 教育・健康
- 8 回：人権とジェンダーの課題（1） セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス&ライツ
- 9 回：人権とジェンダーの課題（2） ジェンダーに基づく暴力
- 10 回：人権とジェンダーの課題（3） 複合差別と性的マイノリティ
- 11 回：グローバル化に伴う課題の共有と変容（1） 経済的自立とケアとの関係
- 12 回：グローバル化に伴う課題の共有と変容（2） 難民・移民・外国人・デジタル化
- 13 回：グローバル化に伴う課題の共有と変容（3） 気候問題
- 14 回：振り返り：人権の尊重とジェンダーの今日的課題とあなた一国連持続可能な開発目標（SDGs）を念頭に—

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

紹介した参考文献の中から複数読むこと。配布資料をよく読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業毎のリアクションペーパー:50%

2/3 以上の出席をしていない場合は単位修得不可。

テキスト/ Textbooks

なし なし なし -

参考文献 / Readings

木村涼子・伊田久美子・熊安貴美江（編著） 『よくわかるジェンダー・スタディーズ 人文社会科学から自然科学まで』 ミネルヴァ書房 2013 9784623065165

伊藤公雄, 樹村みのり, 國信潤子 『女性学・男性学 -- ジェンダー論入門 第3版』 有斐閣 2013 9784641221222

辻村 みよ子 『人権をめぐる十五講——現代の難問に挑む』 岩波書店 2019 9784000291170

藤田 早苗 『武器としての国際人権 日本の貧困・報道・差別』 集英社 2022 9784087212464

清水 晶子 『フェミニズムってなんですか?』 文藝春秋 2022 9784166613618

橋本 ヒロ子 (編集), 林 陽子 (編集), 芹田 健太郎 (編集) 『どうする、日本のジェンダー平等戦略』 信山社 2023 9784797285345

三浦 まり 『さらば、男性政治』 岩波書店 2023 9784004319559

授業内で適宜紹介します

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

講義の進捗状況やゲストスピーカーの予定等によって扱う内容の順番が前後する可能性があるが、事前にお知らせするようにする。

第3回は人権ハラスメント対策センター相談員による授業を予定。他にもゲストスピーカーによる講義を予定している。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／学びの精神

ライフマネジメントと学生生活

Student Life Management

幸せな学生生活と人生のあり方を考える（Thinking about how to be a happy student life and life）

中村 聡宏（NAKAMURA AKIHIRO）

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH026
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

よりよく生きるとはどういうことかを把握し、学ぶことの意義を知り、社会で活躍し Good Life を送るための知見、思考および行動を身につける。よりよい学生生活や幸せな社会生活を過ごすために、多角的な分野から構造的に学び、議論し、実践できるようになる。

Students will understand how to live better, learn the meaning of learning, and acquire the knowledge, thoughts, and actions necessary to be active in society and lead a good life. They will be able to learn structurally from multiple disciplines, discuss, and put into practice what they have learned in order to have a better student life and a happier social life.

授業の内容 / Course Contents

よりよく生きることについて考え、ビジネスパーソンに求められるさまざまな知見、思考法、コミュニケーションのあり方などについて明らかにする。学生生活や人生をマネジメントする上で必要となる自己研鑽の方法、自己表現するためのマインドセット、表現方法などについて議論する。

We will consider what it means to live better and clarify the various insights, ways of thinking, and ways of

communicating that are required of business persons. We will discuss the methods of self-improvement, the mindset for self-expression, and the ways of expression that are necessary for managing your student life and your life.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：本講義を通して学ぶべきこと —よりよく生きるとはどういうことか—
- 2回：学びの意義を考える
- 3回：ビジネスパーソンの心得
- 4回：コミュニケーション戦略 —情報発信と情報収集の重要性—
- 5回：目的を把握する —かならず「なぜ」からはじめよう—
- 6回：ポジティブのススメ —伝わる言葉の選び方—
- 7回：プロフェッショナルから学ぶコミュニケーション戦略
- 8回：書くチカラと聴くチカラ —傾聴力を高めよう—
- 9回：目標を実現するために —マンドラチャートを作成する—
- 10回：究極の自己紹介を考える —自らをマーケティングする—
- 11回：プレゼンテーションの極意
- 12回：ビジネス文書作成 —伝えたい要素をデザインする—
- 13回：仕事をする喜びを語ろう
- 14回：プロフェッショナルをめざして —幸せな学生生活と人生のあり方を考える—

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業への参加度・貢献度:25% 授業内に指示した提出物:25%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

さまざまな問いかけに、学生同士コミュニケーションをとりつつ、挑戦を愉しむ姿勢を求めたい。豊かな学生生活を実現するためにも、主体性を持ち、アグレッシブな姿勢で講義に参加することを望む。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

立教大学の歴史

History of Rikkyo University

立教の沿革史を学ぶ

吉岡 三重子 (YOSHIOKA MIEKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH027
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

今年で創立 150 年を迎える立教大学はこれまでどのような沿革を歩んできたのでしょうか。この授業では、日本近現代史における立教大学の歴史とその特色を学んでいきます。

Just what path has Rikkyo University, which will celebrate the 150th anniversary of its establishment in this year, walked to get where it is today? In this course, students will learn about the history of Rikkyo University and its features in modern Japanese history.

授業の内容 / Course Contents

1874 年の前身校の成立から、20 世紀後半までの立教の歴史を扱います。本学には「自校史」研究の蓄積がありますが、その研究成果にもとづきながら立教の歩みを紹介していきます。加えて、本講義にとって重要な知見を提供するゲスト・スピーカーを招聘した授業を展開する予定です。その際には一部、授業計画を変更することがあります。

This course covers the history of Rikkyo from the establishment of its predecessor school in 1874 to the latter half of the 20th century. Rikkyo University has an accumulation of research on its own history, and we will introduce

the history of Rikkyo based on the results of this research. In addition, we plan to invite guest speakers who will provide important insights for this lecture. In such cases, some class plans may be changed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：アメリカ聖公会の日本伝道と創立者 C.M.ウィリアムズ
- 3 回：立教学校の誕生
- 4 回：文部省の訓令第十二号と立教学院の成立
- 5 回：高等教育制度の整備と立教大学の成立
- 6 回：関東大震災の影響と財団法人立教学院
- 7 回：立教大学の拡張と戦争の影
- 8 回：日米開戦とキリスト教教育の危機
- 9 回：戦局の悪化と立教大学
- 10 回：敗戦から学園の再建へ
- 11 回：新制立教大学への移行
- 12 回：高度経済成長期における立教大学
- 13 回：「立大紛争」とその後の諸改革
- 14 回：学期のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習としては、下記のテキスト「その他」欄で紹介した『立教大学の歴史』（PDF）を確認してきてください。復習としては、授業時に配布したプリントをよく見直してください。その際、関連の参考文献を読むことで授業内容への理解を深めることができます。詳細については授業時に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業態度および毎授業時のコメントペーパーの内容:30%

テキスト / Textbooks

特に指定はありません。授業内で資料を配付しますが、下記「参考文献」内の『立教大学の歴史』をもとに授業をすすめます。なお、『立教大学の歴史』は図書館リポジトリ(Rikkyo Roots)より PDF を閲覧することが可能です。

<http://doi.org/10.14992/00009026>

参考文献 / Readings

立教学院史資料センター編 『立教大学の歴史』 立教大学 2008

立教学院百五十年史編纂委員会編 『立教学院百五十年史』 立教大学立教学院史資料センター 2023
9784991074110

立教史関連の研究については、以下の URL を参照してください。

http://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/rikkyo_archives/research_results.html

注意事項

- ・ 2016 年度以降 1 年次入学者：学びの精神科目
- ・ 2012～2015 年度 1 年次入学者：立教 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／立教 A

西欧キリスト教社会における大学の誕生

Genealogy of Universities and Colleges in Occidental Christianity

大学で学ぶとは：キリスト教思想における学問論

阿久戸 義愛 (AKUDO YOSHIYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH028
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

大学で学ぶとはいかなることかを知り、その心構えを身につける。

By studying at the university level, one can acquire all sorts of knowledge whilst learning various new mindsets.

授業の内容 / Course Contents

本講義は、大学の歴史そのものではなく、大学という場で営まれる学問とはいかなるものかを、西欧キリスト教思想史を概観することによって、考えていく。それによって、古代から現代にいたる様々な人物たちや考えかたを取り上げることによって、西洋文化の全体を俯瞰する。

In this course, we will not deal with the history of universities themselves, but rather we will examine just what the studies conducted at universities are. At the same time, through discussing the various people and ways of thinking from ancient to modern times explicitly and implicitly, the course will provide a bird's-eye view of western culture.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス：西欧における学問の意味と役割

- 2回：聖書について
 3回：創世記における知恵
 4回：創世記における信仰
 5回：出エジプト記における知恵
 6回：出エジプト記における信仰
 7回：知恵文学における知恵
 8回：福音書における知恵(1)：言葉
 9回：福音書における知恵(2)：真理
 10回：パウロにおける知恵
 11回：アウグスティヌスにおける信仰と学問
 12回：トマスにおける信仰と学問
 13回：西欧キリスト教社会における大学
 14回：まとめ：西欧キリスト教社会における学問と教育

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

事前に指示されたテキスト箇所の精読をおこなうこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 毎授業でのリアクションペーパー:50%

テキスト / Textbooks

必要なテキストについてはその都度コピー・プリントを配布する。

参考文献 / Readings

M.マタタ 他編 『教会と学校での宗教教育再考——〈新しい教え〉を求めて』 オリエンズ宗教研究所
 2009 9784872320664

上智大学中世思想研究所編訳・監修 『キリスト教史 (第1～11巻)』 平凡社 1996

その他 / Others

受講者数によって変更の可能性がある。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／学びの精神

キャリアデザイン

Career Design

キャリアデザインのための労働法入門

朴 孝淑 (PARK HYOSOOK)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH030
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、個々の労働者と使用者との関係を規律する「個別的労働関係法」について学ぶことで、様々な労働問題について理解を深めるとともに、自ら文献や資料を読み解き自分なりの分析・考察を行う力をつける。

In this course, students will study the Individual Labor Relations Act, which regulates the relationship between individual employees and their employers. In doing so, they will deepen their understanding of various labor problems, while strengthening their ability to independently read and understand literature and data to conduct their own analysis.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、自分らしい生き方とは何かをしっかりと考え、それを希望の進路に結び付けていくために、「働くこと」に関するルールである労働法について学習する。

詳しくは、労働関係の開始・展開・終了の各段階で生じ得る多様な労働法的问题（たとえば、採用・採用内定取消の問題、ブラック企業の見分け方、派遣切りなど）について、テキストの知識を前提に、労働法全般の基本的な内容を学んでいく。

In this course, students will deeply ponder what way of life seems most characteristic of themselves. In order to wed this ideal to the course they hope to take in life, they will learn about labor laws, which are the rules relating to the act of working.

More specifically, we will discuss various labor law issues relating to each stage of the working relationship: its establishment, its progression, and its termination (for example, the withdrawal of tentative recruitment offers, how to formally determine that a company is exploiting its employees, downsizing, etc.). Using information from the text, students will learn the fundamentals of general labor laws.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：※以下は予定であり、履修者の理解や進行状況により柔軟に変更する可能性がある。

「イントロダクション」：まず、シラバスの記載事項について確認する。そのうえで、労働法とはどういう学問か、学習の仕方、現代労働の課題状況の概要等について説明する。

2回：「労働法の法源」：使用者と労働者との間の権利・義務を根拠づけるものとしては、法律と契約以外に、労働協約と就業規則とが存在する。労働法の法源でもある労働協約とは何か、就業規則とは、労働契約とは、いかなるものか。これらの点について学ぶ。

3回：「労働関係の当事者と基本的権利義務」：オペラ歌手は労働者なのか？そもそも労働者とは誰か？また使用者と誰か？労働法の当事者の概念について検討し、どのような基準で労働者（使用者）か否かを判断するかについて学ぶ。

4回：「労働契約の成立－募集・採用内定・採用・試用」：就業活動に取り組み、就職を希望した先から内々定・内定を受け、入社する。このうちの時点で労働契約は成立するのだろうか（＝いつ社員になるの？）。内々定や内定の取消しは法的に制限されているのだろうかなどについて学ぶ。

5回：「人事をめぐる法律問題－人事権・配転・出向・転籍・昇進（昇格）・降格」：長期の契約関係を前提に使用者が労働者に対して有する人事権について、それがどのような制約を受け得るのかについて学ぶ。とりわけ、昇格・降格、配転・出向等の人事異動に際し、使用者の人事権の行使が権利の濫用とされる場合について学ぶ。

6回：「懲戒」：多くの職場には、労働者が労務を提供するにあたり遵守しなければならないさまざまなルールが定められており、これに違反した労働者については、使用者による不利益処分（懲戒、懲戒処分）が行われることがある。授業では、そもそも、労働者が職場で遵守すべきルールとはどのようなものなのか、そして、使用者による労働者の懲戒が、何を根拠として、どのような範囲で可能かという問題について学ぶ。

7回：「労働契約の終了（解雇、定年退職）」：労働契約の終了（特に解雇）の法的規制の大枠と判断枠組みに関して説明する。また、高年齢者雇用安定法を中心に日本の高齢社会における多様な雇用政策について学ぶ。

8回：「賃金」：賃金の体系、賃金請求権等、労働基準法上の賃金の定義規定を検討し、「賃金」とは何か。また、賃金に対する法規制等、賃金が発生する仕組み等について学ぶ。

9回：「労働時間」労働時間の概念、労働時間規制の原則等、労働時間制度の基本的な枠組みを検討し、日本の労働法は、労働時間について、どのような法規制を置いているのかなどについて学ぶ。

10回：労働と私生活の調和（1）－「年次有給休暇制度」：年次有給休暇制度は、ワーク・ライフ・バランスの実現を推進する具体的な政策手法の一つである。授業では、有給休暇（年休）制度について、年休権、時季指定権、時季変更権といった重要な概念を理解し、年休には使用者の許可が必要か、といった具体的な問題について学ぶ。

11回：労働と私生活の調和（2）－「女性の保護・育児介護休業法」：女性の保護規定は、母性たる女性の保護を目的として、定められている。授業では、女性を特別に保護する諸規定を確認する。一方、近年、労働と私生活の調和を図ることの重要性が認識・指摘されるようになり、人事管理や労働政策上「ワーク・ライフ・バ

ランス」を推進する議論が活性化している。ワーク・ライフ・バランスの実現を推進する具体的な政策手法としては、法律で具体的な基準を定めて権利を保障するという方法（例えば、育児介護休業法による育児休業・介護休業の保障）を挙げら

12回：「労働安全衛生・労災補償」：会社は、なぜ社員のメンタルヘル스에配慮しなければならないのか。職場環境は労働者の生命や健康を脅かすことは少なくない。法は、労働者が健康で安全に働いていくためにどのような制度を設けているのだろうか。また、実際に労働者が仕事が原因でケガや病気になった場合、どのような法的救済を求めることができるのだろうか。授業では、過労死等の労災補償状況について学ぶ。

13回：「非典型雇用－有期労働契約・パートタイム労働・労働者派遣」：一般に「非正規労働者」と呼ばれ、いわゆる正社員とは区別されて取り扱われている人々が存在する。この回では、非正規労働者のうち、主に有期労働契約者、パートタイム労働者(短時間労働者)、派遣労働者をめぐる立法の内容及び諸労働法的问题について学ぶ。

14回：「労働紛争解決システム」：雇用関係法の下で、労働者の権利はどのようにして実現されるのであろうか。また、使用者の不当労働行為があったと思われる場合に、労働者あるいは労働組合は、どのような救済を受けられるのであろうか。労働紛争をめぐっては、(1) 行政による紛争解決手続と(2) 裁判所による紛争解決手続があり、(1) については個別的労働関係紛争と集団的労使関係紛争という区分けができ、それぞれに紛争解決制度が整えられている。(2) については、民事通常訴訟等のほか、近年設けられた労働審判制度がある。授業では、これらの

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・授業は講義形式で行う。授業運営の詳細については初回の講義で説明する。
- ・授業ではスライド資料(PPT資料)と参考資料(判例・裁判例資料等)を使用する。
- ・授業資料(スライド資料と参考資料)は、授業支援システム(Canvas LMS等)の所定欄に2~3日前までに掲載する予定である(予習・復習等で活用すること)。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分:200) / Evaluation

筆記試験 :70%
 平常点割合 :30% 授業内課題(小テストを含む):30%

テキスト/Textbooks

- ・授業は教員が作成したスライド資料に基づいて行います。
- そのため、必ず、テキストを購入する必要はありませんが、予習・復習を含め、より体系的に労働法を学ぶためにはテキストを購入することをお勧めします。
- ※スライド資料は授業支援システム(Canvas LMS等)からダウンロード可能。
- ※テキストについては初回の授業で説明します。
- ※テキストを購入する場合は「最新版」を購入してください。

参考文献 / Readings

小畑史子=緒方桂子=竹内(奥野)寿 労働法〔第3版〕 有斐閣ストゥディア 2019 4641150648
 森戸英幸 プレップ労働法 第7版 弘文堂 2023 4335313330

水町 勇一郎 労働法〔第9版〕 有斐閣 2022 4641243522

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

その他/ Others

- ・ご相談等は、朴（5553175@rikkyo.ac.jp）までご連絡ください。
- ・メールには、学籍番号、お名前を必ず書いてください。
- ・返信には時間がかかる場合があります。余裕をもってご連絡ください。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

キリスト教史に学ぶ多文化共生

Religions and Diversity: Convivial Wisdom of Christianity

キリスト教への批判の検討

小沢 隆之 (OZAWA TAKAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH031

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- キリスト教的な悪の概念について理解する
- 抽象的な議論を批判的に検討することができる
- 有神論と無神論のどちらの立場についても簡単に説明できるようになる

Understand the concept of Christian evil.

Critically examine abstract arguments.

Ability to explain both theistic and atheistic positions.

授業の内容 / Course Contents

キリスト教に対する批判を歴史的・哲学的観点から取り上げる。

キリスト教の信仰をもたない無神論的な立場からは、次のような強力な議論が提示されている。

- 神が存在する
- 悪が存在する
- 1 と 2 は矛盾する（両立しない）

4)2 は真である [経験的事実]

5)1 は偽である

この世に悪が存在しているのは、誰もが認める事実であろう。

とすれば、「神は存在しない」という命題は真となるのか。

本講義では、このような議論に対してどのような応答が可能であるのかを問う。

歴史的には、ユダヤ教やグノーシス派の見解を参照しつつ、アウグスティヌスや現代の宗教哲学の議論を紹介する。

*キリスト教の予備知識や信仰の有無は問いません。

**簡単なグループディスカッションを行うかもしれません。

***受講者の関心によって授業内容が変更する可能性もあります。

Critiques of Christianity from historical and philosophical perspectives are examined. From an atheistic standpoint devoid of Christian faith, compelling arguments are presented as follows:

1. God exists.
2. Evil exists.
3. 1 and 2 are contradictory (incompatible).
4. 2 is true [empirical fact].
5. 1 is false.

The fact that evil exists in this world is widely acknowledged. In that case, does the proposition "God does not exist" hold true?

In this lecture, we inquire into possible responses to such arguments. Historically, we reference the perspectives of Judaism and Gnosticism, while introducing the arguments of Augustine and contemporary religious philosophy.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：宗教的な命題は無意味か①
- 3 回：宗教的な命題は無意味か②
- 4 回：「悪の問題」とは何か①
- 5 回：「悪の問題」とは何か②
- 6 回：哲学／哲学史的な補足①（絵画のなかの燻んだ色）
- 7 回：自由意志による弁護①
- 8 回：自由意志による弁護②
- 9 回：哲学／哲学史的な補足②（共に苦しむ神）
- 10 回：神の基本性質①
- 11 回：神の基本性質②
- 12 回：神と自由①
- 13 回：神と自由②
- 14 回：まとめと振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : ○ スライド (パワポ等) の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 : ○

個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：特になし

復習：学んだ内容をノートにまとめ直すことにより、理解が深まるだろう

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :45%

平常点割合 :55% 毎回授業後のコメントペーパーの内容:55%

原則として次の通りとします。欠席3回：評価B以下、欠席4回：評価C以下、欠席5回：不合格（単位不可）。また、成績評価に関しては、試験を受けない場合は評価不可・単位不可とします。また毎回授業後に200字以上のコメントペーパーを書いてもらいます。（比較的、負担は重いかもしれません）

テキスト / Textbooks

スライドを用います

参考文献 / Readings

上枝美典 『神という謎』 世界思想社 2007

ジョン・ヒック 『宗教の哲学』 筑摩書房 2019

Luke Russell Evil : a very short introduction Oxford 2023 0198819277

Mark Edwards The Problem of Evil in the Ancient World Cascade 2023 1725271648

(ed.) Thomas Nys, Stephen de Wijze The Routledge Handbook of the Philosophy of Evil (Routledge Handbooks in Philosophy) Routledge 2019 9781032178141

宮本久雄 『言語と証人:根源悪から人間変容の神秘、そしてエヒエロギアの誕生へ』 東京大学出版会 2022

中島義道 『悪について』 岩波書店 2005

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

美と生命について：キリスト教の美学

Harmony and Creation: Kalonology of Christianity

キリスト教的世界像と「問い」

川崎 えり (KAWASAKI ERI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH032
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

西欧のキリスト教的世界像を概観し、その中で紡がれてきた「問い」を考察する。その過程で人文学を学ぶ意義を見だし、問題意識を培っていただきたい。

We will overview the Christian worldview of Western Europe and examine the "questions" that have been spun out of this worldview. In the process, we hope that you will discover the significance of studying the humanities and cultivate an awareness of the issues involved.

授業の内容 / Course Contents

この講義は、キリスト教的世界像の形成および変遷を扱う前半部（基礎）と現代に生きる私たちにとってもおラディカルな「問い」を扱う後半部（応用）とに分かれています。前半部では、この授業の【美】をテーマに、変遷を辿りながらも現代まで通底する西欧の世界観を学び、西欧思想の基本的な流れの一端を理解することが狙いです。後半部では【生命】をテーマとし、それぞれのトピックについて、前半部の理解を踏まえながら、様々な西欧の思想家に触れ、共に考えてゆきます。

この授業では、他者の考えを読む・聞くのみならず、自らの考えを書く・話すことも重要視しています。し

たがって、グループ・ディスカッションを行う予定です。また、授業毎にリアクションペーパーの提出を課しますが、リアクションペーパーの内容は次回授業で紹介することがあるので注意してください。

知識や教養を得ようとするだけでなく、己と向き合い、自分なりの「問い」を見いだそうとする姿勢を歓迎します。

※授業計画・内容およびディスカッションの回数は、履修者数や状況に応じて変更する可能性があります。

This lecture is divided into two parts: the first half (basic) dealing with the formation and transition of the Christian worldview, and the second half (applied) dealing with "questions" that are still radical for those of us living today. In the first half of the course, the theme is "beauty," and the aim is to learn about the Western worldview, which has undergone transition but remains relevant to the present day, and to understand some of the basic currents of Western thought. The second half of the class will focus on the theme of "life," and will touch on various Western thinkers and think together about each topic based on the understanding of the first half of the class.

In this class, we place importance not only on reading and listening to others' ideas, but also on writing and speaking about our own ideas. Therefore, we will have group discussions. In addition, please note that a reaction paper will be required for each class, and the contents of the reaction paper may be introduced in the next class.

We welcome your attitude of not only trying to gain knowledge and education, but also to face yourself and find your own "questions".

*The class plan, contents and number of discussions may be subject to change depending on the number of students enrolled and other circumstances.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：自然の調和における美
- 3 回：階層的世界像における美
- 4 回：イスラム科学の受容と伸展
- 5 回：「芸術」概念の誕生
- 6 回：近現代の科学者たちが描く世界像
- 7 回：「世界は何故存在するのか？」
- 8 回：死
- 9 回：人生の意味
- 10 回：神と人間
- 11 回：神秘と狂気
- 12 回：無神論
- 13 回：「〈私〉は何故存在するのか？」
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド* (パワポ* 等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習の必要はありませんが、適宜下記の参考文献を補助資料として活用してください（必ずしも授業内で扱うわけではありません）。そのほかの文献については、授業毎に紹介します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :58 %

平常点割合 :42% リアクションペーパー（3点満点×14回）:42%

テキスト / Textbooks

必要に応じて配布します。

参考文献 / Readings

スティーヴン・ワインバーグ著、大栗博司・赤根洋子訳 『科学の発見』 文藝春秋 2016年

9784163904573

井奥陽子著 『近代美学入門』 筑摩書房 2023年 9784480075840

エドワード・ブルック＝ヒッチング著、関谷冬華訳 『宇宙を回す天使、月を飛び回る怪人 世界があこがれた空の地図』 日経ナショナル・ジオグラフィック 2020年 9784863134638

リチャード・E・ルーベンスタイン著、小沢千重子訳 『中世の覚醒 アリストテレス再発見から知の革命へ』 筑摩書房 2018年 9784480098849

トマス・ネーゲル著、岡本裕一郎・若松良樹訳 『哲学ってどんなこと？—とっても短い哲学入門』 昭和堂 1993年 9784812293058

山我哲雄著 『キリスト教入門』 岩波書店 2014年 9784005007929

荻野弘之・山本芳久・大橋容一郎・本郷均・乗立雄輝著 『新しく学ぶ西洋哲学史』 ミネルヴァ書房 2022年 9784623094042

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

愛について：キリスト教の倫理と哲学

Eros and Agape: Ethics and Philosophy of Christianity

キリスト教における愛の多様性

阿久戸 義愛 (AKUDO YOSHIYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH033

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

・愛を意味する三つの概念「エロス」「アガペー」「カリタス」の内実を、代表的な思想家の思想内容とあわせて理解する。

・キリスト教における愛の多様性や豊かさについて学ぶ。

・ To understand the meaning of the three concepts of love - Eros, Agape and Caritas - together with the content of the thought of representative thinkers.

・ To learn about the diversity and richness of love in Christianity.

授業の内容 / Course Contents

キリスト教の歴史において、今日私たちが「愛」と呼ぶものは、いくつかの異なった概念として理解されてきた。授業ではこれらの「愛」の区分——エロス、アガペー、カリタスについて紹介し、これらの異なる愛の側面が、キリスト教思想において、様々な色々な仕方で表現される様子を追っていく。

In the history of Christianity, what we today call in a word "love" has been interpreted in several different concepts. We will begin by introducing the categories of love - Eros, Agape and Caritas - and then follow the

various ways in which these different aspects of love are expressed in Christian thoughts.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション——エロース、アガペー、カリタス
- 2回：ギリシア思想におけるエロース①——プラトン
- 3回：ギリシア思想におけるエロース②——アリストテレス
- 4回：福音書におけるアガペー①善きサマリア人のたとえ
- 5回：福音書におけるアガペー②放蕩息子のたとえ
- 6回：パウロにおけるアガペー①パウロの回心
- 7回：パウロにおけるアガペー②十字架のアガペー
- 8回：ヨハネにおけるアガペー
- 9回：アウグスティヌスにおける愛①罪と愛
- 10回：アウグスティヌスにおける愛②愛の秩序
- 11回：アウグスティヌスにおける愛③「神の国」と「地上の国」
- 12回：トマス・アキナスにおけるカリタス①「枢要徳」と「神学的徳」
- 13回：トマス・アキナスにおけるカリタス②自己愛の根拠としての神
- 14回：まとめ：キリスト教思想における愛の系譜

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

事前に指示されたテキスト箇所の精読をおこなうこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 毎授業でのリアクションペーパー:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

A. ニーグレン 『アガペーとエロース』 新教出版社 1995 9784400322023

必要なテキストについてはその都度コピー・プリントを配布する。

その他 / Others

受講者数によって変更の可能性がある。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／学びの精神

Image Studies

Image Studies

Japanese Animation

滝浪 佑紀 (TAKINAMI YUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH034
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1133
使用言語： その他
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、20 世紀序盤以降の日本のアニメーション、より簡潔にはアニメの歴史を導入し、アニメ作品を分析するための幾つかの方法を示すことを目標とする。そうすることで、わたしたちと映像メディア環境の関係をより深く理解することを目指す。

The goal of this course is to introduce the history of Japanese animation, or simply anime, from the early 20th century to the present as well as to present some analytical tools for the anime works. By doing so, the course intends to deepen our understanding about our relation to the image media environments.

授業の内容 / Course Contents

アニメとは何かに関する定義を導入したのち、授業は戦前から現在までの日本のアニメ史を提示しながら、いくつかの重要作品を歴史的、文化的、美学的、社会的観点から分析する。授業は日本語のアニメ作品を中心に論じるが、読解教材として、英語で書かれた批評や論文もあつかう。日本語と英語の両方を使うことで、日本アニメをグローバルな規模で考える。

After introducing the definition about what the anime is, the course will show the history of Japanese anime from

the prewar period to the present as well as analyze some important works in historical, cultural, aesthetic, and social terms. While the course mainly discusses Japanese-language anime works, the readings in the course will include English-written reviews and papers. By using both Japanese and English, the course will consider the issue of Japanese anime in a global scale.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: What is Anime? (導入：アニメとは何か?)
- 2 回：History of Anime 1: Prewar period 1 (アニメの歴史1：戦前1)
- 3 回：History of Anime 2: Prewar period 2 (アニメの歴史2：戦前2)
- 4 回：History of Anime 3: Postwar period 1 (アニメの歴史3：戦後1)
- 5 回：History of Anime 4: Postwar period 2 (アニメの歴史4：戦後2)
- 6 回：History of Anime 5: Postwar period 3 (アニメの歴史5：戦後3)
- 7 回：History of Anime 6: Postwar period 4 (アニメの歴史6：戦後4)
- 8 回：History of Anime 7: After Heisei 1 (アニメの歴史7：平成以後1)
- 9 回：History of Anime 8: After Heisei 2 (アニメの歴史8：平成以後2)
- 10 回：History of Anime 9: After Heisei 3 (アニメの歴史9：平成以後3)
- 11 回：History of Anime 10: After Heisei 4 (アニメの歴史10：平成以後4)
- 12 回：Analysis of Anime 1 (アニメの分析1)
- 13 回：Analysis of Anime 2 (アニメの分析2)
- 14 回：Conclusion (結論)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Some active researches and analyses on anime works as well as reading the materials will be required. (アニメ作品について積極的な研究分析と文献の読解が求められる。)

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% In-class reaction papers (授業内リアクションペーパー) :30% Active participation (授業への取り組み) :20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

The readings will be indicated in the class. (文献は授業内で指示する。)

注意事項

- ・ F 科目導入 (外国語による総合系科目)
- ・ この授業は、主に日本語で行われるが、英語教材 (文献や映像等) を使用する。
- ・ 履修にあたって英語力は問わない。英語「で」学ぶことや、グローバル環境に身を置くことに意欲のある学生の履修を歓迎する。
- ・ 2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

・学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

異文化コミュニケーション学からの学び

Understanding Intercultural Communication

固定的な捉え方を超えて、文化やコミュニケーションのダイナミクスに注目する

清田 顕子 (KIYOTA AKIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH035
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、異文化コミュニケーションを学ぶうえでの基礎的な概念を学び、新たに得た視点から現代社会の様々な問題を複眼的に捉えることができるようになることです。

また、本授業で、①予習をしてディスカッションに備え、自分とは異なる考えや視点を持つ他者と議論をする、②知識を主体的に学び、成果を仲間に発表するという学術的な活動を通して、その後の大学での主体的な学びの姿勢を涵養することもねらいとしています。

The main objective of this course is to learn some basic concepts for intercultural communication studies and to develop the ability to analyze issues in contemporary society from newly gained perspectives. Additionally, students will be able to cultivate a proactive learning attitude for subsequent university studies through scholarly activities. These include (i) preparing for discussions with pre-class readings and engaging in discussions with peers who hold different perspectives, and (ii) actively seeking knowledge and sharing it with peers through presentations.

授業の内容 / Course Contents

本授業ではまず、異文化コミュニケーションを学ぶうえでの基礎的な用語や概念を学びます。これにより、視野を広げ、現象を異なる視点からクリティカルに見る力を養います。たとえば、グローバリゼーションと多文化社会コミュニケーション、文化、言語、非言語、アイデンティティ、メディア、異文化接触、コミュニケーションの阻害要因、異文化コンピテンスなど、多様なテーマを取り上げます。

授業では、グループディスカッションやピアフィードバックを行います。仲間や教員との議論を通して自分の思考を言語化し、また他者の多様な考えを聞くことで考察を深めます。最終的には、関連文献を読み、自分の考察をまとめてラウンドテーブル発表をすることを目指し、各自が自律的に深い学びを追求できるよう支援します。

In this course, we will start by exploring fundamental terminology and concepts related to intercultural communication. This process aims to broaden perspectives and cultivate the ability to critically examine phenomena from various viewpoints. Topics covered include globalization and communication, culture, language, non-verbal communication, identity, media, intercultural contact, stereotypes/racism/ethnocentrism, and intercultural communication competence. Throughout the course, activities such as presentations, group discussions, and peer feedback will be conducted. Through engaging discussions with peers and the instructor, students will articulate their thoughts and enhance their understanding by considering various perspectives. Ultimately, each student will read relevant literature and present their findings during roundtable presentations. Support will be available throughout the course to facilitate autonomous learning.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

授業の目的と概要の説明 / 課題の説明 / アイスブレイクと自己紹介 / スケジュールの確認と担当決め / オープン・クエスチョンとクローズド・クエスチョン

2回：グローバリゼーションと多文化社会を生きる力 / コミュニケーションとサイン

3回：文化について考える

4回：言語によるコミュニケーション

5回：非言語コミュニケーション

6回：アイデンティティとコミュニケーション

7回：メディアで作られた文化

8回：グローバル化する世界の異文化接触

9回：コミュニケーションの阻害要因

10回：多文化とうまくつきあうために

11回：ラウンドテーブル発表に向けて①問題意識と文献検索

ブレインストーミング / 文献検索 / ディスカッション

12回：ラウンドテーブル発表に向けて②文献レビュー・さらなる疑問と興味

ディスカッション / 構成 / ピア・フィードバック

13回：ラウンドテーブル発表①

14回：ラウンドテーブル発表②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ①リーディング課題（毎回）：教科書の指定範囲を授業当日までに読んでくることを、予習として求められます。各自、1つ以上の質問または議論を深めるための問いを作っておきます。なお、授業開始時に小テストは、このリーディングをもとに行われます。テストの目的は、各自が自分の理解を確認するためで、用語の定義を中心に出题されます。
- ②発展ディスカッションの準備（2回）：当番の人は、授業範囲で自分が最も関心のあるトピックについて身近な例を取り上げて議論するための資料（パワーポイントスライド、記事・動画・写真・ナラティブな

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 毎授業小テストの点数:10% 授業後振り返りログの提出:10% 発展ディスカッション資料:10% ラウンドテーブル発表資料:10% ディスカッションへの参加:10%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としません。

小テストのフィードバックは、当日全体に対し行います。

振り返りログへのフィードバックは、次回授業開始時に全体に対して行います。

ラウンドテーブル発表のフィードバックは、Canvas LMS 上にて行います。

テキスト / Textbooks

八島智子・久保田真弓 『異文化コミュニケーション論 グローバル・マインドとローカル・アフェクト』 松柏社 2012 4775401842 ○

参考文献 / Readings

池田理知子・埴幸枝（編著） 『グローバル社会における異文化コミュニケーション：身近な「異」から考える』 三修社 2019 4384059373

鳥飼玖美子 『異文化コミュニケーション学』 岩波書店 2021 4004318874

伊佐雅子（監修） 『多文化社会と異文化コミュニケーション』 三修社 2007 4384039429

山本志都・石黒武人・Milton Bennett・岡部大祐 『異文化コミュニケーション・トレーニング —「異」と共に成長する』 三修社 2022 4384060521

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

プレゼンテーションスライドやレポートを作成するため、自宅にPC等を準備してください。

発展ディスカッションの当番日とラウンドテーブル発表の日は、PCやタブレット等を持参ください。

その他 / Others

一緒に考え、学んでいけることを、楽しみにしています。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

世界史の中のキリスト教

Christianity in World History

キリスト教の中の世界史

飯郷 友康 (IIGO TOMOYASU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH101

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

「世界史」（あるいは、「世界」と「史」）、「中」、「キリスト教」の、定義を論じる。

How we define such words as "World History" (or, "world" and "history"), "in", and "Christianity"?

授業の内容 / Course Contents

講師は、歴史学者ではなく説話学者である。この場合、実際の講義内容は、おそらく「世界史の中のキリスト教」よりも、むしろ「キリスト教の中の世界史」となるであろう。問題は、「キリスト教が、どう世界史に出現するか」ではなく、「世界史を、どうキリスト教は表現するか」である。そもそも、「キリスト教」とは何か。また「世界史」（あるいは「世界」「歴史」）とは何か。受講者の皆様の提案を待つ。

The lecturer, IGO Tomoyasu, is not a historian but a narratologist. In this case, he may lecture "World History in Christianity" rather than "Christianity in World History". The question is not "how Christianity appears in World History" but "how World History is expressed in Christianity".

By the way, what is "Christianity" and "World History" (or, what is "World" and "History")?

On these matters, at present, the lecturer has no definite opinion of himself. Thus, he is looking for your

suggestions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：資料案内

(An Introduction to the Sources for the Lectures)

2 回：「 α の中の β 」とは何か

(What means " β in α "?)

3 回：「世界」の定義

(How we define our "World"?)

4 回：「(歴)史」の定義

(How we define our "History"?)

5 回：「キリスト教」の定義

(How we define "Christianity"?)

6 回：以上、1. から 5. に基づく考察

(Studies based on the Lecture 1. to 5. above)

7 回：以下、1. から 6. と同じ。

(Studies to be continued)

8 回：以下、1. から 6. と同じ。

(Studies to be continued)

9 回：以下、1. から 6. と同じ。

(Studies to be continued)

10 回：以下、1. から 6. と同じ。

(Studies to be continued)

11 回：以下、1. から 6. と同じ。

(Studies to be continued)

12 回：以下、1. から 6. と同じ。

(Studies to be continued)

13 回：以下、1. から 6. と同じ。

(Studies to be continued)

14 回：以下、1. から 6. と同じ。

(Studies to be continued)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に指示、あるいは提案する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :41%

平常点割合 :59% 毎授業後リアクションペーパー提出:59%

テキスト/Textbooks

亀井高孝、三上次男、林健太郎、堀米庸三 『標準世界史年表 第53版』 吉川弘文館 2024
9784642095662 ○

亀井高孝、三上次男、林健太郎、堀米庸三 『標準世界史地図 第51版』 吉川弘文館 2024
9784642095679 ○

荒瀬牧彦／松本敏之（監修） 『そうか！なるほど！！キリスト教』 日本キリスト教団出版局 2016
4818409510 ○

エーリッヒ・アウエルバッハ 『ミメシス—ヨーロッパ文学における現実描写〈上〉』 ちくま学芸文庫
1994 4480081135 ○

エルンスト・H・ゴンブリッチ 『若い読者のための世界史-改訂版』 中公文庫 2022 4122072778 ○

参考文献 / Readings

サンキュータツオ 『学校では教えてくれない！国語辞典の遊び方』 角川文庫 2016 97840444002077

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

世界史の中のキリスト教

Christianity in World History

キリスト教神学から学ぶ世界史

工藤 万里江 (KUDO MARIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH102

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本クラスを通して受講生は、

- ・キリスト教（と神学）の成り立ちと多様な展開を学び
- ・さまざまな時代・地域の個別状況における諸神学の取り組みを知り
- ・社会運動としてのキリスト教に触れることで
- ・現代社会と宗教をめぐる諸課題を批判的に分析できるようになる

By the end of this course, students will be able to

- ・ Show a basic knowledge of diverse developments of Christianity
- ・ Understand diverse efforts of theologies facing various social issues
- ・ Recognize Christian theologies as social activisms
- ・ Critically analyze the intersection between religion and contemporary world

授業の内容 / Course Contents

本講義ではキリスト教の成り立ちと神学の主要テーマなどの基礎知識を身につけた上で、さまざまな時代・地

域においてキリスト教神学が取り組んできた諸課題（ファシズム、戦争、貧困、差別等）を学び、それらを通して世界史に分け入っていく。

In this course, students will gain a basic knowledge of Christianity and theology. In addition, students will learn various issues that theology has wrestled with (fascism, war, poverty, discrimination, etc.), and extend their knowledge of world history through them.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：聖書とは何か
- 3 回：「神語り」の歴史
- 4 回：イエス・キリストとは誰か
- 5 回：ナチス・ドイツと抵抗の神学（1930年代～・ドイツ）
- 6 回：日本的キリスト教（1930年代～・日本）
- 7 回：ラテンアメリカ解放の神学（1960年代～・ラテンアメリカ）
- 8 回：黒人神学①（1960年代～・米国）
- 9 回：黒人神学②（1960年代～・米国）
- 10 回：フェミニスト神学（1970年代～・米国&日本）
- 11 回：民衆神学（1970年代～・韓国）
- 12 回：クィア神学（1990年代～・米国）
- 13 回：パレスチナ解放の神学（1990年代～・パレスチナ）
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業の復習、筆記試験への備え

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 出席および各講義での課題:40%

全授業回数数の3分の1を超えて欠席した場合は不合格（F）とする

テキスト / Textbooks

特に指定しない

参考文献 / Readings

授業内で適宜提示する

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

世界史の中のキリスト教

Christianity in World History

キリスト教の前史、誕生から現在までを世界史の流れ中に位置づけ、その意義を探る。

金井 美彦 (KANAI YOSHIHIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH103
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

キリスト教の世界史的意義を学ぶ。

In this course, students will learn about the significance of Christianity with regards to world history.

授業の内容 / Course Contents

イエスという名の一人の男の活動と死から誕生したキリスト教が、今に至るまで大きな影響を与えてきたのはなぜか。

これについて、その前史である古代イスラエル史、イエスの活動、聖書の成立、および神学思想の展開を辿りつつ、世界史的展望の中で考察する。

Why has Christianity, which was formed due to the actions and death of a single man named Jesus, continued to have such a sizeable influence into the present day?

Regarding this, we will examine the relevant prehistory, including the history of ancient Israel, the life of Jesus, the writing of the Old and New Testaments, and the development of theological ideas from the perspective of world history.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入：キリスト教は知られているかー「神」、「創造」、「原罪」、「メシア（キリスト）」、「十字架」、「贖罪」、「終末と永遠」
- 2回：旧約聖書の世界1：古代イスラエルの宗教とオリエント世界ーノア、アブラハム、モーセの物語
- 3回：旧約聖書の世界2
古代オリエントの諸帝国と古代イスラエルの歴史：王国と預言者ーサムエル、ダビデ王、預言者イザヤその文学
- 4回：イエスの言葉と活動、十字架上の死、復活信仰（その1）
『マタイによる福音書』『ルカによる福音書』
- 5回：イエスの言葉と活動、十字架上の死、復活信仰（その2）
『マタイによる福音書』『ルカによる福音書』
- 6回：「イエスがキリストである」ー原始キリスト教の成立、使徒パウロの伝道の旅とヘレニズム
- 7回：世界ローマ帝国とキリスト教
迫害と忍耐から国教へ
- 8回：古代キリスト教の思想
教会教父たちーオリゲネス、ニュッサのグレゴリウスー
- 9回：古典古代の終わりの中世的世界、アウグスティヌスの神学ー『神の国』に触れる
- 10回：イスラムの台頭と中世的世界の崩壊ー十字軍、ルネサンス
- 11回：宗教改革とその影響
地球規模のキリスト教伝道
- 12回：近代世界とキリスト教の相対化（1）
- 13回：近代世界とキリスト教の相対化（2）
- 14回：グローバル化と世界宗教
キリスト教の可能性について

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に提示した文献をできるだけ読む。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

テキスト / Textbooks

日本聖書協会 『新約聖書』 日本聖書協会 -

参考文献 / Readings

小田垣雅也 『キリスト教の歴史』 講談社 1995

上村静 『旧約聖書と新約聖書』 新教出版社 2011

山我哲雄 『一神教の起源』 講談社 2013

山我哲雄 『キリスト教入門』 岩波書店 2014

アラン・コルバン 『キリスト教の歴史』 藤原書店 2010

ポール・ヴェーヌ 『私たちの世界がキリスト教になったとき』 岩波書店 2010

八木誠一 『宗教の行方』 法蔵館 2022

その他の文献は適宜授業中に提示する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

思想を生み出すキリスト教

Christianity and Philosophy

古代キリスト教思想家

安井 聖 (YASUI KIYOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH104

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

古代キリスト教史において代表的な思想家の生涯、著作、思想を学ぶことによってこの時代におけるキリスト教の歩みがどのようなものかを理解する。

Through studying the lives, works, and thoughts of various representative theologians in ancient Christian history, students will come to understand what was Christianity at that time.

授業の内容 / Course Contents

2世紀から5世紀までの時代において、代表的な5人のキリスト教思想家の生涯、著作、思想を紹介する。またこの時代のキリスト教思想において重要なテーマであるキリスト論、三位一体論について、思想家それぞれの理解の特色を明らかにし、相互に比較する。

In this course, we will introduce the lives, works, and thoughts of five representative theologians from the 2nd to the 5th century. We will also clarify each theologian's opinions and understandings regarding important topics of the era, such as Christology and the Trinity doctrine, comparing and contrasting each theologian's views.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：序 古代キリスト教思想家とは
- 2回：ユスティノスの生涯と著作
- 3回：ユスティノスの思想
- 4回：テルトゥリアヌスの著作と生涯
- 5回：テルトゥリアヌスの思想
- 6回：オリゲネスの生涯
- 7回：オリゲネスの著作
- 8回：オリゲネスの思想
- 9回：アタナシオスの生涯
- 10回：アタナシオスの著作
- 11回：アタナシオスの思想
- 12回：アタナシオス以後のキリスト論論争
- 13回：アウグスティヌスの三位一体論
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

菊地榮三・菊地伸二、『キリスト教史』、教文館、2005年、またはフスト・ゴンザレス、『キリスト教史 上巻』、新教出版社、2002年の「古代キリスト教史」の箇所を読んでおく。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 毎回の課題:30%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。授業内容に関するレジュメ（PDFファイル）をデータで配布する。

参考文献 / Readings

安井聖 『アタナシオス神学における神論と救済論』 関東学院大学出版会 2019

授業中に適宜紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内容に関するレジュメ（PDFファイル）をプリントアウトしない場合、レジュメのデータを参照できる端末（PC、タブレット、スマートフォンなど）

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

思想を生み出すキリスト教

Christianity and Philosophy

「山上の説教」(マタイ福音書 5-7 章) の解釈

廣石 望 (HIROISHI NOZOMU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH105
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

『マタイによる福音書』5-7章に保存された「山上の説教」を解釈することで、キリスト教思想への理解を深めるとともに、その現代的な意味を探る。

Through understanding the Sermon on the Mount, recorded in chapters 5-7 of the Gospel According to Matthew, students will deepen their understanding of Christian ideas while getting a feel for their significance in the present day.

授業の内容 / Course Contents

イエスの山上の説教をいくつかの単元に区切って、それぞれを伝承史的に分析し、宗教史的な背景を踏まえつつ積義した上で、その意味内容に関する解釈学的な考察を行う。

Setting aside some lectures for Jesus' Sermon on the Mount, we will analyze it from a historical perspective and thoroughly explain its religious context while examining its hermeneutical significance.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：0. 予備考察 (1)

- 2回：予備考察（2）
 3回：1. 導入（マタイ 5,1-16） 山上での教え（5,1-2）
 4回：「幸いなるかな」の言葉（5, 3-12）（1）
 5回：「幸いなるかな」の言葉（5, 3-12）（2）
 6回：弟子たちへの言葉（5,13-16）
 7回：2. 律法と偽（5,17-48） 「律法を完成するために」（5,17-20）
 8回：六つの反対命題（5,21-48）（1）
 9回：六つの反対命題（2）
 10回：3. 神の前での義（6,1-7,24） 三つの敬虔な行為（6,2-18）
 11回：祈り（6,7-15）、日常の行為（6,19-7,24）
 12回：4. 行為の射程（7,13-27）（1）
 13回：行為の射程（2）
 14回：全体考察

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・予習として、『聖書』の該当箇所を事前に読んでおく。
- ・復習として、講義をふまえて該当箇所に取り組み、自分自身の理解を深める。
- ・予習および復習にさいしては、2つ以上の参考文献を比較しながら読むことが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 出席およびリアクションペーパーによる授業参加度:40%

2/3以上の出席をしていない場合は単位修得不可。

テキスト / Textbooks

日本聖書協会 『聖書 聖書協会共同訳』 日本聖書協会 2022 9784820213598 -

主たるテキストは毎回の講義で配布するレジュメ。

参考文献 / Readings

W. D. ダーヴィス 『イエスの山上の説教』 教文館 1991 4764280353

井上良雄 『山上の説教：終末時を生きる』 新教出版社 1994 4400511472

H. ヴェーダー 『山上の説教：その歴史的意味と今日的解釈』 日本キリスト教団出版局 2007
9784818406513

U. ルツ 『マタイによる福音書』（EKK 新約聖書註解 I/4） 教文館 2009 9784764214132

H.D. Betz The Sermon on the Mount : a commentary on the Sermon on the Mount, including the Sermon on the Plain (Matthew 5:3-7:27 and Luke 6:20-49) Fortress Press 1995 0800660315

E. Baasland Parables and rhetoric in the Sermon of the Mount : new approaches to a classical text Mohr Siebeck 2015 9783161541025

M. Konradt Das Evangelium nach Matthäus Vandenhoeck & Ruprecht 2015 9783525513415

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

二次文献も利用しながら、歴史資料としての聖書を解釈する思考力。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

レジュメや資料の配付などに「Canvas LMS」を使用する

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

思想を生み出すキリスト教

Christianity and Philosophy

中世ドイツにおけるキリスト教神秘思想

若松 功一郎 (WAKAMATSU KOICHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH106
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

キリスト教が生み出す思想とは何か。それを具体的なテキストを通じて、その語りかけるものを聞き、徹底的に思考停止せずに考え抜くことがこの科目の主眼目である。

われわれは歴史的存在であり、今この身において生きている現実と切り離して問うても空虚である。われわれの存在への問い、人間本性への問い、人間の宗教性への問い、そうしたわれわれ自身への問いと密着しながら、探求を進めてゆくことが求められる。したがって借り物の知識ではなく自分でどこまで徹底的に学び考えたかが重要になる。そのために、自らの考えを言葉によって示し、発表

What is the *Pensée chrétienne*? To address this question, students will read specific texts, internalizing their meanings while thinking critically to answer the question.

We are historical beings, so the question must seriously consider the reality in which we are living. Students will keep the following in mind during their investigation: questions regarding our existence, human nature, and the religiosity of humanity, as well as questions directed inwards at ourselves. Therefore, it is important that students cultivate their own understandings rather than borrowing from experts. To that end, students will be required to

express their own thoughts and deepen them through presentations, dialogues, and discussions. Note that the contents may change according to the students' situation and other factors.

授業の内容 / Course Contents

キリスト教とは何かという根本問題に触れながら、サブタイトルおよび目標にあるように、テキストを通じて、人間の尊厳、人格、自由をめぐる根本的かつ現代的問題への沈潜してゆく。

While considering the fundamental definition of Christianity, we will utilize different texts to ponder various secondary goals, namely fundamental yet modern issues surrounding human dignity, individuality, and freedom.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：アウグスティヌス①——キリスト教における世界理解
- 2 回：アウグスティヌス②——キリスト教における人間理解
- 3 回：三位一体論——キリスト教における神理解
- 4 回：キリスト論——キリスト教におけるキリスト理解
- 5 回：ドイツ神秘主義概説①
- 6 回：ドイツ神秘主義概説②
- 7 回：テキスト読解 1
- 8 回：討議 1
- 9 回：テキスト読解 2
- 10 回：討議 2
- 11 回：テキスト読解 3
- 12 回：討議 3
- 13 回：神秘主義と現代の諸問題
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習復習については授業内で指示する。

課題の提出に際しては Master of Writing を参照のこと。

Canvas LMS を使用するが、使用法が分からない場合やトラブルは各自の責任でメディアセンターに確認すること。

当然のことであるがコピー（授業ノートを含む）や剽窃には厳しく対応する。

<https://www.youtube.com/watch?v=IxM1e4W1S8I>

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :58%

平常点割合 :42% 毎回のリアクションペーパー（3点満点×14回）:42%

借り物の知識ではなく自分でどこまで徹底的に学び考えたかが重要であり、そのために、自らの考えを言葉によって示し、発表、対話、討議をつうじて深めることが求められる、と目標で示していることからあきらかなように、筆記試験における論述、授業内活動、レポート、そして授業内で指示された予習課題と復習課題の精

度が重要である。いずれも授業担当者の指示をふまえて積極的に行うことが求められるので、受講希望者は留意すること。なお授業マナーについて注意された受講者は授業に関する活動を0点とする。課題やそのほかの指示が e-mail、

テキスト/ Textbooks

田島照久 『エックハルト説教集』 岩波書店 1990 9784003381618 -

田島照久 『マイスター・エックハルト研究—思惟のトリアーデ構造 esse・creatio・generatio 論』 創文社 2019 9784423170953 -

田島照久・阿部善彦 『テオーシス 東方・西方教会における人間神化思想の伝統』 教友社 2018 9784907991401 -

上田 閑照 『類の知的遺産〈21〉マイスター・エックハルト』 講談社 2019 9784061453210 -

テキストの購入は各自の判断に任せる。使用する文献資料は授業内で指示する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

授業ではディスカッションを行うことがあるので積極的に参加できることが必要です。

春学期開講科目「ヨーロッパの文化とことば」(FA133)、「キリスト教史に学ぶ多文化共生」(FH181)などを履修していることが望ましいですが、必須ではありません。

その他/ Others

授業内の活動また進め方については担当者の指示に従うこと。

課題の提出に際しては Master of Writing を参照のこと。

Canvas LMS を使用するが、使用法が分からない場合やトラブルは各自の責任でメディアセンターに確認すること。

当然のことであるがコピー（授業ノートを含む）や剽窃には厳しく対応する。

<https://www.youtube.com/watch?v=IxM1e4W1S8I>

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

美術の中のキリスト教

Christianity and Art

芸術学概論（美学・美術史）

大野 松彦（OHNO MATSUHIKO）

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH107
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	講義
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

芸術という説明し難いものを知り、理解するために、古代ギリシアから近代の印象主義までの美術史と美学を学び、各々が自身の美的判断に基づいた作品記述ができるようになること。

In order to know and understand art – although it is almost unexplainable in itself –, we learn aesthetics and art history from the ancient Greek to the modern Impressionism, and everyone be able to describe works of art based on their own aesthetic judgment.

授業の内容 / Course Contents

私たちにとって芸術（藝術/美術/アート）とは何だろうか。芸術という説明し難いものを知るために、美術史と美学という美をめぐる思想と歴史があります。この授業では古代ギリシアから 19 世紀の印象主義まで、西洋芸術の歴史を辿りながら、造形作品に現れた美について学びます。

What does art mean to us? In order to know and understand art – although it is almost unexplainable in itself –, there is aesthetics and art history: the ideas and history on the beauty. In this class, we will trace the history of Western art from ancient Greece to 19th century Impressionism and learn to perceive beauties expressed in

works of art.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：芸術とは何か：テクネーからテクノロジー
- 2 回：古代ギリシア I：神と人間
- 3 回：古代ギリシア II：古典美の成立
- 4 回：古代ギリシア III：ヘレニズム
- 5 回：古代末期：ローマからキリスト教へ
- 6 回：中世ヨーロッパ I：精神の眼
- 7 回：中世ヨーロッパ II：ゴシック大聖堂、光の芸術
- 8 回：中世末期：ゴシックとルネサンス
- 9 回：近世 I：ルネサンス、古典美の再生
- 10 回：近世 II：素描と色彩
- 11 回：近世 III：バロック、世界劇場の芸術
- 12 回：近代 I：新古典主義とロマン主義
- 13 回：近代 II：印象主義絵画
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で知りえた作品を見る、関心をもったテーマについて理解を深めること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 複数回のリアクションペーパー:50 %

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

D.ホックニー/M.ゲイフォード 『絵画の歴史—洞窟壁画から iPad まで』〈増補普及版〉 青幻社 2020

E.H. ゴンブリッチ 『美術の物語』 河出書房新社 2019

秋山聰/田中正之 (監修) 『西洋美術史』 美術出版社 2021

井奥陽子 『近代美学入門』 筑摩書房 2023

H.リード 『芸術の意味』 みすず書房 1990

H.ヴェルフリン 『美術史の基礎概念：近世美術における様式発展の問題』 慶応義塾大学出版会 2000

I.カント 『判断力批判』 岩波文庫の旧訳または光文社文庫の新訳

上記参考文献のうち、現在も購入可能な書籍は 1-4 と 7 であり、1-3 は美術史の、4 は美学の入門に適した本です。いずれも指定図書ではありませんし、この授業は他の多くの参考文献で構成されますが、関心をもった方は手に取られるとよいでしょう。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

芸術／美術への関心と知的探究心

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目
学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

美術の中のキリスト教

Christianity and Art

キリスト教美術を読む 中世から 19 世紀まで

新保 淳乃 (SHIMBO KIYONO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH108
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

古代末期から近代までの西洋美術史の流れを理解する。

時代の変化とともにキリスト教文化がどのような表現を生み出したかを、具体的な美術作品に即して考察する。

眼と言葉を使って絵画を観察し、図像を読み解く力を身につける。

The aim of this course is to understand the general outline of Western Art History from late antiquity to modern era, by examining specific works of art to comprehend various themes and expressions that Christian culture had produced.

Along with comprehension of Christian themes and iconography, it is fundamental in reading visual representations that we develop the ability to observe paintings using eyes and words.

授業の内容 / Course Contents

西洋美術を理解するには、ギリシア・ローマ神話と並んでキリスト教文化の知識が欠かせません。この講義では初期キリスト教時代から 19 世紀までの西洋美術の中から、キリスト教主題の作品を取り上げ、時代背景、美

術様式や技術、芸術家の経歴、宗教思想やジェンダー論などさまざまな視点から考察します。

まず古代末期からビザンチン、ロマネスク、ゴシックまで中世美術の流れを確認したうえで、ルネサンスから近代までの絵画作品について、①観察、②時代背景と画家の経歴の確認、③読解を行い、キリスト教美術を見る力を実践的に養います。

作品の観察とディスクリプションも行うので積極的な受講態度を期待します。

To understand Western art, knowledge of Christian culture is essential along with Greek and Roman mythology. In this lecture, we will focus on Western artworks with Christian themes from the early Christian era to the 19th century and examine them from various perspectives, including historical background, art styles and techniques, artists' biographies, religious thought, and gender theory. Students will first confirm the flow of medieval art from late antiquity to Byzantine, Romanesque, and Gothic. Then, dealing with paintings from the Renaissance to modern times, we take methodological steps as to observe artworks, examine the historical background and artist's biography, then interpretation. These are necessary for developing practical ability to comprehend Christian art and Western art history in general.

Since observation and description of works of art will also be conducted, a positive attitude toward the course is expected.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：趣旨説明、ディスクリプションについて、キリスト教以前の西洋美術
- 2 回：初期キリスト教からビザンチン美術：救世主キリスト
- 3 回：ロマネスクとゴシックの大聖堂
- 4 回：ルネサンスを支えた技術：油彩技法と透視画法
- 5 回：ルネサンス：レオナルド・ダ・ヴィンチの宇宙
《最後の晩餐》ディスクリプション
- 6 回：レオナルド・ダ・ヴィンチ《最後の晩餐》
- 7 回：危機の時代とマニエリスム
メディチ家礼拝堂ディスクリプション
- 8 回：ミケランジェロの新プラトン主義 メディチ家礼拝堂
- 9 回：近世のエロティック絵画
《スザンナと長老たち》ディスクリプション
- 10 回：ティントレットとアルテミジア・ジェンティレスキ《スザンナと長老たち》
- 11 回：バロックの静物画
《ウァニタス静物画》ディスクリプション
- 12 回：マリア・ファン・オーステルウィック《ウァニタス静物画》
- 13 回：近代：ロセッティ《我は主の婢なり》
- 14 回：世紀末：クリムト《ユディト》

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

参考文献を読んで西洋美術史の大きな流れや主要な作品、芸術家について確認しておく。

事前に Web 配信される講義資料を活用して予習・復習をする。ディスクリプションに備え分析する絵画作品をよく観察する。

美術館、博物館の常設展や企画展に足を運び、できるだけ多くの作品を体験する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 出席確認を兼ねた授業毎のコメントペーパー（3/4 以上の受講を成績評価の対象とする）:50%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

ジェイムズ・ホール 『新装版 西洋美術解説事典』 河出書房新社 2004 9784309291406

高階秀爾、三浦篤 『西洋美術史ハンドブック』 新書館 1997 9784403250248

足達薫、金山弘昌 『イタリア美術叢書 光彩のアルストピア：レオナルド・ダ・ヴィンチからミケランジェロへ』 ありな書房 2019 9784756619648

越川倫明 『ルネサンスのエロティック美術』 東京芸術大学出版会 2011 9784904049242

パノフスキー 『イコノロジー研究 上下』 ちくま学芸文庫 2002 9784480087218

バクサンドール 『ルネサンス絵画の社会史』 平凡社 1989 9784582238150

鈴木杜幾子、千野香織、馬淵明子 『美術とジェンダー』 ブリュッケ 1997 9784795216723

『西洋美術の歴史』 1－8 巻 中央公論 2016-2017

『世界美術大全集 西洋編』 小学館

講義ごとにその他参考文献を提示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Campus LMS を使用して授業資料の配信、コメントペーパーの提出、その他連絡を行います。

その他 / Others

事前に講義資料を Web にて配布するので、カラーで見たい方は PC 等ブラウザで見られる状態で受講してください。

西洋美術画像検索エンジン Web Gallery of Art <https://www.wga.hu/>

主要美術館作品検索

ロンドン、ナショナル・ギャラリー <https://www.nationalgallery.org.uk/paintings/search-the-collection>

ルーヴル美術館 <https://collections.louvre.fr/en/>

バチカン美術館 [http](http://www.vatican Museums.com/en/)

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

美術の中のキリスト教

Christianity and Art

古代から中世のキリスト教建築とその芸術

山田 香里 (YAMADA KAORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH109
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

3～6世紀のローマを中心としたキリスト教会の歴史・思想と芸術の関係を学び、誕生期のキリスト教芸術への理解を深める。また、その後のイタリア半島の政治状況の変遷や、国家と教会の関係などが美術にどのような影響を与えるのか理解を深める。

The course aims to learn the relationship between art and the history/philosophy of Christian church centering on 3rd to 6th century Rome, to gain deeper understanding of Christian art in its infancy.

授業の内容 / Course Contents

キリスト教美術は、キリスト教それ自体から遅れて2世紀末から3世紀初頭にローマ美術の範疇の中で誕生する。本講義では、キリスト教の誕生と発展の経緯をたどりながら、キリスト教美術においてキリスト表現がどのように変化して行ったのか考察する。具体的にはカタコンベや石棺浮彫から、初期キリスト教から中世までの聖堂建築とその装飾を扱うが、その背景にあるローマ社会の状況、キリスト教思想の変化にも重点を置く。

Christian art was born within the scope of Roman art between late 2nd century and early 3rd century following the establishment of the religion itself. The course will review the history of the creation and development of

Christian religion, and consider how the Christian art changed during its infancy. In particular, the class will cover catacomb, sarcophagus relief, early church buildings and decorations, also focusing on the Roman society and changes in Christian philosophy underlying the art.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーションとイントロダクション（キリスト教の成立）
- 2回：誕生期のキリスト教美術
- 3回：ニカイア公会議と聖堂装飾
- 4回：キリスト論争とイエス表現
- 5回：ローマの聖堂建築とその装飾
- 6回：5世紀のイタリア
- 7回：エフェソス公会議と聖堂
- 8回：ラヴェンナ遷都と聖堂装飾
- 9回：ラヴェンナの聖堂と装飾
- 10回：ラヴェンナの聖堂と装飾
- 11回：フランク王国の台頭と教皇庁
- 12回：教皇権の確立と聖堂装飾
- 13回：殉教者崇敬とローマの地誌
- 14回：殉教者崇敬とローマの地誌

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ノートの整理、画像の確認など

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% 授業内に課すコメントカード:20%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

辻佐保子編 『世界美術大全集7 西欧初期中世の美術』 小学館 1997 4096010073

ベルトラン・ランソン 『古代末期—ローマ世界の変容』 白水社 2013 4560509816

ペリカン 『キリスト教の伝統、教理発展の歴史 第1巻』 教文館 2006 4764272563

このほか、授業中に適宜紹介する

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

世界史の基本的な知識を必要とする。また、新約聖書の福音書の内容は最低限押さえておいてほしいが、履修決定後読んでもらえれば構わない。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

音楽の中のキリスト教

Christianity and Music

西洋キリスト教社会における音楽の展開

佐野 隆 (SANO TAKASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH110
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

西洋社会におけるキリスト教と音楽の関わりを学び、西洋音楽への理解を深める。

Lern the relationship between Christianity and music in Western society and deepen your understanding of Western music.

授業の内容 / Course Contents

中世から現代に至るまで、教会を含む西洋キリスト教社会においては、何らかの形で音楽が求められていた。また、音楽家にとってもキリスト教はその創作の源となり、多くの作品が生み出されてきた。本講義では、キリスト教と音楽の展開を歴史的にたどり、それらの関わりを考察する。音楽作品の成立背景、礼拝や神学的内容と音楽表現や楽曲構造との関連など、具体的な楽曲を聴きながら各時代の音楽の特徴を紹介する。いわゆる宗教音楽のみではなく、キリスト教と係わりのある楽曲、オペラや器楽曲なども取り上げ、西洋音楽全般への理解を深める一助としたい。

From the Middle Ages to the present day, some form of music has been required in Western Christian societies, including churches. To many musicians, Christianity has also been a source of creation, and a large variety of

musical works have been given rise to. In this course, we will historically trace the development of Christianity and music and consider their relationship. We will introduce the characteristics of music of each era through concrete music analysis, such as the background of the formation of musical works, the relationship between worship and theological content and musical expression and structure. Not only religious music, but also works related to Christianity, opera and instrumental music, etc. will be taken up to help deepen the understanding of Western music in general.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入：音楽とキリスト教
- 2回：中世①：初期キリスト教時代
- 3回：中世②：初期多声音楽
- 4回：ルネサンス時代
- 5回：宗教改革、後期ルネサンス時代
- 6回：バロック時代
- 7回：J. S. バッハの音楽①：カンタータなど
- 8回：J. S. バッハの音楽②：ミサ曲、受難曲など
- 9回：古典派時代①
- 10回：古典派時代②：モーツァルト、ベートーヴェン
- 11回：ロマン派時代①
- 12回：ロマン派時代②
- 13回：近代
- 14回：20世紀以降

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

できるだけ多くの音楽を聴きますが、授業中に一部しか聴けなかった曲の全体や、紹介できなかった音楽家の作品なども積極的に聴いてください。世界史の概説的な知識は持っていてほしい。また、楽譜が読めると音楽に対する理解がより深まると思います。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

毎回資料を配付する。

参考文献 / Readings

金澤正剛 『キリスト教と音楽：ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』 音楽之友社 2007

D. J. グラウト / C. V. パリスカ著、戸口幸策/津上英輔/寺西基之 共訳 『新西洋音楽史』上、中、下 音楽之友社 1998, 2001

井形ちづる（訳）、吉村恒（訳/編） 『宗教音楽対訳集成』 国書刊行会 2007

その他、授業中に随時紹介する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

文学を生み出すキリスト教

Christianity and Literature

ファンタジー児童文学におけるキリスト教と魔女、イエスの死と再生のモチーフ

大澤 千恵子 (OOSAWA CHIEKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH111
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

文学の中のキリスト教的な表象に目を向けることで、作品のより深い読解を目指すとともにキリスト教に対する新たなアプローチを試みる。

Through examining various Christian symbols found in literature, this course aims to enable students to obtain a deeper comprehension of these works whilst helping them view Christianity from a different angle.

授業の内容 / Course Contents

児童文学ファンタジーは、キリスト教文化の影響を強く受けている。様々な物語の中にキリスト教的な主題を見て取ることが出来る。本講義では文学と宗教の関係を広くとらえ、現代でも親しまれている童話や児童文学の宗教的テーマや文化的背景としてのキリスト教とその変容から魔女の誕生や死と再生のモチーフを読み解く。

Children's fantasy literature has received a strong influence from Christian culture. One can often notice Christian themes present within various stories in the genre. In this course, students will extensively grasp the relationship between literature and religion through the examination of fairy tales and children's literature that remain familiar to many in the present day. Students will be able to understand the aspects of Christianity

relevant to the cultural backgrounds of each work as well as the themes presented within. They will also be able to read and comprehend variations of these aspects that often appear as motifs, such as the birth of the witch, death, and rebirth.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：宗教的神話から文学的神話へ 『アラジンと魔法のランプ』
- 3回：愛とは何か 『眠れる森の美女』 『マレフィセント』
- 4回：運命論から自助論へ 『シンデレラ』
- 5回：キリスト教と魔女 『白雪姫』『塔の上のラプンツェル』
- 6回：死と再生のモチーフ 『マッチ売りの少女』 『アナと雪の女王』
- 7回：無償の愛による献身 『人魚姫』
- 8回：別世界の創造 『ピーター・パン』
- 9回：イエスの死と復活1 『ナルニア国物語』
- 10回：多元的な世界を信じる1 『ナルニア国物語』
- 11回：多元的な世界を信じる2 『トイ・ストーリー』
- 12回：世俗的物語にみるキリスト教 『ハリー・ポッターシリーズ』
- 13回：日本の物語にみるキリスト教 『銀河鉄道の夜』
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に授業で扱う作品を読んでくるように指示することがある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 出席および議論への参加度:10% 授業毎の提出課題:40%

テキスト / Textbooks

大澤千恵子 『見えない世界の物語』 講談社 2014 ○

参考文献 / Readings

大澤千恵子 『〈児童文学ファンタジー〉の星図』 学芸大学出版会 2019 9784901665568

その他 / Others

欠席が授業回数数の3割に達した場合は単位を認めない。

平常点は、出席とCanvas LMSへの提出物の両方が含まれる。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

文学を生み出すキリスト教

Christianity and Literature

映像作品・イギリス文学作品に見られるキリスト教

Christian Literature in the films, TV, and British Literature

岡田 理香 (OKADA RIKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH112

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

作者自身とキリスト教、または、作品そのものとキリスト教、といった観点から文学作品を紐解き、新たに見出されるものを考察し、視野を広げることを目標とします。

In this course, we will peruse various literary works from the standpoint of the author and Christianity, or the standpoint of the work itself and Christianity. The goal of this course is to examine our findings, broadening our perspectives.

授業の内容 / Course Contents

我が国でもよく知られた作品を取り上げます。

1. 作者がキリスト者ではないがキリスト教的モチーフが見られるもの、
2. 作者がキリスト者でありながら「キリスト教文学」とは広く認識されていないもの、
3. 作者がキリスト者であり「キリスト教文学」と呼ばれているもの。

これらを取り上げ、作品の背景を確認するとともに、作品の名言、聖書の引用、キリスト教的モチーフを見出

す試みを行います。

We will deal with works that are well known in Japan.

1. Works containing Christian motifs created by authors who are not Christians.
2. Works that were created by Christian authors yet are not widely recognized as Christian literature.
3. Works that were created by Christian authors and are widely considered to be Christian literature.

This course will deal with such works, reviewing the relevant background information, while attempting to discover the wise sayings, biblical references, and Christian motifs contained within.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：手塚治虫『旧約聖書物語』——「キリスト教文学」とは？

Oamu Tezuka's Old Testament Stories

2 回：『サン・オブ・ゴッド』——福音書のイエス・キリスト

'Son of God' (2014 film)

3 回：ヨハンナ・シュペーリ『アルプスの少女ハイジ』——おばあさんの「お祈りの本」

Johanna Louise Spyri 'Heidi'

4 回：ウィーダ『フランダースの犬』——あまり知られていない原作のエンディング

Ouida 'A Dog of Flanders'

5 回：ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』——牧師の息子が書いたナンセンス文学

Lewis Carroll 'Alice's Adventures in Wonderland'

6 回：ルイス・キャロル『鏡の国のアリス』——数学者である著者と学寮長の娘

Lewis Carroll 'Through the Looking-Glass'

7 回：J. K. ローリング 『ハリー・ポッターと賢者の石』——焚書にされた原作本

J. K. Rowling 'Harry Potter and the Philosopher's Stone'

8 回：J. K. ローリング 『ハリー・ポッターと死の秘宝』——愛、そして死と復活

J. K. Rowling 'Harry Potter and the Deathly Hallows'

9 回：C. S. ルイス 『ナルニア国物語 ライオンと魔女』——キリストの死と復活

C. S. Lewis 'The Chronicles of Narnia: The Lion, the Witch and the Wardrobe'

10 回：C. S. ルイス 『ナルニア国物語 朝びらき丸東の海へ』——ひとりの少年の回心

C. S. Lewis 'The Chronicles of Narnia: The Voyage of the Dawn Treader'

11 回：J. R. R. トールキン 『ロード・オブ・ザ・リング 旅の仲間』——小さな者の大きな役割

J. R. R. Tolkien 'The Lord of the Rings: The Fellowship of the Ring'

12 回：J. R. R. トールキン 『ロード・オブ・ザ・リング 二つの塔』——自らの内にある善と悪

J. R. R. Tolkien 'The Lord of the Rings: The Two Towers'

13 回：J. R. R. トールキン 『ロード・オブ・ザ・リング 王の帰還』——人生の旅路

J. R. R. Tolkien 'The Lord of the Rings: The Return of the King'

14 回：まとめ——文学作品を自分自身の物語に

Outline for the lecture

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で扱う原作本、あるいは邦訳を読むよう指示することがあります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 課題（授業毎のリアクションペーパー）:40%

欠席回数が授業回数の3割を超えた場合は、成績評価の対象とはいたしません。

授業を欠席する際には連絡しなくても結構です。公欠になる場合のみ、後日ご連絡ください。

テキスト / Textbooks

特に指定しません。適宜ハンドアウトを配布します。

参考文献 / Readings

共同訳聖書実行委員会 訳 新共同訳『聖書』 日本聖書協会 1987

『聖書』は何版でも何訳でも構いません。

参考文献は授業ごとに提示します。

その他 / Others

- ・映像資料を活用します。
- ・PC、スマホ、ウェアラブル端末等の使用は、周囲の席の方の迷惑になるため、禁止です。
- ・受講者の迷惑となるため、途中入退室や遅刻は厳禁です。
- ・欠席回数が授業回数の3割を超えた場合は、成績評価の対象とはいたしません。
- ・授業を欠席する際には、連絡しなくても結構です。公欠になる場合のみ、後日ご連絡ください。
- ・本授業では例年、受講のための抽選が行われております。「抽選に三回外れて四度目でやっと当選した」とのご意見も複数聞かれます。本授業に関心はないが楽単だからと誤解されておられる方

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

文学を生み出すキリスト教

Christianity and Literature

文学を通じたキリスト教

大谷 崇 (OTANI TAKASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH113
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

文学作品の読解を通して、キリスト教の精神を学ぶ。つまり、キリスト教はいかなる宗教なのか、キリスト教は何を重視するのか、キリスト教は世界をどのように理解しているのかを知る。それによって、そのキリスト教が世界のさまざまな事物（たとえばヨーロッパ、近代日本、あるいは現代の私たちの常識）にどのような影響を与えたのか、そして与え続けているのかを理解する。最後に、それが文学作品においていかに表れており、いかに扱われているのかを知り、文学に対する理解を深め、自らの視野を広げる。

The purpose of this class is to study the spirit of Christianity through the reading of literary works. In other words, to learn what kind of religion Christianity is, what it emphasizes, and how it understands the world. In doing so, we will learn how Christianity has influenced and continues to influence, various things in the world (e.g., Europe, modern Japan, or our common sense today). Finally, by learning how Christian issues are represented and dealt with in literary works, students will deepen their understanding of literature and broaden their own perspectives.

授業の内容 / Course Contents

文学作品（主として小説）を読み、そこに表れているキリスト教の問題意識および背景を説明していく。キリスト教は人間の心や魂といった内面性をとりわけ重視する宗教であり、それゆえ（特に近代の）文学作品におけるキリスト教のテーマは、登場人物の心情の動きを通してよく表現されるため、授業内では人物の内面に重点を置いて説明を行う。その内面の表現にはキリスト教的テーマを背景として持ち、そしてそれは歴史的・宗教的文脈の中にも置かれているので、それも併せて解説していく。

Reading literary works (mainly novels), students will be given explanations of the Christian issues and backgrounds that are expressed in the works. Since Christianity is a religion that places particular emphasis on the inner life of the human heart and soul, and therefore Christian themes in (especially modern) literary works are often represented through the emotional dynamics of characters, we will focus on the inner life of the characters in the class, as well as the historical and religious context of Christianity.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入、キリスト教について基本的概説
- 2 回：遠藤周作『イエスの生涯』
- 3 回：遠藤周作『沈黙』
- 4 回：遠藤周作『深い河』
- 5 回：内村鑑三『余はいかにしてキリスト信徒となりしか』
- 6 回：倉田百三『出家とその弟子』
- 7 回：ドストエフスキー『カラマゾフの兄弟』
- 8 回：トルストイ『光あるうち光の中を歩め』
- 9 回：トルストイ『イワン・イリイチの死』
- 10 回：パスカル『パンセ』
- 11 回：ユゴー『死刑囚最後の日』
- 12 回：三浦綾子『氷点』
- 13 回：永井隆『長崎の鐘』
- 14 回：曾野綾子『無銘碑』

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で各作品をすべて読みきることは不可能なので、各授業の前にあらかじめ作品に目を通しておくこと（高価な書籍等、入手が困難な作品についてはこの限りでない）、ならびに授業内で言及した人物・作品について、各自の関心から理解を深めることが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパーの内容:30%

テキスト / Textbooks

使用しない。テキストおよび資料は授業内で配布する。

参考文献 / Readings

遠藤周作 『イエスの生涯』 新潮文庫 1982 9784101123165
遠藤周作 『沈黙』 新潮文庫 1981 9784101123158
遠藤周作 『深い河』 講談社文庫 2021 9784065234488
内村鑑三 『余はいかにしてキリスト信徒となりしか』 岩波文庫 2017 9784003815120
倉田百三 『出家とその弟子』 岩波文庫 2003 9784003106716
ドストエフスキー 『カラマーゾフの兄弟』 光文社古典新訳文庫 2006 9784334751067
トルストイ 『光あるうち光の中を歩め』 新潮文庫 2005 9784102060124
トルストイ 『イワン・イリイチの死／クロイツェル・ソナタ』 光文社古典新訳文庫
パスカル 『パンセ』 中公クラシックス／中公文庫プレミアム
ユゴー 『死刑囚最後の日』 岩波文庫
三浦綾子 『氷点』 角川文庫
永井隆 『長崎の鐘』 平和文庫
曾野綾子 『無銘碑』 講談社文庫

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

国際社会の中の宗教

Religions in Global Society

一神教（アブラハムの宗教）概論

山城 貢司（YAMASHIRO KOJI）

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH114
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（全回対面）
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

近年は「アブラハムの宗教」とも呼ばれるいわゆる一神教の歴史と教義の核心を学ぶことで、現代世界の土台をなす様々な制度・慣習・イデオロギーなどの意味と由来、そしてそれらの間に現実に横たわる緊張と対立（さらには共存の可能性）についてより深く理解できるようになることを、本コースの目標として定めます。

This course aims to assist students in having a sharp understanding of ideologies, institutions, customs and artifacts in our days and their origins as well as the tensions and conflicts (and the possibility of coexistence) between them, through studying the outline of the history of the so-called Abrahamic religions and the basic contents of their respective doctrines and practices.

授業の内容 / Course Contents

初回では、宗教的人間（homo religiosus）という概念の考察を皮切りに、世界宗教史全体の中に一神教伝統を位置付けてみます。その後、古代イスラエルの宗教という共通の起源からユダヤ教・キリスト教・イスラーム教が独立した宗教システムとして成立していった過程を学んでいきます。その上で、中世から現代にまで至る一神教の流れを概観します。

First, we shall address the question of what is homo religiosus, considering what kinds of approaches are applicable to various religious phenomena, and then place monotheism in the history of religion in general. In the remainder of the course, we shall learn the formative process of Judaism, Christianity and Islam as independent systems, all of which share the religion of the ancient Israelites as the common roots, and how the monotheistic tradition evolved from the Middle Ages to modernity.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：自然・歴史・宗教：イントロダクションに代えて
一神教を学ぶにあたっての基礎知識
- 2 回：古代イスラエルの宗教（1）
- 3 回：古代イスラエルの宗教（2）
- 4 回：古代イスラエルの宗教（3）
- 5 回：ユダヤ教：第二神殿時代からタルムードの編纂まで（1）
- 6 回：ユダヤ教：第二神殿時代からタルムードの編纂まで（2）
- 7 回：ユダヤ教：第二神殿時代からタルムードの編纂まで（3）
- 8 回：キリスト教：原始教団から古代末期まで（1）
- 9 回：キリスト教：原始教団から古代末期まで（2）
- 10 回：キリスト教：原始教団から古代末期まで（3）
- 11 回：イスラーム教：その起源からスンナ派の興隆まで（1）
- 12 回：イスラーム教：その起源からスンナ派の興隆まで（2）
- 13 回：中世における一神教の展開
- 14 回：一神教と近現代：法・政治経済・科学・文学と芸術
結語

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

配布資料中の指定箇所事前に目を通してもらいます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

教科書は使用しません。

適宜プリントを配布します。

参考文献 / Readings

意欲のある学生には別途参考文献を指示します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

専門知識は必要ありませんが、所々で高度な内容にも踏み込むことが予想されるので、集中して聴講してくだ

さい。旺盛な知的好奇心と高い問題意識、そして相異なる複数の考え方を並列的に吟味する柔軟な批判精神を重視したいと思います。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業時間外の学習や最終試験に関する指示などに使用するので、Canvas LMS に何らかの手段でアクセスできることが望ましいです。

その他/ Others

授業自体は通常の講義方式で行いますが、テキスト読解やディスカッションに重点を置くことで、主体的な参加を促すつもりです。

視聴覚教材を積極的に活用する予定です。

授業中や授業前後の質問・反論・コメント等を大いに歓迎します。

面談を希望する場合は、できればeメールなどで事前にアポイントメントをとってください。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

国際社会の中の宗教

Religions in Global Society

グローバルな視点からみた「宗教・公共・中立性」再考

古澤 有峰 (FURUSAWA YUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH115
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（全回対面）Face to face (all classes are face-to-face)
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

グローバルな視点から、宗教の社会貢献や中立性、利他等について再考する。

In this course, we will reconsider religions' contributions, neutrality, and altruism towards society from a global standpoint.

授業の内容 / Course Contents

国際社会の中の宗教をめぐる課題や問題点（宗教の社会貢献や公共における宗教的中立性など）について、具体例の検証などを通じて学習・理解を深める。

In this course, we will learn about various matters and issues concerning religions in global society (contributions of religion to society, religious neutrality of societies, etc.). Students will deepen their understandings through the examination of concrete examples.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入：「宗教」を取り巻く諸問題について、国際社会の中の宗教という観点から再考する

2 回：宗教・中立・公共性—講義理解のための“理論入門”

- 3回：国際社会の中の宗教①災害支援は誰のためか（1）赤十字の思想と実践を例に
 4回：国際社会の中の宗教①災害支援は誰のためか（2）阪神大震災を例に
 5回：国際社会の中の宗教①災害支援は誰のためか（3）東日本大震災を例に
 6回：国際社会の中の宗教②あなたのからだは誰のものか（1）中絶論争を例に
 7回：国際社会の中の宗教②あなたのからだは誰のものか（2）臓器移植を例に
 8回：国際社会の中の宗教②あなたのからだは誰のものか（3）終末期医療を例に
 9回：国際社会の中の宗教③心と魂のケアは何のためか（1）心のケア、その課題と問題点
 10回：国際社会の中の宗教③心と魂のケアは何のためか（2）スピリチュアルケアの功罪①
 11回：国際社会の中の宗教③心と魂のケアは何のためか（3）スピリチュアルケアの功罪②
 12回：国際社会の中の宗教③心と魂のケアは何のためか（4）スピリチュアルケアの功罪③
 13回：国際社会の中の宗教③心と魂のケアは何のためか（5）音楽と癒しを例に
 14回：まとめ・授業総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :41%
 平常点割合 :59% 初回レポート:19% 中間レポート:40%

テキスト / Textbooks

特に指定しない

参考文献 / Readings

必要に応じて提示する

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

国際社会の中の宗教

Religions in Global Society

グローバル化と宗教

藁科 智恵 (WARASHINA CHIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH116

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

宗教現象、またそれに関わる歴史的、現代的諸問題を、批判的に分析、思考するための基礎を身につけることにより、我々を取り巻く世界を理解することを目的とする。

In this course, students will learn basic knowledge and skills to analyze various historical and modern issues concerning religious phenomena. In doing so, we aim at a better understanding of the world which surrounds us.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、「グローバル化する国際社会における宗教」という主題を考える上で必要な基本的な事柄を学んでいく。まず、グローバル化とは何か、宗教とは何かという根本的な問いを考えることから始める。そして、政教分離という要件を含んだ近代になって現れる宗教教育という現象に焦点を当て、この問題の歴史的変遷、地域的バリエーション等を検討していく。このような知識を踏まえた上で、ドイツ、日本における状況を事例として、受講者とともに考えていく。

In this course, students will learn basic knowledge necessary to analyze the subject of religion in this continually globalizing society. We will start by considering fundamental questions, such as “What is globalization?” and

“What is religion?” We will focus on religious education, which first appeared in modern societies with the separation of church and state. Historical changes and regional variations of this issue will be examined. We will also look at the cases of Germany and Japan.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：宗教とは何か 1
- 3 回：宗教とは何か 2
- 4 回：グローバリゼーションとは何か
- 5 回：近代における宗教 1
- 6 回：近代における宗教 2
- 7 回：近代の「問題」としての宗教教育 1
- 8 回：近代の「問題」としての宗教教育 2
- 9 回：ドイツを事例として 1
- 10 回：ドイツを事例として 2
- 11 回：ドイツを事例として 3
- 12 回：日本を事例として 1
- 13 回：日本を事例として 2
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業内容を復習し、次回授業に備える。予習に関しては適宜授業内で指示する。また、期末レポート作成のための課題図書を各自で読み進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%
 平常点割合 :30% 最終レポート割合 :30%
 毎回アクションペーパーを提出してもらう。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

授業への積極的参加を歓迎します。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 学びの精神

現代社会の中の宗教 1

Religions in Contemporary Society 1

「生殖技術」といのちの尊厳

梅澤 弓子 (UMEZAWA YUMIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH117
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「生命倫理」の課題の中から、いわゆる「生殖医療」と「生殖技術」に関わる問題に焦点を合わせ、実状の把握に努めるとともに、今後のわたしたちの社会の在り方と自身の生き方を尋ねる。

Among various issues relating to bioethics, this course will especially focus on issues surrounding reproductive medicine and reproductive technology. We will make an attempt to gain an understanding of the reality of such ideas and ask ourselves about the future of our society and ways of life.

授業の内容 / Course Contents

「生殖医療」の実状や「生殖技術」の実態を学び、その根柢にある人間理解を検討する。この作業を通して、わたしたちの社会の内や自身の中にある「いのち」や「人間」についての価値観を掘り起こして問い直し、あるべき社会の姿とその社会形成への参与を模索する。筆記試験の他に、複数回の小レポート提出を課す。

We will learn the reality of reproductive medicine and reproductive technology, and consider the understanding of people that underlies such ideas and policies. Through this process, we will uncover and reconsider values about life and people that exist inside our society and ourselves, and seek for an ideal state of society and ways to

participate in forming such a society. You will submit several small reports too.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション キリスト教倫理学と人間の責任
- 2回：生命倫理の諸課題へのキリスト教倫理学の呼応
- 3回：AIHとAID①
- 4回：AIHとAID②
- 5回：「子どもをつくる」ということ
- 6回：IVFをめぐって①
- 7回：IVFをめぐって②
- 8回：「受精卵」・ヒト・人間
- 9回：代理出産・代理母①
- 10回：代理出産・代理母②
- 11回：着床前診断
- 12回：出生前診断①
- 13回：出生前診断②
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回ごとに、授業内でとりあげた事柄について振り返り、自身の問いや見解をまとめておくこと。次の授業時に意見発表を求められることがある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 複数回の小レポート:30% コメントペーパー:20%

2/3以上の出席がない場合には成績評価の対象としない。筆記試験の他に、複数回の小レポート提出を課す。

テキスト / Textbooks

基本資料は授業時に配布する。

参考文献 / Readings

授業時に指示する。

その他 / Others

マイクを廻しての資料輪読あり。グループに分かれての議論や全体討論も行う予定。意見発表を求めらるので、主体的かつ積極的な参加を期待する。私語厳禁。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

現代社会の中の宗教 1

Religions in Contemporary Society 1

現代社会とキリスト教

柳堀 素雅子 (YANAGIBORI SUGAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH118
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面（全回対面）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義の到達目標は、

- （1）現代社会の中で、キリスト教がどのような状況にあるのかを理解すること
- （2）キリスト教の特徴を理解すること

The goal of this course are to

- (1) understand what is the situation of Christianity in the modern world
- (2) understand the Characteristics of Christianity

授業の内容 / Course Contents

この授業では、現代社会において「性的少数者に関する問題」「バイオエシックスに関する問題」は、大きく変化していることを学びます。さらにそれらの問題について、キリスト教はどのように向き合っているのかを学びます。グループ討論を活発に行ないます。この授業の終了時には、学生は自分の見解を理論化できるようにします。

This course introduces that in modern society, the issues of sexual minorities and bioethics are changing

significantly. We will learn how to deal with such changes in the modern Christian world.

We will actively engage in group discussions. At the end of the course participants are expected to be able to theorize my views,

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：LGBTQの問題について
- 2回：欧米のキリスト教とLGBTQの問題の対立状況について
- 3回：キリスト教はLGBTQの問題をどのように解決しようとしているのか？
- 4回：LGBTQの問題についてのグループ討論
- 5回：キリスト教とLGBTQの問題の対立点を、どのように解決するかについてのグループ討論
- 6回：バイオエシックスの始まりと理論
- 7回：生命誕生に関するバイオエシックスの問題
- 8回：生命の終わりに関するバイオエシックスの問題
- 9回：バイオエシックスの問題とキリスト教教義の対立点
- 10回：キリスト教は、バイオエシックスの問題をどのように考えるか？
- 11回：バイオエシックスの問題についてのグループ討論
- 12回：バイオエシックスの問題とキリスト教の対立点を、どのように解決するかについてのグループ討論
- 13回：現代のキリスト教界が解決しなければならない課題について
- 14回：キリスト教の今後に向けて

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業前に Web 上で資料を配布しますので、読んでおいてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :43%

平常点割合 :57% レポート課題（複数回）:40% グループ討論の内容:17%

単位取得には、80%以上の出席が必要です。

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

必要に応じて、その都度多くの文献を紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

幅広い視野で、現代の問題に対応し、解決しようとする能力が求められます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコンが必要です。

その他 / Others

毎回、出席状況を確認します。単位取得には 80%以上の出席が必要です。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

現代社会の中の宗教 1

Religions in Contemporary Society 1

「わたし」「我々／われわれ」「いのち」を考える

鳥居 雅志 (TORII MASASHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH119
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代社会において見られる倫理／生命倫理的問題について、問題の確認やそれに対する批判・検討を行いながら、それがどこから語られているのか、それを語る自分自身はどのようにあるのか、ということに向き合う視点を持つための足掛かりをつくる。

In this course, we will examine various issues related to the ethics and bioethics found in present day society. Students will identify, assess, and consider the issues, ascertaining from where they arise while identifying their points of view on the matters. This course aims to provide an opportunity to express many differing viewpoints.

授業の内容 / Course Contents

倫理／生命倫理において問われる問題、特に「わたし」「われわれ」「いのち」といった問題は、それを語る自分自身が問われてくる問題でもある。本授業では、まず、そういった問題について、幾つかの倫理／生命倫理的テーマを扱うことによって確認・検討を行う。その上で、そこで確認・検討した問題に対して、幾人かの哲学者・思想家の見解を確認・検討・参照し、その者たちが語ろうとしているところ—それは〈宗教の源泉〉を感じさせるものであったりする—からどのように向き合っていけるのか、そして「わたし」「われわれ」「いのち」

ち」はどのようなあり様をしているのかといったことを考究していく。

なお、授業後に毎回コメントを提出してもらいますが、そのコメントペーパーは匿名化した上で皆と共有し、より多くの意見を知ることによって見識を広めてもらうつもりである。また、授業は提出してもらったコメントの紹介や、コメント同士の議論、疑問への応答、コメントへの応答などをしつつ進めていくため、積極的な参加を望む。授業の進行や扱うテーマも、受講者の関心や社会状況などに応じて適宜調整する予定である。

また、理解を深めるために、映像資料も用いるつもりである。(グループに分かれてディスカッションをしてもらうことも考えている。)

Questions related to ethics and bioethics, particularly ones relating to "I/me", "we/us", and "life", are questions one is quite likely to have posed to them should they ever discuss the topic. In this course, we will begin by discussing various ethical and bioethical topics relating to these questions in order to identify and consider the issues at hand. Upon doing this, we will identify, consider, and reference the opinions of philosophers and how they relate to the basis of of religion. From this, we will develop various differing viewpoints as we examine what the ideal states of "I/us", "we/us", and "life" should be.

After the class, you will be asked to submit your comments. These comments will be anonymous, and the comments will be shared. This enables students to be exposed to differing viewpoints and helps them to widen their perspective. It is desirable that you participate actively, as the class will involve sharing submitted comments. In addition to discussions between students with different views, and answering questions and comments. The course will proceed by answering the questions and arguments. Topics and material covered are planned to be adjusted based on the students' interests and current world events.

Additionally, video materials will be used in order to cultivate a better understanding. (It is also planned for students to divide into groups and hold discussions.)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：導入：我々と倫理と「宗教」
- 2 回：「宗教」と価値観・世界観 1
- 3 回：「宗教」と価値観・世界観 2
- 4 回：「宗教」と価値観・世界観 3
- 5 回：現代と「宗教」 1
- 6 回：現代と「宗教」 2
- 7 回：現代と「宗教」 3
- 8 回：倫理／生命倫理への導入・基礎 1
- 9 回：倫理／生命倫理への導入・基礎 2
- 10 回：倫理／生命倫理における諸問題 1
- 11 回：倫理／生命倫理における諸問題 2
- 12 回：倫理／生命倫理における諸問題 3
- 13 回：哲学者・思想家の見解
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	○

上記いずれも用いない予定

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

共有するコメントは必ず読んでおいて欲しい。また、授業で触れたテーマで興味のあるものに関する文献や、授業時に紹介する参考文献で興味のあるものを数冊読んでみて、自分なりの見解を深めてもらいたい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 毎回提出してもらおうコメント+小レポート（最低2回提出）:40% 授業への参加協力度:10%

2/3以上の出席がない場合は成績評価の対象としません。なお、授業内に設ける出席確認時間に行っていただく「出席のご登録」と授業後の「コメントの提出」の両方を以て「出席」と見做します（出席数も評価に関係します）。また、小レポートの提出2回も必須とします（小レポートについての詳細などは別にご案内します）。※他の受講者の学びを妨害するような行為や不正と見做されるような行為はご遠慮ください（酷い場合には、大幅な減点をします）。

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

授業時に適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

・積極的に他の受講者から学び取り、自身の考えを深める姿勢

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業内での意見共有などに Google フォームや ZOOM ミーティングルームのチャット機能を用いることがあるので、PC やスマートフォン、タブレットなどを持参していただくと助かります。

その他 / Others

授業への積極的なご参加とご協力、どうぞよろしくお願いいたします。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

現代社会の中の宗教 2

Religions in Contemporary Society 2

De sapientia

阿部 善彦 (ABE YOSHIHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH120

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代世界における宗教の意義を知恵・叡智という観点から考察する。それを具体的なテキストを通じて、その語りかけるものを聞き、徹底的に思考停止せずに考え抜くことがこの科目の主眼目である。

われわれは歴史的存在であり、今この身において生きている現実と切り離して問うても空虚である。われわれの存在への問い、人間本性への問い、人間の宗教性への問い、そうしたわれわれ自身への問いと密着しながら、探求を進めてゆくことが求められる。したがって借り物の知識ではなく自分でどこまで徹底的に学び考えたかが重要になる。そのために、自らの

Quid est sapientia? To address this question, students will read specific texts, internalizing their meanings while thinking critically to answer the question.

We are historical beings, so the question must seriously consider the reality in which we are living. Students will keep the following in mind during their investigation: questions regarding our existence, human nature, and the religiosity of humanity, as well as questions directed inwards at ourselves. Therefore, it is important that students cultivate their own understandings rather than borrowing from experts. To that end, students will be

required to express their own thoughts and deepen them through presentations, dialogues, and discussions. Note that the contents may change according to the students' situation and other factors.

授業の内容 / Course Contents

近現代以降の人間精神史的状況をかえりみつつ、宗教伝統における知恵・叡智を、いわゆる神秘主義、神秘思想の観点をまじえて考察する。その際、サブタイトルおよび目標にあるように、テキストを通じて、知恵をはじめ、無分別智、慈悲、愛、真理、人間の尊厳、人格、自由、真理をめぐる根本的かつ現代的問題への沈潜してゆく。とりわけ、今日における、諸分断、諸対立の問題を近現代的知のありように不可避的に絡み取られている問題として取り上げる。

While considering the fundamental definition of Christianity, we will utilize different texts to ponder various secondary goals, namely fundamental yet modern issues surrounding language, truth, human dignity, individuality, and freedom.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：現代社会における宗教の問題性
- 3回：知恵という問題設定について
- 4回：テキスト読解に向けて
- 5回：テキストにもとづく検討1
- 6回：読解
- 7回：討議
- 8回：テキストにもとづく検討2
- 9回：読解
- 10回：討議
- 11回：テキストにもとづく検討3
- 12回：読解
- 13回：討議
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習復習については授業内で指示する。

課題の提出に際しては Master of Writing を参照のこと。

指定する LMS を使用するが、使用法が分からない場合やトラブルは各自の責任でメディアセンターに確認すること。

当然のことであるがコピー（授業ノートを含む）や剽窃には厳しく対応する。

<https://www.youtube.com/watch?v=IxM1e4W1S8I>

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :41%

平常点割合 :59% 授業に関する活動（予習復習そのほか課題の提出と内容の精度を含む）:59%

借り物の知識ではなく自分でどこまで徹底的に学び考えたかが重要であり、そのために、自らの考えを言葉によって示し、発表、対話、討議をつうじて深めることが求められる、と目標で示していることからあきらかなように、筆記試験における論述、授業内活動、レポート、そして授業内で指示された予習課題と復習課題の精度が重要である。いずれも授業担当者の指示をふまえて積極的に行うことが求められるので、受講希望者は留意すること。なお授業マナーについて注意された受講者は授業に関する活動を0点とする。課題やそのほかの指示が e-mail、

テキスト/Textbooks

金子晴勇 『キリスト教思想史の諸時代 別巻2 アウグスティヌスの『三位一体論』を読む』 ヨベル社
2024 9784909871497 ○

アンリ 『野蛮』 法政大学出版局 1990 9784588002984 ○

村松・川瀬ほか 『アンリ読本』 法政大学出版局 2022 9784588151279 ○

土橋茂樹 『教父哲学で読み解くキリスト教』 教文館 2023 9784764261761 ○

金子晴勇 「良心」の天路歷程 ヨベル社 2023 9784909871978 ○

テキストの購入は各自の判断に任せる。使用する文献資料は授業内で指示する。

参考文献 / Readings

Michel Henry Können des Lebens : Schlüssel zur radikalen Phänomenologie ALBER 2017
9783495489253

D. Mieth Ketzerflammen in Paris: Marguerite Porete, Meister Eckhart und die Intrigen der Inquisition der
blaue Reiter 2024 9783933722881

J. Brachtendorf Augustinus de Genesi Ad Litteram Brill Schoningh 2021 9783506791283

Maine de Biran Die innere Offenbarung des "geistigen Ich" : Drei Kommentare zum Johannes-Evangelium
ECHTER 2010 9783429033118

Bernard McGinn The Persistence of Mysticism in Catholic Europe: France, Italy, and Germany, 1500-1675
Herder 2023 9780824598860

Meister Eckhart Meister Eckhart. Deutsche Werke Band 4,3 Kohlhammer 2024 9783170437890

J. Brachtendorf Die Struktur des menschlichen Geistes nach Augustinus Paradeigmata 2000
9783787314355

なお、映像資料としては、MINAMATA、SHOAH、など考えている。こちらも図書館で閲覧可能であるので事前に確認しておくこと。

その他/Others

授業内の活動また進め方については担当者の指示に従うこと。

授業ではディスカッションを行うことがあるので積極的に参加できることが必要。

授業の内容は受講者の状況などによって変更される場合がある。

課題の提出に際しては Master of Writing を参照のこと。

ITを使用するが、使用法が分からない場合やトラブルは各自の責任でメディアセンターに確認すること。

当然のことであるがコピー（授業ノートを含む）や剽窃には厳しく対応する。

<https://www.youtube.com/watch?v=IxM1e4W>

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

現代社会の中の宗教 2

Religions in Contemporary Society 2

消費主義社会における「宗教」の理念と実践

加藤 喜之 (KATO YOSHIYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH121
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

宗教は現代社会における大きな矛盾のひとつである。科学技術や情報通信技術が目覚ましい発展を遂げる一方で、宗教の勢いもまたグローバル化する社会の中で弱められてはいない。もちろんここでいう「宗教」は、制度や権威によって支えられてきた伝統的な宗教をささない。いうまでもなく、欧州のキリスト教信者数は減少を続けているし、日本においても家庭における神棚の数は減り、仏式の葬儀さえも減少傾向にある。これは近代化が進めば宗教は必然的に衰退するとした世俗化論者たちのいう通りである。しかしながら、ひとたび制度や権威から離れて宗教

It has long been said that in order to understand the modern world, one needs to have an understanding of religion. However, we only grasp religion in terms of actual phenomena, and just how much do we understand the various historical and scientific premises upon which these phenomena are based? Furthermore, Japan is a relatively special place from the standpoint of religious studies, as it would be accurate to say that we are generally unaware of our own religious tendencies. In 2024, there will be elections that may radically change the course of the world, as exemplified by the U.S. presidential election, and in the U.S., religion will continue to

exert a major influence, as evidenced by the presence of evangelicals. Therefore, in this course, we will examine the workings of our perceptions, which govern religion and religious experiences. Furthermore, we will strive to attain a structural understanding of the roles that various religions play within society as organizations.

授業の内容 / Course Contents

現代社会の中の宗教の分析にまず必要なのは、宗教について我々が抱きがちな偏った理解を正すことである。日本に暮らす多くのひとが自らを無宗教とみなす一方で、初詣参拝やおみくじ、さらには占いには余念がない。こうした一見矛盾する状況は、近代日本において「宗教」という言葉が使用されるようになった経緯、さらには宗教学という学問が成立した背景を理解することで明らかにされるだろう。また、消費主義的な社会が成立した現代において、消費者が消費するのはモノに限られず、あらゆる記号、あるいは情報を含み、それには宗教的なものも含まれる。とするならば、伝統的な宗教が影響力を持っていた、生と死についての理解も今日においては大きな変容を遂げざるをえないと考えるべきだろう。以上の主題に加えて、本講義では、国家と宗教の関係、新興宗教や宗教原理主義、さらには宗教学を構成するいくつかの学術領域とその主要な問題を見ていく。それによって学術的に宗教について考察を深めるといことがどのようなことなのかを明らかにしていきたい。本授業では、伊原木他編『宗教学』（昭和堂、2023年）を毎週読み、その内容と関連する講義を行う。また、リフレクションペーパーやグループディスカッションを通して、自らの見解を論理的に述べるという技術も実践する。

In this course, we will begin with a philosophical analysis of what it means to “believe” in something. We will continue with a historical and systematic analysis of the function of religion within society. In particular, we will shed light on the relationship between religion and state, which has received special attention in the field of religious studies in recent years. Furthermore, students will learn the special place of Japanese society within the field of religious studies, while deepening their understandings of the religious phenomena present within it. Finally, we will touch upon the concepts of new religion, irreligion, and secularity, reviewing the significance of religion in modern society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：日本における「宗教」を考える
- 3回：宗教を学問の対象とすることについて
- 4回：消費される宗教財
- 5回：宗教とスピリチュアリティ
- 6回：生と死の意味を問う
- 7回：宗教と政治：国家神道のなりたち
- 8回：宗教における儀礼：大嘗祭を考える
- 9回：新宗教と消費宗教のはざままで：オウム真理について考える
- 10回：アニミズムの宗教史的な考察
- 11回：宗教回心の心理学的な考察
- 12回：世俗化論の検証と批判：グローバル化と原理主義
- 13回：無神論と無宗教
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 教材 (パワポ等) の使用 上記以外の視聴覚教材の使用

個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で配布するスケジュールを確認し、その週の課題テキストを授業開始までに読んでおく。リフレクションペーパーには、テキストや講義の疑問点や自分の経験と比較させたときに出てくる考察などを記す。事前に設問と字数が提示されるので、論理的な文章で答える。書き方は、「Master of Writing」を参照。課題は立教時間上にアップロードすること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リフレクションペーパー（二回）:40%

3/4 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。二度以降の欠席は、自動的に受講者の評定を一段落さげることにつながる。また次の行為も、評定を一段落さげる対象となる。居眠り、授業の内容と関係ない目的での電子機器の使用、脱線の範囲を超えた私語。

テキスト / Textbooks

伊原木大祐、竹内綱史、古荘匡義編集 『宗教学』 昭和堂 2023 9784812222157 ○

授業時に適宜指示する

参考文献 / Readings

授業時に適宜指示する

その他 / Others

教員がウェブメディア NewsPicks で連載している「宗教とグローバル社会」のリンクはこちら。

<https://newspicks.com/topics/religionandglobalsociety/>

欧米の政治と宗教がどのように関係しているかを国ごとに分析しています。本講義のなかでもいくつかの論考には言及するつもりです。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

現代社会の中の宗教 2

Religions in Contemporary Society 2

宗教と社会

鹿住 輝之 (KASUMI TERUYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH122
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

一口に宗教と言っても、実際には様々な個別具体的な事象があり、その歴史的、政治的状況と切っても切り離すことができない。そのような宗教と当該社会の関係性を考慮しつつ、現代の宗教の状況を分析することを目標とする。

Even if we speak of religion in a single word, there are in fact a variety of individual concrete events that cannot be separated from their historical and political context. Our aim is to examine the situation of religion today, considering the relationship between religion and the society concerned.

授業の内容 / Course Contents

近代化に伴い、宗教が政治的領域をはじめとする様々な領域において影響力を失っていくという世俗化論は、アメリカの福音派やイスラーム主義など、二十世紀後半の宗教復興運動の登場により、批判にさらされるとともに、大幅な修正を余儀なくされた。加えて今日では、パワースポット巡りや御朱印集めなどの流行に見られるように、宗教は消費社会の中で新たな意味付けを得ている。したがって宗教が、政治的領域の内外でいまなお多大な影響力を持っていることは否定しがたいだろう。本講義では、日本や諸外国で宗教が社会的にどのよ

うな役割をもち機能してきたかについての歴史を追う。その後、新宗教や宗教復興運動、スピリチュアリティなど、現代において宗教と関わるいくつかの事象に焦点を当て、それが持つ機能について考えていきたい。

The secularization theory that by modernization religion loses its influence in various spheres, such as the political realm, has come under criticism and had to be substantially revised with the emergence of religious revival movements in the late twentieth century, such as American evangelicalism and Islamism. In addition, today, religion has acquired a new meaning in a consumer society, as seen in the trends for visiting power spots and collecting red ink stamps. Thus, it cannot be denied that religion still exerts a huge influence both inside and outside the political realm. In this lecture, we will trace the history of the social roles and functions of religion in Japan and other countries. We will then focus on some of the contemporary phenomena related to religion, such as new religions, religious revival movements, and spirituality, and consider their functions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：日本人の宗教観(1)
- 3回：日本人の宗教観(2)
- 4回：キリスト教とローマ帝国
- 5回：中世キリスト教世界
- 6回：宗教改革と絶対王政
- 7回：国民国家と宗教学
- 8回：世俗化論
- 9回：日本の新宗教
- 10回：現代アメリカの宗教
- 11回：イスラーム主義
- 12回：現代のスピリチュアリティ
- 13回：現代のスピリチュアル・マーケット
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で扱った人物やその思想について、参考文献や授業時に紹介する文献を用い、理解を深めることが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% リアクションペーパー:25% 小レポート:25%

毎授業後のリアクションペーパーの提出、学期中二回の小レポートの提出を求めます。2/3以上の出席がない場合、成績評価の対象としません。

テキスト / Textbooks

使用しません。資料等については、授業時に配布します。

参考文献 / Readings

- 阿満利磨 『日本人はなぜ無宗教なのか』 筑摩書房 1996年 9784480056856
島藺進 『ポストモダンの新宗教』 法蔵館 2001年 4490204477
島藺進 『宗教学キーワード』 有斐閣 2006年 4641058830
磯前順一、山本達也編 『宗教概念の彼方へ』 法蔵館 2011年 9784831881748
田上雅徳 『入門講義キリスト教と政治』 慶応義塾大学出版会 2015年 9784766421835
岡本亮輔 『宗教と日本人』 中央公論新社 2021年 9784121026392

上記の参考文献は、履修する上で必読ではありませんが、講義の理解の助けとなるものです。
その他の文献は、適宜授業内で紹介します。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

人文学からの学び（文学）

Humanities(Literature)

文学という学問は何をやっているのか？

淵田 仁 (FUCHIDA MASASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH123

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

文学研究という営みを理解し、文学研究の歴史と未来について学ぶ。また学生の書く力の向上も目指す。

Students learn about literature as a discipline, its history, and its future. This course aims to improve students' writing skills.

授業の内容 / Course Contents

本講義では 18 世紀フランスを軸に、文学研究が何を対象としているのかについて学ぶ。

本講義は文学という学そのものについて考える機会でもある。現代文のテストでよくある「下線部を読んで著者の気持ちを説明せよ」という問いに不信感を抱いていた学生を歓迎する。テキストを読むとはどういうことか、について講義全体を通じて考えていきたい。

また、本講義はディスカッションといったアクティブラーニング的グループワークも実施予定である。

This lecture will focus on 18th century France to clarify what literary research does. This course will also be an opportunity for students to think about literature itself. I welcome students who distrust the question "Read the underlined part and explain the author's feelings," which is a common question in contemporary writing exams.

Through the whole course, I would like to think about what it means to read texts.

Students will be required to read the works in preparation for the classes. Therefore, advance study is essential for each class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：文学は不要？
- 2 回：誰が文学を書いているのか？：18 世紀フランスの状況
- 3 回：作家の誕生：ルソーの場合
- 4 回：ルソーを読む①：グループワーク
- 5 回：ルソーを読む②
- 6 回：ルソーを読む③
- 7 回：作品を評価する①
- 8 回：作品を評価する②：批評を書く
- 9 回：中間レポートピアレビュー
- 10 回：映画を分析する①
- 11 回：映画を分析する②
- 12 回：文学の未来①：テキストとは何か？
- 13 回：文学の未来②：テキストがどう書かれているか？
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

配布した資料を事前に読むことが求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%
 平常点割合 :50% リアクションペーパー:30% 中間課題:20%

テキスト / Textbooks

適宜、資料を配付する

参考文献 / Readings

参考文献については講義内で適宜指示する

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

中間レポートについては講義内で執筆してもらう予定である。そのため PC を持参ないしレンタルするのが望ましい。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

人文学からの学び（文学）

Humanities(Literature)

文学研究の方法と実践

米山 大樹 (YONEYAMA HIROKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH124

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 日本近現代文学の表現について考察する発想と問題意識を身につける。
 - 文学作品を分析的に読解し、論理的に言語化する方法を身につける。
 - 日本近現代文学の基本的な文学史や同時代コンテキストを理解する。
- To become aware of social issues and new ideas expressed in modern and contemporary Japanese literature.
 - To learn techniques for analyzing literary works and criticism, and how to organize logically and express critically one's own thinking.
 - To grasp the fundamental history of modern and contemporary Japanese literature in its wider social context.

授業の内容 / Course Contents

日本近現代文学の研究方法に関する体系的な知識を学ぶとともに、多彩な表現や重層的な構造に注目して文学作品を読解することで、虚構（フィクション）を論理的かつ主体的に分析する方法を培う。学期後半では、メディア展開や流通・検閲、作家直筆原稿などの作品生成にまつわる資料を用いて、活字として刻まれた内容だけではない文学作品のありようを探る。

具体的には授業計画にある作家・作品を予定しているが、これらは暫定的なものであり変更もあり得る。

In this course, students will gain a systematic knowledge of methods to research modern and contemporary Japanese literature, and learn how to read literary works with attention to their diverse expressions and layered structures. The goal of this course is to cultivate the techniques and skills needed for analyzing fiction both logically and creatively. In the second half of the semester, students will explore the paratexts that surround literary works beyond their original draft and print versions by turning to materials such as multi-media formats, distribution and consumption networks, censorship, and the author's life and historical context in relation to the creation of works.

Please note that while the authors and works for this course are indicated on the course syllabus, they are subject to change depending on such factors as availability, class size, and student interests.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス&アンケート
- 2回：虚構と現実
- 3回：松田青子「スカートの上のABC」
- 4回：メタフィクションと当事者性
- 5回：市川沙央「ハンチバック」
- 6回：描写、比喩、語り
- 7回：尾崎翠「こおろぎ嬢」
- 8回：インターテクスチュアリティ、アダプテーション
- 9回：村上春樹「パン屋襲撃」「パン屋再襲撃」
- 10回：メディア、校異、検閲
- 11回：安部公房「デンドロカカリヤ」
- 12回：作家研究、資料研究、生成論
- 13回：江戸川乱歩旧蔵資料と「レヴェュー殺人事件」
- 14回：授業のまとめ、定期試験の説明、およびアンケート実施等

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

配布資料をよく読んで、授業内に指示された課題を提出する。

（90分程度 *各自の読解・記述の速度に合わせて、計画的に行うこと。）

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業中に指示する課題:30% リアクションペーパー:20%

なお、3/4以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

授業のなかで適宜配布する。

参考文献 / Readings

石川巧, 飯田祐子, 小平麻衣子, 金子明雄, 日比嘉高 編 『文学研究の扉をひらく—基礎と発展』 ひつじ書房 2023 4823411366

小平麻衣子 『小説は、わかってくればおもしろい:文学研究の基本 15 講』 慶應義塾大学出版会 2019 9784766425918

松本和也 編 『テキスト分析入門—小説を分析的に読むための実践ガイド』 ひつじ書房 2016 4894768364

上記以外の参考文献は、授業のなかで適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

日本語で短編小説を通読する能力を必要とする。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

スライド (PowerPoint) の使用を中心として講義を行う。教室のスクリーンを利用するが、必要に応じて授業に PC やタブレットを持参することを推奨する。

リアクションペーパーには「Google フォーム」を使用し、授業中の提出を求める。PC、タブレット、スマートフォンなど、「Google フォーム」を提出できる機器とネット環境を用意すること。

資料の配布・課題の提出・必要事項の連絡には、「Canvas LMS」を使用する。適宜「Canvas LMS」を確認しておくこと。

その他/ Others

課題やリアクションペーパーのフィードバックは授業開始時に受講生全体に対して行う。

その際に受講生に読み上げや応答、受講生同士のディスカッションを求めることもあるので、積極的な受講態度が求められる。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／学びの精神

人文学からの学び（文学）

Humanities(Literature)

アメリカ文学をとおして「赦し」と「忘却」を考える

雨宮 迪子 (AMEMIYA MICHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH125

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

主に建国期のアメリカ文学を読み、とりわけ近年の国際社会において理想化されている「赦し」という概念を批判的に捉える視点を養う。

Through literary works in the American founding era, this course aims to help students critically reconsider the idea of forgiveness, which tends to be idealized in today's global society.

授業の内容 / Course Contents

「どうしてもあの人を赦せない自分は心が狭いのだろうか」、あるいは「自分をいつまでも赦さないあの方は間違っている」——このように感じた経験のある者は少なくないだろう。そういった考えは、数々の復讐の連鎖を目撃してきた近年の国際社会において、「赦し」が広く理想化・義務化されていることと無関係ではない。しかし同時に「赦し」という概念が歴史的に、マイノリティへの残虐行為を許容・隠蔽するために利用されてきたのは事実である。この授業では、建国期アメリカの文学や歴史において、いかに「赦し」と「忘却」——とりわけ、歴史修正主義——とが結びついているかを学ぶ。その上で、あらためて非暴力的かつ修復的な「赦し」の可能性について考察する。

"Am I narrow-minded because I cannot forgive them?" "They are wrong because they never forgive me!"—you might have experienced such feelings. Such sentiments are not unrelated to the widespread view of forgiveness as a virtue and even a duty in today's international communities, which have witnessed countless incidents of revenge. However, it is also a fact that the concept of forgiveness has historically been used to tolerate and conceal acts of cruelty against minorities. In this course, we will explore how forgiveness and forgetting (especially, revisionist history) are intertwined in the literature and history of the United States in the founding era. And we will ultimately consider the possibility of nonviolent and reparative "forgiveness."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：赦すことは忘れること？：ポール・リクル、ジャック・デリダと「赦しの時代」
- 2 回：忘れられない過去がある：アメリカ文学史、映画、ポップソングと記憶のロマンス
- 3 回：思い出せない過去がある：アメリカ文学史、映画、アニメと記憶喪失のロマンス
- 4 回：「トラウマ」と共同体意識：チャールズ・ブロックデン・ブラウンと家族の歴史
- 5 回：忘却とナショナリズム：ワシントン・アーヴィングと合衆国建国
- 6 回：忘れられた人たち：リディア・マリア・チャイルドと人種
- 7 回：復讐の物語とマイノリティ：ゴシック小説、ホラー映画
- 8 回：「慈悲深い」キリスト教徒による「執念深い」先住民の殺戮：建国の歴史
- 9 回：赦しとネイティブ・アメリカン（1）：キャサリン・マリア・セジウィック
- 10 回：赦しとネイティブ・アメリカン（2）：キャサリン・マリア・セジウィック
- 11 回：赦しと奴隷制（1）：ハリエット・ビーチャー・ストウ
- 12 回：赦しと奴隷制（2）：ハリエット・ビーチャー・ストウ
- 13 回：赦しへの道：謝罪・補償・和解にまつわる諸政策
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に課題テキストを必ず読み、毎週リアクションペーパーを提出すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%
 平常点割合 :50% リアクションペーパー:30% 授業態度:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

人文学からの学び（文学）

Humanities(Literature)

メタ思考を磨こう。

井出 万秀 (IDE MANSHU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH126

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

人文学的な営みを概観することで、知的活動についてのメタ思考を磨く。

Re-thinking about thinking and cultural behavior

授業の内容 / Course Contents

講義形式

Lectures on thinking and cultural behavior. Some experiments will be done.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入・概略

2 回：模擬講義とそのプロトコル

3 回：ファーム・形式チェック 1

4 回：ファーム・形式チェック 2

5 回：ファーム・形式チェック 3

6 回：「記憶の場」としての歴史 1

- 7回：「記憶の場」としての歴史2
 8回：「記憶の場」としての歴史3
 9回：「記憶の場」としての歴史4
 10回：科学史1
 11回：科学史2
 12回：科学史3
 13回：科学史4
 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業資料の予習復習。適時だされる宿題。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :41%

平常点割合 :59% 毎回のリアクションペーパー:59%

テキスト / Textbooks

授業時資料配信。

参考文献 / Readings

適時紹介。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

人文学からの学び（思想・教育）

Humanities(Philosophy,Pedagogy)

「戦い」と「平和」についての哲学

佐藤 香織 (SATO KAORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH127

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この科目では、「戦い」と「平和」を具体的な主題として取り上げながら、基本的な哲学的思考の方法および哲学的な議論の読み方を学ぶ。また、自ら思考し、論述する力を身につけていく。

到達目標は、①西洋における「戦い」と「平和」についての哲学的思考と、現代におけるそれらの議論の意義を理解すること②資料を正確に読解し、それに対して自分の意見を述べる能力を身につけること③同じ資料を読んだ上で他の学生がどのように異なる意見を持つかを知り、対話することである。

This course introduces the methodology of philosophical thinking on "war" and "peace" to students taking this course. It also enhances the development of students' skill in logical thinking and academic writing.

授業の内容 / Course Contents

「存在することは戦いである」とは、古代ギリシアの哲学者ヘラクレイトスの言葉である。以来、哲学の歴史の中で、「戦い」と「平和」はしばしば大きな主題となってきた。人はなぜ戦わずにはいられないのだろうか。平和をいかなる仕方で思考することができるのだろうか。

この授業では、こうした問いを出発点として、「戦い」を主題とする古代ギリシア、中世ヨーロッパ、近代ヨー

ロッパ、20世紀の思想からいくつかの哲学的議論および文学作品を取り上げ、内容を理解し、各回でたてられた問いに答えていく。

This course deals with the philosophical arguments on relationship between "war" and "peace".

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入——平和とは何だろうか
- 2回：信仰と戦争／平和——アウグスティヌスから考える
- 3回：正しい戦争はあるか——正戦論を検討する
- 4回：万人の万人に対する闘争とは——ホッブズを起点として
- 5回：永遠平和とは何か——カントの平和論
- 6回：平和のための最終戦争？——カール・シュミットの議論から（1）
- 7回：敵と味方についての考え方——カール・シュミットの議論から（2）
- 8回：「代表的人間」と信頼の問題——エマソンの信頼論
- 9回：道徳的完成主義とは何か——カヴェルの議論
- 10回：中間レポート講評
- 11回：「対面」の意味——レヴィナスの平和論（1）
- 12回：「戦争に先立つ平和」——レヴィナスの平和論（2）
- 13回：米国公民権運動について
- 14回：「戦うことに価値はあるのか」という問いについて

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

配布資料をよく読んで、授業内に提示された課題を復習する（1時間程度）。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 毎回の課題:20% 中間レポート:20%

テキスト / Textbooks

佐藤香織・遠藤健樹・横地徳広 編著 『戦うことに意味はあるのか [増補改訂版] ——平和の価値をめぐる哲学的試み——』 弘前大学出版会 2023 9784910425047 ○

教科書の扱い方については初回に指示する。また、毎回プリントの形で資料を配布する（web上でも授業で用いる資料とスライドを掲載する）。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

資料を読み、レポートを書く日本語運用能力が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

課題はインターネット上で提出するので、スマホ、PCなどを持っていることが望ましい。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

人文学からの学び（思想・教育）

Humanities(Philosophy,Pedagogy)

心と身体にかんする哲学的アプローチ

(Philosophical approach to the mind-body problem)

秋保 亘 (AKIHO WATARU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH128

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ・哲学の歴史的基礎概念を学び、哲学的な思考様式を理解する。
- ・心と身体にかんする哲学上の様々な考え方を題材として、私たちが普段意識することなくそれに寄りかかって思考している知の枠組みをあぶりだし、自分たちの考え方そのものを相対化する視座を身につける。
- ・容易には答えの出ない、あるいは完全な答えなどそもそもないかもしれない問題を、真剣に考え続けることのできる思考の肺活量を鍛える。

- The aim of this course is to help students acquire an understanding of the historical notions of philosophy, and to introduce the manner of philosophical thinking to students.

- The purpose of this course is, based on various philosophical approach on mind and body, to identify the framework of knowledge that our thoughts routinely lean on without awareness, and to acquire a relative perspective on our thoughts itself.

- Also, to develop aerobic capacity for thoughts to achieve ability for constant serious thinking on questions

without easy answers, or questions that may not have a complete answer to begin with.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、西洋哲学の歴史の中で、心と身体、ならびに両者の関係がどのように理解されてきたのかを講じる。

心と身体を厳密に区別し、「心身問題」という哲学・科学上の難問を生み出したとされるデカルト（1596-1650）の思想から出発して、心と身体をめぐる知の枠組みがその後どのように継承され、あるいは変更されていったのかを辿り、心と身体にかんする人間の理解が、時代状況や科学的発見にどの程度依存しているのか、また「心身問題」に対する説得的な回答がありうるのかどうかを検討する。

本授業では、心身問題を以下のように定式化する。

- (1) 心は非物理的なものである。
- (2) 身体は物理的なものである。
- (3) 心と身体は相互作用している。（痛みなどを考えよ）
- (4) 物理的なものと非物理的なものは相互作用できない。

これらのひとつひとつの命題は矛盾なく思考できるが、しかしこれらすべてを一緒に考えると矛盾が生じてしまう——これが心身問題である。

Lectures will be given on how mind, body and their relation were understood in the history of western philosophy.

Starting with the philosophy of Descartes(1596-1650), who is said to have created a difficult philosophical and scientific question called the "mind-body problem" by strictly distinguishing between the mind and the body, we will follow how the framework of knowledge on the mind and the body was succeeded or changed, and consider how much human understanding on their relation relies on the affairs of the time and scientific discovery, as well as whether any persuasive answer to the "mind-body problem" is possible.

In this class, we formulate the mind-body problem as follows.

- (1) The mind is a nonphysical thing.
- (2) The body is a physical thing.
- (3) The mind and the body interact. (Consider your pain.)
- (4) Physical and nonphysical things cannot interact.

Each of these propositions can be considered without contradiction, but when all of them are considered together, a contradiction arises: this is the mind-body problem.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：哲学という知的いとなみについて
- 2回：心身問題の基本的構図(1)
- 3回：心身問題の基本構図（2）
- 4回：デカルトの「私」——身体から区別される精神（心）（1）
- 5回：デカルトの「私」——身体から区別される精神（心）（2）
- 6回：デカルトの「物体」——心から隔絶される機械としての世界
- 7回：デカルトの「人間」——心身合一体としての人間
- 8回：心身の二元論的理と一元論（心についての物理主義）
- 9回：心についての反-唯物論
- 10回：汎心論

- 11回：科学と心身問題：意識の問題
 12回：心と身体についての中立理論
 13回：中立一元論
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回いくつかの文献を紹介するので、自分の興味に合わせて文献を精査する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパーの内容:40%

毎回リアクションペーパーを書いてもらい、その内容に応じて点数化を行う。

リアクションペーパーには、授業を受けての自分の考え（主張）と、どうしてそのような考え（主張）を持ったのかの理由・根拠を記述すること。

テキスト / Textbooks

毎回レジュメを配布する。

参考文献 / Readings

授業内で適宜文献を指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

考えることが苦にならない学生が望ましい。

その他 / Others

- ・リアクションペーパーについては、その回に学んだことをどの程度消化し、自分なりに言語化できているか、またその学びをどのように発展させようとしているかを評価する。
- ・リアクションペーパーの内容にかんしては、次回授業時にフィードバックを行う。
- ・リアクションを参考にして、授業内容を微調整する場合がある。
- ・授業では学生への質問も活発に行う予定なので、積極的な授業態度を求める。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

人文学からの学び（史学）

Humanities(History)

イギリスの社会、政治、文化

田村 俊行 (TAMURA TOSHIYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH129

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業を通じて、学生は次のことができるようになることを目標とする。

いまのイギリスを形成する社会的・政治的・文化的現象への理解を深める。

主要な問題について、歴史的に、批判的に考えることができる。

文化比較の観点から、主要問題について意見を述べるようになる。

At the end of the course, the student will be able to

- have an understanding of the social, political, and cultural phenomena that have shaped contemporary Britain.
- think historically and critically about key issues.
- give their opinion about key issues from a comparative cultural perspective.

授業の内容 / Course Contents

①「チャリティ」。2021年6月、国際チャリティ機関 CAF は「思いやり」に関する調査結果を公表した。それによると、調査対象の114か国中、イギリスは22位、日本は最下位の114位であった。何がこのような差を生み出したのか。第2～5回目授業では、イギリス社会における共生・協働の文化について考える。

②「デモンストレーション」。日本における「デモ」には否定的なイメージが付きまとう。しかし声をあげる行動は、これまで無視されてきた問題について議論するための出発点を生み出す力を持ちうる。第6～9回目授業では、イギリスにおける示威行進の意味を考える。

③「文化財返還問題」。2010年4月、「略奪」文化財問題を協議する国際会議が開かれた。イギリスは、帝国主義時代に植民地から「持ち出し」、200年近く「保存」していた文化財の返還を迫られることになった。「持ち出した」文化財を長らく管理していたイギリスは文化財の守護者なのか、それとも略奪者なのか。第10～13回目授業では、イギリスの文化財をめぐる問題について考える。

1. The research on “charitable giving” ranking made by the Charities Aid Foundation in 2020 showed that Britain was in the twenty-second place among 114 countries, whereas Japan was the lowest. What caused the difference between two countries? This part explores the role of charity in British society in the past.

2. Many Japanese think that a protest demonstration has no power to improve their political situation, so they have a negative attitude to it. A demonstration, however, may have a significant impact for providing a starting point on the matter that have been ignored. This part explores the meaning of the protest movement in Britain.

3. In April 2010, the conference held at Cairo concluded with demands for the return of the cultural properties that the former settler had stolen. Britain, however, have kept ‘removed’ cultural objects ‘properly’ in the British Museum for a long time. So, whether Britain was ‘looter’ or ‘guardian’. This part explores the history of ‘British’ cultural property.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：イギリスのチャリティ
- 3回：チャリティを活かす
- 4回：チャリティの濫用
- 5回：小括：チャリティ（ディスカッション）
- 6回：イギリスのデモンストレーション
- 7回：統治と抵抗の秩序
- 8回：乱された秩序
- 9回：小括：デモンストレーション（ディスカッション）
- 10回：イギリスと文化財問題
- 11回：「略奪」と「持ち出し」
- 12回：文化財の保護
- 13回：小括：文化財問題（ディスカッション）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：	○
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業前に、各回のテーマに沿って、文献・新聞記事・ウェブメディアなどで予習すること。

授業後に、各回のテーマに沿って、自分の考えをノートにまとめておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :42%

平常点割合 :58% 小論（1）:29% 小論（2）:29%

毎回の出席を求める。出席回数が授業実施回数の3分の2に満たない場合は、単位取得不可とする。

テキスト / Textbooks

必要に応じてレジユメを配布する。

参考文献 / Readings

金澤周作 『チャリティの帝国』 岩波書店 2021 9784004318804

佐藤繭香 『イギリス女性参政権運動とプロパガンダ』 彩流社 2017 9784779122835

荒井信一 『コロニアリズムと文化財』 岩波書店 2012 9784004313762

必要に応じてレジユメを配布する。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

人文学からの学び（史学）

Humanities(History)

歴史とは何かを考える

黒岩 漠 (KUROIWA BAKU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH130

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

歴史的過去についての知識を得るだけでなく、歴史を語る意味、歴史家のあり方、歴史表現の方法など、歴史を多角的に考察することができるようになること。

Students will not only acquire knowledge about the historical past, but will also be able to consider history from multiple perspectives, including the meaning of historical narratives, historians' attitudes and methods of historical representation.

授業の内容 / Course Contents

歴史とは何か、なぜ私たちは歴史を語るのか、歴史をどのように語るができるのか。これらの問いを様々な歴史作品（特に歴史書）や歴史家の姿をとおして一緒に考えていきます。基本的には講義形式ですが、質疑応答やディスカッション等をとおして、受講者の積極的な参加を求めます。

What is history, why do we tell history, and how can history be told? We will consider these questions together through various historical works (especially history books) and historians. The course is basically in a lecture format, but may require the active participation through question and answer sessions, discussions, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：歴史を語る意味1：歴史と物語
- 3回：歴史を語る意味2：忘却と想起
- 4回：映像資料鑑賞
- 5回：歴史の語り方1：近代歴史学をめぐって
- 6回：映像資料鑑賞
- 7回：歴史の語り方2：歴史と文化作品
- 8回：周縁から歴史を考える1：マルクス主義と社会史
- 9回：映像資料鑑賞
- 10回：周縁から歴史を考える2：歴史のなかの抵抗と変革
- 11回：歴史を語る意味3：物語の可能性／不可能性
- 12回：映像資料鑑賞
- 13回：歴史学の現在／現在からの歴史学
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習は特に必要としません。ただし配布資料、ノート等をしっかりと見直し、それまでの授業内容を自分なりに考え、復習し、理解したうえで授業に臨んでください。また必要に応じて、授業内で別途指示をする場合があります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%
 平常点割合 :40% 授業態度:20% リアクションペーパー:20%

テキスト / Textbooks

テキストは特に指定せず、授業内で資料を配布します。

参考文献 / Readings

二宮宏之 『全体を見る眼と歴史家たち』 平凡社 1995 9784582761238
 ヴァルター・ベンヤミン 「歴史の概念について」『ベンヤミン・コレクション①：近代の意味』所収 筑摩書房 1995 9784480082169

その他 / Others

本授業では、配布資料に加え、映像資料等も用います。それらの資料には暴力描写が含まれている場合もあることを承知の上でご参加ください。また上記のように、授業内で発言やディスカッションを求めることもあるので、その際には積極的にご参加していただきたく思います。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目
 学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

芸術への扉

Stepping into the World of Art

西洋音楽史概説

大津 聡 (OTSU SATOSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH131
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

西洋音楽の歴史を概観し、それについての基本的な知識を身に付けると共に、中世から現代に至るまで、人間が音楽に何を求め、見出してきたのかを考えていく。

In this course, we will outline the history of Western music, teaching students the fundamental knowledge of the subject. We will deal with the time period from the Middle Ages to present times, considering what humans have sought from music, and what it has helped them discover.

授業の内容 / Course Contents

西洋芸術音楽、いわゆるクラシック音楽の歴史を便宜上区分し、各々の時代を代表するテーマを中心に学ぶ。対象が音楽であるから、視聴覚資料を可能な限り利用するが、いわゆる音楽鑑賞が目的ではないことに留意。

The art of Western music, that is to say, the history of classical music, will be separated from the rest of the material as a matter of convenience. We will focus on learning the representative motifs of each era. Because the subject being studied is music, we will utilize audiovisual materials in class as much as possible. However, it is worth noting that the goal of this course is not to cultivate a sense for appreciating music.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス / 音楽と音楽史
- 2回：中世の音楽
- 3回：ルネッサンスの音楽
- 4回：バロック音楽の諸相 1：オペラの誕生
- 5回：バロック音楽の諸相 2：器楽の隆盛
- 6回：古典派音楽の諸相 1：シンフォニーの成り立ち
- 7回：古典派音楽の諸相 2：近代オペラの成立
- 8回：転換期としてのベートーヴェン
- 9回：ロマン派音楽の諸相 1：絶対音楽 vs. 標題音楽
- 10回：ロマン派音楽の諸相 2：オペラにおけるイタリアの優勢と多様化
- 11回：ロマン派音楽の諸相 3：国民主義音楽、音楽におけるナショナリズム
- 12回：20世紀の音楽 1：新ヴィーン楽派の音楽
- 13回：20世紀の音楽 2：第二次世界大戦後の音楽
- 14回：録音、録画メディアと音楽史

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

西洋音楽通史という授業の性格上、作曲家名や固有の用語が、ある程度前提となるのは避けられない。授業中の説明に全てを期待するのではなく、未知のことは、各自、自発的に調べる習慣を身につけてもらいたい。また、対象とする音楽は時間芸術であるから、授業中の鑑賞には自ずと限界がある。授業時間外に、積極的に各種メディアを用いて補うことを強く期待する。尚、各回授業で使用するスライドは、後日 Canvas LMS にアップする。復習、試験準備に役立てて欲しい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:40%

なお、4分の3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

特定のテキストは指定しない。随時プリントを配布。また、授業中に使用したスライドは PDF ファイルとして、後日 Canvas LMS にアップする。

参考文献 / Readings

初回の授業時に参考文献表を配布するほか、必要に応じて、随時紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

西洋芸術音楽を対象とする授業であるが、特に専門的な知識や技能は必要としない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

本授業では、Canvas LMS を活用する。当然のことであるが、授業の妨げになるため私語は厳禁。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

芸術への扉

Stepping into the World of Art

美術と美術研究の展望

黒岩 三恵 (KUROIWA MIE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH132
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

美術史を中心とした近年の多様な美術研究の基礎を、美術史誕生の歴史を踏まえながら、方法論を中心として学ぶ。

In this course, we will learn about basic methods of art history and other art studies. We will also learn the history of art history, from its birth up to new questions that it faces today.

授業の内容 / Course Contents

西洋美術を中心として、様式論、図像学などの古くからある研究方法から、美術と社会の関係、視像と言語の関係を経て、精神分析学、ジェンダー研究、ポスト・コロニアリズムといった新たな視座に基づく研究まで、大学において美術を研究するための展望を、主要な研究者を紹介し、方法論の解説と作品分析に基づく個別研究によって提示する。

This course will focus on Western art, covering long-used research methods such as style theory and iconography. We will proceed to cover research based on newer perspectives, such as the relationship between art and society or between images and language, the study of psychoanalysis, gender research, and post-colonialism studies. We

will introduce important researchers necessary for those who wish to study art at the university level. The course will be grounded in explanations of the methodologies employed and analysis of the works studied; to that end, individual studies will be presented.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：美術研究の広がり
 2 回：美術とは何か？
 3 回：様式①様式の定義と問題意識
 4 回：様式②絵画、彫刻、建築（古代から中世）
 5 回：様式③絵画を例として（西洋中世・ルネサンスなど）
 6 回：小エッセイ：課題作品の様式分析
 7 回：小エッセイのフィードバック
 美術作品と意味①：図像学とは
 8 回：美術作品と意味②：イコノロジーとは
 9 回：美術作品と意味③：イコノロジーの事例を知る
 10 回：小エッセイ：課題作品の図像学的な分析
 11 回：小エッセイのフィード・バック
 美術研究の広がり：新しいアプローチ①
 12 回：美術研究の広がり：新しいアプローチ②
 13 回：美術研究の広がり：新しいアプローチ③
 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

美術研究の方法論に関わるキーワードは、きちんと理解すること。
 そのことを前提として授業時に小エッセイを書いてもらう予定である。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%
 平常点割合 :50% 小エッセイ（合計）:30% 授業参加度（リアクションペーパー）:20%
 *小エッセイ課題は授業時に提示し、提出は期限内に Canvas LMS で行う。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

基本的な文献・ウェブサイト等については授業時に随時紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

配布資料やリアクションペーパー提出は、Canvas LMS を介して行う。ノートパソコン等を持参すること。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目
 学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

芸術への扉

Stepping into the World of Art

美学——美や芸術をめぐる諸問題

櫻井 一成 (SAKURAI ISSEI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH133
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

美学とはいかなる学問で、どのような問題を扱っているのかを知る。美や芸術に関する自分たちの理解が、歴史的な制約を受けた特殊なものであることを自覚する。芸術を語ることばや芸術経験のうちには、謎やパラドクスが含まれていることに気づく。哲学的問題をみずからの頭で考えることや、意見の異なる他人と討論することの楽しさを知る。

In this course, students will learn what the field of aesthetics is, and what matters it deals with. Students will become aware of the fact that our understanding of beauty and art is a peculiar thing, restrained by various historical limitations. They will realize that there are various mysteries and paradoxes surrounding the words we use to describe art and experience in the arts. Furthermore, students will learn the fun in pondering philosophical issues using their own mind and debating those with opinions that differ from their own.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、「芸術とは何か」「作品の正しい鑑賞法は存在するか」「芸術は何の役に立つのか」「どうすれば創造性を獲得できるのか」といった問いを参加者に投げかけ、参加者と共に、また先達たちと共に、これらの問題

を考えていこうとするものです。言い換えれば、本授業は、たとえば絵画や音楽の鑑賞法を知識として伝授するものではなく、芸術にかんする常識や自分なりの理解を批判的にとらえ直す機会を提供し、参加者を哲学的思索の快楽へといざなうことを目指しています。授業では文献資料および視聴覚資料をもちいます。

In this course, questions such as “What is art,” “What is the correct way of appreciating a work,” “What is art useful for,” and “How does one acquire a sense of creativity?” will be posed to the students. Students will contemplate these issues with each other as well as together with the writings by prominent scholars of the past. To put it differently, this course does not intend to boil down various methods of appreciating paintings and music and teach them to students. Rather, the goal of this course is to provide students with an opportunity to obtain some common knowledge regarding the arts and critically reevaluate their understanding while learning the pleasure of philosophical thinking. Both literature and audiovisual materials will be utilized during the lectures.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション——古代・近代・現代の美の哲学

(授業後に、配布されたプリントを再読するようにしてください。)

2回：芸術はなぜ特別か ①——芸術否定論および科学としての芸術

(前回授業で提示された問題について自分なりに考えてみてください。授業後に、配布されたプリントを再読するようにしてください。)

3回：芸術はなぜ特別か ②——神による創造と人間の制作

(前回授業で提示された問題について自分なりに考えてみてください。授業後に、配布されたプリントを再読するようにしてください。)

4回：芸術はなぜ特別か ③——天才と想像力

(前回授業で提示された問題について自分なりに考えてみてください。授業後に、配布されたプリントを再読するようにしてください。)

5回：美的判断について ①——趣味と無関心性

(前回授業で提示された問題について自分なりに考えてみてください。授業後に、配布されたプリントを再読するようにしてください。)

6回：美的判断について ②——キツチュとかわいい

(前回授業で提示された問題について自分なりに考えてみてください。授業後に、配布されたプリントを再読するようにしてください。)

7回：美的判断について ③——人間の美(進化論)

(前回授業で提示された問題について自分なりに考えてみてください。授業後に、配布されたプリントを再読するようにしてください。)

8回：美的判断について ④——人間の美(美容行為)

(前回授業で提示された問題について自分なりに考えてみてください。授業後に、配布されたプリントを再読するようにしてください。)

9回：フィクションの経験 ①——芸術における不快

(前回授業で提示された問題について自分なりに考えてみてください。授業後に、配布されたプリントを再読するようにしてください。)

10回：フィクションの経験 ②——悲劇とホラー作品

(前回授業で提示された問題について自分なりに考えてみてください。授業後に、配布されたプリントを再読するようにしてください。)

11回：フィクションの経験 ③——芸術と教育

(前回授業で提示された問題について自分なりに考えてみてください。授業後に、配布されたプリントを再読するようにしてください。)

12回：フィクションの経験 ④——美的価値と道徳的価値

(前回授業で提示された問題について自分なりに考えてみてください。授業後に、配布されたプリントを再読するようにしてください。)

13回：社会のなかの芸術 ①——芸術とジェンダー

(前回授業で提示された問題について自分なりに考えてみてください。授業後に、配布されたプリントを再読するようにしてください。)

14回：社会のなかの芸術 ②——集合的行為、協働、分業

(前回授業で提示された問題について自分なりに考えてみてください。授業後に、配布されたプリントを再読するようにしてください。)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、そのつど指示を出します。リアクションペーパーを記入、提出してください（任意）。

特定の芸術作品（映画や小説）を鑑賞してくることなどもそのなかには含まれます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20%

リアクションペーパー:20%

最終テスト割合 :0%

リアクションペーパーを提出することにより加点します。提出は任意です（詳細は授業の際に説明します）。

テキスト / Textbooks

使用しません。毎回プリントを配布します。

参考文献 / Readings

佐々木健一 『美学への招待』 中公新書 2004 4121017412

小田部胤久 『西洋美学史』 東京大学出版会 2009 9784130120586

カロール・タロン＝ユゴン 『美学への手引き』 白水社 2015 9784560510025

西村清和 『現代アートの哲学』 産業図書 1995 9784782802021

井奥陽子 『近代美学入門』 ちくま新書 2023 9784480075840

各回ごとに主題に応じて参考文献を紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

高校世界史（西洋史）の知識があると、授業内容が理解しやすいと思われます。ただし、誰にでも理解できるように説明を行うつもりなので、文系理系の別を問わず受講することができます。考えることが好きな人、常識の外部に出てみたい人の受講を歓迎します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Canvas LMS を利用する環境を整えてください（少なくとも自宅で利用することができれば問題はありませ

ん)。

その他/ Others

本授業は「対面科目」です。

講師と学生のコミュニケーションツールとして Canvas LMS を活用しますので、授業前には必ず Canvas LMS を確認するようにしてください。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

グローバル経済社会を考える

Global Economy and Society

グローバル経済社会の歴史と現状

林 采成 (LIM CHAISUNG)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH134

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

グローバル経済社会の展開プロセスを理解し、長いスパンをもって現在に至るグローバル経済社会に対するパースペクティブを持たせる。

In this course, students will learn about the development process of the global economic system. They will gain a sense of perspective on how the global economic system has arrived at its current state over a long span of time.

授業の内容 / Course Contents

マスコミによってよく膾炙されるグローバル経済社会の様々な問題を取上げ、それを長いスパンをもって理解し、日本だけに止まらず、広い視野からグローバル経済社会の全体像を捉える。また、時間を取って受講者が作成したレポートをプレゼンしたり、特定の論点について議論したりする機会を設ける。

This course will deal with various issues facing the global economic system commonly discussed in the media.

Students will gain an understanding by looking at a long span of time. The course will not be limited to Japan, but rather will have a broad perspective, obtaining a bird's-eye view of the global economic system. In addition, the students will be given time to present reports they have created and an opportunity will be provided for them to

discuss specific issues.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス： グローバル経済社会とは何か
- 2回：東北アジア経済社会を読む
- 3回：東北アジア経済社会を理解する
- 4回：東南アジア経済社会を読む
- 5回：東南アジア経済社会を理解する
- 6回：南アジア経済社会を読む
- 7回：南アジア経済社会を理解する
- 8回：中央アジア経済社会を理解する
- 9回：中東経済社会を読む
- 10回：中東経済社会を理解する
- 11回：アフリカ経済社会を理解する
- 12回：欧米経済社会を理解する
- 13回：欧米経済社会を理解する
- 14回：まとめ： 世界の中での日本経済社会の再発見

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義を受講して質問がある場合やより詳しい学習内容が求められる場合はそれに関連する議論や資料紹介の機会を設ける。普段からグローバル経済社会に関する疑問や問題意識を持ち、それを理解しようとする姿勢が望まれる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% ディスカッション技術など:10%

最終レポート割合 :20%

テキスト / Textbooks

なし

講義資料・ノートを配布する。

参考文献 / Readings

授業時に提示する。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

グローバル経済社会を考える

Global Economy and Society

国際金融の視点からグローバル経済社会を考える。

三谷 進 (MITANI SUSUMU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH135
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

国際金融に関する基本的な考え方を学びながら、グローバル経済社会における国際通貨システムと国際金融市場の経済的意義および問題点についての理解を深めていきます。

In this course, students will learn basic concepts related to international finance. In addition, they will also deepen their understanding through learning about the significance of and the issues with the international monetary system and markets in global economy and society.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、総論として、国際通貨システムと国際金融市場の機能に着目し、その制度的枠組みや理論・歴史等を紹介していきます。各論では、国家、企業、機関投資家等の機能の変化と、それに対する財政・金融政策を意識しながら、適宜、グローバル金融市場、国際金融危機への対応などの、グローバル経済に関連するテーマを取り上げていきます。

This course will generally focus on the functions of international monetary system and markets, introducing their

organizational frameworks and historical backgrounds as well as relevant theory. In more detail, we will be particularly conscious of changes in the functions of nations, corporations and institutional investors, as well as finance/monetary policies effecting them, while touching upon subjects pertinent to the global economy such as global financial markets, and coping with international financial crises.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：グローバル経済社会の現状と課題
- 3回：持続可能な開発目標(SDGs)とサステナブル・ファイナンス
- 4回：グローバル金融市場における ESG(環境・社会・企業統治)投資のあり方
- 5回：国際通貨システムの発展と国際金融危機の諸問題(1)
- 6回：国際通貨システムの発展と国際金融危機の諸問題(2)
- 7回：小括と小テスト
- 8回：グローバル金融市場の現状と課題
- 9回：グローバル金融市場の膨張と「金融の証券化」
- 10回：「証券化」とはどのようなものなのか
- 11回：証券化商品の累積とグローバル金融市場の変化
- 12回：グローバル金融市場の拡大と資金仲介システムの変化
- 13回：金融技術の高度化と国際金融危機の諸問題
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業の終わりに、授業内容に関する感想や質問等を書いたリアクションペーパーを提出して下さい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%
 平常点割合 :20% リアクションペーパーの内容:10% 小テスト:10%

テキスト / Textbooks

特定のテキストは利用せず、講義で配布するレジュメ等の資料で授業を行っていきます。

参考文献 / Readings

講義の際に、適宜、参考文献については紹介していきます。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

グローバル経済社会を考える

Global Economy and Society

世界経済の総合的および体系的な分析を目指す

星野 智樹 (HOSHINO TOMOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH136

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

世界経済を読み解き、自ら掘り下げて探求する力を養う。

This lecture thinks the world economy. Students will develop a skill of research.

授業の内容 / Course Contents

世界経済は、複雑かつ多様であり、幅広い論点を含んでいる。本授業では、このような世界経済を、総合的かつ体系的に分析することを目指す。とくに、一国経済と世界経済をつなぐモノ・カネ・ヒトの移動、および、各国・地域の経済動向に焦点を当てる。

The world economy is complex and diversified. There are a lot of issues. In order to analyze the world economy, we focus on the trade, capital movement, migration, and(or) each country(area).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：世界経済の描き方

2 回：貿易論-「国境を越えるモノの移動」を読み解く

3 回：国際金融論-「国境を越えるカネの移動」を読み解く

- 4回：移民論－「国境を越えるヒトの移動」を読み解く
 5回：対外経済関係を網羅した国際収支を学ぶ
 6回：アメリカ経済（1） アメリカ経済の基本構造
 7回：アメリカ経済（2） 超大国の持つ世界経済へのインパクト
 8回：ヨーロッパ経済（1） 地域統合の歴史的な起源および展開
 9回：ヨーロッパ経済（2） 地域統合における政策
 10回：新興国および発展途上国
 11回：中国のインパクト
 12回：後世に生きる古典を学ぶ
 13回：世界史をつくってきた自然要因と人為的要因の交錯－資源、感染症、環境
 14回：グローバリゼーションを読み解く

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の内容に対応する参考文献、資料やニュースを、予習として事前に読んでおく。また、授業終了後に、授業内容を自分自身の言葉で説明できるように復習する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% レポート（30%×1回の実施）:30%

レポートは、各自で自由にテーマを設定する方式、あるいは、課題図書を提示する方式を予定しています。いずれの方式も、受講生が授業の内容を活用する力、また、自ら課題を設定して探求する力を養うために行ないます。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

山本和人、鳥谷一生 『世界経済論－岐路に立つグローバリゼーション』 ミネルヴァ書房 2023

9784623095407

斎藤修、古川純子 『分水嶺にたつ市場と社会－人間・市場・国家が織りなす社会の変容』 文眞堂 2020

9784830950766

マンフレッド・スティーガー 『1冊でわかる グローバリゼーション 新版』 岩波書店 2010

9784000269049

奥田宏司、代田純、櫻井公人 『深く学べる国際金融－持続可能性と未来像を問う』 法律文化社 2020

9784589040671

妹尾裕彦・田中綾一・田島陽一 『地球経済入門－人新世時代の世界をとらえる』 法律文化社 2021

9784589041234

各授業回に対応する文献は、授業中にアナウンスします。また、現在進行形の内容を盛り込んだ文献は、今後に多く出版される可能性が高いので、その際に紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

授業の冒頭で行う各回のポイントや問題提起を踏まえて、教員からの問いかけへの解答を求める形で自ら考えながら受講してください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業資料を電子配信するため、PDF ファイルを閲覧できるタブレットやノートパソコンを準備できるとベターである。ただし、情報機器を準備できない場合には、電子配信された資料を紙媒体で印刷して持参すれば大丈夫です。

その他 / Others

- (1) レジュメを配布し、レジュメに準拠したパワーポイントを用いて授業を進めていきます。
- (2) 原則として、全授業回対面実施予定です。授業に必要なアナウンスや課題配信は、Canvas LMS を通じて行います。
- (3) レジュメやレポート課題の配布・回収方法については授業内で指示します。学期末筆記試験は、大学からアナウンスされる教室と日時を確認して、受験してください。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

学びの場としての社会

Society as a Field of Learning

現代社会を社会学の見地から考察する

杉浦 郁子 (SUGIURA IKUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH137

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

個人的な経験や「当たり前」と受け止めていた出来事を、社会的想像力を使って考察できるようになる。

At the end of this course, students will be able to practice the sociological imagination to examine personal experiences and events they may have taken for granted.

授業の内容 / Course Contents

社会学は、私たちの暮らしのなかにある課題を発見し、その背景や仕組みを分析することで、社会的な解決をめざす学問である。この授業では、社会的な思考方法のひとつである「社会的想像力」を用いて、さまざまな社会領域で起きている事象や問題について考察する。

社会的想像力とは、個人の選択や経験、私たちが当たり前と受け止めている出来事などを、より大きな社会構造や歴史的背景と結びつけて考察する能力を指す。社会的想像力の利点は、きわめて個人的な問題だと見えていたことが社会的・歴史的に生み出された問題だととらえられるようになることである。これは、問題の根本をとらえ、解決策を見いだすために不可欠なものの見方である。

Sociology seeks solutions by taking up issues in our daily lives and analyzing their backgrounds and mechanisms beyond the appearances of certain issues. In this course, we will use sociological imagination, one of the sociological ways of thinking, to examine events and issues occurring in various areas of society.

The sociological imagination is the ability to connect personal experiences and events that we take for granted to larger social structures and historical contexts. One of the advantages of this imagination is that what appeared to be a highly personal issue can be recognized as a socially and historically produced problem. This is an essential way of viewing things to get to the root cause of a problem and find solutions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：専門用語を学ぶ意味
- 2回：社会学とは
- 3回：社会学の「ものの見方」を学ぶ (1)：「自殺」という現象から
- 4回：社会学の「ものの見方」を学ぶ (2)：「いじめ」という現象から
- 5回：社会学の「ものの見方」を学ぶ (3)：「犯罪」という現象から
- 6回：個人と社会の関係をとらえる (1)：権力をめぐる事象から①
- 7回：個人と社会の関係をとらえる (2)：権力をめぐる事象から②
- 8回：個人と社会の関係をとらえる (3)：権力をめぐる事象から③
- 9回：個人と社会の関係をとらえる (4)：教育をめぐる事象から①
- 10回：個人と社会の関係をとらえる (5)：教育をめぐる事象から②
- 11回：個人と社会の関係をとらえる (6)：教育をめぐる事象から③
- 12回：個人と社会の関係をとらえる (7)：家族をめぐる事象から①
- 13回：個人と社会の関係をとらえる (8)：家族をめぐる事象から②
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の内容を踏まえて考えたことをまとめ、コメントペーパーとして提出する。自分の経験、身の回りで起きた出来事、ニュースで報道された事件などを、社会学的想像力を用いてとらえてみる。それによって気づいたことを誰かに話してみる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%
 平常点割合 :50% 毎回のコメントペーパー:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

C・ライト・ミルズ著／伊奈正人・中村好孝訳 社会学的想像力 筑摩書房 2017 9784480097811

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PCないしモバイル端末

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

メディアからみる学び

Understanding of media studies

デジタル化されたメディアは世界をどのように見えるようにするのか

和田 伸一郎 (WADA SHINICHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH139
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

21 世紀に入り、デジタル化されることによって、メディアの細分化、多様化が進んでいる。この現象は、新しいメディアを日々生み出しつつあるだけでなく、既存のアナログメディアにも浸食し変容を促している。この変化する諸メディアはどのような特性をもっている／もちつつあるか、を理解することを目標とする。

Upon entering the 21st century, fragmentation and diversification of media have been occurring as a result of digitization. This phenomenon is not only resulting in new media being born by the day, but it is also encroaching upon existing analog media through the stimulation of change. This course aims to give students an understanding of the characteristics possessed by, or beginning to be possessed by these ever-changing various forms of media.

授業の内容 / Course Contents

既存のメディアから新しいメディアまで、それぞれの特性とその変化について、具体的事例を示すと同時に、概念化を施しながら論じる。

From existing forms of media to newer forms of media, we will discuss each of their characteristics and variations,

presenting specific examples while also helping students understand them conceptually.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション メディアを通して世界を見る
- 2回：メディアとしてのSNS
- 3回：メディアとしてのビッグデータ
- 4回：メディアとしてのテレビ
- 5回：メディアとしてのYouTube
- 6回：メディアとしての映画①ドキュメンタリー映画
- 7回：メディアとしての映画②フィクション映画
- 8回：メディアとしての映画③セミドキュメンタリー映画（または実話を元にした映画）
- 9回：ソーシャル化するメディア①新聞
- 10回：ソーシャル化するメディア②音楽
- 11回：メディア・リテラシーからデータ・リテラシー、あるいはITリテラシーへ
- 12回：メディアとしてのキュレーション・アプリ
- 13回：メディアとしてのデータ・ヴィジュアルイゼーション
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

複数のメディアを通じて世界を知る際、同じ事件でもメディアによって伝わり方が違うということを意識し、各メディアのどのような特性から、違いが生じているか考えながらメディアに接するよう、日頃から心がけることが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 出席状況、リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

和田伸一郎 『メディアと倫理』 NTT出版 2006 9784757101753

その他、必要があれば、授業内で適宜指示する

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

法と政治の世界

World of Law and Politics

主要国の政治制度

高橋 和則 (TAKAHASHI KAZUNORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH141
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1133
使用言語： その他
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 法学部所属学生随意科目（卒業要件単位に含むことはできない）

授業の目標 / Course Objectives

政治を理解するために主要国の政治制度の理解を深める。

In order to understand politics, students will deepen their understandings of the political systems of principal countries.

授業の内容 / Course Contents

政治を理解しようとするには様々なやり方があるが、政治制度を知るといえるのは一つの重要な方法だろう。主要国、なかんづく我が国の制度は社会に出ても必須となる基本的知識といえる。議院内閣制や大統領制、小選挙区制や比例代表制といった制度を各国は組み合わせているが、運用の仕方が異なり、一様ではない。本講義では主要国の制度を踏まえつつ、それと比較しながら我が国の制度に関する知識を獲得するものとする。それに関する最新の情報を英米の新聞を使って読んでみたい。受講者にワン・センテンスずつ訳してもらおうことを想定している。

There are many methods through which one can attempt to understand politics, and comprehending various political systems is an important one of them. Basic knowledge of the political systems of the principal countries,

particularly Japan, is a necessity once one ventures out into society. Each country employs a combination of parliamentary and presidential systems as well as single-seat constituency systems and proportionate representation systems. Each country's implementation of these systems varies, with no two countries being identical. In this course, students will receive a grounding in the systems of the principal countries, which will be used to learn about the system utilized in Japan through comparison.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：本講義の進行と今後必要になる知識 plan
- 2 回：議院内閣制の成立/イギリス parliamentarism/ Britain
- 3 回：議会主権の確立/イギリス parliamentary system/Britain
- 4 回：大統領制の確立/アメリカ presidential system/America
- 5 回：三権分立の徹底/アメリカ balance of power/America
- 6 回：議院内閣制の「発見」/フランス parliamentarism/France
- 7 回：大統領制化へ/フランス to presidential system/France
- 8 回：前半のまとめ Samary
- 9 回：大統領制から議院内閣制へ/ドイツ from presidential system to parliamentary system/Germany
- 10 回：ドイツ統一後の政治制度/ドイツ political system after unification of Germany
- 11 回：政党内閣から議院内閣制へ/日本 from party cabinet to parliamentary system/Japan
- 12 回：55 年体制と一党優位政党制/日本 political system after WWII/Japan
- 13 回：政治改革と官邸主導/日本 political reform/Japan
- 14 回：後半のまとめ Samary

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は初回講義時に指示する。

inform at first time

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

特定のテキストは使用せず、レジュメを配布する。

参考文献 / Readings

猪口他 『政治学事典』 弘文堂 平成 16 年 9784335460241

廣松他 『岩波哲学思想事典』 岩波書店 1998 4000800892

川崎修他 『岩波社会思想事典』 岩波書店 2008 9784000803120

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

レジュメ・資料の配布は Canvas LMS によって行う

注意事項

- ・2016 年度以降 1 年次入学者対象科目
学びの精神科目
- ・F 科目導入（外国語による総合系科目）
- ・この授業は、主に日本語で行われるが、英語教材（文献や映像等）を使用する。
- ・履修にあたって英語力は問わない。英語「で」学ぶことや、グローバル環境に身を置くことに意欲のある学生の履修を歓迎する。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

法と政治の世界

World of Law and Politics

国制からみる法と政治の関係

松戸 浩 (MATSUDO HIROSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH142
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面(全回対面)
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	法学部所属学生随意科目（卒業要件単位に含むことはできない）

授業の目標 / Course Objectives

国制のありようを通じて法と政治との関係に関する理解を深める。

Students will deepen their understanding of the relationship between law and politics through learning the state of the national system.

授業の内容 / Course Contents

国制としての統治機構を素材として、その成立過程や運用における法と政治との関係を説明していく。政治家や政党、国民といったアクターのおりなすダイナミズムによる国制の形成と運用をみることにより、憲法をはじめとした法により定められる統治機構が所与のものではなく歴史的・場所的被制約性のある内容のものであることが理解されることを狙いとしている。

Using the government structure as a national system, we will explain the relationship between law and politics in its establishment and operation. By looking at the formation and operation of the national system through the dynamism of actors such as politicians, political parties, and the people, we can see that the governing structure established by the constitution and other laws is not a given, but is influenced by historical and geographical

constraints.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：立憲民主制(1)
- 2 回：立憲民主制(2)
- 3 回：日本憲法史(1)
- 4 回：日本憲法史(2)
- 5 回：憲法の基本原理とその運用(1)
- 6 回：憲法の基本原理とその運用(2)
- 7 回：国民と国会(1)
- 8 回：国民と国会(2)
- 9 回：国会と政府(1)
- 10 回：国会と政府(2)
- 11 回：裁判と政治(1)
- 12 回：裁判と政治(2)
- 13 回：財政・地方自治
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

後掲のテキストの該当箇所を予め読んでおくと授業の理解に資する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

大石真 『憲法概論 I』 有斐閣 2021 9784641228092 ○

参考文献 / Readings

参考文献の方は適宜授業中に指示する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

経営学への招待

Introduction to Business Administration

企業の戦略・会計・財務・人的資源管理の基礎を学ぶ

青淵 正幸／佐々木 宏／田中 聡 (AOBUCHI MASAYUKI/ SASAKI HIROSHI/ TANAKA SATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH143
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 担当者/教室については、4月9日(火)18:00以降に履修登録状況画面で確認すること

授業の目標 / Course Objectives

企業経営の戦略、会計・財務、人的資源管理といった3つの専門分野から、具体的にケースを取り上げたいうで、経営学の入門的な内容を学ぶ。

Through looking at specific cases relating to the specialized three fields of business strategy, accounting & financial management, and marketing, students will receive an introduction to business management.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、経営戦略論、会計・財務管理論、人的資源管理論といった3つの専門分野から企業活動を理論と実態の両面から講義を行うことで経営学の入門的内容の講義を行う。その際、3名の担当教員が、それぞれ3つの専門分野について4回ずつ順次講義を行う。各専門の講義においては、まず、専門分野の観点から企業の活動を特徴づけ、次に各専門分野の理論の基礎を学び、最後にその理論に基づき、具体的なケースを通じてその内容の実態面を学ぶ。

なおこの講義では、3つのクラスが同じ内容を学ぶが、ただし、所属するクラスによって学ぶ順序が異なり、また成績評価担当者も異なる。したがって担当者が誰かを確認したうえで、自分が履修した担当者のクラ

スで受講しなければならない。具体的な進め方などについては最初の講義で説明するので必ず出席すること。

In this course, students will learn about the three specialized fields of management strategy, accounting & financial management, and human resource management. In doing so, they will learn about business operations from both the sides of theory and reality, receiving an introduction to the study of business management via the lecture. To achieve this, three instructors will each give 4 lectures on their respective areas of specialization. In each field's lectures, to start, business activities will be characterized from the point of view of the given field. Following this, students will learn the basics of the theory relevant to each field before learning about specific cases grounded in this theory to get a better picture of reality through the course materials. In addition, a short test will be conducted at the end of each field's lectures for the sake of review.

It is worth noting that there will be three separate sections of this course, with each section learning the same material but in a different order. The individual in charge of grades will also differ between course sections. Consequently, once these individuals are determined, students must take the class of the person for which they had registered. Students must be sure to attend the first lecture, as concrete details regarding how the course will proceed will be explained.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：講義の目的、スケジュール、進め方・注意点など
- 2回：会計・経営財務1：企業活動における会計の役割と簿記
- 3回：会計・経営財務2：損益計算書の構造と分析
- 4回：会計・経営財務3：貸借対照表の構造と分析
- 5回：会計・経営財務4：投資意思決定
- 6回：経営戦略論1：企業経営と経営学
- 7回：経営戦略論2：全社戦略
- 8回：経営戦略論3：事業戦略
- 9回：経営戦略論4：マーケティング
- 10回：人的資源管理論1：企業活動における人材マネジメントの役割
- 11回：人的資源管理論2：人材マネジメント論の全体像
- 12回：人的資源管理論3：ケースに見る人材マネジメント（1）
- 13回：人的資源管理論4：ケースに見る人材マネジメント（2）
- 14回：まとめ：講義のまとめ、試験の告知、質問タイムなど

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の講義の復習を行ったうえで、受講すること。また各講義の課題や指示に従い随時予習・課題を行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験	:100%
平常点割合	:0%

テキスト/Textbooks**参考文献 / Readings**

随時指示する。

その他/ Others

★受講当日に科目コードを確認の上、教室を間違わないよう受講すること。

★受講に当たって私語・欠席・遅刻・入退室・携帯電話の使用などに関するルールを設けており、順守できない場合には退室してもらうこともある。ルールについては最初の講義で説明するので、必ずルールを了解した上で受講すること。また講義のお知らせや資料などは CanvasLMS 上にて行うので、操作にあらかじめ慣れておき、適宜参照すること。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

経営学への招待

Introduction to Business Administration

企業の戦略・会計・財務・人的資源管理の基礎を学ぶ

佐々木 宏／青淵 正幸／田中 聡 (SASAKI HIROSHI/ AOBUCHI MASAYUKI/ TANAKA SATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH144
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：
・抽選登録は FH143 で申請すること
・担当者/教室については、4月9日(火)18:00 以降に履修登録状況画面で確認すること

授業の目標 / Course Objectives

企業経営の戦略、会計・財務、人的資源管理といった3つの専門分野から、具体的にケースを取り上げたいうで、経営学の入門的な内容を学ぶ。

Through looking at specific cases relating to the specialized three fields of business strategy, accounting & financial management, and marketing, students will receive an introduction to business management.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、経営戦略論、会計・財務管理論、人的資源管理論といった3つの専門分野から企業活動を理論と実態の両面から講義を行うことで経営学の入門的内容の講義を行う。その際、3名の担当教員が、それぞれ3つの専門分野について4回ずつ順次講義を行う。各専門の講義においては、まず、専門分野の観点から企業の活動を特徴づけ、次に各専門分野の理論の基礎を学び、最後にその理論に基づき、具体的なケースを通じてその内容の実態面を学ぶ。

なおこの講義では、3つのクラスが同じ内容を学ぶが、ただし、所属するクラスによって学ぶ順序が異なる

り、また成績評価担当者も異なる。したがって担当者が誰かを確認したうえで、自分が履修した担当者のクラスで受講しなければならない。具体的な進め方などについては最初の講義で説明するので必ず出席すること。

In this course, students will learn about the three specialized fields of management strategy, accounting & financial management, and human resource management. In doing so, they will learn about business operations from both the sides of theory and reality, receiving an introduction to the study of business management via the lecture. To achieve this, three instructors will each give 4 lectures on their respective areas of specialization. In each field's lectures, to start, business activities will be characterized from the point of view of the given field. Following this, students will learn the basics of the theory relevant to each field before learning about specific cases grounded in this theory to get a better picture of reality through the course materials. In addition, a short test will be conducted at the end of each field's lectures for the sake of review.

It is worth noting that there will be three separate sections of this course, with each section learning the same material but in a different order. The individual in charge of grades will also differ between course sections. Consequently, once these individuals are determined, students must take the class of the person for which they had registered. Students must be sure to attend the first lecture, as concrete details regarding how the course will proceed will be explained.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：講義の目的、スケジュール、進め方・注意点など
- 2 回：経営戦略論 1：企業経営と経営学
- 3 回：経営戦略論 2：全社戦略
- 4 回：経営戦略論 3：事業戦略
- 5 回：経営戦略論 4：マーケティング
- 6 回：人的資源管理論 1：企業活動における人材マネジメントの役割
- 7 回：人的資源管理論 2：人材マネジメント論の全体像
- 8 回：人的資源管理論 3：ケースに見る人材マネジメント（1）
- 9 回：人的資源管理論 4：ケースに見る人材マネジメント（2）
- 10 回：会計・経営財務 1：企業活動における会計の役割と簿記
- 11 回：会計・経営財務 2：損益計算書の構造と分析
- 12 回：会計・経営財務 3：貸借対照表の構造と分析
- 13 回：会計・経営財務 4：投資意思決定
- 14 回：まとめ：講義のまとめ、試験の告知、質問タイムなど

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の講義の復習を行ったうえで、受講すること。また各講義の課題や指示に従い随時予習・課題を行うこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト/ Textbooks

参考文献 / Readings

随時指示する。

その他/ Others

★受講当日に科目コードを確認の上、教室を間違わないよう受講すること。

★受講に当たって私語・欠席・遅刻・入退室・携帯電話の使用などに関するルールを設けており、順守できない場合には退室してもらうこともある。ルールについては最初の講義で説明するので、必ずルールを了解した上で受講すること。また講義のお知らせや資料などは CanvasLMS 上にて行うので、操作にあらかじめ慣れておき、適宜参照すること。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／学びの精神

経営学への招待

Introduction to Business Administration

企業の戦略・会計・財務・人的資源管理の基礎を学ぶ

田中 聡／佐々木 宏／青淵 正幸 (TANAKA SATOSHI/ SASAKI HIROSHI/ AOBUCHI MASAYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH145
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：
・抽選登録は FH143 で申請すること
・担当者/教室については、4月9日(火)18:00 以降に履修登録状況画面で確認すること

授業の目標 / Course Objectives

企業経営の戦略、会計・財務、人的資源管理といった3つの専門分野から、具体的にケースを取り上げたうえで、経営学の入門的な内容を学ぶ。

Through looking at specific cases relating to the specialized three fields of strategic management, accounting & financial management, and human resource management, students will receive an introduction to business management.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、経営戦略論、会計・財務管理論、人的資源管理論といった3つの専門分野から企業活動を理論と実態の両面から講義を行うことで経営学の入門的内容の講義を行う。その際、3名の担当教員が、それぞれ3つの専門分野について4回ずつ順次講義を行う。各専門の講義においては、まず、専門分野の観点から企業の活動を特徴づけ、次に各専門分野の理論の基礎を学び、最後にその理論に基づき、具体的なケースを通じてその内容の実態面を学ぶ。

なおこの講義では、3つのクラスが同じ内容を学ぶが、ただし、所属するクラスによって学ぶ順序が異なり、また成績評価担当者も異なる。したがって担当者が誰かを確認したうえで、自分が履修した担当者のクラスで受講しなければならない。具体的な進め方などについては最初の講義で説明するので必ず出席すること。

In this course, students will learn about the three specialized fields of strategic management, accounting & financial management, and human resource management. In doing so, they will learn about business operations from both the sides of theory and reality, receiving an introduction to the study of business management via the lecture. To achieve this, three instructors will each give 4 lectures on their respective areas of specialization. In each field's lectures, to start, business activities will be characterized from the point of view of the given field. Following this, students will learn the basics of the theory relevant to each field before learning about specific cases grounded in this theory to get a better picture of reality through the course materials. In addition, a short test will be conducted at the end of each field's lectures for the sake of review.

It is worth noting that there will be three separate sections of this course, with each section learning the same material but in a different order. The individual in charge of grades will also differ between course sections. Consequently, once these individuals are determined, students must take the class of the person for which they had registered. Students must be sure to attend the first lecture, as concrete details regarding how the course will proceed will be explained.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス：講義の目的、スケジュール、進め方・注意点など
- 2回：人的資源管理論1：企業活動における人材マネジメントの役割
- 3回：人的資源管理論2：人材マネジメント論の全体像
- 4回：人的資源管理論3：ケースに見る人材マネジメント（1）
- 5回：人的資源管理論4：ケースに見る人材マネジメント（2）
- 6回：会計・経営財務1：企業活動における会計の役割と簿記
- 7回：会計・経営財務2：損益計算書の構造と分析
- 8回：会計・経営財務3：貸借対照表の構造と分析
- 9回：会計・経営財務4：投資意思決定
- 10回：経営戦略1：企業経営と経営学
- 11回：経営戦略2：全社戦略
- 12回：経営戦略3：事業戦略
- 13回：経営戦略4：マーケティング
- 14回：まとめ：講義のまとめ、試験の告知、質問タイムなど

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の講義の復習を行ったうえで、受講すること。また各講義の課題や指示に従い随時予習・課題を行うこと。

と。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

随時指示する。

その他 / Others

★科目コードを確認の上、教室を間違わないよう受講すること。

★受講に当たって私語・欠席・遅刻・入退室・携帯電話の使用などに関するルールを設けており、順守できない場合には退室してもらうこともある。ルールについては最初の講義で説明するので、必ずルールを了解した上で受講すること。また講義のお知らせや資料などは CanvasLMS 上で行うので、操作にあらかじめ慣れておき、適宜参照すること。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

現代社会と観光

Modern Society and Tourism

旅行者一人ひとりの視点から

相澤 孝文 (AIZAWA TAKAFUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH146
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講座はこれから観光学を学ぶ者を対象としており、現代社会における観光の役割や意義、ならびに観光を支えている社会の様々なしくみについて概説します。各種の事例を解説することを通じて、基本的な知識や分析の視点を習得するとともに、関心の深い観光現象や研究テーマ等を発見することを目標としています。

This course is aimed at students who intend to study tourism. We will outline the roles and significance of tourism in modern society, as well as the various structures within society that support the tourism industry. Through discussing all sorts of examples, this course aims to teach students fundamental knowledge while giving them an analytical point of view. In addition, the course aims to help students discover intriguing tourism phenomena and research topics.

授業の内容 / Course Contents

◆観光学への入門編として、様々な楽しみを求めて観光旅行に出かける私たち一人ひとりの視点に立ちながら、観光が地域の社会や文化等にどのような影響を与えているか、また、旅行者の行動が現代社会の世相や大衆心理をいかに反映しているのかを解説します。

◆本講座の特色として、各回の授業では「旅行者の心理・行動にみられる特性」に関わるトピックを多く扱っているため、この研究領域に関心をもつ方々に特に受講してほしいと思います。

◆毎回実施するコメントペーパーでは、これまでの旅行体験をふり返ったり観光旅行に関する自らの意見・好み等を記入・提出してもらい、その集計結果を教員からフィードバックします。

As an introduction into tourism studies, we will stand in the shoes of each of us who travel to go sightseeing in search of a fun time, looking at how tourism affects the society and the culture of the regions in which it takes place.

We will discuss how the behavior of tourists is reflected within social conditions and the public psychology.

As a part of this course, every lecture we will be dealing with topics related to the behavior and psychology of tourists, thus students who are interested in this area of research in particular are urged to attend.

Every lecture, students will fill out a reaction paper with reflections on any travelling experiences they had in the past as well as their personal opinions and preferences relating to tourism. These papers will be turned in, and students will learn about the aggregate results from the instructor.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション（※本講座の内容や受講のルール、成績評価の方針等についてより具体的に説明し授業契約を結ぶ回のため、必ず出席すること。）
- 2 回：観光学の基礎知識
- 3 回：観光の歴史
- 4 回：人はなぜ旅に出るのか
- 5 回：旅行者の心理面・行動面にみられる特徴
- 6 回：旅行体験がもたらす心理的・社会的効果
- 7 回：ヘルスツーリズム（温泉観光を中心に）
- 8 回：観光地における風景・景観
- 9 回：観光を通じた地域振興
- 10 回：日本人の社寺参詣行動
- 11 回：旅行者の買物行動
- 12 回：将来における旅行者動向の変化
- 13 回：観光学の知識を活かした旅の工夫
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

現代社会で展開される観光現象や観光学の研究テーマ等について、具体的にどのような関心があるのかを考えておいてください。Canvas LMS の操作に慣れ、課題提出や連絡確認が行えるように準備してください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :45%

平常点割合 :55% 授業内課題（小レポート、コメント紙）:40% 実習課題レポート:15%

- ◆平常点では、出席点は加算されず、課題答案に記述された内容が評価されます。
- ◆2/3以上の回数の「出席と課題の提出・受理」が満たされた場合に成績評価の対象となります。

テキスト/ Textbooks

テキストはとくに使用せず、講義資料を配布します。

参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

通常の課題や筆記試験（論述形式）で望ましい評価を得るためには、所定の条件・形式を守りながら自身の考えを的確に説明できることがポイントですので、その能力を育む機会としても本講座に臨んでください。

その他/ Others

「授業中の私語や遅刻しての入室」等、授業の進行を妨げたり規律を乱す行為は慎むこと。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

現代社会と観光

Modern Society and Tourism

旅行者一人ひとりの視点から

相澤 孝文 (AIZAWA TAKAFUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH147
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講座はこれから観光学を学ぶ者を対象としており、現代社会における観光の役割や意義、ならびに観光を支えている社会の様々なしくみについて概説します。各種の事例を解説することを通じて、基本的な知識や分析の視点を習得するとともに、関心の深い観光現象や研究テーマ等を発見することを目標としています。

This course is aimed at students who intend to study tourism. We will outline the roles and significance of tourism in modern society, as well as the various structures within society that support the tourism industry. Through discussing all sorts of examples, this course aims to teach students fundamental knowledge while giving them an analytical point of view. In addition, the course aims to help students discover intriguing tourism phenomena and research topics.

授業の内容 / Course Contents

◆観光学への入門編として、様々な楽しみを求めて観光旅行に出かける私たち一人ひとりの視点に立ちながら、観光が地域の社会や文化等にどのような影響を与えているか、また、旅行者の行動が現代社会の世相や大衆心理をいかに反映しているのかを解説します。

◆本講座の特色として、各回の授業では「旅行者の心理・行動にみられる特性」に関わるトピックを多く扱っているため、この研究領域に関心をもつ方々に特に受講してほしいと思います。

◆毎回実施するコメントペーパーでは、これまでの旅行体験をふり返ったり観光旅行に関する自らの意見・好み等を記入・提出してもらい、その集計結果を教員からフィードバックします。

As an introduction into tourism studies, we will stand in the shoes of each of us who travel to go sightseeing in search of a fun time, looking at how tourism affects the society and the culture of the regions in which it takes place.

We will discuss how the behavior of tourists is reflected within social conditions and the public psychology.

As a part of this course, every lecture we will be dealing with topics related to the behavior and psychology of tourists, thus students who are interested in this area of research in particular are urged to attend.

Every lecture, students will fill out a reaction paper with reflections on any travelling experiences they had in the past as well as their personal opinions and preferences relating to tourism. These papers will be turned in, and students will learn about the aggregate results from the instructor.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション（※本講座の内容や受講のルール、成績評価の方針等についてより具体的に説明し授業契約を結ぶ回のため、必ず出席すること。）

2 回：観光学の基礎知識

3 回：観光の歴史

4 回：人はなぜ旅に出るのか

5 回：旅行者の心理面・行動面にみられる特徴

6 回：旅行体験がもたらす心理的・社会的効果

7 回：ヘルスツーリズム（温泉観光を中心に）

8 回：観光地における風景・景観

9 回：観光を通じた地域振興

10 回：地域の食文化を活かした観光

11 回：観光場面におけるサービス提供とホスピタリティ

12 回：将来における旅行者動向の変化

13 回：観光学の知識を活かした旅の工夫

14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

現代社会で展開される観光現象や観光学の研究テーマ等について、具体的にどのような関心があるのかを考えておいてください。Canvas LMS の操作に慣れ、課題提出や連絡確認が行えるように準備してください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :45%

平常点割合 :55% 授業内課題（小レポート、コメント紙）:40% 実習課題レポート:15%

- ◆平常点では、出席点は加算されず、課題答案に記述された内容が評価されます。
- ◆2/3以上の回数の「出席と課題の提出・受理」が満たされた場合に成績評価の対象となります。

テキスト/ Textbooks

テキストはとくに使用せず、講義資料を配布します。

参考文献 / Readings

授業内で適宜紹介します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

通常の課題や筆記試験（論述形式）で望ましい評価を得るためには、所定の条件・形式を守りながら自身の考えを的確に説明できることがポイントですので、その能力を育む機会としても本講座に臨んでください。

その他/ Others

「授業中の私語や遅刻しての入室」等、授業の進行を妨げたり規律を乱す行為は慎むこと。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

現代社会と観光

Modern Society and Tourism

旅力を涵養する

板垣 武尊 (ITAGAKI TAKERU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH148
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

現代社会における観光の役割や影響を理解した上で、学生生活や今後の人生において充実した旅行を実現するための「旅行者の視点」を涵養する。

In this course, students will learn about the roles and effects of tourism in modern society. In addition, we aim to foster the “traveler’s perspective” in students, enabling them to experience more fulfilling travels both during their time as students and throughout their lives.

授業の内容 / Course Contents

観光は巨大な産業である一方で、観光者と地域社会が交わる場でもある。我々は旅行者として、どこに行き、どのような経験を得て、何を学ぶのか。また、観光客を受け入れる地域では、何が観光の対象となるのか。そして、観光によって地域はどのような影響を受け、そこに住まう人びとの生活や文化はいかに変容するのか。本講義では、観光者と観光地の事例紹介を通じて、観光者と地域の交流によって特徴付けられる現代の観光現象の諸相について考察する。

Tourism is an enormous industry, but it is also a means through which tourists intermingle with regional

communities. As traveler, where do we go, what experiences do we gain, and what do we learn? Furthermore, in areas that attract tourists, what is actually being toured? Additionally, what effects does tourism have upon a region, and how does it change the lives and culture of the people who live there? In this course, through examining several examples concerning tourists and tourist attractions, we will study various aspects of the modern phenomenon of tourism, which is characterized by the interactions between tourists and the regions they visit.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

2回：都市の歩き方：ロンドン

保護か開発か

3回：農村の暮らし方：棚田観光地

観光の恩恵は誰が享受すべきか

4回：リゾート地の過ごし方①：バリ島

楽園の創造

5回：リゾート地の過ごし方②：軽井沢

再現された西洋を旅する

6回：観光地の価値を考える：Tokyo/東京/江戸/東京

まなざし、情報検索手段、タイムスリップ、観光地の「ラベル」

7回：なぜ人は旅に出るのか：消費価値観と旅行の楽しさ

マストツーリズム、東京ディズニーランド、星野リゾート、インスタ映え

8回：バックパッカーの旅①：深夜特急発 TripAdvisor 行き

偶然性、冒険性、計画性、合理性

9回：バックパッカーの旅②：旅人たちの語りを読む

旅から学んだこと、そして旅の適齢期

10回：移動における旅情と贅沢：鉄道旅行

時間、空間、同行者、演出、物語

11回：異文化を旅する①

「首長族」とハニ族へのまなざし

12回：異文化を旅する②

アイヌ民族の観光実践

13回：人類の悲劇と観光

キリングフィールド、広島と長崎、3.11 への旅

14回：まとめ

旅人の視点とは

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎週の授業で Canvas を用いた 500～1000 文字程度の小レポートを課す。また、毎回の授業で講義内容に関連する紀行文や旅行エッセイを配布するので必ず目を通すこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200）/ Evaluation

筆記試験 :44%

平常点割合 :56% 小レポート点 (3点×14回):42% リアクションペーパー (1点×14回) :14%

テキスト/ Textbooks

参考文献 / Readings

- 高野秀行 『異国トーキョー漂流記』 集英社 2005 4087477924
 沢木耕太郎 『旅する力ー深夜特急ノート』 新潮文庫 2008 9784103275138
 角田光代 『いつも旅のなか』 アクセスパブリッシング 2005 4901976222
 四方田犬彦 『旅の王様』 マガジンハウス 1999 4838711115
 松浦弥太郎 『場所はいつも旅先だった』 集英社文庫 2011 4087466671
 さくらももこ 『ももこの世界あっちこっちめぐり』 集英社 2021 4087442179
 宮脇俊三 『宮脇俊三鉄道紀行全集』 KADOKAWA 1999 4045744061

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

毎週の授業内ではリアクションペーパーの提出、それから毎週の講義後には 500～1000 文字程度の小レポートの提出および紀行文/旅行エッセイの読書が求められる。これらの提出が成績評価に大きく関わるので、積極的な授業参加が求められる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義内で国内外の観光地の事例を多く紹介するので、Google Map などが参照できるデバイス（ノート PC や iPad など。ただしスマホは画面が小さいので推奨しない）を持参すると望ましい。

その他/ Others

本講義で学習した視点は、受講者が実際に旅行を経験することではじめて習得できる。したがって、長期休暇などを利用して、地球上のどこかに、娯楽としての旅行や娯楽を超えた旅に出ることを推奨する。そして旅行経験を通じて強化された視点は、大学でのさらなる学びによって再帰的に体得できる。大学生である今のあなたが旅先で見てきたこと、感じたことをふまえて自分なりの問題意識を持って、これからの学びにのぞんでください。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

現代社会の諸相

Aspects of Modern Society

「福祉」を切り口に、社会課題を自分ごと化する

清水 潤子 (SHIMIZU JUNKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH149
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

現代社会に起きている様々な課題を社会福祉学の観点から批判的に検討する。その過程から、現代社会を読み解く多様な視点を身につけ、自らの学問的関心に引き寄せて考えることができるようになるための素地を涵養する。

This course critically examines today's various social issues from the perspective of social welfare studies. Through this process, students will acquire a variety of perspectives and cultivate a grounding in their own academic interests.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、現代社会に起きている様々な課題に焦点を当て、その背景にある構造やシステム、考え方等について学び、現代社会の在り様の理解を深める。自らも社会システムの一員として、社会との相互作用との間に、課題の解決にも悪化にも貢献しうる存在であることを認識したうえで、具体的な社会課題への取り組み方や向かい方などについて各自で考え、自らの問いを進化させる。

授業は教科書の各トピックスに掲げられている課題を中心に扱う。また、講義内容は講義の進捗度によって変

更することがある。

In this class, students will focus on various social issues by learning about the structures, systems, and ideas behind such issues, and deepen their understanding of the state of today's society. Recognizing the fact that we are all interdependent, as members of the social system, could contribute to both solving and aggravating issues; students will reflect upon how to tackle and face specific social issues and develop their own research as well as academic questions.

Social topics which this class will cover will be based one the ones raised in the textbook.

Note: Each class content is subject to change depending on the progress of the lectures.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：社会福祉学・ソーシャルワークの視点を理解する
- 2 回：脆弱性、抑圧、パワー、ケアの概念（第0章：社会福祉学への招待）
- 3 回：雇用問題（第1章：若者の雇用不安）
- 4 回：育児・子育ての問題（第2章：育児不安）
- 5 回：介護にまつわる問題（第3章：老後の不安）
- 6 回：教育格差に関する問題（第4章：教育の不利）
- 7 回：健康格差に関する問題（第5章：健康の不利）
- 8 回：社会参加に関する問題（第6章：参加の不利）
- 9 回：貧困に関する問題（第7章：市場経済への不信①）
- 10 回：新自由主義に抗う（第7章：市場経済への不信②）
- 11 回：国家や行政を考える（第8章：権力への不信）
- 12 回：共生社会を考える（第9章：他者への不信）
- 13 回：「価値」を考える
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習：授業では教科書をベースに講義・解説・ディスカッションを進めるので、毎回の授業の指定部分を必ず読み、自分なりの「問い」を用意してくる。また関連するニュースや新聞等に目を通すこと。

復習：学んだ内容を、自らの今後の大学での学び（学部・学科）や課外活動（ボランティア、インターンシップ、市民活動、サークル活動等）の経験の中でどのように深めていくことができるかについて、各自で検討する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパーの内容 (5%×8回) :40%

テキスト / Textbooks

坪洋一、金子充、室田信一 『問いからはじめる社会福祉学 不安・不利・不信に挑む』 有斐閣 2016

9784641150300 ○

参考文献 / Readings**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

- ・多様な社会課題について、自ら興味をもって探究することに関心のある方の受講をする。
- ・授業のトピックスやテーマによっては、小グループになってディスカッションをすることがある。

その他/ Others

授業の内容に応じて、補足資料を配布することがある。また、参考文献は講義内で指示する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

現代社会の諸相

Aspects of Modern Society

国際社会と人間の安全保障

島崎 裕子 (SHIMAZAKI YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH150
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化の負の側面に焦点を当て、国際社会にもたらされる多様な側面を理解する。学生自らが、国際社会の現状と自分自身がどのように関わりあっているのかを捉え、現代における平和のあり方を考察する。またこれらの問題を構造的側面と状況的側面の両側面から考え理解する視点を養う。

With globalization as a context, we will consider various issues brought about by international society, such as poverty, the environment, food, and human rights. We will grasp the relationship between developed and developing nations while learning about the current state of international cooperation as carried out by governments, international organizations, NGOs, and various other bodies.

授業の内容 / Course Contents

グローバル化の影響によってもたらされる途上国の現状を例にあげながら「現代の貧困とは何か」「国際協力とは何か」「人権とは何か」を考えることを目的とする。授業では、先進国と途上国の関係性や、世界の人権にまつわる諸問題を取り上げ、社会開発、人間の安全保障の視点から事例を紹介する。

In this course, we will deepen our knowledge of various terms, such as international development, international

cooperation, sustainable growth, and human rights. While sorting through various concepts, relationships, and theories, we will investigate the approach taken in areas that receive developmental aid/assistance through the use of videos and actual examples, as well as other practical teaching materials.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：グローバリゼーションと負の側面
- 3 回：グローバリゼーションと資源
- 4 回：グローバリゼーションと SDGs
- 5 回：グローバリゼーションと SDGs
- 6 回：現代における「貧困」
- 7 回：人身売買
- 8 回：紛争がもたらす影響：平和構築とは
- 9 回：開発と教育
- 10 回：開発とジェンダー
- 11 回：子どもと貧困
- 12 回：国際協力と市民社会
- 13 回：貧困からの脱却に向けて：平和への道すじ
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

課題 (英語文献/資料講読) に関しては、随時、授業内で伝える。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 課題 (10%×2 回) :20% 出席兼コメントペーパーの内容:20%

なお 3/4 以上の出席が単位取得の条件となる。

テキスト / Textbooks

随時配布。

参考文献 / Readings

随時、授業内で紹介する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目/学びの精神

現代社会の諸相

Aspects of Modern Society

「現代」と「社会」を多角的に読み解く。そこに存在するさまざまな問題を把握する。

入江 公康 (IRIE KIMIYASU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH151

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

「現代社会」を成立させているさまざまな事象を把握すること。

そのうえで「現代社会」の価値観に対し、多角的な視点を持ちうること。

In this course, students will become aware of the history surrounding the formation of modern society, as well as the events preceding its formation.

On top of this, students will gain a multidimensional point of view regarding the values of modern society.

授業の内容 / Course Contents

「現代社会」に関して、比較的あたらしいと思われる諸テーマを設定し、それについての読解をおこないます。

その際、そこであつかわれる諸事象について、歴史的視点の獲得、社会の構造的把握、政治権力とその対抗軸の設置といった、多角的かつダイナミズムをもった視点からそれらをあつかってゆきます。

※なお、講義内容は講義の進捗度により変更することもあります。

We will establish various topics relating to modern society generally considered to be relatively new. Students will

endeavor to comprehend various readings related to these topics.

In this regard, through looking from a historical point of view, grasping society on a structural level, and understanding political force and the setting of institutions opposing it, students will be able to look at these topics from a dynamic and multidimensional point of view.

Note: The contents of the course are subject to change depending on the state of the class' progress.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：グローバル／ポストグローバルの社会・政治 1 冷戦／ポスト冷戦ということ
- 3回：グローバル／ポストグローバルの社会・政治 2 「政治的なもの」の視角から
- 4回：世界の二重化——ヒエラルキーあるいはネットワークの社会
- 5回：新たな人種主義、植民地主義について
- 6回：「平等」ということ——「社会」を哲学することから考える
- 7回：政治哲学の古典からとらえなおす——市民／民主主義／イデオロギー
- 8回：「ユージェニクス」という問題
- 9回：エコロジカルな視点から「再生産」をとらえる
- 10回：戦争と社会 1 ホモサケルということ
- 11回：戦争と社会 2 犠牲について
- 12回：ユートピア主義について 1 ——社会を設計する、社会を構想する
- 13回：ユートピア主義について 2 ——美／感性／快から社会を考える
- 14回：文化の創造、文学あるいはアート、そして社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講後、テキストの該当箇所およびノートを読み返すこと、および講義中紹介した文献を探索することなどを心がけてほしいと思います。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業参加度（リアクションペーパーなどによる）:50%

テキスト / Textbooks

入江公康 『増補版 現代社会用語集』 新評論 2021 97847948118820030 ○

参考文献 / Readings

入江公康 『眠られぬ労働者たち』 青土社 2008 9784791763979

参考文献は適宜講義内にて指示します。なお、上記は私の著書なので紹介しておきます。

その他 / Others

映像等の視聴覚資料を多く活用します。その際、リアクションペーパーを配布するなどし、それについて意見・感想などを記述してもらいます。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

自然科学の探究

Quest for Natural Science

数学・物理学・化学における基本理念・方法論

佐藤 信哉／初田 泰之／平山 孝人／北本 俊二／佐々木 直樹／田邊 一郎／望月 祐志 (SATO NOBUYA/ HATSUDA YASUYUKI/ HIRAYAMA TAKATO/ KITAMOTO SHUNJI/ SASAKI NAOKI/ TANABE ICHIRO/ MOCHIZUKI YUJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH152
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

数学・科学の具体的題材を通して科学の成り立ち・現代社会における位置づけ・科学的思考法を学び、自然科学における基本的な理念や方法論を理解する。また、高度に発展していく自然科学に対するビジョンを得る。この科目は、導入期における「学びの精神」の科目群の1つである。

Through learning specific topics in science and mathematics, students will learn about the history of science as well as its place in modern society. Students will also learn methods of thinking in a scientific manner, as well as basic fundamental principles and methodologies related to the natural sciences. Furthermore, students will gain a general vision of the natural sciences, which continue to develop at a high level. This discipline is part of the Introduction to Academic Studies subject group, which is part of one's Introduction Phase.

授業の内容 / Course Contents

数学・物理学・化学の3分野に対して、いくつかの基本となるテーマを通して、自然科学が過去から現在まで

にいたる大きな発展を導いた基本理念や方法論を学んでいく。数学では素数にまつわる話題、物理学では宇宙・物質・素粒子の物理、化学では色の化学や生体化学イメージング、AIを含めた計算化学を取り上げる。個々の分野において、まずはその不思議さに驚き、そこに現れる興味深い性質を堪能し、自然科学に対する知的好奇心を励起して欲しい。これらの学習を通じて、自然科学の基本的な理念を理解し、高度に発展していく自然科学に対するビジョンを得ることができよう。

Through the study of basic topics relating to mathematics, physics, and chemistry, students will learn the fundamental principles and methodologies that have spurred large advancements in the natural sciences from the past until the present. With regards to mathematics, the course will deal with topics relating to the prime numbers. In physics, we will touch upon the universe, matters, and elementary particles. As for chemistry, we will discuss chemistry of colors, biochemical imaging, and chemical simulations including AI. For each individual field, the aim is for students to marvel at the wonders contained, to enjoy the interesting properties studied, and to excite their intellectual curiosity for the natural sciences. Through learning these specific topics, students will understand various fundamental principles in the natural sciences while gaining a general vision of these fields, which continue to develop at a high level.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：数学編1：素数～整数を積の基本単位に分割する～
- 3回：数学編2：整数の合同～余りの世界～
- 4回：数学編3：整数の素因数分解とセキュリティ～数学と現実社会のかかわり～
- 5回：数学編4：補足・数学編小テスト
- 6回：化学編1：分光の化学～色を測る～
- 7回：化学編2：科学技術におけるシミュレーションとAIのインパクト
- 8回：化学編3：イメージングの化学～Seeing is believing～
- 9回：化学編4・化学編小テスト
- 10回：物理学編1：現代物理学的視点～ミクロの世界とマクロの世界をつなぐ～
- 11回：物理学編2：ミクロの世界の物理～量子論とその応用～
- 12回：物理学編3：身近な物理～身の回りの自然現象を物理的に考える～
- 13回：物理学編4：宇宙の観測～宇宙からのメッセンジャー～・物理学編小テスト
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

受講にあたり、数学・物理学・化学についての特段の知識を前提としない。しかし、講義に啓発され、関連する高校で学習した分野を復習することで、多いに理解が進むであろう。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% リアクションペーパー・各編小テスト:50%

毎回、リアクションペーパーを提出する。数学・物理学・化学の分野ごとに小テストを行う。平常点は小テストの点数だけではなく、授業にのぞむ姿勢やリアクションペーパーの内容も加味する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

その他 / Others

板書・プリント資料・視覚教材（スクリーン投影）を用いる。提出されたリアクションペーパーについて次回授業時にフィードバックを行う。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

自然科学の探究

Quest for Natural Science

数学・物理学・化学における基本理念・方法論

初田 泰之／平山 孝人／北本 俊二／安田 雅哉／佐々木 直樹／田邊 一郎／望月 祐志 (HATSUDA YASUYUKI/ HIRAYAMA TAKATO/ KITAMOTO SHUNJI/ YASUDA MASAYA/ SASAKI NAOKI/ TANABE ICHIRO/ MOCHIZUKI YUJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH153

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

数学・科学の具体的題材を通して科学の成り立ち・現代社会における位置づけ・科学的思考法を学び、自然科学における基本的な理念や方法論を理解する。また、高度に発展していく自然科学に対するビジョンを得る。この科目は、導入期における「学びの精神」の科目群の1つである。

Through learning specific topics in science and mathematics, students will learn about the history of science as well as its place in modern society. Students will also learn methods of thinking in a scientific manner, as well as basic fundamental principles and methodologies related to the natural sciences. Furthermore, students will gain a general vision of the natural sciences, which continue to develop at a high level. This discipline is part of the Introduction to Academic Studies subject group, which is part of one's Introduction Phase.

授業の内容 / Course Contents

数学・物理学・化学の3分野に対して、いくつかの基本となるテーマを通して、自然科学が過去から現在まで

にいたる大きな発展を導いた基本理念や方法論を学んでいく。数学では素数にまつわる話題、物理学では宇宙・物質・素粒子の物理、化学では色の化学や生体化学イメージング、AIを含めた計算化学を取り上げる。個々の分野において、まずはその不思議さに驚き、そこに現れる興味深い性質を堪能し、自然科学に対する知的好奇心を励起して欲しい。これらの学習を通じて、自然科学の基本的な理念を理解し、高度に発展していく自然科学に対するビジョンを得ることができよう。

Through the study of basic topics relating to mathematics, physics, and chemistry, students will learn the fundamental principles and methodologies that have spurred large advancements in the natural sciences from the past until the present. With regards to mathematics, the course will deal with topics relating to the prime numbers. In physics, we will touch upon the universe, matters, and elementary particles. As for chemistry, we will discuss chemistry of colors, biochemical imaging, and chemical simulations including AI. For each individual field, the aim is for students to marvel at the wonders contained, to enjoy the interesting properties studied, and to excite their intellectual curiosity for the natural sciences. Through learning these specific topics, students will understand various fundamental principles in the natural sciences while gaining a general vision of these fields, which continue to develop at a high level.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（初田）
- 2回：物理学編：現代物理学的視点 ～ミクロの世界とマクロの世界をつなぐ～（初田）
- 3回：物理学編：ミクロの世界の物理 ～量子論とその応用～（初田）
- 4回：物理学編：身近な物理 ～身の回りの自然現象を物理的に考える～（平山）
- 5回：物理学編：宇宙の観測 ～宇宙からのメッセンジャー～ ・ 小テスト（北本）
- 6回：数学編：素数 ～整数を積の基本単位に分割する～（安田）
- 7回：数学編：整数の合同 ～余りの世界～（安田）
- 8回：数学編：整数の素因数分解とセキュリティ ～数学と現実社会のかかわり～（安田）
- 9回：数学編：補足・小テスト（安田）
- 10回：化学編：分光の化学 ～色を測る～（田邊）
- 11回：化学編：科学技術におけるシミュレーションとAIのインパクト（望月）
- 12回：化学編：イメージングの化学 ～Seeing is believing～（佐々木）
- 13回：化学編：小テスト（田邊）
- 14回：まとめ（初田）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講にあたり、数学・物理学・化学についての特段の知識を前提としない。しかし、講義に啓発され、関連する高校で学習した分野を復習することで、多いに理解が進むであろう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% リアクションペーパー, 小テスト:50%

毎回、リアクションペーパーを提出する。数学・物理学・化学の分野ごとに小テストを行う。平常点は小テストの点数だけではなく、授業にのぞむ姿勢やリアクションペーパーの内容も加味する。

テキスト/ Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

その他/ Others

板書・プリント資料・視覚教材（スクリーン投影）を用いる。提出されたリアクションペーパーについて次回授業時にフィードバックを行う。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

自然科学の探究

Quest for Natural Science

生命科学における基本理念・方法論

山田 康之／堀口 吾朗／塩見 大輔／岡 敏彦／樋口 麻衣子／後藤 聡／末次 正幸／岩川 弘宙／関根 靖彦 (YAMADA YASUYUKI/ HORIGUCHI GOROU/ SHIOMI DAISUKE/ OKA TOSHIHIKO/ HIGUCHI MAIKO/ GOTO SATOSHI/ SUETSUGU MASAYUKI/ IWAKAWA HIROOKI/ SEKINE YASUHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH154

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

生命科学における基本的な理念や方法論を理解し、日々高度に発展していく生命科学に対する知識やビジョンを得る。また、現代の生命科学に関する諸問題をよりよく理解するための、基礎を作る。

This course is designed so that students will understand the basic ideas and methods in life science and grasp an overall vision of the ever-advancing science. They will also build the foundation on which to comprehend various issues involving modern life science.

授業の内容 / Course Contents

授業は理学部生命理学科の教員によるオムニバス形式で行い、各教員がそれぞれのテーマに関して解説する。生命科学を広く浅く知るのではなく、いくつかのテーマを深く理解するための内容を講義する。理解を確認するために、各授業の終わりに、リアクションペーパーの提出、または、小テストを行うことを基本とする。

This course will be given by instructors from the Department of Life Science, the College of Science, on the

omnibus format. Each instructor will give a lecture related to their own area of research. This course does not aim to give students a broad and shallow knowledge of the field, but rather to give them an opportunity to understand a few specific topics. At the end of every class, students shall write a reaction paper or be given a short test for the assessment of their understanding.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：タンパク質とその働き（1）（山田）
- 2 回：タンパク質とその働き（2）（山田）
- 3 回：つくって理解する生物学（末次）
- 4 回：母からもらったミトコンドリア（1）（岡）
- 5 回：母からもらったミトコンドリア（2）（岡）
- 6 回：ストレスと疾患（樋口）
- 7 回：がんの生物学（樋口）
- 8 回：生体の不思議（後藤）
- 9 回：植物の葉はなぜ平らなのか？（堀口）
- 10 回：抗生物質耐性菌（関根）
- 11 回：はたらく RNA（岩川）
- 12 回：はたらくウイルス（岩川）
- 13 回：生命の起源（塩見）
- 14 回：まとめ（山田）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義の前に各自がテーマについて簡単に調べておくと授業の理解が深まる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 各回実施する小テストまたはリアクションペーパー:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

パワーポイントを用いた講義が中心である。

フィードバックは対面形式（次回授業の冒頭）、またはオンライン形式で行う。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

身体科学からの学び

Learning from physical science

身体動作を力学的に解釈するためのバイオメカニクス

石井 秀幸 (ISHII HIDEYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH155
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

スポーツや日常生活における身体動作の仕組みをバイオメカニクス（生体力学）的に理解するための基礎知識を身に付ける。

In this course, students will acquire basic knowledge of the mechanisms of physical movement in sports and daily life through biomechanics.

授業の内容 / Course Contents

身体動作をバイオメカニクス的に解釈するために必要な力学の基礎、および各スポーツ動作におけるバイオメカニクスについて講義する。授業では書き込み式の資料を配布し、計算を含んだ問題にも取り組む。また、テーマに合わせた映像を視聴して理解を深める。

This course will cover the basics of the mechanics for the biomechanical interpretation of body movements and biomechanics in all types of sports actions. Writing materials are distributed in class and problems (including calculations) are tackled. In addition, students watch videos suited to particular topics to deepen their understanding.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：バイオメカニクスとは
- 2回：解剖学、力学概要
- 3回：力
- 4回：並進運動学
- 5回：並進運動力学
- 6回：回転力
- 7回：回転運動学
- 8回：回転運動力学
- 9回：「歩く」のバイオメカニクス
- 10回：「走る」のバイオメカニクス
- 11回：「跳ぶ」のバイオメカニクス
- 12回：「打つ」のバイオメカニクス
- 13回：「蹴る」のバイオメカニクス
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じ、授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 出席および授業への参加態度:40%

テキスト / Textbooks

特定の教科書は使用しない。授業時に資料を配付する。

参考文献 / Readings

金子公宥・福永哲夫編 『バイオメカニクス—身体運動の科学的基礎』 杏林書院 2004年 8,250円
9784764410695

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

身体科学からの学び

Learning from physical science

医学的観点から身体科学を考える。(Considering the Body Sciences from a Medical Perspective)

加藤 晴康 (KATO HARUYASU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH156

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

身体のメカニズムについて、健康科学あるいはスポーツ分野の科学的知見から総合的に探究していく。特に臨床医学的観点、解剖学的観点、組織学的観点で身体のメカニズムを考える。

Comprehensive Exploration of the Body's Mechanisms from the Perspectives of Health Science and Sports Science.

This study investigates the mechanisms of the human body through a comprehensive exploration of scientific knowledge in the fields of health science and sports. Particularly, the examination of the body's mechanisms is approached from clinical medical, anatomical, and histological perspectives.

授業の内容 / Course Contents

ヒトの身体は医学的に見ると、とても精密に、合理的に、神秘的に作られている。どこかがケガしたときの再生メカニズムはとても素晴らしいシステムが構築されている。この神秘的なヒトの身体を、主として医学生理学的に運動器からの視点でさまざまな角度から見ることを学ぶ。また、臨床医学的な視点でも、運動器のケガを見ることで、ケガへの理解を深まるための知識や考え方を学ぶ。

In a medical context, the human body is intricately, rationally, and mysteriously designed. The regeneration mechanisms when an injury occurs are a remarkable system. This course focuses primarily on the enigmatic human body from the perspective of medical physiology, exploring various angles, particularly from the standpoint of the musculoskeletal system. Additionally, through a clinical medical perspective, students learn about injuries to the musculoskeletal system to deepen their understanding and knowledge, fostering a comprehensive approach to injury assessment.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに
- 2回：関節の不思議
- 3回：骨を考える
- 4回：運動器について
- 5回：筋とホルモン
- 6回：肉ばなれの鍵となる腱
- 7回：新型コロナ。ウイルスと菌
- 8回：腸と腸内細菌
- 9回：脳の機能を脳振盪から考える。
- 10回：時差ボケとは。
- 11回：足が痛い
- 12回：整形外科疾患から考える身体科学1
- 13回：整形外科疾患から考える身体科学2
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中およびCANVASにて予習および復習の課題を提示する準備がある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

特になし

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

なし

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

身体科学からの学び

Learning from physical science

サプリメントと日本人

杉浦 克己 (SUGIURA KATSUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH157
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（全回対面）
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

現代人にとってますます身近になりつつあるサプリメントについて、その歴史から最新の話題までを含めて多角的に検証し、健康に生きるための基本的知識を身につける。同時にサプリメントを通して日本人の特性を把握する。

We will examine supplements that are becoming more and more familiar to modern people from various angles, including the latest topics, and acquire basic knowledge for living in good health.

授業の内容 / Course Contents

サプリメントと総称される健康食品について学ぶ前に、栄養学や食事の基本について理解する。その上で、健康食品に関わる法律、安全性、有効性、添加物、表示、そして目的別にどのような商品（成分）があるのかを学び、氾濫する関連情報にいかに対処して真実を見極めていくかを考える。

In this class, you will understand the basics of nutrition and diet before learning about health foods, which are collectively called supplements. After that, learn about the laws, safety, effectiveness, additives, labeling, and what kind of products (ingredients) are available for each purpose related to health foods, and how to deal with

the flood of related information to find out the truth.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：サプリメントとは何か
- 3回：サプリメントの歴史と分類
- 4回：栄養学の基礎
- 5回：食事摂取基準と食事バランスガイド
- 6回：サプリメントの評価（安全性・有効性）
- 7回：サプリメントに関する法律
- 8回：プロテインのマーケティング
- 9回：ダイエットとサプリメント
- 10回：生活習慣病とサプリメント
- 11回：アンチエイジング（抗老化）とサプリメント
- 12回：スポーツとサプリメント
- 13回：フードファディズムとメディアリテラシー
- 14回：企業の倫理・まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストは配布以降に毎回予習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 出席およびリアクションペーパー:40%

なお、3/4以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

杉浦克己 『サプリメントと日本人』 草思社 2024 ○

テキストは現在執筆中であり、2024年秋学期までに発刊される予定である。

参考文献 / Readings

杉浦克己 『スポーツ栄養学がわかる』 大修館書店 2021 13 9784469269208

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

健康増進やスポーツの競技力向上に興味がある学生の履修を希望する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

筆記用具。

その他 / Others

<https://katsumi-sugiura.com/>

https://www.youtube.com/channel/UCRBkmlF2SOFH_j5ne9IYhVw

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

現代心理学からの学び

Learning from Contemporary Psychology

心理学実験を通してみる人間の認知

村越 琢磨 (MURAKOSHI TAKUMA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH158
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では心理学の実験手法を学び、人間の認知の仕組みを理解することを目指します。授業で得られた知識を通して、我々の社会をみつめなおすことを目標とします。

The course aims to learn the method of psychological experiments and to understand the structure of human cognition. The goal is to review our society based on knowledge acquired through class.

授業の内容 / Course Contents

この授業では認知心理学の研究を通して社会について考えます。特に実験的手法を用いた研究を中心に紹介し、これまでの認知心理学で得られた知見から社会をながめてみることで、我々の社会のありかたについて共に考えていきます。実験的研究を紹介していくことから、心理学の基本的な実験手法や解析手法を学びます。授業で得た知識を自身の生活に活かすために、授業内で扱ったトピックについて自分なりに考え、コメントペーパーにまとめ提出する予定です。

We will think about the society through study of cognitive psychology. In particular, research using experimental methods will be introduced to think together about how our society should be by looking at the society based on

the knowledge acquired through cognitive psychology. Basic method of psychological experiment and analysis will be learned through introduction of experimental research. To apply acquired knowledge to student's lives, a comment paper on individual thoughts on the topics discussed in class will be submitted.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：認知心理学とは
- 2 回：認知心理学の研究法
- 3 回：認知過程の基礎
- 4 回：注意研究の方法
- 5 回：注意のメカニズム
- 6 回：学習
- 7 回：記憶研究の方法
- 8 回：記憶のメカニズム
- 9 回：表情認知
- 10 回：対人認知
- 11 回：こころの理論
- 12 回：社会性
- 13 回：意思決定
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

(予習) 授業前に該当トピック調べて理解しておくこと(2.0 時間)

(復習) 授業内容を確認し、理解の不足している用語等を確認すること(2.0 時間)

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

特定のテキストは使用しません。授業内で資料を配布します。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介します。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 学びの精神

現代心理学からの学び

Learning from Contemporary Psychology

乳幼児心理学への招待

白井 述 (SHIRAI NOBU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH159
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

様々な心的機能の初期発達過程に関する科学的知見を学び、乳幼児の心的世界についての理解を深める。また、自身の心的世界と乳幼児の心的世界の比較を通して、ヒトの心とはそもそも何であるのか、という問いについて考察する機会を得る。

To expand knowledge about the infant mind by learning previous scientific findings regarding the early development of the mind. Students are expected to explore the answer to the question "what human mind is?" via comparisons between their own and infants' minds.

授業の内容 / Course Contents

自分の心の内を語る事のない乳幼児がどのような心的世界を持つのか、また発達初期における「心」とはそもそもどのような状態であるのかについて、実験心理学や発達心理学、神経科学などの諸分野における学術的知見を紹介しながら、講義形式で解説、考察していく。

Do infants having no verbal ability have complex mind? Do we have any ability (or phenomenon) which can be defined as "mind" in very early stages in our lives? This lecture introduces various scientific findings regarding

infant mind in the relevant research fields such as experimental psychology, developmental psychology, and neuroscience.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスと導入
- 2回：歴史的背景と古典理論
- 3回：乳幼児心理学の研究手法1：行動実験
- 4回：乳幼児心理学の研究手法2：脳活動の測定
- 5回：発達の生理学的基盤
- 6回：基本的な視覚機能
- 7回：奥行きの知覚
- 8回：環境の知覚：素朴物理学的概念の発達
- 9回：自己の認識
- 10回：他者の認識
- 11回：社会性の発達
- 12回：心の理論の発達
- 13回：乳幼児心理学の展望
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の配布資料を用いて各自授業の内容の復習を行うこと。また毎回の授業の終わりに次回の授業内容の予習事項について通知するので十分な時間を割いて取り組むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験：80%

平常点割合：20% 毎回の授業内容へのコメントカードの内容・提出状況:20%

テキスト / Textbooks

特に無し。必要があれば授業内で紹介します。

参考文献 / Readings

特に無し。必要があれば授業内で紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

この授業で扱う内容はほとんどの人にとって馴染みのないものだと思いますが、自分がこれまでに触れたことのない学問体系について、好奇心を持って学習に臨む態度があると良いかと思います。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他 / Others

特になし。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

現代心理学からの学び

Learning from Contemporary Psychology

「上手い」の人間学

横山 太郎 (YOKOYAMA TARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH160
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、学生が技能知（knowing how）あるいは熟練（expertise）についての文献を分野横断的に読むことを通じて、人間の心と体の関わりをラジカルに考えることができるようになることを目指します。

This class aims to enable students to think radically about the relationship between the human mind and body through reading cross-disciplinary literature on expertise.

授業の内容 / Course Contents

なぜ、あの人はあんなに上手にできるのだろうか？ どうしたら自分にもああいうふうにできるのだろうか？ そんなふうに思ったことはありませんか。

人がなにかを上手にできるようになることのうちには、多くの謎が含まれていて、哲学、教育学、認知科学、人類学、運動科学、ロボティクス、経営学など、さまざまな学問がこれを探求しています。日本では 600 年も昔に世阿弥がいくつもの秘伝書において、まさに「上手いとはなにか」を論じました。

なぜ「上手い」ということが（あるいは「上手くないかない」ということが）、古今東西、文理も超えて、重要な思考課題となるのでしょうか。もちろん、誰でも何がしかの分野で行為をして生きている以上、その行為を上

手にやり遂げたいのは当然です。しかしそれだけでは、「いかに上手くやるか」という問いは立ち上がっても、「上手いとはなにか」という問いは立ち上がらないはずです。

「上手い」は、単にあれこれが技術的にできる／できないの問題ではなく、身体を備えた知的存在としての人間の根本に関わる問題なのです。近年、AI やロボットが人間ならではの行為と思われてきたことを上手くできるようになっています。こうした状況のもとで、上手くできることは「どこから人間か」という人間性そのものの定義に関わる謎であるということが、わかりやすく浮かび上がってきました。こうした観点から、この授業では「上手い」を通じて人間の心と体について皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

A variety of disciplines study expertise (or, knowing-how) because it is a fundamental issues for human beings as both intellectual and corporeal existence. In recent years, AI and robots have become able to do things that have been thought to be unique to humans. Under these circumstances, it became easy to understand that expertise is a mystery related to the definition of humanity itself. From this point of view, in this class, I would like to think about the human mind and body together with you through the mystery of expertise.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：ベルンシュタイン問題（講義）
- 3回：ベルンシュタイン問題（討議）
- 4回：暗黙知（講義）
- 5回：暗黙知（討議）
- 6回：わざ言語（講義）
- 7回：わざ言語（討議）
- 8回：実践共同体（講義）
- 9回：実践共同体（討議）
- 10回：知覚と行為のエコロジー（講義）
- 11回：知覚と行為のエコロジー（討議）
- 12回：無心と初心（講義）
- 13回：無心と初心（討議）
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:○
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業でコピー配布された課題文献を読んで、2回に1回ある討議のために短いプレゼンを用意してもらいます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

毎回の授業で課題文献へのコメントか、授業へのコメントのいずれかを提出します。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 福島真人 [編] 『身体の構築学』 ひつじ書房 1995
生田久美子と北村勝朗 [編] 『わざ言語』 慶應義塾大学出版会 2011
諏訪正樹 『「こつ」と「スランプ」の研究』 講談社 2016
床呂郁哉 [編] 『わざの人類学』 京都大学出版会 2021
伊藤亜紗 『体はゆく』 文藝春秋 2022
ニコライ・A・ベルンシュタイン 『デクステリティ 巧みさとその発達』 金子書房 2003
植田文也 『エコロジカル・アプローチ』 ソル・メディア 2023

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコンを持参して下さい。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 学びの精神

アジア地域での平和構築

Peace Building in Asia

「尹東柱とその時代」

高 成鳳 (KOU SONBON)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH161
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

歴史を複眼的に考察することを通して、現在とこれからの日本と近隣アジア地域ならびに世界との関係を理解するための広い視座を養うことを目指します。

The aim is to develop a broad perspective to understand the relationship between the present and future Japan and neighboring Asia and the world through a historical perspective.

授業の内容 / Course Contents

尹東柱(ユン・ドンジュ)は 1942 年に立教大学への留学経験もある韓国を代表する詩人です。授業では尹東柱をめぐる人物史と彼の作品を軸に、20 世紀における日本と朝鮮半島の歴史全般について再考察しながら、近代以降の世界における国家・民族と個人との関係、東アジアの近現代史における歴史を動かす要因とその今日的意味について読み解いてゆきます。

Yoon Dong-ju is a leading Korean poet who has studied at Rikkyo University in 1942. In the class, focusing on the personal history of Yoon Dong-ju and his work, we will reconsider the overall history of Japan and the Korean Peninsula in the 20th century, and examine the relationship between the nation, ethnic groups and individuals in

the world since the modern age, I will explain the factors that drive history in modern history and its meaning today.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに
- 2回：間島 生い立ち
- 3回：間島の地から読み解く東アジアの近代
- 4回：平壤 崇実中学編入と初期創作活動
- 5回：帰郷 ふたたびの間島
- 6回：植民地首府京城 延禧専門学校
- 7回：「平沼東柱」の渡日 留学生の東京
- 8回：東京 立教大学
- 9回：「空と風と星と詩」
- 10回：京都 同志社大学
- 11回：逮捕 下鴨警察署
- 12回：終焉の地 福岡
- 13回：死をめぐる謎と尹東柱が遺したもの
- 14回：おわりに

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回授業終了時に、次回テーマとそこでの論点について説明します。受講者はこれらについて自身の理解と疑問を簡単に整理の上、授業に臨んでください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :45%
 平常点割合 :55% リアクションペーパー:25% レポート課題:30%
 レポート課題は Turnitin で実施予定

テキスト / Textbooks

テキストは指定せず資料を配付

参考文献 / Readings

金時鐘編訳 『尹東柱詩集 空と風と星と詩』 岩波文庫 2012 9784003207512
 茨木のり子 『ハングルへの旅』 朝日文庫 1989 9784022605443

その他 / Others

秋学期開講科目「アジア地域での平和構築 尹東柱とその記憶」についても参照してください。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目
 学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

アジア地域での平和構築

Peace Building in Asia

「尹東柱とその記憶」

高 成鳳 (KOU SONBON)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH162
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

歴史を複眼的に考察することを通して、現在とこれからの日本と近隣アジア地域ならびに世界との関係を理解するための広い視座を養うことを目指します。

The aim is to develop a broad perspective to understand the relationship between the present and future Japan and neighboring Asia and the world through a historical perspective.

授業の内容 / Course Contents

尹東柱(ユン・ドンジュ)は 1942 年に立教大学への留学経験もある韓国を代表する詩人です。授業では尹東柱をめぐる人物史と彼の作品を軸に、20 世紀における日本と朝鮮半島の歴史全般について再考察しながら、近代以降の世界における国家・民族と個人との関係、東アジアの近現代史における歴史を動かす要因とその今日的意味について読み解いてゆきます。

Yoon Dong-ju is a leading Korean poet who has studied at Rikkyo University in 1942. In the class, focusing on the personal history of Yoon Dong-ju and his work, we will reconsider the overall history of Japan and the Korean Peninsula in the 20th century, and examine the relationship between the nation, ethnic groups and individuals in

the world since the modern age, I will explain the factors that drive history in modern history and its meaning today.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに
- 2回：解放 ソウル 尹東柱作品との再会
- 3回：冷戦と分断 東アジア
- 4回：東アジア冷戦と国家テロリズム(1)
- 5回：東アジア冷戦と国家テロリズム(2)
- 6回：日韓条約締結まで
- 7回：開発独裁とその時代
- 8回：旧友文益煥
- 9回：民主化と現代史の再検証
- 10回：韓中国交と尹東柱の再評価をめぐって
- 11回：日韓現代史の中の尹東柱
- 12回：冷戦、歴史と記憶、東アジアの20世紀
- 13回：ことば、アイデンティティー
- 14回：おわりに

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回授業終了時に、次回テーマとそこでの論点について説明します。受講者はこれらについて自身の理解と疑問を簡単に整理の上、授業に臨んでください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :45%

平常点割合 :55% リアクションペーパー:25% レポート課題:30%

レポート課題は Turnitin で実施予定

テキスト / Textbooks

テキストは指定せず資料を配付

参考文献 / Readings

金時鐘編訳 『尹東柱詩集 空と風と星と詩』 岩波文庫 2012 9784003207512

茨木のり子 『ハングルへの旅』 朝日文庫 1989 9784022605443

その他 / Others

春学期開講科目「アジア地域での平和構築 尹東柱とその時代」についても参照してください。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

アジア地域での平和構築

Peace Building in Asia

アジア地域での平和構築－現代中国を知るために

朴 美善 (PIAO MEISHAN)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH163
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

中国の政治、経済、社会、外交の4つの分野のテーマを取り上げ、中国の社会経済システムの基礎的知識を習得するとともに、現在中国が抱える諸問題について理解を深めることを目標とする。

Picking up themes from Chinese politics, economy, society, and diplomacy, the course aims to acquire basic knowledge about Chinese socio-economic system, and gain deeper understanding on various issues that China is facing now.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、多民族国家である中国の多様性、政治制度の特徴、産業や経済発展のメカニズムなどについて詳しく解説するとともに、貧富格差、環境破壊、人権抑圧、米中対立の長期化など中国が直面している様々な課題を取り上げ、アジアの中の中国実像、および中国と世界との関わりについて理解できるようにする。

The course will provide detailed explanation on the diversity of China as a multi-ethnic state, features of its political system, and mechanism of economic development. It will also cover various issues that China is facing now. The issues include income disparities, environmental destruction, human rights suppression, and trade

frictions to enable understanding on the reality of China and its relationship with the world.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンスー授業の概要、講義の進め方、成績評価方法
- 2 回：アジア地域の経済発展と域内協力
- 3 回：中国政治体制と国家発展戦略
- 4 回：中国の地域編成と多様性
- 5 回：中国都市と農村の二元構造
- 6 回：中国の土地制度と都市化政策
- 7 回：中国の経済発展と環境問題
- 8 回：中国のイノベーション政策
- 9 回：アジア人口構造の変化と中国の人口問題
- 10 回：中国における少子高齢化と社会保障制度
- 11 回：中国労働市場の実態と課題
- 12 回：米中関係の変遷と激突の深層
- 13 回：アジア地域での平和構築に向けた日中関係の在り方
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% リアクションペーパー (計 10 回) :40% 出席および授業態度:10%

テキスト / Textbooks

テキストは、特に指定しない。毎回配布する資料に沿って講義を進める。

参考文献 / Readings

- 東大社研現代中国研究拠点編 『現代中国ゼミナール』 東京大学出版会 2020
 南亮進・牧野文夫 『中国経済入門 (第4版)』 日本評論社 2016
 梶谷懐・藤井大輔編 『現代中国経済論(第2版)』 ミネルヴァ書房 2018
 藤本典嗣・朴美善 『東アジア・北米諸国の地域経済』 中央経済社 2021

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 学びの精神

グローバル社会での平和構築

Peace Building in a Global Society

平和研究の観点から様々な暴力の形態を理解する

浪岡 新太郎 (NAMIOKA SHINTARO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH164
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

平和研究の基本的な歴史、そして現代平和研究の主要な課題となっている多文化主義をめぐる基本的な概念を理解する。

The purpose of the course is to understand basic history of peace studies, and the basic concept of multiculturalism which has become a central topic in modern peace studies.

授業の内容 / Course Contents

平和研究の観点から、これまでどのような争点が「平和」の課題とされてきたのか、そして、この課題はどのようにして変遷してきたのか、さらに、「平和」の名の下に注目されない排除について学ぶ。具体的には、「移民の受け入れは受け入れ国が決めて良いのか」、「死刑は認められるのか」、「旧植民地国への責任はどのようなもので、いつまで継続するのか」などについて考える。

Students will study which issues were disputed in relation to peace and how they have evolved from the perspective of peace studies, and also learn about issues of exclusion that are averted for the sake of peace. In particular, we will consider whether it is right for the receiving country to determine acceptance of immigrants;

whether death penalty be accepted; and what the responsibilities are towards former colonies and how long such responsibilities should last.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
 2回：平和研究の基礎1 暴力について
 3回：平和研究の基礎2 構造的暴力
 4回：平和研究の基礎3 冷戦期の平和研究 核抑止
 5回：平和研究の基礎4 冷戦期の平和研究 核抑止
 6回：平和研究の基礎5 冷戦期の平和研究 南北問題
 7回：平和研究の基礎6 冷戦期の平和研究 南北問題
 8回：平和研究の基礎7 冷戦後の平和研究 国家の破綻
 9回：平和研究の基礎8 冷戦後の平和研究 介入の必要性？
 10回：平和研究の基礎9 冷戦後の平和研究 植民地支配の責任
 11回：平和研究の基礎10 冷戦後の平和研究 働くことの不可能性？
 12回：平和研究の応用1 人権規範の拡大とそれに伴う排除
 13回：平和研究の応用2 民主主義の拡大とそれに伴う排除
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業内容を復習して、自分の意見を作ってから参加すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 毎回のコメントペーパー:30%

テキスト / Textbooks

レジュメを用意する。

参考文献 / Readings

学生の関心に応じて適宜指示する。

その他 / Others

講義形式の授業ではあるが、積極的に学生に質問し、学生との議論の中で講義を作り上げていく。したがって、積極的に参加する意欲を持った学生に向いている。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項 (検索結果画面)

グローバル社会での平和構築

Peace Building in a Global Society

国際政治の中の沖縄

小松 寛 (KOMATSU HIROSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH165

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ・ 国際政治、とりわけ日米関係における「沖縄問題」についてその変遷を理解する
- ・ グローバルに展開される政治に対して、地域社会としての沖縄の対応について考察する
- ・ Students will learn about international politics, especially the Okinawa problem relating to Japan-America relations
- ・ We will consider the response of Okinawa as a local community to politics unfolding on a global scale.

授業の内容 / Course Contents

本講義では戦後の国際政治における沖縄問題の変遷を追う。冷戦の始まりとともに沖縄は軍事安全保障上の重要拠点として位置づけられ、米国の施政権下におかれた。その処遇については日米間で交渉が重ねられ、1972年に沖縄は日本に返還された。しかし在沖米軍基地は米国の世界戦略の要衝として残され、沖縄問題は今日まで続いている。冷戦構造およびポスト冷戦の国際政治の中でなされた日米の安全保障政策が、沖縄にどのような影響を与え、そして沖縄側の反応がどのようなものであったのか。それを理解することで、グローバルな政治変動と地域社会の相互作用を考察する。

In this course, we will follow changes in the Okinawa problem in global politics from the postwar period. At the start of the Cold War, Okinawa was designated as a base critical to the military security and was placed under the jurisdiction of the American military. Many series of negotiations were held between Japan and America regarding this matter, resulting in Okinawa being returned to Japan in 1972. However, the American military base in Okinawa remains as an essential strategic position to America's global military strategy, and the problem persists into the present day. In this course, we will examine the effects that America and Japan's military security policy, issued within the context of Cold War era international politics, has on Okinawa. We will also examine the response to this from the Okinawan side of things. Through understanding this, we will investigate the interactions between local communities and changes in global politics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：冷戦の始まりと米軍による沖縄統治
- 2 回：日米安全保障条約体制の形成と沖縄
- 3 回：日本と沖縄の基地闘争
- 4 回：日米安保条約の改定と沖縄
- 5 回：日本復帰運動と沖縄における国民教育
- 6 回：高度経済成長と佐藤政権の発足
- 7 回：米国統治への抵抗と琉球政府行政主席選挙
- 8 回：日米・日沖間の返還交渉
- 9 回：沖縄返還協定と反戦復帰・独立・反復帰
- 10 回：尖閣諸島領有権問題の発端と東アジア国際関係
- 11 回：日本復帰体制の確立
- 12 回：冷戦終結と沖縄の基地問題
- 13 回：日米関係と沖縄問題の変容
- 14 回：「オール沖縄」の形成と今日の東アジア国際関係

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習内容については別途、授業内で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :60%
 平常点割合 :40% レビューシート (毎講義ごとに提出) :20% 中間レポート:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

小松寛 『日本復帰と反復帰：戦後沖縄ナショナリズムの展開』 早稲田大学出版部 2015 4657157078
 多賀秀敏編 『平和学から世界を見る』 成文堂 2020 4792333962
 櫻澤誠 『沖縄現代史』 中央公論新社 2015 9784121023421

その他 / Others

授業ではパワーポイントを使用し、適宜映像資料も活用する。また、配布資料を用意する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

大学生の学び・社会で学ぶこと

A Guide to Service Learning and Civic Engagement

"Learning for action"の実践

中沢 聖史 (NAKAZAWA SATOSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH167
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（全回対面）
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

大学での学習が、社会の現実を理解し、また課題を発見するための基礎であることを学ぶ。また課題を解決するために、社会の課題に関わり、活動する視点と態度を習得することを目標とする。

Students will learn that university study is the basis for understanding social reality and identifying issues. The course also aims to provide students with the perspectives, attitudes, and basic skills to engage with and work on social issues through a service learning (citizenship education) approach.

授業の内容 / Course Contents

この科目は立教サービスラーニング(RSL)科目群のひとつとして開講する。RSLはコミュニティを理解し、コミュニティに関わる能力を習得することを通してシティズンシップ（市民性）を習得することを目的とする。授業の前半は「大学生の学び」の領域として、本学学生にとって4年間を過ごすコミュニティである立教大学の歴史、建学の精神や、サービスラーニングの役割と位置付けなどを理解する。

授業の後半は、「日本は平和か」という問いから、社会の一員としての自分を見つめ、自らがよりよい社会の実現のためにどのようなコミットメントができるのかを考える。大小様々な社会課題を取り上げることで、国際

社会のようなマクロの視点から、地方自治体のようなミクロの視点まで、自分自身と社会とのつながりを多角的に捉える。それぞれの課題の解決に向けてアクションを起こすために貪欲に学び、またその学びを言語化すること、可視化する姿勢を重視する。

This course is offered as part of the Rikkyo Service Learning (RSL) subjects, which aims to help students acquire the sense of citizenship through understanding the community and the ability to engage with it.

In the first half of the class, students will learn about the history of Rikkyo University, the community where they will spend the next four years, its founding spirit, and the role and position of service learning.

In the second half of the class, students will look at themselves as members of society and consider what kind of commitment they can make to realize a better society, based on the question, "Is Japan at peace?" By looking into a variety of social issues, both large and small, students will gain a multifaceted view of the connection between themselves and society, from the international community to the local community. The course emphasizes the importance of learning attitude in order to take action to solve each issue, as well as verbalizing and visualizing their learning outcomes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション ～授業のねらい、進め方、受講に際しての準備～
- 2 回：立教大学の建学の精神と立教大学での学び
- 3 回：正課外活動（授業外の活動）における立教生の学び
- 4 回：大学での学び方（正課教育）と立教生の学び
- 5 回：サービ斯拉ーニングと立教生の学び
- 6 回：日本は平和か 直接的暴力と構造的暴力
- 7 回：経済活動と搾取
- 8 回：グループワーク 社会的弱者とは誰か①
- 9 回：マイノリティと人権
- 10 回：グループワーク 社会的弱者とは誰か②
- 11 回：移民・難民問題と多文化共生
- 12 回：グループワーク 社会的弱者とは誰か③
- 13 回：社会と自分のつながりを考える
- 14 回：ふりかえり学習：学びを言語化する

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、履修登録完了後に「Canvas LMS」上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業のリアクションペーパー:20% 小グループでおこなうリサーチペーパー:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

大学生の学び・社会で学ぶこと

A Guide to Service Learning and Civic Engagement

教育学と社会-コミュニティの過去と現在から考える-

福原 充 (FUKUHARA MITSURU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH168
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

大学での学習が、社会の現実を理解し、また課題を発見するための基礎であることを学ぶ。また課題を解決するために、社会の課題に関わり、活動する視点と態度を習得することを目標とする。

In this course, students will learn that collegiate studies are meant to set the basis to help them understand the reality of society, as well as to help them find issues within it. In order to help them solve these issues, students will immerse themselves in various issues related to society, acquiring new viewpoints and the proper attitude along the way.

授業の内容 / Course Contents

この科目は立教サービスラーニング（RSL）科目群のひとつである。

授業の前半は「大学生の学び」領域（自校教育）として、立教大学の歴史、正課教育や正課外教育での学び、サービスラーニングの役割と位置付け等について講じる。授業の後半は、教育学の専門領域を基盤としながら、本学のキャンパスがある池袋地域の歴史にも注目しつつ、教育とは何か、教育学と社会との関係性やその背景にある思想について講じる。コミュニティの中で、教育が果たしてきた役割や取り組みについて、批判的

な視点も持ちつつ、「過去」と「現在」を往還させることで、「自分事」として現代社会を捉え、未来を創っていく力を養うことを目指す。

なお、適時、自身の体験や経験、考えを言語化し、他者と議論する機会（ディスカッション）も設ける。

[付記]

立教サービ斯拉ーニング（RSL）はコミュニティ（他者、共同体における思想や生活文化）を理解し、自身の専門性を活かしながら現場での体験・経験をとおしてコミュニティに関わる能力を培い、4年間の学生生活（正課教育と正課外教育の往還）を通じてシティズンシップ（市民性）を涵養することを目的とする科目群である。本科目は全学共通科目における「学びの精神」科目群に位置し、初年次教育、秋学期のRSL実践系科目のフィールドとのつながり等も意識した、RSL入門としての要素を持つ科目である。

This subject is one of Rikkyo Service Learning (RSL) subjects.

First, lectures will be given on the history of Rikkyo University, learning in regular and extracurricular education, and service learning. Second, learn about the relationship between pedagogy and society and the ideas behind it, based on pedagogy. We will think about the role and efforts that education has played in the community, with a critical perspective. From the perspective of pedagogy, we will capture the modern society by going back and forth between the "past" and the "present." By doing so, we aim to cultivate the power to create the future. There will also be an opportunity (discussion) to discuss with others.

[note]

RSL aims to cultivate citizenship by understanding the community (thoughts and life culture in others and communities) and cultivating the ability to be involved in the community through on-site experience while utilizing one's own expertise. This subject is an introductory subject to RSL.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション～授業のねらい、進め方、受講に際しての準備
- 2回：立教大学の建学の精神と立教大学での学び
- 3回：正課外活動（授業外の活動）における立教生の学び
- 4回：大学での学び方（正課教育）と立教生の学び
- 5回：サービ斯拉ーニングと立教生の学び
- 6回：体験を言語化する：前5回講義の振り返りディスカッション（RSL履修者の体験談含む）
- 7回：「教育」とは、「教育学」とは何か—教育学と教育科学：教育の2つの側面
- 8回：教育と学校—近代教育思想と学校制度（子ども、教師、国家）
- 9回：学ぶとは何か—認知能力と非認知能力（リテラシー概念の変遷）
- 10回：教育と人権—権利としての教育とマイノリティー（滝乃川学園等の事例を通じて）
- 11回：教育と社会①—教育・学校批判と新しい教育（大正新教育とアクティブラーニング）
- 12回：教育と社会②—教育機関と社会参画（学園都市構想とその展開）
- 13回：教育と選択—現代の教育問題（教育格差、ジェンダー、多文化共生等）とシティズンシップ
- 14回：クロージング（授業総括とディスカッション）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日頃より社会の出来事や課題に関心を持ち、関連する文献やニュース・新聞・雑誌記事に目を通しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% リアクションペーパー:20% 授業内課題:20%

テキスト / Textbooks

テキストは指定せず、適時、授業時にレジユメ等を配布する。

参考文献 / Readings

逸見・原田・藤枝編著 立教大学 RSL センター編集 『リベラルアーツとしてのサービスラーニング—シティズンシップを耕す教育—』 北樹出版 2017 9784779305306

授業時に紹介する。

なお、レポートの作成やプレゼンテーションの準備については、立教大学の『Master of Writing』、『Master of Presentation』等が参考になる。以下の URL よりダウンロードできるので、適時、必要に応じて活用すること。

(URL : <https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/master.html>)

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配布などに「Canvas LMS」を使用するので、PC 等を準備することが望ましい。

その他 / Others

- ・「Canvas LMS」を使用するので、使用方法に習熟しておくこと。
- ・授業中に紹介する立教大学が行うプログラム、チャペルやボランティアセンターで紹介するキャンプ・ボランティア活動などに積極的に参加することを期待する。
- ・秋学期以降の RSL 科目の履修を期待する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

大学生の学び・社会で学ぶこと

A Guide to Service Learning and Civic Engagement

キリスト教の「間」係学 - 自己・他者・関わり -

中川 英樹 (NAKAGAWA HIDEKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH169
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

大学での学習が、社会の現実を理解し、また課題を発見するための基礎であることを学ぶ。また課題を解決するために、社会の課題に関わり、活動する視点と態度を習得することを目標とする。

In this course, students will learn that collegiate studies are meant to set the basis to help them understand the reality of society, as well as to help them find issues within it. In order to help them solve these issues, students will immerse themselves in various issues related to society, acquiring new viewpoints and the proper attitude along the way.

授業の内容 / Course Contents

この科目は立教サービスラーニング（RSL）科目群のひとつである。RSL はコミュニティを理解し、コミュニティに関わる能力を習得することとおしてシティズンシップ(市民性)を習得することを目的とする。そこで、この授業の前半は、本学学生にとって4年間生活するコミュニティである立教大学の歴史や大学が学生に期待する正課教育や正課外教育での学びと人間的成長について講じる。授業の後半は、立教大学の教育的・信仰的根幹であるキリスト教（聖公会）のアプローチ（視座）を通して、倫理的に、現代社会の現実課題を見つ

めていく。またディスカッションなどの機会を多く持ち、他者の声を聴くと共に、自らの想いの意識化と言葉化を試みつつ、他者・社会の中に生きる一人の「個」としての在り方を探求することを内容とする。

This subject is one of Rikkyo Service Learning (RSL) subjects. RSL aims for students to understand the community; through acquiring the skills to deal with the community, students come to understand what it means to be a citizen in the community. With that in mind, during the first half of this course, students will learn the history of Rikkyo University, the community that will be their home for the four years. In addition, students will learn about the university's required curriculum as well as extracurriculars offered by the university. The lecture will also discuss tips regarding how to grow as a person. In the latter half of the course, we will use a Christian (Holy Catholic Church) approach (outlook) based in Rikkyo University's educational and spiritual foundation to ethically look at various real issues in modern society. There will be many opportunities for discussion. While hearing the opinions of those around them, students will endeavor to put their own feelings into thoughts and words. The general content for this course is aimed at searching for what it means to live amongst others as an individual member of society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション

授業のねらい、進め方、受講に際しての準備

2回：立教大学の建学の精神と立教大学での学び

3回：正課外活動(授業外の活動)における立教生の学び(学内ゲスト)

4回：大学での学び方(正課教育)と立教生の学び(学内ゲスト)

5回：サービスマーケティングと立教生の学び(学内ゲスト)

6回：ディスカッション

「わたしの立教自慢」～今までの講義をとおして、「立教」という大学で学ぶことの意義と mission を、自らの Passion として言葉化し、他者と共有してみる

7回：キリスト教の「間」係学 - 自己・他者・関わり - (1)

「人間の理解」について キリスト教の視点から

8回：キリスト教の「間」係学 - 自己・他者・関わり - (2)

「他者」について キリスト教の視点から / 前2回をふまえてのディスカッション

9回：キリスト教の「間」係学 - 自己・他者・関わり - (3)

「コミュニティ」について キリスト教の視点から

10回：キリスト教の「間」係学 - 自己・他者・関わり - (4)

学外ゲストスピーカー(現場実践者)による講義

11回：キリスト教の「間」係学 - 自己・他者・関わり - (5)

社会の課題を読み解く視座 聖書的アプローチ / 前2回をふまえてのディスカッション

12回：キリスト教の「間」係学 - 自己・他者・関わり - (6)

ワークショップ 「誰かにとっての他者になる」社会的関心の言葉化

13回：キリスト教の「間」係学 - 自己・他者・関わり - (7)

社会的関心を「祈る」 於：チャペルにて

14回：クロージング・スタディ / 前3回をふまえてのディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド(パワポ等)の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 :

個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

R S L科目群の WEB、文献などに目を通しておくこと。

- ・「立教 CHALLENGE(WEB 版)」 http://www.rikkyo.ac.jp/rikkyo_challenge/
- ・立教大学ボランティアセンター <http://www.rikkyo.ac.jp/support/volunteer/>
- ・立教大学の社会連携活動 <http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/cooperation/>

授業期間中に R S L センター・ボランティアセンター・チャペルを訪ねること

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :65%

平常点割合 :35% リアクションペーパー内容:35%

なお、3/4 以上の出席を為していない場合は、成績評価の対象としない。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

授業時に紹介する

その他 / Others

- ・授業中に紹介する立教大学が行うプログラム、チャペルやボランティアセンターで紹介するキャンプ・ボランティア活動などに積極的に参加することを期待する。
- ・秋学期の R S L 科目の履修を期待する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

人権とジェンダー

Human Rights and Gender

人権とジェンダーをめぐる諸問題の検討

嶽本 新奈 (TAKEMOTO NIINA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH170
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

人権とジェンダーの概念をその歴史的成り立ちから理解し、現代社会における様々な問題を、人権およびジェンダー的視点によって考えられるようになる。

In this course, students will learn to understand the concepts of human rights and gender through their historical origins. Upon taking this course, students will be able to think about various issues facing modern society from the standpoint of human rights and gender.

授業の内容 / Course Contents

「近代的人権」は普遍的な概念として把握されているが、主に白人男性たちによって作られた成立当初は「女性の人権」が除外されていたことはとても有名である。授業の最初ではまず「近代的人権」の歴史的経緯を把握し、人権概念が各時代における異議申し立てにどのように対応し、変化をしてきたかを学ぶ。その後、現代の社会における具体的な諸問題を取り上げ、人権とジェンダー的視点によって、それら諸問題をどのように理解し、考えたらいいかを一緒に検討していく。

Although "human rights" is considered to be a universal concept, it is well-known that "women's rights" were

excluded at the concept's origin, which was largely brought about by white men. At the beginning of the course, students will grasp the historical process of "human rights," learning how the concept of human rights has responded and evolved as a result of opposition throughout each era. Following this, we will look at various specific issues in modern society, investigating together how one should comprehend and think about them from the standpoint of human rights and gender.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：人権とフェミニズムの歴史
- 2 回：女性参政権の歴史
- 3 回：大学における人権とジェンダー
- 4 回：婚姻制度・パートナーシップにおける人権とジェンダー：「家族」の再考
- 5 回：労働における人権とジェンダー（1）性差と賃金労働
- 6 回：労働における人権とジェンダー（2）労働条件と労働の現場
- 7 回：身体と人権・ジェンダー（1）リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- 8 回：身体と人権・ジェンダー（2）セクシュアリティとジェンダー・アイデンティティ
- 9 回：身体と人権・ジェンダー（3）買春と性暴力
- 10 回：国家と人権・ジェンダー（1）社会的マイノリティとジェンダー
- 11 回：国家と人権・ジェンダー（2）社会的マイノリティとジェンダー
- 12 回：国家と人権・ジェンダー（3）戦争と性暴力
- 13 回：グローバリズムと人権・ジェンダー
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキスト・参考文献に挙げた本を読んでおくことが望ましい。また、人権やジェンダーに関する時事問題に関心を持ち、日々の新聞やテレビ報道などに接しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%
 平常点割合 :40% リアクションペーパー兼講義内容の設問:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

辻村みよ子 『人権をめぐる十五講：現代の難問に挑む』 岩波現代全書 2013 4000291173
 千田有紀・中西祐子・青山薫編 『ジェンダー論をつかむ』 有斐閣 2013 4641177163
 加藤周一 『はじめてのジェンダー論』 有斐閣ストゥディア 2017 4641150397
 天童睦子 『女性・人権・生きること:過去を知り 未来をひらく』 学文社 2017 476202712
 授業の中で適宜参考文献や関連記事、関連動画などを紹介する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

ライフマネジメントと学生生活

Student Life Management

体育・スポーツの研究と教育からのメッセージ 人生 100 年時代を生き抜くアクティブ・アプローチ

杉浦 雄策 (SUGIURA YUSAKU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH171
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業は、体育・スポーツの研究と教育からのメッセージではあるが、学問という枠にとらわれず、人生を豊かにすることのきっかけとしたい。人と比べるのではなく、自分らしい、自分だけの生き方（ライフマネジメント・キャリア）を大学で見つけてもらいたい。

Through “knowing” sports, students will “realize” what things are necessary for their lives/careers. Through various specific examples, students will “learn” from the standpoint of sports medicine, sharpening management skills that they will be able to “capitalize” on in the future.

授業の内容 / Course Contents

体育・スポーツは「身体性」「同時性」「連帯性」といった特徴をもち、実生活で経験する多くの出来事と相通じる。人生は偶然という予期せぬ出来事の連続である。不確実で不安定な時代だからこそ、自尊心、自己肯定感、自立心、自制心、自信そして協調性、共感する力、思いやり、社交性、道徳といった人生に必要な能力を、体育・スポーツの研究・教育を介して、養っていく。

In this course, various examples related to sports will be presented using audiovisual teaching materials (DVD,

slides) and data.

We will discuss the examples presented, searching for ways to capitalize upon the life/career management skills learned, both inside and outside of college life.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：授業の進め方
- 3回：学びの精神①
- 4回：学びの精神②
- 5回：人生を豊かにする①
- 6回：人生を豊かにする②
- 7回：健康・体力を創造する①
- 8回：健康・体力を創造する②
- 9回：アスリートに学ぶ「挑戦」「イノベーション」①
- 10回：アスリートに学ぶ「挑戦」「イノベーション」②
- 11回：アスリートに学ぶ「挑戦」「イノベーション」③
- 12回：アスリートに学ぶ「挑戦」「イノベーション」④
- 13回：未来に挑む
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習・復習（レポート作成）の課題は、授業時に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% テキストの理解度:30% コメントペーパー:20%

2/3以上の出席を、成績評価の対象とする。

テキスト / Textbooks

杉浦 雄策 『学生生活とライフマネジメント』 ライフ出版社 2024 ○

※受講期間中に、テキストへの書き込み・その他があり、評価の対象とするため、購入は必須となります（中古は不可）。

参考文献 / Readings

杉浦雄策 『日常生活に活かすスポーツ科学リテラシー』 ライフ出版社 2024

その他 / Others

正解のない問いに挑んでください。

”アナログ”を存分に活用します。

対話と主体性を大事に授業を運営します。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

ライフマネジメントと学生生活

Student Life Management

体育・スポーツの研究と教育からのメッセージ 人生 100 年時代を生き抜くアクティブ・アプローチ

杉浦 雄策 (SUGIURA YUSAKU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH172
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業は、体育・スポーツの研究と教育からのメッセージではあるが、学問という枠にとらわれず、人生を豊かにすることのきっかけとしたい。人と比べるのではなく、自分らしい、自分だけの生き方（ライフマネジメント・キャリア）を大学で見つけてもらいたい。

Through “knowing” sports, students will “realize” what things are necessary for their lives/careers. Through various specific examples, students will “learn” from the standpoint of sports medicine, sharpening management skills that they will be able to “capitalize” on in the future.

授業の内容 / Course Contents

体育・スポーツは「身体性」「同時性」「連帯性」といった特徴をもち、実生活で経験する多くの出来事と相通じる。人生は偶然という予期せぬ出来事の連続である。不確実で不安定な時代だからこそ、自尊心、自己肯定感、自立心、自制心、自信そして協調性、共感する力、思いやり、社交性、道徳といった人生に必要な能力を、体育・スポーツの研究・教育を介して、養っていく。

In this course, various examples related to sports will be presented using audiovisual teaching materials (DVD,

slides) and data.

We will discuss the examples presented, searching for ways to capitalize upon the life/career management skills learned, both inside and outside of college life.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：授業の進め方
- 3回：学びの精神①
- 4回：学びの精神②
- 5回：人生を豊かにする①
- 6回：人生を豊かにする②
- 7回：健康・体力を創造する①
- 8回：健康・体力を創造する②
- 9回：アスリートに学ぶ「挑戦」「イノベーション」①
- 10回：アスリートに学ぶ「挑戦」「イノベーション」②
- 11回：アスリートに学ぶ「挑戦」「イノベーション」③
- 12回：アスリートに学ぶ「挑戦」「イノベーション」④
- 13回：未来に挑む
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習・復習（レポート作成）の課題は、授業時に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% テキストの理解度:30% コメントペーパー:20%

2/3以上の出席を、成績評価の対象とする。

テキスト / Textbooks

杉浦 雄策 『学生生活とライフマネジメント』 ライフ出版社 2024 ○

※受講期間中に、テキストへの書き込み・その他があり、評価の対象とするため、購入は必須となります（中古は不可）。

参考文献 / Readings

杉浦雄策 『日常生活に活かすスポーツ科学リテラシー』 ライフ出版社 2024

その他 / Others

正解のない問いに挑んでください。

”アナログ”を存分に活用します。

対話と主体性を大事に授業を運営します。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

ライフマネジメントと学生生活

Student Life Management

幸せな学生生活と人生のあり方を考える（Thinking about how to be a happy student life and life）

中村 聡宏（NAKAMURA AKIHIRO）

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH173

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

よりよく生きるとはどういうことかを把握し、学ぶことの意義を知り、社会で活躍し Good Life を送るための知見、思考および行動を身につける。よりよい学生生活や幸せな社会生活を過ごすために、多角的な分野から構造的に学び、議論し、実践できるようになる。

Students will understand how to live better, learn the meaning of learning, and acquire the knowledge, thoughts, and actions necessary to be active in society and lead a good life. They will be able to learn structurally from multiple disciplines, discuss, and put into practice what they have learned in order to have a better student life and a happier social life.

授業の内容 / Course Contents

よりよく生きることについて考え、ビジネスパーソンに求められるさまざまな知見、思考法、コミュニケーションのあり方などについて明らかにする。学生生活や人生をマネジメントする上で必要となる自己研鑽の方法、自己表現するためのマインドセット、表現方法などについて議論する。

We will consider what it means to live better and clarify the various insights, ways of thinking, and ways of

communicating that are required of business persons. We will discuss the methods of self-improvement, the mindset for self-expression, and the ways of expression that are necessary for managing your student life and your life.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：本講義を通して学ぶべきこと —よりよく生きるとはどういうことか—
- 2回：学びの意義を考える
- 3回：ビジネスパーソンの心得
- 4回：コミュニケーション戦略 —情報発信と情報収集の重要性—
- 5回：目的を把握する —かならず「なぜ」からはじめよう—
- 6回：ポジティブのススメ —伝わる言葉の選び方—
- 7回：プロフェッショナルから学ぶコミュニケーション戦略
- 8回：書くチカラと聴くチカラ —傾聴力を高めよう—
- 9回：目標を実現するために —マンドラチャートを作成する—
- 10回：究極の自己紹介を考える —自らをマーケティングする—
- 11回：プレゼンテーションの極意
- 12回：ビジネス文書作成 —伝えたい要素をデザインする—
- 13回：仕事をする喜びを語ろう
- 14回：プロフェッショナルをめざして —幸せな学生生活と人生のあり方を考える—

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 授業への参加度・貢献度:25% 授業内に指示した提出物:25%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

さまざまな問いかけに、学生同士コミュニケーションをとりつつ、挑戦を愉しむ姿勢を求めたい。豊かな学生生活を実現するためにも、主体性を持ち、アグレッシブな姿勢で講義に参加することを望む。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

立教大学の歴史

History of Rikkyo University

日本近現代史のなかの立教大学

太田 久元 (OTA HISAMOTO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH174
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

1874年に創立した立教は、どのような歩みを経て、現在に至っているのだろうか。この授業では、日本近現代史のなかの立教大学の歴史・沿革とその特色を学びながら、「立教大学とは何であるのか」をともに考えていきたい。

Just what path has Rikkyo taken since its founding in 1874 to arrive at the present? In this course, students will learn the place that Rikkyo's history and development has within contemporary Japanese history. While learning the peculiarities of Rikkyo's history, we wish to ponder the question: "what is Rikkyo University?"

授業の内容 / Course Contents

この授業では、1874年の創立から2000年の「一貫連携教育」の開始までを対象とし、立教大学の歴史を日本近現代史のなかに位置づけながら検討していく。立教大学の歴史的展開を明らかにしていくなかで、立教各校（小・中・高）の動向や他大学の事例についても適宜紹介していく。そのほかゲストスピーカーの招聘を予定している。なお、進捗状況により、授業計画が若干変更することがある。

In this course, we will cover from Rikkyo's founding in 1874 until the beginning of "integrated education given at

collaborated continuous schools” in 2000. We will investigate the place that Rikkyo University’s history has within contemporary Japanese history. While shedding light on Rikkyo University’s historical development, we will introduce trends within each Rikkyo school (elementary, middle, and high school) alongside relevant examples from other universities. In addition, we plan to invite a guest speaker. Note that there may be small changes to the syllabus depending on the progress made.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：聖公会の日本伝道と創立者 C.M.ウィリアムズ
- 3 回：立教学校の誕生
- 4 回：文部省訓令第12号と立教学院の成立
- 5 回：高等教育制度の整備と立教大学の誕生
- 6 回：関東大震災と財団法人立教学院
- 7 回：立教大学の拡張と戦争の影
- 8 回：日米開戦とキリスト教教育の危機
- 9 回：戦局の悪化と大学存続の危機
- 10 回：敗戦から学園の再建へ
- 11 回：新制立教大学への移行
- 12 回：高度経済成長のなかの立教大学
- 13 回：新座キャンパス開校とその後の展開
- 14 回：学期のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習の必要はないが、授業後は配布したプリントをよく見直し、しっかり復習すること。その際、関連の参考文献を読むことで、授業内容への理解を深めること。その詳細については、授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業態度および毎授業時のコメントペーパーの内容:30%

出席は毎回とる。4回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。欠席する場合は、必ず担当教員まで連絡すること。私語は厳禁。

テキスト / Textbooks

テキストは指定せず、授業時にプリントを配布する。

参考文献 / Readings

立教学院史資料センター編 『立教大学の歴史』 立教大学 2007

立教学院百二十五年史編纂委員会編 『BRICKS AND IVY 立教学院百二十五年史図録』 学校法人立教学院 2000

立教学院百五十年史編纂委員会編 『立教学院百五十年史』第1巻 立教大学立教学院史資料センター 2023

参考文献の『立教大学の歴史』は、以下の URL からダウンロードできるので参照すること。

<http://doi.org/10.14992/00009026>

立教史関連の諸研究については、以下の URL を参照のこと。

http://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/rikkyo_archives/research_results.html

その他/ Others

立教学院の歴史については、立教学院史資料センターの以下の URL を参照すること。

http://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/rikkyo_archives/

注意事項

- ・ 2016 年度以降 1 年次入学者：学びの精神科目
- ・ 2012～2015 年度 1 年次入学者：立教 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／立教 A

立教大学の歴史

History of Rikkyo University

「立教」を創り育てた人びと

the pioneers of Rikkyo

田村 俊行 (TAMURA TOSHIYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH175

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1133

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

われわれの生きる社会が歴史的生成物であるように、大学もまた時代状況に左右されながらそのあり方を変えてきた。本講義では、「立教」のあゆみを振り返ることで、立教大学の歴史を批判的かつ歴史学的に考察する力をつけることを目標とする。

As all societies are historical products, universities are influenced by their times' specific policies and political climate in history. By the end of this module, students should be able to think critically and historically about the history of Rikkyo University.

授業の内容 / Course Contents

アメリカ聖公会宣教師ウィリアムズによる開校以来、「立教」は 150 年の歴史を有している。本講義では立教を開拓した宣教師たちの伝記を繙きながら、そのあゆみを紹介する。

It has been 150 years since Channing Moore Williams established the Rikkyo School at Tsukiji in Tokyo. We will consider the history of Rikkyo University, along with some biographical stories about foreign teachers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション

Introduction

2回：C・M・ウィリアムズ①：ウィリアムズと異教の人びと

C. M. Williams 1: Williams and People of a Heterodoxy

3回：C・M・ウィリアムズ②：ウィリアムズの生活

C. M. Williams 2: The Life of Williams

4回：J・マキム①：開拓者

J. McKim 1: McKim a pioneer

5回：J・マキム②：事績

J. McKim 2: Deeds of John McKim

6回：A・ロイド①：ロイドと日本

A. Lloyd 1: Arthur Lloyd and Japan

7回：A・ロイド②：言語学者ロイド

A. Lloyd 2: Lloyd the Linguist

8回：H・タッカー①：伝道の道へ

H. Tucker 1: Path to the mission

9回：H・タッカー②：「立教大学」のはじまり

H. Tucker 2: Beginning of Rikkyo University

10回：C・ライフスナイダー①：震災と復興

C. Reifsnider 1: the recovery from the earthquake

11回：C・ライフスナイダー②：新制立教大学

C. Reifsnider 2: the education system in post war

12回：P・ラッシュ①：清里の開拓者

P. Rusch 1: the pioneering father of Kiyosato

13回：P・ラッシュ②：GHQと戦後復興

P. Rusch 2: the General Headquarters and a postwar recovery

14回：まとめ

Conclusion

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業前に前回の資料を見直し、復習すること。

授業後には、その日の授業で扱った事柄について調べておくこと。

Students must have read the last handout prior to class.

After the class, students are required to survey the matters relevant to the class.

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー:20%

全回の出席を求める。成績評価には三分の二以上の出席を必要とする。Students are expected to attend all classes. According to the attendance policy of the University, students must attend a minimum of 66% of the classes in order to receive evaluation for the module.

テキスト/ Textbooks

テキストは指定しない。授業時に資料を配布する。

No textbook will be used. Handouts will be printed and provided throughout the module.

参考文献 / Readings

立教大学立教学院史資料センター（編） 『立教大学の歴史』 立教大学 2008

その他/ Others

この授業は英文テキストを用いるが、講義は日本語でおこなう。This course will be taught in Japanese with English text.

注意事項

- ・ F 科目導入（外国語による総合系科目）
- ・ この授業は、主に日本語で行われるが、英語教材（文献や映像等）を使用する。
- ・ 履修にあたって英語力は問わない。英語「で」学ぶことや、グローバル環境に身を置くことに意欲のある学生の履修を歓迎する。
- ・ 2016 年度以降 1 年次入学者：学びの精神科目
- ・ 2012～2015 年度 1 年次入学者：立教 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／立教 A

立教大学の歴史

History of Rikkyo University

日本近現代史における立教大学

宮本 正明 (MIYAMOTO MASA AKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH176
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

「自校史」として立教の歴史を学ぶ機会にさせていただくとともに、その沿革と特色を日本近現代史との関わりのなかで理解してもらえればと思います。

- ・ to use this course as an opportunity to learn about Rikkyo's history as your own school history.
- ・ to understand Rikkyo's history and characteristics in relation to modern Japanese history.

授業の内容 / Course Contents

1874 年にその前身となる学校が創立されて以降、立教は 150 周年の節目を迎えます。その歴史にはまだ明らかでない部分も残されていますが、この間に進展してきた研究成果にもとづく形で、立教の歩みを紹介いたします。

Rikkyo is celebrating 150th anniversary since its predecessor school was founded in 1874. We would like to introduce Rikkyo's history based on the research results that have developed to date.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：授業ガイダンス

- 2回：聖公会の日本伝道
- 3回：立教の創立者ウィリアムズ
- 4回：立教学校の誕生
- 5回：文部省訓令第十二号と立教学院の成立
- 6回：高等教育制度の整備と立教大学の誕生
- 7回：関東大震災と財団法人立教学院
- 8回：立教学院の拡張と戦争の影
- 9回：日米開戦とキリスト教主義教育の危機
- 10回：戦局の悪化と大学存続の危機
- 11回：敗戦から学園の再建へ
- 12回：新制立教大学への移行
- 13回：高度経済成長期以降の立教大学
- 14回：戦前期の留学生と立教大学

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習としては、【参考文献】欄で挙げた『立教大学の歴史』における該当箇所の通読、復習としては、【成績評価方法・基準】欄で挙げる毎回の授業内容の要約を、それぞれ想定しております。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 毎回の授業内容の要約:30%

事情のお申出なく、授業内容の要約が3回以上未提出の場合は、筆記試験を受けていただいた場合でも、成績評価の対象とは致しませんので、ご注意ください。

テキスト / Textbooks

テキストは指定いたしません。授業時にプリントを配布いたします。

参考文献 / Readings

立教学院史資料センター（編） 『立教大学の歴史』 立教大学 2007

立教学院百五十年史編纂委員会（編） 『立教学院百五十年史』第1巻 立教学院史資料センター 2023

『立教大学の歴史』は立教大学図書館リポジトリ(Rikkyo Roots)を通じてPDFを閲覧・ダウンロードすることができます。

<http://doi.org/10.14992/00009026>

その他 / Others

立教大学の歴史・沿革：<https://www.rikkyo.ac.jp/about/history/>

立教学院の歴史や史資料など：https://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/rikkyo_archives/

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：立教A科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／立教 A

西欧キリスト教社会における大学の誕生

Genealogy of Universities and Colleges in Occidental Christianity

M・ウェーバー『職業としての学問』を読む

峰尾 公也 (MINEO KIMINARI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH177
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

大学で学ぶうえで必要となる基礎知識を獲得し、大学で学ぶことの意義について受講者ひとりひとりが自分なりの考えを主体的にもつこと。

To acquire the basic knowledge necessary for studying at university, and for each participant to independently develop his/her own ideas about the significance of studying at university.

授業の内容 / Course Contents

マックス・ウェーバーの『職業としての学問』の講読を通じて、現代日本の大学で学ぶことの意義について考えていく。また、「大学の歴史」についても紹介する。

Through a reading of Max Weber's "Science as a Vocation," we will consider the significance of studying at universities in modern Japan. The History of the University" will also be introduced.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入（授業内容の説明）

2 回：大学の歴史（古代）

- 3回：大学の歴史（中世）
 4回：大学の歴史（近代）
 5回：大学の歴史（現代）
 6回：昨今の大学事情について
 7回：『職業としての学問』を読む（M・ウェーバーについての紹介）
 8回：『職業としての学問』を読む
 9回：『職業としての学問』を読む
 10回：『職業としての学問』を読む
 11回：『職業としての学問』を読む
 12回：『職業としての学問』を読む
 13回：『職業としての学問』を読む
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義内容の復習や、講読箇所での予習・復習をすること。たとえば、講読箇所に出てきた言葉の意味がわからない場合、その意味をそのつど自分で調べておくこと。また授業内で紹介した文献等に目を通すなどして、自分の考えをまとめること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

マックス・ウェーバー（尾高邦雄 訳） 『職業としての学問』（改訳版） 岩波書店 1980 9784003420959
 ○

参考文献 / Readings

クリストフ・シャルル／ジャック・ヴェルジェ 『大学の歴史』 白水社 2009 4560509409

潮木守一 『職業としての大学教授』 中公叢書 2009 4120040674

広川洋一 『プラトンの学園 アカデメイア』 講談社学術文庫 1999 4061593617

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

キャリアデザイン

Career Design

日本企業での働き方を知る

久保 隆光 (KUBO TAKAMITSU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH179
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

この科目は、「学びの精神」の科目のひとつです。キャリアを考えることは、人生を考えることです。これから社会に出て、自立し、自分がどのように働き、どのように生きていくのか、これからの自分について考える授業を目指します。そして、日本の企業、組織での働き方について基礎的な知識を身に着けることを目標とします。

This course is part of the Introduction to Academic Studies course branch. To think about one's career is to think about their life. This course aims to have students think about where they will work, how they will live, and how they themselves will be once they enter society and become self-reliant. Additionally, the course aims to teach students fundamental knowledge regarding how to work for a Japanese business or organization.

授業の内容 / Course Contents

多くのみなさんが、将来、企業に勤めることが予想されるため、日本の企業や組織での働き方、とりわけ人事労務管理や人的資源管理の分野を中心に授業を展開していきます。昇進、給与、労働時間、ワークライフバランスなど、日本企業での働き方、日本の労働環境などを議論していきます。進捗状況により、授業計画が若干

変更することがあります。

As most students will likely work for a business in the future, this course will focus on how to work in a Japanese business or organization, especially in the fields of labor management and human resources management. We will discuss working styles at Japanese companies, working environment in Japan, etc. such as promotion, salary, working hours, work live balance, etc. Note that there may be small changes to the syllabus depending on the progress made.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：キャリアデザインとは
- 2 回：日米の働き方の違い①（ジョブ型とメンバーシップ型）
- 3 回：日米の働き方の違い②（内部労働市場と外部労働市場）
- 4 回：昇進
- 5 回：長期雇用
- 6 回：日本的雇用慣行
- 7 回：日本企業の組織と人材①（日本企業の組織の特徴）
- 8 回：日本企業の組織と人材②（日本企業における人材）
- 9 回：労働時間
- 10 回：多様な働き方
- 11 回：働き方の柔軟化
- 12 回：キャリア形成の変化
- 13 回：キャリアの多様化
- 14 回：全体総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :80%

平常点割合 :20% リアクションペーパー、ワークシート等の提出物:20%

テキスト / Textbooks

授業ごとにプリントを配布します。

参考文献 / Readings

今野浩一郎・佐藤博樹 『人事管理入門』 日経 BP・日本経済新聞出版本部 2022 9784532135287

平野光俊・江夏幾多郎 『人事管理』 有斐閣 2018 9784641150478

原田順子・平野光俊 『人的資源管理』 放送大学教育振興会 2018 9784595141041

このほかにも、必要に応じて授業内で紹介します。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

キリスト教史に学ぶ多文化共生

Religions and Diversity: Convivial Wisdom of Christianity

生きる知恵としてのペシミズム

大谷 崇 (OTANI TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH180

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

人生には嬉しいことや楽しいこともあれば、悲しいことや苦しいこともある。このうち、後者の悲しいことや苦しいことに注目するのが、本科目で扱うペシミズムである。

ペシミズム（厭世主義・悲観主義）とは、通常、生きることを嫌悪する思想や態度を意味し、古今東西のあらゆる文化においてみられる。例えばキリスト教も、復活を説く希望の宗教であると同時に、その裏返しとして厭世的な側面を持つ宗教でもあることは否めない（これを批判したのがニーチェであった）。

しかし、ペシミズムといえども、生に対して否定的な態度をとるという仕方

Pessimism usually means an aversion to life, an idea or attitude that is found in all ancient and modern cultures.

Christianity, for example, is a religion of hope that preaches the resurrection, but at the same time, it is

undeniably a religion with pessimistic aspects. The objective of this course is to examine pessimism in religions

(especially Christianity) and modern pessimism, in order to pave the way for an understanding of

multiculturalism from the point of view of pessimism, as well as of pessimism itself. In addition, through studying

pessimism, we will also aim to deepen our own ideas about life.

授業の内容 / Course Contents

ペシミズムについて一般的な背景を説明した後、近代ペシミズムの主要な人物であるショーペンハウアーとシオラン、およびニーチェとカミュに焦点を合わせ、その思想を個別に見ていく。また、ペシミズムの文化横断性と普遍性とをよりよく理解するために、諸宗教におけるペシミズムおよび、現代のペシミズムとしての反出生主義にも触れ、比較検討する。

After giving an overview of pessimism, we will focus on the main figures of modern pessimism, Schopenhauer and Cioran for example, and look at their ideas individually. To better understand the cross-cultural and universal nature of pessimism, we will also examine and compare pessimism in religions and anti-natalism as contemporary pessimism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ペシミズムについての概論（1）：ペシミズムとはなにか
- 2 回：ペシミズムについての概論（2）：歴史的背景
- 3 回：ペシミズムについての概論（3）：議論の類型——人間主義と反人間主義
- 4 回：シオランのペシミズム（1）：憎悪の世界で怠惰に生きる
- 5 回：シオランのペシミズム（2）：病気と敗北の利点
- 6 回：シオランのペシミズム（3）：人生とは自殺の遅延である
- 7 回：シオランのペシミズム（4）：人生からの解放の試み——人を生かすペシミズム？
- 8 回：ショーペンハウアーのペシミズム：生の意志と自殺の否定
- 9 回：ペシミストとしてのニーチェ：ニヒリズムとその克服
- 10 回：カミュ：不条理と反抗
- 11 回：ペシミズムと宗教（1）：キリスト教
- 12 回：ペシミズムと宗教（2）：グノーシス主義
- 13 回：ペシミズムと宗教（3）：ユダヤ教・イスラム教
- 14 回：現代のペシミズム：D・ベネターの反出生主義

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で紹介する文献や、言及した人物・思想・宗教等について、各自の関心から理解を深めることが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% リアクションペーパーの内容:30%

テキスト / Textbooks

使用しない。テキストおよび資料は授業内で配布する。

参考文献 / Readings

大谷崇 『生まれてきたことが苦しいあなたに 最強のペシミスト・シオランの思想』 星海社新書 2019
9784065151624

E.M.シオラン 『生誕の災厄 新装版』 紀伊國屋書店 2021 9784314011815

シオラン 『告白と呪詛』 紀伊國屋書店 1994/2012 9784314006941

1は特にシオランのペシミズムを取り上げて論じているので、授業を理解する一助となるだろう。

2と3は現在書店で手に入るもののなかで入門に適したシオランの著作。短い文で構成されたアフォリズム集なので、どこからでも読める。

2は現在書店で手に入る新装版で、内容は旧版と変わらない。

その他の文献は、適宜授業内で紹介する。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

キリスト教史に学ぶ多文化共生

Religions and Diversity: Convivial Wisdom of Christianity

多様性の表現としてのキリスト教

若松 功一郎 (WAKAMATSU KOICHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH181
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

- 時代や地域を異にする様々な文化がキリスト教の内で共生している様子を、実際の事例をもとに理解する。
- キリスト教の持つ普遍性について、自分の言葉で説明できるようになる。
- To Understand how various cultures from different eras and regions coexist in Christianity based on actual examples.
- To be able to explain the universality of Christianity in your own words.

授業の内容 / Course Contents

文化とは人間の日々の生活を形造る重要なものですが、異なる文化同士が接触した場合、対立や軋轢が生まれることもあります。一方でキリスト教という宗教は、特定の時間や場所を超えて、様々な文化と共存することができる普遍性を持っています。本講義では、キリスト教の歴史を辿りながら、色々な文化がキリスト教に抱かれ、ときには新しい文化をさらに生み出していく様子を扱います。古代ギリシャ哲学、イスラームの思想、ヨーロッパの様々な国の文化が、キリスト教という枠組みの中で交流し、共生していく様子を一緒に学んでみましょう。

Culture is an important part of shaping people's daily lives, but when different cultures come into contact with each other, conflicts can arise. On the other hand, Christianity has a nature that transcends a specific time and place, that is, universality. In this way, Christianity coexists with various cultures. In this course we will deal with the history of Christianity and consider how various cultures are accepted by Christianity and how new cultures are sometimes created. Let's learn together how ancient Greek philosophy, Islamic thought, and European cultures interact and coexist within the framework of Christianity.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入：クリスマスはなぜ12月なのか
- 2回：ギリシャ哲学とキリスト教 I：プラトンとキリスト教
- 3回：ギリシャ哲学とキリスト教 II：アリストテレスとキリスト教
- 4回：ギリシャ哲学とキリスト教 III：新プラトン主義とキリスト教
- 5回：ケルト文化とキリスト教 I：「日の門から風が吹く」ーイーエイツ『心の赴くところ』
- 6回：ケルト文化とキリスト教 II：黒い聖母の謎
- 7回：中世の文化とキリスト教 I：ゴシック建築の成立
- 8回：中世の文化とキリスト教 II：スコラ学への招待
- 9回：イスラーム思想とキリスト教 I：世界の永遠性について
- 10回：イスラーム思想とキリスト教 II：知性の単一性について
- 11回：ドイツ文化とキリスト教 I：翻訳の難しさ
- 12回：ドイツ文化とキリスト教 II：ドイツ神秘主義①
- 13回：ドイツ文化とキリスト教 III：ドイツ神秘主義②
- 14回：まとめ：宗教と文化

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

前週に配布する資料をもとに、文献等を用いて下調べを行なってください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :58%

平常点割合 :42% 各回提出のリアクションペーパー（3点満点×14回）:42%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

キリスト教やヨーロッパ文化に興味がある方であれば、特別な能力は必要ありません。

その他 / Others

『聖書』（新共同訳）を読み、キリスト教に親しんでおくとよいでしょう。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

キリスト教史に学ぶ多文化共生

Religions and Diversity: Convivial Wisdom of Christianity

旧約聖書は選民思想の書か？

杉江 拓磨 (SUGIE TAKUMA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH182

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ・学部1～2年次の学修に必要なとなる教養書・入門書を読んで内容を理解し、要点を把握する力を身につける。
- ・立場や対象を異にする議論を関連づけつつ、それらを総合した自分なりの（独創でなくても可）考えを組み立てて表現する方法を体得する。

This course aims to help students acquire

- ability to read introductory academic books, and
- skills to form and express their own (not necessarily original) opinion integrating various views.

授業の内容 / Course Contents

今日、日本では宗教、特にユダヤ教、キリスト教、イスラームの一神教は独善的、排他的で、紛争の原因になっているといった議論がしばしばなされる。この科目は、ユダヤ教およびその聖書（キリスト教の旧約聖書にほぼ相当）と現代のパレスチナ地域をめぐる紛争とを主な事例として、以上のような見方が妥当か否かを問う。

この科目の対象は国際関係でなく、宗教とその思想である。そのため、授業ではパレスチナ紛争の背景となる基本的な事項についても説明を加えるが、本題はあくまでユダヤ教の聖書／キリスト教の旧約聖書の内容を確認し、それが本当に自宗教・自民族の優越（選民思想）や特定の土地（「約束の地」）の独占的な所有権を主張し、正当化するものなのかを検討することである。この科目は紛争の解決策を考えるものではない。

Nowadays in Japan, it is often said that religions, especially the monotheistic ones such as Judaism, Christianity and Islam, are self-righteous and exclusive, and can be a source of conflict. This course examines the validity of this popular view, mainly dealing with Judaism as well as its Bible (with only slight variation in the Christian Old Testament) and the Israeli-Palestinian conflict.

This course focuses on religions, not international relations. Therefore, although basic explanations on the background of the Palestinian conflict are given in the classes, the main subject is whether the Jewish Hebrew Bible/Christian Old Testament really asserts and justifies the privilege of the “chosen people of God” and their exclusive ownership of the “promised land.” The purpose of this course is not to propose any solution to the conflict.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：高校教科書の中の旧約聖書とユダヤ教
- 3 回：古代イスラエルと旧約聖書の成立
- 4 回：ユダヤ教とキリスト教
- 5 回：ユダヤ教徒の離散と迫害
- 6 回：反セム主義とシオニズム
- 7 回：イスラエル国建国とアラブ諸勢力との衝突
- 8 回：旧約聖書の思想の検討（1）：神に選ばれた民
- 9 回：旧約聖書の思想の検討（2）：約束の地
- 10 回：旧約聖書が含む多様な視点
- 11 回：ユダヤ人によるイスラエル国批判
- 12 回：宗教とナショナリズム（1）：宗教は戦争の原因か？
- 13 回：宗教とナショナリズム（2）：日本の場合
- 14 回：総括と質疑応答

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

指定するテキストや配付資料を読み込む。

その他の指示は必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内に指示する提出物:30%

テキスト/Textbooks

別途指示ないし配付する。

参考文献 / Readings

市川裕 『ユダヤ教の歴史』 山川出版社 2009 9784634431379

長谷川修一 『旧約聖書：〈戦い〉の書物』 慶応義塾大学出版会 2020 9784766425635

小原克博 『一神教とは何か：キリスト教、ユダヤ教、イスラームを知るために』 平凡社 2018
9784582858655

ほかは必要に応じて別途指示する。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

美と生命について：キリスト教の美学

Harmony and Creation: Kalonology of Christianity

聖母マリアの美について

福田 淑子 (FUKUDA YOSHIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH183
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

日常生活の中にある些細な事柄こそに美しさの本質があり、人間の経験の基本である。キリスト教世界において人々はなぜマリアに親しみ、祈りを捧げるのか、マリアの美はどのように表象されたのか、これらの問題に対し、神学を中心に文化、社会、芸術の視点から学術的に考察する。

The essence of beauty lies in the trivial things in everyday life and is the basis of human experience. Why people are familiar with and pray for Mary in the Christian world, how the beauty of Mary was represented, and these issues are academic from the perspectives of culture, society, and art, with a focus on theology. Consider in.

授業の内容 / Course Contents

中世の西欧キリスト教世界において崇敬の対象として生み出された無数のマリア像は時代や環境により多様性を示すが、その源流にはマリア神学（Mariology）の存在がある。従って、神学を考慮せずしてマリア芸術の本質に至ることはできないと言える。本講義ではマリア崇敬に関する基本的な知識を提供し、マリアを表す様々な芸術作品を紹介する。それらを神学思想と共に辿りながら、マリアの存在の本質に迫り、マリアの美の多様性について考察する。折に触れて、マリア崇敬の盛んなイタリアやフランスの人々の暮らしや伝統文化について

でも紹介する。

The myriad statues of Mary created as objects of reverence in the medieval Western Christian world show diversity depending on the time and environment, but the origin is the existence of Mariology. Therefore, it can be said that the essence of Maria art cannot be reached without considering theology. This lecture provides basic knowledge about the reverence of Mary and introduces various works of art that represent Mary. While tracing them together with theological thought, we will approach the essence of Mary's existence and consider the diversity of Mary's beauty. From time to time, we will also introduce the lifestyles and traditional culture of the people of Italy and France, where the reverence for Maria is popular.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：暮らしの中の美①
- 3回：暮らしの中の美②
- 4回：暮らしの中の美③
- 5回：暮らしの中の美④
- 6回：美術の中のマリア①
- 7回：美術の中のマリア②
- 8回：美術の中のマリア③
- 9回：美術の中のマリア④
- 10回：マリア神学と図像①
- 11回：マリア神学と図像②
- 12回：マリア神学と図像③
- 13回：マリア神学と図像④
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習の必要はありません。むしろ、授業の中で紹介された作品について Web Gallery of Art

(<https://www.wga.hu>) などを用いて確認し、興味を持ったこと、もしくは疑問点などについては文献等を活用して下さい。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 毎授業時のリアクションペーパー、授業への取組姿勢:50%

テキスト/Textbooks

参考文献 / Readings

酒井健 『ゴシックとは何か—大聖堂の精神史』 講談社 2000

宮下規久朗 『聖母の美術全史—信仰を育んだイメージ』 筑摩書房 2021

ヤコブス・デ・ウォラギネ 『黄金伝説』 平凡社 2006

エバンヘリスタ 『マリア論入門』 中央出版社 1971

池上俊一 『お菓子でたどるフランス史』 岩波書店 2022

トマス・アクィナス 『神學大全』第32巻 創文社 2007

P・ディンツェルバッハー/J・L・ホッグ編 『修道院文化史事典』 八坂書房 2008

その他/ Others

Web Gallery of Art (<https://www.wga.hu>)

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

美と生命について：キリスト教の美学

Harmony and Creation: Kalonology of Christianity

フランス文学作品を通して

松村 悠子 (MATSUMURA YUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH184

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

フランスの文学テキストに触れ、読解する訓練を行う。これらのテキストを通して、キリスト教、美と生命、文学について考察し、自分の考えを論理的に表明できるようになる。

In this course, students will utilize French literature texts to practice their reading comprehension. Through these texts, they will analyze Christianity, beauty and life, as well as literature, becoming able to express their thoughts in a logical manner.

授業の内容 / Course Contents

フランス文学作品には、キリスト教的な信仰・思想に基づいているものが多い。その背景として、フランスではキリスト教（特にカトリック）が、中世から現代に至るまで、主流の宗教であることが挙げられる。もちろん、このような理解の仕方には問題がないわけではない。フランスには非キリスト教的、または反キリスト教的な信仰・思想が数多く存在し、歴史や文化の中で重要な役割を果たしてきたからだ。実際、他の宗教、例えばユダヤ教やイスラーム教を信じるフランス人も多数存在してきた。（マイノリティの宗教に基づく文学作品がフランス文学史の中で重要な位置を占め難いことは疑問に付されて然るべきだが、本授業の主題ではない。）

また、ギリシア・ローマの古代宗教は、キリスト教と並んでフランス文学の2大柱と言われる。そしてフランスは、ある意味でキリスト教に反する思想である共和主義を掲げ、政教分離や公共空間での非宗教性を原則とする国である。さらに、古くから無神論者や反宗教的な自由主義者を輩出した国でもあり、昨今は国民の間でキリスト教的信仰の希薄化が進んでいる。しかしそれでも、フランス国語の模範として称えられ、受け継がれてきた文学作品には、キリスト教に基づいているものが多いと言える。これらの文学作品の中には、もちろん、キリスト教的な信仰や思想を直接的に表現しているものもある。しかしまた、非キリスト教的、あるいは反キリスト教的なテキストから、キリスト教的な思想の枠組みや神への断ち難い信仰が浮かび上がってくる場合もある。本授業では、このようにキリスト教と様々な結びつきを持つテキストをいくつか扱う。

日本でもよく知られた作品、そしてなるべく多様な時代（中世～現代）やジャンル（詩、演劇作品、小説、思想書など）に属するテキストを紹介する。受講生がこれらテキスト（もちろん仏語原文でなく日本語訳）を読むことがまず重要だ。

本年は、ブレーズ・パスカル『パンセ』、ヴィクトル・ユゴー『レ・ミゼラブル』、そして2022年にノーベル文学賞を受賞した作家アニー・エルノーの『ある女』を扱う。また参考文献として、他の文学作品を読むこともある。

これらのテキストを扱いながら、主に次の3種類のテーマについて考察する。まず、キリスト教、あるいは宗教性についてのテーマ、次に美と生命、すなわち人間の様々な様相に関するテーマ、そして、文学作品やテキストを読んだり書いたりすることの意味につながるテーマである。

この授業は、2016年度に設置された新プログラムの一環として、受講生の積極的な参加による学びを目指している。ゆえに、担当教員による一方的な講義よりは、次のような機会を多く得られることが望ましい。すなわち、受講生がテキストを自ら精読する機会、コメントペーパーや他の課題で見解を述べる機会である。担当教員は基本的なテキストの選択、作業の指示、学習指導を行うが、テキストや問題点を逐一まとめたりはしない。受講生が自ら読み、考え、理解し、問題点を引き出し、論じることが重要である。予め用意された絶対に正しい答えなどは、最終的には存在しない。ただし、このことはどんなに荒唐無稽なことを述べても構わない、ということの意味しない。逆に、受講生には論理的に考え表現することが求められる。そのために、小論文の書き方、ルールについても見ていく。

学習者やクラスの特徴、および社会的状況に合わせて授業計画を変更する場合がある。

Within French literature, there are many works that are based upon Christian faith and ideas. When it comes to the context of this fact, one would be quick to point out that Christianity (particularly Catholicism) has been the mainstream religion in France from the Middle Ages into the present day. Of course, this way of understanding is not without its problems. This is because France has many non-Christian or anti-Christian beliefs and ideas, and has played an important role in history and culture. In fact, there have been many French who believed in other religions, such as Judaism and Islam. In addition, the ancient religions of Greece and Rome are said to be the two pillars of French literature along with Christianity. And France is a country that advocates republicanism, which is an idea contrary to Christianity in a sense, and is based on the principle of separation of church and state and non-religiousness in public spaces. In addition, it has been a country that has produced atheists and anti-religious liberals for a long time, and the Christian faith is becoming more and more diluted among the people these days. However, it can be said that many of the literary works that have been praised and inherited as a model for French language are based on Christianity. Some of these literary works, of course, are a direct expression of Christian beliefs and ideas. However, non-Christian or anti-Christian texts may also reveal a framework of Christian thought and an inseparable belief in God. In this class, we will deal with some texts that have various connections with Christianity.

In this course, we will use these texts to primarily investigate the following three topics. First, topics relating to Christianity and religiosity in general. Second, the beauty possessed by the works, or even humanity itself, as well as the state of various forms of life. Lastly, the significance of reading and writing literary works or texts. Of course, we will not be reading the original French texts, but rather the Japanese translations. We want to choose works that are famous in Japan, belonging to a diverse range of genres and eras.

This year, we will cover Blaise Pascal's "Pensées", Victor Hugo's "Les Misérables", and "A Woman's Story" by Annie Ernaux, who won the Nobel Prize in Literature in 2022. We may also read other literary works for reference.

This course was established in 2016 as part of a new program. It aims for students to learn through active participation. Rather than a one-sided lecture by the instructor, the students are to thoroughly read each text on their own, and to express their views in comment papers and other tasks. Furthermore, students will practice logically putting their ideas into words. At this point, we will also touch upon the rules and conventions to follow when writing short essays.

However, it is worth noting that the course syllabus may change as a result of the students, the peculiarities of the course and the social situation.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

フランスについての予備知識

古代ギリシア・ローマ神話とキリスト教について

フランス文学とキリスト教について

2回：テキスト1：講義

前回授業のおさらい

ブレーズ・パスカル『パンセ』

3回：テキスト1：ディスカッション（基礎） または講義 （ディスカッションか講義かは授業参加人数による。人数が多い場合は講義になる可能性が高い。以下同じ。）

ブレーズ・パスカル『パンセ』

4回：テキスト1：ディスカッション（発展） または講義

ブレーズ・パスカル『パンセ』 および参考資料

5回：テキスト1：ディスカッション（総合） または講義

ブレーズ・パスカル『パンセ』 および参考資料

6回：テキスト2：講義

ヴィクトル・ユゴー『レ・ミゼラブル』

7回：テキスト2：ディスカッション（基礎） または講義

ヴィクトル・ユゴー『レ・ミゼラブル』

8回：テキスト2：ディスカッション（発展） または講義

ヴィクトル・ユゴー『レ・ミゼラブル』 および参考資料

9回：テキスト2 および参考資料：ディスカッション（総合） または講義

ヴィクトル・ユゴー『レ・ミゼラブル』 および参考資料

10回：テキスト3：講義

アニー・エルノー『ある女』

11回：テキスト3：ディスカッション（基礎） または講義

アニー・エルノー『ある女』

12回：テキスト3：ディスカッション（発展） または講義

アニー・エルノー『ある女』および参考資料

13回：テキスト3および参考資料：ディスカッション（総合） または講義

アニー・エルノー『ある女』および参考資料

14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習・復習のための課題はほぼ毎回出される。受講生は授業で扱うテキストを精読し、指示される提出物を提出しなければならない。提出には Blackboard を使用する可能性がある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% リアクションペーパーと授業参加度:20% 授業内に指示した提出物:30%

出席は毎回とる。授業開始時刻より 30 分以上遅れて到着した場合、授業終了時刻より 30 分以上早く早退した場合は、欠席扱いとなる。遅刻 1 回、あるいは早退 1 回を欠席 3 分の 1 回とみなす。つまり遅刻ないし早退 3 回で欠席 1 回と数える。3 分の 2 以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。授業マナーを特に注意された者、提出物や筆記試験において剽窃や無断借用を行った者も D 評価となる。感染症を含む重大な理由で遅刻・欠席・早退をし、かつ出席数配慮を希望する場合は、まず教務事務センターを通すこと。原則として証明書類の提出によ

テキスト / Textbooks

アニー・エルノー 『ある女』 早川書房 1993 4152077956 ○

エルノー『ある女』は、著作権上の都合もあり、各受講者に購入していただく必要があると考えております（値段が高くて申し訳ありません）。ユゴー『レ・ミゼラブル』（1～5 巻）は佐藤朔訳、新潮文庫（1967 年）のもの、パスカルの当該著書は前田陽一編『パスカル』（中央公論社、1978 年）に収録された和訳テキストを中心に使いたいと思います。

参考文献 / Readings

渡辺 一夫、鈴木 力衛 『フランス文学案内』（増補版） 岩波書店（岩波文庫） 1990 年 9784003500019

饗庭孝男ほか編 『新版 フランス文学史』 白水社 1992 年 9784560042861

田村毅、塩川徹也編 『フランス文学史』 東京大学出版会 1995 年 9784130820448

篠沢秀夫 『フランス文学案内：代表的作家の主要作品・文学史年表・翻訳文献等の立体的便覧』（増補新版）朝日出版社 1996 年 9784255960104

河盛 好蔵ほか 『プレシフランス文学史』 駿河台出版社 1997 年 9784411020833

横山 安由美、朝比奈 美知子 『はじめて学ぶフランス文学史』 ミネルヴァ書房 2002 年 9784623034901

フィリップ・セリエ 『聖書入門』 講談社 2016 年 9784062586429

（小）論文の書き方については、立教大学が作成・配布しているレポート作成マニュアル、Master of Writing を参考にすること。

その他/ Others

Master of Writing についての URL (立教大学のウェブページ) :

<https://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/journal/leaflet/>

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 学びの精神

美と生命について：キリスト教の美学

Harmony and Creation: Kalonology of Christianity

キリスト教と政治

鹿住 輝之 (KASUMI TERUYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH185
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

キリスト教の非政治性と政治性という二つの性質を軸に、歴史の中で生じた多様なキリスト教理解を見る。それとともに多様なキリスト教理解がどのような状況と結びついて生じたのかについて理解を深めることを目標とする。

Mainly focusing on the relationship between the unpolitic and the politic, we try to understand various interpretation of Christianity. Along with this, we aim to deepen our understanding of the circumstances in which they have arisen.

授業の内容 / Course Contents

聖書の中で描かれるキリストは、貧者や病人、徴税人など当時の社会規範から逸脱し、「罪人」とされた人々と積極的に関わった。彼が説く隣人愛は、社会規範や敵味方といった区別を超えた愛である。それはギリシア世界において政治の根拠となる社会規範的な役割を持つ徳や卓越さに向けられる愛とは異なる性質を持ったものである。しかし非政治的ともいえる性質を持ったキリスト教は、ローマ帝国による国教化に伴い、政治的権威と結びつく。キリスト教史の中でこの非政治的な性質と政治的な性質は、互いに関わり合い、多様な解釈を生

んできた。本講義では、そのような二つの性質がキリスト教史の中でどのように関連し表れているか幾人かの思想家を選び出し、そこから読み取る。そして同時にそのコンテキストとの関係を考察する。講義の後半では、宗教的権威に対し疑義が呈されるようになる 18 世紀後半から 19 世紀にかけて生きたカントやヘーゲル、19 世紀に生きたキルケゴールのキリスト教理解を見る。彼の啓蒙化されたキリスト教への批判は、キリスト教の非政治性と政治性の関係性を巡るものである。

In the Bible, Christ actively engaged with those who were considered "sinners", such as the poor, the sick and tax collectors. They were excluded from the society of the time. The neighborly love preached by Christ is a love that transcends social norms and distinctions between friends and foes. It is of a different nature than the love directed to virtue and excellence, which has a social normative role on which politics is based in the Greek world. However, Christianity, which can be said to be unpolitical in nature, was connected to political authority as the Roman Empire made it the state religion. Throughout the history of Christianity, this unpolitical and political nature has intertwined and given rise to a variety of interpretations. In this lecture, I will select some thinkers and examine how these two characteristics are related in the history of Christianity. And at the same time, consider the relationship with the context they lived. In the second half of the lecture, we will examine the understanding of Christianity by Kant and Hegel, who lived from the late 18th century to the 19th century, and Kierkegaard, who lived in the 19th century, when religious authority was questioned. His criticism of enlightened Christianity revolves around the relationship between the unpolitical and political nature of Christianity.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：ギリシア思想における政治
- 3 回：原始キリスト教 新約聖書における隣人愛
- 4 回：ローマ後期のキリスト教
- 5 回：中世キリスト教世界
- 6 回：宗教改革期
- 7 回：敬虔主義
- 8 回：カントのキリスト教理解
- 9 回：ヘーゲルのキリスト教理解 (1)
- 10 回：ヘーゲルのキリスト教理解 (2)
- 11 回：キルケゴールのキリスト教理解 (1)
- 12 回：キルケゴールのキリスト教理解 (2)
- 13 回：キルケゴールのキリスト教理解 (3)
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で扱った人物やその思想について、参考文献や授業時に紹介する文献を用い、理解を深めることが望ましい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% リアクションペーパー:25% 小レポート:25%

毎授業後のリアクションペーパーの提出、学期中二回の小レポートの提出を求めます。2/3以上の出席がない場合、成績評価の対象としません。

テキスト / Textbooks

使用しません。資料等については、授業時に配布します。

参考文献 / Readings

佐々木毅 『「哲学と政治」講義(1)よみがえる古代思想』 講談社 2003 4062717115

佐々木毅 『「哲学と政治」講義(2)宗教と権力の政治』 講談社 2003 4062717123

C・リンドバーグ 『愛の思想史』 教文館 2011 9784764218550

宇野重規 『西洋政治思想史』 有斐閣 2013 9784641220010

山我哲雄 『キリスト教入門』 岩波書店 2014 9784005007929

田上雅徳 『入門講義キリスト教と政治』 慶応義塾大学出版会 2015 9784766421835

上記の参考文献は、履修する上で必読ではありませんが、講義の理解の助けとなるものです。

その他の文献は、適宜授業内で紹介します。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

愛について：キリスト教の倫理と哲学

Eros and Agape: Ethics and Philosophy of Christianity

〈愛〉をめぐる旅——絶対に結びつかぬものが〈結びつく〉こと

石井 砂母亜 (ISHII SAMOA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH186

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

「愛とは何か」という問いを、講義で提示される資料の読解・視聴とディスカッションを通して自らの課題として引き受け、自らの言葉で「愛」について表現できるようになる。

In this course, we will deal with the question “what is love?” Students will undertake their own assignments from the data, readings, and visual materials presented in the lectures as well as the group discussions, becoming able to express what “love” is in their own words.

授業の内容 / Course Contents

講義では、「絶対に結びつくことのないものの結合」として〈愛〉の問題を考察してゆく。「愛とは何か」、「結びつかぬものが結びつくとは何か」ということをめぐり、文学、映画、プラトンの『饗宴』や『聖書』を手引きとしながら、受講者一人ひとりと〈愛〉をめぐる旅に出かけたいと思う。この旅に参加するに際して求められる態度は、受講者一人ひとりが愛の内実を他人事ではなく自らの問題として引き受け考えることである。

In the lecture, we will analyze the issue of “love” from the standpoint of “tying together things which must not be joined.” We will use materials from literature, films, well-known philosophers, and the Bible as our guide,

investigating the questions “what is love,” and “what does it mean to tie together things which must not be joined?” We want each student to depart on a love-related journey in taking this course. The attitude requested of those who choose to participate in this journey is that one refrains from viewing the facts of love as something unrelated to them, taking it on and considering it as their own issue.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：〈愛〉をめぐる旅にむけて——愛の反対を考える
- 2回：物語にみる愛の世界——マクドナルド『軽いお姫様』を味わう
- 3回：映画にみる愛の世界——「人生はビギナーズ」を観る
- 4回：愛のかたち——ニーグレン『アガペーとエロース』を手引きに
- 5回：古代ギリシャ哲学に見る愛のかたち（1）——プラトン『饗宴』を読む
- 6回：古代ギリシャ哲学に見る愛のかたち（2）——プラトン『饗宴』を読む
- 7回：古代ギリシャ哲学にみる愛のかたち（3）——プラトン『饗宴』を読む
- 8回：古代ギリシャ哲学にみる愛のかたち（4）——プラトン『饗宴』を読む
- 9回：『聖書』にみる愛のかたち（1）——アリストテレスの正義と「ぶどう園の労働者」のたとえ
- 10回：『聖書』にみる愛のかたち（2）——アリストテレスのフィリア（友愛）と「放蕩息子のたとえ」
- 11回：『聖書』にみる愛のかたち（3）——「善いサマリア人」のたとえと「永遠の命」
- 12回：「永遠の命」を受け継ぐとはなにか？——映画「きっと、星のせいじゃない。」を観る
- 13回：自分の人生の中に誰かを存在させること——佐野洋子『100万回生きたねこ』を味わう
- 14回：絶対に結びつかぬものが〈結びつく〉こと——サン＝テグジュペリ『星の王子さま』を味わう

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は必要に応じて別途行うが、原則として授業で扱うテキスト（下記の参考文献）には目を通しておく。授業の終わりに、次回までの課題として問いを出題する場合もある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 各回の講義への出席、各回に課されるリアクションペーパーの提出、課題ペーパーの提出:40%

原則として次の通りとする。欠席3回：評価B以下、欠席4回：評価C以下、欠席5回：不合格（単位不可）。また、成績評価に関しては、試験を受けない場合は評価不可・単位不可とする。

テキスト / Textbooks

講師が各回に配布する資料

参考文献 / Readings

岩田靖夫 『ヨーロッパ思想入門』 岩波書店 2003年 9784005004416

ジョージ マクドナルド著、富山太佳夫・富山芳子訳 『軽いお姫様』 青土社 1999年 9784791757459

プラトン著、久保勉訳 『饗宴』 岩波書店 2008年 9784003360132

佐野洋子 『100万回生きたねこ』 講談社 1976年 9784061272743

サンテグジュペリ著、河野万里子訳 『星の王子さま』 新潮社 2006年 9784102122044

島藺進 『宗教を物語でほどく』 NHK出版 2016年 9784140884935

各回の講義で別途参考文献を提示する。

その他/ Others

遅刻（講義開始後15分まで）および早退（講義終了15分前から）2回で欠席1回とする。15分以上の遅刻、早退は欠席とする。特別な事情がある場合は考慮するので申し出ること。

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

University Education in the World

University Education in the World

Higher Education and Global Citizenship

チョイ, H. (CHOI HEE YOUNG)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH187
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春期間外
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1131
使用言語：	英語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	Class Schedule: 8/1-2, 5-6 Period 2-4, 8/7 Period 2-3 Room : 4408

授業の目標 / Course Objectives

Students will continue to develop their understanding of the role of higher education with an intense focus on particular global issues associated with social justice.

- 1) Students will become familiar with current debates and issues of the global community.
- 2) Students will develop a new understanding of their role and impact in the local and global communities.

授業の内容 / Course Contents

In this course, students will:

- 1) Analyze culturally diverse points of view through examination of primary sources.
- 2) Comprehend higher education, cultures, and/or social structures of countries outside Japan.
- 3) Compare higher education, cultural, and/or social structures found in countries outside Japan to those found in Japan.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Introduction

- 2回：University Education in Japan
 3回：University Education in the World
 4回：Rethinking Stereotypes
 5回：Globalization
 6回：Global Citizenship
 7回：Global Education
 8回：Understanding and Investigating Global Issues (1)
 9回：Understanding and Investigating Global Issues (2)
 10回：Understanding and Investigating Global Issues (3)
 11回：Application of Global Citizenship Locally
 12回：Application of Global Citizenship Globally
 13回：Course Summary
 14回：Student Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Please complete the required assignments and read the provided reading materials before coming to class. Students are required to review their work after receiving feedback from the instructor.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Active Participation in Discussion:30% Assignments:30% 最終レポート割合：20% 最終テスト割合：20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Altıkulaç, A., & Yontar, A. Nationalism, Patriotism and Global Citizenship: A Comparison in between the Social Studies Teacher Candidates in the US and Turkey International Journal of Education and Literacy Studies 2019

Cornwell, G. H., & Stoddard, E. W. Freedom, Diversity, and Global Citizenship Liberal Education 2006
 Akkari A., Maleq K Rethinking Global Citizenship Education: A Critical Perspective Global Citizenship Education 2020

Shultz, L., Pashby, K., & Godwaldt, T. Youth Voices on Global Citizenship: Deliberating across Canada in an Online Invited Space International Journal of Development Education and Global Learning 2017

Course materials will be available from the Internet sites. Detail information will be provided during the class. More reading materials will be provided in class.

注意事項

- ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム 所属学生/特別外国人学生が履修
- ・この授業は、英語圏での大学の授業を想定し、全て英語で行う

・以下の英語力を有していることが履修の目安になる

英検準 1 級, IELTS 5.5, TOEFL®iBT 72, TOEIC®L&R 785

・ Class Schedule:

・ 2016 年度以降 1 年次入学者：学びの精神科目

・ 2012～2015 年度 1 年次入学者：立教 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／立教 A

教養の扉をひらく

Opening the Door to the Liberal Arts

専門性に立つ教養人を目指して

聖路加国際大学：菊田 文夫 (St. Luke's International University : KIKUTA FUMIO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH188
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は集中講義で、学外（主に聖路加国際大学）で受講する科目です。
土曜日に他の授業を履修する場合は、移動時間を含めて授業開始時間に間に合うかどうかを各自で確認の上、履修登録をしてください。

授業の目標 / Course Objectives

この科目は、専門職業人として成長し続ける市民の基盤を成す教養を高めるために、人間社会の営みをさまざまな角度から探究し、人間性の本質への理解を深めることを目的とする。目的達成のために、宗教、情報伝達、言語等の専門分野から講師を招き、講義やディスカッションを通して、社会的課題解決のための思考力を身につける。

今年度のテーマは、「ニッポンの底ぢから - 日本が世界平和に貢献できること -」

近年、海外で絶賛されている日本人をかたちづくる哲学について考究するとともに、世界平和実現のために日本が果たすべき役割などについて

・ By objectively observing a single phenomenon from various vantage points, students will inquire into the activities of both humans and nature, enabling deep analysis thereof.

・ Students will acquire the imaginative abilities required to concretely picture phenomena that they have yet to

experience for themselves.

- ・ Students will cultivate the desire to independently further their knowledge related to the specialization of nursing.
- ・ In order to continue their growth as nursing professionals whose knowledge is not limited to any single field of specialization, students will be motivated to incorporate the practice of carefully thinking things through into their own independently-determined way of life.

授業の内容 / Course Contents

この授業の到達目標を達成するために、医療以外のさまざまな分野で専門職として活躍しておられる第一人者を

招聘する。特別講師には、専門職者として自らを高め続けていく生きかたや、自らの専門性を社会にどのように

活かしていきたいと考えておられるのか、などについて、ご自身の体験を交えてお話しいただく。

さらに、ディスカッションを通して、受講者自身が「専門性に立つ教養人」として成長していくための生きかたについて深く考え、それらを分かちあう貴重な機会を提供する。

なお、毎回の講義終了後に提出を求める「リアクションペーパー」を対象として、担当教員から manaba（聖路加国際大学・学習支援システム）を通じたフィードバックを行う。

この科目を受講することによって、学生諸姉諸君が自らの人生を主体的に生きるための貴重な糧を身にできるものと確信している。さらに、地球規模で将来の社会を責任をもって担うことができる人間となるべく、

仲間とともに成長し続ける生きかたの礎をつくる貴重な機会として、この科目を位置づけてほしい。

In order for students to achieve the objectives laid forth by this course, leading individuals active in various fields outside of healthcare will be invited to speak. Guest lecturers will mix in their personal experiences, touching upon ways of living that help to continually elevate oneself as a professional, as well as how one can continually consider how one's expertise can be of best use to society. Furthermore, through group discussions, students will deeply consider how to continue to develop as an educated individual in their field of specialization; this course serves as a valuable opportunity for students to share their findings regarding this matter with one another.

Furthermore, students will submit reaction papers at the conclusion of each lecture, on which they will receive feedback from the instructor via Manaba (St. Luke's International University's learning assistance system).

We strongly believe that students who take this course will see it as a valuable source of encouragement for the sake of living their own independent lives. Furthermore, we want students to see this course as a valuable opportunity to develop a way of life conducive to those who will bear the responsibility of running society on a global scale in the future, as they continue to mature with their colleagues.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：2024年4月13日（土）聖路加臨床学術センター 日野原ホール 【13：30～15：10】

この授業が目指すもの

（菊田 文夫／聖路加国際大学看護学研究科基盤領域（健康教育））

2回：2024年4月13日（土）聖路加臨床学術センター 日野原ホール 【15：20～17：00】

哲学的教養を身に着ける効用 ー自律的思考力の涵養

（佐々木 一也／立教大学名誉教授）

3回：2024年4月20日（土）清水建設株式会社NOVAREアカデミー 【13：30～15：10】

世界に誇るニッポンのものづくり

浜田 晃司（清水建設株式会社 NOVARE アカデミー・塾長）

4回：2024年4月27日（土）聖路加臨床学術センター 日野原ホール 【13：30～15：10】

世界を平和に導く理想的なデジタル社会を構築するために

村上 祐子（立教大学・人工知能科学研究科・教授）

5回：2024年5月11日（土）聖路加臨床学術センター 日野原ホール 【13：30～15：10】

海外のメディアから見た日本

Suvendrini Kakuchi（University World News, U.K.特派員）

6回：2024年5月18日（土）午前 国立天文台 三鷹キャンパス 【10：00～12：00】

4D2Uドームシアター鑑賞／施設見学

立松 健一（国立天文台・野辺山宇宙電波観測所・所長）

7回：2024年5月18日（土）午後 国立天文台 三鷹キャンパス 【13：30～15：10】

星空から宇宙の果てまで（講義）

立松 健一（国立天文台・野辺山宇宙電波観測所・所長）

8回：2024年5月25日（土）聖路加臨床学術センター 日野原ホール 【13：30～15：10】

ゲノムから辿る私たちの起源

太田 博樹（東京大学理学系研究科・ゲノム人類学研究室・教授）

9回：2024年6月1日（土）聖路加臨床学術センター 日野原ホール 【13：30～15：10】

メダル獲得までの軌跡

三井梨紗子（日本大学医学部／リオデジャネイロオリンピック・アーティスティックスイミング（シンクロナイズドスイミング）銅メダリスト）

10回：2024年6月15日（土）聖路加臨床学術センター 日野原ホール 【13：30～15：10】

人間を幸福に導く建築デザイン

渡辺仁史（早稲田大学名誉教授）

11回：2024年6月22日（土）聖路加国際大学 本館402／403教室 【13：30～15：10】

中間ディスカッション

菊田 文夫／Suvendrini Kakuchi

12回：2024年6月29日（土）聖路加臨床学術センター 日野原ホール 【13：30～15：10】

「本来の私」への「出発」

安積 力也（基督教独立学園高等学校・元校長）

13回：2024年7月6日（土）聖路加臨床学術センター 日野原ホール 【13：30～15：10】

バナナを通して見たフィリピン南部と日本の関係

石井 正子（立教大学異文化コミュニケーション学部・教授）

14回：2024年7月13日（土）聖路加臨床学術センター 日野原ホール 【13：30～15：10】

聴き手の想像力を高める話術

立川 晴の輔（落語立川流 志の輔一門）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

・毎回の授業にあたって、特別講師から事前課題が課せられることがあります。その場合、聖路加国際大学 manaba を通じてお知らせしますので、1 時間ほどの予習に取り組んでください。ログインに必要な情報は抽選登録結果発表後に教務事務センターにお問い合わせください。

・毎回の授業終了後、週末までに、特別講師の講義を受けて気がついたこと、考えたこと、生まれた疑問、感想などを 400 字以内にまとめたリアクションペーパーを manaba で提出してください。これらに基づいて、特別講師から、受講生全体に向けたフィードバックをいた

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業終了後に提出するリアクションペーパー:60% 最終授業後に提出する最終レポート:40%

テキスト / Textbooks

それぞれの特別講義を担当する講師からの資料を配布する。

参考文献 / Readings

それぞれの特別講義のなかで紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし。好奇心をもって、自分が専攻する学問分野以外の知見を得たいと願う柔軟な思考力。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし。

その他 / Others

- ・ 4 月 13 日の授業は、第 1 回と第 2 回の授業を連続して開講します。
- ・ 5 月 18 日の授業は、第 6 回と第 7 回の授業を午前と午後に分けて開講します。

●開講場所について

- ・ 第 3 回の授業は、清水建設株式会社NOVA RE アカデミーものづくり至誠塾（東京都江東区潮見 2-8-20）において開講します。
- ・ 第 6 回、第 7 回の授業は、国立天文台三鷹キャンパス（東京都三鷹市大沢 2-21-1）において開講します。当日は、午前（10:00～12:00）と午後（13:30～15:10）、両方のプログラムに参加してください。
- ・ 第 11

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

<個人情報の取り扱い>

本科目を履修する場合、以下の個人情報を聖路加国際大学に提供します。

学生番号、氏名、性別、生年月日、現住所・電話番号、携帯電話番号、緊急連絡先住所・電話番号

個人情報は聖路加国際大学および立教大学にて管理のうえ、本科目の履修に関してのみ利用し、他の目的には利用しません。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

キャリアデザイン

Career Design

明日への一步を踏み出すために、世界を知り、時代を読む力を鍛えよう。

倉品 武文 (KURASHINA TAKEFUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH189
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義の目的は、日本経済新聞の記事などを教材に、世界や社会の課題を一緒に考えることである。受講生はこれまでの生活で新聞をあまり読んだ経験がなくても構わない。現役記者による取材経験をもとにしたテーマ別の講義を受講することによって、視野を広げていく。受講生には学ぶことや生きることについて考えるきっかけにしてもらう。

The purpose of this course is to think together about global and social issues using articles the Nihon Keizai Shimbun and other educational materials. Students do not need to have much experience reading newspapers in their lives. Students will broaden their perspectives by attending lectures on different themes based on the experience of current journalist. I have an attendance student take opportunity to think about learning and living.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、日本経済新聞の記事を配布し、受講生と記事を読んで意見交換をする。受講生は関心を持ったテーマについて深掘りし、自ら判断し、評価できる力を身につける。日々、ニュースに触れる積み重ねを大切にしていきたい。学んだことを知識として覚えることよりも、課題を考える経験を増やしてほしい。

In this lecture, articles from the Nihon Keizai Shimbun will be distributed, and students will read the articles and exchange opinions with the lecturers. Students will learn to dig deeper into topics of interest and acquire the ability to make their own judgments and evaluations. We would like to emphasize the importance of accumulating daily exposure to news.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション 「私たちはなぜ学ぶのだろうか」

【講義①】

注目してほしい日経新聞記事を読む。

【講義②】

「なぜ大学で学ぶのか」

学ぶことと人生、仕事の関わりを一緒に考え、質疑応答をする。

授業後、講義テーマに関する感想、意見などをリファレンスシートに執筆して提出する。

2回：世界はいま 「世界の動きに注目してほしい」

【講義①】

注目してほしい日経新聞記事を読む。

【講義②】

「なぜニュースを知る必要があるのか」

世界を動かすニュースキーワードを解説する。ニュースを知ることを一緒に考え、質疑応答をする。

授業後、講義テーマに関する感想、意見などをリファレンスシートに執筆して提出する。

3回：豊かさとは何だろう 「やがて働き始める君たちへ」

【講義①】

注目してほしい日経新聞記事を読む。

【講義②】

「世界や日本の経済のいま」について解説する。豊かさについて一緒に考え、質疑応答をする。

授業後、講義テーマに関する感想、意見などをリファレンスシートに執筆して提出する。

4回：歴史から未来を考える 「歴史には人生の教訓が詰まっている」

【講義①】

注目してほしい日経新聞記事を読む。

【講義②】

「戦後の日本経済の歩み」について解説する。高度経済成長やバブル経済について一緒に考え、質疑応答をする。

授業後、講義テーマに関する感想、意見などをリファレンスシートに執筆して提出する。

5回：消費をつかむ 「消費は景気を動かす。そしてビジネスチャンスとなる」

【講義①】

注目してほしい日経新聞記事を読む。

【講義②】

「バブル崩壊後の消費」について解説する。消費の変化について一緒に考え、質疑応答をする。

授業後、講義テーマに関する感想、意見などをリファレンスシートに執筆して提出する。

6回：多様性って知っていますか 「現代社会のキーワード」

【講義①】

注目してほしい日経新聞記事を読む。

【講義②】

「多様性（ダイバーシティ）」について解説する。企業での動きについて一緒に考え、質疑応答をする。
授業後、講義テーマに関する感想、意見などをリファレンスシートに執筆して提出する。

7回：授業（1）～（6）を振り返る。

【講義①】

注目してほしい日経新聞記事を読む。

【講義②】

授業で寄せられた受講生からの質問、意見について一緒に考える。

授業後、講義テーマに関する感想、意見などをリファレンスシートに執筆して提出する。

8回：人生100年時代に備える 「人生設計とお金を考える」

【講義①】

注目してほしい日経新聞記事を読む。

【講義②】

「長い人生を生きるために必要なお金との付き合い方」について解説する。お金をテーマにしたマンガなども紹介しながら、一緒に考え、質疑応答をする。

授業後、講義テーマに関する感想、意見などをリファレンスシートに執筆して提出する。

9回：デジタル時代の情報収集術 「日経電子版の活用法を知る」

【講義①】

注目してほしい日経新聞記事を読む。

【講義②】

「インターネット上にあふれる情報の価値を見極め、活用する方法」を解説する。課題を一緒に考え、質疑応答をする。

授業後、講義テーマに関する感想、意見などをリファレンスシートに執筆して提出する。

10回：キャリアを積む 「夢を忘れない」

【講義①】

注目してほしい日経新聞記事を読む。

【講義②】

卒業生が自らの体験を踏まえ、「夢を実現するために取り組んできたこと」について解説する。キャリアを積むということについて一緒に考え、質疑応答をする。

授業後、講義テーマに関する感想、意見などをリファレンスシートに執筆して提出する。

11回：文章力を磨く 「わかりやすい言葉の使い方」

【講義①】

注目してほしい日経新聞記事を読む。

【講義②】

新聞記事や小説などを教材に「わかりやすさ」について解説する。受講生と一緒に考え、質疑応答をする。

授業後、講義テーマに関する感想、意見などをリファレンスシートに執筆して提出する。

12回：未来を拓く 「自らの将来を考える」

【講義①】

注目してほしい日経新聞記事を読む。

【講義②】

「学ぶこと、生きること」について一緒に考え、質疑応答をする。受講生には事前に参考図書を紹介し、授業

中に感想や意見を聞く。

授業後、講義テーマに関する感想、意見などをリファレンスシートに執筆して提出する。

13回：働く日に備える 「キャリアセンターの役割を知る」

【講義①】

注目してほしい日経新聞記事を読む。

【講義②】

大学生の就職活動をサポートするキャリアセンターの活動を解説する。就活について一緒に考え、質疑応答をする。

授業後、講義テーマに関する感想、意見などをリファレンスシートに執筆して提出する。

14回：授業全体を振り返る

【講義①】

注目してほしい日経新聞記事を読む。

【講義②】

授業で学んできたことを思い出しながら、受講生の質問、意見について一緒に考え、質疑応答をする。

授業後、講義全体への感想、意見などをリファレンスシートに執筆して提出する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本講義の狙いは、各回の授業テーマを「暗記すること」ではなく、自分の問題に関連させて「考えること」にある。問題意識を持って参加することで理解を一層深める。

【予習】（1時間程度）

関心のある新聞やインターネットの記事を最低1本を読む。可能な範囲でニュースの背景や関連情報などについても下調べをする。ニュースに親しむ習慣をつける。

【復習】（1時間程度）

授業で配布した記事やテーマ資料を読んで理解を深め、大学でのこれからの学びや活動に役立てる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% ミニレポート:25% ミニレポート:25%

ミニレポートの課題を2回提示し、講義期間内に設ける期限までに執筆して提出する。原稿用紙を配布する。（各800文字程度。各25点）。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特別な能力は必要ありませんが、受講生は授業後のリファレンスシートや2回のミニレポートなど、文章を執筆する機会が多くなります。これは授業を通じて伝える力を育むことと、大学で学ぶ姿勢を大事にしていきたいと考えているからです。チャレンジする意欲が必要になるでしょう。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコンなどの電子機器やインターネットを利用できる環境があるとよいでしょう。

その他/ Others

授業の担当者（倉品）は日本経済新聞社編集委員および立教大学兼任講師を務めている。

注意事項

2016 年度以降 1 年次入学者対象科目

学びの精神科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

Economy and Society

Economy and Society

インフレーション、失業、貿易戦争などの問題を英語教材を用いて学ぶ

Learn about various problems such as inflation, unemployment, and trade wars using English education materials.

山縣 宏之 (YAMAGATA HIROYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH190
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1133
使用言語：	その他
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

現代経済・社会が直面する問題について、英語教材を用いて学び、その解決策を考える。

Learn about various problems faced by modern economy and society using English education materials and, think on the solutions.

授業の内容 / Course Contents

この講義では、学生は現代の日本と世界の経済が直面する問題について英語教材を用いて学習する。私たちはテキスト『日本と世界の経済を研究する』およびその他の教材を使用し、国際経済学の視点から現代経済と社会が内包する問題について考える。

In this lecture, students learn about various problems faced by modern Japan and the world economy using English education materials. We use "Studying the Japanese and World Economies" and other materials, and think on the problems that the modern economy and society include through the international economics

perspective.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：はじめに Introduction
 2 回：現代の貨幣 Money in the modern era
 3 回：物価 Prices
 4 回：雇用と経済 Job and the economy
 5 回：金融（通貨）政策 Monetary policy
 6 回：銀行の役割 Roles of banks
 7 回：講義まとめ・レポート発表(1) Summary and presentations by students(1)
 8 回：外国為替レート Foreign exchange rate
 9 回：国際収支 International balance of payments
 10 回：経済刺激政策 Economic stimulus policy
 11 回：国際機関 International institution
 12 回：アジアの世紀？ Asian Century?
 13 回：欧州共同体とユーロ EU and Euro
 14 回：講義まとめ・レポート(2) Summary and presentations by students(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Please read the textbook carefully in advance and attend. Clarify what you don't know and attend this class.

テキストを事前に読んで、わからないところを明確にして出席してください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :42%

平常点割合 :58% Minute paper:24% Report:34%

テキスト / Textbooks

Yutaka Kurihara and Ichihiko Uchida Studying the Japanese and World Economies Asahi Press 2006
 9784255154244 ○

Randy Charles Epping The New World Economy: A Beginner's Guide Vintage 2020 9780525563204 -

参考文献 / Readings

参考文献は購入する必要はありませんが、図書館等で参照してください。You need not to purchase the readings, but please refer to them at the library.

その他 / Others

講義の情報や教材の一部は「Canvas LMS」に掲載する予定です。Lecture information and part of teaching materials will be posted in the "Canvas LMS" system.

注意事項

- ・ F 科目導入（外国語による総合系科目）
- ・ この授業は、主に日本語で行われるが、英語教材（文献や映像等）を使用する。

・履修にあたって英語力は問わない。英語「で」学ぶことや、グローバル環境に身を置くことに意欲のある学生の履修を歓迎する。

・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

英語によるビジネスコミュニケーション入門

Basic Skills for Business Communication

Introduction to Business Communication

英語でのビジネスコミュニケーション入門

ドノヴァン, H (DONOVAN,HERBERT A.)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH191
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1133
使用言語： その他
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

国際ビジネスの研究と実践のための英語コミュニケーション能力を開発する。英語でのリスニング、リーディング、リサーチ、プレゼンテーションなど、ケーススタディの方法とリサーチスキルが重視されます。

To develop English language communicative ability for the study and practice of international business. Case study method and research skills will be emphasized.

授業の内容 / Course Contents

学生は、選択したビジネス トピックに関する最終プレゼンテーションに向けて学習し、話し合い、協力します。研究とプロジェクトの設計は、歴史的、社会的、環境的課題に対する日本のビジネスの対応の歴史と発展からの例に基づいて行われます。

Students will study, discuss, and work together toward a final presentation on a business topic of their choosing. Research and project design will be based on examples from the history and development of Japan's business response to historical, social, and environmental challenges.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Class introduction
クラス紹介
- 2 回：Fundamentals of business communication
ビジネスコミュニケーションの基礎
- 3 回：History of Japan's business environment
日本のビジネス環境の歴史
- 4 回：Japan's business response to environmental change
環境変化に対する日本のビジネスの対応
- 5 回：Case Study: Toyota and Honda
ケーススタディ：トヨタとホンダ
- 6 回：Research fundamentals
研究の基礎
- 7 回：Business and academic communication
ビジネスおよび学術コミュニケーション
- 8 回：Case study: based on a Japanese business
ケーススタディ：日本企業に基づく
- 9 回：Case study: Japan's high tech industry
ケーススタディ：日本のハイテク産業
- 10 回：Rhetoric and persuasive speech
レトリックと説得力のあるスピーチ
- 11 回：Fundamentals of written communication
書面によるコミュニケーションの基礎
- 12 回：Editing academic writing
学術論文の編集
- 13 回：Final project presentations
プロジェクトの最終プレゼンテーション
- 14 回：Summary and review
まとめとレビュー

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Readings will be assigned. Library and online research will be conducted. Group project may be done with classmates outside of class in preparation for the final project.

読書が割り当てられます。図書館とオンライン調査が行われます。グループプロジェクトは、最終的なプロジェクトの準備として、授業時間外にクラスメートと一緒に行うことがで

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :45%

平常点割合 :55% In-Class participation, quizzes, assignments.:30%

最終レポート割合 :15%最

終テスト割合 :10%

テキスト/ Textbooks

No Textbook

なし

参考文献 / Readings

Article readings will be assigned by the teacher and provided as photocopies or online links.

記事の読み物は教師によって割り当てられ、コピーまたはオンライン リンクとして提供されます。

注意事項

- ・ F 科目導入 (外国語による総合系科目)
- ・ この授業は、主に日本語で行われるが、英語教材 (文献や映像等) を使用する。
- ・ 履修にあたって英語力は問わない。英語「で」学ぶことや、グローバル環境に身を置くことに意欲のある学生の履修を歓迎する。
- ・ 2016 年度以降 1 年次入学者：学びの精神科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／学びの精神

異文化コミュニケーション学からの学び

Understanding Intercultural Communication

間文化社会ケベックの文学

小倉 和子 (OGURA KAZUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH192
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1100
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

カナダ・ケベック州で出版される文学作品の具体的な読解を通して、多様な出自の人々が共存する社会で文学が果たす役割を考察できるようになる。

Through concrete readings of literary works published in Quebec, Canada, students will be able to reflect on the role that literature plays in a society where people of diverse origins coexist.

授業の内容 / Course Contents

カナダ・ケベック州は北米のフランス語圏として独特な位置を占めている。先住民はもとより、1980年代以降は移民や亡命者なども積極的に受け入れ、多様な出自の人々が共生する方法について多くの経験を蓄積してきた。そこでは文学にたいする期待もきわめて大きい。

本講義では、ケベックの歴史や現代社会を概観したのち、3人の作家の作品を抜粋で講読する。1人目は10歳のときにベトナムからボートピープルとして到着したキム・チュイ（1968-）、2人目はハイチの独裁政権を逃れてきたダニー・ラフェリエール（1953-）、3人目は先住民作家のナオミ・フォンテーヌ（1987-）である。フランス語で表現するこれらの作家はケベック社会にたいして何を発信し、読者は彼らから何を受け取ろうとし

ているのか、彼らは互いに何を共有しようとしているのか考察する。

テキストは日本語版（仮訳を含む）を用意するので、フランス語の知識はとくに必要としない。

受講者の人数や状況にもよるが、コミュニケーションをテーマとする授業なので、フィードバックも含めて可能なかぎり双方向的なやりとりを重視しながら授業を進めていく。

Quebec, in Canada, occupies a specific position as the French-speaking region of North America. Since the 1980s, it has actively welcomed not only Indigenous people, but also immigrants and exiles, and has accumulated a great deal of experience on how people of diverse origins can coexist. Expectations for literature there are also extremely high.

In this course, after an overview of Quebec's history and modern society, students will read excerpts from the works of three authors. The first is Kim Thúy (1968-), who arrived from Vietnam as a boat people at the age of 10, the second is Dany Laferrière (1953-), who fled the dictatorship of Haiti, and the third is an Indigenous writer, Naomi Fontaine (1987-). Students will examine what these French-speaking writers communicate to Quebec society, what readers try to receive from them and what they try to share with each other.

The text will be prepared in Japanese (including provisional translations), so no particular knowledge of French is required.

It depends on the number of participants and the situation, but as the theme of the course is communication, we will emphasize interactive activities, including feedback, as much as possible.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：概略カナダ・ケベックの歴史と社会
- 3回：キム・チュイ講読 (1)
- 4回：キム・チュイ講読 (2)
- 5回：キム・チュイ講読 (3)
- 6回：キム・チュイ講読 (4)
- 7回：ダニー・ラフェリエール講読 (1)
- 8回：ダニー・ラフェリエール講読 (2)
- 9回：ダニー・ラフェリエール講読 (3)
- 10回：ダニー・ラフェリエール講読 (4)
- 11回：ナオミ・フォンテーヌ講読 (1)
- 12回：ナオミ・フォンテーヌ講読 (2)
- 13回：ナオミ・フォンテーヌ講読 (3)
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、毎回の授業で行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：200） / Evaluation

筆記試験 :60%

平常点割合 :40% 授業への参加度およびリアクションペーパー:40%

テキスト / Textbooks

プリントを使用する。

参考文献 / Readings

浅井晃 『カナダ先住民の世界』 彩流社 2004 4882028751

日本ケベック学会 『ケベックを知るための56章（第2版）』 明石書店 2024 9784750356617

ジェラルド・ブシャール 『間文化主義』 彩流社 2017 9784779124310

小倉和子 『記憶と風景：間文化社会ケベックのエクリチュール』 彩流社 2021 9784779127960

ジャック・ラクルシエール 『ケベックの歴史』 水声社 2023 9784801007499

注意事項

2016年度以降1年次入学者対象科目

学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

異文化コミュニケーション学からの学び

Understanding Intercultural Communication

Toward Intercultural Collaboration

石黒 武人 (ISHIGURO TAKETO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH193

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1133

使用言語： その他

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

このコースでは、異文化コミュニケーションの基礎となる概念、理論、事象について学びます。また、これらの概念や理論を日々の異文化間相互行為の事象に応用し、文化が異文化コミュニケーションをどのように組み立てているのか、そして文化が人びとのコミュニケーションを通してどのように再生産され、変化し、創造されているのかを批判的に考察します。また、受講生自身が文化的存在であることを理解し、異文化間においてより良いコミュニケーションを図るために、自身が文化的存在であることへの意識を高めることができることを目指します。

Through this course, students will be able to learn foundational concepts, theories, and phenomena of intercultural communication. They will apply those concepts and theories to their everyday intercultural interactions and critically examine how cultures frame their intercultural communication and how they reproduce, change, and create cultures through their communication. Also, students will be able to understand themselves as cultural beings and enhance their self-cultural awareness to communicate better in intercultural settings.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、異文化コミュニケーションの基本的な概念や理論を学び、文化的価値観やコミュニケーション・スタイルの違いから生じる問題を、国民文化を指す「異文化」だけでなく、国民文化内で確認できる様々な異文化も視野に入れ検討したい意欲的な学生を対象としています。そのために、人種、階層、性別、年齢、職業、宗教などの要素に関連する様々な異文化間で生起する問題について議論します。本コースでは、個人発表、2人1組、小グループ、大グループでのアクティビティ（主にディスカッション）を通して、文化的に異なる他者とより良い形でコミュニケーションをとる方法を探っていきます。

This course is intended for motivated students who would like to learn basic concepts and theories of intercultural communication and to examine issues caused by differences in cultural values and communication styles not only between national cultures but also within national cultures. For that purpose, students will discuss a range of intercultural issues related to such elements as race, class, gender, age, profession, and religion. The course experience will provide students with activities in pairs, small groups, and large groups where they explore ways in which they can communicate well with culturally different others.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Course Introduction: What is Intercultural Communication?

コースの概要：異文化コミュニケーションとは何か？

2回：Culture

文化

3回：Communication and its Models: Toward a Constitutive Approach

コミュニケーションとそのモデル：構成的アプローチ

4回：Cultural Cues in Non-verbal Communication

非言語コミュニケーションにおける文化的合図

5回：Time and Space in Intercultural Communication

異文化コミュニケーションにおける時間と空間

6回：Cultural Influence on Perception and Cognition

知覚・認知への文化的影響

7回：Identity in Intercultural Communication

異文化コミュニケーションにおけるアイデンティティ

8回：Processes of Intercultural Adaptation

異文化適応の過程

9回：Intercultural Communication in Groups/Organizations

集団／組織における異文化コミュニケーション

10回：Power Constructed through Intercultural Communication

異文化コミュニケーションを通じて構築されるパワー

11回：Gender and Intercultural Communication

異文化コミュニケーションにおけるジェンダー

12回：Media and Digital Communication

メディアおよびデジタルコミュニケーション

13回：Exploring Effective Intercultural Communicators

効果的な異文化コミュニケーションの探究

14回：Mindfulness and Contextual Consciousness in Intercultural Communication

異文化コミュニケーションにおけるマインドフルネスとコンテキスト意識

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to read class materials uploaded onto CanvasLMS before they come to class. They are also expected to try to find examples of intercultural communication and use concepts and theories they learn in class to analyze those examples.

Can

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：200) / Evaluation

筆記試験 :60 %

平常点割合 :40% Reaction Paper/リアクション・ペーパー:20% Cultural Identity Paper/文化的アイデンティティ・ペーパー:10% Intercultural Competence Paper/異文化間能力ペーパー:10%

Class handouts and videos will be shown in English, but the class itself will be conducted in Japanese, by the management method for this class determined in advance for the F course.

クラスの配布資料や視聴する映像等は英語ですが、F 科目用に事前に決められた本授業の運営方法に従い、授業自体は日本語で行います。

テキスト / Textbooks

Handouts and related materials are to be given out before and during class.

プリントや関連資料は授業前および授業中に配布します。

参考文献 / Readings

Martin Judith & Thomas Nakayama Intercultural Communication in Context 8th ed. McGraw-Hill 2021
9781265905729

Piller Ingrid Intercultural Communication: A Critical Introduction Edinburgh University Press 2011
9780748632848

Bennett, M. J. Basic Concepts of Intercultural Communication: Paradigms, Principles, and Practices 14th E Intercultural Press 2013 0983955840

Craig Satorti Understanding the World's Cultures Intercultural Press 2017 9781473670334

Edward T. Hall Beyond Culture Anchor 1976 9780385124744

Edward T. Hall The Hidden Dimension Anchor 1990 9780385084765

Edward T. Hall The Silent Language Anchor 1959 9780385055498

To be provided more by the instructor as needed.

必要に応じて追加で紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Please follow the requirements for the General University Courses and the General University Curriculum (Comprehensive) F courses. This course will be taught basically in Japanese. Students are expected to read and listen to English materials (academic paper)

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Class materials will be uploaded to CanvasLMS in advance, so please print them out or make them available on your laptop computer.

授業資料を事前に CanvasLMS へアップロードしますので、印刷をするか、パソコン等で読めるようにしておいてください。

その他/ Others

The schedule above is subject to revision at the instructor's discretion; any updates will be made available for students through CanvasLMS. This course is also designed for students with no prior knowledge of intercultural communication studies.

上記のスケジュール

注意事項

- ・ F 科目導入（外国語による総合系科目）
- ・ この授業は、主に日本語で行われるが、英語教材（文献や映像等）を使用する。
- ・ 履修にあたって英語力は問わない。英語「で」学ぶことや、グローバル環境に身を置くことに意欲のある学生の履修を歓迎する。
- ・ 2016 年度以降 1 年次入学者：学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

多文化共生社会と大学

Multiculturalism in Society and Universities

—やさしい日本語でともに学び、ともに生きる—

イム, ジェヒ (YIM JAEHEE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH301
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	4
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	自動登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

NEXUS Program の学生のための科目。大学で学び始めるにあたり、大学で学ぶこと、また立教大学という場で学ぶことの意味を理解する。

A course for NEXUS Program students. To understand what it means to study at a university and to study at Rikkyo University as a place to start studying.

授業の内容 / Course Contents

多文化共生社会とはどのような社会かを自分の言葉で説明することができる。また、日本が目指している多文化共生の形や実現のための方法をヨーロッパやアメリカ、アジアの国々と比較し、それぞれの特徴を知ることによって、日本に暮らす多様な人々が真の意味で共生していくことを可能にするためには、日本に暮らす一人ひとりがどのような態度を持ち、どのように行動していくべきか、自分の言葉で表現することができる。そして、そのような日本の多文化共生社会の実現のために、日本の大学は何をすべきかについて考え、自分の言葉で提案することができる。

Students will be able to explain in their own words what a multiculturally convivial society looks like. In addition,

by comparing the form of multicultural conviviality that Japan is aiming for and the methods used to achieve it with European, American, and Asian countries, and by understanding the characteristics of each, students will be able to explain in their own words what kind of attitude and action each individual in Japan should have in order to enable the diverse people living in Japan to live together in a truly harmonious manner. We will be able to express in our own words what kind of attitudes and actions each and every one of us in Japan should have in order to enable the diverse people living in Japan to truly live together. They will also be able to think about what Japanese universities should do in order to realize such a multiculturally convivial society in Japan and make proposals in their own words.

授業計画(授業計画数：28) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：多文化共生とは何か（1）
- 3回：多文化共生とは何か（2）
- 4回：様々な地域の多文化共生の形（1）
- 5回：様々な地域の多文化共生の形（2）
- 6回：様々な地域の多文化共生の形（3）
- 7回：グループワーク（1）
- 8回：グループワーク（2）
- 9回：グループワーク（3）
- 10回：グループワーク（4）
- 11回：中間発表（1）
- 12回：中間発表（2）
- 13回：中間発表フィードバック・振り返り
- 14回：日本の多文化共生の形（1）
- 15回：日本の多文化共生の形（2）
- 16回：日本の多文化共生の形（3）
- 17回：大学とは何か
- 18回：大学の役割（1）
- 19回：大学の役割（2）
- 20回：グループワーク（1）
- 21回：グループワーク（2）
- 22回：グループワーク（3）
- 23回：グループワーク（4）
- 24回：最終発表（1）、（レポート提出日）
- 25回：最終発表（2）
- 26回：最終発表（3）
- 27回：レポートフィードバック・振り返り（1）
- 28回：レポートフィードバック・振り返り（2）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ*等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○

実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業で準備学習等について指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度（討論、質疑応答、リアクションペーパーなど）:50% 報告およびレポートなどの提出物、各種テスト:50%

テキスト / Textbooks

授業で適宜紹介する。

参考文献 / Readings

授業で適宜紹介する。

その他 / Others

- ①全学共通科目（多彩な学び）「多文化共生社会と大学—やさしい日本語でともに学び、ともに生きる—」と一体的に授業運営を行う。
- ②スケジュールや内容は調整する場合がある。

注意事項

NEXUS プログラム学生用 学びの精神科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

仏教の世界

World of Buddhism

仏教の世界観を学ぶ/グローバル化時代だからこそ学びたい

安原 眞琴 (YASUHARA MAKOTO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH601
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「日本人は無宗教」とよく言われるが、それに対してきちんと答えられるようになる。
It is often said that "Japanese people are non-religious," but students will become able to respond to this statement in detail.

授業の内容 / Course Contents

グローバル時代のいま、何かと注目され始めている仏教。たとえば、海外でも「禅」に人気があったり、日本の若者には「パワースポット」のプチブームが起こったりしています。実はとっても身近な存在なのですが、私たちは気付いていないのです。そんな仏教を、根本的な考え方から宗派まで、多角的に分かりやすく学習します。

Buddhism is beginning to attract attention in the global era. For example, "Zen" is becoming popular overseas, and young people in Japan are crazy about "power spots." Actually, Buddhism is very close to us, but we are not aware of it. Students will study Buddhism in an easy-to-understand manner from the fundamental concepts to the sects.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：日本人は無宗教なのか。
- 2回：仏教は宗教なのか。
- 3回：聞いたことがあるぞ。地獄と天国。
- 4回：絵解きで仏教早わかり。ビデオ鑑賞。
- 5回：絵解きの復習と解説。
- 6回：身近な仏教に気付こう。
- 7回：最も身近な仏。お釈迦さま。
- 8回：聞いたことがあるぞ。北枕。ビデオ鑑賞。
- 9回：いろいろな仏。仏像もいろいろ。
- 10回：仏教の宇宙観。地球外生命体？
- 11回：仏教の宇宙観。宇宙物理学と仏教？
- 12回：仏教伝来。
- 13回：宗派の登場。
- 14回：雨ニモ負ケズ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- 事前学習：毎回配布プリントについて事前に調査してくる。
- 事後学習：毎回リアクションペーパーで一次的な復習をする。
- 宿題：課題レポートの作成時に参考文献を読んで理解を深める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 課題レポート:20% リアクションペーパー:40% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

白川成昭・宮次男 『地獄』 風濤社 1980 13 9784892190957

適宜指示する

その他 / Others

<http://www.makotooffice.net>

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム / 立教 A

日本の宗教

Japanese Religions

物語と人物から見る日本の宗教

出口 久徳 (DEGUCHI HISANORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH602
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本の宗教において、近代以前の人物の物語・伝記類・著作を取り上げることを通じて、日本の宗教について考える。

Students will think about Japanese Religions by considering stories, biographies, and writings of prominent people before modern times.

授業の内容 / Course Contents

日本の宗教における著名な人物の物語・伝記等を取り上げる。『今昔物語集』などの説話集、伝記、絵巻などのテキストを読むことを通じて、日本の宗教のあり方を考える。

Students will consider stories and biographies, etc. of prominent people in Japanese Religions. Students will think about the ideal form of religion in Japan by reading texts such as "The Tale of Konjaku," biographies, and picture scrolls, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス 物語と人物から見る日本の宗教

- 2回：聖徳太子①
 3回：聖徳太子②
 4回：役行者・行基
 5回：鑑真
 6回：空海①
 7回：空海②、『今昔物語集』仏教説話に見る人物①
 8回：『今昔物語集』の仏教説話に見る人物②
 9回：源信（『往生要集』）
 10回：地獄と極楽の物語
 11回：法然
 12回：一遍
 13回：ハビアン（天草版『平家物語』）（『妙貞問答』）
 14回：まとめ 改めて日本の宗教を考える

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『今昔物語集』等を読んでおく。美術館・博物館などに足を運ぶ。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 中間レポート:10% 出席兼コメントペーパーの内容:30%

特になし。

テキスト / Textbooks

プリントを使用する。

参考文献 / Readings

授業の中で随時紹介する。

その他 / Others

特になし。

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム / 立教 A

イスラームの世界

World of Islam

イスラームの基礎知識とムスリム社会

小野 仁美 (ONO HITOMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH604

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、世界に広がるイスラーム教徒が共有するイスラームの基本的な価値観をまず学ぶ。その上で、ムスリム社会が歴史を通じて継承する諸文化や、現代における諸問題を理解することを目指す。

The course aims to learn the fundamental Islamic values shared by Muslims around the world. It also seeks to understand the cultures that Muslim societies have inherited throughout history and the issues they face today.

授業の内容 / Course Contents

今日の世界において、イスラームについての知識習得と理解は必須の事項である。本授業では、イスラームの基礎知識を解説しつつ、イスラーム教徒の社会生活のあり方を、さまざまな角度から学ぶ。パワーポイントを使用した講義形式で、映像資料も適宜活用する。授業の順序や内容は、進捗状況に応じて変更の可能性がある。

In today's world, acquiring knowledge and understanding of Islam is essential. In this course, while explaining the basic knowledge of Islam, students will learn about the social life of Muslims from various angles. The lecture uses PowerPoint presentations, and video materials will be used as appropriate. The order and content of the

class may change depending on the student's progress.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イスラーム世界の歴史
- 2 回：ハラール・ビジネスと日本
- 3 回：イスラームともてなしの文化
- 4 回：イスラームと美術
- 5 回：イスラームと建築
- 6 回：イスラームと音楽
- 7 回：聖典クルアーンと預言者ムハンマドの伝承
- 8 回：イスラームの儀礼行為
- 9 回：シーア派とスンナ派
- 10 回：ユダヤ教、キリスト教、イスラーム
- 11 回：パレスチナ問題とイスラームの世界
- 12 回：アラブの春とイスラーム主義
- 13 回：映像で学ぶイスラームの世界
- 14 回：今学期のまとめと復習

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、授業で紹介する参考文献を読むこと。

復習としては、もう一度参考文献を読み、理解を深めること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% コメントシート:40% 授業参加態度:10%

テキスト / Textbooks

テキストはとくに指定しない。毎回、レジユメおよび資料を配布する。

参考文献 / Readings

大川玲子 『クルアーン：神の言葉を誰が聞くのか』 慶應義塾大学出版会 2018 9784766425550

その他の参考文献は、各回の授業時に紹介する。

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 A 科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通カリキュラム / 立教 A

「宗教」とは何か

What is religion?

近代再考のために

江川 純一 (EGAWA JUNICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH605
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「宗教」という語の多角的な検討や系譜学的な考察により、「宗教」という概念=用語に敏感になることを目指す。

We will aim to be sensitive to the word "religion" through a multi-dimensional examination of the concept and term of "religion", and genealogical consideration.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、個別の宗教についての解説ではなく、「宗教」概念についての考察である。具体的には、19世紀後半以降の宗教研究の流れを紹介しながら、「信じる」でも「遠ざける」でもなく、「《宗教》について知る」という立場について考察したい。

This class is not a commentary on individual religions, but a reflection on the concept and the term of "religion". Specifically, introducing the flow of religious studies since the late 19th century, we would like to consider the position of "knowing about religion," rather than "believing" or "moving away from" it.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに： 宗教学の言説空間。日本語の「宗教」について
 2回：「宗教」概念をめぐる諸問題（1）： ビリーフとプラクティス
 3回：「宗教」概念をめぐる諸問題（2）： 「民俗宗教」について
 4回：「宗教」はどのように研究されてきたか（1）： 宗教起源論その1
 5回：「宗教」はどのように研究されてきたか（2）： 宗教起源論その2
 6回：「宗教」はどのように研究されてきたか（3）： 神観念について
 7回：近現代イタリアにおける「宗教」（1）
 8回：近現代イタリアにおける「宗教」（2） / レヴィ=ストロースによる問題提起
 9回：マギア（呪術、魔術、魔法）論（1） 古代・中世
 10回：マギア（呪術、魔術、魔法）論（2） 近現代
 11回：贈与論
 12回：神話をいかに解釈するか（1） 19世紀の神話学
 13回：神話をいかに解釈するか（2） 20世紀の神話学
 14回：儀礼とは何か

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ブックリストの本を一冊でも多く読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 中間レポート:30%

テキスト / Textbooks

毎回レジュメを配布する。

参考文献 / Readings

講義のなかで指示する。

その他 / Others

教員作成の文献リスト <https://ameblo.jp/pettazzoniano/entry-12476646103.html>

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム / 立教 A

人権思想の根源

Root of Human Rights

じぶんごととして、ジェンダー・セクシュアリティ平等の視点から〈教育〉と〈社会〉の「あたりまえ」を問
いなおそう

堀川 修平 (HORIKAWA SHUHEI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH606
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に
基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、人権について、とりわけ「性と人権」についての基本的な知識を身につけてもらうことを前提
として、皆さんが自分自身を縛るジェンダー・セクシュアリティ問題に気づき、課題意識をもって現代社会の
諸問題に向き合えるようになることを目標とします。

In this class, the aim is that students become aware of gender and sexuality issues that bind us all on the premise
of acquiring basic knowledge about human rights, especially "gender and human rights," and face issues in
contemporary society with problem-awareness.

授業の内容 / Course Contents

皆さんは、性に関わる「差別」など自分には関係のないもので、差別やジェンダー・セクシュアリティについ
て考える必要などないと考えていないでしょうか？現代社会におけるジェンダー・セクシュアリティ問題は
「不可視化」されている点にあり、これまで経験してきたであろう学校教育、社会教育、家庭教育などのさま
ざまな〈教育〉の場や日常生活のなかに存在しているのです。そして、それらの問題を「学び」ながら私たち

は育ってきています。この授業では、自分自身を縛るジェンダー・セクシュアリティ問題にまず気づき、その上で課題意識をもって〈社会〉の諸問題に向き合えるようになることを目標とします。

Do you think that you have nothing to do with gender, such as "discrimination," and you don't need to think about discrimination or gender and sexuality? Gender and sexuality issues in modern society are at the point of being "invisible," and exist in various "educational" places such as school education, social education, and family education, etc. that we have all experienced so far and in daily life. And we grow up while "learning" those problems. In this class, the aim is that students first become aware of gender and sexuality issues that bind us, and then face issues in "society" with problem-awareness.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：性教育とはなんだろう？（1）私たちは「性教育」を学んできたのか？
- 3回：性教育とはなんだろう？（2）「包括的性教育」と「純潔教育」の違いとは？
- 4回：グループディスカッション（1）どのような「性教育」を受けてきたのか？
- 5回：ジェンダーの視点・性の多様性の視点（1）機会の平等・結果の平等とジェンダー
- 6回：ジェンダーの視点・性の多様性の視点（2）「性の多様性」=LGBT??
- 7回：グループディスカッション（2）重なる属性・重なる差別
- 8回：噂とジェンダー・セクシュアリティ～「デマ」に抗する知識を身につけよう
- 9回：「特権」と「社会的マイノリティ」～「性的少数者」は適切な表現なのか？
- 10回：ジェンダーバッシング・包括的性教育バッシングの歴史に学ぶ（1）「バッシング」とは何か？
- 11回：ジェンダーバッシング・包括的性教育バッシングの歴史に学ぶ（2）バッシングを煽動するのは誰か？
- 12回：ジェンダーバッシング・包括的性教育バッシングの歴史に学ぶ（3）バッシングに抵抗するための知識を身につけよう
- 13回：グループディスカッション（3）わたしたちが、今、始められることとは？
- 14回：まとめ：「涓滴岩を穿つ」ために

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講にあたって準備は必要ありません。ただし、授業中に提示する学習課題および授業内容について、ノートづくりが必要です。また、授業で配布するレジュメや資料は「膨大」になりますので、各自ファイリングをするようにしましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業毎に書いてもらうコメントや感想内容：60% 最終レポート割合：40%

最終レポートに関しては、これまでの年度では、書籍の精読レポートや授業内容にかかわる学習イベントへの参加レポートなど（5000字程度）を課してまいりました。本年度に関しては、受講者の学習ニーズ、学習深度などを加味して、授業中終盤で提示する予定です。

テキスト / Textbooks

堀川修平 『気付く 立ちあがる 育てる—日本の性教育史におけるクィアペダゴジー』 エイデル研究所
2022 4871686809 ○

堀川修平 『「日本に性教育はなかった」と言う前に』 柏書房 2023 4760155295 -
テキストの入手方法ならびに、授業における利用方法に関しては、初回オリエンテーションでご説明しますのでそれを待って購入に移ってください。また、このテキストのほかに、授業内で適宜資料を配布しますので、紛失しないように気をつけましょう。

参考文献 / Readings

- ベル・フックス 『フェミニズムはみんなのもの』 新水社 2003
高橋哲哉 『犠牲のシステム 福島・沖縄』 集英社 2012
伊田広行 『デートDV・ストーカー対策のネクストステージ：被害者支援／加害者対応のコツとポイント』
解放出版社 2015
好井裕明 『差別原論——〈わたし〉のなかの権力とつきあう』 平凡社 2007
パウロ・フレイレ 『被抑圧者の教育学—新訳』 亜紀書房 2011
渡辺大輔 『性の多様性ってなんだろう？(中学生の質問箱)』 平凡社 2018
その他、学習の手助けになる文献などは各授業で推薦いたします。

その他 / Others

この授業では「ジェンダー・セクシュアリティ平等の視点」を"社会におけるすべての人の〈性〉に関する抑圧の解放を目指すために、性の多様性を認め、性の差別や偏見から自由になること"と定義して、現代社会における「差別」問題について考えていきます。また、社会にすでに存在している差別に関する内容として、「暴力」や「生と死」に関わる内容を取り扱うことも前提としています。

その際、皆さんに「じぶんごと」としてこれらの問題を捉えてもらいたいと思います。ですので、「自説のみにこだわり、周りの人たちと対話するつもりのない方」

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 A

手話と人権を考える

Sign Languages and Human Rights

ろう者学・手話学入門

佐伯 敦也 (SAIKI ATSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH607

授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）

授業形態（補足事項）【オンデマンド講義 配信スケジュール】

第1回 9月24日

第2回 10月1日

第3回 10月8日

第4回 10月15日

第5回 10月22日

第6回 10月29日

第7回 11月12日

第8回 11月19日

第9回 11月26日

第10回 12月3日

第11回 12月10日

第12回 12月17日

第13回 1月14日

第14回 1月21日

校地： 他

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ろう者、手話について知り、経験することを通して、共生社会を考えるための新たな視点を獲得する。

Through learning and experiencing deaf people and sign language, students will acquire new perspectives for thinking about symbiotic society.

授業の内容 / Course Contents

ろう者を言語・文化的少数者として、手話を自然言語として捉え、その仕組み、構造を具体的にみていく。またろう者・手話と社会の関わりについて、教育、法、人権などの側面から扱う。

We will consider deaf people as language and cultural minorities, sign language as natural language, and look at the mechanisms and structures specifically. We also deal with the relationships between deaf people, sign language and society from the aspects of education, law, and human rights, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：ろう者とはどのような人々なのか、手話とはどのような言語なのかについて概観する。
- 2回：手話の成立：手話はいつごろ、どのようにして成立したのか海外の例も参考にしつつ学ぶ。
- 3回：言語の普遍性と手話：手話言語と音声言語の共通点、相違点について学ぶ。
- 4回：手話の文法1：手話とはどのような言語なのか、手話を構成する部位について学ぶ。
- 5回：手話の文法2：手話の文法にはどのような特徴があるのかを学ぶ。
- 6回：ろう文化：デフウェイ、ろう文化とよばれる事象について学ぶ。
- 7回：ろうコミュニティ：ろう者および関連する人々のネットワークについて学ぶ。
- 8回：ろう者の芸術：いわゆるデフアートについてその成立過程、取組みの内容、日本とアメリカの違いについて学ぶ。
- 9回：ろう者のエンターテインメント：ろう者によるエンターテインメントやパフォーマンスの実践に触れる。
- 10回：ろう者の歴史：ろう者と彼らを取り巻く社会の変容について学ぶ。
- 11回：ろう教育：ろう児に対する教育について学ぶ。
- 12回：法と人権：ろう者、手話に関わる法体制のあり方、人権について学ぶ。
- 13回：言語的少数者：音声言語の言語的マイノリティとろう者の共通する特徴、相違点について学ぶ。
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

小テスト、レポート、最終テストを課す。レポートは授業の予習を兼ねる内容もある。テキストの指定はないが、参考文献で授業の内容を復習しつつ、深化することができる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト:30% レポート:40% 最終テスト割合 :30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

現代思想編集部 『ろう文化』 青土社 2000 479175803

パッデン、ハンフリーズ 『新版「ろう文化」案内』 明石書店 2016 9784750343365

木村晴美 『日本手話とろう文化』 生活書院 2007 4903690075

岡典栄、赤堀仁美 『日本手話のしくみ』 大修館書店 2011 4469222151

米川明彦 『手話ということば』 PHP 研究所 2002 4569619657

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 A

点字から考える人権

Braille as a Gateway to Human Rights

言語と人権

立花 明彦 (TACHIBANA AKEHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH608
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

点字を新たな「自分の文字」として習得するとともに、それを使用している人々（特に重度の視覚障害者）の生活実感を身近なものにする。

Students will learn braille as new "characters of mine" and become familiar with the lives of people who use them (especially people with severe visual impairment).

授業の内容 / Course Contents

点字は、人類共有の文字である。決して視覚障害者だけが「文字の代わりに」使用する記号ではない。しかし、残念なことに、これは現在一般的な共通認識となっているとは言えない。この事実が、今日点字の主たる使用者である視覚障害者が置かれている人権をめぐる状況を如実に物語っている。この授業では、点字を新たな「自分の文字」として習得するとともに、文字と人権、そして更に広く「人権とは何か」について深く考えたい。

Braille is a set of characters shared by all humans. It is not a set of symbols used only by visually impaired people "in place of letters." However, unfortunately, this cannot be said to be the common understanding at

present. This fact clearly illustrates the situation surrounding human rights where the blind are the main users of Braille today. In this class, we want students to learn Braille as new "characters of mine" and think deeply about characters and human rights, and more broadly about the question "What are human rights?"

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：イントロダクションー視覚障害者の位置づけと調査に見る実態
- 3回：点字小史ー文字としての市民権の広がり
- 4回：点字の成り立ちⅠーブライユの7行表と日本語点字（清音）
- 5回：点字の成り立ちⅡー日本語点字（濁音・半濁音・拗音）
- 6回：講義と実践1. 日本語点字の仮名遣い／視覚障害者と読書
- 7回：講義と実践2. 数字／人権保障と文字情報保障
- 8回：講義と実践3. 日本語における数字の書き表し方／家庭にある点字
- 9回：講義と実践4. アルファベット／町の中の点字あれこれ
- 10回：講義と実践5. 分かち書きⅠ／デザインとしての点字
- 11回：講義と実践6. 分かち書きⅡ／点字以外の触覚情報
- 12回：講義と実践7. 点字名刺の作成等／IT時代の視覚障害者
- 13回：国連の「障害者の権利条約」および我が国の障害者基本法と障害者観の変遷
- 14回：まとめー視覚等障害者の生きづらさについてー人権とは何か？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業への積極的参加度:30% テスト:40% 課題の達成度:30%

なお、単位修得のためには75%以上（3/4以上）の出席と最終授業時に行われるテストを受けることを必要とする。

テキスト / Textbooks

日本点字図書館 『点訳のしおり』 社会福祉法人 日本点字図書館 2019年 ○

立花明彦 『何かお手伝いしましょうか』 産学社 2014年 4782533462 ○

受講者は上記テキストの他に、日本点字図書館販売のN632点字器（1,150円）と点字用紙を購入すること。新座キャンパス1号館1階MARUZENブックセンターでは「点字セット」として販売している。

参考文献 / Readings

授業内で紹介する。

注意事項

2012～2015年度1年次入学者対象科目 立教A科目

注意事項（検索結果画面）

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

学びを通じた地域創生の超学際的アプローチ

～ひとづくり×地域づくり×自分＝素敵な未来～

辻 英之 (TSUJI HIDEYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH609

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

地域社会の「学び」と「経営」を多面的に考察し、その核となるものを丁寧に抽出することを通して、「ひとづくり」と「地域づくり」が相乗的に質を深めていく論拠を探る。

Students will consider "learning" and "management" in local communities from multiple perspectives, and explore the rationale in which "people development" and "community development" deepen the quality synergistically, through careful extraction of the core concepts.

授業の内容 / Course Contents

近年、急速な人口減少が迫る中、観光開発・企業誘致などの従来型の地域づくりではなく、教育・福祉を軸とした地域づくりが進められ、その成果が報告されている。本講義では、実践家を中心とする多彩なゲスト講師から最先端の実践とその考察を講じていただく。

また、科目担当者が 30 年の実践から導き出されたアクティブラーニング型の授業運営スタイル：ダイアログ（対話）を活用した学び合いを駆使することにより、ゼミ形式における学びを深める。

なお、科目担当者は、国道も信号もコンビニもない長野県泰阜村（やすおかむら）において地域創生に顕著な成果を上げている NPO の代表理事である。

In recent years, with rapid population decline approaching, community development centering on education and welfare has been promoted rather than traditional community development such as tourism development and attracting businesses, and the results of this approach have been reported. In this course, students will learn the most advanced practice and its consideration from a variety of guest instructors who are mainly practitioners. In addition, the course lecturer will deepen learning in a seminar format by making full use of study that utilizes an active learning type class style: dialog, derived from 30 years of practice.

In addition, the course lecturer is a representative director of an NPO that has achieved remarkable results in community creation in Yasuoka-mura, Nagano Prefecture, which has neither national roads nor traffic lights nor a convenience store.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：学び方の導入
- 3 回：ダイアログの準備ワーク 1
- 4 回：安心安全の農的ライフサイクル（ゲスト：福島県の農的 NPO）
- 5 回：離島の地域づくり×フリースクール（ゲスト：島おこし実践者）
- 6 回：過疎地域のローカルベンチャー（ゲスト：ローカルベンチャー代表者）
- 7 回：本質的な学校づくりへの挑戦（ゲスト：自治体首長）
- 8 回：中間まとめ
- 9 回：お米からプラスチック？（ゲスト：被災地のベンチャー企業）
- 10 回：空き家活用と人材育成（ゲスト：まちづくり NPO 事務局長）
- 11 回：世界自然遺産とサステイナブルツーリズム（ゲスト：沖縄やんばる NPO）
- 12 回：学びのシェア
- 13 回：全体ダイアログワーク
- 14 回：総括とまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習等の指示は、必要に応じて授業内あるいは CanvasLMS 上で行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回の授業後に提出するコメントペーパー:40% プレゼンなど授業内の成果物:30%

最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

ダイアログ主体の授業を貫くルールは、「参画」と「自己決定」。自分で考えて、自分で動いて参加すればするほど、楽しくなり、学びが大きくなる授業。持ってくるものは「やる気」。

その他/ Others

科目担当者は泰阜村で実際に活動する上記 NPO の代表理事である。毎週毎週、信州の山村から片道 5 時間 (!) かけて大学に通う。ゲストは現段階の予定なので、開講してから変更の可能性がある。

ダイアログ主体の授業を貫くルールは、「参画」と「自己決定」。自分で考えて、自分で動いて参加すればするほど、楽しくなり、学びが大きくなる授業。持ってくるものは「やる気」。

担当者所属 NPO の URL <http://www.greenwood.or.jp>

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 B 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 B

近代日本社会と人権

Modern Japanese society and human rights

近代日本における差別問題と人権一部落問題を軸に

黒川 みどり (KUROKAWA MIDORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH610
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

部落問題を軸に据えながら近現代の歴史を振り返ることにより普遍的人権意識を身につける一助とし、人権問題についての理解を深める。

By looking back on the history of minorities in modern Japan while focusing on the Buraku problem, we will help students to acquire a "sensitivity toward others" and deepen their understanding of human rights issues.

授業の内容 / Course Contents

最も理解しにくいであろう部落差別問題を軸にしながら、明治維新から現代までの近現代社会の差別問題のありようを問う。部落問題を身近なものとして理解するために、ドキュメンタリーや文学作品の映画なども取り入れて解説する。可能な限り、ゲストスピーカーを招いて議論する場も設けたい。

We will provide lectures on the history of Okinawa, gender, leprosy, etc. in modern society from the Meiji Restoration to the present, focusing on the problem of Buraku discrimination that will be most difficult to understand, and questioning the state of modern society in Japan.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス 部落問題とは何か
- 2回：賤民身分の廃止／「開化」と「旧習」のはざま
- 3回：つくられる「異種」というまなざし
- 4回：映画「破戒」を観る（監督：市川崑）
- 5回：部落問題の発見一部落改善政策の開始／浸透する人種主義
- 6回：帝国のなかの部落問題―「融和」の浮上／米騒動と部落問題
- 7回：解放か融和か―全国水平社の結成
- 8回：「国民一体」と人種主義の相克―戦時下の部落問題
- 9回：部落解放運動の再出発と高度経済成長下の広がる格差
- 10回：ドキュメンタリー映画「人間みな兄弟」（監督：亀井文夫、1960年）を観る
- 11回：同対審答申―「国の責務」の承認
- 12回：狭山事件をめぐって
- 13回：「市民社会」への包摂から“いま、へ
- 14回：まとめ―「人権」のなかの部落問題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの該当範囲を読み、予習・復習をしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内で求める数回のリアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

黒川みどり 『増補近代部落史―明治から現代まで―』 平凡社ライブラリー 2023 9784582769388 ○

参考文献 / Readings

黒川みどり 『描かれた被差別部落』 岩波書店 2011 9784006004309

黒川みどり 『創られた「人種」―人種主義と部落差別』 有志舎 2016 9784908672019

寺木伸明・黒川みどり 『入門被差別部落の歴史』 解放出版社 2016 9784759240634

黒川みどり 『被差別部落認識の歴史』 岩波現代文庫 2021 9784006004309

注意事項

2012～2015年度1年次入学者対象科目 立教A科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教A

大学と現代社会

University and Modern Society

グローバル社会における大学教育の意義

岩田 陽子 (IWATA YOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH611

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ・グローバル社会で生き抜くために必要な心構えとスキルについて理解する。
- ・大学生活における学びとキャリアの関係について理解する。
- ・グローバル社会における大学教育の意義について理解する。

To understand the attitudes and skills necessary to survive in a global society.

To understand the relationship between university study and career.

To understand the significance of university education in a global society.

授業の内容 / Course Contents

グローバル社会では、より多様で複雑な判断が常に求められる。

本授業では、そうしたグローバル社会で生き抜くうえで必要な「学ぶ力」「考える力」「信頼関係を構築する力」について理解を深める。さらに、そうした力を大学教育においてどのように培っていくかについても考えていく。

In a global society, more diverse and complex decisions are always required.

In this class, students will deepen their understanding of the "ability to learn," "ability to think," and "ability to build trusting relationships" necessary to survive in such a global society. We will also consider how to cultivate these skills in university education.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：グローバル社会の進展と大学教育
- 2回：グローバル社会で生き抜くために必要な心構えとスキル
- 3回：「学ぶ力」①
- 4回：「学ぶ力」②
- 5回：「考える力」①
- 6回：「考える力」②
- 7回：「信頼関係を構築する力」①
- 8回：「信頼関係を構築する力」②
- 9回：大学生活とキャリア①
- 10回：大学生活とキャリア②
- 11回：グローバル社会における大学教育①
- 12回：グローバル社会における大学教育②
- 13回：グローバル社会における大学教育③
- 14回：最終まとめとレポート

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、授業時に指示を出す

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 複数回の授業内課題および発表:60%

最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

適宜、配付する

参考文献 / Readings

適宜、紹介する

その他 / Others

※本授業は対面で実施しますが、課題や資料の提示、質問の受付等は、LMS（学習管理システム）を使う予定です。

※本授業では、ディスカッションやプレゼンテーション等の機会が多くあります。

注意事項

2012～2015年度1年次入学者対象科目 立教A科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教A

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

日本の社会保障制度の課題を考える

畠中 亨 (HATANAKA TOHRU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH613
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

公的年金や健康保険など日本の社会保障制度は財政問題、格差問題、費用負担の問題など様々な課題にさらされています。社会保障制度の仕組みをしっかりと学んだうえで、その問題点をどのように解決していくべきかを考えていきます。

Japanese social security system, including public pensions and health insurance, is beset with various problems such as financial problems, inequality, and cost burdens. After learning about the structure of the social security system, we will consider how to solve these problems.

授業の内容 / Course Contents

日本の社会保障制度のうち、公的年金、健康保険、介護保険、雇用保険、労災保険、生活保護、生活困窮者自立支援制度、障害者総合支援法、障害者雇用促進法、子ども・子育て支援新制度の中から受講生がそれぞれテーマを選び、研究発表と討論を重ねながら制度の課題克服に向けた展望を探求します。

Students will select a theme from among Japan's social security systems: public pension, health insurance, long-term care insurance, unemployment insurance, workers' accident compensation insurance, public assistance, the

Self-Support System for the Needy, the Comprehensive Support for Persons with Disabilities Act, the Law for Employment Promotion of Persons with Disabilities, and the new childcare support system, and explore prospects for overcoming system challenges through repeated research presentations and discussions.

Translated with DeepL.com (free version)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：日本の社会保障の仕組み
- 2 回：社会保障制度分析の視点（1）
格差・貧困と社会保障
- 3 回：社会保障制度分析の視点（2）
少子高齢化と社会保障
- 4 回：社会保障制度分析の視点（3）
社会保障の財政問題
- 5 回：社会保障の現状分析（1）
- 6 回：社会保障の現状分析（2）
- 7 回：社会保障の現状分析（3）
- 8 回：社会保障改革の動向分析（1）
- 9 回：社会保障改革の動向分析（2）
- 10 回：社会保障改革の動向分析（3）
- 11 回：社会保障の課題克服の検討（1）
- 12 回：社会保障の課題克服の検討（2）
- 13 回：社会保障の課題克服の検討（3）
- 14 回：これからの社会保障について総合的討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自身が選んだテーマについて文献学習をし、プレゼンテーションの作成を進める。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% プレゼンテーション:60% 議論への参加状況:40%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。授業時に資料を配布する。

参考文献 / Readings

山田篤裕,駒村康平,四方理人,田中聡一郎,丸山桂 『最低生活保障の実証分析 -- 生活保護制度の課題と将来構想』 有斐閣 2018 9784641174375

芝田英昭, 鶴田禎人, 村田隆史編 『新版 基礎から学ぶ社会保障』 自治体研究社 2019 9784880376912

酒井正 『日本のセーフティネット格差』 慶応義塾大学出版会 2020 9784766426496

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

プレゼンテーション作成のため PC を使用する。

授業支援システムは CanvasLMS を使用する。

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 B 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

東南アジアで学ぶ文化人類学

久保 忠行 (KUBO TADAYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH614
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業の到達目標は、次のとおりである。

- 1) 文化人類学の視点から身の回りの事柄を捉えられるようになること。
- 2) 東南アジアへの理解をとおして、「日本」を相対化できること。

In this course, students will be able to:

- 1) understand the issues around them from the perspective of cultural anthropology.
- 2) relativize "Japan" through an understanding of Southeast Asia.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、テキストの購読とディスカッションをもとに東南アジア地域を事例に文化人類学の考え方と理論を学ぶ。あるいは、文化人類学の視点をとおして東南アジア地域について学ぶこともできる。この授業は反転授業の形式をとり、受講者は各章末の課題に事前回答し授業に臨む。受講者数にもよるが、3~5 グループ程度に分かれて回答について意見交換をおこない対象への理解を深める。

In this class, students will learn about the concepts and theories of cultural anthropology through case studies of

the Southeast Asian region through text readings and discussions. Students can also learn about the Southeast Asian region through the perspective of cultural anthropology. Students will be divided into about three to five groups to exchange opinions on their answers and develop their understanding of the topics.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：文献講読とディスカッション
- 3回：文献講読とディスカッション
- 4回：文献講読とディスカッション
- 5回：文献講読とディスカッション
- 6回：文献講読とディスカッション
- 7回：文献講読とディスカッション
- 8回：文献講読とディスカッション
- 9回：文献講読とディスカッション
- 10回：文献講読とディスカッション
- 11回：文献講読とディスカッション
- 12回：文献講読とディスカッション
- 13回：文献講読とディスカッション
- 14回：まとめと展望

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	○ ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講者は指定された文献を熟読し、各章の問いに回答しておくこと。
報告者（グループ）は、担当章のまとめとともに論点をレジюмеにまとめておくこと。どのような質問が出て対応できるように準備しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 報告内容:35% 議論への参加:35% 事前学習と振り返り:30%

特に以下の点を評価する。報告：分かりやすいレジюмеと聴衆に伝わる報告。議論への参加：記述内容や報告者が立てた論点への批判的・建設的な検討。事前学習：文献内容の的確な理解と不明な箇所の下調べ。

テキスト / Textbooks

箕曲在弘ほか（編）『東南アジアで学ぶ文化人類学』 昭和堂 2024 9784812223062 ○

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・適切な文章で、論理的な説明ができること。
- ・他者の意見を正確に理解できること。
- ・自身の意見を論拠をもとに明確に提示できること。
- ・グループワークをとおして建設的に議論に参加できること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

グループで意見を集約し、レジユメを作成する必要がある。そのため、Google ドキュメントなどで共同編集できるように準備しておくこと。

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 B 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

エコロジー経済学から構想するウェルビーイング

佐藤 太 (SATO FUTOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH615
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

受講生は、エコロジー経済学、持続可能性、およびウェルビーイング（身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念）について理解を深めると同時に、実践家との対話をとおして持続可能なウェルビーイングを社会に実装するための考え方やスキルを身に付けます。また、批判的考察と学際的なディスカッションの方法に親しみます。

Students will deepen understanding of ecological economics, sustainability, and wellbeing (a concept that implies good states in physical, emotional, and social aspects of a person and society). They will learn frameworks and acquire skills, through conversations with practitioners, to materialize sustainable wellbeing in society. They will also familiarize themselves with critical thinking and interdisciplinary discussions.

授業の内容 / Course Contents

エコロジー経済学、持続可能性、ウェルビーイングという学問や概念の基礎を振り返るとともに、ディスカッションをとおして理解を深めます。同時に、ゲスト・スピーカーとの対話をとおして、持続可能なウェルビーイングを作り出す実例や可能性、課題を学びます。受講生はグループに分かれて話し合いをし、このコースで

の学びを広める方法や、身近な適用例を考えてコースの終盤で発表します。また各受講生は、与えられたテーマについてコース中に1回発表します。

The course will review basics of ecological economics, sustainability, and wellbeing. It will help students deepen understanding of these studies and concepts through discussions. It will examine, through conversations with the guest speakers, practical examples, possibilities, and challenges in materializing sustainable wellbeing in society. The students will form groups and work for projects such as to disseminate the learnings from the course or to apply them in daily life, and present the results at the end of the course. Each student will make one presentation during the course of a summary of assigned theme.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：コースの概要と進め方、ディスカッションへのウォームアップ
- 2回：批判的考察、抽象と捨象、学際的研究、発表の練習
- 3回：エコロジー経済学の視点：SDGsと持続可能性
- 4回：ウェルビーイングと持続可能性
- 5回：エコロジー経済学の視点：経済学と物理学・生物学の出会い
- 6回：実例から学ぶ：農的暮らしとコミュニティ（ゲスト）
- 7回：コモンズと社会的連帯経済
- 8回：実例から学ぶ：コモンズと仕事づくり（ゲスト）
- 9回：実例から学ぶ：社会的連帯経済（ゲスト）
- 10回：農的暮らしを応用する
- 11回：地域に循環、つながり、仕事をつくる
- 12回：持続可能なウェルビーイングのための指標
- 13回：プロジェクト発表
- 14回：まとめとレポート

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前学習、復習、課題については、授業内でお伝えします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度:20% リアクションペーパー:20% 資料まとめ発表:20% グループプロジェクト:20% 最終レポート:20%

テキスト / Textbooks

指定テキストはありません。各授業または事前に資料を配布します。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

本コースの受講には、2023年春学期新座キャンパスで開講された「持続可能な福祉コミュニティ」を受講していることが望ましい。立教ゼミナール発展編は、3年4年次生を主な対象としてますが、上記コースを受講済

みであれば2年生の履修も歓迎します。同コース未受講の場合には、別途配布する資料をお読みいただきます。

その他/ Others

ゲストの都合などにより、授業スケジュールの順番や内容が変更になる場合があります。

注意事項

2012～2015年度1年次入学者対象科目 立教B科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

Seminar on Religion and Ritual Psychology

カヴァナ, C. (KAVANAGH CHRISTOPHER)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH617

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

The goal of this seminar is to:

- Provide students with an overview of modern research on religion and ritual, especially from the perspective of cognitive psychology and evolutionary theory.
- Teach students how to critically evaluate research and compare theoretical approaches
- Improve students' abilities to discuss research and communicate opinions
- Introduce students to ongoing debates and new methodological standards

授業の内容 / Course Contents

The seminar focuses on modern research on religion and ritual, particularly research that adopts an evolutionary or cognitive perspective. Many in Japan and other societies do not follow any specific religion but the majority of people across the world believe in Gods and belong to religious groups. Rituals are also important in all societies and are important aspects of culture. This course examines religion and ritual as a cross-culturally recurrent social phenomenon and examines modern research that explores the psychological and social effects of religious

belief and ritual participation.

We begin with introductory lectures to develop research skills, setting a solid foundation for the detailed study of ritual and religion. The course then progresses to cover key topics in these areas, offering a mix of theoretical knowledge and practical analysis. we focus on examining specific research in depth over two weeks. In the first week, students focus on a key study and we discuss the strengths and weaknesses. Then we move on to explore follow-up studies or related research through group discussions and/or reaction papers.

Students are required to make a presentation (15-20 mins) on one selected topic during the course and will be required to submit short reaction papers for certain weeks. Classes throughout are a combination of lectures and group discussion segments.

The course is conducted in English, and the content is adapted to suit the language proficiency of the students. By the end of the seminar, students will have a deeper understanding of key theories in religion and ritual, along with enhanced skills in critical research analysis and effective communication of their ideas.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：[Lecture] Course Introduction & How to Read Studies Critically/Conduct Independent Research.
- 2回：[Lecture] The Replication Crisis & Modern Social Science Research
- 3回：[Lecture] What is Religion?
- 4回：[Lecture] Ritual Psychology
- 5回：[Lecture] Minimally Counterintuitive Concepts
- 6回：[Lecture] Big Gods & Supernatural Punishment
- 7回：[Lecture] The Psychology of Religious Extremism
- 8回：[Practice] Research Paper 1
- 9回：[Practice] Follow-Up Discussion on Paper 1
- 10回：[Practice] Research Paper 2
- 11回：[Practice] Follow-Up Discussion on Paper 2
- 12回：[Practice] Research Paper 3
- 13回：[Practice] Follow-Up Discussion on Paper 3
- 14回：[Practice] Final Presentations & Review of Course

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

Some independent reading of English materials is required and completion of short reaction papers.

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Participation in class discussion:40% Final Presentation:20% Reaction Papers:40%

テキスト/ Textbooks

None

参考文献 / Readings

Reading material will be distributed in class.

読み物はクラスで提供されます。

その他/ Others

Class content will be adjusted according to the number of students and their specific abilities/needs.

具体的な授業の進め方は、履修者の数やニーズに合わせて調整していきます。

注意事項

- ・ F 科目上級（外国語による総合系科目）
- ・ 他に特別外国人学生が履修
- ・ この授業は英語で実施する
- ・ 履修者は TOEIC®L&R 700 点相当以上の英語力を有していることを前提に授業を実施する
- ・ 2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目
- ・ 立教 B 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 B

オーダーメイド医療最前線

Forefront of made-to-order medicine

人間の幸福追求と先端医科学技術との行方を問う

川上 祐美 (KAWAKAMI YUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH621
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	-----
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

オーダーメイド医療を通して生命医科学技術とその社会的背景について理解し、それをめぐる倫理的課題ならびに人間の尊厳のあり方を考える。

To understand life science technology and its social context, ethical issues surrounding it, and its impact on human dignity through discussions on personalized medicine.

授業の内容 / Course Contents

「オーダーメイド医療」とは、狭義には、個々人の遺伝子の形質に合わせた薬剤や治療法などを選択する医療のことを指します。広義には、人間の生き方死に方も個人の価値観が尊重されるという考えに基づき、生老病死へのあらゆる医学的介入を自律的に選択していくことを意味します。

そのような個人のニーズに合わせた「オーダーメイド医療」は、より効率的な治療効果が期待される一方で、遺伝子偏重の見方を強め、私たちの生命観や健康観に大きな影響をもたらす可能性があります。また、個を大切に、国家や社会に不当に制約・疎外されない自由な生き方を希求することは基本的な権利ですが、方向性を誤れば、格差を助長し共存存在としての他者理解を阻むことも危惧されます。

本講では、人間の幸福追求と先端医科学技術の利用との間の多層的問題に触れ、ともに考える時間を持ちたいと思います。

"Personalized medicine", in a narrow sense, refers to medical treatment in which drugs and therapies are selected according to the genetic traits of each individual. In a broader sense, it means self-determination in all medical interventions involving birth, aging, sickness, and death, based on the idea that individual values should be respected in matters of life and death.

While such "personalized medicine" tailored to the needs of the individual is expected to produce more efficient therapeutic effects, it may also reinforce a view that overemphasizes genetic information as well as have a significant impact on our views on life and health. It is a fundamental right to value one's individuality and to seek a free way of life that is not unreasonably restricted or marginalized by the state or society, but if misdirected, it may promote inequality and hinder mutual understanding among people who are vulnerable and dependent on each other.

In this course, I would like to touch on multi-layered issues that arise in the pursuit of human happiness and the use of advanced medical science and technology as well as invite the class to delve into these issues together.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オーダーメイド医療とは ～新たな恩恵と葛藤
- 2回：患者の権利擁護と自律① ～オーダーメイドに至る道のり
- 3回：患者の権利擁護と自律② ～バイオエシックスの4原則
- 4回：生殖医療とデザイナーベビー① ～親たち子たちの苦悩
- 5回：生殖医療とデザイナーベビー② ～生まれる命の操作
- 6回：ジェンダーの社会的変遷と科学的理解 ～LGBT理解の礎として
- 7回：ゲノム技術の法といま① ～ゲノムテクノロジーの光と影
- 8回：ゲノム技術の法といま② ～遺伝子操作をめぐる倫理
- 9回：脳死と臓器移植 ～いのちの優先順位とその格差
- 10回：再生医療と移植医療 ～臓器不足の打開策か、それとも…
- 11回：自分らしい死とは① ～尊厳死・安楽死の国際的動向
- 12回：自分らしい死とは② ～スイスの自殺幫助から考える
- 13回：サイボーグ技術で生きる ～これからの人間像は？
- 14回：エンハンスメントと人間の幸福 ～人体増強の行く先

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で紹介する資料をよく読んでみてください。

日頃のニュース (健康医療、政治経済、科学技術、宗教文化等) に関心をもってください。

その他、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業内レポート（リアクションペーパー）:100%

テキスト/Textbooks

必ず購入しなければならないテキストはありませんが、下記の参考書をはじめ、講義内でも関連書籍を適宜紹介します。

参考文献 / Readings

島菌 進 『いのちを“つくって”もいいですか? 生命科学のジレンマを考える哲学講義』 NHK 出版 2016
9784140816943

マイケル・サンデル 『完全な人間を目指さなくてもよい理由』 ナカニシヤ出版 2010 9784779504761

オルダス・ハックスリー 『すばらしい新世界』 講談社文庫 1974 9784061370012

青野 由利 『ゲノム編集の光と闇』 筑摩書房 2019 9784480072023

勝島次郎 『先端医療と向き合う』 平凡社新書 2020 9784582859454

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 A

大学と科学技術

Universities And Science Technology

リベラルアーツおよび社会における大学の役割 (The role of universities / liberal arts in a social context)

古谷 紳太郎 (FURUYA SHINTARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH622
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

大学は学びの場なのか？研究の場なのか？大学が教育と研究の両方を行う場だとして、それは高校とどう違うのだろうか？また、先行きの見えない世の中で、大学での学びの代表と見なされるリベラルアーツが注目されているが、リベラルアーツとはいったい何なのだろうか？そして、それは本当に先行きの見えない世の中を見通す力を与えるものなのだろうか？

本授業の主な目的は、上記の疑問を明らかにし、受講者に大学での学びの「地図」と、自ら学びを深めるための基礎を与えることにある。加えて、大学と科学技術の関係性を歴史的な観点から講じ、受講

Is a university a place of learning? A place of research? Supposing they are, in what ways are they different from high schools? In this uncertain future of the world, the focus is on “liberal arts” – which is considered the very symbol of learning in many universities - what exactly is it? Will it give us the foresight we need for the uncertain future upon us?

The main goal of this course is to provide a “map” for learning at university and a base so that students know how to make the most of their study; all through elucidating the aforementioned questions. An additional purpose is

to provide students a frame for discourse - such as that of how science and technology should be in society - by lecturing on the relationship between universities, science and technology from a historical perspective.

授業の内容 / Course Contents

社会における大学と科学技術の歴史を、古代ギリシアから現代まで辿っていく。その過程で、リベラルアーツとは何か？大学がどのように登場したのか？科学、技術、科学技術のそれぞれの違いについて、大学で科学技術が研究されるようになった背景について学ぶ。講義は、講師との対話やスモールディスカッションを挟みながら進められる。最終回には、テーマを決めたディスカッションを行い、本授業での学びを受講者自身でまとめるとともにレポート課題の準備を兼ねる。

We look back on the history of universities, science and technology from the period of ancient Greece until today. During that process, we ask, what is "liberal arts?" How did "universities" form? What is the difference between science, technology, and "science technology?" How did universities develop into places of research for "science technology?" The lecture series will take place as a dialogue and lecture combination. The final class will be a wrap-up discussion for students to summarize what they learned on their own. This discussion will form the basis for them to write a final report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンスとイントロダクション (Guidance and Introduction)
- 2 回：古代の研究・教育① (Research and Education in Ancient Times①)
- 3 回：古代の研究・教育② (Research and Education in Ancient Times ②)
- 4 回：古代の研究・教育③ (Research and Education in Ancient Times③)
- 5 回：中世の研究・教育① (Research and Education in Medieval Times①)
- 6 回：中世の研究・教育②：大学の誕生 (Research and Education in Medieval Times② :The Birth of Universities)
- 7 回：中世の研究・教育③ (Research and Education in Medieval Times③)
- 8 回：近世の研究・教育① (Research and Education in Early Modern Times①)
- 9 回：近世の研究・教育②：科学革命 (Research and Education in Early Modern Times② : The Scientific Revolution)
- 10 回：科学技術の誕生 (The birth of "Science Technology")
- 11 回：近代化とは何か？ (What is Modernization?)
- 12 回：現代社会における大学と科学技術① (University and "Science Technology" in Contemporary Society ①)
- 13 回：現代社会における大学と科学技術② (University and "Science Technology" in Contemporary Society ②)
- 14 回：グループディスカッション (Group Discussion)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の範囲を、テキストで予習・復習すること。また、グループディスカッションとレポートのため、参考文献

献を読み、事前調査をすること（参考文献等は授業中に示す）。

(Prepare and review all materials related to each class, both in preparation for group discussions and the final report.)

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎授業時のコメントシート:30% 出席及び授業への取り組み:30% 最終レポート割合 :40%

最終レポートの期日は授業内で示す（メール添付での入稿を想定）。（Deadline for final report will be announced in class. Submission is expected to be online.）

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム / 立教 A

日本の宗教

Japanese Religions

宗教思想と文化

(Religious Thought and Culture)

ムスリン, I (MUSULIN ILJA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH702

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 講義/Lecture

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本コースでは、宗教を中心に日本の思想史を学ぶとともに、多種多様な宗教信仰と実践が日本文化の形成過程や歴史的変貌において果たした役割を考えていく。

日本の諸宗教に関する基礎知識を取得し、宗教関連の諸問題を様々な視点から考える態度・能力を身に付けることが本コースの到達目標である。

In this course, by studying the history of Japanese religious thought, we examine the role that various religious beliefs and practices played in the formation of Japanese culture. The main goal of this course is acquiring basic knowledge of Japanese religions, but we also attempt to develop the custom and ability to think about social and cultural issues from different viewpoints, which is very important for critical thinking and nurturing an atmosphere of understanding and respect for different worldviews and value systems.

授業の内容 / Course Contents

本コースでは、宗教信仰と思想を中心に、日本における諸宗教（神道、仏教、道教、儒教など）について学ん

でいく。

In this course we will primarily focus on the beliefs and religious thought in traditional religions in Japan such as Shinto, Buddhism, Taoism, or Confucianism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：第1回 コース紹介。有史以前の日本列島における宗教。

Course introduction. Religion in prehistoric Japan.

2回：第2回 神道（一）

Shinto (I)

3回：第3回 神道（二）

Shinto (II)

4回：第4回 神道（三）

Shinto (III)

5回：第5回 日本の仏教（一）

Japanese Buddhism (I)

6回：第6回 日本の仏教（二）

Japanese Buddhism (II)

7回：第7回 日本の仏教（三）

Japanese Buddhism (III)

8回：第9回 レポート試験に関する指導

Guidelines for writing the term-end paper.

9回：第8回 道教と日本の文化（一）

Taoism and Japanese culture. I

10回：第10回 道教と日本の文化（二）

Taoism and Japanese culture II

11回：第11回 日本における儒教思想（一）

Confucian thought in Japan (I)

12回：第12回 日本における儒教思想（二）

Confucian thought in Japan (II)

13回：第13回 日本におけるキリスト教

Christianity in Japan

14回：第14回 現代日本人の宗教性

The religiosity of the contemporary Japanese

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

本コースの履修者は、期末レポートの執筆のため、日本の宗教を題材とした書籍を一冊読まなければならない（具体的なテーマは自由）。

Students taking this class will be required to read one book on Japanese religions of their own choosing, for the purpose of writing the term-end paper.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% 授業への取り組み:20%

Term-end paper 80%, Classroom attitude 20%

テキスト / Textbooks

授業毎にプリントを配る。

Handouts will be distributed in each lesson.

参考文献 / Readings

授業毎に指示する。

Relevant reading material will be introduced in each lesson.

注意事項

2012～2015年度1年次入学者対象科目 立教A科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教A

ジェンダーとキリスト教

Gender and Christianity

ジェンダーからみた「キリスト教・宗教」論再考

古澤 有峰 (FURUSAWA YUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH703

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ジェンダーの視点からキリスト教と宗教を捉えなおす。

The purpose of this course is to revisit Christianity and religion from the perspective of gender.

授業の内容 / Course Contents

理論と実際の両方を検証する事を通じて、ジェンダーとキリスト教をめぐる問題や課題について学習・理解を深める。

By reviewing the theory and practice, study and deepen the understanding of issues related to gender and Christianity.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：導入：ジェンダーの視点からキリスト教と宗教を捉えなおす

2 回：ジェンダーの視点からキリスト教における「聖書」「神」を再考する

3 回：ジェンダーとキリスト教からみた性的マイノリティ（1）

4 回：ジェンダーとキリスト教からみた性的マイノリティ（2）

- 5回：ジェンダーとキリスト教からみた性的マイノリティ（3）
 6回：ジェンダーとキリスト教からみた生命倫理（1）
 7回：ジェンダーとキリスト教からみた生命倫理（2）
 8回：ジェンダーとキリスト教からみた生命倫理（3）
 9回：ジェンダーとキリスト教からみたスピリチュアルケア（1）
 10回：ジェンダーとキリスト教からみたスピリチュアルケア（2）
 11回：ジェンダーとキリスト教からみたスピリチュアルケア（3）
 12回：ジェンダーとキリスト教からみたスピリチュアルケア（4）
 13回：ジェンダーとキリスト教からみたスピリチュアルケア（5）（1～3：医療・看護・社会福祉・心理学
 関連 4、5：音楽・アート関連）
 14回：まとめ・授業総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 初回レポート:28% 中間レポート:33% 最終レポート割合 :39%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

必要に応じて提示する。

注意事項

2012～2015年度1年次入学者対象科目 立教A科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教A

イスラームの世界

World of Islam

哲学・神秘主義・原理主義

青木 健 (AOKI TAKESHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH704

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

イスラーム思想を東方キリスト教・ゾロアスター教など、西アジアの諸思想との比較の中で理解する。

Students will understand Islamic thought in comparison with West Asian ideas such as Eastern Christianity and Zoroastrianism.

授業の内容 / Course Contents

イスラームの形成と発展に至る歴史的展開を重視する。古代末期に東方キリスト教・ゾロアスター教の文化圏でイスラームが成立する過程から始まり、ヘレニズムの影響下に哲学・科学を受容して独特のイスラーム文明を発展させるまでを追う。

We will place emphasis on the historical development leading to the formation and development of Islam. We will begin with the process of Islam being established in the cultural sphere of Eastern Christianity and Zoroastrianism in the late ancient period, and follow up to the development of a unique Islamic civilization by accepting philosophy and science under the influence of Hellenism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：古代末期の西アジア①～東方キリスト教とビザンティン帝国～
- 2回：古代末期の西アジア②～ゾロアスター教とペルシア帝国～
- 3回：古代末期の西アジア③～偶像崇拜とアラビア砂漠～
- 4回：預言者ムハンマドとイスラームの勃興
- 5回：イスラームの大征服活動
- 6回：ヘレニズムの吸収とイスラーム哲学・科学の成立
- 7回：イスラームの社会秩序～イスラーム法学～
- 8回：イスラームの内省～イスラーム神学とイスラーム神秘主義～
- 9回：イブン・アラビーの出現と存在一性論
- 10回：神秘主義的イスラームの時代
- 11回：インド・イスラームの特徴
- 12回：サラフィー主義とイスラーム復興運動
- 13回：ワッハーブ派とバアス党
- 14回：イスラーム原理主義へ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席と毎回の課題:40%

2/3 以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

青木健 『新ゾロアスター教史』 刀水書房 2019 4887084501

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 A 科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通カリキュラム / 立教 A

「宗教」とは何か

What is religion?

近代再考のために

江川 純一 (EGAWA JUNICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH705
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

「宗教」という語の多角的な検討や系譜学的な考察により、「宗教」という概念=用語に敏感になることを目指す。

We will aim to be sensitive to the word "religion" through a multi-dimensional examination of the concept and term of "religion", and genealogical consideration.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、個別の宗教についての解説ではなく、「宗教」概念についての考察である。具体的には、19世紀後半以降の宗教研究の流れを紹介しながら、「信じる」でも「遠ざける」でもなく、「《宗教》について知る」という立場について考察したい。

This class is not a commentary on individual religions, but a reflection on the concept and the term of "religion". Specifically, introducing the flow of religious studies since the late 19th century, we would like to consider the position of "knowing about religion," rather than "believing" or "moving away from" it.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに： 宗教学の言説空間。日本語の「宗教」について
 2回：「宗教」概念をめぐる諸問題（1）： ビリーフとプラクティス
 3回：「宗教」概念をめぐる諸問題（2）： 「民俗宗教」について
 4回：「宗教」はどのように研究されてきたか（1）： 宗教起源論その1
 5回：「宗教」はどのように研究されてきたか（2）： 宗教起源論その2
 6回：「宗教」はどのように研究されてきたか（3）： 神観念について
 7回：近現代イタリアにおける「宗教」（1）
 8回：近現代イタリアにおける「宗教」（2） / レヴィ=ストロースによる問題提起
 9回：マギア（呪術、魔術、魔法）論（1） 古代・中世
 10回：マギア（呪術、魔術、魔法）論（2） 近現代
 11回：神話をいかに解釈するか（1） 19世紀の神話学
 12回：神話をいかに解釈するか（2） 20世紀の神話学
 13回：儀礼とは何か
 14回：贈与論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ブックリストの本を一冊でも多く読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 中間レポート:30%

テキスト / Textbooks

毎回レジュメを配布する。

参考文献 / Readings

講義のなかで指示する。

その他 / Others

教員作成の文献リスト <https://ameblo.jp/pettazzoniano/entry-12476646103.html>

注意事項

2012～2015年度1年次入学者対象科目 立教A科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム / 立教A

人権思想の根源

Root of Human Rights

人権をめぐる諸問題ー身体から政治までー

嶽本 新奈 (TAKEMOTO NIINA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH706
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

人権思想についての歴史と知識を学び、現代社会における多様な不平等と差別の諸問題について自ら考える力を養う。

Students will learn the history and knowledge of human rights thought and develop the ability to think about the problems of diverse inequality and discrimination in modern society.

授業の内容 / Course Contents

「人権」は普遍的な概念とされるが、主に白人男性たちによって創案された成立当初は「女性の人権」が除外されていたことはとても有名な話である。本講義では、まず「人権」の歴史的経緯を把握したうえで、現代社会における具体的な諸問題を取り上げ、各問題と人権思想がどのように交差し、人権思想がいかなる展開をしてきたかを概観する。また本講義を通して、日常生活では見えにくい（とされる）社会的不平等や差別の問題について鋭敏な感覚と想像力を培う。

Although "human rights" is considered to be a universal concept, it is very famous that "human rights of women" were excluded at the beginning of the process, which was mainly invented by white men. In this course, after first

grasping the historical background of "human rights," we will take up specific problems in modern society, and give an overview of how each problem intersects with human rights and how human rights thought has developed. Through this course, students will develop a keen sense and imagination about the issues of social inequality and discrimination that are (said to be) difficult to see in everyday life.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：人権概念の歴史
- 2回：人権と女性の権利の展開（1）
- 3回：人権と女性の権利の展開（2）
- 4回：リプロダクティブ・ヘルス/ライツと自己決定権（1）
- 5回：リプロダクティブ・ヘルス/ライツと自己決定権（2）
- 6回：しょうがいと人権（1）
- 7回：しょうがいと人権（2）
- 8回：社会的マイノリティと人権（1）セクシュアル・「マイノリティ」について
- 9回：社会的マイノリティと人権（2）エスニック・「マイノリティ」について
- 10回：労働と人権（1）
- 11回：労働と人権（2）
- 12回：グローバリゼーションと人権（1）
- 13回：グローバリゼーションと人権（2）
- 14回：人権思想の可能性

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて授業時に準備学習について提示する。毎回、リアクションペーパーの提出を課す。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 毎授業時のリアクションペーパー:40% 第1回ミニレポート:30% 第2回ミニレポート:30%

締切を過ぎてのリアクションペーパーの提出は受け付けない。事情がある場合は担当教員に必ず連絡をすること。

テキスト / Textbooks

授業時にプリントを配布する。また、適宜、参考文献や時事的記事を紹介する。

参考文献 / Readings

注意事項

2012～2015年度1年次入学者対象科目 立教A科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教A

人権思想の根源

Root of Human Rights

じぶんごととして、ジェンダー・セクシュアリティ平等の視点から〈教育〉と〈社会〉の「あたりまえ」を問
いなおそう

堀川 修平 (HORIKAWA SHUHEI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH707
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に
基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、人権について、とりわけ「性と人権」についての基本的な知識を身につけてもらうことを前提
として、皆さんが自分自身を縛るジェンダー・セクシュアリティ問題に気づき、課題意識をもって現代社会の
諸問題に向き合えるようになることを目標とします。

In this class, the aim is that students become aware of gender and sexuality issues that bind us all on the premise
of acquiring basic knowledge about human rights, especially "gender and human rights," and face issues in
contemporary society with problem-awareness.

授業の内容 / Course Contents

皆さんは、性に関わる「差別」など自分には関係のないもので、差別やジェンダー・セクシュアリティについ
て考える必要などないと考えていないでしょうか？現代社会におけるジェンダー・セクシュアリティ問題は
「不可視化」されている点にあり、これまで経験してきたであろう学校教育、社会教育、家庭教育などのさま
ざまな〈教育〉の場や日常生活のなかに存在しているのです。そして、それらの問題を「学び」ながら私たち

は育ってきています。この授業では、自分自身を縛るジェンダー・セクシュアリティ問題にまず気づき、その上で課題意識をもって〈社会〉の諸問題に向き合えるようになることを目標とします。

Do you think that you have nothing to do with gender, such as "discrimination," and you don't need to think about discrimination or gender and sexuality? Gender and sexuality issues in modern society are at the point of being "invisible," and exist in various "educational" places such as school education, social education, and family education, etc. that we have all experienced so far and in daily life. And we grow up while "learning" those problems. In this class, the aim is that students first become aware of gender and sexuality issues that bind us, and then face issues in "society" with problem-awareness.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：性教育とはなんだろう？（1）私たちは「性教育」を学んできたのか？
- 3回：性教育とはなんだろう？（2）「包括的性教育」と「純潔教育」の違いとは？
- 4回：グループディスカッション（1）どのような「性教育」を受けてきたのか？
- 5回：ジェンダーの視点・性の多様性の視点（1）機会の平等・結果の平等とジェンダー
- 6回：ジェンダーの視点・性の多様性の視点（2）「性の多様性」=LGBT??
- 7回：グループディスカッション（2）重なる属性・重なる差別
- 8回：噂とジェンダー・セクシュアリティ～「デマ」に抗する知識を身につけよう
- 9回：「特権」と「社会的マイノリティ」～「性的少数者」は適切な表現なのか？
- 10回：ジェンダーバッシング・包括的性教育バッシングの歴史に学ぶ（1）「バッシング」とは何か？
- 11回：ジェンダーバッシング・包括的性教育バッシングの歴史に学ぶ（2）バッシングを煽動するのは誰か？
- 12回：ジェンダーバッシング・包括的性教育バッシングの歴史に学ぶ（3）バッシングに抵抗するための知識を身につけよう
- 13回：グループディスカッション（3）わたしたちが、今、始められることとは？
- 14回：まとめ：「涓滴岩を穿つ」ために

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講にあたって準備は必要ありません。ただし、授業中に提示する学習課題および授業内容について、ノートづくりが必要です。また、授業で配布するレジュメや資料は「膨大」になりますので、各自ファイリングをするようにしましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業毎に書いてもらうコメントや感想内容：60% 最終レポート割合：40%

最終レポートに関しては、これまでの年度では、書籍の精読レポートや授業内容にかかわる学習イベントへの参加レポートなど（5000字程度）を課してまいりました。本年度に関しては、受講者の学習ニーズ、学習深度などを加味して、授業中終盤で提示する予定です。

テキスト / Textbooks

堀川修平 『気付く 立ちあがる 育てる—日本の性教育史におけるクィアペダゴジー』 エイデル研究所
2022 4871686809 ○

堀川修平 『「日本に性教育はなかった」と言う前に』 柏書房 2023 4760155295 -
テキストの入手方法ならびに、授業における利用方法に関しては、初回オリエンテーションでご説明しますのでそれを待って購入に移ってください。また、このテキストのほかに、授業内で適宜資料を配布しますので、紛失しないように気をつけましょう。

参考文献 / Readings

- ベル・フックス 『フェミニズムはみんなのもの』 新水社 2003
高橋哲哉 『犠牲のシステム 福島・沖縄』 集英社 2012
伊田広行 『デートDV・ストーカー対策のネクストステージ：被害者支援／加害者対応のコツとポイント』 解放出版社 2015
好井裕明 『差別原論——〈わたし〉のなかの権力とつきあう』 平凡社 2007
パウロ・フレイレ 『被抑圧者の教育学—新訳』 亜紀書房 2011
渡辺大輔 『性の多様性ってなんだろう？(中学生の質問箱)』 平凡社 2018
その他、学習の手助けになる文献などは各授業で推薦いたします。

その他/ Others

この授業では「ジェンダー・セクシュアリティ平等の視点」を"社会におけるすべての人の〈性〉に関する抑圧の解放を目指すために、性の多様性を認め、性の差別や偏見から自由になること"と定義して、現代社会における「差別」問題について考えていきます。また、社会にすでに存在している差別に関する内容として、「暴力」や「生と死」に関わる内容を取り扱うことも前提としています。

その際、皆さんに「じぶんごと」としてこれらの問題を捉えてもらいたいと思います。ですので、「自説のみにこだわり、周りの人たちと対話するつもりのない方」

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 A

手話と人権を考える

Sign Languages and Human Rights

ろう者学・手話学入門

佐伯 敦也 (SAIKI ATSUYA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH708

授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）

授業形態（補足事項）【オンデマンド講義 配信スケジュール】

第1回 4月16日

第2回 4月23日

第3回 4月30日

第4回 5月7日

第5回 5月14日

第6回 5月21日

第7回 5月28日

第8回 6月4日

第9回 6月11日

第10回 6月18日

第11回 6月25日

第12回 7月2日

第13回 7月9日

第14回 7月16日

校地： 他

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

ろう者、手話について知り、経験することを通して、共生社会を考えるための新たな視点を獲得する。

Through learning and experiencing deaf people and sign language, students will acquire new perspectives for thinking about symbiotic society.

授業の内容 / Course Contents

ろう者を言語・文化的少数者として、手話を自然言語として捉え、その仕組み、構造を具体的にみていく。またろう者・手話と社会の関わりについて、教育、法、人権などの側面から扱う。

We will consider deaf people as language and cultural minorities, sign language as natural language, and look at the mechanisms and structures specifically. We also deal with the relationships between deaf people, sign language and society from the aspects of education, law, and human rights, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション：ろう者とはどのような人々なのか、手話とはどのような言語なのかについて概観する。

2回：手話の成立：手話はいつごろ、どのようにして成立したのか海外の例も参考にしつつ学ぶ。

3回：言語の普遍性と手話：手話言語と音声言語の共通点、相違点について学ぶ。

4回：手話の文法1：手話とはどのような言語なのか、手話を構成する部位について学ぶ。

5回：手話の文法2：手話の文法にはどのような特徴があるのかを学ぶ。

6回：ろう文化：デフウェイ、ろう文化とよばれる事象について学ぶ。

7回：ろうコミュニティ：ろう者および関連する人々のネットワークについて学ぶ。

8回：ろう者の芸術：いわゆるデフアートについてその成立過程、取組みの内容、日本とアメリカの違いについて学ぶ。

9回：ろう者のエンターテインメント：ろう者によるエンターテインメントやパフォーマンスの実践に触れる。

10回：ろう者の歴史：ろう者と彼らを取り巻く社会の変容について学ぶ。

11回：ろう教育：ろう児に対する教育について学ぶ。

12回：法と人権：ろう者、手話に関わる法体制のあり方、人権について学ぶ。

13回：言語的少数者：音声言語の言語的マイノリティとろう者の共通する特徴、相違点について学ぶ。

14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

小テスト、レポート、最終テストを課す。レポートは授業の予習を兼ねる内容もある。テキストの指定はないが、参考文献で授業の内容を復習しつつ、深化することができる。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小テスト:30% レポート:40% 最終テスト割合 :30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

現代思想編集部 『ろう文化』 青土社 2000 479175803

パッデン、ハンフリーズ 『新版「ろう文化」案内』 明石書店 2016 9784750343365

木村晴美 『日本手話とろう文化』 生活書院 2007 4903690075

岡典栄、赤堀仁美 『日本手話のしくみ』 大修館書店 2011 4469222151

米川明彦 『手話ということば』 PHP 研究所 2002 4569619657

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 A

点字から考える人権

Braille as a Gateway to Human Rights

言語と人権

立花 明彦 (TACHIBANA AKEHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH709
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

点字を新たな「自分の文字」として習得するとともに、それを使用している人々（特に重度の視覚障害者）の生活実感を身近なものにする。

Students will learn braille as new "characters of mine" and become familiar with the lives of people who use them (especially people with severe visual impairment).

授業の内容 / Course Contents

点字は、人類共有の文字である。決して視覚障害者だけが「文字の代わりに」使用する記号ではない。しかし、残念なことに、これは現在一般的な共通認識となっているとは言えない。この事実が、今日点字の主たる使用者である視覚障害者が置かれている人権をめぐる状況を如実に物語っている。この授業では、点字を新たな「自分の文字」として習得するとともに、文字と人権、そして更に広く「人権とは何か」について深く考えたい。

Braille is a set of characters shared by all humans. It is not a set of symbols used only by visually impaired people "in place of letters." However, unfortunately, this cannot be said to be the common understanding at

present. This fact clearly illustrates the situation surrounding human rights where the blind are the main users of Braille today. In this class, we want students to learn Braille as new "characters of mine" and think deeply about characters and human rights, and more broadly about the question "What are human rights?"

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：イントロダクションー視覚障害者の位置づけと調査に見る実態
- 3回：点字小史ー文字としての市民権の広がり
- 4回：点字の成り立ちⅠーブライユの7行表と日本語点字（清音）
- 5回：点字の成り立ちⅡー日本語点字（濁音・半濁音・拗音）
- 6回：講義と実践1. 日本語点字の仮名遣い／視覚障害者と読書
- 7回：講義と実践2. 数字／人権保障と文字情報保障
- 8回：講義と実践3. 日本語における数字・英字・数詞の書き表し方／家庭にある点字
- 9回：講義と実践4. アルファベット／町の中の点字あれこれ
- 10回：講義と実践5. 分かち書きⅠ／デザインとしての点字
- 11回：講義と実践6. 分かち書きⅡ／点字以外の触覚情報
- 12回：講義と実践7. 点字名刺の作成等／IT時代の視覚障害者
- 13回：国連の「障害者の権利条約」および我が国の障害者基本法と障害者観の変遷
- 14回：まとめー視覚等障害者の生きづらさについてー人権とは何か？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への積極的参加度:30% テスト:40% 課題の達成度:30%

なお、単位修得のためには75%以上（3/4以上）の出席と最終授業時に行われるテストを受けることを必要とする。

テキスト / Textbooks

日本点字図書館 『点訳のしおり』 社会福祉法人 日本点字図書館 2019年 ○

立花明彦 『何かお手伝いしましょうか』 産学社 2014年 4782533462 ○

受講者は上記テキストの他に、日本点字図書館販売のN632点字器（1,150円）と点字用紙を購入すること。教科書販売会場では「点字セット」として販売している。

参考文献 / Readings

授業内で紹介する。

注意事項

2012～2015年度1年次入学者対象科目 立教A科目

注意事項（検索結果画面）

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

笑いと感情の人類学・フォークロア

橋本 栄莉 (HASHIMOTO ERI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH710
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目的は、笑いと感情をテーマとし、これらの人間の情動がどのように文化的・歴史的に構築されてきたのかを探求し、具体的な事例とともに議論することである。本授業では、特に文化人類学やフォークロアにおける笑いや感情に関する文献と映像資料を手掛かりとしながら議論を進める。

The purpose of this class is to explore the theme of laughter and emotion and how these human emotions have been culturally and historically constructed, and to discuss them with specific case studies. The discussion in this class will be guided by the literature and visual materials on laughter and emotion, especially in cultural anthropology and folklore.

授業の内容 / Course Contents

本授業の前半では、指定のテキストに対して担当者の学生がレジюмеを作成・発表し、その後全員で議論を行う。後半では、個人またはグループで笑いや感情と関わる特定のテーマのもとに研究発表を行う。

In the first half of this class, the student in charge will prepare and present a resume in response to a designated text, followed by a discussion among all students. In the second half of the class, students will individually or in

groups present their research on a specific topic related to laughter and emotion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション、発表担当者決め
- 2回：テキスト輪読と議論（1）
- 3回：テキスト輪読と議論（2）
- 4回：テキスト輪読と議論（3）
- 5回：テキスト輪読と議論（4）
- 6回：映像鑑賞と議論（1）
- 7回：映像鑑賞と議論（2）
- 8回：学生による研究発表（1）
- 9回：学生による研究発表（2）
- 10回：学生による研究発表（3）
- 11回：学生による研究発表（4）
- 12回：学生による研究発表（5）
- 13回：学生による研究発表（6）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

（授業前半）レジュメ担当者は発表資料を用意する必要があります。担当者以外にも、授業日までに指定のテキストを読んで議論できる準備をしておきます。

（授業後半）発表日までに個人またはグループで研究発表を行う準備をします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 発表準備・発表内容:50% 議論への貢献度:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

畑中章宏 『感情の民俗学 泣くことと笑うことの正体を求めて』 イースト・プレス 2023

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

・本授業は文化人類学・フォークロア初学者を対象にしていますので基礎的な部分から説明しますが、必要に応じて自主学習を行ってもらいます。

・受講生は必ずしも「お笑い」に詳しくある必要はありません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

・研究発表のために必要な PC をはじめとするデバイス

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 B 科目

注意事項（検索結果画面）

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

アメリカ文学の名作短編小説を読む

古井 義昭 (FURUI YOSHIAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH711
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

アメリカ文学の精読を通じ、インプット（英文読解能力）とアウトプット（読んで考えたことを文章で表現する力）、二つの能力の向上を目指す。

This course aims to improve students' English input (reading comprehension) and output (writing ability) through intensive reading of American literature.

授業の内容 / Course Contents

アメリカ文学の名作短編を原語でじっくりと味読する。短いものに関しては1作品につき1週間、長いものに関しては1作品に2、3週間かけて読んでいく。原語で読む授業であるから、丹念に辞書を引いて読む作業は欠かせない。

本演習で取り上げる作品はどれも「名作」の地位を不動にしているものばかりであるが、そもそも何が短編小説を「名作」たらしめるのだろうか？ 普遍的な名作など、存在しうるのだろうか？ 過去の先人が「名作」という評価をくださったからといって、我々はその評価を額面通りに受け取っていいのだろうか。このような一連の問いを念頭に、本演習では小説を味読するだけでなく、受講生各自の価値観における「名作」の条

件を言語化することも目指す。

本演習を受講するにあたって、アメリカやアメリカ文学に関する事前の知識は必要ない。辞書を引きながら英語で小説を読むという手間を惜しまない学生に受講を勧める。週に10ページほどのペースで短編を読み進めていく。

なお、以下の授業計画に記された作品はあくまで予定であり、受講生の興味関心、授業の進捗によって変更がありえることをお断りしておく。

We will read carefully the best short stories of American literature. Each short story will be read for one week, and each longer story will be read for two or three weeks. Since we will be reading in English, it will be essential to carefully consult a dictionary as you read each text.

The works we will be discussing in this class are all "masterpieces," but what is it that makes a short story a "masterpiece" in the first place? Is there such a thing as a universal masterpiece? Just because our predecessors in the past have given short stories the status of "masterpieces," can we accept their evaluation at face value? With these questions in mind, this seminar aims not only to read stories, but also to verbalize the conditions of a "masterpiece" according to each student's own sense of values.

No prior knowledge of American literature is necessary to take this class. Students who are willing to go through the trouble of reading short stories in English are encouraged to take this class. Students will read short stories at a rate of about 10 pages per week.

Please note that the works listed below are tentative and may change depending on the interests of the students and the progress of the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：Edgar Allan Poe, "The Black Cat"
- 3回：Herman Melville, "Bartleby" (1)
- 4回：Herman Melville, "Bartleby" (2)
- 5回：Herman Melville, "Bartleby" (3)
- 6回：Edith Wharton, "Roman Fever"
- 7回：Jack London, "To Build a Fire"
- 8回：F. Scott Fitzgerald, "Babylon Revisited" (1)
- 9回：F. Scott Fitzgerald, "Babylon Revisited" (2)
- 10回：Flannery O'Connor, "A Good Man Is Hard To Find"
- 11回：Tim O'Brien, "On the Rainy River"
- 12回：Raymond Carver, "Cathedral"
- 13回：レポート作成講座
- 14回：学期まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

*学生主体のディスカッションが授業の中心となるので、毎回の授業準備を怠らないこと。積極的に発言する姿勢が求められる。

*英語のテキストを読むので、辞書を丹念に引きながら原文テキストを読むなど、英語の学習に対して忍耐強く、積極的な姿勢が求められる。

*毎週 500 字程度のレスポンスペーパーの提出を義務付ける。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎週のレスポンス・ペーパー:30% 発表、ディスカッションへの貢献度:30%

最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

すべてプリントを配布する。

参考文献 / Readings

授業内で適宜指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

個人発表・毎週のレスポンスペーパー執筆など、個人の主体性を重視する。クラス全体のディスカッションを行うが、ベースとなるのは受講生個々人が何を考えているかになるので、一人でじっくりものを考えたい学生に向いている授業となる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

電子辞書を除く電子機器の使用を控えること（PC、タブレット、スマートフォンなど）。

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 B 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム / 立教 B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

西洋中世装飾写本への招待

加藤 磨珠枝 (KATO MASUE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH712
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

立教大学は、聖書と英語を学ぶための私塾を前身とするキリスト教主義学校（ミッション・スクール）である。その建学の精神をより深く理解するため、この授業では、西洋中世キリスト教世界でつくられた聖書を中心に、当時の写本美術の魅力についてともに考える。さらに授業で得た学問的興味を、自発的に深化させる技術、研究態度を身につける。

Rikkyo University is a Christian school (mission school) whose predecessor was a private school for the study of the Bible and English. In order to gain a deeper understanding of the founding spirit of the school, this class will focus on the Bible as it was created in the Western medieval Christian world, and together we will consider the fascination of manuscript art of the time. Furthermore, students will acquire the skills and research attitude to spontaneously deepen their academic interests acquired in class.

授業の内容 / Course Contents

授業では、数回ごとに一つの写本に注目し、その来歴、芸術表現について解説を行い、文字、文様、挿絵の3つの要素が聖書の物語をどのように輝かせ、人々の理解を促したのかを当時の社会背景も含めて学ぶ。また、

本学図書館所蔵の中世写本ファクシミリを実際に鑑賞する機会を設けて、モノとしての写本理解を深める。こうした授業前半の経験を生かして、授業後半では各自担当の写本を選び、それぞれ研究発表・討論を行い、知識と自発的な研究姿勢の深化をはかる。とりあげる写本については一部変更の可能性もある。

The class will focus on a single manuscript every few sessions, explaining its history and artistic expression, and studying how the three elements of text, design and illustration brightened the biblical story and promoted people's understanding of it, including the social background of the time. Students will also have the opportunity to view facsimiles of medieval manuscripts in the university library to deepen their understanding of manuscripts as objects. In the second half of the course, each student will select a manuscript of his or her own choice, and deepen his or her knowledge by presenting and discussing their own research. The manuscripts to be discussed are subject to change.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：西洋世界における書物の歴史（巻物から冊子本へ）
- 2 回：『ウィーン創世記』講義
- 3 回：『ウィーン創世記』ファクシミリ鑑賞・討論
- 4 回：『聖アウグスティヌスの福音書』講義
- 5 回：『聖アウグスティヌスの福音書』ファクシミリ鑑賞・討論
- 6 回：『ケルズの書』講義
- 7 回：『ケルズの書』ファクシミリ鑑賞・討論
- 8 回：『ベアトゥス黙示録注解書』講義
- 9 回：『ベアトゥス黙示録注解書』ファクシミリ鑑賞・討論
- 10 回：研究発表1
- 11 回：研究発表2
- 12 回：研究発表3
- 13 回：研究発表4
- 14 回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:		学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:			:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

西洋中世の写本について基礎知識を得るために、下記に挙げた参考文献をできるだけ多く読んでおくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究発表:40% 授業への参加・貢献度:30% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- クリストファー・デ・ハーメル 『世界で最も美しい12の写本』 青土社 2018年 9784791770922
 クリストファー・ド・ハメル 『聖書の歴史図鑑』 東洋書林 2004年 4887216386
 クラウディア・ブリンカー・フォン・デア・ハイデ 『写本の文化誌:ヨーロッパ中世の文学とメディア』 白水

社 2017年 9784560095591

クリストファー・デ・ハメル 『中世の写本ができるまで』 白水社 2021 9784560098455

ベルンハルト・ビショップ 『西洋写本学』 岩波書店 2015 4000610651

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

西洋中世写本に対する関心

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

コンピューター、パワーポイント

その他/ Others

授業内の活動また進め方については担当者の指示に従うこと。

授業ではディスカッションを行うことがあるので積極的に参加できることが必要。

授業の内容は受講者の状況などによって変更される場合がある。

課題の提出に際しては Master of Writing を参照のこと。

ITを使用するが、使用法が分からない場合やトラブルは各自の責任でメディアセンターに確認すること。

当然のことであるがコピー（授業ノートを含む）や剽窃には厳しく対応する。

■アカデミック・スキルズ「剽窃について」赤江 雄一（慶應義塾大学文学部） h

注意事項

2012～2015年度1年次入学者対象科目 立教B科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教B

近代日本社会と人権

Modern Japanese society and human rights

近代日本における差別問題と人権一部落問題を軸に

黒川 みどり (KUROKAWA MIDORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH713
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

部落問題を中心に据えながら近現代の歴史を振り返ることにより普遍的人権意識を身につける一助とし、人権問題についての理解を深める。

By looking back on the history of minorities in modern Japan while focusing on the Buraku problem, we will help students to acquire a "sensitivity toward others" and deepen their understanding of human rights issues.

授業の内容 / Course Contents

最も理解しにくいであろう部落差別問題を軸にしながら、明治維新から現代までの近現代社会の差別問題のありようを問う。部落問題を身近なものとして理解するために、ドキュメンタリーや文学作品の映画なども取り入れて解説する。可能な限り、ゲストスピーカーを招いて議論する場も設けたい。

We will provide lectures on the history of Okinawa, gender, leprosy, etc. in modern society from the Meiji Restoration to the present, focusing on the problem of Buraku discrimination that will be most difficult to understand, and questioning the state of modern society in Japan.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス 部落問題とは何か
- 2回：賤民身分の廃止／「開化」と「旧習」のはざま
- 3回：つくられる「異種」というまなざし
- 4回：映画「破戒」を観る（監督：市川崑）
- 5回：部落問題の発見一部落改善政策の開始／浸透する人種主義
- 6回：帝国のなかの部落問題―「融和」の浮上／米騒動と部落問題
- 7回：解放か融和か―全国水平社の結成
- 8回：「国民一体」と人種主義の相克―戦時下の部落問題
- 9回：部落解放運動の再出発と高度経済成長下の広がる格差
- 10回：ドキュメンタリー映画「人間みな兄弟」（監督：亀井文夫、1960年）を観る
- 11回：同対審答申―「国の責務」の承認
- 12回：狭山事件をめぐって
- 13回：「市民社会」への包摂から“いま、へ
- 14回：まとめ―「人権」のなかの部落問題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの該当範囲を読み、予習・復習をしてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業内で求める数回のリアクションペーパー:30%

テキスト / Textbooks

黒川みどり 『増補近代部落史―明治から現代まで―』 平凡社ライブラリー 2023 9784582769388 ○

参考文献 / Readings

黒川みどり 『描かれた被差別部落』 岩波書店 2011 9784006004309

黒川みどり 『創られた「人種」―人種主義と部落差別』 有志舎 2016 9784908672019

寺木伸明・黒川みどり 『入門被差別部落の歴史』 解放出版社 2016 9784759240634

黒川みどり 『被差別部落認識の歴史』 岩波現代文庫 2021 9784006004309

注意事項

2012～2015年度1年次入学者対象科目 立教A科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教A

近代日本社会と人権

Modern Japanese society and human rights

日本外交と人権

猿田 佐世 (SARUTA SAYO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH714
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本外交の中で生じてきた人権問題や、日本外交が解決しようとしてきた人権問題など、「外交」が実際に生活する人々の「人権」にどのように関係してきたのかを学び、社会の一員として自分自身が各問題にいかに関わっていけるのか考える。

Students will learn about how "diplomacy" actually relates to the "human rights" of people living their daily lives, such as human rights issues that have arisen in Japanese diplomacy, and human rights issues that Japanese diplomacy has been trying to solve and will think about how they can be involved in each issue as members of society.

授業の内容 / Course Contents

日本外交のために生じてきた人権問題、あるいは、日本外交が解決しようとしてきた人権問題などを広く概観する。各問題やそれぞれの当事者の状況・立場を理解した上で、なぜその問題が生じたか、これまでに各国政府や国際機関、市民社会等が解決のためにどのような努力を払ってきたのか、今後どのような解決方法がとられうるのか等について検討する。

The course will provide a broad overview of human rights issues that have arisen in Japanese diplomacy and human rights issues that Japanese diplomacy has been trying to solve. After understanding the issues and the situation and position of each party, we will examine why did the issues arise; what efforts have been made by governments, international organizations, and civil society, etc. to date; and what kind of solutions can be considered in the future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：日本外交と人権 総論
- 2回：沖縄（1）：歴史・基地の現状
- 3回：沖縄（2）：地位協定
- 4回：日韓関係（1）
- 5回：日韓関係（2）・日中関係（1）
- 6回：日中関係（2）
- 7回：在日外国人
- 8回：難民
- 9回：開発援助
- 10回：国際人権システム（1） ・男女平等問題を題材に
- 11回：国際人権システム（2）
- 12回：マルチトラック外交（NGO・民間外交）
- 13回：マルチトラック外交（NGO・民間外交）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。
- ・現在起きている出来事に注目しながら毎回の授業を進める。授業内で指定するものも含め、授業に関連する新聞記事などを読む習慣をつけて欲しい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :60%
 平常点割合 :40% リアクションペーパーの提出:30% 講義への積極性:10%

テキスト / Textbooks

猿田佐世 『新しい日米外交を切り拓く』 集英社 2016 4420310766 ○

参考文献 / Readings

島袋純 ,阿部浩己 『沖縄が問う日本の安全保障』 岩波書店 2015 9784000287548
 芹田健太郎ほか 『ブリッジブック国際人権法』（第2版） 信山社 2017 4797223588
 太田啓子 『これからの男の子たちへ』 大月書店 2020 4272350471

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

社会における各人権問題について、自分はなぜそれが問題だと思うのか、なぜその問題が生じているのか、ど

うすれば解決できるのか、解決のために自分には何ができるか、を考えて授業に臨んでもらいたい。そうすることで、これからの生涯役に立つ「考える習慣」がこの半期で身につけられるかもしれない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし

その他/ Others

●新外交イニシアティブ（ND）という団体の代表をしています。

<https://www.nd-initiative.org/>

●自己紹介はこちら

[https://www.nd-initiative.org/wordpress/wp-](https://www.nd-initiative.org/wordpress/wp-content/uploads/2023/06/6fd69909890daeff2d90d67cf8e7388e.pdf)

[content/uploads/2023/06/6fd69909890daeff2d90d67cf8e7388e.pdf](https://www.nd-initiative.org/wordpress/wp-content/uploads/2023/06/6fd69909890daeff2d90d67cf8e7388e.pdf)

<https://www.nd-initiative.org/wordpress/wp-content/uploads/2023/06/1570483dea>

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 A

大学と現代社会

University and Modern Society

大学の機能と学生生活の過去・現在・未来

谷村 英洋 (TANIMURA HIDEHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH715

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

個々の学生が大学観を広げ、それをもとに自分自身の学生生活について省察することを目的とします。

到達目標は次の通りです。

- ①大学教育が置かれた過去および現在の状況を理解し、それに対する意見を述べることができる。
- ②大学教育と自身のこれまでの関わり方およびこれからの関わり方について、考えを述べることができる。

The aim of the course is for each student to broaden their view of universities and reflect on their own student life.

The objectives are as follows:

- 1) Students will understand the past and current situation of university education and become able to express opinions on the topic.
- 2) Students will become able to express their thoughts about how they have related to university education in the past and how they will relate to it in the future.

授業の内容 / Course Contents

教育機能と学生生活を中心に、大学の歴史と現状、およびそれらの背後にある／あった社会の状況について学習します。またその過程で、履修者が自身の学生生活について省察する機会を適宜設けます。

授業の方法については次の通りです。

- ①授業は講義、映像資料の視聴、グループワーク、ディスカッション等によって構成します。
- ②授業参加者の対話（ともに話し、聴き、読み、書く）を重視します。
- ③履修者数を考慮の上、グループ発表の機会を設けます。

Students will learn about the history and current situation of universities, and the social situation behind them, focusing on educational functions and student life. In the process, students will have an opportunity to reflect on their own campus life as appropriate.

The method of the course will be as follows:

- 1) Classes will be composed of lectures, video viewing, group work, and discussions, etc.
- 2) We will emphasize dialog among class participants (talking, listening, reading, and writing).
- 3) We will consider the number of students, and if possible, create opportunities for group presentations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション

小講義：大学と学生生活の誕生

—大学はどこでどのように誕生したのか

2 回：近代大学の起こりと日本への伝播

—日本の大学はどのように始まったか

3 回：現代の学生にとっての大学生活

—自分たちの学生生活をリフレクションする

4 回：大学教育・学生生活のレリバンス

—大学を出ること／大学で学ぶことの意義とは

5 回：グループ発表課題の説明とグループワーク

6 回：大学の教育・学習の動向 (1)学習理論の観点から

—現在の大学教育が目指す学習のありようとは

7 回：大学の教育・学習の動向 (2)メディア・情報技術の観点から

—メディア・情報技術は大学教育をどのように変えつつあるか

8 回：大学教育における深さと広さ

—大学で深さと広さの両立が目指されるのはなぜか

9 回：大学教育費とその負担

—大学教育費をもっと社会が負担することはできるか

10 回：大学と研究

—大学における知識生産をめぐるどのような問題が生じているか

11 回：大学のガバナンス

—大学は誰が、どのように動かしているのか

12 回：学生発表

13 回：学生発表

14 回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

リーディングアサインメント、小レポート課題、グループ発表準備等に取り組む。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

筆記試験 :50%

平常点割合 :50% 各回の授業内課題（グループ発表含む）:50%

グループ発表について：グループでリサーチクエスチョンを設定し発表とディスカッションを企画・実践する。履修者数が少なければ個人発表とし、多ければ代替課題を検討する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

チャールズ・ホーマー・ハスキンス 『大学の起源』 八坂書房 2009 9784896949476

吉見俊哉 『大学とは何か』 岩波書店 2011 9784004313182

寺崎昌男 『日本近代大学史』 東京大学出版会 2020 9784130513494

潮木守一 『キャンパスの生態誌—大学とは何だろう』 中央公論社 1986 9784121008220

古川安 『科学の社会史—ルネサンスから 20 世紀まで』 筑摩書房 2018 9784480098832

矢野眞和・濱中淳子・小川和孝 『教育劣位社会—教育費をめぐる世論の社会学』 岩波書店 2016
9784000611695

上山隆大ほか 『シリーズ大学 3 大学とコスト—誰がどう支えるのか』 岩波書店 2013 9784000286138

佐藤靖 『科学技術の現代史—システム、リスク、イノベーション』 中央公論新社、2019、9784121025470

※その他の文献は授業中に紹介します。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

些細なことでも、現在学んでいる大学という場に関心や問題意識がある方、またこのシラバスを読んで少しでも興味がわいてきた方であれば是非履修して下さい。ディスカッション、グループワークを適宜はさみますので、人の意見を聞くこと、自分の意見を伝えること、それらのやりとりの中で考えを深めていくこと、そういうことが好きな人、取り組みたい人に向いていると思います。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

グループ発表の準備では PC があるとよいですが毎回必携というわけではありません。

その他 / Others

通常の講義の合間にも、適宜グループディスカッションを行います。

グループ発表は、担当教員が編成したグループに分かれて進めてもらいます。一人ひとりの積極的・協力的な参加を期待します。

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム / 立教 A

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

商人・企業家と経済発展の歴史

菊池 雄太 (KIKUCHI YUTA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH717

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

歴史的な考察・分析ができるようになる。経済発展に商人・企業家が果たす役割を理解できるようになる。

Learn the methods of historical analysis and consideration. Understand the role of merchants/entrepreneurs for the economic development.

授業の内容 / Course Contents

社会・経済は、どのようにして発展するのでしょうか。この授業では、そのことを歴史的に考察・分析します。とくに注目するのは、商人・企業家が果たした役割です。商人・企業家は、人びとが求めるモノを調達し、商業で世界各地を結びつけ、また、さまざまな部門でイノベーションを引き起こします。

参加者の皆さんは、ペアまたはグループをつくって、調査対象を決め、文献や資料・史料を調査し、集め分析し、報告を行い、議論をし、最終レポートを完成させます。*前半の授業回では担当教員から出した課題への取り組みが中心になります。

担当教員が専門とする地域はヨーロッパですが、日本、その他アジア、アメリカなどの商人・企業家を調査対象にしても構いません。

How society and economy develop? In this seminar, we consider and analyze this subject from the historical approaches. A special focus is put on the role of merchants/entrepreneurs. They procure products people demand, connect and integrate all parts of the world, create innovation in various economic sectors.

Participants will build pairs or groups, set the object of research, collect and analyze the relevant literature, materials and sources, present their research, discuss each other, and write the final report.

The main research field of the instructor is Europe, but students can choose their target merchants/entrepreneurs not only from Europe, but also from Japan, other Asian countries, America, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：・イントロダクションと自己紹介
・ペアまたはグループの形成
- 2回：・文献の調査方法について
・ペア/グループによる調査
- 3回：・歴史的な考察と分析について
・ペア/グループによる考察と分析
- 4回：・中世商人/企業家の果たした役割について
・ペア/グループによる考察と報告
- 5回：・近世商人/企業家の果たした役割について
・ペア/グループによる考察と報告
- 6回：・近代商人/企業家の果たした役割について
・ペア/グループによる考察と報告
- 7回：・現代の企業・企業家の果たす役割について
・ペア/グループによる考察と報告
- 8回：・ペア/グループ研究
- 9回：・ペア/グループ研究
- 10回：・ペア/グループ研究
- 11回：・ペア/グループ研究
- 12回：・ペア/グループ報告と議論
- 13回：・ペア/グループ報告と議論
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ほぼ毎回、こちらから事前調査課題を出します。与えられた課題に取り組み、それに基づいた演習を行います。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 課題への取り組み:30% 授業内での発言・積極的取り組み:30% 研究報告:20% 最終

レポート:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

日本語が母国語でない場合は、大学授業レベルの日本語能力が求められます。それ以外には特別な能力（歴史的な予備知識など）は求められません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC（調査・報告のために毎回必須）

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 B 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム / 立教 B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

ネット情報と「陰謀論」の今日

井川 充雄 (IKAWA MITSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH718
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

このゼミナールでは、国際的な情報に関する 2 冊の本を講読し、履修者同士の議論により、理解を深める。これにより、専門的な本を読む、発表を行う、討論を行う、といった学問の基本的な方法を習得することを目標とする。

In this seminar, students will read two books on international information and deepen their understanding through discussions among students. The goal is for students to learn basic academic methods such as reading specialized books, giving presentations, and holding discussions.

授業の内容 / Course Contents

インターネットや SNS の急速な発展により、今日では、誰もがさまざまな情報にアクセスできるようになったとともに、自らの意見や思想をたやすく公表できるようになった。しかし、ネット上には、誤った情報や、意図的に真実をゆがめたフェイクニュースも多数存在し、またそうした情報に感化され「陰謀論」に取り込まれてしまう人も少なくない。このゼミナールでは、このテーマに関する 2 冊の本を講読する。これにより、今後のメディアや情報のあり方、接し方について議論を通して理解を深める。

Thanks to the rapid development of the Internet and SNS, everyone today has access to a wide variety of information and can easily express their opinions and ideas. However, there is a lot of false information and fake news that intentionally distorts the truth on the internet, and many people are influenced by such information and are drawn into "Conspiracy Theories". In this seminar, we will read two books on this topic. Through this, we will deepen our understanding through discussion about the future of media and information, and how we should interact with it.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：『国際メディア情報戦』(1)
- 3回：『国際メディア情報戦』(2)
- 4回：『国際メディア情報戦』(3)
- 5回：『国際メディア情報戦』(4)
- 6回：『国際メディア情報戦』(5)
- 7回：『国際メディア情報戦』(6)
- 8回：『陰謀論』(1)
- 9回：『陰謀論』(2)
- 10回：『陰謀論』(3)
- 11回：『陰謀論』(4)
- 12回：『陰謀論』(5)
- 13回：『陰謀論』(6)
- 14回：全体のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:		:			:		

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

履修者は、指定したテキストはもちろん、授業時間外に関連する文献を読むことによって、より多角的に理解を深めることが必要である。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内発表:30% 授業内での議論への参加・貢献度:40% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

高木徹 『国際メディア情報戦』 講談社 2014 9784062882477 ○

秦正樹 『陰謀論 民主主義を揺るがすメカニズム』 中央公論新社 2022 9784121027221 ○

参考文献 / Readings

参考文献については、授業内で説明する。

その他 / Others

本授業は少人数の演習形式である。狭義の専門にとらわれず、しっかりと文献を読み、それを発表したり、討論する能力を養おうとするものである。したがって、授業内での発表や討論に際して、積極的に発言することが期待される。

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 B 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

台湾から日本の政治・外交を考える

倉田 徹 (KURATA TORU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH719

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

台湾戦後史について正しく理解すること、そして、その知見を踏まえて、日本の政治・外交のあるべき姿について受講者が考えること。

To gain a correct understanding of Taiwan's post-war history, and for participants to consider what Japanese politics and diplomacy should look like in light of this knowledge.

授業の内容 / Course Contents

近年日本では、台湾の活力ある民主主義に注目が集まっています。同時に、強国化する中国の台湾に対する圧力が、日本の外交・安全保障に与える影響も懸念されています。また、多くの日本人が、台湾を「親日国」として認識しています。しかしながら、台湾が 1980 年代まで厳しい独裁体制の下に置かれていたことや、日本との間に複雑な歴史問題を抱えていることについて十分な理解のない言論も、日本国内では散見されます。

この授業では、指定されたテキストの各章についてテキスト報告担当者がその内容を要約し、解説します。また、研究報告担当者がテキストの主題に関わる研究報告を行い、これらを踏まえて相互に議論を交わします。

In recent years, Taiwan's vibrant democracy has attracted much attention in Japan. At the same time, there is

concern about the impact of China's increasing pressure on Taiwan, which is becoming a stronger power, on Japan's foreign policy and security. Many Japanese also recognise Taiwan as a 'pro-Japanese' country. However, there are also some discourses in Japan that do not fully understand that Taiwan was under a strict dictatorship until the 1980s and that it has a complex historical problem with Japan.

In this class, assigned text-reporter summarises and explains the contents of each chapter of the designated text. In addition, the student in charge of the research report will present a report on the subject matter of the text, which will be discussed with each other based on these reports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・報告担当者の決定
- 2回：テキスト講読と研究発表①
- 3回：テキスト講読と研究発表②
- 4回：テキスト講読と研究発表③
- 5回：テキスト講読と研究発表④
- 6回：テキスト講読と研究発表⑤
- 7回：テキスト講読と研究発表⑥
- 8回：テキスト講読と研究発表⑦
- 9回：テキスト講読と研究発表⑧
- 10回：テキスト講読と研究発表⑨
- 11回：テキスト講読と研究発表⑩
- 12回：テキスト講読と研究発表⑪
- 13回：テキスト講読と研究発表⑫
- 14回：テキスト講読と研究発表⑬

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

台湾と日本の政治・外交・安全保障に関する新聞等の報道を常にチェックしておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:30% 発表:30% コメンテーター:20% 議論への参加度:20%

テキスト / Textbooks

家永真幸 台湾のアイデンティティ 文春新書 2023 9784166614349 ○

参考文献 / Readings

注意事項

2012～2015年度1年次入学者対象科目 立教B科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

金融経済および財務諸表に関する基礎知識

千野 厚 (CHINO ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH720

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

金融経済の初学者が金融論、より具体的には金融資産、金融取引や金融市場に関する基礎的な知識を習得することを目標とします。また、学生による文献の輪読・プレゼンテーションを通じて、企業の財務諸表の初歩的な意味を理解できるような知識の習得も目指します。

Students will learn fundamentals of financial economics, such as various kinds of financial assets, primary benefits for consumers/investors from trading those assets, and financial markets where those assets are traded. Students will also learn basics of financial statement analysis through making a group presentation on an assigned topic of a textbook in every class.

授業の内容 / Course Contents

担当教員が中心となって基礎的な金融論の各トピックを授業内で紹介していく予定です。また、毎回ゼミ生グループによる財務諸表分析の文献輪読・プレゼンテーション、および課題を与えることを通じて、学習内容の理解を深めていきます。

The instructor will give a brief overview of a topic in every class, then discuss the topic with students, and

occasionally give an assignment for which students should work and complete in a group. Students are also expected to make a group presentation for an assigned topic in a textbook on financial statement analysis in every class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：貨幣と決済の仕組み(1)および財務諸表分析の基礎(1)
- 3回：貨幣と決済の仕組み(2)および財務諸表分析の基礎(2)
- 4回：銀行による貨幣の供給(1)および財務諸表分析の基礎(3)
- 5回：銀行による貨幣の供給(2)および財務諸表分析の基礎(4)
- 6回：直接金融の仕組み(1)および財務諸表分析の基礎(5)
- 7回：直接金融の仕組み(2)および財務諸表分析の基礎(6)
- 8回：間接金融の仕組み(1)および財務諸表分析の基礎(7)
- 9回：間接金融の仕組み(2)および財務諸表分析の基礎(8)
- 10回：リスクと金融制度(1)および財務諸表分析の基礎(9)
- 11回：リスクと金融制度(2)および財務諸表分析の基礎(10)
- 12回：現在価値・将来価値および財務諸表分析の基礎(11)
- 13回：金融資産価格の決め方および財務諸表分析の基礎(12)
- 14回：学習内容の総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

全ての学生が事前に指示される内容の予習・復習、およびプレゼンテーション・課題の準備をしていくことが必要になります。また、ゼミ内での積極的な質問や発言を高く評価します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内で提示する課題(複数回):40% プレゼンテーション(複数回):40% 出席を基礎としたゼミへの参加度:20%

テキスト / Textbooks

グロービス、溝口 聖規 『[ポケット MBA] 財務諸表分析 ゼロからわかる読み方・活かし方』 PHP 研究所 2018 9784569837499 -

参考文献 / Readings

晝間文彦 『金融論 第4版』 新世社 2018 9784883842759

注意事項

2012～2015年度1年次入学者対象科目 立教B科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

異世代間対話—現代文明生活の諸問題—

佐々木 一也 (SASAKI KAZUYA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH722
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 立教セカンドステージ大学受講生と共同で行う討論形式の授業。
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

世代を超えた共通理解を持つ。異世代の考え方を理解し尊重できるようになる。現代文明生活の経験が多様であることを知る。現代文明生活が生み出す困難を解決するヒントを得る。これから社会に出る若い学生が社会の実相を知ることができる。シニア受講生にとって若者の考えに触れることによってセカンドステージの人生をより有意義に過ごす手がかりが得られる。なお、この科目は就職活動や卒業を控えた3年、4年生の参加が望ましい。

The participants of this course will be able to have some common sense among the diverse generations. They can understand and respect ideas of the different generations. They come to understand the variety of experiences in the life in the contemporary civilization. They will find some keys to resolve the difficult problems of the civilization. The young students can see the various aspects of the real social life before graduation. The seniors can understand the ideas of the young students and get some keys to spend the second stage life more meaningfully.

授業の内容 / Course Contents

本授業の履修者は全学部の学生とシニア世代の立教セカンドステージ大学受講生である。履修者は数名のグループに分かれ、その中には必ずシニア受講生がいる。毎回ウォーミングアップのアイスブレイクの後、所定のテーマに沿って意見交換を行う。意見交換には基本ルールがある。1. 誰もが他者を傷つけない限り自由に何でも話せること。2. 所属学部年齢の違いにかかわらず全員が平等であること。3. 他者の発言を否定する意見を言わない。むしろ、質問して意見を引き出してあげる。自分と違う意見を受け止め引き受ける姿勢を持つこと。以上である。ルールに基づく意見交換を進めることによって、世代の違いを理解し、互いの世代の利害を理解し、尊重することができるようになる。その結果、世代の切れ目のない、誰もが幸せだと思える文明生活を築くための手がかりを得たい。予定しているテーマは以下の通り。「学校での学びの効用」「陰りある現代文明への姿勢」「今就職するとはどういうことか」「恋愛の意味」「お金を稼ぐ苦労」「これからの結婚生活の光と影」「現代生活に必要な教養」「これからの家族像」「長生きする効用」「永続する友人関係とは」「文明生活での更なる幸福」「今の文明を生きる意味」など。なお、本科目は対話授業なので対面で行うが、状況によって対面実施が困難になった場合には、ミックスでなく完全オンラインで行う。

This course has as participants young students and seniors of the social life. All of them will be divided into several small groups each of which have seniors. After a warming up session they begin discussion which has the following three essential rules. 1.All members of the discussion group can talk completely freely about whatever they want to, except to hurt the feeling of the others. 2.All are entirely equal despite of the different position and attribute. 3.All must not be negative to what the others say., but should be positive and ask questions to bring further opinion out. That is all. The discussions of this course will give the members the the appropriate knowledge on the different generations. And they will also give keys and hints to establish a future society in which all generations will be happy together. The discussion themes are the following: learning in the school, getting a job, loving, earning the money, marriage, culture, family, long life, friend, happiness, and meaning of life in the contemporary civilization.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：第1回 入門。趣旨説明。全回のテーマ選択・決定。対話の練習。
- 2回：第2回 対話(1)
- 3回：第3回 対話(2)
- 4回：第4回 対話(3)
- 5回：第5回 対話(4)
- 6回：第6回 対話(5)
- 7回：第7回 対話(6)
- 8回：第8回 対話(7)
- 9回：第9回 対話(8)
- 10回：第10回 対話(9)
- 11回：第11回 対話(10)
- 12回：第12回 対話(11)
- 13回：第13回 対話(12)
- 14回：第14回 まとめと振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : ○ ｽﾗｲﾄﾞ (ﾊﾟﾜｰﾍﾟﾝ等) の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 :

個人発表 : グループ発表 : ○ ディスカッション・ディベート : ○
 実技・実習・実験 : 学内の教室外施設の利用 : 校外実習・フィールドワーク :
 上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、グループ内で全員が5分間プレゼンテーションを行うので、事前に予定テーマに沿って話す内容を考えてメモしてくる。授業終了後には、その日の自分の発言を必ず記録し、印象に残った他のメンバーの意見も記録すること。記録は12回分をファイルして、最終日第14回でのまとめのミニレポートに反映させること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ :100%

平常点割合 :100% 授業参加姿勢:40% リアクションペーパー:30% 最終レポート割合 :30% 最

終テスト割合 :0%

対話グループでの司会者役、記録役(グループ意見報告役)などを積極的に担うことを期待します。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

梶谷真司 『考えるとはどういうことか』 幻冬舎新書 2018

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

自分の意見を積極的に話せると同時に、他人の意見に耳を傾け、共感する力。わかりにくい他人の意見であっても忍耐強く寄り添う力。年配のセカンドステージ大学受講生とコミュニケーションを積極的に取ろうとする姿勢が持てること。

注意事項

2012～2015年度1年次入学者対象科目 立教B科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

グローバル都市空間における多文化化の現実と課題

金 允恩 (KIM TAE EUN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH723

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

世界の主なメトロポリタン都市空間における多文化化の現状や関連政策などについて学び、グローバル比較の視点から考える。多文化主義及び多文化共生に関する文献などの講読や報告・討議を通じて、社会学的想像力や批判的分析力を身につける。

Students will learn about the actual multiculturalization conditions in the major metropolitan cities and related policies. They will be encouraged to think from the perspective of global comparison. Students will acquire sociological thinking and critical analysis skills through reading, reporting, and discussing multiculturalism and multicultural realities in different societies.

授業の内容 / Course Contents

グローバル都市空間の現実に照準を定め、多文化化の現状や課題について比較を試みる。近年における多文化主義に関する理論的・政治的・実践的議論を踏まえながら、北米、豪州などのメトロポリタン都市空間における多文化化の歴史と現状、多文化共生とかわる政策や実践事例を紹介する。そして、視野を東アジア地域に移し、日本と韓国での現状を検討し、北米・豪州における現状との比較考察を試みる。さらに、「新型コロナバ

ンデミック」の影響が、世界の多文化・メトロポリタン都市においてどのように異なっていたかについても、現地のメディア報道などで調べる。

Focusing on the reality of global urban spaces, we will compare multiculturalization's current state and future. We will examine the history and present state of Western societies' multiculturalization in North America and Australia. We will also investigate policies and practical examples related to multicultural co-living based on theoretical, political, and practical discussions on multiculturalism in recent years. We will then shift our perspective to the East Asia region and examine Japan and Korea's current situation while comparing it with North America and Australia's conditions. We will also investigate how the damage and impact of the COVID-19 pandemic differed in the world's multicultural and metropolitan cities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：グローバリゼーションや多文化主義とかかわる主要概念
- 3回：グローバリゼーションや多文化主義とかかわる主要論争
- 4回：アメリカの事例1：多文化化の歴史と現状
- 5回：アメリカの事例2：都市空間における現状と課題
- 6回：カナダの事例1：多文化化の歴史と現状
- 7回：カナダの事例2：都市空間における現状と課題
- 8回：オーストラリアの事例：多文化化の歴史と現状、課題
- 9回：新型コロナパンデミックと人種・エスニシティ
- 10回：韓国の事例1：多文化化の歴史と現状
- 11回：韓国の事例2：都市空間における現状と課題
- 12回：日本の多文化化と共生問題を考える1
- 13回：日本の多文化化と共生問題を考える2
- 14回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に講読文献を読み、授業で取り上げたい論点を考えておくこと。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% コメントペーパーや討議を含む授業への参加度:30% 授業内報告:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト/Textbooks

- 宮島喬 『多文化であることとは：新しい市民社会の条件』 岩波書店 2014 4000291211 -
 アンドレア・センブリーニ 『多文化主義とは何か』 白水社 2003 9784560058619 -
 関根政美 『多文化主義社会の到来』 朝日新聞社 2000 9784022597502 -
 宮島喬・石原進他 『開かれた移民社会へ』 藤原書店 2019 4865782214 -

初回の授業にて文献リストを提示する。

参考文献 / Readings

鈴木江理子 『アンダーコロナの移民たち：日本社会の脆弱性があらわれた場所』 明石書店 2021
4750352152

東自由里・進藤修一 『移民都市の苦悩と挑戦：ニューヨークとフランクフルト』 晃洋書房 2015
9784771026223

Montserrat Guibernau and John Rex The Ethnicity Reader: Nationalism, Multiculturalism and Migration
Cambridge : Polity 2010 9780745647029

加藤普章 『カナダの多文化主義と移民統合』 東京大学出版会 2018 4130301640

関根政美ほか 『オーストラリアの多文化社会論：移民・難民・先住民族との共生をめざして』 法律文化社
2020 4589040530

その都度、紹介する。

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 B 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

フランス文学・文化・思想への招待

桑瀬 章二郎 (KUWASE SHOJIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH724
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

フランス文学の代表作の抜粋を読み、多角的に考察します。もちろん文化、思想、芸術をふくみます。
Students will read extracts of iconic French literatures and reflect on them from multiple perspective.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、毎回一つのテキストを選び、そのテキストを多角的に検討します。これはあくまで、学生の発表・議論を中心に構成される授業です。しっかりと予習して参加してください。扱うテキストは、16世紀から20世紀までの文学、芸術や思想と多種多様です。モンテーニュ、ルソー、ゴッホなど有名な作家、著作ばかりを選んでいきます。自分が興味を持っている領域だけではなく、あらゆる分野について（いい意味で）「広く浅く」フランス文学について学びましょう。

In this class, a specific text will be selected every time. Students will discuss the selected text from multiple perspectives. In general, the class is made up of students' presentations and discussions. Students should study before the class and participate. Wide variety of texts will be used, including literatures, arts, and thoughts from

the 16th to 20th century. Solely well-known authors and works will be selected. Students will not be confined to their areas of interest. Instead, students will learn about French literatures in various areas (in a good sense) in wide yet shallow manner.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入。授業内容紹介。
- 2回：作品分析（1）。参加者による報告。全員での議論。
- 3回：作品分析（2）。参加者による報告。全員での議論。
- 4回：作品分析（3）。参加者による報告。全員での議論。
- 5回：作品分析（4）。参加者による報告。全員での議論。
- 6回：作品分析（5）。参加者による報告。全員での議論。
- 7回：作品分析（6）。参加者による報告。全員での議論。
- 8回：作品分析（7）。参加者による報告。全員での議論。
- 9回：作品分析（8）。参加者による報告。全員での議論。
- 10回：作品分析（9）。参加者による報告。全員での議論。
- 11回：作品分析（10）。参加者による報告。全員での議論。
- 12回：作品分析（11）。参加者による報告。全員での議論。
- 13回：作品分析（12）。参加者による報告。全員での議論。
- 14回：記述式テスト。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、指定されたテキストを熟読して授業にのぞむんでください。担当教員が課題テキストについて複数の「問い」を出すので、それについて考察・調査してきてください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 小レポート:30% 報告・提出物（リアクションペーパーと並行）:20% リアクションペーパー:30% 最終テスト割合 :20%

テキスト / Textbooks

初回の授業の際に資料を配布。

参考文献 / Readings

初回の授業の際に指示（プリント配布）。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

翻訳文献をつかいます。

注意事項

2012～2015年度1年次入学者対象科目 立教B科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

映像制作

樋本 淳 (HIMOTO JUN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH725
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

映像作品は「創り手」と「受け手」の関係で成り立っています。それは、劇映画であっても、TV 番組であっても、ドキュメンタリー作品であっても、ユーチューブでも変わりません。つまり、映像の「創り手」には、「受け手」の感情をコントロールするテクニックが必要となります。

この授業では、映像制作の各プロセスにおける「創り手のテクニック」を紹介。さらに短い映像作品を制作することで、そうしたテクニックの実践を目指します。

Moving-image works exist based on the relationship between the creator and the audience, a premise that applies to fictional films, TV shows, documentaries, and YouTube videos alike. In other words, the creator of a moving-image work must possess the techniques to control the emotions of the audience.

This course will introduce the techniques that creators use in each process of making their moving-image works. Furthermore, students will practice these techniques by creating their own short moving-image works.

授業の内容 / Course Contents

映像制作には、他の芸術作品と比べて、やや複雑なプロセスがあります。

授業では、劇映画の制作プロセスを紹介。それと並行して、受講者は映像作品の制作を行います。

前半の7週では、各自が短い映像（1～2分）を制作・発表。

後半の7週では、数人のグループで協力しながら、短編作品（3～10分）を制作・発表します。

Compared to the creation of other works of art, making a moving-image work involves a slightly more complicated process. This course will introduce the processes involved in making a fictional film. As they learn about these processes, students will also create their own moving-image works.

During the first seven weeks of the course, each student will create and present their own short work (1-2 minutes long).

During the seven weeks in the second half of the course, students will work in groups to create and present a short work (3-10 minutes long).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：作品1 構想・構成
- 3回：作品1 撮影
- 4回：作品1 撮影
- 5回：作品1 編集
- 6回：作品1 発表・講評①
- 7回：作品1 発表・講評②
- 8回：作品2 構成・脚本
- 9回：作品2 脚本
- 10回：作品2 ロケハン／撮影
- 11回：作品2 撮影
- 12回：作品2 撮影／編集
- 13回：作品2 編集
- 14回：作品2 発表・講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

構成・脚本・撮影・編集など、授業時間内に終了しなかったものについては、時間外に行う可能性があります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 1. 課題作品の提出（2回）：60% 2. 授業に臨む姿勢：40%

テキスト / Textbooks

適宜、プリントを配布します。

参考文献 / Readings

映像作品も含め、適宜、紹介します。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

撮影・編集等の経験の有無は問いません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

撮影は、基本的に各自が持っているスマートフォンの動画撮影機能を使用して行います。

(スマートフォンに動画撮影機能がない場合でも受講可能です。)

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 B 科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通カリキュラム／立教 B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

戦争の記憶と歴史教科書：マレーシアの事例

(War Memory and History Textbooks: The Case of Malaysia)

松岡 昌和 (MATSUOKA MASAKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH726

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ・多様な立場からの歴史の語りの分析のあり方を学ぶ
- ・歴史の語りの複数性を理解する
- ・日本と東南アジアの関わりについて主体的に学んでいくことで、一国中心の歴史認識を相対化し、国際関係や異文化コミュニケーションのあり方を考える契機とする
- ・国際関係や異文化コミュニケーションの最前線にいる研究者や実務家との議論を通じて、二国間関係の多様な側面を知る

To learn how to analyse historical narratives from diverse perspectives

To understand the plurality of historical narratives

To relativise their own country-centred understanding of history and to consider the nature of international relations and intercultural communication by learning about the relationship between Japan and Southeast Asia

To learn about the various aspects of bilateral relations through discussions with researchers and practitioners of

international relations and intercultural communication

授業の内容 / Course Contents

本科目では、マレーシアで使用されている歴史教科書（マレー語版、華語＝中国語版）の日本語訳を教材とし、第二次世界大戦期における日本占領についての記述や戦後マレーシアの歴史の中で日本占領がどのように記憶されていたかについて検討していくことを主たる活動とする。その際に、①マレーシアの多民族性が歴史の記述にどのように影響しているか、②戦後マレーシアの日本との関係と歴史記述との間にどのような関連性が見られるか、③これらの教科書がマレーシアにおける戦争の記憶にどのような影響を与えているかについて重点的に議論を行う。そのうえで、今後さらに関係の深まる東南アジア地域との関わりの可能性について考えていく。数回にわたり、マレーシアの大学で教鞭をとる日本人研究者、日本の大学で教鞭をとるマレーシア人研究者、日本・マレーシアの経済協力の現場で働く実務家をゲストに迎え、ともに議論を行っていく。

The main activity of this course is to read Japanese translations of history textbooks used in Malaysia (Malay and Mandarin versions) to examine the descriptions of the Japanese occupation during the Second World War period and how the Japanese occupation was remembered in the history of post-war Malaysia. In doing so, we discuss (i) how the multi-ethnicity of Malaysia affects the writing of history, (ii) what links can be seen between Malaysia's post-war relationship with Japan and the historiography, and (iii) how these textbooks affect the memory of the war in Malaysia. We will then consider the possibilities for further relations with the Southeast Asian region, which is likely to become even more closely related in the future. In several sessions, we will invite Japanese researchers teaching at universities in Malaysia, Malaysian researchers teaching at a Japanese university, and practitioners working in the field of Japan-Malaysia economic cooperation as guest lecturers to discuss the issues together.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、イントロダクション
- 2回：マレー半島における日本占領について（ゲスト参加予定）
- 3回：教科書の分析1（マレー語教科書）
- 4回：教科書の分析2（マレー語教科書）
- 5回：教科書の分析3（マレー語教科書）
- 6回：教科書の分析4（華語教科書）
- 7回：教科書の分析5（華語教科書）
- 8回：教科書の分析6（華語教科書）（ゲスト参加予定）
- 9回：教科書の分析7（シンガポールの教科書）
- 10回：マレーシアにおける戦争の記憶（ゲスト参加予定）
- 11回：戦時期における日本・東南アジア文化交流とその記憶（ゲスト参加予定）
- 12回：マレーシアにおける日本への関心（ゲスト参加予定）
- 13回：日本・マレーシア文化交流の現在（ゲスト参加予定）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：		学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：			：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

歴史教科書を資料として読んでいくので、事前に全員が指定した部分を読み、論点を整理しておくことが求められる。なお、マレー語と華語（標準中国語）のテキストについては日本語訳を使用する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業でのプレゼンテーション:30% 議論への参加:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

使用する資料は授業時に配布する。

参考文献 / Readings

鳥居高編著 『マレーシアを知るための58章』 明石書店 2023 9784750356396

後藤乾一 『日本の南進と大東亜共栄圏』 めこん 2022 9784839603298

高嶋伸欣・鈴木晶・関口竜一 『増補改訂版 マレーシア（旅行ガイドにないアジアを歩く）』 梨の木舎 2018 9784816618017

その他参考文献は授業時に紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

外国の教科書を扱うが、高等学校基礎レベルの英語をのぞき、特別な外国語の知識は求めない。また、授業の進行もすべて日本語で行う。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

海外との中継には教室備え付けのPCを用いるので、特に個人の機器を教室に持ち込む必要はない。ただし、授業外での課題遂行にあたって、オンラインでの調べ物や他のメンバーとのやり取りの上で、日常的にPCを使用していることが望ましい。

その他 / Others

ゲストの都合により、授業計画が前後することがある。

(The schedule is subject to change depending on the guest lecturers' availability.)

注意事項

2012～2015年度1年次入学者対象科目 立教B科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

データサイエンス

小林 哲郎 (KOBAYASHI TETSUO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH727
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

データサイエンスが解決する主な課題や事例を学び、データサイエンスの課題解決の方法論に関する理解を深める。また、データサイエンス的課題解決力の向上を図る。

This course covers major data science problems and use cases. Students will learn data science approaches to such problems. Students will also learn some practical data scientific problem-solving abilities.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、データサイエンスの分野における一般的な課題と事例を紹介し、それらを解決するデータサイエンスの手法を紹介する。

This course will introduce general problems and examples in the field of data science, and introduce data science methods to solve such problems.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：ガイダンス、自己紹介、データ分析の目的

2 回：一般的なデータ分析プロセス

- 3回：分析ユースケース定義
 4回：業界別のデータ分析テーマ (1)
 5回：業界別のデータ分析テーマ (2)
 6回：業界別のデータ分析テーマ (3)
 7回：業界別のデータ分析テーマ (4)
 8回：業界別のデータ分析テーマ (5)
 9回：デジタルトランスフォーメーション
 10回：業界別のデータ分析テーマ (6)
 11回：業界別のデータ分析テーマ (7)
 12回：業界別のデータ分析テーマ (8)
 13回：業界別のデータ分析テーマ (9)
 14回：AI 活用の動向

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ* 等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習の指示は、履修登録完了後に Canvas 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業における発表:10% 複数のレポート課題:90%

テキスト / Textbooks

授業中に適宜紹介します。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介します。

注意事項

- ・2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目
- ・立教 B 科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通カリキュラム / 立教 B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

圧倒的な他者に出会う

奥野 克巳 (OKUNO KATSUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH728
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

奥野克巳『ありがとうもごめんなさいもいらない森の民と暮らして人類学者が考えたこと』を読むことをつうじて、東南アジアの狩猟民の世界と現代日本を往き来しながら、文化人類学とその手法であるフィールドワークに関する理解を深め、人間って何だろうというテーマを探っていく。

Reading the book, Katsumi Okuno's 'What an Anthropologist Think after Living with the People of the Forest who don't need Thank You or Sorry', the students will deepen their understanding of cultural anthropology and its method of fieldwork and explore the theme of what it means to be human, while moving back and forth between the world of the Southeast Asian hunter-gatherers and present-day Japan.

授業の内容 / Course Contents

以下のようなトピックを順に取り上げて検討していく。

- ・長期滞在する文化人類学のフィールドワークで何が分かるのか？
- ・ボルネオ島の狩猟民プナンとはどういう人たちなのか？
- ・「ありがとう」や「ごめんなさい」がないとはどういうことか？

- ・死者の名を呼んではいけないというタブーはなぜあるのか?
- ・プナンは子育てを共同体のみなでするとはどういうことか?
- ・なぜプナンはトリにサルの名前を付けるのだろうか?

The following topics will be discussed in turn.

- *What can we learn from long-term fieldwork in cultural anthropology?
- *What are the Penan hunters of Borneo like?
- *What does it mean not to have 'thank you' or 'I'm sorry'?
- *Why is there a taboo against calling the dead by their names?
- *What does it mean that the Penan raise their children together in the community?

Why do Penan give monkey name to birds?

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：はじめに、1. 生きるために食べる
- 3回：2. 朝の尻祭り
- 4回：3. 反省しないで生きる
- 5回：4. 熱帯の贈与論、5. 森のロレックス
- 6回：6. ふたつの勃起考、7. 慾を捨てよと、プナンは言った
- 7回：8. 死者を悼むいくつかのやり方
- 8回：9. 子育てはみなで、10. 学校に行かない子どもたち
- 9回：11. ないことの火急なる不穩
- 10回：12. アナキズム以前のアナキズム
- 11回：13. 倫理以前、最古の明敏
- 12回：14. アホ犬の末裔、ペットの野望
- 13回：15. 走りまわるヤマアラシ、人間どもの現実
- 14回：16. リーフモンキー鳥と、リーフモンキーと、人間と、おわりに

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート :
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定	:		:		

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

奥野克巳 『ありがたうもごめんなさいもいない森の民と暮らして人類学者が考えたこと』 新潮社 2023
9784101045719 ○

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

なし。

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 B 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

筋トレリテラシーを身につける

宮村 淳 (MIYAMURA ATSUSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH730
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

人生 100 年時代、一生付き合わなければならない自分の身体への理解を深め、ライフスキルとして長年活用できる筋トレリテラシーの基礎を身につける。

Students will deepen their understanding of their own body that they must live with for life, in this era of living to 100 years, and acquire the foundation of strength training and muscle conditioning literacy that can be used as a life skill for many years.

授業の内容 / Course Contents

日常生活で意識することの少ない人体の構造や力学的特性を学んで「身体への気付き」を促し、健康管理ツールとしてのストレッチや筋トレを、初級レベルで使えることを目標としたい。運動技術の習得をゴールとするのではなく、学生間の議論と共有体験を通じて各人が「カラダを探求する」入口に立てることを重視する。講義全体を通して、下記のテーマに対して多様な視点からアプローチしていく。

- ・筋肉は重層構造を成し、表面から触ることのできない深部筋への働きかけが重要である
- ・全身の筋肉や関節は、お互いが影響しあうシステムとして機能しており、痛みや不調の原因が該当部位以外

に存在する

・自身の身体の状態を常に把握し、筋トレやストレッチを通じて自身で調整する習慣の重要性を理解する
By learning the structure and mechanical characteristics of the human body that we are less conscious of in everyday life to promote "awareness of the body," we will aim to use strength training as a health management tool. Rather than focusing on the acquisition of motor skills, the emphasis will be placed on each student's entrance to the "quest for an ideal body" through discussion and sharing experiences among students. We will approach the following themes from various perspectives.

- Muscles have a multi layer structure, and it is important to work on deep muscles that cannot be touched from the surface.
- The muscles and joints of the whole body function as a system that influences each other, and the cause of pain and discomfort exists outside the relevant part.
- Understanding the importance of maintaining a constant awareness of one's own physical condition and adjusting it by oneself through strength training and stretching.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション（各自の受講動機、バックグラウンドのヒアリングなど）

※初回は一般教室にて座学中心の内容。

2 回：体幹の構造を理解し強化する

※第2回目以降は、トレーニングルームにて実技+講義

3 回：肩甲骨を意識し、動きを高める 1

4 回：肩甲骨を意識し、動きを高める 2

5 回：上半身の筋トレ種目 大胸筋を使う

6 回：トレーニング変数・体幹 2

7 回：股関節 1 大腰筋エクササイズ

8 回：股関節 2 臀部を鍛える

9 回：股関節 3 スクワットを究める

10 回：一流ボディビルダーの考え方と実践（ゲストスピーカー講義）

11 回：筋肥大ストレス、体幹固定上半身エクササイズ

12 回：股関節伸展とデッドリフト

13 回：運動連鎖

14 回：アラカルト、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	○ 校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業で学んだことを意識して生活動作・スポーツ動作を心がけ、そこで気付いたことを授業で再確認する。
当該年度の定期健康診断を必ず受診すること。

【注意事項】

初回授業：一般教室にて座学中心に行う。服装は自由。

2回目以降：トレーニングウェア等の動きやすい服装とシューズを着用すること。裸足やスリッパでの参加は厳禁とする。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:70% 授業内提出物:30%

テキスト / Textbooks

必要に応じて授業時に配布する。

参考文献 / Readings

注意事項

2012～2015年度1年次入学者対象科目 立教B科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

身体と霊性—坐禅からのアプローチ—

松澤 裕樹 (MATSUZAWA HIROKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH731
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

東西宗教思想における霊性論と身体論について理論面から学ぶと共に、坐禅等を通して実践面からも学ぶことで、総合的な人間理解を深めることが本授業の目標となる。

In addition to learning from the theory aspects of spirituality and body theory in East-West religious thought, the aim of the course is to deepen comprehensive human understanding by also learning from practical aspects through zazen.

授業の内容 / Course Contents

テクノロジーによる身体の拡張によって引き起こされる生身の身体の意義の希薄化、五感で知覚される世界への執着から導かれる霊性の否定という二つの傾向を特徴とする現代社会において生じる様々な問題を自覚し、それに適切に対処するためには、過去の様々な思想との対話を通して現代社会における自己のあり方を客観視する必要がある。

本授業では、以上のような現代的課題を念頭に置きながら東西宗教思想における霊性論と身体論を理論的かつ実践的に探究することで、理論と実践の相互作用による総合的な人間理解を目指す。

We are aware of various problems that occur in modern society characterized by the two tendencies of dilution of the meaning of the physical body caused by extension of the body due to technology and denial of spirituality derived from attachment to the world perceived by the five senses. In order to cope with this properly, it is necessary to objectively look at the way of self in modern society through dialog with various ideas of the past. In this course, the aim is that by studying spiritual theories and physical theories in East-West religious thought theoretically and practically while keeping in mind the above-mentioned modern issues, students will gain comprehensive human understanding through the interaction between theory and practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：坐禅指導
- 3回：中国仏教における身体と霊性①
- 4回：中国仏教における身体と霊性②
- 5回：日本仏教における身体と霊性①
- 6回：日本仏教における身体と霊性②
- 7回：禅とマインドフルネス①
- 8回：禅とマインドフルネス②
- 9回：聖書における身体と霊性①
- 10回：聖書における身体と霊性②
- 11回：東方キリスト教における身体と霊性①
- 12回：東方キリスト教における身体と霊性②
- 13回：キリスト教・イスラム教神秘思想における身体と霊性①
- 14回：キリスト教・イスラム教神秘思想における身体と霊性②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業前・後にそれぞれの分野に関する参考文献を読むことが必須となる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度（コメントペーパー等）：60% 最終レポート：40%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

授業で適宜紹介する。

その他 / Others

毎回の授業で坐禅を行う予定。

注意事項

2012～2015年度1年次入学者対象科目 立教B科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 B

オーダーメイド医療最前線

Forefront of made-to-order medicine

人間の幸福追求と先端医科学技術との行方を問う

川上 祐美 (KAWAKAMI YUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH733
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	-----
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

オーダーメイド医療を通して生命医科学技術とその社会的背景について理解し、それをめぐる倫理的課題ならびに人間の尊厳のあり方を考える。

To understand life science technology and its social context, ethical issues surrounding it, and its impact on human dignity through discussions on personalized medicine.

授業の内容 / Course Contents

「オーダーメイド医療」とは、狭義には、個々人の遺伝子の形質に合わせた薬剤や治療法などを選択する医療のことを指します。広義には、人間の生き方死に方も個人の価値観が尊重されるという考えに基づき、生老病死へのあらゆる医学的介入を自律的に選択していくことを意味します。

そのような個人のニーズに合わせた「オーダーメイド医療」は、より効率的な治療効果が期待される一方で、遺伝子偏重の見方を強め、私たちの生命観や健康観に大きな影響をもたらす可能性があります。また、個を大切に、国家や社会に不当に制約・疎外されない自由な生き方を希求することは基本的な権利ですが、方向性を誤れば、格差を助長し共存存在としての他者理解を阻むことも危惧されます。

本講では、人間の幸福追求と先端医科学技術の利用との間の多層的問題に触れ、ともに考える時間を持ちたいと思います。

"Personalized medicine", in a narrow sense, refers to medical treatment in which drugs and therapies are selected according to the genetic traits of each individual. In a broader sense, it means self-determination in all medical interventions involving birth, aging, sickness, and death, based on the idea that individual values should be respected in matters of life and death.

While such "personalized medicine" tailored to the needs of the individual is expected to produce more efficient therapeutic effects, it may also reinforce a view that overemphasizes genetic information as well as have a significant impact on our views on life and health. It is a fundamental right to value one's individuality and to seek a free way of life that is not unreasonably restricted or marginalized by the state or society, but if misdirected, it may promote inequality and hinder mutual understanding among people who are vulnerable and dependent on each other.

In this course, I would like to touch on multi-layered issues that arise in the pursuit of human happiness and the use of advanced medical science and technology as well as invite the class to delve into these issues together.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オーダーメイド医療とは ～新たな恩恵と葛藤
- 2回：患者の権利擁護と自律① ～オーダーメイドに至る道のり
- 3回：患者の権利擁護と自律② ～バイオエシックスの4原則
- 4回：生殖医療とデザイナーベビー① ～親たち子たちの苦悩
- 5回：生殖医療とデザイナーベビー② ～生まれる命の操作
- 6回：ジェンダーの社会的変遷と科学的理解 ～LGBT理解の礎として
- 7回：ゲノム技術の法といま① ～ゲノムテクノロジーの光と影
- 8回：ゲノム技術の法といま② ～遺伝子操作をめぐる倫理
- 9回：脳死と臓器移植 ～いのちの優先順位とその格差
- 10回：再生医療と移植医療 ～臓器不足の打開策か、それとも…
- 11回：自分らしい死とは① ～尊厳死・安楽死の国際的動向
- 12回：自分らしい死とは② ～スイスの自殺幫助から考える
- 13回：サイボーグ技術で生きる ～これからの人間像は？
- 14回：エンハンスメントと人間の幸福 ～人体増強の行く先

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業で紹介する資料をよく読んでみてください。

日頃のニュース(健康医療、政治経済、科学技術、宗教文化等)に関心をもってください。

その他、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業内レポート（リアクションペーパー）:100%

テキスト/Textbooks

必ず購入しなければならないテキストはありませんが、下記の参考書をはじめ、講義内でも関連書籍を適宜紹介します。

参考文献 / Readings

島菌 進 『いのちを“つくって”もいいですか? 生命科学のジレンマを考える哲学講義』 NHK 出版 2016
9784140816943

マイケル・サンデル 『完全な人間を目指さなくてもよい理由』 ナカニシヤ出版 2010 9784779504761

オルダス・ハックスリー 『すばらしい新世界』 講談社文庫 1974 9784061370012

青野 由利 『ゲノム編集の光と闇』 筑摩書房 2019 9784480072023

勝島次郎 『先端医療と向き合う』 平凡社新書 2020 9784582859454

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 A

オーダーメイド医療最前線

Forefront of made-to-order medicine

人間の幸福追求と先端医科学技術との行方を問う

川上 祐美 (KAWAKAMI YUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FH734
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	-----
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	抽選他
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	<input type="radio"/>
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

オーダーメイド医療を通して生命医科学技術とその社会的背景について理解し、それをめぐる倫理的課題ならびに人間の尊厳のあり方を考える。

To understand life science technology and its social context, ethical issues surrounding it, and its impact on human dignity through discussions on personalized medicine.

授業の内容 / Course Contents

「オーダーメイド医療」とは、狭義には、個々人の遺伝子の形質に合わせた薬剤や治療法などを選択する医療のことを指します。広義には、人間の生き方死に方も個人の価値観が尊重されるという考えに基づき、生老病死へのあらゆる医学的介入を自律的に選択していくことを意味します。

そのような個人のニーズに合わせた「オーダーメイド医療」は、より効率的な治療効果が期待される一方で、遺伝子偏重の見方を強め、私たちの生命観や健康観に大きな影響をもたらす可能性があります。また、個を大切に、国家や社会に不当に制約・疎外されない自由な生き方を希求することは基本的な権利ですが、方向性を誤れば、格差を助長し共存存在としての他者理解を阻むことも危惧されます。

本講では、人間の幸福追求と先端医科学技術の利用との間の多層的問題に触れ、ともに考える時間を持ちたいと思います。

"Personalized medicine", in a narrow sense, refers to medical treatment in which drugs and therapies are selected according to the genetic traits of each individual. In a broader sense, it means self-determination in all medical interventions involving birth, aging, sickness, and death, based on the idea that individual values should be respected in matters of life and death.

While such "personalized medicine" tailored to the needs of the individual is expected to produce more efficient therapeutic effects, it may also reinforce a view that overemphasizes genetic information as well as have a significant impact on our views on life and health. It is a fundamental right to value one's individuality and to seek a free way of life that is not unreasonably restricted or marginalized by the state or society, but if misdirected, it may promote inequality and hinder mutual understanding among people who are vulnerable and dependent on each other.

In this course, I would like to touch on multi-layered issues that arise in the pursuit of human happiness and the use of advanced medical science and technology as well as invite the class to delve into these issues together.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オーダーメイド医療とは ～新たな恩恵と葛藤
- 2回：患者の権利擁護と自律① ～オーダーメイドに至る道のり
- 3回：患者の権利擁護と自律② ～バイオエシックスの4原則
- 4回：生殖医療とデザイナーベビー① ～親たち子たちの苦悩
- 5回：生殖医療とデザイナーベビー② ～生まれる命の操作
- 6回：ジェンダーの社会的変遷と科学的理解 ～LGBT理解の礎として
- 7回：ゲノム技術の法といま① ～ゲノムテクノロジーの光と影
- 8回：ゲノム技術の法といま② ～遺伝子操作をめぐる倫理
- 9回：脳死と臓器移植 ～いのちの優先順位とその格差
- 10回：再生医療と移植医療 ～臓器不足の打開策か、それとも…
- 11回：自分らしい死とは① ～尊厳死・安楽死の国際的動向
- 12回：自分らしい死とは② ～スイスの自殺幫助から考える
- 13回：サイボーグ技術で生きる ～これからの人間像は？
- 14回：エンハンスメントと人間の幸福 ～人体増強の行く先

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業で紹介する資料をよく読んでみてください。

日頃のニュース (健康医療、政治経済、科学技術、宗教文化等) に関心をもってください。

その他、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：111) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎回の授業内レポート（リアクションペーパー）:100%

テキスト/Textbooks

必ず購入しなければならないテキストはありませんが、下記の参考書をはじめ、講義内でも関連書籍を適宜紹介します。

参考文献 / Readings

島菌 進 『いのちを“つくって”もいいですか? 生命科学のジレンマを考える哲学講義』 NHK 出版 2016
9784140816943

マイケル・サンデル 『完全な人間を目指さなくてもよい理由』 ナカニシヤ出版 2010 9784779504761

オルダス・ハックスリー 『すばらしい新世界』 講談社文庫 1974 9784061370012

青野 由利 『ゲノム編集の光と闇』 筑摩書房 2019 9784480072023

勝島次郎 『先端医療と向き合う』 平凡社新書 2020 9784582859454

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 A

大学と科学技術

Universities And Science Technology

文系・理系の区別を越えて、大学と科学技術について社会的・歴史的側面から考える

柿原 泰 (KAKIHARA YASUSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH735
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

大学・アカデミズムと科学技術の関係を多面的に理解する。文系・理系の区別を越えて、現代を生きる私たちみなにとって関わりのある、重要なものとして、科学技術の絡む社会的諸問題を考えるようにできることを目標とする。

Students will understand the relationships between universities/academism and science and technology from various perspectives. We will consider social issues involving science and technology as important and relevant for all of us living today beyond social and scientific distinctions.

授業の内容 / Course Contents

原子力や放射能、遺伝子操作、化学物質汚染など、科学技術が絡む現代社会のさまざまな問題をどのように読み解けばよいのだろうか。大学・アカデミズムと科学技術との関係を解きほぐしながら、科学史や科学社会学などの科学技術論の視点を紹介し、社会的側面から考察する。また、それらを大学・学問のあり方と絡めて考えていく。

How should we understand the various problems involving science and technology in modern society, such as

nuclear energy, radiation exposure, genetic modification, and chemical pollution, etc. While unraveling the relationships between universities/academism and science and technology, we will introduce the perspectives of history and sociology of science and technology, and consider them from a social aspects. In addition, we will consider them in relation to the way of universities/academism.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション——講義のねらい 文系・理系の区別を越えて
- 2回：＜大学＞と＜科学技術＞ さまざまな機能や役割——歴史 概説
- 3回：「科学的」とは何か——科学の用いられ方、そして社会の変容
- 4回：科学研究の評価の仕組みと社会的観点——研究成果の発表と流通・普及
- 5回：科学者の規範・エートス
- 6回：ディスカッション：それぞれの入門
- 7回：「科学的」な問題と「社会的」な問題とが絡む領域
- 8回：「科学的」な問題と「社会的」な問題とが絡む領域——放射能をめぐる
- 9回：「科学的」な問題と「社会的」な問題とが絡む領域——BSEをめぐる
- 10回：科学知識が生成される過程に社会的なものが関わる——科学知識の社会学
- 11回：つくられる懐疑論——公害事件、環境問題
- 12回：大学・学問のあり方を問い直す——専門分野の細分化と連関
- 13回：大学・学問のあり方を問い直す——大学資本主義と公共性
- 14回：まとめ

(授業の進捗度・理解度等により、上記の順序や内容を変更する場合もある)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の講義内容を復習したうえで、リアクション、コメントを提出すること。それを通じて次回の予習をすること。

平常から自らの関心や問題意識を発展させ、深めるよう、積極的に書物を読み、自らの頭を使って考えること。

中間レポート、最終レポートの作成に向け、準備を早めに開始し、学習を進めること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：111） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回のリアクションペーパーの内容:30% 中間レポート:30% 最終レポート割合:40%

テキスト / Textbooks

塚原東吾ほか編 『よくわかる現代科学技術史・STS』 ミネルヴァ書房 2022 9784623092154 ○
適宜、レジюмеや資料を配布する。

参考文献 / Readings

金森修 『科学の危機』 集英社 2015 9784087207828

平川秀幸 『科学は誰のものか』 NHK 出版 2010 9784140883280

吉見俊哉 『大学とは何か』 岩波書店 2011 9784004313182

隠岐さや香 『文系と理系はなぜ分かれたのか』 星海社 2018 9784065123843

その他、講義時間中に随時、紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業中に使用するための配布資料（レジュメや参考資料）を「Canvas LMS」に電子ファイル形式でアップロードするので、自分の PC やタブレット等を持参して閲覧できるようにするか、またはプリントアウトして持参するようにすること。

その他/ Others

授業形態：講義形式を中心とし、教材はテキストの一部分を参照しながら、適宜、レジュメや参考資料を配布、板書も利用する。受講者数や進捗具合を考慮しつつ、グループ・ディスカッションの機会を設ける予定である。参考資料の配布やリアクションペーパー・課題の提出などに授業支援システムの「Canvas LMS」を使用する。

フィードバック：各回のリアクションペーパーの内容について、次回の授業のはじめにフィードバックを行なう。

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 A 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 A

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

現代社会を支える化学：

グループ調査とプレゼンテーション

田渕 真理 (TABUCHI MARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH736

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

化学に関する技術の調査を通して、現代社会に欠かせない化学への理解と歴史への理解を深め、グループ単位での協調作業によって、プレゼンテーションやディスカッション、レポートにまとめる能力を高める。

Through research on chemical technology, we will deepen understanding of chemical technology and its history that supports the modern society, and improve our ability to compile presentations, discussions, and reports through collaborative work on a group basis.

授業の内容 / Course Contents

どのようなテーマがふさわしいかを最初に考え、テーマごとに5人くらいのグループを作る。協力して調査し、プレゼンテーションを行い、他のグループとの意見交換や討論を行う。そのような作業を通して情報技術への理解を深める。場合によっては授業計画を一部変更することもある。

Students begin to think about what kind of theme is appropriate, and we then create a group of about 5 students for each theme. Collaborate on research, give presentations, exchange ideas and discuss with other groups.

Deepen understanding of information technology through such work. In some cases, the lesson plan may be partially changed.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：全体の概要説明・グループ分け
- 2 回：グループでの研究テーマ探し (1/2)
- 3 回：グループでの研究テーマ探し (2/2) + テーマ決定
- 4 回：グループごとの調査 (1/3)
- 5 回：グループごとの調査 (2/3)
- 6 回：グループごとの調査 (3/3)
- 7 回：発表会・ディスカッション+新規グループ分け
- 8 回：グループでの研究テーマ探し (1/2)
- 9 回：グループでの研究テーマ探し (2/2) + テーマ決定
- 10 回：グループごとの調査 (1/3)
- 11 回：グループごとの調査 (2/3)
- 12 回：グループごとの調査 (3/3)
- 13 回：発表会・ディスカッション
- 14 回：まとめ (最終レポート提出)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

現代の情報社会を支える化学との関わりについて、何を知りたいか関心を持ってテーマをいくつかあげておくことが望ましい。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席と授業態度:40% 調査した成果:40% まとめのレポート:20%

テキスト / Textbooks

基礎となる知識については、適宜紹介します。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC を準備

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 B 科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通カリキュラム / 立教 B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

リスクマネジメントの令和時代的意義を探る ～多彩な現場の最前線から、君たちが生きぬくためのスキルを学べ～

辻 英之 (TSUJI HIDEYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH737
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日常のリスクを多面的に考察し、リスクをコントロールしつつ、豊かな人生を送るための教養と技能、そしてどのような状況にあっても生き抜くスキルを獲得することを目的とする。

The purpose is to acquire the knowledge and skills to live a fulfilling life while considering everyday risks from a multifaceted perspective, and to acquire the skills to survive in any situation.

授業の内容 / Course Contents

大学において、様々な危機管理を扱う分野や、金融に特化したリスク（保険）等を扱う分野の専門的講義はあると思われるが、誰でもが実際に遭遇する可能性が高い日常的なリスクを扱う学際的なリスクマネジメントの講義は少ない。本講義では、リスクの予防や対処の論理を教育資源ととらえ、リスクマネジメントを多角的な視座でとらえ直すことをおこなう。

また、科目担当者が 30 年の実践から導き出されたアクティブラーニング型の授業運営スタイル：ダイアログ

(対話)を活用した学び合いを駆使することにより、ゼミ形式における学びを深める。

なお、科目担当者は救命法国際トレーナーでもあり、緊急事態の対応や予防安全の観点から専門的知見も提示する。

At university, there may be specialized lectures in various fields dealing with crisis management and fields dealing with financial risks (insurance), etc., but there is a high possibility that anyone will actually encounter everyday There are few interdisciplinary risk management lectures dealing with risk. In this lecture, the logic of risk prevention and countermeasures will be treated as an educational resource, and risk management will be reconsidered from multiple perspectives.

In addition, the lecturer deepens learning in a seminar format by making full use of the active learning type class management style derived from 30 years of practice: mutual learning using dialogue.

In addition, the instructor of the course is also an international lifesaving trainer, and will present specialized knowledge from the perspective of emergency response and preventive safety.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：学び方の導入
- 3 回：リスクの一丁目一番地
- 4 回：待ったなし！ 救急の現場から（ゲスト：救命法国際トレーナー）
- 5 回：こどもの人権が危ない！（ゲスト：児童養護施設スタッフ）
- 6 回：犯罪心理と矯正教育（ゲスト：少年院法務教官）
- 7 回：中間まとめ
- 8 回：ファクトチェックとメディアリテラシー（ゲスト：新聞記者）
- 9 回：放射能汚染の真実とは！？（ゲスト：福島県の避難地区長）
- 10 回：マイクロプラスチックと環境リスク（ゲスト：離島の環境活動家）
- 11 回：これでいいのか日本の民主主義？（ゲスト：政治家あるいは弁護士）
- 12 回：学びのシェア
- 13 回：全体ダイアログプレゼン
- 14 回：総括まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習等の指示は、必要に応じて授業内あるいはCanvasLMSで行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 各回の授業後に提出するリアクションペーパーの内容:40% プレゼンなど授業内の成果物:30% 最終レポート:30%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

授業時に紹介する

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

ダイアログ主体の授業を貫くルールは、「参画」と「自己決定」。自分で考えて、自分で動いて参加すればするほど、楽しくなり、学びが大きくなる授業。持ってくるものは「やる気」。

担当者所属 NPO の URL <http://www.greenwood.or.jp>

その他/ Others

科目担当者は泰阜村で実際に活動する上記 NPO の代表理事である。毎週毎週、信州の山村から片道 5 時間（！）かけて大学に通う。

ゲストは現段階の予定なので、開講してから変更の可能性あり。

担当者所属 NPO の URL <http://www.greenwood.or.jp>

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 B 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

囲碁で養う考える力

兆 乾 (CHO CHEN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH739
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

日本の伝統文化として伝承されてきた囲碁の世界や歴史を学ぶと共に、対局を通して総合的な能力や創造性を養う。

Students will learn about the world and history of Go, which has been handed down as a traditional Japanese culture, and cultivate comprehensive abilities and creativity through the game.

授業の内容 / Course Contents

6 路盤、9 路盤では囲碁のルールを学ぶ。

19 路盤では模範碁を繰り返し並べながら技術を修得する。

また、囲碁の歴史や、世界的に広まり国際化している囲碁やその魅力について学ぶ。

Students will learn the rules of Go by 6x6 and 9x9 boards.

Students will learn the techniques by studying the model positions repeatedly on a 19x19 board.

Also, students will learn about the history of Go, the global and internationalized Go, and its attractiveness.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（授業進行の説明、囲碁の世界の紹介）
 ルールの解説①（6路盤）
- 2回：ルールの解説②と対局（6路盤）
- 3回：ルールの復習及び初歩技術①（9路盤模範碁の解説）
 9路盤対局
- 4回：ルールの復習及び初歩技術②（9路盤模範碁の解説）
 9路盤対局
- 5回：実践対局、又は
 9路盤指導対局
- 6回：囲碁の歴史
 9路盤対局
- 7回：模範碁の解説と対局①（19路盤での終局の判断と整地の仕方）
- 8回：模範碁の解説と対局②（19路盤模範碁の解説と実践対局）
 囲碁の歴史
- 9回：模範碁の解説と対局③（19路盤模範碁の解説と実践対局）
- 10回：9子局の解説・連碁（対局）
- 11回：模範碁の解説と対局④（19路盤模範碁の解説と実践対局）
- 12回：テスト
 実践対局
- 13回：模範碁の解説と対局⑤（19路盤模範碁の解説と実践対局）
- 14回：イベント対局、又は実践対局
 講義のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前にテキスト『東大教養囲碁講座』の該当項目を読んでおくこと。
 その他授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業態度および毎授業時のコメントペーパーの内容:70% テスト:30%

テキスト / Textbooks

石倉昇 梅沢由香里 黒瀧正憲 兵頭俊夫 『東大教養囲碁講座』 光文社 2007 9784334034108 -

参考文献 / Readings

『実践囲碁総合演習』

その他 / Others

基本的には講義形式で打ち方の解説をした後、受講生同士対局を行う予定である。

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 B 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

クリエイションの現場～インスピレーションの源泉としての音楽～

グレース, A. (GRACE AKIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH742
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

音楽制作を原点に「映像と音楽」「五感とクリエイション」「AIと音楽」「建築と音楽」など、学際的なアプローチで音源や作品を考察し、創造の現場について理解を深める。国際的な視点をもって芸術文化を見つめ、日本独自の感性についても、伝統と革新の両方から考察する。さらに、ディスカッションや発表を通して発想力を身につけ、自身の専門分野をより広い文脈で捉えられるようになる。音楽、映像、建築、絵画、文学など、何らかの創作活動に強い興味を持っている学生の履修が望ましい。

In this course, students will explore the scene of interdisciplinary creativity, placing music at the center, through topics such as “Music and Video Art”, “The Five Senses in Creativity”, “AI and Music”, and “Architecture and Music” examining various art forms. Students will learn about music, art, and culture from an international point of view, and gain a new appreciation of sensitivities unique to Japanese culture, both traditional and modern. Discussions and presentations on these topics will sometimes be held in the classroom when students will be able to investigate various ways of expressing themselves to convey their ideas to others, which will help them to comprehend their field more extensively. It is desirable that students have deep interests in creation, such as

music, video arts, architecture, visual arts, and literature, etc.

授業の内容 / Course Contents

ピアニスト・作曲家として日米を主な活動拠点とし、アルバム制作、演奏活動、視覚芸術とのコラボレーションなど創作活動を行ってきた立場から、制作現場の要所を伝え、ゆたかな発想への気づきを促す。ゲスト・スピーカーとのセッション、質疑応答などを通じて、様々な分野の創造の現場を感じてもらい、実際に作品や演奏に触れてもらう。コミュニケーションとしての即興演奏を体感する目的で、音楽家（今学期はフルート奏者、尺八奏者）を迎えて演奏する場も設ける。また、テレビ・プロデューサー、創業者、建築家など各分野の第一人者をゲスト・スピーカーとして迎えて、音楽を軸とした学際的な講義を行う。ゲスト・スピーカー回は全7回の予定。

As a pianist and composer who has been active (mainly in the U.S. and Japan) releasing albums, working with film and visual art, and so on, the lecturer will convey the diverse aspects of creating music and inspire awareness of the richness of the imagination. Guest speaker sessions along with questions and answers will be facilitated for participants to experience the scene of creation from various points of view. There will also be live performances with guest performers, a flutist and a shakuhachi player, invited to the classroom during this semester to provide sessions with the aim of presenting conversational improvisation as a form of non-verbal communication. In addition, leading experts in their fields, such as TV producer, company founder, architect will also be invited to the classroom for interdisciplinary lectures as guest speakers (7 guest speaker sessions in total).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：「クリエイションの現場」発想の源泉～創造的な思考力とは
- 2 回：沈黙は聞こえるのか？～静寂と音とクリエイション（即興リレー・連想編）
- 3 回：即興演奏とは～ライブ・コンサートの演奏の現場、セッションの魅力
ゲスト・スピーカー/ 赤木りえ・フルート奏者
- 4 回：調律とクリエイション～間違いだらけのクラシック音楽・ピアノ編
ゲスト・スピーカー/ 高木裕・調律師、ピアノ・プロデューサー
- 5 回：創造する思考力～作曲とビジネスの創造プロセスの対比
ゲスト・スピーカー/ 岡本晴彦・クリエイティブ・レストランツ・ホールディングス創業者
- 6 回：日本文学と音楽～「音読」の趣、無常観、月を弾く（即興リレー・物語編）
- 7 回：和楽器とクリエイション～尺八と新たな世界
ゲスト・スピーカー/ 藤原道山・尺八奏者、東京芸術大学准教授
- 8 回：AI は芸術作品を創れるか？～デジタル時代のクリエイション、アナログの秘めたる力
- 9 回：音とクルマとクリエイション～五感を研ぎ澄ます、音楽とものづくり
ゲスト・スピーカー/ 小島誠・オーディオ・ジャパン元広報部長
- 10 回：建築とクリエイション～建築と音楽と高次情報
ゲスト・スピーカー/ 豊田啓介・建築家、東京大学特任教授
- 11 回：シュールレアリスムと音楽～コラージュとミュージック・コンクレート
- 12 回：映像とクリエイション～音の色彩、音のテクスチュア（即興リレー・映像編）
- 13 回：メディアとクリエイション～テレビ音楽番組の作り方
ゲスト・スピーカー/ 鬼久保美帆・テレビ朝日「題名のない音楽会」プロデューサー
- 14 回：創造のモチベーション～インスピレーションの源泉としての音楽

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前学習については毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業毎のコメントペーパーと授業への参加度:60%

最終レポート割合：40%

単位取得のためには3/4以上の出席が必要。

テキスト / Textbooks

各授業回、もしくは事前に資料/プリントを配布する。講義内容は変更になる場合がある。

詳細は本講義内、及び公式ページ www.akikograce.com で案内する。

参考文献 / Readings

参考 CD アルバム

Akiko Grace, フロム・ニューヨーク, 日本コロムビア, 2002.1

Akiko Grace, マンハッタン・ストーリー, 日本コロムビア, 2002.9

Akiko Grace, ニューヨーク・スタイル, コロムビアミュージックエンタテインメント, 2003.7

Akiko Grace, フロム・オスロ, コロムビアミュージックエンタテインメント, 2004.1

Akiko Grace, イリューム, コロムビアミュージックエンタテインメント, 2006.6

Akiko G

その他 / Others

詳細は本講義内、及び公式ページ www.akikograce.com 等で案内する。

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 B 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム / 立教 B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

企業経営から地域経営へ

池尾 健 (IKEO KEN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH743

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面授業（ゲストスピーカーはオンライン登壇）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義ではゲストスピーカーによる講義とディスカッション、②①のトピックをもとにしたグループワーク、を1セットとして進めていきます。

中心となる講義テーマは「企業経営から地域経営へ」。

ゲストスピーカーは個別事業を営むという「点の取り組み」から、

その事業が位置する、もしくはその事業を展開する地域における「面の取り組み」について視点を広げ、地域「社会」・地域「経済」を担われています。

このことを「地域経営」と定義して、彼女 / 彼らと、学び合い、教え合い、

共に「地域の将来」を思考するとともに、自らの考

This lecture will consist of (1) a lecture and discussion by the guest speaker and (2) group work based on the topic in (1).

The central theme of the lecture is "From Business Management to Regional Management.

The guest speaker will be from the "point approach" of running an individual business,

The guest speakers are responsible for local "society" and local "economy" by expanding their perspectives from the "point approach" of running individual businesses to the "aspect approach" of the region in which the business is located or in which the business is developing.

We define this as "regional management," and we learn and teach each other,

We aim to deepen our own thinking as well as to think about the "future of the region" together with her/them.

Through these seminar activities, we hope to produce human resources who will play a leading role in the future of Japan, and in particular, the region,

We hope that the seminar will help us to enhance our presence as an institution that produces human resources for the future of Japan, and in particular, for the region.

授業の内容 / Course Contents

実際に地域社会・地域経済を担う「地域経営者」の方々から、

- ・ 製造業、小売流通業、IT 業などにおける経営フレームワークやトレンド
- ・ それらを地域経済に適用する場合にどのような取り組みが可能か
- ・ 数多くのケーススタディ 等を学びます。

これらの学びを習熟した上で、ほかの産業にそれらを持ち寄り取り込んでいく思考と、

ゲストスピーカーたる地域経営者や異なる専門領域を持つ教員によって提示されるインプットを踏まえ、「異分野の組み合わせによる知見」とそれらを意図的に組み合わせる「編集能力」を習得していきます。

本科目は、将来、地域にかかわり挑戦をしようとしている学生に向けて開講されます。

そのため、受講生は「地域」に関連するトピックを主としたグループワーク、ディスカッションに積極的に参加するなど、十分なアカデミックスキルと主体的姿勢を求めます。

また、有志となりますが「企業経営から地域経営へ」具体的な取り組みを行う経営者、事業者との協働プロジェクトをインターンシップ、

もしくはフィールドワークを含めたスタディツアーなどを通じて実現していく予定です（夏季休暇期間中など）。

From "local managers" who are actually responsible for the local community and local economy,

Management frameworks and trends in the manufacturing, retail distribution, and IT industries

What kind of approaches are possible when applying them to the local economy?

What can be done to apply these frameworks to the local economy, and numerous case studies.

After learning these lessons, we will bring them to other industries and incorporate them into our own thinking,

Based on the input provided by guest speakers such as regional managers and faculty members with different areas of expertise,

The students will acquire "knowledge through the combination of different fields" and "editing skills" to intentionally combine them.

This course is designed for students who intend to take on challenges related to the local community in the future.

Therefore, students are expected to have sufficient academic skills and a proactive attitude to actively participate in group work and discussions mainly on topics related to the "region."

In addition, although it will be on a voluntary basis, internships will be offered for collaborative projects with business owners and operators who are making concrete efforts to "shift from corporate management to regional management",

We are also planning to realize this through internships or study tours including fieldwork (during the summer vacation period, etc.).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスとイントロダクション
- 2回：ゲストスピーカーによる講義（登壇者未定）
- 3回：次回に向けたディスカッション
- 4回：ゲストスピーカーによる講義（登壇者未定）
- 5回：次回に向けたディスカッション
- 6回：ゲストスピーカーによる講義（登壇者未定）
- 7回：次回に向けたディスカッション
- 8回：ゲストスピーカーによる講義（登壇者未定）
- 9回：次回に向けたディスカッション
- 10回：ゲストスピーカーによる講義（登壇者未定）
- 11回：次回に向けたディスカッション
- 12回：ゲストスピーカーによる講義（登壇者未定）
- 13回：次回に向けたディスカッション
- 14回：ゲストスピーカーによる講義（登壇者未定）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

適宜指示します

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席及び授業毎のリアクションシート：60% 授業内課題（グループワークにおける発言・質問も含む）：10% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

講義内容に応じて、下記のような地域経営もしくは企業経営の実務家をゲストスピーカーとして呼びます。

ゲストスピーカー（予定）：実業における実績からそのノウハウを「地域経営に転用した経営者」とその実例紹介

- ・青山 敦士（島根県隠岐郡：株式会社海土）：隠岐四島にて「環境」「教育」「環境」を組み合わせた取り組み
- ・立花 千月香（福岡県柳川市：柳川藩主立花邸 御花）：18代続く歴史的資源を核とする取り組み
- ・細羽 雅之（愛媛県松野町：水際のロッジ）：四万十川の源流にある国定公園の中から起こす起業育成の取り組み

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 B 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

生命科学の発展と生命倫理

土屋 裕子 (TSUCHIYA YUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH744
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否： ○
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、生命倫理という答えのない問いについて、専門を異にする学生同士で議論することにより、自分の価値観や既存の倫理観を再考することを目指します。そして、社会には様々な価値観・倫理感が存在し、自分にとっての常識が誰かにとっての非常識であることを学ぶことにより、いかなる問題についても多角的な視点から考察し、多様な価値観を踏まえた意見を構築する能力を養うことを目標とします。

In this class, we aim to reconsider our own values and existing ethical views by discussing the unanswerable question of bioethics among students with different specialties. The class also aims to cultivate the ability to consider any issue from multiple perspectives and to construct opinions based on diverse values by learning that various values and ethical senses exist in society, and that what is common sense to you may be not common sense to someone else

授業の内容 / Course Contents

この授業では、日々進歩する医療・科学技術に関する最先端のテーマを取り扱います。たとえば、遺伝子診断技術や生殖補助技術といった新たな科学技術が生み出した倫理的問題、臓器移植や延命治療といった医療技術

の進歩が生み出した倫理的問題、新型コロナウイルス感染症が浮き彫りにした医療資源の配分の問題、さらに近年注目されている AI 技術の医療・福祉分野における利活用の問題等、今まさに社会的関心を集めているテーマを取り上げます。各参加者がこれまで培った知識と専門性を持ち寄り、科学技術の進歩がもたらす光と影を多角的な視点から考察し、人間と技術が今後どのように共存・協働していくべきかを参加者全員で議論します。講義内容に応じてゲストスピーカーを招聘することも予定しています。

This course deals with cutting-edge topics related to medical and scientific technologies that are advancing every day. For example, ethical issues arising from new scientific technologies such as genetic diagnosis and assisted reproduction, ethical issues arising from advances in medical technologies such as organ transplantation and life-support treatment, the allocation of medical resources as highlighted by COVID-19, and the utilization of AI technology in the medical and welfare fields, which has been the focus of much attention in recent years. Each participant will bring his or her knowledge and expertise to the session, and all participants will discuss how humans and technology should coexist and cooperate with each other in the future, examining from various perspectives the light and dark sides of technological progress. Guest speakers will be invited according to the content of the lectures.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：限られた医療資源の配分問題：あなたなら誰を助ける？
- 3 回：自己決定権：私の命は私が決める？
- 4 回：小児医療・新生児医療：自己決定できない人の命は誰が決める？
- 5 回：デザイナーベビー：生まれる命を操作していいの？
- 6 回：出生前診断：生まれる命を選んでいいの？
- 7 回：人工妊娠中絶：胎児ってどんな存在？
- 8 回：生殖補助医療①：技術は命の誕生にどこまで介入していいの？
- 9 回：生殖補助医療②：親子って何だろう？
- 10 回：脳死・臓器移植：脳死って人の死？
- 11 回：生体間移植・臓器売買：臓器の売買はいけないこと？
- 12 回：終末期医療：自分で死に方を決められる？
- 13 回：高齢者支援技術：介護はロボットにお任せ？
- 14 回：総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

日々進歩する科学技術について扱うため、日頃から新聞やニュース等で関連する情報を収集しておいてください。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度 (発言・コメントペーパー等) :70%

最終レポート割

合：:30%

なお、正当な理由なく欠席回数が3回を超えた場合は単位を認めません。

テキスト/ Textbooks

テキスト・参考文献は指定しませんが、必要に応じて関連資料や新聞記事の配布、視聴覚教材などを使用します

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

この授業では生命倫理の予備知識は必要としません。しかし、正解のない問題について根気強く考える忍耐力と探求心は必要となります。

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 B 科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通カリキュラム／立教 B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

現代社会を生きる

倉品 武文 (KURASHINA TAKEFUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH746
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： 抽選他
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義の目的は、世界や社会の課題を一緒に考えることである。諸課題に関して主体的に考察、提言することができるようになるための手がかりを得ることが到達目標である。現役記者による取材経験をもとにしたテーマ別の講義を受講し、日本経済新聞などの記事を教材にしながら視野を広げていく。受講生には文章を書いたり、話をしたりする体験を通じて、伝える力を身につけてほしい。

The purpose of this lecture is to think about global and social issues together. The goal of the course is to provide students with clues that will enable them to independently consider, and make proposals regarding various issues. Students will broaden their perspectives using articles from the Nihon Keizai Shimbun as teaching materials through lectures on different themes based on the reporting experience of working journalists. We hope that students will acquire the ability to communicate through the experience of writing and speaking.

授業の内容 / Course Contents

本講義では、受講生は講義テーマについて深掘りし、自ら判断し、評価できる力を身につける。就職後も役立つ記事の読み方、情報収集のコツを身につける。毎回、講師による解説だけでなく、受講生が世界や日本の社

会の課題について考えたこと、関心を持ったことなども適宜、発言してもらおう。

In this lecture, students will learn to delve deeply into lectures of interest to themes, and to develop critical thinking skills and judgment. Students will learn how to read articles and how to gather information that will be useful even after they find employment. Rather than lecturer commentary alone, students are to express their ideas and opinions about issues relating to the world and the Japanese society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：【ガイダンス】

講義①

授業の狙いや進め方などについて解説する。

講義②

日本経済新聞などを教材に世界や日本の話題を解説する。

受講生は本講義を受講した理由を短く書いて、授業開始時に教室で提出する。授業参加への問題意識を整理する。

2回：【時代を読む視点】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

基本的な新聞記事の読み方、情報の集め方を解説する。

受講生は関心のある世界や日本のトピックを選び、その理由などを短く文章に書いて、授業開始時に教室で提出する。

3回：【デジタル時代の情報収集術】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

ゲスト・スピーカーが日経電子版の機能や活用方法を解説する。

受講生はネットを利用する際、情報収集する際に感じている疑問や心掛けていることを短く文章にして、授業開始時に教室で提出する。

4回：【言葉を伝える】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

参考図書を1冊紹介し、題材の見つけ方、表現の工夫など編集者の視点を解説する。受講生には読書を通じてメッセージを読み取るきっかけにしてほしい。

5回：【私と大学】(前半)

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

受講生全員が第1回課題レポートを提出する。執筆テーマは別途、説明する。原稿用紙を配布する。(800文字程度)。受講生が執筆したレポートをもとに授業をする。

6回：【私と大学】(後半)

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

受講生が執筆し、提出する第1回課題レポートをもとに授業をする。

7回：【授業第1回～第6回を振り返る】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

受講生は本講義を受講して考えたことや疑問に思ったことを短く文章に書いて、授業開始時に教室で提出する。受講生から寄せられた意見や質問をもとにアドバイスする。

8回：【世界の今を知る】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

ゲスト・スピーカーがニュースのキーワードを解説する。

受講生は関心のある世界や日本のニュースについて疑問や意見を短く文章に書いて、授業開始時に教室で提出する。

9回：【豊かさとは何か】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

ゲスト・スピーカーが豊かさについて問題提起する解説をする。

受講生は「豊かさ」について感じる疑問や意見を短く文章に書いて、授業開始時に教室で提出する。

10回：【人生とお金】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

ゲスト・スピーカーが長い人生に必要なお金との付き合い方を解説する。

受講生は「お金」について関心のあること、疑問や意見を短く文章に書いて、授業開始時に教室で提出する。

11回：【会社って何だろう】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

ゲスト・スピーカーが会社が果たす役割について解説する。

受講生は「働く」ということについて関心のあること、疑問や意見を短く文章に書いて、授業開始時に教室で提出する。

12回：【多様性社会を生きる】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

ゲスト・スピーカーが会社での多様性のある組織づくりの取り組みを解説する。

受講生は「多様性ある社会」について考えたこと、意見や疑問などを短く文章に書いて、授業開始時に教室で

提出する。

13回：【読書に親しむ】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

受講生には、本講義の第1回で参考図書を配布する。受講期間中に読んで、感想や意見、疑問などを短く書いて、第13回の授業開始時に教室で提出する。受講生自身の思い出の1冊があれば書き添えてほしい。

14回：【まとめ】

講義①

日本経済新聞などを教材にニュースのトピックを解説する。

講義②

受講生から授業期間に寄せられた意見や質問をもとにアドバイスする。

受講生全員が第2回課題レポートを提出する。執筆テーマは別途、説明する。(1200字程度)。原稿用紙は配布する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

【予習課題】（1時間）

次回の授業テーマに関連した課題を出します。自らの意見や考えを短く書いて、授業で提出してください（200～400文字）。関心のある新聞やインターネットのニュースについて、その背景や関連情報などについても可能な限り下調べをする。

【復習課題】（1時間）

講義テーマについて関心を持った記事や資料を読み、さらに理解を深める。ニュースに親しみ、世界や日本の社会の課題について考える習慣をつける。気づいたこと、疑問に思ったことは授業の中で尋ねるようにしてほしい。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業テーマへの意見:30% 第1回課題レポート:30% 第2回課題レポート:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

伝える力を身につけたいという受講生の意欲を大事にしたいと思います。授業を通じて、短い文章を書く力、短く話す力をつける練習をします。事前に書いた文章を読みながらでも構わないのでチャレンジしてください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業では文章を提出したり、情報を集めたりします。自宅で構わないのでパソコンなどの電子機器があり、インターネットを利用できる環境があるとよいでしょう。

その他/ Others

本講義の担当者（倉品）は日本経済新聞社編集委員および立教大学兼任講師を務めている。社会に出る日を想定しながら、知識を覚えることよりも、一緒に考える時間を大事にしたいと思います。

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 B 科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／立教 B

立教ゼミナール

Seminars for Students of Rikkyo University

ジェンダーと国境を越えた移動

大野 聖良 (ONO SERA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FH747

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選他

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は以下 3 点である。

- ジェンダーとフェミニズムに関する基礎知識を身に着ける。
- 国境を越えた移動とジェンダーに関わる多様な事象と問題について説明できるようになる。
- ジェンダー化された移住労働と自らの生活との関連性、他者理解への試み

Through this course, students are expected to

- Acquire basic knowledge of gender and feminism
- Be able to explain various events and issues related to transnational migration and gender
- Deepen their understanding of others by considering the relevance of gendered migrant labor to their own lives

授業の内容 / Course Contents

「ジェンダーと国境を越えた移動」は、社会学や開発学など各専門分野が取り組んできた超学際的テーマである。アジアでは 1980 年代から女性の単身での国境を越えた移動が顕著になり、「移住労働の女性化」が進ん

だ。移民送り出し国のひとつであるフィリピンでは、国策としての海外就労は1970年代の湾岸諸国の男性労働を皮切りに始まったが、1980年代には東アジア諸国のサービス経済化と経済成長が顕著になり、香港・シンガポールの家事労働者や日本のエンターテイナーなど女性の移住労働が増えた。「移住労働の女性化」が拡大するにつれ、人身取引の被害や渡航先での虐待などの深刻な人権侵害が明らかになっていった。国内では移住女性の定着につれ次世代を取り巻く諸問題も現出してきた。これらを受け、国際機関や国家、民間支援団体など様々な水準で対策が試みられてきた。本ゼミでは、このような移住労働の女性化の経緯と、関連する事象を捉えるためのジェンダー研究やフェミニスト分析の重要な枠組み・議論を取り上げた上で、国際移住労働の具体的な事例と課題—たとえばエンターテイナー、家事労働者、介護労働、国際結婚、人身売買、性労働、リプロダクティブ・ヘルス&ライツなどに焦点を当てる。授業内では、労働や家族、再生産、インターセクショナル리티などフェミニズム、ジェンダー研究の基礎的知識、送り出し国におけるジェンダー分業や移民の創出の構造、移住労働により生じたジェンダー規範や社会の変化、日本をはじめとする受入国が移動女性労働を需要するようになった背景や当事者の状況と脆弱性、支援活動などについての文献講読を行なう。また、ゲストスピーカーによる講義や映像資料を用いることで、履修者によりリアリティのある身近な問題としてジェンダーと移住労働に関わる問題を考えてもらう。

"Gender and Transnational Migration" is a transdisciplinary theme that has been addressed by various disciplines, including sociology and development studies. In Asia, the "feminization of migrant labor" has become more pronounced since the 1980s, with single women moving across borders. In the Philippines, one of the migrant-sending countries, overseas work as a national policy began with male labor in the Gulf countries in the 1970s, but in the 1980s, the shift to service economies and economic growth in East Asian countries became prominent, and female migrant labor, including domestic workers in Hong Kong and Singapore and entertainers in Japan. The "feminization of migrant labor" has been expanding. As the "feminization of migrant labor" expanded, serious human rights abuses became apparent, including trafficking in persons and abuse in the destination countries. In Japan, as migrant women have become established in the country, various problems surrounding the next generation have emerged. In response to these issues, various measures have been attempted at various levels, including international organizations, national governments, and private support groups. In this seminar, we will discuss the history of feminization of migrant labor and important frameworks and debates of gender studies and feminist analysis to capture related events, and then discuss specific cases and issues of international migrant labor, such as entertainers, domestic workers, care work, international marriage, trafficking in persons, sex work, and re-trafficking, human trafficking, sex work, reproductive health and rights, etc. will be focused on. Within the class, we will discuss basic knowledge of feminism and gender studies, including labor, family, reproduction, and intersectionality; structures of gender division of labor and creation of migrants in sending countries; gender norms and social changes caused by migrant labor; the demand for migrant women's labor in Japan and other host countries. The course will include literature reading on the background of the demand for migrant women's labor in Japan and other host countries, the situation and vulnerabilities of the people involved, and support activities. In addition, lectures by guest speakers and video materials will be used to make students think about issues related to gender and migrant labor in a more realistic and familiar way.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：「国際移動とジェンダー」関連文献の講読とディスカッション（1）
ジェンダーとは何かについて基本概念を確認する。
- 3回：「国際移動とジェンダー」関連文献の講読とディスカッション（2）

「国際移住労働の女性化」など基本的概念を確認し、ジェンダー視点にもとづく移住労働研究について概観する。

4回：「国際移動とジェンダー」関連文献の講読とディスカッション（3）

移住女性による家事労働に関する研究を概観し、論点を確認する。

5回：映像視聴とディスカッション

前回に関する映像資料を視聴し、グループディスカッションを行う。

6回：東南アジア諸国における女性の移住労働の現状（1）

ゲストスピーカーを招聘し（予定）、東南アジア諸国の具体的な事例を学び、ディスカッションを行う。

7回：東南アジア諸国における女性の移住労働の現状（2）

ゲストスピーカーを招聘し（予定）、東南アジア諸国の具体的な事例を学び、ディスカッションを行う。

8回：日本における「国際移住労働の女性化」に関する文献講読とディスカッション（1）

日本において「国際移住労働の女性化」に関する議論を把握し、ディスカッションを通じて論点を整理する。

9回：映像資料とディスカッション

前回の授業に関する映像資料を視聴し、ディスカッションを行う。

10回：日本における「国際移住労働の女性化」に関する文献講読とディスカッション（2）

人身取引問題を中心に国際移住労働における人権問題について考える。

11回：映像視聴とディスカッション

前回の講義内容に関する映像資料を視聴し、ディスカッションを行う。

12回：日本における女性による「出稼ぎ」労働の歴史

ゲストスピーカーを招聘し（予定）、明治・大正期の日本女性たちによる「出稼ぎ」労働の歴史を学び、現代との繋がりについて考える。

13回：「国際移住労働の女性化」の帰結

日本における「国際移住労働の女性化」のひとつの帰結として、子どもの問題（ジャパニーズ・フィリピン・チルドレン）について取り上げる。

14回：まとめ

本ゼミの講義内容全体の振り返りを行う。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・事前に配布されたものについては、授業までに読んでおく。
- ・学んだ内容を定着させるために、授業中に配布・紹介した資料や参考文献、動画を確認し、学んだ内容を復習してほしい。
- ・新聞や書籍、TV番組などで授業内容に関連した事例や情報を集め、現代社会で起きている課題と授業内容をリンクさせながら、自分の考えを簡単な文章でまとめておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表・報告:30% ディスカッションへの貢献度:30%
合 :40%

最終レポート割

テキスト/ Textbooks

参考文献 / Readings

その他/ Others

- (1) ゲストスピーカーの都合や授業の進捗上等によって、授業スケジュールを変更する場合がある。
- (2) 人によっては不快を感じる映像資料を用いることがある。その点を了承したうえで授業にのぞんでほしい。

注意事項

2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 立教 B 科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通カリキュラム/立教 B

University in Modern Society

University in Modern Society

Food Culture: Writing as Method and Memory

マーケス, L. (MARQUEZ LOREN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FH760
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春期間外
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 英語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： Class Schedule: 8/1-2, 5-6 Period 2-4, 8/7 Period 2-3 Room : 4403

授業の目標 / Course Objectives

To learn the canons of rhetoric: invention, arrangement, memory, style, delivery

To apply rhetoric to writing and presentations.

To write an essay (5-6 pages) about a food memory or food cultural memory with outside sources

To deliver a 10 minute presentation including the use of a visual about it.

To reflect on the process of writing and revision of the essay

To participate in peer editing and peer workshopping

授業の内容 / Course Contents

Through a series of discussion of readings, documentaries, lectures, and writing workshops this course will focus on rhetoric centered around food, particularly the place food occupies in our memories and identities. Through writing, readings, documentaries, and food experiences, students will explore how food connects them to the land, culture, homes, and shapes identities. Students will write effectively about a food memory or experience using the techniques of narration, description, reflection, and source integration, as well as learn, use, and

implement the canons of rhetoric: invention, arrangement, memory, style, and delivery. Students will present their food memoir in an audio/visual presentation for their classroom peers and articulate the meaning of their food memoir and its connection to their voices and identities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Introduction: Food Culture and Writing as Method and Memory

-Introduction to Syllabus, Readings, and Writings

-What is Memoir? What is a Food Memoir?

-Overview (pre reading exercise) “Food is Good” Anthony Bourdain (food memory)

-Anthony Bourdain - Cook's

2 回：How to read a food memoir for invention and memory:

-Readings/overview of Bourdain, Das

-Lecture :Rhetoric and the Canons Overview/Lecture

-Quiz on Rhetorical Canons

3 回：Assignment Preparation and Expectations for Reading and Writing

-Assigned Reading for next class: M.F.K. Fisher- “The Gastronomical Me” and Bauer, "What Was Served"

-How to Write a Reading Response/Review Reading Response Assignment

-Return to prompt from

4 回：Invention and Food for Thought

-Reading and Discussion of Bauer, “What Was Served”

-Comparing: Bauer, Fisher, Bourdain, Das (Discussion of the narrative (story) and the food (description))
(partner work)

-Class Presentations Comparison and Contrast between

5 回：Invention and Committing to an Essay Topic

--Story/Narrative and brainstorming, professor-guided workshop

--In Class Writing of narrative, dialogue, reflection, perspective, metaphor

--In Class writing in the styles of Das, Bourdain, Fisher, Bauer

6 回：Integrating Invention Techniques

-Using the five approaches outlined, as well as the stylistic selections from the readings, begin a working draft of your food memory. 1-2 pages will be due at the start of the next class.

7 回：Arrangement and Organization of your Memory/Experience

Overview of Food Writing for Style and Organization

--Read:“Food Adjectives”: How to describe food like a food writer

--Read: David Sedaris “Tasteless”

--Read Roger Ebert, “Nil by Mouth”

-Describe an

8 回：Audience and Peer Review/ Integrating Research, Outside Sources

--Share your revised draft of your Food Memoir Essay in your peer review group

--Readers will read and critique: the narrative, the structure, and food writing techniques

--Readers will write

9 回：Organizational Approaches for Writing and Audience: Style: Style, Voice in reading and writing

--Lecture: Food and Memory

- Watch: "Milkbar" Christina Tocci from Netflix's Chef's Table (excerpts)
- Lecture: Writing Narrative and Reflection
- Reviewing Dra
- 10 回 : How to Read and Integrate Feedback/Preparing Presentation
- Read over Professor's comments to your writing
- Use the comments to improve draft
- How to Translate Text to Audio Visual Presentation
- Selecting Content for Presentation
- 11 回 : Preparing Final Essay for Style and Grammar/ Preparing Final Presentation
- Lecture: Style as canon, Style as Rhetorical Choice
- Integrating Style into Essay Drafts
- Outline and audio/visual clips written/selected for presentation/approved by Professor
- 12 回 : Presentations/Written Reflections on Presentations
- Each student will give a presentation
- Each student will be assigned to critique one of their classmate's presentations for required criteria
- 13 回 : Presentations/Written Reflections on Presentations
- Each student will give a presentation
- Each student will be assigned to critique one of their classmate's presentations for required criteria
- 14 回 : Final Essay Due/Last peer and professor Review
- Students will participate in one last peer review
- Students will make final changes to their essays
- Students will have final reflection on the course/their writing and what they have learned about writin

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be required to read and write assignments outside of class, as well as access Canvas to post their updated drafts, collaborate, and to make any changes. The amount each day will vary depending on how the student is pacing themselves, but on

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分: 2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Quiz on Rhetorical Canons/Description, Narrative, Reflection:10% Reading Response 1:5% Reading Response 2 Invention/short writing:5% Invention and Argument Draft for Professor:20% Peer Review:10% Presentation:15% 最終レポート割合 :10%最終テスト割合 :25%

テキスト / Textbooks

NONE

参考文献 / Readings

Professor will supply all the readings either as hard copies or url/pdf format

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PCs/laptops, canvas access

注意事項

- ・他にグローバル・リベラルアーツ・プログラム 所属学生/特別外国人学生が履修
- ・この授業は、英語圏での大学の授業を想定し、全て英語で行う
- ・以下の英語力を有していることが履修の目安になる

英検準 1 級, IELTS 5.5, TOEFL®iBT 72, TOEIC®L&R 785

- ・ Class Schedule:
- ・ 2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目 ・ 立教 A 科目

注意事項 (検索結果画面)

全学共通カリキュラム／立教 A

スポーツプログラム 1

Sports Program 1

はじめてのバレエ

吉田 真咲 (YOSHIDA MISAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI102
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 1
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

クラシックバレエの基本ポジションやパ（＝ステップ）を体験し、習得することによって、正しい姿勢や自分の身体の動きをコントロールする方法を身に付けていく。また、簡単なコンビネーションを行うことによって得られる心身への影響や踊る楽しさを知ることが目標とする。

By experiencing and learning the basic positions and steps of classical ballet, learn how to properly control your posture and the movement of your body. The goal is to learn the effect of physical and mental fitness and the joy of dancing by performing simple combinations.

授業の内容 / Course Contents

クラシックバレエの入門者、初心者を対象に、基礎エクササイズを体験することから始め、簡単なコンビネーションを行い、振付けられた簡単なグループ作品を踊り、発表する。各授業において、ストレッチングや筋コンディショニングも行う。また、クラシックバレエを行うことによって向上する体力について解説をする。

Start by experiencing basic exercises for first-timers and beginners to classical ballet, perform simple combinations, and dance and express yourself through simple choreographed group work. Stretching and muscle

conditioning are also conducted in each class. Also, improvements to physical strength through the performance of classical ballet is explained.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスと作品鑑賞
- 2回：ストレッチングと筋コンディショニング
- 3回：クラシックバレエの基礎～足のポジション～
- 4回：クラシックバレエの基礎～腕のポジション～
- 5回：クラシックバレエの基礎～脚の動き1～
- 6回：クラシックバレエの基礎～脚の動き2～
- 7回：クラシックバレエの基本レッスン1
- 8回：クラシックバレエの基本レッスン2
- 9回：クラシックバレエの基本レッスン3
- 10回：クラシックバレエの基本レッスンとコンビネーション1
- 11回：クラシックバレエの基本レッスンとコンビネーション2
- 12回：クラシックバレエの基本レッスンとコンビネーション3
- 13回：クラシックバレエの基本レッスンとコンビネーション4
- 14回：発表・まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業中に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席および参加態度:80% 技術の習熟度:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特になし。必要に応じて授業内で指示する。

参考文献 / Readings

特になし。必要に応じて授業内で指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

バレエ経験は問わない。入門レベルの内容となる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

バレエウェア、バレエシューズ等は特に必要はないが、動きやすい服装に着替えること

その他 / Others

初回授業の際、顔写真を持参すること、初回は更衣不要。

授業内容は学生のニーズや日程によって変更する場合がある。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

はじめてのバレエ

スポーツプログラム 1

Sports Program 1

はじめてのバレエ

吉田 真咲 (YOSHIDA MISAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI103
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 1
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

クラシックバレエの基本ポジションやパ（＝ステップ）を体験し、習得することによって、正しい姿勢や自分の身体の動きをコントロールする方法を身に付けていく。また、簡単なコンビネーションを行うことによって得られる心身への影響や踊る楽しさを知ることが目標とする。

By experiencing and learning the basic positions and steps of classical ballet, learn how to properly control your posture and the movement of your body. The goal is to learn the effect of physical and mental fitness and the joy of dancing by performing simple combinations.

授業の内容 / Course Contents

クラシックバレエの入門者、初心者を対象に、基礎エクササイズを体験することから始め、簡単なコンビネーションを行い、振付けられた簡単なグループ作品を踊り、発表する。各授業において、ストレッチングや筋コンディショニングも行う。また、クラシックバレエを行うことによって向上する体力について解説をする。

Start by experiencing basic exercises for first-timers and beginners to classical ballet, perform simple combinations, and dance and express yourself through simple choreographed group work. Stretching and muscle

conditioning are also conducted in each class. Also, improvements to physical strength through the performance of classical ballet is explained.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスと作品鑑賞
- 2回：ストレッチングと筋コンディショニング
- 3回：クラシックバレエの基礎～足のポジション～
- 4回：クラシックバレエの基礎～腕のポジション～
- 5回：クラシックバレエの基礎～脚の動き1～
- 6回：クラシックバレエの基礎～脚の動き2～
- 7回：クラシックバレエの基本レッスン1
- 8回：クラシックバレエの基本レッスン2
- 9回：クラシックバレエの基本レッスン3
- 10回：クラシックバレエの基本レッスンとコンビネーション1
- 11回：クラシックバレエの基本レッスンとコンビネーション2
- 12回：クラシックバレエの基本レッスンとコンビネーション3
- 13回：クラシックバレエの基本レッスンとコンビネーション4
- 14回：発表・まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業中に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席および参加態度:80% 技術の習熟度:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特になし。必要に応じて授業内で指示する。

参考文献 / Readings

特になし。必要に応じて授業内で指示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

バレエ経験は問わない。入門レベルの内容となる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

バレエウェア、バレエシューズ等は特に必要はないが、動きやすい服装に着替えること

その他 / Others

初回授業の際、顔写真を持参すること、初回は更衣不要。

授業内容は学生のニーズや日程によって変更する場合がある。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

はじめてのバレエ

スポーツプログラム 1

Sports Program 1

バドミントン

笛木 寛 (FUEKI YUTAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI104
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 1
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

バドミントンの基礎技術・基礎戦術を理解し、技能を身につける。個人及びチーム全体のパフォーマンスを向上させるために、戦略や練習を考え実行する能力を身につける。コミュニケーション能力を活かし、グループワークを有効に機能させる方法を身につける。

Understand the basic techniques and tactics of badminton and acquire skills. Acquire the ability to think and execute strategies and practices to improve individual and team performance. Learn how to make effective use of group work by utilizing communication skills.

授業の内容 / Course Contents

チーム分けをしたうえで、前半はバドミントンの基礎技術、基礎戦術を理解し、技能を身につけるために全体授業を行う。後半はチームごとに練習する時間（グループワーク）を設け、個人・チーム全体のパフォーマンスを向上させる。ゲーム形式は主に団体戦のダブルス。

After dividing into teams, the first half will be a general lesson to understand the basic techniques and tactics of badminton and acquire skills. In the second half, each team will have time to practice (group work) to improve

the performance of individuals and the team. The game format is mainly doubles for team battles.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：バドミントンのルール
- 3回：試しのゲーム、チーム分け
- 4回：クリア、スマッシュの打ち方
- 5回：リーグ戦①（クリア、スマッシュの打ち方）
- 6回：ドライブの打ち方
- 7回：リーグ戦②（ドライブの打ち方）
- 8回：ドロップ、ヘアピンの打ち方
- 9回：リーグ戦③（ドロップ、ヘアピンの打ち方）
- 10回：グループワーク（フットワーク）
- 11回：リーグ戦④（フットワーク）
- 12回：グループワーク（フォーメーション）
- 13回：リーグ戦⑤（フォーメーション）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み:50% 技術・戦術の習得度:20% グループワーク:20% 提出物:10%
遅刻2回で欠席1回に換算する。授業実施回数の2/3以上の出席をしていない場合は成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

バドミントンをプレーするのに適した服装とシューズ。ただし、専用のものでなくとも可。

その他 / Others

授業中のスマートフォンの使用を禁止します。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動が

できる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

バドミントン

スポーツプログラム 1

Sports Program 1

バドミントン

笛木 寛 (FUEKI YUTAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI105
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 1
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

バドミントンの基礎技術・基礎戦術を理解し、技能を身につける。個人及びチーム全体のパフォーマンスを向上させるために、戦略や練習を考え実行する能力を身につける。コミュニケーション能力を活かし、グループワークを有効に機能させる方法を身につける。

Understand the basic techniques and tactics of badminton and acquire skills. Acquire the ability to think and execute strategies and practices to improve individual and team performance. Learn how to make effective use of group work by utilizing communication skills.

授業の内容 / Course Contents

チーム分けをしたうえで、前半はバドミントンの基礎技術、基礎戦術を理解し、技能を身につけるために全体授業を行う。後半はチームごとに練習する時間（グループワーク）を設け、個人・チーム全体のパフォーマンスを向上させる。ゲーム形式は主に団体戦のダブルス。

After dividing into teams, the first half will be a general lesson to understand the basic techniques and tactics of badminton and acquire skills. In the second half, each team will have time to practice (group work) to improve

the performance of individuals and the team. The game format is mainly doubles for team battles.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：バドミントンのルール
- 3回：試しのゲーム、チーム分け
- 4回：クリア、スマッシュの打ち方
- 5回：リーグ戦①（クリア、スマッシュの打ち方）
- 6回：ドライブの打ち方
- 7回：リーグ戦②（ドライブの打ち方）
- 8回：ドロップ、ヘアピンの打ち方
- 9回：リーグ戦③（ドロップ、ヘアピンの打ち方）
- 10回：グループワーク（フットワーク）
- 11回：リーグ戦④（フットワーク）
- 12回：グループワーク（フォーメーション）
- 13回：リーグ戦⑤（フォーメーション）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み:50% 技術・戦術の習得度:20% グループワーク:20% 提出物:10%
遅刻2回で欠席1回に換算する。授業実施回数の2/3以上の出席をしていない場合は成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

バドミントンをプレーするのに適した服装とシューズ。ただし、専用のものでなくとも可。

その他 / Others

授業中のスマートフォンの使用を禁止します。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動が

できる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

バドミントン

スポーツプログラム 1

Sports Program 1

バドミントン

笛木 寛 (FUEKI YUTAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI106
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 1
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

バドミントンの基礎技術・基礎戦術を理解し、技能を身につける。個人及びチーム全体のパフォーマンスを向上させるために、戦略や練習を考え実行する能力を身につける。コミュニケーション能力を活かし、グループワークを有効に機能させる方法を身につける。

Understand the basic techniques and tactics of badminton and acquire skills. Acquire the ability to think and execute strategies and practices to improve individual and team performance. Learn how to make effective use of group work by utilizing communication skills.

授業の内容 / Course Contents

チーム分けをしたうえで、前半はバドミントンの基礎技術、基礎戦術を理解し、技能を身につけるために全体授業を行う。後半はチームごとに練習する時間（グループワーク）を設け、個人・チーム全体のパフォーマンスを向上させる。ゲーム形式は主に団体戦のダブルス。

After dividing into teams, the first half will be a general lesson to understand the basic techniques and tactics of badminton and acquire skills. In the second half, each team will have time to practice (group work) to improve

the performance of individuals and the team. The game format is mainly doubles for team battles.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：バドミントンのルール
- 3回：試しのゲーム、チーム分け
- 4回：クリア、スマッシュの打ち方
- 5回：リーグ戦①（クリア、スマッシュの打ち方）
- 6回：ドライブの打ち方
- 7回：リーグ戦②（ドライブの打ち方）
- 8回：ドロップ、ヘアピンの打ち方
- 9回：リーグ戦③（ドロップ、ヘアピンの打ち方）
- 10回：グループワーク（フットワーク）
- 11回：リーグ戦④（フットワーク）
- 12回：グループワーク（フォーメーション）
- 13回：リーグ戦⑤（フォーメーション）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み:50% 技術・戦術の習得度:20% グループワーク:20% 提出物:10%
遅刻2回で欠席1回に換算する。授業実施回数の2/3以上の出席をしていない場合は成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

バドミントンをプレーするのに適した服装とシューズ。ただし、専用のものでなくとも可。

その他 / Others

授業中のスマートフォンの使用を禁止します。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動が

できる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

バドミントン

スポーツプログラム 1

Sports Program 1

バドミントン

笛木 寛 (FUEKI YUTAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI107

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

バドミントンの基礎技術・基礎戦術を理解し、技能を身につける。個人及びチーム全体のパフォーマンスを向上させるために、戦略や練習を考え実行する能力を身につける。コミュニケーション能力を活かし、グループワークを有効に機能させる方法を身につける。

Understand the basic techniques and tactics of badminton and acquire skills. Acquire the ability to think and execute strategies and practices to improve individual and team performance. Learn how to make effective use of group work by utilizing communication skills.

授業の内容 / Course Contents

チーム分けをしたうえで、前半はバドミントンの基礎技術、基礎戦術を理解し、技能を身につけるために全体授業を行う。後半はチームごとに練習する時間（グループワーク）を設け、個人・チーム全体のパフォーマンスを向上させる。ゲーム形式は主に団体戦のダブルス。

After dividing into teams, the first half will be a general lesson to understand the basic techniques and tactics of badminton and acquire skills. In the second half, each team will have time to practice (group work) to improve

the performance of individuals and the team. The game format is mainly doubles for team battles.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：バドミントンのルール
- 3回：試しのゲーム、チーム分け
- 4回：クリア、スマッシュの打ち方
- 5回：リーグ戦①（クリア、スマッシュの打ち方）
- 6回：ドライブの打ち方
- 7回：リーグ戦②（ドライブの打ち方）
- 8回：ドロップ、ヘアピンの打ち方
- 9回：リーグ戦③（ドロップ、ヘアピンの打ち方）
- 10回：グループワーク（フットワーク）
- 11回：リーグ戦④（フットワーク）
- 12回：グループワーク（フォーメーション）
- 13回：リーグ戦⑤（フォーメーション）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み:50% 技術・戦術の習得度:20% グループワーク:20% 提出物:10%
遅刻2回で欠席1回に換算する。授業実施回数の2/3以上の出席をしていない場合は成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

バドミントンをプレーするのに適した服装とシューズ。ただし、専用のものでなくとも可。

その他 / Others

授業中のスマートフォンの使用を禁止します。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動が

できる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

バドミントン

スポーツプログラム 1

Sports Program 1

バドミントン

笛木 寛 (FUEKI YUTAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI108
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 1
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

バドミントンの基礎技術・基礎戦術を理解し、技能を身につける。個人及びチーム全体のパフォーマンスを向上させるために、戦略や練習を考え実行する能力を身につける。コミュニケーション能力を活かし、グループワークを有効に機能させる方法を身につける。

Understand the basic techniques and tactics of badminton and acquire skills. Acquire the ability to think and execute strategies and practices to improve individual and team performance. Learn how to make effective use of group work by utilizing communication skills.

授業の内容 / Course Contents

チーム分けをしたうえで、前半はバドミントンの基礎技術、基礎戦術を理解し、技能を身につけるために全体授業を行う。後半はチームごとに練習する時間（グループワーク）を設け、個人・チーム全体のパフォーマンスを向上させる。ゲーム形式は主に団体戦のダブルス。

After dividing into teams, the first half will be a general lesson to understand the basic techniques and tactics of badminton and acquire skills. In the second half, each team will have time to practice (group work) to improve

the performance of individuals and the team. The game format is mainly doubles for team battles.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：バドミントンのルール
- 3回：試しのゲーム、チーム分け
- 4回：クリア、スマッシュの打ち方
- 5回：リーグ戦①（クリア、スマッシュの打ち方）
- 6回：ドライブの打ち方
- 7回：リーグ戦②（ドライブの打ち方）
- 8回：ドロップ、ヘアピンの打ち方
- 9回：リーグ戦③（ドロップ、ヘアピンの打ち方）
- 10回：グループワーク（フットワーク）
- 11回：リーグ戦④（フットワーク）
- 12回：グループワーク（フォーメーション）
- 13回：リーグ戦⑤（フォーメーション）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み:50% 技術・戦術の習得度:20% グループワーク:20% 提出物:10%
遅刻2回で欠席1回に換算する。授業実施回数の2/3以上の出席をしていない場合は成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

バドミントンをプレーするのに適した服装とシューズ。ただし、専用のものでなくとも可。

その他 / Others

授業中のスマートフォンの使用を禁止します。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動が

できる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

バドミントン

スポーツプログラム3

Sports Program 3

バスケットボール

北村 麻衣 (KITAMURA MAI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI201

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 1

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

スポーツを通して健康・体力の維持増進を図り、自身の身体への気づきや興味を持ちながら運動を楽しめるようになる。

バスケットボールの基礎的な技術・戦術やルール・審判方法を学び、ゲーム運営ができるようになる。

The course aims to maintain and improve health and physical fitness through sports, and enjoy exercises while maintaining awareness and interest in your body.

Learn the fundamental techniques, tactics, rules, and refereeing methods of basketball and become able to manage the game.

授業の内容 / Course Contents

毎回新しい技術を習得し、習得した技術を試すミニゲームを多く行う。

授業が進むにつれて、審判方法やテーブルオフィシャルの方法を学び、ゲーム運営ができるようにする。

チーム毎に戦術を練り、練習をした上でリーグ戦を実施する。

Students learn new skills each time and play lots of minigames to test the skills they learn.

As the class advances, students learn about the duties of referees and table officials so that they will be able to manage games.

Each team polishes their tactics and plays a league game after practicing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション,自己紹介ゲーム,ボールに慣れる,ゴール下シュート
- 2回：ボールハンドリング,ジャンプシュート,様々な種類のパス,ミニゲーム
- 3回：ボールハンドリング,レイアップシュート,ドリブル,ミニゲーム
- 4回：ボールハンドリング,リバウンド,ターンシュート,ミニゲーム
- 5回：個人技術練習,グループ戦術①パス&カット,ミニゲーム
- 6回：個人技術練習,グループ戦術②サポート行動・合わせ,ミニゲーム
- 7回：個人技術練習,グループ戦術③スクリーン,ミニゲーム
- 8回：アウトナンバープレイ(2on1),審判方法の理解,ゲーム
- 9回：アウトナンバープレイ(3on2),審判方法の理解,ゲーム
- 10回：チーム分け,リーグ戦に向けたチーム練習
- 11回：リーグ戦①個人戦術を試す
- 12回：リーグ戦②集団戦術を試す
- 13回：リーグ戦③まとめ
- 14回：スキルテスト,まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業中に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 技術・戦術の習得度:30% グループワーク:30% 授業参加態度:30% 提出物:10%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

適宜プリント配布

参考文献 / Readings

その他 / Others

バスケットシューズまたは室内用のシューズを持参すること。

経験者・未経験者は問わない。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）

/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

バスケットボール

スポーツプログラム3

Sports Program 3

バスケットボール

北村 麻衣 (KITAMURA MAI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI202

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 1

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

スポーツを通して健康・体力の維持増進を図り、自身の身体への気づきや興味を持ちながら運動を楽しめるようになる。

バスケットボールの基礎的な技術・戦術やルール・審判方法を学び、ゲーム運営ができるようになる。

The course aims to maintain and improve health and physical fitness through sports, and enjoy exercises while maintaining awareness and interest in your body.

Learn the fundamental techniques, tactics, rules, and refereeing methods of basketball and become able to manage the game.

授業の内容 / Course Contents

毎回新しい技術を習得し、習得した技術を試すミニゲームを多く行う。

授業が進むにつれて、審判方法やテーブルオフィシャルの方法を学び、ゲーム運営ができるようにする。

チーム毎に戦術を練り、練習をした上でリーグ戦を実施する。

Students learn new skills each time and play lots of minigames to test the skills they learn.

As the class advances, students learn about the duties of referees and table officials so that they will be able to manage games.

Each team polishes their tactics and plays a league game after practicing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション,自己紹介ゲーム,ボールに慣れる,ゴール下シュート
- 2回：ボールハンドリング,ジャンプシュート,様々な種類のパス,ミニゲーム
- 3回：ボールハンドリング,レイアップシュート,ドリブル,ミニゲーム
- 4回：ボールハンドリング,リバウンド,ターンシュート,ミニゲーム
- 5回：個人技術練習,グループ戦術①パス&カット,ミニゲーム
- 6回：個人技術練習,グループ戦術②サポート行動・合わせ,ミニゲーム
- 7回：個人技術練習,グループ戦術③スクリーン,ミニゲーム
- 8回：アウトナンバープレイ(2on1),審判方法の理解,ゲーム
- 9回：アウトナンバープレイ(3on2),審判方法の理解,ゲーム
- 10回：チーム分け,リーグ戦に向けたチーム練習
- 11回：リーグ戦①個人戦術を試す
- 12回：リーグ戦②集団戦術を試す
- 13回：リーグ戦③まとめ
- 14回：スキルテスト,まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業中に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 技術・戦術の習得度:30% グループワーク:30% 授業参加態度:30% 提出物:10%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

適宜プリント配布

参考文献 / Readings

その他 / Others

バスケットシューズまたは室内用のシューズを持参すること。

経験者・未経験者は問わない。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）

/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

バスケットボール

スポーツプログラム 3

Sports Program 3

バレーボール

田中 博史 (TANAKA HIROSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI203
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 1
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、バレーボールの持つ本来の楽しさを理解しゲームが実施できるようすることを目的として実施する。各種基本技術の習得と、バレーボールのゲームで用いられる一般的な戦術やルールに基づいたゲームの展開方法などを学習し、よりハイレベルなゲーム展開を目指す。また、バレーボールを通じて他者とのコミュニケーション能力の向上や健康の保持・増進を促進できる能力及び主体的に取り組む姿勢、多様な学生との協働を身につける。

The purpose of this class is to understand the original enjoyment of volleyball and to be able to play the game. Students will learn various basic techniques and how to develop games based on general tactics and rules used in volleyball games, aiming for higher level game development. Furthermore, through volleyball, students will acquire the ability to improve their communication skills with others, the ability to promote the maintenance and promotion of health, the attitude to work independently, and the ability to collaborate with diverse students.

授業の内容 / Course Contents

バレーボールのゲームにおける基本的なリズム（パス（レシーブ）、トス、アタック）を使用したゲームが展開

できるようにするため、基本技術の習得練習に加えて、基本的なリズムの習得を目指した練習を取り入れ、ハイレベルなゲームを楽しめるように展開する。

In order to develop a game that uses the basic rhythms (pass (bump), toss, and spike) of the volleyball game, in addition to practicing basic techniques, practice aimed at mastering basic rhythms. Incorporate it and develop it so that you can enjoy high-level games.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション アイスブレイキング・ボール慣れ
- 2 回：三段攻撃の理解と実践①（複合型パス練習とミニゲーム）
- 3 回：三段攻撃の理解と実践②（レセプションアタックとミニゲーム）
- 4 回：三段攻撃の理解と実践③（乱打形式での練習とショートサーブでのゲーム）
- 5 回：7人制でのゲーム①（三段攻撃を用いたゲーム展開の習得）
- 6 回：7人制でのゲーム②（三段攻撃を用いたゲーム展開の習得）
- 7 回：7人制でのゲーム③（三段攻撃を用いたゲーム展開の習得）
- 8 回：攻守の切り替えとローテーションの理解
- 9 回：ゲームライクドリルと実際のゲーム①
- 10 回：ゲームライクドリルと実際のゲーム②
- 11 回：ゲームの実践（リーグ戦①）
- 12 回：ゲームの実践（リーグ戦②）
- 13 回：ゲームの実践（リーグ戦③）
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

実技授業の内容をノートにまとめ、理解を深めること

バレーボールの関連書籍や国際大会などを視聴し、バレーボールの理解を深めること

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度：70% 技術の習熟度：30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

日本バレーボール協会 『コーチングバレーボール（基礎編）』 大修館書店 2017 9784469268119 -

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

その他/ Others

特になし

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

バレーボール

スポーツプログラム 3

Sports Program 3

バレーボール

田中 博史 (TANAKA HIROSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI204
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 1
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、バレーボールの持つ本来の楽しさを理解しゲームが実施できるようすることを目的として実施する。各種基本技術の習得と、バレーボールのゲームで用いられる一般的な戦術やルールに基づいたゲームの展開方法などを学習し、よりハイレベルなゲーム展開を目指す。また、バレーボールを通じて他者とのコミュニケーション能力の向上や健康の保持・増進を促進できる能力及び主体的に取り組む姿勢、多様な学生との協働を身につける。

The purpose of this class is to understand the original enjoyment of volleyball and to be able to play the game. Students will learn various basic techniques and how to develop games based on general tactics and rules used in volleyball games, aiming for higher level game development. Furthermore, through volleyball, students will acquire the ability to improve their communication skills with others, the ability to promote the maintenance and promotion of health, the attitude to work independently, and the ability to collaborate with diverse students.

授業の内容 / Course Contents

バレーボールのゲームにおける基本的なリズム（パス（レシーブ）、トス、アタック）を使用したゲームが展開

できるようにするため、基本技術の習得練習に加えて、基本的なリズムの習得を目指した練習を取り入れ、ハイレベルなゲームを楽しめるように展開する。

In order to develop a game that uses the basic rhythms (pass (bump), toss, and spike) of the volleyball game, in addition to practicing basic techniques, practice aimed at mastering basic rhythms. Incorporate it and develop it so that you can enjoy high-level games.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション アイスブレーキング・ボール慣れ
- 2回：三段攻撃の理解と実践①（複合型パス練習とミニゲーム）
- 3回：三段攻撃の理解と実践②（レセプションアタックとミニゲーム）
- 4回：三段攻撃の理解と実践③（乱打形式での練習とショートサーブでのゲーム）
- 5回：7人制でのゲーム①（三段攻撃を用いたゲーム展開の習得）
- 6回：7人制でのゲーム②（三段攻撃を用いたゲーム展開の習得）
- 7回：7人制でのゲーム③（三段攻撃を用いたゲーム展開の習得）
- 8回：攻守の切り替えとローテーションの理解
- 9回：ゲームライクドリルと実際のゲーム①
- 10回：ゲームライクドリルと実際のゲーム②
- 11回：ゲームの実践（リーグ戦①）
- 12回：ゲームの実践（リーグ戦②）
- 13回：ゲームの実践（リーグ戦③）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

実技授業の内容をノートにまとめ、理解を深めること

バレーボールの関連書籍や国際大会などを視聴し、バレーボールの理解を深めること

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度：70% 技術の習熟度：30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

日本バレーボール協会 『コーチングバレーボール（基礎編）』 大修館書店 2017 9784469268119 -

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

その他/ Others

特になし

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

バレーボール

スポーツプログラム3

Sports Program 3

フラッグフットボール

伊藤 雅敏 (ITO MASATOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI205

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

アメリカンフットボール型のチームスポーツを通じて、コミュニケーション能力の重要性・Leadership スキルの構築を目指します。チームで作戦を立案・実践・修正を繰り返しながら、目標到達の醍醐味を実感します。

This class aims to develop students' leadership skills, an important factor of communication skills, through the team sport of American football. Experience the thrill of reaching your goals while repeatedly devising, implementing, and revising tactics as a team.

授業の内容 / Course Contents

フラッグフットボールはアメリカンフットボールの身体接触を排除して、性別・年齢に関係なく、誰でもチームに参画できるスポーツです。役割分担の明確化によってメンバー各々が、如何に「チームに貢献出来るか」をテーマとして授業をすすめます。クラスをチーム分けし、戦術・作戦を練り、効果的な方法を模索しながらゲームを楽しみます。

2028 年開催予定のロサンゼルスオリンピックに正式種目に採用されました。

Flag football is a sport which eliminates the physical contact of American football, allowing for anyone to

participate in a team regardless of gender or age. By defining the division of roles, each member is taught in the class “how to contribute to the team.” Classes are divided into teams, and students can enjoy the game while polishing tactics and strategies and searching for effective methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：ルール説明
- 3回：基本的技術練習（ハドル・しっぽ取り）
- 4回：基本的技術練習（エクステンジ）
- 5回：Offence Play(Run)
- 6回：Offence Play(Pass)
- 7回：守備の概念・実践
- 8回：作戦・戦術確認
- 9回：審判法
- 10回：リーグ戦
- 11回：リーグ戦
- 12回：リーグ戦
- 13回：リーグ戦
- 14回：振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業中に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と授業での活動参加:80% 最終レポート割合：20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

なし

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

フラッグフットボール

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

アダプテッドスポーツ

堀江 航 (HORIE WATARU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI251
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

アダプテッドスポーツ（障害者スポーツ）への理解を深め、障害の有無にかかわらずスポーツを楽しむ能力・見識を養う。スポーツ活動を通して、コミュニケーションスキル、自己表現、リーダーシップ等、一般社会において必要とされる能力を養う。

Deepen your understanding of Adapted Sports (sports for the handicapped), and cultivate the ability and insight to enjoy sports with or without handicaps. Through sports activities, cultivate skills that are necessary for the general public such as communication skills, self-expression and leadership.

授業の内容 / Course Contents

アダプテッド・スポーツの実技に加え、グループプレゼンテーションの作成、発表を実施する。

In addition to practice adapted sports, students prepare and present group presentations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

- 2回：車椅子スポーツ-1
- 3回：車椅子スポーツ-2
- 4回：車椅子スポーツ-3
- 5回：車椅子スポーツ-4
- 6回：車椅子スポーツ-5
- 7回：車椅子スポーツまとめ
- 8回：その他のアダプテッドスポーツ
- 9回：その他のアダプテッドスポーツ
- 10回：その他のアダプテッドスポーツ
- 11回：その他のアダプテッドスポーツ
- 12回：グループプレゼンテーション作成・発表
- 13回：グループプレゼンテーション作成・発表
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

なし

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席及び授業態度:30% 実技:30% グループプレゼンテーション:30% ポップクイズ:10%

2／3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

使用しない。必要に応じて適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

アダプテッドスポーツ

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

アダプテッドスポーツ

堀江 航 (HORIE WATARU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI252
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

アダプテッドスポーツ（障害者スポーツ）への理解を深め、障害の有無にかかわらずスポーツを楽しむ能力・見識を養う。スポーツ活動を通して、コミュニケーションスキル、自己表現、リーダーシップ等、一般社会において必要とされる能力を養う。

Deepen your understanding of Adapted Sports (sports for the handicapped), and cultivate the ability and insight to enjoy sports with or without handicaps. Through sports activities, cultivate skills that are necessary for the general public such as communication skills, self-expression and leadership.

授業の内容 / Course Contents

アダプテッド・スポーツの実技に加え、グループプレゼンテーションの作成、発表を実施する。

In addition to practice adapted sports, students prepare and present group presentations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

- 2回：車椅子スポーツ-1
- 3回：車椅子スポーツ-2
- 4回：車椅子スポーツ-3
- 5回：車椅子スポーツ-4
- 6回：車椅子スポーツ-5
- 7回：車椅子スポーツまとめ
- 8回：その他のアダプテッドスポーツ
- 9回：その他のアダプテッドスポーツ
- 10回：その他のアダプテッドスポーツ
- 11回：その他のアダプテッドスポーツ
- 12回：グループプレゼンテーション作成・発表
- 13回：グループプレゼンテーション作成・発表
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

なし

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席及び授業態度:30% 実技:30% グループプレゼンテーション:30% ポップクイズ:10%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

使用しない。必要に応じて適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

アダプテッドスポーツ

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

クライミング

富澤 隆一郎 (TOMIZAWA RYUICHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI253
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業ではスポーツクライミングの実践を通じて心・技・体の養成と向上を目指します。具体的にはスポーツクライミングの基礎的な知識と技術の習得、コミュニケーション能力と判断力の養成、体力の向上を目指します。

The objective of this class is to train and improve the mind, technique, and body by practicing sport climbing. Specifically, the aim is to acquire the fundamental knowledge and skills of sport climbing, develop communication and judgment skills, and improve physical strength.

授業の内容 / Course Contents

スポーツクライミングは道具に頼らずに自分の手足の力で壁を登る競技です。その中でも高さ 4m 程度の壁を登る、「ボルダリング種目」を中心に授業を行います。主に初級者を対象としています。10 分程度の講義の後、様々なコース（課題）に挑戦します。

Sport climbing is a tough sport that asks the athlete to climb walls with the power of his/her hands and feet

without relying on tools. In particular, classes will center on “bouldering” which involves climbing walls of about 4m high. This is mainly intended for beginners. After about 10 minutes of lecture, students will try a variety of courses (challenges).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：概論，危険性と安全対策
- 2回：パフォーマンス構造（体力，技術，戦術），簡単な体力測定
- 3回：戦術；課題の読み方1
- 4回：技術；足の置き方1
- 5回：技術；足の置き方2
- 6回：技術；ホールド（突起物）の持ち方
- 7回：技術；動き方1
- 8回：戦術；課題の読み方2
- 9回：技術；動き方2
- 10回：技術；動き方3
- 11回：ミニコンペ（理解度・達成度の確認）
- 12回：ルートセッティングとボルダリングセッション
- 13回：体力の再測定と最初との比較
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・必要に応じて授業中に指示します。
- ・クライミングシューズは大学が用意します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および取り組み姿勢:60% 理解度・達成度:20% 提出物:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

なし。必要に応じて授業中に資料を提示する。

参考文献 / Readings

なし。必要に応じて授業中に資料を提示する。

その他 / Others

日本山岳・スポーツクライミング協会 種目とルール <https://www.jma-climbing.org/rule/>

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

クライミング

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

クライミング

富澤 隆一郎 (TOMIZAWA RYUICHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI254
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業ではスポーツクライミングの実践を通じて心・技・体の養成と向上を目指します。具体的にはスポーツクライミングの基礎的な知識と技術の習得、コミュニケーション能力と判断力の養成、体力の向上を目指します。

The objective of this class is to train and improve the mind, technique, and body by practicing sport climbing. Specifically, the aim is to acquire the fundamental knowledge and skills of sport climbing, develop communication and judgment skills, and improve physical strength.

授業の内容 / Course Contents

スポーツクライミングは道具に頼らずに自分の手足の力で壁を登る競技です。その中でも高さ 4m 程度の壁を登る、「ボルダリング種目」を中心に授業を行います。主に初級者を対象としています。10 分程度の講義の後、様々なコース（課題）に挑戦します。

Sport climbing is a tough sport that asks the athlete to climb walls with the power of his/her hands and feet

without relying on tools. In particular, classes will center on “bouldering” which involves climbing walls of about 4m high. This is mainly intended for beginners. After about 10 minutes of lecture, students will try a variety of courses (challenges).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：概論，危険性と安全対策
- 2回：パフォーマンス構造（体力，技術，戦術），簡単な体力測定
- 3回：戦術；課題の読み方1
- 4回：技術；足の置き方1
- 5回：技術；足の置き方2
- 6回：技術；ホールド（突起物）の持ち方
- 7回：技術；動き方1
- 8回：戦術；課題の読み方2
- 9回：技術；動き方2
- 10回：技術；動き方3
- 11回：ミニコンペ（理解度・達成度の確認）
- 12回：ルートセッティングとボルダリングセッション
- 13回：体力の再測定と最初との比較
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・必要に応じて授業中に指示します。
- ・クライミングシューズは大学が用意します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および取り組み姿勢:60% 理解度・達成度:20% 提出物:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

なし。必要に応じて授業中に資料を提示する。

参考文献 / Readings

なし。必要に応じて授業中に資料を提示する。

その他 / Others

日本山岳・スポーツクライミング協会 種目とルール <https://www.jma-climbing.org/rule/>

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

クライミング

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

クライミング

西谷 善子 (NISHITANI YOSHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI255
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

クライミングの座学と実技を通して、正しい知識を身につけ、自分の身体の機能や動き等を学びながら、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じてスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。

Through climbing, students will learn to interact with their minds and bodies and cultivate the ability to enjoy climbing as a lifelong sport together with their peers while learning about the functions and movements of your body.

授業の内容 / Course Contents

2020+1 東京五輪の女子銀・銅メダル獲得でさらに注目が高まっているスポーツクライミング。

一見、力がないとできないスポーツと思われがちですが、決してそうではありません。

クライミングは誰にでも挑戦可能で、マイペースに楽しめるスポーツです。「体を使うチェス」と表現されたりするように、頭の使いようによって様々な可能性が開かれているというような限りない魅力を持っています。

本授業では、クライミングの中の「ボルダー（ボルダリング）」種目を中心に授業を展開し、クライミングに必

要な基礎知識を学びながら、自身の身体の機能や動き等の理解を深めます。また、仲間とともに自分たちの力で楽しさとやりがいを感じ得るように、グループワークも取り入れていきます。

※毎回、最初に簡単な座学を取り入れクライミングの知識を深めます。

ウォーミングアップで簡単な技術練習を行った後、各傾斜の壁をローテーションで登りながら理解を深めます。授業進行状況に合わせて順序、内容を変更することがあります。

With the 2020+1 Tokyo Olympics effect, sport climbing is attracting more and more attention. At first glance, climbing may seem to require a lot of arm strength, but it is a sport that anyone can try and enjoy at their own pace. It is also sometimes referred to as "chess with the body" because it requires thinking about how to move in your head.

In this course, classes will continue focusing on "boulder" among other climbing skills, and students will deepen their understanding of the functions and movements of their bodies while learning the basic knowledge necessary for climbing. Group work is also incorporated so that students can realize the joy and satisfaction of their own capabilities together with their peers.

*In each class, after a simple technique practice to warm up, students can climb the walls of each slope in rotation and deepen their understanding. The order and contents may change according to the progress of the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クライミング概論
- 2 回：クライミングの安全対策
- 3 回：技術；足の置き方 1
- 4 回：技術；足の置き方 2
- 5 回：技術；ホールドの持ち方
- 6 回：戦術；ルートを読む 1（オブザベーションの重要性）
- 7 回：戦術；ルートを読む 2（オブザベーションの重要性）
- 8 回：技術；ムーブ
- 9 回：応用；課題を作ってみる 1
- 10 回：応用；課題を作ってみる 2
- 11 回：中間実技テスト（理解度・達成度チェック）
- 12 回：応用；課題を作ってみる 3
- 13 回：実践；競技クライミング 1；ボルダー
- 14 回：実践；競技クライミング 2；ボルダー

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。

授業時間での疑問点、興味を持った点を調べ、予習、復習し、小レポート等にまとめていきましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度:60% 理解・達成度:20%

最終レポート割合 :20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト/Textbooks

特定のテキストは使用しませんが、必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。

興味がある人は『フリークライミングはじめました。 : ボルダリングから本格クライミングまで』と『スポーツクライミング ボルダリング 考える力を身につけながら楽しくレベルアップ!!』(西谷監修)を読むと授業の様子が分かります。授業を選択する前にぜひ読んでみてください。

参考文献 / Readings

授業の中で適宜紹介する。

その他/ Others

- ・クライミング経験は問いません。初心者でも OK です。
- ・初回～数日間は様々な部分（特に前腕部）が筋肉痛になります。
- ・各種目に適切な服装や靴，またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

クライミング

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

クライミング

西谷 善子 (NISHITANI YOSHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI256

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

クライミングの座学と実技を通して、正しい知識を身につけ、自分の身体の機能や動き等を学びながら、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じてスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。

Through climbing, students will learn to interact with their minds and bodies and cultivate the ability to enjoy climbing as a lifelong sport together with their peers while learning about the functions and movements of your body.

授業の内容 / Course Contents

2020+1 東京五輪の女子銀・銅メダル獲得でさらに注目が高まっているスポーツクライミング。

一見、力がないとできないスポーツと思われがちですが、決してそうではありません。

クライミングは誰にでも挑戦可能で、マイペースに楽しめるスポーツです。「体を使うチェス」と表現されたりするように、頭の使いようによって様々な可能性が開かれているというような限りない魅力を持っています。

本授業では、クライミングの中の「ボルダー（ボルダリング）」種目を中心に授業を展開し、クライミングに必

要な基礎知識を学びながら、自身の身体の機能や動き等の理解を深めます。また、仲間とともに自分たちの力で楽しさとやりがいを感じ得できるよう、グループワークも取り入れていきます。

※毎回、最初に簡単な座学を取り入れクライミングの知識を深めます。

ウォーミングアップで簡単な技術練習を行った後、各傾斜の壁をローテーションで登りながら理解を深めます。授業進行状況に合わせて順序、内容を変更することがあります。

With the 2020+1 Tokyo Olympics effect, sport climbing is attracting more and more attention. At first glance, climbing may seem to require a lot of arm strength, but it is a sport that anyone can try and enjoy at their own pace. It is also sometimes referred to as "chess with the body" because it requires thinking about how to move in your head.

In this course, classes will continue focusing on "boulder" among other climbing skills, and students will deepen their understanding of the functions and movements of their bodies while learning the basic knowledge necessary for climbing. Group work is also incorporated so that students can realize the joy and satisfaction of their own capabilities together with their peers.

*In each class, after a simple technique practice to warm up, students can climb the walls of each slope in rotation and deepen their understanding. The order and contents may change according to the progress of the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クライミング概論
- 2 回：クライミングの安全対策
- 3 回：技術；足の置き方 1
- 4 回：技術；足の置き方 2
- 5 回：技術；ホールドの持ち方
- 6 回：戦術；ルートを読む 1（オブザベーションの重要性）
- 7 回：戦術；ルートを読む 2（オブザベーションの重要性）
- 8 回：技術；ムーブ
- 9 回：応用；課題を作ってみる 1
- 10 回：応用；課題を作ってみる 2
- 11 回：中間実技テスト（理解度・達成度チェック）
- 12 回：応用；課題を作ってみる 3
- 13 回：実践；競技クライミング 1；ボルダー
- 14 回：実践；競技クライミング 2；ボルダー

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。

授業時間での疑問点、興味を持った点を調べ、予習、復習し、小レポート等にまとめていきましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度:60% 理解・達成度:20%

最終レポート割合 :20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト/Textbooks

特定のテキストは使用しませんが、必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。

興味がある人は『フリークライミングはじめました。 : ボルダリングから本格クライミングまで』と『スポーツクライミング ボルダリング 考える力を身につけながら楽しくレベルアップ!!』(西谷監修)を読むと授業の様子が分かります。授業を選択する前にぜひ読んでみてください。

参考文献 / Readings

授業の中で適宜紹介する。

その他/ Others

- ・クライミング経験は問いません。初心者でも OK です。
- ・初回～数日間は様々な部分（特に前腕部）が筋肉痛になります。
- ・各種目に適切な服装や靴，またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

クライミング

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

クライミング

富澤 隆一郎 (TOMIZAWA RYUICHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI257
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業ではスポーツクライミングの実践を通じて心・技・体の養成と向上を目指します。具体的にはスポーツクライミングの基礎的な知識と技術の習得、コミュニケーション能力と判断力の養成、体力の向上を目指します。

The objective of this class is to train and improve the mind, technique, and body by practicing sport climbing. Specifically, the aim is to acquire the fundamental knowledge and skills of sport climbing, develop communication and judgment skills, and improve physical strength.

授業の内容 / Course Contents

スポーツクライミングは道具に頼らずに自分の手足の力で壁を登る競技です。その中でも高さ 4m 程度の壁を登る、「ボルダリング種目」を中心に授業を行います。主に初級者を対象としています。10 分程度の講義の後、様々なコース（課題）に挑戦します。

Sport climbing is a tough sport that asks the athlete to climb walls with the power of his/her hands and feet

without relying on tools. In particular, classes will center on “bouldering” which involves climbing walls of about 4m high. This is mainly intended for beginners. After about 10 minutes of lecture, students will try a variety of courses (challenges).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：概論，危険性と安全対策
- 2回：パフォーマンス構造（体力，技術，戦術），簡単な体力測定
- 3回：戦術；課題の読み方1
- 4回：技術；足の置き方1
- 5回：技術；足の置き方2
- 6回：技術；ホールド（突起物）の持ち方
- 7回：技術；動き方1
- 8回：戦術；課題の読み方2
- 9回：技術；動き方2
- 10回：技術；動き方3
- 11回：ミニコンペ（理解度・達成度の確認）
- 12回：ルートセッティングとボルダリングセッション
- 13回：体力の再測定と最初との比較
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・必要に応じて授業中に指示します。
- ・クライミングシューズは大学が用意します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および取り組み姿勢:60% 理解度・達成度:20% 提出物:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

なし。必要に応じて授業中に資料を提示する。

参考文献 / Readings

なし。必要に応じて授業中に資料を提示する。

その他 / Others

日本山岳・スポーツクライミング協会 種目とルール <https://www.jma-climbing.org/rule/>

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

クライミング

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

クライミング

富澤 隆一郎 (TOMIZAWA RYUICHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI258
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業ではスポーツクライミングの実践を通じて心・技・体の養成と向上を目指します。具体的にはスポーツクライミングの基礎的な知識と技術の習得、コミュニケーション能力と判断力の養成、体力の向上を目指します。

The objective of this class is to train and improve the mind, technique, and body by practicing sport climbing. Specifically, the aim is to acquire the fundamental knowledge and skills of sport climbing, develop communication and judgment skills, and improve physical strength.

授業の内容 / Course Contents

スポーツクライミングは道具に頼らずに自分の手足の力で壁を登る競技です。その中でも高さ 4m 程度の壁を登る、「ボルダリング種目」を中心に授業を行います。主に初級者を対象としています。10 分程度の講義の後、様々なコース（課題）に挑戦します。

Sport climbing is a tough sport that asks the athlete to climb walls with the power of his/her hands and feet

without relying on tools. In particular, classes will center on “bouldering” which involves climbing walls of about 4m high. This is mainly intended for beginners. After about 10 minutes of lecture, students will try a variety of courses (challenges).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：概論，危険性と安全対策
- 2回：パフォーマンス構造（体力，技術，戦術），簡単な体力測定
- 3回：戦術；課題の読み方1
- 4回：技術；足の置き方1
- 5回：技術；足の置き方2
- 6回：技術；ホールド（突起物）の持ち方
- 7回：技術；動き方1
- 8回：戦術；課題の読み方2
- 9回：技術；動き方2
- 10回：技術；動き方3
- 11回：ミニコンペ（理解度・達成度の確認）
- 12回：ルートセッティングとボルダリングセッション
- 13回：体力の再測定と最初との比較
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・必要に応じて授業中に指示します。
- ・クライミングシューズは大学が用意します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および取り組み姿勢:60% 理解度・達成度:20% 提出物:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

なし。必要に応じて授業中に資料を提示する。

参考文献 / Readings

なし。必要に応じて授業中に資料を提示する。

その他 / Others

日本山岳・スポーツクライミング協会 種目とルール <https://www.jma-climbing.org/rule/>

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

クライミング

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

クライミング

富澤 隆一郎 (TOMIZAWA RYUICHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI259
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業ではスポーツクライミングの実践を通じて心・技・体の養成と向上を目指します。具体的にはスポーツクライミングの基礎的な知識と技術の習得、コミュニケーション能力と判断力の養成、体力の向上を目指します。

The objective of this class is to train and improve the mind, technique, and body by practicing sport climbing. Specifically, the aim is to acquire the fundamental knowledge and skills of sport climbing, develop communication and judgment skills, and improve physical strength.

授業の内容 / Course Contents

スポーツクライミングは道具に頼らずに自分の手足の力で壁を登る競技です。その中でも高さ 4m 程度の壁を登る、「ボルダリング種目」を中心に授業を行います。主に初級者を対象としています。10 分程度の講義の後、様々なコース（課題）に挑戦します。

Sport climbing is a tough sport that asks the athlete to climb walls with the power of his/her hands and feet

without relying on tools. In particular, classes will center on “bouldering” which involves climbing walls of about 4m high. This is mainly intended for beginners. After about 10 minutes of lecture, students will try a variety of courses (challenges).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：概論，危険性と安全対策
- 2回：パフォーマンス構造（体力，技術，戦術），簡単な体力測定
- 3回：戦術；課題の読み方1
- 4回：技術；足の置き方1
- 5回：技術；足の置き方2
- 6回：技術；ホールド（突起物）の持ち方
- 7回：技術；動き方1
- 8回：戦術；課題の読み方2
- 9回：技術；動き方2
- 10回：技術；動き方3
- 11回：ミニコンペ（理解度・達成度の確認）
- 12回：ルートセッティングとボルダリングセッション
- 13回：体力の再測定と最初との比較
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・必要に応じて授業中に指示します。
- ・クライミングシューズは大学が用意します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および取り組み姿勢:60% 理解度・達成度:20% 提出物:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

なし。必要に応じて授業中に資料を提示する。

参考文献 / Readings

なし。必要に応じて授業中に資料を提示する。

その他 / Others

日本山岳・スポーツクライミング協会 種目とルール <https://www.jma-climbing.org/rule/>

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

クライミング

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

クライミング

富澤 隆一郎 (TOMIZAWA RYUICHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI260
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業ではスポーツクライミングの実践を通じて心・技・体の養成と向上を目指します。具体的にはスポーツクライミングの基礎的な知識と技術の習得、コミュニケーション能力と判断力の養成、体力の向上を目指します。

The objective of this class is to train and improve the mind, technique, and body by practicing sport climbing. Specifically, the aim is to acquire the fundamental knowledge and skills of sport climbing, develop communication and judgment skills, and improve physical strength.

授業の内容 / Course Contents

スポーツクライミングは道具に頼らずに自分の手足の力で壁を登る競技です。その中でも高さ 4m 程度の壁を登る、「ボルダリング種目」を中心に授業を行います。主に初級者を対象としています。10 分程度の講義の後、様々なコース（課題）に挑戦します。

Sport climbing is a tough sport that asks the athlete to climb walls with the power of his/her hands and feet

without relying on tools. In particular, classes will center on “bouldering” which involves climbing walls of about 4m high. This is mainly intended for beginners. After about 10 minutes of lecture, students will try a variety of courses (challenges).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：概論，危険性と安全対策
- 2回：パフォーマンス構造（体力，技術，戦術），簡単な体力測定
- 3回：戦術；課題の読み方 1
- 4回：技術；足の置き方 1
- 5回：技術；足の置き方 2
- 6回：技術；ホールド（突起物）の持ち方
- 7回：技術；動き方 1
- 8回：戦術；課題の読み方 2
- 9回：技術；動き方 2
- 10回：技術；動き方 3
- 11回：ミニコンペ（理解度・達成度の確認）
- 12回：ルートセッティングとボルダリングセッション
- 13回：体力の再測定と最初との比較
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・必要に応じて授業中に指示します。
- ・クライミングシューズは大学が用意します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および取り組み姿勢:60% 理解度・達成度:20% 提出物:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

なし。必要に応じて授業中に資料を提示する。

参考文献 / Readings

なし。必要に応じて授業中に資料を提示する。

その他 / Others

日本山岳・スポーツクライミング協会 種目とルール <https://www.jma-climbing.org/rule/>

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

クライミング

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

クライミング

西谷 善子 (NISHITANI YOSHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI261

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

クライミングの座学と実技を通して、正しい知識を身につけ、自分の身体の機能や動き等を学びながら、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じてスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。

Through climbing, students will learn to interact with their minds and bodies and cultivate the ability to enjoy climbing as a lifelong sport together with their peers while learning about the functions and movements of your body.

授業の内容 / Course Contents

2020+1 東京五輪の女子銀・銅メダル獲得でさらに注目が高まっているスポーツクライミング。

一見、力がないとできないスポーツと思われがちですが、決してそうではありません。

クライミングは誰にでも挑戦可能で、マイペースに楽しめるスポーツです。「体を使うチェス」と表現されたりするように、頭の使いようによって様々な可能性が開かれているというような限りない魅力を持っています。

本授業では、クライミングの中の「ボルダー（ボルダリング）」種目を中心に授業を展開し、クライミングに必

要な基礎知識を学びながら、自身の身体の機能や動き等の理解を深めます。また、仲間とともに自分たちの力で楽しさとやりがいを感じ得できるよう、グループワークも取り入れていきます。

※毎回、最初に簡単な座学を取り入れクライミングの知識を深めます。

ウォーミングアップで簡単な技術練習を行った後、各傾斜の壁をローテーションで登りながら理解を深めます。授業進行状況に合わせて順序、内容を変更することがあります。

With the 2020+1 Tokyo Olympics effect, sport climbing is attracting more and more attention. At first glance, climbing may seem to require a lot of arm strength, but it is a sport that anyone can try and enjoy at their own pace. It is also sometimes referred to as "chess with the body" because it requires thinking about how to move in your head.

In this course, classes will continue focusing on "boulder" among other climbing skills, and students will deepen their understanding of the functions and movements of their bodies while learning the basic knowledge necessary for climbing. Group work is also incorporated so that students can realize the joy and satisfaction of their own capabilities together with their peers.

*In each class, after a simple technique practice to warm up, students can climb the walls of each slope in rotation and deepen their understanding. The order and contents may change according to the progress of the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クライミング概論
- 2 回：クライミングの安全対策
- 3 回：技術；足の置き方 1
- 4 回：技術；足の置き方 2
- 5 回：技術；ホールドの持ち方
- 6 回：戦術；ルートを読む 1（オブザベーションの重要性）
- 7 回：戦術；ルートを読む 2（オブザベーションの重要性）
- 8 回：技術；ムーブ
- 9 回：応用；課題を作ってみる 1
- 10 回：応用；課題を作ってみる 2
- 11 回：中間実技テスト（理解度・達成度チェック）
- 12 回：応用；課題を作ってみる 3
- 13 回：実践；競技クライミング 1；ボルダー
- 14 回：実践；競技クライミング 2；ボルダー

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。

授業時間での疑問点、興味を持った点を調べ、予習、復習し、小レポート等にまとめていきましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度:60% 理解・達成度:20%

最終レポート割合 :20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト/Textbooks

特定のテキストは使用しませんが、必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。

興味がある人は『フリークライミングはじめました。 : ボルダリングから本格クライミングまで』と『スポーツクライミング ボルダリング 考える力を身につけながら楽しくレベルアップ!!』(西谷監修)を読むと授業の様子が分かります。授業を選択する前にぜひ読んでみてください。

参考文献 / Readings

授業の中で適宜紹介する。

その他/ Others

- ・クライミング経験は問いません。初心者でも OK です。
- ・初回～数日間は様々な部分（特に前腕部）が筋肉痛になります。
- ・各種目に適切な服装や靴，またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

クライミング

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

クライミング

西谷 善子 (NISHITANI YOSHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI262

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

クライミングの座学と実技を通して、正しい知識を身につけ、自分の身体の機能や動き等を学びながら、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じてスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。

Through climbing, students will learn to interact with their minds and bodies and cultivate the ability to enjoy climbing as a lifelong sport together with their peers while learning about the functions and movements of your body.

授業の内容 / Course Contents

2020+1 東京五輪の女子銀・銅メダル獲得でさらに注目が高まっているスポーツクライミング。

一見、力がないとできないスポーツと思われがちですが、決してそうではありません。

クライミングは誰にでも挑戦可能で、マイペースに楽しめるスポーツです。「体を使うチェス」と表現されたりするように、頭の使いようによって様々な可能性が開かれているというような限りない魅力を持っています。

本授業では、クライミングの中の「ボルダー（ボルダリング）」種目を中心に授業を展開し、クライミングに必

要な基礎知識を学びながら、自身の身体の機能や動き等の理解を深めます。また、仲間とともに自分たちの力で楽しさとやりがいを感じ得できるよう、グループワークも取り入れていきます。

※毎回、最初に簡単な座学を取り入れクライミングの知識を深めます。

ウォーミングアップで簡単な技術練習を行った後、各傾斜の壁をローテーションで登りながら理解を深めます。授業進行状況に合わせて順序、内容を変更することがあります。

With the 2020+1 Tokyo Olympics effect, sport climbing is attracting more and more attention. At first glance, climbing may seem to require a lot of arm strength, but it is a sport that anyone can try and enjoy at their own pace. It is also sometimes referred to as "chess with the body" because it requires thinking about how to move in your head.

In this course, classes will continue focusing on "boulder" among other climbing skills, and students will deepen their understanding of the functions and movements of their bodies while learning the basic knowledge necessary for climbing. Group work is also incorporated so that students can realize the joy and satisfaction of their own capabilities together with their peers.

*In each class, after a simple technique practice to warm up, students can climb the walls of each slope in rotation and deepen their understanding. The order and contents may change according to the progress of the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クライミング概論
- 2 回：クライミングの安全対策
- 3 回：技術；足の置き方 1
- 4 回：技術；足の置き方 2
- 5 回：技術；ホールドの持ち方
- 6 回：戦術；ルートを読む 1（オブザベーションの重要性）
- 7 回：戦術；ルートを読む 2（オブザベーションの重要性）
- 8 回：技術；ムーブ
- 9 回：応用；課題を作ってみる 1
- 10 回：応用；課題を作ってみる 2
- 11 回：中間実技テスト（理解度・達成度チェック）
- 12 回：応用；課題を作ってみる 3
- 13 回：実践；競技クライミング 1；ボルダー
- 14 回：実践；競技クライミング 2；ボルダー

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。

授業時間での疑問点、興味を持った点を調べ、予習、復習し、小レポート等にまとめていきましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度:60% 理解・達成度:20%

最終レポート割合 :20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト/Textbooks

特定のテキストは使用しませんが、必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。

興味がある人は『フリークライミングはじめました。 : ボルダリングから本格クライミングまで』と『スポーツクライミング ボルダリング 考える力を身につけながら楽しくレベルアップ!!』(西谷監修)を読むと授業の様子が分かります。授業を選択する前にぜひ読んでみてください。

参考文献 / Readings

授業の中で適宜紹介する。

その他/ Others

- ・クライミング経験は問いません。初心者でも OK です。
- ・初回～数日間は様々な部分（特に前腕部）が筋肉痛になります。
- ・各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

クライミング

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

クライミング

富澤 隆一郎 (TOMIZAWA RYUICHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI263
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業ではスポーツクライミングの実践を通じて心・技・体の養成と向上を目指します。具体的にはスポーツクライミングの基礎的な知識と技術の習得、コミュニケーション能力と判断力の養成、体力の向上を目指します。

The objective of this class is to train and improve the mind, technique, and body by practicing sport climbing. Specifically, the aim is to acquire the fundamental knowledge and skills of sport climbing, develop communication and judgment skills, and improve physical strength.

授業の内容 / Course Contents

スポーツクライミングは道具に頼らずに自分の手足の力で壁を登る競技です。その中でも高さ 4m 程度の壁を登る、「ボルダリング種目」を中心に授業を行います。主に初級者を対象としています。10 分程度の講義の後、様々なコース（課題）に挑戦します。

Sport climbing is a tough sport that asks the athlete to climb walls with the power of his/her hands and feet

without relying on tools. In particular, classes will center on “bouldering” which involves climbing walls of about 4m high. This is mainly intended for beginners. After about 10 minutes of lecture, students will try a variety of courses (challenges).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：概論，危険性と安全対策
- 2回：パフォーマンス構造（体力，技術，戦術），簡単な体力測定
- 3回：戦術；課題の読み方 1
- 4回：技術；足の置き方 1
- 5回：技術；足の置き方 2
- 6回：技術；ホールド（突起物）の持ち方
- 7回：技術；動き方 1
- 8回：戦術；課題の読み方 2
- 9回：技術；動き方 2
- 10回：技術；動き方 3
- 11回：ミニコンペ（理解度・達成度の確認）
- 12回：ルートセッティングとボルダリングセッション
- 13回：体力の再測定と最初との比較
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・必要に応じて授業中に指示します。
- ・クライミングシューズは大学が用意します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および取り組み姿勢:60% 理解度・達成度:20% 提出物:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

なし。必要に応じて授業中に資料を提示する。

参考文献 / Readings

なし。必要に応じて授業中に資料を提示する。

その他 / Others

日本山岳・スポーツクライミング協会 種目とルール <https://www.jma-climbing.org/rule/>

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

クライミング

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

クライミング

富澤 隆一郎 (TOMIZAWA RYUICHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI264
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業ではスポーツクライミングの実践を通じて心・技・体の養成と向上を目指します。具体的にはスポーツクライミングの基礎的な知識と技術の習得、コミュニケーション能力と判断力の養成、体力の向上を目指します。

The objective of this class is to train and improve the mind, technique, and body by practicing sport climbing. Specifically, the aim is to acquire the fundamental knowledge and skills of sport climbing, develop communication and judgment skills, and improve physical strength.

授業の内容 / Course Contents

スポーツクライミングは道具に頼らずに自分の手足の力で壁を登る競技です。その中でも高さ 4m 程度の壁を登る、「ボルダリング種目」を中心に授業を行います。主に初級者を対象としています。10 分程度の講義の後、様々なコース（課題）に挑戦します。

Sport climbing is a tough sport that asks the athlete to climb walls with the power of his/her hands and feet

without relying on tools. In particular, classes will center on “bouldering” which involves climbing walls of about 4m high. This is mainly intended for beginners. After about 10 minutes of lecture, students will try a variety of courses (challenges).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：概論，危険性と安全対策
- 2 回：パフォーマンス構造（体力，技術，戦術），簡単な体力測定
- 3 回：戦術；課題の読み方 1
- 4 回：技術；足の置き方 1
- 5 回：技術；足の置き方 2
- 6 回：技術；ホールド（突起物）の持ち方
- 7 回：技術；動き方 1
- 8 回：戦術；課題の読み方 2
- 9 回：技術；動き方 2
- 10 回：技術；動き方 3
- 11 回：ミニコンペ（理解度・達成度の確認）
- 12 回：ルートセッティングとボルダリングセッション
- 13 回：体力の再測定と最初との比較
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

- ・必要に応じて授業中に指示します。
- ・クライミングシューズは大学が用意します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および取り組み姿勢:60% 理解度・達成度:20% 提出物:20%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

なし。必要に応じて授業中に資料を提示する。

参考文献 / Readings

なし。必要に応じて授業中に資料を提示する。

その他 / Others

日本山岳・スポーツクライミング協会 種目とルール <https://www.jma-climbing.org/rule/>

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

クライミング

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

バドミントン

大室 龍大 (OHMURO TATSUHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI265
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

バドミントンの基礎的な技術を身につけ、ダブルスのゲームが自分達でできるようになること。仲間との協調性を養うとともに、バドミントンの魅力を理解し、心身ともに健康で豊かな生活を送ることができる態度や能力を育てること。

Gain the fundamental techniques of badminton with ability to play games for doubles. Cultivate a spirit of cooperation with teammates, understand the appeal of badminton, and develop the behavior and ability to lead a mentally and physically healthy, prosperous life.

授業の内容 / Course Contents

基礎技術の習得とゲームを中心に授業を展開する。実践やセルフチェックを通じて、コミュニケーション能力、バランスのとれた理性的な判断力を養成する。

The class continues centering mainly on teaching the basic techniques and playing games. Through practicing badminton and self-checking, students learn the cultivating communication skills, well-balanced rationale, and

correct judgments.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション（授業内容、評価基準等の説明）、アイスブレイク
- 2回：ラリーを楽しむ、コートの設定
- 3回：模擬ゲーム
- 4回：基本サーブ
- 5回：オーバーショット
- 6回：アンダーショット
- 7回：スマッシュ
- 8回：ダブルスゲーム1（ダブルスゲームのルール）
- 9回：ダブルスゲーム2（ダブルスゲームの進行）
- 10回：ダブルスゲーム3（フットワーク）
- 11回：ダブルスゲーム4（ダブルスゲームの理解）
- 12回：ダブルスゲーム5（ダブルスゲームの戦術）
- 13回：ダブルスゲーム6（戦術のまとめ）
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業中に指示する。

実技ができるようにコンディションを整えること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度および授業態度:60% 技術および知識の習得、向上:20% 最終レポート割合：:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

積極的なコミュニケーションを求めます。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

バドミントン

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

バドミントン

大室 龍大 (OHMURO TATSUHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI266
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

バドミントンの基礎的な技術を身につけ、ダブルスのゲームが自分達でできるようになること。仲間との協調性を養うとともに、バドミントンの魅力を理解し、心身ともに健康で豊かな生活を送ることができる態度や能力を育てること。

Gain the fundamental techniques of badminton with ability to play games for doubles. Cultivate a spirit of cooperation with teammates, understand the appeal of badminton, and develop the behavior and ability to lead a mentally and physically healthy, prosperous life.

授業の内容 / Course Contents

基礎技術の習得とゲームを中心に授業を展開する。実践やセルフチェックを通じて、コミュニケーション能力、バランスのとれた理性的な判断力を養成する。

The class continues centering mainly on teaching the basic techniques and playing games. Through practicing badminton and self-checking, students learn the cultivating communication skills, well-balanced rationale, and

correct judgments.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション（授業内容、評価基準等の説明）、アイスブレイク
- 2回：ラリーを楽しむ、コートの設定
- 3回：模擬ゲーム
- 4回：サーブ
- 5回：オーバーショット
- 6回：アンダーショット
- 7回：スマッシュ
- 8回：ダブルスゲーム1（ダブルスゲームのルール）
- 9回：ダブルスゲーム2（ダブルスゲームの進行）
- 10回：ダブルスゲーム3（フットワーク）
- 11回：ダブルスゲーム4（ダブルスゲームの理解）
- 12回：ダブルスゲーム5（ダブルスゲームの戦術）
- 13回：ダブルスゲーム6（戦術のまとめ）
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業中に指示する。

実技ができるようにコンディションを整えること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ :100%

平常点割合 :100% 授業参加度および授業態度:60% 技術および知識の習得、向上:20% 最終レポート割合 :20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

積極的なコミュニケーションを求めます。

その他 / Others

スポーツを行う際のルールの遵守、マナーの向上（道具、服装、設備の利用法）を求めます。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）

/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

バドミントン

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

レクリエーションスポーツ

高橋 健太郎 (TAKAHASHI KENTARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI267
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

レクリエーションスポーツの基礎および方法を身につけ、場所やメンバーに応じてルールや道具を工夫し楽しむことを通して生涯スポーツの実践につなげる。

Master the fundamentals and processes of recreational sports and devise rules and tools to enjoy them based on location and members to contribute to a lifetime of practicing sports.

授業の内容 / Course Contents

室内で行うことのできるスポーツを取り上げる。毎回担当者 3～4 名を決め、ある種目をルールや使用する道具を応用して楽しむ方法を考え、発表し、それを全員で実践する。また学生同士のコミュニケーションを深めるため、実践の際は毎時間グループやチームを新たに作る。

Take up sports that can be played indoors. Each time, 3-4 people will be chosen to be in charge, who will decide and announce how to play based on the rules of the event and the implements to be used, and then the entire class will practice. To deepen communication between students, new groups and teams are created every hour

during practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：自己紹介 コミュニケーションゲーム

2 回：卓球①

3 回：卓球②

4 回：ユニホック①

5 回：ユニホック②

6 回：ボッチャ①

7 回：ボッチャ②

8 回：インディアカ①

9 回：インディアカ②

10 回：スポーツ吹き矢

11 回：フットサル①

12 回：フットサル②

13 回：ドッジビー①

14 回：ドッジビー②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

参加する学生，場所に応じてその回の担当者（グループ）はルールや道具の応用を考え，発表する。レジュメを用意すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表 (準備・実施) :25% 授業への参加態度:50% 最終レポート割合 :25%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を

確認すること。

注意事項（検索結果画面）

レクリエーションスポーツ

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

レクリエーションスポーツ

高橋 健太郎 (TAKAHASHI KENTARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI268
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

レクリエーションスポーツの基礎および方法を身につけ、場所やメンバーに応じてルールや道具を工夫し楽しむことを通して生涯スポーツの実践につなげる。

Master the fundamentals and processes of recreational sports and devise rules and tools to enjoy them based on location and members to contribute to a lifetime of practicing sports.

授業の内容 / Course Contents

室内で行うことのできるスポーツを取り上げる。毎回担当者 3～4 名を決め、ある種目をルールや使用する道具を応用して楽しむ方法を考え、発表し、それを全員で実践する。また学生同士のコミュニケーションを深めるため、実践の際は毎時間グループやチームを新たに作る。

Take up sports that can be played indoors. Each time, 3-4 people will be chosen to be in charge, who will decide and announce how to play based on the rules of the event and the implements to be used, and then the entire class will practice. To deepen communication between students, new groups and teams are created every hour

during practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：自己紹介 コミュニケーションゲーム

2 回：卓球①

3 回：卓球②

4 回：ユニホック①

5 回：ユニホック②

6 回：ボッチャ①

7 回：ボッチャ②

8 回：インディアカ①

9 回：インディアカ②

10 回：スポーツ吹き矢

11 回：フットサル①

12 回：フットサル②

13 回：ドッジビー①

14 回：ドッジビー②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

参加する学生，場所に応じてその回の担当者（グループ）はルールや道具の応用を考え，発表する。レジュメを用意すること。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表 (準備・実施) :25% 授業への参加態度:50% 最終レポート割合 :25%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を

確認すること。

注意事項（検索結果画面）

レクリエーションスポーツ

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

レクリエーションスポーツ

松尾 哲矢 (MATSUO TETSUYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI269
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、レクリエーションスポーツの基本的な考え方と方法、アレンジ方法を理解・実践し、生涯スポーツとして楽しむことの文化的意義など総合的、実践的に考究する。

In this course, students will understand and practice the basic concepts and methods of recreational sports and how to play them; students will also comprehensively and practically study the cultural significance of enjoying lifelong sports.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、社交を目的としたさまざまなレクリエーションスポーツの方法を学び、実践するとともにアレンジ方法を考究する。またレクリエーションスポーツの生涯スポーツとしての意味や文化的意義、身体的コミュニケーションの意味を考究する。

In this course, students will learn about and practice various recreational sports for socializing as well as studying various arrangement methods. This course will also focus on studying recreational sports' cultural significance,

the meaning of physical communication, and the meaning of recreational sports as a lifelong hobby.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：レクリエーションナショナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技 グラウンドゴルフ編
- 3回：レクリエーションナショナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技 ペタンク編
- 4回：スポーツの現在地と価値を考える
- 5回：レクリエーションナショナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技 車いすバスケットボール編（1）
- 6回：レクリエーションナショナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技 車いすバスケットボール編（2）
- 7回：レクリエーションナショナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技 ボッチャ編
- 8回：レクリエーションナショナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技 キンボール編
- 9回：ユニバーサル化に向けたスポーツアレンジ法の考え方と支援方法
- 10回：レクリエーションナショナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技 インディアカ、ソフトバレーボール、シッティングバレーボール編
- 11回：レクリエーションナショナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技 ユニホック編
- 12回：スポーツアレンジの実際 グループ発表（2）
- 13回：スポーツアレンジの実際 グループ発表（3）
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席・参加意欲・態度・取り組み:50% グループ発表:20% 最終レポート割合 :30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

松尾哲矢 『体づくり運動&トレ・ゲーム集』 ナツメ社 2016 9784816359927

必要に応じて授業中に紹介する。

その他 / Others

遅刻は厳禁、積極的な参画を期待しています。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

レクリエーションスポーツ

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

レクリエーションスポーツ

松尾 哲矢 (MATSUO TETSUYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI270
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、レクリエーションスポーツの基本的な考え方と方法、アレンジ方法を理解・実践し、生涯スポーツとして楽しむことの文化的意義など総合的、実践的に考究する。

In this course, students will understand and practice the basic concepts and methods of recreational sports and how to play them; students will also comprehensively and practically study the cultural significance of enjoying lifelong sports.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、社交を目的としたさまざまなレクリエーションスポーツの方法を学び、実践するとともにアレンジ方法を考究する。またレクリエーションスポーツの生涯スポーツとしての意味や文化的意義、身体的コミュニケーションの意味を考究する。

In this course, students will learn about and practice various recreational sports for socializing as well as studying various arrangement methods. This course will also focus on studying recreational sports' cultural significance,

the meaning of physical communication, and the meaning of recreational sports as a lifelong hobby.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：レクリエーションナショナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技 グラウンドゴルフ編
- 3回：レクリエーションナショナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技 ペタンク編
- 4回：スポーツの現在地と価値を考える
- 5回：レクリエーションナショナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技 車いすバスケットボール編（1）
- 6回：レクリエーションナショナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技 車いすバスケットボール編（2）
- 7回：レクリエーションナショナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技 ボッチャ編
- 8回：レクリエーションナショナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技 キンボール編
- 9回：ユニバーサル化に向けたスポーツアレンジ法の考え方と支援方法
- 10回：レクリエーションナショナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技 インディアカ、ソフトバレーボール、シッティングバレーボール編
- 11回：レクリエーションナショナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技 ユニホック編
- 12回：スポーツアレンジの実際 グループ発表（2）
- 13回：スポーツアレンジの実際 グループ発表（3）
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への出席・参加意欲・態度・取り組み:50% グループ発表:20% 最終レポート割合：30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

松尾哲矢 『体づくり運動&トレ・ゲーム集』 ナツメ社 2016 9784816359927

必要に応じて授業中に紹介する。

その他 / Others

遅刻は厳禁、積極的な参画を期待しています。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

レクリエーションスポーツ

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

レクリエーションスポーツ（英語）

水島 淳（MIZUSHIMA JUN）

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI271
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面（全回対面）/Face to face (all classes are face-to-face)
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1221
使用言語： 英語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業終了時に、以下の点を達成することが期待されます：

- 1) 他人との交流を通じて、公平かつ安全にレクリエーションスポーツを楽しむ方法を説明できるようになる。
- 2) 目的と練習内容、指導者の介入、対象学生の参加度合いに一貫性のあるセッション計画を作成できるようになる。
- 3) セッション計画実施に向けた準備、実施、評価を行えるようになる。

By the end of the course, students should be able to achieve the followings in recreational sports:

- 1) Explain how we can enjoy recreational sport by interacting with others in fair and safe environment,
- 2) Create session plans where objectives match up against proposed practice tasks, leader interventions and expected student engagement, and
- 3) Prepare, deliver planned sessions, followed by reflective assessments.

授業の内容 / Course Contents

本授業における使用言語は英語であり、受講生は英語でコミュニケーションをとることが求められます。授業内容は、受講生がレクリエーションスポーツにおける指導者としての技能を身につけることができるようにデザインされています。

All instructions for this course will be provided in English, and students will be encouraged to communicate in English at all times. The course content is designed to guide students becoming leaders in the recreational sports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Introduction: becoming leaders in recreational sports

ガイダンス：レクリエーションスポーツの指導者になる

2回：Model class: Boccia

モデル授業：ボッチャ

3回：Plan: group activity, create session plans

計画：グループ活動、セッション計画の作成

4回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

5回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

6回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

7回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

8回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

9回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

10回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

11回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

12回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

13回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

14回：Reflection: becoming leaders in recreational sports

まとめ：レクリエーションスポーツの指導者になる

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート: ○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to make session plans and prepare for delivering them.

セッション計画の作成と実施に向けた準備が求められます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Session plan（セッション計画）:30% Reflection sheet（振り返りシート）:30% Final report（最終課題）:30% Positive learning contribution（主体性）:10%

If attendance is less than two-thirds, the student will not be eligible for a grade evaluation.

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

レクリエーションスポーツ（英語）

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

レクリエーションスポーツ（英語）

水島 淳（MIZUSHIMA JUN）

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI272

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面（全回対面）/Face to face (all classes are face-to-face)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1221

使用言語： 英語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業終了時に、以下の点を達成することが期待されます：

- 1) 他人との交流を通じて、公平かつ安全にレクリエーションスポーツを楽しむ方法を説明できるようになる。
- 2) 目的と練習内容、指導者の介入、対象学生の参加度合いに一貫性のあるセッション計画を作成できるようになる。
- 3) セッション計画実施に向けた準備、実施、反省的評価を行えるようになる。

Course Objectives

By the end of the course, students should be able to achieve the followings in recreational sports:

- 1) Explain how we can enjoy recreational sport by interacting with others in fair and safe environment,
- 2) Create session plans where objectives match up against proposed practice tasks, leader interventions and expected student engagement, and
- 3) Prepare, deliver planned sessions, followed by reflective assessments.

授業の内容 / Course Contents

本授業における使用言語は英語であり、受講生は英語でコミュニケーションをとることが求められます。授業内容は、受講生がレクリエーションスポーツにおける指導者としての技能を身につけることができるようにデザインされています。

All instructions for this course will be provided in English, and students will be encouraged to communicate in English at all times. The course content is designed to guide students becoming leaders in the recreational sports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Introduction: becoming leaders in recreational sports

ガイダンス：レクリエーションスポーツの指導者になる

2回：Model class: Boccia

モデル授業：ボッチャ

3回：Plan: group activity, create session plans

計画：グループ活動、セッションプランの作成

4回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

5回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

6回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

7回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

8回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

9回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

10回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

11回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

12回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

13回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

14回：Reflection: becoming leaders in recreational sports

まとめ：レクリエーションスポーツの指導者になる

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート: ○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to make session plans and prepare for delivering them.

セッション計画の作成と実施に向けた準備が求められます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Session plan（セッション計画）:30% Reflection sheet（振り返りシート）:30% Final report（最終課題）:30% Positive learning contribution（主体性）:10%

If attendance is less than two-thirds, the student will not be eligible for a grade evaluation.

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

レクリエーションスポーツ（英語）

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

レクリエーションスポーツ（英語）

水島 淳（MIZUSHIMA JUN）

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI273
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面（全回対面）/Face to face (all classes are face-to-face)
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1221
使用言語： 英語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業終了時に、以下の点を達成することが期待されます：

- 1) 他人との交流を通じて、公平かつ安全にレクリエーションスポーツを楽しむ方法を説明できるようになる。
- 2) 目的と練習内容、指導者の介入、対象学生の参加度合いに一貫性のあるセッション計画を作成できるようになる。
- 3) セッション計画実施に向けた準備、実施、反省的評価を行えるようになる。

Course Objectives

By the end of the course, students should be able to achieve the followings in recreational sports:

- 1) Explain how we can enjoy recreational sport by interacting with others in fair and safe environment,
- 2) Create session plans where objectives match up against proposed practice tasks, leader interventions and expected student engagement, and
- 3) Prepare, deliver planned sessions, followed by reflective assessments.

授業の内容 / Course Contents

本授業における使用言語は英語であり、受講生は英語でコミュニケーションをとることが求められます。授業内容は、受講生がレクリエーションスポーツにおける指導者としての技能を身につけることができるようにデザインされています。

All instructions for this course will be provided in English, and students will be encouraged to communicate in English at all times. The course content is designed to guide students becoming leaders in the recreational sports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction: becoming leaders in recreational sports
ガイダンス：レクリエーションスポーツの指導者になる
- 2回：Model class: Boccia
モデル授業：ボッチャ
- 3回：Plan: group activity, create session plans
計画：グループ活動、セッションプランの作成
- 4回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う
- 5回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う
- 6回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う
- 7回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う
- 8回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う
- 9回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う
- 10回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う
- 11回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う
- 12回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う
- 13回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments
実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う
- 14回：Reflection: becoming leaders in recreational sports
まとめ：レクリエーションスポーツの指導者になる

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to make session plans and prepare for delivering them.

セッション計画の作成と実施に向けた準備が求められます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Session plan（セッション計画）:30% Reflection sheet（振り返りシート）:30% Final report（最終課題）:30% Positive learning contribution（主体性）:10%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項**

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

レクリエーションスポーツ（英語）

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

レクリエーションスポーツ（英語）

水島 淳 (MIZUSHIMA JUN)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI274
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1221
使用言語：	英語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業終了時に、以下の点を達成することが期待されます：

- 1) 他人との交流を通じて、公平かつ安全にレクリエーションスポーツを楽しむ方法を説明できるようになる。
- 2) 目的と練習内容、指導者の介入、対象学生の参加度合いに一貫性のあるセッション計画を作成できるようになる。
- 3) セッション計画実施に向けた準備、実施、反省的評価を行えるようになる。

By the end of the course, students should be able to achieve the followings in recreational sports:

- 1) Explain how we can enjoy recreational sport by interacting with others in fair and safe environment,
- 2) Create session plans where objectives match up against proposed practice tasks, leader interventions and expected student engagement, and
- 3) Prepare, deliver planned sessions, followed by reflective assessments.

授業の内容 / Course Contents

本授業における使用言語は英語であり、受講生は英語でコミュニケーションをとることが求められます。授業内容は、受講生がレクリエーションスポーツにおける指導者としての技能を身につけることができるようにデザインされています。

All instructions for this course will be provided in English, and students will be encouraged to communicate in English at all times. The course content is designed to guide students becoming leaders in the recreational sports.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：Introduction: becoming leaders in recreational sports

ガイダンス：レクリエーションスポーツの指導者になる

2回：Plan: group activity, create session plans

計画：グループ活動、セッションプランの作成

3回：Model class: Boccia

モデル授業：ボッチャ

4回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

5回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

6回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

7回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

8回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

9回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

10回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

11回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

12回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

13回：Deliver and review: deliver planned sessions, followed by reflective assessments

実施と評価：計画されたセッションを実施し、評価を行う

14回：Reflection: becoming leaders in recreational sports

まとめ：レクリエーションスポーツの指導者になる

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to make session plans and prepare for delivering them.

セッション計画の作成と実施に向けた準備が求められます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Session plan（セッション計画）:30% Reflection sheet（振り返りシート）:30% Final report（最終課題）:30% Positive learning contribution（主体性）:10%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

レクリエーションスポーツ（英語）

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

太極拳

劉 立凡 (RYU RIFAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI277

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

豊かな大学生活を送れるように健康づくり、運動不足の解消、体力アップを目指す。太極拳を通して運動能力を高め、それを楽しむ素養を身に付ける。

The objective of this course is to promote health, reduce lack of exercise and improve physical fitness so that students may lead a rich university life. Through Tai Chi, improve your athletic ability and learn the fundamental knowledge to enjoy it.

授業の内容 / Course Contents

健康を維持・増進させるための科学的知識を理解し、太極拳を通して、調心、調息、調身を中心としてトレーニングを行い、一つ一つの基本動作からスムーズに流れるまでゆっくりとして動く、虚実バランス身体運動を練習する。また、太極拳の背景について心身統一、養生思想も学ぶ。

Through understanding scientific knowledge for health maintenance and improvement and practicing Tai Chi, students undertake training focusing on posture, breathing and the mind, and slowly go from doing basic

movements one at a time to smooth flowing movements, practicing a truly balanced physical exercise. Students also learn about the background of Tai Chi, such as mind-body unity and healing concepts.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：太極拳の基本トレーニング
- 2 回：太極拳の起勢，左右野馬分そう
- 3 回：白鶴亮翅，左右樓膝拗歩
- 4 回：手揮琵琶，左右倒卷肱
- 5 回：左攬雀尾，右攬雀尾
- 6 回：単鞭，雲手，単鞭
- 7 回：高探馬，右登脚，双峰貫耳
- 8 回：轉身左登脚，左下勢独立
- 9 回：右下勢独立，左右穿梭
- 10 回：海底針，閃通臂
- 11 回：轉身搬攬捶，如封似閉
- 12 回：十字手，収勢
- 13 回：全体復習トレーニング
- 14 回：グループごとの発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて，授業中に指示する。

運動しやすい服装。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 技術の習得度、受講態度、出席状況など:70% 学期末レポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

著者楊進など『太極拳と呼吸の科学』（発行人池田哲雄 発行所株式会社ベースボール・マガジン社）

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラ

ツシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

太極拳

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

太極拳

劉 立凡 (RYU RIFAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI278

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

豊かな大学生活を送れるように健康づくり、運動不足の解消、体力アップを目指す。太極拳を通して運動能力を高め、それを楽しむ素養を身に付ける。

The objective of this course is to promote health, reduce lack of exercise and improve physical fitness so that students may lead a rich university life. Through Tai Chi, improve your athletic ability and learn the fundamental knowledge to enjoy it.

授業の内容 / Course Contents

健康を維持・増進させるための科学的知識を理解し、太極拳を通して、調心、調息、調身を中心としてトレーニングを行い、一つ一つの基本動作からスムーズに流れるまでゆっくりとして動く、虚実バランス身体運動を練習する。また、太極拳の背景について心身統一、養生思想も学ぶ。

Through understanding scientific knowledge for health maintenance and improvement and practicing Tai Chi, students undertake training focusing on posture, breathing and the mind, and slowly go from doing basic

movements one at a time to smooth flowing movements, practicing a truly balanced physical exercise. Students also learn about the background of Tai Chi, such as mind-body unity and healing concepts.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：太極拳の基本トレーニング
- 2 回：太極拳の起勢，左右野馬分そう
- 3 回：白鶴亮翅，左右樓膝拗歩
- 4 回：手揮琵琶，左右倒卷肱
- 5 回：左攬雀尾，右攬雀尾
- 6 回：単鞭，雲手，単鞭
- 7 回：高探馬，右登脚，双峰貫耳
- 8 回：轉身左登脚，左下勢独立
- 9 回：右下勢独立，左右穿梭
- 10 回：海底針，閃通臂
- 11 回：轉身搬攬捶，如封似閉
- 12 回：十字手，収勢
- 13 回：全体復習トレーニング
- 14 回：グループごとの発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて，授業中に指示する。

運動しやすい服装。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 技術の習得度、受講態度、出席状況など:70% 学期末レポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

著者楊進など『太極拳と呼吸の科学』（発行人池田哲雄 発行所株式会社ベースボール・マガジン社）

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラ

ツシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

太極拳

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

太極拳

劉 立凡 (RYU RIFAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI279

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

豊かな大学生活を送れるように健康づくり、運動不足の解消、体力アップを目指す。太極拳を通して運動能力を高め、それを楽しむ素養を身に付ける。

The objective of this course is to promote health, reduce lack of exercise and improve physical fitness so that students may lead a rich university life. Through Tai Chi, improve your athletic ability and learn the fundamental knowledge to enjoy it.

授業の内容 / Course Contents

健康を維持・増進させるための科学的知識を理解し、太極拳を通して、調心、調息、調身を中心としてトレーニングを行い、一つ一つの基本動作からスムーズに流れるまでゆっくりとして動く、虚実バランス身体運動を練習する。また、太極拳の背景について心身統一、養生思想も学ぶ。

Through understanding scientific knowledge for health maintenance and improvement and practicing Tai Chi, students undertake training focusing on posture, breathing and the mind, and slowly go from doing basic

movements one at a time to smooth flowing movements, practicing a truly balanced physical exercise. Students also learn about the background of Tai Chi, such as mind-body unity and healing concepts.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：太極拳の基本トレーニング
- 2 回：太極拳の起勢，左右野馬分そう
- 3 回：白鶴亮翅，左右樓膝拗歩
- 4 回：手揮琵琶，左右倒卷肱
- 5 回：左攬雀尾，右攬雀尾
- 6 回：単鞭，雲手，単鞭
- 7 回：高探馬，右登脚，双峰貫耳
- 8 回：轉身左登脚，左下勢独立
- 9 回：右下勢独立，左右穿梭
- 10 回：海底針，閃通臂
- 11 回：轉身搬攬捶，如封似閉
- 12 回：十字手，収勢
- 13 回：全体復習トレーニング
- 14 回：グループごとの発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて，授業中に指示する。

運動しやすい服装。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 技術の習得度、受講態度、出席状況など:70% 学期末レポート:30%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

著者楊進など『太極拳と呼吸の科学』（発行人池田哲雄 発行所株式会社ベースボール・マガジン社）

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラ

ツシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

太極拳

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

太極拳

劉 立凡 (RYU RIFAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI280

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

豊かな大学生活を送れるように健康づくり、運動不足の解消、体力アップを目指す。太極拳を通して運動能力を高め、それを楽しむ素養を身に付ける。

The objective of this course is to promote health, reduce lack of exercise and improve physical fitness so that students may lead a rich university life. Through Tai Chi, improve your athletic ability and learn the fundamental knowledge to enjoy it.

授業の内容 / Course Contents

健康を維持・増進させるための科学的知識を理解し、太極拳を通して、調心、調息、調身を中心としてトレーニングを行い、一つ一つの基本動作からスムーズに流れるまでゆっくりとして動く、虚実バランス身体運動を練習する。また、太極拳の背景について心身統一、養生思想も学ぶ。

Through understanding scientific knowledge for health maintenance and improvement and practicing Tai Chi, students undertake training focusing on posture, breathing and the mind, and slowly go from doing basic

movements one at a time to smooth flowing movements, practicing a truly balanced physical exercise. Students also learn about the background of Tai Chi, such as mind-body unity and healing concepts.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：太極拳の基本トレーニング
- 2回：太極拳の起勢，左右野馬分そう
- 3回：白鶴亮翅，左右樓膝拗歩
- 4回：手揮琵琶，左右倒卷肱
- 5回：左攬雀尾，右攬雀尾
- 6回：単鞭，雲手，単鞭
- 7回：高探馬，右登脚，双峰貫耳
- 8回：轉身左登脚，左下勢独立
- 9回：右下勢独立，左右穿梭
- 10回：海底針，閃通臂
- 11回：轉身搬攬捶，如封似閉
- 12回：十字手，収勢
- 13回：全体復習トレーニング
- 14回：グループごとの発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて，授業中に指示する。

運動しやすい服装。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 技術の習得度、受講態度、出席状況など:70% 学期末レポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

著者楊進など『太極拳と呼吸の科学』（発行人池田哲雄 発行所株式会社ベースボール・マガジン社）

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラ

ツシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

太極拳

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

太極拳

劉 立凡 (RYU RIFAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI281

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

豊かな大学生活を送れるように健康づくり、運動不足の解消、体力アップを目指す。太極拳を通して運動能力を高め、それを楽しむ素養を身に付ける。

The objective of this course is to promote health, reduce lack of exercise and improve physical fitness so that students may lead a rich university life. Through Tai Chi, improve your athletic ability and learn the fundamental knowledge to enjoy it.

授業の内容 / Course Contents

健康を維持・増進させるための科学的知識を理解し、太極拳を通して、調心、調息、調身を中心としてトレーニングを行い、一つ一つの基本動作からスムーズに流れるまでゆっくりとして動く、虚実バランス身体運動を練習する。また、太極拳の背景について心身統一、養生思想も学ぶ。

Through understanding scientific knowledge for health maintenance and improvement and practicing Tai Chi, students undertake training focusing on posture, breathing and the mind, and slowly go from doing basic

movements one at a time to smooth flowing movements, practicing a truly balanced physical exercise. Students also learn about the background of Tai Chi, such as mind-body unity and healing concepts.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：太極拳の基本トレーニング
- 2回：太極拳の起勢，左右野馬分そう
- 3回：白鶴亮翅，左右樓膝拗歩
- 4回：手揮琵琶，左右倒卷肱
- 5回：左攬雀尾，右攬雀尾
- 6回：単鞭，雲手，単鞭
- 7回：高探馬，右登脚，双峰貫耳
- 8回：轉身左登脚，左下勢独立
- 9回：右下勢独立，左右穿梭
- 10回：海底針，閃通臂
- 11回：轉身搬攬捶，如封似閉
- 12回：十字手，収勢
- 13回：全体復習トレーニング
- 14回：グループごとの発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて，授業中に指示する。

運動しやすい服装。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 技術の習得度、受講態度、出席状況など:70% 学期末レポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

著者楊進など『太極拳と呼吸の科学』（発行人池田哲雄 発行所株式会社ベースボール・マガジン社）

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラ

ツシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

太極拳

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

太極拳

劉 立凡 (RYU RIFAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI282

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

豊かな大学生活を送れるように健康づくり、運動不足の解消、体力アップを目指す。太極拳を通して運動能力を高め、それを楽しむ素養を身に付ける。

The objective of this course is to promote health, reduce lack of exercise and improve physical fitness so that students may lead a rich university life. Through Tai Chi, improve your athletic ability and learn the fundamental knowledge to enjoy it.

授業の内容 / Course Contents

健康を維持・増進させるための科学的知識を理解し、太極拳を通して、調心、調息、調身を中心としてトレーニングを行い、一つ一つの基本動作からスムーズに流れるまでゆっくりとして動く、虚実バランス身体運動を練習する。また、太極拳の背景について心身統一、養生思想も学ぶ。

Through understanding scientific knowledge for health maintenance and improvement and practicing Tai Chi, students undertake training focusing on posture, breathing and the mind, and slowly go from doing basic

movements one at a time to smooth flowing movements, practicing a truly balanced physical exercise. Students also learn about the background of Tai Chi, such as mind-body unity and healing concepts.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：太極拳の基本トレーニング
- 2回：太極拳の起勢，左右野馬分そう
- 3回：白鶴亮翅，左右樓膝拗歩
- 4回：手揮琵琶，左右倒卷肱
- 5回：左攬雀尾，右攬雀尾
- 6回：単鞭，雲手，単鞭
- 7回：高探馬，右登脚，双峰貫耳
- 8回：轉身左登脚，左下勢独立
- 9回：右下勢独立，左右穿梭
- 10回：海底針，閃通臂
- 11回：轉身搬攬捶，如封似閉
- 12回：十字手，収勢
- 13回：全体復習トレーニング
- 14回：グループごとの発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて，授業中に指示する。

運動しやすい服装。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 技術の習得度、受講態度、出席状況など:70% 学期末レポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

著者楊進など『太極拳と呼吸の科学』（発行人池田哲雄 発行所株式会社ベースボール・マガジン社）

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラ

ツシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

太極拳

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

太極拳

劉 立凡 (RYU RIFAN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI283

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

豊かな大学生活を送れるように健康づくり、運動不足の解消、体力アップを目指す。太極拳を通して運動能力を高め、それを楽しむ素養を身に付ける。

The objective of this course is to promote health, reduce lack of exercise and improve physical fitness so that students may lead a rich university life. Through Tai Chi, improve your athletic ability and learn the fundamental knowledge to enjoy it.

授業の内容 / Course Contents

健康を維持・増進させるための科学的知識を理解し、太極拳を通して、調心、調息、調身を中心としてトレーニングを行い、一つ一つの基本動作からスムーズに流れるまでゆっくりとして動く、虚実バランス身体運動を練習する。また、太極拳の背景について心身統一、養生思想も学ぶ。

Through understanding scientific knowledge for health maintenance and improvement and practicing Tai Chi, students undertake training focusing on posture, breathing and the mind, and slowly go from doing basic

movements one at a time to smooth flowing movements, practicing a truly balanced physical exercise. Students also learn about the background of Tai Chi, such as mind-body unity and healing concepts.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：太極拳の基本トレーニング
- 2回：太極拳の起勢，左右野馬分そう
- 3回：白鶴亮翅，左右樓膝拗歩
- 4回：手揮琵琶，左右倒卷肱
- 5回：左攬雀尾，右攬雀尾
- 6回：単鞭，雲手，単鞭
- 7回：高探馬，右登脚，双峰貫耳
- 8回：轉身左登脚，左下勢独立
- 9回：右下勢独立，左右穿梭
- 10回：海底針，閃通臂
- 11回：轉身搬攬捶，如封似閉
- 12回：十字手，収勢
- 13回：全体復習トレーニング
- 14回：グループごとの発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて，授業中に指示する。

運動しやすい服装。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 技術の習得度、受講態度、出席状況など:70% 学期末レポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

著者楊進など『太極拳と呼吸の科学』（発行人池田哲雄 発行所株式会社ベースボール・マガジン社）

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラ

ツシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

太極拳

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

日本文化と踊り（英語）

小林 敦子（KOBAYASHI ATSUKO）

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI284
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） Face to face（対面授業）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1221
使用言語： 英語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

「阿波踊り」は徳島市発祥の日本の代表的な盆踊りである。この授業では、「阿波踊り」の真髄と観光政策による変容を講義と実技を通して理解し、「阿波踊り」が海外の文化を取り入れながら、どのように「日本文化」として表象されているかを学ぶ。

Awa Odori is a representative dance festival originated from bon dance in Tokushima city. The aim of this course is to help students easily practice Awa Odori and understand the essence of Awa Odori and how Awa Odori transformed according to tourism policy. This course also shows many examples how Awa Odori transfused with other cultures.

授業の内容 / Course Contents

履修者全員が男女に関係なく、「阿波踊り」の自由型、「女踊り」および「男踊り」を実践する。学習成果として、自分で創作した囃子詞（「創作囃子詞」）を歌いながら踊る「阿波踊りパフォーマンス」を発表する。毎回講義と映像視聴（20分程度）と実技を併用する。

Every student taking this course practices free-style, male-style, and female-style dance, irrespective of one's gender, and lively demonstrates Awa Odori Performance while singing one's original cheer-up words. Before practicing Awa Odori in dance floor, students take a brief lecture and watch videos for ca. 20 minutes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction: guidance, contacts, and cheer-up words practice
ガイダンス・交流・囃子詞ワ
- 2回：Basic practice: listening to Awa Odori music, clapping, and practicing basic style dance
音楽を聴いて手拍子・
- 3回：Male dance 1 : dancing according to the music
「男踊り」1 お囃子に合わせて足運び
- 4回：Male dance 2 : moving your feet and arms according to the music
「男踊り」2 お囃子に合わせて足運びと手の所作
- 5回：Male dance 3: 3 main styles
「男踊り」3 三大主流を踊る
- 6回：Dancing and singing your original cheer-up words
「創作囃子詞」を歌いながら踊る
- 7回：Female dance 1: inward step
「女踊り」1 内輪の足運び
- 8回：Female dance 2: rotation
「女踊り」2 回転
- 9回：Practice of Awa Odori Performance 1
「阿波踊りパフォーマンス」練習1
- 10回：Practice of Awa Odori Performance 2
「阿波踊りパフォーマンス」練習2
- 11回：Practice of Awa Odori Performance 3
「阿波踊りパフォーマンス」練習3
- 12回：Practice of Awa Odori Performance 4
「阿波踊りパフォーマンス」練習4
- 13回：Awa Odori Performance Recital
「阿波踊りパフォーマンス」成果発表
- 14回：Overview まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

「創作囃子詞」(自分のオリジナルな囃子詞) を創る。
Creation of original cheer-up words

1日1分の自主練習

Practice of Dance for 1 minute a day at home

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002）/ Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内における取組み class participation:50% 阿波踊りパフォーマンス Awa Odori performance:30% 創作囃子詞 original cheer-up words:20% 最終レポート割合 :0%最終テスト割合 :0%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト/ Textbooks

No text is assigned. Handouts is distributed in the class.

テキストは指定しない。教員から授業資料を配布する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

This course is basically conducted in face-to-face and in English. Students need to understand basic English. Both of male and female students are welcomed.

教員による指示は原則として英語で行うため基本的な英語力を必要とする。男女共に歓迎する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Please wear clothes suitable for exercise and indoor shoes.

If you don't have indoor shoes, please practice in bare-foot.

運動しやすい服装（スカートは不可）・室内シューズ（ない場合は素足・靴下は使わない）

その他/ Others

This course is basically conducted in face-to-face and in English. Students must wear outfits adequate for sports and indoor shoes. Neither kimono nor yukata is necessary. Both of male and female students are welcomed.

Let's enjoy Awa Odori!

教員による指示は原則として

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

日本文化と踊り（英語）

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

ウォーターエクササイズ

小谷 実可子 (KOTANI MIKAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI300
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 水中での実技
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

①音楽に合わせて他者と同調させて泳ぐことにより、協調性とリズム感を養うとともに体力増強および柔軟性を高め、健やかな身体づくりに繋げる。

②アーティスティックスイミング（AS）のベーシックに挑戦することにより、水中での幅広い身体のコントロールの技術を身につける。

③学年や学部が違う者同士協力し合って、一つの演目を創り上げ、発表する。

(1) To develop coordination and a sense of rhythm by through artistic swimming with others, as well as to increase physical strength and flexibility, leading to the development of a healthy body.

(2) To acquire a wide range of body control skills in the water by challenging basic Artistic Swimming (AS).

(3) Students from different grades and faculties cooperate with each other to create and present a performance together as one team.

授業の内容 / Course Contents

<講義>

アーティスティックスイミング (AS) の歴史とオリンピックの意義について

<実技>

学期末の発表会を目標とし、全員参加で一つの演技を創り上げる

<テスト>

筆記のみ (アーティスティックスイミング《AS》の歴史や用語)

<Lecture>

History of Artistic Swimming (AS) and its significance for the Olympics

<Practical skills>

All participants will create a performance together for the goal of a presentation at the end of the semester.

<Test>

Written only (Artistic Swimming 《AS》 history and terminology)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンスおよび健康診断
- 2 回：泳力確認
- 3 回：泳ぎ練習および AS の基本技術の習得①
リズム水泳
- 4 回：泳ぎ練習および AS の基本技術の習得②
リズム水泳
- 5 回：発表用ルーティンの振り付け①
- 6 回：発表用ルーティンの振り付け②
- 7 回：発表用ルーティンの振り付け③
- 8 回：発表用ルーティンの同調性を高める練習①
- 9 回：発表用ルーティンの同調性を高める練習②
- 10 回：発表用ルーティンの同調性を高める練習③
- 11 回：発表用ルーティンの完遂度を高める練習①
- 12 回：発表用ルーティンの完遂度を高める練習②
- 13 回：実技発表
- 14 回：筆記テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド* (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ ランドリル (陸上での振り付け確認)
- ・ 水中練習時の動画を利用した振り付け復習
- ・ 柔軟体操

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 水中実技への積極性と出席率:60%

最終テスト割合：:40%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

・ 25m (2 種目以上) を楽に泳げる者

※Able to swim 25m (at least 2 events) with ease

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- ・ 水着 (ビキニ不可)
- ・ スイミングキャップ
- ・ ゴーグル
- ・ タオル

その他 / Others

初回授業は、授業内で健康診断 (問診) を実施するため、水着等の実技時の準備物は不要。

【重要】

- 水泳用健康診断を受診するため初回授業には必ず出席すること。
- 水泳用健康診断の結果により、履修取消となる場合がある。
- 当該年度の定期健康診断 (授業内健康診断とは別) を必ず受診すること。

※初回授業にて定期健康診断の受診の有無の確認が行われる。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター (池袋キャンパス) / 新座体育館 (新座キャンパス) の更衣室で行うこと。なお、第 1 回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口 (池袋キャンパス) / 体育館入口 (新座キャンパス) の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項 (検索結果画面)

ウォーターエクササイズ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

ウォーターエクササイズ

足立 哲 (ADACHI SATORU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI301
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

水の特性を知り、水泳・水中運動を通じて、水中環境下での運動について理解を深めます。水泳・水中運動を通して、健康づくり・体力向上・受講生自らが課題を発見し、解決への取り組みを行い、水と共に、コミュニケーション能力や幅広い視点から物事を考える能力の獲得を目標とします。

Learn about the characteristics of water and deepen your understanding of exercise in aquatic environments through swimming and underwater exercises. The objective of this course is for students to acquire communication skills and the ability to think about things from a broad perspective as well as promoting health, improving physical strength, and attending lectures to discover and practice new challenges with water.

授業の内容 / Course Contents

講義では、安全管理、水の特性、水中運動の特徴や効果、近代4泳法のポイントについて解説します。実技においては、浸水・水中での生理的応答や流体力学について触れながら、水中運動・水中レクリエーション・近代4泳法を基本に、様々な水泳（水球など）を実施します。泳力・泳技能により実施内容は調整しながら、自

ら学び・実践することを評価の対象とします。授業は全体を通じて、講義（1/3）、実技（2/3）を組み合わせで行います。

In the lecture, the characteristics of water, safety management, the characteristics and effects of underwater exercise and points of the 4 modern swimming styles are explained. For practical skills, students practice underwater movements, underwater recreation and various types of swimming based on the 4 modern swimming styles, while touching on the physiological responses of being underwater and fluid dynamics. The practice contents are organized by swimming skills, and students' individual learning and implementation is subject to evaluation. All the classes spend the first 1/3 on lectures and the remaining 2/3 on practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：講義：ガイダンス・安全管理・泳力問診

その他：水泳用健康診断（問診）

2回：講義：水の特性／水中運動の特徴・水泳の基本姿勢

実技：水慣れ（水遊び・呼吸法・けのび）/水中運動（ストレッチ・ウォーキング）／泳力確認

3回：講義：水の特性／推進の仕組み

実技：水中運動／水平推進／連続泳／水中レクリエーション

4回：講義：近代4泳法（クロール・背泳ぎ）の実際（動きと評価法）①

実技：クロール・背泳ぎ①

5回：講義：近代4泳法（クロール・背泳ぎ）の実際（動きと評価法）②

実技：クロール・背泳ぎ②

6回：講義：近代4泳法（平泳ぎ）の実際（動きと評価法）①

実技：平泳ぎの実際①

7回：講義：近代4泳法（平泳ぎ）の実際（動きと評価法）②

実技：平泳ぎの実際②

8回：講義：泳法の改善と定着

実技：連続泳・自己課題の整理と解決のための取り組み／立ち泳ぎ

9回：講義：泳法の改善と定着

実技：連続泳・自己課題の整理と解決のための取り組み／立ち泳ぎ

10回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

11回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

12回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

13回：講義：水泳・水中運動の運動強度とエネルギー消費量

実技：選択的有酸素運動プログラム（水中ウォーキング・中長距離泳）の実践

14回：講義：まとめ

実技：自己運動プログラムの実践

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：

実技・実習・実験 :○ 学内の教室外施設の利用 :○ 校外実習・フィールドワーク :

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関連する項目について事前に調べておくこと。

特に、泳げない泳法については、対象授業前に動作の把握を必ず行う事。

その他については、授業中に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加意欲・取り組み状況:70% 授業内レポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

財団法人日本水泳連盟 『水泳コーチ教本』 大修館書店 2005

財団法人日本水泳連盟 『水泳指導教本』 大修館書店 2005

出村慎一、他 『健康・スポーツ科学における運動処方としての水泳・水中運動』 杏林書院 2016

その他 / Others

初回授業内で水泳用健康診断（問診）を実施する予定です。

初回のみ水泳用具、動ける服装は不要です。

【重要】

- 水泳用健康診断を受診するため初回は必ず出席するようお願いします。
- 水泳用健康診断の結果により、履修取消となる場合があります。
- 当該年度の定期健康診断（授業内健康診断とは別）を必ず受診してください。

初回授業にて、定期健康診断受診の有無を確認します。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ウォーターエクササイズ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

ウォーターエクササイズ

足立 哲 (ADACHI SATORU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI302
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

水の特性を知り、水泳・水中運動を通じて、水中環境下での運動について理解を深めます。水泳・水中運動を通して、健康づくり・体力向上・受講生自らが課題を発見し、解決への取り組みを行い、水と共に、コミュニケーション能力や幅広い視点から物事を考える能力の獲得を目標とします。

Learn about the characteristics of water and deepen your understanding of exercise in aquatic environments through swimming and underwater exercises. The objective of this course is for students to acquire communication skills and the ability to think about things from a broad perspective as well as promoting health, improving physical strength, and attending lectures to discover and practice new challenges with water.

授業の内容 / Course Contents

講義では、安全管理、水の特性、水中運動の特徴や効果、近代4泳法のポイントについて解説します。実技においては、浸水・水中での生理的応答や流体力学について触れながら、水中運動・水中レクリエーション・近代4泳法を基本に、様々な水泳（水球など）を実施します。泳力・泳技能により実施内容は調整しながら、自

ら学び・実践することを評価の対象とします。授業は全体を通じて、講義（1/3）、実技（2/3）を組み合わせで行います。

In the lecture, the characteristics of water, safety management, the characteristics and effects of underwater exercise and points of the 4 modern swimming styles are explained. For practical skills, students practice underwater movements, underwater recreation and various types of swimming based on the 4 modern swimming styles, while touching on the physiological responses of being underwater and fluid dynamics. The practice contents are organized by swimming skills, and students' individual learning and implementation is subject to evaluation. All the classes spend the first 1/3 on lectures and the remaining 2/3 on practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：講義：ガイダンス・安全管理・泳力問診

その他：水泳用健康診断（問診）

2回：講義：水の特性／水中運動の特徴・水泳の基本姿勢

実技：水慣れ（水遊び・呼吸法・けのび）/水中運動（ストレッチ・ウォーキング）／泳力確認

3回：講義：水の特性／推進の仕組み

実技：水中運動／水平推進／連続泳／水中レクリエーション

4回：講義：近代4泳法（クロール・背泳ぎ）の実際（動きと評価法）①

実技：クロール・背泳ぎ①

5回：講義：近代4泳法（クロール・背泳ぎ）の実際（動きと評価法）②

実技：クロール・背泳ぎ②

6回：講義：近代4泳法（平泳ぎ）の実際（動きと評価法）①

実技：平泳ぎの実際①

7回：講義：近代4泳法（平泳ぎ）の実際（動きと評価法）②

実技：平泳ぎの実際②

8回：講義：泳法の改善と定着

実技：連続泳・自己課題の整理と解決のための取り組み／立ち泳ぎ

9回：講義：泳法の改善と定着

実技：連続泳・自己課題の整理と解決のための取り組み／立ち泳ぎ

10回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

11回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

12回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

13回：講義：水泳・水中運動の運動強度とエネルギー消費量

実技：選択的有酸素運動プログラム（水中ウォーキング・中長距離泳）の実践

14回：講義：まとめ

実技：自己運動プログラムの実践

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：

実技・実習・実験 :○ 学内の教室外施設の利用 :○ 校外実習・フィールドワーク :

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関連する項目について事前に調べておくこと。

特に、泳げない泳法については、対象授業前に動作の把握を必ず行う事。

その他については、授業中に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加意欲・取り組み状況:70% 授業内レポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

財団法人日本水泳連盟 『水泳コーチ教本』 大修館書店 2005

財団法人日本水泳連盟 『水泳指導教本』 大修館書店 2005

出村慎一、他 『健康・スポーツ科学における運動処方としての水泳・水中運動』 杏林書院 2016

その他 / Others

初回授業内で水泳用健康診断（問診）を実施する予定です。

初回のみ水泳用具、動ける服装は不要です。

【重要】

- 水泳用健康診断を受診するため初回は必ず出席するようお願いします。
- 水泳用健康診断の結果により、履修取消となる場合があります。
- 当該年度の定期健康診断（授業内健康診断とは別）を必ず受診してください。

初回授業にて、定期健康診断受診の有無を確認します。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ウォーターエクササイズ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

ウォーターエクササイズ

足立 哲 (ADACHI SATORU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI303
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

水の特性を知り、水泳・水中運動を通じて、水中環境下での運動について理解を深めます。水泳・水中運動を通して、健康づくり・体力向上・受講生自らが課題を発見し、解決への取り組みを行い、水と共に、コミュニケーション能力や幅広い視点から物事を考える能力の獲得を目標とします。

Learn about the characteristics of water and deepen your understanding of exercise in aquatic environments through swimming and underwater exercises. The objective of this course is for students to acquire communication skills and the ability to think about things from a broad perspective as well as promoting health, improving physical strength, and attending lectures to discover and practice new challenges with water.

授業の内容 / Course Contents

講義では、安全管理、水の特性、水中運動の特徴や効果、近代4泳法のポイントについて解説します。実技においては、浸水・水中での生理的応答や流体力学について触れながら、水中運動・水中レクリエーション・近代4泳法を基本に、様々な水泳（水球など）を実施します。泳力・泳技能により実施内容は調整しながら、自

ら学び・実践することを評価の対象とします。授業は全体を通じて、講義（1/3）、実技（2/3）を組み合わせで行います。

In the lecture, the characteristics of water, safety management, the characteristics and effects of underwater exercise and points of the 4 modern swimming styles are explained. For practical skills, students practice underwater movements, underwater recreation and various types of swimming based on the 4 modern swimming styles, while touching on the physiological responses of being underwater and fluid dynamics. The practice contents are organized by swimming skills, and students' individual learning and implementation is subject to evaluation. All the classes spend the first 1/3 on lectures and the remaining 2/3 on practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：講義：ガイダンス・安全管理・泳力問診

その他：水泳用健康診断（問診）

2回：講義：水の特性／水中運動の特徴・水泳の基本姿勢

実技：水慣れ（水遊び・呼吸法・けのび）/水中運動（ストレッチ・ウォーキング）／泳力確認

3回：講義：水の特性／推進の仕組み

実技：水中運動／水平推進／連続泳／水中レクリエーション

4回：講義：近代4泳法（クロール・背泳ぎ）の実際（動きと評価法）①

実技：クロール・背泳ぎ①

5回：講義：近代4泳法（クロール・背泳ぎ）の実際（動きと評価法）②

実技：クロール・背泳ぎ②

6回：講義：近代4泳法（平泳ぎ）の実際（動きと評価法）①

実技：平泳ぎの実際①

7回：講義：近代4泳法（平泳ぎ）の実際（動きと評価法）②

実技：平泳ぎの実際②

8回：講義：泳法の改善と定着

実技：連続泳・自己課題の整理と解決のための取り組み／立ち泳ぎ

9回：講義：泳法の改善と定着

実技：連続泳・自己課題の整理と解決のための取り組み／立ち泳ぎ

10回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

11回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

12回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

13回：講義：水泳・水中運動の運動強度とエネルギー消費量

実技：選択的有酸素運動プログラム（水中ウォーキング・中長距離泳）の実践

14回：講義：まとめ

実技：自己運動プログラムの実践

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：

実技・実習・実験 :○ 学内の教室外施設の利用 :○ 校外実習・フィールドワーク :

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関連する項目について事前に調べておくこと。

特に、泳げない泳法については、対象授業前に動作の把握を必ず行う事。

その他については、授業中に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加意欲・取り組み状況:70% 授業内レポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

財団法人日本水泳連盟 『水泳コーチ教本』 大修館書店 2005

財団法人日本水泳連盟 『水泳指導教本』 大修館書店 2005

出村慎一、他 『健康・スポーツ科学における運動処方としての水泳・水中運動』 杏林書院 2016

その他 / Others

初回授業内で水泳用健康診断（問診）を実施する予定です。

初回のみ水泳用具、動ける服装は不要です。

【重要】

- 水泳用健康診断を受診するため初回は必ず出席するようお願いします。
- 水泳用健康診断の結果により、履修取消となる場合があります。
- 当該年度の定期健康診断（授業内健康診断とは別）を必ず受診してください。

初回授業にて、定期健康診断受診の有無を確認します。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ウォーターエクササイズ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

ウォーターエクササイズ

足立 哲 (ADACHI SATORU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI304
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

水の特性を知り、水泳・水中運動を通じて、水中環境下での運動について理解を深めます。水泳・水中運動を通して、健康づくり・体力向上・受講生自らが課題を発見し、解決への取り組みを行い、水と共に、コミュニケーション能力や幅広い視点から物事を考える能力の獲得を目標とします。

Learn about the characteristics of water and deepen your understanding of exercise in aquatic environments through swimming and underwater exercises. The objective of this course is for students to acquire communication skills and the ability to think about things from a broad perspective as well as promoting health, improving physical strength, and attending lectures to discover and practice new challenges with water.

授業の内容 / Course Contents

講義では、安全管理、水の特性、水中運動の特徴や効果、近代4泳法のポイントについて解説します。実技においては、浸水・水中での生理的応答や流体力学について触れながら、水中運動・水中レクリエーション・近代4泳法を基本に、様々な水泳（水球など）を実施します。泳力・泳技能により実施内容は調整しながら、自

ら学び・実践することを評価の対象とします。授業は全体を通じて、講義（1/3）、実技（2/3）を組み合わせで行います。

In the lecture, the characteristics of water, safety management, the characteristics and effects of underwater exercise and points of the 4 modern swimming styles are explained. For practical skills, students practice underwater movements, underwater recreation and various types of swimming based on the 4 modern swimming styles, while touching on the physiological responses of being underwater and fluid dynamics. The practice contents are organized by swimming skills, and students' individual learning and implementation is subject to evaluation. All the classes spend the first 1/3 on lectures and the remaining 2/3 on practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：講義：ガイダンス・安全管理・泳力問診

その他：水泳用健康診断（問診）

2回：講義：水の特性／水中運動の特徴・水泳の基本姿勢

実技：水慣れ（水遊び・呼吸法・けのび）/水中運動（ストレッチ・ウォーキング）／泳力確認

3回：講義：水の特性／推進の仕組み

実技：水中運動／水平推進／連続泳／水中レクリエーション

4回：講義：近代4泳法（クロール・背泳ぎ）の実際（動きと評価法）①

実技：クロール・背泳ぎ①

5回：講義：近代4泳法（クロール・背泳ぎ）の実際（動きと評価法）②

実技：クロール・背泳ぎ②

6回：講義：近代4泳法（平泳ぎ）の実際（動きと評価法）①

実技：平泳ぎの実際①

7回：講義：近代4泳法（平泳ぎ）の実際（動きと評価法）②

実技：平泳ぎの実際②

8回：講義：泳法の改善と定着

実技：連続泳・自己課題の整理と解決のための取り組み／立ち泳ぎ

9回：講義：泳法の改善と定着

実技：連続泳・自己課題の整理と解決のための取り組み／立ち泳ぎ

10回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

11回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

12回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

13回：講義：水泳・水中運動の運動強度とエネルギー消費量

実技：選択的有酸素運動プログラム（水中ウォーキング・中長距離泳）の実践

14回：講義：まとめ

実技：自己運動プログラムの実践

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：

実技・実習・実験 :○ 学内の教室外施設の利用 :○ 校外実習・フィールドワーク :

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関連する項目について事前に調べておくこと。

特に、泳げない泳法については、対象授業前に動作の把握を必ず行う事。

その他については、授業中に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加意欲・取り組み状況:70% 授業内レポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

財団法人日本水泳連盟 『水泳コーチ教本』 大修館書店 2005

財団法人日本水泳連盟 『水泳指導教本』 大修館書店 2005

出村慎一、他 『健康・スポーツ科学における運動処方としての水泳・水中運動』 杏林書院 2016

その他 / Others

初回授業内で水泳用健康診断（問診）を実施する予定です。

初回のみ水泳用具、動ける服装は不要です。

【重要】

- 水泳用健康診断を受診するため初回は必ず出席するようお願いします。
- 水泳用健康診断の結果により、履修取消となる場合があります。
- 当該年度の定期健康診断（授業内健康診断とは別）を必ず受診してください。

初回授業にて、定期健康診断受診の有無を確認します。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ウォーターエクササイズ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

セルフケアエクササイズ

大石 友子 (OOISHI TOMOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI306
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

「自分自身とも環境とも調和して生きる」、この現代社会の命題に、ヨガを手掛かりにアプローチする。ヨガの理論を概観した上で、運動と呼吸法の基礎を学び、各自が自己の心身の状態に気付き、理解し、整え、鍛えるための継続可能なボディワークとして習得する。

“Live in harmony with yourself and your environment,” and approach yoga as the key to the challenges of modern society. After an overview of yoga theory, students learn the basics of the exercise and breathing techniques, and each student masters continuous body work to be aware of, understand, regulate and train the condition of their body and mind.

授業の内容 / Course Contents

セルフケアエクササイズ【ヨガ】

授業は、解説講義と実技実習を行う。

講義では、ヨガの基礎知識と基本原理の概説を行う。

実習では、呼吸と連動したベーシックなヨガを行う。1) 6領域の基本的アーサナ（運動）とそのバリエーション、2) 基本的なプラナヤマ（呼吸法）の解説を行い、実践する。セッションは十数種のアーサナを組合せた流れで行うが、毎回一つの主要テーマにスポットを当てて取り組む。

In the lectures, the fundamental knowledge and basic concepts of yoga are outlined. During the practical exercises, 1) The basic asanas (motions) and their variations in 6 areas and 2) The basic Pranayamas (breathing techniques) are explained and practiced. Sessions flow through a combination of a dozen or so asanas, focusing on a single main theme each time.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業オリエンテーション / 実習：ヨガの基本姿勢（足脚で立つ、手腕で立つ）
- 2回：実習：太陽礼拝 / 講義：ヨガの基礎知識（略史・思想・分類・現状）と基本原理「五鞘」「八支則」
- 3回：実習：立位とバランス / 講義：立位とバランスのメカニクス
- 4回：実習：前屈 / 講義：前屈のメカニクス
- 5回：実習：捻転 / 講義：捻転のメカニクス
- 6回：実習：後屈 / 講義：後屈のメカニクス
- 7回：実習：逆転 / 講義：逆転のメカニクス
- 8回：実習：ハンドスタンド / 講義：ハンドスタンドのメカニクス
- 9回：実習：呼吸へのフォーカス / 講義：調気法（呼吸法）解説と紹介 1
- 10回：実習：太陽礼拝 / 講義：調気法（呼吸法）解説と紹介 2
- 11回：実習：ビンヤサ（フロースタイル）プラクティス 1 ベーシックフロー
- 12回：実習：ビンヤサ（フロースタイル）プラクティス 2 ベーシックフロー
- 13回：実習：ビンヤサ（フロースタイル）プラクティス 3 ベーシックフロー
- 14回：実習・講義：セルフプラクティスに向けて

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各領域ごとに配布する解剖学的解説資料にもとづき、自宅等で基本のアーサナの実習を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:40% 技術の習熟度:20% 最終レポート割合 :40%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象とならない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

授業時に資料を配布する。

参考文献 / Readings

B・K・S・アイアンガー 『ハタヨガの真髄』 白揚社 2004

佐保田鶴治 『ヨーガの根本経典』 平河出版社 1973

立川武蔵 『ヨーガの哲学』 講談社 1988

中村尚人 『体感して学ぶ ヨガの解剖学』 BAB ジャパン 2010

その他/ Others

◆ヨガは体幹を鍛え、筋力UPに大きな効果があり、運動量も多い。性別によらず楽しめる有意義な運動です。男女問わず積極的に受講して下さい。

◆実習は裸足で行う。

◆伸縮性があり、ある程度身体にフィットした動きやすい運動着に更衣して参加すること。

◆水分補給のための水筒等を持参すること。

◆初回は、オリエンテーションの後、実技実習を行う。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

セルフケアエクササイズ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

ボディコンディショニング

伊藤 詩織 (ITO SHIORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI307

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）対面（一部オンライン）

1・2・3回目の授業をオンラインで実施する。

受講方法は、該当する授業までに Canvas LMS にログインして確認すること。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

身体のコンドィショニングを実践することは、健康の維持増進のみならず QOL（生活の質）の向上につながる。政策内容や健康づくりに関する諸概念を正しく理解すること、運動をはじめとした健康づくりに親しむ基礎を構築すること、自らの身体に関心を向け、生活をコントロールする意欲を醸成することを目標とする。

The aim of this course is to help students acquire understanding of Concepts related to health promotion and motivating them to control their lives.

授業の内容 / Course Contents

講義では、厚生労働省の定める健康づくりのための身体活動基準を知り、個人の身体データを用いて運動、栄養について学ぶ。実技では、講義で学んだ内容の実践やバランスボールを使用した運動等をおこなう。

Lectures of this course, deals with the physical activity standards for health promotion set by the Ministry of

Health, Labor and Welfare, exercise using personal physical data and nutrition. And physical training of this course, deals with the practice the contents learned in the lectures and exercise using the balance ball.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、身体データ測定1、個別ワーク、定期健康診断受診記録の確認
- 2回：健康日本21、身体データ測定2、個別ワーク
- 3回：身体活動量の評価とエネルギー消費量、個人の健康づくり理論編
- 4回：個人の健康づくり実践編
- 5回：運動継続のための心理学
- 6回：月経とボディコンディショニング、栄養
- 7回：健康のためのダイエット、バランスボールを使った運動1
- 8回：コンディションチェック1、バランスボールを使った運動2
- 9回：コンディションチェック2、バランスボールを使った運動3
- 10回：グループワーク1
- 11回：グループワーク2
- 12回：グループワーク3
- 13回：グループワーク4
- 14回：グループワーク5

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業毎のリアクションペーパー:42% レポート課題:20% グループワーク:38%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照すること。

テキスト / Textbooks

特に必要としない。必要に応じて Canvas LMS 上に資料を掲載する。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

筆記用具、スマートフォン

その他 / Others

- ・必要に応じて、グループワーク（ディスカッション、発表など）を予定している。
- ・資料の配布、課題の提出などに Canvas LMS を使用する。
- ・授業進度等によって内容を変更する場合がある。

- ・授業回によって受講形態を変更する場合がある。
- ・上記に関する連絡は Canvas LMS もしくはメールで通知するため、これらを確認できるようにすること。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ボディコンディショニング

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

ボディシェイプ

吉田 真咲 (YOSHIDA MISAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI308
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

現代社会において、運動不足がさまざまな健康問題を引き起こしている。ウエイトコントロールや体力向上に関する科学的知識からこれらの重要性を理解し、さらに実践力を身につけることを目標とする。

In modern society, lack of exercise causes various health problems. The objective of this class is for students to understand the importance of this based on scientific research related to weight control and strength improvement, and for them to acquire practical skills.

授業の内容 / Course Contents

講義では、ウエイトコントロールの正しい知識および運動による効果を解説する。それらをふまえ、どのような取り組みが自分のからだに必要なのかを考察する。実技では、自分のからだを知り、自身の体力を向上させるためのトレーニングを実践する。授業時間の 1/3 を講義、残りの 2/3 を実技とする。

In this lecture, accurate knowledge of weight control and the effects of exercise are explained. Based on this, we investigate what kinds of efforts are required for our bodies. As practice, students train to know their bodies and

improve their physical strength. A third of the class time is spent on lecture, and the remaining 2/3 is practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
日常生活における身体活動量の増やし方
- 2回：講義：ウエイトコントロールの重要性
実技：身体組成測定と体力測定 1
- 3回：講義：身体組成の評価
実技：身体組成測定と体力測定 2
- 4回：講義：筋力トレーニングの基本
実技：マシントレーニング 1
- 5回：講義：トレーニング負荷の決定
実技：マシントレーニング 2
- 6回：講義：トレーニングの基礎
実技：自体重での筋力トレーニング
- 7回：講義：やせと肥満
実技：バランスボールトレーニング
- 8回：講義：ウエイトコントロールの重要性
実技：バランスボールトレーニング 2
- 9回：講義：肥満の予防と解消
実技：サーキットトレーニング 1
- 10回：講義：食事バランスガイド
実技：サーキットトレーニング 2
- 11回：講義：有酸素運動の方法
実技：エアロビックエクササイズ 1
- 12回：講義：ストレッチングの効果
実技：エアロビックエクササイズ
- 13回：講義：トレーニングメニューの組立
実技：トレーニングメニューの実践
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で行った内容を日常生活においても実践する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度:50% 技術の習熟度:10%

最終レポート割合：40%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。必要に応じて授業時にプリントを配布する。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- ・運動に適した服装および室内専用シューズ
- ・スマートフォンもしくはタブレット（ただし指示時以外の使用は禁止）

その他 / Others

- ・初回授業の際、顔写真を持参すること。
- ・受講者の興味・関心等によって授業内容を変更することがある。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ボディシェイプ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

ダイエットフィットネス

大石 友子 (OOISHI TOMOKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI309
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

フィットネスとは、外見を形造ることにとどまらず、心身全体が健やかで適切な状態であることを意味する。では自己の全体像を管理し、心身ともに調った状態で生きるために、いかにして身体運動を個々人の日常生活に無理なく取り入れることができるのか。本授業では、この問題意識をベースに、自らの必要に応じた運動を選択し、能動的かつ継続的に行う意識と習慣を育む。

Fitness does not just determine one's outward appearance, but means that the entire mind and body are in a healthy and adequate condition. In that case, how can individuals reasonably integrate physical exercise into their daily lives in order to manage their overall self and live with well-regulated minds and bodies? In this class, based on this awareness of the issue, students select exercises based on their own needs and cultivate the awareness and habits to do them actively and continuously.

授業の内容 / Course Contents

日常生活の中で継続実践し易い身体運動を取り上げ、構造の解説を行いつつ実践する。各回は幾つかの種類の

運動を組み合わせた流れで行う。エクササイズには各自の記録用紙を用い、強度の自己管理にも取り組む。

本授業の具体的課題は以下の通り。

A) インナーマッスルを鍛えて姿勢を変え、動きの質をベースアップ、および基礎代謝を上げる。B) アウターマッスルを鍛え、ボディラインを創る。C) エネルギー消費に着目し、有酸素運動効果のあるトレーニングについてその理論を学び実践する。

これらの課題に対して下記の身体運動の実技実習に取り組み、その効果についての解説講義を行う。

Students take up physical exercises which are easy to practice continuously in daily life and practice while their structures are explained. Each time, a process is followed that combines several types of motion. Each student uses data sheets for the exercises, to work on strength self-management.

The specific topics of this class are as follows.

A) Strengthen the inner muscles to change posture, increase the basic quality of movement and increase basal metabolism. B) Strengthen the outer muscles to add contour to the body. C) Study the theory and practice effective aerobic exercise training focusing on energy consumption.

Students work with the following physical exercises for these topics, and their effects are explained.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：授業オリエンテーション、および実習：身体と動きのセルフチェック
- 2 回：実習：フロースタイルヨガ、レジスタンストレーニング／ 講義：ダイエットフィットネス概説
- 3 回：実習：フロースタイルヨガ／ 講義：インナーマッスルの維持-1
- 4 回：実習：フロースタイルヨガ／ 講義：インナーマッスルの維持-2
- 5 回：実習：レジスタンストレーニング／ 講義：アウターマッスルの造形
- 6 回：実習：筋コンディショニングベーシックメニュー／ 講義：メニュー解説
- 7 回：実習：エアロビクス・ダンス・エクササイズ記録1／ 講義：エネルギーの消費
- 8 回：実習：エアロビクス・ダンス・エクササイズ記録2／講義：有酸素運動のシステム
- 9 回：実習：エアロビクス・ダンス・エクササイズ記録3
- 10 回：実習：エアロビクス・ダンス・エクササイズ記録4
- 11 回：実習：エアロビクス・ダンス・エクササイズ記録5
- 12 回：実習：エアロビクス・ダンス・エクササイズ記録6
- 13 回：実習：上記3種目の実践／ 講義：エアロビクス・ダンス・エクササイズの強度と難易度
- 14 回：実習・講義：セルフプラクティスに向けて

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

第一回から行うヨガをベースとしたトレーニングを、自宅等で実習する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:40% 技術の習熟度:20% 最終レポート割合 :40%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象とならない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト/ Textbooks

授業時に資料を配布する。

参考文献 / Readings

中村尚人 『体感して学ぶ ヨガの解剖学』 BAB ジャパン 2010

必要に応じて授業時に紹介する。

その他/ Others

- ◆実習は、裸足でのトレーニングとシューズを履いたトレーニングを行う。
- ◆伸縮性があり、ある程度身体にフィットした、動きやすい運動着に更衣して参加すること。
- ◆水分補給のための水筒等を持参すること。
- ◆初回は、オリエンテーション後に実習を行う。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ダイエットフィットネス

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

トレーニング

岡田 純一 (OKADA JUNICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI310
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

安全で効果的なレジスタンストレーニングを実施するために、適切な挙上フォーム、目的に応じたプログラム作成法および実践法を習得する。

In order to conduct resistance training safely and effectively, students learn about lifting forms as well as program design methods and practice methods according to their objectives.

授業の内容 / Course Contents

抵抗を利用し身体の機能向上を図る Resistance Training は、スポーツ選手はもとより、健康・体力づくり運動といった視点で一般成人においても広く実践されている。しかし、不適切な方法での実施は傷害の発生を誘発する。実践を通して、安全に重量を挙上できる適切なフォームを習得し、技能向上を目指す。また、講義ではトレーニング科学の基礎を理解し、対象者のニーズに基づいたプログラムを策定する方法について概説する。これらを通してレジスタンストレーニングの理論と実践を学習していく。

Resistance training, which uses resistance to improve the function of the body, is widely practiced not only by

athletes, but also by adults in general, who see it as movements that cultivate health and physical fitness. However, improper implementation can cause injury. Through practice, students aim to improve their skills by learning the appropriate form for safely lifting weight. The program's planning, implementation and measurement of effects is based on the needs of the student.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：体力とトレーニング
- 2回：ウォームアップと自重エクササイズ
- 3回：Deadlift, Back squat, Bench press (フォーム練習)
- 4回：Bench press (nRM), Back squat, Arm curl, Reverse curl, Dumbbell curl, Hammer curl
- 5回：Back squat, Bench press, Pull over, Triceps extension, Calf raise
- 6回：Back squat, Bench press, Bent over rowing, Bent over, Straight leg deadlift
- 7回：Back squat, Bench press, Front press, Back press, Upright rowing, One hand row
- 8回：Back squat, Bench press, Front squat, Fly, Back fly, Overhead squat
- 9回：Back squat, Bench press, Front raise, Lateral raise, Shoulder shrug
- 10回：Back squat, Bench press, Lunge squat, Forward lunge, Side lunge
- 11回：Back squat, Bench press, Wrist curl, Reverse wrist curl, Concentration curl
- 12回：Bench press (1RM), プログラム立案・実践
- 13回：講義 レジスタンストレーニングのプログラムデザイン
- 14回：Bench press (1RM), プログラム立案・実践

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

CANVAS を通じて予習資料，レポート提出，小テスト等を提示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席状況および各回の実践レポート：40% 実技テスト：20% 最終レポート割合：30% 最終テスト割合：10%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

NSCA ジャパン 『ストレングス&コンディショニング2 [エクササイズ編]』 大修館書店 2003
4469265357 -

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）

/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

トレーニング

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

トレーニング

岡田 純一 (OKADA JUNICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI311
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

安全で効果的なレジスタンストレーニングを実施するために、適切な挙上フォーム、目的に応じたプログラム作成法および実践法を習得する。

In order to conduct resistance training safely and effectively, students learn about lifting forms as well as program design methods and practice methods according to their objectives.

授業の内容 / Course Contents

抵抗を利用し身体の機能向上を図る Resistance Training は、スポーツ選手はもとより、健康・体力づくり運動といった視点で一般成人においても広く実践されている。しかし、不適切な方法での実施は傷害の発生を誘発する。実践を通して、安全に重量を挙上できる適切なフォームを習得し、技能向上を目指す。また、講義ではトレーニング科学の基礎を理解し、対象者のニーズに基づいたプログラムを策定する方法について概説する。これらを通してレジスタンストレーニングの理論と実践を学習していく。

Resistance training, which uses resistance to improve the function of the body, is widely practiced not only by

athletes, but also by adults in general, who see it as movements that cultivate health and physical fitness. However, improper implementation can cause injury. Through practice, students aim to improve their skills by learning the appropriate form for safely lifting weight. The program's planning, implementation and measurement of effects is based on the needs of the student.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：体力とトレーニング
- 2回：ウォームアップと自重エクササイズ
- 3回：Deadlift, Back squat, Bench press (フォーム練習)
- 4回：Bench press (nRM), Back squat, Arm curl, Reverse curl, Dumbbell curl, Hammer curl
- 5回：Back squat, Bench press, Pull over, Triceps extension, Calf raise
- 6回：Back squat, Bench press, Bent over rowing, Bent over, Straight leg deadlift
- 7回：Back squat, Bench press, Front press, Back press, Upright rowing, One hand row
- 8回：Back squat, Bench press, Front squat, Fly, Back fly, Overhead squat
- 9回：Back squat, Bench press, Front raise, Lateral raise, Shoulder shrug
- 10回：Back squat, Bench press, Lunge squat, Forward lunge, Side lunge
- 11回：Back squat, Bench press, Wrist curl, Reverse wrist curl, Concentration curl
- 12回：Bench press (1RM), プログラム立案・実践
- 13回：講義 レジスタンストレーニングのプログラムデザイン
- 14回：Bench press (1RM), プログラム立案・実践

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

CANVAS を通じて予習資料，レポート提出，小テスト等を提示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席状況および各回の実践レポート：40% 実技テスト：20% 最終レポート割合：30% 最終テスト割合：10%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

NSCA ジャパン 『ストレングス&コンディショニング2 [エクササイズ編]』 大修館書店 2003
4469265357 -

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）

/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

トレーニング

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

トレーニング

岡田 純一 (OKADA JUNICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI312
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

安全で効果的なレジスタンストレーニングを実施するために、適切な挙上フォーム、目的に応じたプログラム作成法および実践法を習得する。

In order to conduct resistance training safely and effectively, students learn about lifting forms as well as program design methods and practice methods according to their objectives.

授業の内容 / Course Contents

抵抗を利用し身体の機能向上を図る Resistance Training は、スポーツ選手はもとより、健康・体力づくり運動といった視点で一般成人においても広く実践されている。しかし、不適切な方法での実施は傷害の発生を誘発する。実践を通して、安全に重量を挙上できる適切なフォームを習得し、技能向上を目指す。また、講義ではトレーニング科学の基礎を理解し、対象者のニーズに基づいたプログラムを策定する方法について概説する。これらを通してレジスタンストレーニングの理論と実践を学習していく。

Resistance training, which uses resistance to improve the function of the body, is widely practiced not only by

athletes, but also by adults in general, who see it as movements that cultivate health and physical fitness. However, improper implementation can cause injury. Through practice, students aim to improve their skills by learning the appropriate form for safely lifting weight. The program's planning, implementation and measurement of effects is based on the needs of the student.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：体力とトレーニング
- 2回：ウォームアップと自重エクササイズ
- 3回：Deadlift, Back squat, Bench press (フォーム練習)
- 4回：Bench press (nRM), Back squat, Arm curl, Reverse curl, Dumbbell curl, Hammer curl
- 5回：Back squat, Bench press, Pull over, Triceps extension, Calf raise
- 6回：Back squat, Bench press, Bent over rowing, Bent over, Straight leg deadlift
- 7回：Back squat, Bench press, Front press, Back press, Upright rowing, One hand row
- 8回：Back squat, Bench press, Front squat, Fly, Back fly, Overhead squat
- 9回：Back squat, Bench press, Front raise, Lateral raise, Shoulder shrug
- 10回：Back squat, Bench press, Lunge squat, Forward lunge, Side lunge
- 11回：Back squat, Bench press, Wrist curl, Reverse wrist curl, Concentration curl
- 12回：Bench press (1RM), プログラム立案・実践
- 13回：講義 レジスタンストレーニングのプログラムデザイン
- 14回：Bench press (1RM), プログラム立案・実践

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

CANVAS を通じて予習資料，レポート提出，小テスト等を提示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席状況および各回の実践レポート：40% 実技テスト：20% 最終レポート割合：30% 最終テスト割合：10%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

NSCA ジャパン 『ストレングス&コンディショニング2 [エクササイズ編]』 大修館書店 2003
4469265357 -

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）

/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

トレーニング

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

トレーニング

岡田 純一 (OKADA JUNICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI313
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

安全で効果的なレジスタンストレーニングを実施するために、適切な挙上フォーム、目的に応じたプログラム作成法および実践法を習得する。

In order to conduct resistance training safely and effectively, students learn about lifting forms as well as program design methods and practice methods according to their objectives.

授業の内容 / Course Contents

抵抗を利用し身体の機能向上を図る Resistance Training は、スポーツ選手はもとより、健康・体力づくり運動といった視点で一般成人においても広く実践されている。しかし、不適切な方法での実施は傷害の発生を誘発する。実践を通して、安全に重量を挙上できる適切なフォームを習得し、技能向上を目指す。また、講義ではトレーニング科学の基礎を理解し、対象者のニーズに基づいたプログラムを策定する方法について概説する。これらを通してレジスタンストレーニングの理論と実践を学習していく。

Resistance training, which uses resistance to improve the function of the body, is widely practiced not only by

athletes, but also by adults in general, who see it as movements that cultivate health and physical fitness. However, improper implementation can cause injury. Through practice, students aim to improve their skills by learning the appropriate form for safely lifting weight. The program's planning, implementation and measurement of effects is based on the needs of the student.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：体力とトレーニング
- 2回：ウォームアップと自重エクササイズ
- 3回：Deadlift, Back squat, Bench press (フォーム練習)
- 4回：Bench press (nRM), Back squat, Arm curl, Reverse curl, Dumbbell curl, Hammer curl
- 5回：Back squat, Bench press, Pull over, Triceps extension, Calf raise
- 6回：Back squat, Bench press, Bent over rowing, Bent over, Straight leg deadlift
- 7回：Back squat, Bench press, Front press, Back press, Upright rowing, One hand row
- 8回：Back squat, Bench press, Front squat, Fly, Back fly, Overhead squat
- 9回：Back squat, Bench press, Front raise, Lateral raise, Shoulder shrug
- 10回：Back squat, Bench press, Lunge squat, Forward lunge, Side lunge
- 11回：Back squat, Bench press, Wrist curl, Reverse wrist curl, Concentration curl
- 12回：Bench press (1RM), プログラム立案・実践
- 13回：講義 レジスタンストレーニングのプログラムデザイン
- 14回：Bench press (1RM), プログラム立案・実践

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

CANVAS を通じて予習資料，レポート提出，小テスト等を提示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席状況および各回の実践レポート：40% 実技テスト：20% 最終レポート割合：30% 最終テスト割合：10%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

NSCA ジャパン 『ストレングス&コンディショニング2 [エクササイズ編]』 大修館書店 2003
4469265357 -

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）

/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

トレーニング

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

ボディコンディショニング

伊藤 詩織 (ITO SHIORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI316

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項）対面（一部オンライン）

1・2・3回目の授業をオンラインで実施する。

受講方法は、該当する授業までに Canvas LMS にログインして確認すること。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

身体のコンドィショニングを実践することは、健康の維持増進のみならず QOL（生活の質）の向上につながる。政策内容や健康づくりに関する諸概念を正しく理解すること、運動をはじめとした健康づくりに親しむ基礎を構築すること、自らの身体に関心を向け、生活をコントロールする意欲を醸成することを目標とする。

The aim of this course is to help students acquire understanding of Concepts related to health promotion and motivating them to control their lives.

授業の内容 / Course Contents

講義では、厚生労働省の定める健康づくりのための身体活動基準を知り、個人の身体データを用いて運動、栄養について学ぶ。実技では、講義で学んだ内容の実践やバランスボールを使用した運動等をおこなう。

Lectures of this course, deals with the physical activity standards for health promotion set by the Ministry of

Health, Labor and Welfare, exercise using personal physical data and nutrition. And physical training of this course, deals with the practice the contents learned in the lectures and exercise using the balance ball.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス、身体データ測定 1、個別ワーク、定期健康診断受診記録の確認
- 2 回：健康日本 21、身体データ測定 2、個別ワーク
- 3 回：身体活動量の評価とエネルギー消費量、個人の健康づくり理論編
- 4 回：個人の健康づくり実践編
- 5 回：運動継続のための心理学
- 6 回：月経とボディコンディショニング、栄養
- 7 回：健康のためのダイエット、バランスボールを使った運動 1
- 8 回：コンディションチェック 1、バランスボールを使った運動 2
- 9 回：コンディションチェック 2、バランスボールを使った運動 3
- 10 回：グループワーク 1
- 11 回：グループワーク 2
- 12 回：グループワーク 3
- 13 回：グループワーク 4
- 14 回：グループワーク 5

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業毎のリアクションペーパー:42% レポート課題:20% グループワーク:38%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照すること。

テキスト / Textbooks

特に必要としない。必要に応じて Canvas LMS 上に資料を掲載する。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

筆記用具、スマートフォン

その他 / Others

- ・必要に応じて、グループワーク（ディスカッション、発表など）を予定している。
- ・資料の配布、課題の提出などに Canvas LMS を使用する。
- ・授業進度等によって内容を変更する場合がある。

- ・授業回によって受講形態を変更する場合がある。
- ・上記に関する連絡は Canvas LMS もしくはメールで通知するため、これらを確認できるようにすること。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ボディコンディショニング

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

ボディシェイプ

吉田 真咲 (YOSHIDA MISAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI317
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

現代社会において、運動不足がさまざまな健康問題を引き起こしている。ウエイトコントロールや体力向上に関する科学的知識からこれらの重要性を理解し、さらに実践力を身につけることを目標とする。

In modern society, lack of exercise causes various health problems. The objective of this class is for students to understand the importance of this based on scientific research related to weight control and strength improvement, and for them to acquire practical skills.

授業の内容 / Course Contents

講義では、ウエイトコントロールの正しい知識および運動による効果を解説する。それらをふまえ、どのような取り組みが自分のからだに必要なのかを考察する。実技では、自分のからだを知り、自身の体力を向上させるためのトレーニングを実践する。授業時間の 1/3 を講義、残りの 2/3 を実技とする。

In this lecture, accurate knowledge of weight control and the effects of exercise are explained. Based on this, we investigate what kinds of efforts are required for our bodies. As practice, students train to know their bodies and

improve their physical strength. A third of the class time is spent on lecture, and the remaining 2/3 is practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
日常生活における身体活動量の増やし方
- 2回：講義：ウエイトコントロールの重要性
実技：身体組成測定と体力測定 1
- 3回：講義：身体組成の評価
実技：身体組成測定と体力測定 2
- 4回：講義：筋力トレーニングの基本
実技：マシントレーニング 1
- 5回：講義：トレーニング負荷の決定
実技：マシントレーニング 2
- 6回：講義：トレーニングの基礎
実技：自体重での筋力トレーニング
- 7回：講義：やせと肥満
実技：バランスボールトレーニング
- 8回：講義：ウエイトコントロールの重要性
実技：バランスボールトレーニング 2
- 9回：講義：肥満の予防と解消
実技：サーキットトレーニング 1
- 10回：講義：食事バランスガイド
実技：サーキットトレーニング 2
- 11回：講義：有酸素運動の方法
実技：エアロビックエクササイズ 1
- 12回：講義：ストレッチングの効果
実技：エアロビックエクササイズ
- 13回：講義：トレーニングメニューの組立
実技：トレーニングメニューの実践
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド* (パワポ* 等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で行った内容を日常生活においても実践する。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:50% 技術の習熟度:10%

最終レポート割合 :40%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。必要に応じて授業時にプリントを配布する。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- ・運動に適した服装および室内専用シューズ
- ・スマートフォンもしくはタブレット（ただし指示時以外の使用は禁止）

その他 / Others

- ・初回授業の際、顔写真を持参すること。
- ・受講者の興味・関心等によって授業内容を変更することがある。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ボディシェイプ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

ボディシェイプ

吉田 真咲 (YOSHIDA MISAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI318
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

現代社会において、運動不足がさまざまな健康問題を引き起こしている。ウエイトコントロールや体力向上に関する科学的知識からこれらの重要性を理解し、さらに実践力を身につけることを目標とする。

In modern society, lack of exercise causes various health problems. The objective of this class is for students to understand the importance of this based on scientific research related to weight control and strength improvement, and for them to acquire practical skills.

授業の内容 / Course Contents

講義では、ウエイトコントロールの正しい知識および運動による効果を解説する。それらをふまえ、どのような取り組みが自分のからだに必要なのかを考察する。実技では、自分のからだを知り、自身の体力を向上させるためのトレーニングを実践する。授業時間の 1/3 を講義、残りの 2/3 を実技とする。

In this lecture, accurate knowledge of weight control and the effects of exercise are explained. Based on this, we investigate what kinds of efforts are required for our bodies. As practice, students train to know their bodies and

improve their physical strength. A third of the class time is spent on lecture, and the remaining 2/3 is practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
日常生活における身体活動量の増やし方
- 2回：講義：ウエイトコントロールの重要性
実技：身体組成測定と体力測定 1
- 3回：講義：身体組成の評価
実技：身体組成測定と体力測定 2
- 4回：講義：筋力トレーニングの基本
実技：マシントレーニング 1
- 5回：講義：トレーニング負荷の決定
実技：マシントレーニング 2
- 6回：講義：トレーニングの基礎
実技：自体重での筋力トレーニング
- 7回：講義：やせと肥満
実技：バランスボールトレーニング
- 8回：講義：ウエイトコントロールの重要性
実技：バランスボールトレーニング 2
- 9回：講義：肥満の予防と解消
実技：サーキットトレーニング 1
- 10回：講義：食事バランスガイド
実技：サーキットトレーニング 2
- 11回：講義：有酸素運動の方法
実技：エアロビックエクササイズ 1
- 12回：講義：ストレッチングの効果
実技：エアロビックエクササイズ
- 13回：講義：トレーニングメニューの組立
実技：トレーニングメニューの実践
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で行った内容を日常生活においても実践する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度:50% 技術の習熟度:10%

最終レポート割合：40%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。必要に応じて授業時にプリントを配布する。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- ・運動に適した服装および室内専用シューズ
- ・スマートフォンもしくはタブレット（ただし指示時以外の使用は禁止）

その他 / Others

- ・初回授業の際、顔写真を持参すること。
- ・受講者の興味・関心等によって授業内容を変更することがある。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ボディシェイプ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

ボディシェイプ

吉田 真咲 (YOSHIDA MISAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI319
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

現代社会において、運動不足がさまざまな健康問題を引き起こしている。ウエイトコントロールや体力向上に関する科学的知識からこれらの重要性を理解し、さらに実践力を身につけることを目標とする。

In modern society, lack of exercise causes various health problems. The objective of this class is for students to understand the importance of this based on scientific research related to weight control and strength improvement, and for them to acquire practical skills.

授業の内容 / Course Contents

講義では、ウエイトコントロールの正しい知識および運動による効果を解説する。それらをふまえ、どのような取り組みが自分のからだに必要なのかを考察する。実技では、自分のからだを知り、自身の体力を向上させるためのトレーニングを実践する。授業時間の 1/3 を講義、残りの 2/3 を実技とする。

In this lecture, accurate knowledge of weight control and the effects of exercise are explained. Based on this, we investigate what kinds of efforts are required for our bodies. As practice, students train to know their bodies and

improve their physical strength. A third of the class time is spent on lecture, and the remaining 2/3 is practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
日常生活における身体活動量の増やし方
- 2回：講義：ウエイトコントロールの重要性
実技：身体組成測定と体力測定 1
- 3回：講義：身体組成の評価
実技：身体組成測定と体力測定 2
- 4回：講義：筋力トレーニングの基本
実技：マシントレーニング 1
- 5回：講義：トレーニング負荷の決定
実技：マシントレーニング 2
- 6回：講義：トレーニングの基礎
実技：自体重での筋力トレーニング
- 7回：講義：やせと肥満
実技：バランスボールトレーニング
- 8回：講義：ウエイトコントロールの重要性
実技：バランスボールトレーニング 2
- 9回：講義：肥満の予防と解消
実技：サーキットトレーニング 1
- 10回：講義：食事バランスガイド
実技：サーキットトレーニング 2
- 11回：講義：有酸素運動の方法
実技：エアロビックエクササイズ 1
- 12回：講義：ストレッチングの効果
実技：エアロビックエクササイズ
- 13回：講義：トレーニングメニューの組立
実技：トレーニングメニューの実践
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で行った内容を日常生活においても実践する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:50% 技術の習熟度:10%

最終レポート割合 :40%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。必要に応じて授業時にプリントを配布する。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- ・運動に適した服装および室内専用シューズ
- ・スマートフォンもしくはタブレット（ただし指示時以外の使用は禁止）

その他 / Others

- ・初回授業の際、顔写真を持参すること。
- ・受講者の興味・関心等によって授業内容を変更することがある。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ボディシェイプ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

ボディシェイプ

吉田 真咲 (YOSHIDA MISAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI320
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

現代社会において、運動不足がさまざまな健康問題を引き起こしている。ウエイトコントロールや体力向上に関する科学的知識からこれらの重要性を理解し、さらに実践力を身につけることを目標とする。

In modern society, lack of exercise causes various health problems. The objective of this class is for students to understand the importance of this based on scientific research related to weight control and strength improvement, and for them to acquire practical skills.

授業の内容 / Course Contents

講義では、ウエイトコントロールの正しい知識および運動による効果を解説する。それらをふまえ、どのような取り組みが自分のからだに必要なのかを考察する。実技では、自分のからだを知り、自身の体力を向上させるためのトレーニングを実践する。授業時間の 1/3 を講義、残りの 2/3 を実技とする。

In this lecture, accurate knowledge of weight control and the effects of exercise are explained. Based on this, we investigate what kinds of efforts are required for our bodies. As practice, students train to know their bodies and

improve their physical strength. A third of the class time is spent on lecture, and the remaining 2/3 is practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
日常生活における身体活動量の増やし方
- 2回：講義：ウエイトコントロールの重要性
実技：身体組成測定と体力測定 1
- 3回：講義：身体組成の評価
実技：身体組成測定と体力測定 2
- 4回：講義：筋力トレーニングの基本
実技：マシントレーニング 1
- 5回：講義：トレーニング負荷の決定
実技：マシントレーニング 2
- 6回：講義：トレーニングの基礎
実技：自体重での筋力トレーニング
- 7回：講義：やせと肥満
実技：バランスボールトレーニング
- 8回：講義：ウエイトコントロールの重要性
実技：バランスボールトレーニング 2
- 9回：講義：肥満の予防と解消
実技：サーキットトレーニング 1
- 10回：講義：食事バランスガイド
実技：サーキットトレーニング 2
- 11回：講義：有酸素運動の方法
実技：エアロビックエクササイズ 1
- 12回：講義：ストレッチングの効果
実技：エアロビックエクササイズ
- 13回：講義：トレーニングメニューの組立
実技：トレーニングメニューの実践
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で行った内容を日常生活においても実践する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:50% 技術の習熟度:10%

最終レポート割合 :40%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。必要に応じて授業時にプリントを配布する。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- ・運動に適した服装および室内専用シューズ
- ・スマートフォンもしくはタブレット（ただし指示時以外の使用は禁止）

その他 / Others

- ・初回授業の際、顔写真を持参すること。
- ・受講者の興味・関心等によって授業内容を変更することがある。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ボディシェイプ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

セルフケアエクササイズ

杉本 亮子 (SUGIMOTO RYOUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI321
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

自分の体力の何を向上したいかを知り、そのためにどのようなエクササイズプログラムを実施していけばよいかを体験し、考える。

Figure out how you would like to improve your physical fitness, then experience and consider what type of exercise program should be implemented to achieve this goal.

授業の内容 / Course Contents

体のアンバランスや癖に気づき、改善したいところや理想を具体化し、強化、ストレッチ、リラックスする方法として、呼吸法を重視したピラティスマットエクササイズとヨガ、持久力向上やストレス発散を目的とした有酸素運動プログラムを紹介する。

As a method of becoming aware of bodily imbalances and habits, working on areas you want to improve and embodying ideals, strengthening, stretching and relaxing, this class introduces a Pilates mat exercise and yoga aerobic exercise program with an emphasis on breathing techniques, aimed at improving stamina and releasing

stress.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：自分のからだについて考える：ヨガ&ピラティスとは、姿勢観察
- 2回：ピラティス&ヨガベーシックプログラム1：3つの呼吸法とジグリング
- 3回：講義&実技：柔軟性を上げるエクササイズとは
- 4回：ベーシックプログラム1：身体の歪みを戻そう
- 5回：ベーシックプログラム1：肩甲骨をしっかりと動かそう
- 6回：ベーシックプログラム2：インプリンティングで体幹を鍛えよう1
- 7回：講義&実技：体幹トレーニングとは
- 8回：ベーシックプログラム2：インプリンティングで体幹を鍛えよう2
- 9回：ベーシックプログラム3：ニュートラルで体幹を整えよう1
- 10回：ベーシックプログラム3：ニュートラルで体幹を整えよう2
- 11回：講義&実技：有酸素運動とは
- 12回：エアロビックダンス&選択ベーシックプログラム1
- 13回：エアロビックダンス&選択ベーシックプログラム2
- 14回：セルフケアエクササイズ総まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ポータルサイトに掲載される動画 URL を利用して、日々セルフケアエクササイズを継続する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席数と複数回の授業内提出物:70% 学期末授業内提出のレポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項**

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

セルフケアエクササイズ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

セルフケアエクササイズ

杉本 亮子 (SUGIMOTO RYOUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI322
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

自分の体力の何を向上したいかを知り、そのためにどのようなエクササイズプログラムを実施していけばよいかを体験し、考える。

Figure out how you would like to improve your physical fitness, then experience and consider what type of exercise program should be implemented to achieve this goal.

授業の内容 / Course Contents

体のアンバランスや癖に気づき、改善したいところや理想を具体化し、強化、ストレッチ、リラックスする方法として、呼吸法を重視したピラティスマットエクササイズとヨガ、持久力向上やストレス発散を目的とした有酸素運動プログラムを紹介する。

As a method of becoming aware of bodily imbalances and habits, working on areas you want to improve and embodying ideals, strengthening, stretching and relaxing, this class introduces a Pilates mat exercise and yoga aerobic exercise program with an emphasis on breathing techniques, aimed at improving stamina and releasing

stress.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：自分のからだについて考える：ヨガ&ピラティスとは、姿勢観察
- 2回：ピラティス&ヨガベーシックプログラム1：3つの呼吸法とジグリング
- 3回：講義&実技：柔軟性を上げるエクササイズとは
- 4回：ベーシックプログラム1：身体の歪みを戻そう
- 5回：ベーシックプログラム1：肩甲骨をしっかりと動かそう
- 6回：ベーシックプログラム2：インプリンティングで体幹を鍛えよう1
- 7回：講義&実技：体幹トレーニングとは
- 8回：ベーシックプログラム2：インプリンティングで体幹を鍛えよう2
- 9回：ベーシックプログラム3：ニュートラルで体幹を整えよう1
- 10回：ベーシックプログラム3：ニュートラルで体幹を整えよう2
- 11回：講義&実技：有酸素運動とは
- 12回：エアロビックダンス&選択ベーシックプログラム1
- 13回：エアロビックダンス&選択ベーシックプログラム2
- 14回：セルフケアエクササイズ総まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ポータルサイトに掲載される動画 URL を利用して、日々セルフケアエクササイズを継続する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席数と複数回の授業内提出物:70% 学期末授業内提出のレポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項**

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

セルフケアエクササイズ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

セルフケアエクササイズ

杉本 亮子 (SUGIMOTO RYOUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI323
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

自分の体力の何を向上したいかを知り、そのためにどのようなエクササイズプログラムを実施していけばよいかを体験し、考える。

Figure out how you would like to improve your physical fitness, then experience and consider what type of exercise program should be implemented to achieve this goal.

授業の内容 / Course Contents

体のアンバランスや癖に気づき、改善したいところや理想を具体化し、強化、ストレッチ、リラックスする方法として、呼吸法を重視したピラティスマットエクササイズとヨガ、持久力向上やストレス発散を目的とした有酸素運動プログラムを紹介する。

As a method of becoming aware of bodily imbalances and habits, working on areas you want to improve and embodying ideals, strengthening, stretching and relaxing, this class introduces a Pilates mat exercise and yoga aerobic exercise program with an emphasis on breathing techniques, aimed at improving stamina and releasing

stress.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：自分のからだについて考える：ヨガ&ピラティスとは、姿勢観察
- 2回：ピラティス&ヨガベーシックプログラム1：3つの呼吸法とジグリング
- 3回：講義&実技：柔軟性を上げるエクササイズとは
- 4回：ベーシックプログラム1：身体の歪みを戻そう
- 5回：ベーシックプログラム1：肩甲骨をしっかり動かそう
- 6回：ベーシックプログラム2：インプリンティングで体幹を鍛えよう1
- 7回：講義&実技：体幹トレーニングとは
- 8回：ベーシックプログラム2：インプリンティングで体幹を鍛えよう2
- 9回：ベーシックプログラム3：ニュートラルで体幹を整えよう1
- 10回：ベーシックプログラム3：ニュートラルで体幹を整えよう2
- 11回：講義&実技：有酸素運動とは
- 12回：エアロビックダンス&選択ベーシックプログラム1
- 13回：エアロビックダンス&選択ベーシックプログラム2
- 14回：セルフケアエクササイズ総まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ポータルサイトに掲載される動画 URL を利用して、日々セルフケアエクササイズを継続する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席数と複数回の授業内提出物:70% 学期末授業内提出のレポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項**

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

セルフケアエクササイズ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

セルフケアエクササイズ

杉本 亮子 (SUGIMOTO RYOUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI324
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

自分の体力の何を向上したいかを知り、そのためにどのようなエクササイズプログラムを実施していけばよいかを体験し、考える。

Figure out how you would like to improve your physical fitness, then experience and consider what type of exercise program should be implemented to achieve this goal.

授業の内容 / Course Contents

体のアンバランスや癖に気づき、改善したいところや理想を具体化し、強化、ストレッチ、リラックスする方法として、呼吸法を重視したピラティスマットエクササイズとヨガ、持久力向上やストレス発散を目的とした有酸素運動プログラムを紹介する。

As a method of becoming aware of bodily imbalances and habits, working on areas you want to improve and embodying ideals, strengthening, stretching and relaxing, this class introduces a Pilates mat exercise and yoga aerobic exercise program with an emphasis on breathing techniques, aimed at improving stamina and releasing

stress.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：自分のからだについて考える：ヨガ&ピラティスとは、姿勢観察
- 2回：ピラティス&ヨガベーシックプログラム1：3つの呼吸法とジグリング
- 3回：講義&実技：柔軟性を上げるエクササイズとは
- 4回：ベーシックプログラム1：身体の歪みを戻そう
- 5回：ベーシックプログラム1：肩甲骨をしっかりと動かそう
- 6回：ベーシックプログラム2：インプリンティングで体幹を鍛えよう1
- 7回：講義&実技：体幹トレーニングとは
- 8回：ベーシックプログラム2：インプリンティングで体幹を鍛えよう2
- 9回：ベーシックプログラム3：ニュートラルで体幹を整えよう1
- 10回：ベーシックプログラム3：ニュートラルで体幹を整えよう2
- 11回：講義&実技：有酸素運動とは
- 12回：エアロビックダンス&選択ベーシックプログラム1
- 13回：エアロビックダンス&選択ベーシックプログラム2
- 14回：セルフケアエクササイズ総まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ポータルサイトに掲載される動画 URL を利用して、日々セルフケアエクササイズを継続する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席数と複数回の授業内提出物:70% 学期末授業内提出のレポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項**

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

セルフケアエクササイズ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

ボディシェイプ

吉田 真咲 (YOSHIDA MISAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI325
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

現代社会において、運動不足がさまざまな健康問題を引き起こしている。ウエイトコントロールや体力向上に関する科学的知識からこれらの重要性を理解し、さらに実践力を身につけることを目標とする。

In modern society, lack of exercise causes various health problems. The objective of this class is for students to understand the importance of this based on scientific research related to weight control and strength improvement, and for them to acquire practical skills.

授業の内容 / Course Contents

講義では、ウエイトコントロールの正しい知識および運動による効果を解説する。それらをふまえ、どのような取り組みが自分のからだに必要なのかを考察する。実技では、自分のからだを知り、自身の体力を向上させるためのトレーニングを実践する。授業時間の 1/3 を講義、残りの 2/3 を実技とする。

In this lecture, accurate knowledge of weight control and the effects of exercise are explained. Based on this, we investigate what kinds of efforts are required for our bodies. As practice, students train to know their bodies and

improve their physical strength. A third of the class time is spent on lecture, and the remaining 2/3 is practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
日常生活における身体活動量の増やし方
- 2回：講義：ウエイトコントロールの重要性
実技：身体組成測定と体力測定 1
- 3回：講義：身体組成の評価
実技：身体組成測定と体力測定 2
- 4回：講義：筋力トレーニングの基本
実技：マシントレーニング 1
- 5回：講義：トレーニング負荷の決定
実技：マシントレーニング 2
- 6回：講義：トレーニングの基礎
実技：自体重での筋力トレーニング
- 7回：講義：やせと肥満
実技：バランスボールトレーニング
- 8回：講義：ウエイトコントロールの重要性
実技：バランスボールトレーニング 2
- 9回：講義：肥満の予防と解消
実技：サーキットトレーニング 1
- 10回：講義：食事バランスガイド
実技：サーキットトレーニング 2
- 11回：講義：有酸素運動の方法
実技：エアロビックエクササイズ 1
- 12回：講義：ストレッチングの効果
実技：エアロビックエクササイズ
- 13回：講義：トレーニングメニューの組立
実技：トレーニングメニューの実践
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド* (パワポ* 等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で行った内容を日常生活においても実践する。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:50% 技術の習熟度:10%

最終レポート割合 :40%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。必要に応じて授業時にプリントを配布する。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- ・運動に適した服装および室内専用シューズ
- ・スマートフォンもしくはタブレット（ただし指示時以外の使用は禁止）

その他 / Others

- ・初回授業の際、顔写真を持参すること。
- ・受講者の興味・関心等によって授業内容を変更することがある。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ボディシェイプ

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

テニス

後藤 光将 (GOTOU MITSUMASA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI351
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

テニスの基本技術・ルール・マナーを理解して、ストロークラリーが 20 回以上続けられること、および、ダブルスゲームがプレイできるようになることを到達目標として設定します。初心者であっても、生涯にわたって楽しくテニスに親しめる基礎を養います。

After understanding the rules and etiquette of tennis, set a goal to be able to continue a rally of over 20 strokes and play in a doubles game.

授業の内容 / Course Contents

テニスは老若男女問わず行うことができるスポーツの代表的な存在です。本授業では、テニスの基礎的技術練習を行い、ルール、歴史、競技特性を理解しながら、仲間とのコミュニケーションを深めていきます。生涯にわたってテニスを実践できる素養を学びます。

Tennis is a model sport that can be played by men and women of all ages. In this class, students deepen their communication with teammates while learning the fundamental techniques and understanding the rules, history,

and competitive characteristics of tennis. Learn the grounding knowledge to be able to practice tennis throughout life.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、受講ルールの説明
- 2回：送球マシンを用いた練習、ショートラリー
- 3回：送球マシンを用いた練習、フォアハンドストローク
- 4回：送球マシンを用いた練習、バックハンドストローク
- 5回：送球マシンを用いた練習、ボレー、ミニゲーム
- 6回：送球マシンを用いた練習、サービス、スマッシュ
- 7回：送球マシンを用いた練習、ハーフコートでのシングルスゲーム
- 8回：送球マシンを用いた練習、3人対3人のゲーム
- 9回：ダブルスゲームの戦術
- 10回：シングルスゲームの戦術
- 11回：ダブルスのチャンピオンゲーム (1)、歴史
- 12回：ダブルスのチャンピオンゲーム (2)、ルール
- 13回：ダブルスのチャンピオンゲーム (3)、マナー
- 14回：ダブルスのチャンピオンゲーム (4)、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

テニスのルールを本やウェブサイトですべて予習しておいてください。

受講にあたってテニスの経験や能力のレベルは問いません。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業に取り組む態度:40% 技術の向上度合:20% 最終レポート割合 :40%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しません。

参考文献 / Readings

日本テニス協会 『テニス指導教本 I』 大修館書店 2015 4469267856

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター (池袋キャンパス) / 新座体育館 (新座キャンパス) の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

テニス

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

テニス

後藤 光将 (GOTOU MITSUMASA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI352
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

テニスの基本技術・ルール・マナーを理解して、ストロークラリーが 20 回以上続けられること、および、ダブルスゲームがプレイできるようになることを到達目標として設定します。初心者であっても、生涯にわたって楽しくテニスに親しめる基礎を養います。

After understanding the rules and etiquette of tennis, set a goal to be able to continue a rally of over 20 strokes and play in a doubles game.

授業の内容 / Course Contents

テニスは老若男女問わず行うことができるスポーツの代表的な存在です。本授業では、テニスの基礎的技術練習を行い、ルール、歴史、競技特性を理解しながら、仲間とのコミュニケーションを深めていきます。生涯にわたってテニスを実践できる素養を学びます。

Tennis is a model sport that can be played by men and women of all ages. In this class, students deepen their communication with teammates while learning the fundamental techniques and understanding the rules, history,

and competitive characteristics of tennis. Learn the grounding knowledge to be able to practice tennis throughout life.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、受講ルールの説明
- 2回：送球マシンを用いた練習、ショートラリー
- 3回：送球マシンを用いた練習、フォアハンドストローク
- 4回：送球マシンを用いた練習、バックハンドストローク
- 5回：送球マシンを用いた練習、ボレー、ミニゲーム
- 6回：送球マシンを用いた練習、サービス、スマッシュ
- 7回：送球マシンを用いた練習、ハーフコートでのシングルスゲーム
- 8回：送球マシンを用いた練習、3人対3人のゲーム
- 9回：ダブルスゲームの戦術
- 10回：シングルスゲームの戦術
- 11回：ダブルスのチャンピオンゲーム (1)、歴史
- 12回：ダブルスのチャンピオンゲーム (2)、ルール
- 13回：ダブルスのチャンピオンゲーム (3)、マナー
- 14回：ダブルスのチャンピオンゲーム (4)、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

テニスのルールを本やウェブサイトですべて予習しておいてください。

受講にあたってテニスの経験や能力のレベルは問いません。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業に取り組む態度:40% 技術の向上度合:20% 最終レポート割合 :40%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しません。

参考文献 / Readings

日本テニス協会 『テニス指導教本 I』 大修館書店 2015 4469267856

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター (池袋キャンパス) / 新座体育館 (新座キャンパス) の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

テニス

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

テニス

田中 伸明 (TANAKA NOBUAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI353
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

テニスの技術習得や、マナー、ルールをなど、テニスに関する知識の獲得を目標とすると同時に、テニスの楽しさ・奥深さを体験してもらうことも目的とする。

The objective of this course is for students to learn tennis techniques and acquire knowledge about tennis such as etiquette and rules while experiencing the enjoyability and depth of tennis.

授業の内容 / Course Contents

テニスコートでは、その時限において課題・テーマをもとに練習し、それを実戦で試してみる、ということを経験する。適宜時限内において、テニスに必要なマナー・ルール・知識についての説明も行う。

また、座学として生涯スポーツとしてのテニスについて講義を行う。

On the tennis court, the basic class flow is to practice under the topic and theme for the period and to try it out in an actual match. The etiquette, rules and knowledge necessary for tennis are also explained in the appropriate

period.

In the classroom, lectures are given on tennis as a lifelong sport.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス，ストレッチング，水分補給について（教室講義）

必ず出席すること

2回：ショートラリーを中心としてのグランドストローク練習

3回：ショートラリーからのグランドストロークラリー練習

4回：グランドストローク基本練習

5回：グランドストローク，フットワークに留意しての練習

6回：サービス基本練習

7回：サービス練習（基本から応用），サービスレシーブ

8回：ボレー練習（基本）

9回：ボレー練習（対ストロークとのラリー）

10回：ダブルスの試合の進め方の説明，ダブルスの試合

11回：ダブルスの試合

12回：ダブルスの試合

13回：生涯スポーツとしてのテニス1（教室講義）

授業理解度に関する小テスト

14回：生涯スポーツとしてのテニス2（教室講義）

以上の授業計画は予定である。天候や受講生の習熟度等により変わることがある。また、受講生のレベルによっても変更の可能性がある。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テニスのルールやマナーなどについてインターネットや書籍等を活用し、授業で指示された課題などに取り組むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度:40% 小テスト:10% 期末レポート:30% 技術点（技術修得・向上状況）:10% 各時限での授業内容・指示の理解度:10%

2／3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特になし。必要に応じて資料を配付する。

参考文献 / Readings

公財) 日本テニス協会 『テニス指導教本 I』 大修館書店 2015 年 9784469267853

公財) 日本テニス協会 『JTA TENNIS RULE BOOK 2024』 日本テニス協会 2024 年

松岡修造, 修造チャレンジスタッフ 『世界にチャレンジ!』 ベースボール・マガジン社 2021 年
9784583113371

別府諸兄監訳 『テニスパフォーマンスのための実践トレーニングガイド』 ナップ 2008 年
9784931411760

澁谷隆良 『指導者のためのテニスの科学と応用』 ブックハウス HD 2010 年 9784938335519

ブラッド・ギルバート, スティーブ・ジェイミソン; 宮城淳訳 『ウイニング・アグリー』 日本文化出版
1997 年 9784890840222

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

テニスは、運動量が必要とされるスポーツです。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

レポート提出にあたってはマイクロソフトワードによる作成, そして Canvas LMS での提出となる。

その他/ Others

1. テニスシューズを必ず準備すること。テニスラケットは貸出用があるが、準備できる者はマイラケット持参のこと。
2. 第 1 回目の授業は教室で実施する。更衣不要。その際に、「通学定期乗車券発行控」を忘れずに持参すること。実施教室は、ポールラッシュアスレチックセンター1F 掲示板を確認すること。この第 1 回目の授業には必ず参加すること。
3. テニスに対する意欲の高い人、授業を休むつもりの無い人の履修を希望する。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第 1 回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

テニス

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

テニス

田中 伸明 (TANAKA NOBUAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI354
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

テニスの技術習得や、マナー、ルールをなど、テニスに関する知識の獲得を目標とすると同時に、テニスの楽しさ・奥深さを体験してもらうことも目的とする。

The objective of this course is for students to learn tennis techniques and acquire knowledge about tennis such as etiquette and rules while experiencing the enjoyability and depth of tennis.

授業の内容 / Course Contents

テニスコートでは、その時限において課題・テーマをもとに練習し、それを実戦で試してみる、ということを経験する。適宜時限内において、テニスに必要なマナー・ルール・知識についての説明も行う。

また、座学として生涯スポーツとしてのテニスについて講義を行う。

On the tennis court, the basic class flow is to practice under the topic and theme for the period and to try it out in an actual match. The etiquette, rules and knowledge necessary for tennis are also explained in the appropriate

period.

In the classroom, lectures are given on tennis as a lifelong sport.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス、ストレッチング、水分補給について（教室講義）

必ず出席すること

2回：ショートラリーを中心としてのグランドストローク練習

3回：ショートラリーからのグランドストロークラリー練習

4回：グランドストローク基本練習

5回：グランドストローク、フットワークに留意しての練習

6回：サービス基本練習

7回：サービス練習（基本から応用）、サービスレシーブ

8回：ボレー練習（基本）

9回：ボレー練習（対ストロークとのラリー）

10回：ダブルスの試合の進め方の説明、ダブルスの試合

11回：ダブルスの試合

12回：ダブルスの試合

13回：生涯スポーツとしてのテニス1（教室講義）

授業理解度に関する小テスト

14回：生涯スポーツとしてのテニス2（教室講義）

以上の授業計画は予定である。天候や受講生の習熟度等により変わることがある。また、受講生のレベルによっても変更の可能性がある。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テニスのルールやマナーなどについてインターネットや書籍等を活用し、授業で指示された課題などに取り組むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度:40% 小テスト:10% 期末レポート:30% 技術点（技術修得・向上状況）:10% 各時限での授業内容・指示の理解度:10%

2／3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特になし。必要に応じて資料を配付する。

参考文献 / Readings

公財) 日本テニス協会 『テニス指導教本 I』 大修館書店 2015 年 9784469267853

公財) 日本テニス協会 『JTA TENNIS RULE BOOK 2024』 日本テニス協会 2024 年

松岡修造, 修造チャレンジスタッフ 『世界にチャレンジ!』 ベースボール・マガジン社 2021 年
9784583113371

別府諸兄監訳 『テニスパフォーマンスのための実践トレーニングガイド』 ナップ 2008 年
9784931411760

澁谷隆良 『指導者のためのテニスの科学と応用』 ブックハウス HD 2010 年 9784938335519

ブラッド・ギルバート, スティーブ・ジェイミソン; 宮城淳訳 『ウイニング・アグリー』 日本文化出版
1997 年 9784890840222

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

テニスは、運動量が必要とされるスポーツである。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

レポート提出にあたってはマイクロソフトワードによる作成, そして Canvas LMS での提出となる。

その他/ Others

1. テニスシューズを必ず準備すること。テニスラケットは貸出用があるが、準備できる者はマイラケット持参のこと。
2. 第 1 回目の授業は教室で実施する。更衣不要。その際に、「通学定期乗車券発行控」を忘れずに持参すること。実施教室は、ポールラッシュアスレチックセンター1F 掲示板を確認すること。この第 1 回目の授業には必ず参加すること。
3. テニスに対する意欲の高い人、授業を休むつもりの無い人の履修を希望する。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第 1 回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

テニス

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

テニス

田中 伸明 (TANAKA NOBUAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI355
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

テニスの技術習得や、マナー、ルールをなど、テニスに関する知識の獲得を目標とすると同時に、テニスの楽しさ・奥深さを体験してもらうことも目的とする。

The objective of this course is for students to learn tennis techniques and acquire knowledge about tennis such as etiquette and rules while experiencing the enjoyability and depth of tennis.

授業の内容 / Course Contents

テニスコートでは、その時限において課題・テーマをもとに練習し、それを実戦で試してみる、ということを経験する。適宜時限内において、テニスに必要なマナー・ルール・知識についての説明も行う。

また、座学として生涯スポーツとしてのテニスについて講義を行う。

On the tennis court, the basic class flow is to practice under the topic and theme for the period and to try it out in an actual match. The etiquette, rules and knowledge necessary for tennis are also explained in the appropriate

period.

In the classroom, lectures are given on tennis as a lifelong sport.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス、ストレッチング、水分補給について（教室講義）

必ず出席すること

2回：ショートラリーを中心としてのグランドストローク練習

3回：ショートラリーからのグランドストロークラリー練習

4回：グランドストローク基本練習

5回：グランドストローク、フットワークに留意しての練習

6回：サービス基本練習

7回：サービス練習（基本から応用）、サービスレシーブ

8回：ボレー練習（基本）

9回：ボレー練習（対ストロークとのラリー）

10回：ダブルスの試合の進め方の説明、ダブルスの試合

11回：ダブルスの試合

12回：ダブルスの試合

13回：生涯スポーツとしてのテニス1（教室講義）

授業理解度に関する小テスト

14回：生涯スポーツとしてのテニス2（教室講義）

以上の授業計画は予定である。天候や受講生の習熟度等により変わることがある。また、受講生のレベルによっても変更の可能性がある。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テニスのルールやマナーなどについてインターネットや書籍等を活用し、授業で指示された課題などに取り組むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度:40% 小テスト:10% 期末レポート:30% 技術点（技術修得・向上状況）:10% 各時限での授業内容・指示の理解度:10%

2／3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特になし。必要に応じて資料を配付する。

参考文献 / Readings

公財) 日本テニス協会 『テニス指導教本 I』 大修館書店 2015 年 9784469267853

公財) 日本テニス協会 『JTA TENNIS RULE BOOK 2024』 日本テニス協会 2024 年

松岡修造, 修造チャレンジスタッフ 『世界にチャレンジ!』 ベースボール・マガジン社 2021 年
9784583113371

別府諸兄監訳 『テニスパフォーマンスのための実践トレーニングガイド』 ナップ 2008 年
9784931411760

澁谷隆良 『指導者のためのテニスの科学と応用』 ブックハウス HD 2010 年 9784938335519

ブラッド・ギルバート, スティーブ・ジェイミソン; 宮城淳訳 『ウイニング・アグリー』 日本文化出版
1997 年 9784890840222

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

テニスは、運動量が必要とされるスポーツである。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

レポート提出にあたってはマイクロソフトワードによる作成, そして Canvas LMS での提出となる。

その他/ Others

1. テニスシューズを必ず準備すること。テニスラケットは貸出用があるが、準備できる者はマイラケット持参のこと。
2. 第 1 回目の授業は教室で実施する。更衣不要。その際に、「通学定期乗車券発行控」を忘れずに持参すること。実施教室は、ポールラッシュアスレチックセンター1F 掲示板を確認すること。この第 1 回目の授業には必ず参加すること。
3. テニスに対する意欲の高い人、授業を休むつもりの無い人の履修を希望する。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第 1 回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

テニス

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

テニス

田中 伸明 (TANAKA NOBUAKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI356
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

テニスの技術習得や、マナー、ルールをなど、テニスに関する知識の獲得を目標とすると同時に、テニスの楽しさ・奥深さを体験してもらうことも目的とする。

The objective of this course is for students to learn tennis techniques and acquire knowledge about tennis such as etiquette and rules while experiencing the enjoyability and depth of tennis.

授業の内容 / Course Contents

テニスコートでは、その時限において課題・テーマをもとに練習し、それを実戦で試してみる、ということを経験する授業の流れとする。適宜時限内において、テニスに必要なマナー・ルール・知識についての説明も行う。

また、座学として生涯スポーツとしてのテニスについて講義を行う。

On the tennis court, the basic class flow is to practice under the topic and theme for the period and to try it out in an actual match. The etiquette, rules and knowledge necessary for tennis are also explained in the appropriate

period.

In the classroom, lectures are given on tennis as a lifelong sport.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス、ストレッチング、水分補給について（教室講義）

必ず出席すること

2回：ショートラリーを中心としてのグランドストローク練習

3回：ショートラリーからのグランドストロークラリー練習

4回：グランドストローク基本練習

5回：グランドストローク、フットワークに留意しての練習

6回：サービス基本練習

7回：サービス練習（基本から応用）、サービスレシーブ

8回：ボレー練習（基本）

9回：ボレー練習（対ストロークとのラリー）

10回：ダブルスの試合の進め方の説明、ダブルスの試合

11回：ダブルスの試合

12回：ダブルスの試合

13回：生涯スポーツとしてのテニス1（教室講義）

授業理解度に関する小テスト

14回：生涯スポーツとしてのテニス2（教室講義）

以上の授業計画は予定である。天候や受講生の習熟度等により変わることがある。また、受講生のレベルによっても変更の可能性がある。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テニスのルールやマナーなどについてインターネットや書籍等を活用し、授業で指示された課題などに取り組むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:40% 小テスト:10% 期末レポート:30% 技術点（技術修得・向上状況）:10% 各時限での授業内容・指示の理解度:10%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特になし。必要に応じて資料を配付する。

参考文献 / Readings

公財) 日本テニス協会 『テニス指導教本 I』 大修館書店 2015 年 9784469267853

公財) 日本テニス協会 『JTA TENNIS RULE BOOK 2024』 日本テニス協会 2024 年

松岡修造, 修造チャレンジスタッフ 『世界にチャレンジ!』 ベースボール・マガジン社 2021 年
9784583113371

別府諸兄監訳 『テニスパフォーマンスのための実践トレーニングガイド』 ナップ 2008 年
9784931411760

澁谷隆良 『指導者のためのテニスの科学と応用』 ブックハウス HD 2010 年 9784938335519

ブラッド・ギルバート, スティーブ・ジェイミソン; 宮城淳訳 『ウイニング・アグリー』 日本文化出版
1997 年 9784890840222

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

テニスは、運動量が必要とされるスポーツである。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

レポート提出にあたってはマイクロソフトワードによる作成, そして Canvas LMS での提出となる。

その他/ Others

1. テニスシューズを必ず準備すること。テニスラケットは貸出用があるが、準備できる者はマイラケット持参のこと。
2. 第 1 回目の授業は教室で実施する。更衣不要。その際に、「通学定期乗車券発行控」を忘れずに持参すること。実施教室は、ポールラッシュアスレチックセンター1F 掲示板を確認すること。この第 1 回目の授業には必ず参加すること。
3. テニスに対する意欲の高い人、授業を休むつもりが無い人の履修を希望する。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第 1 回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

テニス

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

テニス（英語）

川端 雅人（KAWABATA MASATO）

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI357

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1221

使用言語： 英語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

By the end of the course, students should be able to achieve the followings in the context of tennis:

- 1) Explain the rules and etiquette of the games,
- 2) Acquire fundamental skills and knowledge to play tennis safely, and
- 3) Enjoy playing tennis by interacting with others fairly and constructively.

授業の内容 / Course Contents

This course is for beginners. The course content is designed to provide students with fundamental knowledge and skills to play tennis recreationally. Students will be introduced to the basic skills and useful approaches to enjoy playing tennis individually as well as a team.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction to tennis: features, rules, safety, and etiquettes

Familiarizing instruments

- 2回：Forehand groundstroke: technique and rally with short distance
 3回：Forehand groundstroke: rally with middle distance, rally games
 4回：Backhand groundstroke: technique and rally with short distance
 5回：Backhand groundstroke: rally with middle distance, rally games
 6回：Overhand serve: technique and practice
 7回：Half-court single matches
 8回：Volley: technique and practice
 9回：Groundstroke to volley
 10回：Doubles matches: rules and practice
 11回：Doubles matches: strategies; Theory test
 12回：Team matches
 13回：Team matches
 14回：Team matches / Lecture

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read and watch recommended materials before attending lessons for promoting their understanding and performance in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Practical performance achievement:30% Practical performance improvement:30%

Individual report:30% Positive learning contribution:10%

2／3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

Recommended books are introduced in the course.

参考文献 / Readings

Recommended reading materials are introduced in the course.

注意事項

- 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
- 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

テニス（英語）

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

バスケットボール

後関 慎司 (GOSEKI SHINJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI358
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業ではバスケットボールを通じて目標達成に必要な集団行動の大切さと個人の役割を果たすことの大切さを学習させ、ルールの理解、基礎的な技術・戦術を習得するだけでなく、人間力の向上を目的とする目標とする。

The aim of this class is to have students learn the importance of group behavior and individual roles necessary to achieve goals through basketball, not only to understand the rules and acquire basic skills and tactics, but also to improve their human skills.

授業の内容 / Course Contents

本授業は初心者を対象とし、バスケットボールの基礎技術・戦術を身につけるために授業ごとのテーマに沿った練習を行う。授業後半にはゲームを行い、習得した技術を試す。チーム分けをして、チームごとに個人・チームのパフォーマンスを向上させる方法を考え、実践する。授業では、コミュニケーション能力の向上のためのワークも行う。

This course is especially designed for beginners, and practice events are conducted according to the theme of each class to help students acquire the basic skills and tactics of basketball. In the second half of the class, students play a game to test the skills they learn. After dividing into teams, each team considers and implements ways to improve individual and team performance. In each class, the discussions will be also included to improve communication skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（講義）
 2回：バスケットボール概論（講義）
 3回：基本技術（パス ドリブル）
 グループ別トレーニング
 4回：基本技術（シュート）
 グループ別トレーニング
 5回：ゲーム形式
 6回：ゲーム形式
 7回：ゲーム形式
 8回：前半振り返り（グループワーク）
 中間レポート提出
 9回：チーム入れ替え戦略確認
 10回：ゲーム形式
 11回：チーム入れ替え戦略確認
 12回：ゲーム形式
 シュートテスト・トレーニング
 13回：シュートテスト
 14回：最終レポート作成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じ、授業時に指示する。
 体調を整えて授業に臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加および授業での取り組み:60% 授業中に課す課題:20% 最終レポート
 割合：20%

2／3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト/ Textbooks**参考文献 / Readings****履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

本授業は初心者を対象としております。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

バスケットボール

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

バスケットボール

後関 慎司 (GOSEKI SHINJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI359
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業ではバスケットボールを通じて目標達成に必要な集団行動の大切さと個人の役割を果たすことの大切さを学習させ、ルールの理解、基礎的な技術・戦術を習得するだけでなく、人間力の向上を目的とする目標とする。

The aim of this class is to have students learn the importance of group behavior and individual roles necessary to achieve goals through basketball, not only to understand the rules and acquire basic skills and tactics, but also to improve their human skills.

授業の内容 / Course Contents

本授業は初心者を対象とし、バスケットボールの基礎技術・戦術を身につけるために授業ごとのテーマに沿った練習を行う。授業後半にはゲームを行い、習得した技術を試す。チーム分けをして、チームごとに個人・チームのパフォーマンスを向上させる方法を考え、実践する。授業では、コミュニケーション能力の向上のためのワークも行う。

This course is especially designed for beginners, and practice events are conducted according to the theme of each class to help students acquire the basic skills and tactics of basketball. In the second half of the class, students play a game to test the skills they learn. After dividing into teams, each team considers and implements ways to improve individual and team performance. In each class, the discussions will be also included to improve communication skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（講義）
- 2回：バスケットボール概論（講義）
- 3回：基本技術（パス ドリブル）
グループ別トレーニング
- 4回：基本技術（シュート）
グループ別トレーニング
- 5回：ゲーム形式
- 6回：ゲーム形式
- 7回：ゲーム形式
- 8回：前半振り返り（グループワーク）
中間レポート提出
- 9回：チーム入れ替え戦略確認
- 10回：ゲーム形式
- 11回：チーム入れ替え戦略確認
- 12回：ゲーム形式
シュートテスト・トレーニング
- 13回：シュートテスト
- 14回：最終レポート作成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じ、授業時に指示する。
体調を整えて授業に臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加および授業での取り組み:60% 授業中に課す課題:20% 最終レポート
割合：:20%

2／3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト/ Textbooks**参考文献 / Readings****履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

本授業は初心者を対象としております。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

バスケットボール

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

フットサル

笛木 寛 (FUEKI YUTAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI360

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

フットサルの基礎技術、戦術を理解し、技能を身につける。コミュニケーション能力を活かして、グループワーク（チームでの練習、試合）が有効に機能する方法を考え実践する。

Understand the basic techniques and tactics of futsal and acquire skills. Utilize communication skills to think and practice how group work (team practice, games) works effectively.

授業の内容 / Course Contents

チーム分けをしたうえで、前半はフットサルの基礎技術・戦術に関する統一テーマでの練習、試合を行う。後半はM-T-Mメソッドを有効に機能させるためのポイントを考察し、チームごとに同メソッドを用いて、個人・チームパフォーマンスを向上させる方法を考え、実践する。

After dividing into teams, in the first half, practice and games will be held on a unified theme related to basic futsal techniques and tactics. In the second half, we will consider the points for effectively functioning the M-T-M method, and consider and practice how to improve individual / team performance by using the method for

each team.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：チーム分け、試しのゲーム、ルールの理解
- 3回：ボール・ポゼッション
- 4回：シュートの技術、戦術
- 5回：守備の技術、戦術
- 6回：リーグ戦①（M-T-M メソッドとは）
- 7回：練習①（練習の形式と内容）
- 8回：リーグ戦②（練習の形式と内容）
- 9回：練習②（良い練習とは）
- 10回：リーグ戦③（良い練習とは）
- 11回：練習③（ベクトルを合わせる）
- 12回：リーグ戦④（ベクトルを合わせる）
- 13回：リーグ戦⑤（M-T-M メソッド再考）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み:50% 技術・戦術の習得度:20% 最終レポート割合：:30%

遅刻2回で欠席1回に換算する。授業実施回数の2/3以上の出席をしていない場合は成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

テニスのオムニコートでのプレーとなります。適した服装とシューズを用意してください。

その他 / Others

授業中のスマートフォンの使用は禁止します。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動が

できる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

フットサル

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

フットサル

笛木 寛 (FUEKI YUTAKA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI361

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

フットサルの基礎技術、戦術を理解し、技能を身につける。コミュニケーション能力を活かして、グループワーク（チームでの練習、試合）が有効に機能する方法を考え実践する。

Understand the basic techniques and tactics of futsal and acquire skills. Utilize communication skills to think and practice how group work (team practice, games) works effectively.

授業の内容 / Course Contents

チーム分けをしたうえで、前半はフットサルの基礎技術・戦術に関する統一テーマでの練習、試合を行う。後半はM-T-Mメソッドを有効に機能させるためのポイントを考察し、チームごとに同メソッドを用いて、個人・チームパフォーマンスを向上させる方法を考え、実践する。

After dividing into teams, in the first half, practice and games will be held on a unified theme related to basic futsal techniques and tactics. In the second half, we will consider the points for effectively functioning the M-T-M method, and consider and practice how to improve individual / team performance by using the method for

each team.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：チーム分け、試しのゲーム、ルールの理解
- 3回：ボール・ポゼッション
- 4回：シュートの技術、戦術
- 5回：守備の技術、戦術
- 6回：リーグ戦①（M-T-M メソッドとは）
- 7回：練習①（練習の形式と内容）
- 8回：リーグ戦②（練習の形式と内容）
- 9回：練習②（良い練習とは）
- 10回：リーグ戦③（良い練習とは）
- 11回：練習③（ベクトルを合わせる）
- 12回：リーグ戦④（ベクトルを合わせる）
- 13回：リーグ戦⑤（M-T-M メソッド再考）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への取り組み:50% 技術・戦術の習得度:20% 最終レポート割合：:30%

遅刻2回で欠席1回に換算する。授業実施回数の2/3以上の出席をしていない場合は成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

テニスのオムニコートでのプレーとなります。適した服装とシューズを用意してください。

その他 / Others

授業中のスマートフォンの使用は禁止します。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動が

できる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

フットサル

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

フットサル

檜山 康 (HIYAMA YASUSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI362
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業ではフットサルにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。フットサルの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。

The objective of this class is for students to understand and be able to implement the basic tactics of futsal. Study instructional methods while experiencing the fun of futsal.

授業の内容 / Course Contents

技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、フットサルの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を 2 種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。

We would like for students to experience the feeling that their “can-do” can be increased by their “knowledge,”

regardless of skill level. Through a “can-do” experience, we would like for students to experience the joy of futsal and wish to tell others about their experience in this class. Each class starts with a different warm-up, such as a game of tag, and two practice events are held according to the theme of each class. Students practice to learn the theme naturally. In the second half of the class we always play a game to review the theme.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション・導入
スポーツを楽しむとはどのようなことか？
- 2回：ボール無しの動き（1）
集団で動くことの難しさ
- 3回：ボール無しの動き（2）
サポートの方法（タイミング、角度）
- 4回：ドリブル・ボールコントロール
個人技術と集団戦術の関係
- 5回：プレーの先取り
ボール無しの動きを引き出す スペースを創って使う
- 6回：判断のスピード
3人目の動きのタイミング
- 7回：1対1の対応
局面と全体の関係 連動
- 8回：チームワーク
組み立ての基本
- 9回：チャレンジ&カバー
局面の連動と全体の連動
- 10回：攻撃の幅
周りを見る 遠くを見る
- 11回：攻撃の連動（1）
幅を使いながら動き出す
- 12回：攻撃の連動（2）
切り替えの速さ コンパクトネス
- 13回：数的優位を生かす
出し手、受け手の意識
- 14回：後方からのサポート
組み立てのプランを持つ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については、履修者に第1回目の授業時に説明する。

復習については、授業で行った練習について記録する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002）/ Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:30% 実技テスト:30% 最終レポート割合 :40%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト/ Textbooks

使用しない。適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

フットサル

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

フットサル

檜山 康 (HIYAMA YASUSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI363
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業ではフットサルにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。フットサルの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。

The objective of this class is for students to understand and be able to implement the basic tactics of futsal. Study instructional methods while experiencing the fun of futsal.

授業の内容 / Course Contents

技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、フットサルの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を 2 種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。

We would like for students to experience the feeling that their “can-do” can be increased by their “knowledge,”

regardless of skill level. Through a “can-do” experience, we would like for students to experience the joy of futsal and wish to tell others about their experience in this class. Each class starts with a different warm-up, such as a game of tag, and two practice events are held according to the theme of each class. Students practice to learn the theme naturally. In the second half of the class we always play a game to review the theme.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション・導入
スポーツを楽しむとはどのようなことか？
- 2回：ボール無しの動き（1）
集団で動くことの難しさ
- 3回：ボール無しの動き（2）
サポートの方法（タイミング、角度）
- 4回：ドリブル・ボールコントロール
個人技術と集団戦術の関係
- 5回：プレーの先取り
ボール無しの動きを引き出す スペースを創って使う
- 6回：判断のスピード
3人目の動きのタイミング
- 7回：1対1の対応
局面と全体の関係 連動
- 8回：チームワーク
組み立ての基本
- 9回：チャレンジ&カバー
局面の連動と全体の連動
- 10回：攻撃の幅
周りを見る 遠くを見る
- 11回：攻撃の連動（1）
幅を使いながら動き出す
- 12回：攻撃の連動（2）
切り替えの速さ コンパクトネス
- 13回：数的優位を生かす
出し手、受け手の意識
- 14回：後方からのサポート
組み立てのプランを持つ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については、履修者に第1回目の授業時に説明する。

復習については、授業で行った練習について記録する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002）/ Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:30% 実技テスト:30% 最終レポート割合 :40%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト/ Textbooks

使用しない。適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

フットサル

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

フットサル

川本 竜史 (KAWAMOTO RYUUJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI364
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

フットサルの基礎技術を習得するとともに、ルールや個人戦術・チーム戦術に対する理解を深める。チームスポーツであるフットサルに対する取り組みを通じて、コミュニケーション能力を高める。

Learn the basic techniques of futsal while deepening your understanding of individual tactics and team tactics. By playing futsal as a team sport, improve your communication skills.

授業の内容 / Course Contents

実技は、基本的にウォーミングアップ→テーマトレーニング→ゲームという流れで行う。適宜、ルールや個人戦術やチーム戦術に関する講義も交える。女子や初心者の履修も歓迎する。実技授業であるため成績評価においては授業参加を重視し、仲間とともに楽しみながら積極的に身体を動かすことを求める。

Practice basically flows from warm-up to theme training to game. Lectures on individual tactics and team tactics are mixed in as appropriate. Women and beginners are also welcome to take the course. Because this is a practical skills class, grade evaluation places great importance on class participation, and students are requested to

proactively move their bodies while having fun with their peers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスと導入「フットサルをしよう！」
- 2回：基礎技術トレーニング（ボールフィーリング）とゲーム
- 3回：基礎技術トレーニング（止める・蹴る）とゲーム
- 4回：講義「フットサルのルールと戦術」とゲーム
- 5回：基礎技術トレーニング（ドリブル）とゲーム
- 6回：講義「フットサルのポジション・システム」とゲーム
- 7回：個人戦術トレーニング（守備）とゲーム
- 8回：講義「プレーの原則」とゲーム
- 9回：グループ戦術トレーニング（攻撃）とゲーム
- 10回：講義「攻撃戦術」とゲーム
- 11回：講義「守備戦術」とゲーム
- 12回：講義「セットプレー」とゲーム
- 13回：講義「チーム戦術」とゲーム
- 14回：まとめのゲーム

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業終了時に適宜指示する。

実技が中心となるため、体調を整えて授業に臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加および授業での取り組み:70% 授業中に課す課題:10% 最終レポート
割合：:20%

2／3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

サッカーやフットサルの経験は問いませんが、体を動かして汗をかきたくない人や、サッカー経験や学年、性別を混ぜたチームやグループでのプレーに抵抗がある人にはミスマッチの可能性がありますので、注意して履修して下さい。

その他 / Others

- ・体調管理を徹底し、安全に留意して実技を行うこと。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

フットサル

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

フットサル

川本 竜史 (KAWAMOTO RYUUJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI365
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

フットサルの基礎技術を習得するとともに、ルールや個人戦術・チーム戦術に対する理解を深める。チームスポーツであるフットサルに対する取り組みを通じて、コミュニケーション能力を高める。

Learn the basic techniques of futsal while deepening your understanding of individual tactics and team tactics. By playing futsal as a team sport, improve your communication skills.

授業の内容 / Course Contents

実技は、基本的にウォーミングアップ→テーマトレーニング→ゲームという流れで行う。適宜、ルールや個人戦術やチーム戦術に関する講義も交える。女子や初心者の履修も歓迎する。実技授業であるため成績評価においては授業参加を重視し、仲間とともに楽しみながら積極的に身体を動かすことを求める。

Practice basically flows from warm-up to theme training to game. Lectures on individual tactics and team tactics are mixed in as appropriate. Women and beginners are also welcome to take the course. Because this is a practical skills class, grade evaluation places great importance on class participation, and students are requested to

proactively move their bodies while having fun with their peers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスと導入「フットサルをしよう！」
- 2回：基礎技術トレーニング（ボールフィーリング）とゲーム
- 3回：基礎技術トレーニング（止める・蹴る）とゲーム
- 4回：講義「フットサルのルールと戦術」とゲーム
- 5回：基礎技術トレーニング（ドリブル）とゲーム
- 6回：講義「フットサルのポジション・システム」とゲーム
- 7回：個人戦術トレーニング（守備）とゲーム
- 8回：講義「プレーの原則」とゲーム
- 9回：グループ戦術トレーニング（攻撃）とゲーム
- 10回：講義「攻撃戦術」とゲーム
- 11回：講義「守備戦術」とゲーム
- 12回：講義「セットプレー」とゲーム
- 13回：講義「チーム戦術」とゲーム
- 14回：まとめのゲーム

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業終了時に適宜指示する。

実技が中心となるため、体調を整えて授業に臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加および授業での取り組み:70% 授業中に課す課題:10% 最終レポート
割合：:20%

2／3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

サッカーやフットサルの経験は問いませんが、体を動かして汗をかきたくない人や、サッカー経験や学年、性別を混ぜたチームやグループでのプレーに抵抗がある人にはミスマッチの可能性がありますので、注意して履修して下さい。

その他 / Others

- ・体調管理を徹底し、安全に留意して実技を行うこと。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

フットサル

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

フットサル

笛木 寛 (FUEKI YUTAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI366
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

フットサルの基礎技術、戦術を理解し、技能を身につける。コミュニケーション能力を活かして、グループワーク（チームでの練習、試合）が有効に機能する方法を考え実践する。

Understand the basic techniques and tactics of futsal and acquire skills. Utilize communication skills to think and practice how group work (team practice, games) works effectively.

授業の内容 / Course Contents

チーム分けをしたうえで、前半はフットサルの基礎技術・戦術に関する統一テーマでの練習、試合を行う。後半はM-T-Mメソッドを有効に機能させるためのポイントを考察し、チームごとに同メソッドを用いて、個人・チームパフォーマンスを向上させる方法を考え、実践する。

After dividing into teams, in the first half, practice and games will be held on a unified theme related to basic futsal techniques and tactics. In the second half, we will consider the points for effectively functioning the M-T-M method, and consider and practice how to improve individual / team performance by using the method for

each team.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：チーム分け、試しのゲーム、ルールの理解
- 3回：ボール・ポゼッション
- 4回：シュートの技術、戦術
- 5回：守備の技術、戦術
- 6回：リーグ戦① (M-T-M メソッドとは)
- 7回：練習① (練習の形式と内容)
- 8回：リーグ戦② (練習の形式と内容)
- 9回：練習② (良い練習とは)
- 10回：リーグ戦③ (良い練習とは)
- 11回：練習③ (ベクトルを合わせる)
- 12回：リーグ戦④ (ベクトルを合わせる)
- 13回：リーグ戦⑤ (M-T-M メソッド再考)
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への取り組み:50% 技術・戦術の習得度:20% 最終レポート割合 :30%

遅刻2回で欠席1回に換算する。授業実施回数の2/3以上の出席をしていない場合は成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

テニスのオムニコートでのプレーとなります。適した服装とシューズを用意してください。

その他 / Others

授業中のスマートフォンの使用は禁止します。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター (池袋キャンパス) / 新座体育館 (新座キャンパス) の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動が

できる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

フットサル

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

フットサル

檜山 康 (HIYAMA YASUSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI367
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業ではフットサルにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。フットサルの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。

The objective of this class is for students to understand and be able to implement the basic tactics of futsal. Study instructional methods while experiencing the fun of futsal.

授業の内容 / Course Contents

技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、フットサルの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を 2 種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。

We would like for students to experience the feeling that their “can-do” can be increased by their “knowledge,”

regardless of skill level. Through a “can-do” experience, we would like for students to experience the joy of futsal and wish to tell others about their experience in this class. Each class starts with a different warm-up, such as a game of tag, and two practice events are held according to the theme of each class. Students practice to learn the theme naturally. In the second half of the class we always play a game to review the theme.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション・導入
スポーツを楽しむとはどのようなことか？
- 2回：ボール無しの動き（1）
集団で動くことの難しさ
- 3回：ボール無しの動き（2）
サポートの方法（タイミング、角度）
- 4回：ドリブル・ボールコントロール
個人技術と集団戦術の関係
- 5回：プレーの先取り
ボール無しの動きを引き出す スペースを創って使う
- 6回：判断のスピード
3人目の動きのタイミング
- 7回：1対1の対応
局面と全体の関係 連動
- 8回：チームワーク
組み立ての基本
- 9回：チャレンジ&カバー
局面の連動と全体の連動
- 10回：攻撃の幅
周りを見る 遠くを見る
- 11回：攻撃の連動（1）
幅を使いながら動き出す
- 12回：攻撃の連動（2）
切り替えの速さ コンパクトネス
- 13回：数的優位を生かす
出し手、受け手の意識
- 14回：後方からのサポート
組み立てのプランを持つ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については、履修者に第1回目の授業時に説明する。

復習については、授業で行った練習について記録する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:30% 実技テスト:30% 最終レポート割合 :40%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

使用しない。適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

フットサル

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

フットサル

檜山 康 (HIYAMA YASUSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI368
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業ではフットサルにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。フットサルの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。

The objective of this class is for students to understand and be able to implement the basic tactics of futsal. Study instructional methods while experiencing the fun of futsal.

授業の内容 / Course Contents

技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、フットサルの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を 2 種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。

We would like for students to experience the feeling that their “can-do” can be increased by their “knowledge,”

regardless of skill level. Through a “can-do” experience, we would like for students to experience the joy of futsal and wish to tell others about their experience in this class. Each class starts with a different warm-up, such as a game of tag, and two practice events are held according to the theme of each class. Students practice to learn the theme naturally. In the second half of the class we always play a game to review the theme.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション・導入
スポーツを楽しむとはどのようなことか？
- 2回：ボール無しの動き（1）
集団で動くことの難しさ
- 3回：ボール無しの動き（2）
サポートの方法（タイミング、角度）
- 4回：ドリブル・ボールコントロール
個人技術と集団戦術の関係
- 5回：プレーの先取り
ボール無しの動きを引き出す スペースを創って使う
- 6回：判断のスピード
3人目の動きのタイミング
- 7回：1対1の対応
局面と全体の関係 連動
- 8回：チームワーク
組み立ての基本
- 9回：チャレンジ&カバー
局面の連動と全体の連動
- 10回：攻撃の幅
周りを見る 遠くを見る
- 11回：攻撃の連動（1）
幅を使いながら動き出す
- 12回：攻撃の連動（2）
切り替えの速さ コンパクトネス
- 13回：数的優位を生かす
出し手、受け手の意識
- 14回：後方からのサポート
組み立てのプランを持つ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については、履修者に第1回目の授業時に説明する。

復習については、授業で行った練習について記録する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002）/ Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:30% 実技テスト:30% 最終レポート割合 :40%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト/ Textbooks

使用しない。適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

フットサル

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

フットサル

檜山 康 (HIYAMA YASUSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI369
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業ではフットサルにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。フットサルの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。

The objective of this class is for students to understand and be able to implement the basic tactics of futsal. Study instructional methods while experiencing the fun of futsal.

授業の内容 / Course Contents

技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、フットサルの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を 2 種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。

We would like for students to experience the feeling that their “can-do” can be increased by their “knowledge,”

regardless of skill level. Through a “can-do” experience, we would like for students to experience the joy of futsal and wish to tell others about their experience in this class. Each class starts with a different warm-up, such as a game of tag, and two practice events are held according to the theme of each class. Students practice to learn the theme naturally. In the second half of the class we always play a game to review the theme.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション・導入
スポーツを楽しむとはどのようなことか？
- 2回：ボール無しの動き（1）
集団で動くことの難しさ
- 3回：ボール無しの動き（2）
サポートの方法（タイミング、角度）
- 4回：ドリブル・ボールコントロール
個人技術と集団戦術の関係
- 5回：プレーの先取り
ボール無しの動きを引き出す スペースを創って使う
- 6回：判断のスピード
3人目の動きのタイミング
- 7回：1対1の対応
局面と全体の関係 連動
- 8回：チームワーク
組み立ての基本
- 9回：チャレンジ&カバー
局面の連動と全体の連動
- 10回：攻撃の幅
周りを見る 遠くを見る
- 11回：攻撃の連動（1）
幅を使いながら動き出す
- 12回：攻撃の連動（2）
切り替えの速さ コンパクトネス
- 13回：数的優位を生かす
出し手、受け手の意識
- 14回：後方からのサポート
組み立てのプランを持つ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については、履修者に第1回目の授業時に説明する。

復習については、授業で行った練習について記録する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002）/ Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:30% 実技テスト:30% 最終レポート割合 :40%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト/ Textbooks

使用しない。適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

フットサル

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

フットサル

檜山 康 (HIYAMA YASUSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI370
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業ではフットサルにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。フットサルの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。

The objective of this class is for students to understand and be able to implement the basic tactics of futsal. Study instructional methods while experiencing the fun of futsal.

授業の内容 / Course Contents

技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、フットサルの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を 2 種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。

We would like for students to experience the feeling that their “can-do” can be increased by their “knowledge,”

regardless of skill level. Through a “can-do” experience, we would like for students to experience the joy of futsal and wish to tell others about their experience in this class. Each class starts with a different warm-up, such as a game of tag, and two practice events are held according to the theme of each class. Students practice to learn the theme naturally. In the second half of the class we always play a game to review the theme.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション・導入
スポーツを楽しむとはどのようなことか？
- 2回：ボール無しの動き（1）
集団で動くことの難しさ
- 3回：ボール無しの動き（2）
サポートの方法（タイミング、角度）
- 4回：ドリブル・ボールコントロール
個人技術と集団戦術の関係
- 5回：プレーの先取り
ボール無しの動きを引き出す スペースを創って使う
- 6回：判断のスピード
3人目の動きのタイミング
- 7回：1対1の対応
局面と全体の関係 連動
- 8回：チームワーク
組み立ての基本
- 9回：チャレンジ&カバー
局面の連動と全体の連動
- 10回：攻撃の幅
周りを見る 遠くを見る
- 11回：攻撃の連動（1）
幅を使いながら動き出す
- 12回：攻撃の連動（2）
切り替えの速さ コンパクトネス
- 13回：数的優位を生かす
出し手、受け手の意識
- 14回：後方からのサポート
組み立てのプランを持つ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については、履修者に第1回目の授業時に説明する。

復習については、授業で行った練習について記録する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002）/ Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:30% 実技テスト:30% 最終レポート割合 :40%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト/ Textbooks

使用しない。適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

フットサル

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

フットサル

川本 竜史 (KAWAMOTO RYUUJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI371
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

フットサルの基礎技術を習得するとともに、ルールや個人戦術・チーム戦術に対する理解を深める。チームスポーツであるフットサルに対する取り組みを通じて、コミュニケーション能力を高める。

Learn the basic techniques of futsal while deepening your understanding of individual tactics and team tactics. By playing futsal as a team sport, improve your communication skills.

授業の内容 / Course Contents

実技は、基本的にウォーミングアップ→テーマトレーニング→ゲームという流れで行う。適宜、ルールや個人戦術やチーム戦術に関する講義も交える。女子や初心者の履修も歓迎する。実技授業であるため成績評価においては授業参加を重視し、仲間とともに楽しみながら積極的に身体を動かすことを求める。

Practice basically flows from warm-up to theme training to game. Lectures on individual tactics and team tactics are mixed in as appropriate. Women and beginners are also welcome to take the course. Because this is a practical skills class, grade evaluation places great importance on class participation, and students are requested to

proactively move their bodies while having fun with their peers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスと導入「フットサルをしよう！」
- 2回：基礎技術トレーニング（ボールフィーリング）とゲーム
- 3回：基礎技術トレーニング（止める・蹴る）とゲーム
- 4回：講義「フットサルのルールと戦術」とゲーム
- 5回：基礎技術トレーニング（ドリブル）とゲーム
- 6回：講義「フットサルのポジション・システム」とゲーム
- 7回：個人戦術トレーニング（守備）とゲーム
- 8回：講義「プレーの原則」とゲーム
- 9回：グループ戦術トレーニング（攻撃）とゲーム
- 10回：講義「攻撃戦術」とゲーム
- 11回：講義「守備戦術」とゲーム
- 12回：講義「セットプレー」とゲーム
- 13回：講義「チーム戦術」とゲーム
- 14回：まとめのゲーム

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業終了時に適宜指示する。

実技が中心となるため、体調を整えて授業に臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加および授業での取り組み:70% 授業中に課す課題:10% 最終レポート
割合：:20%

2／3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

サッカーやフットサルの経験は問いませんが、体を動かして汗をかきたくない人や、サッカー経験や学年、性別を混ぜたチームやグループでのプレーに抵抗がある人にはミスマッチの可能性がありますので、注意して履修して下さい。

その他 / Others

- ・体調管理を徹底し、安全に留意して実技を行うこと。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

フットサル

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

フットサル

川本 竜史 (KAWAMOTO RYUUJI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI372
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

フットサルの基礎技術を習得するとともに、ルールや個人戦術・チーム戦術に対する理解を深める。チームスポーツであるフットサルに対する取り組みを通じて、コミュニケーション能力を高める。

Learn the basic techniques of futsal while deepening your understanding of individual tactics and team tactics. By playing futsal as a team sport, improve your communication skills.

授業の内容 / Course Contents

実技は、基本的にウォーミングアップ→テーマトレーニング→ゲームという流れで行う。適宜、ルールや個人戦術やチーム戦術に関する講義も交える。女子や初心者の履修も歓迎する。実技授業であるため成績評価においては授業参加を重視し、仲間とともに楽しみながら積極的に身体を動かすことを求める。

Practice basically flows from warm-up to theme training to game. Lectures on individual tactics and team tactics are mixed in as appropriate. Women and beginners are also welcome to take the course. Because this is a practical skills class, grade evaluation places great importance on class participation, and students are requested to

proactively move their bodies while having fun with their peers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスと導入「フットサルをしよう！」
- 2回：基礎技術トレーニング（ボールフィーリング）とゲーム
- 3回：基礎技術トレーニング（止める・蹴る）とゲーム
- 4回：講義「フットサルのルールと戦術」とゲーム
- 5回：基礎技術トレーニング（ドリブル）とゲーム
- 6回：講義「フットサルのポジション・システム」とゲーム
- 7回：個人戦術トレーニング（守備）とゲーム
- 8回：講義「プレーの原則」とゲーム
- 9回：グループ戦術トレーニング（攻撃）とゲーム
- 10回：講義「攻撃戦術」とゲーム
- 11回：講義「守備戦術」とゲーム
- 12回：講義「セットプレー」とゲーム
- 13回：講義「チーム戦術」とゲーム
- 14回：まとめのゲーム

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業終了時に適宜指示する。

実技が中心となるため、体調を整えて授業に臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加および授業での取り組み:70% 授業中に課す課題:10% 最終レポート
割合：:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

サッカーやフットサルの経験は問いませんが、体を動かして汗をかきたくない人や、サッカー経験や学年、性別を混ぜたチームやグループでのプレーに抵抗がある人にはミスマッチの可能性がありますので、注意して履修して下さい。

その他 / Others

- ・体調管理を徹底し、安全に留意して実技を行うこと。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

フットサル

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

フットサル

角南 俊介 (SUNAMI SYUNSUKE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI373

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

- フットサルの基礎技術を習得するとともに、ルールや個人戦術・チーム戦術に対する理解を深める。
- チームスポーツであるフットサルに対する取り組みを通じて、コミュニケーション能力を高める。

Learn the basic techniques of futsal while deepening your understanding of individual tactics and team tactics. By playing futsal as a team sport, improve your communication skills.

授業の内容 / Course Contents

実技は、基本的にウォーミングアップ→テーマトレーニング→ゲームという流れで行う。適宜、ルールや個人戦術やチーム戦術に関する講義も交える。女子や初心者の履修も歓迎する。実技授業であるため成績評価においては授業参加を重視し、仲間とともに楽しみながら積極的に身体を動かすことを求める。

Practice basically flows from warm-up to theme training to game. Lectures on individual tactics and team tactics are mixed in as appropriate. Women and beginners are also welcome to take the course. Because this is a practical skills class, grade evaluation places great importance on class participation, and students are requested to

proactively move their bodies while having fun with their peers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入「フットサルをしよう！」
- 2回：基礎技術1とゲーム
- 3回：基礎技術2とゲーム
- 4回：基礎技術3とゲーム
- 5回：講義「フットサルのルールと戦術」
- 6回：個人戦術1とゲーム
- 7回：個人戦術2とゲーム
- 8回：個人戦術3とゲーム
- 9回：チーム戦術1とゲーム
- 10回：チーム戦術2とゲーム
- 11回：チーム戦術3とゲーム
- 12回：セットプレー1とゲーム
- 13回：セットプレー2とゲーム
- 14回：まとめのゲーム

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業終了時に適宜指示する。

実技が中心となるため、体調を整えて授業に臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加および授業での取り組み:70% 授業中に課す課題:10% 最終レポート
割合：:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

・体調管理を徹底し、安全に留意して実技を行うこと。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

フットサル

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

ブラインドサッカー

大室 龍大 (OHMURO TATSUHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI374

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

ブラインドサッカーの基礎技術を習得するとともに、個人戦術・チーム戦術に対する理解を深める。またブラインドサッカーを通じて、コミュニケーション能力を高める。

Learn the basic techniques of blind football while deepening your understanding of individual tactics and team tactics. In addition, through blind football, improve your communication skills.

授業の内容 / Course Contents

実技は、基本的にウォーミングアップ→テーマトレーニングという流れで行う。適宜、個人戦術やチーム戦術に関する講義も交える。女子や初心者の履修も歓迎する。実技授業であるため成績評価においては授業参加を重視し、仲間とともに楽しみながら積極的に身体を動かすことを求める。

Practice basically flows from warm-up to theme training. Lectures on individual tactics and team tactics are mixed in as appropriate. Women and beginners are also welcome to take the course. Because this is a practical skills class, grade evaluation places great importance on class participation, and students are requested to

proactively move their bodies while having fun with their peers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：ブラインドサッカーを体験する
- 3回：ブラインドサッカーのルールを理解する
- 4回：ブラインドサッカーの競技特性を理解する
- 5回：ドリブルの技術を習得する
- 6回：パスの技術を習得する
- 7回：トラップの技術を習得する
- 8回：守備の技術を習得する
- 9回：シュートの技術を習得する
- 10回：ゲストスピーカー(日本代表選手予定)
- 11回：ブラインドサッカー特有の戦術を理解する
- 12回：ブラインドサッカーの模擬ゲームを行う①
- 13回：ブラインドサッカーの模擬ゲームを行う②
- 14回：今学期のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業終了時に適宜指示する。

実技が中心となるため、体調を整えて授業に臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加および授業での取り組み:70% 授業中に課す課題:10% 最終レポート
割合：:20%

2／3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

積極的なコミュニケーション能力が求められます。

その他 / Others

初回授業時に①「通学定期乗車券発行控」、②「顔写真（4センチ×3センチ）1枚」の2点を持参してください。

サッカー経験がない学生でも受講可能、パラスポーツに興味がある学生は大歓迎です。

授業を受講する上では、積極的にコミュニケーションを取ることが重要です。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ブラインドサッカー

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

ブラインドサッカー

大室 龍大 (OHMURO TATSUHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI375
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

ブラインドサッカーの基礎技術を習得するとともに、個人戦術・チーム戦術に対する理解を深める。またブラインドサッカーを通じて、コミュニケーション能力を高める。

Learn the basic techniques of blind football while deepening your understanding of individual tactics and team tactics. In addition, through blind football, improve your communication skills.

授業の内容 / Course Contents

実技は、基本的にウォーミングアップ→テーマトレーニングという流れで行う。適宜、個人戦術やチーム戦術に関する講義も交える。女子や初心者の履修も歓迎する。実技授業であるため成績評価においては授業参加を重視し、仲間とともに楽しみながら積極的に身体を動かすことを求める。

Practice basically flows from warm-up to theme training. Lectures on individual tactics and team tactics are mixed in as appropriate. Women and beginners are also welcome to take the course. Because this is a practical skills class, grade evaluation places great importance on class participation, and students are requested to

proactively move their bodies while having fun with their peers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：ブラインドサッカーを体験する
- 3回：ブラインドサッカーのルールを理解する
- 4回：ブラインドサッカーの競技特性を理解する
- 5回：ドリブルの技術を習得する
- 6回：パスの技術を習得する
- 7回：トラップの技術を習得する
- 8回：守備の技術を習得する
- 9回：シュートの技術を習得する
- 10回：ゲストスピーカー(日本代表選手予定)
- 11回：ブラインドサッカー特有の戦術を理解する
- 12回：ブラインドサッカーのゲームを行う①
- 13回：ブラインドサッカーのゲームを行う②
- 14回：今学期のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業終了時に適宜指示する。

実技が中心となるため、体調を整えて授業に臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加および授業での取り組み:70% 授業中に課す課題:10% 最終レポート
割合：:20%

2／3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

積極的なコミュニケーション能力が求められます。

その他 / Others

初回授業時に①「通学定期乗車券発行控」、②「顔写真（4センチ×3センチ）1枚」の2点を持参してください。

サッカー経験がない学生でも受講可能、パラスポーツに興味がある学生は大歓迎です。

授業を受講する上では、積極的にコミュニケーションを取ることが重要です。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ブラインドサッカー

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

フットサル

角南 俊介 (SUNAMI SYUNSUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI376
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

- フットサルの基礎技術を習得するとともに、ルールや個人戦術・チーム戦術に対する理解を深める。
- チームスポーツであるフットサルに対する取り組みを通じて、コミュニケーション能力を高める。

Learn the basic techniques of futsal while deepening your understanding of individual tactics and team tactics. By playing futsal as a team sport, improve your communication skills.

授業の内容 / Course Contents

実技は、基本的にウォーミングアップ→テーマトレーニング→ゲームという流れで行う。適宜、ルールや個人戦術やチーム戦術に関する講義も交える。女子や初心者の履修も歓迎する。実技授業であるため成績評価においては授業参加を重視し、仲間とともに楽しみながら積極的に身体を動かすことを求める。

Practice basically flows from warm-up to theme training to game. Lectures on individual tactics and team tactics are mixed in as appropriate. Women and beginners are also welcome to take the course. Because this is a practical skills class, grade evaluation places great importance on class participation, and students are requested to

proactively move their bodies while having fun with their peers.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入「フットサルをしよう！」
- 2回：基礎技術1とゲーム
- 3回：基礎技術2とゲーム
- 4回：基礎技術3とゲーム
- 5回：講義「フットサルのルールと戦術」
- 6回：個人戦術1とゲーム
- 7回：個人戦術2とゲーム
- 8回：個人戦術3とゲーム
- 9回：チーム戦術1とゲーム
- 10回：チーム戦術2とゲーム
- 11回：チーム戦術3とゲーム
- 12回：セットプレー1とゲーム
- 13回：セットプレー2とゲーム
- 14回：まとめのゲーム

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業終了時に適宜指示する。

実技が中心となるため、体調を整えて授業に臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加および授業での取り組み:60% 授業中に課す課題:10% 最終レポート
割合：:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

- ・体調管理を徹底し、安全に留意して実技を行うこと。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

フットサル

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

卓球

石渡 貴之 (ISHIWATA TAKAYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI378
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

卓球を通して楽しく身体を動かすことで、運動の利点を体験的に理解して、継続的な運動生活へと発展させる事を目標とする。

Enjoy physical exercise through table tennis. The goal is to develop an experiential understanding of the benefits of exercise and to develop a continuous physical activity lifestyle.

授業の内容 / Course Contents

卓球はラケットの操作が容易なことなどから、若年から高齢、また、レクリエーショナルからプロフェッショナルまで、様々なレベルに応じて楽しめるスポーツである。本授業では、シングルス、ダブルス、団体戦などのゲームを中心に、卓球を通じてスポーツに親しむことを第一の目的とする。また、レベルを上げながら卓球の面白さを体験するため、サーブやスマッシュなど様々な打法の基本や攻防の技術を習得することを狙う。

Table tennis is a sport that can be enjoyed by young and old, recreational and professional players of all levels because of its ease of racket manipulation. The primary objective of this class is to familiarize students with the

sport through table tennis, focusing on singles, doubles, and team games. In addition, in order to experience the fun of table tennis as they move up through the levels, the players aim to master the basics of various hitting techniques such as the serve and smash, as well as offensive and defensive skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（授業の目的，内容，注意点の確認等），卓球の特性，ルール
- 2回：講義①，グリップと構え，サービス，フォア・バックハンドの打ち方，練習
- 3回：講義②，基本ストローク（サーブ中心），シングルスゲーム，総当たり戦①
- 4回：講義③，基本ストローク（ラリー，スマッシュ中心），シングルスゲーム，総当たり戦②
- 5回：グループ演習課題説明，グループ分け，打合せ，シングルスゲームレベル別対戦①
- 6回：グループ演習課題打合せ，シングルスゲームレベル別対戦②
- 7回：グループ課題発表①，ダブルスゲーム ルール説明，練習
- 8回：グループ課題発表②，ダブルスゲーム①
- 9回：グループ課題発表③，ダブルスゲーム②
- 10回：グループ課題発表④，ダブルスゲーム③
- 11回：グループ課題発表⑤，団体戦①
- 12回：グループ課題発表⑥，団体戦②
- 13回：グループ課題発表⑦，団体戦③
- 14回：まとめ，期末レポート作成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外学習の指示は，履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習・復習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度 (60%)，技術の習熟度 (20%)，学期末レポート (10%)，グループ課題発表 (10%) :100%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は，成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は，実技への参加は認められず，見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。

参考文献 / Readings

特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）

/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

卓球

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

卓球

石渡 貴之 (ISHIWATA TAKAYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI379
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

卓球を通して楽しく身体を動かすことで、運動の利点を体験的に理解して、継続的な運動生活へと発展させる事を目標とする。

Enjoy physical exercise through table tennis. The goal is to develop an experiential understanding of the benefits of exercise and to develop a continuous physical activity lifestyle.

授業の内容 / Course Contents

卓球はラケットの操作が容易なことなどから、若年から高齢、また、レクリエーショナルからプロフェッショナルまで、様々なレベルに応じて楽しめるスポーツである。本授業では、シングルス、ダブルス、団体戦などのゲームを中心に、卓球を通じてスポーツに親しむことを第一の目的とする。また、レベルを上げながら卓球の面白さを体験するため、サーブやスマッシュなど様々な打法の基本や攻防の技術を習得することを狙う。

Table tennis is a sport that can be enjoyed by young and old, recreational and professional players of all levels because of its ease of racket manipulation. The primary objective of this class is to familiarize students with the

sport through table tennis, focusing on singles, doubles, and team games. In addition, in order to experience the fun of table tennis as they move up through the levels, the players aim to master the basics of various hitting techniques such as the serve and smash, as well as offensive and defensive skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（授業の目的，内容，注意点の確認等），卓球の特性，ルール
- 2回：講義①，グリップと構え，サービス，フォア・バックハンドの打ち方，練習
- 3回：講義②，基本ストローク（サーブ中心），シングルスゲーム，総当たり戦①
- 4回：講義③，基本ストローク（ラリー，スマッシュ中心），シングルスゲーム，総当たり戦②
- 5回：グループ演習課題説明，グループ分け，打合せ，シングルスゲームレベル別対戦①
- 6回：グループ演習課題打合せ，シングルスゲームレベル別対戦②
- 7回：グループ課題発表①，ダブルスゲーム ルール説明，練習
- 8回：グループ課題発表②，ダブルスゲーム①
- 9回：グループ課題発表③，ダブルスゲーム②
- 10回：グループ課題発表④，ダブルスゲーム③
- 11回：グループ課題発表⑤，団体戦①
- 12回：グループ課題発表⑥，団体戦②
- 13回：グループ課題発表⑦，団体戦③
- 14回：まとめ，期末レポート作成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外学習の指示は，履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習・復習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度 (60%)，技術の習熟度 (20%)，学期末レポート (10%)，グループ課題発表 (10%) :100%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は，成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は，実技への参加は認められず，見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。

参考文献 / Readings

特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）

/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

卓球

スポーツプログラム 1

Sports Program 1

はじめてのバレエ

大石 友子 (OOISHI TOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI402

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 1

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

クラシック・バレエの基本のポジションとパ(ステップ)などのエクササイズを体験し習得することによって、自らの身体の動かし方を改めて知る。簡単なコンビネーションを楽曲にあわせて踊ることを通して、踊るという運動の面白さを発見する。以上の2点を目標とする。

Improve your understanding of how to move your body by experiencing and learning exercises using the basic positions and steps of classical ballet. Discover the fun of dance movements through dancing simple combinations along with the music. These two are the objectives of this course.

授業の内容 / Course Contents

クラシック・バレエは華やかな400年の作品の歴史が知られるが、それは同時に無駄を削ぎ落とした一つの身体運動の完成の歴史でもある。本授業では、バレエを、その運動の構造を捉えて学ぶ。その上で受講者それぞれの身体に立脚した運動として、基本の実践習得を行う。

Classical ballet is known for its brilliant history of 400 years of performances, but it also has a history of perfecting a physical exercise that has been stripped of waste. In this class, students learn ballet by grasping the

patterns of this exercise. On top of this, students learn basic practice as exercises based on each student's body.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業オリエンテーション、およびバレエのためのヨガ／ 解説：身体を分割し、組み立てる
- 2回：バーレッスン（1）腕と脚のポジション／ 解説：バレエの立ち方
- 3回：バーレッスン（2）／ 解説：重心を中足骨に乗せる
- 4回：バーレッスン（3）／ 解説：ヒップを仙腸関節で分け、脚はヒップで動かす
- 5回：バーレッスン（4）／ 解説：肋骨を閉じて、肩甲骨を立て、胴体を作る
- 6回：バーレッスン（5）／ 解説：腕はウエストから動かす
- 7回：センターワーク（1）アダージオ
- 8回：センターワーク（2）ターン
- 9回：センターワーク（3）ターン
- 10回：センターワーク（4）スモールジャンプ
- 11回：センターワーク（5）グランドジャンプ
- 12回：センターワーク（6）動きのコンビネーション
- 13回：解説のまとめ、および習熟度の確認（1）
- 14回：解説のまとめ、および習熟度の確認（2）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

第一回から行うバレエのためのヨガ（ストレッチと体幹コンディショニング）を、自宅等で実習する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:40% 技術の理解度:40% 技術の習熟度:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象とならない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

必要に応じて授業中に紹介する。

その他 / Others

- ◆バレエの経験は不問。バレエシューズ、バレエ用ウェアは特に必要なし。
- ◆実習はシューズは使用せず、裸足もしくは靴下で行う。
- ◆伸縮性があり、ある程度身体にフィットした、動きやすい運動着に更衣して参加すること。
- ◆水分補給のための水筒等を持参すること。
- ◆初回は、オリエンテーション後に実技実習を行う。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

はじめてのバレエ

スポーツプログラム 1

Sports Program 1

バドミントン

西島 壮 (NISHIJIMA TAKESHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI403

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 1

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- スポーツを通して心身ともに健康的な生活習慣を獲得する。
 - バドミントンの基礎的スキルを習得し、生涯にわたってバドミントンを楽しむことができる素養を身につける。
 - コミュニケーション能力を育成する。
- Through sports, students can develop mentally and physically healthy lifestyles.
 - Students learn the fundamental skills of badminton and acquire the grounding knowledge to be able to enjoy badminton throughout their lives.
 - Students develop communication skills.

授業の内容 / Course Contents

バドミントンは、非常に軽いラケット・シャトルを用いるためラリーを続けやすく、初心者でも親しみやすいスポーツである。本授業では、バドミントンの基礎的スキルを習得するとともに、初心者・経験者が協同してゲーム（特にダブルス）を積極的に楽しむことを目指す。さらに、科学的視点からバドミントンの技術を理解す

ることや、戦術を模索するなど、一步進んだスポーツの楽しみ方を学ぶ。マナーや仲間との協力を大切に、スポーツを通じたコミュニケーション能力の向上を目指す。

Badminton uses very light rackets and shuttlecocks making it easy to rally continuously, and is an easy sport to get into even for beginners. This class aims to teach students the basic skills of badminton and for them to actively enjoy games (especially doubles) with cooperation between beginners and experienced players. In addition, students learn how to take a step further in their appreciation of the sport, such as by understanding the techniques of badminton from a scientific perspective and exploring tactics. Students aim to improve their communication skills through sports by prioritizing etiquette and cooperation with teammates.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス（授業概要・留意事項などの説明）、バドミントンの基礎（特徴、歴史など）
- 2 回：バドミントンにチャレンジ（シングルス、ダブルス）
- 3 回：ストロークの極意 1（サービス、アンダーハンド・ストローク）
- 4 回：ストロークの極意 2（スマッシュ、オーバーヘッド・ストローク）
- 5 回：基本フライトの習得
- 6 回：ダブルスの基礎（ルール、得点方法など）
- 7 回：ダブルス（団体戦）
- 8 回：ダブルスのための応用練習 1（ショットの緩急）
- 9 回：ダブルスのための応用練習 2（ローテーション）
- 10 回：ダブルスのための応用練習 3（攻守の切替）
- 11 回：バドミントンを通じて身体のしくみを知る 1（視覚、聴覚）
- 12 回：バドミントンを通じて身体のしくみを知る 2（体性感覚）
- 13 回：ダブルス・リーグ戦
- 14 回：技能テスト、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外学習の指示は、履修登録完了後に「Canvas LMS」上で履修者に対して行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への積極的な参加：60% 技能テスト：10% 最終レポート割合：30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

必要に応じて配布する。

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

バドミントン

スポーツプログラム3

Sports Program 3

フラッグフットボール

伊藤 雅敏 (ITO MASATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI500
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 1
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

アメリカンフットボール型のチームスポーツを通じて、コミュニケーション能力の重要性・Leadership スキルの構築を目指します。チームで作戦を立案・実践・修正を繰り返しながら、目標到達の醍醐味を実感します。 This class aims to develop students' leadership skills, an important factor of communication skills, through the team sport of American football. Experience the thrill of reaching your goals while repeatedly devising, implementing, and revising tactics as a team.

授業の内容 / Course Contents

フラッグフットボールはアメリカンフットボールの身体接触を排除して、性別・年齢に関係なく、誰でもチームに参画できるスポーツです。役割分担の明確化によってメンバー各々が、如何に「チームに貢献出来るか」をテーマとして授業をすすめます。クラスをチーム分けし、戦術・作戦を練り、効果的な方法を模索しながらゲームを楽しみます。

2028 年開催予定のロサンゼルスオリンピックに正式種目に採用されました。

Flag football is a sport which eliminates the physical contact of American football, allowing for anyone to

participate in a team regardless of gender or age. By defining the division of roles, each member is taught in the class “how to contribute to the team.” Classes are divided into teams, and students can enjoy the game while polishing tactics and strategies and searching for effective methods.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：ルール説明
- 3回：基本的技術練習（ハドル・しっぽ取り）
- 4回：基本的技術練習（エクステンジ）
- 5回：Offence Play(Run)
- 6回：Offence Play(Pass)
- 7回：守備の概念・実践
- 8回：作戦・戦術確認
- 9回：審判法
- 10回：リーグ戦
- 11回：リーグ戦
- 12回：リーグ戦
- 13回：リーグ戦
- 14回：振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業中に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席と授業での活動参加:80% 最終レポート割合：20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

なし

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

フラッグフットボール

スポーツプログラム3

Sports Program 3

アルティメット

安松 幹展 (YASUMATSU MIKINOBU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI501
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 1
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

アルティメットは、フライングディスク（frisbee）を使用するディスクスポーツ種目の一つで、チームで得点を競い合う団体競技である。ディスクスポーツは飛行距離や滞空時間などに特徴があり、無意識に適度な運動量と他の球技とは異なる運動感覚を養うことができる。また、これまでの運動歴に比較的關係なく、全員がほぼ同じレベルでスタートできる数少ない競技種目である。アルティメットの種目特性を理解し、生涯スポーツとして身につけることを目標とする。

Ultimate is a type of disc sport that uses flying discs (frisbees) and is a team sport where teams compete for scores. Disk sports are unique in terms of the flight distance and flight duration, and it is possible to cultivate a sense of motion that accounts for the proper momentum, which differs from that in other ball games. This is also one of the few types of games where everyone can start at about the same level regardless of their previous exercise history. The objective is for students to understand the characteristics of Ultimate and learn it as a lifetime sport.

授業の内容 / Course Contents

毎回テーマを設定して、テーマに沿ったウォーミングアップから様々なゲームを行う。前半は、ディスクスポーツの中から「ドッチビー」「ディスクゴルフ」「アキュラシー」などを中心に技術習得の目的で行い、後半はチームを編成し「アルティメット」を行う。

In each class, a theme is established and a variety of games are played following warm-ups based on the theme. The first half aims to teach techniques from disk sports focusing on “Dodgebee,” “Disk Golf,” and “Accuracy,” and in the second half, teams are formed and “Ultimate” is played.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・試しのゲーム
- 2回：ディスクの投げ方・キャッチング
- 3回：ディスクの投げ方・ドッチビー
- 4回：ディスクの投げ方・ディスクゴルフ
- 5回：ディスクの投げ方・アキュラシー
- 6回：アルティメット個人技術（スローワー）
- 7回：アルティメット個人戦術（マーカー）
- 8回：アルティメット個人技術（レシーバー）
- 9回：アルティメット個人戦術（パスカット）
- 10回：アルティメットグループ戦術（オフense）
- 11回：アルティメットグループ戦術（ディフェンス）
- 12回：アルティメットチーム戦術（オフense）
- 13回：アルティメットチーム戦術（ディフェンス）
- 14回：アルティメットリーグ戦

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	○ 校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

休み時間などの空いている時間に、ディスクのスロー&キャッチを各自で練習しておくこと。

初回から、屋外で運動のできる服装・靴を用意すること。雨天の場合は、体育館シューズを用意すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度:70% 技術の習熟度:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

James Studarus 著・師岡文男 他訳 『フライングディスクをやってみようーアルティメットの基礎と応用』
ナッポ 2011 4905168082

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

アルティメット

スポーツプログラム 3

Sports Program 3

バレーボール

田中 博史 (TANAKA HIROSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI502
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 1
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、バレーボールの持つ本来の楽しさを理解しゲームが実施できるようすることを目的として実施する。各種基本技術の習得と、バレーボールのゲームで用いられる一般的な戦術やルールに基づいたゲームの展開方法などを学習し、よりハイレベルなゲーム展開を目指す。また、バレーボールを通じて他者とのコミュニケーション能力の向上や健康の保持・増進を促進できる能力及び主体的に取り組む姿勢、多様な学生との協働を身につける。

The purpose of this class is to understand the original enjoyment of volleyball and to be able to play the game. Students will learn various basic techniques and how to develop games based on general tactics and rules used in volleyball games, aiming for higher level game development. Furthermore, through volleyball, students will acquire the ability to improve their communication skills with others, the ability to promote the maintenance and promotion of health, the attitude to work independently, and the ability to collaborate with diverse students.

授業の内容 / Course Contents

バレーボールのゲームにおける基本的なリズム（パス（レシーブ）、トス、アタック）を使用したゲームが展開

できるようにするため、基本技術の習得練習に加えて、基本的なリズムの習得を目指した練習を取り入れ、ハイレベルなゲームを楽しめるように展開する。

In order to develop a game that uses the basic rhythms (pass (bump), toss, and spike) of the volleyball game, in addition to practicing basic techniques, practice aimed at mastering basic rhythms. Incorporate it and develop it so that you can enjoy high-level games.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション アイスブレーキング・ボール慣れ
- 2回：三段攻撃の理解と実践①（複合型パス練習とミニゲーム）
- 3回：三段攻撃の理解と実践②（レセプションアタックとミニゲーム）
- 4回：三段攻撃の理解と実践③（乱打形式での練習とショートサーブでのゲーム）
- 5回：7人制でのゲーム①（三段攻撃を用いたゲーム展開の習得）
- 6回：7人制でのゲーム②（三段攻撃を用いたゲーム展開の習得）
- 7回：7人制でのゲーム③（三段攻撃を用いたゲーム展開の習得）
- 8回：攻守の切り替えとローテーションの理解
- 9回：ゲームライクドリルと実際のゲーム①
- 10回：ゲームライクドリルと実際のゲーム②
- 11回：ゲームの実践（リーグ戦①）
- 12回：ゲームの実践（リーグ戦②）
- 13回：ゲームの実践（リーグ戦③）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

実技授業の内容をノートにまとめ、理解を深めること

バレーボールの関連書籍や国際大会などを視聴し、バレーボールの理解を深めること

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度：70% 技術の習熟度：30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

日本バレーボール協会 『コーチングバレーボール（基礎編）』 大修館書店 2017 9784469268119 -

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

特になし

その他/ Others

特になし

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

バレーボール

スポーツプログラム3

Sports Program 3

バレーボール

水上 博司 (MIZUKAMI HIROSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI503
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 1
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

バレーボールの基礎技術を習得し、サーブ、レシーブ、トス、アタックの各々のプレーを通じて、仲間と一緒にボールをつなぎバレーボール型（ネット型）ゲームの楽しさを共有する。

Learn the fundamental techniques of volleyball and relay the ball with your teammates through the plays of serving, receiving, toss, and attack, sharing the fun of volleyball-type (net-type) games with your peers.

授業の内容 / Course Contents

この授業は受講生を5チームから6チームに分けます。ずっと同じチームではなく、各回ごとに男女の別にくじをつかってチーム分けをします。なので、後期の授業が終わる頃には、ほぼ受講生全員とチームを組むことができます。各回の授業では、5、6チームのリーグ戦を行っていきます。フルセットでは時間内には授業が終わらないので、1セットマッチで4セットから5セットをする予定です。中にはバレーボールが苦手な受講生もいますので、そういう学生のために特別のルールを設けて、苦手な人でも楽しめるようにルールを工夫したいと思います。

なお、各回の授業のウォーミングアップでは、ボールコーディネーション法を用いてバレーボール運動に必

要な身体の基礎的な動きを習得することをします。また、ペアを変えながら、オーバーハンドパスとアンダーハンドパスの技術習得のための練習をしていきます。いろいろな学部や学科から受講生が集まりますので、各回ごとにチームワークを大切にできるようリーグ戦前には自己紹介の時間を作って、たくさんコミュニケーションが取れ皆が楽しめるようにしたいと思います。

The fundamental body motions for volleyball are mastered using ball coordination training methods. After learning and training techniques of the overhand pass and underhand pass, 2-person continuous pass skill tests are carried out. Minigames with recreational balls and softballs are carried out. After dividing into teams, the class plays league-style games and learns the importance of teamwork.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンスおよびボールコーディネーショントレーニング
- 2回：対人ボールコーディネーション（立位姿勢プログラム）とオーバーハンドパスの基礎的トレーニングとリーグ戦（1）
- 3回：対人ボールコーディネーション（座位姿勢プログラム）とオーバーハンドパスの基礎的トレーニングとリーグ戦（2）
- 4回：3人組ボールコーディネーション（立位姿勢プログラム）とアンダーハンドパスの基礎的トレーニングとリーグ戦（3）
- 5回：3人組ボールコーディネーション（座位姿勢プログラム）とアンダーハンドパスの基礎的トレーニングとリーグ戦（4）
- 6回：オーバーハンドパスとアンダーハンドパスの対人連続スキルトレーニングとミリーグ戦（5）
- 7回：オーバーハンドパスとアンダーハンドパスのスキルアップトレーニングとリーグ戦（6）
- 8回：サーブとサーブレシーブの基礎的トレーニングとリーグ戦（7）
- 9回：上半身を使ったボールコーディネーショントレーニングとリーグ戦（8）
- 10回：バレーボールを用いた下半身の筋力トレーニングとリーグ戦（9）
- 11回：とアタック技術に必要なボール打ち込みトレーニングとリーグ戦（10）
- 12回：アタック技術に必要なボール打ち込みトレーニングとリーグ戦（11）
- 13回：アタック技術に必要なボール打ち込みトレーニングとリーグ戦（12）
- 14回：リーグ戦（13）と総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

怪我や傷害が起きないためにも受講に際しては体調を整えておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 技術の習熟度:30% 授業への参加態度:70%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

バレーボール

スポーツプログラム3

Sports Program 3

バレーボール

水上 博司 (MIZUKAMI HIROSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI504
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 1
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、バレーボールの持つ本来の楽しさを理解しゲームが実施できるようすることを目的として実施する。各種基本技術の習得と、バレーボールのゲームで用いられる一般的な戦術やルールに基づいたゲームの展開方法などを学習し、よりハイレベルなゲーム展開を目指す。また、バレーボールを通じて他者とのコミュニケーション能力の向上や健康の保持・増進を促進できる能力及び主体的に取り組む姿勢、多様な学生との協働を身につける。

The purpose of this class is to understand the original enjoyment of volleyball and to be able to play the game. Students will learn various basic techniques and how to develop games based on general tactics and rules used in volleyball games, aiming for higher level game development. Furthermore, through volleyball, students will acquire the ability to improve their communication skills with others, the ability to promote the maintenance and promotion of health, the attitude to work independently, and the ability to collaborate with diverse students.

授業の内容 / Course Contents

バレーボールのゲームにおける基本的なリズム（パス（レシーブ）、トス、アタック）を使用したゲームが展開

できるようにするため、基本技術の習得練習に加えて、基本的なリズムの習得を目指した練習を取り入れ、ハイレベルなゲームを楽しめるように展開する。

In order to develop a game that uses the basic rhythms (pass (bump), toss, and spike) of the volleyball game, in addition to practicing basic techniques, practice aimed at mastering basic rhythms. Incorporate it and develop it so that you can enjoy high-level games.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション アイスブレーキング・ボール慣れ
- 2 回：三段攻撃の理解と実践①（複合型パス練習とミニゲーム）
- 3 回：三段攻撃の理解と実践②（レセプションアタックとミニゲーム）
- 4 回：三段攻撃の理解と実践③（乱打形式での練習とショートサーブでのゲーム）
- 5 回：7人制でのゲーム①（三段攻撃を用いたゲーム展開の習得）
- 6 回：7人制でのゲーム②（三段攻撃を用いたゲーム展開の習得）
- 7 回：7人制でのゲーム③（三段攻撃を用いたゲーム展開の習得）
- 8 回：攻守の切り替えとローテーションの理解
- 9 回：ゲームライクドリルと実際のゲーム①
- 10 回：ゲームライクドリルと実際のゲーム②
- 11 回：ゲームの実践（リーグ戦①）
- 12 回：ゲームの実践（リーグ戦②）
- 13 回：ゲームの実践（リーグ戦③）
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

実技授業の内容をノートにまとめ、理解を深めること

バレーボールの関連書籍や国際大会などを視聴し、バレーボールの理解を深めること

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加度：70% 技術の習熟度：30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

日本バレーボール協会 『コーチングバレーボール（基礎編）』 大修館書店 2017 9784469268119 -

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）

/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

バレーボール

スポーツプログラム3

Sports Program 3

卓球

大室 龍大 (OHMURO TATSUHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI505
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 1
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卓球の基礎的な技術を身につけ、ダブルスのゲームが自分達でできるようになること。仲間との協調性を養うとともに、卓球の魅力を理解し、心身ともに健康で豊かな生活を送ることができる態度や能力を育てること。

Gain the fundamental techniques of table tennis with ability to play games for doubles. Cultivate a spirit of cooperation with teammates, understand the appeal of table tennis, and develop the behavior and ability to lead a mentally and physically healthy, prosperous life.

授業の内容 / Course Contents

基礎技術の習得とゲームを中心に授業を展開する。実践やセルフチェックを通じて、運動の心理的効果を学びつつ、コミュニケーション能力、バランスのとれた理性や的確な判断力を養成する。毎回、運動の前後で簡単な気分の調査を実施する。

The class continues centering mainly on teaching the basic techniques and playing games. Through practicing table tennis and self-checking, students learn the psychological effects of exercise, while cultivating communication skills, well-balanced rationale, and correct judgments. Each time, a simple mood survey is

conducted before and after exercise.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション（授業内容、評価基準等の説明）、アイスブレイク
- 2回：卓球の基礎技術1（グリップ、サーブ）
- 3回：卓球の基礎技術2（ボールの回転、ラリー）
- 4回：卓球の基礎技術3（ラケットワーク、フットワーク）
- 5回：シングルスゲーム(試合のルール)
- 6回：ダブルスゲーム1（試合のルール）
- 7回：ダブルスゲーム2（ローテーション）
- 8回：ダブルスゲーム3（動き方）
- 9回：ダブルスゲーム4（戦術理解）
- 10回：ダブルスゲーム5（サーブにおける戦術）
- 11回：ダブルスゲーム6（レシーブにおける戦術）
- 12回：ダブルスゲーム7（ラリーにおける戦術）
- 13回：ダブルスゲーム8（戦術のまとめ）
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業中に指示する。

実技ができるようにコンディションを整えること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度および授業態度:70% 技術および知識の習得、向上:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

スポーツを行う際のルールの遵守、マナーの向上（道具、服装、設備の利用法）を求めます。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラ

ツシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

卓球

スポーツプログラム3

Sports Program 3

卓球

大室 龍大 (OHMURO TATSUHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI506
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 1
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

卓球の基礎的な技術を身につけ、ダブルスのゲームが自分達でできるようになること。仲間との協調性を養うとともに、卓球の魅力を理解し、心身ともに健康で豊かな生活を送ることができる態度や能力を育てること。

Gain the fundamental techniques of table tennis with ability to play games for doubles. Cultivate a spirit of cooperation with teammates, understand the appeal of table tennis, and develop the behavior and ability to lead a mentally and physically healthy, prosperous life.

授業の内容 / Course Contents

基礎技術の習得とゲームを中心に授業を展開する。実践やセルフチェックを通じて、運動の心理的効果を学びつつ、コミュニケーション能力、バランスのとれた理性や的確な判断力を養成する。毎回、運動の前後で簡単な気分の調査を実施する。

The class continues centering mainly on teaching the basic techniques and playing games. Through practicing table tennis and self-checking, students learn the psychological effects of exercise, while cultivating communication skills, well-balanced rationale, and correct judgments. Each time, a simple mood survey is

conducted before and after exercise.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション（授業内容、評価基準等の説明）、アイスブレイク
- 2回：卓球の基礎技術1（グリップ、サーブ）
- 3回：卓球の基礎技術2（ボールの回転、ラリー）
- 4回：卓球の基礎技術3（ラケットワーク、フットワーク）
- 5回：シングルスゲーム(試合のルール)
- 6回：ダブルスゲーム1（試合のルール）
- 7回：ダブルスゲーム2（ローテーション）
- 8回：ダブルスゲーム3（動き方）
- 9回：ダブルスゲーム4（戦術理解）
- 10回：ダブルスゲーム5（サーブにおける戦術）
- 11回：ダブルスゲーム6（レシーブにおける戦術）
- 12回：ダブルスゲーム7（ラリーにおける戦術）
- 13回：ダブルスゲーム8（戦術のまとめ）
- 14回：授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業中に指示する。

実技ができるようにコンディションを整えること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加度および授業態度:70% 技術および知識の習得、向上:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

スポーツを行う際のルールの遵守、マナーの向上（道具、服装、設備の利用法）を求めます。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラ

ツシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

卓球

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

アダプテッドスポーツ

堀江 航 (HORIE WATARU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI551
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

アダプテッドスポーツ（障害者スポーツ）への理解を深め、障害の有無にかかわらずスポーツを楽しむ能力・見識を養う。スポーツ活動を通して、コミュニケーションスキル、自己表現、リーダーシップ等、一般社会において必要とされる能力を養う。

Deepen your understanding of Adapted Sports (sports for the handicapped), and cultivate the ability and insight to enjoy sports with or without handicaps. Through sports activities, cultivate skills that are necessary for the general public such as communication skills, self-expression and leadership.

授業の内容 / Course Contents

アダプテッド・スポーツの実技に加え、グループプレゼンテーションの作成、発表を実施する。

In addition to practice adapted sports, students prepare and present group presentations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

- 2回：車椅子スポーツ-1
- 3回：車椅子スポーツ-2
- 4回：車椅子スポーツ-3
- 5回：車椅子スポーツ-4
- 6回：車椅子スポーツ-5
- 7回：車椅子スポーツまとめ
- 8回：その他のアダプテッドスポーツ
- 9回：その他のアダプテッドスポーツ
- 10回：その他のアダプテッドスポーツ
- 11回：その他のアダプテッドスポーツ
- 12回：グループプレゼンテーション作成・発表
- 13回：グループプレゼンテーション作成・発表
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

なし

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席及び授業態度:30% 実技:30% グループプレゼンテーション:30% ポップクイズ:10%

2／3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

使用しない。必要に応じて適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

アダプテッドスポーツ

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

アダプテッドスポーツ

堀江 航 (HORIE WATARU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI552

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

アダプテッドスポーツ（障害者スポーツ）への理解を深め、障害の有無にかかわらずスポーツを楽しむ能力・見識を養う。スポーツ活動を通して、コミュニケーションスキル、自己表現、リーダーシップ等、一般社会において必要とされる能力を養う。

Deepen your understanding of Adapted Sports (sports for the handicapped), and cultivate the ability and insight to enjoy sports with or without handicaps. Through sports activities, cultivate skills that are necessary for the general public such as communication skills, self-expression and leadership.

授業の内容 / Course Contents

アダプテッド・スポーツの実技に加え、グループプレゼンテーションの作成、発表を実施する。

In addition to practice adapted sports, students prepare and present group presentations.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション

- 2回：車椅子スポーツ-1
- 3回：車椅子スポーツ-2
- 4回：車椅子スポーツ-3
- 5回：車椅子スポーツ-4
- 6回：車椅子スポーツ-5
- 7回：車椅子スポーツまとめ
- 8回：その他のアダプテッドスポーツ
- 9回：その他のアダプテッドスポーツ
- 10回：その他のアダプテッドスポーツ
- 11回：その他のアダプテッドスポーツ
- 12回：グループプレゼンテーション作成・発表
- 13回：グループプレゼンテーション作成・発表
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

なし

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席及び授業態度:30% 実技:30% グループプレゼンテーション:30% ポップクイズ:10%

2／3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

使用しない。必要に応じて適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

アダプテッドスポーツ

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

はじめての器械運動

齋藤 卓 (SAITO TAKU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI553

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

器械運動における基礎的な技術を身につけ、自らの身体を操る力を身につける。また、器械運動を通して心身共に健康で豊かな生活を送ることができる態度や能力を育てる。

Acquire the basic skills in gymnastics and acquire the ability to manipulate one's own body. In addition, the attitude and ability to lead a healthy and fulfilling life both mentally and physically through gymnastics are fostered.

授業の内容 / Course Contents

器械運動における基礎技術の習得を行い、マット、跳び箱、鉄棒、平均台の演技が実施できるようになる。

Acquire basic techniques in gymnastics, and be able to perform performances on the mat, vaulting box, horizontal bar, and balance beam.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：オリエンテーション（授業内容、評価基準等の説明）

- 2回：マットにおける前転の技術学習
- 3回：マットにおける後転の技術学習
- 4回：マットの前転における発展技の学習
- 5回：マットの後転における発展技の学習
- 6回：マットにおける倒立と側方倒立回転の学習
- 7回：マットにおける前方倒立回転とびの学習
- 8回：マットにおける後方倒立回転とびの学習
- 9回：鉄棒における逆上がりの学習
- 10回：鉄棒における回転系の学習
- 11回：鉄棒における懸垂系の学習
- 12回：跳び箱における切り返し系技の学習
- 13回：跳び箱における回転系技の学習
- 14回：平均台における演技の学習

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業中に指示する。

実技ができるようにコンディショニングを整えること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加度および授業態度:70% 技術の習得，向上:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

金子明友 マット運動 大修館書店 1982

金子明友 鉄棒運動 大修館書店 1984

金子明友 とび箱・平均台 大修館書店 1987

その他 / Others

スポーツを行う際のルールの遵守、マナーの向上（道具、服装、設備の利用法）を求めます。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

はじめての器械運動

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

はじめての柔道

ライター (LEITNER KATRIN J.)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI554
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

柔道の基本動作や、様々な技および練習法を学び、実技を通して体力向上や健康増進を図るとともに、武道の特性や思想について理解を深めることを目標とする。

Students will learn basic movements and various techniques of Judo with the goal of improving physical fitness and promoting health. Further, students will deepen the understanding of Japanese Budo and its characteristic ideas and philosophy.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、初心者でも楽しく安全に行えるような、柔道の基本動作や様々な技を身に付ける体験学習を行い、体力向上や健康増進を目指す。さらに、講義においては、柔道の歴史や柔道の創始者である嘉納治五郎の考えを学び、現在武道としてもスポーツおよび競技としても多くの外国人によって実践されている世界の JUDO と比較をし、日本柔道との相違点や共通点を議論するなど、幅広い学習を行う。

This course, especially designed for beginners, will focus on practicing basic movements and a great variety of

techniques and forms in Judo to improve overall physical fitness and promote health. Further, the students will learn about the history of Judo, and how Jigoro Kano developed Judo as a physical, mental, and moral pedagogy in Japan. In addition, a comparison with foreign Judo practitioners will introduce how Judo evolved into a combat and Olympic sport nowadays, and students will discuss differences and similarities between Japanese and foreign Judo.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンスと柔道概論
- 2 回：柔道の歴史：嘉納治五郎の考えを学ぶ
- 3 回：「Mind over Muscle」：柔道と道德教育
- 4 回：「The Pyjama Game」：外国人からみての日本の柔道とそのジャパニーズマインド
- 5 回：「武道かスポーツか」：日本の柔道と世界の JUDO
- 6 回：基本動作、礼法、受身
- 7 回：寝技①：抑込技
- 8 回：寝技②：絞技&関節技
- 9 回：立ち技①：足技
- 10 回：立ち技②：手技
- 11 回：立ち技③：腰技
- 12 回：自由練習（乱取り）の基礎
- 13 回：「柔道フィットネス」 & 「ディスタンス柔道」
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて授業時に提示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加意欲および参加態度:70% 最終レポート割合：30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

必要に応じて授業時に紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

柔道経験は不問。

その他/ Others

柔道着を持っている場合は、柔道着を自身で用意すること。

柔道着を持っていない場合は貸出可能（上下と帯）：初回授業時に、サイズ等を確認するため、必ず出席すること。

なお、貸出した柔道着は各自で洗濯し、翌週の授業に持参することもある。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

はじめての柔道

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

ヒップホップ

松岡 綾葉 (MATSUOKA AYAHA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI555
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本科目はダンス初心者・経験者を問わず幅広い層を対象としている。ヒップホップ文化の特徴や歴史的・社会的背景を踏まえた上で、ヒップホップダンスの基礎を習得し、またヒップホップダンスに関連する様々な表現形式やグループワークを通して、踊る楽しみを味わうことを目的とする。

This course is aimed at a wide range of people, whether they are beginners or experienced. The goal is to learn the basics of hip-hop dance understanding the characteristics and historical and social background of hip-hop culture. In addition, the aim is to enjoy dancing through the study of various forms of expression and group work related to hip-hop dance.

授業の内容 / Course Contents

まずはヒップホップダンスの基本的なステップワークを中心としたルーティンを体得し、その後自由な表現であるコンテンポラリーダンスや民族舞踊の要素も取り入れ、各自のダンス表現の幅を広げる。

また、グループワークおよびショーケースを通じて、他者と共にダンスを創る、踊る、観る楽しみを味わう。

For the first, students learn basic hip-hop dance movements and routines, then explore the dance expression incorporating ethnic dance and contemporary dance skills which contains all kinds of body movements.

In addition, through group work and showcase, you will enjoy the pleasure of creating, dancing, and watching dance with others.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション, ストレッチング・アイソレーション、リズムトレーニングの導入
- 2回：リズムトレーニング（1）リズムの取り方の基本
- 3回：リズムトレーニング（2）リズムの取り方の応用
- 4回：ステップワークとルーティン（1）基礎
- 5回：ステップワークとルーティン（2）応用
- 6回：多様な表現（1）ヒップホップダンスの様々なジャンルに触れる
- 7回：多様な表現（2）フロアワークの基礎
- 8回：多様な表現（2）振付の脱構築・動かされる感覚で踊る
- 9回：多様な表現（4）エスニシティ（ボリウッドダンス）とヒップホップダンス
- 10回：グループワーク（1）コンセプト・楽曲の選定
- 11回：グループワーク（2）振付の作成
- 12回：グループワーク（3）フォーメーションの作成
- 13回：グループワーク（4）最終調整
- 14回：グループショーケース発表とまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加姿勢:40% 最終レポート割合：30%最終テスト割合：30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

ダンス経験の有無は問いません。ダンスの世界を広げてみたい方、ダンスを通して心身を鍛えてみたい方の積極的な受講をお待ちしています。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）

/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ヒップホップ

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

ヒップホップ

松岡 綾葉 (MATSUOKA AYAHA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI556
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本科目はダンス初心者・経験者を問わず幅広い層を対象としている。ヒップホップ文化の特徴や歴史的・社会的背景を踏まえた上で、ヒップホップダンスの基礎を習得し、またヒップホップダンスに関連する様々な表現形式やグループワークを通して、踊る楽しみを味わうことを目的とする。

This course is aimed at a wide range of people, whether they are beginners or experienced. The goal is to learn the basics of hip-hop dance understanding the characteristics and historical and social background of hip-hop culture. In addition, the aim is to enjoy dancing through the study of various forms of expression and group work related to hip-hop dance.

授業の内容 / Course Contents

まずはヒップホップダンスの基本的なステップワークを中心としたルーティンを体得し、その後自由な表現であるコンテンポラリーダンスや民族舞踊の要素も取り入れ、各自のダンス表現の幅を広げる。

また、グループワークおよびショーケースを通じて、他者と共にダンスを創る、踊る、観る楽しみを味わう。

For the first, students learn basic hip-hop dance movements and routines, then explore the dance expression incorporating ethnic dance and contemporary dance skills which contains all kinds of body movements. In addition, through group work and showcase, you will enjoy the pleasure of creating, dancing, and watching dance with others.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション、ストレッチング・アイソレーション、リズムトレーニングの導入
- 2回：リズムトレーニング（1）リズムの取り方の基本
- 3回：リズムトレーニング（2）リズムの取り方の応用
- 4回：ステップワークとルーティン（1）基礎
- 5回：ステップワークとルーティン（2）応用
- 6回：多様な表現（1）ヒップホップダンスの様々なジャンルに触れる
- 7回：多様な表現（2）フロアワークの基礎
- 8回：多様な表現（2）振付の脱構築・動かされる感覚で踊る
- 9回：多様な表現（4）エスニシティー（ボリウッドダンス）とヒップホップダンス
- 10回：グループワーク（1）コンセプト・楽曲の選定
- 11回：グループワーク（2）振付の作成
- 12回：グループワーク（3）フォーメーションの作成
- 13回：グループワーク（4）最終調整
- 14回：グループショーケース発表とまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加姿勢:40% 最終レポート割合：30%最終テスト割合：30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

ダンス経験の有無は問いません。ダンスの世界を広げてみたい方、ダンスを通して心身を鍛えてみたい方の積極的な受講をお待ちしています。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）

/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ヒップホップ

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

レクリエーションスポーツ

高野 千春 (TAKANO CHIHARU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI557
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

レクリエーションスポーツの社会的意義を理解し、対象や環境に応じた工夫や、誰もが安全に楽しむためのサポートができるようになる。

The course aims to understand the social significance of recreational sports and become capable of adjusting to suit the participants and environments, and of providing support for everyone to enjoy safely.

授業の内容 / Course Contents

スポーツを楽しむことが全ての人々の基本的な権利となり、生涯スポーツ社会の実現に向けて、様々なスポーツへの関わり方が見直されている現在、誰もが気軽に楽しめるレクリエーションスポーツの社会的意義は大きい。この授業では、まず自分たちがレクリエーションスポーツを楽しみ、その組み立てや展開について理論的に捉えた後、対象や環境に応じたバリエーションと支援方法を考え、実践する。

Participation in sports has now become a basic right for everyone, and involvement in various sports to realize life-time sports society is being reviewed. Recreational sports that can be easily accessed and enjoyed by everyone

have a social significance. In this course, students will first enjoy recreational sports themselves and learn theories on its structure and deployment, then consider and implement variations and supporting methods corresponding to participants and environment. Basically, classes will be held in group work.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

授業の進め方、個人への課題、評価方法などの情報を共有するため、必ず出席してください。

特に着替える必要はありません。

2回：アイスブレイク

3回：屋外で行うレクリエーションスポーツ1 (フォトラリー)

4回：屋外で行うレクリエーションスポーツ2 (フライングディスク)

5回：屋外で行うレクリエーションスポーツ3 (アルティメット)

6回：屋内で行うレクリエーションスポーツ1 (ドッジボール)

7回：屋内で行うレクリエーションスポーツ2 (インディアカ)

8回：屋内で行うレクリエーションスポーツ3 (キャッチング・ザ・スティック)

9回：屋内で行うレクリエーションスポーツ4 (縄跳び)

10回：屋内で行うレクリエーションスポーツ5 (ソフトバレーボール)

11回：屋内で行うレクリエーションスポーツ6 (キンボール)

12回：屋内で行うレクリエーションスポーツ7 (キンボール)

13回：屋内で行うレクリエーションスポーツ8 (ポッチャ)

14回：屋内で行うレクリエーションスポーツ9 (マンカラ)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実技課題:40% 授業態度・授業への貢献度:30% 最終レポート割合 :30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

必要に応じて資料を提示する。

参考文献 / Readings

日本レクリエーション協会編 『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法』

公益財団法人日本レクリエーション協会 2021 9784931180956

日本レクリエーション協会編 『スポレク活動で健康寿命を延伸』 公益財団法人日本レクリエーション協会

2017 9784931180963

その他/ Others

天候等の都合により授業計画が変更する場合がありますので、その連絡方法については初回のガイダンスで指示をする。

実技課題に対するコメントは、授業時に全体にフィードバックし、情報の共有を行う。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

レクリエーションスポーツ

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

レクリエーションスポーツ

高野 千春 (TAKANO CHIHARU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI558
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

レクリエーションスポーツの社会的意義を理解し、対象や環境に応じた工夫や、誰もが安全に楽しむためのサポートができるようになる。

The course aims to understand the social significance of recreational sports and become capable of adjusting to suit the participants and environments, and of providing support for everyone to enjoy safely.

授業の内容 / Course Contents

スポーツを楽しむことが全ての人々の基本的な権利となり、生涯スポーツ社会の実現に向けて、様々なスポーツへの関わり方が見直されている現在、誰もが気軽に楽しめるレクリエーションスポーツの社会的意義は大きい。この授業では、まず自分たちがレクリエーションスポーツを楽しみ、その組み立てや展開について理論的に捉えた後、対象や環境に応じたバリエーションと支援方法を考え、実践する。

Participation in sports has now become a basic right for everyone, and involvement in various sports to realize life-time sports society is being reviewed. Recreational sports that can be easily accessed and enjoyed by everyone

have a social significance. In this course, students will first enjoy recreational sports themselves and learn theories on its structure and deployment, then consider and implement variations and supporting methods corresponding to participants and environment.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

授業の進め方、個人への課題、評価方法などの情報を共有するため、必ず出席してください。

特に着替える必要はありません。

2回：アイスブレイク

3回：屋外で行うレクリエーションスポーツ1 (フォトラリー)

4回：屋外で行うレクリエーションスポーツ2 (フライングディスク)

5回：屋外で行うレクリエーションスポーツ3 (アルティメット)

6回：屋内で行うレクリエーションスポーツ1 (ドッジボール)

7回：屋内で行うレクリエーションスポーツ2 (インディアカ)

8回：屋内で行うレクリエーションスポーツ3 (キャッチング・ザ・スティック)

9回：屋内で行うレクリエーションスポーツ4 (縄跳び)

10回：屋内で行うレクリエーションスポーツ5 (ソフトバレーボール)

11回：屋内で行うレクリエーションスポーツ6 (キンボール)

12回：屋内で行うレクリエーションスポーツ7 (キンボール)

13回：屋内で行うレクリエーションスポーツ8 (ポッチャ)

14回：屋内で行うレクリエーションスポーツ9 (マンカラ)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実技課題:40% 授業態度・授業への貢献度:30% 最終レポート割合 :30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

必要に応じて資料を提示する。

参考文献 / Readings

日本レクリエーション協会編 『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法』

公益財団法人日本レクリエーション協会 2021 9784931180956

日本レクリエーション協会編 『スポレク活動で健康寿命を延伸』 公益財団法人日本レクリエーション協会

2017 9784931180963

その他/ Others

天候等の都合により授業計画が変更する場合がありますので、その連絡方法については初回のガイダンスで指示をする。

実技課題に対するコメントは、授業時に全体にフィードバックし、情報の共有を行う。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

レクリエーションスポーツ

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

レクリエーションスポーツ

高野 千春 (TAKANO CHIHARU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI559
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

レクリエーションスポーツの社会的意義を理解し、対象や環境に応じた工夫や、誰もが安全に楽しむためのサポートができるようになる。

The course aims to understand the social significance of recreational sports and become capable of adjusting to suit the participants and environments, and of providing support for everyone to enjoy safely.

授業の内容 / Course Contents

スポーツを楽しむことが全ての人々の基本的な権利となり、生涯スポーツ社会の実現に向けて、様々なスポーツへの関わり方が見直されている現在、誰もが気軽に楽しめるレクリエーションスポーツの社会的意義は大きい。この授業では、まず自分たちがレクリエーションスポーツを楽しみ、その組み立てや展開について理論的に捉えた後、対象や環境に応じたバリエーションと支援方法を考え、実践する。

Participation in sports has now become a basic right for everyone, and involvement in various sports to realize life-time sports society is being reviewed. Recreational sports that can be easily accessed and enjoyed by everyone

have a social significance. In this course, students will first enjoy recreational sports themselves and learn theories on its structure and deployment, then consider and implement variations and supporting methods corresponding to participants and environment.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

授業の進め方、個人への課題、評価方法などの情報を共有するため、必ず出席してください。

特に着替える必要はありません。

2回：アイスブレイク

3回：屋外で行うレクリエーションスポーツ1 (フォトラリー)

4回：屋外で行うレクリエーションスポーツ2 (フライングディスク)

5回：屋外で行うレクリエーションスポーツ3 (アルティメット)

6回：屋内で行うレクリエーションスポーツ1 (ドッジボール)

7回：屋内で行うレクリエーションスポーツ2 (インディアカ)

8回：屋内で行うレクリエーションスポーツ3 (キャッチング・ザ・スティック)

9回：屋内で行うレクリエーションスポーツ4 (縄跳び)

10回：屋内で行うレクリエーションスポーツ5 (ソフトバレーボール)

11回：屋内で行うレクリエーションスポーツ6 (キンボール)

12回：屋内で行うレクリエーションスポーツ7 (キンボール)

13回：屋内で行うレクリエーションスポーツ8 (ポッチャ)

14回：屋内で行うレクリエーションスポーツ9 (マンカラ)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実技課題:40% 授業態度・授業への貢献度:30% 最終レポート割合 :30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

必要に応じて資料を提示する。

参考文献 / Readings

日本レクリエーション協会編 『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法』

公益財団法人日本レクリエーション協会 2021 9784931180956

日本レクリエーション協会編 『スポレク活動で健康寿命を延伸』 公益財団法人日本レクリエーション協会

2017 9784931180963

その他/ Others

天候等の都合により授業計画が変更する場合がありますので、その連絡方法については初回のガイダンスで指示をする。

実技課題に対するコメントは、授業時に全体にフィードバックし、情報の共有を行う。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

レクリエーションスポーツ

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

レクリエーションスポーツ

高野 千春 (TAKANO CHIHARU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI560
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

レクリエーションスポーツの社会的意義を理解し、対象や環境に応じた工夫や、誰もが安全に楽しむためのサポートができるようになる。

The course aims to understand the social significance of recreational sports and become capable of adjusting to suit the participants and environments, and of providing support for everyone to enjoy safely.

授業の内容 / Course Contents

スポーツを楽しむことが全ての人々の基本的な権利となり、生涯スポーツ社会の実現に向けて、様々なスポーツへの関わり方が見直されている現在、誰もが気軽に楽しめるレクリエーションスポーツの社会的意義は大きい。この授業では、まず自分たちがレクリエーションスポーツを楽しみ、その組み立てや展開について理論的に捉えた後、対象や環境に応じたバリエーションと支援方法を考え、実践する。

Participation in sports has now become a basic right for everyone, and involvement in various sports to realize life-time sports society is being reviewed. Recreational sports that can be easily accessed and enjoyed by everyone

have a social significance. In this course, students will first enjoy recreational sports themselves and learn theories on its structure and deployment, then consider and implement variations and supporting methods corresponding to participants and environment.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

授業の進め方、個人への課題、評価方法などの情報を共有するため、必ず出席してください。

特に着替える必要はありません。

2回：アイスブレイク

3回：屋外で行うレクリエーションスポーツ1 (フォトラリー)

4回：屋外で行うレクリエーションスポーツ2 (フライングディスク)

5回：屋外で行うレクリエーションスポーツ3 (アルティメット)

6回：屋内で行うレクリエーションスポーツ1 (ドッジボール)

7回：屋内で行うレクリエーションスポーツ2 (インディアカ)

8回：屋内で行うレクリエーションスポーツ3 (キャッチング・ザ・スティック)

9回：屋内で行うレクリエーションスポーツ4 (縄跳び)

10回：屋内で行うレクリエーションスポーツ5 (ソフトバレーボール)

11回：屋内で行うレクリエーションスポーツ6 (キンボール)

12回：屋内で行うレクリエーションスポーツ7 (キンボール)

13回：屋内で行うレクリエーションスポーツ8 (ポッチャ)

14回：屋内で行うレクリエーションスポーツ9 (マンカラ)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 実技課題:40% 授業態度・授業への貢献度:30% 最終レポート割合 :30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

必要に応じて資料を提示する。

参考文献 / Readings

日本レクリエーション協会編 『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法』

公益財団法人日本レクリエーション協会 2021 9784931180956

日本レクリエーション協会編 『スポレク活動で健康寿命を延伸』 公益財団法人日本レクリエーション協会

2017 9784931180963

その他/ Others

天候等の都合により授業計画が変更する場合がありますので、その連絡方法については初回のガイダンスで指示をする。

実技課題に対するコメントは、授業時に全体にフィードバックし、情報の共有を行う。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

レクリエーションスポーツ

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

レクリエーションスポーツ

柳田 信也 (YANAGITA SHINYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI561
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ実践を通して、心身の健康増進とコミュニケーション能力の育成を目指す。また、そのために必要な様々なスポーツの基本的ゲーム構造や魅力を理解し、それを基にゲームを仲間と楽しむことからチームビルディングやリーダーシップ能力を育成する。

This course aims to improve students' mental and physical health and foster communication skills through sports practice. To this end, students will be able to understand the basic game structure and appeal of various sports, and based on enjoy playing with their peers, develop the ability related to team-building and readership.

授業の内容 / Course Contents

さまざまなレクリエーションスポーツ・ゲームを体験し、その実践を系統的にまとめ、生涯スポーツとしてのスポーツの役割を考察する。また、チームにおける役割分担やマネージメントを通して、スポーツとチームビルディングについて学習する。

Students will experience the several sports and games as the recreation and competition levels. Students will

discuss the role of lifestyle sports through creating a course portfolio, and also learn about sports and team building through the division of roles and management in teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：豊かな生活とスポーツの役割
- 2 回：ベースボール型スポーツの実践①
- 3 回：ベースボール型スポーツの実践②
- 4 回：ネット型スポーツの実践とチーム運営①
- 5 回：ネット型スポーツの実践とチーム運営②
- 6 回：ネット型スポーツの実践とチーム運営③
- 7 回：ゴール型スポーツの実践とチーム運営①
- 8 回：ゴール型スポーツの実践とチーム運営②
- 9 回：ゴール型スポーツの実践とチーム運営③
- 10 回：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ体験
- 11 回：スポーツ大会の企画と運営①～ワークショップデザイン～
- 12 回：スポーツ大会の企画と運営②～チームと個人のマネジメント～
- 13 回：グループディスカッション及び到達度評価課題の制作
- 14 回：総括・表彰式～チームビルディング実践報告～

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日常的にコンディションを整えて受講する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% スポーツの基礎技術・ゲーム運営手法など:40% 授業内レポート（2%×10回）:20%

最終レポート割合 :40%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。テキストや資料について質問があれば随時対応する。

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラ

ツシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

レクリエーションスポーツ

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

レクリエーションスポーツ

清水 一巳 (SHIMIZU KAZUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI562
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、レクリエーションスポーツの基本的な考え方と方法、アレンジ方法を理解・実践し、生涯スポーツとして楽しむことの文化的意義など総合的、実践的に考究する。

In this course, students will understand and practice the basic concepts and methods of recreational sports and how to play them; students will also comprehensively and practically study the cultural significance of enjoying lifelong sports.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、社交を目的としたさまざまなレクリエーションスポーツの方法を学び、実践するとともにアレンジ方法を考究する。またレクリエーションスポーツの生涯スポーツとしての意味や文化的意義、身体的コミュニケーションの意味を考究する。

In this course, students will learn about and practice various recreational sports for socializing as well as studying various arrangement methods. This course will also focus on studying recreational sports' cultural significance,

the meaning of physical communication, and the meaning of recreational sports as a lifelong hobby.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

回：オリエンテーション：授業スケジュールの確認と計画	
回：レクリエーションナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技	ターゲットゲーム①
回：レクリエーションナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技	ターゲットゲーム②
回：スポーツの現在地と価値を考える	
回：レクリエーションナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技	車いすバスケットボール編（1）
回：レクリエーションナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技	車いすバスケットボール編（2）
回：レクリエーションナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技	キンボール リードゲーム編
回：レクリエーションナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技	キンボール チームゲーム編
回：ユニバーサル化に向けたスポーツアレンジ法の考え方と支援方法	
回：レクリエーションナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技	ユニバーサルスポーツ ネットゲーム 編 インディアカ、ソフトバレーボール、シッティングバレーボール
回：レクリエーションナルスポーツのルール・基礎技術の理解と実技	ユニバーサルスポーツ ゴールゲーム 編 ユニバーサルホッケー
回：スポーツアレンジの実際	グループ発表（1）
回：スポーツアレンジの実際	グループ発表（2）
回：授業のまとめ	

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席・参加意欲・態度・取り組み:50% グループ発表:20% 最終レポート割合 :30%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

松尾哲矢 『体づくり運動&トレ・ゲーム集』 ナツメ社 2016 9784816359927

遅刻は厳禁、積極的な参画を期待しています。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）

/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

レクリエーションスポーツ

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

レクリエーションスポーツ

柳田 信也 (YANAGITA SHINYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI563
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ実践を通して、心身の健康増進とコミュニケーション能力の育成を目指す。また、そのために必要な様々なスポーツの基本的ゲーム構造や魅力を理解し、それを基にゲームを仲間と楽しむことからチームビルディングやリーダーシップ能力を育成する。

This course aims to improve students' mental and physical health and foster communication skills through sports practice. To this end, students will be able to understand the basic game structure and appeal of various sports, and based on enjoy playing with their peers, develop the ability related to team-building and readership.

授業の内容 / Course Contents

さまざまなレクリエーションスポーツ・ゲームを体験し、その実践を系統的にまとめ、生涯スポーツとしてのスポーツの役割を考察する。また、チームにおける役割分担やマネージメントを通して、スポーツとチームビルディングについて学習する。

Students will experience the several sports and games as the recreation and competition levels. Students will

discuss the role of lifestyle sports through creating a course portfolio, and also learn about sports and team building through the division of roles and management in teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：豊かな生活とスポーツの役割
- 2 回：ベースボール型スポーツの実践①
- 3 回：ベースボール型スポーツの実践②
- 4 回：ネット型スポーツの実践とチーム運営①
- 5 回：ネット型スポーツの実践とチーム運営②
- 6 回：ネット型スポーツの実践とチーム運営③
- 7 回：ゴール型スポーツの実践とチーム運営①
- 8 回：ゴール型スポーツの実践とチーム運営②
- 9 回：ゴール型スポーツの実践とチーム運営③
- 10 回：レクリエーションスポーツ・ニュースポーツ体験
- 11 回：スポーツ大会の企画と運営①～ワークショップデザイン～
- 12 回：スポーツ大会の企画と運営②～チームと個人のマネジメント～
- 13 回：グループディスカッション及び到達度評価課題の制作
- 14 回：総括・表彰式～チームビルディング実践報告～

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日常的にコンディションを整えて受講する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% スポーツの基礎技術・ゲーム運営手法など:40% 授業内レポート（2%×10回）:20%

最終レポート割合：40%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。テキストや資料について質問があれば随時対応する。

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラ

ツシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

レクリエーションスポーツ

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

太極拳

佐野 信子 (SANO NOBUKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI564
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

教材とする 24 式太極拳特有の柔らかく緩やかな動きと呼吸，そして意識までもを調和させる中で，自己の「からだ」をみつめ直し，生涯にわたる健康づくりについて考える。

This class is to take another look at the “body” of yourself and to consider life-long fitness through soft and gentle movement and breathing as well as harmonizing consciousness in the unique manner of 24-form tai chi chuan.

授業の内容 / Course Contents

太極拳は中国に起源をもち，長い歴史を有する武術であり健康法である。技術の習得に向け，個人練習のみならず，教えあう中での技術向上と同時に他者とのコミュニケーションを図ることを目指し，グループでの練習も行う。また，講義を授業期間の 1 / 3 程度行う。講義では，現代人にとっての運動・スポーツの必要性について様々な角度から考えいく。太極拳は「楽しい」けれど，24 動作を習得するのは「楽」ではないかもしれない。毎回新しい動作を学ぶことになるので，できるだけ欠席のないことが望ましい。

Originating from China, tai chi chuan is the long-established martial art and health management method. In

order to acquire the necessary skills, students are required to engage in not only individual practices but also group practices, as mutual teaching would help you improve skills and communicate with others. One third of the class is comprised of lecture to consider the importance of exercise and sports in the modern society from various different angles. Tai chi chuan may be “fun” to learn, but not “easy” to acquire 24 forms of movement. Active attendance is desired since students would learn a new form in every class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：太極拳とは
- 2 回：基本姿勢の習得，起勢，左右野馬分鬃
- 3 回：白鶴亮翅，左右樓膝拗歩
- 4 回：手揮琵琶，左右倒卷肱
- 5 回：左攬雀尾，右攬雀尾
- 6 回：単鞭，雲手，単鞭
- 7 回：高探馬，前半の復習
- 8 回：右蹬脚，双峰貫耳，轉身左蹬脚
- 9 回：左下勢独立，右下勢独立
- 10 回：左右穿梭，海底針，閃通臂，グループ練習
- 11 回：轉身搬攔捶，如封似閉，十字手，収勢，グループ練習
- 12 回：後半の復習，グループ練習
- 13 回：グループ練習
- 14 回：テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて，授業中に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度:50% 最終レポート割合：:20%最終テスト割合：:30%

2／3以上の出席をしていない場合は，成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は，実技への参加は認められず，見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

日本武術太極拳連盟 『太極拳実技テキスト』 日本武術太極拳連盟 2013年

日本武術太極拳連盟編『太極拳実技テキスト』（日本武術太極拳連盟 2013年 2,000円）

その他 / Others

初回より更衣が必要である。かかとの厚くない室内用シューズを用意すること。積極的に授業に参加することが望ましい。

初回に持参が必要なもの：縦4 cm×横3 cmの顔写真（スナップ写真可とするので、現在の容姿にできるだけ近いもの）、通学定期乗車券発行控、スポーツウエア、スポーツシューズ、太極拳を学ぼうという意欲。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

太極拳

スポーツスタディ 1

Sports Study 1

太極拳

佐野 信子 (SANO NOBUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI565
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

教材とする 24 式太極拳特有の柔らかく緩やかな動きと呼吸，そして意識までもを調和させる中で，自己の「からだ」をみつめ直し，生涯にわたる健康づくりについて考える。

This class is to take another look at the “body” of yourself and to consider life-long fitness through soft and gentle movement and breathing as well as harmonizing consciousness in the unique manner of 24-form tai chi chuan.

授業の内容 / Course Contents

太極拳は中国に起源をもち，長い歴史を有する武術であり健康法である。技術の習得に向け，個人練習のみならず，教えあう中での技術向上と同時に他者とのコミュニケーションを図ることを目指し，グループでの練習も行う。また，講義を授業期間の 1 / 3 程度行う。講義では，現代人にとっての運動・スポーツの必要性について様々な角度から考えいく。太極拳は「楽しい」けれど，24 動作を習得するのは「楽」ではないかもしれない。毎回新しい動作を学ぶことになるので，できるだけ欠席のないことが望ましい。

Originating from China, tai chi chuan is the long-established martial art and health management method. In

order to acquire the necessary skills, students are required to engage in not only individual practices but also group practices, as mutual teaching would help you improve skills and communicate with others. One third of the class is comprised of lecture to consider the importance of exercise and sports in the modern society from various different angles. Tai chi chuan may be “fun” to learn, but not “easy” to acquire 24 forms of movement. Active attendance is desired since students would learn a new form in every class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：太極拳とは
- 2 回：基本姿勢の習得，起勢，左右野馬分鬃
- 3 回：白鶴亮翅，左右樓膝拗歩
- 4 回：手揮琵琶，左右倒卷肱
- 5 回：左攬雀尾，右攬雀尾
- 6 回：単鞭，雲手，単鞭
- 7 回：高探馬，前半の復習
- 8 回：右蹬脚，双峰貫耳，轉身左蹬脚
- 9 回：左下勢独立，右下勢独立
- 10 回：左右穿梭，海底針，閃通臂，グループ練習
- 11 回：轉身搬欄捶，如封似閉，十字手，収勢，グループ練習
- 12 回：後半の復習，グループ練習
- 13 回：グループ練習
- 14 回：テスト

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて，授業中に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度:50% 最終レポート割合：:20%最終テスト割合：:30%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

日本武術太極拳連盟 『太極拳実技テキスト』 日本武術太極拳連盟 2013 年

日本武術太極拳連盟編『太極拳実技テキスト』（日本武術太極拳連盟 2013 年 2,000 円）

その他 / Others

初回より更衣が必要である。かかとの厚くない室内用シューズを用意すること。積極的に授業に参加することが望ましい。

初回に持参が必要なもの：縦4 cm×横3 cmの顔写真（スナップ写真可とするので、現在の容姿にできるだけ近いもの）、通学定期乗車券発行控、スポーツウエア、スポーツシューズ、太極拳を学ぼうという意欲。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

太極拳

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

ウォーターエクササイズ

足立 哲 (ADACHI SATORU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI601
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

水の特性を知り、水泳・水中運動を通じて、水中環境下での運動について理解を深めます。水泳・水中運動を通して、健康づくり・体力向上・受講生自らが課題を発見し、解決への取り組みを行い、水と共に、コミュニケーション能力や幅広い視点から物事を考える能力の獲得を目標とします。

Learn about the characteristics of water and deepen your understanding of exercise in aquatic environments through swimming and underwater exercises. The objective of this course is for students to acquire communication skills and the ability to think about things from a broad perspective as well as promoting health, improving physical strength, and attending lectures to discover and practice new challenges with water.

授業の内容 / Course Contents

講義では、安全管理、水の特性、水中運動の特徴や効果、近代4泳法のポイントについて解説します。実技においては、浸水・水中での生理的応答や流体力学について触れながら、水中運動・水中レクリエーション・近代4泳法を基本に、様々な水泳（水球など）を実施します。泳力・泳技能により実施内容は調整しながら、自

ら学び・実践することを評価の対象とします。授業は全体を通じて、講義（1/3）、実技（2/3）を組み合わせで行います。

In the lecture, the characteristics of water, safety management, the characteristics and effects of underwater exercise and points of the 4 modern swimming styles are explained. For practical skills, students practice underwater movements, underwater recreation and various types of swimming based on the 4 modern swimming styles, while touching on the physiological responses of being underwater and fluid dynamics. The practice contents are organized by swimming skills, and students' individual learning and implementation is subject to evaluation. All the classes spend the first 1/3 on lectures and the remaining 2/3 on practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：講義：ガイダンス・安全管理・泳力問診

その他：水泳用健康診断（問診）

2回：講義：水の特性／水中運動の特徴・水泳の基本姿勢

実技：水慣れ（水遊び・呼吸法・けのび）/水中運動（ストレッチ・ウォーキング）／泳力確認

3回：講義：水の特性／推進の仕組み

実技：水中運動／水平推進／連続泳／水中レクリエーション

4回：講義：近代4泳法（クロール・背泳ぎ）の実際（動きと評価法）①

実技：クロール・背泳ぎ①

5回：講義：近代4泳法（クロール・背泳ぎ）の実際（動きと評価法）②

実技：クロール・背泳ぎ②

6回：講義：近代4泳法（平泳ぎ）の実際（動きと評価法）①

実技：平泳ぎの実際①

7回：講義：近代4泳法（平泳ぎ）の実際（動きと評価法）②

実技：平泳ぎの実際②

8回：講義：泳法の改善と定着

実技：連続泳・自己課題の整理と解決のための取り組み／立ち泳ぎ

9回：講義：泳法の改善と定着

実技：連続泳・自己課題の整理と解決のための取り組み／立ち泳ぎ

10回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

11回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

12回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

13回：講義：水泳・水中運動の運動強度とエネルギー消費量

実技：選択的有酸素運動プログラム（水中ウォーキング・中長距離泳）の実践

14回：講義：まとめ

実技：自己運動プログラムの実践

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：

実技・実習・実験 :○ 学内の教室外施設の利用 :○ 校外実習・フィールドワーク :

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関連する項目について事前に調べておくこと。

特に、泳げない泳法については、対象授業前に動作の把握を必ず行う事。

その他については、授業中に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加意欲・取り組み状況:70% 授業内レポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

財団法人日本水泳連盟 『水泳コーチ教本』 大修館書店 2005

財団法人日本水泳連盟 『水泳指導教本』 大修館書店 2005

出村慎一、他 『健康・スポーツ科学における運動処方としての水泳・水中運動』 杏林書院 2016

その他 / Others

初回授業内で水泳用健康診断（問診）を実施する予定です。

初回のみ水泳用具、動ける服装は不要です。

【重要】

- 水泳用健康診断を受診するため初回は必ず出席するようお願いします。
- 水泳用健康診断の結果により、履修取消となる場合があります。
- 当該年度の定期健康診断（授業内健康診断とは別）を必ず受診してください。

初回授業にて、定期健康診断受診の有無を確認します。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ウォーターエクササイズ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

ウォーターエクササイズ

足立 哲 (ADACHI SATORU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI602
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

水の特性を知り、水泳・水中運動を通じて、水中環境下での運動について理解を深めます。水泳・水中運動を通して、健康づくり・体力向上・受講生自らが課題を発見し、解決への取り組みを行い、水と共に、コミュニケーション能力や幅広い視点から物事を考える能力の獲得を目標とします。

Learn about the characteristics of water and deepen your understanding of exercise in aquatic environments through swimming and underwater exercises. The objective of this course is for students to acquire communication skills and the ability to think about things from a broad perspective as well as promoting health, improving physical strength, and attending lectures to discover and practice new challenges with water.

授業の内容 / Course Contents

講義では、安全管理、水の特性、水中運動の特徴や効果、近代4泳法のポイントについて解説します。実技においては、浸水・水中での生理的応答や流体力学について触れながら、水中運動・水中レクリエーション・近代4泳法を基本に、様々な水泳（水球など）を実施します。泳力・泳技能により実施内容は調整しながら、自

ら学び・実践することを評価の対象とします。授業は全体を通じて、講義（1/3）、実技（2/3）を組み合わせで行います。

In the lecture, the characteristics of water, safety management, the characteristics and effects of underwater exercise and points of the 4 modern swimming styles are explained. For practical skills, students practice underwater movements, underwater recreation and various types of swimming based on the 4 modern swimming styles, while touching on the physiological responses of being underwater and fluid dynamics. The practice contents are organized by swimming skills, and students' individual learning and implementation is subject to evaluation. All the classes spend the first 1/3 on lectures and the remaining 2/3 on practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：講義：ガイダンス・安全管理・泳力問診

その他：水泳用健康診断（問診）

2回：講義：水の特性／水中運動の特徴・水泳の基本姿勢

実技：水慣れ（水遊び・呼吸法・けのび）/水中運動（ストレッチ・ウォーキング）／泳力確認

3回：講義：水の特性／推進の仕組み

実技：水中運動／水平推進／連続泳／水中レクリエーション

4回：講義：近代4泳法（クロール・背泳ぎ）の実際（動きと評価法）①

実技：クロール・背泳ぎ①

5回：講義：近代4泳法（クロール・背泳ぎ）の実際（動きと評価法）②

実技：クロール・背泳ぎ②

6回：講義：近代4泳法（平泳ぎ）の実際（動きと評価法）①

実技：平泳ぎの実際①

7回：講義：近代4泳法（平泳ぎ）の実際（動きと評価法）②

実技：平泳ぎの実際②

8回：講義：泳法の改善と定着

実技：連続泳・自己課題の整理と解決のための取り組み／立ち泳ぎ

9回：講義：泳法の改善と定着

実技：連続泳・自己課題の整理と解決のための取り組み／立ち泳ぎ

10回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

11回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

12回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

13回：講義：水泳・水中運動の運動強度とエネルギー消費量

実技：選択的有酸素運動プログラム（水中ウォーキング・中長距離泳）の実践

14回：講義：まとめ

実技：自己運動プログラムの実践

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：

実技・実習・実験 :○ 学内の教室外施設の利用 :○ 校外実習・フィールドワーク :

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関連する項目について事前に調べておくこと。

特に、泳げない泳法については、対象授業前に動作の把握を必ず行う事。

その他については、授業中に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加意欲・取り組み状況:70% 授業内レポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

財団法人日本水泳連盟 『水泳コーチ教本』 大修館書店 2005

財団法人日本水泳連盟 『水泳指導教本』 大修館書店 2005

出村慎一、他 『健康・スポーツ科学における運動処方としての水泳・水中運動』 杏林書院 2016

その他 / Others

初回授業内で水泳用健康診断（問診）を実施する予定です。

初回のみ水泳用具、動ける服装は不要です。

【重要】

- 水泳用健康診断を受診するため初回は必ず出席するようお願いします。
- 水泳用健康診断の結果により、履修取消となる場合があります。
- 当該年度の定期健康診断（授業内健康診断とは別）を必ず受診してください。

初回授業にて、定期健康診断受診の有無を確認します。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ウォーターエクササイズ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

ウォーターエクササイズ

足立 哲 (ADACHI SATORU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI603
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

水の特性を知り、水泳・水中運動を通じて、水中環境下での運動について理解を深めます。水泳・水中運動を通して、健康づくり・体力向上・受講生自らが課題を発見し、解決への取り組みを行い、水と共に、コミュニケーション能力や幅広い視点から物事を考える能力の獲得を目標とします。

Learn about the characteristics of water and deepen your understanding of exercise in aquatic environments through swimming and underwater exercises. The objective of this course is for students to acquire communication skills and the ability to think about things from a broad perspective as well as promoting health, improving physical strength, and attending lectures to discover and practice new challenges with water.

授業の内容 / Course Contents

講義では、安全管理、水の特性、水中運動の特徴や効果、近代4泳法のポイントについて解説します。実技においては、浸水・水中での生理的応答や流体力学について触れながら、水中運動・水中レクリエーション・近代4泳法を基本に、様々な水泳（水球など）を実施します。泳力・泳技能により実施内容は調整しながら、自

ら学び・実践することを評価の対象とします。授業は全体を通じて、講義（1/3）、実技（2/3）を組み合わせで行います。

In the lecture, the characteristics of water, safety management, the characteristics and effects of underwater exercise and points of the 4 modern swimming styles are explained. For practical skills, students practice underwater movements, underwater recreation and various types of swimming based on the 4 modern swimming styles, while touching on the physiological responses of being underwater and fluid dynamics. The practice contents are organized by swimming skills, and students' individual learning and implementation is subject to evaluation. All the classes spend the first 1/3 on lectures and the remaining 2/3 on practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：講義：ガイダンス・安全管理・泳力問診

その他：水泳用健康診断（問診）

2回：講義：水の特性／水中運動の特徴・水泳の基本姿勢

実技：水慣れ（水遊び・呼吸法・けのび）/水中運動（ストレッチ・ウォーキング）／泳力確認

3回：講義：水の特性／推進の仕組み

実技：水中運動／水平推進／連続泳／水中レクリエーション

4回：講義：近代4泳法（クロール・背泳ぎ）の実際（動きと評価法）①

実技：クロール・背泳ぎ①

5回：講義：近代4泳法（クロール・背泳ぎ）の実際（動きと評価法）②

実技：クロール・背泳ぎ②

6回：講義：近代4泳法（平泳ぎ）の実際（動きと評価法）①

実技：平泳ぎの実際①

7回：講義：近代4泳法（平泳ぎ）の実際（動きと評価法）②

実技：平泳ぎの実際②

8回：講義：泳法の改善と定着

実技：連続泳・自己課題の整理と解決のための取り組み／立ち泳ぎ

9回：講義：泳法の改善と定着

実技：連続泳・自己課題の整理と解決のための取り組み／立ち泳ぎ

10回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

11回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

12回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

13回：講義：水泳・水中運動の運動強度とエネルギー消費量

実技：選択的有酸素運動プログラム（水中ウォーキング・中長距離泳）の実践

14回：講義：まとめ

実技：自己運動プログラムの実践

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：

実技・実習・実験 :○ 学内の教室外施設の利用 :○ 校外実習・フィールドワーク :

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関連する項目について事前に調べておくこと。

特に、泳げない泳法については、対象授業前に動作の把握を必ず行う事。

その他については、授業中に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加意欲・取り組み状況:70% 授業内レポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

財団法人日本水泳連盟 『水泳コーチ教本』 大修館書店 2005

財団法人日本水泳連盟 『水泳指導教本』 大修館書店 2005

出村慎一、他 『健康・スポーツ科学における運動処方としての水泳・水中運動』 杏林書院 2016

その他 / Others

初回授業内で水泳用健康診断（問診）を実施する予定です。

初回のみ水泳用具、動ける服装は不要です。

【重要】

- 水泳用健康診断を受診するため初回は必ず出席するようお願いします。
- 水泳用健康診断の結果により、履修取消となる場合があります。
- 当該年度の定期健康診断（授業内健康診断とは別）を必ず受診してください。

初回授業にて、定期健康診断受診の有無を確認します。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ウォーターエクササイズ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

ウォーターエクササイズ

足立 哲 (ADACHI SATORU)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI604
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

水の特性を知り、水泳・水中運動を通じて、水中環境下での運動について理解を深めます。水泳・水中運動を通して、健康づくり・体力向上・受講生自らが課題を発見し、解決への取り組みを行い、水と共に、コミュニケーション能力や幅広い視点から物事を考える能力の獲得を目標とします。

Learn about the characteristics of water and deepen your understanding of exercise in aquatic environments through swimming and underwater exercises. The objective of this course is for students to acquire communication skills and the ability to think about things from a broad perspective as well as promoting health, improving physical strength, and attending lectures to discover and practice new challenges with water.

授業の内容 / Course Contents

講義では、安全管理、水の特性、水中運動の特徴や効果、近代 4 泳法のポイントについて解説します。実技においては、浸水・水中での生理的応答や流体力学について触れながら、水中運動・水中レクリエーション・近代 4 泳法を基本に、様々な水泳（水球など）を実施します。泳力・泳技能により実施内容は調整しながら、自

ら学び・実践することを評価の対象とします。授業は全体を通じて、講義（1/3）、実技（2/3）を組み合わせで行います。

In the lecture, the characteristics of water, safety management, the characteristics and effects of underwater exercise and points of the 4 modern swimming styles are explained. For practical skills, students practice underwater movements, underwater recreation and various types of swimming based on the 4 modern swimming styles, while touching on the physiological responses of being underwater and fluid dynamics. The practice contents are organized by swimming skills, and students' individual learning and implementation is subject to evaluation. All the classes spend the first 1/3 on lectures and the remaining 2/3 on practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：講義：ガイダンス・安全管理・泳力問診

その他：水泳用健康診断（問診）

2回：講義：水の特性／水中運動の特徴・水泳の基本姿勢

実技：水慣れ（水遊び・呼吸法・けのび）/水中運動（ストレッチ・ウォーキング）／泳力確認

3回：講義：水の特性／推進の仕組み

実技：水中運動／水平推進／連続泳／水中レクリエーション

4回：講義：近代4泳法（クロール・背泳ぎ）の実際（動きと評価法）①

実技：クロール・背泳ぎ①

5回：講義：近代4泳法（クロール・背泳ぎ）の実際（動きと評価法）②

実技：クロール・背泳ぎ②

6回：講義：近代4泳法（平泳ぎ）の実際（動きと評価法）①

実技：平泳ぎの実際①

7回：講義：近代4泳法（平泳ぎ）の実際（動きと評価法）②

実技：平泳ぎの実際②

8回：講義：泳法の改善と定着

実技：連続泳・自己課題の整理と解決のための取り組み／立ち泳ぎ

9回：講義：泳法の改善と定着

実技：連続泳・自己課題の整理と解決のための取り組み／立ち泳ぎ

10回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

11回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

12回：講義及び実技：様々な水泳・水泳技術

水球を基本として、日本泳法・飛び込み・折り返しなどからテーマを決め実践

13回：講義：水泳・水中運動の運動強度とエネルギー消費量

実技：選択的有酸素運動プログラム（水中ウォーキング・中長距離泳）の実践

14回：講義：まとめ

実技：自己運動プログラムの実践

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：

実技・実習・実験 :○ 学内の教室外施設の利用 :○ 校外実習・フィールドワーク :

上記いずれも用いない予定 :

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

関連する項目について事前に調べておくこと。

特に、泳げない泳法については、対象授業前に動作の把握を必ず行う事。

その他については、授業中に指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加意欲・取り組み状況:70% 授業内レポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

財団法人日本水泳連盟 『水泳コーチ教本』 大修館書店 2005

財団法人日本水泳連盟 『水泳指導教本』 大修館書店 2005

出村慎一、他 『健康・スポーツ科学における運動処方としての水泳・水中運動』 杏林書院 2016

その他 / Others

初回授業内で水泳用健康診断（問診）を実施する予定です。

初回のみ水泳用具、動ける服装は不要です。

【重要】

- 水泳用健康診断を受診するため初回は必ず出席するようお願いします。
- 水泳用健康診断の結果により、履修取消となる場合があります。
- 当該年度の定期健康診断（授業内健康診断とは別）を必ず受診してください。

初回授業にて、定期健康診断受診の有無を確認します。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ウォーターエクササイズ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

セルフケアエクササイズ

大石 友子 (OOISHI TOMOKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI605
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

「自分自身とも環境とも調和して生きる」、この現代社会の命題に、ヨガを手掛かりにアプローチする。ヨガの理論を概観した上で、運動と呼吸法の基礎を学び、各自が自己の心身の状態に気付き、理解し、整え、鍛えるための継続可能なボディワークとして習得する。

“Live in harmony with yourself and your environment,” and approach yoga as the key to the challenges of modern society. After an overview of yoga theory, students learn the basics of the exercise and breathing techniques, and each student masters continuous body work to be aware of, understand, regulate and train the condition of their body and mind.

授業の内容 / Course Contents

セルフケアエクササイズ【ヨガ】

授業は、解説講義と実技実習を行う。

講義では、ヨガの基礎知識と基本原理の概説を行う。

実習では、呼吸と連動したベーシックなヨガを行う。1) 6領域の基本的アーサナ（運動）とそのバリエーション、2) 基本的なプラナヤマ（呼吸法）の解説を行い、実践する。セッションは十数種のアーサナを組合せた流れで行うが、毎回一つの主要テーマにスポットを当てて取り組む。

In the lectures, the fundamental knowledge and basic concepts of yoga are outlined. During the practical exercises, 1) The basic asanas (motions) and their variations in 6 areas and 2) The basic Pranayamas (breathing techniques) are explained and practiced. Sessions flow through a combination of a dozen or so asanas, focusing on a single main theme each time.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：授業オリエンテーション / 実習：ヨガの基本姿勢（足脚で立つ、手腕で立つ）
- 2回：実習：太陽礼拝 / 講義：ヨガの基礎知識（略史・思想・分類・現状）と基本原理「五鞘」「八支則」
- 3回：実習：立位とバランス / 講義：立位とバランスのメカニクス
- 4回：実習：前屈 / 講義：前屈のメカニクス
- 5回：実習：捻転 / 講義：捻転のメカニクス
- 6回：実習：後屈 / 講義：後屈のメカニクス
- 7回：実習：逆転 / 講義：逆転のメカニクス
- 8回：実習：ハンドスタンド / 講義：ハンドスタンドのメカニクス
- 9回：実習：呼吸へのフォーカス / 講義：調気法（呼吸法）解説と紹介 1
- 10回：実習：太陽礼拝 / 講義：調気法（呼吸法）解説と紹介 2
- 11回：実習：ビンヤサ（フロースタイル）プラクティス 1 ベーシックフロー
- 12回：実習：ビンヤサ（フロースタイル）プラクティス 2 ベーシックフロー
- 13回：実習：ビンヤサ（フロースタイル）プラクティス 3 ベーシックフロー
- 14回：実習・講義：セルフプラクティスに向けて

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各領域ごとに配布する解剖学的解説資料にもとづき、自宅等で基本のアーサナの実習を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加態度:40% 技術の習熟度:20% 最終レポート割合：:40%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象とならない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

授業時に資料を配布する。

参考文献 / Readings

B・K・S・アイアンガー 『ハタヨガの真髄』 白揚社 2004

佐保田鶴治 『ヨーガの根本経典』 平河出版社 1973

立川武蔵 『ヨーガの哲学』 講談社 1988

中村尚人 『体感して学ぶ ヨガの解剖学』 BAB ジャパン 2010

その他/ Others

◆ヨガは体幹を鍛え、筋力UPに大きな効果があり、運動量も多い。性別によらず楽しめる有意義な運動です。男女問わず積極的に受講して下さい。

◆実習は裸足で行う。

◆伸縮性があり、ある程度身体にフィットした動きやすい運動着に更衣して参加すること。

◆水分補給のための水筒等を持参すること。

◆初回は、オリエンテーションの後、実技実習を行う。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

セルフケアエクササイズ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

セルフケアエクササイズ

杉本 亮子 (SUGIMOTO RYOUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI606
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

自分の体力の何を向上したいかを知り、そのためにどのようなエクササイズプログラムを実施していけばよいかを体験し、考える。

Figure out how you would like to improve your physical fitness, then experience and consider what type of exercise program should be implemented to achieve this goal.

授業の内容 / Course Contents

体のアンバランスや癖に気づき、改善したいところや理想を具体化し、強化、ストレッチ、リラックスする方法として、呼吸法を重視したピラティスマットエクササイズとヨガ、持久力向上やストレス発散を目的とした有酸素運動プログラムを紹介する。

As a method of becoming aware of bodily imbalances and habits, working on areas you want to improve and embodying ideals, strengthening, stretching and relaxing, this class introduces a Pilates mat exercise and yoga aerobic exercise program with an emphasis on breathing techniques, aimed at improving stamina and releasing

stress.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：自分のからだについて考える：ヨガ&ピラティスとは、姿勢観察
- 2回：ピラティス&ヨガベーシックプログラム1：3つの呼吸法とジグリング
- 3回：講義&実技：柔軟性を上げるエクササイズとは
- 4回：ベーシックプログラム1：身体の歪みを戻そう
- 5回：ベーシックプログラム1：肩甲骨をしっかり動かそう
- 6回：ベーシックプログラム2：インプリンティングで体幹を鍛えよう1
- 7回：講義&実技：体幹トレーニングとは
- 8回：ベーシックプログラム2：インプリンティングで体幹を鍛えよう2
- 9回：ベーシックプログラム3：ニュートラルで体幹を整えよう1
- 10回：ベーシックプログラム3：ニュートラルで体幹を整えよう2
- 11回：講義&実技：有酸素運動とは
- 12回：エアロビックダンス&選択ベーシックプログラム1
- 13回：エアロビックダンス&選択ベーシックプログラム2
- 14回：セルフケアエクササイズ総まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ポータルサイトに掲載される動画 URL を利用して、日々セルフケアエクササイズを継続する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席数と複数回の授業内提出物:70% 学期末授業内提出のレポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項**

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

セルフケアエクササイズ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

セルフケアエクササイズ

杉本 亮子 (SUGIMOTO RYOUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI607
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

自分の体力の何を向上したいかを知り、そのためにどのようなエクササイズプログラムを実施していけばよいかを体験し、考える。

Figure out how you would like to improve your physical fitness, then experience and consider what type of exercise program should be implemented to achieve this goal.

授業の内容 / Course Contents

体のアンバランスや癖に気づき、改善したいところや理想を具体化し、強化、ストレッチ、リラックスする方法として、呼吸法を重視したピラティスマットエクササイズとヨガ、持久力向上やストレス発散を目的とした有酸素運動プログラムを紹介する。

As a method of becoming aware of bodily imbalances and habits, working on areas you want to improve and embodying ideals, strengthening, stretching and relaxing, this class introduces a Pilates mat exercise and yoga aerobic exercise program with an emphasis on breathing techniques, aimed at improving stamina and releasing

stress.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：自分のからだについて考える：ヨガ&ピラティスとは、姿勢観察
- 2回：ピラティス&ヨガベーシックプログラム1：3つの呼吸法とジグリング
- 3回：講義&実技：柔軟性を上げるエクササイズとは
- 4回：ベーシックプログラム1：身体の歪みを戻そう
- 5回：ベーシックプログラム1：肩甲骨をしっかりと動かそう
- 6回：ベーシックプログラム2：インプリンティングで体幹を鍛えよう1
- 7回：講義&実技：体幹トレーニングとは
- 8回：ベーシックプログラム2：インプリンティングで体幹を鍛えよう2
- 9回：ベーシックプログラム3：ニュートラルで体幹を整えよう1
- 10回：ベーシックプログラム3：ニュートラルで体幹を整えよう2
- 11回：講義&実技：有酸素運動とは
- 12回：エアロビックダンス&選択ベーシックプログラム1
- 13回：エアロビックダンス&選択ベーシックプログラム2
- 14回：セルフケアエクササイズ総まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ポータルサイトに掲載される動画 URL を利用して、日々セルフケアエクササイズを継続する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席数と複数回の授業内提出物:70% 学期末授業内提出のレポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項**

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

セルフケアエクササイズ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

セルフケアエクササイズ

杉本 亮子 (SUGIMOTO RYOUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI610
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

自分の体力の何を向上したいかを知り、そのためにどのようなエクササイズプログラムを実施していけばよいかを体験し、考える。

Figure out how you would like to improve your physical fitness, then experience and consider what type of exercise program should be implemented to achieve this goal.

授業の内容 / Course Contents

体のアンバランスや癖に気づき、改善したいところや理想を具体化し、強化、ストレッチ、リラックスする方法として、呼吸法を重視したピラティスマットエクササイズとヨガ、持久力向上やストレス発散を目的とした有酸素運動プログラムを紹介する。

As a method of becoming aware of bodily imbalances and habits, working on areas you want to improve and embodying ideals, strengthening, stretching and relaxing, this class introduces a Pilates mat exercise and yoga aerobic exercise program with an emphasis on breathing techniques, aimed at improving stamina and releasing

stress.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：自分のからだについて考える：ヨガ&ピラティスとは、姿勢観察
- 2回：ピラティス&ヨガベーシックプログラム1：3つの呼吸法とジグリング
- 3回：講義&実技：柔軟性を上げるエクササイズとは
- 4回：ベーシックプログラム1：身体の歪みを戻そう
- 5回：ベーシックプログラム1：肩甲骨をしっかりと動かそう
- 6回：ベーシックプログラム2：インプリンティングで体幹を鍛えよう1
- 7回：講義&実技：体幹トレーニングとは
- 8回：ベーシックプログラム2：インプリンティングで体幹を鍛えよう2
- 9回：ベーシックプログラム3：ニュートラルで体幹を整えよう1
- 10回：ベーシックプログラム3：ニュートラルで体幹を整えよう2
- 11回：講義&実技：有酸素運動とは
- 12回：エアロビックダンス&選択ベーシックプログラム1
- 13回：エアロビックダンス&選択ベーシックプログラム2
- 14回：セルフケアエクササイズ総まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ポータルサイトに掲載される動画 URL を利用して、日々セルフケアエクササイズを継続する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席数と複数回の授業内提出物:70% 学期末授業内提出のレポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項**

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

セルフケアエクササイズ

スポーツスタディ 2

Sports Study 2

セルフケアエクササイズ

杉本 亮子 (SUGIMOTO RYOUKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI611
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

自分の体力の何を向上したいかを知り、そのためにどのようなエクササイズプログラムを実施していけばよいかを体験し、考える。

Figure out how you would like to improve your physical fitness, then experience and consider what type of exercise program should be implemented to achieve this goal.

授業の内容 / Course Contents

体のアンバランスや癖に気づき、改善したいところや理想を具体化し、強化、ストレッチ、リラックスする方法として、呼吸法を重視したピラティスマットエクササイズとヨガ、持久力向上やストレス発散を目的とした有酸素運動プログラムを紹介する。

As a method of becoming aware of bodily imbalances and habits, working on areas you want to improve and embodying ideals, strengthening, stretching and relaxing, this class introduces a Pilates mat exercise and yoga aerobic exercise program with an emphasis on breathing techniques, aimed at improving stamina and releasing

stress.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：自分のからだについて考える：ヨガ&ピラティスとは、姿勢観察
- 2回：ピラティス&ヨガベーシックプログラム1：3つの呼吸法とジグリング
- 3回：講義&実技：柔軟性を上げるエクササイズとは
- 4回：ベーシックプログラム1：身体の歪みを戻そう
- 5回：ベーシックプログラム1：肩甲骨をしっかりと動かそう
- 6回：ベーシックプログラム2：インプリンティングで体幹を鍛えよう1
- 7回：講義&実技：体幹トレーニングとは
- 8回：ベーシックプログラム2：インプリンティングで体幹を鍛えよう2
- 9回：ベーシックプログラム3：ニュートラルで体幹を整えよう1
- 10回：ベーシックプログラム3：ニュートラルで体幹を整えよう2
- 11回：講義&実技：有酸素運動とは
- 12回：エアロビックダンス&選択ベーシックプログラム1
- 13回：エアロビックダンス&選択ベーシックプログラム2
- 14回：セルフケアエクササイズ総まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ポータルサイトに掲載される動画 URL を利用して、日々セルフケアエクササイズを継続する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席数と複数回の授業内提出物:70% 学期末授業内提出のレポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****注意事項**

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

セルフケアエクササイズ

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

ソフトボール

柳田 信也 (YANAGITA SHINYA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI651
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

スポーツ実践を通して、心身の健康増進とコミュニケーション能力の育成を目指す。また、そのために必要なソフトボールの基本的ゲーム構造や魅力を理解し、それを基にゲームを仲間と楽しむことからチームビルディングやリーダーシップ能力を育成する。

This course aims to improve students' mental and physical health and foster communication skills through sports practice. To this end, students will be able to understand the basic game structure and appeal of softball, and based on enjoy playing with their peers, develop the ability related to team-building and readership.

授業の内容 / Course Contents

ソフトボールの基礎技術や基本的ゲーム構造を実践を通して学習する。また、スローピッチとファーストピッチ、さまざまな大きさのボールによるゲームを体験し、レクリエーションとしてのソフトボールと競技としてのソフトボールを実践する。その実践を系統的にまとめ、生涯スポーツとしてのスポーツの役割を考察する。また、チームにおける役割分担やマネジメントを通して、スポーツとチームビルディングについて学習す

る。

Students will learn the basic techniques and fundamental game structure of softball through practice. Additionally, students will experience the game with slow pitches, fast pitches, and balls of various sizes, and practice softball as the recreation and competition levels. Students will discuss the role of lifestyle sports through creating a course portfolio, and also learn about sports and team building through the division of roles and management in teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス：ソフトボールの魅力と迫力
- 2 回：キャッチボールの基礎とキャッチボールゲーム
- 3 回：投球動作の動画解析による技術の向上
- 4 回：バッティングの基礎：打撃動作の動画解析による技術の向上
- 5 回：バッティングゲームの実践とソフトボールの面白さの理解
- 6 回：スローピッチゲームの実践と運営①：ゲーム構造の理解
- 7 回：スローピッチゲームの実践と運営②：ディフェンスコーチング法のディスカッション
- 8 回：スローピッチゲームの実践と運営③：オフェンスコーチング法のディスカッション
- 9 回：スローピッチゲームの実践と運営④：勝利のために必要な戦略と戦術
- 10 回：14 インチソフトボールによるゲームの実践と運営①：チームビルディング
- 11 回：14 インチソフトボールによるゲームの実践と運営②：リーダーシップとフォロワーシップ
- 12 回：リーグ戦の運営①：組織と役割分担
- 13 回：リーグ戦の運営②：理念と目標
- 14 回：室内におけるベースボール型競技の可能性：ベースボール型スポーツを世界に普及する

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日常的にコンディションを整えて受講する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ソフトボールの基礎技術・ゲーム運営手法など：40% 授業内レポート（4%×10回）：40% 最終レポート割合：20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。テキストや資料について質問があれば随時対応する。

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ソフトボール

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

テニス

後藤 光将 (GOTOU MITSUMASA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI653
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

テニスの基本技術・ルール・マナーを理解して、ストロークラリーが 20 回以上続けられること、および、ダブルスゲームがプレイできるようになることを到達目標として設定します。初心者であっても、生涯にわたって楽しくテニスに親しめる基礎を養います。

After understanding the rules and etiquette of tennis, set a goal to be able to continue a rally of over 20 strokes and play in a doubles game.

授業の内容 / Course Contents

テニスは老若男女問わず行うことができるスポーツの代表的な存在です。本授業では、テニスの基礎的技術練習を行い、ルール、歴史、競技特性を理解しながら、仲間とのコミュニケーションを深めていきます。生涯にわたってテニスを実践できる素養を学びます。

Tennis is a model sport that can be played by men and women of all ages. In this class, students deepen their communication with teammates while learning the fundamental techniques and understanding the rules, history,

and competitive characteristics of tennis. Learn the grounding knowledge to be able to practice tennis throughout life.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、受講ルールの説明
- 2回：送球マシンを用いた練習、ショートラリー
- 3回：送球マシンを用いた練習、フォアハンドストローク
- 4回：送球マシンを用いた練習、バックハンドストローク
- 5回：送球マシンを用いた練習、ボレー、ミニゲーム
- 6回：送球マシンを用いた練習、サービス、スマッシュ
- 7回：送球マシンを用いた練習、ハーフコートでのシングルスゲーム
- 8回：送球マシンを用いた練習、3人対3人のゲーム
- 9回：ダブルスゲームの戦術
- 10回：シングルスゲームの戦術
- 11回：ダブルスのチャンピオンゲーム (1)、歴史
- 12回：ダブルスのチャンピオンゲーム (2)、ルール
- 13回：ダブルスのチャンピオンゲーム (3)、マナー
- 14回：ダブルスのチャンピオンゲーム (4)、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

テニスのルールを本やウェブサイトですべて予習しておいてください。

受講にあたってテニスの経験や能力のレベルは問いません。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業に取り組む態度:40% 技術の向上度合:20% 最終レポート割合 :40%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しません。

参考文献 / Readings

日本テニス協会 『テニス指導教本 I』 大修館書店 2015 4469267856

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター (池袋キャンパス) / 新座体育館 (新座キャンパス) の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

テニス

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

テニス（英語）

川端 雅人（KAWABATA MASATO）

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI654
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1221
使用言語： 英語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

By the end of the course, students should be able to achieve the followings in the context of tennis:

- 1) Explain the rules and etiquette of the games,
- 2) Acquire fundamental skills and knowledge to play tennis safely, and
- 3) Enjoy playing tennis by interacting with others fairly and constructively.

授業の内容 / Course Contents

This course is for beginners. The course content is designed to provide students with fundamental knowledge and skills to play tennis recreationally. Students will be introduced to the basic skills and useful approaches to enjoy playing tennis individually as well as a team.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction to tennis: features, rules, safety, and etiquettes

Familiarizing instruments

- 2回：Forehand groundstroke: technique and rally with short distance
 3回：Forehand groundstroke: rally with middle distance, rally games
 4回：Backhand groundstroke: technique and rally with short distance
 5回：Backhand groundstroke: rally with middle distance, rally games
 6回：Overhand serve: technique and practice
 7回：Half-court single matches
 8回：Volley: technique and practice
 9回：Groundstroke to volley
 10回：Doubles matches: rules and practice
 11回：Doubles matches: strategies
 12回：Team matches
 13回：Team matches
 14回：Team matches/Lecture

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to read and watch recommended materials before attending lessons for promoting their understanding and performance in class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% Practical performance achievement:30% Practical performance improvement:30%

Individual report:30% Positive learning contribution:10%

2／3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

Recommended books are introduced in the course.

参考文献 / Readings

Recommended reading materials are introduced in the course.

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

テニス（英語）

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

バスケットボール

北村 麻衣 (KITAMURA MAI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI655
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

スポーツを通して健康・体力の維持増進を図り、自身の身体への気づきや興味を持ちながら運動を楽しめるようになる。

バスケットボールの基礎的な技術・戦術やルール・審判方法を学び、ゲーム運営ができるようになる。

The course aims to improve students' health and physical fitness through sports, allowing them to enjoy exercises while maintaining awareness and interest in their bodies.

Students will learn the fundamental techniques, tactics, rules, and refereeing methods of basketball and become able to manage the game.

授業の内容 / Course Contents

毎回新しい技術を習得し、習得した技術を試すミニゲームを多く行う。

授業が進むにつれて、審判方法やテーブルオフィシャルの方法を学び、ゲーム運営ができるようにする。

チーム毎に戦術を練り、練習をした上でリーグ戦を実施する。

Students learn new skills in each course and play lots of minigames to test the skills they learn. As the course advances, students learn about the duties of referees and table officials so that they will be able to manage games. Each team polishes its tactics and plays a league game after practicing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション,自己紹介ゲーム,ボールに慣れる,ゴール下シュート
- 2回：ボールハンドリング,ジャンプシュート,レイアップシュート,様々な種類のパス,ミニゲーム
- 3回：ボールハンドリング,リバウンド,ターンシュート,ミニゲーム
- 4回：【講義】バスケットボールの歴史・「観る」スポーツとしてのバスケットボール
- 5回：個人技術練習,グループ戦術①パス&カット,ミニゲーム
- 6回：個人技術練習,グループ戦術②サポート行動・合わせ,ミニゲーム
- 7回：【講義】バスケットボールの細かいルール・ゲームにおける審判およびテーブルオフィシャルの方法
- 8回：個人技術練習,グループ戦術③スクリーン,ミニゲーム
- 9回：アウトナンバープレー(2on1,3on2),審判方法の理解,ゲーム
- 10回：チーム分け,リーグ戦に向けたチーム練習
- 11回：リーグ戦①個人戦術を試す
- 12回：【講義】ゲーム分析の実施,次回リーグ戦に向けた戦術の考案
- 13回：リーグ戦②集団戦術を試す
- 14回：リーグ戦③まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業中に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 技術・戦術の習得度:20% グループワーク:20% 授業参加態度:30% 最終レポート割合：:30%

2／3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

適宜プリント配布

参考文献 / Readings

その他 / Others

バスケットシューズまたは室内用のシューズを持参すること。

経験者・未経験者は問わない。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

バスケットボール

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

ハンドボール

ネメシュ, R. (NEMES ROLAND JANOS)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI656
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

このコースは、ハンドボールの楽しさと魅力に焦点を当て、ゲームの基本原則を広く理解することに重点を置いています。個々のプレーだけでなく、新しい知り合いとなる共同学生とのチームダイナミクスと協力にも注目しています。この経験は、参加者がハンドボールの基本スキルを学び、実行する際に、楽しく、かつリラックスした雰囲気の中でチームワークと連帯感の価値を体験できるように、明るく楽しいものになるよう設計されています。このアプローチにより、皆が素晴らしい時間を過ごすだけでなく、リラックスしたサポート体制の中でチームワークと

This course is centered around diving into the fun and engaging world of handball, emphasizing the joy of the game and a broad understanding of its core principles. Beyond individual play, a significant focus will be on fostering team dynamics and collaboration with fellow co-students, many of whom may be new acquaintances. The experience is designed to be lighthearted and enjoyable, encouraging participants to bond, communicate, and work together effectively while they learn and execute the basic skills of handball. This approach ensures that

everyone not only has a great time but also experiences the value of teamwork and camaraderie in a relaxed and supportive setting.

授業の内容 / Course Contents

1. ハンドボール入門:

- スポーツの歴史、重要性、及び基本的なルールについての理解。

2. ハンドボール技術の基礎:

- パス、シュート、ドリブル、ディフェンスといった基本技術の習得。

- フットワークとプレーヤーのポジショニングの練習。

3. ハンドボールの戦術的認識:

- オフェンスとディフェンス戦略の理解。

- ゲーム状況の分析と意思決定プロセス。

4. アクティブな参加とスキルの適用:

- 学んだ技術や戦術をゲームの状況に適用するための実践セッション。

- ドリル、スクリメージゲーム、チーム演習への参加。

5. 評価とフィードバック:

技術の発展とゲーム理解を測定するための評価の実施。

継続的な改善を促進する建設的なフィードバックの提供。

1. Introduction to Handball: Familiarization with the sport, including its history, significance, and the basic rules governing the game.

2. Fundamentals of Handball Techniques:

- Mastering basic handball skills such as passing, shooting, dribbling, and defending.

- Practicing footwork and player positioning.

3. Tactical Awareness in Handball:

- Understanding offensive and defensive strategies.

- Analyzing game situations and decision-making processes.

4. Active Participation and Skill Application:

- Engaging in practical sessions to apply learned techniques and tactics in a game setting.

- Participating in drills, scrimmage games, and team exercises.

5. Assessment and Feedback:

- Conducting assessments to gauge skill development and understanding of the game.

- Providing constructive feedback to promote continuous improvement.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション・ミニゲーム

授業概要の説明、ハンドボールに関する基礎的知識の確認

2回：ハンドボール試合視察

3回：コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム①

ハンドボールボールの投げ方、キャッチ

4回：コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム②

ランニングシュート

5回：コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム③

ステップシュート

6回：コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム④

ジャンプシュート

7回：コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム⑤

逆足ジャンプシュート

8回：ルールテスト

9回：コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム⑥

オフザボール動きを学ぶ

10回：コートプレーヤーの基礎技術、ゲーム⑦

ディフェンスの基本技術を習得する

11回：攻撃と防御のグループ戦術、ゲーム①

2～3人で連携してプレーする。スペースの作り方。

12回：攻撃と防御のチーム戦術、ゲーム②

基本的な攻撃と防御システムを学ぶ。マンツーマンディフェンスとそれに対する攻撃

13回：攻撃と防御のチーム戦術、ゲーム③

ゾーンディフェンスとそれに対する攻撃

14回：まとめ、ハンドボール紅白試合

学生達が運営したハンドボール試合を行う

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:		:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ハンドボール試合視察

本授業の準備学習・復習時間は合わせて2時間を標準とします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度:70% ルールテスト:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に定めず、必要に応じて担当者が準備する。

参考文献 / Readings

特に定めず、必要に応じて担当者が準備する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ハンドボールコートに適したシューズと運動着を準備すること。

その他 / Others

特になし

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ハンドボール

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

フットサル

檜山 康 (HIYAMA YASUSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI657
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業ではフットサルにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。フットサルの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。

The objective of this class is for students to understand and be able to implement the basic tactics of futsal. Study instructional methods while experiencing the fun of futsal.

授業の内容 / Course Contents

技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、フットサルの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を 2 種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。

We would like for students to experience the feeling that their “can-do” can be increased by their “knowledge,”

regardless of skill level. Through a “can-do” experience, we would like for students to experience the joy of futsal and wish to tell others about their experience in this class. Each class starts with a different warm-up, such as a game of tag, and two practice events are held according to the theme of each class. Students practice to learn the theme naturally. In the second half of the class we always play a game to review the theme.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション・導入
スポーツを楽しむとはどのようなことか？
- 2回：ボール無しの動き（1）
集団で動くことの難しさ
- 3回：ボール無しの動き（2）
サポートの方法（タイミング、角度）
- 4回：ドリブル・ボールコントロール
個人技術と集団戦術の関係
- 5回：プレーの先取り
ボール無しの動きを引き出す スペースを創って使う
- 6回：判断のスピード
3人目の動きのタイミング
- 7回：1対1の対応
局面と全体の関係 連動
- 8回：チームワーク
組み立ての基本
- 9回：チャレンジ&カバー
局面の連動と全体の連動
- 10回：攻撃の幅
周りを見る 遠くを見る
- 11回：攻撃の連動（1）
幅を使いながら動き出す
- 12回：攻撃の連動（2）
切り替えの速さ コンパクトネス
- 13回：数的優位を生かす
出し手、受け手の意識
- 14回：後方からのサポート
組み立てのプランを持つ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については、履修者に第1回目の授業時に説明する。

復習については、授業で行った練習について記録する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002）/ Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:30% 実技テスト:30% 最終レポート割合 :40%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト/ Textbooks

使用しない。適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

フットサル（インドア）

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

フットサル

檜山 康 (HIYAMA YASUSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI658
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業ではフットサルにおける基本的な戦術について理解し、実践できるようにすることを目標にする。フットサルの楽しみかたを経験しながら、指導法も学んでもらいたいと考えている。

The objective of this class is for students to understand and be able to implement the basic tactics of futsal. Study instructional methods while experiencing the fun of futsal.

授業の内容 / Course Contents

技術レベルの高低に関わらず、「知る」ことによって「できる」ことが増えていく感覚を体験してもらいたい。また、「できる」経験を通して、フットサルの楽しさを感じてもらい、その経験を人に伝えたいと思ってもらえるような授業にしたいと考えている。毎回、異なる鬼ごっこなどのウォーミングアップからスタートし、授業ごとのテーマに沿った練習を 2 種目ほど行う。テーマ習得が自然と行えるような練習を行なっていく。授業後半は必ずゲームを行い、テーマの確認をしてもらう。

We would like for students to experience the feeling that their “can-do” can be increased by their “knowledge,”

regardless of skill level. Through a “can-do” experience, we would like for students to experience the joy of futsal and wish to tell others about their experience in this class. Each class starts with a different warm-up, such as a game of tag, and two practice events are held according to the theme of each class. Students practice to learn the theme naturally. In the second half of the class we always play a game to review the theme.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション・導入
スポーツを楽しむとはどのようなことか？
- 2回：ボール無しの動き（1）
集団で動くことの難しさ
- 3回：ボール無しの動き（2）
サポートの方法（タイミング、角度）
- 4回：ドリブル・ボールコントロール
個人技術と集団戦術の関係
- 5回：プレーの先取り
ボール無しの動きを引き出す スペースを創って使う
- 6回：判断のスピード
3人目の動きのタイミング
- 7回：1対1の対応
局面と全体の関係 連動
- 8回：チームワーク
組み立ての基本
- 9回：チャレンジ&カバー
局面の連動と全体の連動
- 10回：攻撃の幅
周りを見る 遠くを見る
- 11回：攻撃の連動（1）
幅を使いながら動き出す
- 12回：攻撃の連動（2）
切り替えの速さ コンパクトネス
- 13回：数的優位を生かす
出し手、受け手の意識
- 14回：後方からのサポート
組み立てのプランを持つ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については、履修者に第1回目の授業時に説明する。

復習については、授業で行った練習について記録する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002）/ Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加度:30% 実技テスト:30% 最終レポート割合 :40%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト/ Textbooks

使用しない。適宜資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中に指示する。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

フットサル（インドア）

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

ハンドボール

竹上 綾香 (TAKEGAMI AYAKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI659
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

ハンドボールに関する講義と実践を通して、ハンドボールの運動技術を高めると共にその楽しさに触れ、現在の体力向上・健康増進のみならず、生涯に渡った運動習慣のきっかけづくりを図る。加えて、チームスポーツであるハンドボールを通して、スポーツパーソナリティやコミュニケーション能力の向上を目標とする。

Through lectures and practices related to handball, students will improve their exercise skills and experience the joy of handball. In addition, we aim to improve sports personality and communication skills through handball, which is a team sport.

授業の内容 / Course Contents

講義は授業の 3 分の 1 程度の時間を使い、ハンドボールの歴史やルール、基本的な技術・戦術について解説する。実技では、ハンドボール初心者でも安全に楽しく行うことができるよう、ウォーミングアップや基礎技術・戦術のトレーニングを行った後、ゲームを中心に実施する。

Lectures use about one-third of the class time and explain the history, rules, and basic techniques and tactics of

handball. In the practical training, after warming up and training in basic techniques and tactics so that even beginners can play handball safely and enjoyably, we will focus on games.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス・チーム分け
- 2回：講義：ハンドボールとは / 実技：ボールに慣れよう
- 3回：講義：ハンドボールのルール / 実技：シュートを打ってみよう
- 4回：実技：オフザボールの動き・ゲーム
- 5回：実技：ゴールキーパーの動き・ゲーム
- 6回：実技：速攻・ゲーム
- 7回：実技：ポストプレイヤーの動き・ゲーム
- 8回：講義：基本的な戦術について / 実技：2対1・ゲーム
- 9回：講義：チームで作戦を考えよう / 実技：トーナメント戦①
- 10回：講義：チームで作戦を考えよう / 実技：トーナメント戦②
- 11回：講義：チームで作戦を考えよう / 実技：トーナメント戦③
- 12回：実技：リーグ戦①
- 13回：実技：リーグ戦②
- 14回：実技：リーグ戦③

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じ、授業時に指示する。

体調を整えて授業に臨むこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加意欲・取り組み状況:70% 授業内レポート:30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

特になし

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター (池袋キャンパス) / 新座体育館 (新座キャンパス) の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ハンドボール

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

サッカー

川原 布紗子 (KAWAHARA FUSAKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI660
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

サッカーの基礎技術、ルールを習得するとともに、個人戦術・グループ戦術・チーム戦術に対する理解を深める。

また、サッカーを通じてコミュニケーション能力を高める。

Student will learn the basic techniques and rules of football, and deepen their understanding of individual, group and team tactics. Further, students will improve their communication skills through playing football.

授業の内容 / Course Contents

授業はウォーミングアップ→テーマトレーニング→ゲームという流れで実施し、基本的な技術だけでなく、個人、グループ、チーム戦術に関する取り組みも行う。

授業に対しては、積極的に取り組み、仲間と協力しながら参加することを求める。

また、女子や初心者の履修を歓迎する。

The class will be conducted from warm-up, theme training and game in order. Students will learn not only the basic technique, but also the tactics of individual, group and team. In addition, the students will make an effort to do training and cooperate with their classmates. Women and beginners are welcome to participate in this course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：個人戦術：ボールを運ぶ
- 3回：個人戦術：ボールを止める・蹴る
- 4回：個人戦術：ボールを奪う
- 5回：個人戦術：観る
- 6回：個人戦術：ゴールキーパー
- 7回：個人戦術：ゴールを奪う
- 8回：グループ戦術：2人組での攻撃
- 9回：グループ戦術：2人組での守備
- 10回：チーム戦術：システム・ポジションの役割
- 11回：チーム戦術：セットプレー
- 12回：リーグ戦①
- 13回：リーグ戦②
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業終了時に適宜指示する。

体調を整えて参加すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加および授業への取り組み:60% 授業内課題:20% 最終レポート割合：20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

履修人数・レベルによってシラバスの内容を適宜変更する。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）

/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

サッカー

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

初心者向けサッカー・フットサル&フィットネス

石井 秀幸 (ISHII HIDEYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI661
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業ではサッカーとフットサルのルールを理解し、基礎的な技術・戦術を習得することを目標とする。また、身体トレーニングの実践を通して体力向上や健康増進を図る。

This course aims to teach students to understand the rules of soccer and futsal, and learn the sport's fundamental techniques and tactics. Students will also improve physical fitness and health by practicing physical training.

授業の内容 / Course Contents

本授業は初心者を対象とし、サッカーとフットサルの基礎技術・戦術を身につけるために授業ごとのテーマに沿った練習を行う。授業後半にはゲームを行い、習得した技術を試す。チーム分けをして、チームごとに個人・チームのパフォーマンスを向上させる方法を考え、実践する。授業では、体幹トレーニングなどの身体トレーニングも行う。初心者や女子の履修を歓迎する（熟練者にとっては物足りない内容だと思われる）。

This course is especially designed for beginners, and practice events are conducted according to the theme of each class to help students acquire the basic skills and tactics of soccer and futsal. In the second half of the class,

students play a game to test the skills they learn. After dividing into teams, each team considers and implements ways to improve individual and team performance. In each class, students also perform physical training such as core training. Beginners and women are welcome to take the course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：ボールフィーリング①（ボールタッチ）
- 3回：ボールフィーリング②（リフティング）
- 4回：個人技術①（キック）
- 5回：個人技術②（ドリブル）
- 6回：個人技術③（パス&コントロール）
- 7回：個人技術④（パス&コントロール）
- 8回：個人技術⑤（1対1）
- 9回：集団技術①（パスワーク）
- 10回：集団技術②（パスワーク）
- 11回：リーグ戦①
- 12回：リーグ戦②
- 13回：リーグ戦③
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:		
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じ、授業時に指示する。

体調を整えて授業に臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業参加および授業での取り組み:60% 授業中に課す課題:20% 最終レポート
割合 :20%

2 / 3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

初心者向けサッカー・フットサル&フィットネス

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

初心者向けサッカー・フットサル&フィットネス

石井 秀幸 (ISHII HIDEYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI662
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業ではサッカーとフットサルのルールを理解し、基礎的な技術・戦術を習得することを目標とする。また、身体トレーニングの実践を通して体力向上や健康増進を図る。

This course aims to teach students to understand the rules of soccer and futsal, and learn the sport's fundamental techniques and tactics. Students will also improve physical fitness and health by practicing physical training.

授業の内容 / Course Contents

本授業は初心者を対象とし、サッカーとフットサルの基礎技術・戦術を身につけるために授業ごとのテーマに沿った練習を行う。授業後半にはゲームを行い、習得した技術を試す。チーム分けをして、チームごとに個人・チームのパフォーマンスを向上させる方法を考え、実践する。授業では、体幹トレーニングなどの身体トレーニングも行う。初心者や女子の履修を歓迎する（熟練者にとっては物足りない内容だと思われる）。

This course is especially designed for beginners, and practice events are conducted according to the theme of each class to help students acquire the basic skills and tactics of soccer and futsal. In the second half of the class,

students play a game to test the skills they learn. After dividing into teams, each team considers and implements ways to improve individual and team performance. In each class, students also perform physical training such as core training. Beginners and women are welcome to take the course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：ボールフィーリング①（ボールタッチ）
- 3回：ボールフィーリング②（リフティング）
- 4回：個人技術①（キック）
- 5回：個人技術②（ドリブル）
- 6回：個人技術③（パス&コントロール）
- 7回：個人技術④（パス&コントロール）
- 8回：個人技術⑤（1対1）
- 9回：集団技術①（パスワーク）
- 10回：集団技術②（パスワーク）
- 11回：リーグ戦①
- 12回：リーグ戦②
- 13回：リーグ戦③
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:		
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じ、授業時に指示する。

体調を整えて授業に臨むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加および授業での取り組み:60% 授業中に課す課題:20% 最終レポート
割合：:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

初心者向けサッカー・フットサル&フィットネス

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

卓球

石渡 貴之 (ISHIWATA TAKAYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI663
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 新座
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

卓球を通して楽しく身体を動かすことで、運動の利点を体験的に理解して、継続的な運動生活へと発展させる事を目標とする。

Enjoy physical exercise through table tennis. The goal is to develop an experiential understanding of the benefits of exercise and to develop a continuous physical activity lifestyle.

授業の内容 / Course Contents

卓球はラケットの操作が容易なことなどから、若年から高齢、また、レクリエーショナルからプロフェッショナルまで、様々なレベルに応じて楽しめるスポーツである。本授業では、シングルス、ダブルス、団体戦などのゲームを中心に、卓球を通じてスポーツに親しむことを第一の目的とする。また、レベルを上げながら卓球の面白さを体験するため、サーブやスマッシュなど様々な打法の基本や攻防の技術を習得することを狙う。

Table tennis is a sport that can be enjoyed by young and old, recreational and professional players of all levels because of its ease of racket manipulation. The primary objective of this class is to familiarize students with the

sport through table tennis, focusing on singles, doubles, and team games. In addition, in order to experience the fun of table tennis as they move up through the levels, the players aim to master the basics of various hitting techniques such as the serve and smash, as well as offensive and defensive skills.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス（授業の目的，内容，注意点の確認等），卓球の特性，ルール
- 2回：講義①，グリップと構え，サービス，フォア・バックハンドの打ち方，練習
- 3回：講義②，基本ストローク（サーブ中心），シングルスゲーム，総当たり戦①
- 4回：講義③，基本ストローク（ラリー，スマッシュ中心），シングルスゲーム，総当たり戦②
- 5回：グループ演習課題説明，グループ分け，打合せ，シングルスゲームレベル別対戦①
- 6回：グループ演習課題打合せ，シングルスゲームレベル別対戦②
- 7回：グループ課題発表①，ダブルスゲーム ルール説明，練習
- 8回：グループ課題発表②，ダブルスゲーム①
- 9回：グループ課題発表③，ダブルスゲーム②
- 10回：グループ課題発表④，ダブルスゲーム③
- 11回：グループ課題発表⑤，団体戦①
- 12回：グループ課題発表⑥，団体戦②
- 13回：グループ課題発表⑦，団体戦③
- 14回：まとめ，期末レポート作成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外学習の指示は，履修登録完了後に Canvas LMS 上で履修者に対して行う。各自が確認して予習・復習すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加態度 (60%)，技術の習熟度 (20%)，学期末レポート (10%)，グループ課題発表 (10%) :100%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は，成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は，実技への参加は認められず，見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。

参考文献 / Readings

特に指定なし。必要に応じて資料を配付する。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）

/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

卓球

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

ゴルフ

長島 洋介 (NAGASHIMA YOSUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI665
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（全回対面）
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、生涯スポーツとしてゴルフを楽しむための基礎的な技術、ルールおよびマナーを習得することを目標とする。

The objective of this course is for students to learn the fundamental skills, rules and etiquette to enjoy golf as a lifelong sport.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、グラウンドで練習用ゴルフボールを打撃し、スイングの基本を習得する。さらに、クラブの特性を理解し、クラブ別のショットを身につける。また、仮設コースをつくり、実践的なラウンドプレーを通じて、ゴルフのルール、マナーおよびエチケットについても学習する。なお、授業計画は若干変更することもある。

In this class, students will hit practice balls on the sports ground and learn the basics of a swing. In addition, students will understand the characteristics of clubs. They will learn club specific shots. They also create a

temporary course on the sports ground and learn how to play a practice round. Note that the lesson plan may change slightly.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、グリップについて
- 2回：スイングの基本① スイングの局面（アドレス、テークバック、バックスイング、トップオブスイング、ダウンスイング、インパクト、フォロースルー、フィニッシュ）、クォータースイング
- 3回：スイングの基本② ハーフスイング
- 4回：スイングの基本③ フルスイング
- 5回：スイングの基本④ クラブ別のショット ドライバー、アイアン、アプローチ、パター
- 6回：スイングの基本⑤ フォーム分析（自己フォームチェックと他者に対するコーチング）
- 7回：模擬ラウンド① ラウンドプレーの方法
- 8回：模擬ラウンド② ラウンドプレーにおけるルール・マナーの実践
- 9回：模擬ラウンド③ スコアカードの作成
- 10回：模擬ラウンド④ 様々なプレー方法（フォアボール方式）
- 11回：模擬ラウンド⑤ 様々なプレー方法（フォアサム方式）
- 12回：ゴルフの基本知識①ゴルフの歴史、用具の知識、ゴルフコースの施設
- 13回：ゴルフの基本知識②ゴルフのルール・マナー、マーカーの指定、スコアカード作成・提出方法
- 14回：ゴルフ場・ゴルフ練習場の使用方法、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については、履修者に第1回目の授業時に説明する。

授業時間外の学習は、「Canvas LMS」上で必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加姿勢:50% 最終レポート:30% 実技テスト:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

日本プロゴルフ協会 PGA 基本ゴルフ教本 学研パブリッシング

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ゴルフに適した服装、靴およびゴルフ用グローブ。さらに、熱中症予防ため、飲み物と帽子は必ず用意すること。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ゴルフ

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

ゴルフ

長島 洋介 (NAGASHIMA YOSUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI666
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（全回対面）
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、生涯スポーツとしてゴルフを楽しむための基礎的な技術、ルールおよびマナーを習得することを目標とする。

The objective of this course is for students to learn the fundamental skills, rules and etiquette to enjoy golf as a lifelong sport.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、グラウンドで練習用ゴルフボールを打撃し、スイングの基本を習得する。さらに、クラブの特性を理解し、クラブ別のショットを身につける。また、仮設コースをつくり、実践的なラウンドプレーを通じて、ゴルフのルール、マナーおよびエチケットについても学習する。なお、授業計画は若干変更することもある。

In this class, students will hit practice balls on the sports ground and learn the basics of a swing. In addition, students will understand the characteristics of clubs. They will learn club specific shots. They also create a

temporary course on the sports ground and learn how to play a practice round. Note that the lesson plan may change slightly.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、グリップについて
- 2回：スイングの基本① スイングの局面（アドレス、テークバック、バックスイング、トップオブスイング、ダウンスイング、インパクト、フォロースルー、フィニッシュ）、クォータースイング
- 3回：スイングの基本② ハーフスイング
- 4回：スイングの基本③ フルスイング
- 5回：スイングの基本④ クラブ別のショット ドライバー、アイアン、アプローチ、パター
- 6回：スイングの基本⑤ フォーム分析（自己フォームチェックと他者に対するコーチング）
- 7回：模擬ラウンド① ラウンドプレーの方法
- 8回：模擬ラウンド② ラウンドプレーにおけるルール・マナーの実践
- 9回：模擬ラウンド③ スコアカードの作成
- 10回：模擬ラウンド④ 様々なプレー方法（フォアボール方式）
- 11回：模擬ラウンド⑤ 様々なプレー方法（フォアサム方式）
- 12回：ゴルフの基本知識①ゴルフの歴史、用具の知識、ゴルフコースの施設
- 13回：ゴルフの基本知識②ゴルフのルール・マナー、マーカーの指定、スコアカード作成・提出方法
- 14回：ゴルフ場・ゴルフ練習場の使用方法、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については、履修者に第1回目の授業時に説明する。

授業時間外の学習は、「Canvas LMS」上で必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加姿勢:50% 最終レポート:30% 実技テスト:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

日本プロゴルフ協会 PGA 基本ゴルフ教本 学研パブリッシング

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ゴルフに適した服装、靴およびゴルフ用グローブ。さらに、秋学期の授業では、防寒対策を行うこと。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ゴルフ

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

ゴルフ

長島 洋介 (NAGASHIMA YOSUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI667
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（全回対面）
校地：	新座
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、生涯スポーツとしてゴルフを楽しむための基礎的な技術、ルールおよびマナーを習得することを目標とする。

The objective of this course is for students to learn the fundamental skills, rules and etiquette to enjoy golf as a lifelong sport.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、グラウンドで練習用ゴルフボールを打撃し、スイングの基本を習得する。さらに、クラブの特性を理解し、クラブ別のショットを身につける。また、仮設コースをつくり、実践的なラウンドプレーを通じて、ゴルフのルール、マナーおよびエチケットについても学習する。なお、授業計画は若干変更することもある。

In this class, students will hit practice balls on the sports ground and learn the basics of a swing. In addition, students will understand the characteristics of clubs. They will learn club specific shots. They also create a

temporary course on the sports ground and learn how to play a practice round. Note that the lesson plan may change slightly.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、グリップについて
- 2回：スイングの基本① スイングの局面（アドレス、テークバック、バックスイング、トップオブスイング、ダウンスイング、インパクト、フォロースルー、フィニッシュ）、クォータースイング
- 3回：スイングの基本② ハーフスイング
- 4回：スイングの基本③ フルスイング
- 5回：スイングの基本④ クラブ別のショット ドライバー、アイアン、アプローチ、パター
- 6回：スイングの基本⑤ フォーム分析（自己フォームチェックと他者に対するコーチング）
- 7回：模擬ラウンド① ラウンドプレーの方法
- 8回：模擬ラウンド② ラウンドプレーにおけるルール・マナーの実践
- 9回：模擬ラウンド③ スコアカードの作成
- 10回：模擬ラウンド④ 様々なプレー方法（フォアボール方式）
- 11回：模擬ラウンド⑤ 様々なプレー方法（フォアサム方式）
- 12回：ゴルフの基本知識①ゴルフの歴史、用具の知識、ゴルフコースの施設
- 13回：ゴルフの基本知識②ゴルフのルール・マナー、マーカーの指定、スコアカード作成・提出方法
- 14回：ゴルフ場・ゴルフ練習場の使用方法、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については、履修者に第1回目の授業時に説明する。

授業時間外の学習は、「Canvas LMS」上で必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加姿勢:50% 最終レポート:30% 実技テスト:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

日本プロゴルフ協会 PGA 基本ゴルフ教本 学研パブリッシング

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ゴルフに適した服装、靴およびゴルフ用グローブ。さらに、秋学期の授業では、防寒対策を行うこと。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ゴルフ

スポーツスタディ 3

Sports Study 3

ゴルフ

長島 洋介 (NAGASHIMA YOSUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI668
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（全回対面）
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、生涯スポーツとしてゴルフを楽しむための基礎的な技術、ルールおよびマナーを習得することを目標とする。

The objective of this course is for students to learn the fundamental skills, rules and etiquette to enjoy golf as a lifelong sport.

授業の内容 / Course Contents

この授業では、グラウンドで練習用ゴルフボールを打撃し、スイングの基本を習得する。さらに、クラブの特性を理解し、クラブ別のショットを身につける。また、仮設コースをつくり、実践的なラウンドプレーを通じて、ゴルフのルール、マナーおよびエチケットについても学習する。なお、授業計画は若干変更することもある。

In this class, students will hit practice balls on the sports ground and learn the basics of a swing. In addition, students will understand the characteristics of clubs. They will learn club specific shots. They also create a

temporary course on the sports ground and learn how to play a practice round. Note that the lesson plan may change slightly.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション、グリップについて
- 2回：スイングの基本① スイングの局面（アドレス、テークバック、バックスイング、トップオブスイング、ダウンスイング、インパクト、フォロースルー、フィニッシュ）、クォータースイング
- 3回：スイングの基本② ハーフスイング
- 4回：スイングの基本③ フルスイング
- 5回：スイングの基本④ クラブ別のショット ドライバー、アイアン、アプローチ、パター
- 6回：スイングの基本⑤ フォーム分析（自己フォームチェックと他者に対するコーチング）
- 7回：模擬ラウンド① ラウンドプレーの方法
- 8回：模擬ラウンド② ラウンドプレーにおけるルール・マナーの実践
- 9回：模擬ラウンド③ スコアカードの作成
- 10回：模擬ラウンド④ 様々なプレー方法（フォアボール方式）
- 11回：模擬ラウンド⑤ 様々なプレー方法（フォアサム方式）
- 12回：ゴルフの基本知識①ゴルフの歴史、用具の知識、ゴルフコースの施設
- 13回：ゴルフの基本知識②ゴルフのルール・マナー、マーカーの指定、スコアカード作成・提出方法
- 14回：ゴルフ場・ゴルフ練習場の使用方法、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については、履修者に第1回目の授業時に説明する。

授業時間外の学習は、「Canvas LMS」上で必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への参加姿勢:50% 最終レポート:30% 実技テスト:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

日本プロゴルフ協会 PGA 基本ゴルフ教本 学研パブリッシング

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

特になし。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ゴルフに適した服装、靴およびゴルフ用グローブ。さらに、熱中症予防のために、飲み物と帽子は必ず用意すること。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ゴルフ

スポーツスタディ 4

Sports Study 4

ネイチャーキャンプ

奇二 正彦／濁川 孝志 (KIJI MASAHIKO/ NIGORIKAWA TAKASHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI700
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面（全回対面）/Face to face (all classes are face-to-face)
校地：	他
学期：	春学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・学外集中講義 ・本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

豊かな自然環境の中に身を置いて、自然に親しみ、種々のアウトドア・アクティビティを体験し、同時に環境問題について考える。

Experience various outdoor activities in rich natural surroundings and at the same consider environmental issues.

授業の内容 / Course Contents

日本有数の自然環境がいまだに残る秘境「奥只見」。ここを舞台にカヌー、トレッキング、森林の観察、河川の観察、星空の観察などを通じ、豊かな自然環境を肌で感じとる。それを前提に、日本の将来の自然環境の在り方について討議、学習する。

Okutadami still remains one of Japan's leading unexplored natural environments. Here, students can experience the rich natural environment through canoeing, trekking, and observing the forests, rivers and stars. Based on that, they will discuss and learn about prospects for the natural environment of Japan in future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：キャンプにおける安全管理と危険察知
- 3回：奥只見湖でカヤック体験
- 4回：北の又川のトレッキング：落葉広葉樹の森で生きもの観察
- 5回：中ノ又川エリアの植生観察、イヌワシ観察、天然ウォータースライダーの体験
- 6回：枝折峠での雲海観察、星空観察
- 7回：星空観察
- 8回：中荒沢エリアでのキャンプ、焚き火、飯盒炊爨
- 9回：ネイチャーゲームの体験①
- 10回：ネイチャーゲームの体験②
- 11回：水生生物の調査
- 12回：哲学対話
- 13回：講義：アウトドア・アクティビティとウェルネス
- 14回：全体討論：自然環境の改善に向けて、今我々にできる事

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業準備の指示は、ガイダンスで行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% プログラムへの参加意欲、態度:60% 事前課題:40%

- ・事前課題を提出しない場合は、成績評価の対象としない
- ・ガイダンス出席を必須とする
- ・2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない
- ・当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

足立 倫行（著），秋月 岩魚（著） イワナ棲む山里 奥只見物語 世界文化社 2021 4418212221 ○

参考文献 / Readings

星野道夫 旅をする木 文春文庫 1993 9784167515027

その他 / Others

- 【日程】2024年8月1日（木）～8月5日（月）4泊5日
- 【宿泊先】〒946-0084 新潟県魚沼市銀山平温泉 湖山荘 <https://kozanso.jp>
- 【事前ガイダンス】2023年7月12日（金）12:35～13:15 オンライン Zoom URL を履修登録後に立教メールアドレスへ送付する。
- 【参加費用】41,130円。但し交通費別（移動に際して貸切バスを使用する場合がある。詳細はガイダンスで説明する。）。

【その他】①5日間を通じ、上記のプログラムを実施する。なお、プログラム内容は天候などの影響

注意事項

【履修登録の留意点】

履修登録後の履修中止は認められないが、やむを得ない理由で参加を辞退する場合には、教務事務センター（池袋・新座）に申し出て、必ず「辞退届」を提出すること。その後、担当教員との面談を経て辞退が認められた場合には、原則として、キャンセルポリシーに基づき参加費を返金する。なお、辞退が認められた場合でも、履修登録の取消はされず、単位未修得（D評価）となる。

学校感染症などにより参加できなかった場合、授業によっては出席配慮ができない可能性がある。履修の際にはこの点を確認した上で申し込みすること。

注意事項（検索結果画面）

ネイチャーキャンプ

（学外集中講義）

スポーツスタディ 4

Sports Study 4

ゴルフ

江原 義智／長島 洋介 (EHARA YOSHITOMO/ NAGASHIMA YOSUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI701
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	他
学期：	春学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・学外集中講義 ・本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、ゴルフの基本的なショットの技術、エチケット・マナーおよびルールを習得して、実際にコースでラウンドできるようになることを目標とする。

In this course, students will learn the fundamentals of golf, including techniques, etiquette, and rules. The goal is to enable students to play a round of golf on a course.

授業の内容 / Course Contents

ゴルフは英国で生まれた世界を代表するスポーツであり、幅広い年齢層で生涯にわたって楽しむことができるスポーツでもある。この授業では集中授業として、ゴルフの基本的なショットの技術、エチケット・マナーおよびルールを習得し、実際にコースでプレーを行うことで、ゴルフの楽しさを理解する。

Golf is a global sport that originated in Scotland. It is a sport that can be enjoyed by people of all ages throughout their lives. As this course is concentrated, students are expected to learn the techniques, etiquette, and rules of golf, and play on a course, and come to understand the enjoyment of the game.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：顔合わせ、自己紹介、ガイダンス
- 2回：練習場でのスイング練習 (1)
ゴルフスイングの基礎
グリップの握り方
アドレス
アプローチ
ショートアイアンの練習 (SW～PW)
- 3回：フォーム分析 (1)
スイングチェック
基本スイングの習得
- 4回：講義 1
安全管理
ゴルフコースの施設の使用法
ラウンドプレーの方法
- 5回：練習場でのスイング練習 (2)
スイングチェック
スイング撮影
ミドルアイアン練習 (9I～7I)
アプローチ
パター
- 6回：フォーム分析 (2)
スイングチェック
基本スイングの習得
- 7回：ゴルフコースでのラウンドプレー (1)
- 8回：講義 2
用具の知識
エチケット・マナー
ルール
ファストプレー
- 9回：練習場でのスイング練習 (3)
スイングチェック
スイング撮影
ロングアイアン練習 (6I～4I)
アプローチ
パターゴルフ
- 10回：フォーム分析 (3)
スイングチェック
基本スイングの習得
- 11回：ゴルフコースでのラウンドプレー (2)
- 12回：講義 3

ゴルフの歴史

ゴルフと健康

ゴルフのメリットとデメリット

13回：練習場でのスイング練習（4）

スイングチェック

スイング撮影

ドライバー、フェアウェイウッド

アプローチ

パター

14回：ゴルフコースでのラウンドプレー（3）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初心者も履修可能であるが、打ちっぱなしなどで実施期間までに練習を積んでおくことが望ましい。

カート運転を行う場合があるため、ラウンド経験者で、かつ自動車運転免許証を保持する学生を歓迎する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ゴルフの理解度：40% 参加意欲：30% 最終レポート割合：30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

必要に応じて配布する。

参考文献 / Readings

日本プロゴルフ協会 資格認証委員会 『PGA 基本ゴルフ教本』 日本プロゴルフ協会 2021

その他 / Others

【日程と場所】

2024年8月5日（月）（1日間）：立教大学新座キャンパス グラウンドまたは体育館

2024年8月6日（火）～8月9日（金）（4日間）：高坂カントリークラブ（埼玉県）

【事前ガイダンス】

2024年7月10日（水）12:30～13:00 Zoom URL を登録完了後に立教メールアドレス宛に送る。

2024年7月12日（金）12:30～13:00 Zoom URL を登録完了後に立教メールアドレス宛に送る。

【参加費用】

・10,560円

・参加費には5日分の保険料、施設利用、昼食代、プレー

注意事項

【履修登録の留意点】

履修登録後の履修中止は認められないが、やむを得ない理由で参加を辞退する場合には、教務事務センター（池袋・新座）に申し出て、必ず「辞退届」を提出すること。その後、担当教員との面談を経て辞退が認められた場合には、原則として、キャンセルポリシーに基づき参加費を返金する。なお、辞退が認められた場合でも、履修登録の取消はされず、単位未修得（D評価）となる。

学校感染症などにより参加できなかった場合、授業によっては出席配慮ができない可能性がある。履修の際にはこの点を確認した上で申し込みすること。

注意事項（検索結果画面）

ゴルフ

（学外集中講義）

スポーツスタディ 4

Sports Study 4

クライミング

西谷 善子 (NISHITANI YOSHIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI702
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 実技（体育・芸術）
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：
・集中講義
・本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

クライミングの座学と実技を通して、正しい知識を身につけ、自分の身体の機能や動き等を学びながら、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じてスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。

Through climbing, interact with your mind and body and cultivate the ability to enjoy climbing as a lifelong sport together with your peers, while learning about the functions and movements of your body.

授業の内容 / Course Contents

2020+1 東京五輪の女子銀・銅メダル獲得でさらに注目が高まっているスポーツクライミング。

一見、力がないとできないスポーツと思われがちですが、決してそうではありません。

クライミングは誰にでも挑戦可能で、マイペースに楽しめるスポーツです。「体を使うチェス」と表現されたりするように、頭の使いようによって様々な可能性が開かれているというような限りない魅力を持っています。

本授業では、クライミングの中の「ボルダリング」種目を中心に授業を展開し、クライミングに必要な基礎知識を学びながら、自身の身体の機能や動き等の理解を深めます。また、仲間とともに自分たちの力で楽しさと

やりがいを感じ得られるよう、グループワークも取り入れていきます。

日程：いずれも日帰り

- ・2024年4月13（土）3・4限※この日のみ変則
- ・2024年4月27日、5月18日、6月1・22日 3～5限

場所：池袋キャンパス（ポール・ラッシュ・アスレティックセンター）

※毎回、最初に簡単な座学を取り入れクライミングの知識を深めます。

ウォーミングアップで簡単な技術練習を行った後、各傾斜の壁をローテーションで登りながら理解を深めます。授業進行状況に合わせて順序、内容を変更することがあります。

With the 2020+1 Tokyo Olympics effect, sport climbing is attracting more and more attention. At first glance, climbing may seem to require a lot of arm strength, but it is a sport that anyone can try and enjoy at their own pace. It is also sometimes referred to as "chess with the body" because it requires thinking about how to move in your head.

In this course, classes will continue focusing on "bouldering" among other climbing skills, and students will deepen their understanding of the functions and movements of their bodies while learning the basic knowledge necessary for climbing. Group work is also incorporated so that students can realize the joy and satisfaction of their own capabilities together with their peers.

Schedule: Day trip

- ・Apr. 13 (Sat) Period 3・4
- ・Apr. 27・May18・Jun. 1・22・Jul.1 (Sat) 2024：Period 3-5

Location: Ikebukuro Campus

Paul Rusch Athletics Center

*In each class, after simple technique practice to warm up, students can climb the walls of each slope in rotation and deepen their understanding. The order and contents may change according to the progress of the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：クライミング概論
- 2回：クライミングの安全対策
- 3回：技術；足の置き方1
- 4回：技術；足の置き方2
- 5回：技術；ホールドの持ち方
- 6回：戦術；ルートを読む1（オブザベーションの重要性）
- 7回：戦術；ルートを読む2（オブザベーションの重要性）
- 8回：技術；ムーブ
- 9回：応用；課題を作ってみる1
- 10回：応用；課題を作ってみる2
- 11回：中間実技テスト（理解度・達成度チェック）
- 12回：応用；課題を作ってみる3
- 13回：実践；競技クライミング1；ボルダリング
- 14回：実践；競技クライミング2；ボルダリング

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : スライド（パワポ等）の使用 : 上記以外の視聴覚教材の使用 : ○

個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	○ 学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定	:		:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。

授業時間での疑問点、興味を持った点を調べ、予習、復習し、小レポート等にまとめていきましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業参加度:60% 理解・達成度:20% 最終レポート割合 :20%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特定のテキストは使用しませんが、必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。

興味がある人は『フリークライミングはじめました。 : ボルダリングから本格クライミングまで』と『スポーツクライミング ボルダリング 考える力を身につけながら楽しくレベルアップ!!』（西谷監修）を読むと授業の様子が分かります。授業を選択する前にぜひ読んでみてください。

参考文献 / Readings

授業の中で適宜紹介する。

その他 / Others

- ・クライミング経験は問いません。 初心者でも OK です。
- ・初回～数日間は様々な部分（特に前腕部）が筋肉痛になります。
- ・各種目に適切な服装や靴，またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

クライミング
（集中講義）

スポーツスタディ 4

Sports Study 4

馬術

加藤 晴康／須磨 武司 (KATO HARUYASU/ SUMA TAKESHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI703
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	他
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・学外集中講義 ・本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

馬術の特性を理解し、スポーツとしての真の楽しさに触れるために、馬と触れ合いながら、基礎的技術や基本的知識の習得をめざす。

To understand the characteristics of horsemanship and experience the enjoyment of the sport, the objective of this class is for students to acquire the fundamental skills and basic knowledge of the sport while interacting with horses.

授業の内容 / Course Contents

馬術は、生き物である動物と共に行う数少ないスポーツの一つである。体育会馬術部スタッフの協力を得ながら、馬術に関する講義と、実践としての騎乗を実施する中で馬への理解を深め信頼関係を築いていく。また、騎乗練習ばかりでなく、馬は乗り物ではなく感情をもったパートナーであることを理解し、言葉を発しない馬との触れ合いやコミュニケーションをとることの大切さを学ぶ。正しく馬術を理解するために、騎乗前の準備として、馬にブラシをかけ頭絡や鞍をつけ、厩舎から馬を出して人間と一緒に歩く曳馬などを学ぶことからス

スタートする。騎乗の練習では、馬とコミュニケーションをとりながら常足（なみあし）で、スラロームコースを回ることを目標とする。

Horsemanship is one of the few sports that involves live animals. With the cooperation of the athletic association equestrian club staff, lectures will be carried out on horsemanship and students will deepen their understanding of horses and build relationships of mutual trust while riding on horseback as practice. In addition to horseback riding, students understand that horses are not vehicles but are partners with emotions, and learn the importance of rapport and communication with horses that do not speak words. In order to properly understand horsemanship, as preparation for horseback riding, students start by learning to brush the horse, attach the bridle and saddle, and walk from the stable while leading the horse. During riding practice, the objective is to go around the slalom course at a walking gait while communicating with the horse.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：講義（導入）
- 2 回：馬装
- 3 回：乗馬・下馬の仕方
- 4 回：講義（馬とのコミュニケーション）
- 5 回：ひき馬，乗馬・下馬
- 6 回：なみあしの練習
- 7 回：手入れ
- 8 回：厩舎作業
- 9 回：単独なみあし
- 10 回：手入れ・厩舎作業
- 11 回：なみあし誘導練習
- 12 回：なみあしとスラローム練習
- 13 回：実技まとめ
- 14 回：講義まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	○ 校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストを良く読んで準備すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 実技評価:50% 授業への取り組みおよびコメントペーパーの内容:50%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、原則として成績評価の対象としない

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

日本中央競馬会馬事公苑 『Let's Enjoy Riding： 初心者のための乗馬テキスト』 全国乗馬倶楽部振興協会
1995 ○

公益社団法人 全国乗馬倶楽部振興協会『LET'S ENJOY RIDING 改訂版』（最初の授業時までには、必ず準備すること。）

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

馬術初心者を対象としたプログラムです。馬術の経験がなくても馬術に興味があれば参加可能です。

その他/ Others

【日程】※全て日帰り

2024年12月7日（土）13:45～18:20

2024年12月8日（日）9:10～18:20

2024年12月14日（土）13:45～18:20

2024年12月15日（日）9:10～18:20

【場所】立教大学富士見総合グラウンド馬場

危険のない様に最善の注意を払うが、大きな声を出さないなどの指導者からの指示を十分に守ること。

【参加費】31,725円

参加費には保険料・施設利用等を含む。原則として現地集合・現地解散なので交通費は含まれない。その他、実習

注意事項

【履修登録の留意点】

履修登録後の履修中止は認められないが、やむを得ない理由で参加を辞退する場合には、教務事務センター（池袋・新座）に申し出て、必ず「辞退届」を提出すること。その後、担当教員との面談を経て辞退が認められた場合には、原則として、キャンセルポリシーに基づき参加費を返金する。なお、辞退が認められた場合でも、履修登録の取消はされず、単位未修得（D評価）となる。

学校感染症などにより参加できなかった場合、授業によっては出席配慮ができない可能性がある。履修の際にはこの点を確認した上で申し込みすること。

注意事項（検索結果画面）

馬術

（学外集中講義）

スポーツスタディ 4

Sports Study 4

スキーA

奇二 正彦／濁川 孝志 (KIJI MASAHIKO/ NIGORIKAWA TAKASHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI704

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） 対面（全回対面）/Face to face (all classes are face-to-face)

校地： 他

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： ・学外集中講義

・本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

受講者それぞれの技術に応じ、どのような斜面でも楽しく滑走できるようになることを目標とする。また併せて、スキーの指導法に関しても学習する。

The objective is to help them to be able to ski down any type of slope depending on their ability. In addition, students will also learn about ski instruction.

授業の内容 / Course Contents

スキーは誰でも楽しめる非常にポピュラーなスポーツであり、生涯スポーツとして身につけるには最適な種目である。この授業では、スキー場でのスキー技術指導に加え、ビデオを用いたフォーム分析などを行い、総合的にスキー技術のレベルアップを図る。

Skiing is a popular sport that anyone can enjoy. It is the perfect sport to learn as a lifetime sport. In addition to instruction on ski technology at the ski area, students will have their skiing performance analyzed on video to help them improve their technique.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション / クラス分けテスト
- 2回：講義1：スキー運動の力学的理解
- 3回：講義とワークショップ1：スキーのチューンナップとワックシング
- 4回：スキー実践：プルークボーゲン
- 5回：スキー実践：基礎パラレルターン
- 6回：ビデオによる各自のフォーム分析
- 7回：講義とワークショップ2：安全で楽しいスキー指導の在り方
- 8回：スキー実践：スキッティングターン、小回りターン
- 9回：スキー実践：カービングターン、大回りターン
- 10回：講義2：ワールドカップレーサーの持つ心理的特性
- 11回：講義と議論：スキーと安全
- 12回：スキー実践：コブ斜面や深雪エリアでの滑走
- 13回：スキー実践：スキーツアーの計画と実践
- 14回：全体討議：不測の事態が起こりうる自然環境の中で、いかに安全にスキーを楽しむか

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 実習や団体生活に対する姿勢：70% 最終レポート：30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****その他 / Others**

【日程】2025年2月15日（土）～2月19日（水）4泊5日

【宿泊先】山形県蔵王温泉スキー場 宿泊：ホテル樹林（上ノ台ゲレンデ）

【事前ガイダンス】2023年12月13日（金）12:35～13:15 オンライン Zoom URL を履修登録後に立教メールアドレスへ送付する。

【参加費用】41,930円。但し、交通費、リフト代、スキー用具一式レンタル費用別（用具は必要な者のみ）。

【その他】5日間を通じて上記のプログラムを実施する。但し、天候等によりプログラムの変更を余儀なくされる場合がある。

注意事項

【履修登録の留意点】

履修登録後の履修中止は認められないが、やむを得ない理由で参加を辞退する場合には、教務事務センター（池袋・新座）に申し出て、必ず「辞退届」を提出すること。その後、担当教員との面談を経て辞退が認められた場合には、原則として、キャンセルポリシーに基づき参加費を返金する。なお、辞退が認められた場合でも、履修登録の取消はされず、単位未修得（D 評価）となる。

学校感染症などにより参加できなかった場合、授業によっては出席配慮ができない可能性がある。履修の際にはこの点を確認した上で申し込みすること。

注意事項（検索結果画面）

スキーA

（学外集中講義）

スポーツスタディ 4

Sports Study 4

はじめての和太鼓

ライター／田中 泰秀 (LEITNER KATRIN J./ TANAKA YASUhide)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI705
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

和太鼓の理解と演奏の実践を通して、日本の伝統文化の考え方と方法について理解するとともに日本文化及び運動文化としての和太鼓演奏の技術と方法について考究する。

Through practice and performance of Wadaiko, students will deepen the understanding of the Japanese drums and learn about the concepts and methods of this traditional Japanese culture. Further, students will explore techniques and methods of Wadaiko performance as Japanese culture and as a form of exercise.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、初心者でも楽しく安全に行えるような、和太鼓の打ち方や基本動作、さらに、演奏に必要な基本的な技術を身に付ける。実技を通して和太鼓の文化的な享受能力を高めるとともに運動文化の一つとして体力向上や健康増進を図り、身体表現や自己表現の可能性を広げる。また、講義においては、日本の伝統文化である和太鼓の歴史と世界中の人々まで魅了する「日本の太鼓」の意義や考え方等について学び、幅広い学習を行う。

This course, especially designed for beginners, will focus on practicing basic movements and techniques of the Japanese drums to acquire basic skills necessary for Wadaiko performance. Through practice and performance, students will enhance their abilities regarding the cultural enjoyment of Wadaiko, improve their physical fitness and health through Wadaiko as an exercise form, and finally expand their possibilities of body expression and self-expression. In addition, lectures will introduce the historical background of Wadaiko as a traditional Japanese culture and the significance and way of thinking of the Japanese drums attracting people all over the world.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：講義①：和太鼓とは、和太鼓の歴史的経緯と伝統
- 3回：実技①：心構え、バチの握り方、構え方
- 4回：講義②：世界中の人々を魅了する「日本の太鼓」の意義や考え方
- 5回：実技②：打ち方の基本－「点で打つ」&「地打ち」
- 6回：実技③：打ち方の基本－「音の出し方」
- 7回：ワークショップ：「みんなで課題曲を作りましょう！」
- 8回：実技④：演奏の基本的な技術－「強弱をつける」
- 9回：実技⑤：演奏の基本的な技術－「音と振り」
- 10回：演奏会の企画
- 11回：演奏会の準備
- 12回：演奏会のリハーサル
- 13回：和太鼓の演奏会
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて授業時に提示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加意欲および参加態度：70% 最終レポート割合：30%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

必要に応じて授業時に紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

和太鼓の経験は不問。

その他/ Others

【授業の日程と時間】

2024年6月29日（土）3限～5限（13:25～18:50）

2024年7月13日（土）3限～5限（13:25～18:50）

2024年8月6日（火）1限～4限（8:50～17:00）

2024年8月8日（木）1限～4限（8:50～17:00）

（昼休み 12:25～13:25）

場所：新座キャンパス体育館 C アリーナ、E アリーナ、NT23/24 教室

太鼓のバチは貸出可能。運動着と室内シューズを用意すること。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/ 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

はじめての和太鼓

（集中講義）

スポーツスタディ 4

Sports Study 4

クライミング

西谷 善子 (NISHITANI YOSHIKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FI706
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1220
使用言語：	日本語
授業形式：	実技（体育・芸術）
履修登録方法：	抽選登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・集中講義 ・本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

クライミングの座学と実技を通して、正しい知識を身につけ、自分の身体の機能や動き等を学びながら、自らの心身と向き合い、仲間とともに生涯を通じてスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。

Through climbing, interact with your mind and body and cultivate the ability to enjoy climbing as a lifelong sport together with your peers, while learning about the functions and movements of your body.

授業の内容 / Course Contents

2020+1 東京五輪の女子銀・銅メダル獲得でさらに注目が高まっているスポーツクライミング。

一見、力がないとできないスポーツと思われがちですが、決してそうではありません。

クライミングは誰にでも挑戦可能で、マイペースに楽しめるスポーツです。「体を使うチェス」と表現されたりするように、頭の使いようによって様々な可能性が開かれているというような限りない魅力を持っています。

本授業では、クライミングの中の「ボルダー（ボルダリング）」種目を中心に授業を展開し、クライミングに必要な基礎知識を学びながら、自身の身体の機能や動き等の理解を深めます。また、仲間とともに自分たちの力

で楽しさとやりがいを感じることができるよう、グループワークも取り入れていきます。

いずれも日帰り

日程：

2025年2月17日（月）・19日（水）・20日（木）10:00～17:00（昼休み 12:00～12:50）

2025年2月18日（火）13:00～18:00※火曜日だけ変則的な時間割となります

場所：池袋キャンパス

ポール・ラッシュ・アスレティックセンター

※毎回、最初に簡単な座学を取り入れクライミングの知識を深めます。

ウォーミングアップで簡単な技術練習を行った後、各傾斜の壁をローテーションで登りながら理解を深めます。授業進行状況に合わせて順序、内容を変更することがあります。

With the 2020+1 Tokyo Olympics effect, sport climbing is attracting more and more attention. At first glance, climbing may seem to require a lot of arm strength, but it is a sport that anyone can try and enjoy at their own pace. It is also sometimes referred to as "chess with the body" because it requires thinking about how to move in your head.

In this course, classes will continue focusing on "boulder" among other climbing skills, and students will deepen their understanding of the functions and movements of their bodies while learning the basic knowledge necessary for climbing. Group work is also incorporated so that students can realize the joy and satisfaction of their own capabilities together with their peers.

Schedule(Day trip):

Feb. 17 (Mon), 19(Wed), and 20 (Thu) 2025

Time: 10:00 - 17:00 (Lunch break 12:00-12:50)

*Feb. 18(Tue)

Time: 13:00-18:00 Please note that Tuesday's schedule differs from other days.

Location: Ikebukuro Campus

Paul Rusch Athletics Center

*In each class, after simple technique practice to warm up, students can climb the walls of each slope in rotation and deepen their understanding. The order and contents may change according to the progress of the class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：クライミング概論
- 2回：クライミングの安全対策
- 3回：技術；足の置き方1
- 4回：技術；足の置き方2
- 5回：技術；ホールドの持ち方
- 6回：戦術；ルートを読む1（オブザベーションの重要性）
- 7回：戦術；ルートを読む2（オブザベーションの重要性）
- 8回：技術；ムーブ
- 9回：応用；課題を作ってみる1
- 10回：応用；課題を作ってみる2
- 11回：中間実技テスト（理解度・達成度チェック）
- 12回：応用；課題を作ってみる3
- 13回：実践；競技クライミング1；ボルダー

14回：実践；競技クライミング2；ボルダー

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○ 学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。

授業時間での疑問点、興味を持った点を調べ、予習、復習し、小レポート等にまとめていきましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席および授業参加度:60% 理解・達成度:20% 最終レポート割合：:20%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特定のテキストは使用しませんが、必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。

興味がある人は『フリークライミングはじめました。：ボルダリングから本格クライミングまで』と『スポーツクライミング ボルダリング 考える力を身につけながら楽しくレベルアップ!!』（西谷監修）を読むと授業の様子が分かります。授業を選択する前にぜひ読んでみてください。

参考文献 / Readings

授業の中で適宜紹介する。

その他 / Others

- ・クライミング経験は問いません。 初心者でも OK です。
- ・初回～数日間は様々な部分（特に前腕部）が筋肉痛になります。
- ・各種目に適切な服装や靴，またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り，更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス）/ 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお，第1回目の授業より実習が始まるので，運動ができる服装・靴を準備し，授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。

2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため，屋内・屋外科目に関わらず，授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス）/体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

クライミング

（集中講義）

スポーツスタディ 4

Sports Study 4

ボディコンディショニング

伊藤 詩織 (ITO SHIORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI707

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

身体のコンドィショニングを実践することは、健康の維持増進のみならず QOL（生活の質）の向上につながる。政策内容や健康づくりに関する諸概念を正しく理解すること、運動をはじめとした健康づくりに親しむ基礎を構築すること、自らの身体に関心に向け、生活をコントロールする意欲を醸成することを目標とする。

The aim of this course is to help students acquire understanding of Concepts related to health promotion and motivating them to control their lives.

授業の内容 / Course Contents

講義では、厚生労働省の定める健康づくりのための身体活動基準を知り、個人の身体データを用いて運動、栄養について学ぶ。実技では、講義で学んだ内容の実践やバランスボールを使用した運動等をおこなう。

日程：

2025 年 2 月 17（月）、2 月 19 日（水）、2 月 25 日（火）1～4 限

2025 年 2 月 27 日（木）1～2 限

場所：

池袋キャンパス（ポール・ラッシュ・アスレティックセンター）

Lectures of this course, deals with the physical activity standards for health promotion set by the Ministry of Health, Labor and Welfare, exercise using personal physical data and nutrition. And physical training of this course, deals with the practice the contents learned in the lectures and exercise using the balance ball.

Schedule

February 17(Mon), 19(Wed), 25(Tue) 2025 : Period 1-4

February 27(Thu) 2025 : Period 1-2

Place

Ikebukuro Campus (Paul Rusch Athletics Center)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス、定期健康診断受診記録の確認
- 2回：健康日本 21、身体データ測定
- 3回：身体活動量の評価とエネルギー消費量
- 4回：個人の健康づくり
- 5回：栄養、月経とボディコンディショニング
- 6回：運動継続のための心理学
- 7回：健康のためのダイエット、バランスボールを使った運動 1
- 8回：コンディションチェック 1、バランスボールを使った運動 2
- 9回：コンディションチェック 2、バランスボールを使った運動 3
- 10回：グループワーク 1
- 11回：グループワーク 2
- 12回：グループワーク 3
- 13回：グループワーク 4
- 14回：グループワーク 5

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	○
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業毎のリアクションペーパー:42% レポート課題:20% グループワーク:38%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に必要としない。必要に応じて授業時に資料を配布する。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

筆記用具、スマートフォン、資料を保管するファイル

その他 / Others

- ・ 毎回運動に適した服装・シューズで受講すること。
- ・ 第1回から第7回の授業では、毎回講義の後に実技を実施する。
- ・ 必要に応じて、グループワーク（ディスカッション、発表など）を予定している。
- ・ 資料の配布、課題の提出などに Canvas LMS を使用する。
- ・ 授業進度等によって内容を変更する場合がある。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ボディコンディショニング

スポーツスタディ 4

Sports Study 4

ボディコンディショニング

伊藤 詩織 (ITO SHIORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FI708

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1220

使用言語： 日本語

授業形式： 実技（体育・芸術）

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

身体のコンドィショニングを実践することは、健康の維持増進のみならず QOL（生活の質）の向上につながる。政策内容や健康づくりに関する諸概念を正しく理解すること、運動をはじめとした健康づくりに親しむ基礎を構築すること、自らの身体に関心に向け、生活をコントロールする意欲を醸成することを目標とする。

The aim of this course is to help students acquire understanding of Concepts related to health promotion and motivating them to control their lives.

授業の内容 / Course Contents

講義では、厚生労働省の定める健康づくりのための身体活動基準を知り、個人の身体データを用いて運動、栄養について学ぶ。実技では、講義で学んだ内容の実践やバランスボールを使用した運動等をおこなう。

日程：

2025 年 2 月 18（火）、2 月 20 日（木）、2 月 26 日（水）1～4 限

2025 年 2 月 27 日（木）3～4 限

場所：

池袋キャンパス（ポール・ラッシュ・アスレティックセンター）

Lectures of this course, deals with the physical activity standards for health promotion set by the Ministry of Health, Labor and Welfare, exercise using personal physical data and nutrition. And physical training of this course, deals with the practice the contents learned in the lectures and exercise using the balance ball.

Schedule

February18(Tue), 20(Thu), 26(Wed) 2025 : Period 1-4

February27(Thu) 2025 : Period 3-4

Place

Ikebukuro Campus (Paul Rusch Athletics Center)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス、定期健康診断受診記録の確認
- 2 回：健康日本 21、身体データ測定
- 3 回：身体活動量の評価とエネルギー消費量
- 4 回：個人の健康づくり
- 5 回：栄養、月経とボディコンディショニング
- 6 回：運動継続のための心理学
- 7 回：健康のためのダイエット、バランスボールを使った運動 1
- 8 回：コンディションチェック 1、バランスボールを使った運動 2
- 9 回：コンディションチェック 2、バランスボールを使った運動 3
- 10 回：グループワーク 1
- 11 回：グループワーク 2
- 12 回：グループワーク 3
- 13 回：グループワーク 4
- 14 回：グループワーク 5

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	○
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業毎のリアクションペーパー:42% レポート課題:20% グループワーク:38%

2 / 3 以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に必要としない。必要に応じて授業時に資料を配布する。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

筆記用具、スマートフォン、資料を保管するファイル

その他 / Others

- ・ 毎回運動に適した服装・シューズで受講すること。
- ・ 第1回から第7回の授業では、毎回講義の後に実技を実施する。
- ・ 必要に応じて、グループワーク（ディスカッション、発表など）を予定している。
- ・ 資料の配布、課題の提出などに Canvas LMS を使用する。
- ・ 授業進度等によって内容を変更する場合がある。

注意事項

1. 担当教員より特別の指示のない限り、更衣はポール・ラッシュ・アスレチックセンター（池袋キャンパス） / 新座体育館（新座キャンパス）の更衣室で行うこと。なお、第1回目の授業より実習が始まるので、運動ができる服装・靴を準備し、授業に出席すること。屋内施設で行う授業は専用シューズを用意すること。
2. 天候等により通常の実施場所とは異なる場合があるため、屋内・屋外科目に関わらず、授業前にポール・ラッシュ・アスレチックセンター入口（池袋キャンパス） / 体育館入口（新座キャンパス）の掲示板で実施場所を確認すること。

注意事項（検索結果画面）

ボディコンディショニング

スポーツスタディ e

Sports Study e

伊藤 詩織 (ITO SHIORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI751
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：
・春学期開講「スポスタ e」の履修登録は FI751 のコードで行うこと
・当選者確定後にクラス分けを行うため、担当者については、4月9日(火)18:00 以降に履修登録状況画面で確認すること

・本科目は、実技だけでなく、授業全体の約 3 分の 1 を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

体調管理や健康の維持・増進を基本に、シェイプアップやパフォーマンスの向上を目的としたトレーニング方法の習得、そして適切な生活習慣を身につける。

Students will deepen the understanding of basic concepts in health management to improve physical condition and promote overall well-being. This course will focus on training methods for the improvement of performance and general body conditioning with the aim of acquiring a healthy lifestyle.

授業の内容 / Course Contents

年齢や性別、体力、運動技術にあまり関係なく、自宅で楽しむことを重視したトレーニングを実際に体験し、自分とスポーツ、健康との関係や将来の自身の健康とスポーツのあり方を考究する。講義においては、トレーニング理論や方法、生活習慣の必要性、身体の仕組みやスポーツ文化などを解説する。実技においては、ボディコンディショニング、レジスタンストレーニング、フィットネス・トレーニングを視聴し、実際に実践し、

体調管理や健康の維持・増進のためにはどのような取り組みが必要なのかを学習する。授業の流れは最初に講義を視聴し、その後、実技映像を視聴し、各自実技を行う。最後に小レポート課題を作成し提出する。なお、トレーニング記録は毎週付けることとし、期末レポートと共に提出してもらう。

Through theory and practice, this course tries to examine basic concepts of health management, maintenance of physical condition and promotion of health as well as the cultural significance and meaning of physical exercise and sport as a lifelong activity. Lectures will offer an introduction to training theory and methods, the necessity of a proper lifestyle, the mechanism of the human body and sport culture. Using short videos, students will actually experience various forms of exercise, work-outs, training or sports that can be easily done at home. In overall, this course is designed to offer students an opportunity to reflect on their own health and the relation to exercise and sports in order to achieve well-being and a healthy lifestyle in the future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス／講義1：運動処方
- 2回：講義2：新型コロナウイルス感染症／実技1：ボディコンディショニング①
- 3回：講義3：運動前の準備／実技2：ストレッチ&レジスタンストレーニング①
- 4回：講義4：ウォーキングとジョギングの運動効果／実技3：フィットネス・トレーニング①
- 5回：講義5：栄養と食生活／実技4：ボディコンディショニング②
- 6回：講義6：スポーツマンシップ論／実技5：ストレッチ&レジスタンストレーニング②
- 7回：講義7：身体活動のメンタルヘルスに対する影響／実技6：フィットネス・トレーニング②
- 8回：講義8：身体動作の仕組み／実技7：ボディコンディショニング③
- 9回：講義9：コンディショニングとデータサイエンス／実技8：ストレッチ&レジスタンストレーニング③
- 10回：講義10：スポーツ文化論／実技9：フィットネス・トレーニング③
- 11回：講義11：スポーツジェンダー論／実技10：ボディコンディショニング④
- 12回：講義12：海外のスポーツ文化／実技11：ストレッチ&レジスタンストレーニング④
- 13回：講義13：ネイチャーキャンプへの招待／実技12：フィットネス・トレーニング④
- 14回：講義14：まとめ／期末レポート作成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎週提出する課題:65% 最終レポート割合 :35%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト/ Textbooks

特に指定なし。必要に応じて授業中に紹介する。

参考文献 / Readings

特に指定なし。必要に応じて授業中に紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

オンデマンド動画を視聴できる機器 (PC・スマートフォン等)

動画を視聴しながら運動のできるスペース (およそ1畳分)

その他/ Others

スポーツスタディ e に関する質問は下記のメールアドレスにて受け付けます。

sports-study-e-2024@ml.rikkyo.ac.jp

文面に必ず【科目コード (例：FI〇〇〇)】【担当教員名】【学生番号】【氏名】【質問内容】の記載をお願いします。

問合せ頂いた曜日・時間帯によっては、回答に時間が掛かる場合がありますのでご了承ください。

最終レポート試験の内容については、第14回でお知らせする予定です。

注意事項

1. 当年度4月に行われる定期健康診断を必ず受診しておくこと。

※健康診断を受診すると、保健室にて通学定期乗車券発行控に「済」印 (健康診断が受診済みであることを証明する印) が押されるため、それを授業時に提示すること。

※定期健康診断を未受診の場合は、授業参加に支障をきたすため、早急に保健室の「追加の健康診断について」のページを確認して対応すること。

2. 実習があるので、運動のできる服装・靴などを準備して下さい。

3. 「授業の体調管理」や実技を行う際の「周囲の安全」には十分注意して行って下さい。

4. ス

スポーツスタディ e

Sports Study e

大室 龍大 (OHMURO TATSUHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI752
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：
・春学期開講「スポスタ e」の履修登録は FI751 のコードで行うこと
・当選者確定後にクラス分けを行うため、担当者については、4月9日(火)18:00以降に履修登録状況画面で確認すること

・本科目は、実技だけでなく、授業全体の約3分の1を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

体調管理や健康の維持・増進を基本に、シェイプアップやパフォーマンスの向上を目的としたトレーニング方法の習得、そして適切な生活習慣を身につける。

Students will deepen the understanding of basic concepts in health management to improve physical condition and promote overall well-being. This course will focus on training methods for the improvement of performance and general body conditioning with the aim of acquiring a healthy lifestyle.

授業の内容 / Course Contents

年齢や性別、体力、運動技術にあまり関係なく、自宅で楽しむことを重視したトレーニングを実際に体験し、自分とスポーツ、健康との関係や将来の自身の健康とスポーツのあり方を考究する。講義においては、トレーニング理論や方法、生活習慣の必要性、身体の仕組みやスポーツ文化などを解説する。実技においては、ボディコンディショニング、レジスタンストレーニング、フィットネス・トレーニングを視聴し、実際に実践し、

体調管理や健康の維持・増進のためにはどのような取り組みが必要なのかを学習する。授業の流れは最初に講義を視聴し、その後、実技映像を視聴し、各自実技を行う。最後に小レポート課題を作成し提出する。なお、トレーニング記録は毎週付けることとし、期末レポートと共に提出してもらう。

Through theory and practice, this course tries to examine basic concepts of health management, maintenance of physical condition and promotion of health as well as the cultural significance and meaning of physical exercise and sport as a lifelong activity. Lectures will offer an introduction to training theory and methods, the necessity of a proper lifestyle, the mechanism of the human body and sport culture. Using short videos, students will actually experience various forms of exercise, work-outs, training or sports that can be easily done at home. In overall, this course is designed to offer students an opportunity to reflect on their own health and the relation to exercise and sports in order to achieve well-being and a healthy lifestyle in the future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス／講義1：運動処方
- 2回：講義2：新型コロナウイルス感染症／実技1：ボディコンディショニング①
- 3回：講義3：運動前の準備／実技2：ストレッチ&レジスタンストレーニング①
- 4回：講義4：ウォーキングとジョギングの運動効果／実技3：フィットネス・トレーニング①
- 5回：講義5：栄養と食生活／実技4：ボディコンディショニング②
- 6回：講義6：スポーツマンシップ論／実技5：ストレッチ&レジスタンストレーニング②
- 7回：講義7：身体活動のメンタルヘルスに対する影響／実技6：フィットネス・トレーニング②
- 8回：講義8：身体動作の仕組み／実技7：ボディコンディショニング③
- 9回：講義9：コンディショニングとデータサイエンス／実技8：ストレッチ&レジスタンストレーニング③
- 10回：講義10：スポーツ文化論／実技9：フィットネス・トレーニング③
- 11回：講義11：スポーツジェンダー論／実技10：ボディコンディショニング④
- 12回：講義12：海外のスポーツ文化／実技11：ストレッチ&レジスタンストレーニング④
- 13回：講義13：ネイチャーキャンプへの招待／実技12：フィットネス・トレーニング④
- 14回：講義14：まとめ／期末レポート作成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎週提出する課題:65% 最終レポート割合 :35%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト/ Textbooks

特に指定なし。必要に応じて授業中に紹介する。

参考文献 / Readings

特に指定なし。必要に応じて授業中に紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

オンデマンド動画を視聴できる機器 (PC・スマートフォン等)

動画を視聴しながら運動のできるスペース (およそ1畳分)

その他/ Others

スポーツスタディ e に関する質問は下記のメールアドレスにて受け付けます。

sports-study-e-2024@ml.rikkyo.ac.jp

文面に必ず【科目コード (例：FI〇〇〇)】【担当教員名】【学生番号】【氏名】【質問内容】の記載をお願いします。

問合せ頂いた曜日・時間帯によっては、回答に時間が掛かる場合がありますのでご了承ください。

最終レポート試験の内容については、第14回でお知らせする予定です。

注意事項

1. 当年度4月に行われる定期健康診断を必ず受診しておくこと。

※健康診断を受診すると、保健室にて通学定期乗車券発行控に「済」印 (健康診断が受診済みであることを証明する印) が押されるため、それを授業時に提示すること。

※定期健康診断を未受診の場合は、授業参加に支障をきたすため、早急に保健室の「追加の健康診断について」のページを確認して対応すること。

2. 実習があるので、運動ができる服装・靴などを準備して下さい。

3. 「授業の体調管理」や実技を行う際の「周囲の安全」には十分注意して行って下さい。

4. ス

スポーツスタディ e

Sports Study e

伊藤 詩織 (ITO SHIORI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI755
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：
・秋学期開講「スポスタ e」の履修登録は FI755 のコードで行うこと
・当選者確定後にクラス分けを行うため、担当者については、9月18日(水)18:00以降に履修登録状況画面で確認すること

・本科目は、実技だけでなく、授業全体の約3分の1を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

体調管理や健康の維持・増進を基本に、シェイプアップやパフォーマンスの向上を目的としたトレーニング方法の習得、そして適切な生活習慣を身につける。

Students will deepen the understanding of basic concepts in health management to improve physical condition and promote overall well-being. This course will focus on training methods for the improvement of performance and general body conditioning with the aim of acquiring a healthy lifestyle.

授業の内容 / Course Contents

年齢や性別、体力、運動技術にあまり関係なく、自宅で楽しむことを重視したトレーニングを実際に体験し、自分とスポーツ、健康との関係や将来の自身の健康とスポーツのあり方を考究する。講義においては、トレーニング理論や方法、生活習慣の必要性、身体の仕組みやスポーツ文化などを解説する。実技においては、ボディコンディショニング、レジスタンストレーニング、フィットネス・トレーニングを視聴し、実際に実践し、

体調管理や健康の維持・増進のためにはどのような取り組みが必要なのかを学習する。授業の流れは最初に講義を視聴し、その後、実技映像を視聴し、各自実技を行う。最後に小レポート課題を作成し提出する。なお、トレーニング記録は毎週付けることとし、期末レポートと共に提出してもらう。

Through theory and practice, this course tries to examine basic concepts of health management, maintenance of physical condition and promotion of health as well as the cultural significance and meaning of physical exercise and sport as a lifelong activity. Lectures will offer an introduction to training theory and methods, the necessity of a proper lifestyle, the mechanism of the human body and sport culture. Using short videos, students will actually experience various forms of exercise, work-outs, training or sports that can be easily done at home. In overall, this course is designed to offer students an opportunity to reflect on their own health and the relation to exercise and sports in order to achieve well-being and a healthy lifestyle in the future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス／講義1：運動処方
- 2回：講義2：新型コロナウイルス感染症／実技1：ボディコンディショニング①
- 3回：講義3：運動前の準備／実技2：ストレッチ&レジスタンストレーニング①
- 4回：講義4：ウォーキングとジョギングの運動効果／実技3：フィットネス・トレーニング①
- 5回：講義5：栄養と食生活／実技4：ボディコンディショニング②
- 6回：講義6：スポーツマンシップ論／実技5：ストレッチ&レジスタンストレーニング②
- 7回：講義7：身体活動のメンタルヘルスに対する影響／実技6：フィットネス・トレーニング②
- 8回：講義8：身体動作の仕組み／実技7：ボディコンディショニング③
- 9回：講義9：コンディショニングとデータサイエンス／実技8：ストレッチ&レジスタンストレーニング③
- 10回：講義10：スポーツ文化論／実技9：フィットネス・トレーニング③
- 11回：講義11：スポーツジェンダー論／実技10：ボディコンディショニング④
- 12回：講義12：海外のスポーツ文化／実技11：ストレッチ&レジスタンストレーニング④
- 13回：講義13：ネイチャーキャンプへの招待／実技12：フィットネス・トレーニング④
- 14回：講義14：まとめ／期末レポート作成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎週提出する課題:65% 最終レポート割合 :35%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト / Textbooks

特に指定なし。必要に応じて授業中に紹介する。

参考文献 / Readings

特に指定なし。必要に応じて授業中に紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

オンデマンド動画を視聴できる機器 (PC・スマートフォン等)

動画を視聴しながら運動のできるスペース (およそ1畳分)

その他 / Others

スポーツスタディ e に関する質問は下記のメールアドレスにて受け付けます。

sports-study-e-2024@ml.rikkyo.ac.jp

文面に必ず【科目コード (例：FI〇〇〇)】【担当教員名】【学生番号】【氏名】【質問内容】の記載をお願いします。

問合せ頂いた曜日・時間帯によっては、回答に時間が掛かる場合がありますのでご了承ください。

最終レポート試験の内容については、第14回でお知らせする予定です。

注意事項

1. 当年度4月に行われる定期健康診断を必ず受診しておくこと。

※健康診断を受診すると、保健室にて通学定期乗車券発行控に「済」印 (健康診断が受診済みであることを証明する印) が押されるため、それを授業時に提示すること。

※定期健康診断を未受診の場合は、授業参加に支障をきたすため、早急に保健室の「追加の健康診断について」のページを確認して対応すること。

2. 実習があるので、運動ができる服装・靴などを準備して下さい。

3. 「授業の体調管理」や実技を行う際の「周囲の安全」には十分注意して行って下さい。

4. ス

スポーツスタディ e

Sports Study e

大室 龍大 (OHMURO TATSUHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FI756
授業形態： オンデマンド（全回オンデマンド）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP1220
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：
・秋学期開講「スポスタ e」の履修登録は FI755 のコードで行うこと
・当選者確定後にクラス分けを行うため、担当者については、9月18日(水)18:00以降に履修登録状況画面で確認すること

・本科目は、実技だけでなく、授業全体の約3分の1を講義で実施し、スポーツへの理解を深める。

授業の目標 / Course Objectives

体調管理や健康の維持・増進を基本に、シェイプアップやパフォーマンスの向上を目的としたトレーニング方法の習得、そして適切な生活習慣を身につける。

Students will deepen the understanding of basic concepts in health management to improve physical condition and promote overall well-being. This course will focus on training methods for the improvement of performance and general body conditioning with the aim of acquiring a healthy lifestyle.

授業の内容 / Course Contents

年齢や性別、体力、運動技術にあまり関係なく、自宅で楽しむことを重視したトレーニングを実際に体験し、自分とスポーツ、健康との関係や将来の自身の健康とスポーツのあり方を考究する。講義においては、トレーニング理論や方法、生活習慣の必要性、身体の仕組みやスポーツ文化などを解説する。実技においては、ボディコンディショニング、レジスタンストレーニング、フィットネス・トレーニングを視聴し、実際に実践し、

体調管理や健康の維持・増進のためにはどのような取り組みが必要なのかを学習する。授業の流れは最初に講義を視聴し、その後、実技映像を視聴し、各自実技を行う。最後に小レポート課題を作成し提出する。なお、トレーニング記録は毎週付けることとし、期末レポートと共に提出してもらう。

Through theory and practice, this course tries to examine basic concepts of health management, maintenance of physical condition and promotion of health as well as the cultural significance and meaning of physical exercise and sport as a lifelong activity. Lectures will offer an introduction to training theory and methods, the necessity of a proper lifestyle, the mechanism of the human body and sport culture. Using short videos, students will actually experience various forms of exercise, work-outs, training or sports that can be easily done at home. In overall, this course is designed to offer students an opportunity to reflect on their own health and the relation to exercise and sports in order to achieve well-being and a healthy lifestyle in the future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス／講義1：運動処方
- 2回：講義2：新型コロナウイルス感染症／実技1：ボディコンディショニング①
- 3回：講義3：運動前の準備／実技2：ストレッチ&レジスタンストレーニング①
- 4回：講義4：ウォーキングとジョギングの運動効果／実技3：フィットネス・トレーニング①
- 5回：講義5：栄養と食生活／実技4：ボディコンディショニング②
- 6回：講義6：スポーツマンシップ論／実技5：ストレッチ&レジスタンストレーニング②
- 7回：講義7：身体活動のメンタルヘルスに対する影響／実技6：フィットネス・トレーニング②
- 8回：講義8：身体動作の仕組み／実技7：ボディコンディショニング③
- 9回：講義9：コンディショニングとデータサイエンス／実技8：ストレッチ&レジスタンストレーニング③
- 10回：講義10：スポーツ文化論／実技9：フィットネス・トレーニング③
- 11回：講義11：スポーツジェンダー論／実技10：ボディコンディショニング④
- 12回：講義12：海外のスポーツ文化／実技11：ストレッチ&レジスタンストレーニング④
- 13回：講義13：ネイチャーキャンプへの招待／実技12：フィットネス・トレーニング④
- 14回：講義14：まとめ／期末レポート作成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 毎週提出する課題:65% 最終レポート割合 :35%

2/3以上の出席をしていない場合は、成績評価の対象としない。

当該年度の健康診断受診を確認できない場合は、実技への参加は認められず、見学や欠席扱いとなる場合がある。

受診確認の方法については注意事項を参照する事。

テキスト/ Textbooks

特に指定なし。必要に応じて授業中に紹介する。

参考文献 / Readings

特に指定なし。必要に応じて授業中に紹介する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

オンデマンド動画を視聴できる機器 (PC・スマートフォン等)

動画を視聴しながら運動のできるスペース (およそ1畳分)

その他/ Others

スポーツスタディ e に関する質問は下記のメールアドレスにて受け付けます。

sports-study-e-2024@ml.rikkyo.ac.jp

文面に必ず【科目コード (例：FI〇〇〇)】【担当教員名】【学生番号】【氏名】【質問内容】の記載をお願いします。

問合せ頂いた曜日・時間帯によっては、回答に時間が掛かる場合がありますのでご了承ください。

最終レポート試験の内容については、第14回でお知らせする予定です。

注意事項

1. 当年度4月に行われる定期健康診断を必ず受診しておくこと。

※健康診断を受診すると、保健室にて通学定期乗車券発行控に「済」印 (健康診断が受診済みであることを証明する印) が押されるため、それを授業時に提示すること。

※定期健康診断を未受診の場合は、授業参加に支障をきたすため、早急に保健室の「追加の健康診断について」のページを確認して対応すること。

2. 実習があるので、運動ができる服装・靴などを準備して下さい。

3. 「授業の体調管理」や実技を行う際の「周囲の安全」には十分注意して行って下さい。

4. ス

GL101

GL101

リーダーシップ入門

豊田 隆一 (TOYOTA RYUICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV101
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

少人数のグループワークを通じて、自分なりのリーダーシップ見付け、発展させる。

This course aims to find and develop own leadership through group work in small groups.

授業の内容 / Course Contents

実際の企業に対して、少人数のグループ単位で企画提案を行うプロジェクトと、その振り返りが授業の中心となる。

- グループワークを通して、自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感する。
- チームで議論しながら結論を導くプロセスを体験し、生産的な議論のしかたを学ぶ。
- 自分の主張を裏付けるために必要な情報を収集し、意見や提案を構成する練習を行なう。
- 言いたいことを言うだけでなく、聞き手を説得できるプレゼンテーションを構成する方法を習得する。
- 企画提案プロジェクトの活動を振り返り、グループとして成果をあげるにはどのようなチームワークが必要だったか、個人としてチームにとどのように関わるべきだったかについて考える。

This course will focus on work done in small groups to create business proposals, and projects, on the topic of actual businesses, as well as review.

- (1) Students will learn how they lead best through group work.
- (2) Students will learn the process of coming to conclusions while debating things as a team, and learn how to discuss things productively.
- (3) Students will collect information necessary in order to back up their claims, and practice creating opinions and proposals.
- (4) Student will not only learn to say what they wish to say, but also to create a presentation which allows the listener to accept what is being said.
- (5) Students will review their activities in a business proposal project, and consider the team work that is necessary to achieve results in group work, as well as how they as individuals can contribute to teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クラスづくり & リーダーシップを学ぶ意義
- 2 回：個人目標設定 & チーム協働スタート
- 3 回：クライアントブリーフィング
- 4 回：現状分析①
- 5 回：現状分析②
- 6 回：中間発表①
- 7 回：チーム振り返り/現状分析③
- 8 回：中間発表②
- 9 回：解決の方向性/プラン構築
- 10 回：プレゼン技法
- 11 回：予選
- 12 回：本選
- 13 回：振り返り①
- 14 回：振り返り②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。

課題やチームでのグループワークで週に2～3時間程度は必要となる。

※プロジェクトテーマによっては、課題を行うにあたりフィールドワーク

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加とクラスへの貢献:40% 課題提出及びその内容:40% グループワークの成果:20%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016/11/25 9784502203510

その他は適宜指示する。

その他 / Others

立教大学におけるリーダーシップ開発としては、BL0、GL111(英語)に相当する授業となります。

また、本 GL101 後に、他の GLP 授業を通して、さらなるリーダーシップ開発を進めることができます。

GL101 は、その基礎科目の位置付けです。 <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

また本授業は定員を超えることが多く、選考があります。仮に履修できない場合でも、2年、3年、4年次に履修再応募が可能です。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL101

GL101

リーダーシップ入門

安松 幹展 (YASUMATSU MIKINOBU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV102
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

少人数のグループワークを通じて、自分なりのリーダーシップ見付け、発展させる。

This course aims to find and develop own leadership through group work in small groups.

授業の内容 / Course Contents

実際の企業に対して、少人数のグループ単位で企画提案を行うプロジェクトと、その振り返りが授業の中心となる。

- グループワークを通して、自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感する。
- チームで議論しながら結論を導くプロセスを体験し、生産的な議論のしかたを学ぶ。
- 自分の主張を裏付けるために必要な情報を収集し、意見や提案を構成する練習を行なう。
- 言いたいことを言うだけでなく、聞き手を説得できるプレゼンテーションを構成する方法を習得する。
- 企画提案プロジェクトの活動を振り返り、グループとして成果をあげるにはどのようなチームワークが必要だったか、個人としてチームにとどのように関わるべきだったかについて考える。

This course will focus on work done in small groups to create business proposals, and projects, on the topic of actual businesses, as well as review.

- (1) Students will learn how they lead best through group work.
- (2) Students will learn the process of coming to conclusions while debating things as a team, and learn how to discuss things productively.
- (3) Students will collect information necessary in order to back up their claims, and practice creating opinions and proposals.
- (4) Student will not only learn to say what they wish to say, but also to create a presentation which allows the listener to accept what is being said.
- (5) Students will review their activities in a business proposal project, and consider the team work that is necessary to achieve results in group work, as well as how they as individuals can contribute to teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クラスづくり & リーダーシップを学ぶ意義
- 2 回：個人目標設定 & チーム協働スタート
- 3 回：クライアントブリーフィング
- 4 回：現状分析①
- 5 回：現状分析②
- 6 回：中間発表①
- 7 回：チーム振り返り/現状分析③
- 8 回：中間発表②
- 9 回：解決の方向性/プラン構築
- 10 回：プレゼン技法
- 11 回：予選
- 12 回：本選
- 13 回：振り返り①
- 14 回：振り返り②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。

課題やチームでのグループワークで週に2～3時間程度は必要となる。

※プロジェクトテーマによっては、課題を行うにあたりフィールドワーク

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加とクラスへの貢献:40% 課題提出及びその内容:40% グループワークの成果:20%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016/11/25 9784502203510

その他は適宜指示する。

その他 / Others

立教大学におけるリーダーシップ開発としては、BL0、GL111(英語)に相当する授業となります。

また、本 GL101 後に、他の GLP 授業を通して、さらなるリーダーシップ開発を進めることができます。

GL101 は、その基礎科目の位置付けです。 <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

また本授業は定員を超えることが多く、選考があります。仮に履修できない場合でも、2年、3年、4年次に履修再応募が可能です。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL101

GL101

リーダーシップ入門

野沢 悠介 (NOZAWA YUSUKE)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV103
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

少人数のグループワークを通じて、自分なりのリーダーシップ見付け、発展させる。

This course aims to find and develop own leadership through group work in small groups.

授業の内容 / Course Contents

実際の企業に対して、少人数のグループ単位で企画提案を行うプロジェクトと、その振り返りが授業の中心となる。

- グループワークを通して、自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感する。
- チームで議論しながら結論を導くプロセスを体験し、生産的な議論のしかたを学ぶ。
- 自分の主張を裏付けるために必要な情報を収集し、意見や提案を構成する練習を行なう。
- 言いたいことを言うだけでなく、聞き手を説得できるプレゼンテーションを構成する方法を習得する。
- 企画提案プロジェクトの活動を振り返り、グループとして成果をあげるにはどのようなチームワークが必要だったか、個人としてチームにとどのように関わるべきだったかについて考える。

This course will focus on work done in small groups to create business proposals, and projects, on the topic of actual businesses, as well as review.

- (1) Students will learn how they lead best through group work.
- (2) Students will learn the process of coming to conclusions while debating things as a team, and learn how to discuss things productively.
- (3) Students will collect information necessary in order to back up their claims, and practice creating opinions and proposals.
- (4) Student will not only learn to say what they wish to say, but also to create a presentation which allows the listener to accept what is being said.
- (5) Students will review their activities in a business proposal project, and consider the team work that is necessary to achieve results in group work, as well as how they as individuals can contribute to teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クラスづくり & リーダーシップを学ぶ意義
- 2 回：個人目標設定 & チーム協働スタート
- 3 回：クライアントブリーフィング
- 4 回：現状分析①
- 5 回：現状分析②
- 6 回：中間発表①
- 7 回：チーム振り返り/現状分析③
- 8 回：中間発表②
- 9 回：解決の方向性/プラン構築
- 10 回：プレゼン技法
- 11 回：予選
- 12 回：本選
- 13 回：振り返り①
- 14 回：振り返り②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：		
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	○	
上記いずれも用いない予定	：							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。

課題やチームでのグループワークで週に2～3時間程度は必要となる。

※プロジェクトテーマによっては、課題を行うにあたりフィールドワーク

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加とクラスへの貢献:40% 課題提出及びその内容:40% グループワークの成果:20%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016/11/25 9784502203510

その他は適宜指示する。

その他 / Others

立教大学におけるリーダーシップ開発としては、BL0、GL111(英語)に相当する授業となります。

また、本 GL101 後に、他の GLP 授業を通して、さらなるリーダーシップ開発を進めることができます。

GL101 は、その基礎科目の位置付けです。 <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

また本授業は定員を超えることが多く、選考があります。仮に履修できない場合でも、2年、3年、4年次に履修再応募が可能です。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL101

GL101

リーダーシップ入門

山口 祥吾 (YAMAGUCHI SHOGO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV104

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 新座

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： ・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

少人数のグループワークを通じて、自分なりのリーダーシップ見付け、発展させる。

This course aims to find and develop own leadership through group work in small groups.

授業の内容 / Course Contents

実際の企業に対して、少人数のグループ単位で企画提案を行うプロジェクトと、その振り返りが授業の中心となる。

- グループワークを通して、自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感する。
- チームで議論しながら結論を導くプロセスを体験し、生産的な議論のしかたを学ぶ。
- 自分の主張を裏付けるために必要な情報を収集し、意見や提案を構成する練習を行なう。
- 言いたいことを言うだけでなく、聞き手を説得できるプレゼンテーションを構成する方法を習得する。
- 企画提案プロジェクトの活動を振り返り、グループとして成果をあげるにはどのようなチームワークが必要だったか、個人としてチームにとどのように関わるべきだったかについて考える。

This course will focus on work done in small groups to create business proposals, and projects, on the topic of actual businesses, as well as review.

- (1) Students will learn how they lead best through group work.
- (2) Students will learn the process of coming to conclusions while debating things as a team, and learn how to discuss things productively.
- (3) Students will collect information necessary in order to back up their claims, and practice creating opinions and proposals.
- (4) Student will not only learn to say what they wish to say, but also to create a presentation which allows the listener to accept what is being said.
- (5) Students will review their activities in a business proposal project, and consider the team work that is necessary to achieve results in group work, as well as how they as individuals can contribute to teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：クラスづくり&リーダーシップを学ぶ意義
- 2回：個人目標設定&チーム協働スタート
- 3回：クライアントブリーフィング
- 4回：現状分析①
- 5回：現状分析②
- 6回：中間発表①
- 7回：チーム振り返り/現状分析③
- 8回：中間発表②
- 9回：解決の方向性/プラン構築
- 10回：プレゼン技法
- 11回：予選
- 12回：本選
- 13回：振り返り①
- 14回：振り返り②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート : ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	: ○
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。

課題やチームでのグループワークで週に2~3時間程度は必要となる。

※プロジェクトテーマによっては、課題を行うにあたりフィールドワーク

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加とクラスへの貢献:40% 課題提出及びその内容:40% グループワークの成果:20%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016/11/25 9784502203510

その他は適宜指示する。

その他 / Others

立教大学におけるリーダーシップ開発としては、BL0、GL111(英語)に相当する授業となります。

また、本 GL101 後に、他の GLP 授業を通して、さらなるリーダーシップ開発を進めることができます。

GL101 は、その基礎科目の位置付けです。 <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

また本授業は定員を超えることが多く、選考があります。仮に履修できない場合でも、2年、3年、4年次に履修再応募が可能です。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL101

GL101

リーダーシップ入門

小笠原 祐司 (OGASAWARA YUJI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV105
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	新座
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

少人数のグループワークを通じて、自分なりのリーダーシップ見付け、発展させる。

This course aims to find and develop own leadership through group work in small groups.

授業の内容 / Course Contents

実際の企業に対して、少人数のグループ単位で企画提案を行うプロジェクトと、その振り返りが授業の中心となる。

- グループワークを通して、自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感する。
- チームで議論しながら結論を導くプロセスを体験し、生産的な議論のしかたを学ぶ。
- 自分の主張を裏付けるために必要な情報を収集し、意見や提案を構成する練習を行なう。
- 言いたいことを言うだけでなく、聞き手を説得できるプレゼンテーションを構成する方法を習得する。
- 企画提案プロジェクトの活動を振り返り、グループとして成果をあげるにはどのようなチームワークが必要だったか、個人としてチームにとどのように関わるべきだったかについて考える。

This course will focus on work done in small groups to create business proposals, and projects, on the topic of actual businesses, as well as review.

- (1) Students will learn how they lead best through group work.
- (2) Students will learn the process of coming to conclusions while debating things as a team, and learn how to discuss things productively.
- (3) Students will collect information necessary in order to back up their claims, and practice creating opinions and proposals.
- (4) Student will not only learn to say what they wish to say, but also to create a presentation which allows the listener to accept what is being said.
- (5) Students will review their activities in a business proposal project, and consider the team work that is necessary to achieve results in group work, as well as how they as individuals can contribute to teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クラスづくり & リーダーシップを学ぶ意義
- 2 回：個人目標設定 & チーム協働スタート
- 3 回：クライアントブリーフィング
- 4 回：現状分析①
- 5 回：現状分析②
- 6 回：中間発表①
- 7 回：チーム振り返り/現状分析③
- 8 回：中間発表②
- 9 回：解決の方向性/プラン構築
- 10 回：プレゼン技法
- 11 回：予選
- 12 回：本選
- 13 回：振り返り①
- 14 回：振り返り②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：		
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	○	
上記いずれも用いない予定	：							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。

課題やチームでのグループワークで週に2～3時間程度は必要となる。

※プロジェクトテーマによっては、課題を行うにあたりフィールドワーク

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加とクラスへの貢献:40% 課題提出及びその内容:40% グループワークの成果:20%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016/11/25 9784502203510

その他は適宜指示する。

その他 / Others

立教大学におけるリーダーシップ開発としては、BL0、GL111(英語)に相当する授業となります。

また、本 GL101 後に、他の GLP 授業を通して、さらなるリーダーシップ開発を進めることができます。

GL101 は、その基礎科目の位置付けです。 <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

また本授業は定員を超えることが多く、選考があります。仮に履修できない場合でも、2年、3年、4年次に履修再応募が可能です。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL101

GL101

リーダーシップ入門

翁 理香 (OKINA AYAKA)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV111
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

少人数のグループワークを通じて、自分なりのリーダーシップ見付け、発展させる。

This course aims to find and develop own leadership through group work in small groups.

授業の内容 / Course Contents

実際の企業に対して、少人数のグループ単位で企画提案を行うプロジェクトと、その振り返りが授業の中心となる。

- グループワークを通して、自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感する。
- チームで議論しながら結論を導くプロセスを体験し、生産的な議論のしかたを学ぶ。
- 自分の主張を裏付けるために必要な情報を収集し、意見や提案を構成する練習を行なう。
- 言いたいことを言うだけでなく、聞き手を説得できるプレゼンテーションを構成する方法を習得する。
- 企画提案プロジェクトの活動を振り返り、グループとして成果をあげるにはどのようなチームワークが必要だったか、個人としてチームにとどのように関わるべきだったかについて考える。

This course will focus on work done in small groups to create business proposals, and projects, on the topic of actual businesses, as well as review.

- (1) Students will learn how they lead best through group work.
- (2) Students will learn the process of coming to conclusions while debating things as a team, and learn how to discuss things productively.
- (3) Students will collect information necessary in order to back up their claims, and practice creating opinions and proposals.
- (4) Student will not only learn to say what they wish to say, but also to create a presentation which allows the listener to accept what is being said.
- (5) Students will review their activities in a business proposal project, and consider the team work that is necessary to achieve results in group work, as well as how they as individuals can contribute to teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クラスづくり & リーダーシップを学ぶ意義
- 2 回：個人目標設定 & チーム協働スタート
- 3 回：クライアントブリーフィング
- 4 回：現状分析①
- 5 回：現状分析②
- 6 回：中間発表①
- 7 回：チーム振り返り/現状分析③
- 8 回：中間発表②
- 9 回：解決の方向性/プラン構築
- 10 回：プレゼン技法
- 11 回：予選
- 12 回：本選
- 13 回：振り返り①
- 14 回：振り返り②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。

課題やチームでのグループワークで週に2～3時間程度は必要となる。

※プロジェクトテーマによっては、課題を行うにあたりフィールドワーク

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加とクラスへの貢献:40% 課題提出及びその内容:40% グループワークの成果:20%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016/11/25 9784502203510

その他は適宜指示する。

その他 / Others

立教大学におけるリーダーシップ開発としては、BL0、GL111(英語)に相当する授業となります。

また、本 GL101 後に、他の GLP 授業を通して、さらなるリーダーシップ開発を進めることができます。

GL101 は、その基礎科目の位置付けです。 <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

また本授業は定員を超えることが多く、選考があります。仮に履修できない場合でも、2年、3年、4年次に履修再応募が可能です。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL101

GL101

リーダーシップ入門

山崎 淳 (YAMAZAKI ATSUSHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV112
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

少人数のグループワークを通じて、自分なりのリーダーシップ見付け、発展させる。

This course aims to find and develop own leadership through group work in small groups.

授業の内容 / Course Contents

実際の企業に対して、少人数のグループ単位で企画提案を行うプロジェクトと、その振り返りが授業の中心となる。

- グループワークを通して、自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感する。
- チームで議論しながら結論を導くプロセスを体験し、生産的な議論のしかたを学ぶ。
- 自分の主張を裏付けるために必要な情報を収集し、意見や提案を構成する練習を行なう。
- 言いたいことを言うだけでなく、聞き手を説得できるプレゼンテーションを構成する方法を習得する。
- 企画提案プロジェクトの活動を振り返り、グループとして成果をあげるにはどのようなチームワークが必要だったか、個人としてチームにとどのように関わるべきだったかについて考える。

This course will focus on work done in small groups to create business proposals, and projects, on the topic of actual businesses, as well as review.

- (1) Students will learn how they lead best through group work.
- (2) Students will learn the process of coming to conclusions while debating things as a team, and learn how to discuss things productively.
- (3) Students will collect information necessary in order to back up their claims, and practice creating opinions and proposals.
- (4) Student will not only learn to say what they wish to say, but also to create a presentation which allows the listener to accept what is being said.
- (5) Students will review their activities in a business proposal project, and consider the team work that is necessary to achieve results in group work, as well as how they as individuals can contribute to teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クラスづくり & リーダーシップを学ぶ意義
- 2 回：個人目標設定 & チーム協働スタート
- 3 回：クライアントブリーフィング
- 4 回：現状分析①
- 5 回：現状分析②
- 6 回：中間発表①
- 7 回：チーム振り返り/現状分析③
- 8 回：中間発表②
- 9 回：解決の方向性/プラン構築
- 10 回：プレゼン技法
- 11 回：予選
- 12 回：本選
- 13 回：振り返り①
- 14 回：振り返り②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。

課題やチームでのグループワークで週に2～3時間程度は必要となる。

※プロジェクトテーマによっては、課題を行うにあたりフィールドワーク

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加とクラスへの貢献:40% 課題提出及びその内容:40% グループワークの成果:20%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016/11/25 9784502203510

その他は適宜指示する。

その他 / Others

立教大学におけるリーダーシップ開発としては、BL0、GL111(英語)に相当する授業となります。

また、本 GL101 後に、他の GLP 授業を通して、さらなるリーダーシップ開発を進めることができます。

GL101 は、その基礎科目の位置付けです。 <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

また本授業は定員を超えることが多く、選考があります。仮に履修できない場合でも、2年、3年、4年次に履修再応募が可能です。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL101

GL101

リーダーシップ入門

山口 俊治 (YAMAGUCHI TOSHIHARU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV113
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

少人数のグループワークを通じて、自分なりのリーダーシップ見付け、発展させる。

This course aims to find and develop own leadership through group work in small groups.

授業の内容 / Course Contents

実際の企業に対して、少人数のグループ単位で企画提案を行うプロジェクトと、その振り返りが授業の中心となる。

- グループワークを通して、自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感する。
- チームで議論しながら結論を導くプロセスを体験し、生産的な議論のしかたを学ぶ。
- 自分の主張を裏付けるために必要な情報を収集し、意見や提案を構成する練習を行なう。
- 言いたいことを言うだけでなく、聞き手を説得できるプレゼンテーションを構成する方法を習得する。
- 企画提案プロジェクトの活動を振り返り、グループとして成果をあげるにはどのようなチームワークが必要だったか、個人としてチームにとどのように関わるべきだったかについて考える。

This course will focus on work done in small groups to create business proposals, and projects, on the topic of actual businesses, as well as review.

- (1) Students will learn how they lead best through group work.
- (2) Students will learn the process of coming to conclusions while debating things as a team, and learn how to discuss things productively.
- (3) Students will collect information necessary in order to back up their claims, and practice creating opinions and proposals.
- (4) Student will not only learn to say what they wish to say, but also to create a presentation which allows the listener to accept what is being said.
- (5) Students will review their activities in a business proposal project, and consider the team work that is necessary to achieve results in group work, as well as how they as individuals can contribute to teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：クラスづくり&リーダーシップを学ぶ意義
- 2回：個人目標設定&チーム協働スタート
- 3回：クライアントブリーフィング
- 4回：現状分析①
- 5回：現状分析②
- 6回：中間発表①
- 7回：チーム振り返り/現状分析③
- 8回：中間発表②
- 9回：解決の方向性/プラン構築
- 10回：プレゼン技法
- 11回：予選
- 12回：本選
- 13回：振り返り①
- 14回：振り返り②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。

課題やチームでのグループワークで週に2~3時間程度は必要となる。

※プロジェクトテーマによっては、課題を行うにあたりフィールドワーク

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加とクラスへの貢献:40% 課題提出及びその内容:40% グループワークの成果:20%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016/11/25 9784502203510

その他は適宜指示する。

その他 / Others

立教大学におけるリーダーシップ開発としては、BL0、GL111(英語)に相当する授業となります。

また、本 GL101 後に、他の GLP 授業を通して、さらなるリーダーシップ開発を進めることができます。

GL101 は、その基礎科目の位置付けです。 <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

また本授業は定員を超えることが多く、選考があります。仮に履修できない場合でも、2年、3年、4年次に履修再応募が可能です。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL101

GL101

リーダーシップ入門

川崎 善行 (KAWASAKI YOSHIYUKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV114
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

少人数のグループワークを通じて、自分なりのリーダーシップ見付け、発展させる。

This course aims to find and develop own leadership through group work in small groups.

授業の内容 / Course Contents

実際の企業に対して、少人数のグループ単位で企画提案を行うプロジェクトと、その振り返りが授業の中心となる。

- グループワークを通して、自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感する。
- チームで議論しながら結論を導くプロセスを体験し、生産的な議論のしかたを学ぶ。
- 自分の主張を裏付けるために必要な情報を収集し、意見や提案を構成する練習を行なう。
- 言いたいことを言うだけでなく、聞き手を説得できるプレゼンテーションを構成する方法を習得する。
- 企画提案プロジェクトの活動を振り返り、グループとして成果をあげるにはどのようなチームワークが必要だったか、個人としてチームにとどのように関わるべきだったかについて考える。

This course will focus on work done in small groups to create business proposals, and projects, on the topic of actual businesses, as well as review.

- (1) Students will learn how they lead best through group work.
- (2) Students will learn the process of coming to conclusions while debating things as a team, and learn how to discuss things productively.
- (3) Students will collect information necessary in order to back up their claims, and practice creating opinions and proposals.
- (4) Student will not only learn to say what they wish to say, but also to create a presentation which allows the listener to accept what is being said.
- (5) Students will review their activities in a business proposal project, and consider the team work that is necessary to achieve results in group work, as well as how they as individuals can contribute to teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：クラスづくり&リーダーシップを学ぶ意義
- 2回：個人目標設定&チーム協働スタート
- 3回：クライアントブリーフィング
- 4回：現状分析①
- 5回：現状分析②
- 6回：中間発表①
- 7回：チーム振り返り/現状分析③
- 8回：中間発表②
- 9回：解決の方向性/プラン構築
- 10回：プレゼン技法
- 11回：予選
- 12回：本選
- 13回：振り返り①
- 14回：振り返り②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート : ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	: ○
上記いずれも用いない予定	:		:			

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。

課題やチームでのグループワークで週に2~3時間程度は必要となる。

※プロジェクトテーマによっては、課題を行うにあたりフィールドワーク

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加とクラスへの貢献:40% 課題提出及びその内容:40% グループワークの成果:20%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016/11/25 9784502203510

その他は適宜指示する。

その他 / Others

立教大学におけるリーダーシップ開発としては、BL0、GL111(英語)に相当する授業となります。

また、本 GL101 後に、他の GLP 授業を通して、さらなるリーダーシップ開発を進めることができます。

GL101 は、その基礎科目の位置付けです。 <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

また本授業は定員を超えることが多く、選考があります。仮に履修できない場合でも、2年、3年、4年次に履修再応募が可能です。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL101

GL101

リーダーシップ入門

櫻井 功男 (SAKURAI NORIO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV115
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

少人数のグループワークを通じて、自分なりのリーダーシップ見付け、発展させる。

This course aims to find and develop own leadership through group work in small groups.

授業の内容 / Course Contents

実際の企業に対して、少人数のグループ単位で企画提案を行うプロジェクトと、その振り返りが授業の中心となる。

- グループワークを通して、自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感する。
- チームで議論しながら結論を導くプロセスを体験し、生産的な議論のしかたを学ぶ。
- 自分の主張を裏付けるために必要な情報を収集し、意見や提案を構成する練習を行なう。
- 言いたいことを言うだけでなく、聞き手を説得できるプレゼンテーションを構成する方法を習得する。
- 企画提案プロジェクトの活動を振り返り、グループとして成果をあげるにはどのようなチームワークが必要だったか、個人としてチームにとどのように関わるべきだったかについて考える。

This course will focus on work done in small groups to create business proposals, and projects, on the topic of actual businesses, as well as review.

- (1) Students will learn how they lead best through group work.
- (2) Students will learn the process of coming to conclusions while debating things as a team, and learn how to discuss things productively.
- (3) Students will collect information necessary in order to back up their claims, and practice creating opinions and proposals.
- (4) Student will not only learn to say what they wish to say, but also to create a presentation which allows the listener to accept what is being said.
- (5) Students will review their activities in a business proposal project, and consider the team work that is necessary to achieve results in group work, as well as how they as individuals can contribute to teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クラスづくり & リーダーシップを学ぶ意義
- 2 回：個人目標設定 & チーム協働スタート
- 3 回：クライアントブリーフィング
- 4 回：現状分析①
- 5 回：現状分析②
- 6 回：中間発表①
- 7 回：チーム振り返り/現状分析③
- 8 回：中間発表②
- 9 回：解決の方向性/プラン構築
- 10 回：プレゼン技法
- 11 回：予選
- 12 回：本選
- 13 回：振り返り①
- 14 回：振り返り②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。

課題やチームでのグループワークで週に2～3時間程度は必要となる。

※プロジェクトテーマによっては、課題を行うにあたりフィールドワーク

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加とクラスへの貢献:40% 課題提出及びその内容:40% グループワークの成果:20%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016/11/25 9784502203510

その他は適宜指示する。

その他 / Others

立教大学におけるリーダーシップ開発としては、BL0、GL111(英語)に相当する授業となります。

また、本 GL101 後に、他の GLP 授業を通して、さらなるリーダーシップ開発を進めることができます。

GL101 は、その基礎科目の位置付けです。 <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

また本授業は定員を超えることが多く、選考があります。仮に履修できない場合でも、2年、3年、4年次に履修再応募が可能です。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL101

GL101

リーダーシップ入門

猪狩 清徳 (IGARI KIYONORI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV116

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： ・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

少人数のグループワークを通じて、自分なりのリーダーシップ見付け、発展させる。

This course aims to find and develop own leadership through group work in small groups.

授業の内容 / Course Contents

実際の企業に対して、少人数のグループ単位で企画提案を行うプロジェクトと、その振り返りが授業の中心となる。

- グループワークを通して、自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感する。
- チームで議論しながら結論を導くプロセスを体験し、生産的な議論のしかたを学ぶ。
- 自分の主張を裏付けるために必要な情報を収集し、意見や提案を構成する練習を行なう。
- 言いたいことを言うだけでなく、聞き手を説得できるプレゼンテーションを構成する方法を習得する。
- 企画提案プロジェクトの活動を振り返り、グループとして成果をあげるにはどのようなチームワークが必要だったか、個人としてチームにとどのように関わるべきだったかについて考える。

This course will focus on work done in small groups to create business proposals, and projects, on the topic of actual businesses, as well as review.

- (1) Students will learn how they lead best through group work.
- (2) Students will learn the process of coming to conclusions while debating things as a team, and learn how to discuss things productively.
- (3) Students will collect information necessary in order to back up their claims, and practice creating opinions and proposals.
- (4) Student will not only learn to say what they wish to say, but also to create a presentation which allows the listener to accept what is being said.
- (5) Students will review their activities in a business proposal project, and consider the team work that is necessary to achieve results in group work, as well as how they as individuals can contribute to teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クラスづくり & リーダーシップを学ぶ意義
- 2 回：個人目標設定 & チーム協働スタート
- 3 回：クライアントブリーフィング
- 4 回：現状分析①
- 5 回：現状分析②
- 6 回：中間発表①
- 7 回：チーム振り返り/現状分析③
- 8 回：中間発表②
- 9 回：解決の方向性/プラン構築
- 10 回：プレゼン技法
- 11 回：予選
- 12 回：本選
- 13 回：振り返り①
- 14 回：振り返り②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。

課題やチームでのグループワークで週に2～3時間程度は必要となる。

※プロジェクトテーマによっては、課題を行うにあたりフィールドワーク

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加とクラスへの貢献:40% 課題提出及びその内容:40% グループワークの成果:20%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016/11/25 9784502203510

その他は適宜指示する。

その他 / Others

立教大学におけるリーダーシップ開発としては、BL0、GL111(英語)に相当する授業となります。

また、本 GL101 後に、他の GLP 授業を通して、さらなるリーダーシップ開発を進めることができます。

GL101 は、その基礎科目の位置付けです。 <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

また本授業は定員を超えることが多く、選考があります。仮に履修できない場合でも、2年、3年、4年次に履修再応募が可能です。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL101

GL101

リーダーシップ入門

宮田 智子 (MIYATA TOMOKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV117
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

少人数のグループワークを通じて、自分なりのリーダーシップ見付け、発展させる。

This course aims to find and develop own leadership through group work in small groups.

授業の内容 / Course Contents

実際の企業に対して、少人数のグループ単位で企画提案を行うプロジェクトと、その振り返りが授業の中心となる。

- グループワークを通して、自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感する。
- チームで議論しながら結論を導くプロセスを体験し、生産的な議論のしかたを学ぶ。
- 自分の主張を裏付けるために必要な情報を収集し、意見や提案を構成する練習を行なう。
- 言いたいことを言うだけでなく、聞き手を説得できるプレゼンテーションを構成する方法を習得する。
- 企画提案プロジェクトの活動を振り返り、グループとして成果をあげるにはどのようなチームワークが必要だったか、個人としてチームにとどのように関わるべきだったかについて考える。

This course will focus on work done in small groups to create business proposals, and projects, on the topic of actual businesses, as well as review.

- (1) Students will learn how they lead best through group work.
- (2) Students will learn the process of coming to conclusions while debating things as a team, and learn how to discuss things productively.
- (3) Students will collect information necessary in order to back up their claims, and practice creating opinions and proposals.
- (4) Student will not only learn to say what they wish to say, but also to create a presentation which allows the listener to accept what is being said.
- (5) Students will review their activities in a business proposal project, and consider the team work that is necessary to achieve results in group work, as well as how they as individuals can contribute to teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クラスづくり & リーダーシップを学ぶ意義
- 2 回：個人目標設定 & チーム協働スタート
- 3 回：クライアントブリーフィング
- 4 回：現状分析①
- 5 回：現状分析②
- 6 回：中間発表①
- 7 回：チーム振り返り/現状分析③
- 8 回：中間発表②
- 9 回：解決の方向性/プラン構築
- 10 回：プレゼン技法
- 11 回：予選
- 12 回：本選
- 13 回：振り返り①
- 14 回：振り返り②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。

課題やチームでのグループワークで週に2～3時間程度は必要となる。

※プロジェクトテーマによっては、課題を行うにあたりフィールドワーク

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加とクラスへの貢献:40% 課題提出及びその内容:40% グループワークの成果:20%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016/11/25 9784502203510

その他は適宜指示する。

その他 / Others

立教大学におけるリーダーシップ開発としては、BL0、GL111(英語)に相当する授業となります。

また、本 GL101 後に、他の GLP 授業を通して、さらなるリーダーシップ開発を進めることができます。

GL101 は、その基礎科目の位置付けです。 <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

また本授業は定員を超えることが多く、選考があります。仮に履修できない場合でも、2年、3年、4年次に履修再応募が可能です。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL101

GL101

リーダーシップ入門

高橋 朗 (TAKAHASHI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV118

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： ・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

少人数のグループワークを通じて、自分なりのリーダーシップ見付け、発展させる。

This course aims to find and develop own leadership through group work in small groups.

授業の内容 / Course Contents

実際の企業に対して、少人数のグループ単位で企画提案を行うプロジェクトと、その振り返りが授業の中心となる。

- グループワークを通して、自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感する。
- チームで議論しながら結論を導くプロセスを体験し、生産的な議論のしかたを学ぶ。
- 自分の主張を裏付けるために必要な情報を収集し、意見や提案を構成する練習を行なう。
- 言いたいことを言うだけでなく、聞き手を説得できるプレゼンテーションを構成する方法を習得する。
- 企画提案プロジェクトの活動を振り返り、グループとして成果をあげるにはどのようなチームワークが必要だったか、個人としてチームにとどのように関わるべきだったかについて考える。

This course will focus on work done in small groups to create business proposals, and projects, on the topic of actual businesses, as well as review.

- (1) Students will learn how they lead best through group work.
- (2) Students will learn the process of coming to conclusions while debating things as a team, and learn how to discuss things productively.
- (3) Students will collect information necessary in order to back up their claims, and practice creating opinions and proposals.
- (4) Student will not only learn to say what they wish to say, but also to create a presentation which allows the listener to accept what is being said.
- (5) Students will review their activities in a business proposal project, and consider the team work that is necessary to achieve results in group work, as well as how they as individuals can contribute to teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クラスづくり & リーダーシップを学ぶ意義
- 2 回：個人目標設定 & チーム協働スタート
- 3 回：クライアントブリーフィング
- 4 回：現状分析①
- 5 回：現状分析②
- 6 回：中間発表①
- 7 回：チーム振り返り/現状分析③
- 8 回：中間発表②
- 9 回：解決の方向性/プラン構築
- 10 回：プレゼン技法
- 11 回：予選
- 12 回：本選
- 13 回：振り返り①
- 14 回：振り返り②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。

課題やチームでのグループワークで週に2～3時間程度は必要となる。

※プロジェクトテーマによっては、課題を行うにあたりフィールドワーク

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加とクラスへの貢献:40% 課題提出及びその内容:40% グループワークの成果:20%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016/11/25 9784502203510

その他は適宜指示する。

その他 / Others

立教大学におけるリーダーシップ開発としては、BL0、GL111(英語)に相当する授業となります。

また、本 GL101 後に、他の GLP 授業を通して、さらなるリーダーシップ開発を進めることができます。

GL101 は、その基礎科目の位置付けです。 <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

また本授業は定員を超えることが多く、選考があります。仮に履修できない場合でも、2年、3年、4年次に履修再応募が可能です。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL101

GL101

リーダーシップ入門

八田 有里 (HATTA YURI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV119

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： ・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

少人数のグループワークを通じて、自分なりのリーダーシップ見付け、発展させる。

This course aims to find and develop own leadership through group work in small groups.

授業の内容 / Course Contents

実際の企業に対して、少人数のグループ単位で企画提案を行うプロジェクトと、その振り返りが授業の中心となる。

- グループワークを通して、自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感する。
- チームで議論しながら結論を導くプロセスを体験し、生産的な議論のしかたを学ぶ。
- 自分の主張を裏付けるために必要な情報を収集し、意見や提案を構成する練習を行なう。
- 言いたいことを言うだけでなく、聞き手を説得できるプレゼンテーションを構成する方法を習得する。
- 企画提案プロジェクトの活動を振り返り、グループとして成果をあげるにはどのようなチームワークが必要だったか、個人としてチームにとどのように関わるべきだったかについて考える。

This course will focus on work done in small groups to create business proposals, and projects, on the topic of actual businesses, as well as review.

- (1) Students will learn how they lead best through group work.
- (2) Students will learn the process of coming to conclusions while debating things as a team, and learn how to discuss things productively.
- (3) Students will collect information necessary in order to back up their claims, and practice creating opinions and proposals.
- (4) Student will not only learn to say what they wish to say, but also to create a presentation which allows the listener to accept what is being said.
- (5) Students will review their activities in a business proposal project, and consider the team work that is necessary to achieve results in group work, as well as how they as individuals can contribute to teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クラスづくり & リーダーシップを学ぶ意義
- 2 回：個人目標設定 & チーム協働スタート
- 3 回：クライアントブリーフィング
- 4 回：現状分析①
- 5 回：現状分析②
- 6 回：中間発表①
- 7 回：チーム振り返り/現状分析③
- 8 回：中間発表②
- 9 回：解決の方向性/プラン構築
- 10 回：プレゼン技法
- 11 回：予選
- 12 回：本選
- 13 回：振り返り①
- 14 回：振り返り②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。

課題やチームでのグループワークで週に2～3時間程度は必要となる。

※プロジェクトテーマによっては、課題を行うにあたりフィールドワーク

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加とクラスへの貢献:40% 課題提出及びその内容:40% グループワークの成果:20%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016/11/25 9784502203510

その他は適宜指示する。

その他 / Others

立教大学におけるリーダーシップ開発としては、BL0、GL111(英語)に相当する授業となります。

また、本 GL101 後に、他の GLP 授業を通して、さらなるリーダーシップ開発を進めることができます。

GL101 は、その基礎科目の位置付けです。 <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

また本授業は定員を超えることが多く、選考があります。仮に履修できない場合でも、2年、3年、4年次に履修再応募が可能です。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL101

GL101

リーダーシップ入門

瀬戸口 克陽 (SETOGUCHI KATSUAKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV120
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

少人数のグループワークを通じて、自分なりのリーダーシップ見付け、発展させる。

This course aims to find and develop own leadership through group work in small groups.

授業の内容 / Course Contents

実際の企業に対して、少人数のグループ単位で企画提案を行うプロジェクトと、その振り返りが授業の中心となる。

- グループワークを通して、自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感する。
- チームで議論しながら結論を導くプロセスを体験し、生産的な議論のしかたを学ぶ。
- 自分の主張を裏付けるために必要な情報を収集し、意見や提案を構成する練習を行なう。
- 言いたいことを言うだけでなく、聞き手を説得できるプレゼンテーションを構成する方法を習得する。
- 企画提案プロジェクトの活動を振り返り、グループとして成果をあげるにはどのようなチームワークが必要だったか、個人としてチームにとどのように関わるべきだったかについて考える。

This course will focus on work done in small groups to create business proposals, and projects, on the topic of actual businesses, as well as review.

- (1) Students will learn how they lead best through group work.
- (2) Students will learn the process of coming to conclusions while debating things as a team, and learn how to discuss things productively.
- (3) Students will collect information necessary in order to back up their claims, and practice creating opinions and proposals.
- (4) Student will not only learn to say what they wish to say, but also to create a presentation which allows the listener to accept what is being said.
- (5) Students will review their activities in a business proposal project, and consider the team work that is necessary to achieve results in group work, as well as how they as individuals can contribute to teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クラスづくり & リーダーシップを学ぶ意義
- 2 回：個人目標設定 & チーム協働スタート
- 3 回：クライアントブリーフィング
- 4 回：現状分析①
- 5 回：現状分析②
- 6 回：中間発表①
- 7 回：チーム振り返り/現状分析③
- 8 回：中間発表②
- 9 回：解決の方向性/プラン構築
- 10 回：プレゼン技法
- 11 回：予選
- 12 回：本選
- 13 回：振り返り①
- 14 回：振り返り②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。

課題やチームでのグループワークで週に2～3時間程度は必要となる。

※プロジェクトテーマによっては、課題を行うにあたりフィールドワーク

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加とクラスへの貢献:40% 課題提出及びその内容:40% グループワークの成果:20%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016/11/25 9784502203510

その他は適宜指示する。

その他 / Others

立教大学におけるリーダーシップ開発としては、BL0、GL111(英語)に相当する授業となります。

また、本 GL101 後に、他の GLP 授業を通して、さらなるリーダーシップ開発を進めることができます。

GL101 は、その基礎科目の位置付けです。 <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

また本授業は定員を超えることが多く、選考があります。仮に履修できない場合でも、2年、3年、4年次に履修再応募が可能です。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL101

GL101

リーダーシップ入門

柳田 雄一 (YANAGIDA YUICHI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV121
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

少人数のグループワークを通じて、自分なりのリーダーシップ見付け、発展させる。

This course aims to find and develop own leadership through group work in small groups.

授業の内容 / Course Contents

実際の企業に対して、少人数のグループ単位で企画提案を行うプロジェクトと、その振り返りが授業の中心となる。

- グループワークを通して、自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感する。
- チームで議論しながら結論を導くプロセスを体験し、生産的な議論のしかたを学ぶ。
- 自分の主張を裏付けるために必要な情報を収集し、意見や提案を構成する練習を行なう。
- 言いたいことを言うだけでなく、聞き手を説得できるプレゼンテーションを構成する方法を習得する。
- 企画提案プロジェクトの活動を振り返り、グループとして成果をあげるにはどのようなチームワークが必要だったか、個人としてチームにとどのように関わるべきだったかについて考える。

This course will focus on work done in small groups to create business proposals, and projects, on the topic of actual businesses, as well as review.

- (1) Students will learn how they lead best through group work.
- (2) Students will learn the process of coming to conclusions while debating things as a team, and learn how to discuss things productively.
- (3) Students will collect information necessary in order to back up their claims, and practice creating opinions and proposals.
- (4) Student will not only learn to say what they wish to say, but also to create a presentation which allows the listener to accept what is being said.
- (5) Students will review their activities in a business proposal project, and consider the team work that is necessary to achieve results in group work, as well as how they as individuals can contribute to teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クラスづくり & リーダーシップを学ぶ意義
- 2 回：個人目標設定 & チーム協働スタート
- 3 回：クライアントブリーフィング
- 4 回：現状分析①
- 5 回：現状分析②
- 6 回：中間発表①
- 7 回：チーム振り返り/現状分析③
- 8 回：中間発表②
- 9 回：解決の方向性/プラン構築
- 10 回：プレゼン技法
- 11 回：予選
- 12 回：本選
- 13 回：振り返り①
- 14 回：振り返り②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。

課題やチームでのグループワークで週に2～3時間程度は必要となる。

※プロジェクトテーマによっては、課題を行うにあたりフィールドワーク

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加とクラスへの貢献:40% 課題提出及びその内容:40% グループワークの成果:20%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016/11/25 9784502203510

その他は適宜指示する。

その他 / Others

立教大学におけるリーダーシップ開発としては、BL0、GL111(英語)に相当する授業となります。

また、本 GL101 後に、他の GLP 授業を通して、さらなるリーダーシップ開発を進めることができます。

GL101 は、その基礎科目の位置付けです。 <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

また本授業は定員を超えることが多く、選考があります。仮に履修できない場合でも、2年、3年、4年次に履修再応募が可能です。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL101

GL101

リーダーシップ入門

丸山 貴明 (MARUYAMA TAKAAKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV122
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

少人数のグループワークを通じて、自分なりのリーダーシップ見付け、発展させる。

This course aims to find and develop own leadership through group work in small groups.

授業の内容 / Course Contents

実際の企業に対して、少人数のグループ単位で企画提案を行うプロジェクトと、その振り返りが授業の中心となる。

- グループワークを通して、自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感する。
- チームで議論しながら結論を導くプロセスを体験し、生産的な議論のしかたを学ぶ。
- 自分の主張を裏付けるために必要な情報を収集し、意見や提案を構成する練習を行なう。
- 言いたいことを言うだけでなく、聞き手を説得できるプレゼンテーションを構成する方法を習得する。
- 企画提案プロジェクトの活動を振り返り、グループとして成果をあげるにはどのようなチームワークが必要だったか、個人としてチームにとどのように関わるべきだったかについて考える。

This course will focus on work done in small groups to create business proposals, and projects, on the topic of actual businesses, as well as review.

- (1) Students will learn how they lead best through group work.
- (2) Students will learn the process of coming to conclusions while debating things as a team, and learn how to discuss things productively.
- (3) Students will collect information necessary in order to back up their claims, and practice creating opinions and proposals.
- (4) Student will not only learn to say what they wish to say, but also to create a presentation which allows the listener to accept what is being said.
- (5) Students will review their activities in a business proposal project, and consider the team work that is necessary to achieve results in group work, as well as how they as individuals can contribute to teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クラスづくり & リーダーシップを学ぶ意義
- 2 回：個人目標設定 & チーム協働スタート
- 3 回：クライアントブリーフィング
- 4 回：現状分析①
- 5 回：現状分析②
- 6 回：中間発表①
- 7 回：チーム振り返り/現状分析③
- 8 回：中間発表②
- 9 回：解決の方向性/プラン構築
- 10 回：プレゼン技法
- 11 回：予選
- 12 回：本選
- 13 回：振り返り①
- 14 回：振り返り②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。

課題やチームでのグループワークで週に2～3時間程度は必要となる。

※プロジェクトテーマによっては、課題を行うにあたりフィールドワーク

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加とクラスへの貢献:40% 課題提出及びその内容:40% グループワークの成果:20%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016/11/25 9784502203510

その他は適宜指示する。

その他 / Others

立教大学におけるリーダーシップ開発としては、BL0、GL111(英語)に相当する授業となります。

また、本 GL101 後に、他の GLP 授業を通して、さらなるリーダーシップ開発を進めることができます。

GL101 は、その基礎科目の位置付けです。 <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

また本授業は定員を超えることが多く、選考があります。仮に履修できない場合でも、2年、3年、4年次に履修再応募が可能です。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL101

GL101

リーダーシップ入門

竹中 紳治 (TAKENAKA SHINJI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV123
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

少人数のグループワークを通じて、自分なりのリーダーシップ見付け、発展させる。

This course aims to find and develop own leadership through group work in small groups.

授業の内容 / Course Contents

実際の企業に対して、少人数のグループ単位で企画提案を行うプロジェクトと、その振り返りが授業の中心となる。

- グループワークを通して、自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感する。
- チームで議論しながら結論を導くプロセスを体験し、生産的な議論のしかたを学ぶ。
- 自分の主張を裏付けるために必要な情報を収集し、意見や提案を構成する練習を行なう。
- 言いたいことを言うだけでなく、聞き手を説得できるプレゼンテーションを構成する方法を習得する。
- 企画提案プロジェクトの活動を振り返り、グループとして成果をあげるにはどのようなチームワークが必要だったか、個人としてチームにとどのように関わるべきだったかについて考える。

This course will focus on work done in small groups to create business proposals, and projects, on the topic of actual businesses, as well as review.

- (1) Students will learn how they lead best through group work.
- (2) Students will learn the process of coming to conclusions while debating things as a team, and learn how to discuss things productively.
- (3) Students will collect information necessary in order to back up their claims, and practice creating opinions and proposals.
- (4) Student will not only learn to say what they wish to say, but also to create a presentation which allows the listener to accept what is being said.
- (5) Students will review their activities in a business proposal project, and consider the team work that is necessary to achieve results in group work, as well as how they as individuals can contribute to teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クラスづくり & リーダーシップを学ぶ意義
- 2 回：個人目標設定 & チーム協働スタート
- 3 回：クライアントブリーフィング
- 4 回：現状分析①
- 5 回：現状分析②
- 6 回：中間発表①
- 7 回：チーム振り返り/現状分析③
- 8 回：中間発表②
- 9 回：解決の方向性/プラン構築
- 10 回：プレゼン技法
- 11 回：予選
- 12 回：本選
- 13 回：振り返り①
- 14 回：振り返り②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：		
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	○	
上記いずれも用いない予定	：							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。

課題やチームでのグループワークで週に2～3時間程度は必要となる。

※プロジェクトテーマによっては、課題を行うにあたりフィールドワーク

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加とクラスへの貢献:40% 課題提出及びその内容:40% グループワークの成果:20%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016/11/25 9784502203510

その他は適宜指示する。

その他 / Others

立教大学におけるリーダーシップ開発としては、BL0、GL111(英語)に相当する授業となります。

また、本 GL101 後に、他の GLP 授業を通して、さらなるリーダーシップ開発を進めることができます。

GL101 は、その基礎科目の位置付けです。 <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

また本授業は定員を超えることが多く、選考があります。仮に履修できない場合でも、2年、3年、4年次に履修再応募が可能です。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL101

GL101

リーダーシップ入門

鈴木 暁 (SUZUKI AKIRA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV124

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP1100

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： ・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

少人数のグループワークを通じて、自分なりのリーダーシップ見付け、発展させる。

This course aims to find and develop own leadership through group work in small groups.

授業の内容 / Course Contents

実際の企業に対して、少人数のグループ単位で企画提案を行うプロジェクトと、その振り返りが授業の中心となる。

- グループワークを通して、自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感する。
- チームで議論しながら結論を導くプロセスを体験し、生産的な議論のしかたを学ぶ。
- 自分の主張を裏付けるために必要な情報を収集し、意見や提案を構成する練習を行なう。
- 言いたいことを言うだけでなく、聞き手を説得できるプレゼンテーションを構成する方法を習得する。
- 企画提案プロジェクトの活動を振り返り、グループとして成果をあげるにはどのようなチームワークが必要だったか、個人としてチームにとどのように関わるべきだったかについて考える。

This course will focus on work done in small groups to create business proposals, and projects, on the topic of actual businesses, as well as review.

- (1) Students will learn how they lead best through group work.
- (2) Students will learn the process of coming to conclusions while debating things as a team, and learn how to discuss things productively.
- (3) Students will collect information necessary in order to back up their claims, and practice creating opinions and proposals.
- (4) Student will not only learn to say what they wish to say, but also to create a presentation which allows the listener to accept what is being said.
- (5) Students will review their activities in a business proposal project, and consider the team work that is necessary to achieve results in group work, as well as how they as individuals can contribute to teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クラスづくり & リーダーシップを学ぶ意義
- 2 回：個人目標設定 & チーム協働スタート
- 3 回：クライアントブリーフィング
- 4 回：現状分析①
- 5 回：現状分析②
- 6 回：中間発表①
- 7 回：チーム振り返り/現状分析③
- 8 回：中間発表②
- 9 回：解決の方向性/プラン構築
- 10 回：プレゼン技法
- 11 回：予選
- 12 回：本選
- 13 回：振り返り①
- 14 回：振り返り②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	○	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。

課題やチームでのグループワークで週に2～3時間程度は必要となる。

※プロジェクトテーマによっては、課題を行うにあたりフィールドワーク

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加とクラスへの貢献:40% 課題提出及びその内容:40% グループワークの成果:20%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016/11/25 9784502203510

その他は適宜指示する。

その他 / Others

立教大学におけるリーダーシップ開発としては、BL0、GL111(英語)に相当する授業となります。

また、本 GL101 後に、他の GLP 授業を通して、さらなるリーダーシップ開発を進めることができます。

GL101 は、その基礎科目の位置付けです。 <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

また本授業は定員を超えることが多く、選考があります。仮に履修できない場合でも、2年、3年、4年次に履修再応募が可能です。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL101

GL101

リーダーシップ入門

山村 彰太郎 (YAMAMURA SHOTARO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV125
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP1100
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

少人数のグループワークを通じて、自分なりのリーダーシップ見付け、発展させる。

This course aims to find and develop own leadership through group work in small groups.

授業の内容 / Course Contents

実際の企業に対して、少人数のグループ単位で企画提案を行うプロジェクトと、その振り返りが授業の中心となる。

- グループワークを通して、自分なりのリーダーシップの発揮方法を体感する。
- チームで議論しながら結論を導くプロセスを体験し、生産的な議論のしかたを学ぶ。
- 自分の主張を裏付けるために必要な情報を収集し、意見や提案を構成する練習を行なう。
- 言いたいことを言うだけでなく、聞き手を説得できるプレゼンテーションを構成する方法を習得する。
- 企画提案プロジェクトの活動を振り返り、グループとして成果をあげるにはどのようなチームワークが必要だったか、個人としてチームにとどのように関わるべきだったかについて考える。

This course will focus on work done in small groups to create business proposals, and projects, on the topic of actual businesses, as well as review.

- (1) Students will learn how they lead best through group work.
- (2) Students will learn the process of coming to conclusions while debating things as a team, and learn how to discuss things productively.
- (3) Students will collect information necessary in order to back up their claims, and practice creating opinions and proposals.
- (4) Student will not only learn to say what they wish to say, but also to create a presentation which allows the listener to accept what is being said.
- (5) Students will review their activities in a business proposal project, and consider the team work that is necessary to achieve results in group work, as well as how they as individuals can contribute to teams.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：クラスづくり & リーダーシップを学ぶ意義
- 2 回：個人目標設定 & チーム協働スタート
- 3 回：クライアントブリーフィング
- 4 回：現状分析①
- 5 回：現状分析②
- 6 回：中間発表①
- 7 回：チーム振り返り/現状分析③
- 8 回：中間発表②
- 9 回：解決の方向性/プラン構築
- 10 回：プレゼン技法
- 11 回：予選
- 12 回：本選
- 13 回：振り返り①
- 14 回：振り返り②

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワーポイント等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：		
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	○	
上記いずれも用いない予定	：							

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。

課題やチームでのグループワークで週に2～3時間程度は必要となる。

※プロジェクトテーマによっては、課題を行うにあたりフィールドワーク

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的な参加とクラスへの貢献:40% 課題提出及びその内容:40% グループワークの成果:20%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016/11/25 9784502203510

その他は適宜指示する。

その他 / Others

立教大学におけるリーダーシップ開発としては、BL0、GL111(英語)に相当する授業となります。

また、本 GL101 後に、他の GLP 授業を通して、さらなるリーダーシップ開発を進めることができます。

GL101 は、その基礎科目の位置付けです。 <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

また本授業は定員を超えることが多く、選考があります。仮に履修できない場合でも、2年、3年、4年次に履修再応募が可能です。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：学びの精神科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／学びの精神

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL111

GL111

Introduction to Leadership

金田 テレザ 和美 (KANETA TEREZA CAZUMI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FV131
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2631
使用言語： 英語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：
・グローバル・リベラルアーツ・プログラム学生履修不可
・定員のほかに、グローバル・リベラルアーツ・プログラム学生約 10 名が履修

授業の目標 / Course Objectives

本コースの目標は、一人ひとり異なる「自分らしいリーダーシップ」を、プロジェクト型学習(PBL)や大学生活での実践を通して自ら発見し、磨き、日常で発揮できるようになることです。それは、役割や権限に関わらず、誰もが発揮する「権限なきリーダーシップ」を開発することでもあります。一人ひとりが自分らしいリーダーシップを発揮することは、正解のない問題があふれる中、多様な人と手を取り、新たな答えを創り出すことに繋がります。

また、本コースを通じたリーダーシップ実践と、自分と他者視点からの振り返りを通して、自分自身の強

The goal of this course is to discover and develop individual leadership through project-based learning and practice in your life, and to demonstrate it in your daily life. It can be exerted no matter what roles and authority you are in, and it is called, "Leadership without authority". Exerting individual leadership will lead to create new solutions for the issues that do not have the right answers by collaborating diverse people.

The whole experience will let you discover one's unique strengths and potential to the maximum, which will

encourage yourself to take actions for what you are enthusiastic about in the future and at workplace, no matter where you will be and with whom you will collaborate.

In addition, students will acquire variety of basic business and teamwork skills during the process, including discussions, feedback, basic survey analysis, proposal making, presentations, relationship building, and so on.

授業の内容 / Course Contents

自分ならではのリーダーシップ開発を目標とし、少人数のチーム（5－6名）にて、クライアント企業や団体とGLPが共同開発するプロジェクトに取り組みます。授業を通して、多様なチームメンバーとの協働による新しい提案の創造を体験します。プロジェクトの中では、様々な視点から自分の経験を振り返り、チーム内での相互フィードバックや対話を通じて、自分自身や人生にとって価値ある実践的な学びを得ていきます。

各クラスは様々な学部、学年の受講生によって構成されます。そのため、受講生が自ら目標を立て、それを共有しながら相互に支援し、チーム内で率先して行動するといった、各受講生のリーダーシップの開発・発揮が求められます。与えられたことに取り組むのではなく、自ら考え行動し共通の目標に貢献する挑戦を続けます。最終的には所属するチームを超えて、他者のリーダーシップ開発・発揮を支援することも期待されます。

*本内容と授業計画について、クライアント企業と開発する課題、グループワークの進捗状況次第で、内容や順序が変更になる可能性があります。

With the goal of developing your individual leadership skills, you will work in small teams (5-6 people) on projects jointly developed by GLP and a client company/organization. Through the class, you will experience to create new proposals by collaborating with diverse team members. During the project, you will be able to reflect your experiences from various perspectives, and through mutual feedback and dialogue in the team, you will be able to build valuable and practical learning for yourself and your life.

Each class consists of students from various departments and grades. In its diverse team, everyone is required to demonstrate leadership skills, such as setting own goals, helping each other, and taking your own initiative. All of you will continue to be challenged to think and act on their own and contribute to a common goal you set with the team members, rather than just working on what is given. Eventually, all of us will be expected to support the leadership development and leadership practice of others beyond the project team in the class.

*The plan of the course and the sequence of the contents may be subject to change depending on the project theme and the progress of the group work.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：What is leadership? Your definition and 3 leadership minimum essences
- 2回：Sharing your individual leadership definition & Effective leadership development
- 3回：PBL project theme presentation: Pre-research with your curiosity and questions
- 4回：Creating a new team (getting to know team members) & setting up an activity plan
- 5回：Research and input planning for project proposals
- 6回：Setting the theme for the project proposal as a team
- 7回：Idea generation and proposal development for team themes
- 8回：Presentation practice #1 | Mid-term presentation
- 9回：Review of team activities & basic understanding and practice of feedback skills
- 10回：Brushing up the proposal (critical thinking)
- 11回：Refining a proposal (logical thinking) & preparing an effective presentation
- 12回：Presentation Practice #2 | Final Presentation (may have preliminary round before)
- 13回：Reviewing team activities & practicing feedback to develop leadership one after another

14 回：Learning Integration & Leadership Declaration and Future Connections

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ There will be an assignment to reflect on the leadership practices in the class (approx. 1 hour of individual study time per week).
- ・ Project-based learning on issues presented by the client company is expected to be done by individuals or teams outside t

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation and contribution in the class:40% Assignments and other submissions:40% Results of group work:20%

Regardless of the specific gravity of the above, three times of absence will result in a grade of D.

テキスト / Textbooks

Guidance will be provided as appropriate.

参考文献 / Readings

Komives, Susan et. al. Exploring Leadership: For College Students Who Want to Make a Difference Jossey-Bass 2013/4/15 9781118399477

James M. Kouzes and Barry Z.Posner The Leadership Challenge: How to Make Extraordinary Things Happen in Organizations (6th edition) Jossey-Bass 2017/3/30 9781119278962

The above are reference books for students who want to learn more outside of class. It is not mandatory to read all of them in advance. Other books will be introduced as appropriate.

注意事項

- ・ 2016 年度以降 1 年次入学者：多彩な学び科目
- ・ 2012～2015 年度 1 年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL111

GL111

Introduction to Leadership

未定（総合）(MITEI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV132
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2631
使用言語：	英語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・グローバル・リベラルアーツ・プログラム学生履修不可 ・定員のほかに、グローバル・リベラルアーツ・プログラム学生約 10 名が履修

授業の目標 / Course Objectives

本コースの目標は、一人ひとり異なる「自分らしいリーダーシップ」を、プロジェクト型学習(PBL)や大学生活での実践を通して自ら発見し、磨き、日常で発揮できるようになることです。それは、役割や権限に関わらず、誰もが発揮する「権限なきリーダーシップ」を開発することでもあります。一人ひとりが自分らしいリーダーシップを発揮することは、正解のない問題があふれる中、多様な人と手を取り、新たな答えを創り出すことに繋がります。

また、本コースを通じたリーダーシップ実践と、自分と他者視点からの振り返りを通して、自分自身の強

The goal of this course is to discover and develop individual leadership through project-based learning and practice in your life, and to demonstrate it in your daily life. It can be exerted no matter what roles and authority you are in, and it is called, "Leadership without authority". Exerting individual leadership will lead to create new solutions for the issues that do not have the right answers by collaborating diverse people.

The whole experience will let you discover one's unique strengths and potential to the maximum, which will

encourage yourself to take actions for what you are enthusiastic about in the future and at workplace, no matter where you will be and with whom you will collaborate.

In addition, students will acquire variety of basic business and teamwork skills during the process, including discussions, feedback, basic survey analysis, proposal making, presentations, relationship building, and so on.

授業の内容 / Course Contents

自分ならではのリーダーシップ開発を目標とし、少人数のチーム（5－6名）にて、クライアント企業や団体とGLPが共同開発するプロジェクトに取り組みます。授業を通して、多様なチームメンバーとの協働による新しい提案の創造を体験します。プロジェクトの中では、様々な視点から自分の経験を振り返り、チーム内での相互フィードバックや対話を通じて、自分自身や人生にとって価値ある実践的な学びを得ていきます。

各クラスは様々な学部、学年の受講生によって構成されます。そのため、受講生が自ら目標を立て、それを共有しながら相互に支援し、チーム内で率先して行動するといった、各受講生のリーダーシップの開発・発揮が求められます。与えられたことに取り組むのではなく、自ら考え行動し共通の目標に貢献する挑戦を続けます。最終的には所属するチームを超えて、他者のリーダーシップ開発・発揮を支援することも期待されます。

*本内容と授業計画について、クライアント企業と開発する課題、グループワークの進捗状況次第で、内容や順序が変更になる可能性があります。

With the goal of developing your individual leadership skills, you will work in small teams (5-6 people) on projects jointly developed by GLP and a client company/organization. Through the class, you will experience to create new proposals by collaborating with diverse team members. During the project, you will be able to reflect your experiences from various perspectives, and through mutual feedback and dialogue in the team, you will be able to build valuable and practical learning for yourself and your life.

Each class consists of students from various departments and grades. In its diverse team, everyone is required to demonstrate leadership skills, such as setting own goals, helping each other, and taking your own initiative. All of you will continue to be challenged to think and act on their own and contribute to a common goal you set with the team members, rather than just working on what is given. Eventually, all of us will be expected to support the leadership development and leadership practice of others beyond the project team in the class.

*The plan of the course and the sequence of the contents may be subject to change depending on the project theme and the progress of the group work.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：What is leadership? Your definition and 3 leadership minimum essences
- 2回：Sharing your individual leadership definition & Effective leadership development
- 3回：PBL project theme presentation: Pre-research with your curiosity and questions
- 4回：Creating a new team (getting to know team members) & setting up an activity plan
- 5回：Research and input planning for project proposals
- 6回：Setting the theme for the project proposal as a team
- 7回：Idea generation and proposal development for team themes
- 8回：Presentation practice #1 | Mid-term presentation
- 9回：Review of team activities & basic understanding and practice of feedback skills
- 10回：Brushing up the proposal (critical thinking)
- 11回：Refining a proposal (logical thinking) & preparing an effective presentation
- 12回：Presentation Practice #2 | Final Presentation (may have preliminary round before)
- 13回：Reviewing team activities & practicing feedback to develop leadership one after another

14回：Learning Integration & Leadership Declaration and Future Connections

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

- ・ There will be an assignment to reflect on the leadership practices in the class (approx. 1 hour of individual study time per week).
- ・ Project-based learning on issues presented by the client company is expected to be done by individuals or teams outside t

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation and contribution in the class:40% Assignments and other submissions:40% Results of group work:20%

Regardless of the specific gravity of the above, three times of absence will result in a grade of D.

テキスト / Textbooks

Guidance will be provided as appropriate.

参考文献 / Readings

Komives, Susan et. al. Exploring Leadership: For College Students Who Want to Make a Difference Jossey-Bass 2013/4/15 9781118399477

James M. Kouzes and Barry Z. Posner The Leadership Challenge: How to Make Extraordinary Things Happen in Organizations (6th edition) Jossey-Bass 2017/3/30 9781119278962

The above are reference books for students who want to learn more outside of class. It is not mandatory to read all of them in advance. Other books will be introduced as appropriate.

注意事項

- ・ 2016 年度以降 1 年次入学者：多彩な学び科目
- ・ 2012～2015 年度 1 年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL104

GL104

論理思考とリーダーシップ

八田 有里 (HATTA YURI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV136
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2640
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	GL101 または GL111（経営学部の学生は『リーダーシップ入門（BL0）』）の単位を修得済であること
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

論理思考力はリーダーシップ発揮に強力な助けとなる。この基礎を身につけて今後の大学生活や卒業後において、さらにリーダーシップを発揮できるようにする。また論理思考を活用したリーダーシップをプロジェクトにおいても発揮できるようにする。

The ability to think logically is a great help in leadership. In this course, students will learn the basics to be able to demonstrate it in their college life from now on and after graduation.

授業の内容 / Course Contents

- (1) 論理思考の基礎を習得する - ロジックツリーを使って考えるプロセスを身につける
 - (2) 有効なアイデアをモレなく考え出す手法を学ぶ
 - (3) 相手に理解してもらえ伝え方を習得する
 - (4) 実践的な題材とグループワークにより、リーダーシップを開発する
- (1) Learn the foundation of logical thinking by being accustomed to the thought process with logic trees.

- (2) Learn how to list up effective ideas mutually exclusive and collectively exhaustive.
 (3) Learn how to communicate with others to make oneself understood.
 (4) Develop leadership through practical subjects and group works.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：GL104 キックオフ & 目的と構造を押さえる
 2回：相手に理解してもらえるように伝える
 3回：達成したくなる目標設定
 4回：分かるところまで分解する
 5回：論理思考まとめ
 6回：高校生 GL104 キックオフ
 7回：テーマを絞り込む
 8回：テーマを決める & 教材の展開を考える
 9回：リーダーシップ中間振り返り & 教材のFBをもらう
 10回：教材を完成させる（リハーサルのリハーサル）
 11回：リハーサル
 12回：高校生 GL104 本番！
 13回：論理思考&高校生 GL104 振り返り
 14回：リーダーシップ振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ選考に応募すること。
 毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。
 また、毎回の授業が高校生 GL104 へのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。
 欠席したとしても必ず課題を提出すること。毎回の課題は授業スライドやメーリングリスト等で告知の予定。
 各回2～3時間は確保のこと（グループワークのため日時調整が必要な場合もあ

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% グループワークの成果:30% 授業中の発表・討議・質疑応答:30% 提出物:40%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

その他 / Others

本科目は GL101/111 の単位修得者を対象とする。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL104

GL104

論理思考とリーダーシップ

未定（総合）(MITEI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV137
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2640
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	GL101 または GL111（経営学部の学生は『リーダーシップ入門（BL0）』）の単位を修得済であること
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・経営学部所属学生履修不可

授業の目標 / Course Objectives

論理思考力はリーダーシップ発揮に強力な助けとなる。この基礎を身につけて今後の大学生活や卒業後において、さらにリーダーシップを発揮できるようにする。また論理思考を活用したリーダーシップをプロジェクトにおいても発揮できるようにする。

The ability to think logically is a great help in leadership. In this course, students will learn the basics to be able to demonstrate it in their college life from now on and after graduation.

授業の内容 / Course Contents

- (1) 論理思考の基礎を習得する - ロジックツリーを使って考えるプロセスを身につける
 - (2) 有効なアイデアをモレなく考え出す手法を学ぶ
 - (3) 相手に理解してもらえ伝え方を習得する
 - (4) 実践的な題材とグループワークにより、リーダーシップを開発する
- (1) Learn the foundation of logical thinking by being accustomed to the thought process with logic trees.

- (2) Learn how to list up effective ideas mutually exclusive and collectively exhaustive.
- (3) Learn how to communicate with others to make oneself understood.
- (4) Develop leadership through practical subjects and group works.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：GL104 キックオフ & 目的と構造を押さえる
- 2回：相手に理解してもらえるように伝える
- 3回：達成したくなる目標設定
- 4回：分かるところまで分解する
- 5回：論理思考まとめ
- 6回：高校生 GL104 キックオフ
- 7回：テーマを絞り込む
- 8回：テーマを決める & 教材の展開を考える
- 9回：リーダーシップ中間振り返り & 教材のFBをもらう
- 10回：教材を完成させる（リハーサルのリハーサル）
- 11回：リハーサル
- 12回：高校生 GL104 本番！
- 13回：論理思考&高校生 GL104 振り返り
- 14回：リーダーシップ振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ選考に応募すること。

毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。

また、毎回の授業が高校生 GL104 へのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。

欠席したとしても必ず課題を提出すること。毎回の課題は授業スライドやメーリングリスト等で告知の予定。

各回2～3時間は確保のこと（グループワークのため日時調整が必要な場合もあ

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% グループワークの成果:30% 授業中の発表・討議・質疑応答:30% 提出物:40%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

その他 / Others

本科目は GL101/111 の単位修得者を対象とする。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL102

GL102

他者のリーダーシップ開発

舘野 泰一 (TATENO YOSHIKAZU)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV141
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2640
使用言語：	日本語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	GL101 または GL111（経営学部の学生は『リーダーシップ入門（BL0）』）の単位を修得済であること
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

本講座の目的は「リーダーシップ開発の理論を学び、実践ができる学生の育成」である。自分のリーダーシップを向上させるだけでなく、他者のリーダーシップ開発ができる学生を育てることを目標とする。

具体的には、

- （1）リーダーシップが身につくメカニズムの理解
- （2）リーダーシップを開発する方法の理解
- （3）他者のリーダーシップ開発を促す実践ができることを目指す。

本授業は、全学部の学生が受講できるため、企業の文脈に限らず、幅広い場面でのリーダーシップや組織についての問題を取り扱う。

The goal of this lecture is to “cultivate students capable of learning and practicing theories of leadership development”. The goal is to cultivate students capable of improving both their and others’ leadership. Specifically,

- (1) Understand mechanisms of acquiring leadership.
- (2) Understand methods to develop leadership.
- (3) Aim to practice promoting leadership development in others.

授業の内容 / Course Contents

本講座は大きく3つの内容を取り扱う。1つ目はリーダーシップが身につくメカニズムの理解である。具体的には「人はどのように成長するのか」に関する理論を理解し、リーダーシップが身につくプロセスについての理解を深める。

2つ目はリーダーシップを開発する方法について理解する。具体的には「人の成長を促す関わり方」に関する理論を理解し、ファシリテーションやコーチング等の具体的な関わり方の方法・スキルについて学ぶ。

3つ目は他者のリーダーシップ開発を促す実践である。理論を頭で理解するだけでなく、実際に他者に関わることで、実践できるようにする。授業は講義だけでなく、グループワークを中心に行う。

なお、本授業の「他者のリーダーシップ開発」における「他者」とは、後輩・同僚・先輩・上司などさまざまな宛先を想定している。また、通常「他者のリーダーシップ開発」は、一人で行うものだけでなく、組織や上司の目標を認識した上で、連携しながら実施するものである。授業では上述した視点も含めて「他者のリーダーシップ開発」について学ぶものである。

In general, this lecture touches on 3 topics. The first is to understand mechanisms of acquiring leadership. Specifically, students will understand theories about “how people grow” and the process of acquiring leadership. The second is to understand methods to develop leadership. Specifically, students will understand theories about “how to participate in and promote other people’s growth” and learn about methods and skills to participate in facilitation and coaching.

The third is to practice promoting leadership development in others. Students will not only understand these theories in their minds but also interact with other and practice these theories. The class will be conducted with lectures and group works.

Furthermore, “leadership development in others” as defined by this class include variety of targets such as subordinates, colleagues, seniors, and bosses. In addition, normally “leadership development in others” is not achieved alone. It is done by recognizing organizations and bosses’ goals and collaborating with them. This class will be conducted based on the perspective of “leadership development in others” described above.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：授業の目的を押さえる
- 2回：リーダーシップとは何か？（1）：リーダーシップ理論の基礎
- 3回：リーダーシップとは何か？（2）：リーダーシップ理論を深める
- 4回：リーダーシップが身につくメカニズムとは？（1）：学習理論の基礎
- 5回：リーダーシップが身につくメカニズムとは？（2）：場の設計
- 6回：リーダーシップが身につくメカニズムとは？（3）：モチベーション論の基礎
- 7回：リーダーシップが身につくメカニズムとは？（4）：スキルを学ぶ意義とは
- 8回：中間振り返り
- 9回：事例をもとに組織開発について考える（1）：サークルや学生団体、バイトなどにおける組織の課題
- 10回：事例をもとに組織開発について考える（2）
- 11回：事例をもとに組織開発について考える（3）
- 12回：事例をもとに組織開発について考える（4）
- 13回：授業全体の振り返り（1）

14回：授業全体の振り返り（2）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業は、授業時間外の課題に取り組んでいることを前提に行う。具体的には、1. 指示した書籍・論文の概要をまとめる、2. 学んだことを授業外で実践する、などを想定している。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業中の発表・討論・質疑応答:40% 授業期間中の複数回にわたる提出物:60%

欠席3回でD評価とする

テキスト / Textbooks

中原淳、館野泰一、高橋俊之 『リーダーシップ教育のフロンティア【研究編】：高校生・大学生・社会人を成長させる「全員発揮のリーダーシップ』 北大路書房 2018 4762830224 -

中原淳、高橋俊之、館野泰一 『リーダーシップ教育のフロンティア【実践編】：高校生・大学生・社会人を成長させる「全員発揮のリーダーシップ』 北大路書房 2018 4762830232 -

参考文献 / Readings

日向野幹也 『大学教育アントレプレナーシップ』 ナカニシヤ出版 2013 4779507758

石川淳 『シェアド・リーダーシップ』 中央経済社 2016 4502203513

金井壽宏（監訳） 『リーダーシップ開発ハンドブック』 白桃書房 2011 4561245464

館野泰一・中原淳編著 『アクティブトランジション 働くためのウォーミングアップ』 三省堂 2016 4385365628

中原淳 『研修開発入門 会社で「教える」、競争優位を「つくる』』 ダイヤモンド社 2014 4478027250

適宜指示をするが、関連する書籍としてこれらに目を通しておくことが望ましい。

その他 / Others

- ・受講資格：「GL101/111（経営学部の学生は「リーダーシップ入門（BL0）」の単位を修得済みであること
- ・受講の心得として、他者のリーダーシップ開発について「知識として知っておきたい」というのではなく、実際に他者のリーダーシップ開発の実践に強く関わりたいことが重要
- ・選考の結果、履修が許可されないことがある

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL103

GL103

人を動かすリーダーシップ

長田 太郎 (OSADA TARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV146

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2640

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： GL101 または GL111（経営学部の学生は『リーダーシップ入門（BL0）』の単位を修得済であること

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義の目的は人間の性格特性に基づくコミュニケーション方法と人を動かす方法を学ぶ。

This course aims to instill rules and logics to influence people utilizing effective communication skills based on knowledge of character traits and develop individual leadership.

授業の内容 / Course Contents

- ・ 人間特性の理解と、効果的なコミュニケーション方法の理解する。
- ・ 基本的な自己理解・他者理解のフレームを理解する。
- ・ 人を動かす方法を理解する。
- ・ 実践的な題材とグループワークにより、リーダーシップを開発する

Learn people's character traits and effective communication skills through lecture, exercise, and project work.

Learn a frame of basic understanding of self & others

Learn rules and logics to influence people.

Develop leadership through practical subjects and group works

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：キックオフ
- 2回：人を動かすとは
- 3回：自己理解(前編)
- 4回：自己理解(後編)
- 5回：他者理解(前編)
- 6回：他者理解(後編)
- 7回：振り返り
- 8回：信頼関係の構築
- 9回：場の理解
- 10回：モチベーションを高める(前編)
- 11回：モチベーションを高める(後編)
- 12回：戦略を立てる
- 13回：ポスターセッション
- 14回：振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ選考に応募すること。
提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業であり、毎回の授業が総合演習へのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回の出席すること。欠席したとしても課題提出を必ずすること。
授業の内容を自身の生活の中で実践する課題を行う事により、授業内容を実践できる力を付ける。
総合演習においては、授業内で学んだスキルを活用して実際に誰かを説得する計画を立て、その実践を授業外で行う。
振り返りを通じて授業内容の理解度、習得度を自分自身で確認し、授業終了後

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 課題提出及び課題の内容:40% クラスへの貢献:30% 総合演習課題:30%
欠席3回でD評価

テキスト/Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

その他/Others

本科目はGL101/111、BL0の単位修得者を対象とする。

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL201

GL201

質問を活かしたリーダーシップ

長田 太郎 (OSADA TARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV151

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2640

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： GL101 または GL111（経営学部の学生は『リーダーシップ入門（BL0）』の単位を修得済であること

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目的は、効果的な質問力を学ぶこととリーダーシップを開発することである。

This course aims to instill effective inquiry skills and develop individual leadership.

授業の内容 / Course Contents

講義・演習・プロジェクトワークを通じた相互理解と調査に関する質問力を理解する。

実践的な題材とグループワークにより、リーダーシップを開発する

Learn inquiry skills regarding mutual understanding and research through lecture, exercise, and project work.

Develop leadership through practical subjects and group works.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：キックオフ・自己紹介と多様性を理解するための質問実践

2 回：質問の作り方と授業内実践①

3 回：質問の作り方と授業内実践②

- 4回：質問の作り方と授業内実践③
 5回：プロジェクトキックオフ
 6回：クライアント様とチームメンバーのチームビルディング
 7回：ヒアリング結果の解釈と解決の方向性
 8回：中間発表
 9回：中間振り返り
 10回：クライアント様への質問・アイデア出し
 11回：予選①
 12回：本選
 13回：チーム振り返り
 14回：個人振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ選考に応募すること。
 毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。
 また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。
 課題やチームでのグループワークで週に2~3時間程度は必要となる。
 秋休み期間に、プロジェクトのターゲットに対する質問会を行う予

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中の発表、討議、質疑応答:30% グループワークの成果:30% 課題の提出と内容:40%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

その他 / Others

授業内容の一部には、BLP、GLP 学生スタッフのコーチング研修の内容と重複する部分がある。

(SS3 と SS4 の一部の予定)

個人課題に対して個別のフィードバックを付ける方式ではなく、次回授業で課題に関して行う振り返りを行いクラスで質問に対する理解を深める。

プロジェクトに関するヒアリングを授業外で行い、受講生自身が考えた質問を用いたヒアリングの実践を通じてパフォーマンス面における質問力を身に付ける。

また、チーム内の相互理解や関係構築の為に受講生自身が考えた質問を用いてメンテナンス面における質問力を身に付

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL201

GL201

質問を活かしたリーダーシップ

松下 慶太 (MATSUSHITA KEITA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV152

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2640

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定： GL101 または GL111（経営学部の学生は『リーダーシップ入門（BL0）』の単位を修得済であること

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目的は、効果的な質問力を学ぶこととリーダーシップを開発することである。

This course aims to instill effective inquiry skills and develop individual leadership.

授業の内容 / Course Contents

講義・演習・プロジェクトワークを通じた相互理解と調査に関する質問力を理解する。

実践的な題材とグループワークにより、リーダーシップを開発する

Learn inquiry skills regarding mutual understanding and research through lecture, exercise, and project work.

Develop leadership through practical subjects and group works.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：キックオフ・自己紹介と多様性を理解するための質問実践

2 回：質問の作り方と授業内実践①

3 回：質問の作り方と授業内実践②

- 4回：質問の作り方と授業内実践③
 5回：プロジェクトキックオフ
 6回：クライアント様とチームメンバーのチームビルディング
 7回：ヒアリング結果の解釈と解決の方向性
 8回：中間発表
 9回：中間振り返り
 10回：クライアント様への質問・アイデア出し
 11回：予選①
 12回：本選
 13回：チーム振り返り
 14回：個人振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:○
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の出席と課題提出を行う意思のある人のみ選考に応募すること。
 毎回の授業が独立しているわけではなく、前回の授業内を理解していることを前提で次の授業が組まれており、提出された課題をもとにクラス内で学び合う授業なので課題提出は必須である。
 また、毎回の授業がプレゼンテーションへのステップとなるので、特別な理由がない限り毎回授業に出席すること。欠席したとしても必ず課題を提出すること。
 課題やチームでのグループワークで週に2~3時間程度は必要となる。
 秋休み期間に、プロジェクトのターゲットに対する質問会を行う予

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分:2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業中の発表、討議、質疑応答:30% グループワークの成果:30% 課題の提出と内容:40%

欠席3回でD評価

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

適宜指示する。

その他 / Others

授業内容の一部には、BLP、GLP 学生スタッフのコーチング研修の内容と重複する部分がある。

(SS3 と SS4 の一部の予定)

個人課題に対して個別のフィードバックを付ける方式ではなく、次回授業で課題に関して行う振り返りを行いクラスで質問に対する理解を深める。

プロジェクトに関するヒアリングを授業外で行い、受講生自身が考えた質問を用いたヒアリングの実践を通じてパフォーマンス面における質問力を身に付ける。

また、チーム内の相互理解や関係構築の為に受講生自身が考えた質問を用いてメンテナンス面における質問力を身に付

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL202

GL202

Leadership through Inquiry

金田 テレザ 和美 (KANETA TEREZA CAZUMI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV161
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2631
使用言語：	英語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	GL101 または GL111（経営学部の学生は『リーダーシップ入門（BL0）』）の単位を修得済であること
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・グローバル・リベラルアーツ・プログラム学生履修不可 ・定員のほかに、グローバル・リベラルアーツ・プログラム学生約 10 名が履修

授業の目標 / Course Objectives

The goal of this course is to develop your leadership to effectively collaborate and co-create new value with diverse team members by demonstrating "leadership through inquiry". In daily life, we have a lot of teamwork, and thus the goal is to be able to demonstrate "your leadership through inquiry" in such occasions.

In this course, you will learn how to build trust with others, how to collaborate and co-create new value with the team members, and how to practice in a more advanced way your "individual leadership" that you have discovered through other GL basic courses.

*This is an action-based learning, but this is not a project-based learning such as working on a specific theme offered from a company.

*Those who have completed GL101/111/BL0 and which to further develop leadership skills in a diverse English speaking environment are very welcome.

授業の内容 / Course Contents

To meet our goals, what we will learn through practice will be as follows:

1. Deepen the understanding of "diversity and inclusion", and learn the mindset that is important in practice.
2. Multiple practice sessions of "Action Learning (Inquiry conference)," a method used globally where team members work together to solve problems using only questions.
3. Learning "leadership through inquiry" skills such as questioning techniques, effective leadership communication, and basic coaching, etc.

*Depending on the situation, guest speaker may be invited.

*All the students will practice effective collaboration and co-creation with diverse members both inside and outside of the classroom by utilizing what they have learned in the basic GL courses.

*For each individual's different leadership development, every student is also expected to provide mutual support in developing the leadership of others.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: What is "Leadership through Inquiry"?
- 2 回：Goal setting: Why do we learn "Leadership to collaborate with diverse people as a team"?
- 3 回：Global mindset & Communication skills: How do we deal with diversity and inclusion?
- 4 回：Inquiry skills: How do we question to others effectively?
- 5 回：Action learning practice #1: What is action learning methodology to solve problems as a team?
- 6 回：Action learning practice #2: Knowing the power of questions and the team dynamics
- 7 回：Reflection & Input: How is your leadership practice so far? Sharing feedback each other.
- 8 回：Global dialogue: What are the difficulties and needs of "Leadership through inquiry" in real?
- 9 回：Action learning practice #3: Solving new problem with new team
- 10 回：Action learning practice #4: Unleashing ownership and empathy
- 11 回：Leadership Challenge: Solve a problem which global business person face with in reality
- 12 回：Reflection & Input: How much did you contribute to the team? Sharing feedback each other.
- 13 回：Leadership and Learning journey: What have we learned in GL202? Synthesizing the learning.
- 14 回：Connect learning with your life and future: What are the next leadership challenges for you?

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ* 等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

1. Individual assignment will require 1-2 hours/week.
2. Team assignment will require 1-2 hours/week in the latter half of the sessions.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation and contribution in the class:40% Assignments and other submissions:40% Individual contribution to the teamwork:20%

“D” grade will be given if you miss three classes or more.

テキスト / Textbooks

Textbook will be announced in the class.

参考文献 / Readings

その他 / Others

Recommended to take other GLP classes before/after GL202 to develop leadership practice further. There are both English course and Japanese course. <https://ghrd.rikkyo.ac.jp/program/GLP.aspx>

注意事項

- ・ 2016 年度以降 1 年次入学者：多彩な学び科目
- ・ 2012～2015 年度 1 年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL301

GL301

グローバル・リーダーシップ海外実践

長田 太郎 (OSADA TARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FV171
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 春期間外
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2631
使用言語： 英語
授業形式： 実習
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

The objective of this course is to grow and develop own leadership skills by contributing to the world from what you can. This course is open for all the students who are enthusiastic about it. Welcome to the students who would like to have the first and small step to collaborate with the diverse people in global. (No pre-requisite courses are set for taking GL301.)

As learning, you can foster own leadership skills further by having rich experience to demonstrate your leadership in real global society. After such an international experience, you will have chances to review and reflect on your uniqueness and effectiveness of own leadership and to develop a growth strategy/plan for your own future.

You do not need to put the hurdle high to join this program by yourself. This chance is for all of you, and GLP will support you to do the goal setting before the departure, and will have a follow-up session after the arrival. It will become your leadership journey as a global citizen in the world.

Also, you can build continuous learning by taking other Rikkyo-GLP courses based on your experience through this course.

授業の内容 / Course Contents

Each applicant, personally, is first required to apply for one of the study-abroad programs selected by Center for Global Human Resource Development (CGHRD). After successfully admitted in the program, he/she is entitled to apply for GL301. Applications for GL301 are reviewed/evaluated by instructor. (Please see “Others” part of this syllabus for detailed information about the study-abroad programs.)

Once officially registered, all GL301 students must participate in both prep and reflective sessions.

In the preparatory session, each student sets own goals to achieve in the study-abroad program, and elaborate on the action plan.

In the reflective session, students are asked to reflect on his/her progress against the goal and plan set before study-abroad, and will build up new leadership journey for the future.

<Tentative Schedule>

Fixed schedule will be released on the website of CGHRD.

Apr. - May.	Course Guidance
Apr. - May.	Application period (for study-abroad program)
Jun.	Application period (for GL301)
- Early Aug.	(Preparatory Session)
Aug. - Sep.	Participation in study-abroad program
Sep.	(Reflective Session)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Preparatory Session
- 2 回：Set Goal and Objectives for Study-Abroad Program
- 3 回：Preparation for Study-Abroad Program
- 4 回：Study-Abroad Program: Orientation
- 5 回：Study-Abroad Program: Lecture 1
- 6 回：Study-Abroad Program: Group Work / Field Trip 1
- 7 回：Study-Abroad Program: Reflection (first half)
- 8 回：Study-Abroad Program: Revise Goal and Objectives
- 9 回：Study-Abroad Program: Lecture 2
- 10 回：Study-Abroad Program: Group Work / Field Trip 2
- 11 回：Study-Abroad Program: Reflection (second half)
- 12 回：Submission of Activity Report
- 13 回：Reflective Session
- 14 回：Find and Review Leadership Style/Model

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

All students MUST participate in BOTH preparatory and reflective sessions.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation and contribution in the pre/post classes:20% Leadership performance in respective study-abroad program:40% Assignments and other submissions:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****その他 / Others****▼STUDY-ABROAD PROGRAMS**

<Program Selection>

Complete list of programs will be introduced in the course guidance session. The list will include a social innovation program at foreign university, a program collaborated with a NGO, as such.

<Application Pro

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

GL301

GL301

グローバル・リーダーシップ海外実践

長田 太郎 (OSADA TARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FV176
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 秋期間外
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2631
使用言語： 英語
授業形式： 実習
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

The objective of this course is to grow and develop own leadership skills by contributing to the world from what you can. This course is open for all the students who are enthusiastic about it. Welcome to the students who would like to have the first and small step to collaborate with the diverse people in global. (No pre-requisite courses are set for taking GL301.)

As learning, you can foster own leadership skills further by having rich experience to demonstrate your leadership in real global society. After such an international experience, you will have chances to review and reflect on your uniqueness and effectiveness of own leadership and to develop a growth strategy/plan for your own future.

You do not need to put the hurdle high to join this program by yourself. This chance is for all of you, and GLP will support you to do the goal setting before the departure, and will have a follow-up session after the arrival. It will become your leadership journey as a global citizen in the world.

Also, you can build continuous learning by taking other Rikkyo-GLP courses based on your experience through this course.

授業の内容 / Course Contents

Each applicant, personally, is first required to apply for one of the study-abroad programs selected by Center for Global Human Resource Development (CGHRD). After successfully admitted in the program, he/she is entitled to apply for GL301. Applications for GL301 are reviewed/evaluated by instructor. (Please see “Others” part of this syllabus for detailed information about the study-abroad programs.)

Once officially registered, all GL301 students must participate in both prep and reflective sessions.

In the preparatory session, each student sets own goals to achieve in the study-abroad program, and elaborate on the action plan.

In the reflective session, students are asked to reflect on his/her progress against the goal and plan set before study-abroad, and will build up new leadership journey for the future.

<Tentative Schedule>

Fixed schedule will be released on the website of CGHRD.

Late Sep. - Early Oct.	Course Guidance
Oct. – Nov.	Application period (for study-abroad program)
Nov.	Application period (for GL301)
- Early Feb.	(Preparatory Session)
Feb. – Mar.	Participation in study-abroad program
Mar.	(Reflective Session)

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Preparatory Session
- 2 回：Set Goal and Objectives for Study-Abroad Program
- 3 回：Preparation for Study-Abroad Program
- 4 回：Study-Abroad Program: Orientation
- 5 回：Study-Abroad Program: Lecture 1
- 6 回：Study-Abroad Program: Group Work / Field Trip 1
- 7 回：Study-Abroad Program: Reflection (first half)
- 8 回：Study-Abroad Program: Revise Goal and Objectives
- 9 回：Study-Abroad Program: Lecture 2
- 10 回：Study-Abroad Program: Group Work / Field Trip 2
- 11 回：Study-Abroad Program: Reflection (second half)
- 12 回：Submission of Activity Report
- 13 回：Reflective Session
- 14 回：Find and Review Leadership Style/Model

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

All students MUST participate in BOTH preparatory and reflective sessions.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation and contribution in the pre/post classes:20% Leadership performance in respective study-abroad program:40% Assignments such as plan and Assignments and other submissions:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****その他 / Others****▼STUDY-ABROAD PROGRAMS**

<Program Selection>

Complete list of programs will be introduced in the course guidance session. The list will include a social innovation program at foreign university, a program collaborated with a NGO, as such.

<Application Pro

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

グローバル・イシュー各論

Introduction to Global Issues

Sustainable Human and Social Development

高井 明子 (TAKAI AKIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV310

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2631

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course aims at providing opportunities for students to understand global issues related to human and social development and view these issues using a variety of lenses, focusing on marginalization.

授業の内容 / Course Contents

The Sustainable Development Goals, or SDGs are the blueprint to achieve a better and more sustainable future for all. SDGs address the global challenges we face, including poverty, inequality, climate crisis, environmental degradation, peace and justice. This course explores global issues of social and human development. Depending on the availability of guest speakers, the topic and syllabus maybe adjusted.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction

2 回： Getting Ready – Students are requested to present what they want to learn from this course based on the topic they have identified during the first session.

3 回： Sustainable Development Goals and roles of young people, speaker to be confirmed

- 4回：Inequality in Health
 5回：Disabilities and sustainable development
 6回：Gender and sustainable development, speaker to be confirmed
 7回：Reflection and discussion - addressing inequality in sustainable development
 8回：Climate change and development, speaker to be confirmed
 9回：Conflict and humanitarian response
 10回：Resilience and sustainable development
 11回：Roles of civil society organizations
 12回：Discussion, Getting ready for final presentation
 13回：Final presentation 1
 14回：Final presentation 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are asked to submit one short papers during the semester.

Students are also asked to work in a small group to explore further on a specific topic of global issues, and present in the class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Reaction papers:20% One short paper:30% Active participate during the class:20%
 Group project participation and presentation:30%

テキスト / Textbooks

Reading materials will be assigned during the class.

参考文献 / Readings

Students are requested to have basic understanding of Sustainable Development Goals prior to the class.

<https://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/>

その他 / Others

This course is conducted in English and your participation is critical. Students are required to have adequate comprehension, communication and writing abilities of English. This is not a lecture style class, and students are also required to actively par

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

グローバル共通教養総論

Liberal Arts for Global Common

Introduction to global development issues and how we are addressing these issues

高井 明子 (TAKAI AKIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV312

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2631

使用言語： 英語

授業形式： 講義

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

This course aims at providing students with the following.

- Critical understanding of the concept of development, as well as the actors and issues in development
- Recognition that there are different sides to debates on the nature of development and underdevelopment
- Ability to ask key questions for addressing development issues.

Students are expected to be able to express their own opinions and develop analytical thinking to the issues through dialogue in class and assignments.

授業の内容 / Course Contents

This course provides students with many aspects of global issues according to the list of Sustainable Development Goals. Depending on the availability of guest speakers, the topics discussed during the class maybe adjusted.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction - setting your own goals

- 2回：Getting ready: Global Issues and Sustainable Development Goals
 3回：Sustainable Development Goals (SDGs) and role of young people. Guest speaker (to be confirmed)
 4回：Sustainable Development Goals (SDGs) 1: No Poverty (1), Zero Hunger (2)
 5回：Sustainable Development Goals (SDGs) 2: Good Health and Well-Being (3), Reduced Inequalities (10)
 6回：Group work: reflection on the previous class and discussion
 7回：Sustainable Developments Goals (SDGs) 3: Gender Equality (5), Guest Speaker (to be confirmed)
 8回：Group work: reflection on the previous class and discussion
 9回：Sustainable Development Goals (SDGs) 4: Quality Education (4)
 10回：Sustainable Development Goals (SDGs) 5: Climate Action (13), Responsible Consumption and Production (12), Life Bellow Water (14), Life on Land (15) Guest Speaker (to be confirmed)
 11回：Introduction to group project/reflection on the previous class and discussion
 12回：Role of civil society and participation
 13回：Final presentation - 1
 14回：Final presentation - 2 and Reflection

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are asked to submit one short paper during the semester.

Students are also asked to work in a small group to explore further on a specific topic of global issues, and present in the class.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Submission of reaction paper:20% One short paper:30% Active participation in class:20% Group project participation and presentation:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Students are requested to have basic understanding of Sustainable Development Goals prior to the class.

<https://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/>

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

This course is conducted in English, and students are required to have an adequate level of comprehension, communication and writing abilities in English. This is not a lecture style class, and students are expected to actively participate in group discus

その他 / Others

Depending on the availability of guest speakers, the schedule may be adjusted.

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

ソリューション・アプローチ（開発経済）

Solution Approach (development economics)

How can poor countries develop?

石渡 幹夫 (ISHIWATARI MIKIO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV322

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） Three classes will be conducted on demand, at the fifth, sixth, and seventh classes.

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2631

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- (1) 貧困、都市化、災害、気候変動、環境など開発における重要分野の課題
 - (2) これらの分野における開発援助のアプローチとプロジェクト
 - (3) 開発における課題解決に貢献できる日本の経験
- について知識を得る。

Students are expected to learn

- (1) issues of key areas in development, such as poverty, urbanization, disaster, climate change, and environment;
- (2) approaches and projects of development assistance in these areas; and
- (3) Japanese experience that can contribute to resolving the issues in development.

授業の内容 / Course Contents

- (1) 開発における主要分野、開発援助のプロジェクトとアプローチについての講義
- (2) 開発の課題についてのグループ・ディスカッションとプレゼンテーション

(3)ゲストスピーカーによる実務についての講義
を実施する

The course will cover:

- (1) lectures on the key areas in development, and projects and approaches of development assistance; (2) group discussions and presentations on the issues of development; and
(3) practical class by a guest speaker.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction and basic facts: What are development and growth?
2 回：Poverty and Inequality: Becoming better or worse in the World and Japan?
3 回：Japanese experience of high growth: Why could Japan develop?
4 回：Disaster management: How can we prevent disasters?
5 回：Water security: What are water issues in the World?
6 回：Climate change mitigation and adaptation: How climate is changing?
7 回：Exercise I: Formulating country assistance program
8 回：Urban management: What are the issues of urbanization?
9 回：Infrastructure development: Why is infrastructure important in development?
10 回：Highway and road: How can transport develop?
11 回：Universal health: What are governance and finance in health?
12 回：Development Assistance: What is carrier pass in international organizations?
13 回：Exercise II: Formulating assistance project
14 回：Review and summary

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to provide comments and questions at Canvas LMS following each class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% participation:30% presentation:30% comment sheets:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

石渡幹夫 『日本の防災、世界の災害』 鹿島出版会 2016 4306094448

世界銀行 『世界開発報告』 The World Bank

ジェフリー・サックス 『貧困の終焉: 2025年までに世界を変える』 ハヤカワ文庫 2014 9784150504045

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業であ

る。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

ソリューション・アプローチ（強制移転・移住）

Solution Approach (displacement/migration)

現代世界の移民・難民問題: The Global Picture of People on Move and its Impacts

佐藤 滋之 (SATO SHIGEYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV323

授業形態： 対面（一部オンライン）

授業形態（補足事項） オンライン（6回）と夏季休暇期間中に集中講義（2日間）で行う。

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2631

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

このコースは、特に難民と移民に重点を置き、世界的な人の移動について包括的に理解することを目的としている。

This course aims to gain a comprehensive understanding of global movement of people, with particularly emphasis on the refugees and migrants.

授業の内容 / Course Contents

近年、難民や移民の世界的な移動が国際政治の重要イシューとなっている。しかし、この現象は非常に複雑であり、しばしば誤解されている。本講義では、世界的な人の移動を正しく理解するための基礎知識を学ぶ。講座はすべて英語で行われ、受講生はグループでの発表やディスカッションに積極的に参加することが求められる。他の学問領域との横断的アプローチ、論理的・批判的思考、言語コミュニケーションとライティング能力などが求められる。

このコースは、6月と7月にオンラインで、8月に対面集中講義で行われる予定である。

The issues of global movement of refugees and migrants have been the center of the world politics in recent

years. However, the phenomenon is very complicated and often misunderstood. This lecture will give some basic knowledge to understand the global movement of people correctly. The entire course will be held in English and all students are expected to participate actively in group presentation and discussion. Students are expected to intermingle their knowledge with other studies, to gain logical and critical thinking, and to improve communication, writing and questioning skills.

This course is scheduled to be taught in an online classes in June and July, and in-person in August.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction: People on Move (on-line)
- 2 回：Forced Displacement: Refugees and Internally Displaced Persons (on-line)
- 3 回：The International Regime for Refugee Protection (on-line)
- 4 回：Transition of Refugee Policies (on-line)
- 5 回：History of Migration (on-line)
- 6 回：Japanese History of Migration (on-line)
- 7 回：Globalization and Migration
- 8 回：Refugee Crisis: Case Study 1
- 9 回：Refugee Crisis: Case Study 2
- 10 回：Durable Solutions for Refugees
- 11 回：Migration Case Study 1
- 12 回：Migration Case Study 2
- 13 回：Mixed Movement
- 14 回：Final Review and Assessment

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students are requested to use the online-tool Canvas LMS at Rikkyo University

(<https://canvas.rikkyo.bownet.cloud/login>) to obtain course materials. It is mandatory to read daily newspapers and references prior to each class.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 平常点(In-class Points):40% レポート(Mid-term Report):30% 最終テスト割合：30%

テキスト / Textbooks

Reading materials will be distributed at class.

参考文献 / Readings

山田満, 滝澤三郎（編著） 『難民を知るための基礎知識：政治と人権の葛藤を越えて』 明石書店 2017
9784750344164

Alexander Betts, Gil Loescher, and James Milner UNHCR : The Politics and Practice of Refugee Protection

(Second Edition) Routledge 2013 9781136509070

S. カースルズ, M. J. ミラー (著), 関根政美, 関根薫 (監訳) 『国際移民の時代 (第4版)』 名古屋大学出版会 2011 9784815806552

クリスティアーネ・ハルツィヒ他著 (大井由紀 訳) 『移民の歴史』 ちくま学芸文庫 2023
9784480512192

その他/ Others

This course is scheduled to be taught in an online classes in June and July, and face-to-face in August.

The specific schedule is as follows.

Online: June 4, 11, 18, 25, July 2, 9. Tue. 5th period (17:10-18:50)

Total of 6 times

Face-to-face (Ikebukuro 620)

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

ソリューション・アプローチ（紛争と平和）

Solution Approach (conflict and peace)

Solutions for conflicts and wars - concepts, history, reality

へベカー D. (HEBECKER DIRK)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV324

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項） In-class - intensive course

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2631

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： Class Schedule: 8/1 Period 1-2, 8/2 Period 1-3、8/5-7 Period 1-3

授業の目標 / Course Objectives

Please refer to the next section.

Participants will be able to critically analyze conflicts in terms of their history, background, underlying causes and geo-political perspectives as well as conflicts' actual developments, third-party interventions and potential/actual solutions.

授業の内容 / Course Contents

Please refer to the next section.

The course provides students with some of the analytical skills to understand how conflicts develop, to identify root causes of conflict at interpersonal, intergroup, inter-state and international levels. In particular, the course focuses on (1) analyzing actors of conflicts (victims, perpetrators, and bystanders) to realize how “ordinary people” are engaged in conflict escalation and eventually conflict resolution, and on (2) post-conflict issues such as peacebuilding, reconciliation, transitional justice and reconstruction, as well as the role of the UN, regional organizations, States, and civil society. In addition, several case studies of conflicts and genocide in the past are

discussed, and guest speakers who are active in peacebuilding-related fields are invited to provide a real sense of how conflicts and conflict resolution play out on the ground. During the course, various theoretical and practical concepts of international relations, development, international peace cooperation and human security as a tool to peacebuilding and sustainable security are introduced. Students are encouraged to engage in discussions on actual past and ongoing conflicts to apply these theoretical concepts and refine their analysis of conflicts. This course will review several on-going and past conflicts around the world, incl. Asia, their history, background, actors and stakeholders, influence of external actors, direct & indirect causes. From there, actual or potential/possible solutions to those conflicts will be analyzed, also considering how such solutions can be sustainable. Post-conflict issues such as transitional justice, peacebuilding and reconciliation, the role of the United Nations and other relevant international and regional organizations, states, and civil society actors will also be looked at during the course. Toward the end of the course, each participant will prepare/make a presentation on a selected conflict based on the students' personal preference to demonstrate how they are able to apply the skills and knowledge acquired in the course and from their own research of the chosen conflict topic.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：Introduction of the course, lecturer and students; explanation of the syllabus flow and what is expected from the students in terms of their own work/research
- 2回：Introduction of theoretical concepts for conflict analysis and solutions approaches: international relations theories, conflict/war studies, peace studies
- 3回：Past and current wars/armed conflicts, conflict typologies, elements of conflict analysis (1)
- 4回：Past and current wars/armed conflicts, conflict typologies, elements of conflict analysis (2)
- 5回：Case study 1 – decolonization conflicts and proxy wars during the post-World War II period/Cold War
- 6回：Case study 2 – post-Cold War conflicts (former Yugoslavia/former Soviet Union/Rwanda/Somalia/others)
- 7回：Case study 3 – conflicts (past and present) in Asia
- 8回：Case study 4 – contemporary conflicts (1) - rest of the world: Ukraine, Middle East (incl. Israel/Palestine, Syria), Yemen
- 9回：Case study 4 – contemporary conflicts (2) - rest of the world: Africa (Mali, CAR, Cameroon, Sudan, DR Congo); Central America
- 10回：Solutions in practice – government perspective (potential guest speaker session depending on guest speaker availability)
- 11回：Solutions in practice – non-governmental perspective (potential guest speaker session depending on guest speaker availability)
- 12回：Student presentations on chosen research topic/case study (1)
- 13回：Student presentations on chosen research topic/case study (2)
- 14回：Student presentations on chosen research topic/case study (3) and course wrap-up, discussion of outstanding issues

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

Students will be given short reading assignments and occasionally be asked to write short reflections on the assigned readings.

They will also chose any conflict for their own mini-research as a case study to be presented at the end of the course. The res

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Presence and participation in class/discussions:20% Reflection notes on selected sessions:30% Individual presentation on selected topic:25% Final test in class:25%

テキスト / Textbooks

Oliver P. Richmond Peace - A Very Short Introduction Oxford Press 2023 9780192857026 ○

Oliver P. Richmond Peace in International Relations Routledge 2020 9780815336790 ○

Jacob Bercovitch (Editor) The Sage Handbook of Conflict Resolution SAGE Publications Ltd 2008 9781412921923 ○

Stein Tonnesson (Editor) Lives in Peace Research - The Oslo Stories Springer 2022 9789811647161 ○

Students are encouraged to find their own internet resources on conflicts and solutions in general and to study specific conflicts/wars/potential conflict situations on their own. The lecturer will disseminate additional links and reading materials in eac

参考文献 / Readings**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

English proficiency in speaking, listening, reading and writing.

Some baseline knowledge on international affairs will be useful.

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Laptop computers, tablets and smartphones will be useful for quick online searches in class.

その他 / Others

Class Schedule: Ikebukuro 6201 Room

8/1(Thursday): Period 2-3

8/2(Friday): Period 1-3

8/5(Monday): Period 1-3

8/6(Tuesday): Period 1-3

8/7(Wednesday): Period 1-3

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

ソリューション・アプローチ（人道支援）

Solution Approach (humanitarian aid)

Humanitarian Assistance – Challenges and Way Forward

須崎 彰子 (SUZAKI AKIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV328

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2631

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否： ○

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

By the end of this course, students will be able to: 1) comprehend the Humanitarian Charter, Core Standards and Humanitarian Programme Cycle, 2) identify people in need in crisis and outline possible humanitarian responses, 3) review challenges of humanitarian assistance in protracted crises, 4) come up with lessons learned to be incorporated in follow-up action, and 5) explore way forward of humanitarian assistance through the lens of Resilience.

授業の内容 / Course Contents

This course aims to examine various issues relevant to planning and implementation of humanitarian assistance by introducing field experiences in emergencies of natural disaster as well as conflict-induced protracted crises.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回： Introduction. A global picture of Humanitarian Assistance – Where do we stand?

2 回： Humanitarian Charter, Core Standards and Humanitarian Programme Cycle

3 回： Identification of Stakeholders

- 4回：Case Study I Natural disaster in Solomon Islands
 5回：Public Relations and Fund Raising. Monitoring and Evaluation.
 6回：Understanding Local Context
 7回：Humanitarian Assistance - What would follow next?
 8回：Case Study II Syrian crisis Part I Background of the crisis and people in need
 9回：Case Study II Syrian crisis Part II Responses provided and lessons learned
 10回：Group Work
 11回：Group Presentation
 12回：Group Presentation
 13回：Follow-up on the Initial Reaction Paper
 14回：Wrap Up and Career Guidance on International Organizations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Throughout the course, students are invited to visit UN OCHA Reliefweb site:
www.reliefweb.int

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Submission of Reaction paper:40% Active participation in class:20% Group work and presentation:20% Follow-up on initial reaction paper:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

内海成治、桑名恵、大西健丞編 『緊急人道支援の世紀』 ナカニシヤ出版 2022 9784779516177

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Ability to actively participate in group discussions in English

その他 / Others

Subject to availability of guest speaker(s), the course schedule may be adjusted.

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 総合自由科目

国連ユースボランティア

The United Nations Youth Volunteer
国連機関等への長期海外派遣プログラム

高井 明子 (TAKAI AKIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FV416
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 秋学期他
単位： 12
科目ナンバリング： CMP2653
使用言語： その他
授業形式： 実習
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

開発途上国における国連等の国際機関のボランティア活動に参加し、業務指示書の指示に基づき業務を遂行することを通じて現場経験を積み、グローバル・イシューおよび SDGs に関する理解を深めるとともに、国際開発・協力事業の現場で必要とされる専門知識や技術を身につける。

Students will volunteer at an international organization in accordance with the terms of reference (Description of Assignment). This course aims at attaining field experiences, and deepen their understanding of global issues and promotion of Sustainable Development Goals through volunteering at a UN Agency as a UN University Youth Volunteer. At the same time, students will learn specialized knowledge and technology required in international development and collaboration sectors.

授業の内容 / Course Contents

[事前研修] 開発途上国において生活および業務を遂行するために必要となる知識や技術に関する講義や実習を行う。

[現地派遣] 履修学生は、開発途上国の国連事務所等の機関に派遣され、各機関のスタッフや現地の方々とは

もに活動に従事する。教育、環境、保健衛生、人権擁護などの分野において、広報活動やプロジェクト運営サポート、各種調査などに携わる。現地派遣は約5か月間。派遣に際し、ウィークリーレポート・マンスリーレポート・ファイナルレポートの提出を求める。

[事後研修] 帰国報告会を開催する。参加学生は、帰国報告会において活動報告を行うことが求められる。

[Pre-departure training] Students will participate in classes and practices on knowledge and technology required to conduct tasks and manage daily lives in emerging countries.

[Field training] Students are sent to UN offices etc., to carry out work with the UN organization staff and locals. Students are involved in activities such as project management support, various surveys and public relations in the fields of education, environment, human rights protection, and health and sanitation, etc. Students must submit weekly, monthly, and final reports.

[Post training] Briefing will be held upon returning to home country. Participating students must report on their activities at these briefings.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：事前研修 (安全対策)
- 2 回：事前研修 (国連の活動)
- 3 回：事前研修 (グローバル・イシュー)
- 4 回：事前研修 (ICT 研修)
- 5 回：現地活動 (外国語コミュニケーション能力)
- 6 回：現地活動 (異文化理解)
- 7 回：現地活動 (ビジネスマナー)
- 8 回：現地活動 (国連機関等国際機関・団体)
- 9 回：現地活動 (グローバルイシュー)
- 10 回：現地活動 (国際開発・協力事業)
- 11 回：現地活動 (ウィークリー・マンスリーレポート作成)
- 12 回：現地活動 (倫理観, リーダーシップ)
- 13 回：現地研修 (メディアリテラシー)
- 14 回：帰国報告会 (プレゼンテーション)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

持続可能な開発目標 (SDGs)、地球規模課題、開発途上国・派遣国・ボランティア活動等への理解、Web 作成や画像編集等のコンピューターリテラシー・メディアリテラシーの習得が求められる。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% [派遣前] 事前研修の参加状況:20% [派遣中] 受け入れ先との間で定められた業務の遂行状況および週間/月間レポートの提出:60% [派遣後] 報告会の参加状況,ファイナルレポートの提出:20%

成績評価は「合格」または「不合格」とする。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- ・国際機関で業務遂行可能な英語力を有すること。
- ・基本的な ICT スキル (Word/Excel/PowerPoint) を有すること。

※他、有することが望ましい能力は募集要項を確認のこと。

その他 / Others

- ・2024年9月1日時点で満20歳以上26歳未満であること。
- ・2024年度春学期・秋学期ともに在学していること（休学していないこと）。
- ・事前の学内選考および国連による最終選考に合格した学生のみ履修可能。
- ・前年度2月頃に募集説明会を実施。募集要項を確認のこと。募集情報詳細は募集専用サイトに随時更新 (<https://spirit.rikkyo.ac.jp/ghrd/unyv/SitePages/index.aspx>)。

**現地赴任が前提だが、情勢や衛生面等様々な事由から渡航のための条件が整わないと判断

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

陸前高田プロジェクト

Rikuzentakata Project

Project-based learning program: Exploring how cities promote sustainability and inclusion in their recovery and reconstruction with students from overseas universities.

高井 明子／ウエダ ユキ (TAKAI AKIKO/ UEDA YUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FV426
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） In person
校地： 他
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2631
使用言語： 英語
授業形式： 実習
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

スタンフォード大等アメリカの大学・香港大・シンガポール国立大 等との協働プログラム

東日本大震災被災地の当時と復興について学び、地域の方と海外大学生と共に考える

【プログラムの目的】

- 陸前高田市の被災時の状況やこれまでの取り組み・現状を知る
- 市や市民の方々の抱える課題を共有する
- 海外の大学生も交えたディスカッションや協働作業を通し、多様な視点で課題について深く思考し共有する

This course aims at understanding how communities in Rikuzentakata city are responding to the Great East Japan Earthquake and Tsunami in 2011, and reflecting on how their own communities can promote inclusivity, resilience, safety, and environmental sustainability.

Students will be visiting Rikuzentakata City in Iwate Prefecture which was struck by the major disaster in March 2011.

Rikkyo students will be joined by around 10 students from overseas universities: Stanford University, Hong Kong University and National University of Singapore, and work together in the field to understand the current situation of Rikuzentakata. Participants will present their learning and development with their international peers, Rikuzentakata community stakeholders, and the Rikkyo university community.

授業の内容 / Course Contents

Participants will conduct field collaborative work in Rikuzentakata City, Iwate Prefecture, which is heavily affected by the Great East Japan Earthquake and Tsunami. Each team is given an assignment on various topics that will be provided during the pre-departure sessions. After the field work, each group will work on the final presentation.

All participants are required to attend the pre-departure and session and post-field work session. - Students from other universities, including Stanford University will participate in this course.

English is used as the course language.

Tentative schedule for Rikuzentakata Project 2024

July 13 (Sat):(Ikebukuro Campus) Preparation session for Rikkyo students

August 24 (Sat):(Ikebukuro Campus) Pre-departure session for all participants

August 25-29 (Sun-Thu) : (Rikuzentakata City) Field work

August 30 (Fri):(Ikebukuro Campus) Post field work wrap-up session

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Guidance

2 回：Understanding Great East Japan Earthquake and Tsunami : Collecting information 1

3 回：Understanding Great East Japan Earthquake and Tsunami : Collecting information 2

4 回：Understanding Great East Japan Earthquake and Tsunami : Sharing information

5 回：Field work 1

6 回：Field work 2

7 回：Field work 3

8 回：Field work 4

9 回：Field work 5

10 回：Field work 6

11 回：Presentation & Wrap-up (group work) 1

12 回：Presentation & Wrap-up (group work) 2

13 回：Presentation & Wrap-up (group work) 3

14 回：Final Presentation

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	○	
上記いずれも用いない予定	:							

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are required to participate in the preparatory work. During the pre-departure sessions, each student is asked to gather information on Great East Japan Earthquake and Tsunami, and Rikuzentakata City and other

areas affected by disasters. Particip

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Active participation and completion of assigned tasks during the Rikkyo students session and other preparatory work:20% Active participation in field work including pre-departure and post departure sessions:70% Final report:10%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

This course is conducted in English. Students are expected to be ready to collaborate with other students in a small group.

その他 / Others

- ・ Number of participants will be limited to approximately 10.
- ・ The participants will be selected through a screening process.
- ・ Must be enrolled in both the Spring Semester and Fall Semester of AY2024.
- ・ Please make sure to check your 2024 edition of collage

注意事項

- ・ 2016 年度以降 1 年次入学者：多彩な学び科目
- ・ 2012～2015 年度 1 年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目 / 多彩な学び

全学共通カリキュラム / 総合自由科目

海外ワークエクスリエンス 1

Overseas Work Experience 1

団体で参加する海外就業体験プログラム（入門編／約1週間）

浜崎 桂子（HAMAZAKI KEIKO）

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV441

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 他

学期： 秋期間外

単位： 1

科目ナンバリング： CMP2653

使用言語： その他

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

この科目は、指定の就業体験プログラムに短期かつ団体で参加することで、海外の企業で働くイメージを持ち、グローバル社会で活躍するために必要な能力を知る機会とする。履修後は、次学期以降の「海外ワークエクスリエンス 2」などの上位レベルの海外渡航プログラムを受講することができるようになる。

This course is designed to help students gain an image of working for companies abroad and learn what skills are necessary to be successful in a global society by participating the designated short term work experience programs in a group. Students who successfully complete this course should be ready for taking higher level courses such as “Overseas Work Experience 2” in the following semester or later.

授業の内容 / Course Contents

事前準備：目標設定

事前研修：ワークエクスリエンスプログラムへの理解・参加準備，自己理解・目的や目標の確認，マナー学習等

ワークエクスリエンス（約1週間）：企業訪問，社会人インタビュー，プロジェクト学習等

事後研修：振り返り、プレゼンテーション、レポート作成

Preparation: setting goals

Pre-departure training: gain understanding of the program, self-understanding and confirmation of objectives and goals, learn business manners, etc.

Work Experience (approx. one week): visit companies, interview with a working person, participate in project based learning, etc.

Post-training session: self-assessment, presentation, report writing

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：事前研修（プログラムの内容理解・プログラムの目的の理解）
- 2回：事前研修（個人の目標設定）
- 3回：事前研修（社会人インタビュー準備）
- 4回：ワークエクスペリエンス（自己理解）
- 5回：ワークエクスペリエンス（企業見学・社会人インタビュー：異文化理解）
- 6回：ワークエクスペリエンス（企業見学・社会人インタビュー：海外就業への理解，業界研究）
- 7回：ワークエクスペリエンス（企業見学・社会人インタビュー：外国語コミュニケーション能力）
- 8回：ワークエクスペリエンス（企業見学・社会人インタビュー：ビジネスマナー）
- 9回：ワークエクスペリエンス（ビジネスプロジェクト／課題解決学習：主体性，責任感，協働性，リーダーシップ）
- 10回：ワークエクスペリエンス（ビジネスプロジェクト／課題解決学習：理論的思考，情報収集）
- 11回：ワークエクスペリエンス（ビジネスプロジェクト／課題解決学習：発信力）
- 12回：ワークエクスペリエンス（ビジネスプロジェクト／課題解決学習：ICTスキル）
- 13回：事後研修（振り返り，今後の目標）
- 14回：事後研修（報告会）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

ワークエクスペリエンス参加のために必要な情報の収集，必要な知識やスキルの習得などの事前準備を各自行う。参加前に目標を立て，参加後はそれをもとに自身での振り返りや次の目標設定を行い各自のその後の行動につなげる。なお、渡航準備は各自の責任で行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 事前研修への主体的・積極的な取組み:20% ワークエクスペリエンスへの主体的・積極的な取組み:60% 事後研修，ファイナルレポートへの主体的・積極的な取組み:20%

・成績評価は「合格」または「不合格」とする。

・事前研修、事後研修は参加必須。現地研修への参加のみならず、事前研修への参加やこれに付随する提出物の提出、もしくは事後研修への参加やこれに付随する提出物・ファイナルレポートの提出がなされない場合

は、履修放棄されたものとみなし、単位を付与しない。

テキスト/ Textbooks

参考文献 / Readings

その他/ Others

■ワークエクスペリエンスは2025年2月もしくは3月の指定日に行う。

■募集情報詳細は2024年9月下旬頃に公開。グローバル教育センターの募集サイト等を参照 (https://spirit.rikkyo.ac.jp/ghrd/internship/SitePages/intern1_index.aspx)。

■旧科目名「海外インターンシップ1」(2023年度以前開講)と同一科目。

「海外ワークエクスペリエンス1」を重複履修をした場合同様、「海外インターンシップ1」科目の単位を修得済みの者が「海外ワークエクス

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、インターンシップ、就業体験、その他の学外活動等による実践的な学びを中心に構成する授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

海外ワークエクスリエンス 2

Overseas Work Experience 2

海外における就業体験プログラム（4週間）

高井 明子（TAKAI AKIKO）

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FV442
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 事前研修のみオンライン
校地： 他
学期： 春期間外
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2653
使用言語： その他
授業形式： 実習
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

海外における就業体験を通じて、企業を知り、社会の仕組みを理解するとともに、国際的にも活躍できるグローバル人材としての能力を高めることを目指す。

Through work experience overseas, students will become familiar with corporations, understand their structures, and improve their abilities as global talents, capable of being successful internationally.

授業の内容 / Course Contents

事前研修：派遣企業に関する基本的理解、関連業界調査、企業調査、マナーについて、講義・実習を行う

現地研修：派遣企業における就業体験（約4週間）

事後研修：振り返り、報告会、レポート作成

Pre-departure session and learning: Students are required to attend a class and to acquire basic understanding on their host companies, relevant industries, company researches, and local manners.

Field training: Work experience at host companies (about 4 weeks).

Post field training learning: Reflection, participation and presentation at briefing session, and prepare a report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：事前研修（目的・目標の確認）
- 2回：事前研修（派遣企業の基礎知識，派遣企業関連業界調査）
- 3回：事前研修（派遣地域の情報収集，安全対策）
- 4回：現地研修（派遣先企業でのオリエンテーション）
- 5回：現地研修（就業体験：異文化理解）
- 6回：現地研修（就業体験：外国語コミュニケーション能力）
- 7回：現地研修（就業体験：リーダーシップ能力）
- 8回：現地研修（就業体験：倫理観）
- 9回：現地研修（就業体験：主体性）
- 10回：現地研修（就業体験：ビジネスマナー）
- 11回：現地研修（就業体験：ICTスキル）
- 12回：現地研修（就業体験：ウィークリーレポート作成）
- 13回：現地研修（就業体験：理論的思考，情報収集）
- 14回：事後研修（振り返り，報告会）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

派遣先企業の事前情報を確認の上，現地研修を行う前に各自必要な知識やスキルの習得が望まれる。現地渡航のための各種手配は関係者からの指示に従い，原則参加者自身で行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 事前研修の参加状況，事前課題:20% 派遣先企業での就業体験状況およびウィークリーレポートの提出:60% 事後研修の参加状況，ファイナルレポート含む事後課題:20%

成績評価は「合格」または「不合格」とする。なお，事前研修・現地研修・事後研修すべてに参加し，すべての提出物の提出を完了した者に対し成績の評価を行う。

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

派遣先企業により求められる言語コミュニケーション能力やICTスキル等は異なる。企業ごとに実習内容書に提示される募集条件に合致すること。

その他 / Others

- 事前研修（1回）はオンラインで実施予定。
- 4月に募集説明会実施予定。詳細情報は募集サイトに随時アップロード予定。募集要項を必ず確認のこと。
(https://spirit.rikkyo.ac.jp/ghrd/internship/SitePages/intern2_index.aspx)。
- 参加者は募集要項に定められた選考を経て決定する。なお，派遣にあたっては派遣国の入国条件を満たし適切な査証を取得する必要がある。

■旧科目名「海外インターンシップ2」（2023年度以前開講）と同一科目。

「海外

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、インターンシップ、就業体験、その他の学外活動等による実践的な学びを中心に構成する授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

海外ワークエクスリエンス 2

Overseas Work Experience 2

海外における就業体験プログラム（4週間）

高井 明子（TAKAI AKIKO）

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FV443
授業形態： 対面（一部オンライン）
授業形態（補足事項） 事前研修のみオンライン
校地： 他
学期： 秋期間外
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2653
使用言語： その他
授業形式： 実習
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

海外における就業体験を通じて、企業を知り、社会の仕組みを理解するとともに、国際的にも活躍できるグローバル人材としての能力を高めることを目指す。

Through work experience overseas, students will become familiar with corporations, understand their structures, and improve their abilities as global talents, capable of being successful internationally.

授業の内容 / Course Contents

事前研修：派遣企業に関する基本的理解、関連業界調査、企業調査、マナーについて、講義・実習を行う

現地研修：派遣企業における就業体験（約4週間）

事後研修：振り返り、報告会、レポート作成

Pre-departure session and learning: Students are required to attend a class and to acquire basic understanding on their host companies, relevant industries, company researches, and local manners.

Field training: Work experience at host companies (about 4 weeks).

Post field training learning: Reflection, participation and presentation at briefing session, and prepare a report.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：事前研修（目的・目標の確認）
- 2回：事前研修（派遣企業の基礎知識，派遣企業関連業界調査）
- 3回：事前研修（派遣地域の情報収集，安全対策）
- 4回：現地研修（派遣先企業でのオリエンテーション）
- 5回：現地研修（就業体験：異文化理解）
- 6回：現地研修（就業体験：外国語コミュニケーション能力）
- 7回：現地研修（就業体験：リーダーシップ能力）
- 8回：現地研修（就業体験：倫理観）
- 9回：現地研修（就業体験：主体性）
- 10回：現地研修（就業体験：ビジネスマナー）
- 11回：現地研修（就業体験：ICTスキル）
- 12回：現地研修（就業体験：ウィークリーレポート作成）
- 13回：現地研修（就業体験：理論的思考，情報収集）
- 14回：事後研修（振り返り，報告会）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

派遣先企業の事前情報を確認の上，現地研修を行う前に各自必要な知識やスキルの習得が望まれる。現地渡航のための各種手配は関係者からの指示に従い，原則参加者自身で行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 事前研修の参加状況:20% 派遣先企業での就業体験状況およびウィークリーレポートの提出:60% 事後研修の参加状況，ファイナルレポートの提出:20%

成績評価は「合格」または「不合格」とする。なお，事前研修・現地研修・事後研修すべてに参加し，すべての提出物の提出を完了した者に対し成績の評価を行う。

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings****履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

派遣先企業により求められる言語コミュニケーション能力や ICT スキル等は異なる。企業ごとに実習内容書に提示される募集条件に合致すること。

その他 / Others

- 事前研修（1回）はオンラインで実施予定。
- 9月に募集説明会実施予定。詳細情報は募集サイトに随時アップロード予定。募集要項を必ず確認のこと。
(https://spirit.rikkyo.ac.jp/ghrd/internship/SitePages/intern2_index.aspx)。
- 参加者は募集要項に定められた選考を経て決定する。なお，派遣にあたっては派遣国の入国条件を満たし適切な査証を取得する必要がある。

■旧科目名「海外インターンシップ2」（2023年度以前開講）と同一科目。

「海外ワ

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、インターンシップ、就業体験、その他の学外活動等による実践的な学びを中心に構成する授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

グローバルワークエクスペリエンス（オンライン）

Global Work Experience via Online

国内からリモートで参加する海外拠点企業等での就業体験プログラム

高井 明子（TAKAI AKIKO）

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV444

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 他

学期： 春学期他

単位： 1

科目ナンバリング： CMP2653

使用言語： その他

授業形式： 実習

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

国内で、国外に拠点のある企業等で海外ワークエクスペリエンスに準ずる業務経験を行うことで、グローバルに活躍する企業の業務の仕組みを理解し、グローバル社会で活躍するための能力を高めることを目指す。

Through gaining practical working experience at global corporations and organizations based outside of Japan, students will become familiar with corporations, understand their structures, and enhance their abilities as global human resources.

授業の内容 / Course Contents

事前準備：派遣先企業に関する基本的理解、関連業界・企業調査、マナーについての講義・実習等

実習：派遣先企業における就業体験（2～3 か月、計 30 時間程度）、月次報告書作成・提出

事後研修：振り返り、最終報告書作成・提出、報告会参加

本プログラムは参加学生の居住地から海外に拠点のある企業等においてオンラインで実施をする。

Students are required to participate in all of the following training components;

Pre-assignment preparation: basic understanding on their host companies, relevant industries, and manner.

Work experience assignment (online) : Work experience at host companies (2 to 3 months, about 30 hours in total), timely submission of monthly reports

Post-assignment session: reflection, report writing, participation in reporting session

*Students are participating in the work experience assignment online.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：事前準備（目的・目標の確認）
- 2回：事前準備（ビジネスマナー等）
- 3回：事前準備（派遣企業の基礎知識，派遣企業関連業界調査）
- 4回：実習（派遣先企業でのオリエンテーション）
- 5回：実習（就業体験：派遣企業理解）
- 6回：実習（就業体験：外国語コミュニケーション能力）
- 7回：実習（就業体験：リーダーシップ能力）
- 8回：実習（就業体験：理論的思考，情報収集）
- 9回：実習（就業体験：主体性 1）
- 10回：実習（就業体験：主体性 2）
- 11回：実習（就業体験：ICT スキル）
- 12回：実習（就業体験：マンスリーレポート作成）
- 13回：事後研修（振り返り、最終報告書作成）
- 14回：事後研修（報告会）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

派遣先企業により求められる言語コミュニケーション能力や ICT スキル等が異なる。派遣先企業の事前情報を確認のうえ，必要な知識やスキルの習得が望まれる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前準備の取り組み状況:10% 派遣先企業での就業体験状況および月次報告書の提出:60% 事後研修の参加状況，最終報告書の提出:30%

成績評価は「合格」または「不合格」とする。なお，事前研修・実習（就業体験）・事後研修すべてに参加し，すべての提出物の提出を完了した者に対し成績の評価を行う。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

派遣先企業により求められる言語コミュニケーション能力や ICT スキル等は異なる。企業ごとに実習内容書に提示される募集条件に合致すること。

その他 / Others

■期間時期・期間

2024 年度春学期 5 月から 7 月のうち企業指定の 2～3 か月程度（企業により異なる）

■実習内容

実習内容は派遣先企業・期間の指示による

■実習時間

- ・計 30 時間の実習（科目として特定の曜日時限設定なし。他の履修科目と時間帯が重複しないよう調整すること）
- ・事後報告会の日程は募集時に提示（参加必須）

■参加者は募集要項に定められた選考を経て前年度 3 月までにすでに選考済。当該シラバスはその履修者のためのシラバスとなる。

■旧科目名「国内実践グローバルインターンシップ」（2023 年度以前開

注意事項

- ・2016 年度以降 1 年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012～2015 年度 1 年次入学者：総合自由科目

本科目は、インターンシップ、就業体験、その他の学外活動等による実践的な学びを中心に構成する授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

国際的協働のためのキャリア実践

Career Development in Japan for International Collaboration

教室での学びと就業体験を通して、自分と社会とのつながりを意識する

丸山 千歌 (MARUYAMA CHIKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FV450
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2650
使用言語： 日本語
授業形式： 実習
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

就業体験を通して、大学4年間の学びの先にあるキャリアプランを考えるとともに全学での学び、また所属学部での学びがどう社会と結びついているのかを知る。教室での学びだけでなく、教室外での経験を通して、自分と社会とのつながりを意識するようになる。

Through work experience, students are expected to consider their career plan following their four years of study at university, learning about how studying in their department and at the university as a whole is connected to society. Students are expected to become aware of the connections between themselves and society not only through learning in the classroom but also through experiences outside the classroom.

授業の内容 / Course Contents

本科目の授業は、事前学習、就業体験、事後学習の3部により構成する。具体的には春学期中に履修者の選考を行う。その後事前研修を経て各企業にインターンとして派遣する。外国人入試による入学者は日本での就業体験、それ以外の学生は日本語非母語話者との協働体験が可能な日本での就業体験を予定している。派遣期間は10日～14日で、秋学期に事後研修を実施する。

This course consists of three parts: preliminary study, job experience, and post-study. Specifically, after student selection and the preliminary training, students are sent as interns to various enterprises. Students who enter the university through the entrance exams for international students experience working in Japan, while other students experience working in Japan with non-native speakers of Japanese. The period for students to be sent is from 10 to 14 days, and the post-training session meets in the fall semester.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：事前研修 (1)
- 2 回：事前研修 (2)
- 3 回：事前研修 (3)
- 4 回：事前研修 (4)
- 5 回：事前研修 (5)
- 6 回：各企業における実地研修 (1)
- 7 回：各企業における実地研修 (2)
- 8 回：各企業における実地研修 (3)
- 9 回：各企業における実地研修 (4)
- 10 回：各企業における実地研修 (5)
- 11 回：各企業における実地研修 (6)
- 12 回：各企業における実地研修 (7)
- 13 回：事後研修 (1)
- 14 回：事後研修 (2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	○	校外実習・フィールドワーク	:	○
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 事前研修での参加度:30% 企業での実地研修:40% 事後報告会での報告・振り返り:30%

テキスト / Textbooks

適宜指示する。

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

事前、事後学習は各受講者が自発的に考え、発言する等の積極的な態度が求められる。

その他 / Others

- 1) 募集説明会を4月17日(水)昼休み(12:35~)オンラインで行う。詳細はR Guideまたは日本語教育センターHP(<https://cjle.rikkyo.ac.jp/>)で必ず確認すること。
- 2) 本科目は秋学期履修登録科目であるが、履修希望者は4月中旬に始まるエントリー期間に履修申請すること。

と。

3) 事前研修、企業での実地研修、事後研修の日程は説明会で通知する。

4) 連絡事項、資料の配付などは Canvas LMS を通して行う。

注意事項

旧科目名：「国際的協働のための国内インターンシップ」

・2016年度以降1年次入学者：多彩な学び科目

・2012～2015年度1年次入学者：総合自由科目

本科目は、インターンシップ、就業体験、その他の学外活動等による実践的な学びを中心に構成する授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

R S Lーコミュニティ（埼玉）

Rikkyo Service Learning on Community Fields(Saitama)

生活困窮者への埼玉県アスポート学習支援

田中 聡一郎 (TANAKA SOICHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FV511
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2650
使用言語： 日本語
授業形式： 実習
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

サービスマーケティングの手法に基づきながら生活困窮世帯に暮らす中学生を対象とした埼玉県内の学習支援事業への参加を通じて、生活保護制度の運用実態に触れるとともに、貧困と格差、社会的包摂等を巡る諸問題についての理解を深める。

Students will follow service-learning methods and participate in educational supports in Saitama Prefecture, focusing on middle school students from financially challenged populations. By involving in actual operations of public assistance system, students will deepen their understanding on various issues including poverty, inequality, and social inclusion.

授業の内容 / Course Contents

学内での事前学習では、生活保護制度や子どもの貧困について学習する。

学外での活動として、一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワークが主催する「アスポート学習教室」に、学習指導員として履修者が参加し、教室に参加する中学生に、学習サポートを行う。

事後学習として、事前学習およびアスポート学習教室での活動を通しての学びの成果、気づきについての報告

会をおこなう。

As their prior training in the university, students will learn about public assistance system and child poverty.

As activities outside of the university, students will participate in Asuport Classroom organized by Asuport general incorporated association as instructors and support learning of participating middle school students.

As post learning, students will participate in briefing sessions to report on their learning results and realizations during prior learning and Asuport Classroom activities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：事前学習①「オリエンテーション／サービスラーニングの学修のポイント、授業の目的」
- 2 回：事前学習②「社会保障の基礎」
- 3 回：事前学習③「埼玉県内で実施されているアスポート事業の政策的意義」
- 4 回：事前学習④「貧困と「学習支援」／「立教生ができる」活動としての学習支援／活動オリエンテーション」
- 5 回：アスポート学習支援活動への参加(活動期間中 8 回以上の活動に参加する)
- 6 回：アスポート学習支援活動への参加(活動期間中 8 回以上の活動に参加する)
- 7 回：アスポート学習支援活動への参加(活動期間中 8 回以上の活動に参加する)
- 8 回：アスポート学習支援活動への参加(活動期間中 8 回以上の活動に参加する)
- 9 回：アスポート学習支援活動への参加(活動期間中 8 回以上の活動に参加する)
- 10 回：アスポート学習支援活動への参加(活動期間中 8 回以上の活動に参加する)
- 11 回：事後学習①「アスポート学習支援活動参加のふりかえり－1」
・体験のリフレクション／アスポート学習支援活動の位置づけ
- 12 回：事後学習②「アスポート学習支援活動参加のふりかえり－2」
・体験のリフレクション／グループ別活動報告会準備
- 13 回：事後学習③「アスポート学習支援活動参加のふりかえり－3」
・体験のリフレクション／グループ別活動報告会準備
- 14 回：事後学習④「活動報告会 グループ別発表／総括討論」

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

以下の書籍が授業に関連するので、予習などに活用してもらいたい。

駒村康平・田中聡一郎（2019）『検証・新しいセーフティネット——生活困窮者自立支援制度と埼玉県アスポート事業の挑戦』

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 活動報告会資料・プレゼンテーション:50% 事前学習・事後学習時のリアクションペーパー:10% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

駒村康平・田中聡一郎 『検証・新しいセーフティネット』 新泉社 2019 4787719076

逸見・原田・藤枝・立教大学サービスラーニングセンター編著 『リベラルアーツとしてのサービスラーニングシティズンシップを耕す教育ー』 北樹出版 2017 9784779305306

適宜、授業時に紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

- ・フィールドワークを実施するため、メール等の連絡がつくようにしてください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- ・授業内で報告会資料の作成を行うので、授業に PC を持参する回（事後学習時）がある。

その他/ Others

【全体的な注意事項】

- ・本シラバスの内容は、自然災害やその他社会情勢によって変更となる場合がある。
- ・本科目の具体的な学外活動内容、履修申込方法等の詳細は、別途 RSL センターHP にて8月上旬公開予定の「履修の手引き」を参照すること。（閲覧は要 V-CampusID/PW）
- ・本科目は科目の特性上、原則学外活動も含め対面授業で実施する。これを充分理解した上で履修すること。
- ・学外活動は10月中旬～12月中旬の期間、埼玉県全域で開催される「アスポート学習教室」に参加する形式で実施する。具体的な内容については「履

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者対象科目
- ・多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

R S Lーコミュニティ（池袋）

Rikkyo Service Learning on Community Fields(Ikebukuro)

地域社会における多文化共生と相互連帯

(Multicultural Conviviality and Mutual Solidarity in Local Communities)

福原 充 (FUKUHARA MITSURU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV512

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 他

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2650

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ①池袋の地域特性、多文化共生をめぐる現状と課題について人文科学的な視点から理解し、説明できるようになる。
- ②自分の社会的関心と、池袋地域を中心とした多文化共生をめぐる課題との接点がどこにあるかを理解し、説明できるようになる。
- ③地元住民、外国人住民、行政、大学等との対話や交流を通じて、それぞれの立場や視点、背景等を理解・尊重し、自分自身の考えを構築し、説明できるようになる。
- ④多文化共生をめぐる地域の諸問題を発見し、改善を図るための方法論（近隣連帯の仕組みづくり）を歴史・福祉・芸術文化等のテーマから主体的

This course aims to the following:

- (1) Understand and become capable of explaining the regional features of Ikebukuro, the status and issues concerning multi-culturalcoexistence from humanities perspective.

- (2) Understand and become capable of explaining where the student's social interest meets the issues concerning multi-cultural coexistence in the centered in the Ikebukuro area
- (3) Through communication and exchange with local residents, foreign residents, municipality, and university, etc., understand and respect the positioning, perspective, and background of each stakeholder, build own view, and become capable of explaining the view.
- (4) Identify various local issues concerning multi-cultural coexistence, and prepare a proactive and specific methodology for improvement (creation of a structure for neighborhood solidarity) based on themes such as history, welfare, art and culture, etc., and become capable of explaining the expected effect.

授業の内容 / Course Contents

本科目では、国際化に対応した都市づくりが進む豊島区にあって、その中核である池袋地域を中心とする多文化共生の地域社会づくりを取り巻く歴史・現状と課題を地域関係者・専門家等の支援を得ながら掘り起こし、住民との協働を通じてその課題発見および改善のための仕掛け・仕組みづくりの過程に取り組む。

2024年度は、履修者を3つのテーマ・グループ（歴史・記憶班、次世代・子育て班、芸術・文化班）に編成し、池袋の多文化共生に資する交流機会、身近な生活課題を発見・改善する近隣連帯の仕組みにつながるアプローチを、フィールド活動として近隣関係者との対話やヒアリング、地域活動等の交流を通じて考える。

With help from local stakeholders and experts, students will learn the history, current status, and issues surrounding the creation of multi-cultural coexistence in the centered on the Ikebukuro area, the center of Toshima-Ku, which is promoting international urban planning, and engage in the identification of issues and creation of a framework/structure for improvement through collaboration with the residents. For AY2024, students will be divided into three theme groups (history/memory group, next-generation/child-rearing group, arts and culture group) to devise an approach that will lead to opportunities for exchange that contributes to the multi-cultural coexistence in Ikebukuro and a structure for neighborhood solidarity to identify/improve basic living issues based on dialogue, hearings, local activities, conducted with neighborhood stakeholders as fieldwork.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：事前学習①：オリエンテーション（RSLの学びについて、本授業の目的等）
- 2回：事前学習②：池袋（豊島区）における多文化共生について（1）
- 3回：事前学習③：池袋（豊島区）における多文化共生について（2）
- 4回：事前学習④：フィールド活動にむけたレクチャーやワーク
- 5回：池袋地域における多文化共生に関するフィールド活動（近隣関係者との対話やヒアリング、地域活動等の交流）
- 6回：池袋地域における多文化共生に関するフィールド活動（近隣関係者との対話やヒアリング、地域活動等の交流）
- 7回：池袋地域における多文化共生に関するフィールド活動（近隣関係者との対話やヒアリング、地域活動等の交流）
- 8回：池袋地域における多文化共生に関するフィールド活動（近隣関係者との対話やヒアリング、地域活動等の交流）
- 9回：池袋地域における多文化共生に関するフィールド活動（近隣関係者との対話やヒアリング、地域活動等の交流）
- 10回：池袋地域における多文化共生に関するフィールド活動（近隣関係者との対話やヒアリング、地域活動等の交流）
- 11回：事後学習①：フィールド活動の振り返り（1）

12回：事後学習②：フィールド活動の振り返り（2）

13回：事後学習③：グループ別発表準備

14回：事後学習④：発表及び総括討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

・授業時に必要に応じて指示する。なお、可能であればフィールド活動とは別に地域資源を体感するためのフィールドワーク等を実施する。

・授業時間外でフィールド活動や報告資料の作成、プレゼンテーション等に関する作業が発生する場合があります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% フィールド活動報告資料・プレゼンテーション:50% 事前学習・事後学習時のリアクションペーパー:20% 最終レポート割合：30%

テキスト / Textbooks

テキストは指定せず、授業時にレジユメ等を配布する。

参考文献 / Readings

逸見・原田・藤枝編著 立教大学 RSL センター編集 『リベラルアーツとしてのサービスラーニング—シテイズンシップを耕す教育—』 北樹出版 2017 9784779305306

授業時に紹介する。

なお、レポートの作成やプレゼンテーションの準備については、立教大学の『Master of Writing』、『Master of Presentation』等が参考になる。以下の URL よりダウンロードできるので、適時、必要に応じて活用すること。

（URL：<https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/master.html>）

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配付、授業中の作業などで「Canvas LMS」を使用するので、授業に PC を持参すること。

その他 / Others

【全体的な注意事項】

- ・本シラバスの内容は、自然災害やその他社会情勢によって変更となる場合がある。
- ・本科目の具体的な学外活動内容、履修申込方法等の詳細は、別途 RSL センターHP にて 8 月上旬公開予定の「履修の手引き」を参照すること。（閲覧は要 V-CampusID/PW）
- ・本科目は科目の特性上、原則学外活動も含め対面授業で実施する。これを充分理解した上で履修すること。
- ・学外活動は 10 月中旬～12 月中旬の期間（予定）、豊島区及びその周辺で生活している方、働いている方等を対象とした、フィールドでの活動（1 人

注意事項

- ・2016 年度以降 1 年次入学者対象科目
- ・多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

R S L - 1

Rikkyo Service Learning-1

生活困窮者への埼玉県アスポート学習支援

田中 聡一郎 (TANAKA SOICHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FV516
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 実習
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

サービslラーニングの手法に基づきながら生活困窮世帯に暮らす中学生を対象とした埼玉県内の学習支援事業への参加を通じて、生活保護制度の運用実態に触れるとともに、貧困と格差、社会的包摂等を巡る諸問題についての理解を深める。

Students will follow service-learning methods and participate in educational supports in Saitama Prefecture, focusing on middle school students from financially challenged populations. By involving in actual operations of public assistance system, students will deepen their understanding on various issues including poverty, inequality, and social inclusion.

授業の内容 / Course Contents

校内での事前学習では、生活保護制度や子どもの貧困について学習する。

学外での活動として、一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワークが主催する「アスポート学習教室」に、学習指導員として履修者が参加し、教室に参加する中学生に、学習サポートを行う。

事後学習として、事前学習およびアスポート学習教室での活動を通しての学びの成果、気づきについての報告

会をおこなう。

As their prior training in the university, students will learn about public assistance system and child poverty. As activities outside of the university, students will participate in Asuport Classroom organized by Asuport general incorporated association as instructors and support learning of participating middle school students. As post learning, students will participate in briefing sessions to report on their learning results and realizations during prior learning and Asuport Classroom activities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：事前学習①「オリエンテーション／サービスラーニングの学修のポイント、授業の目的」
- 2回：事前学習②「社会保障の基礎」
- 3回：事前学習③「埼玉県内で実施されているアスポート事業の政策的意義」
- 4回：事前学習④「貧困と「学習支援」／「立教生ができる」活動としての学習支援／活動オリエンテーション」
- 5回：アスポート学習支援活動への参加(活動期間中8回以上の活動に参加する)
- 6回：アスポート学習支援活動への参加(活動期間中8回以上の活動に参加する)
- 7回：アスポート学習支援活動への参加(活動期間中8回以上の活動に参加する)
- 8回：アスポート学習支援活動への参加(活動期間中8回以上の活動に参加する)
- 9回：アスポート学習支援活動への参加(活動期間中8回以上の活動に参加する)
- 10回：アスポート学習支援活動への参加(活動期間中8回以上の活動に参加する)
- 11回：事後学習①「アスポート学習支援活動参加のふりかえり－1」
・体験のリフレクション／アスポート学習支援活動の位置づけ
- 12回：事後学習②「アスポート学習支援活動参加のふりかえり－2」
・体験のリフレクション／グループ別活動報告会準備
- 13回：事後学習③「アスポート学習支援活動参加のふりかえり－3」
・体験のリフレクション／グループ別活動報告会準備
- 14回：事後学習④「活動報告会 グループ別発表／総括討論」

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

以下の書籍が授業に関連するので、予習などに活用してもらいたい。

駒村康平・田中聡一郎（2019）『検証・新しいセーフティネット——生活困窮者自立支援制度と埼玉県アスポート事業の挑戦』

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 活動報告会資料・プレゼンテーション:50% 事前学習・事後学習時のリアクションペーパー:10% 最終レポート割合:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

駒村康平・田中聡一郎 『検証・新しいセーフティネット』 新泉社 2019 4787719076

逸見・原田・藤枝・立教大学サービスラーニングセンター編著 『リベラルアーツとしてのサービスラーニングシティズンシップを耕す教育ー』 北樹出版 2017 9784779305306

適宜、授業時に紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

- ・フィールドワークを実施するため、メール等の連絡がつくようにしてください。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

- ・授業内で報告会資料の作成を行うので、授業に PC を持参する回（事後学習時）がある。

その他/ Others

【全体的な注意事項】

- ・本シラバスの内容は、自然災害やその他社会情勢によって変更となる場合がある。
- ・本科目の具体的な学外活動内容、履修申込方法等の詳細は、別途 RSL センターHP にて8月上旬公開予定の「履修の手引き」を参照すること。（閲覧は要 V-CampusID/PW）
- ・本科目は科目の特性上、原則学外活動も含め対面授業で実施する。これを充分理解した上で履修すること。
- ・学外活動は10月中旬～12月中旬の期間、埼玉県全域で開催される「アスポート学習教室」に参加する形式で実施する。具体的な内容については「履

注意事項

- ・2012～2015年度1年次入学者対象科目
- ・総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／総合自由科目

R S L - 1 - b

Rikkyo Service Learning-1-b

地域社会における多文化共生と相互連帯

(Multicultural Conviviality and Mutual Solidarity in Local Communities)

福原 充 (FUKUHARA MITSURU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV517

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 他

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： -----

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

- ①池袋の地域特性、多文化共生をめぐる現状と課題について人文科学的な視点から理解し、説明できるようになる。
- ②自分の社会的関心と、池袋地域を中心とした多文化共生をめぐる課題との接点がどこにあるかを理解し、説明できるようになる。
- ③地元住民、外国人住民、行政、大学等との対話や交流を通じて、それぞれの立場や視点、背景等を理解・尊重し、自分自身の考えを構築し、説明できるようになる。
- ④多文化共生をめぐる地域の諸問題を発見し、改善を図るための方法論（近隣連帯の仕組みづくり）を歴史・福祉・芸術文化等のテーマから主体的

This course aims to the following:

- (1) Understand and become capable of explaining the regional features of Ikebukuro, the status and issues concerning multi-culturalcoexistence from humanities perspective.

(2) Understand and become capable of explaining where the student's social interest meets the issues concerning multi-cultural coexistence in the centered in the Ikebukuro area

(3) Through communication and exchange with local residents, foreign residents, municipality, and university, etc., understand and respect the positioning, perspective, and background of each stakeholder, build own view, and become capable of explaining the view.

(4) Identify various local issues concerning multi-cultural coexistence, and prepare a proactive and specific methodology for improvement (creation of a structure for neighborhood solidarity) based on themes such as history, welfare, art and culture, etc., and become capable of explaining the expected effect.

授業の内容 / Course Contents

本科目では、国際化に対応した都市づくりが進む豊島区にあって、その中核である池袋地域を中心とする多文化共生の地域社会づくりを取り巻く歴史・現状と課題を地域関係者・専門家等の支援を得ながら掘り起こし、住民との協働を通じてその課題発見および改善のための仕掛け・仕組みづくりの過程に取り組む。

2024年度は、履修者を3つのテーマ・グループ（歴史・記憶班、次世代・子育て班、芸術・文化班）に編成し、池袋の多文化共生に資する交流機会、身近な生活課題を発見・改善する近隣連帯の仕組みにつながるアプローチを、フィールド活動として近隣関係者との対話やヒアリング、地域活動等の交流を通じて考える。

With help from local stakeholders and experts, students will learn the history, current status, and issues surrounding the creation of multi-cultural coexistence in the centered on the Ikebukuro area, the center of Toshima-Ku, which is promoting international urban planning, and engage in the identification of issues and creation of a framework/structure for improvement through collaboration with the residents. For AY2024, students will be divided into three theme groups (history/memory group, next-generation/child-rearing group, arts and culture group) to devise an approach that will lead to opportunities for exchange that contributes to the multi-cultural coexistence in Ikebukuro and a structure for neighborhood solidarity to identify/improve basic living issues based on dialogue, hearings, local activities, conducted with neighborhood stakeholders as fieldwork.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：事前学習①：オリエンテーション（RSLの学びについて、本授業の目的等）

2回：事前学習②：池袋（豊島区）における多文化共生について（1）

3回：事前学習③：池袋（豊島区）における多文化共生について（2）

4回：事前学習④：フィールド活動にむけたレクチャーやワーク

5回：池袋地域における多文化共生に関するフィールド活動（近隣関係者との対話やヒアリング、地域活動等の交流）

6回：池袋地域における多文化共生に関するフィールド活動（近隣関係者との対話やヒアリング、地域活動等の交流）

7回：池袋地域における多文化共生に関するフィールド活動（近隣関係者との対話やヒアリング、地域活動等の交流）

8回：池袋地域における多文化共生に関するフィールド活動（近隣関係者との対話やヒアリング、地域活動等の交流）

9回：池袋地域における多文化共生に関するフィールド活動（近隣関係者との対話やヒアリング、地域活動等の交流）

10回：池袋地域における多文化共生に関するフィールド活動（近隣関係者との対話やヒアリング、地域活動等の交流）

11回：事後学習①：フィールド活動の振り返り（1）

12 回：事後学習②：フィールド活動の振り返り（2）

13 回：事後学習③：グループ別発表準備

14 回：事後学習④：発表及び総括討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド（パワー等）の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	: ○
個人発表	: ○	グループ発表	: ○	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	: ○	学内の教室外施設の利用	: ○	校外実習・フィールドワーク	: ○
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

・授業時に必要に応じて指示する。なお、可能であればフィールド活動とは別に地域資源を体感するためのフィールドワーク等を実施する。

・授業時間外でフィールド活動や報告資料の作成、プレゼンテーション等に関する作業が発生する場合があります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% フィールド活動報告資料・プレゼンテーション:50% 事前学習・事後学習時のリアクションペーパー:20% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

テキストは指定せず、授業時にレジユメ等を配布する。

参考文献 / Readings

逸見・原田・藤枝編著 立教大学 RSL センター編集 『リベラルアーツとしてのサービスラーニング—シテイズンシップを耕す教育—』 北樹出版 2017 9784779305306

授業時に紹介する。

なお、レポートの作成やプレゼンテーションの準備については、立教大学の『Master of Writing』、『Master of Presentation』等が参考になる。以下の URL よりダウンロードできるので、適時、必要に応じて活用すること。

(URL : <https://www.rikkyo.ac.jp/about/activities/fd/cdshe/master.html>)

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配付、授業中の作業などで「Canvas LMS」を使用するので、授業に PC を持参すること。

その他 / Others

【全体的な注意事項】

- ・本シラバスの内容は、自然災害やその他社会情勢によって変更となる場合がある。
- ・本科目の具体的な学外活動内容、履修申込方法等の詳細は、別途 RSL センターHP にて 8 月上旬公開予定の「履修の手引き」を参照すること。（閲覧は要 V-CampusID/PW）
- ・本科目は科目の特性上、原則学外活動も含め対面授業で実施する。これを充分理解した上で履修すること。
- ・学外活動は 10 月中旬～12 月中旬の期間（予定）、豊島区及びその周辺で生活している方、働いている方等を対象とした、フィールドでの活動（1 人

注意事項

- ・2012～2015 年度 1 年次入学者対象科目
- ・総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通カリキュラム／総合自由科目

R S Lーローカル（南魚沼）

Rikkyo Service Learning on Local Scale Fields(Minami-uonuma)

雪掘りと農村交流を通して持続可能な社会を考える

高野 孝子 (TAKANO TAKAKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV521
授業形態：	対面（全回対面）
授業形態（補足事項）	対面
校地：	他
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2650
使用言語：	日本語
授業形式：	実習
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

高齢化の進む農村とその一帯での体験的な学習を通して、現代社会の構造の一端を意識化し、自然と人間の関係や、本質的な豊かさについて問い直す。持続可能な社会の実現について考える。

Students are to recognise part of the structure of modern society through experiences in small villages and the area where the rapid aging is in progress. They are to question values linked to "richness" and to acquire a variety of perspectives to think about a sustainable society.

授業の内容 / Course Contents

*フィールドワークの実施や場所は、自然災害やその他社会状況によって変化することに注意。

豪雪地帯（新潟県南魚沼市予定）でのフィールドワーク。雪掘りを中心とした活動や住民との交流を通して、雪国で暮らすことの意味を理解する。伝統知や地域文化、そこでの生活に触れ、人と自然の共生や豊かさ、コミュニティの意味、市民としての役割を考える。雪掘りのほか、地元の超小規模小学校訪問や、ディスカッション、家庭訪問、雪と触れ合う活動を予定している。

Field works take place in the heavy snowfall region of Minamiuonuma City, Niigata Prefecture. Through

communication with local residents and activities such as snow removal, or 'Yuki-hori', students will gain a better understanding of life in snowy regions. They will learn from local traditions, knowledge, and culture, and reflect on their roles as citizens in society, the meaning of community, and the coexistence of humans and nature. The itinerary includes a visit to a small local school, as well as visits to local homes and snow activities. Discussions will also be held.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：フィールドワーク全体に関するオリエンテーション
- 2 回：滞在する集落と一帯について講義。現状と課題
- 3 回：集落の観察
- 4 回：安全に道具を使い、活動できるよう、雪掘り講習
- 5 回：現代の農業を巡る課題と、農村環境を維持するための試み、現状などについて講義
- 6 回：地域の四季を写真で見る。冬の位置づけと、それ以外の季節の様子を知り、季節に応じた、人の自然への関わりを見る。
- 7 回：雪掘り1。特に高齢者単独世帯の支援または公道
- 8 回：栃窪小学校訪問、小学生と交流
- 9 回：雪掘り2。消防施設周辺の雪片付け
- 10 回：伝統知としての保存食を知る
- 11 回：和かんじきで雪上ハイキング。雪を知り、雪を楽しむ
- 12 回：少人数に分かれて、民家にて茶話インタビュー
- 13 回：ディスカッション
- 14 回：発表、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

志望理由書提出のほか、事前学習会で資料を配布する。実習に向けての読書課題や視聴課題のほか、実習後のレポート課題には独自に文献を探して学習する必要がある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 実習中の積極的な参加と観察、表現：65% フィールドワーク前と後の学習会での積極的な参加：10% 提出課題：10% 最終レポート割合：15%

テキスト / Textbooks

事前学習時に提示、または適宜指示する

参考文献 / Readings

岩崎／高野 『場の教育』 農文協 2010 9784540 092251

逸見・原田・藤枝編著 『リベラルアーツとしてのサービスラーニング—ティズンシップを耕す教育—』

北樹出版 2017 9784 77930530 6

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

人々の暮らしの場にお邪魔するフィールドワークなので、異文化や他者に対するリスペクトを持って、行動することができること。事前事後の課題もあるので、計画的にワークに取り組むことができる能力。共に学び合う場であるので、積極的にコミュニケーションを取ることができ、自身の思いや考えをアウトプットできること。何よりも、主体的、積極的に学びの場に関わることができる力と、好奇心。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配付、授業中の課題の提出などに「CanvasLMS」を使用する。課題を読み合い、メモを取るために、事後学習の機会にはPCを持参することを推奨する。

実習にあたっては、防寒着や水筒、マイカップなど。

その他/ Others

【全体的な注意事項】

- ・本シラバスの内容は、自然災害やその他社会情勢によって変更となる場合がある。
- ・本科目の具体的な学外活動内容、履修申込方法等の詳細は、別途 RSL センターHP にて 8 月上旬公開予定の「履修の手引き」を参照すること。(閲覧は要 V-CampusID/PW)
- ・本科目は科目の特性上、原則対面授業で実施する。特に学外活動を対面で実施する場合は宿泊形式で実施するので、これに参加することが履修の条件となる。この点を充分理解した上で履修すること。
- ・対面による学外活動は 2025 年 2 月 4 日 (火) ~7 日 (

注意事項

- ・2016 年度以降 1 年次入学者対象科目
- ・多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目 / 多彩な学び

R S Lーローカル（地域共生）

Rikkyo Service Learning on Local Fields(an inclusive society)

SOCIAL&PUBLIC（SDG s とグローカルの可能性と実践からウェルビーイングへ）

加賀崎 勝弘（KAGASAKI KATSUHIRO）

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV522

授業形態： 対面（全回対面）

授業形態（補足事項）

校地： 他

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2650

使用言語： 日本語

授業形式： 実習

履修登録方法： 抽選登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

SDG s とグローカルの可能性を、実践の中から五感で学び、ウェルビーイングへとつなげる

SDGs Goal3「すべての人に健康と福祉を」/ Goal8「働きがいも経済成長も」/9「産業と技術革新の基盤づくり」/11「住み続けられるまちづくり」を自分ごととして理解し、課題解決に必要な視点や方法を身につける。同時にデザイン目線、プロデューサー感覚を養う授業にもしたい。実社会の現場での活動と、教室における学問的な教育とを結合し、総合的な学習から 22 世紀をつくる人材を育てることを目標とする。

Learn the SDGs and glocal possibilities with five senses through practice and connect them to well-being
SDGs Goal3 "Health and welfare for all" / Goal8 "Rewarding work and economic growth" / 9 "Building a foundation for industry and technological innovation" / 11 "Creating a city where people can continue to live" and solving problems Acquire the necessary viewpoints and methods. At the same time, I would like to have a lesson that cultivates a sense of design and a sense of producer. The goal is to develop human resources who will create the 22nd century from comprehensive learning by combining activities in the real world and academic education in the classroom.

授業の内容 / Course Contents

活動場所は、埼玉県熊谷市。熊谷市は、日本最高気温 41.1 度を記録し、環境破壊への問題意識が強い市町村として有名だ。実際、環境省から暑さ対策で殿堂入りなどを行っている。また、利根川と荒川が最接近しており水が豊富で、快晴日数も日本一。要するに、水、土、太陽に恵まれた肥沃な土地で、食材の宝庫でもある。

SOCIAL & PUBLIC とは、熊谷市にある有限会社 PUBLIC DINER と埼玉福興株式会社の合同レーベルであり、活動体の名称。PUBLICDINER は、飲食店 6 店舗、ゲストハウスなどを運営し、地域を食でデザインする。また、熊谷圏オーガニックフェスや埼玉県 63 市町村キーマン展など展開し、埼玉県内を有機的なつながりで結ぶ。埼玉福興では、多様な「人財」活用のひとつとして、しょうがい者を雇用しつつ、農業生産を行う農福連携の世界的企業だ。この二つの会社が織りなす SDGs とグローバルの可能性を、実践の中から、体で学ぶ。

具体的には、上記活動の拠点となる古民家をリノベーションしたゲストハウス「THE PUBLIC」に宿泊し、地域とのかかわりながら「農からはじまる暮らし」を体験する。仕事は、しょうがい者との農作業（水耕栽培、夏野菜の収穫等）や藍染 etc を体験。地域の中で、各取組が、SDGs が日々の生活の中で、いかに実践されているか？を体感し、グローバルの可能性を、実践の中から五感で学んでいく。

授業を通じて、自分とは何者なのか？を知り、自分の未来を、自分で切り開くきっかけとなるだろう。

この授業の 1 期生は、東京大学主催『チャレンジオープンガバナス 2022』においてグランプリである総合賞を受賞。2 期生は、立教大学ポール・ラッシュ博士記念奨学金に採用され、学びを実践へとつなげている。これららの取り組みを、3 期生でさらに形にしていこう。

The place of activity is Kumagaya City, Saitama Prefecture. Kumagaya City has a record high temperature of 41.1 degrees Celsius in Japan and is famous as a municipality with a strong awareness of environmental destruction. In fact, the Ministry of the Environment has been inducted into the Hall of Fame as a measure against the heat. In addition, the Tone River and Arakawa are the closest, and the water is abundant, and the number of sunny days is the best in Japan. In short, it is a fertile land blessed with water, soil and the sun, and is also a treasure trove of foodstuffs.

SOCIAL & PUBLIC is a joint label of PUBLIC DINER Co., Ltd. in Kumagaya City and Saitama Fukuko Co., Ltd., and is the name of the activity. PUBLICDINER operates 6 restaurants, guest houses, etc. and designs the area with food. In addition, we will develop organic festivals in the Kumagaya area and the Keyman Exhibition of 63 municipalities in Saitama prefecture, connecting Saitama prefecture with organic connections. In addition, Saitama Fukuko is a global company of agricultural and fortune cooperation that employs people with disabilities and produces agricultural products as one of the various "human resources" utilization. SDGs and glocalization possible by these two companies Learn sexuality from practice with your body.

Who am I through my lessons? It will be an opportunity to know and open up your own future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：事前学習①：オリエンテーション（目標と方向性の設定、チームビルディング）／地域を食でデザインする（何を学ぶか？を知る①）
- 2 回：事前学習②：農福連携とデザイン（何を学ぶか？を知る②）
- 3 回：事前学習③：ウェルビーイングと SDGs の取組をデザインする（何を学ぶか？を知る③）
- 4 回：事前学習④：アウトプットをデザインするためには？（何を学ぶか？を知る④）
- 5 回：フィールド活動① 農福連携 土に触れる
- 6 回：フィールド活動② 農福連携 作物に触れる

- 7回：フィールド活動③ 農福連携 太陽を感じる
 8回：フィールド活動④ 農福連携 水を感じる
 9回：フィールド活動⑤ SOCIAL&PUBLIC 繋がりをを感じる
 10回：フィールド活動⑥ SOCIAL&PUBLIC 持続可能性を感じる
 11回：事後学習①： ディスカッションとシェア
 12回：事後学習②： 体験を構造化する＝プロデュース感覚を身に付ける
 13回：事後学習③： 発表＝体験をアウトプットする
 14回：事後学習④： フィードバック（未来に繋げる）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 事前学習と事後学習の積極的な参加とリアクションペーパーの提出:30% フィールドワーク中の積極的な参加と発表:30% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコン

その他 / Others

【全体的な注意事項】

- ・本シラバスの内容は、自然災害やその他社会情勢によって変更となる場合がある。
- ・本科目の具体的な学外活動内容、履修申込方法等の詳細は、別途 RSL センターHP にて 3 月上旬公開予定の「履修の手引き」を参照すること。（閲覧は要 V-CampusID/PW）
- ・本科目は科目の特性上、原則対面授業で実施する。特に学外活動は宿泊形式で実施するので、これに参加することが履修の条件となる。この点を充分理解した上で履修すること。
- ・対面による学外活動は 2024 年 8 月 1 日（木）～5 日（金）の期間、本科目の

注意事項

- ・2016 年度以降 1 年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012～2015 年度 1 年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

R S L - 2

Rikkyo Service Learning-2

雪掘りと農村交流を通して持続可能な社会を考える

高野 孝子 (TAKANO TAKAKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FV526
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面
校地： 他
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： -----
使用言語： 日本語
授業形式： 実習
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

高齢化の進む農村とその一帯での体験的な学習を通して、現代社会の構造の一端を意識化し、自然と人間の関係や、本質的な豊かさについて問い直す。持続可能な社会の実現について考える。

Students are to recognise part of the structure of modern society through experiences in small villages and the area where the rapid aging is in progress. They are to question values linked to "richness" and to acquire a variety of perspectives to think about a sustainable society.

授業の内容 / Course Contents

*フィールドワークの実施や場所は、自然災害やその他社会状況によって変化することに注意。

豪雪地帯（新潟県南魚沼市予定）でのフィールドワーク。雪掘りを中心とした活動や住民との交流を通して、雪国で暮らすことの意味を理解する。伝統知や地域文化、そこでの生活に触れ、人と自然の共生や豊かさ、コミュニティの意味、市民としての役割を考える。雪掘りのほか、地元の超小規模小学校訪問や、ディスカッション、家庭訪問、雪と触れ合う活動を予定している。

Field works take place in the heavy snowfall region of Minamiuonuma City, Niigata Prefecture. Through

communication with local residents and activities such as snow removal, or 'Yuki-hori', students will gain a better understanding of life in snowy regions. They will learn from local traditions, knowledge, and culture, and reflect on their roles as citizens in society, the meaning of community, and the coexistence of humans and nature. The itinerary includes a visit to a small local school, as well as visits to local homes and snow activities. Discussions will also be held.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：フィールドワーク全体に関するオリエンテーション
- 2回：滞在する集落と一帯について講義。現状と課題
- 3回：集落の観察
- 4回：安全に道具を使い、活動できるよう、雪掘り講習
- 5回：現代の農業を巡る課題と、農村環境を維持するための試み、現状などについて講義
- 6回：地域の四季を写真で見る。冬の位置づけと、それ以外の季節の様子を知り、季節に応じた、人の自然への関わりを見る。
- 7回：雪掘り1。特に高齢者単独世帯の支援または公道
- 8回：栃窪小学校訪問、小学生と交流
- 9回：雪掘り2。消防施設周辺の雪片付け
- 10回：伝統知としての保存食を知る
- 11回：和かんじきで雪上ハイキング。雪を知り、雪を楽しむ
- 12回：少人数に分かれて、民家にて茶話インタビュー
- 13回：ディスカッション
- 14回：発表、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

志望理由書提出のほか、事前学習会で資料を配布する。実習に向けての読書課題や視聴課題のほか、実習後のレポート課題には独自に文献を探して学習する必要がある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 実習中の積極的な参加と観察、表現：65% フィールドワーク前と後の学習会での積極的な参加：10% 提出課題：10% 最終レポート割合：15%

テキスト / Textbooks

事前学習時に提示、または適宜指示する

参考文献 / Readings

岩崎／高野 『場の教育』 農文協 2010 9784540 092251

逸見・原田・藤枝編著 『リベラルアーツとしてのサービスラーニングーシ ティズンシップを耕す教育ー』

北樹出版 2017 9784 77930530 6

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

人々の暮らしの場にお邪魔するフィールドワークなので、異文化や他者に対するリスペクトを持って、行動することができること。事前事後の課題もあるので、計画的にワークに取り組むことができる能力。共に学び合う場であるので、積極的にコミュニケーションを取ることができ、自身の思いや考えをアウトプットできること。何よりも、主体的、積極的に学びの場に関わることができる力と、好奇心。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料の配付、授業中の課題の提出などに「CanvasLMS」を使用する。課題を読み合い、メモを取るために、事後学習の機会にはPCを持参することを推奨する。

実習にあたっては、防寒着や水筒、マイカップなど。

その他/ Others

【全体的な注意事項】

- ・本シラバスの内容は、自然災害やその他社会情勢によって変更となる場合がある。
- ・本科目の具体的な学外活動内容、履修申込方法等の詳細は、別途RSLセンターHPにて8月上旬公開予定の「履修の手引き」を参照すること。(閲覧は要V-CampusID/PW)
- ・本科目は科目の特性上、原則対面授業で実施する。特に学外活動を対面で実施する場合は宿泊形式で実施するので、これに参加することが履修の条件となる。この点を充分理解した上で履修すること。
- ・対面による学外活動は2025年2月4日(火)～7日(

注意事項

- ・2012～2015年度1年次入学者対象科目
- ・総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項 (検索結果画面)

全学共通カリキュラム／総合自由科目

R S Lーグローバル（フィリピン）

Rikkyo Service Learning on Global Scale Fields (Philippines)

Rikkyo Service Learning Program in the Philippines

中沢 聖史 (NAKAZAWA SATOSHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FV531
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項） 対面（全回対面）
校地： 他
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2653
使用言語： その他
授業形式： 実習
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

履修生は日本、韓国、インド、フィリピンの大学生たちとマニラでの地域貢献活動に従事することを通して、サービスラーニングの基礎について学ぶ。

Students will learn the basics of service learning by engaging in community service activities in Manila with university students from Japan, Korea, India, and the Philippines.

授業の内容 / Course Contents

事前学習では、サービスラーニングとマニラのコミュニティの社会状況について学習する。フィリピンでは韓国人、フィリピン人、インド人などの学生と一緒に行動し、オリエンテーションの後、アジア・トリニティ大学がコミュニティサービスを実践する地域で活動する。ボランティア活動は、幼稚園、ストリートチルドレンのための施設、医療施設などで行われる。活動を通してフィリピン社会や活動地域周辺の社会課題への理解を深める。

Pre-departure sessions will introduce service learning and the social situations of communities in Manila. In the Philippines, students will join with Korean, India and Philippine students, and after orientation sessions they will

・対面による学外実習は2025年2月上旬～中旬（約2週間）の期間、フィリピン

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者対象科目
- ・多彩な学び

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

R S LーグローバルA

Rikkyo Service Learningon Glocal Fields A

実践 SDGs-河川/海洋ごみ問題の現場から学ぶ社会課題-

今村 和志 (IMAMURA KAZUYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等： FV561
授業形態： 対面（全回対面）
授業形態（補足事項）
校地： 他
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： CMP2650
使用言語： 日本語
授業形式： 実習
履修登録方法： 抽選登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否：
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

世界的に注目される“海洋ごみ問題”。SDGs では No one will be left behind(誰ひとり取り残さない)を掲げている。海洋ごみ問題はその他の社会課題と相互につながっていることを講義、フィールドワークを通じて認識し、その解決に向けた取組を実践する。当該科目では SDGs の掲げるゴール 12、14、15、17 に焦点を当て、課題の構造やその解決に向けた視点を養う。

The "marine litter problem" has been attracting global attention. Through lectures and fieldwork, to recognize that marine litter issues are interconnected with other social issues and implement measures to solve. This course focuses on Goals 12, 14, 15, and 17 of the SDGs, and cultivates the structure of the issues and perspectives for solving.

授業の内容 / Course Contents

荒川河川敷(最寄り駅から徒歩 15 分以内想定)でのフィールドワーク。国内屈指の流域人口密度を誇る荒川が持つ社会課題の 1 つ“河川ごみ問題”に焦点を当て、当該問題の生じる原因に関する講義や解決に向けたイベントを組み立て、実践することで現場・現実・現物から SDGs を学ぶ。

Fieldwork on riverbed of the Arakawa River. Focusing on the "river litter problem," one of the social issues faced by the Arakawa River, which boasts highest population densities in Japan, students will learn about the causes of this problem through lectures and by constructing and practicing events aimed to solve.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：事前学習 1: オリエンテーション/講義:社会課題の中の河川/海洋ごみ問題
- 2回：事前学習 2: 講義:非営利活動における広報/マーケティング入門
- 3回：事前学習 3: 講義:フィールドワーク主催に向けた準備
一般公募イベントの組立(Web サイト掲載、広報実践)
- 4回：フィールド活動 1 安全な活動に向けて-現地下見と現場整備-
- 5回：フィールド活動 1 安全な活動に向けて-現地下見と現場整備-
- 6回：フィールド活動 2 荒川知水資料館見学 -1 級河川荒川の歴史と素顔を知る
- 7回：フィールド活動 2 北区子どもの水辺見学 -ビオトープの見学
- 8回：フィールド活動 3 実践イベント(荒川清掃)運営 1 -社会課題を伝える-
- 9回：フィールド活動 3 実践イベント(荒川清掃)運営 1 -社会課題を伝える-
- 10回：フィールド活動 4 実践イベント運営(荒川清掃)
ふりかえりや現地にてショートムービーの素材撮影など
- 11回：フィールド活動 4 実践イベント運営(荒川清掃)
ふりかえりや現地にてショートムービーの素材撮影など
- 12回：事後学習 1: ショート動画の作成
- 13回：事後学習 2: ショート動画の作成、発表準備
- 14回：事後学習 3:発表、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド(パワポ等)の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					:

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

河川/海洋ごみ問題の概要(島しょのごみ問題編)についてはYouTube動画をアップしています。

<https://youtu.be/Y5Ex9m5StsI>

https://youtu.be/7A_abfoONQY

<https://youtu.be/rmVX5hfMeLw>

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% フィールドワークへの積極的な参加・プレゼンテーション:50% 事前事後のリアクションペーパー:20% 最終レポート割合 :30%

テキスト/ Textbooks

参考文献 / Readings

その他/ Others

【全体的な注意事項】

- ・本シラバスの内容は、自然災害やその他社会情勢によって変更となる場合がある。

- ・本科目の具体的な学外活動内容、履修申込方法等の詳細は、別途 RSL センターHP にて 8 月上旬公開予定の「履修の手引き」を参照すること。(閲覧は要 V-CampusID/PW)
- ・本科目は科目の特性上、原則対面授業で実施する。特に学外活動は日帰り形式で実施するので、これに参加することが履修の条件となる。この点を充分理解した上で履修すること。
- ・対面による学外活動は 2025 年 2 月 4 日 (火) ~6 日 (木)、8 日 (土) ~

注意事項

- ・2016 年度以降 1 年次入学者：多彩な学び科目
- ・2012~2015 年度 1 年次入学者：総合自由科目

本科目は、担当教員の実務経験、または実務に従事するゲスト・スピーカーの招聘講義等を活かした授業である。

注意事項 (検索結果画面)

全学共通科目／多彩な学び

全学共通カリキュラム／総合自由科目

ACEパートナー大学オンライン（SNU）

ACE Partner University Online Course(SNU)

Literature in the Real World

松井 秀征（MATSUI HIDEYUKI）

開講年度：	2024
科目設置学部：	全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）
科目コード等：	FV601
授業形態：	オンライン（全回オンライン）
授業形態（補足事項）	発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	CMP2631
使用言語：	英語
授業形式：	演習・ゼミ
履修登録方法：	その他登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	○
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	・2 時限連続開講 ・変則的な時間割になっているため、事前に下記「その他」欄を確認すること ・他にソウル大学・北京大学の学生が履修予定 ・他大学の学生の十分な参加が見込めない場合には、募集前に中止となる場合がある

授業の目標 / Course Objectives

In this course, students from different national cultures and disciplines will collaborate to apply literary studies to real life questions or issues. The course will introduce the basics of literary studies, equip students to develop a project, and guide them to apply their understanding of literature to a real life question or issue. It is designed for students who are not majoring in literature, but literature majors are welcome to participate and share their expertise with other students. Please note that students will only practice debating critically and analytically about a literary passage and will not learn to produce a literary essay.

This course will address 3 Cubic Curriculum skills of The ACE program, namely 1) Critical Thinking, 2) Communication, and 3) Collaboration:

1) Students will learn to analyze and think critically about a literary passage and examine what kind of questions

literary critics ask. They will learn to formulate their argument about a literary passage and learn to back it up with evidence.

2) Students will evaluate and revise language, form, and style to communicate ideas and opinions to audience members and readers of diverse disciplinary and cultural backgrounds.

3) Students will define clear goals, listen actively, and share responsibility to develop and complete a group project.

In addition, students will develop their project development and implementation skills. Specifically, they will:

- Develop specific and realistic project goals.
- Develop appropriate strategies to achieve project goals.
- Create a product that will best represent the findings.
- Develop a system to record and organize project plans and findings.
- Identify and apply research ethics.

While the course does not aim to develop interdisciplinary skills, students can practice them when interacting with group members. They may be able to discover similarities and differences as well as intersections between different disciplinary perspectives. They are encouraged to bring in their knowledge of their field to create an interdisciplinary project.

授業の内容 / Course Contents

This course will be conducted by a Seoul National University professor, who researches on nineteenth-century European literature and mathematics in literature.

The course opens with an introduction to literary studies. Students will move beyond simply sharing their initial thoughts and feelings about a literary work to identifying linguistic choices and literary techniques, analyzing their effects, and thinking critically about how an author has decided to present a particular topic. They will work through questions in groups to develop their close reading skills (specific literary passages TBD).

The course will then transition into applying students' literary understanding to a real life question or issue. Since this course is aimed at students who are not majoring in literature, they will be encouraged to "borrow" from literary studies to think critically about their own disciplines and even combine the knowledge and skills of literary studies and their own field. Moreover, this course will motivate students to think about the role that literature plays in our daily life and think again about the popular belief that literature deals only with fiction. This course is unique in that students from China, Japan, Korea, and possibly Singapore can work together. Students will use the class times to develop a group project. Specifically, they will brainstorm ideas, develop a project proposal and get feedback on it from the class, revise their group project based on the feedback, conduct their project, and present their findings. Each student will be expected to submit a record of his or her research notes at the end of the course.

Students will be assessed based on their effort and the quality of their work.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：What is literature? What do literary critics do? How do they read, analyze, and discuss a literary passage?
Meet your group members.

2 回：What is literature? What do literary critics do? How do they read, analyze, and discuss a literary passage?

3 回：How do literary critics read, analyze, and discuss a literary passage?

Practice close reading in groups.

4回：How do literary critics read, analyze, and discuss a literary passage?

Practice close reading in groups.

5回：How do literary critics read, analyze, and discuss a literary passage?

Practice close reading in groups.

6回：How do you plan and develop a project?

Brainstorm and decide on project goals and strategies to achieve those goals.

Undertake audience analysis to present research proposal in class next week.

7回：Present project proposal and get feedback from class.

8回：Develop project based on feedback.

9回：Conduct project.

10回：Conduct project.

11回：Conduct project.

12回：Conduct project.

13回：Present project and get feedback from class.

14回：Present project and get feedback from class.

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students may be asked to read and reflect on the literary passages in advance to prepare for class discussion.

They will also need to communicate with their group members to prepare a presentation on their project proposal and on their final product. They

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation and discussion:20% Project proposal presentation:30% Final project presentation:40% Portfolio of research notes:10%

・ Students must be able to participate fully and actively in the course, since it involves a lot of group work.

Students must communicate all excused absences to the instructor via email. 3 days of unexcused absences will automatically result in an "Fail"

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

Kusch, Celena Literary Analysis: The Basics Taylor & Francis 2016 9780415747097

Greenham, David Close Reading: The Basics Taylor & Francis 2018 9781138562226

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

<English Language Proficiency Requirements>

Cambridge English Qualifications 160, EIKEN 2304, GTEC 1190, IELTS 6.0, TOEFL iBT 72, TEAP 309, TEAP CBT 600, CEFR B2

その他 / Others

<Class Schedule>

4/16, 4/23, 4/30, 5/7, 5/14, 5/21, 5/28, 6/4, 6/11, 6/18 Period 1-2 (10:00~12:25)

<How to apply for this course>

Registration for this course is in mid March. Please see application details on R Guide of University-wide Liberal Arts Cours

注意事項

- ・2016 年度以降 1 年次入学者対象科目
- ・多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

ACEパートナー大学オンライン（PKU）

ACE Partner University Online Course(PKU)

Chinese Traditional Identity and its Modern transformation

松井 秀征（MATSUI HIDEYUKI）

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV602

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2631

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： ・2 時限連続開講

- ・変則的な時間割になっているため、事前に下記「その他」欄を確認すること
- ・他にソウル大学・北京大学の学生が履修予定
- ・他大学の学生の十分な参加が見込めない場合には、募集前に中止となる場合がある

授業の目標 / Course Objectives

Who are Chinese? How did Chinese people think about themselves? How did this identity change throughout the Revolution in 20th century?

This course will lead you explore several key phenomena of the identity transformation in 20th century China. The first target of this introductory course is to help students to understand the basic structure of Chinese traditional social identity from a perspective of sociology. Based on this understanding, this course will further the topic into the transformation of Chinese society and traditional identity after 1949, especially during the Land Revolution and today's Reform and Open policy period.

Required readings include both Chinese classical texts and modern sociological/anthropological works.

授業の内容 / Course Contents

This course will be conducted by Prof. Feiyu Sun of Peking University. He does sociological research from a double perspective of China-Western traditional culture and social theories.

Participation and discussion constitute a central part in this course. Attendance is mandatory.

Students are expected to complete all required readings prior to class meetings and to actively participate in class discussion. Absence without legitimate reasons will lead to deduction in scores for participation and discussion, and in extreme cases, may lead to a student's failure in the course.

The proceeding of the course will be based on students' presentation of the required texts related to the general themes and specific topics. Throughout the course, each student is expected to do two presentations (10 minutes and 15 minutes) which briefly summarize and critique required texts for a particular session. By the end of each presentation, each student is required to join the discussions in class.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：General Introduction / Chinese traditional rural society 1
- 2 回：General Introduction / Chinese traditional rural society 2
- 3 回：Law and Society in Chinese Traditional Society 1
- 4 回：Law and Society in Chinese Traditional Society 2
- 5 回：Continued Law and Society...The New Cultural Movement 1
- 6 回：Continued Law and Society...The New Cultural Movement 2
- 7 回：Continued New Cultural Movement; Society before the Revolution: Poverty 1
- 8 回：Continued New Cultural Movement; Society before the Revolution: Poverty 2
- 9 回：China's Revolution as a background of the Land Revolution 1
- 10 回：China's Revolution as a background of the Land Revolution 2
- 11 回：From Land Revolution to the Big Famine 1
- 12 回：From Land Revolution to the Big Famine 2
- 13 回：Urbanization, Globalization... Modernization of China 1
- 14 回：Urbanization, Globalization... Modernization of China 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Students are expected to complete all required readings prior to class meetings. The proceeding of the course will be based on students' presentation of the required texts related to the general themes and specific topics.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Attendance and class discussions:20% Midterm presentation:40% Final Presentation:40%

Grading will be Pass/Fail.

テキスト / Textbooks

Course materials will be provided ahead of the class.

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

English Language Proficiency Requirements:

Cambridge English Qualifications 160, EIKEN 2304, GTEC 1190, IELTS 6.0, TOEFL iBT 72, TEAP 309, TEAP CBT 600, CEFR B2

その他/ Others

<Class Schedule>

9/21, 9/28, 10/5, 10/12, 10/19, 10/26, 11/9 Period 1-2(9:50~13:25)

<How to apply for this course>

Registration for this course is in mid March. Please see application details on R Guide of University-wide Liberal Arts Courses Comprehensi

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者対象科目
- ・多彩な学び

注意事項（検索結果画面）

全学共通科目／多彩な学び

ACEパートナー大学オンライン（RIK）

ACE Partner University Online Course(RIK)

ACE Seminar on the Development of Cities

田島 夏与 (TAJIMA KAYO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 全学共通科目・全学共通カリキュラム（総合系）

科目コード等： FV604

授業形態： オンライン（全回オンライン）

授業形態（補足事項） オンライン

発話を伴う授業を学内で受講する場合は 8201 教室の利用可。

校地： 池袋

学期： 秋学期 1

単位： 2

科目ナンバリング： CMP2631

使用言語： 英語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否：

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：○

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： ・3 時限連続開講

- ・変則的な時間割になっているため、事前に下記「その他」欄を確認すること
- ・他にソウル大学・北京大学の学生が履修予定
- ・他大学の学生の十分な参加が見込めない場合には、募集前に中止となる場合がある

授業の目標 / Course Objectives

文化・社会・経済の中心地としての都市の役割やその成り立ちを、歴史と現代の視点から検討する。主たる使用文献（Jinnai, 1995）は陣内（1992）『東京の空間人類学』の英訳版であり、17 世紀の江戸から現代の東京へと通じる都市の建築・都市計画史と経済社会の発展を学ぶ。本書の書かれた時代から現在までの都市の変化を自ら分析する視点を身に着けるとともに、アジア各国からの参加者とともに異なる文化・地理的背景の都市の形成過程について調査し、議論する。

In this course, students will study the historical and contemporary development of cities, examining their role from both urban planning and economic perspectives. The primary course material, written by an architectural historian named Jinnai in 1985 in Japanese and translated to English in 1995, focuses on the economic, cultural,

and architectural aspects of Tokyo's development since the seventeenth century. By studying this material, students are expected to gain a new perspective on how to view and analyze cities and apply their new skills to contemporary cities in Asia or other cultures. They will also be encouraged to deepen their understanding through active discussions with students from the ACE partner universities.

授業の内容 / Course Contents

立教大学と ACE プログラムのパートナーの 3 大学から集まった学生間の経験や学習を踏まえた議論を通じて、私たちを取り巻く都市空間についての新たな視点を構築する。社会における都市の役割や歴史的な形成過程を理解するだけでなく、クラスやグループでの議論や共同作業の機会を設け、異なる文化背景と都市の成り立ちについて相互の議論を通じて理解を深める。

5 週にわたって 100 分×3 コマを連続開講するため、毎週原則として 1 時限目では参考文献やその他のリーディング・マテリアルに基づいて、江戸の土地利用から引き継がれた東京の土地利用やそこで生まれた文化・社会の発展について理解する。2 時限目でこれを基に、各国からの授業参加者から成るグループで身近な都市の成り立ちや歴史・文化との関わりについて理解を深める Excercise を行い、3 時限目にこれをクラス全体で共有することにより理解を深める。

最終週には個人で都市と視点を選択してプレゼンテーションを行い、クラス全体で議論する。

The course is offered online and is designed for both Rikkyo and ACE international partner university students. The students work together to learn about the role of cities and their historical development, and gain new perspectives to analyze and view cities. The course provides numerous opportunities for students to practice their skills through group exercises and class discussions.

The class meets for three consecutive 100-minute periods over the course of five weeks. The basic structure of each week consists of three parts: (1) class discussion building on reading materials to learn new concepts and perspectives, (2) exercises in small groups to apply the concepts and perspectives to analyze cities of interest, and (3) presentations of group exercises and class discussions to deepen understanding and make intercultural comparisons.

In the final class meeting, each student will deliver a presentation about their preferred city and perspective.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：Introduction

Please introduce yourself, your favorite city, and the reason for getting to know each other.

2 回：Reading 1: Topography, roads, and land use (Chapter 1-1)

3 回：Group exercise 1: Examining topography and urban planning

4 回：Reading 2: Historic social groups and lots for residences (Chapter 1-2)

5 回：Group exercise 2: Social groups and land use

6 回：Reading 3: Water, transportation, and market activities (Chapter 2)

7 回：Group exercise 3: Water and urban activities

8 回：Reading 4: Development of the "modern" city (Chapter 3)

9 回：Group exercise 4: Finding modernity in cities

10 回：Reading 5: Urbanism, modernism, and the city form (Chapter 4)

11 回：Group exercise 5: Open space and the sense of community/authority

12 回：Class discussion

13 回：Student presentations

14回：Student presentations

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:		
上記いずれも用いない予定	:							

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

Closely read the assigned chapter before each week's class meeting.

Preparation for materials that can be used for group work is preferable.

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% Class participation and class discussion:40% Engagement in group exercises:30%

Final presentation:30%

Students must be able to participate fully and actively in the course. Students must report all excused absences to the instructor via email. If you miss your presentation or more than three periods, you will receive a "Fail" grade.

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

Jinnai, Hidenobu TOKYO: a Spatial Anthropology TOKYO: a Spatial Anthropology 1995 0520071352

陣内秀信 『東京の空間人類学』 ちくま学芸文庫 1992 4480080252

Sand, Jordan TOKYO Vernacular University of California Press 2013 9780520280373

ジョルダン・サンド (池田真歩訳) 『東京ヴァナキュラー』 新曜社 2021 9784788517387

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

Students should have strong interests in cities. Students from any academic background are welcome.

English Language Proficiency Requirements:

Cambridge English Qualifications 160, EIKEN 2304, GTEC 1190, IELTS 6.0, TOEFL iBT 72, TEAP 309, TEAP CBT 600, C

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

Due to the heavy use of visual materials, it is recommended that students join Zoom sessions using devices with larger monitors, such as PCs or tablets. Screen-sharing from their devices is also expected.

その他 / Others

The course instructor is an urban economist, with a background in landscape and urban planning.

<https://researchmap.jp/kayo-tajima?lang=en>

<Class Schedule>

9/21,9/28,10/5,10/12,10/19 Period 3-5(13:25~18:50)

<How to apply for this course>

Registration fo

注意事項

- ・2016年度以降1年次入学者対象科目
- ・多彩な学び

注意事項 (検索結果画面)

